平成２７年度

〔２０１５〕

# 履 修 の 手 引

# 本手引の内容はWebポータルにも登載されています

大学ホームページからも閲覧可能です。
（トップページの「大学インフォメーションから「教育プログラム」へ進んでください。）

本手引の第2章「講義概要」は抜粋版です。詳しい「講義概要」については、Webポータルで確認してください。

https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/syllabusgaku/

この冊子は2015（平成27）年度入学生用です。2014（平成 26）年度以前入学生は「自分の入学した年度の履修要件(卒業要件を含む）」を確認してください。

また、この冊子に記載された授業担当者は、2015（平成27）年度の担当者です。2016（平成28）年度以降、変更される可能性があります。

## 滋賀県立大学　学位授与方針（ディプロマポリシー）

滋賀県立大学では、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を以下のとおり定めます。これらの能力を獲得するとともに、各学部に所定の年限在学し、全学ならびに各学部・学科の定める教育理念・教育目的に沿って設定された教育プログラムや授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に学位を授与し、卒業を認定します。

学位：学士

A.「全学共通科目」、「全学共通基礎科目」、「人間学」の履修を通じて、基礎的な知識・技術を養うとともに、社会環境の変化に柔軟に対応できる豊かな人間性と、課題を発見、分析、解決する能力に加え、自ら探求する態度と姿勢を身につける。

B.各学部・学科の特性に応じて編成された体系的な教育を通じて、専門的な知識・技術を養うとともに、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを総合する力を身につける。

## 滋賀県立大学　教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

滋賀県立大学は、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」として、未知の時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成するため、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

A.全学共通科目

広い視野と実践力を養い、大学の目的である高度化・総合化および柔軟性・多様性を実現するため、「全学共通科目」を設置し、外国語（英語、第２外国語）、健康・体力科学、情報処理の３科目群からなる「全学共通基礎科目」と「人間学」を設置します。

「人間学」では、主体的に学び、考える学生を育てることを意図して、「人間」という存在について具体的、現実的な問題を通して考え、人間と社会を深く見つめながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を身につけることを目指します。

B.専門教育科目

専門的な知識や技能を高めるとともに、主体性、創造力および課題発見・解決能力等の育成を目指し、各学部・学科に専門教育科目を設置します。

各学部・学科の専門科目の編成に関しては、専門基礎科目（学部共通科目）、複数学科共通科目、学科専門科目といった構成およびその配当年次によって、基礎的科目から発展（応用）的科目への学習の流れに沿って展開します。

C.副専攻

主専攻の学びを更に社会で活用できる能力を養うため、学部学科を横断した教育プログラムとして、近江楽士（地域学）副専攻を設置します。

副専攻では、「地域に根ざし、地域に学び、地域を学ぶ大学」として、コミュニケーション力、行動力、問題解決能力の３つの要素からなる社会人基礎力を強化します。

# 履　修　の　手　引

目　　次

第１章　科目履修の手引
1　授業科目の区分 1
2　単位制度 1
3　学期および授業 2
4　履修の登録 4
5　試験 5
6　成績評価および単位の認定 7
7　卒業要件 9
8　副専攻科目について 9
9　他学部・他学科科目の履修 10
10　他大学の科目の履修（単位互換制度） 10
11　編入学生の履修 10
12　その他 10

第２章　講義概要
1　全学共通科目履修の手引 13
人間学の考え方 143
地域教育プログラム 161
2　近江楽士（地域学）副専攻履修の手引 171
3　キャリア教育・ボランティア関連科目について 177
4　環境科学部科目履修の手引 183
5　工学部科目履修の手引 285
6　人間文化学部科目履修の手引 373
7　人間看護学部科目履修の手引 541

第３章　資格取得の手引
1　本学における免許・資格等の取得について 581
2　各学部・学科における教育職員免許の取得について 582
人間看護学部における教育職員免許の取得について 607
生活栄養学科における栄養教諭免許の取得について 610
3　「学芸員」の資格取得について 612
4　「栄養士」の免許取得と「管理栄養士受験資格」について 614
5　「ＮＲ・サプリメントアドバイザー受験資格」について 617
6　「一級建築士受験資格」および「二級・木造建築士受験資格」について 618
7　「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」について 620
8　「インテリアプランナー登録資格」について 621
9　「社会調査士資格」について 622
10　「GIS 学術士」について 623
11　「自然再生士補資格」について 624
12　「地域調査士資格」について 626
13　「看護師国家試験受験資格」について 627
14　「保健師国家試験受験資格」について 629
15　「助産師国家試験受験資格」について 631
16　「社会福祉主事任用資格」について 632
17　「電気通信主任技術者資格」について 633
18　「電気主任技術者資格」について 634
19　「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員資格」について 635
20　「毒物劇物取扱責任者資格」について 636
21　「甲種危険物取扱者試験受験資格」について 637
22　「二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除」について 638
23　「施工管理技士受験資格」について 639

担当教員索引 663
講義科目索引 686

# 第１章　科目履修の手引

第１章は、「履修の手引」総則編です。

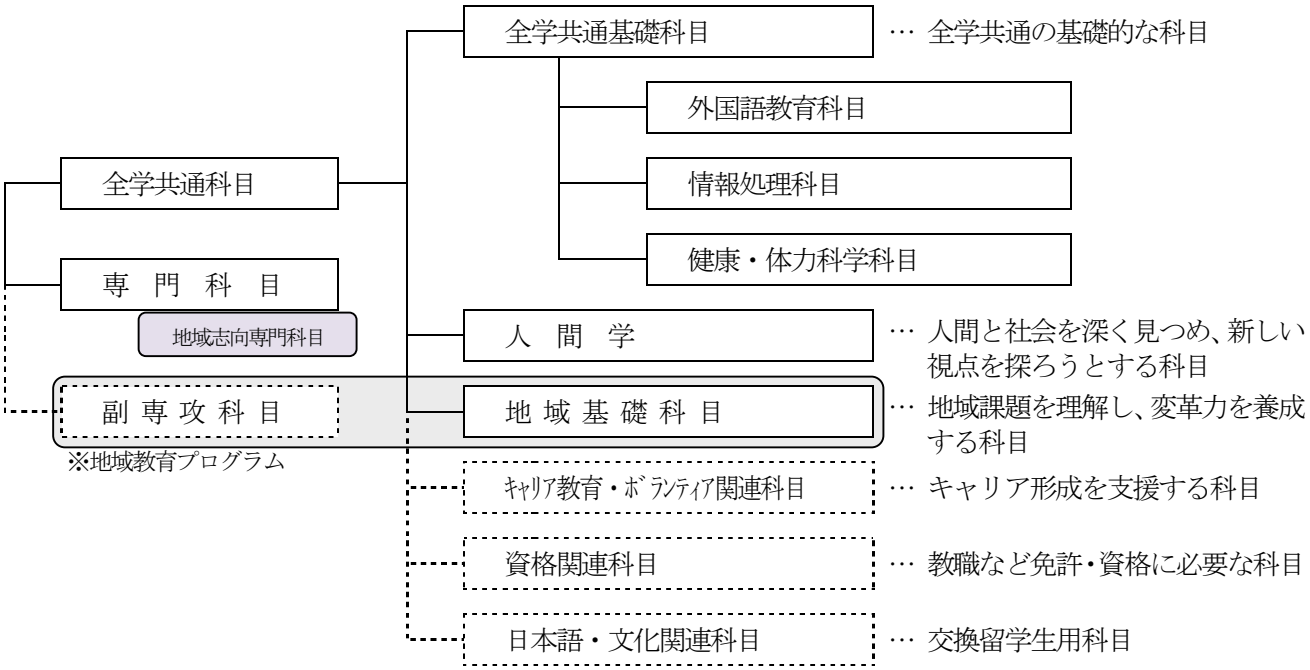
全学にわたる共通事項を中心に記載しました。

重要事項が多いので、熟読の上、誤りのないように気をつけてください。

# 1　授業科目の区分

本学の教育課程は、**全学共通科目**と**専門科目**に区分されています。全学共通科目は、**全学共通基礎科目**と**人間学、地域基礎科目、キャリア教育・ボランティア関連科目、資格関連科目、日本語・文化関連科目**から編成されています。

また、全学部生が履修できる副専攻として、近江楽士（地域学）副専攻を設けています。地域基礎科目（全学共通科目）、地域志向専門科目（専門科目）と合わせて地域教育プログラムを構成します。




# 2　単位制度

各授業科目の単位数は 45 時間の学修を必要とする内容をもって１単位とすることを標準としています。本学では、授業の形態による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により各授業科目ごとに単位数を定めています。

**（１）　講義科目の場合**

15 時間の授業をもって１単位とします。（１時限は２時間相当としているため、15 回の授業をもって２単位となります。）

**（２）　演習科目の場合**

30 時間の授業をもって１単位とします。

**（３）　実験、実習および実技科目の場合**

45 時間の授業をもって１単位とします。

*ただし、授業科目によっては、15 時間から 30 時間の範囲内で定める時間の講義や演習の授業をもって、1 単位としている場合があります。*

*また、環境科学部の「環境フィールドワーク」のように、1 科目が講義、演習および実習からなっていて 20 時間の授業をもって 1 単位としている場合があります。*

上述の単位制度は文部科学省令の大学設置基準に基づいています。上述の規定により、２単位の講義科目は 90 時間（45 時間/単位×２単位）の学修を標準とします。

講義時間は 30 時間（15 時間/単位×２単位）ですので、残り **60 時間分の予習・復習を行うこと**が前提となります。

# 3　学期および授業

## （1）学期

本学は、１学年を前期と後期に分ける**前期･後期制**を採用しています。
授業は、開講学期によって次のように区分されます。

- ◆ **前期科目**：前期のみで授業を完結する科目
- ◆ **後期科目**：後期のみで授業を完結する科目
- ◆ **通年科目**：前期と後期を通じて授業を行う科目

また、実施方法によって、次のように区分されます。

- ◆ **通常授業**：原則として毎週行われる授業
- ◆ **集中授業**：一定時期に集中的に連続して行われる授業（主に夏季・冬季休業期間中に行われる。）

## （2）　授業時間

本学の授業時間帯は次のとおりです。ただし、実験、実習などでは次の時間帯とは異なる場合があります。

| | |
|---|---|
| １　限 | ９時００分～１０時３０分 |
| ２　限 | １０時４０分～１２時１０分 |
| 休　憩 | |
| ３　限 | １３時１０分～１４時４０分 |
| ４　限 | １４時５０分～１６時２０分 |
| ５　限 | １６時３０分～１８時００分 |

## （3）　休講

休講の場合は、前もって掲示や学生ポータルで知らせますから、図書情報センター前掲示板およびWebポータルの「休講情報」に注意してください。

## （4）　補講

休講等の事情で予定どおり授業が行われなかった場合は、原則として「補講」を行います。
補講の時期、場所、方法などは掲示板およびWebポータルの「お知らせ」により指示するので注意してください。

## （5）　授業の欠席

病気その他やむを得ない理由により、引き続き７日以上２か月未満（７日未満の特例あり）、授業に出席することができない場合は、あらかじめ教務グループに所定の欠席届を提出してください。やむを得ない事情により事前に欠席届が提出できない場合は、欠席事由が解消した後１週間以内に教務グループに欠席届を提出してください。教務グループでは、提出された欠席届の内容を確認後、届の写しを交付しますので、それを持参の上、届出者本人が直接、当該科目の授業担当教員に対し、事情を説明してください。欠席届を受理した科目は、欠席として取り扱いません。
ただし、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務グループの指示に従ってください。
また、緊急の事情により事前に届け出られない場合は、事前に電話等により事情を教務グループに連絡してください。

注１）欠席理由の如何を問わず、授業科目の成績評価等に関する取扱いについては、担当教員の判断によることとします。
注２）集中講義等で総授業時間の1/3以上欠席となり、履修登録の取消を希望する場合に限り、取消を認めます。

| 欠席を届け出る理由 | 必要な証明書 |
|---|---|
| 病気・けが | 医師の診断書 |
| 災害 | 被災証明書 |
| 交通事故、交通機関の運休 | 事故証明書、運休・延着証明書 |
| 3 親等以内の葬儀 | 死亡に関する公的証明書 |
| 正課実習 | 実習証明書（指定様式） |
| その他大学が認める理由 | 理由書（本人以外の証明） |

7 日未満の特例：以下の欠席理由については、7 日未満であっても、欠席届を受理します。

①「病気・けが」のうちインフルエンザ等の感染症（学校保健安全法施行規則第 18 条に記載された感染症）にかかり欠席する場合、同法 19 条に記載された出席停止期間の欠席を認める。

| 主な感染症 | 出席停止期間 |
|---|---|
| 新型インフルエンザ | 治癒するまで |
| インフルエンザ | 発熱した後（発熱の翌日を１日目として）５日を経過し、かつ解熱した後２日 |
| 百日咳 | 特有の咳が消失するまでまたは５日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで |
| 麻しん（はしか） | 解熱後３日 |
| 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） | 耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発生した後５日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで |
| 風しん | 発しんが消失するまで |
| 水痘 | すべての発しんが痂皮化するまで |
| 咽頭結膜熱（プール熱） | 主要症状が消退後２日 |

②「交通機関の運休」で欠席する場合

③「３親等以内の葬儀」で欠席する場合（忌引き）

| 死亡した者 | 欠席できる日数 | |
|---|---|---|
| 配偶者 | 10 日 | |
| | 血族 | 姻族 |
| 父母 | ７日 | ３日 |
| 子 | ５日 | １日 |
| 祖父母 | ３日 | １日 |
| 兄弟姉妹 | ３日 | １日 |
| おじ・おば | １日 | １日 |

④下の「その他大学が認める理由」で欠席する場合

- 課外活動において全国大会またはそれと同等以上の大会に出場する場合
- 湖風祭の前日準備に参加する場合（前日準備が全学休講でない場合に限る）
- 就職活動（最終選考相当）

**（６） 気象警報の発令・公共交通機関の不通と授業についての措置**

暴風警報等が発令された場合または公共交通機関が全面運行停止（※）となった場合、授業については以下の措置をとります。

| 気象･交通状況 | 授業についての措置 |
|---|---|
| 彦根市域または彦根市域を含む地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報が発令されたとき | ①発令中は休講（授業中に発令の場合、その次の授業から休講）<br>②午前７時現在発令中の場合、午前中休講<br>③午前 10 時現在発令中の場合、午後も休講 |
| 公共交通機関が全面運行停止となったとき（ストライキ、災害、事故等） | ①午前７時までに解除・開通の場合は、平常通り授業<br>②午前８時 30 分までに解除・開通の場合は２時限目より授業開始<br>③午前 10 時までに解除・開通の場合は３時限目より授業開始<br>④正午までに解除・開通の場合は４時限目より授業開始<br>⑤正午をすぎても解除・開通しない場合は全時限休講 |

※　「公共交通機関が全面運行停止」とは、JR 西日本琵琶湖線（京都―米原間）の全線または一部線区が全便不通の場合をさします。

○　休講情報については随時更新されますので、掲示板および Web ポータルで確認してください。

○　学外実習に関しては、当該学部で別途定めます。

## 4　履修の登録

授業を履修するためには、**履修登録をする必要があります。**これを怠ったり、誤ったりすると単位が認定されないこととなります。また、ＧＰＡ制度（P.7 参照）とも密接に関係していますので、次の点に注意して慎重に行ってください。

### （１）　Web 履修登録・確認

学年当初に「履修登録にあたって」と時間割を配布します。各学期のはじめに設定される履修登録期間中に Web ポータル上で Web 履修登録をおこなってください。**履修登録期間後の履修登録はできません。**登録内容を確認するため履修登録確認期間を設けていますので、登録内容に間違いがないか必ず確認してください。

※履修科目の追加および変更がある学生には、履修登録確認期間中に限り「履修登録願」（担当教員の捺印を要する）を提出することで、変更・追加登録を認めます。ただし、取消のみの変更は認めません。**履修登録確認期間後の追加登録・変更は一切できません。**

### （２）　クラス制

第一外国語（英語）、情報処理、健康・体力科学については、受講者数が多いため**クラス制を採用**しています。第一外国語（英語）と情報処理は時間割の配布と同時にクラスを指定します。健康・体力科学は希望コースを調査後にクラスを指定します。指定されたクラスで履修登録をしてください。

また、一部の専門科目でもクラスが指定される場合がありますので、注意してください。

クラス指定がある科目を再履修する場合は、Web ポータルからの履修登録以外に、再履修願・届の提出が必要です。

### （３）　人間学の履修登録

人間学については、科目によって定員が設けられているものがあります（定員が設けられているか否かについては、P.143 で確認してください）。定員が設けられている科目を履修希望する場合は、まず Web ポータルで履修登録を行ってください。

登録期間終了後、定員を超える登録があった場合は、受講者の選定が行われます（一次選定）。一次選定の結果は、図書情報センター前掲示板と学生ポータルでの「お知らせ」を通じてお知らせしますので、必ず確認してください。

受講が認められなかった方は、定員に満たなかった科目または定員が設けられていない科目を履修希望することができます。「履修希望届」（窓口配布）を教務グループへ提出してください。また、その結果、「履修

希望届」の提出が定員を上回った場合は、受講者の選定が行われます（二次選定）。二次選定の結果も掲示板およびWebポータルでお知らせします。

二次選定の結果、受講が認められなかった場合、定員が設けられていない科目のみ履修希望することができます。

### （4） 履修できない科目

次に掲げる授業科目は履修できませんので注意してください（履修規程第３条）。

① 登録をしていない科目
② 既に単位を修得した科目
③ 授業時間が重複する科目

### （5） 履修資格

科目によっては、既に他の科目を履修していることが履修の条件となっているものがあります。どの科目を履修しておく必要があるかはWeb版の講義概要の「履修資格」欄に記載されています。誤って履修すると、原則として単位は認定されませんので、よく読んで登録してください。

### （6） 履修登録の訂正（窓口申請分）

Webポータル上で履修登録状況と単位修得状況を確認することができます。再履修願・届等、窓口に申請した内容が反映されているかどうかを、履修登録確認期間中にポータル上で確認してください。万が一、自分が申請した内容と異なる場合は、確認期間中に教務グループへ申し出てください。

### （7） 登録科目の取消と再登録

時間割の変更により科目の開講時間が変更になった場合等で、履修が不可能になったときは、事務局で登録が取り消されることがあります。その場合は、掲示板およびWebポータルに学籍番号等を掲示しますので、速やかに教務グループに申し出て、他の科目を再登録してください。

### （8） 履修登録取消制度

履修登録取消制度とは、履修登録し、実際に授業に出席したものの、履修登録時に予想していた内容と異なっていたなどの理由により、履修登録を取り消すことができる制度です。各学期の授業が始まってから一定期間を経過した時点（前期：５月上～中旬、後期：11月上～中旬）で、履修登録の取消期間を設けますので、履修登録の取消を希望する場合は、指定された期間内に教務グループで手続きをしてください。ただし、**取り消すことのできる科目数は２科目まで**とします。また、必修科目の登録を取り消すことはできません。

### （9） 履修登録に関する相談窓口教員

履修登録に関する問い合わせは、教務グループで随時受け付けます。また、各学科にも履修登録に関する相談窓口となる教員がいます（「学生便覧」の「第２章　学生生活」の「３　履修（１）履修の手続、履修相談」に記載されています）ので、各自の履修計画を立てるにあたって積極的に相談してください。

## 5　試験

試験には、次の２種類があります。

◆ **定期試験**：学期末に期間を定めて行われる試験
◆ **平常試験**：授業の中で担当教員によって個別に随時行われる試験

### （1） 定期試験の実施

定期試験は、各学期末に試験期間を設定して行います。

試験の時間割・教室は、事前に掲示板およびWebポータルに掲示しますので、注意してください。実施日時および実施教室の変更がある場合も、掲示板およびWebポータルに掲示します。

**（2） 試験期間中における風雪時の対応について**

原則として、試験日程は風雪等の天候とは関係なく、暴風警報等が発令されても予定どおり実施します。ただし、試験前日までに、当日の天候状況が風雪で甚だしいものと見込まれる場合は、各試験科目の担当教員が試験延期等の判断を行う場合があるので、掲示板およびWebポータルに注意しておいてください。

なお、試験当日に風雪により公共交通機関に遅れが生じた場合は、各試験科目の担当教員が状況に応じて、適宜、当該試験の実施について判断しますので、受験者は指示があるまで試験室で待機していてください。

**（3） 定期試験の受験上の注意**

① 受験する学生は、特別の指示がない限り、試験開始５分前に指定された教室に入る必要があります。
② 受験中は必ず、**学生証を机上に置く**こと。万一学生証を忘れた場合は、教務グループで仮受験票の交付を受けてください。
③ 答案には、学籍番号、氏名を必ず記入してください。
④ 受験者は、試験開始後20分を経過した場合の入室は認められません。また、開始後30分までは退出できません。

**（4） 不正行為**

定期試験で**不正行為**があると認められた者は、学則第52条第１項の規定により懲戒処分（退学、停学または訓告）を受けるほか、不正行為をした科目だけでなく、その学期の定期試験で受験する予定の科目、またすでに受験した科目を含め、すべての科目を不可とします。

また、中間試験、小テストなどの定期試験以外の試験における不正行為は、当該科目を不可とします。

**（5） 追試験**

病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けることができない者には、**事情により追試験を行う**ことがあります。

追試験の受験を希望する者は、**「追試験願」**に必要な証明書（次表参照）を添付して、定期試験実施前にあらかじめ教務グループまで提出してください。緊急の事情により事前に提出できない場合は、試験開始時間までに電話等により事情を教務グループに連絡してください。

この場合は、事後提出であっても追試験願を受理することがありますが、**提出期限は原則として当該試験期間最終日の3日後まで**とします。

| 追試験を願い出る理由 | 必要な証明書 |
|---|---|
| 病気・けが | 医師の診断書 |
| 災害 | 被災証明書 |
| 交通事故、交通機関の延着・運休 | 事故証明書、延着・運休証明書 |
| ３親等以内の葬儀 | 死亡に関する公的証明書 |
| 正課実習 | 実習証明書（指定様式） |
| その他大学が認める理由 | 理由書（本人以外の証明） |

追試験願を提出した者は、教務グループから書類を受け付けたことを証する追試験願受付書を受け取り、該当する授業担当の教員と追試験実施について、直接相談してください。

なお、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務グループの指示に従ってください。

※注：追試験願受付書は、受験を認めることを意味するものではなく、窓口である教務グループが追試験願を受け付けたことのみを証するものです。

**（6） 不合格となった科目について**

定期試験等において、不合格となった者に対する再試験は行いません。ただし、不合格になった授業科目については、翌年度以降に改めて再履修することができます。

# 6　成績評価および単位の認定

## （1）　成績評価

成績の評点は、定期試験、平常の試験、レポート、制作物、実技などを総合して、100 点満点で採点します。
成績の評価の基準は次のとおりで、成績証明書の評価欄には、秀・優・良・可・不可のみで記載します。

| 評　　点 | 評　　価 |
|---|---|
| ９０点以上 | 秀 |
| ８０点以上９０点未満 | 優 |
| ７０点以上８０点未満 | 良 |
| ６０点以上７０点未満 | 可 |
| ６０点未満 | 不可 |

そのほかに、点数で表現できない成績として「合格」「不合格」あるいは「認定」で表示することがあります。

## （2）　単位の認定

秀、優、良、可および合格ならびに認定の場合は、単位の修得が認められます。
不可および不合格の場合は、単位の修得は認められません。
追試験の対象とは認められない理由による定期試験の欠席により、成績評価資料を欠く場合には、履修を放棄したとみなしますので、単位の修得は認められません。

## （3）　成績通知

成績の通知については、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務グループから本人に対し Web ポータルを通じて行います。
また、入学手続時に保護者（保証人）（以下「保護者等」といいます）あてに成績通知書の郵送を希望した保護者等については、各学期終了後に保護者等あてに成績通知書を郵送します。20 歳以上の学生で、「成績通知書郵送停止届」を提出した者には、保護者等あてに成績通知書を郵送しないこととします。この場合、保護者等には学生本人の意向により、成績通知書を郵送しない旨の通知を行うこととします。
なお、前期の成績通知書には、前期に履修した科目（一部集中講義科目等を除く）の成績を記載しています。後期の成績通知書には、前期と後期を合わせた年間の成績を記載しています。

## （4）　ＧＰＡ（Grade Point Average）制度

①　ＧＰＡとは

本学では、「秀・優・良・可・不可」の成績評価に加えて、ＧＰＡによる成績評価制度を導入しています。
ＧＰＡとは、履修登録した全科目のうち、ＧＰＡ算出対象となる科目（以下「算出対象科目」といいます。）の成績を 4.5 から 0 までの数値に置き換え、これに当該科目の単位数を掛けて、その合計を算出対象科目の総単位数で割った数値です。
「秀・優・良・可・不可」が科目ごとの学業成果を表すのに対して、ＧＰＡは、「不可」となった科目も含め、学生が履修登録した算出対象科目の学業成果および学業への取り組み結果の総合的な値として表すことになります。
したがって、みなさんが修学指導を受ける際や履修計画・学習計画を立てる際の参考として活用してください。

②　ＧＰＡの計算方法

本学では、一般的によく用いられている計算方法（秀, 優, 良, 可, 不可を 4, 3, 2, 1, 0 のような数値に置き換えて平均を算出）ではなく、原成績（評点）による順位との相違が生じないファンクショナルＧＰＡを採用しています。ＧＰＡは次の計算式で算出されます。

【ＧＰＡの計算式】

$$GPA = \frac{\text{（グレード・ポイント(※)×当該科目の単位数）の総和}}{\text{算出対象科目の単位数の総和}}$$

※　*グレード・ポイント＝（当該科目の評点－５５）÷１０*
*（ただし、評価が不可（評点が６０点未満および履修放棄）の場合、グレード・ポイントは一律に0点となります。）*

【ＧＰＡ計算例】

| 科　目　名 | A | B | C | D | E | F | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位　数 | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | 2 | １２ |
| 評　点 | 90 | 75 | 30 | 80 | 60 | 100 | |
| 評　価 | 秀 | 良 | 不可 | 優 | 可 | 秀 | |
| ｸﾞﾚｰﾄﾞ・ﾎﾟｲﾝﾄ | 3.5 | 2.0 | 0 | 2.5 | 0.5 | 4.5 | |
| ｸﾞﾚｰﾄﾞ・ﾎﾟｲﾝﾄ×単位数 | 7 | 2 | 0 | 5 | 1 | 9 | ２４ |

（注）同じ評価でも、評点が異なるとグレード・ポイントが変ってきます。

$$GPA = \frac{3.5\times2+2.0\times1+0\times3+2.5\times2+0.5\times2+4.5\times2}{2+1+3+2+2+2} = \frac{24}{12} = 2.0$$

③　ＧＰＡ計算の対象となる科目・対象とならない科目
ＧＰＡ計算の対象となる科目は、以下の要件を満たすものです。

1）100 点満点で成績評価する科目
2）卒業要件単位に算入できる科目

したがって、成績が「合格」、「認定」と表記される科目や資格（教員免許、学芸員等）取得のために開講されている科目は、ＧＰＡ計算の対象となりません。

④　科目を履修するにあたって留意すべきこと
平成 21 年度のＧＰＡ試行導入後の検証によると、次のようなことがわかっています。

・ＧＰＡが 1.5 以下の場合、修業年限（4 年）で卒業できない可能性が高い（1 年次終了時点 1.5 以下の場合 50%が、2 年次・3 年次終了時点では 25%が 4 年で卒業できていない）。
・1、2 年次では履修登録の単位数には大きな差がみられないが、3、4 年次ではばらつきが出てくる。3、4 年次で履修する単位が多い学生は、ＧＰＡが低い傾向にあり、1、2 年生次の間に確実に単位を修得できていない状況がうかがえる。

こうしたことから、必要以上に多くの科目を履修して、個々の学修が疎かになることのないよう、しっかりと履修計画を立てることが重要です。

⑤　ＧＰＡの活用について
ＧＰＡの値は、学生表彰や各種学内選抜の際の指標などに利用されています。（扱いは学科ごとに異なります）。さらに、海外への留学の際には、留学先受入校からＧＰＡ値を求められることもあります。
留学や奨学金の申請などの際、必要となるＧＰＡについては、算出方法が異なる場合がありますので、注意するとともに個別に問い合わせするようにしてください。

※参考　　平成 25 年度　全学のＧＰＡの平均値：　2.2

### （５） 成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について

本学では、学生は自らの成績評価に疑義のある場合、その成績の根拠等について当該科目の担当教員に対して開示を求めることができます。

① 疑義申し立てができる場合

・出席、課題提出、試験等に照らして、成績評価について疑義があると思われる場合
・シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法と基準等から、成績評価について疑義があると思われる場合
・その他、具体的かつ明確な理由をもって成績評価に疑義があると思われる場合

② 手続き等について

まずは当該科目の担当教員に対し、直接確認を求めてください。オフィスアワー等を活用して担当教員を訪ねましょう。

担当教員から教示がない場合、あった場合でも説明が足りない、明確な根拠が示されていない等の事由により疑義が解消されない場合、または非常勤講師等により直接の確認が困難な場合に限り、「成績評価の疑義申し立ておよび根拠等にかかる開示の願出書」により、学生支援センター長（学生支援センター教務担当）を通じて成績評価の根拠等について文書により開示するよう願い出ることができます。

③ 制度による願い出ができる期間

担当教員への確認および願出書の提出ができる期間は、成績が通知された日から原則として３週間以内とします。成績保留等により成績通知書に記載されなかった科目については、当該科目の成績の確定について掲示された日から原則として３週間以内とします。期限を過ぎたものは受付できません。

## 7 卒業要件

本学を卒業するためには、次の条件をすべて満たさなければなりません。

① ４年以上在学すること。（休学期間は在学期間に含まれません。）
② 所属学科のカリキュラムに従って、卒業要件としての必要単位を修得すること。

各学科の卒業要件については、それぞれの第２章の各学部学科の説明を熟読してください。

## 8 副専攻科目について

本学における副専攻とは、所属する学部学科の履修プログラム（主専攻）に加えて履修可能な学部学科横断的プログラムです。所属学科の専門性に加えて、それらを社会に還元するための基礎的・総合的能力を修得します。本学の学生であれば、どの学部学科に所属していても履修することができます。

本学で現在開講している副専攻は、近江楽士（地域学）副専攻です。地域基礎科目を基に、更にこれを展開、応用させ、地域課題とその解決法について体系的に学び、コミュニケーション力、構想力および実践力を兼ね備えた変革力を身につけることを目指します。主専攻に加えて副専攻を修了された方には、コミュニティ・ネットワーカー（近江楽士）の称号と修了証を授与します。なお、副専攻の履修は任意ですが、積極的に受講してください。履修する場合は、副専攻履修申請書を提出してください。

カリキュラム等については、「近江楽士（地域学）副専攻履修の手引 P. 171」を参照してください。

## 9　他学部・他学科科目の履修

本学では、所属する学科のカリキュラムに授業科目として指定されていない他学部、他学科の科目も、履修することを認めています。

しかし、教室の収容人数制限や、履修した科目の単位を所属学科の卒業単位に算定するには限度があるなどの一定の制約がありますので注意してください。

① 他学部または他学科の科目の履修を希望する場合、事前に文書で承諾を得る必要はありません。（工学部を除く）

② 履修登録後に、受講人数の制限から、やむを得ず受講を取り消すことがあります。

③ 他学部または他学科で修得した単位を卒業要件として認める単位数については、各学部、学科で定めています。各学部、学科の卒業要件を確認してください。

## 10 他大学の科目の履修（単位互換制度）

単位互換制度とは、他の大学の授業科目を履修し、修得した単位を本学の単位として認定するものです。履修の幅が広がり、幅広い視野の育成に役立つものとなります。本学では、次の３つの単位互換制度を実施しています。履修できる授業科目、手続、卒業単位への算入方法等については、各制度で異なります。学年当初に制度に関する資料を配布しますので、それらを参考にしてください。

（1）環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度（平成 17 年度～）

滋賀県にキャンパスを置く12大学の間で実施している単位互換制度です。滋賀県特有の内容をテーマとした科目や各大学の特徴的な科目を履修できます。修得した単位は「他学部他学科相当科目」として扱われます。

（2）滋賀大学単位互換制度（平成 14 年度～）

滋賀大学の単位互換制度対象科目を履修できます。修得した単位は、科目により「人間学」「他学部他学科相当科目」または「自由科目」として扱われます。

（3）彦根３大学連携単位互換制度（平成 21 年度～）

平成27年度は、３大学（滋賀大学、聖泉大学、本学）と彦根市がそれぞれテーマに沿って１日ずつ講義を担当する「彦根・湖東学」が開講されます。修得した単位は「人間学」として扱われます。

## 11 編入学生の履修

編入学生の履修すべき授業科目、単位数ならびに成績の評価については、編入する年次の学生のものと同一になります。

例えば、2015（平成 27）年度 3 年次編入生が履修すべき授業科目等については、2013（平成 25）年度入学生と同一になります。

## 12 その他

**（1） 科目担当教員について**

各科目を担当する教員は「第２章 講義概要」にあるとおりですが、各担当教員の研究室については、年度当初に学生・就職支援グループから別途配布する学生便覧を参照してください。

なお、他大学等からの出講となる非常勤講師については、Ａ１棟２階に非常勤講師控室がありますが、在室は当該授業日の出講時限の前後のみとなりますので、注意してください。

**（2） 留学中に修得した単位について**

留学中に修得した単位は、申し出により認定され、他学部・他学科科目と同様の扱いとなります。ただし、卒業単位として認められるかどうか等は、各学部・学科によって取り扱いが異なります。詳細については、教務グループに問い合わせてください。

**（3） 授業評価アンケートの実施について**

授業評価アンケートは、授業内容やカリキュラムの改善などに取り組むため、授業に対する学生のみなさんの意見を聞くために実施しています。原則として、全ての授業科目について実施します。いただいた意見は今後に役立てていきたいので、みなさんの真摯な協力をお願いします。

実施にあたっては、該当授業中に担当教員から指示がありますので、下記学生用 Web ページにログインして、画面に沿って回答してください。

携帯を持っていない場合や充電切れ等の時は、当日または翌日に学内や自宅の PC、または携帯電話・スマートフォン等から回答してください。

アンケートページにログインする際に学籍番号を入力しますが、担当教員には集計結果のみが示されるため、個人を特定する情報が提供されることはありません。

別途配布する「授業をよりよくするための授業評価アンケート」のカードを携帯し、学生用 Web ページの URL はブックマークをしてください。また、初回ログイン時にパスワードの変更を要求されます。変更したパスワードは忘れないようにしてください。

万一、パスワードを忘れた場合は、学生証を持参して学生支援センター窓口に申出てください。

学生用 Web ページ
http://usp.saai-mas.jp/
(右の QR コードからもアクセスできます)

**（4） オフィスアワーについて**

オフィスアワーは、授業の内容や学習の進め方などについて、学生からの相談を受ける時間を各教員が指定し、学生を支援する制度です。学生のみなさんの積極的な活用を期待します。

開設教員一覧については、大学掲示板および Web ポータルの「お知らせ」に掲載します。

# 第２章　講 義 概 要

第２章は、「履修の手引」各則編です。

各学部・学科毎に科目の履修について、卒業要件等を記載していますが、これらは、**原則として入学年次のものが適用されますので、自分が入学した年の「履修の手引」の該当部分を参照ください**。ただし、変更されている事項もあります。

また、各科目の講義概要も記載してあります。各自の該当する科目について熟読し、予習、復習に役立ててください。

本手引に記載している講義概要は抜粋版です。詳しい講義概要については、Webポータルで確認してください。

# １　全学共通科目の履修について

## １　全学共通科目の教育目標

本学は、「人が育つ大学」「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに掲げ、環境と人間をキーワードとした幅広い学問分野を発展させてきました。

全学共通教育では、「全学共通基礎科目」や「人間学」などのカリキュラムを導入しています。これらの科目では、人間と社会を深く見つめながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、問題解決力、行動力などの実践的な能力を養います。全学共通教育の具体的な教育目標は以下の通りです。

Ａ．人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、多面的に学習し、複雑化・流動化していく社会に対応できる知識を身につける。（知識・理解）
Ｂ．市民としての責任感と倫理観を身につける。（態度・倫理）
Ｃ．人間や社会を深く見つめ、そこから問題の発見、解決に取り組むための能力を身につける。（思考・判断）
Ｄ．国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力を身につける。（技能・技術）
Ｅ．情報リテラシー、数量的スキル、表現力など社会人として生きていくために必要な汎用的能力を身につける。（汎用的能力）
Ｆ．地域の現実的な課題を解決するために必要な素養と態度を身につける。（態度・倫理）

## ２　全学共通科目の教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

全学共通科目は、国際化時代にふさわしい人間性と能力を備えた「世界市民として育つための教育」を目指す「全学共通基礎科目」と広い視野、深い教養とともに、問題解決力、行動力などの実践的な能力を身につける「人間学科目」、「地域課題科目」により構成され、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

Ａ．全学共通基礎科目

Ａ－１　外国語教育科目

言語による国際的なコミュニケーションの能力を身につけるとともに、留学や外部検定の対策のための科目を配置します。

Ａ－２　情報処理科目

情報化社会における基本的なルールやマナーを学ぶとともに、情報機器の操作、大学生として必要なレポート作成やプレゼンテーションの技術などを学ぶための科目を配置します。

Ａ－３　健康・体力科学科目

健康・体力の保持増進に必要な知識および実践能力を習得するとともに、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るための能力を身につけることを目指します。

Ｂ．人間学

人間と社会を深く見つめ、人間という存在について考えることにより、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を養います。

Ｃ．地域課題科目

地域における問題発見や課題解決のために必要な知識、さらにはそれらを生かすための実践的な力を身につけることを目指します。

## ３　全学共通科目の内容・構成

■全学共通基礎科目

全学共通基礎科目は、国際化時代にふさわしい人間性と能力を備えた「世界市民として育つための教育」を目指しています。

この科目は全学の学生を対象として、(1) 言語による国際的なコミュニケーションのための外国語教育、(2) 国際的な情報伝達に欠かせない情報処理、(3) 健康に対する知識と体力を養うための健康・体力科学３つの分野からなっています。

(1)　外国語教育科目

①国際コミュニケーション学科

・ 必修科目：
　第一外国語として英語Ⅰ～Ⅳまでの８単位が必修です。
・ 選択必修科目：
　第二外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語から一言語を選択して 1 年次に 4 単位以上履修する必要があります。なお、原則として言語の変更はできません。

②国際コミュニケーション学科を除く学科

・ 必修科目：
　１～２年次で第一外国語として英語ＩＡ・Ｂ～ⅣＡ・Ｂまでの８単位が必修です。
・ 選択必修科目：
　第二外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語※１から一言語（第二外国語ＩＡとＩＢ）を選択して１年次に履修します。そして、２年次に引き続きその言語（第二外国語ⅡＡとⅡＢ）を履修するか、TOEIC®対策科目である実用英語演習ＩＡとＩＢを履修するかで計４単位以上履修する必要があります。（選択必修としての外国語の単位を取得し終わるまでは、実用英語演習と他の第二外国語を履修することは出来ません）なお、原則として言語の変更はできません。
・ 　ただし、学科によって推奨する履修パターンが異なります。次ページ以降の「表１：全学共通科目年次別配当表」および「表２：各学部・学科における外国語選択必修科目の履修方法」を参考に履修してください。
・ 選択科目：
　第一外国語では、より深く語学を修得するために選択科目として３年次以降にリスニング（中級）、リーディング（中級）、英語会話（中級）、ディベート&ディスカッション、英語表現法、エッセイ・ライティング、留学英語対策基礎講座、留学英語対策講座Ⅰ、留学英語対策講座Ⅱ、ビジネス英語、時事英語、メディアの英語の１２科目が開講されます。詳細は、各学科の配当表を参照してください。

※１　モンゴル語の履修について

平成２６年度入学生から第二外国語としてモンゴル語を選択することができます。ただし、他の言語と履修形態が異なり、前期にＩＡ・ＩＢが、後期にⅡＡ・ⅡＢが並行して開講されます。学科によっては時間割上、履修が難しい場合がありますので、希望者は１回生前期の履修登録期間内に教務グループで説明を受けてください。

(2)　情報処理科目

「情報リテラシー（情報倫理を含む）」、「情報科学概論」の 4 単位が必修です。

(3)　健康・体力科学科目

「健康・体力科学Ⅰ」、「健康・体力科学Ⅱ」が必修で２単位の修得が卒業要件となります。

■　人間学

人間学は、必修の１科目・２単位に加え、残り 31 科目から選択して３科目・６単位以上の修得が卒業要件として必要です（詳しくは P.143～145 の「人間学の考え方」を参照してください）。

■　地域基礎科目

地域基礎は、必修の１科目・２単位に加え、残り 10 科目から選択して１科目・２単位以上の修得が卒業要件として必要です（詳しくは P.161～165 の「地域教育プログラム」を参照してください）。

■　キャリア教育・ボランティア関連科目

キャリア科目としてキャリアデザイン論やインターンシップなどのキャリア教育科目を開講しています。災害の復興支援活動や学校ボランティア活動などについても、所定の条件を満たせば「ボランティア活動」として単位を取得することができます。卒業要件に算入されない自由科目となりますが、成績通知書に記載されます。　（詳しくは P.177～180 を参照してください）。

■ 日本語・文化関連科目（交換留学生向け科目）

①日本語基礎（初級）ⅠA･B～ⅢA･B、日本語基礎（初中級）ⅠA・B～ⅣA･B、日本語基礎（中級）ⅠA･B～ⅢA･B（詳しくは P.22 および P.134～141 を参照してください）

② Medieval Japan in the world　（詳しくは P.141 を参照してください）。

③ Modernizing Japan in the world （詳しくは P.141 を参照してください）。

④ Contemporary Japanese culture　（詳しくは P.142 を参照してください）。

全学共通科目のカリキュラムマップ

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 全学共通科目　教育目標 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E | F |
| 全学共通基礎科目 | 外国語 | 英語ⅠA | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | 英語ⅠB | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | 英語ⅡA | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | 英語ⅡB | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | 英語ⅢA | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | 英語ⅢB | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | 英語ⅣA | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | 英語ⅣB | 1 | 必修 | | | | ◎ | | |
| | | ドイツ語ⅠA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | ドイツ語ⅠB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | ドイツ語ⅡA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | ドイツ語ⅡB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | フランス語ⅠA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | フランス語ⅠB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | フランス語ⅡA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | フランス語ⅡB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 中国語ⅠA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 中国語ⅠB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 中国語ⅡA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 中国語ⅡB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 朝鮮語ⅠA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 朝鮮語ⅠB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 朝鮮語ⅡA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 朝鮮語ⅡB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | モンゴル語ⅠA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | モンゴル語ⅠB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | モンゴル語ⅡA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | モンゴル語ⅡB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 初習英語ⅠA(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 初習英語ⅠB(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 初習英語ⅡA(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 初習英語ⅡB(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅠA(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅠB(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅡA(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅡB(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅢA(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅢB(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅣA(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 日本語ⅣB(留学生のみ) | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | リスニング(中級) | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | リーディング(中級) | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 英語会話(中級) | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | ディベート＆ディスカッション | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 英語表現法 | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | エッセイ・ライティング | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅰ | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅱ | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | ビジネス英語 | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 時事英語 | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | メディアの英語 | 2 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 実用英語演習ⅠA | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | | 実用英語演習ⅠB | 1 | 選択 | | | | ◎ | | |
| | 情報処理 | 情報科学概論 | 2 | 必修 | | ○ | | | ◎ | |
| | | 情報リテラシー(情報倫理を含む) | 2 | 必修 | | ○ | | | ◎ | |
| | 健康・体力科学 | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 必修 | ◎ | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | 必修 | ◎ | | | | | |

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 全学共通科目　教育目標 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E | F |
| 人間学 | 必修 | 人間探求学 | 2 | 必修 | ○ | ○ | ○ | | | |
| | しくみ | 現代経済論 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | |
| | | 異文化理解A | 2 | 選択 | ○ | ○ | ○ | ◎ | | |
| | | 異文化理解B | 2 | 選択 | ○ | ○ | ○ | ◎ | | |
| | | 性を考える | 2 | 選択 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| | | 国際協力論 | 2 | 選択 | ○ | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | 農業問題入門 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | | ○ |
| | | 国際環境マネジメントⅠ | 2 | 選択 | ○ | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | 国際環境マネジメントⅡ | 2 | 選択 | ○ | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | 憲法 | 2 | 選択 | ○ | ◎ | ○ | | | |
| | | Medieval Japan | 2 | 選択 | ○ | ○ | ○ | ◎ | | ○ |
| | | Modernizing Japan | 2 | 選択 | ○ | ○ | ○ | ◎ | | ○ |
| | しぜん | 自然保護論 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | |
| | | 材料史 | 2 | 選択 | ◎ | | ○ | | | |
| | | 自然科学の視点 | 2 | 選択 | ○ | ○ | | | ◎ | |
| | | 空間論 | 2 | 選択 | ◎ | | ○ | | | |
| | | 自然現象のしくみ | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | | ○ |
| | こころ | 差別と人権（同和問題） | 2 | 選択 | | ○ | ◎ | | | ○ |
| | | 人間にとって環境とは何か | 2 | 選択 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| | | 人間の行動と空間 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | 生命・人間・倫理 | 2 | 選択 | ○ | ◎ | ○ | | | |
| | | 思索の視点 | 2 | 選択 | ○ | ◎ | ○ | | ○ | |
| | わざ | こころのテクノロジー | 2 | 選択 | ◎ | | ○ | | | |
| | | 持続的農業論 | 2 | 選択 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| | | 比較都市論 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | 機械の再発見 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | ◎ | |
| | | 電子社会と人間 | 2 | 選択 | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |
| | | 比較住居論 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | 栄養と人間 | 2 | 選択 | ◎ | | ○ | | | |
| | | 生活と健康 | 2 | 選択 | ◎ | | ○ | | | |
| | | 植物の病気 | 2 | 選択 | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | 人間と病気 | 2 | 選択 | ◎ | | ○ | | | |
| 地域基礎科目 | 必修 | 地域共生論 | 2 | 必修 | ○ | ○ | ○ | | | ◎ |
| | 選択必修 | 近江の歴史と文化 | 2 | 選択 | ○ | | | | | ◎ |
| | | 地域社会福祉論 | 2 | 選択 | ○ | | ○ | | | ◎ |
| | | 地域コミュニケーション論 | 2 | 選択 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ |
| | | 地域づくり人材論 | 2 | 選択 | ○ | ○ | ○ | | | ◎ |
| | | びわこ環境行政論 | 2 | 選択 | ○ | | | | | ◎ |
| | | 滋賀の自然史 | 2 | 選択 | ○ | | ○ | | | ◎ |
| | | 多文化共生論 | 2 | 選択 | ○ | ○ | ○ | | | ◎ |
| | | 地域産業・企業から学ぶ社長講義 | 2 | 選択 | ○ | | ○ | | ○ | ◎ |
| | | 近江の生活文化 | 2 | 選択 | ○ | | ○ | | | ◎ |
| | | 近江の美 | 2 | 選択 | ○ | | | ○ | | ◎ |

表1：全学共通科目年次別配当表

| | | 科目名 | 単位 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| 外国語科目<br>（国際コミュニケーション学科を除く） | 必修<br>8単位 | 英語ＩＡ | 1 | ○ | | | | | | | |
| | | 英語ＩＢ | 1 | | ○ | | | | | | |
| | | 英語ⅡＡ | 1 | ○ | | | | | | | |
| | | 英語ⅡＢ | 1 | | ○ | | | | | | |
| | | 英語ⅢＡ | 1 | | | ○ | | | | | |
| | | 英語ⅢＢ | 1 | | | | ○ | | | | |
| | | 英語ⅣＡ | 1 | | | ○ | | | | | |
| | | 英語ⅣＢ | 1 | | | | ○ | | | | |
| | 選択<br>（注1） | リスニング（中級） | 2 | | | | | ○ | | ○ | |
| | | リーディング（中級） | 2 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | 英語会話（中級） | 2 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | ディベート＆ディスカッション | 2 | | | | | ○ | | ○ | |
| | | 英語表現法 | 2 | | | | | ○ | | ○ | |
| | | エッセイ・ライティング | 2 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | 留学英語対策基礎講座 | 1 | | | | | ○ | | ○ | |
| | | 留学英語対策講座Ⅰ | 2 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | 留学英語対策講座Ⅱ | 2 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | ビジネス英語 | 2 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | 時事英語 | 2 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | メディアの英語 | 2 | | | | | ○ | | ○ | |
| | 独・仏・中・朝・モから1言語を選択必修4単位<br>（注2）、（注3） | 第二外国語ＩＡ | 1 | ○ | | | | | | | |
| | | 第二外国語ＩＢ | 1 | | ○ | | | | | | |
| | | 第二外国語ⅡＡ | 1 | | | ○ | | | | | |
| | | 第二外国語ⅡＢ | 1 | | | | ○ | | | | |
| | | 実用英語演習ＩＡ | 1 | | | ○ | | | | | |
| | | 実用英語演習ＩＢ | 1 | | | | ○ | | | | |
| 外国語科目<br>（国際コミュニケーション学科） | 必修<br>8単位 | 英語Ⅰ | 2 | ○ | | | | | | | |
| | | 英語Ⅱ | 2 | ○ | | | | | | | |
| | | 英語Ⅲ | 2 | ○ | | | | | | | |
| | | 英語Ⅳ | 2 | | ○ | | | | | | |
| | 独・仏・中・朝・モから1言語を選択必修4単位 | 第二外国語ＩＡ | 1 | ○ | | | | | | | |
| | | 第二外国語ＩＢ | 1 | ○ | | | | | | | |
| | | 第二外国語ⅡＡ | 1 | | ○ | | | | | | |
| | | 第二外国語ⅡＢ | 1 | | ○ | | | | | | |
| 情報処理 | 必修<br>4単位 | 情報科学概論 | 2 | | ○ | | | | | | |
| | | 情報リテラシー（情報倫理を含む） | 2 | ○ | | | | | | | |
| 健康・体力科学 | 必修<br>2単位 | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | | ○ | | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | | | ○ | | | | | |
| 人間学<br>（注4） | 必修<br>2単位 | 人間探求学 | 2 | ○ | | | | | | | |
| | 選択必修<br>6単位 | 必修以外の人間学科目（31科目62単位）から3科目6単位を選択必修 | 62 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 地域基礎<br>（注5） | 必修<br>2単位 | 地域共生論 | 2 | ○ | | | | | | | |
| | 選択必修<br>2単位 | 必修以外の地域基礎科目（10科目20単位）から1科目2単位を選択必修 | 20 | ○ | ○ | | | | | | |

注1　国際コミュニケーション学科では専門科目として扱われます。
（詳細は、P.405の学科の履修の手引を参照してください。）

注2　国際コミュニケーション学科を除く学科での外国語教育科目の選択必修4単位分は、学科によって履修パターンが異なります。次ページの表2にしたがって履修計画を立ててください。

注3　モンゴル語については、前期にＩＡ・ＩＢ、後期にⅡＡ・ⅡＢが並行して開講されます。学科によっては時間割上、履修が難しい場合がありますので、希望者は1回生前期の履修登録期間内に教務グループで説明を受けてください。

注4　人間看護学科のみ、選択必修のうち4単位が必修となります。
（詳細は、P.541の学科の履修の手引を参照してください。）

注5　人間看護学科のみ、選択必修の2単位は必修となります。
（詳細は、P.541の学科の履修の手引を参照してください。）

表２：各学部・学科における外国語選択必修科目の履修方法

<table>
<tr><th rowspan="2">学部学科</th><th colspan="2">1年次</th><th rowspan="2">履修の流れ</th><th colspan="2">2年次</th></tr>
<tr><th>前期科目</th><th>後期科目</th><th>前期科目</th><th>後期科目</th></tr>
<tr><td>人間文化学部地域文化学科<br>人間文化学部人間関係学科</td><td>第二外国語ＩA</td><td>第二外国語ＩB</td><td>2年次も同じ言語第二外国語ⅡA・ⅡBを引き続き履修する</td><td>第二外国語ⅡA</td><td>第二外国語ⅡB</td></tr>
<tr><td rowspan="2">環境科学部<br>工学部<br>人間文化学部生活デザイン学科<br>人間文化学部生活栄養学科</td><td rowspan="2">第二外国語ＩA</td><td rowspan="2">第二外国語ＩB</td><td rowspan="2">2年次に、同じ言語の第二外国語ⅡA・ⅡBを履修するか、第二外国語に代替可能な実用英語演習ＩA・ＩBを履修するかのどちらかを選択する</td><td>第二外国語ⅡA</td><td>第二外国語ⅡB</td></tr>
<tr><td>実用英語演習ＩA</td><td>実用英語演習ＩB</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人間看護学部</td><td rowspan="2">第二外国語ＩA</td><td rowspan="2">第二外国語ＩB</td><td rowspan="2">2年次に、同じ第二外国語ⅡA・ⅡBを履修するか、第二外国語に代替可能な実用英語演習ＩA・ＩBを履修するかのどちらかを選択する。<br>ただし、実用英語演習ＩA・ＩBの履修を強く推奨する</td><td>第二外国語ⅡA</td><td>第二外国語ⅡB</td></tr>
<tr><td>実用英語演習ＩA</td><td>実用英語演習ＩB</td></tr>
<tr><td>人間文化学部国際コミュニケーション学科</td><td>第二外国語ＩA<br>第二外国語ＩB</td><td>第二外国語ⅡA<br>第二外国語ⅡB</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

※実用英語演習ＩＡとＩＢは連続して履修しなければなりません。

※実用英語演習ＩＡとＩＢは、１年次の TOEIC®-IP テストの成績によりクラス編成を行います。

※モンゴル語を選択した場合、ＩＡ・ＩＢを１回生前期に、引き続きⅡＡ・ⅡＢも取る場合、１回生後期に履修しますので注意してください。

○外国語外部検定認定制度について

本学では自身の英語学習の成果を確認するため、１年次（４月・１２月）、２年次（１２月）に TOEIC®-IP テストを受験することとしています（無料）。

実用英語演習ＩＡ・ＩＢについては、履修登録時点で到達目標である TOEIC®スコア（IP テストも可）を達成していると当該科目の単位が認定される制度を導入しています。

（実用英語演習ＩＡ：500 点以上、実用英語演習ＩＢ：700 点以上）

詳しい内容については、教務グループまで問い合わせてください。

①申請手続

履修登録期間に「実用英語演習　認定申請書」に記入の上、教務グループに申請してください。スコアについては、本学で実施分は本学控え資料により確認しますが、学外で実施のスコアについては、スコアレポートをご提出ください。（履修登録時点で過去２年までのスコアを認定の対象とします。）

②単位認定の補足事項

成績評価は「認定」とし、認定された科目は GPA 算出の対象外とします。認定対象であっても認定を受けず、受講して５段階評価による単位を修得することもできます。

## ４　全学共通基礎科目履修上の注意

① クラス指定

・ 第一外国語、情報処理、健康・体力科学の必修科目を履修する場合は、学籍番号によって履修できる曜日時間が指定されますので、必ず指定の曜日時間で履修登録をしてください。第一外国語および情報処理は時間割の配布時に、健康・体力科学は希望コースを調査後にそれぞれクラスを指定します。

② 外国語科目（選択必修）の履修

・ ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語から希望する言語を選択することができますが、希望が集中した場合には、別の言語に割り振られることもあります。また、学科によって、2 年次に実用英語演習ＩＡ・ＩＢを履修することができます。詳細は表 2 および各学科の年次別配当表にしたがってください。なお、原則として言語の変更はできません。

③ 再履修

・ 全学共通科目の必修科目の単位を修得できずに、翌年度以降で再履修する場合は、再履修届の提出が必要となります。必ず履修登録期間に教務グループに申し出てください。

④ 超過修得単位の取り扱い

・ 全学共通科目の必要単位数は３０単位（必修１８単位、選択科目１２単位）ですが、英語、人間学、地域基礎の各選択科目から１２単位を超えて修得した場合は、各学部の規定により学部の専門科目として一定の単位まで卒業要件単位に含むことができます。自分が所属の各学部・学科の卒業要件を参照してください。

**※健康・体力科学Ⅰ・Ⅱの履修について**

健康・体力科学Ⅰ・Ⅱは、下記の開講コースが用意されています。各コースの詳しい内容については、この履修の手引か学生ポータルで確認してください。

**（１）授業の内容**

**【健康・体力科学Ⅰ】**

第１回

全体ガイダンスー健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方、種目説明、種目希望調査ー

第２回以降

コース（種目）別ガイダンスー 授業の進め方、授業内容等、選択コースによって異なります。

**【健康・体力科学Ⅱ】**

第１回

コース（種目）別ガイダンスー 授業方針等、選択コースによって異なります。

第２回以降

基本から応用へ、選択コースによって異なります。

**（２）注意事項**

**①コース選択**

授業科目ごとに開設されている種目の中から、自らの能力、適性、興味、関心に基づいて、それぞれ１種目を選択する。選択種目の決定は、種目希望調査に基づいて行うが、種目定員をこえる場合は希望順位を考慮して調整する。原則として、同じ種目を継続して選択することはできない。なお、怪我や身体に障害のある学生には、運動処方コースが準備されています。

**【開講コース】**※健康・体力科学ⅠおよびⅡで異なります。

屋内球技コース（バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球）

屋外球技コース（ニュースポーツ、サッカー、テニス、ソフトボール）

運動処方コース（健康運動プログラム・体力トレーニング）

野外活動コース（スキー・スノーボード、ゴルフ、海洋スポーツ）

**②授業形態**

授業の展開では、基本的にはグループ学習とし、計画・実践・分析・総括といった実験実習の活動形態を重視します。

**③服装**

実技授業における服装はスポーツウエアーを着用し、靴は選択種目に適したものを利用することが望ましい。

**④更衣室**

体育館の更衣室のロッカーは自由に利用できるが、長期の個人的利用は認めません。

**⑤貴重品管理**

貴重品は体育館の貴重品ロッカーあるいは種目ごとに貴重品箱を用意するので、必ず預けるようにしてください。

**※外国人留学生等の外国語履修について**

２０１４（平成２６）年度から入学した外国人留学生は、外国語履修について次のように取り扱うこととします。ただし、学部学科によっては、特定の言語の履修を義務づけている場合がありますので、履修登録の前に必ず所属学科の相談窓口教員に確認してください。

**第一外国語**：英語ⅠA,B～ⅣA,B または日本語ⅠA,B～ⅣA,B から**8単位**を選択必修
**第二外国語**：ドイツ語ⅠA,B・ⅡA,B、フランス語ⅠA,B・ⅡA,B、中国語ⅠA,B・ⅡA,B、朝鮮語ⅠA,B・ⅡA,B、モンゴル語ⅠA,B・ⅡA,B、実用英語演習ⅠA,B、初習英語ⅠA,B・ⅡA,B、英語ⅠA,B～Ⅳ A,B、日本語ⅠA,B～Ⅳ A,B から**4単位**を選択必修（国際コミュニケーション学科を除く）

① 第一外国語と第二外国語とで同一の言語を履修することはできません。（第一外国語として英語を履修した場合に、第二外国語として初習英語を履修することはできません。）
② 母語に関する科目（全学共通科目外国語科目および国際コミュニケーション学科初習外国語科目）は履修することができません。ただし、担当教員の許可を得て、聴講することはできます。
③ 初習英語は、入学前に英語を履修したことのない学生のみを対象としていますので、履修したことがある学生は対象外です。

外国語科目一覧（国際コミュニケーション学科を除く）

| 科目名 | 単位数 | 年次 | 期間 | 科目名 | 単位数 | 年次 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | ドイツ語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 |
| 英語ⅡA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | ドイツ語ⅡA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 |
| 英語ⅢA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 | フランス語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 |
| 英語ⅣA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 | フランス語ⅡA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 |
| 初習英語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | 中国語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 |
| 初習英語ⅡA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 | 中国語ⅡA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 |
| 日本語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | 朝鮮語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 |
| 日本語ⅡA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | 朝鮮語ⅡA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 |
| 日本語ⅢA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 | モンゴル語ⅠA,B | 各１ | 1 | 前期 |
| 日本語ⅣA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 | モンゴル語ⅡA,B | 各１ | 1 | 後期 |
| | | | | （実用英語演習ⅠA）※ | (1) | (2) | （前期） |
| | | | | （実用英語演習ⅠB）※ | (1) | (2) | （後期） |

※「実用英語演習ⅠA・ⅠB」の扱いは学科により異なります。各学科の配当表を参照してください。

外国語科目一覧（国際コミュニケーション学科）

| 科目名 | 単位数 | 年次 | 期間 | 科目名 | 単位数 | 年次 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語Ⅰ | 2 | 1 | 前期 | ドイツ語ⅠA,B | 各１ | 1 | 前期 |
| 英語Ⅱ | 2 | 1 | 前期 | ドイツ語ⅡA,B | 各１ | 1 | 後期 |
| 英語Ⅲ | 2 | 1 | 前期 | フランス語ⅠA,B | 各１ | 1 | 前期 |
| 英語Ⅳ | 2 | 1 | 後期 | フランス語ⅡA,B | 各１ | 1 | 後期 |
| 初習英語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | 中国語ⅠA,B | 各１ | 1 | 前期 |
| 初習英語ⅡA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | 中国語ⅡA,B | 各１ | 1 | 後期 |
| 日本語ⅠA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | 朝鮮語ⅠA,B | 各１ | 1 | 前期 |
| 日本語ⅡA,B | 各１ | 1 | 各前・後期 | 朝鮮語ⅡA,B | 各１ | 1 | 後期 |
| 日本語ⅢA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 | モンゴル語ⅠA,B | 各１ | 1 | 前期 |
| 日本語ⅣA,B | 各１ | 2 | 各前・後期 | モンゴル語ⅡA,B | 各１ | 1 | 後期 |

【参考】**日本語基礎**（交換留学生等向け）

| 科目名 | 単位数 | 年次 | 期間 |
|---|---|---|---|
| 日本語基礎（初級）ⅠA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（初級）ⅡA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（初級）ⅢA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（初中級）ⅠA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（初中級）ⅡA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（初中級）ⅢA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（初中級）ⅣA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（中級）ⅠA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（中級）ⅡA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |
| 日本語基礎（中級）ⅢA,B | 各1 | 1 | 各前・後期 |

初級～中級の日本語を学ぶ交換留学生を主な対象に、日本語基礎（初級）ＩＡ・Ｂ～日本語基礎（中級）ⅢＡ・Ｂを開講します。

学部の私費外国人留学生で、日本語レベルが日本語能力試験（JLPT）の N1 レベル未満の学生は、補講として一部科目を履修出来る場合がありますが、卒業要件単位に算入することはできません。

【参考】e-learning システムによる英語学習について

本学では学内外から Web を使って英語学習を支援する e-learning システム（ALC NetAcademy2）が導入されています。学生一人ひとりに与えられたアカウントを使用し、英語の自己学習ができます。LL 教室や情報処理演習室、また、学内の任意の端末および学外 PC を使って、特に TOEIC®に対応した多くの英語教材を存分に学習できます。

(1) e-learning の利用方法

本学ＨＰ（http://www.usp.ac.jp/）のトップページ下側に e-learning のバナーが貼ってありますので、バナーをクリックしてください。 e-learning のページに移動します。

学内用と学外用ではログイン方法が違いますので、必ず学内で利用する時は学内用で、学外で利用する時は学外用で行ってください。逆で利用しようとしてもログインできませんので、注意してください。

下記のＵＲＬを入力すると直接ログインのページに移動することもできます。

○学内用ＵＲＬ：http://eng-srv1.office.usp-local/anet2/

○学外用ＵＲＬ：https://vpn.spins.usp.ac.jp/

(2) ログイン方法

画面に従い、アカウントとパスワードを入力し、ログインしてください。アカウントとパスワードは Web ポータルと同じです。

パスワードを忘れた場合、情報管理室（Ａ５棟１階）に来てください。

〈学外からのログイン〉

まず、端末チェック用モジュールのインストールを行います。画面に従い、「インストール」、「常時」または「はい」のボタンをクリックしてください。インストールには数分かかる場合があります。

インストールしたら、ログイン画面がでます。ログインは２回行う必要があります。

１度目のログイン終了後、ＶＰＮ接続用モジュールが自動的にインストールされます。自動的にインストールされない場合は、画面に従い、「インストール」、「常時」または「はい」のボタンをクリックしてください。インストールには数分かかる場合があります。

インストールが完了したら、“Webブックマーク”メニューより、「e-earning」を選択してください。

２度目のログイン画面がでますので、ログインを行ってください。

(3) 注意事項

・必ず、Internet Explorerを使ってください。Firefoxではログインしないでください。また、携帯電話からは利用できません。
・自分のパソコンから利用する際には、予め Flash Player10またはFlash Player11のインストールが必要になります。
・「ウィルス対策ソフトがインストールされていない」又は、「ウィルス対策ソフトはインストールされているが、ウィルス定義ファイルが古い」場合ログインできません。必ず、事前に最新のウィルス対策ソフトのインストールを行ってください。また、無料のウィルス対策ソフトではログインできない場合があります。
・ログイン後はログアウトするまで画面上の文字で操作してください。「←」 や「×」は使用しないで下さい。必ずログアウトしてください。× で終了すると不正終了になります。
・ログイン方法の詳細なマニュアルをWebポータルのお知らせに掲載していますので、必要に応じてパソコンから確認してください。
・同時に利用できる人数が限られていますので、利用しない時は必ずログアウトしてください。
・ＣＡＩ教室・情報処理演習室で学習する場合はヘッドホンの貸し出しをしています。情報管理室（Ａ５棟１階）に来てください。

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（環境①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | これまでに学んだことを応用して、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに暗唱テスト（筆記式）を毎回行います。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）<br>学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：横川綾子、Tony Cook 著『Level-up Trainer for the TOEIC® TEST』（センゲージラーニング）978-4-86312-250-5 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（環境①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 前期の英語ＩＡに引き続き、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに暗唱テスト（筆記式）を毎回行います。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：横川綾子、Tony Cook 著『Level-up Trainer for the TOEIC® TEST』（センゲージラーニング）978-4-86312-250-5（前期と同じ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（環境②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（環境②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（環境③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on their understanding of and competence with course content as per the standards outlined in the course rubric that will be distributed in class. (Objectives: (1) good pronunciation (2) fluency (3) delivery (4) grammar)<br>Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 50%, homework assignments 10%, and test 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English 1 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（環境③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four-language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 到達目標 | On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of communicative tasks and activities. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups, and to exchange information about themselves, their friends, interests, and ideas in English. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on their understanding of and competence with course content as per the standards outlined in the course rubric that will be distributed in class. (Objectives: (1) good pronunciation (2) fluency (3) delivery (4) grammar)Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 50%, homework assignments 10%, and test 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English 2 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（環境④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、TOEIC の受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、リーディング力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 | |
| 到達目標 | 英語の既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Mark D. Stafford, 妻島千鶴子　「Gear Up for the TOEIC Test」（金星堂）<br>(ISBN: 978-4-7647-3958-1)<br>安河内哲也　「新 TOEIC テスト超速★英単語」（中経出版）<br>(ISBN: 978-4-8061-3370-4)<br>キャサリン・クラフト　「こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！」（中公文庫） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（環境④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、TOEIC の受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、リーディング力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 | |
| 到達目標 | 英語の既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Mark D. Stafford, 妻島千鶴子　「Gear Up for the TOEIC Test」（金星堂）<br>(ISBN: 978-4-7647-3958-1)<br>安河内哲也　「新 TOEIC テスト超速★英単語」（中経出版）<br>(ISBN: 978-4-8061-3370-4)<br>キャサリン・クラフト　「こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！」（中公文庫） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北島　美咲※ | |
| 授業概要 | TOEIC 受験を考慮しながら、さまざまなトピックスの英文を読み、既修の知識を定着・活用することを目指します。<br>具体的には、英語独特の論理的な文章を読むことで読解力、小テストなどで語彙力、ディクテーションなどにより聞く力、そして、それを踏まえた発信力と、バランス良く基本的な英語の能力を伸ばします。 | |
| 到達目標 | (1) 語彙を増やす。<br>(2) 読解力を向上させる。<br>(3) Listening 力を向上させる。<br>(4) 英語の文章の特徴を理解することができる。<br>(5) TOEIC のスコアをあげる。（各人の最初のスコアによるが、100 ポイント程度アップを目指しましょう。） | |
| 成績評価 | ・小テスト(1) 語彙力(25%)<br>・定期試験(1)語彙力(20%)<br>(2)文章理解(10%)<br>(3)Listening 力(10%)<br>(4)英文特徴理解(5%)<br>(5)TOEIC(20%)<br>・課題など(1) 語彙力(10%)<br>・ただし授業時間数の 3 分の 1 より多く欠席した場合は、評価対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ・田中清美『Effective Approaches to the TOEIC Test』南雲堂<br>・佐藤誠司『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北島　美咲※ | |
| 授業概要 | TOEIC 受験を考慮しながら、さまざまなトピックスの英文を読み、既修の知識を定着・活用することを目指します。具体的には、英語独特の論理的な文章を読むことで読解力、小テストなどで語彙力、ディクテーションなどにより聞く力、そして、それを踏まえた発信力と、バランス良く基本的な英語の能力を伸ばします。 | |
| 到達目標 | (1) 語彙を増やす。　(2) 読解力を向上させる。　(3) Listening 力を向上させる。<br>(4) 英語の文章の特徴を理解することができる。　(5) TOEIC のスコアをあげる。（各人の最初のスコアによるが、100 ポイント程度アップを目指しましょう。） | |
| 成績評価 | ・小テスト(1) 語彙力(25%)<br>・定期試験(1)語彙力(20%)　(2)文章理解(10%)　(3)Listening 力(10%)<br>(4)英文特徴理解(5%)　(5)TOEIC(20%)<br>・課題など(1) 語彙力(10%)<br>・ただし授業時間数の 3 分の 1 より多く欠席した場合は、評価対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ・田中清美『Effective Approaches to the TOEIC Test』南雲堂<br>・佐藤誠司『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑥） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業は、『シャレード』（1963 年、アメリカ）の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にした TOEIC 形式のテキストを用いて、TOEIC の問題形式に慣れることを主眼とする。TOEIC で高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) 本編の前半部分を字幕なしで鑑賞することができる。 (2) TOEIC や本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導くことができる。(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編の前半部分を字幕なしで鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(2)「TOEIC や本編に関する課題…」については、到達度確認テスト(30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を 4 回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。※その他、受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『名作映画で TOEIC®(2)めざせ！500 シャレード』（英宝社）<br>ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑥） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業は、『シャレード』（1963 年、アメリカ）の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にした TOEIC 形式のテキストを用いて、TOEIC の問題形式に慣れることを主眼とする。TOEIC で高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) 本編の後半部分を字幕なしで鑑賞することができる。 (2) TOEIC や本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導くことができる。(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編の後半部分を字幕なしで鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(2)「TOEIC や本編に関する課題…」については、到達度確認テスト(30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>※12 月に学内で行われる TOEIC IP 試験の結果は成績評価時に考慮される。<br>※その他、受講に関する詳細については、「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『名作映画で TOEIC®(2)めざせ！500 シャレード』（英宝社）<br>ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（工学①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（工学①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（工学②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、TOEIC の受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、リーディング力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 | |
| 到達目標 | 英語の既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Mark D. Stafford, 妻島千鶴子　「Gear Up for the TOEIC Test」（金星堂）　(ISBN: 978-4-7647-3958-1)<br>安河内哲也　「新 TOEIC テスト超速★英単語」（中経出版）　(ISBN: 978-4-8061-3370-4)<br>キャサリン・クラフト　「こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！」（中公文庫） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（工学②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、TOEIC の受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、リーディング力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 | |
| 到達目標 | 英語の既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Mark D. Stafford, 妻島千鶴子　「Gear Up for the TOEIC Test」（金星堂）<br>(ISBN: 978-4-7647-3958-1)<br>安河内哲也　「新 TOEIC テスト超速★英単語」（中経出版）<br>(ISBN: 978-4-8061-3370-4)<br>キャサリン・クラフト　「こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！」（中公文庫） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（工学③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北島　美咲※ | |
| 授業概要 | TOEIC 受験を考慮しながら、さまざまなトピックスの英文を読み、既修の知識を定着・活用することを目指します。具体的には、英語独特の論理的な文章を読むことで読解力、小テストなどで語彙力、ディクテーションなどにより聞く力、そして、それを踏まえた発信力と、バランス良く基本的な英語の能力を伸ばします。 | |
| 到達目標 | (1) 語彙を増やす。<br>(2) 読解力を向上させる。<br>(3) Listening 力を向上させる。<br>(4) 英語の文章の特徴を理解することができる。<br>(5) TOEIC のスコアをあげる。（各人の最初のスコアによるが、100 ポイント程度アップを目指しましょう。） | |
| 成績評価 | ・小テスト(1) 語彙力(25%)<br>・定期試験(1)語彙力(20%)<br>(2)文章理解(10%)<br>(3)Listening 力(10%)<br>(4)英文特徴理解(5%)<br>(5)TOEIC(20%)<br>・課題など(1) 語彙力(10%)<br>・ただし授業時間数の 3 分の 1 より多く欠席した場合は、評価対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ・田中清美『Effective Approaches to the TOEIC Test』南雲堂<br>・佐藤誠司『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（工学③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北島　美咲※ | |
| 授業概要 | TOEIC 受験を考慮しながら、さまざまなトピックスの英文を読み、既修の知識を定着・活用することを目指します。具体的には、英語独特の論理的な文章を読むことで読解力、小テストなどで語彙力、ディクテーションなどにより聞く力、そして、それを踏まえた発信力と、バランス良く基本的な英語の能力を伸ばします。 | |
| 到達目標 | (1) 語彙を増やす。<br>(2) 読解力を向上させる。<br>(3) Listening 力を向上させる。<br>(4) 英語の文章の特徴を理解することができる。<br>(5) TOEIC のスコアをあげる。（各人の最初のスコアによるが、100 ポイント程度アップを目指しましょう。） | |
| 成績評価 | ・小テスト(1) 語彙力(25%)<br>・定期試験(1)語彙力(20%)<br>(2)文章理解(10%)<br>(3)Listening 力(10%)<br>(4)英文特徴理解(5%)<br>(5)TOEIC(20%)<br>・課題など(1) 語彙力(10%)<br>・ただし授業時間数の 3 分の 1 より多く欠席した場合は、評価対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ・田中清美『Effective Approaches to the TOEIC Test』南雲堂<br>・佐藤誠司『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（工学④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業は、『シャレード』（1963 年、アメリカ）の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にした TOEIC 形式のテキストを用いて、TOEIC の問題形式に慣れることを主眼とする。TOEIC で高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) 本編の前半部分を字幕なしで鑑賞することができる。<br>(2) TOEIC や本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導くことができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編の前半部分を字幕なしで鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(2)「TOEIC や本編に関する課題…」については、到達度確認テスト(30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を４回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。<br>※その他、受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『名作映画で TOEIC®(2)めざせ！500 シャレード』（英宝社）　ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（工学④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業は、『シャレード』（1963 年、アメリカ）の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にした TOEIC 形式のテキストを用いて、TOEIC の問題形式に慣れることを主眼とする。TOEIC で高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) 本編の後半部分を字幕なしで鑑賞することができる。<br>(2) TOEIC や本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導くことができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編の後半部分を字幕なしで鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(2)「TOEIC や本編に関する課題…」については、到達度確認テスト(30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>※12 月に学内で行われる TOEIC IP 試験の結果は成績評価時に考慮される。<br>※その他、受講に関する詳細については、「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『名作映画で TOEIC®(2)めざせ！500 シャレード』（英宝社）　ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（工学⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | これまでに学んだことを応用して、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに暗唱テスト（筆記式）を毎回行います。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上　　（2）リスニング力の向上　　（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上　（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：横川綾子、Tony Cook 著『Level-up Trainer for the TOEIC® TEST』（センゲージラーニング）978-4-86312-250-5 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（工学⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 前期の英語ＩＡに引き続き、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに暗唱テスト（筆記式）を毎回行います。 | |
| 到達目標 | （１）語彙力の向上<br>（２）リスニング力の向上<br>（３）読解力の向上<br>（４）英語での思考力の向上<br>（５）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：横川綾子、Tony Cook 著『Level-up Trainer for the TOEIC® TEST』（センゲージラーニング）978-4-86312-250-5（前期と同じ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | これまでに学んだことを応用して、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに暗唱テスト（筆記式）を毎回行います。 | |
| 到達目標 | （１）語彙力の向上<br>（２）リスニング力の向上<br>（３）読解力の向上<br>（４）英語での思考力の向上<br>（５）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：横川綾子、Tony Cook 著『Level-up Trainer for the TOEIC® TEST』（センゲージラーニング）978-4-86312-250-5 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 前期の英語ＩＡに引き続き、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに暗唱テスト（筆記式）を毎回行います。 | |
| 到達目標 | （１）語彙力の向上<br>（２）リスニング力の向上<br>（３）読解力の向上<br>（４）英語での思考力の向上<br>（５）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：横川綾子、Tony Cook 著『Level-up Trainer for the TOEIC® TEST』（センゲージラーニング）978-4-86312-250-5（前期と同じ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on their understanding of and competence with course content as per the standards outlined in the course rubric that will be distributed in class. (Objectives: (1) good pronunciation (2) fluency (3) delivery (4) grammar)Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 50%, homework assignments 10%, and test 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English 1 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four-language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on their understanding of and competence with course content as per the standards outlined in the course rubric that will be distributed in class. (Objectives: (1) good pronunciation (2) fluency (3) delivery (4) grammar)Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 50%, homework assignments 10%, and test 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English 2 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業は、『シャレード』（1963 年、アメリカ）の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にした TOEIC 形式のテキストを用いて、TOEIC の問題形式に慣れることを主眼とする。TOEIC で高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) 本編の前半部分を字幕なしで鑑賞することができる。<br>(2) TOEIC や本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導くことができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編の前半部分を字幕なしで鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(2)「TOEIC や本編に関する課題…」については、到達度確認テスト(30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を４回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。<br>※その他、受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『名作映画で TOEIC®(2)めざせ！500 シャレード』（英宝社）　ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業は、『シャレード』（1963 年、アメリカ）の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にした TOEIC 形式のテキストを用いて、TOEIC の問題形式に慣れることを主眼とする。TOEIC で高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) 本編の後半部分を字幕なしで鑑賞することができる。<br>(2) TOEIC や本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導くことができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編の後半部分を字幕なしで鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(2)「TOEIC や本編に関する課題…」については、到達度確認テスト(30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br><br>※12 月に学内で行われる TOEIC IP 試験の結果は成績評価時に考慮される。<br>※その他、受講に関する詳細については、「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『名作映画で TOEIC®(2)めざせ！500 シャレード』（英宝社）　ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、TOEIC の受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、リーディング力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 | |
| 到達目標 | 英語の既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Mark D. Stafford, 妻島千鶴子　「Gear Up for the TOEIC Test」（金星堂）<br>(ISBN: 978-4-7647-3958-1)安河内哲也　「新 TOEIC テスト超速★英単語」（中経出版）<br>(ISBN: 978-4-8061-3370-4)キャサリン・クラフト　「こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！」（中公文庫） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、TOEIC の受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、リーディング力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 | |
| 到達目標 | 英語の既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Mark D. Stafford, 妻島千鶴子　「Gear Up for the TOEIC Test」（金星堂）<br>(ISBN: 978-4-7647-3958-1)安河内哲也　「新 TOEIC テスト超速★英単語」（中経出版）<br>(ISBN: 978-4-8061-3370-4)キャサリン・クラフト　「こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！」（中公文庫） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北島　美咲※ | |
| 授業概要 | TOEIC 受験を考慮しながら、さまざまなトピックスの英文を読み、既修の知識を定着・活用することを目指します。具体的には、英語独特の論理的な文章を読むことで読解力、小テストなどで語彙力、ディクテーションなどにより聞く力、そして、それを踏まえた発信力と、バランス良く基本的な英語の能力を伸ばします。 | |
| 到達目標 | (1) 語彙を増やす。<br>(2) 読解力を向上させる。<br>(3) Listening 力を向上させる。<br>(4) 英語の文章の特徴を理解することができる。<br>(5) TOEIC のスコアをあげる。（各人の最初のスコアによるが、100 ポイント程度アップを目指しましょう。） | |
| 成績評価 | ・小テスト(1) 語彙力(25%)<br>・定期試験(1)語彙力(20%)<br>(2)文章理解(10%)<br>(3)Listening 力(10%)<br>(4)英文特徴理解(5%)<br>(5)TOEIC(20%)<br>・課題など(1) 語彙力(10%)<br>・ただし授業時間数の 3 分の 1 より多く欠席した場合は、評価対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ・田中清美『Effective Approaches to the TOEIC Test』南雲堂<br>・佐藤誠司『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北島　美咲※ | |
| 授業概要 | TOEIC 受験を考慮しながら、さまざまなトピックスの英文を読み、既修の知識を定着・活用することを目指します。具体的には、英語独特の論理的な文章を読むことで読解力、小テストなどで語彙力、ディクテーションなどにより聞く力、そして、それを踏まえた発信力と、バランス良く基本的な英語の能力を伸ばします。 | |
| 到達目標 | (1) 語彙を増やす。<br>(2) 読解力を向上させる。<br>(3) Listening 力を向上させる。<br>(4) 英語の文章の特徴を理解することができる。<br>(5) TOEIC のスコアをあげる。（各人の最初のスコアによるが、100 ポイント程度アップを目指しましょう。） | |
| 成績評価 | ・小テスト(1) 語彙力(25%)<br>・定期試験(1)語彙力(20%)　(2)文章理解(10%)　(3)Listening 力(10%)<br>(4)英文特徴理解(5%)　(5)TOEIC(20%)<br>・課題など(1) 語彙力(10%)<br>・ただし授業時間数の 3 分の 1 より多く欠席した場合は、評価対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ・田中清美『Effective Approaches to the TOEIC Test』南雲堂<br>・佐藤誠司『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』南雲堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（看護①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　里奈※ | |
| 授業概要 | この授業では、VOA Learning English のニュースレポート記事を使用し、主に健康と環境に関する知識と教養を身につけ、それらの知識をもとに、アカデミックかつ専門的な活動につながるより実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目指します。ニュースレポートのリスニング、英語の重要語彙・頻出表現の確認、内容理解のためのディスカッション、自己発信のためのプレゼンテーションを基本の演習内容とします。語彙力とリスニング力の向上及び、英語での思考力、スピーキング力を含む実践的な英語運用能力の習得を目標として授業を進めます。TOEIC スコア・アップ対策については配布プリントでの演習を行う予定です。 | |
| 到達目標 | 1. 重要語彙、頻出表現を習得する<br>2. リスニング力を向上させる<br>3. 英語での思考力を身につける<br>4. コミュニケーション能力(自然な発話力、プレゼンテーションスキル)を習得する | |
| 成績評価 | Review Tests 2 回 (語彙、頻出表現、リスニング)・・・30%<br>Presentations 2 回・・・30%<br>学期末試験・・・40%<br>※1/3 以上欠席した場合は評価の対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 出版社：松柏社　　ISBN:　978-4-88198-703-2<br>テキスト：　For a Better Future: Health & Environment Topics from VOA<br>著者：安浪誠祐／Richard S. Lavin | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（看護①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　里奈※ | |
| 授業概要 | この授業では、VOA Learning English のニュースレポート記事を使用し、主に健康と環境に関する知識と教養を身につけ、それらの知識をもとに、アカデミックかつ専門的な活動につながるより実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目指します。ニュースレポートのリスニング、英語の重要語彙・頻出表現の確認、内容理解のためのディスカッション、自己発信のためのプレゼンテーションを基本の演習内容とします。語彙力とリスニング力の向上及び、英語での思考力、スピーキング力を含む実践的な英語運用能力の習得を目標として授業を進めます。TOEIC スコア・アップ対策については配布プリントでの演習を行う予定です。 | |
| 到達目標 | 1. 重要語彙、頻出表現を習得する<br>2. リスニング力を向上させる<br>3. 英語での思考力を身につける<br>4. コミュニケーション能力(自然な発話力、プレゼンテーションスキル)を習得する | |
| 成績評価 | Review Tests 2 回 (語彙、頻出表現、リスニング)・・・30%<br>Presentations 2 回・・・30%<br>学期末試験・・・40%<br>※1/3 以上欠席した場合は評価の対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 出版社：松柏社　　ISBN:　978-4-88198-703-2<br>テキスト：　For a Better Future: Health & Environment Topics from VOA<br>著者：安浪誠祐／Richard S. Lavin | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（看護②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　里奈※ | |
| 授業概要 | この授業では、VOA Learning English のニュースレポート記事を使用し、主に健康と環境に関する知識と教養を身につけ、それらの知識をもとに、アカデミックかつ専門的な活動につながるより実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目指します。ニュースレポートのリスニング、英語の重要語彙・頻出表現の確認、内容理解のためのディスカッション、自己発信のためのプレゼンテーションを基本の演習内容とします。語彙力とリスニング力の向上及び、英語での思考力、スピーキング力を含む実践的な英語運用能力の習得を目標として授業を進めます。TOEIC スコア・アップ対策については配布プリントでの演習を行う予定です。 | |
| 到達目標 | 1. 重要語彙、頻出表現を習得する<br>2. リスニング力を向上させる<br>3. 英語での思考力を身につける<br>4. コミュニケーション能力(自然な発話力、プレゼンテーションスキル)を習得する | |
| 成績評価 | Review Tests 2 回 (語彙、頻出表現、リスニング)・・・30%<br>Presentations 2 回・・・30%<br>学期末試験・・・40%<br>※1/3 以上欠席した場合は評価の対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 出版社：松柏社　　ISBN:　978-4-88198-703-2<br>テキスト：　For a Better Future: Health & Environment Topics from VOA<br>著者：安浪誠祐／Richard S. Lavin | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（看護②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　里奈※ | |
| 授業概要 | この授業では、VOA Learning English のニュースレポート記事を使用し、主に健康と環境に関する知識と教養を身につけ、それらの知識をもとに、アカデミックかつ専門的な活動につながるより実践的な英語コミュニケーション能力を養うことを目指します。ニュースレポートのリスニング、英語の重要語彙・頻出表現の確認、内容理解のためのディスカッション、自己発信のためのプレゼンテーションを基本の演習内容とします。語彙力とリスニング力の向上及び、英語での思考力、スピーキング力を含む実践的な英語運用能力の習得を目標として授業を進めます。TOEIC スコア・アップ対策については配布プリントでの演習を行う予定です。 | |
| 到達目標 | 1. 重要語彙、頻出表現を習得する<br>2. リスニング力を向上させる<br>3. 英語での思考力を身につける<br>4. コミュニケーション能力(自然な発話力、プレゼンテーションスキル)を習得する | |
| 成績評価 | Review Tests 2 回 (語彙、頻出表現、リスニング)・・・30%<br>Presentations 2 回・・・30%<br>学期末試験・・・40%<br>※1/3 以上欠席した場合は評価の対象としません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 出版社：松柏社　　ISBN:　978-4-88198-703-2<br>テキスト：　For a Better Future: Health & Environment Topics from VOA<br>著者：安浪誠祐／Richard S. Lavin | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（再履修） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業では、映画『ノッティングヒルの恋人』(1999 年、アメリカ・イギリス)を鑑賞をする。アメリカ英語とイギリス英語の発音・語彙・表現方法などの違いを認識し、役者になりきって台詞を声に出して練習することで、主にリスニング力とスピーキング力の向上を図る。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。定期的に演技発表の機会を設けて、ペアまたはグループでの会話練習の成果をクラス全体で評価する。受講者の積極的な授業参加が期待される。 | |
| 到達目標 | (1) 本編を字幕なしで鑑賞することができる。<br>(2) 日常英会話を、身振り手振りも加えて実践できるようになる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編を字幕なしで鑑賞…」については、到達度確認テスト(40%)で評価する。<br>(2)「日常英会話を…」については、演技発表(10%×3=30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞<br>出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を４回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。<br>※その他、受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Richard Curtis ほか　『ノッティングヒルの恋人』（松柏社）<br>ISBN: 978-4-88198-590-8 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（再履修） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業では、映画『ゴーストーニューヨークの幻』（1990 年、アメリカ）を鑑賞をする。ニューヨークを舞台にした本編を通して、アメリカ英語の発音・語彙・表現方法に慣れ親しみ、役者になりきって台詞を声に出して練習することで、主にリスニング力とスピーキング力の向上を図る。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。定期的に演技発表の機会を設けて、ペアまたはグループでの会話練習の成果をクラス全体で評価する。受講者の積極的な授業参加が期待される。 | |
| 到達目標 | (1) 本編を字幕なしで鑑賞することができる。<br>(2) 日常英会話を、身振り手振りも加えて実践できるようになる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「本編を字幕なしで鑑賞…」については、到達度確認テスト(40%)で評価する。<br>(2)「日常英会話を…」については、演技発表(10%×3=30%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を４回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。<br>※その他、受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 角山照彦著『GOAST ゴーストーニューヨークの幻』(Cengage Learning) ISBN: 978-4-86312-112-6 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（環境①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（環境①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（環境②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Presentations 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Teacher Supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（環境②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Final Presentations 50% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Mid-Term Presentations 20% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 20%. Quizzes 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（環境③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and the concept of reading　context. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html), Instructor prepared materials | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（環境③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and the concept of reading　context. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html), Instructor prepared materials | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（環境④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（環境④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Alan Neill※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everday onversation dialogues and individual, pair and group speech presentations. | |
| 到達目標 | On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities. | |
| 成績評価 | 4 tests or assignments that are each 25% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Teacher powerpoint, images and text worksheets will be give to the students by the teacher. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Alan Neill※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everday onversation dialogues and individual, pair and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency.<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak/write grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Student Worksheets and Interviews 100% (4 worksheet reviews, each 25%)(1 = 25%. 2 = 25%. 3 = 25%. 4 = 25%). Students meet with the teacher one-by-one and describe what is moved them the most from their worksheets that we studied in the class. Students meet with the teacher individually, present a report on a topic of their own choosing, and have a discussion with the teacher. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Class handouts.　映画の台本は図書館から借りることができる。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑥） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gordon Maclaren※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual and pair speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency.<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | 3 Shorter performance scenes: /45% ・1 Five-page performance scene: /25%・ORIGINAL SCENES VII & VIII REWRITE: writing- /15%{DONE IN PAIRS}performance- /15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Textbooks:Pop Stars [New Version] (Drama Works, 2009) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑥） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gordon Maclaren※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair and group speech presentations. Students are asked to write a report and discuss it with the instructor in a short interview. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency.<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | 1 four-page pair performance scene: /15%・・1 Five-page performance scene: /20%・・Tests on films screened during interviews: /15%・・350-550 word report on ‘My Life’: /15%・・Interview based on personal report: /35% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Pop Stars [New Version] (Drama Works, 2009) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（工学①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English I, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅱ B （応用コース）（工学①） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English II, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅱ A （応用コース）（工学②） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Graham Jones※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | Students will be able to use spoken English more clearly and more persuasively. They will be able to communicate more effectively and more confidently in a wide range of real-word situations. | |
| 成績評価 | Test 1 will be a listening comprehension exercise, based on the material covered in weeks 1 to 7.<br>Test 2 will be a 10-minute, 1-to-1 meeting between me and each student. The meeting will include a 5-minute presentation by the student, followed by a 5-minute discussion about the presentation. The title of the presentation will be “The most useful thing we studied this term (and why it is useful)”.<br>Test 1 and test 2 will each be worth 50% of the student's overall grade for this term. (Full details will be given in the rubric.) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | None. I will put links to videos used in the class here:<br>http://tensentences.com/usp/ | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅱ B （応用コース）（工学②） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Graham Jones※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | Students will be able to use spoken English more clearly and more persuasively. They will be able to communicate more effectively and more confidently in a wide range of real-word situations. | |
| 成績評価 | Test 3 will be a listening comprehension exercise, based on the material covered in weeks 1 to 7.<br>Test 4 will be a 10-minute, 1-to-1 meeting between me and each student. The meeting will include a 5-minute presentation by the student, followed by a 5-minute discussion about the presentation. The title of the presentation will be “The most useful thing we studied this term (and why it is useful)”.<br>Test 3 and test 4 will each be worth 50% of the student's overall grade for this term. (Full details will be given in the rubric.) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | None. I will put links to videos used in the class here:<br>http://tensentences.com/usp/ | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（工学③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gordon Maclaren※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and pair speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency.<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Reading Scene VII: /5% ・3 Three-page performance scenes: /45% ・1 Four-page performance scene: /20%・ORIGINAL SCENE: writing- /15%{IN PAIRS}performance- /15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Star Taxi [New Version] (Drama Works, 2003) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（工学③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gordon Maclaren※ | |
| 授業概要 | Outline:. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair and group speech presentations. Students are asked to write a report and discuss it with the instructor in a short interview. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency.<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English | |
| 成績評価 | 2 three-page pair performance scenes: /30%・・Scene XIX large-group performance: /5%・・Tests on films screened during interviews: /15%・・350-550 word report on ‘My Life’: /15%・・Interview based on report: /35% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： Star Taxi [New Version] (Drama Works, 2003) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（工学④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and the concept of reading　context. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.<br>This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html), Instructor prepared materials | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（工学④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and the concept of reading　context. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html), Instructor prepared materials | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（工学⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（工学⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on their understanding of and competence with course content as per the standards outlined in the course rubric that will be distributed in class. (Objectives: (1) good pronunciation (2) fluency (3) delivery (4) grammar)Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 50%, homework assignments 10%, and test 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English 1 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four-language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on their understanding of and competence with course content as per the standards outlined in the course rubric that will be distributed in class. (Objectives: (1) good pronunciation (2) fluency (3) delivery (4) grammar)Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 50%, homework assignments 10%, and test 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English 2 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and the concept of reading　context. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.<br>This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html), Instructor prepared materials | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and the concept of reading　context. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html), Instructor prepared materials | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English I, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation　25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English II, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡA（応用コース）（人文④） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡB（応用コース）（人文④） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course will develop communication skills in speaking and listening through various class activities, such as pair and group conversations, group discussions, short presentations, and listening exercises. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation and intonation.<br>(2) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(3) Students will be able to use class material (vocabulary and sentence patterns) and produce grammatically correct English.<br>(4) Students can comprehend every dialogues and short talks through listening exercises. | |
| 成績評価 | (1) 20% (2) 20% (3) 20% (4) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Breakthrough Plus, Book 2, Miles Craven / Macmillan, ISBN 978-0-230-43820-0 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡA（応用コース）（人文⑤） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Alan Neill※ | |
| 授業概要 | This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency.<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Student Worksheets and Interviews 100% (4 worksheet reviews, each 25%)(1 = 25%. 2 = 25%. 3 = 25%. 4 = 25%). Students meet with the teacher one-by-one and describe what is moved them the most from their worksheets that we studied in the class. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Class handouts.　映画の台本は図書館から借りることができる。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡB（応用コース）（人文⑤） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Alan Neill※ | |
| 授業概要 | This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everday onversation dialogues and individual, pair and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency.<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak/write grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Student Worksheets and Interviews 100% (4 worksheet reviews, each 25%)(1 = 25%. 2 = 25%. 3 = 25%. 4 = 25%). Students meet with the teacher one-by-one and describe what is moved them the most from their worksheets that we studied in the class. Students meet with the teacher individually, present a report on a topic of their own choosing, and have a discussion with the teacher. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Class handouts.　映画の台本は図書館から借りることができる。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡA（応用コース）（看護①） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English I, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡB（応用コース）（看護①） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation　25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English II, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡA（応用コース）（看護②） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation　25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English I, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡB（応用コース）（看護②） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly)<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English II, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡA（応用コース）（再履修） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は発信と受信の両方のコミュニケーション能力を磨くことです。英語という言葉は人と人がコミュニケーションを重ねる中でようやく自分のものになります。そのため、ペアワークやグループワークを通して自分を表現し、相手に共感しながら対話する活動を重視します。すべての回が受講者の発表によって進む参加型の授業です。 | |
| 到達目標 | (1)発信力：人の目をにこやかに見て 1 分間英語を話せる。<br>(2)受信力：人の目を共感的に見て 1 分間英語を聴ける。<br>(3)発信力：自分の興味・関心を表現して 1 分間の英語スピーチができる。<br>(4)受信力：他者の興味・関心を受容して 1 分間の英語トークができる。<br>(5)共有力：自らの意見を伝え、相手の意見を迎え入れて 1 分間英語で対話できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については発表①⑦⑨（20 点）、到達目標(2)については発表②③⑧（20 点）、到達目標(3)については発表④⑤⑥（20 点）、到達目標(4)については発表⑩⑪⑫（20 点）、到達目標(5)については最終課題（20 点）の 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストはありません。毎回ハンドアウト（配布資料）を渡します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（再履修） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は発信と受信の両方のコミュニケーション能力を磨くことです。英語という言葉は人と人がコミュニケーションを重ねる中でようやく自分のものになります。そのため、ペアワークやグループワークを通して自分を表現し、相手に共感しながら対話する活動を重視します。すべての回が受講者の発表によって進む参加型の授業です。 | |
| 到達目標 | (1)発信力：人の目をにこやかに見て 1 分間英語を話せる。<br>(2)受信力：人の目を共感的に見て 1 分間英語を聴ける。<br>(3)発信力：自分の興味・関心を表現して 1 分間の英語スピーチができる。<br>(4)受信力：他者の興味・関心を受容して 1 分間の英語トークができる。<br>(5)共有力：自らの意見を伝え、相手の意見を迎え入れて 1 分間英語で対話できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については発表①⑦⑨（20 点）、到達目標(2)については発表②③⑧（20 点）、到達目標(3)については発表④⑤⑥（20 点）、到達目標(4)については発表⑩⑪⑫（20 点）、到達目標(5)については最終課題（20 点）の 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストはありません。毎回ハンドアウト（配布資料）を渡します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（環境①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市場　史哉※ | |
| 授業概要 | アメリカのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける<br>(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける<br>(3)ニュースの内容を理解できる | |
| 成績評価 | 授業中に行う小テスト：30%　到達目標(2)(3)を評価する<br>確認テスト　　：30%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>期末テスト　　：40%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>授業の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。遅刻３回で１回の欠席とみなす。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ABC World News 17<br>編集者　：山根繁、Kathleen Yamane<br>出版社　：金星堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（環境①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市場　史哉※ | |
| 授業概要 | イギリスのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける<br>(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける<br>(3)ニュースの内容を理解できる | |
| 成績評価 | 授業中に行う小テスト：30%　到達目標(2)(3)を評価する<br>確認テスト　　：30%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>期末テスト　　：40%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>授業の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。遅刻３回で１回の欠席とみなす。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Seeing the World through the News 2<br>著者　　：Timothy Knowles, Daniel Brooks, 武岡由樹子, 田村真弓, 浦口理麻<br>出版社　：金星堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（環境②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また 12 月の TOEIC に向けての演習も行う予定です。 | |
| 到達目標 | 英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「ローマの休日」（電波実験社）と「新 TOEIC テスト英単語ターゲット 1500」（旺文社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（環境②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また 12 月の TOEIC に向けての演習も行う予定です。 | |
| 到達目標 | 英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「ローマの休日」（電波実験社）と「新 TOEIC テスト英単語ターゲット 1500」（旺文社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（環境③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 真田　満※ | |
| 授業概要 | 現代世界の諸問題を扱ったエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。 | |
| 到達目標 | ①テキストの英文を正確に理解できる。<br>②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。<br>③正しい発音を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題：10%<br>プレゼンテーション：20%<br>小テスト：20%<br>定期試験：50%<br>（小テスト・定期試験ともに到達目標の項目①と②に関する問題を出題する。プレゼンテーションには到達目標の②だけでなく③も含まれる。）<br>注意点：総授業回数の３分の１を超えて欠席した学生は評価対象とならない。<br>30 分以上の遅刻は欠席となる。<br>遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Active 2 Third Edition（教科書名）<br>Neil J. Anderson（著者名）<br>Cengagage（出版社名） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（環境③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 真田　満※ | |
| 授業概要 | 現代世界の諸問題を扱ったエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。 | |
| 到達目標 | ①テキストの英文を正確に理解できる。<br>②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。<br>③正しい発音を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題：10%<br>プレゼンテーション：20%<br>小テスト：20%<br>定期試験：50%<br>（小テスト・定期試験ともに到達目標の項目①と②に関する問題を出題する。プレゼンテーションには到達目標の②だけでなく③も含まれる。）<br>注意点：総授業回数の３分の１を超えて欠席した学生は評価対象とならない。<br>30 分以上の遅刻は欠席となる。<br>遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Active 2 Third Edition（教科書名）<br>Neil J. Anderson（著者名）<br>Cengagage（出版社名） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（環境④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English I, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（環境④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Interview Test 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Living English II, by Hedberg & Mauser, Keystone English Press. Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（環境⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 日本語字幕に頼らず海外で制作されたドキュメンタリー映像を英語で視聴します。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。スピードが大事ですので、授業は速く展開します。内容を確実に身につけているか確認するため小テストを毎回実施します。必ず辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）<br>学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山梨美和子、横山三鶴、沖野泰子、南條健助『Snapshots from the Globe; National Geographic Multi-media English Course』（センゲージラーニング）　ISBN 978-1-133-31772-2 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（環境⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 前期の英語 IIIA に引き続き、日本語字幕に頼らず海外で制作されたドキュメンタリー映像を英語で視聴します。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。スピードが大事ですので、授業は速く展開します。内容を確実に身につけているか確認するため小テストを毎回実施します。必ず辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山梨美和子、横山三鶴、沖野泰子、南條健助『Snapshots from the Globe; National Geographic Multi-media English Course』（センゲージラーニング）　ISBN　978-1-133-31772-2（前期と同じ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（環境⑥） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松浦　勉※ | |
| 授業概要 | グローバル社会において「使える英語」を身につけるのに必要な読解力向上に役立つパラグラフ構成型や展開型（例えば、時系列展開、因果関係などを表すディスコース・マーカー）に関する 4 技能総合型タスクを通して理解と習熟向上を目標とする。<br>なお、各 UNIT を通し名詞化による簡潔な表現力、正しい発音と英語のリズム、学校文法を超えた文構成内容、sight translation の重要性について述べる。<br>※授業計画等は、授業の進捗状況によって変更する場合がある | |
| 到達目標 | パラグラフ構成型や展開型（例えば、時系列展開、因果関係などを表すディスコース・マーカー）に関する 4 技能総合型タスクを通し、グローバル社会において「使える英語」を身につけるのに必要な読解力を高めることができるようになる。また、名詞化表現、発音と英語のリズム、sight translation を学ぶことで英語力を高めることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、定期試験（60%：(1)20%(2)20%、(3)20%）発表・レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『Phoenix from the Flames』Cengage Learning | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（環境⑥） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松浦　勉※ | |
| 授業概要 | グローバル社会において「使える英語」を身につけるのに必要な読解力向上に役立つパラグラフ構成型や展開型（例えば、時系列展開、因果関係などを表すディスコース・マーカー）に関する４技能総合型タスクを通して理解と習熟向上を目標とする。<br>なお、各 UNIT を通し名詞化による簡潔な表現力、英語のリズム、学校文法を超えた文構成内容、sight translation の重要性について述べる。<br><br>※授業計画等は、授業の進捗状況によって変更する場合がある | |
| 到達目標 | パラグラフ構成型や展開型（例えば、時系列展開、因果関係などを表すディスコース・マーカー）に関する４技能総合型タスクを通し、グローバル社会において「使える英語」を身につけるのに必要な読解力を高めることができるようになる。また、名詞化表現、発音と英語のリズム、sight translation を学ぶことで英語力を高めることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、定期試験 60%：(1)20%(2)20%、(3)20%）発表・レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『Phoenix from the Flames』 Cengage Learning | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（工学①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市場　史哉※ | |
| 授業概要 | アメリカのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける<br>(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける<br>(3)ニュースの内容を理解できる | |
| 成績評価 | 授業中に行う小テスト：30%　到達目標(2)(3)を評価する<br>確認テスト　　：30%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>期末テスト　　：40%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br><br>授業の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。遅刻３回で１回の欠席とみなす。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ABC World News 17<br>編集者　：山根繁、Kathleen Yamane<br>出版社　：金星堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（工学①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市場　史哉※ | |
| 授業概要 | イギリスのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける<br>(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける<br>(3)ニュースの内容を理解できる | |
| 成績評価 | 授業中に行う小テスト：30%　到達目標(2)(3)を評価する<br>確認テスト　　：30%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>期末テスト　　：40%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br><br>授業の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。遅刻３回で１回の欠席とみなす。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Seeing the World through the News 2<br>著者　　：Timothy Knowles, Daniel Brooks, 武岡由樹子, 田村真弓, 浦口理麻<br>出版社　：金星堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（工学②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 真田　満※ | |
| 授業概要 | 現代社会の諸問題を論じたエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。 | |
| 到達目標 | ①テキストの英文を正確に理解できる。<br>②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。<br>③正しい発音を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題：10%<br>プレゼンテーション：20%<br>小テスト：20%<br>定期試験：50%<br>（小テスト・定期試験ともに到達目標の項目①と②に関する問題を出題する。プレゼンテーションには到達目標の②だけでなく③も含まれる。）<br>注意点：総授業回数の３分の１を超えて欠席した学生は評価対象とならない。<br>30 分以上の遅刻は欠席となる。<br>遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Reading Explorer 2（教科書名）<br>Paul Macintyre and David Bohlke（著者名）<br>Cengage（出版社名） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（工学②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 真田　満※ | |
| 授業概要 | 現代社会の諸問題を論じたエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。 | |
| 到達目標 | ①テキストの英文を正確に理解できる。<br>②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。<br>③正しい発音を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題：10%<br>プレゼンテーション：20%<br>小テスト：20%<br>定期試験：50%<br>（小テスト・定期試験ともに到達目標の項目①と②に関する問題を出題する。プレゼンテーションには到達目標の②だけでなく③も含まれる。）<br>注意点：総授業回数の３分の１を超えて欠席した学生は評価対象とならない。<br>30 分以上の遅刻は欠席となる。<br>遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Reading Explorer 2（教科書名）<br>Paul Macintyre and David Bohlke（著者名）<br>Cengage（出版社名） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（工学③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 出原　健一※ | |
| 授業概要 | 英文テクストをできる限り正確に読む訓練を行う。このクラスでは毎回一定の量の英文を２０分程度で全文和訳してもらい、残りの時間で和訳の検討及び修正を行う。これを行うことで、英文の言わんとすることを正確に理解することができ、また日本語との相違も明確に意識化できるようになるであろう。 | |
| 到達目標 | (1)英文の文法構造を正しく捉えられるようになる。<br>(2)テクストの流れや大意も理解できるようになる。<br>(3)日本語と英語の発想に違いをより明確に意識できるようになる。 | |
| 成績評価 | 平常点（30 点）、学期末試験（70 点）で評価する。平常点は、各回において、自力で、最初の和訳、授業での検討、最終修正にきちんと取り組まなかった場合（もちろん欠席も含む）、5 点減点していく。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 毎回プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（工学③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 出原　健一※ | |
| 授業概要 | 英字新聞を編集したテキストを用いて、英文テクストをできる限り正確に読む訓練を行う。知っている単語だけを追い、そこから全体の主旨を推測するという読み方は、時に大きな誤読を引き起こす。これは、コミュニケーションの場においても同様である。このクラスでは、正確な読みに大切な文法や、テクストレベルの英語のルールにも随時触れながら、英文テクストを輪読していく。 | |
| 到達目標 | (1)英文の文法構造を正しく捉えられるようになる。<br>(2)テクストの論理の流れや大意を理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | レポート（20 点）、学期末試験（80 点）で評価する。ただし、欠席 4 回目から、1 回ごとに 5 点ずつ減点する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 浦部尚志・大須賀寿子 編. Cool Japan and the World. 鶴見書店. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（工学④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 日本語字幕に頼らず海外で制作されたドキュメンタリー映像を英語で視聴します。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。スピードが大事ですので、授業は速く展開します。内容を確実に身につけているか確認するため小テストを毎回実施します。必ず辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山梨美和子、横山三鶴、沖野泰子、南條健助『Snapshots from the Globe; National Geographic Multi-media English Course』（センゲージラーニング）　ISBN 978-1-133-31772-2 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（工学④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 前期の英語 IIIA に引き続き、日本語字幕に頼らず海外で制作されたドキュメンタリー映像を英語で視聴します。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。スピードが大事ですので、授業は速く展開します。内容を確実に身につけているか確認するため小テストを毎回実施します。必ず辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山梨美和子、横山三鶴、沖野泰子、南條健助『Snapshots from the Globe; National Geographic Multi-media English Course』（センゲージラーニング）　ISBN　978-1-133-31772-2（前期と同じ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（工学⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Presentations 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Teacher Supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（工学⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Final Presentations 50% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Mid-Term Presentations 20% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 20%. Quizzes 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（人文①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 真田　満※ | |
| 授業概要 | 現代社会の諸問題を論じたエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。 | |
| 到達目標 | ①テキストの英文を正確に理解できる。<br>②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。<br>③正しい発音を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題：10%<br>プレゼンテーション：20%<br>小テスト：20%<br>定期試験：50%<br>（小テスト・定期試験ともに到達目標の項目①と②に関する問題を出題する。プレゼンテーションには到達目標の②だけでなく③も含まれる。）<br>注意点：総授業回数の３分の１を超えて欠席した学生は評価対象とならない。<br>30 分以上の遅刻は欠席となる。<br>遅刻３回で欠席１回の扱いとなる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Reading Explorer 2（教科書名）<br>Paul Macintyre and David Bohlke（著者名）<br>Cengage（出版社名） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（人文①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 真田　満※ | |
| 授業概要 | 現代社会の諸問題を論じたエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。 | |
| 到達目標 | ①テキストの英文を正確に理解できる。<br>②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。<br>③正しい発音を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題：10%<br>プレゼンテーション：20%<br>小テスト：20%<br>定期試験：50%<br>（小テスト・定期試験ともに到達目標の項目①と②に関する問題を出題する。プレゼンテーションには到達目標の②だけでなく③も含まれる。）<br>注意点：総授業回数の３分の１を超えて欠席した学生は評価対象とならない。<br>30 分以上の遅刻は欠席となる。<br>遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Reading Explorer 2（教科書名）<br>Paul Macintyre and David Bohlke（著者名）<br>Cengage（出版社名） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（人文②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。<br>また 12 月の TOEIC に向けての演習も行う予定です。 | |
| 到達目標 | 英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「ローマの休日」（電波実験社）と「新 TOEIC テスト英単語ターゲット 1500」（旺文社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（人文②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。<br>また 12 月の TOEIC に向けての演習も行う予定です。 | |
| 到達目標 | 英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト　２０％　提出物　１５％　授業態度　１５％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「ローマの休日」（電波実験社）と「新 TOEIC テスト英単語ターゲット 1500」（旺文社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（人文③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 日本語字幕に頼らず海外で制作されたドキュメンタリー映像を英語で視聴します。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。スピードが大事ですので、授業は速く展開します。内容を確実に身につけているか確認するため小テストを毎回実施します。必ず辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山梨美和子、横山三鶴、沖野泰子、南條健助『Snapshots from the Globe; National Geographic Multi-media English Course』（センゲージラーニング）　ISBN 978-1-133-31772-2 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（人文③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐久間　思帆※ | |
| 授業概要 | 前期の英語 IIIA に引き続き、日本語字幕に頼らず海外で制作されたドキュメンタリー映像を英語で視聴します。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読を行います。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。スピードが大事ですので、授業は速く展開します。内容を確実に身につけているか確認するため小テストを毎回実施します。必ず辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。 | |
| 到達目標 | （1）語彙力の向上<br>（2）リスニング力の向上<br>（3）読解力の向上<br>（4）英語での思考力の向上<br>（5）英語での発信力の向上 | |
| 成績評価 | 小テスト（15 回）　40%（(1)語彙力 20%、(2)リスニング 20%）学期末試験 60%（(3)読解力 20%、(4)思考力 20%、(5)発信力 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山梨美和子、横山三鶴、沖野泰子、南條健助『Snapshots from the Globe; National Geographic Multi-media English Course』（センゲージラーニング）　ISBN　978-1-133-31772-2（前期と同じ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（人文④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松浦　勉※ | |
| 授業概要 | グローバル化、情報化が進む現代は多様性に富み、さらに科学的発見によって物事の原理が説明されている現代社会に於いて、私達が日常生活で接する機会の多い文化や社会問題、環境やエネルギー、国際ニュースや政治、科学や人間・宇宙の起源まで幅広いトピックを選び、聞き取りと読解を行う。Getting Started,Vocabulary,Comprehension Questions 等のタスクを通し語彙、イディオム力を養いコミュニケーションに必要な教養を深めながら英語表現力をさらに向上させることとする。毎回シャドーウイングによる音読を通し英語のリズム感と共に sight translation（発話順にチャンク単位で内容理解を図る）方法に慣れ親しながら listening, speaking 力を高めていく。※授業計画等は、授業の進捗状況<br>によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | 日常生活で接する機会の多い文化や社会問題に関するテーマに沿ったトピックを選び、聞き取りと読解を行う。Getting Started, Vocabulary,Comprehension Questions 等のタスクを通し語彙、大意把握、内容把握、イディオム確認などを行った後、コミュニケーションに必要な教養を深めながら英語表現力を高めることができる。。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、定期試験　60%：(1)20%(2)20%、(3)20%）発表・レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | François de Soete『Making Sense of the World! - Wisdom Through Knowledge-』（成美堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（人文④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松浦　勉※ | |
| 授業概要 | グローバル化、情報化が進む現代は多様性に富み、さらに科学的発見によって物事の原理が説明されている現代社会に於いて、私達が日常生活で接する機会の多い文化や社会問題、環境やエネルギー、国際ニュースや政治、科学や人間・宇宙の起源まで幅広いトピックを選び、聞き取りと読解を行う。Getting Started,Vocabulary,Comprehension Questions 等のタスクを通し語彙、イディオム力を養いコミュニケーションに必要な教養を深めながら英語表現力をさらに向上させることとする。また、毎回シャドーウイングによる音読を通し英語のリズム感と共に site translation（発話順にチャンク単位で内容理解を図る）方法に慣れ親しながら listening, speaking 力を高めていく。※授業計画等は、授業の進捗状況によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | 日常生活で接する機会の多い文化や社会問題に関するテーマに沿ったトピックを選び、聞き取りと読解を行う。Getting Started, Vocabulary,Comprehension Questions 等のタスクを通し語彙、大意把握、内容把握、イディオム確認などを行った後、コミュニケーションに必要な教養を深めながら英語表現力を高めることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、定期試験 60% : (1)20%(2)20%、(3)20%）発表・レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | François de Soete『Making Sense of the World! - Wisdom Through Knowledge-』（成美堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（人文⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Presentations 60% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%).Written Test 25%. Quizzes 15%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Teacher Supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（人文⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Ashley Mark Stevens※ | |
| 授業概要 | Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. | |
| 到達目標 | (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.<br>(2) Students will be able to speak English with fluency (without hesitation, reply to questions promptly).<br>(3) Students will be able to speak English with good delivery.<br>(4) Students will be able to speak grammatically correct English. | |
| 成績評価 | Final Presentations 50% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Mid-Term Presentations 20% (Pronunciation 25%, Fluency 25%, Delivery 25%, Grammar 25%). Written Test 20%. Quizzes 10%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Teacher-supplied material. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（看護①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、主に医療、看護について書かれた英文の読解力の向上を目標とします。<br>テキストの予習を指摘した部分の確認、さらにハンドアウトや投げ込み教材に対する受講者の発表とそれに対する指導者のコメント、訂正という形で進めていきます。<br>また、それと平行して英語で書かれた物語の読解も行う予定です。 | |
| 到達目標 | 英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、医療領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。 | |
| 成績評価 | 定期試験　60%　小テスト　20%　提出物　20%<br>欠席(半期で4回以上は評価をしません)、<br>遅刻の多い者〈遅刻2回で欠席1回と考える場合があります)、<br>予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。<br>（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Charlie and the Chocolate Factory (講談社英語文庫)とハンドアウトを使用します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（看護①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西澤　裕一※ | |
| 授業概要 | この授業では、主に医療、看護について書かれた英文の読解力の向上を目標とします。<br>テキストの予習を指摘した部分の確認、さらにハンドアウトや投げ込み教材に対する受講者の発表とそれに対する指導者のコメント、訂正という形で進めていきます。<br>また、それと平行して英語で書かれた物語の読解も行う予定です。 | |
| 到達目標 | 英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、医療領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。 | |
| 成績評価 | 定期試験　60%　小テスト　20%　提出物　20%　欠席(半期で4回以上は評価をしません)、遅刻の多い者〈遅刻2回で欠席1回と考える場合があります)、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Charlie and the Chocolate Factory (講談社英語文庫)とハンドアウトを使用します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（看護②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 出原　健一※ | |
| 授業概要 | 英文テクストをできる限り正確に読む訓練を行う。このクラスでは毎回一定の量の英文を２０分程度で全文和訳してもらい、残りの時間で和訳の検討及び修正を行う。これを行うことで、英文の言わんとすることを正確に理解することができ、また日本語との相違も明確に意識化できるようになるであろう。 | |
| 到達目標 | (1)英文の文法構造を正しく捉えられるようになる。<br>(2)テクストの流れや大意も理解できるようになる。<br>(3)日本語と英語の発想に違いをより明確に意識できるようになる。 | |
| 成績評価 | 平常点（30点）、学期末試験（70点）で評価する。平常点は、各回において、自力で、最初の和訳、授業での検討、最終修正にきちんと取り組まなかった場合（もちろん欠席も含む）、5点減点していく。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 毎回プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（看護②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 出原　健一※ | |
| 授業概要 | 英字新聞を編集したテキストを用いて、英文テクストをできる限り正確に読む訓練を行う。知っている単語だけを追い、そこから全体の主旨を推測するという読み方は、時に大きな誤読を引き起こす。これは、コミュニケーションの場においても同様である。このクラスでは、正確な読みに大切な文法や、テクストレベルの英語のルールにも随時触れながら、英文テクストを輪読していく。 | |
| 到達目標 | (1)英文の文法構造を正しく捉えられるようになる。<br>(2)テクストの論理の流れや大意を理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | レポート（20 点）、学期末試験（80 点）で評価する。ただし、欠席 4 回目から、1 回ごとに 5 点ずつ減点する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 浦部尚志・大須賀寿子 編. Cool Japan and the World. 鶴見書店. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＡ（充実コース）（看護③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市場　史哉※ | |
| 授業概要 | アメリカのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける<br>(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける<br>(3)ニュースの内容を理解できる | |
| 成績評価 | 授業中に行う小テスト：30%　到達目標(2)(3)を評価する<br>確認テスト　　：30%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>期末テスト　　：40%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br><br>授業の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。遅刻３回で１回の欠席とみなす。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ABC World News 17<br>編集者　：山根繁、Kathleen Yamane<br>出版社　：金星堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅢＢ（充実コース）（看護③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市場　史哉※ | |
| 授業概要 | イギリスのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける<br>(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける<br>(3)ニュースの内容を理解できる | |
| 成績評価 | 授業中に行う小テスト：30%　到達目標(2)(3)を評価する<br>確認テスト　　：30%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br>期末テスト　　：40%　到達目標(1)(2)(3)を評価する<br><br>授業の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。遅刻３回で１回の欠席とみなす。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Seeing the World through the News 2<br>著者　　：Timothy Knowles, Daniel Brooks, 武岡由樹子, 田村真弓, 浦口理麻<br>出版社　：金星堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅲ A （充実コース）（再履修） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では TOEIC テストのリスニングパートを中心に問題を解くことによって問題の形式に慣れ、また TOEIC に出やすい語彙力をつけることを目指す。テキストは章ごとに北米の 24 地域を扱っているため、北米各地の社会的・文化的背景に親しむこともできる。各自が興味を持った地域について調べたり発表したりすることも課題となる。 | |
| 到達目標 | 授業を通して TOEIC テストの形式に慣れ、特にリスニングを中心とした分野の高得点を目指す。また北米の社会と文化を理解する。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 40%、<br>課題や発表等 20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三、Joe Lauer, Naomi Fujishima. 『Fun With TOEIC Test Listening: Traveling Around 24 North American Areas』 英宝社. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅲ B （充実コース）（再履修） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では TOEIC テストのリスニングパートを中心に問題を解くことによって問題の形式に慣れ、また TOEIC に出やすい語彙力をつけることを目指す。テキストは章ごとに北米の 24 地域を扱っているため、北米各地の社会的・文化的背景に親しむこともできる。各自が興味を持った地域について調べたり発表したりすることも課題となる。 | |
| 到達目標 | 授業を通して TOEIC テストの形式に慣れ、特にリスニングを中心とした分野の高得点を目指す。また北米の社会と文化を理解する。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 40%、<br>課題や発表等 20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三、Joe Lauer, Naomi Fujishima. 『Fun With TOEIC Test Listening: Traveling Around 24 North American Areas』 英宝社. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（環境①） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（環境①） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（環境②） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。テキストは身近な科学に関する話題を扱ったもので、毎回本文を聞いてから読解へ進む。なおテキスト以外のプリントも使用する予定。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどのアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解し論じることができる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 50%、<br>期末試験 30%、<br>課題や発表等 20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Yasuo Konishi ほか　『Science in Your Life』　Asahi Press<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（環境②） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。毎回、時事問題や科学に関する話題をとりあげたパッセージを聞き、読解へ進む。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解できる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 30%、<br>課題や発表等 20%<br>TOEIC Score 10%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（環境③） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 文理の如何に関わらず、TOEIC に慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。本授業では、TOEIC のテスト形式を十全に理解するとともに、オーバーラッピングやシャドーイングなどの音読訓練法を積極的に導入し、発音の強化を目指す。前期は特にオーバーラッピングの練習を習慣づける。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。TOEIC 問題の解答作業や、各ユニットのテーマに関連した映画のワンシーンを参考に会話練習を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) オーバーラッピングの練習を行う習慣を身につけ、英語らしいリズム・発音に慣れる。<br>(2) 予習・復習の習慣を定着さることで、専門分野やビジネス関連の語彙・表現力を身につける。<br>(3) TOEIC の性質を十分に理解し、600 点突破を視野に入れたスコアアップ。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「オーバーラッピングの練習…」については、到達度確認テスト（30%）で評価する。<br>(2)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト（30%）で評価する。<br>(3)「TOEIC の性質を十分に理解…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を 4 回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。※その他、詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 大賀 リヱほか 『TOEIC Test: On Target <Book 2>』（南雲堂）<br>ISBN: 978-4-523-17672-5 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（環境③） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 文理の如何に関わらず、TOEIC に慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。本授業では、TOEIC のテスト形式を十全に理解するとともに、オーバーラッピングやシャドーイングなどの音読訓練法を積極的に導入し、発音の強化を目指す。後期は特にシャドーイングの練習を習慣づける。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。グループワークによる TOEIC 問題の解答作業や、英文履歴書の作成に取り組むため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) シャドーイングの練習を行う習慣を身につけ、英語らしいリズム・発音を体得する。<br>(2) 予習・復習の習慣を定着さることで、専門分野やビジネス関連の語彙・表現力を身につける。<br>(3) TOEIC の性質を十分に理解し、600 点突破を視野に入れたスコアアップ。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「シャドーイングの練習…」については、到達度確認テスト（30%）で評価する。<br>(2)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト（30%）で評価する。<br>(3)「TOEIC の性質を十分に理解…」については、期末テスト(30%)および 12 月に学内で実施される TOEIC IP 試験結果(10%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞<br>出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を 4 回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。※12 月に学内で行われる TOEIC IP 試験の結果は成績評価時に 10%分配当される。<br>※その他、受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 大賀 リヱほか 『TOEIC Test: On Target <Book 2>』（南雲堂）ISBN: 978-4-523-17672-5 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（環境④） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。テキストは身近な科学に関する話題を扱ったもので、毎回本文を聞いてから読解へ進む。なおテキスト以外のプリントも使用する予定。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解し論じることができる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 50%、<br>期末試験 30%、<br>課題や発表等 20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Yasuo Konishi ほか　『Science in Your Life』　Asahi Press<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（環境④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。毎回、時事問題や科学に関する話題をとりあげたパッセージを聞き、読解へ進む。 ※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解できる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、期末試験 30%、課題や発表等 20%TOEIC Score 10%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＡ（展開コース）（環境⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、「Public Speaking」(英語スピーチ)をベースにし、発信型の英語技能を磨きつつ、同時に、多くのスピーチを聴きこむことで幅広い分野に対応できる「リスニング力」を鍛え、英語の４技能（読む・書く・聞く・話す）の強化を目指すものである。<br>毎回の授業は、Short Speech を用いたリスニング訓練から始まる。その後、受講生は、１分～２分程度の様々なスピーチ(Quick Speech)を学び、比較し、その発表練習を繰り返す。その過程で、「人前で話すための発音」や「発表技法」、そして「基本的なプレゼンテーションの文章の組み立て方」を習得してもらいたい。特に、春学期の本授業では、興味のあるテーマに関する短編スピーチを暗記、発表し、その改善点を受講生全員で議論する。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの基礎理論を英語で説明できる。<br>(2) 短編スピーチが適切に発表できる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(2)「短編スピーチが適切に…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社　　ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（環境⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、春学期の「英語ⅣＡ」(清水利宏 担当)の内容をさらに深め、「Public Speaking」(英語スピーチ)の事例をさらに深く学び、正式なスタイルのオリジナル・スピーチを作成・発表するものである。<br>春学期と同様に、毎回の授業は「リスニング力」強化のためのセッションから始まる。秋学期を通じて、受講生は、各自が興味のあるテーマに関する「３分間の Persuasive Speech (説得型スピーチ)」を作成し、年度末にコンテスト形式で発表をする。そのために、論旨の組み立てから発表技法に至るまで、様々な事例研究をもとに、英語で聴衆を説得する技術について、様々な実践を積み重ねていく。授業は基本的にペアワーク(またはグループワーク)によって実施される。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの応用理論を英語で説明できる。<br>(2) Persuasive speech が作成でき、適切に発表ができる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。<br>(4) 各自の目標に応じて TOEIC スコアを伸ばす。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(30%)で評価する。<br>(2)「Persuasive speech が…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>(4)「各自の目標に応じて TOEIC スコア…」については、学内 TOEIC 試験の結果(10%)で評価する。<br>以上の(1)～(4)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社　　ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。ただし、春学期に同書を購入済の場合は、新たに購入する必要はありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（環境⑥） | １単位　　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（環境⑥） | １単位　　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（工学①） | １単位　　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 文理の如何に関わらず、TOEIC に慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。本授業では、TOEIC のテスト形式を十全に理解するとともに、オーバーラッピングやシャドーイングなどの音読訓練法を積極的に導入し、発音の強化を目指す。前期は特にオーバーラッピングの練習を習慣づける。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。TOEIC 問題の解答作業や、各ユニットのテーマに関連した映画のワンシーンを参考に会話練習を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) オーバーラッピングの練習を行う習慣を身につけ、英語らしいリズム・発音に慣れる。<br>(2) 予習・復習の習慣を定着さることで、専門分野やビジネス関連の語彙・表現力を身につける。<br>(3) TOEIC の性質を十分に理解し、600 点突破を視野に入れたスコアアップ。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>(1)「オーバーラッピングの練習…」については、到達度確認テスト（30%）で評価する。<br>(2)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト（30%）で評価する。<br>(3)「TOEIC の性質を十分に理解…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を 4 回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。※その他、詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 大賀 リエほか 『TOEIC Test: On Target <Book 2>』（南雲堂）ISBN: 978-4-523-17672-5 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B（展開コース）（工学①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 文理の如何に関わらず、TOEIC に慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。本授業では、TOEIC のテスト形式を十全に理解するとともに、オーバーラッピングやシャドーイングなどの音読訓練法を積極的に導入し、発音の強化を目指す。後期は特にシャドーイングの練習を習慣づける。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。グループワークによる TOEIC 問題の解答作業や、英文履歴書の作成に取り組むため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) シャドーイングの練習を行う習慣を身につけ、英語らしいリズム・発音を体得する。<br>(2) 予習・復習の習慣を定着さることで、専門分野やビジネス関連の語彙・表現力を身につける。<br>(3) TOEIC の性質を十分に理解し、600 点突破を視野に入れたスコアアップ。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。(1)「シャドーイングの練習…」については、到達度確認テスト（30%）で評価する。(2)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト（30%）で評価する。<br>(3)「TOEIC の性質を十分に理解…」については、期末テスト(30%)および 12 月に学内で実施される TOEIC IP 試験結果(10%)で評価する。(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>＜出席について＞出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。積極的に授業に参加して課題に取り組むことで到達目標を達成できる形になっているためである。なお、授業を４回欠席した者は、履修を放棄したと見なし成績評価はしない。また、30 分以上の遅刻は欠席扱いとなる。 ※12 月に学内で行われる TOEIC IP 試験の結果は成績評価時に 10%分配当される。<br>※その他、受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 大賀 リヱほか 『TOEIC Test: On Target <Book 2>』（南雲堂）ISBN: 978-4-523-17672-5 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A（展開コース）（工学②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、「Public Speaking」(英語スピーチ)をベースにし、発信型の英語技能を磨きつつ、同時に、多くのスピーチを聴きこむことで幅広い分野に対応できる「リスニング力」を鍛え、英語の４技能（読む・書く・聞く・話す）の強化を目指すものである。毎回の授業は、Short Speech を用いたリスニング訓練から始まる。その後、受講生は、１分～２分程度の様々なスピーチ(Quick Speech)を学び、比較し、その発表練習を繰り返す。その過程で、「人前で話すための発音」や「発表技法」、そして「基本的なプレゼンテーションの文章の組み立て方」を習得してもらいたい。特に、春学期の本授業では、興味のあるテーマに関する短編スピーチを暗記、発表し、その改善点を受講生全員で議論する。 ※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの基礎理論を英語で説明できる。<br>(2) 短編スピーチが適切に発表できる。　(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。 (2)「短編スピーチが適切に…」については、実技試験(20%)で評価する。 (3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】 ・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】 ・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名： 『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者： 亀田尚己、清水利宏　　出版社： 研究社　　ISBN： 978-4-327-43081-8<br>備　考： 購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B（展開コース）（工学②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、春学期の「英語ⅣA」(清水利宏 担当)の内容をさらに深め、「Public Speaking」(英語スピーチ)の事例をさらに深く学び、正式なスタイルのオリジナル・スピーチを作成・発表するものである。春学期と同様に、毎回の授業は「リスニング力」強化のためのセッションから始まる。秋学期を通じて、受講生は、各自が興味のあるテーマに関する「３分間の Persuasive Speech (説得型スピーチ)」を作成し、年度末にコンテスト形式で発表をする。そのために、論旨の組み立てから発表技法に至るまで、様々な事例研究をもとに、英語で聴衆を説得する技術について、様々な実践を積み重ねていく。授業は基本的にペアワーク(またはグループワーク)によって実施される。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの応用理論を英語で説明できる。<br>(2) Persuasive speech が作成でき、適切に発表ができる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 (4) 各自の目標に応じて TOEIC スコアを伸ばす。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(30%)で評価する。<br>(2)「Persuasive speech が…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>(4)「各自の目標に応じて TOEIC スコア…」については、学内 TOEIC 試験の結果(10%)で評価する。<br>以上の(1)～(4)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】 ・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他　　】 ・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名： 『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者： 亀田尚己、清水利宏　　出版社： 研究社　　ISBN： 978-4-327-43081-8<br>備　考： 購入必須。ただし、春学期に同書を購入済の場合は、新たに購入する必要はありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（工学③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。テキストは身近な科学に関する話題を扱ったもので、毎回本文を聞いてから読解へ進む。なおテキスト以外のプリントも使用する予定。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解し論じることができる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 50%、<br>期末試験 30%、<br>課題や発表等 20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Yasuo Konishi ほか　『Science in Your Life』　Asahi Press<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（工学③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。毎回、時事問題や科学に関する話題をとりあげたパッセージを聞き、読解へ進む。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解できる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 30%、<br>課題や発表等 20%<br>TOEIC Score 10%※<br>成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布(テキストについては授業中に指示) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（工学④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、「Public Speaking」(英語スピーチ)をベースにし、発信型の英語技能を磨きつつ、同時に、多くのスピーチを聴きこむことで幅広い分野に対応できる「リスニング力」を鍛え、英語の４技能（読む・書く・聞く・話す）の強化を目指すものである。<br>毎回の授業は、Short Speech を用いたリスニング訓練から始まる。その後、受講生は、１分～２分程度の様々なスピーチ(Quick Speech)を学び、比較し、その発表練習を繰り返す。その過程で、「人前で話すための発音」や「発表技法」、そして「基本的なプレゼンテーションの文章の組み立て方」を習得してもらいたい。特に、春学期の本授業では、興味のあるテーマに関する短編スピーチを暗記、発表し、その改善点を受講生全員で議論する。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの基礎理論を英語で説明できる。<br>(2) 短編スピーチが適切に発表できる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(2)「短編スピーチが適切に…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】<br>・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】<br>・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏<br>出版社：研究社<br>ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（工学④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、春学期の「英語ⅣＡ」(清水利宏 担当)の内容をさらに深め、「Public Speaking」(英語スピーチ)の事例をさらに深く学び、正式なスタイルのオリジナル・スピーチを作成・発表するものである。<br>春学期と同様に、毎回の授業は「リスニング力」強化のためのセッションから始まる。秋学期を通じて、受講生は、各自が興味のあるテーマに関する「３分間の Persuasive Speech (説得型スピーチ)」を作成し、年度末にコンテスト形式で発表をする。そのために、論旨の組み立てから発表技法に至るまで、様々な事例研究をもとに、英語で聴衆を説得する技術について、様々な実践を積み重ねていく。授業は基本的にペアワーク(またはグループワーク)によって実施される。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの応用理論を英語で説明できる。<br>(2) Persuasive speech が作成でき、適切に発表ができる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。<br>(4) 各自の目標に応じて TOEIC スコアを伸ばす。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(30%)で評価する。<br>(2)「Persuasive speech が…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>(4)「各自の目標に応じて TOEIC スコア…」については、学内 TOEIC 試験の結果(10%)で評価する。<br>以上の(1)～(4)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】<br>・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】<br>・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社　　ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。ただし、春学期に同書を購入済の場合は、新たに購入する必要はありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＡ（展開コース）（工学⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。テキストは身近な科学に関する話題を扱ったもので、毎回本文を聞いてから読解へ進む。なおテキスト以外のプリントも使用する予定。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解し論じることができる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 50%、<br>期末試験 30%、<br>課題や発表等 20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Yasuo Konishi ほか　『Science in Your Life』　Asahi Press<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（工学⑤） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力をつけることを目指し、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。毎回、時事問題や科学に関する話題をとりあげたパッセージを聞き、読解へ進む。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解できる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、期末試験 30%、課題や発表等 20%、TOEIC Score 10%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（人文①） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（人文①） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』（南雲堂、2013 年）。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（人文②） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、「Public Speaking」(英語スピーチ)をベースにし、発信型の英語技能を磨きつつ、同時に、多くのスピーチを聴きこむことで幅広い分野に対応できる「リスニング力」を鍛え、英語の４技能（読む・書く・聞く・話す）の強化を目指すものである。<br>毎回の授業は、Short Speech を用いたリスニング訓練から始まる。その後、受講生は、１分～２分程度の様々なスピーチ(Quick Speech)を学び、比較し、その発表練習を繰り返す。その過程で、「人前で話すための発音」や「発表技法」、そして「基本的なプレゼンテーションの文章の組み立て方」を習得してもらいたい。特に、春学期の本授業では、興味のあるテーマに関する短編スピーチを暗記、発表し、その改善点を受講生全員で議論する。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの基礎理論を英語で説明できる。<br>(2) 短編スピーチが適切に発表できる。　(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(2)「短編スピーチが適切に…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社　　ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（人文②） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、春学期の「英語ⅣＡ」(清水利宏 担当)の内容をさらに深め、「Public Speaking」(英語スピーチ)の事例をさらに深く学び、正式なスタイルのオリジナル・スピーチを作成・発表するものである。<br>春学期と同様に、毎回の授業は「リスニング力」強化のためのセッションから始まる。秋学期を通じて、受講生は、各自が興味のあるテーマに関する「３分間の Persuasive Speech (説得型スピーチ)」を作成し、年度末にコンテスト形式で発表をする。そのために、論旨の組み立てから発表技法に至るまで、様々な事例研究をもとに、英語で聴衆を説得する技術について、様々な実践を積み重ねていく。授業は基本的にペアワーク(またはグループワーク)によって実施される。※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの応用理論を英語で説明できる。<br>(2) Persuasive speech が作成でき、適切に発表ができる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 (4) 各自の目標に応じて TOEIC スコアを伸ばす。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(30%)で評価する。<br>(2)「Persuasive speech が…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>(4)「各自の目標に応じて TOEIC スコア…」については、学内 TOEIC 試験の結果(10%)で評価する。　以上の(1)～(4)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社　　ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。ただし、春学期に同書を購入済の場合は、新たに購入する必要はありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＡ（展開コース）（人文③） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』(南雲堂、2013 年)。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（人文③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語で知識を受信し発信する力をつけながら各自の専門分野の知識とリンクさせていくことです。聞く・話す・読む・書くの英語の四つの力をバランスよく伸ばして、なおかつ世界の諸問題をめぐる教養を深めることを目指します。英語力と教養を同時に高める一挙両得をねらっています。英語力も教養も人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力：細部まで正確に英語を一文ずつ聴いて書き取れる。<br>(2)話す力：意味を考えて英語を一文ずつ話すように音読できる。<br>(3)読む力：別の語で言い換えられるまでに英語を一文ずつ読み理解できる。<br>(4)書く力：自分の意見を伝えるために英語を一文ずつ書き表現できる。<br>(5)考える力：六つの国際社会の課題を自らの専門分野の課題と結びつけ、授業外にも自主的に学べる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点分）、到達目標(2)については音読テスト（20 点分）、到達目標(3)については定期試験（20 点分）、到達目標(4)については小テスト（20 点分）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点分）の合計 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 達川奎三/ウォルター・デイビス/田頭憲二/山本五郎/田北冬子『Global Issues Towards Peace:DVD で学ぶ共存社会―グローバル時代を考える』(南雲堂、2013 年)。本体 2400 円＋税。自習用 DVD・CD つき。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＡ（展開コース）（人文④） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、「Public Speaking」(英語スピーチ)をベースにし、発信型の英語技能を磨きつつ、同時に、多くのスピーチを聴きこむことで幅広い分野に対応できる「リスニング力」を鍛え、英語の４技能（読む・書く・聞く・話す）の強化を目指すものである。<br>毎回の授業は、Short Speech を用いたリスニング訓練から始まる。その後、受講生は、１分～２分程度の様々なスピーチ(Quick Speech)を学び、比較し、その発表練習を繰り返す。その過程で、「人前で話すための発音」や「発表技法」、そして「基本的なプレゼンテーションの文章の組み立て方」を習得してもらいたい。特に、春学期の本授業では、興味のあるテーマに関する短編スピーチを暗記、発表し、その改善点を受講生全員で議論する。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの基礎理論を英語で説明できる。<br>(2) 短編スピーチが適切に発表できる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(2)「短編スピーチが適切に…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社　　ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（人文④） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、春学期の「英語ⅣＡ」(清水利宏 担当)の内容をさらに深め、「Public Speaking」(英語スピーチ)の事例をさらに深く学び、正式なスタイルのオリジナル・スピーチを作成・発表するものである。<br>春学期と同様に、毎回の授業は「リスニング力」強化のためのセッションから始まる。秋学期を通じて、受講生は、各自が興味のあるテーマに関する「３分間の Persuasive Speech (説得型スピーチ)」を作成し、年度末にコンテスト形式で発表をする。そのために、論旨の組み立てから発表技法に至るまで、様々な事例研究をもとに、英語で聴衆を説得する技術について、様々な実践を積み重ねていく。授業は基本的にペアワーク(またはグループワーク)によって実施される。 ※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) テキストの英文を正確に理解し、スピーチの応用理論を英語で説明できる。<br>(2) Persuasive speech が作成でき、適切に発表ができる。<br>(3) 発信型の英語練習を習慣づける。<br>(4) 各自の目標に応じて TOEIC スコアを伸ばす。 | |
| 成績評価 | (1)「テキストの英文を正確に…」については、到達確認テスト(30%)で評価する。<br>(2)「Persuasive speech が…」については、実技試験(20%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>(4)「各自の目標に応じて TOEIC スコア…」については、学内 TOEIC 試験の結果(10%)で評価する。 以上の(1)～(4)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社　　ISBN：978-4-327-43081-8<br>備　考：購入必須。ただし、春学期に同書を購入済の場合は、新たに購入する必要はありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＡ（展開コース）（人文⑤） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力を身につけることをめざし、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。テキストはよく知られているアメリカ人・アメリカ文化等をとりあげており、授業では本文を聞いてから読解へ進む。なお、テキスト以外のプリントも使用する予定。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解し論じることができる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 50%、期末試験 30%、課題や発表等 20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Tsutomu Akiba ほか　『People and Culture in America』　英宝社<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（人文⑤） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では総合的な英語力を身につけることをめざし、読解・リスニングなどさまざまなアクティビティを行う。授業では毎回海外の文化や時事問題等をとりあげ、本文を聞いてから読解へ進む。　※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | リスニングや読解、スピーキングなどさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力をつける。英語でさまざまな問題を理解し論じることができる。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 30%、<br>課題や発表等 20%、<br>TOEIC SCORE 10%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（看護①） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and nursing-specific content. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, ideas, and the nursing profession in English.<br>This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　1) Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); 2) Evans, Virginia and Kori Salcido, Career Paths: Nursing. Express Publishing: 2011; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (down | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（看護①） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and nursing-specific content. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, ideas, and the nursing profession in English.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　1) Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); 2) Evans, Virginia and Kori Salcido, Career Paths: Nursing. Express Publishing: 2011; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (down | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（看護②） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and nursing-specific content. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, ideas, and the nursing profession in English.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　1) Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); 2) Evans, Virginia and Kori Salcido, Career Paths: Nursing. Express Publishing: 2011; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (down | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ B （展開コース）（看護②） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Through course presentations and participitory activities, students will learn and develop English communication skill - particularly around the areas of pronunciation, listening, speaking, and nursing-specific content. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, ideas, and the nursing profession in English.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) fluency (inlcuding pronunciation), 2) listening, 3) grammar, 4) vocabulary, and 5) mechanics on written work.　Final Exam 60%, Quizzes 25%, Class Exercises/Participation 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　1) Thompson, Paul　& Christopher Chase, Natural Speaking. Intercom Press: 2010 (both digital and paper versions); 2) Evans, Virginia and Kori Salcido, Career Paths: Nursing. Express Publishing: 2011; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (down | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ A （展開コース）（看護③） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松浦　勉※ | |
| 授業概要 | 医療の現場で求められる多様な表現力を医者・看護師と患者の対話を通して学ぶことでコミュニケーション力向上を図る。各ユニットの Listening Activity　では現場に沿った useful expressions, medecal words に慣れ親しみ表現力を高める。また Reading Activity　では 毎回のシャドーウイングにより英語のリズム感を習得しながら sight translation　method （発話順にチャンク単位で内容理解を図る）に基づき内容把握を行うことで読解力を向上させる。<br>※授業計画等は、授業の進捗状況によって変更する場合がある | |
| 到達目標 | 各ユニットの Medical Terminology では English for Specific Purpose の観点から英語で使われる語の構成を調べることにより語句の理解を深めることができる。また、各ユニットの Listening Activity　では現場に沿った useful expressions, medical words に慣れ親しみながら表現力を高めることができる。更に、Reading Activity では シャドーウイングにより英語のリズム感を習得しながら sight translation　method （発話順にチャンク単位で内容理解を図る）に基づき内容把握を行うことで読解力を向上させることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、定期試験　60%：(1)20%(2)20%、(3)20%）発表・レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 樋口晶彦、John Tremarco、『First Aid! - English for Nursing』（金星堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（看護③） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松浦　勉※ | |
| 授業概要 | 医療の現場で求められる多様な表現力を医者・看護師と患者の対話を通して学ぶことでコミュニケーション力向上を図る。各ユニットの Listening Activity　では現場に沿った useful expressions, medecal words に慣れ親しみ表現力を高める。また Reading Activity では 毎回のシャドーウイングにより英語のリズム感を習得しながら sight translation　method　（発話順にチャンク単位で内容理解を図る）に基づき内容把握を行うことで読解力を向上せる。。※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある | |
| 到達目標 | 各ユニットの Medical Terminology　では English for Specific Purpose　の観点から英語で使われる語の構成を調べることにより語句の理解を深めることができる。また、各ユニットの Listening Activity　では現場に沿った useful expressions, medical words に慣れ親しみながら表現力を高めることができる。更に、Reading Activity では シャドーウイングにより英語のリズム感を習得しながら sight translation　method　（発話順にチャンク単位で内容理解を図る）に基づき内容把握を行うことで読解力を向上させることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、定期試験 60%：(1)20%(2)20%、(3)20%）発表・レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 樋口晶彦、John Tremarco、『First Aid! - English for Nursing』（金星堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＡ（展開コース）（再履修） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講座は、これまでに英語Ⅰ～Ⅳで学んだ内容を総括し、卒業後に役立つ「英語プレゼンテーション能力」の育成に主眼を置いたものである。Public Speaking(英語スピーチ)の基礎理論をベースに、数多くの英語プレゼンテーションを行なうことで、理論と実践を結びつける。発信型の英語技能を磨きつつ、同時に、多くのスピーチを聴きこむことで幅広い分野に対応できる「リスニング力」を鍛え、社会で役立つ「実践的な英語力」を身につけてもらいたい。<br>毎回の授業は、テキストの「Short Speech」を用いたリスニング訓練から始まる。その後、その日の担当の受講生数人が、それぞれ５分程度の英語プレゼンテーションを PowerPoint を用いて行ない、その内容や改善点について、受講生全員で議論していく。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。なお、履修開始までに、PowerPoint の基本操作を習得しておいてください。 | |
| 到達目標 | (1) 教科書のモデル文を正確に理解し、英語プレゼンテーションの基礎理論を英語で説明できる。<br>(2) 基礎的な英語プレゼンテーションが円滑に行なえる。　(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「教科書のモデル文を正確に…」については、到達確認テスト(30%)で評価する。<br>(2)「基礎的な英語プレゼンテーションが…」については、実技試験(30%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社(ISBN 978-4-327-43081-8)<br>備　考：購入必須。多くの書き込みや捺印をしますので、新しいものを購入してください。※ただし、これまでの授業で同書を購入済の場合は、新たに購入する必要はありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語ⅣＢ（展開コース）（再履修） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、春学期の「英語ⅣＡ・再履修」(清水利宏 担当)の内容をさらに深めつつ、卒業後に役立つ「英語プレゼンテーション能力」の育成に主眼を置いたものである。Public Speaking(英語スピーチ)の基礎理論をベースに、身近なテーマについて数多くの英語プレゼンテーションを行なうことで、理論と実践が結びつくように授業を展開する。発信型の英語技能を磨きつつ、同時に、多くのスピーチを聴きこむことで幅広い分野に対応できる「リスニング力」を鍛え、社会で役立つ「実践的な英語力」を身につけてもらいたい。<br>毎回の授業は、テキストの「Short Speech」を用いたリスニング訓練から始まる。その後、受講生数人が５分程度の英語プレゼンを PowerPoint で行ない、その内容や改善点について全員で議論する。※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。なお、履修開始までに、PowerPoint の基本操作を習得しておいてください。 | |
| 到達目標 | (1) 教科書のモデル文を正確に理解し、英語プレゼンテーションの応用理論を英語で説明できる。<br>(2) 複雑な内容の英語プレゼンテーションが行なえる。　(3) 発信型の英語練習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)「教科書のモデル文を正確に…」については、到達確認テスト(30%)で評価する。<br>(2)「基礎的な英語プレゼンテーションが…」については、実技試験(30%)で評価する。<br>(3)「発信型の英語練習を…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：『すぐに使える！ ビジネス英語スピーチ 100　上達の秘訣 30＋モデル文 100』<br>著　者：亀田尚己、清水利宏　　出版社：研究社(ISBN 978-4-327-43081-8)<br>備　考：購入必須。多くの書き込みや捺印をしますので、新しいものを購入してください。<br>※ただし、これまでの授業で同書を購入済の場合は、新たに購入する必要はありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅰ（国際ａ） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛　・　山本　薫 | |
| 授業概要 | 本授業の目標は，英語の４技能のなかでもとりわけリスニング能力の向上にある。豊富なリスニング練習活動を通して，英語を正しく聞き取り発話内容を理解する力を養う。本授業「英語　Ⅰ　」は国際コミュニケーション学科の１年生前期配当の英語関連必修科目のうちの１科目である。（山本担当）本授業では、リーディングを通して語彙を増やし、テクストを音読することで正確な発音を身につけ、リスニング力を強化することを目指す。<br>（小熊担当）本授業では，毎回リスニングによる内容理解およびディクテーション練習を行いリスニング能力の向上を図る。内容理解に欠かせない語彙および表現の予習・復習を課し，それらの定着を随時行う小テストで確認する。なお，環琵琶湖文化論実習の英語プレゼンを視野に，プレゼンテーションに有効な語彙，表現を身につけることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1)日常の英語対話を聞いて理解できる。(2)多様な場面における英語を聞いて，完全ではないもののある程度理解できる。(3)対話コミュニケーションで用いられる標準的な英文構造，語彙・表現が理解できを正しく用いることができる。(4)正確に音読できる。 | |
| 成績評価 | （山本担当）到達目標に示す(1)-(4)については以下の基準に従い 100 点満点評価を行い，60 点以上を合格とする。小テスト・課題提出：(50%: (1)10%, (2)20% (3)10% (4)10%)<br>定期試験：(50%: (1)10%, (2)30%, (3)10%)4 回以上欠席したものは評価の対象としない。<br>（小熊担当）到達目標に示す(1)-(4)については以下の基準に従い 100 点満点評価を行い，60 点以上を合格とする。小テスト・課題提出：(50%: (1)10%, (2)20% (3)10% (4)10%)　定期試験：(50%: (1)10%, (2)30%, (3)10%) ※ただし，4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | (山本担当)浦部尚志・大須賀寿子　『英字紙で読む日本と世界』(鶴見書店, 2015)<br>(小熊担当)吉田国子他『リスニング・スキルアップ：日本の世界遺産を巡る』(三修社)¥2,000+税 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅰ（国際ｂ） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛　・　山本　薫 | |
| 授業概要 | 本授業の目標は，英語の４技能のなかでもとりわけリスニング能力の向上にある。豊富なリスニング練習活動を通して，英語を正しく聞き取り発話内容を理解する力を養う。本授業「英語　Ⅰ　」は国際コミュニケーション学科の１年生前期配当の英語関連必修科目のうちの１科目である。（山本担当）本授業では、リーディングを通して語彙を増やし、テクストを音読することで正確な発音を身につけ、リスニング力を強化することを目指す。<br>（小熊担当）本授業では，毎回リスニングによる内容理解およびディクテーション練習を行いリスニング能力の向上を図る。内容理解に欠かせない語彙および表現の予習・復習を課し，それらの定着を随時行う小テストで確認する。なお，環琵琶湖文化論実習の英語プレゼンを視野に，プレゼンテーションに有効な語彙，表現を身につけることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1)日常の英語対話を聞いて理解できる。(2)多様な場面における英語を聞いて，完全ではないもののある程度理解できる。(3)対話コミュニケーションで用いられる標準的な英文構造，語彙・表現が理解できを正しく用いることができる。(4)正確に音読できる。 | |
| 成績評価 | （山本担当）到達目標に示す(1)-(4)については以下の基準に従い 100 点満点評価を行い，60 点以上を合格とする。小テスト・課題提出：(50%: (1)10%, (2)20% (3)10% (4)10%)<br>定期試験：(50%: (1)10%, (2)30%, (3)10%)<br>4 回以上欠席したものは評価の対象としない。<br>（小熊担当）到達目標に示す(1)-(4)については以下の基準に従い 100 点満点評価を行い，60 点以上を合格とする。小テスト・課題提出：(50%: (1)10%, (2)20% (3)10% (4)10%)　定期試験：(50%: (1)10%, (2)30%, (3)10%)※ただし，4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | (山本担当)浦部尚志・大須賀寿子　『英字紙で読む日本と世界』(鶴見書店, 2015)<br>(小熊担当）吉田国子他『リスニング・スキルアップ：日本の世界遺産を巡る』(三修社)¥2,000+税 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅱ（国際ａ） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack　・　Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | Outline: The goal of this course is to strengthen ability in the four skills in English, with a particular emphasis on speaking.　Students become more competent and comfortable in expressing their thoughts and feelings orally in English through gaining abundant communicative speaking experience. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in all four skills, but particularly in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to engage with classmates to talk in pairs and in groups about themes related to intercultural communication in English. | |
| 成績評価 | Stack: Class Exercises/Participation/Quizzes 40%, Mid-Term Exam 30%, Final Exam 30%<br>Hedberg: Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 30%, homework assignments 20%, and a final test 20%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Stack: Shaules, Joseph & Juri Abe. Different Realities:Adventures in Intercultural Communication. Nan'un-Do: 1997. Additional Materials: Pronunciation Guide 2<br>Hedberg: Living English 1 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅱ（国際 b） | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack ・ Karl Hedberg※ | |
| 授業概要 | Outline: The goal of this course is to strengthen ability in the four skills in English, with a particular emphasis on speaking. Students become more competent and comfortable in expressing their thoughts and feelings orally in English through gaining abundant communicative speaking experience. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in all four skills, but particularly in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to engage with classmates to talk in pairs and in groups about themes related to intercultural communication in English. | |
| 成績評価 | Stack: Class Exercises/Participation/Quizzes 40%, Mid-Term Exam 30%, Final Exam 30%<br>Hedberg: Vocabulary quizzes 30%, speaking exercises 30%, homework assignments 20%, and a final test 20%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Stack: Shaules, Joseph & Juri Abe. Different Realities:Adventures in Intercultural Communication. Nan'un-Do: 1997. Additional Materials: Pronunciation Guide 2<br>Hedberg: Living English 1 by Hedberg & Mauser, Keystone English Press | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅲ（国際 a） | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 ・ 清水　利宏 | |
| 授業概要 | この英語Ⅲ（Reading）の授業では、伝記、国際法、心理、カロリー消費、歴史、伝染病、物語などを読みます。練習問題もブランク埋めから、記号選択、短答（Q & A）、クロスワードパズルと色々です。ユニットごとに到達確認テストを実施します。(外狩)<br>■本授業では、基礎的なリーディング技法を英語で学び、それを実践的に演習することで、英語の読解力を高めます。特に、英文を自分なりに解釈し、その感情を込めて音読をする技術(Oral Interpretation)を取り入れ、英語の口頭表現力も養います。授業は、基本的にすべて英語で行ないます。(清水利宏) | |
| 到達目標 | (1) 英語の語彙・イディオム等を増強することができる。<br>(2) 異なるジャンルの英文を読んで、内容を理解することができる。(外狩)<br>(1) 読解法やテキストの文章を正確に理解できる。<br>(2) 文意の解釈をふまえた音読ができる。<br>(3) 自主的な読解訓練を習慣づける。(清水利宏) | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)英語の語彙・・(2)異なるジャンル・・については、ユニットごとの確認テスト（100% : (1)50%, (2)50%）で評価する。(外狩)<br>■(1)「読解法や…」については到達確認テスト(40%)で評価する。／(2)「文意の解釈を…」については、実技試験(20%)で評価する。／(3)「自主的な…」については、毎回の自習課題の提出(40%)で評価する。(清水利宏) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | (テキスト) Ken Beatty, Read and Think! (Book 3), Pearson Education Asia Limited, 2009. (外狩)<br>■ Islam & Steenburgh, A Good Read (Book 1), Cengage Learning, 2009, ISBN: 978-981-4246-95-8.(清水利宏) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅲ（国際 b） | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 ・ 清水　利宏 | |
| 授業概要 | この英語Ⅲ（Reading）の授業では、伝記、国際法、心理、カロリー消費、歴史、伝染病、物語などを読みます。練習問題もブランク埋めから、記号選択、短答（Q & A）、クロスワードパズルと色々です。ユニットごとに到達確認テストを実施します。(外狩)<br>■本授業では、基礎的なリーディング技法を英語で学び、それを実践的に演習することで、英語の読解力を高めます。特に、英文を自分なりに解釈し、その感情を込めて音読をする技術(Oral Interpretation)を取り入れ、英語の口頭表現力も養います。授業は、基本的にすべて英語で行ないます。(清水利宏) | |
| 到達目標 | (1) 英語の語彙・イディオム等を増強することができる。<br>(2) 異なるジャンルの英文を読んで、内容を理解することができる。(外狩)<br>(1) 読解法やテキストの文章を正確に理解できる。<br>(2) 文意の解釈をふまえた音読ができる。<br>(3) 自主的な読解訓練を習慣づける。(清水利宏) | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)英語の語彙・・(2)異なるジャンル・・については、ユニットごとの確認テスト（100% : (1)50%, (2)50%）で評価する。(外狩)<br>■(1)「読解法や…」については到達確認テスト(40%)で評価する。／(2)「文意の解釈を…」については、実技試験(20%)で評価する。／(3)「自主的な…」については、毎回の自習課題の提出(40%)で評価する。(清水利宏) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | (テキスト)Ken Beatty, Read and Think! (Book 3), Pearson Education Asia Limited, 2009. (外狩)<br>■ Islam & Steenburgh, A Good Read (Book 1), Cengage Learning, 2009, ISBN: 978-981-4246-95-8.(清水利宏) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ（国際 a） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger ・ Martin Stack | |
| 授業概要 | Klinger: Students in pairs or small groups write original sentences based on games and pictures.<br><br>Stack: This course generally focuses on writing for an academic context while also including specific work on supporting skills such as reading, grammar, and sentence structure. | |
| 到達目標 | Students will be able to write (1)grammatically correct (2)complex sentences and paragraphs (with proficient use of a wide range of structures & stylistic devices) that are (3)spelled and punctuated correctly. | |
| 成績評価 | Objectives: (1) Grammar. (2) Complexity. (3) Mechanics (spelling & punctuation).<br>Klinger Grading: Test. Story Dialogue. (each 50%) (Objective 1 = 25%. 2 = 50%. 3 = 25%.).<br>Stack　Grading: Class Work and Participation - 50% (Class Assignments 25%/Tests 25%), Journal - 40%, Spelling Log - 10% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Klinger: handouts.<br>Stack: Required Text - Ann Hogue's First Steps in Academic Writing, 2e (Pearson Longman, 2008), Additional Materials - (1) English-English Dictionary, (2) Two Notebooks – one for Journal and one for Spelling Log | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語Ⅳ（国際 b） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger ・ Martin Stack | |
| 授業概要 | Klinger: Students in pairs or small groups write original sentences and conversations based on games and pictures.<br><br>Stack: This course generally focuses on writing for an academic context while also including specific work on supporting skills such as reading, grammar, and sentence structure. | |
| 到達目標 | Students will be able to write (1)grammatically correct (2)complex sentences and paragraphs (with proficient use of a wide range of structures & stylistic devices) that are (3)spelled and punctuated correctly. | |
| 成績評価 | Objectives: (1) Grammar. (2) Complexity. (3) Mechanics (spelling & punctuation).<br>Klinger Grading:　Test. Movie Conversation. (each 50%) (Objective 1 = 25%. 2 = 50%. 3 = 25%.).<br>Stack　Grading: Class Work and Participation - 50% (Class Assignments 25%/Tests 25%), Journal - 40%, Spelling Log - 10% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Klinger: handouts.<br>Stack: Required Text - Ann Hogue's First Steps in Academic Writing, 2e (Pearson Longman, 2008), Additional Materials - (1) English-English Dictionary, (2) Two Notebooks – one for Journal and one for Spelling Log | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リーディング（中級） a | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | 各回ニュース記事、評論、小説からの抜粋など多彩な素材を用いて精読を行う。素材に合わせてパラグラフ・リーディングも行う。受講者はしっかり予習をしたうえで授業に臨むこと。はじめはゆっくり精読しながら進めていくが、慣れれば限られた時間内での速読も行う。精読・多読にいずれにもかたよらず、テーマや内容、英語の種類や質に合った読み方を選択し、内容を限られた時間内に正確に把握する訓練を行う。 | |
| 到達目標 | (1)様々なジャンルの英文を読むことによって、偏らない語彙力を養成する。<br>(2)上記の語彙力をもとに、漫然と英文を日本語に置き換えるのではなく、英語の意味を具体的に英語のまま理解する。<br>(3)ある程度の速度でひとまとまりの英文を読み、正確に意味を把握する。 | |
| 成績評価 | 授業中の発表(40%)・予習の達成度(40%)・テスト(20%)を総合的に評価する。4 回以上遅刻・欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中にプリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リーディング（中級） b | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | この＜Reading（中級）＞の授業では、工学技術（engineering)、ビジネス、科学技術（technology)、文学、気象学、栄養学、社会学といった幅広い分野の、興味深い英文を読むトレーニングを積みます。いくつかの「読みの技術（Reading Skills)」を使いながら多様な英文を理解する力を養うのが第１の目標です。第２の目標は、テキストの単語レベルと文レベルの「語彙運用活動（Vocabulary Activities)」を通じて語彙を増強することです。ほかには、可能な範囲で音声教材を利用して、意味の伝わりやすい音読の訓練も取り入れたいと思います。 | |
| 到達目標 | (1) 多様なジャンルの英文を理解することができる。<br>(2)「語彙運用活動（Vocabulary Activities)」を通じて語彙を増強することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)多様なジャンルの英文・・・　(2))「語彙運用活動」を通じて語彙を・・・については、ユニットごとの到達確認テスト（100%：(1)50%, (2)50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。ただし、全授業回数の 1/3 以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Lawrence J. Zwier, Inside Reading: The Academic Word List in Context (2nd edition), Oxford University Press, 2012. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語会話（中級） a | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | In this course, students develop their speaking and listening skills through acquiring significant experience in communication. Students share their thoughts, feelings, experiences, and opinions on a sequence of topic which are familiar and relevant to everyday life. Students engage in conversations, small group discussions, and presentations, working to strengthen their comprehension of the viewpoints of others and to express their own viewpoints in the most fulfilling way. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th,l and si sounds),(2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4)grammatically correct. | |
| 成績評価 | Objectives:(1) Good pronunciation,(2) fluency,(3) delivery, and (4) grammar.<br>Grading: Skit Performance 50%. (Objectives 1,2,3,4 each 25%).<br>Students in pairs or small groups will perform one of the scripts studied earlier in class.<br>Interview with Teacher 50% (Objectives 1,2,3,4 each 25%). Students meet with the teacher individually to present a report on a topic of their own choosing, followed by a discussion with the teacher. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Class handouts. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語会話（中級） b | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | Students develop their speaking and listening skills through acquiring significant experience in communication. Students share their thoughts, feelings, experiences, and opinions on a sequence of topic which are familiar and relevant to everyday life. Students engage in conversations, small group discussions, and presentations, working to strengthen their comprehension of the viewpoints of others and to express their own viewpoints in the most fulfilling way. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th,l and si sounds),(2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4)grammatically correct. | |
| 成績評価 | Objectives:(1) Good pronunciation,(2) fluency,(3) delivery, and (4) grammar.<br>Grading: Skit Performance 50%. (Objectives 1,2,3,4 each 25%).<br>Students in pairs or small groups will perform one of the scripts studied earlier in class.<br>Interview with Teacher 50% (Objectives 1,2,3,4 each 25%). Students meet with the teacher individually to present a report on a topic of their own choosing, followed by a discussion with the teacher. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Class handouts. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リスニング（中級） a | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 自然な速度で話される美術、心理学、歴史、教育、経済学、英文学、政治学などの幅広い内容について、要点を押さえながら効果的にノートを取る方法や内容に関連のある語彙を習得する。双方向の会話とは異なったアカデミックな場面での一方向の聞き取りの練習を多く行なう。 | |
| 到達目標 | (1)大学で学ぶような高度な内容についての聴解力を身につける<br>(2)その内容に関する語彙 (大学で多く使用される)を習得する<br>(3)効果的なノートの取り方を身につける | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)の聴解力に・・・と(3)のノート・・・ついては毎回のリスニング得点 40 %（２）の語彙・・・については２回の語彙テスト 各 20% と (1)(2)(3)を総合した聴解力テスト 20%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト: AIRWAVES-Advanced,　Dale Fuller,　MACMILLAN LANGUAGEHOUSE<br>参考書・参考資料等　：随時プリントを配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リスニング（中級） b | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 自然な速度で話される美術、心理学、歴史、教育、経済学、英文学、政治学などの幅広い内容について、要点を押さえながら効果的にノートを取る方法や、内容に関連のある語彙を習得する。双方向の会話とは異なったアカデミックな場面での一方向の聞き取りの練習を多く行なう。 | |
| 到達目標 | (1)大学で学ぶような高度な内容についての聴解力を身につける<br>(2)その内容に関する語彙 (大学で多く使用される)を習得する<br>(3)効果的なノートの取り方を身につける | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)の聴解力に・・・と(3)のノート・・・ついては毎回のリスニング得点 40 %（２）の語彙・・・については２回の語彙テスト 各 20% と (1)(2)(3)を総合した聴解力テスト 20%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：AIRWAVES-Advanced,　Dale Fuller,　MACMILLAN LANGUAGEHOUSE<br>参考書・参考資料等　：随時プリントを配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ディベート＆ディスカッション a | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research. | |
| 到達目標 | The primary goals of this course are as follows:<br>- to develop discussion and debating skills<br>- to practise internet research skills<br>- to introduce a common poster presentation format<br>- to practice giving a poster presentation | |
| 成績評価 | Participation: 50%<br>Discussion reflections: 10%<br>Internet research: 20%<br>Poster presentation: 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ディベート&ディスカッションb | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research. | |
| 到達目標 | The primary goals of this course are as follows:<br>- to develop discussion and debating skills<br>- to practise internet research skills<br>- to introduce a common poster presentation format<br>- to practice giving a poster presentation | |
| 成績評価 | Participation: 50%<br>Discussion reflections: 10%<br>Internet research: 20%<br>Poster presentation: 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語表現法 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | 日本語の単語と英単語を一対一で対応させながら日本語を英語に置き換えるのではなく、自分があるいは他者が言おうとする意味・内容をしっかり理解した上で、それを原文の単純な逐語訳ではない、自然な英語にする訓練を行う。以上のことを踏まえ、毎回の授業では、英語で作文を行い、表現を磨き、英文を構造でとらえ、その論理的展開をつかむ練習も行う。作成した英文は授業中に発表してもらい、それについて他の学生と質疑応答をする練習も行う。 | |
| 到達目標 | (1)日本語と英語の特徴の違いを認識した上で、英語らしい自然な表現を身につける。<br>(2)上記の表現力をもとに、英語として説得力のあるパラグラフが書けるようになる。<br>(3)(1)(2)の表現力を用いて、自分の意見を英語で発表する。 | |
| 成績評価 | 学生に対する評価：授業への積極的な参加(30%)・各回の英作文提出(50%)とエッセイ提出(20%)<br><br>4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 石谷由美子『トピック別エッセイの書き方』(南雲堂, 2010) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | エッセイ・ライティング | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | 授業の到達目標及びテーマ:　英語のエッセイの構成と、意見を述べるのにふさわしい構文を学び、自力で英語のエッセイを書けるようになることを目指す。本授業の目的は、自分の考えを英語的に構成し、表現する技法を基礎づけることである。授業の概要:　授業ではまず、教科書に収録されている文例を模範とし、短文を書く練習をする。次に、短文を積み重ねてパラグラフを構成し、ひとつのエッセイとしてまとまりのある構造を作る。その過程で、考えを的確に表現する語彙や構文を学習する。最後に、教科書に提示されているトピックから一つを選び、自分でエッセイを仕上げる。 | |
| 到達目標 | Students will be able to write (1)grammatically correct (2)complex sentences and paragraphs (with proficient use of a wide range of structures & stylistic devices) that are (3)spelled and punctuated correctly. | |
| 成績評価 | Objectives: (1) Correct grammar. (2) Complexity. (3) Accurate spelling.<br>Grading: 10 short essays (1 = 50%. 2 = 25%. 3 = 25%.). | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:POINT BY POINT : Writing Effective Opinion Essays『トピック別エッセイの書き方』. 石谷 由美子 (著). 南雲堂 (2010). ISBN 978-4-523-7652-7 ￥2000 参考書・参考資料等: ステキな英文フレーズ 1420. ブティック社 (2010) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 時事英語 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | BBC のテレビ放送を活用して、①ニュース報道の構造（ニュースキャスターとリポーターの役割分担やニュース・リポートの構成）を把握します。さらに、②ニュース報道の英語表現および英語の音声幅に慣れることを目標にします。テキストの構成にしたがって、1. Warm-up, 2. Words and Phrases, 3. Comprehension Questions, 4. Fill in the Blanks, Summary Completion, etc. の順にエクササイズを進めていきます。英語語彙・慣用句等の増強、構文・表現の補強ができるだけでなく、ディクテーション作業を通してリスニングの音声幅を広げることにもなります。 | |
| 到達目標 | (1) ニュース報道の構造（ニュースキャスターとリポーターの役割）を理解することができる。<br>(2) 英語での報道リポートの構造（導入・インタビュー・まとめ）を理解することができる。<br>(3) 英語ニュース報道に使われる英語語彙、構文・言い方を理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)ニュース・・・　(2)英語で・・・については、ミニレポート（100%：(1)20%, (2)20%）で、(3)英語ニュース・・・については到達確認テスト（(3)60%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | （テキスト）Dominic Cheetham, 武岡由樹子, 田村真弓, 浦口理麻 編著, BBC: Seeing the World through the News 1.　金星堂, 2014.<br>（参考書）三島、小倉編著, 『BBC WORLD 英語リスニング シャドーイング』, DHC, 2005 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 留学英語対策基礎講座 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | This course provides students the opportunity for better understanding of and practice for the TOEFL ITP paper test. Students increase their knowledge of the structure, content, and purposes of the TOEFL ITP test. Students also engage in a sustained and intensive program of practice exercises for the test in order to further strengthen their academic English skills. The most immediate aim of the course is to assist long-term efforts to raise individual TOEFL ITP scores, bridging other coursework done in the spring and fall semesters. | |
| 到達目標 | The concrete goals for the course are the following: (1) Students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL ITP test; (2) Students will strengthen their performance on TOEFL ITP style exam questions. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goal (1) 60% of the overall evaluation, and course goal (2) 40% of the overall evaluation. Achievement of goal (1) is measured by degree and quality of completion of homework assignments (30%) and by performance on an overall achievement test (30%). Achievement of goal (2) is measured by performance on a TOEFL ITP practice post-test (40%). Performances in these areas are combined and converted to a 100-point scale; the passing line for the course is set at 60 points. Students are expected to attend every class meeting; in the case of an unavoidable absence, the instructor must be notified ahead of time, and the absent student must take responsibility for and exercise initiative in finding out about and completing any missed assignments and coursework. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Textbooks: 1.) Longman Introductory Course for the TOEFL Test: The Paper Test, with Answer Key, by Deborah Phillips, (Pearson Longman, 2004), ISBN 9780131847187. 2.) Longman Introductory Course for the TOEFL Test: The Paper Test, CD set, ISBN 978013184716 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 留学英語対策講座Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | To succeed on the TOEFL, linguistic knowledge (grammar and vocabulary) are of course vital. On the paper-based test, the language skills of listening and reading are also important. However, to maximise your potential score it is also essential to have a deep understanding of the test format and the strategies that can help you on the different sections. On this course we will practise the TOEFL in realistic test-taking conditions to help students become accustomed to it. We will look in detail at the three sections — Listening comprehension, Structure and written expression, and Reading comprehension — and discover some of the techniques and strategies to tackle the questions in each. We will also study key vocabulary frequently found in the TOEFL. Finally, students will use this knowledge to create TOEFL-style questions to test their peers. | |
| 到達目標 | The overall goal of this course is to improve the students' TOEFL scores. Specifically, the course aims to further familiarise students with the various sections of the TOEFL paper-based test, practice taking the test under realistic conditions, and to look at test taking strategies and key vocabulary. | |
| 成績評価 | Participation: 30%　Review assignments: 20%　Quizzes: 20%　Question making projects: 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | The complete guide to the TOEFL test (PBT edition), Rogers, B. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 留学英語対策講座Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | This course better acquaints students with the TOEFL iBT (Internet-based test) and provides the opportunity to prepare for that test through a regimin of practice exercises. (The course also further prepares students for the TOEFL ITP paper test.) Through the course, students become familiar with the structure and content of the TOEFL iBT. They also gain extensive and sustained experience in using all fours skills (reading, writing, speaking, and listening), thereby strengthening their academic English ability. The most immediate aim of the course is to raise individual TOEFL scores. The course should prove useful for students who are planning study abroad experiences in English-speaking countries in the near future. | |
| 到達目標 | The concrete goals for the course are the following: (1) Students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (skills, topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL iBT test; (2) Students will strengthen their performance on TOEFL iBT style exam questions. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goal (1) 80% of the overall evaluation, and course goal (2) 20% of the overall evaluation. Achievement of goal (1) is measured by scores on weekly review quizzes of homework assignments (50%) and performance on an overall achievement test (30%). Achievement of goal (2) is measured by performance on a TOEFL iBT practice post-test (20%). Performances in these areas are combined and converted to a 100-point scale; the passing line for the course is set at 60 points. Students are expected to attend every class meeting; in the case of an unavoidable absence, the instructor must be notified ahead of time, and the absent student must take responsibility for and exercise initiative in finding out about and completing any missed assignments and coursework. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 1. Longman Preparation Course for the TOEFL Test, iBT Writing, by Deborah Phillips (Pearson Longman, 2008), ISBN 978-0-13-612657-7.<br>2. Longman Preparation Course for the TOEFL Test, iBT Speaking, by Deborah Phillips (Pearson Longman, 2008), ISBN 978-0-13 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ビジネス英語 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course is designed to help students use English communicatively in the workplace and become acquainted with basic business vocabulary. | |
| 到達目標 | (1) Students will perform various business tasks<br>(2) Students will develop listening skills in business situations<br>(3) Students will acquire a basic stock of business terminology<br>(4) Students will practice short presentations and group discussions | |
| 成績評価 | Presentations (2) 60%, Reports (2) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Get Ready for Business, Book 2　Vaughan & Zemach / Macmillan<br>ISBN 978-4-7773-6326-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | メディアの英語 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | 生きた英語４技能の総合的な向上を目指す。特に発音とリハーサルに力を入れる。そして、アメリカの歴史を学ぶとともに、楽しみながらコミュニケーション力を身につける。Gone With The Wind 風と共に去りぬ（1939）の脚本を一緒に音読し、映画を見る。テーマについて議論する。前の週の内容の要点をまとめる。学生が選んだシーンを演じ、毎週のシーンのコメントを書いて、エッセイとして作成する。完成したエッセイを教師にメールで送る。 | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1)good pronunciation, (2)fluency, (3)good delivery, and (4)grammatical accuracy. Students will be able to write (5)grammatically correct (6)complex sentences and paragraphs (proficient use of a wide range of structures & stylistic devices), and (7)spell and punctuate accurately. | |
| 成績評価 | Objectives: Speaking: (1)pronunciation.(2)fluency.(3)delivery.(4)grammar. Writing: (5)grammar.(6)complexity.(7)spelling & punctuation.<br>Grading: Dramatic Performance 演技 50% (Teacher's evaluation: 1,2,3,4 each 25%).Essay エッセイ 50% (5=50%. 6=25%. 7=25%). | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 豊泉暁子/Walter Klinger (編集):(2009).『風と共に去りぬ Gone With the Wind』(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ 133). 出版社：フォーインスクリーンプレイ出版. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 初習英語Ｉ Ａ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | 既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。この授業では、音声教材（MD / CD 等）に従って（文字を見ないで)、英語会話の基礎となる基本文型の変形がスラスラ口から出てくるよう訓練します。授業では（必要なら基本文型の解説をします)、基本文型の変形トレーニングをします。進み具合は人によって異なりますので、マイペースでトレーニングをし、チェックを受けてください。 | |
| 到達目標 | この授業では、音声教材（MD / CD 等）に従って（文字を見ないで)、英語会話の基礎となる基本文型の変形がスラスラ口から出てくるようにします。 | |
| 成績評価 | 登録前に先生と相談してください。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：安田一郎『英語の文型と文法』，日本放送出版協会, 1970. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 初習英語Ｉ Ｂ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | 既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。この授業では、音声教材（MD / CD 等）に従って（文字を見ないで)、英語会話の基礎となる基本文型の変形がスラスラ口から出てくるよう訓練します。授業では（必要なら基本文型の解説をします)、基本文型の変形トレーニングをします。進み具合は人によって異なりますので、マイペースでトレーニングをし、チェックを受けてください。 | |
| 到達目標 | この授業では、音声教材（MD / CD 等）に従って（文字を見ないで)、英語会話の基礎となる基本文型の変形がスラスラ口から出てくるようにします。 | |
| 成績評価 | 登録前に先生と相談してください。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業にて指示します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 初習英語Ⅱ Ａ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Outline: This course focuses on pronunciation, listening and speaking for internationala students.　Reading, writing, and grammar skills will also be develop. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.<br>All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Please consult with the instructor prior to registering for this course. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Instructor prepared materials; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 初習英語ⅡＢ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Outline: This course focuses on pronunciation, listening and speaking for internationala students.　Reading, writing, and grammar skills will also be develop. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English speaking and listening abilities. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity to talk in pairs and in groups about themselves, family, their friends, interests, and ideas in English.All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events. | |
| 成績評価 | Please consult with the instructor prior to registering for this course. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text :　Instructor prepared materials; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語Ｉ Ａ（初級コース）（水４限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | 正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。 | |
| 成績評価 | 試験成績　７０%、　小テスト・宿題・レポート　３０%　で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉　凌非　編「ジョイフル中国語一一初級編」　（郁文堂）<br>参考書：辞書　最新中国語実用辞典　（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語Ｉ Ｂ（初級コース）（水４限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | 正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。 | |
| 成績評価 | 試験成績　７０%、　小テスト・宿題・レポート　３０%　で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉　凌非　編「ジョイフル中国語一一初級編」　（郁文堂）<br>参考書：辞書　最新中国語実用辞典　（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＡ（初級コース）（水１限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桜木　陽子※ | |
| 授業概要 | この授業では、中国語をこれまで学習したことのない学生を対象に、中国大陸で標準語として使われている「普通話」（いわゆる中国語）を学習します。前期では、始めに声調とピンインの読み方を学習し、発音の習得につとめます。声調とピンインの読み方を一通り学習し終わったら、次に会話文を中心に、中国語の基本文法を学習します。 | |
| 到達目標 | ・中国語の発音の基礎を固める。特に発音記号であるピンインが読めるようになる。<br>・中国語で自分の名前が書けて、言えるようになる。<br>・中国語の挨拶言葉や簡単な会話ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 平常点（出席状況や受講態度、小テストなど）３０％、学期末試験７０％で評価する予定ですが、実際の状況をかんがみて、適時対処します。<br>病気など特別な理由がない限り、基本的に授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象とはしないので、気をつけて下さい。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『中国を歩こう』（陳淑梅・蘇明／著　金星堂）<br>辞書、参考書などは授業中に指示します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＢ（初級コース）（水１限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桜木　陽子※ | |
| 授業概要 | この授業では、前期よりも更に複雑な中国語の文法を学習し、１年を通じて中国語の基本的な会話力を養成します。 | |
| 到達目標 | 中国語の簡単な会話が聞き取れ、読み取れ、書き取れ、話せるようになる。 | |
| 成績評価 | 平常点（出席状況や受講態度、小テストなど）３０％、学期末試験７０％で評価する予定ですが、実際の状況をかんがみて、適時対処します。<br>病気など特別な理由がない限り、基本的に授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象とはしないので、気をつけて下さい。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『中国を歩こう』（陳淑梅・蘇明／著　金星堂）<br>辞書、参考書などは授業中に指示します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＡ（初級コース）（水２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 唐　楽寧※ | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教員の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教員と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | 正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。 | |
| 成績評価 | 試験成績 70%、小テスト・宿題・レポート等 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉 凌非　著『ジョイフル中国語――初級編』（郁文堂）<br>参考書：辞書『最新中国語実用辞典』（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＢ（初級コース）（水２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 唐　楽寧※ | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教員の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教員と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | 正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。 | |
| 成績評価 | 試験成績 70%、小テスト・宿題・レポート等 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉 凌非　著『ジョイフル中国語――初級編』（郁文堂）<br>参考書：辞書『最新中国語実用辞典』（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＡ（初級コース）（水２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桜木　陽子※ | |
| 授業概要 | この授業では、中国語をこれまで学習したことのない学生を対象に、中国大陸で標準語として使われている「普通話」（いわゆる中国語）を学習します。前期では、始めに声調とピンインの読み方を学習し、発音の習得につとめます。声調とピンインの読み方を一通り学習し終わったら、次に会話文を中心に、中国語の基本文法を学習します。 | |
| 到達目標 | ・中国語の発音の基礎を固める。特に発音記号であるピンインが読めるようになる。<br>・中国語で自分の名前が書けて、言えるようになる。<br>・中国語の挨拶言葉や簡単な会話ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 平常点（出席状況や受講態度、小テストなど）３０％、学期末試験７０％で評価する予定ですが、実際の状況をかんがみて、適時対処します。<br>病気など特別な理由がない限り、基本的に授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象とはしないので、気をつけて下さい。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『中国を歩こう』（陳淑梅・蘇明／著　金星堂）<br>辞書、参考書などは授業中に指示します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＢ（初級コース）（水２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桜木　陽子※ | |
| 授業概要 | この授業では、前期よりも更に複雑な中国語の文法を学習し、１年を通じて中国語の基本的な会話力を養成します。 | |
| 到達目標 | 中国語の簡単な会話が聞き取れ、読み取れ、書き取れ、話せるようになる。 | |
| 成績評価 | 平常点（出席状況や受講態度、小テストなど）３０％、学期末試験７０％で評価する予定ですが、実際の状況をかんがみて、適時対処します。<br>病気など特別な理由がない限り、基本的に授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象とはしないので、気をつけて下さい。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『中国を歩こう』（陳淑梅・蘇明／著　金星堂）<br>辞書、参考書などは授業中に指示します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＡ（初級コース）（水３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | 正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。 | |
| 成績評価 | 試験成績 70%、小テスト・宿題・レポート 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉 凌非　編「ジョイフル中国語一一初級編」（郁文堂）<br>参考書：辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＢ（初級コース）（水３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | 正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。 | |
| 成績評価 | 試験成績 70%、小テスト・宿題・レポート 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉 凌非　編「ジョイフル中国語一一初級編」（郁文堂）<br>参考書：辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＡ（初級コース）（水３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋岡　英行※ | |
| 授業概要 | 中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。 | |
| 到達目標 | 正しい発音と基礎的な文法の習得。初歩的な日常会話ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 定期試験の成績（80%）と小テストの成績（20%）で評価する。<br>ただし、授業数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 本間史・孟広学著　『中国語ポイント４２』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＢ（初級コース）（水３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋岡　英行※ | |
| 授業概要 | 中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。 | |
| 到達目標 | 正しい発音と基礎的な文法の習得。初歩的な日常会話ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 定期試験の成績（80%）と小テストの成績（20%）で評価する。<br>ただし、授業数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 本間史・孟広学著　『中国語ポイント４２』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＡ（初級コース）（水２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋岡　英行※ | |
| 授業概要 | 中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。 | |
| 到達目標 | 正しい発音と基礎的な文法の習得。初歩的な日常会話ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 定期試験の成績（80%）と小テストの成績（20%）で評価する。 ただし、授業数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 本間史・孟広学著　『中国語ポイント４２』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＢ（初級コース）(水２限) | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋岡　英行※ | |
| 授業概要 | 中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。 | |
| 到達目標 | 正しい発音と基礎的な文法の習得。初歩的な日常会話ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 定期試験の成績（80%）と小テストの成績（20%）で評価する。 ただし、授業数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 本間史・孟広学著　『中国語ポイント４２』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＡ（中級コース）（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 中国語ＩA、ＩＢ の単位を取得した学生を対象に、テキストに沿って、既習の文法知識（基本文型）を復習・整理しながら、大量の練習問題をこなすことで、初級中国語から中級中国語へと導入します。 | |
| 到達目標 | (1)初級文法を理解し、簡単な作文ができるようになる。<br>(2)中国語による簡単なコミュニケーションがはかれるようになる。<br>(3)中国語検定準４級レベルの実力を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)(2)については、小テスト(20％：(1)10％(2)10％)、(3)については、定期試験(80％)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：郭春貴他著『初級から中級へ中国語作文-改訂版-』（白帝社）<br>参考書：『中国語教室 Q&A101』（大修館書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＢ（中級コース）（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 中国語Ｉの単位を取得した学生を対象に、テキストに沿って、既習の文法知識（基本文型）を復習・整理しながら、大量の練習問題をこなすことで、初級中国語から中級中国語へと導入します。 | |
| 到達目標 | (1)簡単なコミュニィケーションがはかれるようになる。<br>(2)中国語検定試験４級レベルの実力を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)については、小テスト(20％)、(2)については、定期試験(80％)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：郭春貴他著『初級から中級へ中国語作文-改訂版-』（白帝社）<br>参考書：『中国語学習 Q&A101』（大修館書店）『中国語教室 Q&A101』（大修館書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＡ（中級コース）（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語Ｉにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。 | |
| 到達目標 | 中国語の一定の読解能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 試験成績　７０％、　小テスト・宿題・レポート　３０％　で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉　凌非　「ジョイフル中国語」　（郁文堂）<br>参考書：辞書　最新中国語実用辞典　（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＢ（中級コース）（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語Ｉにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。 | |
| 到達目標 | 中国語の一定の読解能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 試験成績　７０%、　小テスト・宿題・レポート　３０%　で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉　凌非　「ジョイフル中国語」　（郁文堂）参考書：辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＡ（中級コース）（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語Ｉにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。 | |
| 到達目標 | 中国語の一定の読解能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 試験成績　７０%、　小テスト・宿題・レポート　３０%　で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉　凌非　「ジョイフル中国語」　（郁文堂）参考書：辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＢ（中級コース）（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　虹※ | |
| 授業概要 | 中国語Ｉにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。 | |
| 到達目標 | 中国語の一定の読解能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 試験成績　７０%、　小テスト・宿題・レポート　３０%　で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉　凌非　「ジョイフル中国語」　（郁文堂）参考書：辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　賢欄※ | |
| 授業概要 | ・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。 | |
| 到達目標 | 朝鮮語の文字や発音、基礎的な文法を習得する。 | |
| 成績評価 | 期末試験４０％、宿題・小試験等５０％、出席１０％(欠席一回つき２点減点)を目安とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木内明、『改訂版　基礎から学ぶ韓国語講座　初級』　（国書刊行会）<br>参考書：『パスポート朝鮮語小辞典　朝和＋和朝』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　賢欄※ | |
| 授業概要 | ・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。 | |
| 到達目標 | 朝鮮語で簡単な会話ができるようになることが目標です。 | |
| 成績評価 | 期末試験４０％、宿題・小試験等５０％、出席１０％(欠席一回つき２点減点)を目安とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木内明、『改訂版　基礎から学ぶ韓国語講座　初級』　（国書刊行会）<br>参考書：『パスポート朝鮮語小辞典　朝和＋和朝』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　賢欄※ | |
| 授業概要 | ・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。 | |
| 到達目標 | 朝鮮語の文字や発音、基礎的な文法を習得する。 | |
| 成績評価 | 期末試験４０％、宿題・小試験等５０％、出席１０％(欠席一回つき２点減点)を目安とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木内明、『改訂版　基礎から学ぶ韓国語講座　初級』　（国書刊行会）<br>参考書：『パスポート朝鮮語小辞典　朝和＋和朝』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　賢欄※ | |
| 授業概要 | ・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。<br>・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。 | |
| 到達目標 | 朝鮮語で簡単な会話ができるようになることが目標です。 | |
| 成績評価 | 期末試験４０％、宿題・小試験等５０％、出席１０％(欠席一回つき 2 点減点)を目安とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木内明、『改訂版　基礎から学ぶ韓国語講座　初級』　（国書刊行会）<br>参考書：『パスポート朝鮮語小辞典　朝和＋和朝』　（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ⅡＡ（中級コース）（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 崔　眞善※ | |
| 授業概要 | 「朝鮮語ＩＡ・B」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。 | |
| 到達目標 | 簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標は次の３つで評価する。(1)文法の理解度(2)語彙、表現の定着度(3)文章力<br>成績は、毎回のライティング課題・授業中会話練習の評価（30%；(1)20%、(2)10%）、定期テスト（50%；(1)、(2)40%、(3)10%）　小テスト（20%(2)20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：レベルテストの後、選定する予定<br>参考書　：韓日、日韓辞典 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ⅡＢ（中級コース）（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 崔　眞善※ | |
| 授業概要 | 「朝鮮語ＩＡ・B」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。 | |
| 到達目標 | 簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標を次の４つで評価する。(1)文法の理解度(2)語彙や表現の定着度(3)会話の能力(4)文章力<br>成績は、定期テスト（50%；(1)20%、(2),(3)30%）、小テスト及び授業中の発表（30%(2)20%、(3)10%）、毎回のライティング課題（20%(4)20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：レベルテストの後、選定する予定<br>参考書　：韓日、日韓辞典 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹内　一高※ | |
| 授業概要 | ①ドイツ語での挨拶<br>②聞き取り教材からポイントを踏まえた会話文を導入<br>③必要であれば、文法項目の解説とペアやグループでの発音・作文練習<br>④場合により、グループ・ワークでの結果をレポート提出<br>⑤ドイツ語圏の文化について幅広く紹介（レポート提出もありうる）<br>⑥ドイツ語で別れの挨拶 | |
| 到達目標 | ①ドイツ語の発音規則を知り、自ら実践できる<br>②ドイツ語の数詞関連表現を言えるようになる<br>③ドイツ語での会話場面を想定しながら音声の聴き取りができるようになる<br>④ドイツ語の語彙学習・フレーズ学習から、身の回りのことを表現できるようになる<br>⑤ドイツ語圏の文化現象について知る<br>⑥新たに知り得た知識を、自分の言葉でわかりやすくまとめることができる<br>⑦すでに学習した内容を確認し、新たな課題に対処できるようになる | |
| 成績評価 | ①口述試験 50%<br>②小試験あるいは授業内で作成するレポート課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Gerhard Neuner(Hg.): deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag, 2008)<br>ISBN: 978-3-19-001658-7 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹内　一高※ | |
| 授業概要 | ①ドイツ語での挨拶<br>②聞き取り教材からポイントを踏まえた会話文を導入<br>③必要であれば、文法項目の解説とペアやグループでの発音・作文練習<br>④場合により、グループ・ワークでの結果をレポート提出<br>⑤ドイツ語圏の文化について幅広く紹介（レポート提出もありうる）<br>⑥ドイツ語で別れの挨拶 | |
| 到達目標 | ①ドイツ語の発音規則を知り、自ら実践できる<br>②ドイツ語の数詞関連表現を言えるようになる<br>③ドイツ語での会話場面を想定しながら音声の聴き取りができるようになる<br>④ドイツ語の語彙学習・フレーズ学習から、身の回りのことを表現できるようになる<br>⑤ドイツ語圏の文化現象について知る<br>⑥新たに知り得た知識を、自分の言葉でわかりやすくまとめることができる<br>⑦すでに学習した内容を確認し、新たな課題に対処できるようになる | |
| 成績評価 | ①口述試験 50%<br>②小試験あるいは授業内で作成するレポート課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Gerhard Neuner(Hg.): deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag, 2008)<br>ISBN: 978-3-19-001658-7 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小松　紀子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語の基礎を学びます。ドイツ語会話のパートナー練習や発音練習を中心に、作文の練習や聞き取り訓練などを重ね、日常生活でのさまざまな場面で用いられる基本的で実用的なドイツ語を身に付けます。またドイツ語圏の文化にも親しむ授業です。 | |
| 到達目標 | １）ドイツ語の正しい発音を身につける。<br>２）ドイツ語の基本的な文法知識を習得する。<br>３）ドイツ語で簡単な会話が交わせるようになる。<br>４）ドイツ語圏の文化について知る。 | |
| 成績評価 | 平常点（会話練習、課題提出、小テスト等）50%、口述試験 50%の合計で評価する。ただし欠席や遅刻をした場合は全体の評点から減点します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新倉真矢子／他 『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語ノイ』 （第三書房）。<br>ISBN:978-4-8086-1190-3　補足資料：プリントを授業中に随時配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小松　紀子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語の基礎を学びます。ドイツ語会話のパートナー練習や発音練習を中心に、作文の練習や聞き取り訓練などを重ね、日常生活でのさまざまな場面で用いられる基本的で実用的なドイツ語を身に付けます。またドイツ語圏の文化にも親しむ授業です。 | |
| 到達目標 | １）ドイツ語の正しい発音を身につける。<br>２）ドイツ語の基本的な文法知識を習得する。<br>３）ドイツ語で簡単な会話が交わせるようになる。<br>４）ドイツ語圏の文化について知る。 | |
| 成績評価 | 平常点（会話練習、課題提出、小テスト等）50%、口述試験 50%の合計で評価する。ただし欠席や遅刻をした場合は全体の評点から減点します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新倉真矢子／他 『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語ノイ』 （第三書房)。<br>ISBN:978-4-8086-1190-3　補足資料：プリントを授業中に随時配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹内　一高※ | |
| 授業概要 | ①ドイツ語での挨拶<br>②聞き取り教材からポイントを踏まえた会話文を導入<br>③必要であれば、文法項目の解説とペアやグループでの発音・作文練習<br>④場合により、グループ・ワークでの結果をレポート提出<br>⑤ドイツ語圏の文化について幅広く紹介（レポート提出もありうる）<br>⑥ドイツ語で別れの挨拶 | |
| 到達目標 | ①ドイツ語の発音規則を知り、自ら実践できる<br>②ドイツ語の数詞関連表現を言えるようになる<br>③ドイツ語での会話場面を想定しながら音声の聴き取りができるようになる<br>④ドイツ語のフレーズ学習から、身の回りのことを表現できるようになる<br>⑤ドイツ語圏の文化現象について知る<br>⑥新たに知り得た知識を、自分の言葉でわかりやすくまとめることができる<br>⑦すでに学習した内容を確認し、新たな課題に対処できるようになる | |
| 成績評価 | ①口述試験 50%<br>②小試験あるいは授業内で作成するレポート課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Gerhard Neuner(Hg.): deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag, 2008)<br>ISBN: 978-3-19-001658-7 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹内　一高※ | |
| 授業概要 | ①ドイツ語での挨拶<br>②聞き取り教材からポイントを踏まえた会話文を導入<br>③必要であれば、文法項目の解説とペアやグループでの発音・作文練習<br>④場合により、グループ・ワークでの結果をレポート提出<br>⑤ドイツ語圏の文化について幅広く紹介（レポート提出もありうる）<br>⑥ドイツ語で別れの挨拶 | |
| 到達目標 | ①ドイツ語の発音規則を知り、自ら実践できる<br>②ドイツ語の数詞関連表現を言えるようになる<br>③ドイツ語での会話場面を想定しながら音声の聴き取りができるようになる<br>④ドイツ語の語彙学習・フレーズ学習から、身の回りのことを表現できるようになる<br>⑤ドイツ語圏の文化現象について知る<br>⑥新たに知り得た知識を、自分の言葉でわかりやすくまとめることができる<br>⑦すでに学習した内容を確認し、新たな課題に対処できるようになる | |
| 成績評価 | ①口述試験 50%<br>②小試験あるいは授業内で作成するレポート課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Gerhard Neuner(Hg.): deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag, 2008)<br>ISBN: 978-3-19-001658-7 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水４限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小松　紀子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語の基礎を学びます。ドイツ語会話のパートナー練習や発音練習を中心に、作文の練習や聞き取り訓練などを重ね、日常生活でのさまざまな場面で用いられる基本的で実用的なドイツ語を身に付けます。またドイツ語圏の文化にも親しむ授業です。 | |
| 到達目標 | １）ドイツ語の正しい発音を身につける。<br>２）ドイツ語の基本的な文法知識を習得する。<br>３）ドイツ語で簡単な会話が交わせるようになる。<br>４）ドイツ語圏の文化について知る。 | |
| 成績評価 | 平常点（会話練習、課題提出、小テスト等）50%、口述試験 50%の合計で評価する。ただし欠席や遅刻をした場合は全体の評点から減点します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新倉真矢子／他 『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語ノイ』 （第三書房)。<br>ISBN:978-4-8086-1190-3　補足資料：プリントを授業中に随時配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水４限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小松　紀子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語の基礎を学びます。ドイツ語会話のパートナー練習や発音練習を中心に、作文の練習や聞き取り訓練などを重ね、日常生活でのさまざまな場面で用いられる基本的で実用的なドイツ語を身に付けます。またドイツ語圏の文化にも親しむ授業です。 | |
| 到達目標 | １）ドイツ語の正しい発音を身につける。<br>２）ドイツ語の基本的な文法知識を習得する。<br>３）ドイツ語で簡単な会話が交わせるようになる。<br>４）ドイツ語圏の文化について知る。 | |
| 成績評価 | 平常点（会話練習、課題提出、小テスト等）50%、口述試験 50%の合計で評価する。ただし欠席や遅刻をした場合は全体の評点から減点します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新倉真矢子／他 『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語ノイ』 （第三書房)。<br>ISBN:978-4-8086-1190-3　補足資料：プリントを授業中に随時配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水４限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹内　一高※ | |
| 授業概要 | ①ドイツ語での挨拶<br>②聞き取り教材からポイントを踏まえた会話文を導入<br>③必要であれば、文法項目の解説とペアやグループでの発音・作文練習<br>④場合により、グループ・ワークでの結果をレポート提出<br>⑤ドイツ語圏の文化について幅広く紹介（レポート提出もありうる）<br>⑥ドイツ語で別れの挨拶 | |
| 到達目標 | ①ドイツ語の発音規則を知り、自ら実践できる<br>②ドイツ語の数詞関連表現を言えるようになる<br>③ドイツ語での会話場面を想定しながら音声の聴き取りができるようになる<br>④ドイツ語のフレーズ学習から、身の回りのことを表現できるようになる<br>⑤ドイツ語圏の文化現象について知る<br>⑥新たに知り得た知識を、自分の言葉でわかりやすくまとめることができる<br>⑦すでに学習した内容を確認し、新たな課題に対処できるようになる | |
| 成績評価 | ①口述試験 50%<br>②小試験あるいは授業内で作成するレポート課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Gerhard Neuner(Hg.): deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag, 2008)<br>ISBN: 978-3-19-001658-7 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水４限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹内　一高※ | |
| 授業概要 | ①ドイツ語での挨拶<br>②聞き取り教材からポイントを踏まえた会話文を導入<br>③必要であれば、文法項目の解説とペアやグループでの発音・作文練習<br>④場合により、グループ・ワークでの結果をレポート提出<br>⑤ドイツ語圏の文化について幅広く紹介（レポート提出もありうる）<br>⑥ドイツ語で別れの挨拶 | |
| 到達目標 | ①ドイツ語の発音規則を知り、自ら実践できる<br>②ドイツ語の数詞関連表現を言えるようになる<br>③ドイツ語での会話場面を想定しながら音声の聴き取りができるようになる<br>④ドイツ語の語彙学習・フレーズ学習から、身の回りのことを表現できるようになる<br>⑤ドイツ語圏の文化現象について知る<br>⑥新たに知り得た知識を、自分の言葉でわかりやすくまとめることができる<br>⑦すでに学習した内容を確認し、新たな課題に対処できるようになる | |
| 成績評価 | ①口述試験 50%<br>②小試験あるいは授業内で作成するレポート課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Gerhard Neuner(Hg.): deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag, 2008)<br>ISBN: 978-3-19-001658-7 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小松　紀子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語の基礎を学びます。ドイツ語会話のパートナー練習や発音練習を中心に、作文の練習や聞き取り訓練などを重ね、日常生活でのさまざまな場面で用いられる基本的で実用的なドイツ語を身に付けます。またドイツ語圏の文化にも親しむ授業です。 | |
| 到達目標 | １）ドイツ語の正しい発音を身につける。<br>２）ドイツ語の基本的な文法知識を習得する。<br>３）ドイツ語で簡単な会話が交わせるようになる。<br>４）ドイツ語圏の文化について知る。 | |
| 成績評価 | 平常点（会話練習、課題提出、小テスト等）50%、口述試験 50%の合計で評価する。ただし欠席や遅刻をした場合は全体の評点から減点します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新倉真矢子／他 『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語ノイ』 （第三書房）。<br>ISBN:978-4-8086-1190-3　補足資料：プリントを授業中に随時配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小松　紀子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語の基礎を学びます。ドイツ語会話のパートナー練習や発音練習を中心に、作文の練習や聞き取り訓練などを重ね、日常生活でのさまざまな場面で用いられる基本的で実用的なドイツ語を身に付けます。またドイツ語圏の文化にも親しむ授業です。 | |
| 到達目標 | １）ドイツ語の正しい発音を身につける。<br>２）ドイツ語の基本的な文法知識を習得する。<br>３）ドイツ語で簡単な会話が交わせるようになる。<br>４）ドイツ語圏の文化について知る。 | |
| 成績評価 | 平常点（会話練習、課題提出、小テスト等）50%、口述試験 50%の合計で評価する。ただし欠席や遅刻をした場合は全体の評点から減点します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新倉真矢子／他 『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語ノイ』 （第三書房）。<br>ISBN:978-4-8086-1190-3　補足資料：プリントを授業中に随時配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ⅡＡ（中級コース）（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | ドイツ語Ⅰで習得した基礎文法を復習しながら、さらに高度な会話の練習をする。またドイツ語で書かれた短い文章を読み、読解力を身につける。その際、教科書のテーマに沿って、視聴覚教材、実物教材、プリント等を用意し、ドイツ文化の知識を深めるように努める。授業の進め方に関して言えば、前回の復習、音読および訳出の練習、文法事項の確認、会話の練習（プリント教材）、習熟度に応じて小テストなどを行う。 | |
| 到達目標 | zu-不定詞、現在完了形、過去形、形容詞の格変化などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすこと、話し言葉では、比較的難しい会話表現を習得することを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（1）授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり、簡単な文章を読解したりすることができる。（2）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（3）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（4）参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話であればできる。（5）参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 課題（２０％）、筆記試験（３０％）、小テスト（１０％）、口述試験（３０％）、会話練習（１０％）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：森田悟／宮澤義臣／川上博子著『すすめ！アンペルマンー合言葉はエストテンテンー』（朝日出版社）。ISBN: 978-4255253466。<br>その他、会話練習用プリントを配布するのでクリアブックを用意すること。教科書は特に読解練習にのみ用いることとする。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | ドイツ語Ⅰで習得した基礎文法を復習しながら、さらに高度な会話の練習をする。またドイツ語で書かれた短い文章を読み、読解力を身につける。その際、教科書のテーマに沿って、視聴覚教材、実物教材、プリント等を用意し、ドイツ文化の知識を深めるように努める。授業の進め方に関して言えば、前回の復習、音読および訳出の練習、文法事項の確認、会話の練習（プリント教材）、習熟度に応じて小テストなどを行う。 | |
| 到達目標 | 形容詞の比較変化、受動態、関係代名詞、接続法などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすこと、話し言葉では、比較的難しい会話表現を習得することを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（1）授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり、簡単な文章を読解したりすることができる。（2）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（3）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（4）参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話であればできる。（5）参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 課題（２０％）、筆記試験（３０％）、小テスト（１０％）、口述試験（３０％）、会話練習（１０％）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：森田悟／宮澤義臣／川上博子著『すすめ！アンペルマンー合言葉はエストテンテンー』（朝日出版社）。ISBN: 978-4255253466。<br>その他、会話練習用プリントを配布するのでクリアブックを用意すること。教科書は特に読解練習にのみ用いることとする。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ⅡＡ（中級コース）（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大森　智子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語Ⅰで学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を精読する機会も採り入れ、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章も読めるようにしていく。この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセテンスや語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために簡単な口述テストを行っていく。また自宅でも勉強する機会が増えるように、読み物は予め自宅で目を通すように促す。その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介の時間も毎回 5 分から 10 分程度設ける予定である。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。 | |
| 到達目標 | 動詞の人称変化、名詞や人称代名詞の格変化、前置詞、話法の助動詞などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすこと、話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。(1)授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり、簡単な文章を読解したりすることができる。(2)習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。(3)参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。(4)参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話ができる。(5)参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)に関しては課題(20%)、(2)に関しては筆記試験(30%)、(3)に関しては小テスト(20%)、(4)に関しては参照なしの口述試験(10%)、(5)に関しては参照ありの口述試験(20%)の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には、全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり 著『 ドイツ語の時間 <ときめきミュンヘン> 』(朝日出版社) を使用する。プリントも適宜配布するので、ファイルすること。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大森　智子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語Ⅰ及びドイツ語ⅡＡで学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を精読する機会も採り入れ、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章も読めるようにしていく。この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセテンスや語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために簡単な口述テストを行っていく。また自宅でも勉強する機会が増えるように、読み物は予め自宅で目を通すように促す。その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介の時間も毎回 5 分から 10 分程度設ける予定である。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。 | |
| 到達目標 | 現在完了形、過去形、形容詞の比較変化、再帰動詞、zu 不定詞、接続法などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすこと、話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。(1)授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり、簡単な文章を読解したりすることができる。(2)習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。(3)参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。(4)参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話ができる。(5)参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)に関しては課題(20%)、(2)に関しては筆記試験(30%)、(3)に関しては小テスト(20%)、(4)に関しては参照なしの口述試験(10%)、(5)に関しては参照ありの口述試験(20%)の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には、全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり 著『 ドイツ語の時間 <ときめきミュンヘン> 』(朝日出版社) を使用する。プリントも適宜配布するので、ファイルすること。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ⅡＡ（中級コース）（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大森　智子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語Ⅰで学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を精読する機会も採り入れ、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章も読めるようにしていく。この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセテンスや語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために簡単な口述テストを行っていく。また自宅でも勉強する機会が増えるように、読み物は予め自宅で目を通すように促す。その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介の時間も毎回 5 分から 10 分程度設ける予定である。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。 | |
| 到達目標 | 動詞の人称変化、名詞や人称代名詞の格変化、前置詞、話法の助動詞などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすこと、話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。(1)授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり、簡単な文章を読解したりすることができる。(2)習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。(3)参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。(4)参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話ができる。(5)参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)に関しては課題(20%)、(2)に関しては筆記試験(30%)、(3)に関しては小テスト(20%)、(4)に関しては参照なしの口述試験(10%)、(5)に関しては参照ありの口述試験(20%)の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には、全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり 著『 ドイツ語の時間 <ときめきミュンヘン> 』(朝日出版社) を使用する。プリントも適宜配布するので、ファイルすること。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大森　智子※ | |
| 授業概要 | ドイツ語Ⅰ及びドイツ語ⅡＡで学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を精読する機会も採り入れ、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章も読めるようにしていく。この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセテンスや語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために簡単な口述テストを行っていく。また自宅でも勉強する機会が増えるように、読み物は予め自宅で目を通すように促す。その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介の時間も毎回 5 分から 10 分程度設ける予定である。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。 | |
| 到達目標 | 現在完了形、過去形、形容詞の比較変化、再帰動詞、zu 不定詞、接続法などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすこと、話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。(1)授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり、簡単な文章を読解したりすることができる。(2)習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。(3)参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。(4)参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話ができる。(5)参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)に関しては課題(20%)、(2)に関しては筆記試験(30%)、(3)に関しては小テスト(20%)、(4)に関しては参照なしの口述試験(10%)、(5)に関しては参照ありの口述試験(20%)の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には、全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり 著『 ドイツ語の時間 <ときめきミュンヘン> 』(朝日出版社) を使用する。プリントも適宜配布するので、ファイルすること。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＡ（初級コース）（水３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 辻村　暁子※ | |
| 授業概要 | フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。 | |
| 到達目標 | 到達目標　「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。 | |
| 成績評価 | 成績評価 定期試験 50%、小試験と課題 50%。 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『ピエールとユゴー』、小笠原洋子著、白水社。<br>指定図書：辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。<br>参考書：同上。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＢ（初級コース）（水３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 辻村　暁子※ | |
| 授業概要 | フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。 | |
| 到達目標 | 到達目標　「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。 | |
| 成績評価 | 成績評価 定期試験 50%、小試験と課題 50%。 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『ピエールとユゴー』、小笠原洋子著、白水社。<br>指定図書：辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。<br>参考書：同上。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＡ（初級コース）（水４限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 辻村　暁子※ | |
| 授業概要 | フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。 | |
| 到達目標 | 到達目標　「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。 | |
| 成績評価 | 成績評価 定期試験 50%、中間試験、課題等 50%。 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『タルト・タタン』、藤田裕二・東海麻衣子著、駿河台出版社。<br>指定図書：辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。<br>参考書：同上。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＢ（初級コース）（水４限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 辻村　暁子※ | |
| 授業概要 | フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。 | |
| 到達目標 | 到達目標　「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。 | |
| 成績評価 | 成績評価 定期試験 50%、中間試験、課題等 50%。 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『タルト・タタン』、藤田裕二・東海麻衣子著、駿河台出版社。<br>指定図書：辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。<br>参考書：同上。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＡ（初級コース）（水２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 辻村　暁子※ | |
| 授業概要 | フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。 | |
| 到達目標 | 到達目標　「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。 | |
| 成績評価 | 成績評価 定期試験 50%、小試験と課題 50%。 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『ピエールとユゴー』、小笠原洋子著、白水社。<br>指定図書：辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。<br>参考書：同上。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＢ（初級コース）（水２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 辻村　暁子※ | |
| 授業概要 | フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。 | |
| 到達目標 | 到達目標　「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。 | |
| 成績評価 | 成績評価 定期試験 50%、小試験と課題 50%。 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『ピエールとユゴー』、小笠原洋子著、白水社。<br>指定図書：辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。<br>参考書：同上。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＡ（初級コース）（水３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | 発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ. | |
| 到達目標 | フランス語の基礎を身に付ける上で，聞き，話し，読み，書く能力を，できるだけバランス良く伸ばせるようにしたい．客観的には，１年間で，仏検(＝実用フランス語技能検定試験)の５級から４級に合格する程度のレベルを目指す. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『きみと話したい！フランス語』(朝日出版社)<br>辞書に関しては最初の授業で紹介するので，購入はその後でよい. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＢ（初級コース）（水３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | 発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ. | |
| 到達目標 | フランス語の基礎を身に付ける上で，聞き，話し，読み，書く能力を，できるだけバランス良く伸ばせるようにしたい．客観的には，１年間で，仏検(＝実用フランス語技能検定試験)の５級から４級に合格する程度のレベルを目指す. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『きみと話したい！フランス語』(朝日出版社)<br>辞書に関しては最初の授業で紹介するので，購入はその後でよい. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＡ（初級コース）（水４限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | 発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ. | |
| 到達目標 | フランス語の基礎を身に付ける上で，聞き，話し，読み，書く能力を，できるだけバランス良く伸ばせるようにしたい．客観的には，１年間で，仏検(＝実用フランス語技能検定試験)の５級から４級に合格する程度のレベルを目指す. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『きみと話したい！フランス語』(朝日出版社)<br>辞書に関しては最初の授業で紹介するので，購入はその後でよい. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＢ（初級コース）（水４限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | 発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ. | |
| 到達目標 | フランス語の基礎を身に付ける上で，聞き，話し，読み，書く能力を，できるだけバランス良く伸ばせるようにしたい．客観的には，１年間で，仏検(＝実用フランス語技能検定試験)の５級から４級に合格する程度のレベルを目指す. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『きみと話したい！フランス語』(朝日出版社)<br>辞書に関しては最初の授業で紹介するので，購入はその後でよい. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ⅡＡ（中級コース）（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする. | |
| 到達目標 | 1. フランス語文法の全体を概観することによって，自分が望むどんなフランス語にでもアクセスできる基盤を作る.<br>2. 音声と文字の両面で教科書をできるだけ完璧に覚えることを通じて，フランス語による基本的なコミュニケーション能力を習得する. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Moi, je... 文法（アルマ出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ⅡＢ（中級コース）（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする. | |
| 到達目標 | 1. フランス語文法の全体を概観することによって，自分が望むどんなフランス語にでもアクセスできる基盤を作る.<br>2. 音声と文字の両面で教科書をできるだけ完璧に覚えることを通じて，フランス語による基本的なコミュニケーション能力を習得する. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Moi, je... 文法（アルマ出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ⅡＡ（中級コース）（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする. | |
| 到達目標 | 1. フランス語文法の全体を概観することによって，自分が望むどんなフランス語にでもアクセスできる基盤を作る.<br>2. 音声と文字の両面で教科書をできるだけ完璧に覚えることを通じて，フランス語による基本的なコミュニケーション能力を習得する. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Moi, je... 文法（アルマ出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ⅡＢ（中級コース）（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 桂川　久※ | |
| 授業概要 | フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする. | |
| 到達目標 | 1. フランス語文法の全体を概観することによって，自分が望むどんなフランス語にでもアクセスできる基盤を作る.<br>2. 音声と文字の両面で教科書をできるだけ完璧に覚えることを通じて，フランス語による基本的なコミュニケーション能力を習得する. | |
| 成績評価 | 宿題の実施(20%)，中間テスト(20%)，期末テスト(60%).<br>授業時間数の２割以上欠席した場合は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Moi, je... 文法（アルマ出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＡ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 中国語ＩＡは中国語の基礎を学びます。先ず徹底した発音の習得に努め、簡単な日常の挨拶語も学びます。同時に基本文型（文法知識）はもちろん、簡単なリスニング等を含めた大量の練習問題をプリント（適宜配布）を用いて実施します。 | |
| 到達目標 | (1)中国語の発音を習得する。<br>(2)基礎文型を学び、中国語による簡単なコミュニケーションができるようになる。<br>(3)中国語検定準４級レベルに達する。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)(2)については、小テスト(20％：(1)10％(2)10％)、(3)については、定期試験(80％)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『新編　実用漢語課本』（相原茂・徐甲申著　東方書店）<br>参考書：『新版中国語入門 Q&A101』（大修館書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ＩＢ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　凌非 | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | （1）文法を理解すること<br>（2）語彙を覚えること<br>（3）正確な発音を身につけること<br>（4）宿題を提出すること | |
| 成績評価 | 定期試験　70%、（1）40%、（2）15%、（3）15%、<br>小テスト・宿題・レポート 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉 凌非　編「ジョイフル中国語一一初級編」（郁文堂）参考書：辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＡ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 中国語ⅡA は中国語ＩA に引き続いて、中国語の基本文型（文法知識）を学びます。その過程で、簡単なリスニング等を含めた大量の練習問題をプリント（適宜配布）を用いて実施します。 | |
| 到達目標 | (1)自己紹介が中国語でできるようになる。<br>(2)簡単な中国語を聴き取り、応答できるようになる。<br>(3)中国語検定 4 級に合格できるレベルに到達する。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)(2)については、小テスト(20%：(1)10%(2)10%)、(3)については、定期試験(80%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『新編　実用漢語課本』（相原茂・徐甲申著　東方書店）<br>参考書：『新版中国語入門 Q&A101』（大修館書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語ⅡＢ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　凌非 | |
| 授業概要 | 中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。 | |
| 到達目標 | （1）文法を理解すること<br>（2）語彙を覚えること<br>（3）正確な発音を身につけること<br>（4）宿題を提出すること | |
| 成績評価 | 定期試験　70%、（1）40%、（2）15%、（3）15%、<br>小テスト・宿題・レポート 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉 凌非　編「ジョイフル中国語一一初級編」（郁文堂）参考書：辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ＩＡ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河　かおる | |
| 授業概要 | 文字のしくみ、発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法を理解し、簡単な文章作成、自己紹介など日常の基礎的な表現、辞書の活用法などを学び、最も基本的なコミュニケーションに必要な基礎的な力をつける。 なお、授業は朝鮮語ＩＢと同じテキストを用いて一体的に進行する。 | |
| 到達目標 | ハングル能力検定試験 5 級に合格する程度の語彙・文法、作文、聞き取り、読解の力を総合的に身につける。 | |
| 成績評価 | 宿題など毎回の授業参加　30%<br>小テスト・中間テスト　30%<br>期末テスト　40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：金京子/喜多恵美子『改訂版　パランセ韓国語　初級』（朝日出版社）定価 2,415 円 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ＩＢ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松井　聖一郎※ | |
| 授業概要 | 文字のしくみ、発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法を理解し、簡単な文章作成、自己紹介など日常の基礎的な表現、辞書の活用法などを学び、最も基本的なコミュニケーションに必要な基礎的な力をつける。 なお、授業は朝鮮語ＩＡ と同じテキストを用いて一体的に進行する。 | |
| 到達目標 | ハングル能力検定試験 5 級に合格する程度の語彙・文法、作文、聞き取り、読解の力を総合的に身につける。 | |
| 成績評価 | 宿題などの提出物　30%<br>小テスト　30%<br>期末テスト　40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：金京子『パランセ韓国語　初級』（朝日出版社）定価 2,415 円 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ⅡＡ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河　かおる | |
| 授業概要 | 朝鮮語ＩＡ・ＩＢで修得した基礎的な力を、語彙・文法両面において充実させ、より複雑な言い回しや文法を学び、語彙を増やし、中級程度のコミュニケーションに必要な力をつける。　なお、授業は朝鮮語ⅡＢと同じテキストを用いて一体的に進行する。 | |
| 到達目標 | 韓国語能力試験（TOPIK）1 級、ハングル能力検定試験 4 級に合格する程度の語彙・文法、作文、聞き取り、読解の力を総合的に身につける。 | |
| 成績評価 | 宿題など毎回の授業参加　30%<br>小テストなど　30%<br>期末テスト　40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 金京子『パランセ韓国語　中級』（朝日出版社）定価 2,520 円 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語ⅡＢ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松井　聖一郎※ | |
| 授業概要 | 朝鮮語ＩＡ・ＩＢ で修得した基礎的な力を、語彙・文法両面において充実させ、より複雑な言い回しや文法を学び、語彙を増やし、中級程度のコミュニケーションに必要な力をつける。　なお、授業は朝鮮語ⅡＡ と同じテキストを用いて一体的に進行する。 | |
| 到達目標 | 韓国語能力試験（TOPIK）１級、ハングル能力検定試験４級に合格する程度の語彙・文法、作文、聞き取り、読解の力を総合的に身につける。 | |
| 成績評価 | 宿題などの提出物　30%<br>小テスト　30%<br>期末テスト　40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 金京子/喜多恵美子『改訂版　パランセ韓国語　初級』(朝日出版社) 定価 2,415 円(第４回まで、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ で使用したテキストです)<br>金京子『パランセ韓国語　中級』(朝日出版社) 定価 2,520 円(第５回目以降) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＡ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | 外国語や異文化について学ぶことは、相手の立場に立つ手段を得ることであり、また母語や自国の文化への理解を深めることにも通じる。使いこなせる言語の数が増えれば、自分自身の世界も広がる。外国語を習得するためには、文法や語彙を学び、実際にそれらを使って表現してみる必要がある。この授業では、特に「話す」、「聞く」力に重点を置き、ペア練習、グループ練習、個人指導により、楽しんで文法を学べるように配慮する。また、できるかぎり実物教材やプリントを使って、文化紹介をしたり、５分から１０分程度の音楽や映像を提示したりする。 | |
| 到達目標 | 発音、語順、動詞（現在人称変化、話法の助動詞、分離動詞）、名詞類（性・数・格）、冠詞についての文法的な知識を習得する。単文レベルの簡単な会話ができることを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。<br>（１）授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり簡単な文章を読解したりすることができる。<br>（２）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。<br>（３）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。<br>（４）参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話であればできる。<br>（５）参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 課題（２０%）、筆記試験（３０%）、小テスト（１０%）、口述試験（３０%）、会話練習（１０%）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：佐藤修子/ハイケ・パーペンティン/下田恭子/ゲーザ・オルデハーフェル『スツェーネン１場面で学ぶドイツ語（ＣＤ付）』(三修社)。ISBN：978-4-384-12244-2.<br>ただし、主としてプリントで授業を行う。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＢ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Anja Sliwa※ | |
| 授業概要 | ドイツ語ＩＡ で学んだ文法事項を日常の様々な場面で実際に使う練習をする。ドイツ語圏に行った場合、どのような場面でどのような表現を使えばよいのか学習し、習得していく。履修する学生の様子を見ながら授業をすすめていく。基本的に教師は授業中、なるべくドイツ語で授業を進め、できるだけドイツ語をたくさん聞いてもらうようにする。しかし、わからないことが出てきたら、そのままにせず日本語で納得するまで質問してほしい。教師はドイツ人であるが、日本語も十分できるので不安にならず、授業を楽しんでほしい。 | |
| 到達目標 | 発音や文章表現・文法的な知識を習得する。簡単な会話ができることを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。<br>（１）授業で取り扱った文法を理解し、練習問題を解いたり簡単な文章を読解したりすることができる。<br>（２）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。<br>（３）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。<br>（４）習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 模擬試験（10%）、筆記試験（50%）、小テスト（10%）、会話練習（30%）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト: 佐藤修子 / ハイケ・パーペンティン / 下田恭子 / ゲーザ・オーデルハーフェル『スツェーネン 1. 場面で学ぶドイツ語 (CD 付)』(三修社)。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語 ＩＩＡ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | ドイツ語Ｉで習得した基礎文法を復習しながら、さらに高度な会話の練習をする。その際、教科書のテーマに沿って、実物教材やプリントを用意し、ドイツ文化の知識を深めるように努める。授業の進め方に関して言えば、前回の復習、文法事項の確認、会話の練習（プリント教材）、習熟度に応じて小テストなどを行う。また文化紹介の時間を設けて、５分から１０分程度の音楽や映像を提示するので、ヨーロッパ諸国の一員であるドイツを知る手がかりにしてもらいたい。 | |
| 到達目標 | zu-不定詞、現在完了形、過去形、形容詞の変化、受動態、関係代名詞、接続法などの文法の知識を身につける。比較的難しい会話表現を習得することを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（1）授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり簡単な文章を読解したりすることができる。（2）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（3）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（4）参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話であればできる。（5）参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 課題（２０%）、筆記試験（３０%）、小テスト（１０%）、口述試験（３０%）、会話練習（１０%）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： 佐藤修子/下田恭子/ハイケ・パーペンティン/ゲーザ・オーデルハーフェル/ダニエル・アーノルド/トーラルフ・ハイネマン『スツェーネン２コンパクト 場面で学ぶドイツ語（CD＆ワークブック付き）』（三修社）。ISBN：978-4-384-13090-4. ただし、この授業では主としてプリントを用いて必要に応じて教科書を参照する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語ＩＩＢ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Anja Sliwa※ | |
| 授業概要 | ドイツ語圏に行った場合、どのような場面でどのような表現を使えばよいのか学習し、習得していく。また文法と語彙の知識に合わせ、より複雑な表現も身につけていくようにする。履修する学生の様子を見ながら授業をすすめていく。基本的に教師は授業中、なるべくドイツ語で授業を進め、できるだけドイツ語をたくさん聞いてもらうようにする。しかし、わからないことが出てきたら、そのままにせず日本語で納得するまで質問してほしい。教師はドイツ人であるが、日本語も十分できるので不安にならず、授業を楽しんでほしい。 | |
| 到達目標 | 発音や文章表現・文法的な知識を習得する。ある程度複雑な会話ができることを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（1）授業で取り扱った文法を理解し、練習問題を解いたり簡単な文章を読解したりすることができる。（2）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（3）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（4）習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 模擬試験（10%）、筆記試験（50%）、小テスト（10%）、会話練習（30%）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト: 佐藤修子 / 下田恭子 / ハイケ・パーペンティン / ゲーザ・オーデルハーフェル / ダニエル・アーノルド / トーラルフ・ハイネマン　『スツェーネン 2. コンパクト　場面で学ぶドイツ語 (CD&ワークブック付き)』(三修社)。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＡ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　周子 | |
| 授業概要 | この授業では、フランス語をはじめて学ぶ人を対象に、基本的な文法を学習します。文法を理解することは、会話や読解、作文など言語運用のあらゆる局面において必要不可欠です。毎回かならず授業に出席し、宿題や復習をこなすことで、一つずつ確実に身につけていきましょう。 | |
| 到達目標 | （1）フランス語初級前期に学習すべき文法事項について理解できている。<br>（2）フランス語の基礎的な単語を修得できている。<br>（3）授業で学習した内容を定着させるべく、自学の習慣を身につけている。<br>（4）分からない箇所があった場合、辞書をひいたり、動詞活用表を参照するなど、適切な方法で自ら問題解決することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）（2）については、定期試験（６０%）および1課が済むごとに実施する小テスト（２０%）、（3）（4）については宿題を期限通りに済ませているかの確認（２０%）によって評価する。１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書は『レヴォリューション　1』（朝日出版社）を必ず購入のこと。<br>辞書については特に指定はありませんが、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）をすすめます。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＢ（国際） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gilles Fernandez※ | |
| 授業概要 | この授業では、フランス語の文法の基礎を学び、自然な日常会話が出来るようになることを目標とします。<br>授業の中では学生がフランス語を話す時間を最大限に作り、楽しくてアクティブなクラスになるよう、いつもペアーで発音と会話を練習します。<br>「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。 | |
| 到達目標 | フランス語の文法の基礎を学び、自然な日常会話が出来るようになることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験 50%、小テスト（語彙／会話）＋　課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：「Monsieur Pourquoi」 著者：Olivier Lorrillard, 小田涼　出版社：駿河台出版社<br>ISBN: 978-4-411-00924-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＩＡ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　周子 | |
| 授業概要 | この授業では、前期に引き続き、フランス語をはじめて学ぶ人を対象に、基本的な文法を学習します。文法を理解することは、会話や読解、作文など言語運用のあらゆる局面において必要不可欠です。毎回かならず授業に出席し、宿題や復習をこなすことで、一つずつ確実に身につけていきましょう。 | |
| 到達目標 | （1）フランス語初級後期に学習すべき文法事項について理解できている。<br>（2）フランス語の基礎的な単語を修得できている。<br>（3）授業で学習した内容を定着させるべく、自学の習慣を身につけている。<br>（4）分からない箇所があった場合、辞書をひいたり、動詞活用表を参照するなど、適切な方法で自ら問題解決することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）（2）については、定期試験（６０％）および１課が済むごとに実施する小テスト（２０％）、（3）（4）については宿題を期限通りに済ませているかの確認（２０％）によって評価する。１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書は『レヴォリューション　１』（朝日出版社）を必ず購入のこと。<br>辞書については特に指定はありませんが、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）をすすめます。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語ＩＩＢ（国際） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gilles Fernandez※ | |
| 授業概要 | この授業はフランス語ＩＢの続きです。<br>授業の進め方は同じです：授業の中では学生がフランス語を話す時間を最大限に作り、楽しくてアクティブなクラスになるように、いつもペアーで発音と会話を練習します。自然な日常会話が出来るようになることを目標とします。<br>「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。 | |
| 到達目標 | 自然な日常会話が出来るようになることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験 50%、小テスト（語彙／会話）＋　課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：「Monsieur Pourquoi」　著者：Olivier Lorrillard, 小田涼　出版社：駿河台出版社<br>ISBN: 978-4-411-00924-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＡ①（火１限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業では、1942 年に制作公開の映画『カサブランカ』を鑑賞しながら、主に TOEIC で必要とされるスキル修得を目指す。文理の如何に関わらず、TOEIC に慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) TOEIC の出題形式と解き方を十分に理解し、時間配分を守って解答することができる。<br>(2) 字幕なしで本編を鑑賞することができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。(1)「TOEIC の出題形式と解き方…」については、到達度確認テスト（30%）で評価する。(2)「字幕なしで本編を鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。 (3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。※履修登録時点で、到達目標である TOEIC スコア 500 点を達成している（IP テストでのスコアも可）場合は、本科目の単位を認定する（評価は「認定」）。※その他、出席についてなどの受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を必ず参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『めざせ！600　名作映画で TOEIC®　カサブランカ』（英宝社）ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＡ②（火１限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、TOEIC (Test of English for International Communication)形式のテキストを用いて、社会・経済・文化・科学・娯楽等の幅広いテーマを題材に、実用英語力の強化を目指すものである。毎回の授業は、ペアワーク(またはグループワーク)によって実施され、「解答のポイントを受講生が発表し、その内容を講師が補足する」というワークショップ形式で進行する。そのため、受講生みずから積極的な発言や相互の意見交換をすることが求められる。クラスでは、毎回異なる座席(パートナー)が指定される。90 分間、新たなペアと英語で円滑なコミュニケーションを成立させることも、英語コミュニケーションの重要なトレーニングとなるだろう。 講義は、テキストを中心とした「理論型の学習」に、発信型の訓練をとりいれながら、「聴く・読む・書く・話す」の英語の４技能の連携的強化を目指したい。 ※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) 幅広い分野の語彙を身につける。<br>(2) TOEIC の出題形式に慣れ、テキストの内容を正確に理解する。<br>(3) 実学的な視点から、自主的な英語学習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「幅広い分野の語彙を…」については、４回の単語テスト(各 5%×4＝20%)で評価する。<br>(2)「TOEIC の出題形式に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(3)「実学的な視点から…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：　Essential Approach for the TOEIC Test<br>著　者：　Naoko Osuka, Hisakazu Tsukano, Atsuko Yamamoto, Robert VanBenthuysen<br>出版社：　Seibido (成美堂)　(ISBN：9784791910922)<br>備　考：　購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＡ③（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業では、1942 年に制作公開の映画『カサブランカ』を鑑賞しながら、主に TOEIC で必要とされるスキル修得を目指す。文理の如何に関わらず、TOEIC に慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。毎回授業冒頭で小テストを実施して、予習・復習状況を確認する。ペアで会話練習をしたり、グループで TOEIC 形式問題の解答作業を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。 | |
| 到達目標 | (1) TOEIC の出題形式と解き方を十分に理解し、時間配分を守って解答することができる。<br>(2) 字幕なしで本編を鑑賞することができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と本編の内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。(1)「TOEIC の出題形式と解き方…」については、到達度確認テスト（30%）で評価する。<br>(2)「字幕なしで本編を鑑賞…」については、期末テスト(40%)で評価する。<br>(3)「予習・復習の習慣を定着…」については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>※履修登録時点で、到達目標である TOEIC スコア 500 点を達成している（IP テストでのスコアも可）場合は、本科目の単位を認定する（評価は「認定」）。 ※その他、出席についてなどの受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を必ず参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Kay Nakago ほか　『めざせ！600　名作映画で TOEIC®　カサブランカ』（英宝社）ISBN: 978-4-269-66028-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ④（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では TOEIC 形式のテキストを使用し、基礎的な語彙力をつけながら試験の形式に慣れ、試験で高得点を取得することを目指す。テキストは各章が「ショッピング」・「健康」・「レジャー」といったひとつのトピックを扱っており、英語圏の生活や文化を学びながら試験問題に取り組むことができる。またテキスト以外に随時プリントで読解練習もおこなう。※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | 授業を通して TOEIC の形式に慣れ、どのパートでもスムースに解答できるようにする。英語圏の文化やライフスタイルに親しむ。語彙力をつける。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 40%、<br>課題等 20%。<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Reiko Akiyoshi, Greg Bevan ほか 『Basic Skills for TOEIC Test 550』　英宝社<br>『新 TOEIC テスト英単語・熟語マスタリー200』　旺文社<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ⑤（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、TOEIC (Test of English for International Communication)形式のテキストを用いて、社会・経済・文化・科学・娯楽等の幅広いテーマを題材に、実用英語力の強化を目指すものである。毎回の授業は、ペアワーク(またはグループワーク)によって実施され、「解答のポイントを受講生が発表し、その内容を講師が補足する」というワークショップ形式で進行する。そのため、受講生みずから積極的な発言や相互の意見交換をすることが求められる。クラスでは、毎回異なる座席(パートナー)が指定される。90 分間、新たなペアと英語で円滑なコミュニケーションを成立させることも、英語コミュニケーションの重要なトレーニングとなるだろう。 講義は、テキストを中心とした「理論型の学習」に、発信型の訓練をとりいれながら、「聴く・読む・書く・話す」の英語の４技能の連携的強化を目指したい。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) 幅広い分野の語彙を身につける。<br>(2) TOEIC の出題形式に慣れ、テキストの内容を正確に理解する。<br>(3) 実学的な視点から、自主的な英語学習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「幅広い分野の語彙を…」については、４回の単語テスト(各 5%×4＝20%)で評価する。<br>(2)「TOEIC の出題形式に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(3)「実学的な視点から…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】<br>・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】<br>・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名： Essential Approach for the TOEIC Test<br>著　者： Naoko Osuka, Hisakazu Tsukano, Atsuko Yamamoto, Robert VanBenthuysen<br>出版社： Seibido (成美堂)　(ISBN：9784791910922)<br>備　考： 購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ⑥（火２限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | We read aloud the scenario dialogue of the movie The Wizard of Oz オズの魔法使 (1939) and watch the scenes. Then we will write in missing words into a handout of the dialogue script. Students in pairs will perform one page of the script. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Oral Presentation 100%　(Teacher's evaluation: Objectives 1,2,3,4 each 25%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | handouts | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ⑦（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Graham Jones※ | |
| 授業概要 | This class will help students use English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and 'making things happen'.<br>The 15-week course is built around the movie Europa Report (2013): students will improve their language skills through watching the movie, reading the script, and doing practical activities on the themes of enquiry, teamwork, exploration, and questions without answers. | |
| 到達目標 | Students will be more effective at using English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and 'making things happen'. | |
| 成績評価 | I will have a 10-minute, 1-to-1 meeting with each student. The student will be given 4-5 minutes to talk about 'the most interesting thing (or things) I learned on this course'. This will be followed by a short discussion.<br>Students will be assessed on how they:<br>(a) 'Get across' their thoughts and ideas (50%)<br>(b) Are bold and adventurous with their use of English (25%)<br>(c) Have understood the part/s of the course they are talking about (25%).<br>Full details will be given in the rubric. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | None - I will provide handouts each week. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ⑧（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業ではTOEIC形式のテキストを使用し、基礎的な語彙力をつけながら試験の形式に慣れ、試験で高得点を取得することを目指す。テキストは各章が「ショッピング」・「健康」・「レジャー」といったひとつのトピックを扱っており、英語圏の生活や文化を学びながら試験問題に取り組むことができる。またテキスト以外に随時プリントで読解練習もおこなう。<br>※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | 授業を通してTOEICの形式に慣れ、どのパートでもスムースに解答できるようにする。英語圏の文化やライフスタイルに親しむ。語彙力をつける。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点40%、<br>期末試験40%、<br>課題等20%<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Reiko Akiyoshi, Greg Bevan ほか 『Basic Skills for TOEIC Test 550』 英宝社<br>『新TOEIC テスト英単語・熟語マスタリー200』　旺文社<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ⑨（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Outline: In order to achieve a higher score on the TOEIC Test, students must study, practice, and use the core skills of listening and reading.　Additionally, success on the test requires students build vocabulary, understand grammar, and know strategies about how to take test.　In this course, students will work to enhance the core stills of linstening and reading as well as build vacabulary and learn test-taking strategies through a variety of in-class exercises and out-of-class homework activities. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English listening, reading, and test-taking abilities on order to achieve higher scores on the TOEIC Test. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity practice and impliment the skills learned in class through class activities, pracitice tests, and assignments.<br>This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and reading. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) Weekly Practice Tests (40%), 2) Class Participation (10%), 3) Exams (Mid-term 25%, Final 25%). | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text： 石井 洋佑 , カール ロズボルド. TOEIC TEST きほんのきほん. 国際語学社, 2013; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ⑩（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語を聴く力と読む力の両方をバランスよく高めて TOEIC スコアを伸ばすことです。英語コミュニケーション力を身につける手段として TOEIC 演習に取り組みます。TOEIC を勉強するのではなく、TOEIC で勉強します。コミュニケーション能力は人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力を向上させる：英語の音声を一文ずつ書き取れる。<br>(2)聴く力を向上させる：一文ずつ音読しながら英語の意味を押さえられる。<br>(3)読む力を向上させる：英語の文章を一文ずつ別の語で言換えられる。<br>(4)読む力を向上させる：一文ずつ作文しながら英語の情報を活用できる。<br>(5)学ぶ力を持続させる：目標スコアを掲げ授業外でも自主的に学習を進められる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点）、到達目標(2)については学期末テスト（20 点）、到達目標(3)については小テスト（20 点）、到達目標(4)については学期末テスト（20 点）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点）の 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 森田光宏・鈴木淳・Stephen B. Ryan『Strategic Learning for the TOEIC Test』(松柏社、2015 年)（税込 2052 円）。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ａ⑪（火３限） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | We read aloud the scenario dialogue of the movie The Wizard of Oz オズの魔法使 (1939) and watch the scenes. Then we will write in missing words into a handout of the dialogue script. Students in pairs will perform one page of the script. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Oral Presentation 100%　(Teacher's evaluation: Objectives 1,2,3,4 each 25%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | handouts | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習Ｉ Ｂ①（火１限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、TOEIC (Test of English for International Communication)形式のテキストを用いて、社会・経済・文化・科学・娯楽等の幅広いテーマを題材に、実用英語力の強化を目指すものである。毎回の授業は、ペアワーク(またはグループワーク)によって実施され、「解答のポイントを受講生が発表し、その内容を講師が補足する」というワークショップ形式で進行する。そのため、受講生みずから積極的な発言や相互の意見交換をすることが求められる。クラスでは、毎回異なる座席(パートナー)が指定される。90 分間、新たなペアと英語で円滑なコミュニケーションを成立させることも、英語コミュニケーションの重要なトレーニングとなるだろう。 講義は、テキストを中心とした「理論型の学習」に、発信型の訓練をとりいれながら、「聴く・読む・書く・話す」の英語の４技能の連携的強化を目指したい。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) 幅広い分野の語彙を身につける。<br>(2) TOEIC の出題形式に慣れ、テキストの内容を正確に理解する。<br>(3) 実学的な視点から、自主的な英語学習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「幅広い分野の語彙を…」については、４回の単語テスト(各 5%×4＝20%)で評価する。<br>(2)「TOEIC の出題形式に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(3)「実学的な視点から…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】<br>・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】<br>・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：　Essential Approach for the TOEIC Test<br>著　者：　Naoko Osuka, Hisakazu Tsukano, Atsuko Yamamoto, Robert VanBenthuysen<br>出版社：　Seibido (成美堂)　(ISBN：9784791910922)<br>備　考：　購入必須。(多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ②（火１限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業では、主に TOEIC で必要とされるスキルを修得し、スコアアップを目指す。各パートの出題傾向を把握し、時間配分を守って効率的に解答する術を身に付け、前回受験時のスコア記録を塗り替えよう。TOEIC に特有な語彙の強化を図るとともに、時間内に確実に解答を済ませることができるよう、その取り組みの一環として授業では随時パソコンや携帯電話端末を利用して積極的な解答を促す。解答結果や正答率を即座に確認することで、各設問の難易度およびクラス内における各自の正解度合いの立ち位置を認識することができ、受講者同士で切磋琢磨しながら、試験対策に日頃より緊張感を持って取り組む姿勢を養いたい。 | |
| 到達目標 | (1) TOEIC の出題形式と解き方を十分に理解し、時間配分を守って解答することができる。<br>(2) TOEIC 対策における自らの長所と弱点を認識かつ克服し、その結果をスコアアップに反映させることができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と各ユニットの内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>到達目標(1)については、授業中の解答・正答率(10%)および期末テスト(20%)で評価する。<br>到達目標(2)については、到達度確認テスト(30%)および 12 月の学内実施 TOEIC IP または TOEIC 個人受験の結果(10%)で評価する。<br>到達目標(3)については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>※履修登録時点で、到達目標である TOEIC スコア 700 点を達成している（IP テストでのスコアも可）場合は、本科目の単位を認定する（評価は「認定」）。<br>※その他、出席についてなどの受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を必ず参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Masako Yasumaru ほか『Seize the Core of the TOEIC Test』（金星堂）ISBN: 978-4-7647-4004-4 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ③（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　利宏 | |
| 授業概要 | 本講義は、TOEIC (Test of English for International Communication)形式のテキストを用いて、社会・経済・文化・科学・娯楽等の幅広いテーマを題材に、実用英語力の強化を目指すものである。毎回の授業は、ペアワーク(またはグループワーク)によって実施され、「解答のポイントを受講生が発表し、その内容を講師が補足する」というワークショップ形式で進行する。そのため、受講生みずから積極的な発言や相互の意見交換をすることが求められる。クラスでは、毎回異なる座席(パートナー)が指定される。90 分間、新たなペアと英語で円滑なコミュニケーションを成立させることも、英語コミュニケーションの重要なトレーニングとなるだろう。 講義は、テキストを中心とした「理論型の学習」に、発信型の訓練をとりいれながら、「聴く・読む・書く・話す」の英語の４技能の連携的強化を目指したい。<br>※本授業は、翻訳練習を除き基本的に「英語による講義」(バイリンガル)です。 | |
| 到達目標 | (1) 幅広い分野の語彙を身につける。<br>(2) TOEIC の出題形式に慣れ、テキストの内容を正確に理解する。<br>(3) 実学的な視点から、自主的な英語学習を習慣づける。 | |
| 成績評価 | (1)「幅広い分野の語彙を…」については、４回の単語テスト(各 5%×4＝20%)で評価する。<br>(2)「TOEIC の出題形式に…」については、到達確認テスト(40%)で評価する。<br>(3)「実学的な視点から…」については、自習課題の達成度(40%)で評価する。<br>以上の(1)～(3)を合算した 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>【出席について】　・毎回出席を基本とし、欠席１回につき「５点」を最終評点から減点する。<br>・３０分以上の遅刻は、欠席として扱う。<br>【その他】　・本シラバス(Web 版)の「宿題および小試験」や「追加情報」等も参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 書　名：　Essential Approach for the TOEIC Test<br>著　者：　Naoko Osuka, Hisakazu Tsukano, Atsuko Yamamoto, Robert VanBenthuysen<br>出版社：　Seibido (成美堂)　(ISBN：9784791910922)<br>備　考：　購入必須。（多くの書き込みや捺印をするので、必ず新しいものを購入すること。） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ④（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | We read aloud the scenario dialogue of the movie The Wizard of Oz オズの魔法使 (1939) and watch the scenes. Then we will write in missing words into a handout of the dialogue script. Students in pairs will perform one page of the script. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Oral Presentation 100%　(Teacher's evaluation: Objectives 1,2,3,4 each 25%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | handouts | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ⑤（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　亞矢 | |
| 授業概要 | 本授業では、主に TOEIC で必要とされるスキルを修得し、スコアアップを目指す。各パートの出題傾向を把握し、時間配分を守って効率的に解答する術を身に付け、前回受験時のスコア記録を塗り替えよう。TOEIC に特有な語彙の強化を図るとともに、時間内に確実に解答を済ませることができるよう、その取り組みの一環として授業では随時パソコンや携帯電話端末を利用して積極的な解答を促す。解答結果や正答率を即座に確認することで、各設問の難易度およびクラス内における各自の正解度合いの立ち位置を認識することができ、受講者同士で切磋琢磨しながら、試験対策に日頃より緊張感を持って取り組む姿勢を養いたい。 | |
| 到達目標 | (1) TOEIC の出題形式と解き方を十分に理解し、時間配分を守って解答することができる。<br>(2) TOEIC 対策における自らの長所と弱点を認識かつ克服し、その結果をスコアアップに反映させることができる。<br>(3) 予習・復習の習慣を定着させることで、語彙知識と各ユニットの内容理解を深める。 | |
| 成績評価 | 到達目標ごとに以下の基準で評価する。<br>到達目標(1)については、授業中の解答・正答率(10%)および期末テスト(20%)で評価する。到達目標(2)については、到達度確認テスト(30%)および 12 月の学内実施 TOEIC IP または TOEIC 個人受験の結果(10%)で評価する。<br>到達目標(3)については、各回の小テスト(30%)で評価する。<br>(1)~(3)の総点が、60 点以上（100 点満点で採点）の者を合格者とする。<br>※履修登録時点で、到達目標である TOEIC スコア 700 点を達成している（IP テストでのスコアも可）場合は、本科目の単位を認定する（評価は「認定」）。※その他、出席についてなどの受講に関する詳細については、ウェブシラバスの「追加情報」欄を必ず参照のこと。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Masako Yasumaru ほか『Seize the Core of the TOEIC Test』（金星堂）ISBN: 978-4-7647-4004-4 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ⑥（火２限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では TOEIC 形式のテキストを使用し、基礎的な語彙力をつけながら試験の形式に慣れ、試験で高得点を取得することを目指す。また試験問題を解くだけではなくプリント等によって読解練習を行いながら英語圏の文化を学ぶ。　※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | 授業を通して TOEIC の形式に慣れ、どのパートでもスムースに解答できるようにする。英語圏の文化やライフスタイルに親しむ。語彙力をつける。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 40%、<br>課題等 20%。<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新 TOEIC テスト英単語・熟語マスタリー2000』　旺文社<br>(テキストについては授業中に指示) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ⑦（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Stack | |
| 授業概要 | Outline: In order to achieve a higher score on the TOEIC Test, students must study, practice, and use the core skills of listening and reading.　Additionally, success on the test requires students build vocabulary, understand grammar, and know strategies about how to take test.　In this course, students will work to enhance the core stills of linstening and reading as well as build vacabulary and learn test-taking strategies through a variety of in-class exercises and out-of-class homework activities. | |
| 到達目標 | Objectives: Students will make improvements in their English listening, reading, and test-taking abilities on order to achieve higher scores on the TOEIC Test. Students will gain confidence in applying English language skills through lessons using a variety of educational tasks and activities. The students will have the opportunity practice and impliment the skills learned in class through class activities, pracitice tests, and assignments.This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and reading. Students will also be introduced to learning techniques to empower their own learning experiences. | |
| 成績評価 | Students will be assessed on 1) Weekly Practice Tests (40%), 2) Class Participation (10%), 3) Exams (Mid-term 25%, Final 25%). | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Text：石井 洋佑 , カール ロズボルド. TOEIC TEST きほんのきほん. 国際語学社, 2013; Additional Materials: Pronunciation Guide 2 (downloadable at: http://decc.ca/PGuide2/proguide.html) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ⑧（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷口　真紀 | |
| 授業概要 | この科目の目的は英語を聴く力と読む力の両方をバランスよく高めて TOEIC スコアを伸ばすことです。英語コミュニケーション力を身につける手段として TOEIC 演習に取り組みます。TOEIC を勉強するのではなく、TOEIC で勉強します。コミュニケーション能力は人と人との学び合いの中で磨かれます。そのため、個人ワークのほか、ペアワークやグループワークを組み合わせた参加型の活動を重視します。 | |
| 到達目標 | (1)聴く力を向上させる：英語の音声を一文ずつ書き取れる。<br>(2)聴く力を向上させる：一文ずつ音読しながら英語の意味を押さえられる。<br>(3)読む力を向上させる：英語の文章を一文ずつ別の語で言換えられる。<br>(4)読む力を向上させる：一文ずつ作文しながら英語の情報を活用できる。<br>(5)学ぶ力を持続させる：目標スコアを掲げ授業外でも自主的に学習を進められる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については小テスト（20 点）、到達目標(2)については学期末テスト（20 点）、到達目標(3)については小テスト（20 点）、到達目標(4)については学期末テスト（20 点）、到達目標(5)については課題「シャトルカード」の提出（20 点）の 100 点満点で評価します。60 点未満が不合格、60 点～69 点が「C レベル」、70 点～79 点が「B レベル」、80 点～89 点が「A レベル」、90 点～100 点が「S レベル」です。全授業回数の 3 分の 1 にあたる 5 回以上欠席した場合、評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 森田光宏・鈴木淳・Stephen B. Ryan『Strategic Learning for the TOEIC Test』(松柏社、2015 年)（税込 2052 円）。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ⑨（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | We read aloud the scenario dialogue of the movie The Wizard of Oz オズの魔法使 (1939) and watch the scenes. Then we will write in missing words into a handout of the dialogue script. Students in pairs will perform one page of the script. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct. | |
| 成績評価 | Oral Presentation 100%　(Teacher's evaluation: Objectives 1,2,3,4 each 25%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | handouts | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ⑩（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Graham Jones※ | |
| 授業概要 | This class will help students use English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and 'making things happen'.The 15-week course is built around the movie Europa Report (2013): students will improve their language skills through watching the movie, reading the script, and doing practical activities on the themes of enquiry, teamwork, exploration, and questions without answers. | |
| 到達目標 | Students will be more effective at using English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and 'making things happen'. | |
| 成績評価 | I will have a 10-minute, 1-to-1 meeting with each student. The student will be given 4-5 minutes to talk about 'the most interesting thing (or things) I learned on this course'. This will be followed by a short discussion.Students will be assessed on how they:(a) 'Get across' their thoughts and ideas (50%)(b) Are bold and adventurous with their use of English (25%)(c) Have understood the part/s of the course they are talking about (25%).Full details will be given in the rubric. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | None - I will provide handouts each week. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実用英語演習ＩＢ⑪（火３限） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂元　敦子 | |
| 授業概要 | この授業では TOEIC 形式のテキストを使用し、基礎的な語彙力をつけながら試験の形式に慣れ、試験で高得点を取得することを目指す。また試験問題を解くだけではなくプリント等によって読解練習を行いながら同時に英語圏の文化を学ぶ。　※授業計画等は、授業の進度によって変更する場合がある。 | |
| 到達目標 | 授業を通して TOEIC の形式に慣れ、どのパートでもスムースに解答できるようにする。英語圏の文化やライフスタイルに親しむ。語彙力をつける。 | |
| 成績評価 | 出席を含む平常点 40%、<br>期末試験 40%、<br>課題等 20%。<br>※成績評価方法等は変更する場合がある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新 TOEIC テスト英単語・熟語マスタリー2000』　旺文社ほか<br>プリントも使用する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語ＩＡ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 「日本語能力試験 N1」のテスト対策に特化し、問題演習を行う。授業では、聴解・文法・読解に関する問題を解き、Ｎ１レベルを合格できる程度の言語能力をつけるようにする。 | |
| 到達目標 | （1）日本語能力試験Ｎ１レベルの文法を理解できるようになる。<br>（2）日本語能力試験Ｎ１合格レベルの語彙や表現を理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト 40%、期末試験 40%、宿題 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語ＩＢ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 前半は「日本語能力試験Ｎ１」のテスト対策に特化し、問題演習を行う。聴解・読解・文法に関する問題を解き、Ｎ１レベルを合格できる程度の言語能力をつけるようにする。後半は日本語でのレポート作成に必要な基礎知識を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）日本語能力試験Ｎ１レベルの文法を理解できるようになる。<br>（2）日本語能力試験Ｎ１合格レベルの語彙や表現が理解できるようになる。<br>（3）レポートを書く際に句読点、記号などが正しく使えるようになる。<br>（4）話し言葉と書き言葉の区別ができるようになる。<br>（5）書き言葉を使って作文が書けるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト 40%、期末レポート 40%、宿題 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語ⅡA | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野山　愛弥※ | |
| 授業概要 | バランスのとれた日本語運用能力を高め、まとめる力、書く力、発表する力を身につける。また口頭発表と本格的な討論の力をつける。そのためにテーマに即したスピーチの練習をし、討論の意義およびその種類と実施方法を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）まとめる力・書く力を磨く。<br>（2）発表の力を養う。<br>（3）聞く力を磨く。<br>（4）論点の明確化・論証・論駁の方法に慣れる。 | |
| 成績評価 | 中間試験３０％　期末試験３０％　授業への参加度４０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業で指示する<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語ⅡB | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野山　愛弥※ | |
| 授業概要 | バランスのとれた日本語運用能力を高め、まとめる力、書く力、発表する力を身につける。また口頭発表と本格的な討論の力をつける。そのためにテーマに即したスピーチの練習をし、討論の意義およびその種類と実施方法を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）まとめる力・書く力を磨く。<br>（2）発表の力を養う。<br>（3）聞く力を磨く。<br>（4）論点の明確化・論証・論駁の方法に慣れる。 | |
| 成績評価 | 中間試験３０％　期末試験３０％　授業への参加度４０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業で指示する<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語ⅢA | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 内田　孝※ | |
| 授業概要 | 留学生が大学の授業を理解し、また自身が専門的な研究活動を行うために必要となる日本語能力の習得を目指す。特に本授業では、様々な文体の使い分けを学んだ後で、学術的なレポート、調査・観察・実験の説明文、論文を書く技能および読む技能を中心に伸ばすことをねらいとしている。前期は特に、内容要約文、説明文などの文章を中心に表現形式を理解し、例文や練習問題を用いながら文章表現力を向上させる。また、パソコンを用いた日本語入力、文書作成方法を習得する。 | |
| 到達目標 | 日本語による文体の使い分けができるようになる。また、パソコンを最大限に活用しつつ、適切な表現・構成・内容のレポート、調査・観察・実験の説明文、論文が書けるようになる。 | |
| 成績評価 | 期末テスト 50%、小テスト・発表などの課題達成 50%。授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義の中で適宜紹介する。指定図書：講義の中で適宜紹介する。<br>参考書：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語Ⅲ Ｂ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 内田　孝※ | |
| 授業概要 | 留学生が大学の授業を理解し、また自身が専門的な研究活動を行うために必要となる日本語能力の習得を目指す。特に本授業では、様々な文体の使い分けを学んだ後で、学術的なレポート、調査・観察・実験の説明文、論文を書く技能および読む技能を中心に伸ばすことをねらいとしている。後期は特に、研究レポート、論文などの文章を中心に表現形式を理解し、例文や練習問題を用いながら文章表現力を向上させる。また、実際に自身で選んだテーマで小論文を執筆する。 | |
| 到達目標 | 日本語による文体の使い分けができるようになる。また、パソコンを最大限に活用しつつ、適切な表現・構成・内容のレポート、調査・観察・実験の説明文、論文が書けるようになる。 | |
| 成績評価 | 期末テスト 50%、小テスト・発表などの課題達成 50%。授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義の中で適宜紹介する。指定図書：講義の中で適宜紹介する。 参考書：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語Ⅳ Ａ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 富川　和代※ | |
| 授業概要 | 既習のレポートを書く力を向上させながら、レポートを日本語で発表する方法を学び、実践する。 | |
| 到達目標 | （1）プレゼンテーションの流れを理解する。<br>（2）スライドの作り方に慣れる<br>（3）発表に必要な表現の使い方を身につける<br>（4）アンケート調査の方法を身につける。<br>（5）「JTEST 準A」レベルの力を付ける。 | |
| 成績評価 | 中間試験３０％　期末試験３０％　授業への参加度４０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業で指示する。<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語Ⅳ Ｂ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 富川　和代※ | |
| 授業概要 | 既習のレポートを書く力を向上させながら、レポートを日本語で発表する方法を学び、実践する。 | |
| 到達目標 | （1）データの入力ができるようになる。<br>（2）データの分析・考察ができるようになる。<br>（3）分析結果の考察を書けるようにする。<br>（4）スライドを作れるようにする。<br>（5）「ＪＴＥＳＴＡ」レベルの力をつける。 | |
| 成績評価 | 中間試験３０％　期末試験３０％　授業への参加度４０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業で指示する<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境ａ) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　洋紀※ | |
| 授業概要 | 情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用する OS は Windows とし、学習用のアプリケーションとしては Word、Excel などを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。 | |
| 到達目標 | （1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。<br>（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。<br>（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。<br>（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。<br>（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。（1）は 10%、（2）、（3）はそれぞれ 20%、（4）、（5）はそれぞれ 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：初回講義時に説明する。指定図書：初回講義時に説明する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境ｂ) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | 情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Web プラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などを MS Windows 環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。 | |
| 到達目標 | （1）情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても習得すること。<br>（2）学術論文作成のために検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表ができ、さらに検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：勝木太一編「情報学」（多賀出版）　　亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版）参考書：後日、担当教員から指定する。 | |
| 履修資格 | 環境科学部 b,d　　（H21 年度以前の入学生は情報処理演習Ⅰとして履修） | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境 c) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　洋紀※ | |
| 授業概要 | 情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用する OS は Windows とし、学習用のアプリケーションとしては Word、Excel などを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。 | |
| 到達目標 | （1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。<br>（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。<br>（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。<br>（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。<br>（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。（1）は 10%、（2）、（3）はそれぞれ 20%、（4）、（5）はそれぞれ 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：初回講義時に説明する。指定図書：初回講義時に説明する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境 d) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | 情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Web プラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などを MS Windows 環境で習得する。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。 | |
| 到達目標 | （1）情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても習得すること。<br>（2）学術論文作成のために検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表ができ、さらに検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：勝木太一編「情報学」（多賀出版）　　亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版）参考書：後日、担当教員から指定する。 | |
| 履修資格 | 環境科学部　b , d　　（H21 年度以前の入学生は情報処理演習 I として履修） | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）（材料） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　洋紀※ | |
| 授業概要 | 情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用する OS は Windows とし、学習用のアプリケーションとしては Word、Excel などを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。 | |
| 到達目標 | （1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。<br>（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。<br>（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。<br>（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。<br>（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 10%、（2）、（3）はそれぞれ 20%、（4）、（5）はそれぞれ 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：初回講義時に説明する。指定図書：初回講義時に説明する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(機械) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西門　秀人※ | |
| 授業概要 | 情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用する OS は Windows とし、学習用のアプリケーションとしては Word、Excel などを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。 | |
| 到達目標 | （1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。<br>（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。<br>（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。<br>（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。<br>（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 10%、（2）、（3）はそれぞれ 20%、（4）、（5）はそれぞれ 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：矢野文彦［監修］「情報リテラシー教科書」（オーム社）<br>指定図書：情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究グループ著「インターネット社会を生きるための情報倫理」（実教出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(電子) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮城　茂幸 | |
| 授業概要 | 情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本講では今後高年次において開講される講義や演習で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つ情報処理技術、すなわちワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。 | |
| 到達目標 | （1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。<br>（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。<br>（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。<br>（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。<br>（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 10%、（2）、（3）はそれぞれ 20%、（4）、（5）はそれぞれ 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：30 時間アカデミック　情報リテラシーOffice2007（実教出版）<br>指定図書：情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究グループ著「インターネット社会を生きるための情報倫理」（実教出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文 a) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森　将豪※ | |
| 授業概要 | 情報技術の習得は日常生活に資するだけでなく，大学で学問をしていく上で，情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である．本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術，すなわち，Web ブラウザの操作と活用，電子メール，文書処理などを MS Windows 環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ．さらに，レポートや学術論文の作成の基本を習得し，プレゼンテーションソフトなどにより，学術論文発表の手法を習得する． | |
| 到達目標 | (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備すること．情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ，文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること．情報倫理についても理解を深めること．<br>(2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること．<br>(3) 設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に結論づけることができる． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備すること．情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ，文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること．情報倫理についても理解を深めること，(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること，(3)設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に結論づけることができる，については課題レポート（100%：(1)20%, (2)30%, (3)50%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（テキストに代わる授業資料を配布する）<br>指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「情報学」（多賀出版）<br>参考書：授業中に、担当教員から指定する． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文 b) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | 情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Web ブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などを MS Windows 環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。 | |
| 到達目標 | （1）情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても収得すること。<br>（2）学術論文作成のため情報をの検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：テキストにかわる講義資料を配布<br>指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版）<br>亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）<br>参考書：後日、担当教員から指定する．<br>必要に応じ、講義資料を配布したり、指定図書や参考書を担当教員から指定する場合がある。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文 c) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森　将豪※ | |
| 授業概要 | 情報技術の習得は日常生活に資するだけでなく，大学で学問をしていく上で，情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術，すなわち，Web プラウザの操作と活用，電子メール，文書処理などを MS Windows 環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ．さらに，レポートや学術論文の作成の基本を習得し，プレゼンテーションソフトなどにより，学術論文発表の手法を習得する． | |
| 到達目標 | (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備すること．情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ，文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること．情報倫理についても理解を深めること．<br>(2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること．<br>(3) 設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に結論づけることができる． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備すること．情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ，文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること．情報倫理についても理解を深めること，(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること，(3)設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に結論づけることができる，については課題レポート（100%：(1)20%, (2)30%, (3)50%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（テキストに代わる授業資料を配布する）<br>指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「情報学」（多賀出版）<br>参考書：後日、担当教員から指定する． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文 d) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　洋紀※ | |
| 授業概要 | 情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用する OS は Windows とし、学習用のアプリケーションとしては Word、Excel などを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。 | |
| 到達目標 | （1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。<br>（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。<br>（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。<br>（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。<br>（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。（1）は 10%、（2）、（3）はそれぞれ 20%、（4）、（5）はそれぞれ 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：初回講義時に説明する。指定図書：初回講義時に説明する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(看護 a) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中川　雅央※ | |
| 授業概要 | 情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは必須である。そこで、当授業では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Web プラウザの操作と活用、メール、文書処理などを習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の基本的手法を習得する。 | |
| 到達目標 | (1) 情報倫理を習得するとともに情報技術の活用によって図書・文献や学術情報の検索ができる。<br>(2) 情報技術の活用によって情報を処理してレポート・論文の形に作成する基本を習得する。<br>(3) 情報技術の活用によって情報を処理して加工・表現・発表する基本を習得する。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>到達目標の(1)は 30%、(2)は 40%、(3)は 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業内にて提示する。<br>指定図書：授業内にて提示する。<br>参考書　：授業内にて提示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(看護 b) | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中川　雅央※ | |
| 授業概要 | 情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは必須である。そこで、当授業では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Web プラウザの操作と活用、メール、文書処理などを習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の基本的手法を習得する。 | |
| 到達目標 | (1) 情報倫理を習得するとともに情報技術の活用によって図書・文献や学術情報の検索ができる。<br>(2) 情報技術の活用によって情報を処理してレポート・論文の形に作成する基本を習得する。<br>(3) 情報技術の活用によって情報を処理して加工・表現・発表する基本を習得する。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>到達目標の(1)は 30%、(2)は 40%、(3)は 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業内にて提示する。<br>指定図書：授業内にて提示する。<br>参考書：授業内にて提示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（環境ａ） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　洋紀※ | |
| 授業概要 | コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。<br>（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%　で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Excel で学ぶ統計･データ解析入門, 中村永友・山田智哉・金明哲著, 丸善出版, ISBN978-4-621-08297-3, 定価 2,940 円(税込)<br>指定図書：後日、担当教員から通知する。<br>参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（環境 b） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に, さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ. 特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について, 表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ. さらに, 学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ. | |
| 到達目標 | （1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。<br>（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%　で評価する。内訳は次の通りである。（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義開始時に指定する。指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | 人間文化学部の情報リテラシー（情報倫理を含む）（H21 年度以前入学については情報処理演習Ⅰ）の単位取得者（人間文化 b、人間文化 c のクラス） | |

| 科目名 | 情報科学概論（環境 c） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　洋紀※ | |
| 授業概要 | コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。<br>（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%　で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Excel で学ぶ統計･データ解析入門, 中村永友・山田智哉・金明哲著, 丸善出版, ISBN978-4-621-08297-3, 定価 2,940 円(税込)<br>指定図書：後日、担当教員から通知する。<br>参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（環境 d） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。<br>（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%　で評価する。内訳は次の通りである。（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義開始時に指定する指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | 人間文化学部の情報リテラシー（情報倫理を含む）（H21 年度以前入学については情報処理演習Ⅰ）の単位取得者（人間文化ａ、人間文化ｄのクラス） | |

| 科目名 | 情報科学概論（材料) | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 葛城　大介※ | |
| 授業概要 | Unix 系オペレーティングシステムの一種である Linux に親しむとともに, CUI を中心としたコンピュータの操作方法について学ぶ。文書フォーマッタ(LaTeX)による文書処理やシェルプログラミングの基礎を通して, 大量のデータを効率よく処理する方法を習得する。また同時に情報処理において必要になる情報科学についての基礎知識を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）情報機器の仕組みを学び, 情報の表現方法を理解できるようになること。<br>（2）Linux の基本コマンドを使用し, コマンドラインによるファイル操作ができるようになること。<br>（3）LaTeX を題材にしバッチ処理方式の文書処理に慣れること。<br>（4）シェルの機能を用いてコマンドラインでの操作を効率よく行えるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）, （2）はそれぞれ 30%, （3）, （4）はそれぞれ 20%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：資料配布<br>指定図書：坂本文著「たのしい UNIX－UNIX への招待－」（アスキー出版局）, D.Libes and S.Ressler 著 坂本文監訳 福崎俊博訳「Life with UNIX」（アスキー出版局）<br>参考書：B.W.Kernighan and R.Pike 著「The UNIX Programming Environment」（Prentice-Hall） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（機械） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西門　秀人※ | |
| 授業概要 | Unix 系オペレーティングシステムの一種である Linux に親しむとともに、CUI を中心としたコンピュータの操作方法について学ぶ。文書フォーマッタ(LaTeX)による文書処理やシェルプログラミングの基礎を通して、大量のデータを効率よく処理する方法を習得する。また同時に情報処理において必要になる情報科学についての基礎知識を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）情報機器の仕組みを学び，情報の表現方法を理解できるようになること。<br>（2）Linux の基本コマンドを使用し，コマンドラインによるファイル操作ができるようになること。<br>（3）LaTeX を題材にしバッチ処理方式の文書処理に慣れること。<br>（4）シェルの機能を用いてコマンドラインでの操作を効率よく行えるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）、（2）はそれぞれ 30%、（3）、（4）はそれぞれ 20%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：資料配布<br>指定図書：坂本文著「たのしい UNIX ―UNIX への招待―」（アスキー出版局）<br>D. Libes and S. Ressler 著、坂本文監訳、福崎俊博訳「Life with UNIX」（アスキー出版局）<br>参考書：B. W. Kernighan and R. Pike 著「The UNIX Programming Environment」（Prentice-Hall） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（電子） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮城　茂幸 | |
| 授業概要 | Unix 系オペレーティングシステムの一種である Linux に親しむとともに、CUI を中心としたコンピュータの操作方法について学ぶ。文書フォーマッタ(LaTeX)による文書処理やシェルプログラミングの基礎を通して、大量のデータを効率よく処理する方法を習得する。また同時に情報処理において必要になる情報科学についての基礎知識を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）情報機器の仕組みを学び、情報の表現方法を理解できるようになること。<br>（2）Linux の基本コマンドを使用し、コマンドラインによるファイル操作ができるようになること。<br>（3）LaTeX を題材とし、バッチ処理方式の文書処理に慣れること。<br>（4）シェルの機能を用いてコマンドラインでの操作を効率よく行えるようになること。 | |
| 成績評価 | 課題 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）、（2）はそれぞれ 30%、（3）、（4）はそれぞれ 20%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：資料配布<br>指定図書：坂本文著「たのしい UNIX ―UNIX への招待―」（アスキー出版局）D. Libes and S. Ressler 著、坂本文監訳、福崎俊博訳「Life with UNIX」（アスキー出版局）参考書：B. W. Kernighan and R. Pike「The UNIX Programming Environment」（Prentice-Hall） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（人文 a) | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森　将豪※ | |
| 授業概要 | インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に，さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ．特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について，表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ．さらに，学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ． | |
| 到達目標 | (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる．<br>(2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる．<br>(3) What-If 分析を理解し，応用できる．<br>(4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる．<br>(5) アンケート分析の手法を理解するとともに，クロス集計ができる． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる．(2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる．(3) What-If 分析を理解し，応用できる．(4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる．(5)アンケート分析の手法を理解するとともに，クロス集計ができる．，については課題レポート(100% : (1)20%, (2)20%, (3)20%, (4)20%, (5)20%)で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（テキストに代わる授業資料を配布する）<br>指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）<br>参考書：後日、担当教員から通知する． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（人文 b) | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に，さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ．特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について，表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ．さらに，学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ. | |
| 到達目標 | （1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。<br>（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%　で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義開始時に指定する。指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（人文 c) | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森　将豪※ | |
| 授業概要 | インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる.<br>(2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる.<br>(3) What-If 分析を理解し，応用できる.<br>(4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる.<br>(5) アンケート分析の手法を理解するとともに，クロス集計ができる. | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる. (2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる. (3) What-If 分析を理解し，応用できる. (4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる. (5) アンケート分析の手法を理解するとともに，クロス集計ができる.，については課題レポート(100% : (1)20%, (2)20%, (3)20%, (4)20%, (5)20%)で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（テキストに代わる授業資料を配布する）<br>指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）<br>参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（人文 d) | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。<br>（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%　で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義開始時に指定する<br>指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版）<br>参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（看護 a） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中川　雅央※ | |
| 授業概要 | 情報とは何か．わたしたちの暮らしの中で様々な形で利用されている情報を科学的に捉えるために必要な基礎的方法論を学ぶ．さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となる統計処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要な統計処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 得られたデータを記述する基本的方法を習得する。<br>(2) 得られたデータから推測する方法として推定と検定の基本を習得する。<br>(3) 複数の情報が含まれるデータを解析する基本的方法を習得する。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>到達目標の(1)は 20%、(2)は 40%、(3)は 40%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：丸井英二編「最新 保健学講座 6 疫学／保健統計」（メヂカルフレンド社）.<br>指定図書：授業内にて提示する.<br>参考書：授業内にて提示する. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報科学概論（看護 b） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中川　雅央※ | |
| 授業概要 | 情報とは何か．わたしたちの暮らしの中で様々な形で利用されている情報を科学的に捉えるために必要な基礎的方法論を学ぶ．さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となる統計処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要な統計処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 得られたデータを記述する基本的方法を習得する。<br>(2) 得られたデータから推測する方法として推定と検定の基本を習得する。<br>(3) 複数の情報が含まれるデータを解析する基本的方法を習得する。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>到達目標の(1)は 20%、(2)は 40%、(3)は 40%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：丸井英二編「最新 保健学講座 6 疫学／保健統計」（メヂカルフレンド社）.<br>指定図書：授業内にて提示する.<br>参考書：授業内にて提示する. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プログラミング基礎 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮城　茂幸 | |
| 授業概要 | ソフトウェアがどのように作成されているかについての概念を学び、実際に C 言語を使用して Linux 上で、簡単な文字ベースのアプリケーションプログラムを開発する。特に理系の学生には必要とされる数値解析法へ応用できるよう、型の厳密な扱いや、プログラムの見通しをよくするためのモジュール化などについても触れる。この演習では Linux を利用するが、Linux には特化せず一般的な Unix での開発ができるよう普遍性のある知識の習得を目指す。 | |
| 到達目標 | （1）定数および変数の型を理解し、基本的な算術演算による計算と標準入出力が行えること。<br>（2）if、while、for を用いプログラムフローが制御できること。<br>（3）配列を用いたプログラムが記述できること。<br>（4）組込み関数を利用できるとともに、機能単位を関数として実装できること。 | |
| 成績評価 | 講義中に行う課題および到達確認テストで成績を算出する。<br>（1）（2）（3）（4）それぞれ課題 15%、到達確認テスト 10%で評価し成績を算出する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：柴田望洋著「新版明解 C 言語　入門編」（ソフトバンククリエイティブ）<br>指定図書：B. W. カーニハン、D. M. リッチー著、石田晴久訳「プログラミング言語 C（共立出版）<br>参考書：B. W. カーニハン、 P. J. プローガー著、 木村泉訳「プログラム書法」（共立出版）<br>必要に応じ、講義資料を配布したり、指定図書や参考書を担当教員から指定する場合がある。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プログラミング基礎 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮城　茂幸 | |
| 授業概要 | プログラミングの概念や初歩的なプログラミング手法を学ぶだけでなく、実際の開発環境についての知識を習得することを目指す。簡単なアルゴリズムを具体的にプログラムとして表現できるよう、定数や変数の型、各種演算、フロー制御、関数の書式について学ぶ。使用する言語は C または Fortran を想定しているが、受講者にあわせて適宜選択できるよう配慮する。 | |
| 到達目標 | (1) 定数および変数の型を理解し、基本的な算術演算による計算と標準入出力が行えること。<br>(2) if、while、for を用いプログラムフローが制御できること。<br>(3) 配列を用いたプログラムが記述できること。<br>(4) 組込み関数を利用できるとともに、機能単位を関数として実装できること。 | |
| 成績評価 | 講義中に行う課題および到達確認テストで成績を算出する。<br>(1) (2) (3) (4) それぞれ課題 15%、到達確認テスト 10%で評価し成績を算出する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：柴田望洋著「新版明解 C 言語　入門編」(ソフトバンククリエイティブ)<br>指定図書：B. W. カーニハン、D. M. リッチー著、石田晴久訳「プログラミング言語 C (共立出版)<br>参考書：B. W. カーニハン、 P. J. プローガー著、 木村泉訳「プログラム書法」(共立出版)<br>必要に応じ、講義資料を配布したり、指定図書や参考書を担当教員から指定する場合がある。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（運動処方） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、運動処方を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | (1)健康・体力の保持増進に必要な運動の科学的知識を理解する。<br>(2)各自の目的（健康維持、体力向上、肥満予防および解消等）に応じた安全で効果的な運動を処方する。<br>(3)身体の状態を把握、体力テストに基づき運動の種類、運動強度、運動時間、運動頻度をプログラムする。<br>(4)運動処方の内容に従い実践し、生理的変化や運動の効果を確認、処方の内容を考察する。 | |
| 成績評価 | ・到達目標(2)，(3)および(4)の実践を「実技学習課題」60％とし，(1)および(4)の考察を「試験またはレポート」40％で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業に必要な資料は随時プリントして配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（サッカー） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　力※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、サッカーを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | (1)サッカーの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。<br>(2)生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。<br>(3)グループでの活動に必要な態度を身につける。 | |
| 成績評価 | ・到達目標(1)および(3)を「実技学習課題」60％とし，(2) を「試験またはレポート」40％で評価する。・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（スキー・スノーボード） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、スキー・スノーボードを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | (1)スキー・スノーボード運動による健康・体力の維持増進および自然環境への理解を深める.<br>(2)スキー・スノーボード実習を通してライフスキルの能力を養う。 | |
| 成績評価 | ・到達目標（1）および（2）を「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（卓球） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 芳田　哲也※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、卓球を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・卓球の基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。<br>・生涯スポーツとしての卓球を楽しむための練習計画を作成できるようになる。<br>・運動学的あるいは力学的観点から卓球の技術を分析し技術の習得を目指す。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（テニス） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 多胡　陽介※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、テニスを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・テニスの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。<br>・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。<br>・グループでの活動に必要な態度を身につける。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（ニュースポーツ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ニュースポーツを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・ 身体活動の科学的法則性を理解し，望ましい健康増進の手法を学ぶ。<br>・ 生涯スポーツとしてのニュースポーツの文化的意義を理解し，基本技術を習得する。<br>・地域や職域における生涯スポーツの普及発展の中心的な役割を担う人材の育成をめざす。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（バスケット） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩瀬　雅紀※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バスケットボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・ ゲームに必要な基礎技術、持久力、素早さ、瞬発力、動きの柔軟性、的確な判断力を養う。<br>・ バスケットボールの戦術を理解し、ゲームでの攻防を楽しむ。<br>・ グループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、自主性を養う。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：「わかりやすいバスケットボールのルール」 成美堂出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅰ（バドミントン） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩瀬　雅紀※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バドミントンを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・ゲームに必要な基礎技術、持久力、素早さ、瞬発力、動きの柔軟性、的確な判断力を養う。<br>・シングルスゲームおよびダブルスゲームの戦術を理解し、ゲームでの攻防を楽しむ。<br>・グループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、自主性を養う。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（ゴルフ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ゴルフを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | (1) ゴルフ・ゲームの特性（自己申告制，自然との対話，心・技・体のバランス，ハンディキャップ制など）を生かし，生涯にわたってゴルフが楽しめる基礎をつくる。<br>(2) コースのラウンド実習では，エチケット・マナーをまもりより豊かな人間性と社会性を養う。 | |
| 成績評価 | ・到達目標(1)を「実技学習課題」60%とし，(2) を「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩瀬　雅紀※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ソフトボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・ソフトボールの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。<br>・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。<br>・グループでの活動に必要な態度を身につける。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：「わかりやすいソフトボールのルール」 成美堂出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（バドミントン） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 多胡　陽介※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バドミントンを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・バドミントンの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。<br>・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。<br>・グループでの活動に必要な態度を身につける。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（バレーボール） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 多胡　陽介※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バレーボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・バレーボールの基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。<br>・好ましいグループづくりを目指す。<br>・運動生理学の立場から，必要な運動量を確保する。・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・　ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：「わかりやすいバレーボールのルール」 成美堂出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（運動処方） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、運動処方を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | (1)健康・体力の保持増進に必要な運動の科学的知識を理解する。<br>(2)各自の目的（健康維持、体力向上、肥満予防および解消等）に応じた安全で効果的な運動を処方する。<br>(3)身体の状態を把握、体力テストに基づき運動の種類、運動強度、運動時間、運動頻度をプログラムする。<br>(4)運動処方の内容に従い実践し、生理的変化や運動の効果を確認、処方の内容を考察する。 | |
| 成績評価 | ・到達目標(2)，(3)および(4)の実践を「実技学習課題」60％とし，(1)および(4)の考察を「試験またはレポート」40％で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業に必要な資料は随時プリントして配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（海洋スポーツ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、海洋スポーツを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | (1)海洋スポーツ（カヤックカヌー、ヨットおよびボードセーリング）の基礎技術を習得する。<br>(2)海洋スポーツの実践により自主性、自律性、自己の責任、安全管理（危機回避）等の能力を養う。<br>(3)滋賀の自然と親しみ、スポーツフィールドとしての側面から琵琶湖の抱えている問題を理解する。<br>(4)生涯スポーツとしての海洋スポーツを理解する。 | |
| 成績評価 | ・到達目標(1)および(2)を「実技学習課題」60％とし，(3)および(4)を「試験またはレポート」40％で評価する。<br>・怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 実習に必要な資料（テキスト）は全てプリントして配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（卓球） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　力※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、卓球を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・卓球の基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。<br>・生涯スポーツとしての卓球を楽しむための練習計画を作成できるようになる。<br>・運動学的あるいは力学的観点から卓球の技術を分析し技術の習得を目指す。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康・体力科学Ⅱ（テニス） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 芳田　哲也※ | |
| 授業概要 | 健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、テニスを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。 | |
| 到達目標 | ・テニスの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。<br>・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。<br>・グループワークを通して，コミュニケーション能力や協調性，自主性を養う。 | |
| 成績評価 | ・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。<br>・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。<br>・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考図書を適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初級ＩＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （１）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（２）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（３） 授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（４）ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。<br>（５）授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト試験 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんきⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムス<br>げんき ワークブックⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初級ＩＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）　授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。<br>（5）授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト試験 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんきⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムス<br>げんき ワークブックⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初級ⅡＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。<br>（5）授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト試験 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんきⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブックⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初級ⅡＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。<br>（5）授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト試験 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんきⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブックⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初級ⅢＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。<br>（5）授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト試験 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんきⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブックⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初級ⅢＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）　授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。<br>（5）授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト試験 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんきⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブックⅠ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級ⅠＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）　授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | プレゼンテーション 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんきⅡ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムス<br>げんき ワークブックⅡ(2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級Ｉ Ｂ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | プレゼンテーション 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんき II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムス<br>げんき ワークブック II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子　ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級ⅡＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | プレゼンテーション 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんき II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブック II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子 ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級ⅡＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）　授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | プレゼンテーション 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんき II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブック II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子 ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級Ⅲ A） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3） 授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | プレゼンテーション 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんき II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブック II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子 ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級Ⅲ B） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を理解することができる。<br>（2）限られた日常生活の場面で必要とされる基本的な語彙・文法・表現を使うことができる<br>（3）授業で学んだ日常生活の場面で、簡単な会話が自発的にできるようになる。<br>（4）授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。 | |
| 成績評価 | プレゼンテーション 30%、期末試験 30%、宿題 20%、小テスト 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：げんき II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 ジャパンタイムスげんき ワークブック II (2011) 板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子 ジャパンタイムス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級Ⅳ A） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野山　愛弥※ | |
| 授業概要 | 初級で学んだ基礎項目を復習しながら、日本の大学で学ぶために必要な４技能のバランスがとれた日本語能力を養う。日常会話を練習し、初級より自然で円滑なコミュニケーションの方法を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）日本の大学の授業が理解できるように「聴解」の力をつける。<br>（2）レポートが書けるように読解・作文の力をつける。<br>（3）初級より複雑な、目的に合った日本語を運用できるようにする。<br>（4）自分の考えが話せるように談話能力をつける。 | |
| 成績評価 | 中間試験 30%、期末試験 30%、授業への参加度 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『みんなの日本語中級Ⅰ』<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（初中級ⅣＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野山　愛弥※ | |
| 授業概要 | 初級で学んだ基礎項目を復習しながら、日本の大学で学ぶために必要な４技能のバランスがとれた日本語能力を養う。日常会話を練習し、初級より自然で円滑なコミュニケーションの方法を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）日本の大学の授業が理解できるように「聴解」の力をつける。<br>（2）レポートが書けるように読解・作文の力をつける。<br>（3）初級より複雑な、目的に合った日本語を運用できるようにする。<br>（4）自分の考えが話せるように談話能力をつける。 | |
| 成績評価 | 中間試験 30%、期末試験 30%、授業への参加度 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『みんなの日本語中級Ⅰ』<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（中級ⅠＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 「日本語能力試験Ｎ２」のテスト対策に特化し、問題演習を行う。授業では、文法を中心とした問題を解き、Ｎ２レベルを合格できる程度の文法能力をつけるようにする。 | |
| 到達目標 | （1）日本語能力試験Ｎ２レベルの文法を理解できるようになる。<br>（2）日本語能力試験Ｎ２合格レベルの語彙や表現を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト 40%、期末試験 40%、宿題 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（中級ⅠＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴川　真由美 | |
| 授業概要 | 「日本語能力試験Ｎ２」のテスト対策に特化し、問題演習を行う。授業では、文法を中心とした問題を解き、Ｎ２レベルを合格できる程度の文法能力をつけるようにする。 | |
| 到達目標 | （1）日本語能力試験Ｎ２レベルの文法を理解できるようになる。<br>（2）日本語能力試験Ｎ２合格レベルの語彙や表現を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達確認テスト 40%、期末試験 40%、宿題 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（中級ⅡＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野山　愛弥※ | |
| 授業概要 | 「日本語能力試験Ｎ２」レベルの問題を解き、合格できる力を身につけていく。 | |
| 到達目標 | （1）幅広い話題について書かれた文章の内容が理解できる。<br>（2）日本語能力試験Ｎ２に合格できる力を身につけ、総合的な日本語能力を高める。 | |
| 成績評価 | 中間試験 30%、期末試験 30%、授業への参加度 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 資料を配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（中級ⅡＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野山　愛弥※ | |
| 授業概要 | 「日本語能力試験Ｎ２」レベルの問題を解き、合格できる力を身につけていく。 | |
| 到達目標 | （1）幅広い話題について書かれた文章の内容が理解できる。<br>（2）日本語能力試験Ｎ２に合格できる力を身につけ、総合的な日本語能力を高める。 | |
| 成績評価 | 中間試験 30%、期末試験 30%、授業への参加度 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 資料を配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（中級ⅢＡ） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 内田　孝※ | |
| 授業概要 | この授業では中級レベルの学習者を対象に、日本語の聴解能力、さらにコミュニケーション能力の向上を目指す。<br>まず、大学生活・日本の日常生活・様々なトピックなどに関する幅広い日本語を聞きながら、より正確に聞き取りと内容理解ができるようになることを目指す。例えば、ややゆっくり～自然な速さ、フォーマル～インフォーマルな場面、標準語～関西弁といった様々な日本語を用意する。<br>また、聴解能力を向上させると同時に、実際に自分がその日本語を用いて談話の練習も行う。こうした活動を通じ、語彙・表現・文法知識を増やし、日本語でのコミュニケーション能力を高めることを目指す。 | |
| 到達目標 | 1)幅広い日本語を聞きながら、より正確に聞き取りと内容理解ができるようになる。<br>2)語彙・表現・文法知識を増やし、日本語でのコミュニケーション能力を高める。 | |
| 成績評価 | 期末テスト 50%、小テスト・発表などの課題達成 50%。授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義の中で紹介する。<br>指定図書：講義の中で紹介する。<br>参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本語基礎（中級ⅢＢ） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 内田　孝※ | |
| 授業概要 | この授業では中級レベルの学習者を対象に、日本語の聴解能力、さらにコミュニケーション能力の向上を目指す。<br>まず、大学生活・日本の日常生活・様々なトピックなどに関する幅広い日本語を聞きながら、より正確に聞き取りと内容理解ができるようになることを目指す。例えば、ややゆっくり～自然な速さ、フォーマル～インフォーマルな場面、標準語～関西弁といった様々な日本語を用意する。<br>また、聴解能力を向上させると同時に、実際に自分がその日本語を用いて談話の練習も行う。こうした活動を通じ、語彙・表現・文法知識を増やし、日本語でのコミュニケーション能力を高めることを目指す。 | |
| 到達目標 | 1)幅広い日本語を聞きながら、より正確に聞き取りと内容理解ができるようになる。<br>2)語彙・表現・文法知識を増やし、日本語でのコミュニケーション能力を高める。 | |
| 成績評価 | 期末テスト 50%、小テスト・発表などの課題達成 50%。授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義の中で紹介する。<br>指定図書：講義の中で紹介する。<br>参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | Medieval Japan in the World | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Peter Morris | |
| 授業概要 | This course focuses on the development of Societies of the world as it follows the timeline of ancient Japan. We will have the opportunity to contrast cultural development, governments, power struggles with the situation in developing Japan. Eventually, the world and Japan come together. We will have the opportunity to see how the world sees Japan. | |
| 到達目標 | This course focuses on the development of Societies of the world as it follows the timeline of ancient Japan. We will have the opportunity to contrast cultural development, governments, power struggles with the situation in developing Japan. Eventually, the world and Japan come together. We will have the opportunity to see how the world sees Japan. | |
| 成績評価 | You will be graded on four elements:<br>a) 4 papers or projects,　b)participation,　c)exams/quizes<br>Attendance　30%<br>Participation 20%<br>Exams　25%<br>Writing Assignments 25% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | I will assign readings as necessary. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | Modernizing Japan in the World | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Peter Morris | |
| 授業概要 | This course focuses on world history and association along the timeline of the modernization of Japan as she struggles to adapt to the ever changing world around her.. As we observe the evolution of Modern Japan we will focus on the influences and interaction of other nations. | |
| 到達目標 | This course focuses on world history and association along the timeline of the modernization of Japan as she struggles to adapt to the ever changing world around her.. As we observe the evolution of Modern Japan we will focus on the influences and interaction of other nations. | |
| 成績評価 | participation, quizzes/tests, essays | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Please note that the student is expected to have read and studied the assigned reading and prepared for discussions prior to each class. Be sure to bring to class the texts under discussion. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | Contemporary Japanese Culture | ２単位　前･後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Peter Morris | |
| 授業概要 | This course is a thematic series of lectures aimed at attaining a comprehensive understanding of the rich culture of Japan, both past and present. Students will become familiar with Japanese Culture through lectures and hands-on participation. Through this series, students will be introduced and gain a general understanding of such subjects as language arts, history, art, environmental science, and basic martial arts. | |
| 到達目標 | Through this series, students will be introduced and gain a general understanding of such subjects as language arts, history, art, environmental science, and basic martial arts. | |
| 成績評価 | Participation constitutes 30% of your grade.<br>Essays constitute 30% of your grade.<br>Presentation constitutes 40% of your grade. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Course Handouts will be provided | |
| 履修資格 | | |

# 人 間 学 の 考 え 方

## 人間存在と環境・社会を深く見つめる人間学

大学に入学してからは、それぞれの専門分野の学習と、独立した個人としての志を育てるための４年間を過ごすことになります。この両者のバランスが重要なのですが、従来の大学教育で行われていた一般教養の組み立て方は、ともすれば並列的に客観的知識として教える内容と、それを教えられる学生とが乖離したままの傾向がありました。変化の早い時代に大学で主体的に学び、考える学生が育つには、それとは異なる新しい座標軸の設定が要請されてきました。

本学ではこの要請に応えるために、開学当初から従来の一般教養とは異なった「人間学」という科目群を設けています。日々、複雑化・流動化してゆく現代社会の中で、人間というものを深く見つめ、そこから今後の指針を自ら見出していける学生が育つことを願って設けられたものです。これらの科目では、具体的、現実的な問題を通して「人間」という存在について考え、将来、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を、学生諸君自らがそれぞれの個性にしたがって身につけることを目標にしています。

身につけた知識や技術が高度で、専門的であるほど、人間・環境・社会・文化というものの理解も深く、幅広くなっていかなければならないでしょうし、それによってこそ専門分野の感性も磨かれるという思いが背景にあります。

本学では、この「人間学」の趣旨にふさわしい 32 科目を用意しました。

これら 32 科目のうち、「人間探求学」を必修科目に指定します。自己表現能力開発を目指す少人数グループ形式の「人間探求学」は本学でまず学ぶべきものとして、１年次前期の必修科目とします。

■クラスターについて

人間学は「こころ」「しくみ」「しぜん」「わざ」の４クラスター（分類群）に分けられています。各クラスターからバランスよく選択して履修してください。

■ＣＡＰ制度について

人間学では、１年間に履修することのできる科目数に上限を設ける「ＣＡＰ制度」を採用しています。１年間に履修できる科目の上限は、必修である「人間探求学」を除いて３科目としますので計画的に履修してください。なお、低学年で集中的に履修することなく、高学年でも履修するように心がけてください。

■所属学科提供科目以外での履修について

人間学は、所属学科の専門科目では学ぶことのできない幅広い知識や人間性を養うことを目的としていますので、自身の所属する学科から提供された科目ではなく、他学科から提供された科目を中心に履修すること推奨します。

２０１５（平成２７）年度人間学　科目一覧

| クラスター | 科　　目 | 所属学科情報 | 定員(※1) | 単位 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 環境科学 | 工学 | 人間文化 | 人間看護 |
| 必　　修 | 人間探求学 | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| こ　こ　ろ（Ethics） | 差別と人権（同和問題） | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 人間にとって環境とは何か | 環境政策 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 人間の行動と空間 | 建築デザイン | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 生命・人間・倫理　注１ | 人間看護 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 思索の視点 | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| し　く　み（Social Studies） | 現代経済論<キャリア教育推奨> | 環境政策 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 異文化理解Ａ　注２ | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 異文化理解Ｂ　注２ | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 性を考える | － | 200 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 国際協力論　注３ | 国際コミュ | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 農業問題入門 | 生物資源 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 国際環境マネジメントⅠ　注４ | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 国際環境マネジメントⅡ　注４ | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 憲法<キャリア教育推奨> | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | Medieval　Japan | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | Modernizing　Japan | － | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| し　ぜ　ん（Natural Sciences） | 自然保護論 | 環境生態 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 材料史 | 材料科学 | 200 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 自然科学の視点 | 材料科学 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 空間論 | 建築デザイン | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 自然現象のしくみ | 環境生態 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| わざ（Technology） | こころのテクノロジー | 人間関係 | 300 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 人間と病気 | 人間看護 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 持続的農業論 | 生物資源 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 比較都市論 | 建築デザイン | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 機械の再発見 | 機械システム | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 電子社会と人間 | 電子システム | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 比較住居論　注５ | 生活デザイン | 200 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 栄養と人間　注６ | 生活栄養 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 生活と健康 | 人間看護 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 植物の病気 | 生物資源 | | 2 | 2 | 2 | 2 |

注１　「生命・人間・倫理」は、人間看護学部の学生は必修の人間学として取り扱われ、それ以外の学部の学生は選択の人間学として取り扱われます。

注２　「異文化理解Ａ」と「異文化理解Ｂ」は、海外短期研修における特別講義です。Ａは４月中旬、Ｂは 10 月中旬に授業日程等の詳細について発表されるとともに、参加者の募集が行われる予定です。成績評価は「認定」または「不可」となります。

注３　「国際協力論」は、隔年開講（偶数年開講）となります。

注４　「国際環境マネジメントⅠ」と「国際環境マネジメントⅡ」は、海外短期研修における特別講義です。ベトナム、タイ、バングラデシュ等アジア諸国の大学と提携し相手国の学生も参加する共通のプログラムとして、（後期定期試験終了後に）10 日程度実施されます。詳細は別途お知らせします。

注５　「比較住居論」は、生活デザイン学科、人間関係学科の学生は学科専門科目で開講されます。

注６　「栄養と人間」は、人間看護学部の学生は必修の人間学として取り扱われ、それ以外の学部の学生は選択の人間学として取り扱われます。

※１　履修定員が設けられている科目があります。履修登録についてはP.４の「（３）人間学の履修登録」を参照してください。

※２　教育職員免許の必修となる科目で、定員を超える登録があった場合は免許取得希望者を優先します。ただし、当該年度履修登録時に期限内に「資格取得申告書」により申告のあった者に限ります。

※３　編入学生のカリキュラムは、編入学年度のカリキュラムではなく、編入した年次の学生と同一のカリキュラムが適用されます。

※４　滋賀大学との単位互換協定に基づき、「滋賀大学での全学共通教養科目」を履修し、修得した単位は、本学の人間学として４単位まで卒業要件に算入できます。

※５　彦根３大学の単位互換協定に基づき、「彦根・湖東学」を履修し、修得した単位は、本学の人間学として卒業要件に算入できます。

| 科目名 | 異文化理解Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 国際交流委員会 | |
| 授業概要 | 夏季休業中の３週間、アメリカミシガン州のレイクスペリオル州立大学において、下の授業計画による特別講義を履修します。これらの講義は、英語の講義と大学周辺地域でのフィールドトリップとが組み合わされています。それ以外に、出発前には本学において、専門基礎講座と英語集中講座を受講します。また現地では、週末に同大学教員宅にてホームスティを過ごし、さらにはネイティブアメリカンやパイオニアスタイルの食事を体験します。 | |
| 到達目標 | 英語によるコミュニケーション能力の向上はもちろん、アメリカ・カナダの自然と文化に触れ、国際感覚を涵養するとともに、異文化の理解に努めます。 | |
| 成績評価 | 修了後に提出するレポート（１００%)。評価は「認定」となります。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：特にありませんが、事前授業の中で資料を配付します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 異文化理解Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 国際交流委員会 | |
| 授業概要 | 春季休業中の３週間、中国湖南省の湖南師範大学において、下の授業計画による特別講義を履修します。これらの講義は、中国語の講義と大学周辺地域でのフィールドトリップや中国文化の演習とが組み合わされています。それ以外に、出発前には本学において、中国語講座を受講します。また現地では、中国湖南地方の伝統的な食事を体験します。 | |
| 到達目標 | 中国語によるコミュニケーション能力の向上はもちろん、中国の自然と文化に触れ、国際感覚を涵養するとともに、異文化の理解に努めます。 | |
| 成績評価 | 修了後に提出するレポート（１００%)。評価は「認定」となります。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：特にありませんが、事前授業の中で資料を配付します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養と人間 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　克己 | |
| 授業概要 | 栄養素の名前とヒトのエネルギーおよび栄養素の必要量を講義する．栄養素の体内運命を講義する．具体的には，食べた物の消化・吸収，体内分配，細胞内での代謝，体外排泄を講義する． | |
| 到達目標 | (1)栄養素の名前とヒトのエネルギーおよび栄養素の必要量を知る．<br>(2)食べた物の体内運命を述べることができる． | |
| 成績評価 | 試験，授業態度（ノートの記述，質問に対する応答，机に伏せって寝ていないか，など） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 基礎栄養学，改訂第 4 版，奥恒行，柴田克己編集，南江堂<br>日本人の食事摂取基準 2010 年版，南江堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械の再発見 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山根　浩二 | |
| 授業概要 | 日常生活には，多くの機械や道具が使われているが，その基本となっているのは，てこ，滑車，ねじ，歯車，カムなどの紀元前に考案され使用されてきたものである．日頃から私たちが使用し親しんでいる機械や道具類の仕組みを知ることは，さらなる便利な使いやすい機械やおもしろい動作をする機械をつくるヒントになる．そこで，本講義では，日常接している機械を例にとり，いかに巧みな機械要素が利用されているのかを説明し，機械要素を再発見する．講義は，機械に興味をもっているが，機械に関する専門的な知識がない人でも理解できる内容とする。 | |
| 到達目標 | （1）基本的な機械要素の名称が言える<br>（2）基本的な機械要素を説明できる<br>（3）いくつかの機械要素からなる機械や道具を上げることができる<br>（4）そのメカニズムを概説できる | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)に関して中間試験および定期試験それぞれ 10%で，(2）に関して中間試験および定期試験それぞれ 15%で，(3）に関して中間試験および定期試験それぞれ 10%で，(4）に関して中間試験および定期試験それぞれ 15%で，合計 100 点満点（内訳：中間試験 50，定期試験 50）で評価し，６０点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストなし，プリントを配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 空間論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 水原　渉※ | |
| 授業概要 | 我々は「空間を計画する」という。しかし、空間とは一体どんなものなのか、あるいは、その空間を計画するとはどういうことなのか。環境と空間はどう異なるのか。この様な問いを基底に据え、①空間を考え（空間論）、更に②その計画（計画空間論）を扱う。「①空間論」の部分では「根拠としての空間」、「空間をそれとして認識する人間」と「その人間の空間認識の歴史」の点から空間理解を深めていく。「計画空間論－計画する空間と計画」は、生の空間認識だけでなく、計画者の立場での「認識の方法」をもって理解され計画されるものである。その様な認識の特性についてもみていき、②「計画空間論」の部分で、実際の空間計画を例示しながら、これからの空間計画のあり方について検討する。　空間計画は、環境問題、特に自然環境保全や将来の都市・地域形成に対し更に重要となっており、その意味についても考えていきたい。 | |
| 到達目標 | 本授業を通して、空間というものを通して人間や自然、社会について、そして空間計画について一定の理解し、今後、自らの考え方をつくりあげていく上での一つの基本的枠組を得る。 | |
| 成績評価 | 試験(60%)とレポートの成績(40%)によって評価する。５回を超える欠席の場合、受験資格を失う。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する（変更の可能性あり）。参考書：授業中に提示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代経済論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　康夫※ | |
| 授業概要 | 現代経済の基本的な性質や機能とその役割、問題点について概略的に学ぶ。ミクロとマクロの両面から経済の諸側面（：景気と物価、国際経済、産業、雇用、経営、財政、金融など）について初歩的な内容を学ぶ。また、日本経済の代表的な現象を参考にして、歴史・文化・制度と構造、理論、政策に関するその基本的な学習を行う。 | |
| 到達目標 | 基礎的な経済学の理解と新聞の経済欄やニュースを理解できるようにするのがねらいである。 | |
| 成績評価 | 「中間まとめ評価」40 点満点＋「レポート提出」20 点＋「期末試験」40 点満点＝100 点満点で評価する。（調整あり） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：テキスト、参考書：後日提示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 憲法 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　豪志※ | |
| 授業概要 | 日本国憲法は，その制定後 60 年を経過し「経年劣化」が言われるところである。そのため，裁判員制度の導入や，道州制・首相公選制の導入論に見られるような新たな動きも存するところであるが，判例の永年の集積は，我が憲法の理念に光を投げかけ，その意味するところを示唆する。但し，判例は実社会を後追いする傾向があることは否めず，受講生にはより主体的能動的な理解を求めたい。そこで，特に人権条項中の表現の自由について，その民主主義的意義を理解し，さらに統治機構との関係を明らかにすることで，憲法の全体像の理解につなげたい。 | |
| 到達目標 | 憲法の基本構造を理解し，人権相互ないし法的利益との調整手法を学ぶ。その上で，表現の自由を中心とした精神的自由が，成熟した民主主義社会に果たす役割を理解する。 | |
| 成績評価 | ⑴民主主義と表現の自由のそれぞれについて、基礎的な理解がある。⑵二重の基準論について、正確な理解がある。⑶政治部門と司法部門の相互関係について、正確な理解がある。⑷統治機構と表現の自由の相互関係について、正確な理解がある。定期試験によって評価する（⑴30%、⑵30%、⑶20%、⑷20%）。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：憲法講義　山上賢一編著（中央経済社），憲法判例集　野中俊彦・江橋崇編著（有斐閣新書）指定図書：芦部信喜著　高橋和之補訂　憲法第５版（岩波書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 国際環境マネジメントⅠ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸尾　雅啓　・　原田　英美子・高橋　卓也 | |
| 授業概要 | アジアの環境問題をそれが生起している場の自然条件および社会条件と合わせて理解し、その解決策を検討する能力を海外現地教員による講義、事例調査とワークショップを通じて養うことを目標とする。そのために、問題を俯瞰的にとらえる能力、異なる社会的・文化的背景を有する人々とのコミュニケーション能力、専門的知識を問題解決に応用する能力を養う。授業の形態は、海外（アジア地域）の大学と連携し、アジア地域の環境問題の現場を対象とした講義、フィールドワーク、ワークショップ形式で行うこととする。使用言語は英語とする。10 日間程度の海外集中プログラムとして実施する。 | |
| 到達目標 | (1)アジアの環境問題を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。<br>(2)アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションできる。<br>(3)本コースで学んだ知識を具体的な環境問題解決に応用することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)、(3)については、授業の最後に実施するプレゼンテーション（50%:(1)20%, (2)20%, (3)10%）とワークショップにおけるリーダーシップ（50%:(1)20%, (2)20%, (3)10%）により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Environmental Studies in Asia(配布予定)<br>参考図書：適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 国際環境マネジメントⅡ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸尾　雅啓　・　原田　英美子・高橋　卓也 | |
| 授業概要 | 本科目は、国際環境マネジメントの経験者が、さらに進んだ能力、すなわち異文化間での合意形成能力の養成を行うためのものである。国際環境マネジメントで養成する能力に加え、日本を除く複数のアジアの国々を俯瞰的にとらえ、コミュニケーション、問題解決につなげる能力を養成する。国際環境マネジメントのプログラムに参加し、より主導的に講義、フィールドワーク、ワークショップに臨むこととなる。 | |
| 到達目標 | (1)アジアの日本以外の複数の国々の環境問題を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。<br>(2)(1) を踏まえて、アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションし、合意形成に主導的な役割を果たすことができる。<br>(3)(1) を踏まえて、本コースで学んだ知識を具体的な環境問題解決に応用することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)、(3)については、授業の最後に実施するプレゼンテーション（50%:(1)20%, (2)20%, (3)10%）とワークショップにおけるリーダーシップ（50%:(1)20%, (2)20%, (3)10%）により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Environmental Studies in Asia(非売品/配布予定) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 国際協力論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 島村　一平 | |
| 授業概要 | この科目では、国際協力活動の理念と実際について、青年海外協力隊を中心とした国際ボランティア活動の実践者たちを招き語ってもらう。それと同時に授業の参加学生と積極的に議論を交わす講義＋討論のワークショップの形をとるものとする。講師は毎回変わるオムニバス形式とし、受講生はアフリカ、アジア、南米、ヨーロッパ各地における生きた経験の語りから国際協力活動の魅力や援助を実施する上での諸問題に関する理解を深める。 | |
| 到達目標 | 講師の話から国際協力に対する関心を高めると同時に討論に積極的に参加することで、国際協力における諸問題に関する問題意識を高める. | |
| 成績評価 | 討論における参加度、レポートなどを総合的に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する。<br><br>指定図書　山本 敏晴（著)『世界と恋するおしごと―国際協力のトビラ』、小学館。<br>内海 成治（編）『国際協力論を学ぶ人のために』、世界思想社。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | こころのテクノロジー | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 細馬　宏通 | |
| 授業概要 | 歌は、歌詞だけでもメロディだけでもコードだけでもわからない。歌の基本構造がどんな風に発達してきたか、わたしたちが普段何気なく聞いているポピュラー音楽が、実はそうした構造によってどのように支えられているか、わたしたちはそこから何を汲み取っているかを、古今東西のさまざまなポピュラーソングをもとに考える。 | |
| 到達目標 | (1)ポピュラー音楽を考えるための基本構造を理解できる。<br>(2)ポピュラー音楽史の多様な流れに関心を持ち､ふだん聞いている音楽を比較することができる。<br>(3)身の回りのポピュラー音楽が、どんな基本的な構造を持っており、過去のどんな音楽とつながっているのかを、自身の力で考えることができる。 | |
| 成績評価 | (1)リスポンスペーパー(10%)<br>(2)リスポンスペーパー(20%)<br>(3)期末レポート(70%)によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：細馬宏通「歌のしくみ」(ぴあ) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料史 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Balachandran Jeyadevan ・ 北村　千寿 | |
| 授業概要 | 人類は日々の生活を便利に、快適に、そして活動しやすくするためにいろいろな材料を見いだし、利用し、今日の文明を築き上げてきた。現在の豊かな暮らしは有史以来の材料の発達の結果であり、新しい材料の発見は時には歴史を変える役割もしてきた。このような材料の発達の経過と材料が社会の進歩に貢献してきた歴史について、それらの材料を金属・セラミックスなどの無機材料と繊維、高分子などの有機材料に分けて説明し、ものづくりの大切さについて理解を深める。 | |
| 到達目標 | （1）青銅器時代から始まり鉄器時代に至る金属の歴史を理解すること。<br>（2）セラミックスやレアーメタルなどの新しい材料の発展について理解する。<br>（3）多様な有機材料の特性を理解し説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1),(2)については授業中の課題・レポート(50%)で、(3)については授業中の課題・レポート(50%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 金属と日本人の歴史　桶谷繁雄著　講談社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 差別と人権(同和問題） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大脇　万起子 ・ 山田　稔※ ・ 裵　敬隆※ | |
| 授業概要 | 山田稔：人権問題とはそもそも何か、また人権問題と差別問題について踏み込んで考えると共に、差別行為と差別意識の関係について、部落問題や教育問題、また国際交流問題などを通して考える。<br>裵敬隆：朝鮮人からみた戦後日本の差別と人権。そして在日朝鮮人への差別が現代日本の人権侵害を容認する社会構造とつながっていることを明らかにする。<br>大脇万起子：身近にある人権を脅かす事象の被害者および加害者にならないために、国内外の様々な「差別と人権」に関する事象を具体的に学習して課題意識を高め、有効な予防策や対応策について検討する。 | |
| 到達目標 | 1. 様々な人権問題、差別問題に対して、当事者への深い洞察力を持ち、その感情に共感できる態度を形成する。<br>2. 様々な人権問題、差別問題に対して、科学的に評価・判断し、解決のための方策を考えることができる。 | |
| 成績評価 | レポートによって行う。<br>レポートの形態は、各担当者より、授業開始時説明する。<br>５回以上欠席者は評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：講義中に適宜指示する<br>参考書：講義中に適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 思索の視点 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 菊地　憲次 | |
| 授業概要 | この講義は、様々な思索の視点をオムニバス形式で授業を展開して学ばせる。具体的には、学生個々に必要な知的能力、論理的思考や判断力の基礎を考えさせるとともに、将来設計能力を職業理解の視点から考えさせるとともに、さらに自ら学ぶための重要な要素である情報活用力について考えさえる講義をする。 | |
| 到達目標 | 読む力：読書を通じて、登場人物や筆者の生き方や考え方を理解することができる。<br>書く力:経験したことを論理的に文章にまとめることおよび自己紹介や自己表現を文章にまとめることができる。<br>聞く力：取材したことや労働法の構成と労働者の権利と義務を理解することできる。<br>話す力：(表現力・プレゼンテーション能力）取材してまとめたことや将来設計について人に説明できる。<br>情報処理能力：インターネットを通じた情報収集や利用に関する倫理が理解できる。 | |
| 成績評価 | 授業での発表：(表現力・プレゼンテーション能力）（３０点）<br>提出物：(読む力、書く力、聞く力、情報処理能力）（７０点）で評価する。<br>欠席３回を越えると不合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 追加情報に、推薦図書があります。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 自然現象のしくみ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 倉茂　好匡 | |
| 授業概要 | 日本ではさまざまな種類の自然災害が発生する。この講義では、日本で生活していくうえで遭遇する可能性のある自然災害を引き起こす現象をとりあげ、それぞれの現象のしくみについて学んでいく。そのうえで、各自が各種自然災害に対し、防災あるいは減災するための方策について考えていただく。<br>この講義を受講することで、日本で発生する各種自然災害のしくみを理解できるようになる。そのうえで、それらに対して準備する方法を考えられるようになることを最終目標とする。 | |
| 到達目標 | １）自然現象を引き起こすさまざまな自然現象について、その特徴を科学的用語を用いて説明できるようになる。<br>２）災害発生時を想定し、その自然現象の特徴に対する理解に基づいて自らの対応策を考えることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 1) 毎回のリプライペーパー(講義内容の理解度チェック）45%<br>2) 宿題(計７回）35%、レポート(最低２回）20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要な資料は、プリントとして授業の都度配布する。<br>レポート作成に必要な文献についても、初回授業で指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 自然保護論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西田　隆義 | |
| 授業概要 | 人間による自然利用、とくに生物資源の利用の成功と失敗を過去から現在までのさまざまな社会で比較検討し、賢明な資源利用にかかわるヒトの社会的特性と関連させて論ずる。次いで、近年社会的な関心が高まっている生物の多様性の保全について、その意義と多様性の創出と衰退に関わる生態学的なメカニズム、および多様性をいかに保全し、賢明に利用するかについて概説する。 | |
| 到達目標 | 生物多様性とは何かを理解し、保全生物学の基礎を理解する。 | |
| 成績評価 | 授業への取り組み 60%、レポート 40%：生物多様性の賢明で持続可能な利用と保全についてと理解していること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：文明崩壊（ジャレット・ダイヤモンド著）草思社<br>天敵なんてこわくない（西田隆義著）八坂書房 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 持続的農業論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 泉　泰弘 | |
| 授業概要 | 農業は人間にとって食糧生産のための必須の営みである。この生産活動をいかに環境と調和させ、持続的に維持するかを考えるため、農業という営みの特性、人口、食糧生産量、農業の現状、生産技術、ならびにそれらと環境との関わりや持続的生産の可能性について解説する。 | |
| 到達目標 | （1）世界の食料事情の現状と将来について説明することができる<br>（2）水田および畑作農業の特徴について説明することができる<br>（3）農業の持続性を脅かす要因について説明することができる<br>（4）持続的農業の実現に必要な事項について説明することができる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）から（4）について全て定期試験で評価する（各 25 点）。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義資料配付参考書：久馬一剛「食料生産と環境」　化学同人（1997）、東京大学農学部編「人口と食糧」　朝倉書店（1998）、巽二郎「地球環境と作物」　博友社（2007） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 植物の病気 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　一実 | |
| 授業概要 | 植物の病気の種類，特徴および原因を人間の病気と比較するとともに，とくに植物の伝染性の病原体について概説する。あわせて，農林業をとりまく微生物の世界に目を向け，植物に病気を引き起こす病原体とともに，作物保護に有用な様々な微生物について紹介する。 | |
| 到達目標 | （1）植物の病気と人間の病気の特徴やちがいを理解することができる。<br>（2）植物の病気のさまざまな原因について理解することができる。<br>（3）農林業に関連する微生物の世界について興味を示すことができる。<br>（4）作物保護に有用な農業微生物について理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）～（4）について，定期試験（50%）および小テスト・課題レポート（50%）で評価する。評価比率はそれぞれ 12.5%とする。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>指定図書：講義の中で適宜紹介する。<br>参考書　：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活と健康 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大脇　万起子 | |
| 授業概要 | 人間の健康について多角的に捉え、発達過程や様々な生活環境と健康との関連性を振り返り、自らの生活をより健康的に整えられるための取り組みを検討する。 | |
| 到達目標 | ①生活習慣と健康との関連性を理解する<br>②自らの生活習慣を健康の視点から振り返り、問題点を検討することができる<br>③健康的な生活に向けて、行動変容をおこすことができる | |
| 成績評価 | 毎授業毎の小試験点（10 点満点）の総計÷1.5<br>欠席した場合は、教務が認める正当な理由がない限りその回は 0 点<br>詳細はルーブリック（ＨＰのシラバスの文書）参照 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 毎授業で紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生命・人間・倫理 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 糸島　陽子 ・ 窪田　好恵 | |
| 授業概要 | 人間の生命の尊厳と権利の尊重についての基本的な考え方、倫理原則、倫理理論を学ぶ。また、現代の生命倫理・医療倫理に関する具体的な問題や課題に視点を当て、看護の立場から適切な判断や解決の方略を考える。 | |
| 到達目標 | (1)現代社会における倫理的課題と解決のための方略を理解できる。<br>(2)人に対する深い洞察力を持ち、人の尊厳と権利を擁護する倫理観を養う。 | |
| 成績評価 | (1)現代社会における倫理的課題と解決のための方略を理解できる。<br>(2)人に対する深い洞察力を持ち、人の尊厳と権利を擁護する倫理観を養う。<br><br>定期試験（60%：(1)30%(2)30%）、課題レポート（40%：(1)20%(2)20%）、<br>グループ討議への参加状況を総合して評価する。<br><br>講義内容は一部変更することもある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義にて紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 性を考える | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 京樂　真帆子 ・ 武田　俊輔 ・ 横田　祥子 ・ 河　かおる ・ 東　幸代 ・ 亀井　若菜 | |
| 授業概要 | 近年急速に進んでいる男女共同参画社会の基礎知識を身につけ、現状と課題を理解していく。その上で、将来にわたって、男女共同参画社会形成を率先して推進していくことができる人材を育成する。現在の社会のニーズに応える講義である。 | |
| 到達目標 | (1)現代日本における男女共同参画の現状と課題について理解し、それをアジア・欧米諸国との比較を通して論じることが出来る。<br>(2)現代日本における性をめぐる意識やハラスメントの実情について理解し、それを前提としてワーク・ライフ・バランスの実現に向けた具体的な提言が出来る。<br>(3)現代日本の大学における男女共同参画の現状と課題について理解し、それに基づいた具体的な解決策を提言できる。 | |
| 成績評価 | ３回実施するまとめの中で、到達確認を行う。その成績を合算して評価とする。なお、各回最後に提出を求めるレスポンスカードの内容を成績評価の参考とする場合もある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：指定図書：特に指定しない。参考書：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子社会と人間 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柳澤　淳一 | |
| 授業概要 | 現在の私たちの生活は高度情報化社会における電子・情報分野の先端技術に支えられている。これは科学・技術の驚異的な進歩によるが、その変化があまりに急速だったため、個人の生活や社会に及ぼす影響には光の部分と影の部分が出てきた。科学・技術は、最終的には私たちの生命や社会生活に優しいものでなくてはならず、科学・技術と社会や人間との関わり合いや、科学・技術を発展させる、またはそれを利用する者としての社会的責任について認識を深めることは、社会の一員である皆さんにとって必要不可欠である。本講義では、電子・情報分野の視点から、これらについて講述する。 | |
| 到達目標 | 電子・情報技術を、単に与えられたブラックボックスとして受け身的に使うだけでなく、背後にある原理や現状の問題点まで理解することで積極的にそれぞれの専門分野に応用し、利用していけるような素養を身につけるきっかけになることができる。 | |
| 成績評価 | 小試験 30%、レポート評価　70%（小レポート　20%、総合レポート　50%）ただし 6 回以上欠席した者は評価対象にしない：講義の理解度を確認する小試験を毎回行うほか、初回の講義時に、電子社会との関わりに関連した話題の小レポートを課し、最終回の講義において、講義を通じて学んだことを含む総合的なレポートを課す。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：必要に応じて資料を配付する。<br>参考書：関連した文献を講義中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（環境生態） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。環境生態学科では教育ディベートを取り入れて授業を行う。 | |
| 到達目標 | １）大学で学び、コミュニケーションするための基本技術を習得する。<br>２）教育ディベートにより、論理的思考・判断能力、傾聴能力、プレゼンテーション能力を身につける。<br>３）環境問題の多面性、複雑さ、議論の難しさを知る。 | |
| 成績評価 | レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書等：必要に応じて授業内で指示される。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（環境政策・計画） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | ⑴自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や､他者の考えをじっくり理解する能力を養う。<br>⑵多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。<br>⑶人権感覚を磨く。 | |
| 成績評価 | 到達目標の⑴～⑵はレポート（45%）およびプレゼンテーション（45%）､⑶はレポート（10%）で各担当教員が評価を行う。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（環境建築デザイン） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。学科毎に１年生を少人数グループに分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | (1)自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えを理解する能力を身につける。<br>(2)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | (1)各回の授業に関する小レポート（チェックシート）の提出を前提とする。<br>(2)レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。（１００%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（生物資源管理） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は１年生を少人数グループ（７～８名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | (1) 教員や他の学生のものの見方、考え方に触れることで、大学で学ぶことの意義付け、人生における位置付け等について、思慮を深めることができるようになる。<br>(2) 高校の教育課程から大学の教育課程に、スムーズに移行できるようになる（受け身的な教育→自発的に学ぶ姿勢)。<br>(3) 人権感覚を磨き、自分と他者の人権擁護ができるようになる。<br>(4) 自らの考えを他者にわかりやすく説明し、他者の考えを正しく理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標１～４の評価手段は、レポート、プレゼンテーション、授業態度等による。各到達目標の評価比率は、それぞれ 25%とする。評価手段、評価比率ともに、担当教員によって異なることがある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：各教員によって異なる。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（材料科学） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | 自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 所定の出席日数を満たした者に対し、レポート、プレゼンテーション、授業への能動的参観状況による各担当教員の評価を合計する。(100%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 第１回授業において指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（機械システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 本講義は，論理的にものごとを考える力，他人の考えを理解する力，自分の考えを文・ことば・プレゼンテーション等によってわかりやすく発信する力を身につけることを目的としている．そのために，第 1～6 回は演習問題を多用した全体講義を行う．第 7～14 回は，6～7 人の少人数グループに分かれ，種々のテーマに関する調査，プレゼンテーション，ディスカッションを行う． | |
| 到達目標 | (1)論理的にものごとを考え，話し，文にすることができる．<br>(2)自らの考えを他者にわかりやすく説明することができる．<br>(3) 他者の考えを理解することができる．<br>(4)人権感覚を身につける． | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については，第 1～6 回に課す宿題，演習問題により評価する(35%)．(2)(3)については第 7～14 回に課すレポート，プレゼンテーション等により評価する（60%）．(4)については，人権学習に関する課題により評価する（5%）． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（電子システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。これらに加え、電子システム工学科では、外部講師による最先端の現場の話や、人権感覚を磨くための講演を聴く機会を設ける。 | |
| 到達目標 | 自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：配布資料に記載。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（地域文化） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | (1)自らの考えを他者にわかりやすく説明することができる。<br>(2)他者の考えをじっくり理解することができる。<br>(3)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあうことができる。<br>(4)人権感覚を身につけることができる。 | |
| 成績評価 | (1)自らの考えを他者にわかりやすく説明することができる：レポートの提出(30%)。(2)他者の考えをじっくり理解することができる(30%)、(3)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあうことができる(30%)：各グループごとの指導・ディスカッション。(4)人権感覚を身につけることができる(10%)：レスポンス・ペーパー。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：担当教員が指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（生活デザイン） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。学科の１年生を少人数グループ（３～４名）に分け、担当教員を割り当てる。学期を前半と後半に分け、各グループは前半と後半とでそれぞれ別の教員から指導を受ける。 | |
| 到達目標 | (1)自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や､他者の考えをじっくり理解する能力を養う。<br>(2)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | 出席を重視する。3 回以上の欠席者は授業期間終了後に呼び出し、面談して個別に指導する。成績には授業での発言、レポート、プレゼンテーション等に対する各担当教員の評価を加味する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：担当教員が指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（生活栄養） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | 自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や､他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック（西川真理子著：化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（人間関係） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | 自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す「自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける」について 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。リアクションペーパー・小テスト（５０%）、レジュメ作成・ディスカッションへの参加・レポート（５０%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト・参考書：講義中に指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（国際コミュニケーション） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この授業は、学生自らが人間を探求し、人間とその社会、文化に対する新しい発想・発見を得ることを支援するためにおこなわれる。授業形態としては、基本的な導入教育からはじめて、担当教員による対面的な指導を取り入れておこなわれる。 | |
| 到達目標 | (1) 研究の基盤となるような基本的な学問的手続きを習得する。<br>(2) 学問に対する主体的なあり方についての自覚をもつ。<br>(3) 自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | 授業への積極的な参加、レポート、発表、討論への参加等を総合的に判断する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義中に指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間探求学（人間看護） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。<br>授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | （1）自ら探求したテーマについて、論理的にレポートできる<br>（2）探求したことや自らの考えについて、プレゼンテーションによって他者にわかりやすく説明することができる<br>＊残り（3）は追加情報に掲載 | |
| 成績評価 | （1）レポート 20%、（2）プレゼンテーション 40%、（3）ディスカッション 40%<br>＊なお、出欠および遅刻/早退は減点方式とし、1 回欠席で－8 点、遅刻/早退は－4 点とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介、または資料配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間と病気 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 抗生物質に代表される近年の医学の進歩は、大きく人類に貢献したものの、その一方で後天性免疫不全症候群(AIDS)、重症急性呼吸器症候群(SARS)のような以前は全く知られていなかった新しい疾患の出現や認知症に代表される未解決の問題も残している。ここでは、感染症、認知症を中心に重要な疾患の説明とその社会的背景について解説する。（平成 27 年度不開講） | |
| 到達目標 | (1)感染症の知識を得て病原体の感染から身をまもる方法について基本的な説明ができること<br>(2)現在、老化や認知症についてどこまで解明されまた、どのようなことが問題になっているかを理解する。 | |
| 成績評価 | レポート 100% （自分の考えを入れないネットの引写しは不合格）　5 回を超える欠席の場合、評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：岡田晴恵著「H5N1 型ウイルス襲来」（角川 SSC 新書）<br>森敏著「認知症のとらえ方・対応の仕方」（金芳堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間にとって環境とは何か | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 近藤　隆二郎 | |
| 授業概要 | 環境問題とは単なる解くべき客観的問題ではなく、かかわる自分の立ち位置も問われる難しい問題である。自然を含む環境の中に自己を位置づけ直す新しい学問体系を展開する。環境問題の複雑な絡みあいと、その中に翻弄される人間を描き出す。歴史の中で生成されてきた「環境」という概念の扱われ方を追うことで、私たちの今までをふりかえる。そのような営みの場から、これからの暮らしを考えていく上で私たち自身が何をどうとらえていくかを見つけ出そうとする。 | |
| 到達目標 | (1)環境からみた歴史の見方を体得すること。<br>(2)人間社会の持つ無意識な暴力性について理解を深めること。<br>(3)自分たちの暮らしを見直す視座を持つこと。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については、毎回の小レポート評価 40%（提出回数評価 20%＋内容評価 20%）<br>到達目標(2)については、毎回の小レポート評価 30%（提出回数評価 20%＋内容評価 10%）<br>到達目標(3)については、毎回の小レポート評価 30%（内容評価 30%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回の講義でプリントを配布する。<br>参考書：飯島伸子『環境社会学のすすめ』（丸善），小原秀雄・羽仁進『ペット化する現代人』（日本放送出版協会），小野芳朗『〈清潔〉の近代 』（講談社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間の行動と空間 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　修一 | |
| 授業概要 | 本講義では，人間の行動と空間との関係について様々な視点から解説する。第 02～08 回では，具体事例の紹介や簡単な演習を織り込みながら講義を行う。また，調査課題についての説明や，調査に必要な情報の提供も行う。受講生は，講義で紹介される調査課題を 1 題選択し，講義内容や説明を参考に調査を実施して結果をまとめ，第 10～15 回の指定された回に発表することが求められる。また，他者の発表に対して批評することが求められる。 | |
| 到達目標 | (1)講述する手法によりフィールドで自ら調査を行い，人間の行動と空間の関係について一定の知見を得ることができるようになる。<br>(2)講述内容の理解にもとづき，他者の調査結果に対する批評を適切に行うことができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については第 10 回～第 15 回のいずれかで発表する調査結果の内容（60%），(2)については第 10 回～第 15 回において発表される他者の調査結果に対する批評の内容(40%)で評価する。他者の調査結果に対する批評は，携帯端末等で入力するシステム（Saai-MAS）を利用する予定である。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ＜参考書＞<br>紙野桂人（1980）：人のうごきと街のデザイン：彰国社<br>高橋鷹志他編（2003）：環境行動のデータファイル 空間デザインのための道具箱：彰国社<br>伊藤正人（2006）：心理学研究法入門－行動研究のための研究計画とデータ解析：昭和堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 農業問題入門 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 増田　佳昭 | |
| 授業概要 | 食料，農業，農村問題に関する入門的講義であり、経済学的側面からのアプローチを中心に、農業問題を自分の頭で考える力をつけることを目標にする。耕作放棄地はなぜ発生するのか、その解消は可能か。農業は成長産業たりうるか。米の生産調整はなぜ長引くのか。農業は過保護なのか。自由貿易は絶対善か。諸外国は農業を保護していないのか。多面的な視点から農業を考えてみる。 | |
| 到達目標 | （1）農産物の需要と供給について理解し、耕作放棄地が発生する理由を説明できる。<br>（2）自由貿易論の根拠とされるリカードの比較生産費説とその問題点を説明できる。<br>（3）先進国における農業保護政策と農産物過剰対策について説明できる。<br>（4）戦後における日本の農業政策の変遷をおおまかに説明できる。 | |
| 成績評価 | それぞれの到達目標の評価配分比率は以下の通り。<br>（1）２５％、（2）２５％、（3）２５％、（4）２５％<br>それぞれの到達目標ごとの評価方法は下記の通り。<br>小レポート４０％、小テスト２０％、定期試験４０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：暉峻衆三『日本の農業１５０年』、有斐閣ブックス　田代洋一『新版　農業問題入門』（大月書店）　速水佑次郎・神門善久『農業経済論　新版』（岩波書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較住居論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。 | |
| 到達目標 | (1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。<br>(2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。<br>(3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)(3)の内容を包含した小テスト３回により評価。<br>成績への寄与率は小テストの合計を 100%とし、60%以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。<br>参考書：布野修司編『世界住居誌』 昭和堂 2005、他、適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較都市論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 川井　操 | |
| 授業概要 | 都市と何か。その定義（本質）、起源（成立）、その歴史をめぐって都市を媒介とする知の領野（都市生態学、都市地理学、都市社会、都市の記号学・・・・）を総覧しながら議論したい。そして、都市の類型、都市の歴史を理解する枠組みについて整理したい。視点とするのは、都市の形態、空間構成、計画理念である。 そこでは、可能な限り多様な都市のあり方をとりあげたい。また、多様な構成原理を明らかにしたい。 特に、非西欧における都市をとりあげたい。 目指すは、世界都市論、世界都市（計画）史である。 | |
| 到達目標 | 都市の歴史について洋の東西を問わずその概要について基本的知識を身につける。また、都市の成り立ちに関する基本的な理論について理解するとともに、様々な分野からの都市研究の方法があることを理解する。また、都市計画の方法、まちづくりの方法について基本的知識を得る。 | |
| 成績評価 | レポート評価 80%　試験 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：指定図書：『都市史図集』（彰国社）<br>参考書：授業時に適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | Medieval Japan | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Peter Morris | |
| 授業概要 | This course focuses on the development of Japanese Culture and the People. It will study the origins of Imperial Japan with its deeply religious and philosophical elements. We will also follow the development from high society Court culture to a Samurai dominated culture. | |
| 到達目標 | 1. To provide students with a basic understanding of the origins of Japanese culture and society through per-modern times, 2. To foster and understanding Japan's role in the development of East Asian cultures as a whole, 3. To help students develop better | |
| 成績評価 | Attendance　10%<br>Participation　20%<br>Exams　40%<br>Writing Assignments/Presentation　30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | You will be provided with study materials. You will also be assigned various academic articles for review and commentary. You will also be required to visit online resources. | |
| 履修資格 | | |

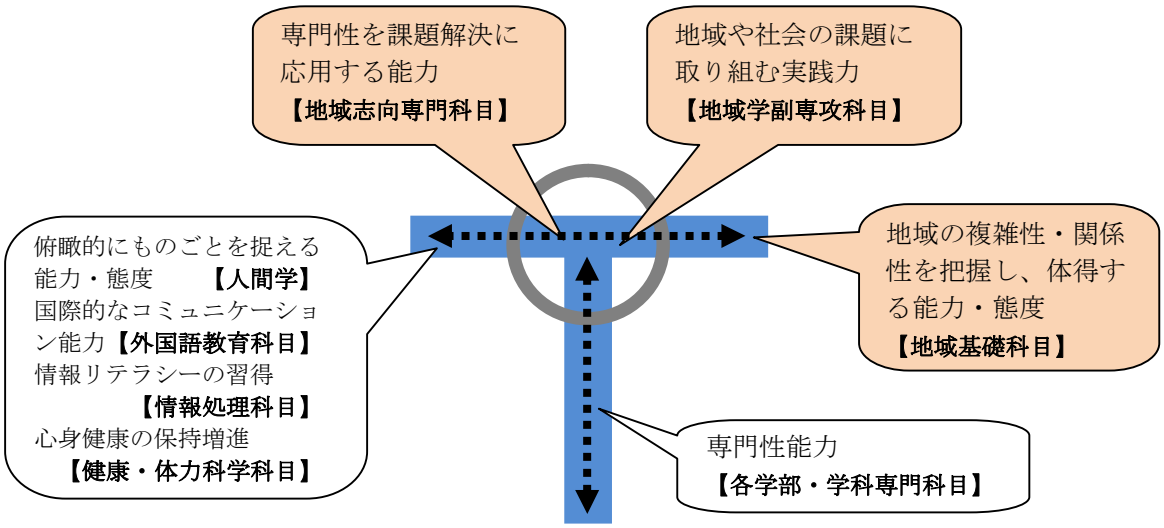
| 科目名 | Modernizing Japan | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Peter Morris | |
| 授業概要 | This course focuses on history and culture around the modernization of Japan and her struggle to join the fraternity of nations in the West. We will observe the evolution of Modern Japan by examining the cultural development of Japan's culture with the influences and interaction of other nations. We will observe Japan's attempts in joining the fraternity of nations. We will study WWII as a pivotal event that launched Japan into becoming a substantial presence in the world. We will finally discuss Japan today and its economic and social conditions. | |
| 到達目標 | 1. To provide students with a basic understanding of the development of "Modern" Japan and how it became the world power that it is today.<br>2. To analyze in an objective manner, the way in which Japan saw and sees itself as members of the community of nati | |
| 成績評価 | participation, quizzes/tests, essays | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 1. Modern Japan, Peter Duus, Stanford<br>2. The Makioka Sisters, Junichiro Tanizaki | |
| 履修資格 | | |

# 地 域 教 育 プ ロ グ ラ ム

**地域教育プログラムの位置づけ**

経済、社会、環境の大きな変化の中にあって、これからの時代に生きる若い世代には、これまでの仕組みの延長線上に自らの能力を磨くだけでなく、変化する時代を生き抜き、持続可能な社会の創造を担う能力と資質を養うことが求められています。

滋賀県立大学では、この課題に応える未来志向の変革力を身につけた人材を育成するため、2015 年度から教育カリキュラムを大幅に改め、これまでの、専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力を養うことに加えて、現実に生起する諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養うために、新たに地域教育プログラムを整備・体系化しました。




地域教育プログラムの位置づけ
（T字型の人材＝未来志向の変革力を身につけた人材育成）

地域には、教室では学べないことがたくさんあります。地域の現場に飛び込み、生きた課題に触れることで、大学で獲得した知識や技術を活かすための「センス」を養うことができます。また、多くの地域の人との出逢いは、知識や技術の獲得につながるだけでなく、就職をはじめ、人生を豊かにする財産となります。

「地域教育プログラム」では、より豊かな学びの成果を得るために、大学と地域の様々な主体が連携・協働して学生の学びの場を構築し、地域の人や自然とのつながりを築くための基本的な作法やマナーから、地域を理解し、地域の人々や仲間を巻き込み、課題解決を実践するための技法などを身につけていきます。これらは、変わりゆく社会の中で、1 人ひとりが輝くための必須の能力です。

**身につける力**

地域や社会の課題に対して既成概念や常識を打ち破り、新たな価値を創造し未来を拓く力「変革力」の修得を目指します。この変革力を以下の 3 つの側面から養います。

【コミュニケーション力】他者を理解し共感し豊かな対話を可能にする力
【構想力】地域の過去や現状に関する正しい認識の上に立って、あるべき未来の姿を描き出す力
【実践力】自ら率先して行動し、人をまきこみ、試行錯誤しながら構想を実現に導く力

**地域教育プログラムの特徴　～地域のサポーターが学びを支援～**

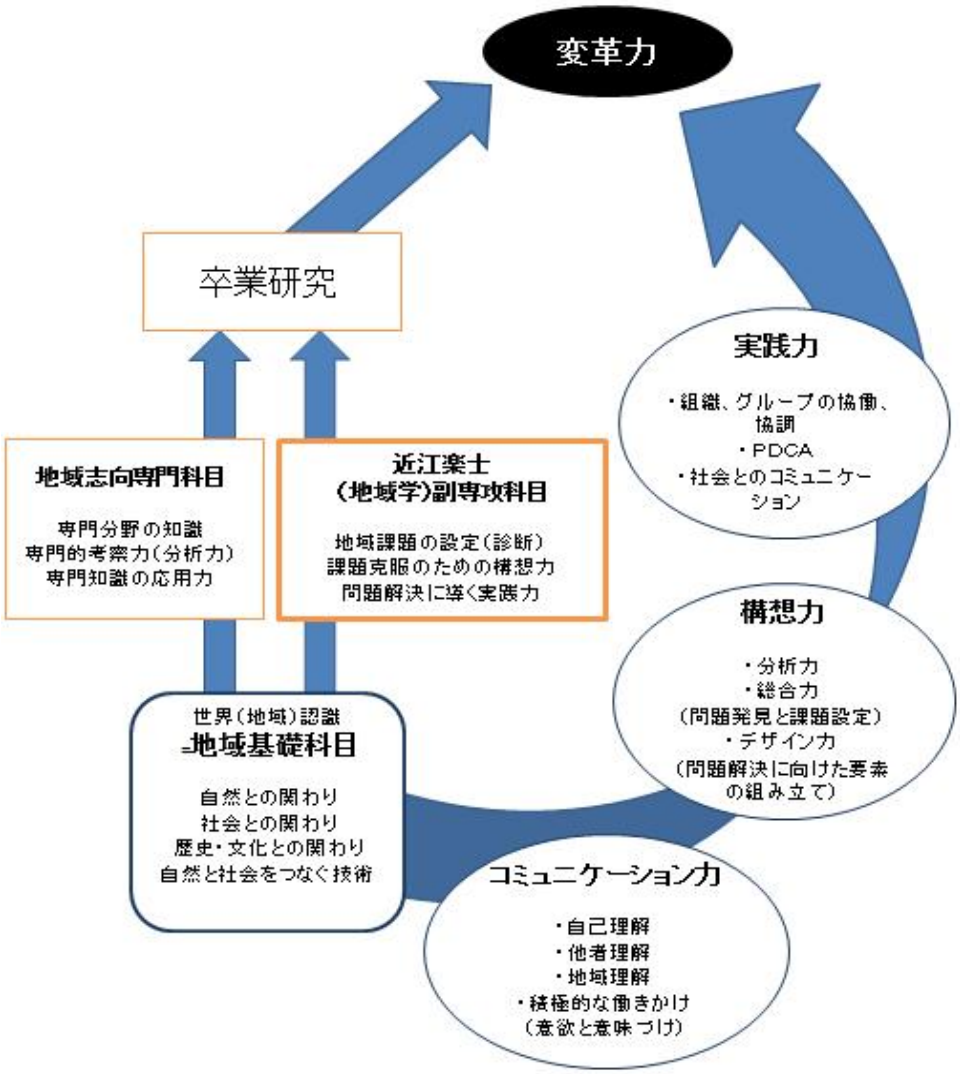
様々な分野の教員と先輩、そして学生の育ちを応援してくれる地域のサポーターが連携して学びの場を提供します。多くの地域の人びとを教室に招き、また逆に地域に出向いて、生の地域課題や地域の魅力に触れ、対話やグループワーク、ワークショップや活動への参加など、アタマとカラダとココロの全部を動かす「アクティブラーニング」によって、生きた知と実践力を身に付けていきます。

**地域教育プログラムがめざす変革力醸成のためのステップ**

地域教育プログラムは、各学部学科の学びの中で、無理なく学ぶ事ができるよう配置されています。

専門的な学びにおいても「地域」を志向した科目（地域志向専門科目）が配置され、自らの専門と社会や地域とのつながりについて考察を深めることができます。卒業研究や卒業制作においてもそうしたつながりに配慮した発想を活かすことが可能となります。

地域教育プログラムでの学びと各学部学科の専門科目における学びの相乗効果で、専門的な能力と共に、コミュニケーション力、構想力、実践力に基づく変革力が身に付くのです。




地域教育プログラムがめざす「変革力」醸成のためのダブル・ステップ

**地域教育プログラムのカリキュラムマップ**

地域教育プログラムは、「基礎」「展開」「応用」で構成されています。「基礎」では、全 1 回生必修の「地域共生論」と、選択科目の「地域コミュニケーション論」「地域課題科目」において基礎的な能力を養います。「展開」では、地域学副専攻科目や各自の学部学科に設置された地域志向専門科目において、地域とのつながりを学ぶための理論や手法を修得します。「応用」では、地域共生センター教員等がアレンジした具体的な地域フィールドや地域課題をテーマに、自らの専門性を活かした実プロジェクトに参画することで、実践力を鍛えます。

近江楽士（地域学）副専攻は、これらの地域教育プログラム「基礎」「展開」「応用」の 3 段階を履修した証として、大学が称号「コミュニティ・ネットワーカー（近江楽士）」を授与し、その能力を保証する制度です。3 回生の履修登録の段階で「修了見込み」を発行できますので、就職活動などに活用することが可能です。必修科目（3 科目 6 単位）および選択必修科目（4 科目 8 単位から 1 科目 2 単位以上を履修）を通じて、コミュニケーション力、構想力、実践力のスキルアップを図ります。

地域教育プログラム　カリキュラムマップ

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">学習・教育目標</td><td colspan="12">授業科目名</td></tr>
<tr><td colspan="3">1年</td><td colspan="3">2年</td><td colspan="3">3年</td><td colspan="3">4年</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>地域活動実践ターム</td><td>後期</td><td>前期</td><td>地域活動実践ターム</td><td>後期</td><td>前期</td><td>地域活動実践ターム</td><td>後期</td><td>前期</td><td>地域活動実践ターム</td><td>後期</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業論文・制作</td><td colspan="9"></td><td colspan="3">各学部・学科での<br>卒業論文・卒業制作</td></tr>
<tr><td>応用</td><td>地域学副専攻</td><td colspan="6"></td><td colspan="6">■地域デザインA、B、C、D</td></tr>
<tr><td rowspan="2">展開</td><td>地域志向専門科目</td><td colspan="3"></td><td colspan="6">■地域志向専門科目<br>（各学部学科の専門科目であり、副専攻要件には含まない）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>地域学副専攻</td><td></td><td></td><td>■地域診断法</td><td>■システム思考法</td><td></td><td>■問題解決デザイン論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎</td><td rowspan="3">地域基礎教育</td><td></td><td>■地域コミュニケーション論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">■地域課題科目（群）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>■地域共生論</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

**「つながりのデザイン」のエキスパートになる　～大学院：近江環人地域再生学座**

学部学科における学びを活かし、地域や企業でより専門的にスキルを展開したい人、まちづくりや地域活性化のエキスパートを目指したい人、自ら起業をしたい人などを対象に、大学院に副専攻「近江環人地域再生学座」を設置しています。近江環人地域再生学座では、地域の風土、歴史、文化を継承し、環境と調和した循環型地域社会を形成することをめざし、地域診断からまちづくりへのつながりをデザインできる人材を育成しています。所定のプログラムを修了した学生を対象に、検定試験を実施し、合格した人に「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の称号を付与します。社会人と院生が一緒に学び、各地の実践者とのネットワークを形成することができます。

## 地域教育プログラム関連科目

(1)　地域基礎科目

地域基礎科目は地域教育プログラムの基礎となる科目群です。

地域基礎科目は全学共通科目ですので、全学部生は次の必修科目および選択必修科目を履修してください。

必修科目：　　１科目２単位
選択必修科目：　１科目２単位以上
合計：　　２科目４単位以上

①　必修科目：1 科目 2 単位

| 科目名称 | 配当年次 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 地域共生論 | 1 前 | 2 | |

②　選択必修科目：1 科目 2 単位以上

| 科目名称 | 配当年次 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 地域コミュニケーション論 | 1 実 | 2 | 地域活動実践ターム（注１）に実施 |
| 近江の歴史と文化 | 1 後 | 2 | |
| 地域社会福祉論 | 1 後 | 2 | |
| 地域づくり人材論 | 1 前 | 2 | |
| びわこ環境行政論 | 1 後 | 2 | |
| 滋賀の自然史 | 1 後 | 2 | |
| 多文化共生論 | 1 前 | 2 | 平成 27 年度開講。平成 28 年度不開講。 |
| 地域産業・企業から学ぶ社長講義 | 1 前 | 2 | |
| 近江の暮らしとなりわい | 1 後 | 2 | |
| 近江の美 | 1 前 | 2 | |

（注１）地域活動実践タームとは、全学的に地域活動の実践を促進する休業期間中の特定期間を言います。
具体的な期間は学年暦を参照してください。

（注２）地域コミュニケーション論以外の選択必修科目を地域課題科目といいます。

(2)　地域志向専門科目（詳細は各学部のシラバス概要を参照）

地域志向専門科目は、各学部学科の専門科目の中で地域志向の科目です。副専攻の履修要件ではありませんが、地域教育の一環として積極的に履修することを推奨します。

| 学部 | 科目名称 | 学科 | 科目名称 | 学科 |
|---|---|---|---|---|
| 環境科学部 | 環境フィールドワークⅠ | 全学科 | 地域システム論 | 政 |
| | 環境フィールドワークⅡ | 全学科 | 地域調査法演習 | 政 |
| | 環境フィールドワークⅢ | 全学科 | 地域環境計画 | 建 |
| | 陸域環境影響調査指針 | 態、資 | 都市・地域計画 | 建 |
| | 琵琶湖環境学 | 態 | 木匠塾 | 建 |
| | イベント計画論・演習 | 政 | 食料経済システム論 | 資、栄 |
| | ファシリテーション技法・演習 | 政 | 地域資源管理学 | 資 |
| | 環境心理学 | 政 | 地域情報処理学 | 資 |
| 工学部 | 材料科学実験Ⅱ | 材 | 電子システム工学実験Ⅳ | 電 |
| | 機械システム工学概論 | 全学科 | | |
| 人間文化学部 | 環琵琶湖文化論実習 | 全学科 | 食品加工実習 | 栄 |
| | 地域と空間 | 地 | コミュニケーション論 | 関 |
| | 地域研究論 | 地 | 現代社会福祉論 | 関 |
| | 地域文化財論Ｂ | 地 | 社会変動論 | 地、関 |
| | 近世近江論 | 地 | 社会問題の社会学 | 関 |
| | 生活デザイン学外演習 | デ | 生涯学習論 | 関 |
| | 考現学概論 | デ | 地域運動論 | 関 |
| | 道具デザイン演習Ⅲ | デ | 日本社会論 | 地、関 |
| | 道具デザイン論 | デ | 発達支援論 | 関 |
| | 道具計画論 | デ | 多民族社会論Ｃ | 国 |
| 人間看護学部 | ボランティア実践演習 | 看 | 小児看護学概論 | 看 |
| | メンタルヘルスケア | 看 | 成人看護学概論 | 看 |
| | 公衆衛生看護学概論 | 看 | 地域母子保健 | 看 |
| | 在宅看護学概論 | 看 | 老年看護学概論 | 看 |

| 科目名 | 近江の暮らしとなりわい | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上田　洋平 | |
| 授業概要 | 時代は成長から成熟へ、大きな転換点に差し掛かっている。地域社会には様々なひずみ、裂け目が生じている。ところがその同じ裂け目からは、新しい時代の到来を感じさせるコミュニティやなりわいづくりの営みも芽生えている。日本の縮図とも言われ、日本の歴史の舞台裏としても古来重要な位置を占めてきた近江。「里山」「人里」「里湖」「里島」それぞれの風土に根差して鍛え上げられた近江各地の具体的な暮らしとなりわいの来し方と現在を概観した上で、近江の各地でまさにいま胎動する人とその事業に生きた例をとり、時にゲストを迎えながら、ローカルな地域に根差した暮らしとなりわいの再構築、あるいは滋賀からのオルターナティブ創造の道筋や可能性について考える。 | |
| 到達目標 | （1）近江の風土とそれに根差したくらしとなりわいの概要や特質を、具体的な地域の暮らしの事例を踏まえて理解し説明できること。<br>（2）近江のくらしと文化に関する新たないとなみとそれをけん引する人々の活動内容とその意義を理解し説明できること。<br>（3）近江の事例に学びながら文化を担い創造する主体としての自己の役割と可能性について各自の意見を形成すること。 | |
| 成績評価 | 到達目標（1）～（3）について、期末試験（50%）、毎回の小レポート（50%）により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト、参考文献は授業時に適宜紹介する。 授業時間内にプリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 近江の美 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 印南　比呂志 | |
| 授業概要 | 近江の美と名づけられた当科目は、必ずしも洒落た芸術やデザインを追い求めるのではなく、日常見られる生活の中で刻まれた「美」を掘り起こすようなまなざしを養うこと重視する。<br>特に、近江には、古来より琵琶湖とその山々に囲まれた豊かな自然とその恵みを活用した美術工芸が根付き、多くの職人が近江に集い、自身の技を磨いてきた。こうした営みから編み出された「美」、作品を通じて湧き上がる「感性」がどのように醸成されてきたかを振り返り、さらに最前線で活躍する職人、デザイナー、アーティストなどによるゲスト講師を通じて学びとる。 | |
| 到達目標 | 滋賀県で培われてきた伝統工芸、伝統的建築、祭事にはじまり、独自の産業として培われてきたファッション産業、地域ブランド、さらにはそうした観光資源を活用したツーリズムなどの事例を知り、本学が所在する滋賀県内で日常的に垣間見えるさまざまな「美」を意識できる。また、感銘を受けた美の要素が何であったのか表現（レポートやプレゼンテーション）でき、そこで得られた経験から、滋賀に埋もれた「美」の再認識し、自分自身の「美のまなざし」を育み、そうした視点を、第三者に伝えることを到達目標とする。 | |
| 成績評価 | 毎回の授業でのレスポンスシート（レポート）及び、最終レポート課題により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要に応じて、資料を配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 近江の歴史と文化 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 京樂　真帆子 | |
| 授業概要 | 近江の持つ地域的特性とそれを基盤とする文化の特質を歴史学的視点から探る。近年、近江の文化・歴史に関する研究が盛んである。その成果の一端を紹介していく。特に、近江文化の持つ歴史性に注目し、古代から現代への展開を追う。 | |
| 到達目標 | (1)近江の歴史に関する基礎知識を理解し、それを日本の歴史との比較を通して論じることが出来る。<br>(2)近江の文化に関する基礎知識を理解し、それを日本の文化との比較を通して論じることが出来る。<br>(3)近江の歴史と文化の基礎知識に基づき、その保存と活用について具体的な提言が出来る。 | |
| 成績評価 | 毎回の小レポート　30%　最終授業で行うまとめの確認テスト　70% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：『大学的滋賀ガイド　こだわりの歩き方』（昭和堂）指定図書：特になし参考書：適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 滋賀の自然史 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | | |
| 到達目標 | | |
| 成績評価 | | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 多文化共生論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河　かおる　・　武田　俊輔 | |
| 授業概要 | 日本における外国人住民の増加を受け、2006 年に総務省が「地域における多文化共生推進プラン」を策定し、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」多文化共生の地域づくりを推し進める必要性を打ち出した。滋賀県においても、2010 年に「滋賀県多文化共生推進プラン」が策定され、そのような多文化共生の地域づくりを目指している。この授業では、外国人住民の当事者や、教育や医療、行政などの各現場で多文化共生にとりくんでいる方を外部講師に招きながら、多文化共生の地域づくりにおける現状と課題について学ぶ。 | |
| 到達目標 | 多文化共生の地域づくりにおける現状と課題（特に滋賀県の現状と課題）を説明することができる。 | |
| 成績評価 | 毎回の小レポート　70%<br>期末レポート　30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは特に定めない。参考書は以下のほか、講義中に適宜提示する。<br>・移住労働者と連帯する全国ネットワーク編『移住者が暮らしやすい社会に変えていく３０の方法』（合同出版、2012 年）<br>・移住労働者と連帯する全国ネットワーク編『多民族・多文化共生社会のこれから ― NGO からの政策提言〈2009 年度改訂版〉』（現代人文社・大学図書、2009 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域共生論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修　・　萩原　和　・　上田　洋平　・　野間　直彦　・　近藤　隆二郎　・　高田　豊文　・　岩間　憲治　・　松岡　純　・　秋山　毅　・　河﨑　澄　・　市川　秀之　・　佐々木　一泰　・　伊丹　君和 | |
| 授業概要 | 他者と共感し豊かな対話の中で育まれる地域共生の意義を理解し、自ら率先して地域で実践することの大切さを学ぶ。本授業は、本学学生が身につけることを目指す能力：変革力を構成する「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」の 3 のうち、「コミュニケーション力」の育成に重点をおいた導入科目として位置づける。環境、工学、人間文化、人間看護の各分野から提起される「地域共生」に係る課題、提示される観点、提供される事例を踏まえ、グループ討議を繰り返しながら「自己」「他者」「地域」それぞれの特性への理解を深めるとともに、各自のスキルの向上をめざす。 | |
| 到達目標 | (1) 自己の強みや弱みを把握できる。(自己認識)<br>(2) 自己の意見、他者意見の対話を通じて成果物を作成することができる。(協働力・統率力)<br>(3) 他者・地域とのコミュニケーションをはかるための基礎的な作法を身につけている。(親和力)<br>(4) 自己の考えを自分の言葉で整理し、他者に発信できる。(自信創出力) | |
| 成績評価 | 個人成果物の評価、チーム成果物の評価、チームプレゼンテーションの評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 補助教材（ワークブック）を用いる | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域コミュニケーション論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修 ・ 上田　洋平 ・ 萩原　和 | |
| 授業概要 | コミュニケーションとは何だろうか。「自分の意見が言える」こと？「人の話が聞ける」こと？それとも「空気を読める」ことだろうか？<br>当講義では「commūnicāre（分かち合う、共有する）」というこの語の由来に立ち返り、コミュニケーションとは何か、また地域社会でコミュニケーション能力が重要視される背景等について概観した上で、産官学さまざまな立場・現場で活躍する地域人との対話や共同作業を通じて、リアルな地域課題を地域に関わる皆で分かち合い、その解決策を立案するための基礎能力を身に付けること、「浴びるように他者と出会い、対話し、作業する」３日間の過程を通して「コミュニケーションの基礎体力」を養うことを目指す。 | |
| 到達目標 | （1）地域社会でコミュニケーション能力が重要視される背景や意味について理解し説明することができる。<br>（2）対話や課題抽出、成果のとりまとめにかかる基礎的な技法について理解し実践することができる。<br>（3）上記の理解と実践に基づきチームワークによって成果を取りまとめることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）（2）（3）について、課題レポート及び各自の課題成果物の制作により評価する。（3）については、チームワークの成果に対する評価も加味する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは特に指定しない。必要に応じて適宜資料を配布する。<br>指定図書、参考図書については授業時に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域産業・企業から学ぶ社長講義 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 菊地　憲次 | |
| 授業概要 | 滋賀県の産業・経済の特徴を行政や金融からの視点で理解するとともに地元の産業構造や地元産業界、地域企業が抱える課題や特色を学ぶ。さらに、本校が提携する６市および滋賀県の代表企業等のトップに産業界ニーズ、社会人として要求される人材、およびこれから社会人になる学生に期待される能力などについて直接学生に語っていただく。また、学生からの質問等を交えたインタラクティブな授業に構成する。 | |
| 到達目標 | （1）滋賀県の経済・産業の特徴を理解すること<br>（2）情報の整理力と理解力（各講義内容を系統づけて理解できる。）<br>（3）課題発見力（講義内容から重要な情報を整理し自己のキャリアに繋げる課題を発見できる。）<br>（4）コミュニケーション力（講義中の質疑応答、グループディスカッションでの質疑応答ができる。） | |
| 成績評価 | ①滋賀県の経済・産業の特徴を理解すること<br>②情報の整理力と理解力<br>③課題発見力<br>④コミュニケーション力 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業に必要とするテキストや資料は講義直前に配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域社会福祉論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 富永　豊※ | |
| 授業概要 | 大きな経済力とともに福祉国家としての高い福祉制度を持っていた日本の社会において、低成長経済の長期化や雇用形態の変化といった産業経済状況に加えて、少子高齢化や人口減少といった社会構造等の変化に伴い、孤独死や餓死さらには自殺や貧困のほか暴力といった社会問題がクローズアップされています。東日本大震災を契機に幸せとは何かが今、問い直されるようになりました。いうまでもなく社会福祉は、「人の幸せ」を目的としています。その社会福祉のあり方についてあらためて振り返り、多くの国民の安心や体験としての幸せがアップしてゆくためには何が必要なのか、この滋賀の社会資源にも目を向けながら皆さんと考察できればと思います。 | |
| 到達目標 | 我が国における社会福祉の仕組みや制度の概要を知り、社会福祉制度の現状と課題を探る中で、今後の社会福祉のあり方について考えることができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験　６０点、課題レポート２回　２０点　出席点　２０点で評価し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：「新社会福祉論」川池智子編著　㈱学文社<br>参考書：「社会福祉入門」大橋謙策著　放送大学出版<br>参考書：「社会福祉学」平岡公一他３著　有斐閣 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域づくり人材論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上田　洋平 | |
| 授業概要 | 次代の地域社会を担う人材、地域の活性化を促す人材について、１）地域における「人材」とは何か、２）地域づくり人材が必要とされる背景、３）地域づくり人材に求められる役割と能力、５）さまざまな地域づくり人材像、６）地域づくり人材が生き生きと活躍する地域社会の展望等について、実際の人々を題材にとりながら議論する。<br>　授業では実際に各分野で活躍している人々を教室に招き、具体的にその存在や体験に触れながら学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 地域づくり及び地域づくり人材の概念について理解し説明できること。<br>(2) 地域社会で人材が求められている事実をその背景について理解し説明できること。<br>(3) 地域づくりや地域再生、地域活性化に取り組む人材に求められる条件やそうした人材が備えるべき能力について理解し説明できること。<br>(4) 地域において人材を育て活かす仕組みについて理解し説明できること。<br>(5) 地域づくりや地域再生、地域活性化を達成する上で、様々な人材が、様々な場面や段階において果たす役割について、理解し説明できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す、(1) (2) (3) (4) については毎回課す小レポート（50%）によって、(5) ついては期末レポート（50%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは特に指定しない。必要に応じて適宜資料を配布する。<br>指定図書、参考図書については授業時に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | びわこ環境行政論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 井手　慎司 | |
| 授業概要 | 地方自治体の政策は、開発と保全の両方から地域環境に大きな影響を及ぼす。滋賀県をフィールドに各分野の政策立案にかかわる行政担当者の講義を通じて、地域環境政策の課題を学び、琵琶湖という環境資産をもつ地域の持続可能な発展への政策とその実施について考える。(なお、ゲスト講師の都合により、講義の順序が入れ替わることがある。) | |
| 到達目標 | (1)滋賀県の現行の各種環境政策を説明できる。<br>(2)滋賀県の環境政策の変遷を説明できる。<br>(3)持続可能な滋賀社会のビジョンについて自らの考えを述べることができる。<br>(4)持続可能な滋賀社会を実現する政策について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)(2)(3)(4)については、定期試験（25%：(1)7%、(2)7%、(2)7%、(2)4%）と毎回の小テスト(75%：(1)20%、(2)20%、(2)20%、(2)15%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：『滋賀の環境 2013』<br>http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/koai/hakusyo25/honpen25.html<br>『琵琶湖ハンドブック改訂版』<br>http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/koai/handbook/kaiteiban.html | |
| 履修資格 | | |

# ２　近江楽士（地域学）副専攻の履修について

### １．近江楽士（地域学）副専攻とは

近江楽士（地域学）副専攻とは、地域基礎科目の履修を通して習得した基礎的な知識・能力を更に向上させて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」からなる「変革力」を身につけるために、主専攻（各学科）に所属しながら履修することができる副専攻課程です。

近江楽士（地域学）副専攻の修了要件を満たした学生には、主専攻の修了時に、卒業証書・学位記と合わせて「コミュニティ・ネットワーカー（近江楽士）」の称号を付与します。

近江楽士（地域学）副専攻の履修を希望する学生は、所定の期間に副専攻履修申請書を提出してください。

### ２．近江楽士（地域学）副専攻の教育目標

本学は、開学以来、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」というモットーを掲げ、地域の様々な主体（住民、団体、企業、行政等）との連携による様々な教育活動を実践してきました。

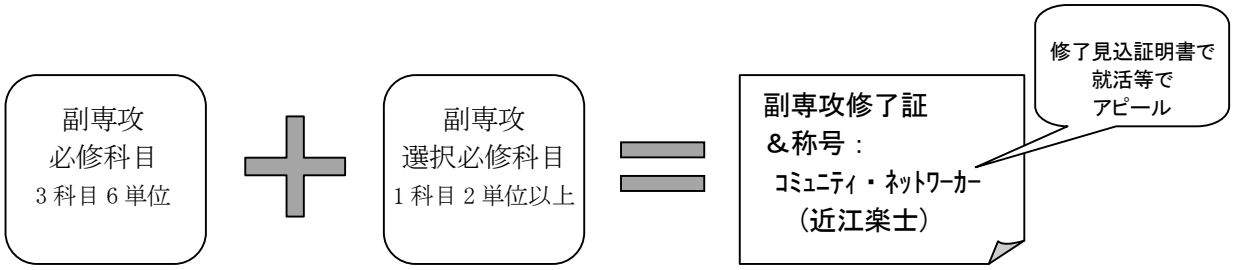
近江楽士（地域学）副専攻では、この特徴を活かした「地域教育プログラム」の一環として、「変革力」を実践できるノウハウを学ぶカリキュラムを導入しています。これらの科目では、地域の具体的な課題をテーマに、地域の様々な主体との連携のもとに、地域で主体的に活動できる実践力を養います。近江楽士（地域学）副専攻の教育目標（称号授与方針）は以下の通りです。

A．地域やものごとの特性について、情報を収集し、客観的および複眼的な視点で分析し、その本質を見極め判断する能力を身につける。（態度・倫理）（技能・技術）
B．地域や社会の課題を解決するために用いる様々な手法に関する知識を習得し、それらを活用する技術を身につける。（知識・理解）（技能・技術）
C．地域や社会の未来のありようを見据え、旧来の固定観念や既成事実にとらわれない柔軟な思考と発想を有した構想力を身につける。（思考・判断）
D．地域や社会の課題解決を実践するノウハウを備え、実際の現場において様々な主体と連携し、主体的に活動に取り組み、課題解決を実践できる実践力を身につける。（汎用的能力）

## ３．近江楽士（地域学）副専攻の修了要件

「必修科目」3 科目 6 単位と「選択必修科目」1 科目 2 単位以上の修得し、所属する学科の修了要件を満たすと、副専攻の修了が認められます。

副専攻修了者には、「コミュニティ・ネットワーカー（近江楽士）」の称号が授与されます。




| 科目名 | 必修・選択必修の別 | 配当年次 | 単位数 | 称号授与方針との対応 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | A | B | C | D |
| 地域診断法 | 必修 | 1 後 | 2 | ◎ | | ○ | |
| システム思考法 | 必修 | 2 前 | 2 | | ◎ | ○ | |
| 問題解決デザイン論 | 必修 | 2 後 | 2 | | ○ | ◎ | |
| 地域デザインＡ | 選択必修 | 2～4 前 | 2 | | | | ◎ |
| 地域デザインＢ | 選択必修 | 2～4 前 or 後 | 2 | | | | ◎ |
| 地域デザインＣ | 選択必修 | 2～4 前 or 後 | 2 | | | | ◎ |
| 地域デザインＤ | 選択必修 | 2～4 前 or 後 | 2 | | | | ◎ |

＊いずれの科目も各学科（主専攻）の卒業要件には算入されない。

＊システム思考法、問題解決デザイン論、地域デザインA～DはH27不開講。

＊地域デザイン B,C,D の開講期間は開講年度の時間割表を確認すること。

## ４．身につける力

必修科目では、「地域教育プログラム」（P. 161 参照）でも掲げられている「変革力」を身につけるための具体的、実践的なノウハウを学びます。

必修科目の 1 つ目は、1 回生の後期に配当された「地域診断法」です。これは地域診断という手法を用いて物事の本質を見るための見方、考え方を学びます。2 つ目の科目は 2 回生前期に配当された「システム思考法」です。これは、「システム」という概念を用いた課題解決のための様々な考え方や手法を身につける科目です。3 つ目の科目は 2 回生後期に配当された「問題解決デザイン論」です。これはイノベーションを起こすために活用されているデザインシンキング（デザイン思考）の手法を学びます。いずれも「地域」を題材に、より具体的に地域課題を解決できるノウハウを学んでいきます。

選択必修科目の「地域デザインＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ」は、様々な地域で活動する地域共生センター教員の指導による、実践活動への参画を通じた学びとなります。必修科目で学んだノウハウをもとに、地域の多様な人々との対話や連携を体験することは、自分自身の能力のブラッシュアップに大変有意義な機会となります。そこには「滋賀県立大学の学生だから学べる」実践体験やネットワークの形成があります。このような科目の構成により、近江楽士（地域学）副専攻のプログラムでは、地域課題を実践的に解決できる、未来志向の変革力を身につけた人材を育成します。

| 科目名 | 地域診断法 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修 | |
| 授業概要 | 地域（地域に存在する個人、団体、行政、企業など）とのつながりを形成するためには、まずその地域を「知る」ことが求められる。その地域の特性を知り、その地域に敬意をはらいつつ、未来をイメージすることで、地域の住民等との円滑なコミュニケーションを図ることが可能となる。講義では、地域とのコミュニケーションを図るために地域を知る手法として、エコロジカルプランニングの手法を用い、当該地域を多面的、多段階的に捉え、地域住民との価値の共有、コミュニケーション、合意形成を図る手法を習得する。 | |
| 到達目標 | (1) 地域診断の理念、意義、手法および地域における地域資源・地域特性とその「つながり」について説明することができる<br>(2) 具体的地域を対象にエコロジカルプランニングを用いた簡易な地域診断を行う事ができる | |
| 成績評価 | ①地域診断の理念、意義、手法および地域における地域資源・地域特性とその「つながり」について説明することができる：ミニレポート 10%×5＝50%、理解度確認中間試験 20%、<br>②具体的地域を対象にエコロジカルプランニングを用いた簡易な地域診断を行う事ができる：グループレポート 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 近江環人地域再生学座編「地域診断法」新評論，2012（¥2,400 初回授業時に販売）<br>その他適宜資料配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | システム思考法 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 萩原　和 | |
| 授業概要 | システム思考の理念・手法を用いたケースワークを通じて、様々な問題に創造的な解決策を提示する能力の修得を目指す。具体的には、地域課題を整理する最初のステップとして、システムの図示化を通じた課題整理の基本を習得することを目的とする。その後の「地域システデザイン A、B、C、D」の実践的な学びで想定されるシチュエーションを考慮し、「社会」と「自然」をつなぐ視点、さらには「システム」としてダイナミックに動かすための勘所を教授する。 | |
| 到達目標 | (1)システム思考の理念及び手法を理解している<br>(2)課題解決にシステム思考の手法を用いることができる<br>(3)課題解決にあたって、システム思考の手法を用いて創造的な提案ができる | |
| 成績評価 | (1)システム思考の理念及び手法を理解している：ミニレポート 50%<br>(2)課題解決にシステム思考の手法を用いることができる： 20%<br>(3)課題解決にあたって、システム思考の手法を用いて創造的な提案ができる：30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 学習する組織――システム思考で未来を創造するピーター M センゲ (著)他　2011<br>システム×システム思考で世界を変える 慶應 SDM「イノベーションのつくり方」前野隆司(著)他 2014<br>その他必要に応じて資料を配付する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 問題解決デザイン論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修 | |
| 授業概要 | デザイン思考の理念・手法を用いた問題解決デザインのケースワークを通じて、様々な問題に創造的な解決策を提示する能力の修得を目指す。具体的には、デザイン思考が求められる社会的背景および、その理念と意義を理解し、具体的なケースを用いてデザイン思考の手法を理解し、自らが活用できるようワーキングを行い、グループで課題に対して創造的な解決方法の提示を試みる。 | |
| 到達目標 | (1)デザイン思考の理念及び手法を理解している<br>(2)課題解決にデザイン思考の手法を用いることができる<br>(3)課題解決にあたって、デザイン思考の手法を用いて創造的な提案ができる | |
| 成績評価 | (1)デザイン思考の理念及び手法を理解している：ミニレポート 50%<br>(2)課題解決にデザイン思考の手法を用いることができる：理解度確認中間ふりかえり 20%<br>(3)課題解決にあたって、デザイン思考の手法を用いて創造的な提案ができる：30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ティム・ブラウン著　千葉敏生訳「デザイン思考が世界を変える」ﾊﾔｶﾜﾉﾝﾌｨｸｼﾞｮﾝ文庫，2014<br>その他必要に応じて資料を配付する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域デザインＡ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修・上田　洋平・萩原　和・轟　慎一 | |
| 授業概要 | 地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。地域再生提案作成の前提となる地域の現状把握・課題抽出の手法、具体的な地域再生の事例を学んだ上で、地域の関係者の協力を得ながらチームに分かれてフィールドワークを実施し、地域課題の発見とその解決策の提案に取組む。 | |
| 到達目標 | (1) 様々な地域再生事業の概要及び実施手法について理解し説明できる。<br>(2) フィールドワークやワークショップによって地域の現状と課題について的確に把握し整理することができる。<br>(3) 地域課題・地域再生に資する事業を企画し提案することができる | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）については中間レポート（30%）により、(2)（3）については最終レポート（50%）及びプレゼンテーション（20%）により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：近江環人地域再生学座編「地域再生　滋賀の挑戦　エコな暮らし・コミュニティ再生・人材育成」新評論、近江環人地域再生学座編「地域診断法　鳥の目、虫の目、科学の目」新評論、近江楽座学生委員会編著「近江楽座のススメ－学生力で地域が変わる」(株）ラトルズ。その他必要に応じて資料を配布する。参考図書については授業内で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域デザインＢ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修・萩原　和・上田　洋平 | |
| 授業概要 | 地域デザインＢでは、地域におけるまちづくり活動や地域活性化等の実際のプロジェクトや活動への参画を通じて、変革力の基礎を学ぶ。具体的には、現場での対話を通じてコミュニケーション力をブラッシュアップするとともに、プロジェクトや活動の本質を探ることで構想力を養い、自身の役割と能力を認識し、具体的な行動ができることを目指しつつ、地域づくりにおける実践ノウハウを習得する。<br>なお、授業時間は受講者の都合とプロジェクトのスケジュールとの調整により決める。 | |
| 到達目標 | (1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している<br>(2)地域デザインのノウハウを用いることができる | |
| 成績評価 | (1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している：面談 50%<br>(2)地域デザインのノウハウを用いることができる：成果物 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要に応じて資料を配付する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域デザインＣ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上田　洋平・鵜飼　修・萩原　和 | |
| 授業概要 | 地域デザインＣでは、地域におけるまちづくり活動や地域活性化等の実際のプロジェクトや活動への参画を通じて、変革力の基礎を学ぶ。具体的には、本学が彦根市、長浜市、米原市、近江八幡市、東近江市の各市内において地域の様々な主体と連携して設置・展開する５か所の「地域デザインカレッジ」のうちいずれかの運営に参画しながら、地域課題解決のために多様な主体が連携することの大切さや楽しさ、そうした連携を育み促す機会や場の意義を学び、そうした場を創出し運営する「プロデューサー」に必要な知識とスキルを獲得する。授業時間は受講者の都合と各地域デザインカレッジのスケジュールとの調整により決める。 | |
| 到達目標 | (1) 地域課題解決のために多様な主体がそれぞれ果たす役割について理解し説明できる。<br>(2) 地域課題解決のために多様な主体が連携することの意義や課題を理解し説明できる。<br>(3) 多様な主体の連携を育み促す機会や場の意義について理解し説明することができる。<br>(4) 上記を踏まえて地域の多様な主体が連携する事業をプロデュースすることができる。 | |
| 成績評価 | ゼミ形式の面談において達成度を確認し、各地域デザインカレッジ関係教員やカレッジ運営メンバーの所見も参考にしながら、ルーブリックに基づき採点する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域デザインD | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 萩原　和・鵜飼　修　・上田　洋平 | |
| 授業概要 | 地域デザイン D では、地域におけるまちづくり活動や地域活性化等の実際のプロジェクトや活動への参画を通じて、変革力の基礎を学ぶ。具体的には、現場での対話を通じてコミュニケーション力をブラッシュアップするとともに、プロジェクトや活動の本質を探ることで構想力を養い、自身の役割と能力を認識し、具体的な行動ができることを目指しつつ、地域づくりにおける実践ノウハウを習得する。<br>なお、授業時間は受講者の都合とプロジェクトのスケジュールとの調整により決める。 | |
| 到達目標 | (1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している<br>(2)地域デザインのノウハウを用いることができる | |
| 成績評価 | (1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している：面談 50%<br>(2)地域デザインのノウハウを用いることができる：成果物 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

# ３　キャリア教育科目について

## １．キャリア教育の開講について

みなさんが社会人として自立するためには、自身のキャリアを考えることが大切です。キャリア設計の重要な要素は学部学科における専門科目となります。この知識・技術を十分に生かすには、歴史、経済、法学などの基礎知識を身につけ、社会の現状と動きを俯瞰的に把握することが併せて必要です。このためにキャリア教育推奨科目を示しています。

さらに、みなさん自身の人間形成や将来設計を描き、職業観を育成するとともに自己の職業適性を考え、職業意識を高める機会として、キャリア教育科目を示しています。

開講科目は下表のとおりです。

■キャリア教育科目

| 科目名 | 単位数 | 配当年次 | 備考 |
|---|---|---|---|
| キャリアデザイン論Ⅰ | 2 | 2 年 | 【副題】キャリアデザインを描くために |
| キャリアデザイン論Ⅱ | 2 | 2 年 | 【副題】ビジネス現場におけるキャリアデザイン |
| インターンシップ A | 1 | 3 年 | |
| インターンシップ B | 2 | 3 年 | |

■キャリア教育推奨科目

| 科目名 | 配当年次 | 備考 |
|---|---|---|
| 現代経済論 | 1～4 年 | 人間学科目 |
| 憲法 | 1～4 年 | 人間学科目 |
| 社会学概論 | 1･2 年 | 人間文化学部学科共通専門科目 |
| 西洋史 | 1･2 年 | 人間文化学部国際コミュニケーション学科専門科目 |
| 日本史概説 | 1･2 年 | 人間文化学部地域文化学科専門科目 |

## ２．「キャリアデザイン論Ⅰ　キャリアデザインを描くために」

学生一人ひとりが自身の将来を描き、人間形成とキャリア・職業観の育成、職業・進路の選択、決定ができる能力を培う。

このために、昭和 30 年以降の日本の経済成長、消費者の行動、デフレの到来などが労働環境に及ぼした影響について明らかにする。

更にリアルタイムでビジネスの世界で起きている現象・出来事を知り、そこから新たなビジネスの可能性や未来予測などを自分達自身で考え、発表し、クラスで共有していく。

１）対象

全学部学科の原則として 2 回生、前期科目

２）単位

2 単位（自由科目とし、卒業要件単位には含まれません。）

## ３．「キャリアデザイン論Ⅱ　ビジネス現場におけるキャリアデザイン」

自己の将来の生き方を捉えるための自己分析、業界、企業しくみや職種を理解させること。

このために、社会や企業から求められている能力のなかで、多様な社会現象を客観的、論理的に考察する能力とともに、ビジネスモデルや業界研究を通じて、提言や企画にとりまとめて適切に発信するコミュニケーション能力を養成する。

１）対象

全学部学科の原則として 2 回生、後期科目

２）単位

2 単位（自由科目とし、卒業要件単位には含まれません。）

## ４．インターンシップについて

みなさんの社会的・職業的自立に向けたキャリア形成意識を涵養するため、本学ではインターンシップを実施しています。

1）インターンシップとは、学生が自らの専攻や将来希望する職業に関連した職場で業務を体験することです。本学では、学生が企業や団体において就業体験することを通して、勤労観や社会観を育み、自己の適性や志向に照らして進路を考え、キャリア意識を高めることを目的に、単位認定型のインターンシッププログラムを実施しています。

2）インターンシップの基本理念
① 本学の教育理念「人が育つ」に基づき、学生の「学習」と「社会人としての成長」を促す。
② 社会体験を通じて、学問への社会的要請と意義を理解する。
③ 社会や職業における諸課題を解決する実践的能力を身につけ、総合的な人間力を高める。

3）インターンシップの基本方針
① 専門知識の有用性や学習を意識づける契機とする。
② ガイダンスを経て、事前研修・就業体験・事後研修を含むものとし、学生のキャリア形成を促進する教学プログラムの一環である。

4）インターンシップの種類
大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本とする。
ほかに、企業・団体が独自に公募するインターンシップに学生が自ら応募する「自由応募型インターンシップ」、学部・学科からの紹介で専門的分野の「学部学科・研究科等専門型インターンシップ」がある。

5）単位認定されるインターンシップの内容
① 対象：全学部全学科の原則として３回生
② 実施時期：４月のガイダンス、６月～７月事前研修、夏季休業期間に就業体験、
１０月事後研修（報告会）
③ 授業科目名：「インターンシップＡ」（就業体験が５日以上である。） １単位
「インターンシップＢ」（就業体験が１０日以上である。） ２単位
＊自由科目とし、卒業単位には加えない。
④ 履修登録：受入先決定後行うので Web 登録は不要。インターンシップガイダンスで説明する。
⑤ 保険の加入義務：実習中の事故に備え、全員、賠償責任保険に加入する。
⑥ 成績評価：就業体験に原則として全て出席していることを前提に「事前学習レポート」「実習日誌」「受入担当者報告書（評価書）」「報告書レポート」の４点を総合的に評価する。
⑦ その他：実習にかかる報酬等は支払われない（無報酬である）。交通費、食費は自己負担である。ただし、受入企業・団体が交通費等を補助する場合は、この限りではない。
⑧ 注意：インターンシップに申込をした後は、特別な事情がない限り辞退できない。

# 滋賀県立大学インターンシップの流れ

| | 学生 | 大学 | 受入先（企業・団体） |
|---|---|---|---|
| 1月～3月 | | 受入問合せ・有無、要件の確認 【大学→←受入先】 | |
| 4月下旬 | **ガイダンス・体験者の発表**<br>応募票・ガイダンスブック配布【学生←大学】 | | |
| 5月1日～<br>5月～6月 | **応募票受付、申込先の決定（必要に応じて選考）【学生⇔大学】** | | |
| | **申込手続き 5月～6月（順次）**<br>申込書(履歴書)・学長への同意書・賠償責任保険確認書（手続）・誓約書<br>事前レポートの提出 【学生→大学】 | | |
| | | **受入の依頼 5月～6月（順次）**<br>依頼文書・申込書・誓約書・覚書（協定書）・事前レポート<br>研修プログラム（様式）の送付 【大学→受入先】 | |
| | | 受入の承諾（選考の場合も）<br>承諾書・研修プログラム・協定書受領 【大学←受入先】 | |
| | **実習プログラム通知** 【学生 ←大学】 | | |
| 7月 | **事前研修Ⅰ（マナー講座）** 6月下旬または7月上旬 | | |
| | **事前研修Ⅱ**（就業体験心得・手続き等確認）7月下旬<br>実習日誌・その他文書等配布 【学生←大学】 | | （場合によって打合せ）【受入先と学生】 |
| 8月～9月 | **インターンシップ参加**<br>実習日誌の記録 | 受入先訪問<br>就業体験参観等 | **インターンシップ受入**<br>就業体験指導 |
| | **実習報告レポート・（実習日誌）の提出**【学生→大学】 | | |
| | | **評価書・実習日誌の送付** 【大学←受入先】 | |
| 10月下旬 | **報告会・グループディスカッション【参加学生全員】** | | |
| 11月 | | **インターンシップ単位認定** | |

インターンシップ参加者は、次の①～④に必ず出席すること（必修）

① ガイダンス　２回実施（いずれか１回必修）
② 事前研修Ⅰ（マナー講座等）　２回実施（いずれか１回必修）
③ 事前研修Ⅱ　１回実施（必修）
④ 報告会　３回実施（いずれか１回必修）

# ボランティア関連科目について

平成 23 年度から学生のボランティア活動についても、下記の要件で単位を認定しています。単位の認定を希望する場合、教務グループまで相談に来てください。

**１）科目名：「ボランティア活動」**
**２）単位数：１単位（自由科目とし、卒業要件単位には含まれません。）**
**３）成績評価：「合格・不合格」**
**４）活動対象：東日本大震災などの災害救助法が適用される災害に対する復興支援活動**
**学校や教育委員会から要請を受けた学校ボランティア活動**
**５）活動期間：30 時間以上のボランティア活動（複数期間の通算可）**
**６）休業期間中以外の取扱い：不可（休業期間中のみを対象とする。）**

※ただし、授業を欠席することなくボランティア活動を行った場合は、学業期間中であっても認めることとします。

単位認定にあたっては、下記の申請、報告が必要となります。

１．事前届（単位認定申請書）
２．ボランティア活動の現認が確認できる現認証明書
３．事後報告（活動レポート）
※活動終了後 3 週間までに提出すること

| 科目名 | インターンシップＡ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 就職指導担当教員 | |
| 授業概要 | この授業は以下の３セクションから構成される。<br>１）事前学習（学内）：事前レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。<br>２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で５日以上９日間までの就業体験をする。<br>３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。 | |
| 到達目標 | 就業体験することを通して、勤労観や社会感を育む。<br>自己の適性や志向に照らして進路を考える。 | |
| 成績評価 | 就業体験に原則として全て参加していることを前提に、事前レポート２０％、就業体験（実習日誌を含む）５０％、実習レポート３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ビジネスマナー研修テキストを配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | インターンシップＢ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 就職指導担当教員 | |
| 授業概要 | この授業は以下の３セクションから構成される。<br>１）事前学習（学内）：事前レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。<br>２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で１０日間以上までの就業体験をする。<br>３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。 | |
| 到達目標 | 就業体験することを通して、勤労観や社会感を育む。<br>自己の適性や志向に照らして進路を考える。 | |
| 成績評価 | 就業体験に原則として全て参加していることを前提に、事前レポート２０％、就業体験（実習日誌を含む）５０％、実習レポート３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ビジネスマナー研修テキストを配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | キャリアデザイン論Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 菊地　憲次 | |
| 授業概要 | 学生一人ひとりが自身の将来を描き、人間形成とキャリア・職業観の育成、職業・進路の選択および決定ができる能力を培う。<br>このために、昭和 30 年以降の日本の経済成長、消費者の行動、デフレの到来などが労働環境に及ぼした影響について明らかにする。<br>更にリアルタイムでビジネスの世界で起きている現象・出来事を知り、そこから新たなビジネスの可能性や未来予測などを自分達自身で考え、発表し、クラスで共有していく。<br>また、自己のキャリアについて広い観点から考えることの重要性に気づき、勉学・課外活動も含めた学生生活のあり方について考える動機付けとする。 | |
| 到達目標 | （1）近代経済を理解する。：近代経済の高度成長の仕組みを理解し、現在進行している東南アジアなどの高度成長について理解できる。<br>（2）価格破壊と労働環境を理解する。：消費者の声を反映した価格決定システムがもたらした経済の変化が労働環境に与えた影響をについて理解すること。<br>（3）IR 情報を理解する。：企業の IR 情報の解析ができ、企業の経営状態や将来性を考えることができる。<br>（4）労働法、税およびキャリアを理解する。：社会の仕組みや労働法を理解し、自己のキャリアを伸ばす考え方を習得する。<br>（5）大学での生活の目標を明確化：現在の大学生活の目標設定につなげることができる。 | |
| 成績評価 | 講義ごとのレポート 100％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | キャリアデザイン論Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 菊地　憲次 | |
| 授業概要 | 自己の将来の生き方を捉えるための自己分析、業界、企業しくみや職種を理解させること。このために、社会や企業から求められている能力のなかで、多様な社会現象を客観的、論理的に考察する能力とともに、ビジネスモデルや業界研究を通じて、提言や企画にとりまとめて適切に発信するコミュニケーション能力を養成する。 | |
| 到達目標 | この授業を通じて具体的にキャリアデザインを考えることが出来るようにするとともに、ビジネスの現場で必要な考える力とコミュニケーション力の基本スキルを身につける。このため、（1）客観的な思考方法や（2）コミュニケーション能力、（3）創造力、（4）コーディネート力の基礎的な概念を学ぶことを目標とする。 | |
| 成績評価 | 授業（３０点　３回以上欠席で不合格）　レポート授業毎（７０点） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義中に配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ボランティア活動（前期） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修・木村　裕 | |
| 授業概要 | 【復興支援活動】<br>東日本大震災などの災害救助援助法が適用される災害に対する復興支援活動にボランティアとして従事したことを、大学が単位として認定します。<br>現地での活動経験は、自分自身のかけがえのない体験、様々な人とのつながりの創造になるとともに、単位認定により就職活動等での自己アピールのひとつとすることが可能です。<br>【学校ボランティア活動】<br>学校や教育委員会から要請のあった教育支援活動など教育現場等で行なうボランティア活動に対して単位を認定します。教員を目指す学生にとって、大学の早い時期から教育現場を体験しておくことは、子どもを理解したり、学校教育の状況を把握する貴重な機会となります。 | |
| 到達目標 | ・ボランティア活動を実践できる<br>・体験を通じた「つながり」が形成できる<br>・子どもとのふれあいを通じて、子どもとの関わり方を理解できる | |
| 成績評価 | 成績評価：「合格」「不合格」。<br>成績評価にあたっては、以下の 3 点が必要<br>(1)単位認定申請書、(2)現地での活動証明書、(3)活動報告書 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 履修者には適宜資料を配付する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ボランティア活動（後期） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修・木村　裕 | |
| 授業概要 | 【復興支援活動】<br>東日本大震災などの災害救助援助法が適用される災害に対する復興支援活動にボランティアとして従事したことを、大学が単位として認定します。<br>現地での活動経験は、自分自身のかけがえのない体験、様々な人とのつながりの創造になるとともに、単位認定により就職活動等での自己アピールのひとつとすることが可能です。<br>【学校ボランティア活動】<br>学校や教育委員会から要請のあった教育支援活動など教育現場等で行なうボランティア活動に対して単位を認定します。教員を目指す学生にとって、大学の早い時期から教育現場を体験しておくことは、子どもを理解したり、学校教育の状況を把握する貴重な機会となります。 | |
| 到達目標 | ・被災地域でボランティア活動を実践できる<br>・体験を通じた「つながり」が形成できる<br>・子どもとのふれあいを通じて、子どもとの関わり方を理解できる | |
| 成績評価 | 成績評価：「合格」「不合格」。成績評価にあたっては、以下の 3 点が必要<br>(1)単位認定申請書、(2)現地での活動証明書、(3)活動報告書 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 履修者には適宜資料を配付する | |
| 履修資格 | | |

# ４　環境科学部科目履修の手引

## １．環境科学部の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

（１）学位授与方針

環境科学部は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を以下のとおり定めます。

Ａ　環境問題を多角的に俯瞰するための幅広い知識と倫理観を身につけ、自然科学・社会科学の両側面から理解し判断できる。（知識・理解）（思考・判断）

Ｂ　自らの専門分野における環境問題の解決、あるいは自然環境と調和した人間社会を創造するための高度な専門知識・技術を有している。（知識・理解）（技術・技能）

Ｃ　直面する環境問題に関心を持ち、問題解決に向けて主体的・協同的に取り組むことができる。（意欲・関心）（態度）

Ｄ　専門分野に関する調査研究の内容や成果等を、口頭発表、論文作成などの手法を用いて表現するとともに他者と論理的に議論できる。（技術・技能）（思考・判断）

（２）教育課程の編成・実施方針

環境科学部は、琵琶湖とその周辺を主なフィールドとした実践的な環境教育を基幹とし、以下の方針に沿った教育カリキュラムを編成しています。

Ａ　＜人間学・地域基礎・健康体力科学科目＞：　人間・環境・社会・文化について多面的に理解し、論理的・倫理的・主体的に思考判断できる能力を養う。

Ｂ　＜外国語教育・情報処理科目＞：　外国語によるコミュニケーション能力、読解力、および必要な情報を入手・発信する能力を養う。

Ｃ　＜学部共通基礎科目・複数学科共通科目＞：　自然科学と社会科学の両面から幅広い知識を身につけることで、多様で複雑な環境問題に対して自らの見解を柔軟に形成できる能力を養う。

Ｄ　＜学科専門科目・複数学科共通科目＞：　自らの専門分野における環境問題に関心をもち、問題の発見と解決あるいは自然環境と調和した人間社会の創造に必要となる専門知識、技術、実践力等を身につける。また、専門分野に関する調査研究の内容や成果等を、口頭発表、論文作成などの手法を用いて表現するとともに、他者と論理的に議論できる能力を養成する。

## ２．環境科学部共通科目の履修について

① 環境フィールドワーク（ＦＷ）は、１年次にＦＷⅠ、２年次にＦＷⅡ、３年次にＦＷⅢがあります。これらのうちＦＷⅠとＦＷⅡは必修科目で、ＦＷⅢは選択科目です。ＦＷⅢはテーマにより実施時期が異なるので、通年講義で３単位とします。

② 専門科目は、学部共通基礎科目、複数学科共通科目、学科専門科目からなっています。これらの科目の履修の仕方については各学科の指示にしたがってください。

③ 専門科目の中には同じ科目名の後にⅠ、Ⅱを付した科目があります。これらはそれぞれ独立した科目ですが、できるだけⅠを付した科目から履修し、その後Ⅱを付した科目を履修するようにしてください。

④ 基礎数学Ⅰ、Ⅱは、高校で数学Ⅲと数学Ｃを履修していない１回生を対象にしています。高校で両科目を履修したものは、履修するに及びません。

⑤ ３回生までに単位履修が十分でないときは、４年次に卒業研究の単位履修を認めないことがあります。その条件は、各学科で決められています。

## ３．環境生態学科専門科目の履修について

### （１）環境生態学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

**■教育目標**

環境生態学科の学生には、授業を通して、実際の環境での問題を発見し、その対処法を提案することを求めます。環境問題を発見して解析する能力を養うため、幅広い分野で少人数制の先鋭的な授業を展開しています。我々のカリキュラムは、従来の基礎科学のうち環境問題解決に特に必要な基礎分野を統合して学習することから始まります。その上で、各分野で特に重要な事項に関する実習・実験科目を履修します。この段階では、実際の野外環境を題材として学習します。４年生では一年かけて卒業研究にとりくみます。学生は滋賀県の恵まれたフィールドにじかに触れ、環境調査への即戦力的実力を身に付けます。

**■学位授与方針**

環境生態学科は，卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し，カリキュラムに規定する所定の単位を取得した上で，環境生態学科の定める人材育成目標を達成した者に，学士課程の環境科学の学位を授与します。

A. 人間・社会・環境の関係について多様な側面から理解できる。（知識・理解）
B. 外国語で意思疎通し，与えられた課題について情報を入手し発信する基礎能力を養う。（技術・技能）
C. 生態系の構造と機能を探求するのに必要な科学的基礎力を修得する。（知識・理解）
D. 様々な生態系の構造と機能、地域の課題について幅広い知識を身につけ，それらについて自然科学（物理学・化学・生物学・地球科学）的方法論を用いて理解できる。（知識・理解）
E. 生態系の保全と修復に関する知識を身につけるとともに，その保全修復に積極的に関わる態度を持つ。（知識・理解）（興味・関心）（思考・判断）
F. 物理的・化学的・生物的・地球科学的環境因子の調査測定，解析に必要な技術を修得する。（技術・技能）
G. 環境問題、地域課題の解決に対し，専門知識に基づいて自らの見解を形成できる。（知識・理解）（興味・関心）（思考・判断）
H. 調査結果等を口頭発表，論文作成等の適切な手法を用いて表現できる。（技術・技能）（思考・判断）（興味・関心）
I. 他者と論理的に議論できる。（技術・技能）（思考・判断）（興味・関心）

**■教育課程の編成・実施方針**

環境生態学科では，実際の環境問題を発見し，その対処法を提案する能力を培うことを目的として，必要な分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて，カリキュラム（教育課程）を編成しています。科目履修のモデルとして構造・機能・保全修復科学の科目について陸域環境保全コースおよび水域環境保全コースを設置し，専門化を行います。

＜人間学・健康体力科学・専門科目＞

A. 人間・社会・環境の関係について多様な側面から理解できる能力を養うための科目を配置している。

＜外国語教育科目・専門科目＞

B. 外国語で意思疎通し，与えられた課題について情報を入手し発信する基礎能力を養うための科目を配置している。

＜情報処理・専門科目＞

C. 生態系の構造と機能を探求するのに必要な科学的基礎力を修得するための科目を配置している。

＜専門科目・地域志向専門科目＞

D. 様々な生態系の構造と機能について幅広い知識を身につけ，それらを自然科学（物理学・化学・生物学・地球科学）的方法論を用いて理解できる能力を修得するための科目を配置している。

＜専門科目＞

E. 生態系の保全と修復に関する知識を身につけるとともに，その保全修復に積極的に関わる態度を養うための科目を配置している。

＜専門科目＞

F. 物理的・化学的・生物的・地球科学的環境因子の調査測定，解析に必要な技術を修得するための科目を配置している。

＜人間学・専門科目・地域基礎教育・地域志向専門科目＞

G. 環境問題に対し，自らの見解を形成できる能力を養うための科目を配置している。

＜人間学・専門科目・地域基礎教育・地域志向専門科目＞

H. 調査結果等を口頭発表，論文作成等の適切な手法を用いて表現できる能力を身につけるための科目を配置している。

＜人間学・専門科目＞

I. 他者と論理的に議論できる能力を身につけるための科目を配置している。

**（2）環境生態学科卒業要件**

［２０１５（平成２７）年度入学生用］

| | | |
|---|---|---|
| **１　全学共通科目**（計　３０単位以上） | 必修１８単位、選択必修１２単位以上 | |
| ① 共通基礎科目 | １８単位以上 | ※留学生はP.21参照 |
| 第一外国語 | 英語ＩＡ・B、ⅡA・B、ⅢA・B、ⅣA・B　　８単位 | |
| 第二外国語 | ドイツ語ＩＡ・ＩB・ⅡA・ⅡB、フランス語ＩＡ・ＩB・ⅡA・ⅡB、中国語ＩＡ・ＩB・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ＩＡ・ＩB・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ＩＡ・ＩB・ⅡA・ⅡBのうちから４単位以上。<br>ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ＩＡ・ＩB」で代替可。 | |
| 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位 | |
| 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位 | |
| ② 人間学 | ８単位以上（「人間探求学」は必修） | |
| ③ 地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」は必修） | |
| **２　専門科目**（計　１００単位以上） | 必修５８単位、選択４２単位以上 | |
| ① 必修 | 年次別配当表に指定する科目　５８単位 | |
| ② 選択 | 年次別配当表に指定する科目から４２単位以上<br>ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条） | |
| **合計** | １３０単位以上 | |

**【卒業研究等履修要件】**

合計１００単位以上。１１０単位以上の取得が望ましい。

**【卒業研究等審査基準】**

1　卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。

⑴ 研究目的の妥当性

⑵ 研究方法の的確性・独創性

⑶ 研究内容の新規性・学術性・社会性

⑷ 研究内容の論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性

⑸ 卒業論文の論理性

2　卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3　上記１ならびに２による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

4　平成２６年度以前入学生は入学年度の「履修の手引」を参照のこと。

## (3)環境生態学科年次別配当表

| 科目名 | 担当教員 | 単位 | 1年 前 | 1年 後 | 2年 前 | 2年 後 | 3年 前 | 3年 後 | 4年 前 | 4年 後 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **2　専門科目** | | | | | | | | | | | |
| **2.1 学部共通基礎科目** | | | | | | | | | | | |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ | 学部教員 | 3 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ | 学部教員 | 3 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ | 学部教員 | 3 | | | | | ○ | ○ | | | 選択 |
| 環境学原論 | 村上修一 | 2 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 環境科学概論Ⅰ | 永淵　他 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境科学概論Ⅱ | 高橋　他 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 基礎数学Ⅰ | 山﨑惣治郎 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| 基礎数学Ⅱ | 山﨑惣治郎 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| **2.2 複数学科共通科目** | | | | | | | | | | | |
| 環境経済学入門 | 高橋・林 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| 環境監査 | 池北實 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境財政 | 村上一真 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 環境政策学 | 上河原・未定 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 環境アセスメント | 錦澤・杉本・柴田 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境数学Ⅰ・演習 | 廣島幸正 | 3 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| 環境数学Ⅱ・演習 | 廣島幸正 | 3 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| 環境物理学Ⅰ | 倉茂好匡 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 環境地球科学Ⅰ | 堂満華子 | 2 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 環境統計解析学 | 籠谷泰行 | 2 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 河川環境学 | 倉茂好匡 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 水環境政策論 | 井手慎司 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 測量学 | 小谷廣道 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境水文学 | 大久保卓也 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境法 | 上河原・小林　他 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 地域環境政策論 | 香川雄一 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境解析学・同実験 | 永淵･丸尾・尾坂 | 4 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 地球環境システム論 | 松本健一 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 湖沼環境学 | 後藤直成 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 土壌環境化学 | 飯村康夫 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 農薬環境学 | 須戸幹 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 陸域環境影響調査指針 | 未定 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 水域環境影響調査指針 | 細井祥子 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 集水域物質循環論 | 尾坂兼一 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 陸域生態系保全修復論 | 野間直彦 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 集水域生態系保全修復論 | 浦部美佐子 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |

| 科目名 | 担当教員 | 単位 | 1年 前 | 1年 後 | 2年 前 | 2年 後 | 3年 前 | 3年 後 | 4年 前 | 4年 後 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2.3 学科専門科目 | | | | | | | | | | | |
| 琵琶湖環境学 | 伴修平 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 環境変遷史 | 堂満華子 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 環境生物学Ⅰ | 浦部美佐子 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 環境生物学Ⅱ | 浅岡一雄 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 西田･野間･泉･上町･伴･杉浦･入江･籠谷･清水･原田 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| 環境物理学Ⅱ | 村岡良和 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境物理学実験 (ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 岩間・堂満・三浦・未定 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境化学Ⅰ | 丸尾雅啓 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境化学Ⅱ | 岡田豊 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 丸尾･永淵･須戸･肥田･飯村 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| 環境地球科学Ⅱ | 山口・三田村 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 大久保･後藤･堂満･細井・未定 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 森林環境学 | 野間直彦 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 遺伝学 | 清水顕史 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 海洋環境学 | 伴修平 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 大気環境学 | 永淵修 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 集水域環境学 | 尾坂兼一 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 集水域環境学・同実験 | 浦部・肥田・堂満・尾坂・未定２名 | 4 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 生物統計学 | 泉津弘佑 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 動物生態学 | 高倉耕一 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 陸域環境機能論 | 肥田嘉文 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 集水域環境機能論 | 永淵修 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 水域物質循環論 | 細井祥子 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 陸域環境学・同実験 | 野間・籠谷・西田・未定 | 4 | | | | | ○ | | | | 必修 |
| 水域環境学・同実験 | 伴･浦部･後藤･細井 | 4 | | | | | ○ | | | | 必修 |
| 分子生物学 | 入江俊一 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 水域環境機能論 | 丸尾雅啓 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 陸域物質循環論 | 籠谷泰行 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 集水域環境影響調査指針 | 肥田嘉文 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 水域生態系保全修復論 | 後藤直成 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 環境論考解析学 | 西田隆義 | 2 | | | | | | | | ○ | 必修 |
| 環境生態学特別実習 | 学科教員 | 3 | | | | | | ○ | | | 必修 |
| 環境学野外実習Ⅰ | 学科教員 | 1 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| 環境学野外実習Ⅱ | 学科教員 | 1 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境学野外実習Ⅲ | 学科教員 | 1 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境生態学外書講読 | 学科教員 | 1 | | | | | ○ | | | | 必修 |
| 環境生態学外書表現 | 学科教員 | 1 | | | | | | ○ | | | 必修 |
| 環境生態学基礎演習 | 学科教員 | 1 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 環境生態学演習Ⅰ | 学科教員 | 1 | | | | | | | ○ | (○) | 必修 |
| 環境生態学演習Ⅱ | 学科教員 | 1 | | | | | | | (○) | ○ | 必修 |
| 卒業研究Ⅰ | 学科教員 | 3 | | | | | | | ○ | (○) | 必修 |
| 卒業研究Ⅱ | 学科教員 | 3 | | | | | | | (○) | ○ | 必修 |

# 環境生態学科・専門科目履修モデル

※構造・機能・保全修復科学の選択科目に関しては、**陸域環境保全コース**または**水域環境保全コース**の科目を一通り履修することが推奨されます。関心領域や卒業後の進路をよく考えてコースを選択してください（他コースの推奨科目も履修できます）。

**＜学部共通基礎科目＞**　　**太字…必修科目**，細字…選択科目

| | 学年 | 学期 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ＜学部共通基礎＞ | 1 | 前 | **環境科学概論Ⅰ** | **環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ** | 基礎数学Ⅰ |
| | | 後 | **環境科学概論Ⅱ** | 基礎数学Ⅱ | |
| | 2 | 前 | **環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ** | | |
| | | 後 | **環境学原論** | | |
| | 3 | 前・後 | 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ | | |

**＜複数学科共通科目および学科専門科目＞**

| | 学年 | 学期 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 〈学科基礎〉 | 1 | 前 | **環境化学Ⅰ** | 環境生物学実験 | 環境数学Ⅰ・演習 |
| | | 後 | **環境物理学Ⅰ** | **環境生物学Ⅰ** | **琵琶湖環境学** |
| | | | **環境変遷史** | **環境生態学基礎演習** | 環境化学実験 |
| | | | 環境数学Ⅱ・演習 | | |
| | 2 | 前 | **環境地球科学Ⅰ** | 環境地球科学Ⅱ | 環境物理学実験 |
| | | | 環境地球科学実験 | | |
| | | 後 | 環境生物学Ⅱ | | |
| | 3 | 前 | **環境生態学外書講読** | 環境物理学Ⅱ | 環境化学Ⅱ |
| | | 後 | **環境生態学外書表現** | | |
| | | | 陸域環境保全コース推奨科目 | 両コース共通 | 水域環境保全コース推奨科目 |
| 〈構造科学〉 | 2 | 前 | 森林環境学 | 河川環境学 | 海洋環境学 |
| | | 後 | 大気環境学 | 集水域環境学 | 湖沼環境学 |
| 〈機能科学〉 | 3 | 前 | 陸域環境機能論 | 集水域環境機能論 | 水域物質循環論 |
| | | | | 集水域物質循環論 | |
| | 3 | 後 | 陸域物質循環論 | | 水域環境機能論 |
| 〈保全修復科学〉 | 3 | 前 | 陸域環境影響調査指針 | | 水域環境影響調査指針 |
| | 3 | 後 | 陸域生態系保全修復論 | 集水域環境影響調査指針 | 水域生態系保全修復論 |
| | | | | 集水域生態系保全修復論 | |
| 〈解析科学〉 | 2 | 前 | **環境統計解析学** | | |
| | | 後 | **環境解析学・同実験** | **集水域環境学・同実験** | |
| | 3 | 前 | **陸域環境学・同実験** | **水域環境学・同実験** | |
| | 4 | 後 | **環境論考解析学** | | |
| 〈野外科学〉 | 1 | 前 | 環境学野外実習Ⅰ | | |
| | 2 | 前 | 環境学野外実習Ⅱ | | |
| | 3 | 前 | 環境学野外実習Ⅲ | | |
| 〈卒業研究〉 | 3 | 後 | **環境生態学特別実習** | | |
| | 4 | 前 | **環境生態学演習Ⅰ** | **卒業研究Ⅰ** | |
| | 4 | 後 | **環境生態学演習Ⅱ** | **卒業研究Ⅱ** | |

## ４．環境政策・計画学科専門科目の履修について

### （１）環境政策・計画学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

**■教育目標**

環境政策・計画学科では、環境を配慮した政策や計画の理論と技法を学び取ることを目標にカリキュラムが組まれています。環境政策や環境計画は、さまざまなプロジェクトの設計、イベントの計画、ビジネスの構築、行政計画において必要となる、環境を配慮した目標達成のための人間および社会を対象とした政策や計画です。したがって、環境政策や環境計画を学ぶために、人間行動や社会システムに関する科目群と環境および環境と人間活動の相互作用に関する科目群および環境フィールドワークの延長としての実習、演習系の科目群が配置されています。これらの科目群を学んだ後に、フィールドワークを踏まえた卒業研究を通して政策や計画の理論と技法を身につけることができるようにカリキュラムが編成されています。

**■学位授与方針**

環境政策・計画学科は、卒業時点において学生が身に付けるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境政策・計画学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

A. 環境政策と環境計画についての知識を習得し理解する。（知識・理解）
- 環境を配慮した政策や計画について学ぶ。
- 環境問題と関連する人間行動や社会システムについて理解する。
- 環境および環境と人間活動の相互作用についての知識を習得する。
- 環境政策と環境計画の理解に必要な知識を学ぶ。

B. 環境問題に対して思考・判断する能力を獲得する。（思考・判断）
- プロジェクトの設計やイベントの計画を通じて環境問題について考える。
- ビジネスの構築や行政計画から環境問題の解決策を検討する。
- 環境を配慮した政策や計画の目標を達成するための思考能力と判断力を身に付ける。

C. 地域環境問題や地球環境問題についての興味や関心を養成する。（興味・関心）
- 環境フィールドワークによる現場での体験から学ぶ。
- 環境政策や環境計画の実態について調べる。
- 環境問題と人間や社会とのかかわりについて興味を持つ。
- 環境問題が発生してきた地域に関心を持つ。

D. 環境を配慮した社会の実現につながる技能や技術を習得する。（技能・技術）
- 政策や計画を作成するための技法を習得する。
- 環境を配慮した政策や計画を導入するために支援となるような技法を学ぶ。
- 環境問題の解決につながる研究を論文の作成と口頭による発表によって、わかりやすく伝える技術を身に付ける。

E. 環境政策や環境計画に携わるための態度を養成する。（意欲・態度）
- 環境問題に関連するイベントや会議に主体的に参加することができる。
- 環境政策や環境計画に従事している人にインタビューをすることができる。
- 自分から環境問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる。

F. 地域の課題と専門分野との関わりが理解できる。（知識・理解）

G. 地域課題の解決に向けて、専門知識を応用することができる。（技術・技能）（思考・判断）（興味・関心）

■教育課程の編成・実施方針

環境政策・計画学科では、環境を配慮した政策や計画の理論と技法を学び取ることを目標に、環境政策や環境計画に関する科目を習得するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて編成しています。

A. 基礎・理論系科目
　政策立案・計画策定についての基礎的な理論を学ぶ。
B. 基礎・技法系科目
　フィールドワークや地域調査といった現場にふれる技法から、計画演習といった環境問題にかかわる政策・計画を行う基礎的な技法を学ぶ。
C. 発展・技法系科目
　政策立案・計画策定により深く切り込むための発展的な技法を学ぶ。
D. 発展・理論系科目
　政策立案・計画策定にさまざまな視点から深く切り込むための多様な理論を学ぶ。
E. 選択科目
　政策立案・計画策定にかかわる多様な領域の考え方を学ぶ。

（２）環境政策・計画学科専門科目履修上の注意

環境政策・計画学科科目配当表を参照しながらこの説明を読んでください。

当学科で学士（環境科学）の学位授与の資格を得るためには、所定の科目の単位を修得しなければなりません。科目配当表に示すように、全科目は、基礎・理論系と基礎・技法系，発展・技法系、発展・理論系といったグループから構成されています。前のページに示した全学共通科目に加えて、環境政策・計画学科科目配当表にリストしてある学科必修科目のグループから全科目（４１単位)、学科選択必修科目Ａのグループから１５単位以上、学科選択必修科目のＢグループから２２単位以上を必ず選択しなければなりません。残りの単位は選択必修Ａ、選択必修Ｂ、選択科目のグループから選択することになります。科目群構成を参考にして系統的な履修を心がけてください。

この配当表に記載のない科目（他学部他学科の科目）を選択してもよいですが、この場合１５単位に限り、学士（環境科学）の学位授与資格に必要な専門科目に組み入れることができます。

・学科選択科目のグループの概要

基礎・理論系科目：政策立案・計画策定についての基礎的な理論を学ぶための科目群です。
基礎・技法系科目：フィールドワークや地域調査といった現場にふれる技法から，計画演習といった環境問題に関わる政策・計画をおこなう技法を学ぶための科目群です。
発展・技法系科目：政策立案・計画策定により深く切り込むための発展的な技法を学ぶための科目群です。
発展・理論系科目：政策立案・計画策定にさまざまな視点から深く切り込むための多様な理論を学ぶための科目群です。
選択科目：政策立案・計画策定に関わる多様な領域の考え方を学ぶための科目群です。

・選択に際しての留意事項

① 高学年に配当されている科目を低学年のうちに履修したいときは、事前に担当教員の許可が必要です。
② 学科科目配当表の選択科目のグループにリストされていても、実験演習科目の場合は、履修に先立ち担当教員の許可が必要です。配当表にリストされていない他学部他学科の実験演習科目の場合もこれと同じです。
③ 学年担任、あるいは人間探求学（月曜日 1 時限）の教員のアドバイスを受けて、履修科目を決定することが望まれます。
④ 平成２６年度以前入学生は入学年度の「履修の手引」を参照のこと。

環境政策・計画学科　カリキュラムマップ

| 科目名 | DP−A.<br>知識・理解 | DP−B.<br>思考・判断 | DP−C.<br>興味・関心 | DP−D.<br>技能・技術 | DP−E.<br>態度 | DP−F.<br>知識・理解 | DP−G.<br>技術・技能・<br>思考・判断・<br>興味・関心 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 環境FWⅠ | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | | |
| 環境FWⅡ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 環境FWⅢ | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 環境学原論 | ◎ | ◎ | | | | | |
| 環境科学概論Ⅰ | ◎ | | ◎ | | | | |
| 環境科学概論Ⅱ | ◎ | | ◎ | | | | |
| 基礎数学Ⅰ | | ○ | | | | | |
| 基礎数学Ⅱ | | ○ | | | | | |
| 環境経済学入門 | B | B | | B | | | |
| 地域再生システム論 | ○ | | | | | | |
| 地域調査法 | ◎ | ◎ | | ◎ | | | |
| 環境生物学Ⅰ | ○ | | | | | | |
| 環境物理学Ⅰ | ○ | | | | | | |
| 経済学Ⅰ | B | B | | B | | | |
| 環境水文学 | | ○ | | | | | |
| 環境地球科学Ⅰ | ○ | | | | | | |
| 環境法 | B | B | | | | | |
| 経済学Ⅱ（国際経済を含む） | B | B | | B | | | |
| 社会学 | | B | | B | | | |
| 森林環境学 | ○ | | | | | | |
| 政治学Ⅰ | | ○ | | | | | |
| 地域開発論 | B | B | B | | | | |
| 地域環境政策論 | B | | B | | | | |
| 法学概論（国際法を含む） | | ○ | | | | | |
| 環境経営論 | B | | B | | | | |
| 環境計画学 | ◎ | | ◎ | | | | |
| 環境経済学 | B | B | | B | | | |
| 環境財政 | B | B | B | B | | | |
| 環境政策学 | ◎ | ◎ | | | | | |
| 景観計画 | | ○ | | | | | |
| 政治学Ⅱ（国際政治を含む） | | ○ | | | | | |
| 地球環境システム論 | B | B | B | B | | | |
| 水環境政策論 | B | B | | | | | |
| 環境アセスメント | A | A | A | | | | |
| 環境会計 | B | B | B | B | | | |
| 環境化学Ⅰ | ○ | | | | | | |
| 環境監査 | A | A | | A | | | |
| 環境行動論 | ○ | ○ | | | | | |
| 環境倫理学 | B | B | | | | | |
| サスティナブルデザイン論 | | ○ | | | | | |
| 資源経済学 | B | | B | | | | |
| 環境シミュレーション | | A | | A | | | |
| 国際環境資源論 | B | B | | B | | | |
| 動物生態学 | ○ | | | | | | |
| 基礎統計 | | ◎ | | | | | |
| 市民参加論 | B | | B | | | | |
| 地域システム論 | B | B | B | | | | |
| 応用数学 | | ◎ | | | | | |
| 環境経済演習 | A | A | | A | | | |
| 環境社会学 | B | | B | | | | |
| 地域調査法演習 | ◎ | ◎ | | ◎ | | | |
| ファシリテーション技法・演習 | | A | | A | | | |
| 応用統計学Ⅰ | ◎ | ◎ | | ◎ | | | |
| 環境情報演習 | A | A | | | | | |
| 環境心理学 | B | | | B | | | |
| 応用統計学Ⅱ | ◎ | ◎ | | ◎ | | | |
| 合意形成支援技法・演習 | | | | A | | | |
| GIS演習 | A | A | | A | | | |
| 社会システム分析設計・演習 | A | A | | A | | | |
| イベント計画論・演習 | | A | A | A | A | | |
| 環境マネジメント演習 | | A | | A | | | |
| 社会調査実習 | | A | | A | A | | |
| 廃棄物管理論 | B | | | B | | | |
| エネルギー変換工学 | ○ | | | | | | |
| 政策形成・施設演習 | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | | |
| 政策計画基礎演習Ⅰ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 政策計画基礎演習Ⅱ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 政策計画演習Ⅰ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 政策計画演習Ⅱ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 政策計画演習Ⅲ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 政策計画演習Ⅳ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 卒業研究Ⅰ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 卒業研究Ⅱ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |

◎=必修、○＝選択、A＝選択必修A、B＝選択必修B

環境政策・計画学科　H27年度科目配当表

| 学年 | 学期 | 全学共通基礎 | 人間学・地域基礎 | 基礎・理論系（必修） | 基礎・技法系（必修） | 発展・技法系（選択必修A） | 発展・理論系（選択必修B） | 選択科目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 前期 | ◎英語ⅠA 1<br>◎英語ⅡA 1<br>◎第2外国語ⅠA 1<br>◎情報リテラシー 2 | 人間探究学 2<br>地域共生論 2 | 環境科学概論Ⅰ 2<br>基礎統計 2 | 環境フィールドワークⅠ 3<br>地域調査法 2 | | 地域システム論 2<br>市民参加論 2<br>環境経済学入門 2 | 基礎数学Ⅰ 2<br>地域再生システム論（1～4回生配当） 2 |
| | 後期 | ◎英語ⅠB 1<br>◎英語ⅡB 1<br>◎第2外国語ⅠB 1<br>◎健康・体育科学Ⅰ 1<br>◎情報科学概論 2 | | 環境科学概論Ⅱ 2<br>応用数学 2 | 政策形成・施設演習 2<br>地域調査法演習 1 | ファシリテーション技法・演習 3<br>環境経済演習 1 | 環境社会学 2<br>経済学Ⅰ 2 | 基礎数学Ⅱ 2<br>環境生物学Ⅰ 2<br>環境物理学Ⅰ 2 |
| 2年 | 前期 | ◎英語ⅢA 1<br>◎英語ⅣA 1<br>◎第2外国語ⅡA 1<br>実用英語演習ⅠA 1<br>◎健康・体育科学Ⅱ 1 | | 応用統計学Ⅰ 2 | 環境フィールドワークⅡ 3<br>政策計画基礎演習Ⅰ 1 | | 環境法 2<br>環境心理学 2<br>地域開発論 2<br>地域環境政策論 2<br>経済学Ⅱ（国際経済を含む） 2<br>社会学 2<br>水環境政策論 2 | 政治学Ⅰ 2<br>法学概論（国際法を含む） 2<br>環境地球科学Ⅰ 2<br>森林環境学 2<br>水文学 2 |
| | 後期 | ◎英語ⅢB 1<br>◎英語ⅣB 1<br>◎第2外国語ⅡB 1<br>実用英語演習ⅠB 1 | | 環境学原論 2<br>応用統計学Ⅱ 2<br>環境政策学 2<br>環境計画学 2 | 政策計画基礎演習Ⅱ 1 | 社会システム分析設計・演習 3<br>合意形成支援技法・演習 3<br>GIS演習 1<br>環境情報演習 1 | 地球環境システム論 2<br>環境経済学 2<br>環境経営論 2<br>環境財政 2 | 景観計画 2<br>政治学Ⅱ（国際政治を含む） 2 |
| 3年 | 前期 | | | | 政策計画演習Ⅰ 1 | 社会調査実習（通年） 1<br>イベント計画論・演習 3<br>環境監査 2<br>環境マネジメント演習 1<br>環境アセスメント 2 | 廃棄物管理論 2<br>環境会計 2<br>環境倫理学 2<br>資源経済学 2 | 環境フィールドワークⅢ（通年） 3<br>環境行動論 2<br>サスティナブルデザイン論 2<br>環境化学Ⅰ 2 |
| | 後期 | | | | 政策計画演習Ⅱ 1 | 環境シミュレーション 2 | 国際環境資源論 2 | 動物生態学 2<br>エネルギー変換工学 2 |
| 4年 | 前期 | | | | 政策計画演習Ⅲ 1<br>卒業研究Ⅰ 3 | | | |
| | 後期 | | | | 政策計画演習Ⅳ 1<br>卒業研究Ⅱ 3 | | | |
| 合計単位 | | 全学共通基礎科目 20 | 人間学・地域基礎 12 | 18 | 23 | 23<br>このうちから15単位以上選択 | 42<br>このうちから22単位以上選択 | 37 |
| | | | | 必修単位合計 41 | | 選択必修A 15 | 選択必修B 22 | 選択科目 22 |
| | | | | | | 「選択必修」および「選択」単位合計 59 | | |

ただし、全学共通科目で30単位を超えた分の科目および他学部・他学科の開講科目については、15単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。

### （3）環境政策・計画学科卒業要件

［２０１５（平成２７）年度入学生用］

**１　全学共通科目**（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上

| | | |
|---|---|---|
| ① 共通基礎科目 | １８単位以上 | ※留学生はP.21 参照 |
| | 第一外国語 | 英語ＩA・B、ⅡA・B、ⅢA・B、ⅣA・B　　８単位 |
| | 第二外国語 | ドイツ語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、フランス語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、中国語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB のうちから４単位以上。<br>ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ＩA・ＩB」で代替可。 |
| | 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位 |
| | 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位 |
| ② 人間学 | ８単位以上（「人間探求学」は必修） | |
| ③ 地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」は必修） | |

**２　専門科目**（計　１００単位以上）　必修４１単位、選択必修３７単位以上、選択２２単位以上

| | |
|---|---|
| ① 必修 | 年次別配当表に指定する科目　４１単位 |
| ② 選択必修 | 年次別配当表のＡグループから１５単位以上、Ｂグループから２２単位以上、合計３７単位以上（超過分は「③選択」に参入できる） |
| ③ 選択 | 科目配当表に指定する科目から２２単位以上<br>ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１５単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条） |
| **合計** | １３０単位以上 |

注意）入学時の履修の手引は，卒業するまで保管しておくこと。履修の手引は大学と学生との間の契約書のようなものです。履修の手引は年々改訂されますが，入学時の履修の手引に記載されていたことが適用されます。

**【卒業研究履修要件】**

全学共通科目：２６単位以上
- 全学共通基礎科目　１８単位以上
- 人 間 学　６単位以上
- 地域基礎　２単位以上

専門科目：８４単位以上
- 専門必修科目　３３単位以上
- 選択必修科目　３７単位以上（科目配当表の「選択必修Ａ」から１５単位以上、「選択必修Ｂ」から２２単位以上）
- 専門選択科目＊　１４単位以上

＊認定される科目とされない科目があるので十分留意すること。

**【卒業研究審査】**

１　卒業研究（卒業論文）は、以下の評価項目によって審査する。
- ⑴ 研究目的の明確性や新規（独創）性
- ⑵ 論文の論理展開の明快さ
- ⑶ 目的達成のための調査量
- ⑷ 結論としての知見の社会的あるいは学術的な有用性
- ⑸ 十分な分析と考察
- ⑹ 論文の完成度
- ⑺ プレゼンテーション技法と質疑応答能力
- ⑻ 卒業研究への取り組みの熱意

２　卒業研究（卒業論文）は、審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

３　１および２に基づき審査し、その後の修正を経た最終提出をもって、合否を決定する。

## (4)環境政策・計画学科年次別配当表(2015(平成27)年度入学生)

| 科目名 | 担当教員 | 単位 | 1年 前 | 1年 後 | 2年 前 | 2年 後 | 3年 前 | 3年 後 | 4年 前 | 4年 後 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **2　専門科目** | | | | | | | | | | | |
| **2.1 学部共通基礎科目** | | | | | | | | | | | |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ | 学部教員 | 3 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ | 学部教員 | 3 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ | 学部教員 | 3 | | | | | ○ | ○ | | | 選択 |
| 環境学原論 | 村上修一 | 2 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 環境科学概論Ⅰ | 永淵　他 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境科学概論Ⅱ | 高橋　他 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 基礎数学Ⅰ | 市川源一 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| 基礎数学Ⅱ | 市川源一 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| **2.2 複数学科共通科目** | | | | | | | | | | | |
| 環境経済学入門 | 高橋卓也・林宰司 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択必修B |
| 地域再生システム論 | 鵜飼・轟　他 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | 選択 |
| 地域調査法 | 香川雄一 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境物理学Ⅰ | 倉茂好匡 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| 経済学Ⅰ | 林宰司 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択必修B |
| 環境水文学 | 大久保卓也 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境地球科学Ⅰ | 堂満華子 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境法 | 小林泉　他 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択必修B |
| 経済学Ⅱ(国際経済を含む) | 村上一真 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択必修B |
| 社会学 | 小野奈々 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択必修B |
| 地域開発論 | 秋山道雄 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択必修B |
| 地域環境政策論 | 香川雄一 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択必修B |
| 環境経営論 | 高橋卓也 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択必修B |
| 環境計画学 | 近藤隆二郎 | 2 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 環境経済学 | 林宰司 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択必修B |
| 環境財政 | 村上一真 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択必修B |
| 環境政策学 | 秋山・上河原 | 2 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 景観計画 | 村上修一 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 地球環境システム論 | 松本健一 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択必修B |
| 水環境政策論 | 井手慎司 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択必修B |
| 環境アセスメント | 錦澤・杉本・柴田 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択必修A |
| 環境会計 | 藤近雅彦 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択必修B |
| 環境監査 | 池北實 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択必修A |
| 環境行動論 | 迫田正美 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境倫理学 | 土屋正春 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択必修B |
| サスティナブルデザイン論 | 芦澤竜一 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 資源経済学 | 高橋卓也 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択必修B |
| 環境シミュレーション | 井手慎司 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択必修A |
| 国際環境資源論 | 高橋･林 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択必修B |
| **2.3 学科専門科目** | | | | | | | | | | | |
| 環境生物学Ⅰ | 浦部美佐子 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| 森林環境学 | 野間直彦 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 法学概論(国際法を含む) | 坂田雅夫 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 政治学Ⅰ | 竹本知行 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 政治学Ⅱ(国際政治を含む) | 竹本知行 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 環境化学Ⅰ | 丸尾雅啓 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 動物生態学 | 高倉耕一 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 基礎統計 | 金谷健 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 市民参加論 | 小野奈々 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択必修B |
| 地域システム論 | 秋山道雄 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択必修B |
| 応用数学 | 井手慎司 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 環境経済演習 | 林宰司 | 1 | | ○ | | | | | | | 選択必修A |
| 環境社会学 | 小野奈々 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択必修B |
| 地域調査法演習 | 香川雄一 | 1 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| ファシリテーション技法・演習 | 平山奈央子 | 3 | | ○ | | | | | | | 選択必修A |

| 科目名 | 担当教員 | 単位 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | |
| 応用統計学Ⅰ | 松本健一 | 2 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 環境情報演習 | 松本健一 | 1 | | | | ○ | | | | | 選択必修Ａ |
| 環境心理学 | 佐々木和之 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択必修Ｂ |
| 応用統計学Ⅱ | 村上一真 | 2 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 合意形成支援技法・演習 | 金谷健 | 3 | | | | ○ | | | | | 選択必修Ａ |
| ＧＩＳ演習 | 香川雄一 | 1 | | | | ○ | | | | | 選択必修Ａ |
| 社会システム分析設計・演習 | 平山奈央子 | 3 | | | | ○ | | | | | 選択必修Ａ |
| イベント計画論・演習 | 近藤隆二郎 | 3 | | | | | ○ | | | | 選択必修Ａ |
| 環境マネジメント演習 | 高橋卓也 | 1 | | | | | ○ | | | | 選択必修Ａ |
| 社会調査実習 | 小野・林・松本・村上（一） | 1 | | | | | ○ | ○ | | | 選択必修Ａ |
| 廃棄物管理論 | 金谷健 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択必修Ｂ |
| エネルギー変換工学 | 河﨑澄 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 政策形成・施設演習 | 学科教員 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 政策計画基礎演習Ⅰ | 学科教員 | 1 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 政策計画基礎演習Ⅱ | 学科教員 | 1 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 政策計画演習Ⅰ | 学科教員 | 1 | | | | | ○ | | | | 必修 |
| 政策計画演習Ⅱ | 学科教員 | 1 | | | | | | ○ | | | 必修 |
| 政策計画演習Ⅲ | 学科教員 | 1 | | | | | | | ○ | | 必修 |
| 政策計画演習Ⅳ | 学科教員 | 1 | | | | | | | | ○ | 必修 |
| 卒業研究Ⅰ | 学科教員 | 3 | | | | | | | ○ | | 必修 |
| 卒業研究Ⅱ | 学科教員 | 3 | | | | | | | | ○ | 必修 |

## ５．環境建築デザイン学科専門科目の履修について

### （１）環境建築デザイン学科の学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

**■教育目標**

本学科は、我が国で初めて創設された環境科学部に属する建築学科です。従来の工学的建築の枠組み、専門性を超えて、自然と人間・社会の相互の関係性、連続性、人間の生活に根ざした視点に価値をおく環境科学的枠組みが必要であるという共通の認識のもと、建築や地域・都市を深く探求し、創造的な提案をしていく専門的な能力を個々に養いつつ、それらの総合化を目指しています。そのプロフェッションをキーワードで示せば、「循環」「再生」「持続」「長寿命」「省エネ」「景観」「融合」「調整」「生態」などがあげられます。強い意志で環境問題を理解し、環境倫理を持つ建築の学生を輩出するのが本学科の目標です。

**■学位授与方針**

環境建築デザイン学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境建築デザイン学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

A. 人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につけること（知識・理解）（興味・関心）
  - A-1. 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、興味に応じて多面的に学習し、大学教養レベルの知識と複雑化・流動化していく現代社会の中で将来の指針を見いだしていく能力を身につけること（知識・理解）
  - A-2. 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につけること（知識・理解）

B. 技術が環境や社会に与える影響や効果について理解し、技術者・デザイナーとしての責任感と倫理観を身につけること（知識・理解）（興味・関心）

C. 力学、数学、フィールドワーク、情報処理技術、および環境建築デザイン分野の全般に関わる基礎的な知識と技法を身につけること（知識・理解）（技能・技術）

D. 環境建築デザインの各分野の専門的な知識を習得し、さらにそれらを基礎として高度な専門知識と技法を身につけるとともに、それらを応用して与えられた課題を整理・探究する能力を身につけること（知識・理解）（思考・判断）

E. 環境建築デザイン分野の様々なデザイン技法を習得し、さらにそれらを基礎として演習・実習を通じて高度な設計・デザイン技能を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
  - E-1. 環境建築デザインの幅広い課題に関する演習を通じて、課題の分析・解決・提案、及びそれらをデザインに表現する能力を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
  - E-2. 環境建築デザインの幅広い課題に関する実習を通じて、地域の課題を理解し、解決するための技術と技能を身につけること（思考・判断）（技能・技術）

F. 自分の論点や考えを制作や論文を用いて、わかり易く論理的に表現する能力とともに、それを口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う能力を身につけること（思考・判断）（技能・技術）

G. 環境の一部としての建築を計画・設計するという意識をもち、建築プロフェッションとしての明確な目的意識をもち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につけること（技能・技術）（興味・関心）

**■教育課程の編成・実施方針**

環境建築デザイン学科は、環境と調和し持続発展可能な社会の建設に資する建築・環境デザイナーを養成するという目的のために、必要な分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

＜全学共通基礎科目＞

A. 人間と環境や社会について広く理解し、環境科学の基礎的な知見を身につけるための、人間学に関する科目

B. 学士としての基本的な能力を身につけるための語学、健康・体力科学、情報科学・情報処理に関する科目

＜学部共通基礎科目＞

C. 環境建築デザインの基礎となる環境科学の基礎的な知識と調査・分析手法について学ぶ科目

D. 環境建築デザインに関わる主題や論点についてその背景と課題について学ぶ科目

＜専門基礎科目＞

E. 環境建築デザイン分野に共通する基礎的な知識と論理を習得し、デザインと表現の技法を身につける科目

＜専門展開科目＞

F. 環境建築デザインの高度な知識と理論、技法を習得する科目
計画、デザイン、歴史・理論、エンジニアリングの４つの分野の科目群を系統的に履修する

＜演習・実習科目＞

G. 専門科目で修得した知見をもとに、環境建築デザインの幅広い課題の理解と分析、解決と提案を行う技術を実践を通じて習得する演習科目

H. 専門科目で修得した知見を基に地域の課題を理解し解決するための技術と技能を習得する科目

＜卒業研究・卒業設計＞

I. 上記の教育課程で修得した知見と技術を応用し、研究テーマに関して卒業論文または卒業設計としてまとめる

**（２）環境建築デザイン学科科目履修上の注意**

① 専門科目は（Ⅰ）環境科学部全体の共通科目（Ⅱ）複数の学科間での共通科目（Ⅲ）各学科の学生を対象とする科目――の３群から構成されます。複数学科共通科目として挙げている科目は、人間・社会環境を積極的に形成する上で基本となる価値観と方法論を講述します。学科によって必修・選択・選択必修の区分が異なるので注意してください。環境建築デザイン学科の専門科目は、さらにその内容から、（ａ）デザイン系（ｂ）歴史・理論系（ｃ）計画系（ｄ）技術系の４分野に大別されます。

**(a) デザイン系**

建築、ランドスケープ、都市は人の手によっていかようにもデザインすることができる。人と、生活、もの、生態、自然、社会、歴史など相互の様々な関係性を相対的な環境という視座で形にしていくことがデザインである。その関係性を解き明かし、実践するための意匠論、手法論、造形論、職能論などを学ぶ。

**(b) 歴史・理論系**

建築とそれを取巻く環境を成立させる理論的根拠を包括的に学ぶと同時に、今日の建築がいかなる社会的、さらには時代的背景をもって生産されているか探究する。また、これまでどのような建築・環境が生み出され、どのような変遷をたどってきたのか、日本・西洋の建築の歴史を通して学ぶ。

**(c) 計画系**

環境と共生する持続可能な社会の構築をめざし、都市・農村・自然地域における空間の構造と、その計画論について探究する。これからの建築・ランドスケープ・都市を創造するため、住居をはじめとする居住空間、都市・集落の生活空間と地域環境、景観の保全・活用、定住環境と持続・再生、計画制度とまちづくり等に着目した空間論・計画論を学ぶ。

**(d) 技術系**

建築物の設計は、美しさ、快適性とともに安全性、環境性に配慮する必要がある。技術系の科目は、力の流れを理解し、いかに骨組みを構成するかを学ぶ構造計画、構造力学、構造材料実験および私たちの生活に不可欠な光・音・熱についての基礎技術を学ぶ環境工学などの講義、実験、演習で構成される。

② 上記４つの科目群は最終的には扱う対象をそれぞれ異にし、また対応する社会的職能も分かれますので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨が求められることになります。総合的な能力を得るためにも、幅広く履修することを勧めます。

③ 各科目群に関連した科目が他学科・他学部の科目の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧めます。別表に履修することが望ましい他学科・他学部の科目の主要なものを例示してあります。

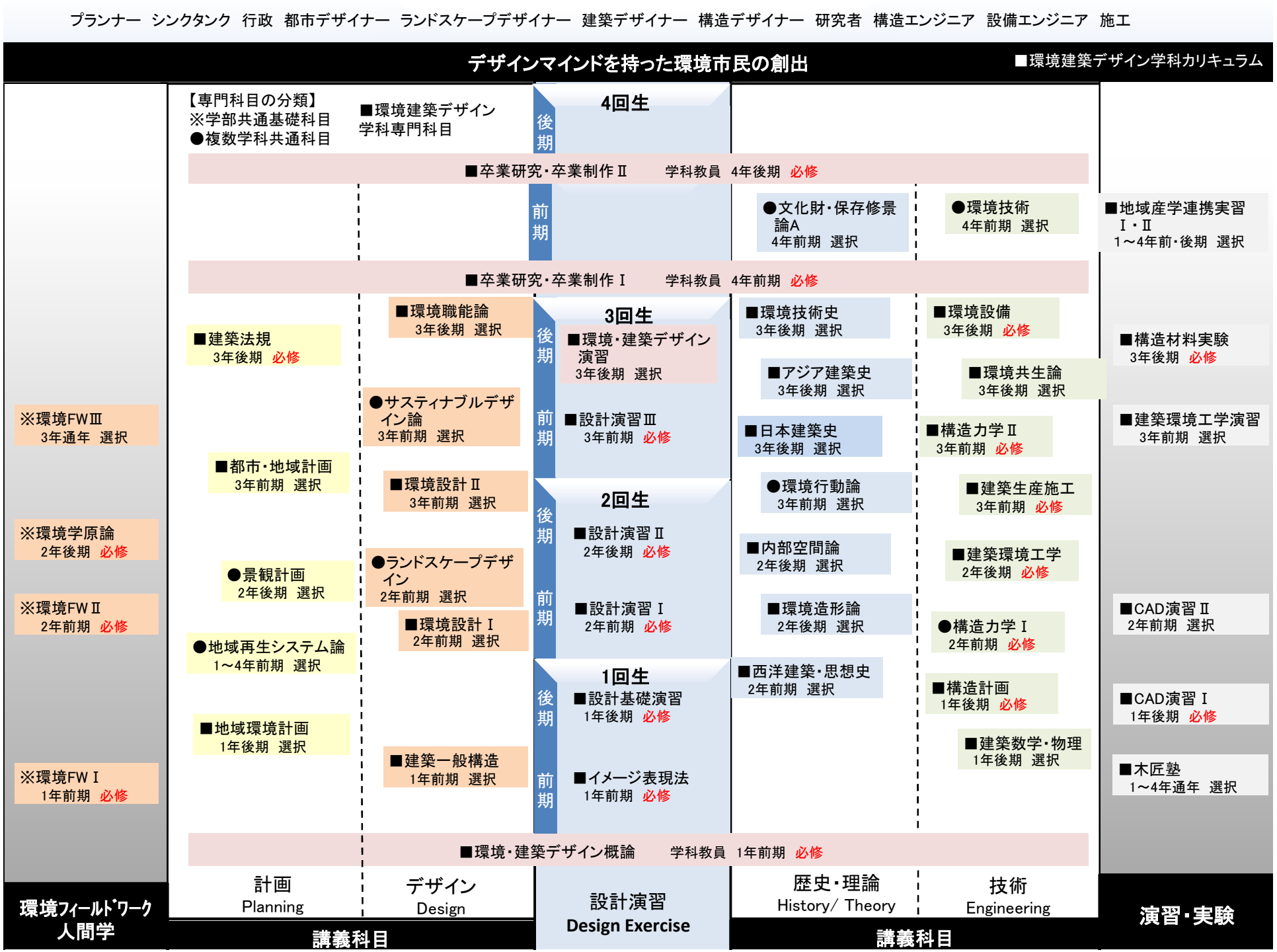
他学科・他学部の科目（所定の必要単位を超える人間学科目と外国語科目を含む。）履修のうち１０単位までは科目にかかわりなく、卒業単位として認定されます。

なお、他学科・他学部開講の実験・実習科目の履修を希望する者は、履修登録に先立って科目担当教員の了解を得る必要があります。

④ 卒業研究・卒業制作については、原則、Ⅰを履修した後でないとⅡは登録できません。卒業研究・卒業制作Ⅰ、卒業研究・卒業制作Ⅱは、同一年度に連続して履修するのが基本であって、複数年度にわたって、もしくは期間をあけて履修するのは、留学、休学等特別の事情がある場合に限られます。

# 環境建築デザイン学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標に対する関与の程度

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 学習・教育目標に対する関与の程度 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | A1 | A2 | B | C | D | E1 | E2 | F | G |
| 専門科目 | 学部共通基礎科目 | 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ | 3 | 必修 | 1・前期 | | | | ◎ | | | | | |
| | | 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ | 3 | 必修 | 2・前期 | | | | ◎ | | | | | |
| | | 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ | 3 | 選択 | 3・前後 | | | | ○ | | | | | |
| | | 環境学原論 | 2 | 必修 | 2・後期 | | | ◎ | | | | | | |
| | | 環境科学概論Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前期 | | | ◎ | | | | | | |
| | | 環境科学概論Ⅱ | 2 | 必修 | 1・後期 | | | ◎ | | | | | | |
| | | 基礎数学Ⅰ | 2 | 選択 | 1・前期 | | | | ○ | | | | | |
| | | 基礎数学Ⅱ | 2 | 選択 | 1・後期 | | | | ○ | | | | | |
| | 複数学科共通科目 | 景観計画 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 構造力学Ⅰ | 2 | 必修 | 2・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境経済学入門 | 2 | 選択 | 1・前期 | | | ○ | | | | | | |
| | | ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟﾃﾞｻﾞｲﾝ | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境政策学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | ○ | | | | | | |
| | | サスティナブルデザイン論 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | ◎ | | | | |
| | | 環境監査 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境アセスメント | 2 | 選択 | 3・前期 | | | ○ | | | | | | |
| | | 地域再生システム論 | 2 | 選択 | 1～4前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境計画学 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境倫理学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | ○ | | | | | | ○ |
| | | 環境財政 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境技術 | 2 | 選択 | 4・前期 | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境行動論 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 文化財・保存修景論A | 2 | 選択 | 4・前期 | | | | | ○ | | | | |
| | 学科専門科目 | 環境・建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論 | 2 | 必修 | 1・前期 | | | | ◎ | | | | | |
| | | 建築一般構造 | 2 | 選択 | 1・前期 | | | | ○ | ◎ | | | | |
| | | ｲﾒｰｼﾞ表現法 | 2 | 必修 | 1・前期 | | | | | | ◎ | | ○ | |
| | | 建築数学・物理 | 2 | 選択 | 1・前期 | | | | ○ | ◎ | | | | |
| | | 地域環境計画 | 2 | 選択 | 1・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | CAD演習Ⅰ | 2 | 必修 | 1・後期 | | | | | | ◎ | | | |
| | | 設計基礎演習 | 2 | 必修 | 1・後期 | | | | | | ◎ | | ○ | |
| | | 構造計画 | 2 | 必修 | 1・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | CAD演習Ⅱ | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | | ◎ | | | |
| | | 設計演習Ⅰ | 3 | 必修 | 2・前期 | | | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 環境設計Ⅰ | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 西洋建築・思潮史 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境造形論 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 内部空間論 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境共生論 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | ○ | ◎ | | | | |
| | | 建築環境工学 | 2 | 必修 | 2・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 設計演習Ⅱ | 3 | 必修 | 2・後期 | | | | | | ◎ | | ○ | |
| | | 設計演習Ⅲ | 3 | 必修 | 3・前期 | | | | | | ◎ | | ○ | |
| | | 日本建築史 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 都市・地域計画 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境設計Ⅱ | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 構造力学Ⅱ | 2 | 必修 | 3・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 建築環境工学演習 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 建築生産施工 | 2 | 必修 | 3・前期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境技術史 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 構造材料実験 | 2 | 必修 | 3・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | アジア建築史 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境設備 | 2 | 必修 | 3・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境職能論 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | ○ | ◎ | | | | ○ |
| | | 建築法規 | 2 | 必修 | 3・後期 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 環境建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 | 3 | 選択 | 3・後期 | | | | | | ◎ | | ○ | |
| | | 木匠塾 | 2 | 選択 | 1～4・前後期 | | | | | | | ◎ | ○ | ○ |
| | | 地域産学連携実習Ⅰ | 2 | 選択 | 1～4・前期 | | | | | | | ◎ | | |
| | | 地域産学連携実習Ⅱ | 2 | 選択 | 1～4・後期 | | | | | | | ◎ | | |
| | | 卒業研究・卒業制作Ⅰ | 3 | 必修 | 4・前期 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 卒業研究・卒業制作Ⅱ | 3 | 必修 | 4・後期 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |


プランナー　シンクタンク　行政　都市デザイナー　ランドスケープデザイナー　建築デザイナー　構造デザイナー　研究者　構造エンジニア　設備エンジニア　施工
デザインマインドを持った環境市民の創出
■環境建築デザイン学科カリキュラム
【専門科目の分類】
※学部共通基礎科目
●複数学科共通科目
■環境建築デザイン
学科専門科目
4回生
後期
■卒業研究・卒業制作Ⅱ　学科教員　4年後期　必修
前期
●文化財・保存修景論A
4年前期　選択
●環境技術
4年前期　選択
■地域産学連携実習Ⅰ・Ⅱ
1～4年前・後期　選択
■卒業研究・卒業制作Ⅰ　学科教員　4年前期　必修
3回生
後期
■環境職能論
3年後期　選択
■環境技術史
3年後期　選択
■環境設備
3年後期　必修
■環境・建築デザイン演習
3年後期　選択
■建築法規
3年後期　必修
■構造材料実験
3年後期　必修
■アジア建築史
3年後期　選択
■環境共生論
3年後期　選択
前期
●サスティナブルデザイン論
3年前期　選択
■設計演習Ⅲ
3年前期　必修
※環境FWⅢ
3年通年　選択
■日本建築史
3年後期　選択
■構造力学Ⅱ
3年前期　必修
■建築環境工学演習
3年前期　選択
■都市・地域計画
3年前期　選択
■環境設計Ⅱ
3年前期　選択
2回生
後期
●環境行動論
3年前期　選択
■建築生産施工
3年前期　必修
■設計演習Ⅱ
2年後期　必修
※環境学原論
2年後期　必修
■内部空間論
2年後期　選択
■建築環境工学
2年後期　必修
●景観計画
2年後期　選択
●ランドスケープデザイン
2年前期　選択
前期
■設計演習Ⅰ
2年前期　必修
※環境FWⅡ
2年前期　必修
■環境設計Ⅰ
2年前期　選択
■環境造形論
2年後期　選択
●構造力学Ⅰ
2年前期　必修
■CAD演習Ⅱ
2年前期　選択
●地域再生システム論
1～4年前期　選択
1回生
後期
■西洋建築・思想史
2年前期　選択
■構造計画
1年後期　必修
■設計基礎演習
1年後期　必修
■地域環境計画
1年後期　選択
■CAD演習Ⅰ
1年後期　必修
■建築数学・物理
1年後期　選択
■建築一般構造
1年前期　選択
前期
■イメージ表現法
1年前期　必修
※環境FWⅠ
1年前期　必修
■木匠塾
1～4年通年　選択
■環境・建築デザイン概論　学科教員　1年前期　必修
計画
Planning
デザイン
Design
設計演習
Design Exercise
歴史・理論
History/ Theory
技術
Engineering
環境フィールドワーク
人間学
講義科目
講義科目
演習・実験

## （3）環境建築デザイン学科卒業要件

［２０１５（平成２７）年度入学生用］

| | | |
|---|---|---|
| **1　全学共通科目**（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上 | | |
| ① 共通基礎科目 | １８単位以上 | ※留学生はP.21 参照 |
| 第一外国語 | 英語ＩA・B、ⅡA・B、ⅢA・B、ⅣA・B　８単位 | |
| 第二外国語 | ドイツ語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、フランス語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、中国語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡBのうちから4単位以上。<br>ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ＩA・ＩB」で代替可。 | |
| 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位 | |
| 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位 | |
| ② 人間学 | ８単位以上（「人間探求学」は必修） | |
| ③ 地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」は必修） | |
| **2　専門科目**（計　１００単位以上）　必修５１単位、選択４９単位以上 | | |
| ① 必修 | 年次別配当表に指定する科目　５１単位 | |
| ② 選択 | 科目配当表に指定する科目から４９単位以上<br>ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条） | |
| **合計** | １３０単位以上 | |

**【卒業研究履修要件】**

1　３年次終了までに、全学共通基礎科目を16単位以上取得していること。
2　３年次終了までに、専門科目の必修単位45単位の内43単位以上取得していること。
3　人間学・地域基礎科目・専門科目（必修・選択）の中で、４年次に取得しなければならない単位数が「卒業研究・卒業制作Ⅰ」「卒業研究・卒業制作Ⅱ」以外に10単位以下であること。

上記１、２、３を全て満たしていなければならない。
この要件を満たしていない場合、「卒業研究・卒業制作Ⅰ」「卒業研究・卒業制作Ⅱ」の履修登録ができない。卒業見込証明書の発行も受けられない。

**【卒業研究等審査基準】**

1　卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、以下の評価項目によって審査する。
⑴ 研究又は制作の目的とその妥当性
⑵ テーマの新規性・学術性・社会性
⑶ 方法の的確性・独創性
⑷ 論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性
⑸ 論理構成及び結論（表現）の妥当性
なお、卒業制作は、以上に加えてプレゼンテーションの手法・技術・密度・完成度について評価する。
2　卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、発表会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
3　１および2による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

## (4)環境建築デザイン学科年次別配当表

| 科目名 | 担当教員 | 単位 | 1年 前 | 1年 後 | 2年 前 | 2年 後 | 3年 前 | 3年 後 | 4年 前 | 4年 後 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **2　専門科目** | | | | | | | | | | | |
| **2.1 学部共通基礎科目** | | | | | | | | | | | |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ | 学部教員 | 3 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ | 学部教員 | 3 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ | 学部教員 | 3 | | | | | ○ | ○ | | | 選択 |
| 環境学原論 | 村上修一 | 2 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 環境科学概論Ⅰ | 永淵　他 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 環境科学概論Ⅱ | 高橋　他 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 基礎数学Ⅰ | 市川源一 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| 基礎数学Ⅱ | 市川源一 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| **2.2 複数学科共通科目** | | | | | | | | | | | |
| 景観計画 | 村上修一 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 構造力学Ⅰ | 陶器・永井 | 2 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 環境経済学入門 | 高橋・林 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟﾃﾞｻﾞｲﾝ | 村上修一 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境政策学 | 秋山・上河原 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| サスティナブルデザイン論 | 芦澤竜一 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境監査 | 池北實 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境アセスメント | 錦澤・杉本・柴田 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 地域再生システム論 | 鵜飼・轟 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | 選択 |
| 環境計画学 | 近藤隆二郎 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 環境倫理学 | 土屋正春 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境財政 | 村上一真 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 環境技術 | 宮崎慎也 | 2 | | | | | | | ○ | | 選択 |
| 環境行動論 | 迫田正美 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 文化財・保存修景論A | 濱崎･井口 | 2 | | | | | | | ○ | | 選択 |
| **2.3 学科専門科目** | | | | | | | | | | | |
| 環境・建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論 | 学科教員 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 建築一般構造 | 黒川直樹 | 2 | ○ | | | | | | | | 選択 |
| ｲﾒｰｼﾞ表現法 | 松岡･高田･轟･永井 | 2 | ○ | | | | | | | | 必修 |
| 建築数学・物理 | 高田･伊丹 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| 地域環境計画 | 轟慎一 | 2 | | ○ | | | | | | | 選択 |
| ＣＡＤ演習Ⅰ | 高柳･ﾋﾒﾈｽ | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 設計基礎演習 | 迫田･村上･轟 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| 構造計画 | 陶器･松村 | 2 | | ○ | | | | | | | 必修 |
| ＣＡＤ演習Ⅱ | ﾋﾒﾈｽ･ﾍﾞﾙﾃﾞﾎ ﾎｱﾝ･ﾗﾓﾝ | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 設計演習Ⅰ | 学科教員 | 3 | | | ○ | | | | | | 必修 |
| 環境設計Ⅰ | ﾋﾒﾈｽ･ﾍﾞﾙﾃﾞﾎ ﾎｱﾝ･ﾗﾓﾝ | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 西洋建築・思潮史 | 迫田正美 | 2 | | | ○ | | | | | | 選択 |
| 環境造形論 | 迫田正美 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 内部空間論 | 高柳英明 | 2 | | | | ○ | | | | | 選択 |
| 環境共生論 | 未定 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 建築環境工学 | 伊丹清 | 2 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 設計演習Ⅱ | 学科教員 | 3 | | | | ○ | | | | | 必修 |
| 設計演習Ⅲ | 学科教員 | 3 | | | | | ○ | | | | 必修 |
| 日本建築史 | 未定 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 都市・地域計画 | 轟慎一 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 環境設計Ⅱ | 未定 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |

| 科目名 | 担当教員 | 単位 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | |
| 構造力学Ⅱ | 高田豊文 | 2 | | | | | ○ | | | | 必修 |
| 建築環境工学演習 | 伊丹清 | 2 | | | | | ○ | | | | 選択 |
| 建築生産施工 | 岩下智 | 2 | | | | | ○ | | | | 必修 |
| 環境技術史 | 未定 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 構造材料実験 | 陶器･高田･永井･伊藤 | 2 | | | | | | ○ | | | 必修 |
| アジア建築史 | 川井操 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 環境設備 | 伊丹清 | 2 | | | | | | ○ | | | 必修 |
| 環境職能論 | 松岡拓公雄 | 2 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 建築法規 | 戸川勝紀 | 2 | | | | | | ○ | | | 必修 |
| 環境建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 | 学科教員 | 3 | | | | | | ○ | | | 選択 |
| 木匠塾 | 松岡・陶器・高田 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 選択 |
| 地域産学連携実習Ⅰ | 学科教員 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | 選択 |
| 地域産学連携実習Ⅱ | 学科教員 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | 選択 |
| 卒業研究・卒業制作Ⅰ | 学科教員 | 3 | | | | | | | ○ | | 必修 |
| 卒業研究・卒業制作Ⅱ | 学科教員 | 3 | | | | | | | | ○ | 必修 |

**環境建築デザイン学科推奨科目一覧表**（他学部・他学科で開講される推奨科目）

① 以下の一覧表に示す他学部・他学科で開講される科目は、その内容が環境建築デザイン学科の専門科目を学ぶ上で、より理解を深めることができる本学科の「推奨科目」である。
② 推奨科目の履修にあたっては、卒業要件の参入条件について、学科卒業要件を読んで十分理解しておくこと。
③ 以下の表の履修年次は、本来開講されている他学部・他学科での履修年次であるので注意すること。

| 推奨科目名 | 担当教員 | 単位 | 本来開講されている他学部・他学科での履修年次 | | | | 開講学部・学科 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 前 後 | 2年 前 後 | 3年 前 後 | 4年 前 後 | |
| 比較住居論 | 藤木庸介 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | 人間学、生活デザイン・人間関係学科 |
| 考現学概論 | 面矢慎介 | 2 | ○ | | | | 生活デザイン学科 |
| 人間行動論 | 細馬宏通 | 2 | ○ | | | | 生活栄養・人間関係学科 |
| 地域文化財論A※ | 伊藤裕久 | 2 | ○ | ○ | | | 地域文化学科 |
| 人間工学 | 中村孝之 | 2 | | ○ | | | 生活デザイン学科 |
| 文化財情報論 | 濱崎・石川 | 2 | | ○ | ○ | | 地域文化学科 |
| 地域文化財論B | 濱崎一志 | 2 | ○ | ○ | | | 地域文化学科 |

※地域文化財論Aは隔年開講（奇数年度開講、偶数年度不開講）

## ６．生物資源管理学科専門科目の履修について

### （１）生物資源管理学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

**■教育目標**

環境負荷の少ない持続可能な社会を形成するために、生物機能の開発・利用、および新しい生物生産技術と生物資源管理技術の必要性が叫ばれています。生物資源管理学科では、このような社会からの期待に応える意志と能力を有する人材を育成しています。このため、学生諸君は幅広い分野を体系的に学びつつ、２回生後期からは「生物機能利用コース」と「環境農学コース」に分かれ、専門分野の知識・技術を修得します。また、フィールドワークなど現場に密着した学習から、実験室内の最先端の分析・研究技術まで一貫した教育体制により、社会で活躍できる実力と実践力を身に付けます。

**■学位授与方針**

生物資源管理学科は，卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し，カリキュラムに規定する所定の単位を取得した上で，生物資源管理学科の定める人材育成目標を達成した者に，学士課程の環境科学の学位を授与します。

Ａ．人間と自然・社会の関係について多面的に理解することで，豊かな人間性と倫理観を身につける。（知識・理解）
　Ａ－１．幅広い教養を習得し，環境問題を解決するための基礎的能力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力および文章表現能力を身につける。（知識・理解）
　Ａ－２．外国語によるコミュニケーション能力および異文化を理解する能力を身につける。（知識・理解）
Ｂ．生物資源管理学の基礎となる知識と技術を身につける。（知識・理解）
Ｃ．生物資源管理学に関連する幅広い専門知識を身につける。（知識・理解）
Ｄ．生物資源管理学の幅広い分野について俯瞰した上で，自ら選択した個別分野について深く理解し，応用できる能力を身につける。（知識・理解）（技能・技術）
　Ｄ－１．各専門分野における専門知識を体系的に身につけ，自ら選択した個別分野について，高度な専門知識と応用力を身につける。（知識・理解）
　Ｄ－２．地域課題と専門分野の関係性についての知識を身につける。（知識・理解）
　Ｄ－３．実験・実習を通じて，実践的な専門技術，結果の解析能力，論理的思考力およびレポート作成能力を身につける。（技能・技術）
Ｅ．地域課題の解決に向けて，生物資源管理学の専門知識を応用する能力を身につける。（技能・技術）（思考・判断）（興味・関心）
Ｆ．生物資源管理学に関係する諸問題を，自らの専門性に基づいて発見し，問題解決に向けて主体的・協同的に行動できる能力を身につける。（思考・判断）（興味・関心）
Ｇ．専門分野の調査研究結果を他者に分かりやすく発表し，論理的にディスカッションできる能力，および科学論文の作成能力を身につける。（技能・技術）

**■教育課程の編成・実施方針**

生物資源管理学科では「生物資源と環境に関わる幅広い視野と知識を持ち，生物資源の管理と活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成する」という目的を達成するために，各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて，カリキュラム（教育課程）を編成しています。

Ａ．人間性・倫理観形成科目（教養・言語科目）
　人間と自然・社会の関係について多面的に理解することで，豊かな人間性と倫理観を養成する。
　Ａ－１．教養形成科目：幅広い教養を習得し，環境問題を解決するための基礎的能力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力および文章表現能力を養成する。
　Ａ－２．言語教育科目：外国語によるコミュニケーション能力および異文化を理解する能力を養成する。
Ｂ．生物資源管理学基礎科目
　生物資源管理学の基礎となる知識と技術を養成する。
Ｃ．生物資源管理学関連科目
　生物資源管理学に関連する幅広い専門知識を養成する。
Ｄ．生物資源管理学科目
　生物資源管理学の幅広い分野について俯瞰した上で，自ら選択した個別分野について深く理解し，応用できる能力を養成する。

D－１．生物資源管理学専門科目
各専門分野における専門知識を体系的に身につけ，自ら選択した個別分野について，高度な専門知識と応用力を養成する。

D－２．生物資源管理学地域志向専門科目
地域課題と専門分野の関係性についての知識を養成する。

D－３．生物資源管理学実験・実習科目
実験・実習を通じて，実践的な専門技術，結果の解析能力，論理的思考力およびレポート作成能力を養成する。

E．生物資源管理学地域志向応用科目
地域課題の解決に向けて，生物資源管理学の専門知識を応用する能力を養成する。

F．生物資源管理学応用・展開科目（1）
生物資源管理学に関係する諸問題を，自らの専門性に基づいて発見し，問題解決に向けて主体的・協同的に行動できる能力を養成する。

G．生物資源管理学応用・展開科目（2）
専門分野の調査研究結果を他者に分かりやすく発表し，論理的にディスカッションできる能力，および科学論文の作成能力を養成する。

**（2）科目履修上の注意**

① 専門科目は、（a） 環境科学部全体の学部共通基礎科目、（b） 複数学科共通科目、および（c） 学科専門科目から構成されています。資格関連科目については、「資格取得等の手引」の項を見てください。

② 複数学科共通科目と学科専門科目の履修にあたっては、卒業後の進路をよく考えて、学科が提供する履修コースの選択を踏まえたうえで、体系的に講義科目を履修することが望まれます。詳しくは学科のオリエンテーションで説明します。

③ 生物資源管理学実験・実習 I～XI および環境フィールドワーク III は選択必修科目で、計 11 科目（23 単位）から 6 科目（12 単位）以上を履修してください。それぞれの科目の実習分野は以下のとおりです。

| | |
|---|---|
| 生物資源管理学実験・実習Ⅰ | 植物栽培分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 遺伝・培養分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 動物資源管理分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 微生物・菌類分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅴ | 遺伝子工学分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 作物保護分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 土壌・水質分析分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅸ | 土壌物理・気象分野 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅹ | 測量実習 |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅺ | 経営・経済分野 |
| 環境フィールドワーク Ⅲ | 担当教員の指定する分野 |

④ ４年次における卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、学科教員の各研究室に分属して行うことになります。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、同一の教員の指導を受けるのを常とします。また、卒業研究Ⅱは、卒業研究Ⅰを修得した後でないと履修できません。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、同一年度に連続して履修するのが基本であって、複数年度にわたって、もしくは期間をあけて履修するのは、留学、休学等特別の事情がある場合に限られます。さらに、研究内容によっては、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修時期に制約を受ける場合があります。

なお、３年次までに単位履修が不十分な場合、４年次において卒業研究Ⅰ・Ⅱと生物資源管理学演習Ⅰ・Ⅱを履修できないことがあります。

⑤ 他学科開講の実験・実習の履修を希望する者は、科目担当教員の了解を事前に得なければなりません。

⑥ 次年度以降、科目名が改訂・変更される場合があります。新科目名：旧科目名の読み替え表（対応表）は４月上旬の学科オリエンテーションで配布します。また、時間割表には新科目名と旧科目名の両方が表記されます。

## （3）生物資源管理学科卒業要件

［２０１５（平成２７）年度入学生用］

**１　全学共通科目**（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上

| | | |
|---|---|---|
| ① 共通基礎科目 | １８単位以上 | ※留学生はP.21参照 |
| | 第一外国語 | 英語ＩA・B、ⅡA・B、ⅢA・B、ⅣA・B　８単位 |
| | 第二外国語 | ドイツ語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、フランス語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、中国語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡBのうちから４単位以上。<br>ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ＩA・ＩB」で代替可。 |
| | 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位 |
| | 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位 |
| ② 人間学 | ８単位以上（「人間探求学」は必修） | |
| ③ 地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」は必修） | |

**２　専門科目**（計　１００単位以上）

| | |
|---|---|
| 必修 | 年次別配当表に指定する１２科目２４単位 |
| 選択必修 | 年次別配当表に指定する選択必修１１科目２３単位から１２単位以上 |
| 選択 | 年次別科目配当表に指定する選択科目、および選択必修科目のうち必修単位を超える単位数あわせて６４単位以上<br>ただし、複数学科共通科目のうち生物資源管理学科が提供する科目（年次別配当表に「選択・資源」と記入）と学科専門科目から３２単位以上を履修しなければならない |

なお、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条）

**合計**　１３０単位以上

**【卒業研究等履修要件】**

| | 取得単位数 | |
|---|---|---|
| | ３年次前期終了時 | ３年次後期終了時 |
| 全学共通基礎科目 | 12 | 16 |
| 専門科目（必修・選択必修） | 18 | 24 |
| 専門科目（選択） | 46 | 52 |
| うち学科提供科目 | 20 | 26 |
| 専門科目（合計） | 64 | 76 |

# 生物資源管理学科履修モデル

生物機能利用コースでは，生物機能を用いた物質生産や環境改善に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します．

環境農学コースでは，生物資源の生産・循環，土壌・水資源の保全・活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します．

| 科目区分 | 科目名（学年・学期） | | | | | | 望ましい取得単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 卒業研究 | | 卒業研究Ⅰ 4・前期 | | 生物資源管理学演習Ⅰ 4・前期 | | | |
| | | 卒業研究Ⅱ 4・後期 | | 生物資源管理学演習Ⅱ 4・後期 | | | |
| | 生物機能利用コース | 両コース共通 | | | | 環境農学コース | |
| コース実験・実習 | 生物資源管理学実験・実習Ⅱ 3・後期<br>生物資源管理学実験・実習Ⅳ 3・後期<br>生物資源管理学実験・実習Ⅴ 3・前期 | 生物資源管理学実験・実習Ⅰ 3・前期<br>生物資源管理学実験・実習Ⅲ 2・後期 | | 生物資源管理学実験・実習Ⅸ 2・後期<br>環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ 3・通年 | | 生物資源管理学実験・実習Ⅵ 3・前期<br>生物資源管理学実験・実習Ⅷ 3・前期<br>生物資源管理学実験・実習Ⅹ 2・前期<br>生物資源管理学実験・実習Ⅺ 2・後期 | コース別に<br>5科目10単位以上 |
| コース専門 | 植物遺伝資源学 2・後期<br>植物病害防除論 3・前期<br>応用微生物学 3・後期<br>植物資源開発学 3・後期<br>養魚飼料学 2・後期 | 栽培植物各論A 2・後期<br>農薬環境学 3・前期<br>魚類学 3・後期<br>動物資源管理学 3・前期 | | 食料経済システム論 3・前期<br>害虫管理学 3・前期<br>栽培植物各論B 3・後期<br>農業統計利用論 3・後期 | | 地域情報処理学 2・後期<br>家畜生産環境学 3・前期<br>水利環境施設学 2,3・前期<br>土壌環境情報学 2,3・前期<br>環境動物学 3・後期<br>水資源保全学 3・後期<br>流域環境管理学 3・後期 | コース別に<br>6科目12単位以上 |
| コース基礎 | 植物生産学 1・後期<br>水産資源学 2・前期<br>土壌環境化学 2・前期<br>水理学 2・後期<br>水資源利用学 2・後期 | 遺伝学 2・前期<br>水質管理学 2・前期<br>土壌環境物理学 2・前期<br>生物統計学 2・後期<br>植物栄養学 3・前期 | | 植物資源管理学 2・前期<br>環境水文学 2・前期<br>環境植物生理学 2・後期<br>動物生態学 2・後期<br>地域資源管理学 3・前期 | | 家畜生産生理学 2・前期<br>測量学 2・前期<br>作物保護学 2・後期<br>農業経営学 2・後期<br>分子生物学 3・前期 | 10科目20単位以上 |
| 学科基礎（実験） | 環境物理学実験<br>（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） 2・前期 | 環境化学実験<br>（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） 1・後期 | | 環境生物学実験<br>（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） 1・前期 | | 環境地球科学実験<br>（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） 2・前期 | 2科目4単位以上 |
| 学科基礎（講義） | 環境物理学Ⅰ 1・後期 | 環境化学Ⅰ 1・前期 | | 環境生物学Ⅰ 1・後期 | | 環境地球科学Ⅰ 2・前期 | 2科目4単位以上 |

（4）生物資源管理学科年次別配当表

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択の別 | 学年・学期 | 学科のDPとの対応 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | A―1 | A―2 | B | C | D―1 | D―2 | D―3 | E | F | G |
| 専門科目 | 学部共通基礎科目 | 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ | 3 | 必修 | 1・前期 | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| | | 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ | 3 | 必修 | 2・前期 | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| | | 環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ | 3 | 選択必修 | 3・通年 | ○ | | | | | | ○ | ○ | | |
| | | 環境科学概論Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前期 | ◎ | | | | | | | | | |
| | | 環境科学概論Ⅱ | 2 | 必修 | 1・後期 | ◎ | | | | | | | | | |
| | | 環境学原論 | 2 | 必修 | 2・後期 | ◎ | | | | | | | | | |
| | | 基礎数学Ⅰ | 2 | 選択 | 1・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 基礎数学Ⅱ | 2 | 選択 | 1・後期 | | | ○ | | | | | | | |
| | 複数学科共通科目 | 環境数学Ⅰ・演習 | 3 | 選択 | 1・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境数学Ⅱ・演習 | 3 | 選択 | 1・後期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境物理学Ⅰ | 2 | 選択 | 1・後期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境地球科学Ⅰ | 2 | 選択 | 2・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境解析学・同実験 | 4 | 選択 | 2・後期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境経済学入門 | 2 | 選択 | 1・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 経済学Ⅰ | 2 | 選択 | 1・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 河川環境学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 経済学Ⅱ(国際経済を含む) | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟﾃﾞｻﾞｲﾝ | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 社会学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境法 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境統計解析学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 構造力学Ⅰ | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境財政 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 水環境政策論 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 景観計画 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 湖沼環境学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境経営論 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境経済学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境政策学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 地球環境システム論 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 資源経済学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境会計 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境監査 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境アセスメント | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 集水域物質循環論 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 陸域環境影響調査指針 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 水域環境影響調査指針 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 集水域生態系保全修復論 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 陸域生態系保全修復論 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境シミュレーション | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 国際環境資源論 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 環境技術 | 2 | 選択 | 4・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 地域調査法 | 2 | 選択 | 1・前期 | | | | ○ | | ○ | | | | |
| | | 地域開発論 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | ○ | | | | |
| | | 環境水文学 | 2 | 選択・資源 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 測量学 | 2 | 選択・資源 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 土壌環境化学 | 2 | 選択・資源 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 農薬環境学 | 2 | 選択・資源 | 3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 環境化学Ⅰ | 2 | 選択 | 1・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境化学Ⅱ | 2 | 選択 | 3・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境生物学Ⅰ | 2 | 選択 | 1・後期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境生物学Ⅱ | 2 | 選択 | 2・後期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境化学実験 | 2 | 選択 | 1・後期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境生物学実験 | 2 | 選択 | 1・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境地球科学実験 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 環境物理学実験 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | ○ | | | | | | | |
| | | 森林環境学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 集水域環境機能論 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 陸域環境機能論 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | ○ | | | | | | |
| | | 生物資源管理学概論 | 2 | 必修 | 1・前期 | | | | | ◎ | | | | | |

| 区分 | 授業科目名 | | 単位数 | 必修・選択の別 | 学年・学期 | 学科のDPとの対応 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | A－1 | A－2 | B | C | D－1 | D－2 | D－3 | E | F | G |
| 専門科目 | 学科専門科目 | 植物生産学 | 2 | 選択 | 1・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 植物資源管理学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 遺伝学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 水産資源学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 家畜生産生理学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 水質管理学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 土壌環境物理学 | 2 | 選択 | 2・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 動物生態学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 生物統計学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 環境植物生理学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 作物保護学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 農業経営学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 植物遺伝資源学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 水理学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 栽培植物各論A | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 水資源利用学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 養魚飼料学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 水利環境施設学（隔年開講） | 2 | 選択 | 2・3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 土壌環境情報学（隔年開講） | 2 | 選択 | 2・3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 分子生物学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 植物栄養学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 害虫管理学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 植物病害防除論 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 家畜生産環境学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 専門外書講読Ⅰ | 1 | 必修 | 3・前期 | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 専門外書講読Ⅱ | 1 | 必修 | 3・後期 | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 流域環境管理学 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 応用微生物学 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 植物資源開発学 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 魚類学 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 環境動物学 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 水資源保全学 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 農業統計利用論 | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 栽培植物各論B | 2 | 選択 | 3・後期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 動物資源管理学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | | | | | |
| | | 食料経済システム論 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | 地域情報処理学 | 2 | 選択 | 2・後期 | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | 地域資源管理学 | 2 | 選択 | 3・前期 | | | | | ○ | ○ | | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅰ | 2 | 選択必修 | 3・前期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 2 | 選択必修 | 3・後期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 2 | 選択必修 | 2・後期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 2 | 選択必修 | 3・後期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅴ | 2 | 選択必修 | 3・前期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 2 | 選択必修 | 3・前期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 2 | 選択必修 | 3・前期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅸ | 2 | 選択必修 | 2・後期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅹ | 2 | 選択必修 | 2・前期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学実験・実習Ⅺ | 2 | 選択必修 | 2・後期 | | | | | | | ○ | | | |
| | | 生物資源管理学演習Ⅰ | 1 | 必修 | 4・前期 | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 生物資源管理学演習Ⅱ | 1 | 必修 | 4・後期 | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 卒業研究Ⅰ | 3 | 必修 | 4・前期 | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | 卒業研究Ⅱ | 3 | 必修 | 4・後期 | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ |

この配当表は平成27年度（2015年度）入学生用です。平成26年度（2014年度）以前の入学生は「入学年次の履修の手引」を参照してください。平成27年度（2015年度）入学生は、この配当表にない「学科専門科目」を履修することはできません。

| 科目名 | CAD 演習Ⅰ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高柳　英明 ・ Jimenez Verdejo Juan Ramon | |
| 授業概要 | 建築のデザインを考え、描き、表現する。これら一連のプロセスを行うにあたり、デジタル設計環境の活用は今や不可欠といえる。CAD(又は CAAD)とは、これら目的の作業や表現に併せた設計支援システムのことであり、建築初学時にその技術と知識を習得しておくことで、造形発想やエスキスのツールとしてだけでなく、高精度な図面作成のみならず、デザインの提案力を向上させ、ヴィジュアルプレゼンテーションを思いのままに操ることが可能となる。本演習は CAD を用いた発想法、描画法、視点のシミュレーション等を通じ、CAD を体感的に習得することを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1)中規模鉄筋コンクリート造の建築物の寸法等を図面から正確に読み取り、CAD 上に描画(トレース）することができる。<br>(2)3 次元 CAD を用いてコンピュータグラフィックスによる建築パースペクティブ画像を作図することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す各項目について、(1)を 1～7 回目授業での課題作品の内容（50%）で、(2)を 8～15 回目授業での課題作品の内容（50%）で評価する。<br>上記に沿って 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。なお、各回の出席点を 30%、課題の合計点を 70%として評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特になし。授業中に適宜参考書を指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | CAD 演習Ⅱ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Jimenez Verdejo Juan Ramon | |
| 授業概要 | この授業では、CAD 演習Ⅰで習得した基礎知識、技術を踏まえ、 世界の大学および建築業界で現在一番使用されている建築デザインのソフトである Autodesk(Autocad Architecture,3DS-MAX)を用い、より高精度な図面作成、デザインの提案力の向上、プレゼンテーション能力の向上を目指すことを目的とする。 | |
| 到達目標 | 中規模住宅の２次元平面図、立面図、断面図をデジタル環境を用いて製図する技術、３次元立体の生成と図面表現、CG プレゼンテーションにかかる技術などの習得を目標とする。 | |
| 成績評価 | 課題提出を１００％として評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ＧＩＳ演習 | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 香川　雄一 | |
| 授業概要 | GIS（地理情報システム）は現在計画分野で活用されつつある。その基本を学び、GIS を環境計画に応用するためのデータ作成方法、データ解析および表示方法について課題演習を通じて学習する。 | |
| 到達目標 | ・GIS の仕組みについて理解することができる。<br>・GIS ソフトを操作することができる。<br>・GIS を利用するためのデジタル地図を選択することができる。<br>・GIS を用いてオリジナル主題図を作成することができる。 | |
| 成績評価 | 授業時の作業結果　５０％、　最終課題提出　５０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：佐土原聡編　吉田聡・古屋貴司・稲垣景子著、図解！ArcGIS 10　Part1　身近な事例で学ぼう、古今書院参考図書：Esri ジャパン株式会社著、ArcGIS Desktop 逆引きガイド、Esri ジャパン株式会社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア建築史 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 川井　操 | |
| 授業概要 | 近代日本の建築界において、常にモデルとされ、参照されてきたのは西欧の建築である。西欧の近代建築技術の取得が日本の建築家にとっての第一の課題であった。近代建築の展開は日本のみならず世界中で大きな影響力をもった。しかし、そのあり方について疑問、批判が提出され始めて、既に久しい。地域には地域の建築文化の伝統があり、そのあり方が一方で見直されてきたのである。本科目では、これまであまり関心を払われてこなかったアジア（非西欧世界）の建築史について議論する。 | |
| 到達目標 | アジアの都市建築についての基本的知識を身につける。また、空間形式の起源、形成、変容、転成、保全の原理、法則、メカニズムについて学ぶ。 | |
| 成績評価 | レポート評価 80%　レスポンス・ペーパー20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：指定図書：『東洋建築史図集』（彰国社）<br>参考書：授業時に適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 遺伝学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　顕史 | |
| 授業概要 | 地球上の多種多様な生命は全て、共通祖先から遺伝情報(ゲノム)を継承した派生産物であるといえる。講義では、遺伝情報単位としての塩基配列とその複製機構、減数分裂時の継承様式について学ぶ。またＤＮＡ変異を利用した遺伝地図（連鎖地図）の作成およびそれを応用した遺伝子の単離法についても学び、遺伝子研究に応用されている分子生物学的手法や高速シーケンサー利用についても勉強する。最後に、遺伝子の発現とその検出方法についても解説し、遺伝子型と表現型のより詳細な関係について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)表現型と遺伝子型および環境要因との関係（式）を説明できる<br>(2)遺伝子座の連鎖および形質マッピングを説明できる<br>(3)マップベース・クローニングを説明できる<br>(4)遺伝子とその発現機構について説明できる | |
| 成績評価 | (1)10%(2)60%(3)20%(4)10%<br>期末試験が 60 点以上を合格とする。中間テストの点数および提出課題を加点する(～10 点程度)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第２巻　分子遺伝学』講談社<br>参考書：ワトソン「遺伝子の分子生物学　第６版」東京電機大学出版局 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イベント計画論・演習 | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 近藤　隆二郎 | |
| 授業概要 | イベントの理論的講義と共に、イベントを実際に体験および企画実験することで、イベント計画についての理解をより深めることをねらいとする。実際のイベントの企画デザイン等を学ぶと共に、グループで実際のフィールドを選んで具体的なイベントの企画を行い、実践し、その効果等をフィードバックして共有することを考えている。自ら具体的フィールドを相手に仕掛ける体験を通して、イベントの実践についての理解を深める。 | |
| 到達目標 | (1)実際のイベントを体験して評価できるようになること。<br>(2)イベントの企画をできるようになること。<br>(3)実際のイベントを企画実施することで、その企画を評価できるようになること。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については、課題評価２０％<br>到達目標(2)については、イベント実施内容評価３０％、ワークショップおよびプレゼンテーション評価３０％<br>到達目標(3)については、課題評価２０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：必要に応じ、毎回の講義で配布する。参考書：世田谷まちづくりセンター編「参加のデザイン道具箱」(世田谷まちづくりセンター)、歴史街道推進協議会編「まちづくり参加の一歩 NOTE BOOK」、「祭りとイベントのつくり方」(晶文社)、「まちづくりイベントハンドブック」(学芸出版社)、「ヒト、ムラ、マツリの地域論」(二期出版) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イメージ表現法 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　拓公雄 ・ 轟　慎一 ・ 高田　豊文 ・ 永井　拓生 | |
| 授業概要 | 建築・都市やランドスケープの設計にかぎらず、デザイン行為の原動力となるイマジネーションやアイディアを整理し、そのイメージを 2 次元および 3 次元で表現する力を養うことをねらいとしている。つまり、課題を通して、その答えを形にするまで、頭の中で描くことから始め、自分の手で様々な道具や素材を使って、空間を構成する感性を養うこと。自由な発想と可能性への挑戦をし、自分のイメージを表現する基礎トレーニングであり、環境建築デザインの設計入門となる。 | |
| 到達目標 | (1) デザインの原動力となる想像力やイメージを、2 次元および 3 次元で表現する力を身につける。 | |
| 成績評価 | (1) 制作した作品とプレゼンテーション（100%）: 各課題制作の評価の総合（それぞれを 100 点満点で採点し、平均を取る） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『コンパクト建築設計資料集成』丸善、『初めての建築製図』学芸出版社<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：山本学治『素材と造形の歴史』鹿島出版会 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | エネルギー変換工学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河﨑　澄 | |
| 授業概要 | 環境負荷低減と省エネルギーのためのエネルギー変換工学に関わる基礎知識と現状を理解することを目的とする。このために，エネルギー形態，変換システム，資源や将来の見通し，風力，太陽光，バイオマスなどの新エネルギーや地球温暖化ガスによる温暖化メカニズムやその低減方法に関して理解を深め，ライフサイクルを考慮したエネルギー変換システムの考え方を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)利用可能なエネルギー資源の種類と特徴およびエネルギー変換経路を説明できる。<br>(2)移動用・発電用機関の種類と動作原理を説明できる。<br>(3)分散型エネルギー供給システムの構成とその導入メリットを説明できる。<br>(4)各種新エネルギー利用技術を説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)～(4)を期末筆記試験 70%, および講義中に課すミニレポート 30%により評価する。ミニレポートでは、簡単な計算問題、エネルギー技術導入の得失を問う推論、講義のまとめなどを課し、各講義の理解度を測る。期末筆記試験では、講義で取り扱ったエネルギー技術に関する総合的な論述、計算問題を課す。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>参考書：柳父・西川『エネルギー変換工学』（東京電機大学出版局）など | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 応用数学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 井手　慎司 | |
| 授業概要 | 数式化された問題をいかに解くかを、技術士試験問題を例題として解説する。 | |
| 到達目標 | (1)逆三角・複素関数の問題が解ける。<br>(2)微分・高次微分・偏微分の問題が解ける。<br>(3)極限と級数の問題が解ける。<br>(4)積分・微分方程式の問題が解ける。<br>(5)ベクトル・行列の問題が解ける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)(2)(3)については、中間試験（15% : (1)5%,(2)5%,(3)5%）と定期試験（30% : (1)10%,(2)10%,(3)10%）、(4)については、中間試験（5%）と定期試験（20%）、(5)については、中間試験（10%）と定期試験（20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：矢野健太郎・石原繁共著「科学技術者のための基礎数学」（裳華房） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 応用統計学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松本　健一 | |
| 授業概要 | 社会現象における状況認識、問題発見とその解決には、地域・社会調査により得られた情報、あるいは既存の統計資料を用いたデータ分析が重要となる。本授業では、講義により統計学の知識を習得するとともに、統計解析ソフトを用いたデータ分析の演習を行う。統計学に関する用語を理解した上で、推定や検定などの統計データの扱い方に進む。また、統計分析の解釈に必要な相関関係や回帰分析についても自ら実施できるようにする。 | |
| 到達目標 | (1) 統計学的手法（特に検定・推定）について理解できるようになる。<br>(2) 実際の問題・データに対して統計学的手法を応用し、分析できるようになる。<br>(3) 分析した問題を考察し、レポートとしてまとめることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題（合計 40%）と最終レポート（60%）により評価する。<br>到達目標(1)については毎回の課題（40%）により、(2)と(3)については最終レポート（60%：(2)30%、(3)30%）により、それぞれ評価する。<br>欠席が 4 回以上になると評価対象としない（20 分以上の遅刻は欠席とみなす）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に資料を配布する<br>参考書：栗原伸一『入門統計学』オーム社、その他の統計関連書籍も参考になります。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 応用統計学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　一真 | |
| 授業概要 | この授業では、応用統計学Ⅰで取得した統計学についての基礎知識を踏まえ、より高度な統計技法、具体的には多変量解析（多変量解析の概要、重回帰分析、判別分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析）の方法を理解すること、および多変量解析の環境問題の調査研究への適用事例概要を理解することを、ねらいとする。授業は、講義およびパソコン演習（統計ソフト使用）形式で行う。 | |
| 到達目標 | (1)統計学の基礎理論を理解し、応用分析に用いることができるようになる、(2)基本統計量を理解し、統計的思考・判断ができるようになる、(3)統計分析のソフトウェアを使用することができ、応用分析ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(3)について、それぞれ平常点 5（15/3）%、レポート 11.7（35/3）%、中間まとめ 8.3（25/3）%、期末試験 8.3（25/3）%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：荒木孝治「R と R コマンダーではじめる多変量解析」日科技連<br>参考書：石村貞夫・石村光資郎「入門はじめての多変量解析」東京図書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 応用微生物学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 入江　俊一 | |
| 授業概要 | 微生物とは「肉眼では観察することができない微小な生物全ての総称」であり、無数ともいえる種を包括する雑多すぎるグループである。学問としての微生物学は人間の目的に応じて多くの学問領域を形成しているが、応用微生物学は産業に利用可能な微生物とその性質を理解することを主な目的としている。本講義では、多岐にわたる微生物利用を理解するための基礎知識、バイオサイエンスのツールとしての微生物、産業における代表的な微生物利用例、微生物を利用した環境修復について解説する。 | |
| 到達目標 | （1）微生物分類の基礎を理解する。<br>（2）産業や環境問題対策において重要な微生物の種類と性質について理解する。<br>（3）発酵食品における微生物利用法について知識を得る。<br>（4）微生物を用いた未利用バイオマス変換技術について知識を得る。<br>（5）微生物を利用した環境修復の仕組みを理解する。 | |
| 成績評価 | 宿題・小試験 30%　期末試験 70%の割合で評価を決定する。ただし、講義時間の 3 分の 1 以上欠席したものは評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜、配布する。欠席した場合、配布しないことがある。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 害虫管理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高倉　耕一 | |
| 授業概要 | 作物の害虫管理の基礎として昆虫学の概要を講義するとともに、昆虫による農作物被害の実状とその生態学的メカニズムを詳述し、害虫密度を低いレベルに抑え、それを長期的に維持するための総合的な害虫管理システムの必要性を説く。農薬による化学的防除だけでなく、昆虫と植物の共存関係の利用や天敵・不妊化雄の利用等の生物学的防除の原理と応用、分子生物学的技術の応用についても講述する。 | |
| 到達目標 | (1) 昆虫の変態、休眠などの生活史、および呼吸や消化など生理・内部形態の特徴を、人など哺乳類と対比させて説明できること。<br>(2) 化学的防除法と生物的防除法について、それぞれの長所と短所を比較して説明できること。<br>(3) 総合的害虫管理の理念と実践について、歴史的背景も含めて説明できること。 | |
| 成績評価 | 小テスト（50%）、レポート（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：<br>指定図書：斉藤哲夫他著「新応用昆虫学」（朝倉書店）<br>その他、関連する資料を適宜配布・紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 海洋環境学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伴　修平 | |
| 授業概要 | 海洋生態系の構造と機能を理解し、そこでの物質循環および地球環境変動との関連について学ぶ。授業の前半では、海洋の物理構造とそこに生息する生物について詳しく学び、そこでの生物間相互作用と物質循環について最近の知見を取り入れて理解する。授業の後半では、人間活動あるいは地球環境変動に対する海洋生態系の機能と役割について概観し、海洋における環境問題解決のための基礎知識として活用できるようにする。 | |
| 到達目標 | １）海洋における物理、化学、生物環境の基礎を習得する。<br>２）それぞれの環境因子の相互作用を理解し、説明できる。<br>３）海洋環境に対する人類の影響およびその保全・修復などについて考えることができる。 | |
| 成績評価 | 毎回、授業の最後 20～30 分程度で小テストを行い、前回分の復習と当日の理解度を測る。到達目標の（１）から（３）が習得できているか、期末定期試験にて評価する。成績は、毎時間毎に行う小テストによる評価が 50%、期末定期試験による評価が 50%で総合的に評価する。100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特になし。毎回、関連する資料を適宜配布する。<br>参考図書：高橋正征・古谷研・石丸隆監訳『生物海洋学』（東海大学出版会）、闕文威・長沼毅訳著『生物海洋学入門　第２版』（講談社）、西澤敏編『生物海洋学–低次食段階論–』（恒星社厚生閣）、日本海洋学会編『海と環境』（講談社サイエンティフィク） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 河川環境学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 倉茂　好匡 | |
| 授業概要 | この講義では，指定したテキストを元に、河川環境の複雑な問題を取り扱うための基本的知識を身に付ける。それと並行し、まず流体力学の基礎体系を学ぶ．その上で，河川流や地下水流さらには河川による土砂運搬現象について理解する．講義では，かなり詳しく数式展開を行う．そのため，大学１年程度の物理学および数学の知識を必要とする．また，理解を深めるため，毎回宿題を課す. | |
| 到達目標 | (1)河川とその周辺の生態系を理解するための方法を知る。（学科到達目標４）<br>(2)流体力学の基礎を理解し、流体力学独特の数学的手続きを用いて流体力学の基礎的問題を解けるようになる。（学科到達目標４）<br>(3)流体力学や土砂水理学の知識を用いて、河川内の現象を説明できるようになる。（学科到達目標４） | |
| 成績評価 | 宿題 60%、期末試験 40%。<br>宿題は原則として毎回課す。１回の宿題について 10 点満点で採点し、これの総合点を 60 点満点に換算する。期末試験は 100 点満点で実施し、これを 40 点満点に換算する。これらの和をもって最終評価とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：太田猛彦、高橋剛一郎（編）「渓流生態砂防学」（東京大学出版会）参考書：椿東一郎著「水理学Ⅰ・Ⅱ」（森北出版），　樋根勇著「水文学」（大明堂），鈴木幸一著「水理学演習」（森北出版），　高山茂美著「河川地形」（共立出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 家畜生産環境学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松井　徹※ | |
| 授業概要 | 地球上には熱帯から寒・冷帯、湿潤地域から砂漠のような乾燥地域まである。多様な環境下で生存する動物に必要な栄養素について概説する。また、気温、湿度、光、風などの環境要因が動物に及ぼす影響を説明するとともに、様々な環境に適応している動物の特徴、生理反応について教授する。家畜は動物性食糧の供給、皮革、厩堆肥の生産などを通して人類に多大な貢献をしている。一方、近年の大規模家畜生産では環境に悪影響を及ぼす場合もあり、その現状と環境調和型農業を目指した動物生産技術についても講述する。 | |
| 到達目標 | (1)家畜おける栄養素の機能と代謝の概略､様々な環境下での栄養素の要求量の変化を説明できる。<br>(2)様々な環境に適応している家畜の特徴、生理反応を説明できる。<br>(3)近年の大規模家畜生産が環境に及ぼす影響を説明できる。<br>(4)環境調和型農業を目指した動物生産技術を説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1),(2),(3),(4)について計 4 回小試験を行い、各 25 点満点とし、60 点以上を合格とする。<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを配布する。<br>参考書：動物飼養学(養賢堂) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 家畜生産生理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 平山　琢二 | |
| 授業概要 | 家畜の生産に関する概論的な内容から、生理的機序までを広く概説しながら、家畜生産に関連する生理学に関する基礎的な事項について講義する。 | |
| 到達目標 | （1）家畜生産技術に関する基礎的事項を理解し、説明することができる。<br>（2）家畜生産に関する生理的機序を理解し、説明することができる。 | |
| 成績評価 | 受講態度 40 点、試験 60 点の合計で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜プリントなどを配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参 考 書：新編・家畜生理学 | |
| 履修資格 | 2 回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 環境建築デザイン演習 | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この演習は 3 回生前期までの設計演習等の習得を受けて、少人数によるスタジオ制での演習をう。演習の形態は担当教員により異なるが、３年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員の専門を活かした課題が出題される。 | |
| 到達目標 | (1)各教員が与える環境・建築デザインにかかわる課題に対して、課題に関わる分野に関する資料の収集、分析等を適切かつ充分に行う能力を獲得すること。<br>(2)与えられた課題に適切に応答し表現することのできる能力を獲得すること。 | |
| 成績評価 | (1)(2)レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。（１００%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境・建築デザイン概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 環境建築デザイン学科で学ぶべき専門分野（建築設計・都市計画・ランドスケープ・建築史・環境工学・構造など）の入門として位置付ける。本学科全教員が担当し、環境と建築・都市について学ぶべき視点と方法について、それぞれの専門性をふまえ講義する。 | |
| 到達目標 | （1）環境建築デザインを構成する各専門分野の概要を理解し、説明することができる。 | |
| 成績評価 | （1）レポート（100%）：各回に課すレポートの採点結果を平均する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境アセスメント | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 錦澤　滋雄※ ・ 杉本　卓也※ ・ 柴田　裕希※ | |
| 授業概要 | 環境配慮の重要な手段である環境アセスメントについて、その理論と実際を論じる。アセスの意義と効果およびその限界、法制度による規定内容やそれらが導出されるに至った歴史的経緯などについて、具体事例を踏まえて解説する。またアセスにおける調査・予測・評価の方法論などの技術的側面や諸外国の状況についても学ぶ。アセスは、行政の意思決定を支援する手段でもあり、この点で市民参加や社会的な合意形成の問題についても関連してくる。また、新しいアセスである、戦略アセスについても論ずる。 | |
| 到達目標 | （1）環境アセスメントとは何かを説明できること。<br>（2）アセスの要件と国内外のアセス法制度の概要について理解すること。<br>（3）調査・予測・評価の具体的手法とその問題点について説明できること。 | |
| 成績評価 | 授業中の課題 75%（BRD 含む）、最終レポート 25%、　※BRD＝当日ブリーフレポートのこと。与えられたテーマをＡ４用紙１枚にまとめて講義終了時に提出する。提出は当日のみ受け付ける。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：原科幸彦著「改訂版・環境アセスメント」（放送大学教育振興会）※授業の中で使うので必ず授業に持参すること<br>参考書：原科幸彦著「環境アセスメントとは何か」（岩波書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境会計 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 東　健太郎※ | |
| 授業概要 | 企業が環境問題を引き起こす背景には、「環境の論理」と「経営の論理」の背反がある。「環境の論理」からみれば、企業は環境保全に積極的に関与すべきであるのに対し、「経営の論理」からみれば、企業は利益の獲得を最優先の目的とすべきである。この２つの論理が時として背反することにより環境問題が引き起こされる。<br>このような見地から、本講義では、まず「経営の論理」を理解するために、複式簿記を基礎とした会計の考え方を学ぶ（第 1 回から第 9 回）。そのうえで、「環境の論理」との背反ならびに両立の可能性について環境会計の視点から講義する（第 10 回から第 15 回）。 | |
| 到達目標 | 1. 簿記・会計の基礎的な考えを理解し、利益の計算を実践できること。<br>2. 授業内で扱った理論・実証結果を素材にして、企業会計と環境問題のかかわりについて説明ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 中間試験（50%）、期末試験（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『検定　簿記講義』中央経済社<br>その他、授業内で資料を配布します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境解析学・同実験 | ４単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 永淵　修 ・ 丸尾　雅啓 ・ 尾坂　兼一 | |
| 授業概要 | 環境試料の採取・処理法及び分析法について、講義と実験を通して習得する。応用として水・大気・土壌に含まれる主要成分、微量成分の濃縮・分離定量を行い、結果の解析を行う。 | |
| 到達目標 | 危険な物質の取り扱い、応急処置法など実験を行うにあたっての安全に関する基本事項を理解する。<br>自然環境における水・大気・土壌の現在の状態把握について、定量的な調査・記述および解析ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 出席して所定の実験を修めることを必須条件とし、各実験結果をまとめたレポートの採点結果に基づいて評価する（100%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「実験を安全に行うために」(化学同人)「実験データを正しく扱うために」(化学同人編集部編)、および配布資料 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境化学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸尾　雅啓 | |
| 授業概要 | 環境科学の学習、および教員を目標とするにあたり、必要な化学の基礎知識について、物理化学、無機化学を中心に講義する。高等学校で現象のみ扱っていた事項に関し、原理・法則に基づいた理解を深める。<br>また実際の環境での化学物質の形態や変化に適用するための考え方について学ぶ。 | |
| 到達目標 | １）　化学で用いる基本的法則・表記法を理解し、適用できる。<br>２）　物質の三態と各々の構造、実在気体における状態方程式を理解する。<br>３）　化学平衡を理解し、酸塩基、溶解、酸化還元平衡の概念を実際の系に適用できる。<br>４）　反応速度、反応機構における律速段階を理解する。 | |
| 成績評価 | 各到達目標の達成を目的とした小試験・宿題を課す（40%）。これに定期試験の成績（60%）をあわせて評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：大学生の化学第２版（大野惇吉著：三共出版）<br>指定図書：メイアン 大学の化学 第２版［1][2]：廣川書店<br>参考書：元素発見の歴史１，２，３（大沼正則 訳：朝倉書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境化学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岡田　豊※ | |
| 授業概要 | 生活環境の中で、動植物の占める割合は非常に大きい。そして、これらの動植物を構成している組織の大部分が炭素を中心とした有機化合物でできている。ここでは、上記の観点にたって、化学の中も炭素を中心とした有機化合物に関する基礎を取り扱う。 | |
| 到達目標 | 有機化合物を分子レベルのミクロの世界で、どのようにつくられ、どのような性質を示し、なぜそのような性質を示すか、を理解できること。 | |
| 成績評価 | 筆記試験８０％、出席点２０％で、主に筆記試験により、上記到達目標がほぼ達成できているかどうかを評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】山口良平・山本行男・田村類著「ベーシック有機化学」(化学同人)<br>【参考書】足立吟也,岩倉千秋,馬場章夫著「新しい工業化学　環境との調和をめざして」(化学同人) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境科学概論Ⅰ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 永淵　修 ・ 未定 ・ 浦部　美佐子 ・ 泉　泰弘 ・ 籠谷　泰行 | |
| 授業概要 | 地球環境を構成する要素と環境変化の時空間スケールを把握した上で，土壌環境ならびに陸域・水域生態系の基本的構造とこれらに見られる今日的な諸問題について学ぶとともに，これからの食料確保と環境保全のあり方を展望する． | |
| 到達目標 | 環境変動の仕組みについて基本的な理解を得るとともに，自然環境と人間活動の関わり方について深く考察できる能力を身につける． | |
| 成績評価 | 毎回の小試験（40%）および期末試験（60%）によって評価する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：使用しない．プリントした資料を配布する．指定図書：なし参考書：講義の中で紹介する． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境科学概論Ⅱ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　清 ・ 未定 ・ 増田　佳昭 ・ 井手　慎司 ・ 上河原　献二 ・ 芦澤　竜一 | |
| 授業概要 | 多様な形で生じる環境問題は、社会の仕組みや制度と密接な関係を持っている。環境問題の解明と解決のために必要な社会的な視点やアプローチ方法について、具体的問題を取り上げながら教授する。 | |
| 到達目標 | 次に例示するように、環境問題の社会的側面について多面的に理解し説明できること。<br>A 環境問題を解決することの難しさを社会的ジレンマ構造によって説明できる。<br>B すまうという行為と環境との関わりを多面的に説明できる。<br>C 農業の環境に対する正負の影響と政策対応について説明できる。<br>D 地球環境問題と持続可能な開発の基本的な事項について説明できる。<br>E 更新性天然資源、環境とビジネスの社会的側面について説明できる。<br>F 建築と環境との関わりを多角的に説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、環境問題の社会的側面について多面的に理解し説明できること、については、各回の小テスト 50%、期末試験 50%で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：テキストは使用しない。参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境化学実験Ａ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸尾　雅啓 ・ 永淵　修 ・ 須戸　幹 ・ 肥田　嘉文 ・ 飯村　康夫 | |
| 授業概要 | 環境科学学習の基礎として、化学実験の基本的な手法を、無機イオンの定性分析法を通じて学習する。次いで容量実験（滴定）、分光光度法を通じて物質の定量的な扱いについて学習する。 | |
| 到達目標 | 1） 化学実験における器具の取り扱い、洗浄が的確に行えること。試薬を適切に取り扱えること。<br>2） 金属陽イオン・無機陰イオンの分離・定性・処理を行うことができ、その原理を環境中の各イオン種の挙動と結びつけて理解できる。<br>3） 滴定・分光光度法など定量実験に必要な操作・注意事項を理解、実行できること。<br>4） 実験の観察・記載を的確に行い、測定・データ処理（コンピュータ活用）結果に基づいた考察を含む報告書を作成できる。 | |
| 成績評価 | 所定の実験を修めることを前提とし、各実験結果をまとめたレポートの提出状況と採点結果に基づいて評価する（100%）。欠席回数が多い場合は評価対象から除外する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「無機定性分析実験」（共立出版）および配布プリント | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境化学実験Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸尾　雅啓 ・ 永淵　修 ・ 須戸　幹 ・ 肥田　嘉文 ・ 飯村　康夫 | |
| 授業概要 | 環境科学学習の基礎として、化学実験の基本的な手法を、無機イオンの定性分析法を通じて学習する。次いで容量実験（滴定）、分光光度法を通じて物質の定量的な扱いについて学習する。 | |
| 到達目標 | １） 化学実験における器具の取り扱い、洗浄が的確に行えること。試薬を適切に取り扱えること。<br>２） 金属陽イオン・無機陰イオンの分離・定性・処理を行うことができ、その原理を環境中の各イオン種の挙動と結びつけて理解できる。<br>３） 滴定・分光光度法など定量実験に必要な操作・注意事項を理解、実行できること。<br>４） 実験の観察・記載を的確に行い、測定・データ処理（コンピュータ活用）結果に基づいた考察を含む報告書を作成できる。 | |
| 成績評価 | 所定の実験を修めることを前提とし、各実験結果をまとめたレポートの提出状況と採点結果に基づいて評価する（100%）。欠席回数が多い場合は評価対象から除外する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「無機定性分析実験」（共立出版）および配布プリント | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境学原論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　修一 | |
| 授業概要 | この講義では，環境科学に関わる生態，政策計画，建築，生物資源管理という専門領域の違いと重なりを認識した上で，環境の諸問題に対する自分自身の視座を獲得することを目指す。<br>具体的には，国内の水系をめぐる市民，専門家，行政の動きの中から注目すべき事例をとりあげる。単に事例の事実関係を学ぶだけでなく，自身が学ぼうとする専門の視点から，その問題に対していかにアプローチできるかを問い続けることで，上記目標の達成をはかる。 | |
| 到達目標 | (1)環境問題を分析することができるようになる。<br>(2)環境問題の解決策を案出することができるようになる。<br>(3)環境問題について自分の意見を述べることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)についてはワークシート１（30%），(2)についてはワークシート２（30%），(3)についてはコメント（40%）で評価する。コメントについては，携帯等で入力回答するシステム（Saai-MAS）を使用する予定である。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書等は適宜講義内で示す。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境学野外実習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 夏季休業期間を利用し，自然環境や生態系研究における典型的な場所に直接赴き，合宿生活を送りながらそれぞれのコースのテーマに関する野外実習を行う。 | |
| 到達目標 | １）自然環境や生態系研究における典型的な場所に直接赴き、現地の状況を理解する。<br>２）設定された課題のもとで調査・実験・試料解析などを行う。<br>３）実習の成果を取りまとめてレポートを作成する。 | |
| 成績評価 | 各コースの終了後，レポートの提出が求められる。成績は，出席状況・実習態度・レポート内容を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要な資料等は各コースのガイダンス時に配布される。また，参考書もガイダンス時に紹介される。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境学野外実習Ⅱ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 夏季休業期間を利用し，自然環境や生態系研究における典型的な場所に直接赴き，合宿生活を送りながらそれぞれのコースのテーマに関する野外実習を行う。 | |
| 到達目標 | １）自然環境や生態系研究における典型的な場所に直接赴き、現地の状況を理解する。<br>２）設定された課題のもとで調査・実験・試料解析などを行う。<br>３）実習の成果を取りまとめてレポートを作成する。 | |
| 成績評価 | 各コースの終了後，レポートの提出が求められる。成績は，出席状況・実習態度・レポート内容を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要な資料等は各コースのガイダンス時に配布される。また，参考書もガイダンス時に紹介される。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境学野外実習Ⅲ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 夏季休業期間を利用し，自然環境や生態系研究における典型的な場所に直接赴き，合宿生活を送りながらそれぞれのコースのテーマに関する野外実習を行う。 | |
| 到達目標 | １）自然環境や生態系研究における典型的な場所に直接赴き、現地の状況を理解する。<br>２）設定された課題のもとで調査・実験・試料解析などを行う。<br>３）実習の成果を取りまとめてレポートを作成する。 | |
| 成績評価 | 各コースの終了後，レポートの提出が求められる。成績は，出席状況・実習態度・レポート内容を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要な資料等は各コースのガイダンス時に配布される。また，参考書もガイダンス時に紹介される。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境監査 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 池北　實※ | |
| 授業概要 | 企業等の組織における環境面および経営面の持続性には、経営に環境マネジメントシステムを導入することが不可欠とされている。そして環境マネジメントシステムには公正性と透明性が必要とされる。また、このマネジメントシステムの健全性を確保するために、運用の実態を検証するための環境監査が必要となる。本講では、環境保全と汚染の予防を目的とする環境マネジメントシステム（ISO14001)を学ぶ。そして、経営システムの中のチェック機能としての環境監査のあり方及び監査の方法を理解する。 | |
| 到達目標 | （1）地球環境問題及び対応する取り組み並びに環境管理に関する国際規格について概要を説明できる。<br>（2）環境監査の基準となる ISO14001 環境マネジメントシステム規格について、全体構築を含めて説明できる。<br>（3）ISO19011 マネジメントシステム監査のための指針に準拠した内部環境監査の運用を説明できる。<br>（4）多様な分野における各種マネジメントシステムの特徴や政策科学の視座での手法を説明できる。 | |
| 成績評価 | （1）第１回～第２回：各１回の演習５％、小テスト５％<br>（2）第３回～第６回：各１回の演習１５％、小テスト１５％<br>（3）第７回～第１２回：各１回の演習２０％、小テスト２０％<br>（4）第１３回～第１５回：各１回の演習１０％、小テスト１０％<br>１００点満点に換算し６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回講義でプリントを配布する。<br>指定図書：JIS Q 14001:2004「環境マネジメントシステム」（日本規格協会）/JIS Q 19011:2012「マネジメントシステム監査のための指針」（日本規格協会）<br>参考書：鈴木敏央著「新・よくわかるＩＳＯ環境法」（ダイヤモンド社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境技術 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮崎　慎也※ | |
| 授業概要 | 本講義では、環境技術の進化と建築デザインの変化の過程を追いながら、環境工学の基礎的な原理・知識から，環境要素技術，そして実際の建築デザインにおける応用事例までトータルに学習することで，建築デザインにおける環境技術の重要性を理解し，建築デザインにおける実践的な知識を習得する. | |
| 到達目標 | (1)　環境技術の原理と手法が理解できる.<br>(2)　建物デザインと環境技術の相互関係を，実際の建築物の断面図や詳細図を読み取りながら図式的に理解できる.<br>(3)　現代建築における環境技術の位置づけと，背景を理解できる. | |
| 成績評価 | レポート課題(40%）および試験(60%）によって評価する. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ・省エネルギー建築ガイド編集委員会；「省エネルギー建築ガイド」，<br>建築環境・省エネルギー機構 , 2001<br>・日本建築学会編；「設計のための建築環境学」，彰国社, 2011<br>・日本建築学会編；「見る・使う・学ぶ環境建築」, オーム社, 2011<br>・レイナー・バンハム (堀江悟郎訳)；「環境としての建築」, 鹿島出版会 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境技術史 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 未定 | |
| 到達目標 | 未定 | |
| 成績評価 | 未定 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 未定 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境共生論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | ・環境共生、持続可能性の概念を導入し、建設活動における持続可能性について述べる。<br>・日本の気候条件を説明し，外界気候条件と都市・建築システムの関係について論述する。<br>・都市における環境共生技術を概説する。<br>・住宅と事務所建築における環境共生技術を概説する。<br>・持続可能なライフスタイルについて述べる。 | |
| 到達目標 | (1)環境共生と持続可能性の概念が理解できる。<br>(2)日本の気候風土が理解できる。<br>(3)持続可能なインフラや都市設備が理解できる。<br>(4)住宅と事務所建築における環境共生技術が理解できる。<br>(5)環境負荷の小さい生活スタイルが理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)～(4)については、定期試験(60%:(1)10%,(2)10%,(3)20%,(4)20%)、(5)については課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 随時資料配布を行う。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境経営論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高橋　卓也 | |
| 授業概要 | 企業は環境破壊について多大な責任を有する一方、そのダイナミックな革新能力によって問題解決への貢献をなしうる。この授業では，企業経営者または所有者の視点に限定されることなく、従業員、政府、社会全体の視点からも、企業と自然環境の関係をいかに改善するかについて考えていきたい。その枠組みとして、経済学、経営学、政治学、社会学といった社会科学の諸分野を援用する。 | |
| 到達目標 | (1)環境経営の実践と理論について理解し、明快に説明できるようになる。<br>(2)環境経営の実践と理論の理解に基づいて、環境経営の課題を発見できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)環境経営の実践と理論について理解し、明快に説明できるようになる、および(2)環境経営の実践と理論の理解に基づいて、環境経営の課題を発見できるようになる、については、各回の参加および課題作業内容（20%: (1)10%,(2)10%）、事例報告（30%: (1)15%,(2)15%）、期末筆記試験（50%: (1)25%,(2)25%）で評価する。100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：(特になし、資料を配布する)<br>指定図書：適宜紹介する。<br>参考図書：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境計画学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 近藤　隆二郎 | |
| 授業概要 | 有限な環境の中で持続可能な社会を構築するには、「計画」の概念を用いて人間の活動と環境の調和を図る必要がある。このような環境計画の考え方は、環境に関する問題や人間活動そのものが時代を追って変化する中で徐々に認識されるようになってきた。また、現在も多くの環境問題と多様な人間活動の中で、環境計画には多くの考え方や手法・技術、課題がある。この歴史的変遷を整理するとともに、現在の環境計画に関する制度的仕組みや様々な手法、エコビレッジといった最新の取り組みを国内外の事例を通じて学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)環境問題と社会的意思決定とのかかわりを理解し、想定される環境問題に対し計画によって対処する適切な手法を判断できる力を養う。<br>(2)世界のエコビレッジの思想と実践を理解する。<br>(3)エコビレッジをデザインする力を養う。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)については、課題評価 25%<br>到達目標(2)については、課題評価 25%<br>到達目標(3)については、最終課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ガイアエデュケーション編『EDE カリキュラム日本語版 version 1.09』，末石冨太郎＋環境計画研究会編『環境計画論』(森北出版)，原科幸彦編『環境計画・政策研究の展開　持続可能な社会づくりへの合意形成』(岩波書店)，ジョナサン・ドーソン／緒方俊雄・松谷泰樹・古橋道代訳『世界のエコビレッジ～持続可能性の新しいフロンティア』(日本経済評論社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境経済演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　宰司 | |
| 授業概要 | 本科目では経済学の基本的な考え方、思考方法を身につけ、環境を経済学的に分析できるようになることを目的とする。　経済学は他の学問分野に比べて、独特な思考方法や概念、専門用語、論理構成が多く、初学者にとっては近づきがたい側面があるかもしれない。本科目ではこのような経済学独特の考え方について解説するとともに、環境分析の際に経済学的思考ができるための準備をする。 | |
| 到達目標 | (1)経済学の基本的な考え方・思考方法を身につけ、環境問題を経済学的に分析・説明できるようになること。<br>(2)経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、環境問題について、定性的・定量的分析ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)経済学の基本的な考え方・思考方法を身につけ、環境問題を経済学的に分析・説明できるようになること、および(2)経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、環境問題について、定性的・定量的分析ができるようになること、については各回の課題作業（20%: (1)10%, (2)10%）、小テスト（20%: (1)10%, (2)10%）、試験（60%: (1)30%, (2)30%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『公務員試験過去問新クイックマスターミクロ経済学 第 4 版』，東京リーガルマインド，2012 年参考書：講義中に適宜、指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境経済学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　宰司 | |
| 授業概要 | 環境経済学の基礎理論と、その環境政策への応用を学ぶ。環境経済学は応用経済学の一分野であり、経済学的な思考方法を習得することが前提となる。そのための基本的な経済学の概念お理解は避けて通れない。ひとつの理論体系を習得することがねらいであるので、毎回の予習・復習、講義時のノート・テイキングは不可欠である。毎回の講義内容の理解の積み重ねが重要なので、理解不十分な点に関しては放置せず、各回ごとに必ず質問し、解決すること。 | |
| 到達目標 | (1)経済学の基礎理論を理解し、環境問題の現象が起きるメカニズムを説明できること。<br>(2)環境問題を理論的に分析でき、環境政策の評価を定量的・定性的に行うことができること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)経済学の基礎理論を理解し、環境問題の現象が起きるメカニズムを説明できること、および(2)環境問題を理論的に分析でき、環境政策の評価を定量的・定性的に行うことができること、については各回の課題作業(30%: (1)15%, (2)15%)、試験(70%: (1)35%, (2)35%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：バーリー・C・フィールド「環境経済学入門」(日本評論社)<br>参考書：西村和雄「ミクロ経済学」第 3 版（岩波書店）植田和弘「環境経済学」(岩波書店) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境経済学入門 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高橋　卓也 ・ 林　宰司 | |
| 授業概要 | 人間社会にとっての環境問題を考察、解決するうえで、経済学的思考は強力なツールとなりえる。また、現代社会に生きる市民として、経済学は必要不可欠な一般教養でもある。本講義では、環境問題、資源問題を具体的に紹介し、経済学的思考に触れ、今後、どのような学びが必要かについて自覚してもらうことを目標とする。具体的問題としては、公害、地球温暖化、廃棄物、再生可能天然資源（森林、水産業)、非再生天然資源（鉱業)、土地利用などを取り扱う。それぞれの問題を中心の話題として講義を進める。 | |
| 到達目標 | (1)環境・資源問題に応用される経済的政策手法のうち、簡単な事例について説明できるようになる。<br>(2)経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、環境・資源問題について定性的・定量的な予測・評価ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)および(2)について、各回の課題作業（50%: (1)25%, (2)25%)、試験（50%: (1)25%, (2)25%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜、講義でプリントを配布する。<br>参考書：栗山浩一・馬奈木俊介（2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境行動論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 迫田　正美 | |
| 授業概要 | 本講義では、前半は基礎的学習として、人間の行動と空間、身体と環境との関係について考察するために必要な基本的な知識を習得するとともに、人間行動と環境との密接な関連性について講述する。後半では行動の場所としての環境、行動的実践の結果としての環境の形成、及び行為の規範としての慣習や文化の形成と風土性、風景との相互連関について講述する。 | |
| 到達目標 | (1)毎回の講義のテーマについて適切な質問または意見を述べることができる。<br>(2)環境と行動に関する基礎的な知識について説明することができる。<br>(3)人間の行動と環境（社会・文化的コンテクスト）の相互作用について事例を挙げて述べることができる。 | |
| 成績評価 | (1)講義終了時の小レポート（30%）<br>(2)(3)期末レポート（70%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書は適宜講義の中で示す。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境財政 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　一真 | |
| 授業概要 | 環境問題の多様化・複雑化による環境保全経費増加に対する負担構造のあり方や実際についての理解を目指す。講義では、環境政策を担う組織や制度、権限や予算等の移譲と役割・機能分担、政策立案や予算編成、行政評価、財政のしくみや現状とともに、費用負担（汚染者負担、受益者負担、共同負担）と受益の関係の違いなどにより設計された、国際レベル・国レベル・地方レベルの様々な環境政策手段の理論と実際について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)国・地方自治体の役割・機能に基づく行政・公共政策のしくみと現状、<br>(2)国・地方自治体の政策実施等の原資となる財政のしくみと現状、<br>(3)国・地方自治体の環境政策の手段や組み合わせのしくみと現状、<br>(4)エネルギー・地球温暖化、森林政策の経済的手法のしくみと現状を理解し、説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(4)のそれぞれについて、毎回の授業中に課すレポートを 12.5（50/4）%、期末試験 12.5（50/4）%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜、資料を配布する。<br>参考書：諸富徹・沼尾波子「水と森の財政学」(日本経済評論社, 2012)、諸富徹編著「環境政策のポリシーミックス」(ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房, 2009) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境シミュレーション | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 井手　慎司 | |
| 授業概要 | 環境の諸現象を再現、分析、予測するための数学モデリングおよびコンピュータ・シミュレーション技法の基礎を学ぶ。授業ではモデリングの基本的な考え方（物質収支・反応速度論）、モデルの構築手順、コンピュータ・シミュレーションとそのための数値解析（プログラミング）、シミュレーション結果のグラフィカル・プレゼンテーションなどについて解説する。 | |
| 到達目標 | (1)モデルが表している現象を説明できる。<br>(2)物質収支を計算することができる。<br>(3)簡単な数値計算ができる。<br>(4)VBA を用いてプログラムを作成できる。<br>(5)Excel の表計算機能や VBA を用いて、シミュレーションプログラムを作成できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)については、課題（10%）と定期試験（10%）、(2)(3)については、課題（10%：(2)5%、(3)5%）と定期試験（10%：(2)5%、(3)5%）、(4)(5)については、課題（30%：(4)15%、(5)15%）と定期試験（30%：(4)15%、(5)15%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配付<br>参考書：三井和男著「新 Excel コンピュータシミュレーション」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境社会学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小野　奈々 | |
| 授業概要 | この授業では、環境社会学にオリジナルの研究方法や分析視点を学びます。その際、人々の生活を大切にして環境を考える「生活環境主義」というディシプリンにも言及します。世界や日本国内、身近な琵琶湖の事例までを豊富に紹介する予定です。総括討論では、前半・中盤・後半で紹介した事例や環境社会学の視点をもとに、環境保全の管理の在り方がどうあるべきかをイメージするための記述訓練や相互ディスカッションを実施します。 | |
| 到達目標 | 1)環境社会学の理解 2)代表的な事例の理解 3)記述力 4)オリジナリティの醸成 5)課題発見 | |
| 成績評価 | 1)環境社会学の理論の理解、それらを利用した現象の解釈。(30%)<br>2)代表的な環境問題のケースを理解し説明する。(16%)<br>3)環境問題を文章で論理的に記述する。(16%)<br>4)環境問題にオリジナルな意見を述べられる。(16%)<br>5)身近な環境問題に関心を持ち、調査すべき課題を見つけだすことができる。(22%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：鳥越皓之著『環境社会学－生活者の立場から考える』、東京大学出版会、2004 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境情報演習 | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松本　健一 | |
| 授業概要 | 環境情報システム（データベース）の基礎を学ぶ。また、環境データベースを実際に構築する過程で、情報の収集・整理・保存・検索、また取得した情報の要約・分析・統合のための包括的な方法論を身につける。この授業では、単に環境分野を対象とするだけでなく、関連する社会経済分野も対象としてとらえる。 | |
| 到達目標 | (1) 社会経済と環境に関するデータを収集し、それらを適切に説明できるようになる。<br>(2) データベースの基礎知識を習得する。<br>(3) 収集したデータを用いて、簡単な環境情報データベースを構築できるようになる。<br>(4) 構築したデータベースの説明ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 各回の課題（合計 30%)、演習発表（40%）および、最終レポート（30%）により評価する。欠席が 4 回以上になると評価対象としない（20 分以上の遅刻は欠席とみなす)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に資料を配布する<br>参考書:必要に応じて授業中に紹介する (MS Access に関する書籍であれば何でも参考になる。何か 1 冊を持っておくことが望ましい) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境職能論 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　拓公雄 | |
| 授業概要 | 現代生活にとって職能（プロフェッション）の重要性は増大している。とりわけ生活環境の想像、安全防災、健康、自然の保全に関わる建築家等職能人の責任は大きい。プロフェッションの現代的意義、制度、倫理などについて論述する。故内井昭蔵教授の職能とは何か、また生活環境創造に関わる職能人として大きな存在であった建築家やアーチストを例にとり、その歴史や人物を概説し、他の職能との比較を通じ、その本質について理解を求める。又、諸外国でのプロフェッション成立を考察し、我が国の職能問題を明らかにする。更に環境問題と職能、環境倫理との関係について論述する。 | |
| 到達目標 | 建築、ものつくりに関わる人々の職能意識を知ることができ、その意識であるデザインマインドについて理解を深めることができる。 | |
| 成績評価 | 出席回数および毎回提出レポート内容による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境植物生理学 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 原田　英美子 | |
| 授業概要 | 植物の持つ特有の生理的機能と、地球環境における植物の重要性について学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）植物の持つ特有の機能を理解し説明できる。<br>（2）生理学の基本的な事項および概念を理解し説明できる。<br>（3）最近の植物バイオテクノロジーの基盤技術を理解し説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示した項目につき、期末試験を課す。(70%)<br>植物に関する話題を取り扱った記事を取り上げて論述し、中間レポートとして提出する。(30%)<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「絵とき植物生理学入門　改訂 2 版」オーム社（2007 年）<br>参考書：「はじめての生化学」化学同人（1998 年）<br>L.Taiz、E.Zeiger 著、西谷和彦・島崎健一郎　監訳　「テイツ・ザイガー　植物生理学　第 3 版」(培風館) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境心理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐々木　和之※ | |
| 授業概要 | 本講義では、環境心理学を二つの側面から扱う。<br>一つめの側面は、物理的な空間と人間の行動との関係性を解明し、実際の建築・建設等のデザインへの寄与を目指す、空間的課題への取り組みである。<br>二つめの側面は、環境問題における人々の意志決定の要因を解明し、環境問題の解消に繋がる行動促進等を目指す、社会的課題への取り組みである。<br>二つの側面を踏まえつつ、人々がどのように行動しているかを解き明かす方法の一つとして、環境心理調査手法を簡単な演習を通じて学ぶ。前半では導入として空間的課題をテーマとして、簡単な演習を行いながら学んでいく。後半は、社会的課題をテーマとした環境心理調査について、研究事例も踏まえながら考える。 | |
| 到達目標 | (1)環境心理学の基礎が理解できている。<br>(2)社会的課題、空間的課題について、環境心理調査手法を用いることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)環境心理学の基礎が理解できているについては､講義計画※印時のミニレポート（4%×10 回)、(2)社会的課題、空間的課題について、環境心理調査手法を用いることができるについては講義計画◎印時を対象としたレポート（30%)、講義計画○印時を基にしたグループワークによる試験（30%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし<br>参考書：講義において適宜提示または配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境水文学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大久保　卓也 | |
| 授業概要 | 農地、森林、河川等の環境における水の動きとそれを支配するメカニズム、観測方法について解説するとともに、日本および滋賀県における水利用の歴史と実態について解説する。 | |
| 到達目標 | （1）水の動きの基礎的知識、解析方法を習得する<br>（2）水利用の歴史から先人たちの創意工夫を学ぶ | |
| 成績評価 | 毎回、講義のはじめに前回の講義内容に関する 10 分間程度の小テストを実施（50%)。<br>これと中間レポート（25%）と期末テスト（25%）を合わせて評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境数学Ⅰ・演習 | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣島　幸正※ | |
| 授業概要 | 私たちの身近な社会現象や自然現象における種々の問題に対処するためには、現象を定性的・定量的に表現し、その因果関係の法則性を見つけ、解析することが不可欠である。そのために必要な数学の知識や方法として微分積分学と線形代数学の基礎を学習する。併せて本当に役立つ知識を身につけるために講義とあわせて演習を行う。 | |
| 到達目標 | (1) $\varepsilon$ - $\delta$ 論法の理解。<br>(2)初等関数の微分及び Taylor 展開の理解。<br>(3)初等関数の不定積分・置換積分・部分積分の理解。<br>(4)無限級数の収束・発散を調べる事。 | |
| 成績評価 | 期末考査　７０%、ﾚﾎﾟｰﾄ評価　３０%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：矢野　健太郎・石原　繁共著「科学技術者のための基礎数学」(裳華房)指定図書：中村哲男・今井秀雄・清水　悟共著「基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱ」（共立出版社）参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境数学Ⅱ・演習 | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣島　幸正※ | |
| 授業概要 | 私たちの身近な社会現象や自然現象における種々の問題に対処するためには、現象を定性的・定量的に表現し、その因果関係の法則性を見つけ、解析することが不可欠である。そのために必要な数学の知識や方法として微分積分学と線形代数学の基礎を学習する。併せて本当に役立つ知識を身につけるために講義とあわせて演習を行う。 | |
| 到達目標 | (1)変数分離型微分方程式が解けること。<br>(2)同次型微分方程式が解けること。<br>(3)線形微分方程式が解けること。<br>(4)Fourier 変換や Laplace 変換を微分方程式に応用すること。 | |
| 成績評価 | 期末考査　７０％、ﾚﾎﾟｰﾄ評価　３０％で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：矢野　健太郎・石原　繁共著「科学技術者のための基礎数学」(裳華房)指定図書：中村哲男・今井秀雄・清水　悟共著「基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱ」（共立出版社）参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境政策学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上河原　献二　・　未定 | |
| 授業概要 | 環境政策が成立する背景、環境政策に関わる組織と制度、環境政策の目標と手段など、環境政策の体系に関する理解を目指す。環境政策は、環境問題を解決するために実践されたさまざまな試みが成立の根拠となっている。現在では、汚染管理や自然保護からアメニティの保全・創出や地球環境問題への取組みなど、環境政策の対象は拡大してきている。ここでは、主要な政策の形成過程にとどまらず、その実施過程と成果を概観して、当該政策の意義と問題点を説明する。さらに、政策の実効性を高めるため、環境ガバナンスをめぐる課題について解説する。 | |
| 到達目標 | （1）環境問題と環境政策の関連について説明できる。<br>（2）環境政策の性格と機能を理解できる。<br>（3）環境政策の目標と手段を説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）については、授業中に課す前半レポート（10%）、後半レポート（10%）、（2）については、授業中に課す前半レポート（10%）、後半レポート（10%）、中間試験（10%）、期末試験（10%）、（3）については授業中に課す前半レポート（5%）、後半レポート（5%）、中間試験（15%）、期末試験（15%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：東京商工会議所編『環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト』日本能率協会マネージメントセンター（2014） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生態学演習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 所属する研究室のゼミに参加し，自身の研究成果の発表や国内外の新しい情報を収集・整理したものの発表を行い，それに関する討論を実施する。また，発表用の資料作成を通して，論文作成能力およびプレゼンテーションの能力を養う。 | |
| 到達目標 | 卒業研究の実施に必要な論文作成・プレゼンテーションの基礎的能力を身につける。 | |
| 成績評価 | ゼミへの参加状況，発表の準備状況，発表内容，質疑応答内容等を総合的に判断して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指導教員の指示に従う。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生態学演習Ⅱ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 所属する研究室のゼミに参加し，自身の研究成果の発表や国内外の新しい情報を収集・整理したものの発表を行い，それに関する討論を実施する。また，発表用の資料作成を通して，論文作成能力およびプレゼンテーションの能力を養う。 | |
| 到達目標 | 卒業研究の実施に必要な論文作成・プレゼンテーションの実践的能力を身につける。 | |
| 成績評価 | ゼミへの参加状況，発表の準備状況，発表内容，質疑応答内容等を総合的に判断して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指導教員の指示に従う。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生態学外書講読 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 自然環境についての理解を深めると共に、英文の講読力を涵養することを目的とする。大気圏環境･陸圏環境･水圏環境･生物圏環境に関する専門の文献を教材として講述する。授業方法は、教員が準備した英語の専門書や文献を、受講生自ら適切にレビューする。 | |
| 到達目標 | 自然環境・生態系研究に関する英文学術書および英語論文の基礎的読解力を身につける。 | |
| 成績評価 | 出席、予習の状況、レポートなどにより総合的に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：資料を講義中に配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生態学外書表現 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業研究の前段階の講義として位置づけられる環境生態学外書表現では、大気圏・陸圏・水圏・生物圏など地球生態系の構造と機能、ならびにそこで生じている環境問題に関する海外の最新の文献を教材・素材として講述する。授業方法は、学習効果が上がるとされる演習形式で行い、受講生みずから適切な文献をもとに発表する。さらに、研究内容の英語による基本的な表現法について学ぶ。 | |
| 到達目標 | １）自然環境・生態系研究に関する英文学術書および英語論文の実践的読解力を身につける。<br>２）研究内容の英語による基本的な表現法を習得する。 | |
| 成績評価 | 出席が３分の２以上の者に対して試験ならびにレポートを総合して評価する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業時間中に資料を配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生態学基礎演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 環境生態学科でおこなわれている最新の研究内容にふれ，それを初歩的に理解し，研究への興味を涵養する．また，実際に研究成果として提示される図表を自ら読み解き，傾向や特徴を把握するための演習を行う．さらに，自らが得た情報に基づいてプレゼンテーションを行うとともに，レポートとしてまとめる． | |
| 到達目標 | １）環境生態学科で行われている最新の研究内容にふれ、初歩的に理解する。<br>２）研究成果として提示される図表を読み解き、その特徴を説明できるようになる。<br>３）自らが理解した内容を科学的な和文として表現できるようになる。 | |
| 成績評価 | 毎回の授業での演習への参加度 60%，宿題 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業内で資料を配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生態学特別実習 | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業研究の前段階の実習として、分属した研究室において実施される。受講生は、担当教員の指導のもとに研究課題を設定し、野外調査・実験・資料解析などを行う。さらに、必要に応じて、それらの成果を取りまとめたレポートの作成や、プレゼンテーションを行う。 | |
| 到達目標 | １）設定された研究課題のもとで野外調査・実験・試料解析などを行う。<br>２）研究の成果を取りまとめて、レポートの作成やプレゼンテーションを行う。 | |
| 成績評価 | 授業への参加状況、指示された課題の達成状況等を総合的に判断して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 担当教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生物学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 浦部　美佐子 | |
| 授業概要 | 環境と生物のかかわりを理解するために必須である生物学の基礎事項、すなわち生物の体を形作る基本となっいる細胞の構造と働き，有機高分子（タンパク質、脂質、炭水化物、核酸）の構造とそれらの主な働き、エネルギー交代・物質交代のしくみ、遺伝と進化のしくみについて説明する。 | |
| 到達目標 | (1)生物体の構造と機能について基礎的な用語と概念を理解すること。<br>(2)生体内で起こっている現象について，論理的に推論できること。<br>(3)講義で学んだ知識を用いて,一般社会および自己の生活の中でみられる生物学的事象を科学的に理解できること。 | |
| 成績評価 | 授業中に実施する小テスト 15%、中間試験 35%、期末試験 50%。授業時間の 1/3 以上を無断欠席した者は原則として受験を認めない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書」第１巻「細胞生物学」および第２巻「分子遺伝学」（講談社ブルーバックス） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生物学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 浅岡　一雄※ | |
| 授業概要 | 生物の基本単位である細胞の構造と機能、細胞運動、細胞周期、細胞の分化や発生などについて解説する。動物に特徴的な高度な生体防御系や脳・神経系のしくみについて基本的なことを述べ、ヒトや動物が獲得した高度な機能や、進化、環境適応、生物多様性について基本的な事柄を解説する。種々の制御機構の異常と密接に関連する癌や寿命にもふれて理解を深める。過去問の答案練習、育苗練習、プレゼンテーションと web メールの使用を課す。 | |
| 到達目標 | (1)生命現象を分子細胞生物学と環境科学の視点からとらえ理解する。<br>(2)健康管理を生物原理に沿って理解し理科教育の際に生徒指導できる。 | |
| 成績評価 | 定期試験 50%、答案練習およびプレゼンテーション 30%、育苗練習 20%などから総合的に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：生物図表（浜島書店）、英和・和英辞典を用意すること。<br>指定図書：M.Cain 他著（石川 統 監訳）「ケイン生物学」（東京化学同人）<br>指定図書：Raven/Johnson 他著（R/J Biology 翻訳委員会 監訳）「レ-ヴン／ジョンソン生物学（上、下）」（培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生物学実験Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西田　隆義 ・ 野間　直彦 ・ 泉　泰弘 ・ 上町　達也 ・ 伴　修平 ・ 杉浦　省三 ・ 入江　俊一 ・ 籠谷　泰行 ・ 清水　顕史 ・ 原田　英美子 | |
| 授業概要 | 生物を観察するための最も重要な道具である顕微鏡の取り扱いに習熟し、さまざまな生物の形態とそのはたらきについて実験・観察を行う。また、屋外に出て植物群落のデータを取り、この結果についてコンピュータを用い、多様性や群落間の類似度などに関する解析法を習得する。授業はA，Ｂの２クラスに分けて同じ内容で実施する。クラス分けに関しては、ガイダンスで説明する。 | |
| 到達目標 | １）顕微鏡観察の手法を習得し、これを用いた観察とスケッチができる。<br>２）生物の形態観察および分類の方法を習得し、簡単な種の同定ができる。<br>３）生物の生理機能に関する測定方法を習得し、実際に測定できる。<br>４）DNA の抽出方法を習得し、分子生物学的研究の基礎を理解する。<br>５）植物群落の種組成の把握と解析方法の基礎を理解する。<br>６）実験結果の記述と論理的な考察ができる。 | |
| 成績評価 | 出席および毎回提出のレポート | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験手順に関するプリントを毎回配布する。指定図書：なし参考書：授業中に紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境生物学実験Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西田　隆義 ・ 野間　直彦 ・ 泉　泰弘 ・ 上町　達也 ・ 伴　修平 ・ 杉浦　省三 ・ 入江　俊一 ・ 籠谷　泰行 ・ 清水　顕史 ・ 原田　英美子 | |
| 授業概要 | 「環境生物学実験 A」に同じ。 | |
| 到達目標 | 「環境生物学実験 A」に同じ。 | |
| 成績評価 | 「環境生物学実験 A」に同じ。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「環境生物学実験 A」に同じ。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境設計Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Jimenez Verdejo Juan Ramon | |
| 授業概要 | 人間生活を支える器としての都市・建築における空間計画や空間構成に必要な基礎的知識と原理を学ぶ。まず、空間の大きさや寸法の決め方および人間の行動法則を理解する。その上で建築物を設計する際に考慮すべき美的・社会的・実利的な視点を踏まえながら、単位空間を集合させた複合空間としての建築空間の計画方法について講述する | |
| 到達目標 | それぞれの文明による環境、都市空間、建築空間の構造について，単位空間を集合させた複合空間としての建築空間の計画方法について. | |
| 成績評価 | レポート課題（３０％）＋中間試験（３０％）＋期末試験（４０％）の合計１００点で評価し，６０点以上を合格とする．レポート課題は各回の内容，中間試験は第１～７回の内容，期末試験は第１～１５回の内容を理解し，問題を解けること. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義の中で紹介する. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境設計Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 持続可能な建築を設計するためには、快適性と省エネ性の両立を追求しなければならない。そのために太陽エネルギー、風力エネルギーといった自然エネルギーを最大限に利用できるように設計する必要がある。本講義では建築環境工学の知識を建築環境設計に応用し、日本の気候条件を概説し、それに合致した夏季のパッシブクーリングと冬季のパッシブヒーティングの設計法を実例を交えながら解説する。また、住宅および非住宅建築物の省エネルギー基準を解説し、地球環境に配慮した総合設計力を養うことを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1)日本の各地の気候特性、気候による地域区分が理解できる。<br>(2)太陽の熱利用と光利用方法が理解できる。<br>(3)住宅のパッシブクーリング手法が理解できる。<br>(4)住宅と非住宅建築物の省エネルギー基準の各基準の意味が理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)～(3)については、定期試験(75%:(1)20%,(2)25%,(3)25%、(4)については課題レポート(30%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：『パッシブ建築設計手法辞典』(彰国社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境設備 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　清 | |
| 授業概要 | 省エネルギー・環境負荷軽減などを考慮しつつ、快適な建築内部環境をつくり・維持するための設備的手法について、その原理・技術を理解し、適切な計画ができるようになるための考え方、またその具体的な方法等について学ぶ。加えて、ヒートアイランド現象等への対策、建築設備・都市設備に関する環境負荷軽減手法や省エネルギー手法等の最新動向についても紹介する。 | |
| 到達目標 | (1)快適な建築室内環境をつくり・維持するための設備的手法の具体的な原理・技術について理解し説明ができること。<br>(2)環境負荷軽減や省エネルギーのための手法、ヒートアイランド対策などと、われわれの生活環境、建築・都市設備との関わりについて理解した上で、対策を選択できること。 | |
| 成績評価 | 小テスト３０％　　...(1):30%<br>レポート課題２０％ ...(1):10%、(2):10%<br>期末試験５０％　　...(1):30%、(2):20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木村建一、木内俊明著「新訂　建築士技術全書２　環境工学」(彰国社)<br>参考書：授業で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境造形論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 迫田　正美 | |
| 授業概要 | 19 世紀末から現代にいたる芸術・造形活動の動向とその背景・影響についての理解を深めるとともに、建築やランドスケープデザインを始めとする環境造形の要点として、空間・意味・行為の相互連関が 20 世紀を通じてどのように位置付けられてきたかを理解する。その上で、モダニズムから現代の建築・環境造形作品の中に、それぞれの作家がそれらをどのように表現してきたかを追うことで、環境を造形することの意味と可能性の広がりについて考える。 | |
| 到達目標 | (1)近現代の造形芸術と建築デザインの歴史的位置づけについて述べることができる。<br>(2)個々の造形作品と建築作品について、その特徴について説明することができる。<br>(3)20 世紀の造形思想の流れについて説明することができる。<br>(4)各回の講義で扱ったテーマに関連する事項について説明または自分の意見を述べることができる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)(3)期末筆記試験（７０%）<br>(4)毎回の講義終了時に提出する小レポート（３０%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『近代建築史』石田潤一郎、中川理編、昭和堂<br>参考書　;『近代建築史図集』日本建築学会編、彰国社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境地球科学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 堂満　華子 | |
| 授業概要 | 地球は 46 億年前に誕生してからさまざまな変遷を経て今日に至っている. 本講義ではおもに, 動く大地についての考え方や地球の環境がどのようにしてつくられてきたのかについて解説する. これをもとに, 現在の地球環境の成立について学ぶ. | |
| 到達目標 | 地球とその歴史に関する基礎知識を習得し, 現在の地球環境の成り立ちを理解する. | |
| 成績評価 | 到達目標の達成度を授業中に課す小テスト（50%）ならびに定期試験（50%）で評価する. 100 点満点で採点し, 60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境地球科学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山口　弘※　・　三田村　緒佐武※ | |
| 授業概要 | 太陽系第三惑星地球の特徴の概略を宇宙科学的に解説する。地球の表層は気圏, 水圏, 岩石圏からなり, そして多くの生命が存在する。地球形成以降, 46 億年の時間を経て, 現在の地球環境に至っている。地球の水環境（湖沼・河川・地下水・海洋）および岩石圏の構造と機能の特徴を地球科学的に講義する。この授業を通して, 地球科学の研究手法に関する基礎的な知識の習得と, 岩石圏・水圏の構造, 運動, 進化という観点から理解することを目的とする。 さらに, 教職専門の教科であることから, 中・高校の教員を目指すために必要な内容を含むものである。 | |
| 到達目標 | (1) 地球の誕生から地球層構造の形成までのプロセスが説明できること。<br>(2) 地球化学・物理データから地球科学に関する事象を説明できること。<br>(3) 地球表面の運動と元素の再分配の特徴を岩石のサイクルとして説明できること。 | |
| 成績評価 | 授業時間の 2／3 以上出席する受講者が評価の対象である。到達目標に示す(1), (2), (3)について, 各時間中のワークシート・課題・ノート評価を 50%, 試験 50%で評価する。試験では, 地球科学の基礎的な用語を理解し, それを用いて観測データから地球の層構造を説明できる(10/50%)。地球のシステムについて説明できる（40/50%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：西村祐二郎編著「基礎地球科学」(朝倉書店)<br>指定図書：酒井治孝著「地球学入門」(東海大学出版会), 新版地学教育講座「4　岩石と地下資源」・「１０地球の水圏―海洋と陸水」(東海大学出版)<br>参考書：最新図表地学（浜島書店）<br>資料を講義中に配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境地球科学実験（コンピュータ活用含む） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大久保　卓也 ・ 後藤　直成 ・ 堂満　華子 ・ 細井　祥子・ 未定 | |
| 授業概要 | 現在の地球上における諸環境を把握するための測定・解析法の習得ならびに地球環境変遷史の復元法の習得が全体的なテーマとなっている．歩測，温度分布・天気図の作成，地理情報の取得，環境放射線の測定，湖沼水塊構造の解析などを通じて，現在の地球上における諸環境の実態を把握する．また，岩石・化石の観察（室内実験，野外巡検），湖底堆積物の観察・分析などを通じて地球環境変遷史を復元する基礎的能力を習得する． | |
| 到達目標 | （1）測地・測量学，地球物理学，地球化学，地質学，岩石鉱物学，古生物学などの基礎的課題に対し，観察・記載・測定できるようになる．（2）GPS（Global Positioning System）を用いて，地表面に関する地理情報を入手し，簡単な情報処理を行えるようになる．（3）観察・記載・測定・情報処理の結果に基づいて，他者が理解できるレポートを作成できるようになる． | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1），（2），（3）について，各課題（9 課題）のレポートをそれぞれ 100 点満点で評価し，それら 9 課題のレポートの平均点（授業回数で重み付けをした平均点）を最終評価とする。病気やその他やむをえない理由により欠席した場合，教員の指示を仰いで補充課題を提出しない限り，その課題レポートに対する成績評価を 0 点とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業時に配布する。参考書：授業時に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境統計解析学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 籠谷　泰行 | |
| 授業概要 | 環境科学等の分野で得られるさまざまのデータに対して用いられる主要な統計解析の手法とその基礎となる考え方を解説する。 | |
| 到達目標 | １）環境科学の分野で用いられる基本的な統計解析手法を習得する。<br>２）統計学的な考え方を理解する。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題提出（５０％）：毎回、授業内容に即した演習問題を課題として提出する。<br>期末試験（５０％）：授業内容全体からいくつかを選んで出題する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：今野秀二・味村良雄著「医学・薬学系のための生物統計学入門」（ムイスリ出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境動物学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 畠　佐代子※ ・ 中西　康介※ | |
| 授業概要 | 環境論、環境と生物の相互作用、地域レベルおよび地球規模の環境変化の生物影響、生物の環境指標性等に着目し、環境の主体としての人間や第二の主体としての生物の視点から、望ましい環境の在り方を考える。環境の社会経済的側面の重要性、および生物へのまなざしの環境科学における重要性を伝え、環境問題に正面から取り組める人材の育成をめざす。 | |
| 到達目標 | (1) 環境と生物の相互作用を説明できること。<br>(2) 動物に対し、直接的、あるいは間接的に人間が影響を与えるしくみついて説明できること。<br>(3) 小哺乳類の環境指標性を説明できること。<br>(4) 身近な自然環境における小哺乳類の保全手法を説明できること。<br>(5) 身近な水辺環境と水生動物、人との関わりについて理解する | |
| 成績評価 | 到達目標で示した(1)～(5)について、授業後のレスポンスペーパー（50%）および課題レポート（50%）で評価する。課題レポートでは、全体の構成、論旨の整合性・独自性、文章力などを重視する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境フィールドワークⅠ | 3単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学部教員 | |
| 授業概要 | 実際の地域環境問題が生起するフィールドに足を運び、自分自身の五感を通して環境問題に触れ、それを図、文字、数値データに記録する方法を学ぶ。また、自分自身で記述した記録から、地域環境問題がどのような問題構造をもったものであるか、グループ討議を通して組み立てる演習をおこなう。実際には４つのテーマで授業を行う。１テーマあたり３～４週を１クールとし、各クールで別テーマの授業を受ける。 | |
| 到達目標 | （1）フィールドワークに必要な基本的スキルを身につける。<br>（2）指定された項目について、文章で表現できる。<br>（3）調査結果を考察し、その内容を他者に説明できる基礎力をつける。 | |
| 成績評価 | ・フィールドワークの基本スキルの修得（項目１）４０％<br>・指定された項目に対する文章表現（項目２）３０％<br>・調査結果を考察し、それを他者に説明する能力（項目３）３０％<br>なお、各項目についての成績評価方法は各テーマで異なるので、各テーマの授業開始時に説明をうけること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『フィールドワーク心得帖（上・下)』(生協売店で販売) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境フィールドワークⅡ | 3単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学部教員 | |
| 授業概要 | 地域環境にかかわる情報は多分野にまたがり、性質も多様である。これらの環境情報を収集し解析するために、対象地域あるいは問題対象を特定し、フィールドワークを通じて、自然調査や社会調査の基本的な手法を学んでいく。ねらいは、フィールドワークの手法を地域の環境問題の解析に適用することにより、現場に即した調査態度と解析手法、レポートに作成、発表の方法を学ぶことである。 | |
| 到達目標 | （1）なんらかの課題に対し、教員の指導の下でフィールドデータを取ることができる。<br>（2）取得したデータに対し、基礎的な分析を行うことができる。<br>（3）データの分析結果に基づき、論理的に議論できる。<br>（4）データの分析結果を適切な文章で表現できる。<br>（5）初歩的な報告書を書くことができる。 | |
| 成績評価 | ・フィールドワークのパフォーマンス（項目１）６０％<br>・データ分析のパフォーマンス（項目２）１０％<br>・プレゼンテーションのパフォーマンス（項目３）１０％<br>・報告書作成のパフォーマンスおよび文章の質（項目４、５）２０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：共通のテキストを用いない。<br>テキスト・参考書等は、各グループの担当教員が必要に応じて指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境フィールドワークⅢ | 3単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学部教員 | |
| 授業概要 | 各教員が提示するテーマごとのグループに分かれ、その教員の指導のもとで１５週４５講分の時間を用い、フィールドワークを主体とした調査を行ない、調査報告書を作成する。 | |
| 到達目標 | （1）特定の課題に対し、教員の指導を受けつつ自発的にフィールドデータを取ることができる。<br>（2）取得したデータに対し、専門的知見を交えた分析を行うことができる。<br>（3）データの考察を行い、その結果を適切な文章で表現できる。<br>（4）考察を交えた報告書を書くことができる。 | |
| 成績評価 | ・フィールドワークのパフォーマンス（項目１）６０％<br>・データ分析のパフォーマンス（項目２）２０％<br>・報告書作成のパフォーマンスおよび文章の質（項目３、４）２０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各教員の指示による | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境物理学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 倉茂　好匡 | |
| 授業概要 | 物理学の基本である力学（質点および剛体）を扱う。大学レベルの物理学の基本を扱うので、微分・積分・ベクトル代数を使用する。この講義では、力学の基本的現象を理解したうえで、それを数式化して解析することを学ぶ。ただし、物理学が単なる「計算問題を解く」ことにならないよう、多くの演示実験を交える。 | |
| 到達目標 | (1) 流体力学に応用できる程度の基礎的な力学を理解する．（学科到達目標３）(2) 剛体の力学の基礎、特に剛体の運動方程式について理解する．（学科到達目標３）(3) 微分積分およびベクトルの基礎を用いて，力学の基礎的問題を解けるようになる．（学科到達目標３）(4) 基本的な物理現象について，力学の用語を正確に用いて説明できるようになる．（学科到達目標８） | |
| 成績評価 | 宿題 60%、期末試験 40%。<br>宿題は原則として毎回課す。1 回の宿題について 10 点満点で採点し、これの総合点を 60 点満点に換算する。期末試験は 100 点満点で実施し、これを 40 点満点に換算する。これらの和をもって最終評価とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：ファンマン他著「ファンマン物理学Ⅰ　力学」（岩波書店），バークレー物理学コースⅠ「力学　上・下」（丸善），井上光ほか著「工科系のための基礎力学」東京教学社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境物理学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村岡　良和※ | |
| 授業概要 | 電気力は，重力と並んで自然界を支配する基本的な力であるだけでなく，現代的生活に欠かせない機器を支える原動力として利用されている。講義では，電気力が場の作用として理解されることから始め，電場，磁場に関する法則の歴史的発展を辿りながら，数式で表される法則の意義を示し，現代社会でどのように応用されているかを紹介する。実用上重要な Ohm の法則，Ampere の法則，Faraday の法則などの意義が具体的な計算例や応用例とともに示される。 | |
| 到達目標 | (1) 場の概念を理解し，電場と電位（差）について説明できる。<br>(2) Gauss の法則を用いて簡単な空間静電場を計算できる。<br>(3) コンデンサーと誘電体について説明できる。<br>(4) コンデンサーを含む回路について合成容量を計算できる。<br>(5) 電流と電流がする仕事について説明できる。<br>(6) Ohm の法則と Kirchhoff の法則を用いて回路の電流と電位差を計算できる。<br>(7) 電流と磁場の相互作用を説明し，Ampere の法則を用いて磁場分布を計算できる。<br>(8) 電磁誘導を説明し，Fa | |
| 成績評価 | (1) 期末試験（到達目標(1)～(10)に関する総合的な筆記試験）の成績（60%）<br>(2) 小試験の成績（30%）　＋　宿題の成績（10%）<br>(3) 上記の成績を 100 点満点で評価し，60 点以上を合格とする。<br>(4) 講義の欠席回数が 1/3 以上に達した場合（理由の如何を問わない），上記評価の 70%が最終成績となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：原　康夫著「第 4 版基礎物理学」（学術図書出版社）<br>指定図書：原　康夫著「物理学基礎」（学術図書出版社）<br>万代敏夫他著「新版理工系のための電磁気学の基礎」（講談社）<br>参考書　：本間三郎，山田作衛著「電気の謎をさぐる（岩波新書）」（岩波書店）<br>藤村哲夫著「電気発見物語（ブルーバックス）」（講談社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境物理学実験（コンピュータ活用を含む） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩間　憲治　・　堂満　華子　・　三浦　信広※　・　未定 | |
| 授業概要 | この実験では，基礎物理学および環境測定原理に関する重要な物理的概念を学生自らが実験を通して体感することを最重要課題と考えている．そのため，学習意欲のある学生を対象とした，少人数グループ制での活発な授業をめざす．高等学校で特に物理を履修していない学生でも自主勉強により十分理解できる内容である．　実験授業であるから，履修する学生たちが主役である．迅速に正しいデータがとれるような実験環境を自主的に整備し，各グループで自立解決型の授業をめざす． | |
| 到達目標 | (1)環境科学に関連する物理現象に対し，テキストを参照しながら実験し，適切なデータを測定できる．（学科到達目標６）<br>(2)誤差論の基本を理解し，測定したデータに対する誤差処理ができる．（学科到達目標３）<br>(3)物理現象に対する基礎的な数値処理をコンピュータ上で行える．（学科到達目標３）<br>(4)基本的な科学的レポート作成法に則り，実測値を使用してレポートを作成できる．（学科到達目標８） | |
| 成績評価 | 毎回の実験レポートを，翌週の冒頭で回収する．したがって，全部で 13 種類の実験レポートを作成することになる。毎回のレポートを 100 点法で採点する．その上で，13 種類のレポートの平均点が 60 点を超えた場合に合格とする．<br>(1)(2)(4)に関するレポート：11 課題、(3)に関するレポート：２課題 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 使用するテキストを第１回目の授業時に配布する． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境変遷史 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 堂満　華子 | |
| 授業概要 | 本講義では，おもに海底・湖沼堆積物の研究から明らかとなった第四紀の地球環境変動について実例をあげて解説する．これをもとに，古環境復元の方法と意義，そして現在の地球環境の成立について学ぶ. | |
| 到達目標 | 第四紀の地球環境変動に関する基礎知識を習得し，現在の地球環境の成り立ちを理解する. | |
| 成績評価 | 到達目標の達成度を授業中に課す小テスト（50%）ならびに定期試験（50%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境法 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上河原　献二 ・ 小林　泉※ ・ 小松　直樹※ ・ 三和　伸彦※ | |
| 授業概要 | 1970 年代に整備された環境法は、その後、公害・自然破壊から環境保全へ、加えて地球環境問題という問題の質が変化するにつれて関係する法体系も大きな変容を経てきている。この講義では、法と社会という広い観点をベースにしつつ、環境保護関連法律をはじめとして、関連する地方自治体の条例、企業における取り組みなど、社会全体での環境を守るルールについて概観し、環境と法、市民・企業レベルの参加のあり方などについての理解につとめる。 | |
| 到達目標 | （1）環境法全体の歴史、性格、行政主体の役割の基本的事項を理解するとともに、説明できる。（２）個別分野の環境問題に関する法律の対象問題、基本的構造及び課題について理解するとともに、説明できる。（３）環境法に関する横断的事項・手法（情報提供・経済的手法等）を理解するとともに、それらを説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標（１）についてレポート１回１０%、定期試験１５%<br>到達目標（２）についてレポート２回２０%、定期試験３０%<br>到達目標（２）についてレポート１回１０%、定期試験１５% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：黒川哲志・奥田進一「環境法へのアプローチ」成文堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境マネジメント演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高橋　卓也 | |
| 授業概要 | 企業または組織の自然環境との関係についての実例から作成された演習課題に取り組むことによって、組織の多面性、組織環境、財務管理、ステークホルダーとの関係管理などの概念および実際について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)環境経営について体系的に分析し、問題解決方法を提案できるようになる。(2)環境経営における問題の解決方法を、説得力をもって説明できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)環境経営について体系的に分析し、問題解決方法を提案できるようになる、および(2)環境経営における問題の解決方法を、説得力をもって説明できるようになる、について、演習作業状況（20%: (1)10%, (2)10%）、成果報告（80%: (1)40%, (2)40%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：指定しない<br>参考書：適宜指定する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境倫理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 土屋　正春※ | |
| 授業概要 | 地球温暖化をめぐる締約国会議は常に紛糾し、先進国と途上国、北と南、などの関係で利害は鋭い対立を繰り返している。「権利」と「義務」とで成り立つ「制度」を超えた問題解決への糸口、この共有が求められているのだ。人間行動をより広い倫理の観点から見直そうとする動きがそれで、ここ 40 年間ほどに急速な研究成果の蓄積を得てきた。　自然界に対する人間側の開発圧力が自然と人間の健全な関係ばかりか人間相互の関係までも分断する現実にどう立ち向かえば良いのか。この、自然と人間、人間と人間、の関係を見直す努力は、必然的に「守るべきは何なのか」という問いの立て方に展開して行く。　はたして「人」には「犬」に対してよりも深く厚い配慮をすべきなのか、否か。すべてのものが備える「内在的価値」とは何なのか。意識作用を失った人は、モノ（者）なのか、モノ（物）なのか。受講生には自分自身の考えを組み立てる努力を求めたい。 | |
| 到達目標 | これまでの環境思想の流れの理解を通じて時代認識を得ること。また、生命倫理との関係を理解できること。そして、自分の考えを持てるようになること。 | |
| 成績評価 | １　授業の進行に合わせて実施する小テストおよびレポートによる評価、５０％２　期末試験による評価、５０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | １　教科書は使用しない。授業ごとに教材を配布する。<br>２　指定図書　（１）　鬼頭秀一、福永真弓（編）「環境倫理学」、東京大学出版会、2009<br>（２）　ナッシュ、Ｒ.「自然の権利－環境倫理の文明史」、ちくま学芸文庫、1999<br>（３）　飯田哲也「北欧のエネルギーデモクラシー」、新評論、2000 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境論考解析学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西田　隆義 | |
| 授業概要 | 論文や学会発表などにおいて、研究の成果をいかに効率的にかつ正確に伝えるかは非常に重要である。この授業では、そのための作文および発表技術について実践的にきたえることを目指す。 | |
| 到達目標 | 専門的知識をもたない人が、読んで（聞いて）理解できるような作文（発表）ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 授業における小テスト（50%）およびプレゼンテーション（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 科学的和文作文法入門（倉茂好匡著）サンライズ出版<br>理科系の作文技術　（木下是雄著）中公新書 624　中央公論社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎数学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山﨑　惣治郎※ | |
| 授業概要 | 自然科学の研究には、表現方法として数学を用いる。本科目は高校数学をベースにして、数学的な見方・考え方を身につけ、様々な分野で数学が利用されていることを学習する。 | |
| 到達目標 | (1)漸化式が解けること<br>(2)数列の極限が求められること<br>(3)ベクトル・行列の計算ができること<br>(4)いろいろな曲線の表し方を理解すること<br>(5)確率の計算・確率分布・平均・分散が求められること | |
| 成績評価 | 期末考査 70%、小テスト 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時にプリントを配布する。参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎数学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山﨑　惣治郎※ | |
| 授業概要 | 自然科学の研究には、表現方法として数学を用いる。本科目は高校数学をベースにして、数学的な見方・考え方の力を身につけ、様々な分野で数学が利用されていることを学習する。特に、三角関数・指数関数・対数関数を軸として、関数の変化を調べてその結果を知るための微分・積分の基礎的概念を学習する。 | |
| 到達目標 | (1)三角・指数・対数関数の計算が自由にできること<br>(2)微分の計算ができること<br>(3)置換積分・部分積分の計算ができること<br>(4)簡単な微分方程式が解けること | |
| 成績評価 | 期末考査 70%、小テスト 30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時にプリントを配布する。参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎統計 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 金谷　健 | |
| 授業概要 | 統計資料の分析を進めていくため、統計学の基礎知識を学ぶ。各種の統計データの読み方やそこから作られる図表の読み方を習得し、基本的な計算やグラフの作成ができるようにする。具体的には官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワークによる論文が読め、単純集計・度数分布・代表値・クロス集計などのデータを読めるようにする。また統計をどうして学ばなければならないか、統計が社会でどのように役立つかについても、理解していく。 | |
| 到達目標 | ①統計学における基礎的な統計概念について、説明できること。<br>②記述統計学における基礎的な統計量について、手計算で計算できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標①については、宿題（１０％）と試験（３８％）で評価する。到達目標②については、宿題（１０％）と試験（４２％）で評価する。なお特段の事情（病気等）がない限り、5 回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：津島昌寛・山口洋・田邊浩編「数学嫌いのための社会統計学〔第 2 版〕」法律文化社、2014 年。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 魚類学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　省三 | |
| 授業概要 | 現存する魚類は多種多様で、それぞれの種は独自の生息環境に適応した生理・生態的進化を遂げている。それらは、種が生存・繁栄のために獲得した驚異的な能力であり、大変興味深い。この授業は、魚類の進化と系統分類、生態学および生理学について、理解と興味を深めることを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1) 魚類の進化と系統分類について、代表種を挙げて説明できる。<br>(2) 多様な魚類について、生態学・生理学の知識をもとに説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標 (1) (2) ともに、ノートチェック (45%)、授業中の発言内容 (5%)、期末試験 (50%) によって採点する。到達目標 (1) (2) の評価比率は各 50%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： パワーポイント、板書、動画等を用いて授業を行なう。<br>指定図書： 岩井保著 『魚学入門』 (恒星社厚生閣)<br>参考書： 生物分類技能検定問題集 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 景観計画 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　修一 | |
| 授業概要 | 本講義では，コミュニティや地域のスケールでランドスケープをとらえる。まず，共用緑地，都市公園，公園系統という空間の特徴や成立過程を紹介する。次に，地域のランドスケープを守り育てる仕組みや制度について解説する。最後に，地域固有のランドスケープの将来像を戦略的に描くための手法を紹介する。受講生は単に知識を得るだけでなく，未来社会にふさわしい新たなランドスケープ形成手法を会得する。 | |
| 到達目標 | 講述する手法を用いた景観計画ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標について実施する 14 回分のワークシート課題の点数を合計し（100 点／回，1400 点満点），100 点満点に換算して評点とする（100%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ＜指定図書＞<br>「環境デザイン学 - ランドスケープの保全と創造」（森本幸裕，白幡洋三郎編　朝倉書店）<br>「テキスト　ランドスケープデザインの歴史」（武田史朗，山崎亮，長濱伸貴編　学芸出版社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 経済学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 林　宰司 | |
| 授業概要 | 現代経済学は、個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱うマクロ経済学と、経済主体の最小単位である消費者、企業が活動を行う市場の分析を対象とするミクロ経済学に大きく分けられる。本講義では、主に後者のミクロ経済学の基礎理論を理解することを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1)消費者・生産者の経済行動の簡単な事例について、説明できるようになること。<br>(2)ミクロ経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、市場経済のしくみについて定性的・定量的な分析価ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)消費者・生産者の経済行動の簡単な事例について、説明できるようになること、および(2)ミクロ経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、市場経済のしくみについて定性的・定量的な分析価ができるようになること、については各回の課題作業（30%: (1)15%, (2)15%）、中間まとめ（30%: (1)15%, (2)15%）、期末試験（40%: (1)20%, (2)20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『公務員試験テキスト　ゼロからはじめる！クイックマスター　ミクロ経済学』，東京リーガルマインド，2012 年<br>参考書：西村和雄「ミクロ経済学入門」（岩波書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 経済学Ⅱ（国際経済を含む） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　一真 | |
| 授業概要 | 現実のデータや実際の事象に着目し、日本や関西が抱える経済問題を、マクロ経済学の観点から理解できるようになることを目指す。講義では、マクロ経済学の標準的な理論にとどまらず、企業の生産水準や雇用状況などの様々な経済指標の読み方、日本経済や関西経済の動向・見通しなどについて、理論と実際を結びつけながら解説し、理論、経済指標、経済動向・見通しをあわせて理解することを学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)マクロ経済学の基礎概念、<br>(2)家計、企業、政府の行動理論と現状、<br>(3)マクロ政策の理論と現状を理解し、説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(3)のそれぞれについて、小テスト・レポート 16.7（50/3）%、期末試験 16.7（50/3）%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：福田慎一・照山博司「マクロ経済学・入門（第 4 版）」（有斐閣、2011）<br>参考書：伊藤元重「マクロ経済学（第 2 版）」（日本評論社、2012） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築一般構造 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 黒川　直樹※ | |
| 授業概要 | 建築を初めて学ぶにあたり、建築物を成立させている部位と構成・しくみを知り、多様な建築技術の概要を把握する。建築材料、架構、仕上などの基礎的な知識、世界の有名建築家、有名建築物、歴史的建造物における使用例、また技術の歴史的変遷から最新の技術まで、実際の設計・施工の現場における諸問題にも触れて幅広く講義する。 | |
| 到達目標 | 建築技術の全体像を把握する。これから建築に携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。 | |
| 成績評価 | 宿題(レポート評価）60%、期末筆記試験 40%とし、各講義の理解度及び建築技術用語の修得を評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:「建築構法」内田祥哉編著(市ヶ谷出版社)。<br>授業にて追加資料を配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築環境工学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　清 | |
| 授業概要 | 建築に関わる光・音・熱・空気などの物理的環境要素の特性を理解し、これらを室内・建築内においてコントロールするための技術の基礎を学ぶ。また、これら環境要素を刺激として知覚・認知する人間の側の特性についても理解することによって、よりよい室内環境、建築環境を実現するための方法について学ぶ。さらには、これら方法を環境負荷軽減や省エネルギー、省資源の観点も踏まえて選択できることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1)光・音・熱・空気などの物理的環境要素の基本的な特性について理解し、評価できること。<br>(2)これら物理的環境要素と人の感覚との関わりについて説明できること。<br>(3)これら物理的環境要素と建物との関わりについて理解し、建物はどのように人の健康・安全や省エネルギー等の社会的ニーズと関わりを持ち、影響するのかについて説明できること。 | |
| 成績評価 | 小テスト３０％　　...(1):15%、(2):15%<br>レポート課題２０％　...(1):10%、(2):10%、(3):10%<br>期末筆記試験５０％　...(1):15%、(2):15%、(3):10% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木村建一、木内俊明著「新訂 建築士技術全書２ 環境工学」（彰国社）<br>参考書：「環境工学教科書」（彰国社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築環境工学演習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　清 | |
| 授業概要 | 「建築環境工学」の講義内容に沿った演習・実験を行い、具体的な建築内や外部空間においての物理的環境要素のあり方を比較・考察をすることにより、各要素の空間的・時間的な特性の理解を深めるとともに、これら各要素の絶対量や変化量とわれわれの感覚との関わりについての考察を深めることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1)物理的環境要素に関する測定・評価の方法を理解し、それら結果を適切に比較・考察できる]こと。<br>(2)建築環境工学の授業で身につけた物理的環境要素の特性・建築との関わり・人の感覚への影響などについて説明できること。 | |
| 成績評価 | 小テスト３０%...　(1):30%<br>レポート７０%...　(1):40%、(2):30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：木村建一、木内俊明著「新訂 建築士技術全書２ 環境工学」（彰国社）<br>「環境工学教科書」（彰国社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築数学・物理 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　清　・　高田　豊文 | |
| 授業概要 | 建築の設計には、設計製図などのデザイン・意匠の能力だけでなく、構造や環境・設備などの工学的な視点も必要となる。この授業では、構造分野や建築環境・設備分野などの環境建築デザイン学科での工学的な専門科目で用いる基礎的な数学および物理について学習する。具体的には、建築工学全般に必要な微分・積分、建築構造設計に必要な数学・力学の基礎、光・熱・音・波などの解析の基礎となる数学について学習する。 | |
| 到達目標 | (1)指数関数・対数関数・微積分に関する問題を解くことができること。<br>(2)建築構造の授業の理解に必要な静力学の基礎な問題を解くことができること。<br>(3)建築分野に現れる簡単な微分方程式を解くことができること。<br>(4)波の周波数分析の理解に必要な複素数の極形式表現に関して基礎的な問題を解くことができること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す各項目について、毎回の演習レポート（50%：(1)20%,(2)16%,(3)7%,(4)7%）と定期試験（50%：(1)18%,(2)25%,(4)7%）で評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：石村園子「大学新入生のための数学入門」共立出版<br>参考書：中野友裕「大学新入生のためのリメディアル数学」森北出版<br>参考書：村上雅人「なるほど虚数-理工系数学入門」海鳴社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築生産施工 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩下　智※ | |
| 授業概要 | 本講義は、建築物の企画・設計・施工・保全にわたる建築生産活動とそれに関する技術的な知識を得ることを目的とし、現業における各種実例を用いて建築技術者としての読解力とホリスティックな視野を養うものとする。 | |
| 到達目標 | （1）建築生産全体の大まかな流れが説明できる。<br>（2）建築生産への関与者の役割、仕事内容など基礎的な事項が説明できる。<br>（3）建築施工の大まかな流れ、建築技術者の役割を説明できる。<br>（4）実際の建物や紹介事例に対して自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）建築生産全体の大まかな流れ……（2）建築生産への関与者……（3）建築施工の大まかな流れ……については、定期試験（70%：(1)20%,(2)30%,(3)20%）、（4）実際の建物や……については、小レポート（30%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。なお、授業時間数の４割以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：古阪秀三ほか 著「建築生産」（理工図書）参考書：建築施工用教材（日本建築学会） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築法規 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 戸川　勝紀※ | |
| 授業概要 | 建築基準法の目的は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することである。これらを踏まえて、都市デザイン、建築デザイン及び生活デザインを行うために、建築関係法令の役割及び規制の概説だけでなく、誘導及び取組み方も解説する。また、具体的な事例をもとに制限や可能性を解説し、都市、建築及び生活に取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。 | |
| 到達目標 | (1)　法律制度を説明できる。<br>(2)　建築法規の目的を説明できる。<br>(3)　都市デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。<br>(4)　建築デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。<br>(5)　生活デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。 | |
| 成績評価 | 毎回講義開始時に講義内容の小試験を実施する。小試験結果に期末試験の結果を合計して評価する。（小試験合計６０％＋期末試験４０％＝１００％）１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 なお、小試験及び期末試験は法令集（テキスト１）及び教科書（テキスト２）を使用可とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト１　建築基準法令集平成２７年版　法令編　国土交通省住宅局　日本建築学会編　技報堂出版 テキスト２　史上最強図解よくわかる建築基準法　大脇賢次　ナツメ社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 合意形成支援技法・演習 | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 金谷　健 | |
| 授業概要 | 廃棄物最終処分場の立地場所の選定、望ましい街づくりのありかた、などなど、環境問題では合意形成が必要な場面が非常に多い。しかし現実には、こうした合意形成が合理的になされていないことが少なくない。そこでこの授業では、関係者（市民、行政、企業など）の合意形成を支援する技法のいくつかについて、その目的や手順を理解することを、ねらいとする。対象技法は、要素抽出技法（ブレーンストーミング法、ブレーンライティング法)、代替案評価技法（衆目評価法、ＡＨＰ法）および問題構造化技法（ＩＳM法）である。 | |
| 到達目標 | ①要素抽出技法（技法なし、ブレーンストーミング法、ブレーンライティング法）について、比較結果を論理的に説明できること。<br>②代替案評価技法（衆目評価法）について、代替案評価結果を論理的に導けること。<br>③代替案評価技法（ＡＨＰ法）について、代替案評価結果を論理的に導けること。<br>④問題構造化技法（ＩＳM法）について、問題構造化グラフを論理的に導けること。 | |
| 成績評価 | レポートで成績評価する。内訳は、到達目標①、②、③、④それぞれ、１５％、１５％、４４％、２６％である。なお特段の事情（病気等）がない限り、５回以上欠席した者は、評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特になし（資料配付） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 構造計画（環境建築デザイン） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 陶器　浩一 ・ 松村　和夫※ | |
| 授業概要 | 建築物は、機能性、安全性と芸術性を兼ね備えた総合的な創作である。建築物を成り立たせるためには、そこに作用する力の種類と力の流れを把握し、構造材料の特性を活かして架構することが必要である。本講義では建築物に作用する外力の種類と特徴、建築物を構成する構造材料とその特徴およびそれらを活かした架構方法、さらに構造力学の基本となる力の合成と分解、力の流れの計算方法について講義する。 | |
| 到達目標 | 建築物に作用する力の種類と力の流れ、および建築物を成立させるための架構計画の基本につき習得し、構造力学基本（力の合成と分解、構造物の支点反力）について解けること。 | |
| 成績評価 | まとめレポート 50%、講義中の小課題５０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：坂田弘安，島﨑和司 著,「建築構造力学Ｉ」，学芸出版社<br>参考書：空間 構造 物語　ストラクチュラル・デザインのゆくえ　斎藤公男著、彰国社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 構造材料実験 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 陶器　浩一 ・ 伊藤　淳志※ ・ 高田　豊文 ・ 永井　拓生 | |
| 授業概要 | 木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料，およびラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、実験を通じて理解させるのが本科目の主目標である。また、建築構造の最も基本となる構造力学について、演習を通して、理解を深めることも目的とする。さらに、他の構造系科目で扱わない、地盤・基礎構造の調査法と施工についての講義・演習を、本科目において補う。 | |
| 到達目標 | (1)コンクリート、鋼、木材、それぞれの性質を、五感を通して理解すること<br>(2)ラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、制作・実験を通して理解すること<br>(3)地盤・基礎構造の基本事項を修得すること | |
| 成績評価 | 毎回行う実験・演習のレポートにより評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：日本建築学会編「構造入門教材　ちからとかたち」（丸善）<br>谷川恭雄他著「構造材料実験法」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 構造力学Ⅰ（環境建築デザイン） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 陶器　浩一 ・ 永井　拓生 | |
| 授業概要 | 建築空間を創造するためには、建築物に作用する力の種類と流れ、および建築物を構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠である。本講義では、建築構造関係科目を学習するにあたって必要とされる力学知識や力学基礎について学習する。具体的には、静定トラス・静定梁・静定構造物の応力算定、ひずみ度と応力度、部材断面の各種応力度算定について学習する。 | |
| 到達目標 | 静定構造物を対象とした建築構造力学の知識の習得し、簡単な骨組構造を対象として力学の基礎原理を学習しながら、構造物における力の流れを理解させることをねらいとしている。 | |
| 成績評価 | 期末筆記試験 60%＋毎回行う小レポート 40%の合計により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：坂田弘安，島﨑和司著，「建築構造力学Ⅰ」，学芸出版社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 構造力学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高田　豊文 | |
| 授業概要 | 本講義は，環境建築デザイン学科専門科目の「構造計画」「構造力学Ⅰ」で習得した力学原理の理解を確認・発展させ，建築構造設計を行う際に必要とされる構造力学の原理を理解することを目的としている．具体的には，静定構造物・不静定構造物の応力算定法，構造物の弾性変形の計算方法について学習する．なお，講義内容の理解を深めるため，毎回レポート課題（演習問題）を課す. | |
| 到達目標 | (1)静定構造物の応力算定ができること。<br>(2)静定構造物の弾性変形を求めることができること。<br>(3)不静定構造物の応力算定ができること。 | |
| 成績評価 | 到達目標の各項目について，小テスト（10%：(1)2%,(2)3%,(3)5%），演習レポート（20%：(1)4%,(2)6%,(3)10%），第 1～7 回のまとめ（30%：(1)8%,(2)8%,(3)14%），期末試験（40%：(1)10%,(2)10%,(3)20%）の合計により評価し，100 点満点で 60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：坂田弘安，島﨑和司 著，「建築構造力学Ⅱ」，学芸出版社<br>指定図書：中村恒善他，「建築構造力学 図説・演習Ⅱ」，丸善<br>参考書：坂田弘安，島﨑和司 著，「建築構造力学Ⅰ」，学芸出版社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 国際環境資源論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高橋　卓也 ・ 林　宰司 | |
| 授業概要 | 農林業は農林産物を生産するとともにさまざまな環境便益を供給している。すなわち、農林業は環境資源でもある。近年、農林業の環境資源としての機能を高めるよう誘導する政策（農林環境政策）が発展してきている。この講義では、森林環境政策（第１回～第８回。高橋担当）および地球温暖化防止政策（第９回～第１５回。林担当）の国際的な展開過程を跡づけるとともに、農林環境政策および地球温暖化防止政策に伴う理論的・実際的諸問題を考える。 | |
| 到達目標 | (1)国際的な視野のもとで、環境・資源問題に応用される経済的政策手法の事例について説明できるようになる。<br>(2)経済学の理論を使って、国際的な環境・資源問題について、その原因及び解決策について数式および図解により分析・説明ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)および(2)については、各回の課題作業（50%: (1)25%, (2)25%）、試験（50%: (1)25%, (2)25%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし指定図書：なし参考書：講義の際に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 湖沼環境学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 後藤　直成 | |
| 授業概要 | 湖沼生態系の構造と機能を生物地球化学的視点から概観した後，各構成要素（物理，化学，生物的要素）とそれら各要素間の相互作用について講義する。また琵琶湖を例に，現在，水圏生態系で顕在化しつつある環境問題および最新の観測手法などについても解説を加える。 | |
| 到達目標 | (1) 湖沼生態系の物理的・化学的構造を把握し，それら非生物的要素と生物的要素間の相互作用を理解することができる。<br>(2) 湖沼で発生している環境問題を生物地球化学的に考察することができる。<br>(3) 物理、化学、生物的因子に関する観測データを解析し、湖沼で起こっている一連の生物地球化学的過程について考察・発表することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）と（2）については，課題レポート（20%）と定期試験（70%）で評価する。到達目標（3）については、発表および質疑応答の内容（10%）で評価する。以上を 100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時にプリントを配布する。参考書：講義時に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栽培植物各論Ａ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上町　達也 | |
| 授業概要 | 園芸作物（野菜と観賞植物）の主要な作目について、栽培・育種・利用の歴史と現状、花成や休眠などの生理・生態的特性，生育特性とそれに密接に関わる栽培体系を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)野菜園芸・花卉園芸・果樹園芸のそれぞれの特徴について説明できる.<br>(2)野菜及び花卉類の代表的な作目について育種の歴史並びに作型を説明できる.<br>(3)野菜及び花卉類の代表的な作目について生理生態反応及び生育特性を理解するとともに,これらと栽培管理法との関係を説明できる. | |
| 成績評価 | 毎回の講義で行う小テスト　　５０％　　期末テスト　５０％<br>(1)野菜・花卉・果樹園芸の特徴,<br>(2)代表的な作目の育種の歴史並びに作型,<br>(3)代表的な作目の生理生態反応及び生育特性の理解度と,これらと栽培管理法との関係に対する理解度を，小テストと期末試験で評価する. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義資料としてプリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栽培植物各論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 泉　泰弘 | |
| 授業概要 | 栽培植物のうち、食用作物、飼料作物および工芸作物を取り上げて、栽培、育種、利用の歴史と現状、生理・生態的特性とそれに密接に関わる栽培管理法について詳述する。今後の食糧問題、環境問題との関係についても講義する。 | |
| 到達目標 | （1）主要作物の起源と育種の歴史、栽培管理法および諸特性について説明できる<br>（2）今後の日本および海外の食糧・環境問題と植物資源のあり方について説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）と（2）についてともに定期試験で評価する（各 50 点)。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：授業のなかで推薦する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 作物保護学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　一実 | |
| 授業概要 | 水稲，畑作物，野菜，花きおよび果樹などの農作物に発生する重要な病害について，わが国で問題となっている例を挙げ，作物栽培の現状や作物の特性と併せて考察するとともに，作物保護の重要性についての理解を深める。あわせて作物保護のさまざまな手段についても具体的に紹介する。 | |
| 到達目標 | （1）作物保護の重要性について理解することができる。<br>（2）各種作物の病害をひきおこす病原体の分類上の位置，生物学について理解することができる。<br>（3）各種作物の重要病害について理解することができる。<br>（4）作物保護のさまざまな手段について理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）～（4）について，定期試験（50%）および小テスト・課題レポート（50%）で評価する。評価比率はそれぞれ 12.5%とする。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>指定図書：講義の中で適宜紹介する。<br>参考書：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | サスティナブルデザイン論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 芦澤　竜一 | |
| 授業概要 | 現代において地球環境を考慮した循環型社会を構築するために、建築分野を中心とした様々なサスティナブルな計画、デザインの方法について論ずる。過去から現代までの都市計画、地域計画、建築デザイン、プロダクトデザインなど具体的な実例や取り組みを紹介しながら講義を行う。 | |
| 到達目標 | 建築を中心とした様々なサスティナブルデザインの知識を身につける。環境、都市、地域、建築における様々な問題を解決する思考方法を身につける。 | |
| 成績評価 | 講義におけるレポート課題 70%　出席 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特になし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 資源経済学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高橋　卓也 | |
| 授業概要 | 資源経済学の対象は、自然界から採取し、経済過程に投入される物質・エネルギーである。効率的で、公正で、持続可能な自然資源利用を実現するための基礎となるのが資源経済学に与えられた課題である。この授業では非更新性資源の異時点間配分に関するホテリングの原則、開放漁場における地代消滅に関するゴードンの定理、森林の最適伐期齢に関するファウストマン・ルールをはじめとする資源経済学の標準理論を学び、それらを参考に、持続可能な社会における自然資源利用のあり方を考える。 | |
| 到達目標 | (1)自然資源の利用に関する経済学的分析の方法を理解し、簡単な予測・評価ができるようになる。<br>(2)現実の自然資源利用について、資源経済学的な課題を発見できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)自然資源の利用に関する経済学的分析の方法を理解し、簡単な予測・評価ができるようになる、および(2)現実の自然資源利用について、資源経済学的な課題を発見できるようになる、について適宜課する作業課題（30%: (1)15%, (2)15%）、期末筆記試験（70%: (1)35%, (2)35%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし指定図書：なし<br>参考書：講義の際に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 市民参加論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小野　奈々 | |
| 授業概要 | 本講義では、市民参加の現場で活躍する外部講師を招いて具体的事例を踏まえた講義を聴く。これらを通じて、我が国における環境政策・計画、まちづくり等への参加のあり方、市民参加の背景と現状の問題点、先進事例について理解する。 | |
| 到達目標 | 1)市民参加の考え方の理解、<br>2)代表的な事例についての理解、<br>3)文章記述力、<br>4)オリジナルな意見、提案力、<br>5)課題認識力 | |
| 成績評価 | 1)キーワードを利用して、市民参加の例を説明できる。15%<br>2)代表的な市民参加のケースを説明できる。15%<br>3)市民参加について、文章で論理的に記述できる。15%<br>4)市民参加について、オリジナルな意見や提案を述べられる。15%<br>5)身近な市民参加に関心を持ち、市民活動の実態（長所・短所など）や課題について、自分の見方で説明することができる。40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各回に適宜配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小野　奈々 | |
| 授業概要 | この授業では、社会学の発想方法と理論のエッセンス、あわせて、社会学的研究の手法を学びます。社会学を学ぶ楽しみのひとつは、「常識的な見方」を超えて、現実の背後にあるものを洞察する力を養えることです。授業では、身近な社会のあり方を常識と異なる視点から捉えるための社会学的なものの見方と、既存の理論について紹介します。また、あわせて、卒業研究の準備のために、社会学的研究方法の基礎を、質的アプローチから教えます。 | |
| 到達目標 | １）社会学のものの見方を理解する<br>２）質的研究手法を理解する<br>３）社会学のセンスを身につける<br>４）研究計画を作成する | |
| 成績評価 | 成績評価：各回の小課題（2 点×11 回）＋小テスト（8 点×4 回）＋最終テストまたは最終レポート（46 点）＝　100 点満点 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 好井裕明 2006『「あたりまえ」を疑う社会学　質的調査のセンス』光文社新書．竹内洋 2008『社会学の名著 30』ちくま新書．現代位相研究所編 2010『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる社会学』日本事業出版社．その他の参考資料については授業内で指示します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会システム分析設計・演習 | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | この授業では，現実社会システムを切り取って，それらを構成する要素を関連付け，現実社会をモデル化する．そのモデルを用いて課題を発見し，新たなアイディアを創出する．<br>具体的には，システム分析を目的とした，情報を集める方法，集めた情報からアイディアを生み出す手法（①発想法），企画を立てる手法（②企画法），表現する手法（③図解表現法），提案（④プレゼンテーション手法），これらのプロセスを振り返る手法などを実践的に体得する． | |
| 到達目標 | (1) 様々な方法で情報を集め，アイディアを生み出すことができる（発想法）30%<br>(2) 問題意識に基づいて企画を立てることができる（企画法）30%<br>(3) 企画内容を図示化することができる（図解表現法）30%<br>(4) 説得力を伴って提案を行うことができる（プレゼンテーション法）10% | |
| 成績評価 | 課題 80%，プレゼンテーション 10%，グループワークへの取り組み 10% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：必要に応じ、毎回の講義で配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会調査実習（環境政策） | 1単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小野　奈々 ・ 未定 ・ 村上　一真 ・ 平山　奈央子 | |
| 授業概要 | 本科目は、社会調査の企画から報告書の作成までを、個人もしくはグループで取り組むことによって、社会調査の全過程を理解できるように実習形式で実施する。調査の準備段階から、調査の実施、さらには調査報告書の執筆を体験することによって、実社会に出てからも社会調査に従事できるような技術を習得することを目的とする。社会調査のテーマ設定から綿密に指導し、現場での調査方法を詳しく説明する。インタビューやアンケートなどの調査手法は、調査対象者の属性の違いを踏まえて、各履修者が検討することになる。 | |
| 到達目標 | 社会調査士の資格認定において最後の履修科目となる場合が多いので、社会調査について学べることの集大成を目指す。具体的には、(1)社会調査実施、(2)プレゼンテーション、(3)質疑応答、(4)調査報告書執筆、ができるようになることを目指す。 | |
| 成績評価 | (1)社会調査を実施し、分析・考察することができる 60%<br>(2)レジュメを作成し、発表形式の報告ができる 15%<br>(3)他の履修生の発表に対して、コメントを述べることができる 5%<br>(4)調査報告書を執筆することができる 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ①篠原清夫,榎本環,大矢根淳,清水強志(編)(2010)『社会調査の基礎―社会調査士 A・B・C・D 科目対応』弘文堂.②大谷信介,後藤範章,永野武,木下栄二,小松洋(著)(2005)『社会調査へのアプローチ―論理と方法　第 2 版』ミネルヴァ書房. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 集水域環境影響調査指針 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 肥田　嘉文 | |
| 授業概要 | 環境影響を調査・評価するには、原因を辿るための知識をつけることや、影響の大きさ「リスク」を知るための方法を理解することが必要である。本講義では、実際にリスクを算定する過程を、身近な汚染物質を題材として学ぶことを目的とする。相反する事柄のリスクのバランスをどこで採るべきか、環境中濃度（暴露状況）の推定および暴露人口分布の算出、汚染の発生源推定とその暴露経路（物質の媒体間移動）についての知識などを、演習を交えて学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)リスク評価の種類（初期および詳細）および、その基本的手続きを理解し、説明することができる。<br>(2)主要な発生源からの暴露シナリオを具体的に挙げ、それに基づく解析の道筋を示すことができる。<br>(3)環境中濃度予測モデルを用いた暴露評価およびそれに基づくリスクの算定について理解する。 | |
| 成績評価 | (1)～(3)について、演習課題提出（毎回講義の終わりに提出する「講義内容に関する通信票」による授業への参加態度を含む）と、定期試験の結果をそれぞれ 40%、60%として総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書　：西準子他：「演習 環境リスクを計算する」 岩波書店（2003）、中西準子, 東野晴行編：「化学物質リスクの評価と管理－環境リスクという新しい概念－」 丸善 (2005) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 集水域環境学 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 尾坂　兼一 | |
| 授業概要 | 集水域環境学では集水域の構成要素を解説するとともに、集水域環境における人間活動の影響として起こる環境問題について解説する。さらに日本では集水域のほとんどの面積を占める森について、集水域全体の環境に与える影響を考える。 | |
| 到達目標 | 集水域を構成している要素とそれらを取り巻く環境問題について理解する。 | |
| 成績評価 | 不定期の小テスト、レスポンスペーパー、もしくはレポート内容(40%)+定期試験(60%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:適宜配布<br>参考図書:水の革命:築地書館,流域環境評価と安定同位体: 京都大学学術出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 集水域環境学・同実験 | ４単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 浦部　美佐子　・肥田　嘉文・堂満　華子・尾坂　兼一・未定二名 | |
| 授業概要 | 集水域という場は、自然と人間活動が交差する主要な舞台として捉えることができる。本講義・実験では、山地から河口まで、河川が流下してくる間の地球科学・生物学的現象に関する実地の調査、ならびに人の安全と環境に配慮して人間活動を制御するための対策技術に関する化学的側面の調査を通じて、解析の手法を実習するとともに、その理解に必要な基礎理論について講義を行う。 | |
| 到達目標 | 1）集水域における、物理、化学、生物環境の野外観測調査方法を習得する。<br>2）調査で得た資料の整理・分析方法を理解し、実験結果の解析方法を理解する。<br>3）野外観測調査および室内実験について、目的、方法、結果を系統的に記述でき、論理的に考察できる。 | |
| 成績評価 | レポート評価によって行う。出席は必須。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：「水の分析」第5版（日本分析化学会北海道支部編:化学同人）<br>「水質調査法」第3版（半谷高久・小倉紀雄:丸善）<br>「日本水草図鑑」（角野康郎：文一総合出版）<br>「滋賀の水生昆虫」（谷田一三編:　新学社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 集水域環境機能論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 永淵　修 | |
| 授業概要 | 環境科学の基礎としての分析化学的方法について、理論、技術、応用を習得する。 | |
| 到達目標 | 環境法、特に環境基準（主に水質・大気）、水質汚濁防止法、大気汚染防止法の位置づけとそれに係わる分析項目の変遷および分析法の進歩による環境汚染物質の新たな指定等について理解する。 | |
| 成績評価 | 毎回講義終了後に提出するノートで出席と授業態度を評価する。これと、定期試験結果を総合的に判断して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：環境の化学分析、日本分析化学会北海道支部編、三共出版<br>参考書：酸性雨研究と環境試料分析(愛智出版)、 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 集水域生態系保全修復論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 浦部　美佐子 | |
| 授業概要 | 主として河川の生物の保全のために必要な基礎生態学（河川棲生物の個体群構造、群集構造および周辺の沿岸や陸域環境がそれらに与える影響）について講義するとともに、河川保全の方策と実際、修復および緩和（ミティゲーション）に関する最近の技法とその評価について、若干の環境関連法および応用生態工学を交えながら論じる. | |
| 到達目標 | (1)河川生態系の保全に関わる重要な概念を理解し，実例を挙げて説明できること。<br>(2)河川生態系の保全について，みずから積極的に意見を述べられること。 | |
| 成績評価 | ワークショップの評価30%、期末試験70%とする。合計で60点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定しない。授業時間内にプリントを配布する。<br>参考書:「汚水生物学(津田松苗, 北隆館)」「河川の生態学(沼田真監修, 築地書館)」「The biology of streams and rivers (Giller and Malmqvist, Oxford), 」「水辺環境の保全（江崎・田中編, 朝倉書店)」等 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 集水域物質循環論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 尾坂　兼一 | |
| 授業概要 | 集水域の主な構成要素である土壌・陸水について形成過程・機能について解説するとともに、集水域内での様々な物質循環について講義する。 | |
| 到達目標 | 集水域の構造と集水域内の物質の循環プロセスを理解する。 | |
| 成績評価 | 不定期の小テスト、レスポンスペーパー、もしくはレポート内容(40%)＋定期試験(60%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 配布資料:適宜配布　参考図書:地球環境化学入門:シュプリンガー・フェアラーク東京,最新土壌学:朝倉書店 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 植物遺伝資源学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 清水　顕史 | |
| 授業概要 | 将来的な世界の食糧需要を満たすためには、これまで以上の作物収量の増加は必須であり、そのための品種改良は急務である。本講義では、食糧問題解決を実現するための様々な育種技術について学ぶ。<br>最近のシーケンス技術およびジェノタイピング技術の発展により、植物遺伝資源の人間社会への利用方法は非常に効率的に行えるようになった。本講義でもなるべく最新の知見を講義にとりいれる。 | |
| 到達目標 | (1)遺伝資源とは何か、具体的な利用方法を１つ以上提示できる。<br>(2)古典的な作物育種の方法１つ以上を説明できる。<br>(3)マーカー支援選抜法を用いたゲノム育種の方法を説明できる。<br>(4)突然変異もしくは逆遺伝学的手法または遺伝子組換え法を用いた遺伝子研究法について説明できる。<br>(5)講義で提示する新しい育種法について、１つ以上を説明できる。 | |
| 成績評価 | (1)10%(2)30%(3)30%(4)20%(5)10%<br>期末試験の 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：必要に応じて資料を配付する。<br>参考書　：西尾・吉村編『植物育種学　第４版』文永堂、福井・向井・佐藤『植物の遺伝と育種　第２版』朝倉書店 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 植物栄養学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 畑　直樹 | |
| 授業概要 | 植物は大気や土壌から無機物を取り込み、太陽エネルギーを利用して、生命活動の維持に必要な有機物を自ら合成している。動物は、植物が生産する各種有機物を栄養源として摂取する必要があるのに対して、植物の栄養源は基本的にはすべて無機物であることに大きな特徴がある。植物の栄養を対象にした学問分野である「植物栄養学」の講義では、植物における無機物の吸収、移動、働きなどの栄養生理を学習した後、栄養状態の適正な管理による植物の生産促進、品質向上、環境保全について学習する。 | |
| 到達目標 | (1) 植物の栄養生理に関する基本的な事項を理解し、説明できる。<br>(2) 植物の栄養管理に関する基本的な事項を理解し、説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す (1) (2) について、毎回の講義における小テスト (30%)、課題レポート (10%)、期末試験 (60%) で評価する。 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト: 配布プリント、知っておきたい土壌と肥料の基礎知識 (加藤哲郎著/誠文堂新光社)<br>指定図書、参考書: 講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 植物資源開発学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 原田　英美子 | |
| 授業概要 | 植物は衣食住のための資源としてのみならず、新しいエネルギー源やファイトレメディエーション（植物を用いた環境改善）の材料としても注目されている。本講義では、植物資源利用の新しい可能性を最新の技術動向を示して論ずるとともに、このような資源利用を可能にする植物の特性、ことに生理・生化学メカニズムについても取り扱う。 | |
| 到達目標 | （1）植物資源の高度利用技術の現状を理解し説明できるようになる。<br>（2）植物に由来する資源を植物生理・生化学的な位置づけを理解し説明できるようになる。<br>（3）地球環境における植物の重要性を理解し説明することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示した項目につき、期末試験を課す（70%）。また、植物の先端利用技術を取り扱う施設を訪問し、中間レポートとしてまとめる（30%）。以上を 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：配布資料； 参考書：L.Taiz、E.Zeiger 著、西谷和彦・島崎健一郎　監訳　「テイツ・ザイガー　植物生理学　第３版」（培風館）、平澤栄次　著「はじめての生化学」化学同人（1998 年）、吉原利一　編「環境科学」オーム社（2010 年）；増田芳雄　監修　山本良一・櫻井直樹　共著「絵とき植物生理学入門　改訂 2 版」オーム社（2007 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 植物資源管理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 泉　泰弘 | |
| 授業概要 | 資源植物の群落光合成と収量形成過程、およびそれらにとって極めて重要な太陽エネルギー固定関連形質や環境要因の制御について学習する。 | |
| 到達目標 | （1）群落光合成のしくみや制御方法について説明することができる<br>（2）農業における様々な栽培管理技術について説明することができる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）から（2）についてともに定期試験で評価する（各 50 点）。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義資料配付<br>指定図書：なし<br>参考書：秋田重誠・塩谷哲夫「植物生産技術学」　文永堂（2006） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 植物生産学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上町　達也 | |
| 授業概要 | 安定した持続的な植物資源生産を追求するためには，まず現在行われている植物生産の概要を理解する必要がある．本講義では，水稲生産，畑作物生産，施設栽培，養液栽培といった植物生産の基本的な形態について，いくつかの農作物での実例を示しながら解説する．またバイオテクノロジーと，病虫害・雑草・獣害に対する防除についてとりあげ，現在の取り組みについて解説し，今後の可能性について考える． | |
| 到達目標 | (1)植物生産の基本的な形態とその特徴について理解し，説明できる．<br>(2)環境フィールドワークを含む，植物資源の生産・管理に関わる様々な専門講義を理解するために必要な植物生産の基礎知識を身につける． | |
| 成績評価 | 毎回の講義における小テスト（50%）と期末試験（50%）で評価する．<br>(1)植物生産の基本的な形態とその特徴に対する理解度と(2)植物生産に関わる基礎知識の習得度を，小テストと期末試験で評価する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 植物病害防除論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　一実 | |
| 授業概要 | 植物の病害について研究する植物病理学はどのようにして起こり，どのように発展してきたかをグローバルに展望する。また，糸状菌，細菌，ウイルスなどのさまざまな病原体についての理解をさらに深め，これからの環境に配慮した病害防除や作物保護の方向性を考察する。また，植物感染生理学（病原性と抵抗性)に関する基礎的な概念を概説する。あわせてこの分野におけるバイオテクノロジーの利用についても紹介する。 | |
| 到達目標 | （1）植物病理学の歴史と発展および感染と発病の概念について理解することができる。<br>（2）病原体（糸状菌，細菌，ウイルス）の感染・増殖機構について理解することができる。<br>（3）植物感染生理学（病原性と抵抗性)に関する基礎的な概念について理解することができる。<br>（4）最新のバイテク技術などを利用した新しい病害防除法について理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）～（4）について，定期試験（50%）および小テスト・課題レポート（50%）で評価する。評価比率はそれぞれ 12.5%とする。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>指定図書：講義の中で適宜紹介する。<br>参考書：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食料経済システム論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 増田　佳昭 | |
| 授業概要 | グルメが謳歌される反面，わが国の食料自給率は４０％である．食品企業の不祥事が相次ぎ，食の安全性や表示に関する消費者の懸念も強まっている．わが国の食料システムはいまどのような状況にあるのか．望ましい食料経済システムにはどのような要件が求められているのか．本講義では，食料経済システムの現状と問題点について具体的な品目を取り上げながら，多面的な視点から講義する．とくに近江米や近江牛、野菜の地産地消など地域における農産物の生産と流通についても講述する。 | |
| 到達目標 | （1）わが国の食料需給をめぐる問題点を説明できる。<br>（2）食品製造業、食品流通業、飲食業から成る食品産業の構成を説明できる。<br>（3）主要な農産物の流通経路の概要について説明できる。<br>（4）食料システムが持つ問題点と望ましい姿について自分の意見を述べることができる。 | |
| 成績評価 | 各到達目標ごとの評価配分割合は以下の通り。<br>（1）２５%、（2）２０%、（3）３０%、（4）２５%<br>評価方法は下記の通り。<br>小レポート４０%、小テスト２０%、定期試験４０% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：茂木信太郎『外食産業の時代』、農林統計協会<br>藤島・安部・宮部『現代の農産物流通』 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 森林環境学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 野間　直彦 | |
| 授業概要 | 森林環境を理解するために必要な基礎的な内容を講義する。地球上の気候・環境による各種森林タイプの分布、森林の構造・環境と維持機構、森林への人為の影響、森林に棲む生物とそれらの相互作用、など。 | |
| 到達目標 | 1）森林と環境の関係を理解するために必要な、現代の生態学・環境学の考え方の基本を身につける。<br>2）気候・環境による森林の分布、森林の構造と維持機構、森林の生物とそれらの相互作用について理解する。<br>3）森林への人為の影響について理解し、問題の解決について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験の成績 50%、日常の小テストなどの成績 25%、小課題 25% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： 特に決まったテキストは用いない。　指定図書： 寺島一郎ほか著『植物生態学』（朝倉書店）　堤利夫編著 『森林生態学』 （朝倉書店）　参考書: 授業の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水域環境影響調査指針 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 細井　祥子 | |
| 授業概要 | (1)水域生態系（主に湖沼）における物理化学構造とそこに生息する低次生産者の動態および生理活動を理解するために必要となる調査・分析方法の詳細について学ぶ。<br>(2)水域生態系、特に動植物プランクトンを含む低次生産者の動態を理解するために必要となる物理・化学・生物環境の測定方法を習得し、その理論的背景を理解する。 | |
| 到達目標 | 1)水域生態系を知るための野外調査法を理解する.<br>2)水生生物の生理機能を知るための実験方法の理論的背景を理解する.<br>3)調査・実験法を用い自ら実験を組み立てる事ができる. | |
| 成績評価 | 毎回、後半 20～30 分程度で小テストを行い、前回分の復習と当日の理解度を測る。成績は、この毎時間毎に行う小テストによる評価が 50%、期末試験による評価が 50%で総合的に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考図書：西條・三田村著『新編湖沼調査法』（講談社）<br>久保ら著『環境微生物学』（化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水域環境学・同実験 | ４単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伴　修平 ・ 浦部　美佐子 ・ 後藤　直成 ・ 細井　祥子 | |
| 授業概要 | 本実習・実験では、湖沼の物理化学環境とそこに生息する生物、特にバクテリアとプランクトンの現存量測定方法を習得し、これらの関連性について学ぶと共に、生物の生産、摂食、排出など生理的応答速度の定量方法についても学ぶ。授業では、実習調査船「はっさか」にて、実際に琵琶湖沖帯まで赴き、湖沖帯の物理化学的環境要因の測定方法を学び、動･植物プランクトンの採集方法を習得する。これとは別に、実験室において、無菌操作方法を学び、バクテリアの培養法と生菌数の定量方法を習得する。 | |
| 到達目標 | １）湖沼における、物理、化学、生物環境の野外観測方法を習得する。<br>２）水生生物の生理機能を知るための実験方法を習得し、実験結果の解析方法を理解する。<br>３）野外観測および室内実験について、目的、方法および結果が系統的に記述でき、論理的に考察できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標（１）については、実習調査船「はっさか」を使用した乗船実習に参加し、所定の課程を修めることが必要である（10%）。到達目標（２）については、実験室における所定の実験を修めることが必要である（20%）。到達目標（３）については、それぞれの実習・実験における結果をまとめたレポートにて評価を行う（70%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書は特に使用しない。<br>参考図書：西条八束・三田村緒佐武著『新編　湖沼調査法』（講談社サイエンティフィック）、A.J.ホーン・C.R.ゴールドマン著、手塚泰彦訳『陸水学』（京都大学学術出版会）、C.ブロンマーク・L.-A.ハンソン著、占部城太郎監訳『湖と池の生物学』（協立出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水域環境機能論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸尾　雅啓 | |
| 授業概要 | 水環境における化学的諸因子が、個々の生体、個体群、群集構造に与える影響について、化学的・生物化学的側面および地理的要因から講義する。 | |
| 到達目標 | １）　毒性物質が水圏生態系に与える影響について、基礎的な概念を理解する。<br>２）　物質のもつ性質による輸送経路の違い、生物の摂取・防御機構の違いを理解し、模式的環境条件下での考察を行うことができる。<br>３）　現在起こっている水域の環境問題に関する文献を調査し、原因・解決策を理解した上で、自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 各到達目標の達成を目的とした演習課題・レポート・プレゼンテーションを課す（50%）。これに定期試験の成績（50%）をあわせて評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：配布資料を用いる。参考書：環境（武田健、太田茂　編、ベーシック薬学教科書シリーズ 12、化学同人(2008)。Stumm & Morgan: Aquatic Chemistry 3rd edition,Wiley (1995)。Sigee: Freshwater Microbiology, Wiley (2004)。<br>Walker, Hopkin, Sibly & Peakall: Principles of Ecotoxicology 3rd edition, Taylor & Francis | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水域生態系保全修復論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 後藤　直成 | |
| 授業概要 | 湖沼，河川，湿地等の水域生態系の構造・機能とそれらが抱える諸問題について，生物地球化学的視点から概観した後，それら水域生態系の保全と修復のための科学的手法をいくつかの事例を交えて解説する。また，水域生態系の修復における社会的課題についても講述する. | |
| 到達目標 | (1) 水域生態系および水資源の保全と修復に必要となる基礎知識を理解し，説明することができる。<br>(2) 水域生態系および水資源の保全・修復に対して，具体的な方策を提案することができる。<br>(3) 水域生態系の保全・修復例を評価し，その内容を発表することができる. | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）と（2）については，課題レポート（20%）と定期試験（70%）で評価する。到達目標（3）については、発表および質疑応答の内容（10%）で評価する。以上を 100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時にプリントを配布する。参考書：講義時に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水域物質循環論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 細井　祥子 | |
| 授業概要 | 水域における，炭素、窒素、リンなどの生元素の存在様式とそれらの循環過程についての基礎的知識を身につけるとともに，環境問題とこれらの物質循環の関係について詳細に学ぶ. | |
| 到達目標 | (1)水域における生物を中心とした物質循環を理解する.<br>(2)環境問題が物質循環機能の劣化である事を理解する.<br>(3)物質循環機能の劣化した環境の修復について自らの意見を述べる事ができる. | |
| 成績評価 | 到達目標(1)(2)に関しては，第 1-8 回の授業で行う小テストにてより，到達目標(3)に関しては，第 9 -15 回にて行うプレゼンテーションにより成績評価を行う。評価は，小テスト 40%,プレゼンテーション 60%とし，病気等やむを得ない場合を除き，欠席した授業は 0 点として評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 配布試料 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水産資源学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　省三 | |
| 授業概要 | 水産資源、とくに淡水魚資源の特性と増養殖について学ぶ。 主な内容は、水産生物学、水産増養殖学、水産資源解析学、水産食品学など，広義の水産資源学について、身近な例をもとに概論する。水産学の入門コース。 | |
| 到達目標 | (1) 琵琶湖で減少している魚介類を列挙できる<br>(2) その減少している理由を包括的に説明できる<br>(3) 資源増殖のための現実的な方策を自ら考え提案できる<br>(4) 湖魚の食文化とその重要性を説明できる<br>(5) 水産の分野で使われているバイテクの方法と原理を説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標（1）～（5）のいずれも、ノートチェック（45%）、授業中の発言内容（5%）、および期末試験（50%）によって採点する。到達目標ごとの評価比率は均等（各 20%）とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： なし（パワーポイント、板書、動画等を用いる）<br>参考書： 松宮義晴著 『魚をとりながら増やす』 （成山堂）<br>滋賀の食事文化研究会編 『湖魚と近江のくらし』 （サンライズ出版）<br>隆島史夫編 『次世代の水産バイオテクノロジー』 （成山堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水質管理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 須戸　幹 | |
| 授業概要 | 水は「ほとんどの物質を溶かし、かつ、それ自体は変化しない」ため、環境中でさまざまな物質を移動させる。そのような物質には、生物に必要な塩類だけでなく、重金属や農薬などの化学物質も含まれる。そのため、水環境中の水質を管理するためには、流域ごとの負荷の特徴を明らかにし、総合的に管理・削減することが重要となる。この講義では、地球規模および地域の水問題、水質の指標となる項目、物質循環と水とのかかわり、流量と濃度の測定法、点源・面源からの流出負荷の特徴とそれらを処理・削減する方法、自然浄化能の活用法について解説する。 | |
| 到達目標 | （1）環境における水の特性を科学側面から説明できる。<br>（2）水質の評価方法と水質悪化の原因を説明できる。<br>（3）世界・日本･滋賀の水問題について自らの考えを述べることができる。<br>（4）点源からの汚濁負荷の特徴とその処理方法について説明できる。<br>（5）面源からの汚濁負荷の特徴とその削減方法について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示した(1)、(2)、(4)、(5)については、定期試験（70%、(1)10%、(3)20%、(4)20%、(5)20%）で評価する。(3)については課題レポート（30%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト、参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大久保　卓也 | |
| 授業概要 | 「水を制するものは世界を制する」と言われるが．水を制するための基礎学である水理学（入門編）を習得する。基礎的事項のエッセンスを解説するとともに、理解が深められるよう実験や演習をまじえて進めて行く。主な内容としては、動いている水に関する事柄（層流・乱流、常流・射流、等流・不等流、定流・不定流など）と、静止している水に関する事柄（水圧など）を取り扱う。 | |
| 到達目標 | （1）国際単位（SI)の理解　（2）層流と乱流の違いの理解<br>（3）常流と射流の違いの理解　（4）ベルヌーイの定理の理解と応用<br>（5）流量測定方法の修得　（6）浸透流の計算ができる。<br>（7）静水圧の計算ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)～(7)については、定期試験（80%：(1)10%,(2)10%,(3)10%,(4)20%,(5)10%,(6)10%,(7)10%）、(2)層流と乱流の違いの理解(3)常流と射流の違いの理解については課題レポート（20%：(2)10%,(3)10%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>欠格条件（授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：本間仁他著「水理学入門」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水利環境施設学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　勉※ | |
| 授業概要 | 生産環境・生活環境･自然環境の改善に必要な、水利施設に関する計画・調査・設計・施工及び維持・管理・改修の方法について、環境・生態系や生物多様性に配慮しながら工学的に考える。ここでは、まず、水利施設の種類と意義、水利施設構造物の安定設計、地盤・土構造物中の浸透流解析、矢板の安定設計など水利施設設計全般に関係する基礎的事項について述べる。次に、水路工、頭首工及びダム工(河川堤防や農業用ため池堤体を含む)など個々の工種について、その基本的性質、調査方法、水理設計手法、構造設計手法をわかりやすく述べる。 | |
| 到達目標 | (1) 水利施設の意義・種類・歴史について、解釈・分類・説明することができる。<br>(2) コンクリート構造物の安定設計、地盤内の浸透流解析ができる。<br>(3) 開水路工の種類・水理・構造について、分類・解釈・説明することができる。<br>(4) 頭首工について、意義・構成を解釈し、運動量方程式を用いた水理設計、浸透流問題に関する漏水量・浸透破壊・揚圧力の計算ができる。<br>(5) ダム工(河川堤防や農業用ため池堤体を含む)について、種類と分類について解釈し、調査・設計の考え方と方法を理解し、フィルダムや重力式コンクリートダムについて設計計算することができる。 | |
| 成績評価 | 出席 2/3 以上が評価対象、レポート (40 点)、学期末試験 (60 点)により成績評価を行う。60 点未満が「不可」、60～69 点が「可」、70～79 点が「良」、80～89 点以上が「優」、90 点以上が「秀」とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義のはじめに講義ノートを配布（講義の順序は年度によって変更あり）<br>指定図書：農業農村工学ハンドブック、農業土木標準用語事典（農業農村工学会）<br>参考書：青山咸康他「建設材料－地域環境の創造－」、沢田敏男他「水利施設工学Ⅰ・Ⅱ」(朝倉書店)(絶版) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政策計画演習Ⅰ | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 「問題設定の方法」では、過去の卒業論文を評価することにより、研究という様式の理解とテーマ設定について学ぶ。「研究計画の設計」では、調べて、考えて、書いて、そしてまとめる、という一連の作業でもっとも軽視されがちなこの段階をめぐり、作業目的と作業方法との関連づけを再確認する。「分析と総合化の手順」では、文献資料および基礎的データのリサーチ方法の取得、その読み込みなどを行う。「総合化と見直し」では、問題設定と結論までの直線性と幅の確保に留意する。 | |
| 到達目標 | ・卒業研究の計画設計にむけた方法論の基礎について、積極的に学び、理解する。<br>・卒業研究の計画設計にむけた準備作業に取り組む。<br>・卒業研究の計画設計について、指導教員が指定する課題に取り組み、それを完成させる。 | |
| 成績評価 | 課題への取り組み 85%、課題内容 15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書：谷岡一郎著『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政策計画演習Ⅱ | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 前期の 6 月に、学生が指導を受けたい教員を選ぶ。学生の選択にもとづき、教員 1 人あたり数名の学生でゼミを構成する。研究室単位で、学生は指導を受ける。学生自ら調査したことを文章化してゼミのなかで発表し、それに対するコメントを受け、それに反論、再考察するというプロセスの繰り返しを通じて、学生は自らの研究テーマを発掘していく。学期の後半になると、学外において現地調査を始める学生が増えてくる。最後に、卒論着手発表会で成果を、パワーポイントを用いて発表する。 | |
| 到達目標 | ・卒業研究の計画設計にむけた方法論について、配属された研究室の専門分野の知識を理解し、積極的に学ぶ。<br>・卒業研究の着手発表会にむけた準備作業に取り組む。<br>・卒業研究着手発表会で、研究計画や進捗状況を発表する。 | |
| 成績評価 | 卒論への取り組み 30%　発表形式 20%　発表内容 50%<br>内容の評価項目：①テーマの独創性、②目的達成の可能性、③研究計画の具体性、④調査の進行度（自分の調査がなされているか），発表の評価項目：①説得性（論理性）、②情報量、③スライドのわかりやすさ、④発声の明快性、時間の使い方<br>到達目標の<br>・卒業研究の計画設計にむけた方法論について、配属された研究室の専門分野の知識を理解し、積極的に学ぶ。（25%）<br>・卒業研究の着手発表会にむけた準備作業に取り組む。（25%）<br>は授業時に<br>・卒業研究着手発表会で、研究計画や進捗状況を発表する。（50%）<br>最終課題で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト・参考書：必要な参考文献は各ゼミで指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政策計画演習Ⅲ | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 研究は「問い」から始まる。それに答えることが研究に他ならない。専門的には、問いを仮説、答える行為を検証と呼んでいる。研究成果の独創性は、仮説の独創性で決まる。仮説をうまく設定して、その検証方法を示すことが研究方法の策定である。ゼミ単位で訓練を受けることにより、この作業の進め方が納得できるようになる。後半の時間で、自ら調査を進め、資料の収集、整理、解析を通じて、自分の思考を開発していく。 | |
| 到達目標 | 1)自分が関心をもつ課題について、調査計画を立てることができる。<br>2)仮説を解明していくために、調査等を通じて必要な資料を収集し、整理・分析することができる。<br>3)資料の整理、分析によって、自分がたてた仮説を検証することができる。<br>4)自分の仮説と検証のプロセスについて、人前で報告することができる。 | |
| 成績評価 | 1)自分が関心をもつ課題について、調査計画を立てることができる。15% 2)仮説を解明していくために、調査等を通じて必要な資料を収集し、整理・分析することができる。15% 3)資料の整理、分析によって、自分がたてた仮説を検証することができる。50% 4)自分の仮説と検証のプロセスについて、人前で報告することができる。20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：必要に応じて各ゼミで指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政策計画演習Ⅳ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 設定した仮説を検証するための対象・方法を選び、具体的な調査計画を立てる。また、調査によって得られた情報をどのように分析していくかについて、ゼミ単位の指導から学ぶ。これらの作業を進めることによって、自分が最初に抱いた「問い」に答えることができているだろう。それが、「結論」である。こうした、仮説から結論にいたる一連の流れを論文としてまとめあげる様式や表記方法についても学んでいく。 | |
| 到達目標 | 策定した研究計画にもとづき、調査・分析等を実施し、研究を論文としてまとめられる。 | |
| 成績評価 | 1)自分の発表に対する質問やコメントをもとに、当初の仮説を再検討することができる。10%<br>2)仮説の再検討にもとづいて、必要な資料の収集・整理・分析をすることができる。。10%<br>3)資料の整理・分析によって、修正された仮説を検証することができる。10%<br>4)仮説の設定から検証に至る研究プロセスを、論文としてまとめることができる。70% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：必要に応じて、各ゼミで指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政策計画基礎演習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 環境政策・計画分野では、社会との関わりの中で課題を発見し解決する力が求められる。本演習では、その基礎的な力として、文献をもとに自らの問題意識を明確化し、現場における調査に向けて問いを立てる力を養うことを目指す。この内容を通じて、社会とのかかわりの中にある環境政策・計画分野を体系的に把握するとともに、その調査の方法を習得し、より高度な演習や卒業研究の取り組みに向けた基礎を築く。 | |
| 到達目標 | (1) 社会の現場における環境政策・計画分野の課題を把握し、問題を設定できるようになる。<br>(2) 環境政策・計画分野の課題に関する文献にアクセスすることができるようになる。<br>(3) 文献調査をし、レポートとしてまとめることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 文献調査の経過報告（60%）と最終レポート（40%）により評価する。<br>到達目標の(1)については経過報告（20%）により、(2)については経過報告（40%）により、(3)については最終レポート（40%）により、それぞれ評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 資料を配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政策計画基礎演習Ⅱ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 本演習の目的は、卒業研究につながる問題関心を現場から発掘し、育てることである。具体的な作業としては、環境問題にかかわる 2 名以上の方（学外の方）にインタビュー調査を実施する。その上で、調査内容についてレポートとしてまとめ、またプレゼンテーションにより説明する。さらに、一連のプロセスにおいて、社会調査により卒業研究を実施するために必要な基礎知識を身につける。次年度の研究室配属に向けて、卒業研究につながる関心の種を各自で発掘・把握し、言語化できるようになることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1) 卒業研究につながる問題関心を発掘できるようになる。<br>(2) 学外の方 2 名以上にアポイントを取り、インタビューできるようになる。<br>(3) インタビュー内容をレポートとしてまとめられるようになる。<br>(4) インタビュー内容をプレゼンテーションにより説明できるようになる。 | |
| 成績評価 | インタビュー調査の経過報告（50%）、レポート（30%）および、報告会でのプレゼンテーションと議論（20%）により評価する。<br>到達目標の(1)と(2)については調査の経過報告（(1)20%、(2)30%）により、(3)についてはレポート（30%）により、(4)についてはプレゼンテーションと議論（20%）により、それぞれ評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：必要に応じて各ゼミで指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政策形成・施設演習 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 学生が自分の進路を定めてそれを達成するために大学時代に何をなすべきか？　この命題への答えを見つけること、すなわち「自分の発見」が、この授業のねらいです。当学科の教員が１週ないし２週の演習を受け持ち、その中で教員の専門分野の最先端を講義・ディスカッションあるいは現場ツアーを通じて学生にやさしく伝達します。学生は各演習に出席した後、あらかじめ指示された課題に関するレポートを１週間以内に提出する。このような作業の繰り返しを通じて次第にアイデンティティが形成されます。 | |
| 到達目標 | 学生は自分の進路を定め、それに必要とされる能力を身につける方法を見出す。具体的には、<br>(1)環境政策の現場に触れ、また環境関連の職業従事者の話を聞き、その実際を理解できる、<br>(2)環境問題とその解決方法について考え、それをレポートにまとめる能力を高める、<br>(3)自身の進路について考え始める。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(3)それぞれについて、第 1～14 回 : 各回 5 点満点（5 点満点×14 回＝70 点満点）、学外現場演習レポート・報告 : 10＋10＝20 点満点、最終レポート A・B : 5 点×2＝10 点満点で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特になし（資料配付） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政治学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹本　知行※ | |
| 授業概要 | 政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。人間の社会が存続する限り，「政治」なるものは消えることはない。では，我々が付き合わざるを得ない「政治」とはどのようなものなのか，そして，我々はそれにどう向き合っていけばよいのだろうか。本講義では，テキストを中心に以上の問題について考察を進めつつ，適宜，指定した参考文献なども用いて，先人が政治とその諸テーマについてどのように考えてきたのかについての理解も深める。 | |
| 到達目標 | 現実の政治的問題について、自分なりの見解をもてるようになること。 | |
| 成績評価 | 学期末筆記試験 100％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：等松春夫・竹本知行編著『ファンダメンタル政治学』（北樹出版、2010 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政治学Ⅱ（国際政治を含む） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹本　知行※ | |
| 授業概要 | 国際政治学についての基礎知識を得ることで国際政治を見る「目」を養う。国内政治とは異なる国際政治の特徴とは何か。動的視点から国際政治の変容段階を概観し，現代の国際社会を分析し，日本の国家的課題とは何かを考える。 | |
| 到達目標 | 国際政治の諸問題と日本の課題について、自分なりの見解をもてるようになること。 | |
| 成績評価 | 学期末筆記試験 100％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：等松春夫・竹本知行編著『ファンダメンタル政治学』（北樹出版、2010 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生物資源管理学演習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 教員が指導するゼミに参加し，卒業研究に関連する国内外の新しい知見や情報を収集・整理して紹介するとともに，卒業研究の計画，進捗状況などを報告し，それらに関する討議を行う。また，発表用資料の作成を通じて，論文作成能力とプレゼンテーションの能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1) 卒業研究の実施のための背景を理解する。<br>(2) 卒業研究に必要な論文読解力および論文作成能力を修得する。<br>(3) 卒業研究に関するプレゼンテーション能力およびディスカッション能力を修得する。 | |
| 成績評価 | 到達目標 1～3 の評価手段は、卒業研究ⅠおよびⅡにおけるパーフォーマンス評価によって行う。評価比率は、到達目標 1 を 20%、2 と 3 をそれぞれ 40%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト、指定図書、参考書：所属するゼミごとに配付される。 | |
| 履修資格 | ４回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 生物資源管理学演習Ⅱ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 教員が指導するゼミに参加し，卒業研究に関連する国内外の新しい知見や情報を収集・整理して紹介するとともに，卒業研究の計画，進捗状況などを報告し，それらに関する討議を行う。また，発表用資料の作成を通じて，論文作成能力とプレゼンテーションの能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1) 卒業研究の実施のための背景を理解する。<br>(2) 卒業研究に必要な論文読解力および論文作成能力を修得する。<br>(3) 卒業研究に関するプレゼンテーション能力およびディスカッション能力を修得する。 | |
| 成績評価 | 到達目標 1～3 の評価手段は、卒業研究ⅠおよびⅡにおけるパーフォーマンス評価によって行う。評価比率は、到達目標 1 を 20%、2 と 3 をそれぞれ 40%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト、指定図書、参考書：所属するゼミごとに配付される。 | |
| 履修資格 | ４回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 生物資源管理学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 生物資源管理学とは、生物資源管理に関連する多くの学問分野を統合する名称である。本科目は生物生産、生物機能の利用、地域環境管理等の視点から生物資源管理学をとらえ、学ぶための導入部と位置づけられる。多数の生物資源管理学科教員が担当し、各分野の概要、現状、先端的なトピックス等を紹介する。 | |
| 到達目標 | （1）生物資源に関する各分野の基礎知識を体系的に修得する。<br>（2）生物資源を適切に管理するための具体的、現実的および包括的方略を構想できる。<br>（3）上記の内容を客観的・論理的文章として表現できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標 1 と 2 を各 25%、3 を 50%の評価比率とし、評価手段はいずれも各回に提出されるレポートをもとに行う。なお、講義を欠席した者は原則としてその回のレポートは（提出されても）0 点とする。講義には出席したが、レポートを提出しなかった場合も 0 点とする。各回 100 点満点で採点し、全 15 回の平均点が 60 点以上の者を合格とし、本学の成績評価基準に従って秀～可の成績を与える。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅰ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 泉　泰弘 ・ 畑　直樹 ・ 上町　達也 ・ 原田　英美子 | |
| 授業概要 | 室内または圃場における実験を通して栽培植物の栽培に関する研究遂行に必要な実験計画法、栽培方法、観察、測定、記録ならびにデータ解析法といった基礎技術を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）植物栽培に関する実践的な知識を身に付けることができる<br>（2）実験手順にもとづいて実験を遂行できるようになる<br>（3）植物の成長を定量的に把握するための技術を習得する<br>（4）実験結果を客観的記述によるレポートにまとめることができる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）から（3）については授業態度や実験の達成度によって評価する（各 20%、計 60%）。<br>（4）については課題レポート(40%) で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験手順に関するプリントを毎回配布する。<br>指定図書：なし参考書：必要に応じて授業の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | ３回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅹ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大久保　卓也 ・ 岩間　憲治 | |
| 授業概要 | 本学環境科学部周辺に基準点を設け、これらの相対的な位置関係をトータルステーションを用いて精確に定める(基準点測量)。同時に、距離測量、角測量および水準測量の個別的な実習を行うとともに、各測量における誤差の処理方法も習得する。次に、基準点を結ぶ測線を基準とした周辺の地物の相対的な位置関係を平板測量を用いて平板上に図化する方法(細部測量)を実習する。最後に、基準点測量と細部測量の結果を総合して測量図が作成されることを学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)距離、角度、高低差の測量技術を修得する。<br>(2)多角測量による基準点測量方法を修得する。<br>(3)多角測量と水準測量における誤差の処理方法を修得する。<br>(4)トータルステーションを用いた細部測量の方法を修得する。 | |
| 成績評価 | 授業に出席すること(4/5 以上)が大前提となる。到達目標(1)(2)(3)(4)については、レポート報告(100%:(1)25%,(2)25%,(3)25%,(4)25%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：<br>参考書：森忠次「測量学１　基礎編」(丸善)、大嶋太市「測量学　基礎編」(共立出版) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習ⅩⅠ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 増田　佳昭 ・ 増田　清敬 | |
| 授業概要 | 本授業では、第一に、表計算ソフトでのデータ処理方法を学習する。第二に、農業、食料、資源、環境などをテーマとしたアンケートを自ら設計し、データ処理を行い、分析結果を取りまとめて発表する。以上の過程で、テーマ設定、データ収集・処理、レポート作成、発表の方法について学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）表計算ソフトを用いたデータ処理ができる。<br>（2）自ら設計したアンケートの調査結果を整理し、口頭発表できる。<br>（3）アンケート調査結果を取りまとめてレポートを作成できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）については小レポート（50%）、（2）については，プレゼンテーション（25%）、（3）については最終レポート（25%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 資料を配布する。参考書は適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上町　達也 ・ 清水　顕史 ・ 原田　英美子 | |
| 授業概要 | 主に農作物を対象にしたいくつかの実験と調査を行い、遺伝分析、生化学的解析、形態学的解析の手法を習得するとともに、実験データを評価し、考察して、レポートにまとめる能力を養う。また、実験材料の調整やスクリーニングなどを行う上で必要となる、水耕栽培や組織培養の基礎技術を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)遺伝分析の基本的な方法を身につける。<br>(2)植物組織培養の技術を身につける。<br>(3)顕微鏡および HPLC の仕組みと操作技術を習得する。<br>(4)水耕栽培の方法を身につける。<br>(5)実験データを評価し、まとめる能力を養う。 | |
| 成績評価 | 各実験で課すレポートにより評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：テキストは用いない。毎回、資料を配付する。<br>参考書：必要に応じて紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　省三 ・ 平山　琢二 | |
| 授業概要 | 鶏の解剖、反すう胃内微生物の働き、飼料貯蔵法などの家畜資源の管理と生産物に関する基礎実験を行い、家畜の飼育管理、実験計画法、顕微鏡観察、化学的測定法など研究に必要な基礎技術を習得する。 魚類の解剖、外部・内部形態の観察、麻酔法、採血法、血液（血球）の観察と同定、内部器官（腎、肝、腸、胃、鰓など）の組織切片標本の作成、基本的な染色技術，各細胞の形態観察と同定、実験方法、論文の書き方などを習得する。 | |
| 到達目標 | (1)動物の体と組織の構造および機能について説明できる。<br>(2)動物実験の基礎技術を習得している。 | |
| 成績評価 | 到達目標（1）（2）ともに、担当教員の指定する実験レポートをもとに採点し、評価比率は各50％とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配布する。<br>参考書：佐野豊 著 『組織学研究法』（南山堂）。<br>Young B, Heath JW 著, 山田英智ほか訳 『機能を中心とした図説組織学』(医学書院)<br>岩井保 著 『魚学入門』（恒星社厚生閣） | |
| 履修資格 | ２回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 泉津　弘佑 ・ 入江　俊一 | |
| 授業概要 | 無菌操作、微生物の分離、顕微鏡観察などの基本技術に習熟し、微生物を取り扱う基礎的な実験技術を習得する。さらに、菌類の性質解析手法やバイオマス変換への応用技術について学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）無菌操作、微生物の分離、顕微鏡観察などの基本技術を習得する。<br>（2）組換え微生物を取り扱う実験技術を習得する。<br>（3）菌類の性質について理解を深める。<br>（4）リグノセルロースのバイオマス変換技術について理解を深める。 | |
| 成績評価 | 実験態度(50%)と実験に課すレポート(50%)により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | ３回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅴ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　省三 ・ 入江　俊一 ・ 清水　顕史 | |
| 授業概要 | 遺伝子工学的技術はバイオサイエンスの基礎であるばかりではなく、食品、医療、化学工業、あるいは親子鑑定や犯罪捜査など、多方面で利用されている身近な技術である。本実験では、遺伝子発現量測定、大腸菌による発現遺伝子断片のクローン化、パソコンを用いた遺伝子情報処理･解析などを通して遺伝子工学的実験手法の基礎を身につけることを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1) 遺伝子工学実験に共通する基本技術を習得している。<br>(2) 実験操作に関する基本原理を理解し説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標（1）については、実習状況により評価する。到達目標（2）については、小試験（3回程度）およびレポート（3-6 回程度）をもとに評価する。評価比率は担当教員によって異なる。担当教員3名の平均点を以て、最終成績とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業の中でプリントを配付する。<br>参考書：「バイオ実験イラストレイテッド①-③」（秀潤社） | |
| 履修資格 | 3回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　一実 ・ 高倉　耕一 | |
| 授業概要 | 微生物（菌類、細菌）および植物ウイルスについての理解を深める。無菌操作、微生物の分離、顕微鏡操作などの基本技術に習熟し、微生物および植物ウイルスを取り扱う様々な実験技術を習得する（鈴木）。昆虫及び小動物の保全・管理に関する基本的な実験技術や研究手法を修得する。実験室、実験圃場及び自然条件下での昆虫・小動物を対象として、飼育実験、野外調査及びそれらのデータ解析等について実習を行う（高倉）。 | |
| 到達目標 | （1）無菌操作、微生物の分離、顕微鏡観察などの基本技術を習得することができる。<br>（2）微生物および植物ウイルスを取り扱う実験技術を習得することができる。<br>（3）個体数推定法や生命表分析など個体群生態学の調査手法の基礎を習得する。<br>（4）野外研究における調査手法およびデータ解析手法を理解し、それに基づいた調査計画を立案できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）～（4）についてレポートで評価する。評価基準はそれぞれ 25%とする。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。なお、授業時間数の3分の1以上欠席したものは評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配布する。<br>参考書：必要に応じ、授業で紹介する。 | |
| 履修資格 | 3回生以上を対象とする。 | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 須戸　幹 ・ 飯村　康夫 | |
| 授業概要 | ①水質汚濁物質の濃度と負荷量の定量法、②食品残留化学物質の定量法および③土壌の化学的性質の分析法を修得する。①について、実習船「はつさか号」で採水した琵琶湖水や河川水などを対象として試料水の水質（SS、BOD、COD、T-N、T-P）を測定する。また、河川で流量観測を行い、負荷量を算出する。②について、かんきつ類に残留する防かび剤の定量を行う。③について、土壌を採取し、水分、有機物、土壌の化学的性質（EC、pH、CEC、交換性陽イオン等）の測定法を修得する | |
| 到達目標 | 1)水試料、土壌試料のサンプリングと水試料、土壌試料の前処理、抽出作業ができる。<br>2)水質汚濁、食品残留化学物質および土壌肥沃度の一般的な分析方法と原理を述べることができる。<br>3)比色法による定量ができる。<br>4)滴定法による定量ができる。<br>5)ガスクロマトグラフィおよび原子吸光度計による定量ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す 1)～5)のそれぞれについて、実験後のレポートで評価する。各項目の比率は20%とし、100 点満点で評価する。60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験時にプリントを配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生物資源管理学実験・実習Ⅸ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大久保　卓也 ・ 岩間　憲治 ・ 皆川　明子 | |
| 授業概要 | 自然環境の基盤である土壌および地表面付近の大気の性質や、その空間に存在する水やエネルギーなどの物質の挙動について理解するため、土壌調査から気象観測、様々な実験、(パソコンによる)データ解析を行います。そこで学んだ技術・知識は植物や動物が棲息する環境を評価するためにとても有用であり、3 回生以降の実験・実習の基礎となります。 | |
| 到達目標 | 以下の項目を理解し、実験・分析により定量的に評価できるようになります。<br>(1)土壌調査(サンプリング)技術、<br>(2)土壌の物理的性質、<br>(3)土壌内部の水分の挙動、<br>(4)地表面上の(水分などの)物質循環、エネルギー循環、<br>(5)様々な計測機器により得られたデータから物質･エネルギー循環を定量的に評価するための計算手法 | |
| 成績評価 | 授業に出席すること(4/5 以上)が大前提となる。レポート 100%で判定する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：社団法人　地盤工学会編：「土質試験　基本と手引き」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生物統計学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 泉津　弘佑 | |
| 授業概要 | 実験や調査によって得られるデータは、ごく一部を抜粋した標本にすぎない。苦労して得たデータを有効に活用し数字に潜む科学的真実を明らかにするためには、標本データの背景にある集団（母集団）を推測し、標本データを通じて母集団間の比較をしなければならない。本講義では、このような標本と母集団の関係に基づく、統計学的検定の方法とその仕組みについて学ぶ。<br>統計学は、数学を基礎にした応用学問です。実験実習やフィールドワーク、卒業研究などで得られたデータを自力で解析するために習得が望まれます。 | |
| 到達目標 | (1)統計量などの統計学の基本用語を正しく理解し、計算できる。<br>(2)t 検定などの仮説検定を正確に行うことができる。<br>(3)実際のデータについて、適切な検定方法を選択し、自力で解析できるようになる。<br>(4)統計的な検定の限界を理解し、説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)から(3)については、定期試験（80%：(1)20%,(2)40%,(3)20%）、(4)については課題レポート（20%）で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 西洋建築・思潮史 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 迫田　正美 | |
| 授業概要 | ヨーロッパを中心とした建築の歴史を、現代建築へとつながるデザインの源泉として、どのように理解し評価するのか、その視座の獲得を目標に据える。したがって、各時代の様式や個々の作品の知識だけでなく、その創作の背景となる世界観や各時代の芸術表現あるいは建築理論や芸術論なども併せて講述する。 | |
| 到達目標 | (1)古代ギリシアから２０世紀初頭までの芸術及び建築デザインの変遷について説明することができる。<br>(2)各時代・地域の芸術論の基礎的な知識について説明することができる。<br>(3)個々の芸術作品及び建築作品について、その特徴について述べることができる。<br>(4)各回の講義のテーマに関連した事項について説明または自分の意見を述べることができる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)(3)期末筆記試験（７０％）<br>(4)各回の小レポート（３０％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『ヨーロッパ建築史』西田雅嗣編、昭和堂<br>『西洋建築史図集』日本建築学会編、彰国社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 設計演習Ⅰ | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | イメージ表現、設計基礎演習などの既往演習を基礎にして、より本格的、建築的な課題で進めていく。前半課題では、人間的な尺度、そして認知、行動、更には生活と空間との関係を念頭において設計することを課題とする。後半課題では、様々な目的で生まれる複数の動線の処理、広がりを持つ場所で既存のコンテクストへの対応を踏まえた課題を出す。この目的で、設計建築物としては、木造戸建住宅（構造計画も含める）、小規模施設などとする。 | |
| 到達目標 | (1)80 ㎡程度の小住宅と、60 ㎡程度の店舗空間を複合的に捉え設計できること。<br>(2)200 ㎡程度の木造低層公民館を設計することができること。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す各項目について、(1)を前半課題の作品の内容（50%）で、(2)を後半課題の作品の内容（50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>なお、各回行われるグループエスキスの出席点を 30%、課題の合計点を 70%として評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：「コンパクト建築設計資料集成」（丸善）；「初めての建築設計」（学芸出版社）；その他の必要資料はプリントとして配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 設計演習Ⅱ | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | コンセプチュアルな思考から、実践的な設計行為につながる設計過程を習得することを目標に、中規模建築を様々な工法で設計する方法を学ぶ。具体的には前後半で２つの中規模建築の設計課題に取り組む。前半課題では、構造デザインの基本の習得を主眼として、比較的大スパンの建築物の設計課題を行う。後半課題では中規模の集合住宅を設計対象とし、家族や地域社会のあり方に対する新しい提案を行う。 | |
| 到達目標 | (1)30m 以上のスパンを有する空間構造を設計することができること。<br>(2)中規模の集合住宅を設計することができること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す各項目について、(1)を前半課題の作品の内容（50%）で、(2)を後半課題の作品の内容（50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>なお、エスキスチェックは必ず受けること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 設計演習Ⅲ | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 環境建築デザイン学科の演習授業の総括として、より高度な計画・デザイン手法を身につけることを主眼とし、大規模な複合施設の設計課題に取り組み、都市計画的・景観計画的な分析能力を養い、提案する建築を社会や環境に関連づけて機能させる総合提案力を習得することを目標とする。 | |
| 到達目標 | 大規模の建築を、敷地計画も含めて総合的に計画・デザインできるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標について、前半課題の成果（50%）と後半課題の成果（50%）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 設計基礎演習 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 迫田　正美　・村上　修一　・轟　慎一 | |
| 授業概要 | 建築設計、ランドスケープデザインの基礎を学ぶとともに、図面表現、模型作成などの技術の習得とコンセプトワーク、空間デザインの基礎を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)空間スケールと敷地のコンテクストを把握することができる。<br>(2)作品製作過程のエスキス（イメージスケッチ、スタディ模型、コンセプトワーク等）を適切に行う能力を身につける。<br>(3)図面の読解と設計製図の基礎的な手法を身につける。<br>(4)構想した作品を図面と模型等によって適切に表現する能力を身につける。 | |
| 成績評価 | (1)(2)(3)各サブ課題の提出（４０％）<br>(4)設計課題の提出とプレゼンテーション（６０％）<br>各回の相互講評、テーブルクリティクを受けていることを前提とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書：「コンパクト建築設計資料集成」丸善、<br>「初めての建築製図」学芸出版、<br>「ベーシックスタディランドスケープデザイン」昭和堂、<br>ほか適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 専門外書講読Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 英語の学術専門書の読解力を高めるため、英語で書かれた学術専門書を輪読する。必要に応じて専門用語や関連事項を解説する。 | |
| 到達目標 | (1) 専門分野にかかわる英語の論文や専門書を読むことで、卒業研究に必要な専門英語の読解力を身につける。 | |
| 成績評価 | 評価手段は、予習状況（授業中の発言内容、質疑応答、小テスト等）、レポート課題、宿題等による。学期末試験を行う場合もある。評価比率は、担当教員によって異なる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に配布もしくは指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 専門外書講読Ⅱ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 英語の学術専門書の読解力を高めるため、英語で書かれた学術専門書を輪読する。必要に応じて専門用語や関連事項を解説する。 | |
| 到達目標 | (1) 専門分野にかかわる英語の論文や専門書を読むことで、卒業研究に必要な専門英語の読解力を身につける。 | |
| 成績評価 | 評価手段は、予習状況（授業中の発言内容、質疑応答、小テスト等）、レポート課題、宿題等による。学期末試験を行う場合もある。評価比率は、担当教員によって異なる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に配布もしくは指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 測量学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小谷　廣通※ | |
| 授業概要 | 地表面上にある地物の空間的な位置関係を定めるために、その基礎的な技術の理論を学ぶ。主として、新しい測量方式である光波測距儀とトータルステーションの利用を前提とした基準点測量と、地形測量（細部測量）としての平板測量について理解する。また、土地の面積と体積を求める方法も学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)距離、角度および水準測量の方法と各々の誤差の処理方法が理解できる。<br>(2)基準点測量としての多角測量の方法と誤差の処理方法が理解できる。<br>(3)測量士補の国家試験の合格者に匹敵する実力を持つこと。あるいは、国家・地方公務員試験の測量問題に対応できるようになること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)(2)(3)については、定期試験(50%:(1)15%,(2)15%,(3)20%),課題レポート(50%:(1)15%,(2)15%,(3)20%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：森忠次「測量学Ⅰ　基礎編」（丸善）<br>参考書：大嶋太市「測量学　基礎編」（共立出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ（環境生態） | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 教員の指導のもとに研究課題を設定し，野外調査・実験・資料解析などを行い，それらを取りまとめて卒業論文を制作するとともに，その成果を発表する。 | |
| 到達目標 | １）研究課題を設定し、野外調査・実験・試料解析などを行う。<br>２）研究の成果を取りまとめて、卒業論文を制作するとともにプレゼンテーションを行う。 | |
| 成績評価 | 前期の間での卒業研究への取り組み方をみて評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | 環境生態学科が定める「卒業研究等履修要件」を満たしていること。 | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ（環境生態） | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 教員の指導のもとに研究課題を設定し，野外調査・実験・資料解析などを行い，それらを取りまとめて卒業論文を制作するとともに，その成果を発表する。 | |
| 到達目標 | １）研究課題を設定し、野外調査・実験・試料解析などを行う。<br>２）研究の成果を取りまとめて、卒業論文を制作するとともにプレゼンテーションを行う。 | |
| 成績評価 | 最終試験結果に基づいて評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指導教員の指示に従う。 | |
| 履修資格 | 環境生態学科が定める「卒業研究等履修要件」を満たしていること。 | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ（環境政策・計画） | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業論文作成に指導教員の指導をうけつつ挑んでいく。卒業論文の評価は、①オリジナリティ（新規性・独創性）、②有用性（利用できるか）、③論理性（論理が整然としているか）、④完結性（論文として完成しているか）できまる。分析方法として多変量解析や GIS などを習得する。 | |
| 到達目標 | 第１の目標は、学生が人生のある時期を環境政策・計画学科で四年間過した証＝人類の知に新たな知を追加したこと、を作ることである。第２に、学ぶとはどういうことなのか、学びの楽しさとは何か、を知ることである。 | |
| 成績評価 | 卒業論文評価　100% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：<br>参考書：必要に応じて、各ゼミで指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ（環境政策・計画） | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業論文作成に指導教員の指導をうけつつ挑んでいく。卒業論文の評価は、①オリジナリティ（新規性・独創性）、②有用性（利用できるか）、③論理性（論理が整然としているか）、④完結性（論文として完成しているか）できまる。分析方法として多変量解析や GIS などを習得する。 | |
| 到達目標 | 第１の目標は、学生が人生のある時期を環境政策・計画学科で四年間過した証＝人類の知に新たな知を追加したこと、を作ることである。第２に、学ぶとはどういうことなのか、学びの楽しさとは何か、を知ることである。 | |
| 成績評価 | 卒業論文評価　100% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書：必要に応じて、各ゼミで指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン） | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 3 年次後期の「環境・建築デザイン演習」の延長上にあり、4 年次前期の必修で、卒業に不可欠の科目である。後期に卒業制作を行う者は、この科目で論文としてまとめる必要がある。 | |
| 到達目標 | （1）学術的・社会的に有意義なテーマと目的を設定することができる<br>（2）目的に照らして適切な方法を用いて考察することができる<br>（3）客観的・実証的に論理を組み立てることができる<br>（4）成果について的確かつ独創的に表現することができる | |
| 成績評価 | （1）～（4）研究成果（報告書・論文）または通年論文における経過報告について発表会でのプレゼンテーションと質疑応答により、学科教員の合議により評価する。(100%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： | |
| 履修資格 | 環境建築デザイン学科が定める「卒業研究履修要件」を満たしていること。 | |

| 科目名 | 卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン） | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 4 年次前期の「卒業研究・卒業制作Ⅰ」の延長上にあり、4 年次後期の必修で、卒業に不可欠の科目である。ここでは、卒業研究を引き続き実施する者と、卒業制作を行う者に分かれる。 | |
| 到達目標 | （1）学術的・社会的に有意義なテーマと目的を設定することができる<br>（2）目的に照らして適切な方法を用いて考察することができる<br>（3）客観的・実証的に論理を組み立てることができる<br>（4）成果について的確かつ独創的に表現することができる | |
| 成績評価 | （1）～（4）研究成果（論文・制作）および発表会でのプレゼンテーションと質疑応答により、学科教員の合議により判定する。(100%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： | |
| 履修資格 | 環境建築デザイン学科が定める「卒業研究履修要件」を満たしていること。 | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ（生物資源） | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱを通じて，生物資源管理に関する研究テーマを設定し，研究計画を策定する。それに基づいて実験，野外調査，資料調査など研究を実施し，その成果を卒業論文として取りまとめるとともに，卒業研究発表会において発表する。 | |
| 到達目標 | (1) 新規性・学術性・社会性を有する研究計画を立てることができる。<br>(2) 適切な研究方法を用いて、研究を主体的、能動的、持続的に遂行できる。<br>(3) 得られたデータを適切な統計的手法を用いて客観的に分析・評価できる。<br>(4) 卒業研究レベルの専門知識、専門技術および科学的思考能力を修得する。<br>(5) 環境倫理、生命倫理等にかかわる法令を遵守し、不正な実験操作、データ改ざん、代筆、剽窃等を蔑み拒絶する倫理観を修得する。<br>(6) 関連する内外の先行研究を俯瞰し、自らの研究成果とその意義を明確な文章や図表で論理的に表現できる（論文作成能力）。<br>(7) 研究成果を分かりやすく口頭発表し、質疑に対して自らの高度な専門性を駆使して的確に応答（ディフェンス）できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標１～５の評価手段は、主指導および副指導教員から構成される卒業研究コミッティーの審査によって行い、評価比率は全体の 25%（各到達目標 5%）とする。到達目標 6 は、指定する期限までに提出された卒業論文の審査（主指導、副指導および学科教員全員の合議）を以て評価し、評価比率は全体の 50%とする。到達目標 7 の評価は、学科の指定する卒業研究発表会において学科教員全員によって行い、評価比率は全体の 25%とする。合計得点が 60 点以上の者を「合」と判定する。<br>なお、卒業研究Ⅰについては、到達目標 1～5 をもとに評価し、評価比率は各 20%とする。 卒業研究 II においては、倫理規範（到達目標 5）、卒業論文の提出（到達目標 6）および卒業研究の発表（到達目標 7）を必須要件とし、これらを満たさない者は、上記の成績評価基準の適用を受けずに不可となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜指示する。 | |
| 履修資格 | 『履修の手引』の「卒業研究等履修要件」を参照のこと。 | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ（生物資源） | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 「卒業研究Ⅰ」に同じ。 | |
| 到達目標 | 「卒業研究Ⅰ」に同じ。 | |
| 成績評価 | 「卒業研究Ⅰ」に同じ。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「卒業研究Ⅰ」に同じ。 | |
| 履修資格 | 『履修の手引』の「卒業研究等履修要件」を参照のこと。 | |

| 科目名 | 大気環境学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 永淵　修 | |
| 授業概要 | 地球は太陽からの放射エネルギーを受け取るが、地球上の位置により、その大きさは異なりことからアンバランスを生じている。このアンバランスを解消するために大気は大規模な循環をしている。大気環境問題の多くは、この大気の循環によって広域に拡散されることで特徴づけられる。本講義では大気循環のメカニズムと物質循環の仕組みを修得し、現在問題になっている地球環境問題への理解を深める。 | |
| 到達目標 | 地球環境問題のメカニズムを理解し、大気環境の保全の重要性を理解する。 | |
| 成績評価 | 毎回の小テスト、レポートおよび期末試験により総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし参考図書：大気環境学（岩坂泰信）岩波書店 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域開発論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 平山　奈央子 | |
| 授業概要 | 地域が抱える問題が深刻化し，看過できなくなった段階において公共部門による地域政策が生み出される．この地域政策に沿って実施されるのが「地域開発」である．<br>本講義では，地域開発に関する概論を踏まえた上で，日本の地域開発の展開について学ぶ．さらに，具体的な地域開発の事例について，地域を構成する場所や人の変化に着目し，その時代に着目されていた課題の整理とそれに対して地域政策が何を実施し，その結果どのような功罪があったのか，という地域開発ストーリーを紐解く．特に今後の地域開発のあり方を考察するにために，地域のガバナンスの在り方やソーシャルキャピタルの形成についても学ぶ． | |
| 到達目標 | 1. 地域開発の理論と歴史について理解できる<br>2. 地域開発政策の実態とその功罪を理解できる<br>3. 今後の地域開発のあり方について考察できる | |
| 成績評価 | 小レポート 60%，最終レポート 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 毎回の授業内容に合わせて資料を配布する． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域環境計画 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 轟　慎一 | |
| 授業概要 | 都市計画・地域計画の分野における、都市・集落の生活空間・地域環境の構造と、その調査論・計画論・まちづくりについて論じる。都市・集落をいかに捉えるか、どうやって地域・環境にアプローチするか。都市計画・建築設計・環境デザイン・まちづくり・都市政策では、地域の社会的・空間的特質の把握と、地域像のパースペクティブが不可欠である。本講は、研究技法の系統的理解にとどまらず、地域にかかる基本的な概念体系をふまえ、地域そのものの構造的理解をめざす。都市システム、地域環境、景観、地域空間、居住、コミュニティ、生活空間等の観点から、実践的な調査の視点や具体的な現場の視点をまじえ論考する。本講は、設計演習・環境フィールドワーク等における、対象の構造的把握においても論理的・技術的有用性がある。 | |
| 到達目標 | (1) 都市システム・地域環境・地域生活空間の基本を理解し、説明することができる。<br>(2) 都市・集落調査の基本を理解し、実践することができる。<br>(3) 都市問題・まちづくり・計画論の基本を理解し、説明することができる。 | |
| 成績評価 | (1) (3) 小論文 (25%)、期末試験 (35%)<br>(2) 研究レポート (40%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域環境政策論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 香川　雄一 | |
| 授業概要 | 環境問題は時代と地域によってさまざまな発生パターンをとる。したがって環境政策も具体的な問題に応じて実施されてきた。本授業ではとくに地域による環境政策の違いをいくつかの具体例を紹介しながら説明していく。また環境政策の効果と課題を時代の変遷から眺めていく。具体例では国内外の代表的な事例と身近な地域の事例を取り上げることにした。環境政策の理論と環境計画の現実を実際の経験から学んでもらいたい。 | |
| 到達目標 | ・環境問題が発生した地域の概要を説明をすることができる。・日本における環境問題の歴史的発生パターンを理解ことができる。・地域における環境政策の成果と課題について検討することができる。・対象地域を設定して、環境問題の原因・発生過程・対策・課題を批判的に論述することができる。 | |
| 成績評価 | 平常点＝小レポート（50%）および（予告プレゼンテーションを含む）学期末レポート（50%）によって評価する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：礒野弥生・除本理史編（2006）『地域と環境政策』勁草書房 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域再生システム論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鵜飼　修 ・ 上田　洋平 ・ 轟　慎一 | |
| 授業概要 | 地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。地域再生提案作成の前提となる地域の現状把握・課題抽出の手法、具体的な地域再生の事例を学んだ上で、地域の関係者の協力を得ながらチームに分かれてフィールドワークを実施し、地域課題の発見とその解決策の提案に取組む。 | |
| 到達目標 | (1) 様々な地域再生事業の概要及び実施手法について理解し説明できる。<br>(2) フィールドワークやワークショップによって地域の現状と課題について的確に把握し整理することができる。<br>(3) 地域課題・地域再生に資する事業を企画し提案することができる | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）については中間レポート（30%）により、(2)（3）については最終レポート（50%）及びプレゼンテーション（20%）により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：近江環人地域再生学座編「地域再生　滋賀の挑戦　エコな暮らし・コミュニティ再生・人材育成」新評論、近江環人地域再生学座編「地域診断法　鳥の目、虫の目、科学の目」新評論、近江楽座学生委員会編著「近江楽座のススメ－学生力で地域が変わる」（株）ラトルズ。その他必要に応じて資料を配布する。参考図書については授業内で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域産学連携実習Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 自治体、民間の設計事務所等やシンクタンク等で研修を行い、実社会で環境・建築デザイン専門分野の活動がどのように行われているか体験学習することを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1)専門家としての職能像を明確に持つとともに、実践現場において必要とされる作法や技術のあり方を理解できる。 | |
| 成績評価 | 体験学習した内容をレポート等にまとめ、その内容により評価する（100%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト；特に指定しない | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域産学連携実習Ⅱ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 自治体、民間の設計事務所等やシンクタンク等で研修を行い、実社会で環境・建築デザイン専門分野の活動がどのように行われているか体験学習することを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1)専門家としての職能像を明確に持つとともに、実践現場において必要とされる作法や技術のあり方を理解できる。 | |
| 成績評価 | (1)体験学習した内容をレポート等にまとめ、その内容により評価する。(100%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト；特に指定しない | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域資源管理学 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 増田　清敬 | |
| 授業概要 | 農村地域における生活と産業の持続可能な発展を考える上で、地域資源をいかに管理し活用するかはきわめて重要である。農林業の衰退の中で、農地や水路、森林などの管理は大きな問題になっている。また、都市と農村の交流が盛んになる中で、農村景観や特産物は農村活性化の大きな手段となる。本授業では、農村地域における地域資源の管理及び活用について、理論と具体的施策、その評価手法を論じる。 | |
| 到達目標 | （1）地域資源の種類と特性について説明できる。<br>（2）地域資源管理政策の背景となる経済理論について説明できる。<br>（3）地域資源評価手法を用いた基礎的な計算ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）地域資源の種類と特性について説明できる，（2）地域資源管理政策の背景となる経済理論について説明できる，については，中間試験（50%，（1）35%，（2）15%），（3）地域資源評価手法を用いた基礎的な計算ができる，については，定期試験（50%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>参考書：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域システム論 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 生態学では、生活する主体にたいして、それと機能的連関をもつ事物を、一般に環境とよんでいる。さらに、両者は別個に存在するのではなく、ひとつに統合された主体・環境系というシステムをなしているとみるのである。地域システム論は人間や人間集団を対象とするが、基本的な構図は変わらない。人間の生活やさまざまな団体・組織の活動とその環境を統合して地域とみなし、その成り立ちと機能を明らかにしていく。 | |
| 到達目標 | （1）コミュニティから大都市圏に至る各空間スケールでの地域の成り立ちと機能を理解できる。<br>（2）各空間スケールに対応した地域問題の性格とそれへの対応策を理解できる。<br>（3）地域のガバナンスにおいて重要な役割を果たす自治体の性格と機能を説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）については、授業中に課すレポート（10%）、夏季休暇中の課題レポート(10%)、(2)については、授業中に課すレポート(20%)、夏季休暇中の課題レポート(20%)、（3）については授業中に課すレポート（20%）、夏季休暇中の課題レポート（20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：伊藤喜栄・藤塚吉浩編『図説　21 世紀日本の地域問題』（古今書院）参考書：講義の中で随時紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域情報処理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩間　憲治 | |
| 授業概要 | 地図上で表現できる自然現象や社会現象をその位置とともに正確に知ることは重要である。そのために測量学が発達してきたが、コンピュータやセンサー技術などの情報科学技術の進歩によりその学問体系は大きく変化することとなった。そこで、本講義では、地図情報をコンピュータ上で扱う技術である GIS(地理情報システム)、位置情報取得手段である GNSS(GPS など)、土地被覆情報の解析手段ともなるリモートセンシング(RS)技術を理解し、その応用を学ぶ。併せて、測量学の応用として写真測量技術や路線測量・地形測量を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)地図作製の基礎である座標系の概念、地形測量、路線測量、写真測量の手法を理解する。<br>(2)地理情報システムの概念とそのためのデータ構造を理解する。<br>(3)GPS などの GNSS の原理と扱い方を理解する。<br>(4)リモートセンシングの概念と衛星画像を用いた環境評価について理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示した(1)～(4)の全ての項目において、レポート 40%、期末筆記試験 60%を原則とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：星仰「地形情報処理学」(森北出版) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域調査法 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 香川　雄一 | |
| 授業概要 | 地域調査と社会調査についての基本的事項を学習する。フィールドワークのための基礎知識を習得することが目的である。社会調査についての歴史や目的を理解するとともに、調査方法の基礎と注意事項について説明する。調査の種類について質的調査と量的調査があることを学んだ後に、それぞれの具体的データについて例示しながら紹介していく。さらに資料やデータの収集から分析に至るまでにどのようなプロセスが必要になるのかを理解していく。 | |
| 到達目標 | ・地域調査のために、適切な資料を集めることができ、それらの説明をすることができる。・地域で発生する問題から、地域調査のために必要なキーワードを導き出すことができる。・身近な地域について関心を持ち、調査すべき課題を見つけ出すことができる。・地域調査を準備するために、具体的で実現可能性のある調査計画を作成することができる。 | |
| 成績評価 | 平常点＝授業時の発表および小レポート（50%）と学期末レポート（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：野間晴雄ほか編、ジオ・パル　NEO、海青社、2012 年 参考書：森岡清志編著、ガイドブック社会調査　第 2 版、日本評論社、2007 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域調査法演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 香川　雄一 | |
| 授業概要 | 実際に社会調査を扱っている研究例から社会調査の実施方法を学んでいく。さまざまな資料やデータがどのようにして収集され、分析されているのかを具体的に解説する。先行研究例にならって、調査目的や調査方法の決め方、調査企画と調査設計の作り方について習得していく。調査方法に関しては、準備から実施、分析に至る前の過程をサンプリング方法やデータのコーディング方法にも触れつつ具体的に説明する。インタビューの仕方やフィールドノートの作成方法についても解説する。 | |
| 到達目標 | ・地域調査の準備について、目的・方法・企画・地域概要の説明をすることができる。<br>・地域調査の実例を学ぶために、グループワークによって先行調査の内容を報告することができる。<br>・適切な調査対象の選択と、サンプリングの方法について理解することができる。<br>・地域調査を準備するために、具体的な対象を想定した質問調査票を作成することができる。 | |
| 成績評価 | 平常点＝小レポートおよびグループ発表（50%）と学期末レポート（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：梶田　真ほか編、地域調査ことはじめ、ナカニシヤ出版、2007 年、大谷信介他編著、社会調査へのアプローチ[第 2 版]、ミネルヴァ書房、2005 年 内田和子・寄藤昂編、地理学演習帳、古今書院、2010 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地球環境システム論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松本　健一 | |
| 授業概要 | われわれが日常生活を営む社会経済システムは自然環境や生態系と密接に結びついている。今日の環境問題は、そのような人間活動による過度な環境利用が大きな原因となっている。本講義では、現代社会の最重要課題の 1 つである地球環境問題を多面的に検証することにより、環境・環境問題を理解する。そして、地球環境問題の解決と持続可能な社会の構築に向けた方策を考えるための能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1) 地球環境問題とその対策（政策）についての基本的な知識を習得する。<br>(2) 地球環境問題とその対策（政策）について、自ら情報収集・考察できるようになる。<br>(3) 地球環境問題の解決（持続可能な社会）に向けた方法論を論理的に考察できるようになる。<br>(4) 自ら考察した方法論を、レポートとして体系的にまとめることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 毎回のレスポンスペーパー（10%）、テスト（40%）および、最終レポート（50%） により評価する。<br>欠席が 4 回以上になると評価対象としない（20 分以上の遅刻は欠席とみなす)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に資料を配布する<br>参考書：必要に応じて授業中に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 動物資源管理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 平山　琢二 | |
| 授業概要 | 人間の生活と関連する家畜から野生動物について、それらの役割やその関連性などを広く概説しながら、動物資源の管理法について講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 資源としての動物の様々な役割について説明できる。<br>(2) 動物資源の様々な管理法を理解し、説明することができる。 | |
| 成績評価 | 受講態度 40 点、試験 60 点の合計で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜プリントなどを配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参 考 書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 動物生態学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高倉　耕一 | |
| 授業概要 | 生物社会における個体・個体群・群集の各階層における現象を取り扱う行動生態学・個体群生態学・群集生態学を概観し、生態現象をもたらし維持しているメカニズムとそのプロセスについて講義する。生物群集の成立要因として議論されている仮説について、最近の論争を含めて紹介する。 | |
| 到達目標 | (1)生物の生活史戦略について、行動生態学的な観点からその要因を、個体群生態学的な観点からその影響を説明できること。<br>(2)動物個体群の動態について記述する基礎的な数理モデルについて理解し、その性質について説明できること。<br>(3)生物群集における生物間相互作用とその影響について説明できること。 | |
| 成績評価 | 小テスト（50%）、レポート（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：日本生態学会編「生態学入門」（東京化学同人）、Begon 他著（堀監訳）「生態学」（京大出版会）<br>その他、関連する資料を適宜配布・紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 都市・地域計画 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 轟　慎一 | |
| 授業概要 | 都市・農山漁村における地域空間の実態と成り立ち、地域課題の解決と持続・再生に向けた計画について、空間論的視座と計画論的視座を中心に論考する。都市・地域はいかに成り立ち、どのような問題を抱え、いかなる実状にあり、どのような方向にむかっているか。空間論的視座では、生活・生業の器としての空間の構造、生活者・コミュニティからみた居住環境・生活空間について論じる。計画論的視座からは、それら空間をつくりだすための計画制度・事業展開・まちづくり等について論じる。地区レベルでは、中心市街地・郊外住宅地・農山漁村等を事例として、居住、コミュニティ、少子高齢化、定住環境、生活空間、景観等の観点から、実践的な調査・計画の視点をまじえ論考する。本講は、卒業論文・卒業設計等における、計画論的研究の方法論においても有用性がある。 | |
| 到達目標 | (1) 生活空間・コミュニティ・地域環境・地域研究の基本を理解し、説明することができる。<br>(2) 計画論・計画制度・まちづくりの基本を理解し、説明することができる。 | |
| 成績評価 | (1)(2) 小論文 (50%)、期末試験 (50%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 土壌環境化学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 飯村　康夫 | |
| 授業概要 | 地球の皮膚とも呼ばれる土壌は植物を物理的・化学的に支える場であると同時に土壌動物や微生物にとっても重要な棲み場となっている。また、近年大きな問題となっている地球温暖化等の環境問題とも密接に関わる。本講義では土壌の成り立ちや構成物、これらの役割について概要を説明するとともに、土壌が持つ多様な環境機能の発現機構について解説する。さらに、土壌と環境問題の現状と今後の課題について地域～地球レベルまで最新の情報を交えて解説する。 | |
| 到達目標 | (1)土壌の基本的な成り立ちについて専門用語を用いて説明することができる。<br>(2)地域環境と土壌の関係について事例を挙げて説明することができる。<br>(3)土壌の環境機能について事例を挙げて説明することができる。<br>(4)環境問題に対する土壌の役割について自らの考えを交えて述べることができる。 | |
| 成績評価 | (1)土壌の・・・(2)地域環境と・・・(3)土壌の環境機能・・・については定期試験（60% : (1)20%, (2)20%, (3)20%、(4)環境問題に・・・については、課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 土壌環境情報学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　公人※ | |
| 授業概要 | 我々の環境は建築構造物や土木構造物に囲まれている。それらはいずれも土(あるいは地盤)に支えられ、また土そのものが構成要素となっている。これらの構造物が環境に悪影響を及ぼさずに建設・維持・運営するためには、土(あるいは地盤)の物理的・力学的性質を把握することが鍵となる。土は組成・構造が複雑であり、さらに場所によってその性質が異なる。このため、数理的・力学的知識のみならず実験的・経験的知識の集積が不可欠である。本講義では土の基本的性質、透水性、力が土に加わるとその内部にどのように伝わり変形していくか等を理解し、現場への適用を学ぶ。授業では、多くの例題に触れることによって具体的な計算ができるようにする。 | |
| 到達目標 | (1)土の基本的な物理的性質を理解し、具体的な計算ができるようになること。<br>(2)土の工学的分類ができるようになること。<br>(3)土の締固めの性質について説明できるようになること。<br>(4)土の透水性についてダルシー則に基づいた計算ができるようになること。<br>(5)地盤内の応力と変位について具体的な計算ができるようになること。<br>(6)土の圧密の原理について説明でき、圧密量を計算できるようになること。<br>(7)土のせん断強さに関して、クーロンの式とモールの応力円の説明ができるようになること。<br>(8)主働土圧と受働土圧について違いを説明できるようになること。<br>(9)斜面の安定と地盤の支持力について具体的な計算ができるようになること。 | |
| 成績評価 | レポート 40%、期末筆記試験 60%を原則とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜、プリントを配布する。関数電卓(少なくとも、三角関数や対数計算ができるもの)を持参すること。<br>参考書：河上房義「土質力学」(森北出版)、「土質試験　基本と手引き」(社団法人　地盤工学会) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 土壌環境物理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩間　憲治 | |
| 授業概要 | 地圏表層を構成する土壌は空気、水とともに重要な環境要素であり、地球上のあらゆる地域の物質循環に密接に関わる。本講義では、まず土壌の概要を示し、土壌が持つ環境機能を紹介した上で、これらの機能の発現に関わる土壌の基本的な性質を示す。さらに、土壌と地域環境および地球環境問題の関連について、その現状と課題についても言及する。 | |
| 到達目標 | (1)土壌の物理的な性質を表現するための専門用語を理解する。<br>(2)土壌物理性を測定する技術を理解する。<br>(3)土壌が自然界の水分・エネルギー循環にどのように影響するかを理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示した(1)～(3)の全ての項目において、レポート 40%、期末筆記試験 60%を原則とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：土壌物理学(宮崎毅、長谷川周一、粕淵辰昭著：朝倉書店) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 内部空間論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高柳　英明 | |
| 授業概要 | 建築をデザインする際は、内部と外部を隔てて考えるものではなく、相互に影響を及ぼしあいながらひとつの造形として結実している。また特に集客施設や不特定多数の利用する内部空間においては、用途やシーンに応じた空間感の配慮が必要である。本授業では内部空間の成り立ちや物理的条件の差異による空間認知特性や空間相互の連続性等について講義する。 | |
| 到達目標 | (1)建築の内部空間の寸法・面積・仕様に関する専門的知見を得ること。<br>(2)採光・通風など、自然環境と内部空間の連続について専門的知見を得ること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す各項目について、(1)を授業 5 回目のレポート課題として課し、その内容（40%）で評価する。また(2)を授業 12 回目のレポート課題として課し、その内容（40%）で評価する。また 13 回目に授業内小テストを出題し、その得点(20%)で評価する。以上を合算し、評価の 100%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：『建築設計テキスト：集合住宅編』（彰国社、2008 年 6 月）<br>上記教科書の事例を各回の授業資料とする。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本建築史 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 未定 | |
| 到達目標 | 未定 | |
| 成績評価 | 未定 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 未定 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 農業経営学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 増田　佳昭 | |
| 授業概要 | 農業経営は一般の企業経営と異なって土地を主たる生産手段として用い、動植物の生命活動を生産の対象とする。そして多くの場合家族経営である。担い手不足による耕作放棄地の発生や株式会社の農業進出など、農業経営のあり方をめぐる問題が噴出しているが、農業経営の特質を踏まえた理解と対応が求められる。講義では、企業と経営の定義から説き起こし、株式会社に限られない多様な経営類型の中で農業経営を位置づけるとともに、農業経営を会計的に把握するため、複式簿記の基本について学び、財務諸表の構成要素と分析方法についても学習する。<br>また、農業経営を会計的に把握するため、複式簿記の基本について学び、財務諸表の要素と分析方法についても学習する。 | |
| 到達目標 | （1）企業と経営について説明できる。<br>（2）農業経営の特質について説明できる。<br>（3）法人とは何かについて説明ができ、農業経営の法人化の功罪について説明できる<br>（4）減価償却と損益分岐点について説明できる。<br>（5）財務諸表の各項目を説明できる。<br>（6）簡単な財務諸表分析が出来る。 | |
| 成績評価 | 小レポート４０％、課題レポート２０％、定期試験４０％。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：五味編修『農業経営入門』、実教出版高田・古塚『現代農業簿記会計』、農林統計出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 農業統計利用論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 増田　清敬 | |
| 授業概要 | 農業統計データの利用・加工方法について、基礎的な統計解析手法を通じて学習する。 | |
| 到達目標 | （1）基礎的な統計解析手法を用いることができる。<br>（2）基礎的な検定方法を用いて有意差判定ができる。<br>（3）重回帰分析を用いて多変量解析ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）基礎的な統計解析手法を用いることができる、については中間試験①(33%)、(2)基礎的な検定方法を用いて有意差判定ができる、については中間試験②(33%)、（3）重回帰分析を用いて多変量解析ができる、については定期試験（34%）で評価する。100点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>参考書：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 農薬環境学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 須戸　幹 | |
| 授業概要 | 農薬の使用は農産物の増収，労働力の軽減などに多大な貢献を行っているが，その一方で環境汚染物質のひとつとなり，社会的にも強い関心がもたれている。農薬が関わる環境の諸問題を正しく議論するための基礎知識として，代表的な農薬の化学構造とその作用機構を概説するとともに，安全性の評価方法，環境中における農薬の動態を解説する。あわせて，農薬とダイオキシン類，内分泌かく乱物質との関連ついても述べる。 | |
| 到達目標 | 1)代表的な殺虫剤，殺菌剤，除草剤の種類と化学構造に基づいた分類を説明できる。<br>2)代表的な殺虫剤，殺菌剤，除草剤の作用機構を説明できる。<br>3)農薬や化学物質の毒性と安全性を評価する方法を説明できる。<br>4)農薬の環境中での動態とその運命を述べ、農薬の環境問題について自分の考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す1)、2)、3)については定期試験（70%、1)20%、2)20%、3)30%)、4)については課題レポート(20%)と定期試験（10%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布指定図書：適宜紹介参考書：内山正昭他「農薬学概論」(朝倉書店)，山下恭平他「農薬の科学」（文永堂出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 廃棄物管理論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 金谷　健 | |
| 授業概要 | この授業では、廃棄物管理についての基礎知識、具体的には、廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の法律、廃棄物のリサイクル、廃棄物の処理、処理施設への住民意識、処理コストなどについて講義する。次に受講生は、各自が興味あるテーマについて調査し発表・レポートする（グループまたは個人)。このように、講義を聴くことと、自分で調べて発表・質疑すること、この両面を行うことで廃棄物管理についての理解をより深めることを、ねらいとしている。 | |
| 到達目標 | ①廃棄物を適正に管理するために必要な基礎的事項を、説明できること。<br>②廃棄物管理において各自が興味あるテ･マについて、調査目的・調査方法・調査結果および考察・結論を明確にした、調査・発表・質疑をできること。 | |
| 成績評価 | 到達目標①については、試験で評価（５０%)。到達目標②については、発表および最終パワーポイントで評価（５０%)。なお特段の事情（病気等）がない限り、５回以上欠席した者は、評価対象としない | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：松藤敏彦　著「ごみ問題の総合的理解のために」（技報堂出版）指定図書：左巻健男・金谷健　編著「ごみ問題１００の知識」（東京書籍） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 琵琶湖環境学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伴　修平 | |
| 授業概要 | 本講義では、琵琶湖とその集水域の物理、化学、生物環境の基礎、そして、これまでに顕在化した環境問題について学び、将来的な環境修復、そして保全と管理を考えるための基礎とする。授業では、琵琶湖とその周辺環境を地質学的観点からまず概観し、琵琶湖の治水と利水の歴史、琵琶湖集水域の水収支と物理・化学・生物環境について学び、琵琶湖環境とそれに影響を与える人間活動について理解する。そして、琵琶湖環境への人為影響の実例を見ながらこれまでに顕在化した環境問題とその解決に向けた方策を学び、将来の琵琶湖環境保全と管理について考えることができるようにする。 | |
| 到達目標 | 1）琵琶湖とその周辺域で生じている過去から現在に至る環境問題に関する知識を習得する。<br>2）琵琶湖における物理、化学、生物環境とそれらの相互関係に関する基礎的知見を理解する。<br>3）琵琶湖に対する人間活動の影響、環境保全と生態系修復について考えることができる。 | |
| 成績評価 | 第6回までの授業内容について、到達目標の（1）と（2）を習得できているか、中間試験を行って評価する。第7回以降の授業内容については、到達目標の（1）から（3）を習得できているか、期末定期試験にて評価する。成績は、毎時間毎に行う小テストによる評価が 50%、中間および期末試験による評価が 50%として総合的に評価する。100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：特に使用しない。毎回、関連する資料を配付する。<br>参考図書：宗宮功編著『琵琶湖・その環境と水質形成』（技報堂出版)、琵琶湖百科編集委員会編『知ってますかこの湖を・びわ湖を語る 50 章』（サンライズ出版)、H. Kawanabe et al. (ed), 『Lake Biwa: Interactions between Nature and People』（Springer） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ファシリテーション技法・演習 | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 平山　奈央子 | |
| 授業概要 | ファシリテーションとは，集団による問題解決，アイディア創造などの活動の場において，それらの活動がスムーズにそして創造的に進むように意見や想いの交通整理をすることを意味する．このファシリテーションの方法によって，活動から生み出される成果や参加者の納得度・満足度が大きく異なる．そのため，ファシリテーションには技（技術）と頭（思考）と心（心構え）が必要である．この授業では，場のデザインのスキル，対人関係のスキル，構造化のスキルを段階的に学び，実践できる状態にする． | |
| 到達目標 | (1) ワークショップを企画することができる（場のデザインのスキル）30%<br>(2) 意見を引出し，自分の言葉で整理することができる（対人関係のスキル）30%<br>(3) 話し合いの内容を可視化することができる（構造化のスキル）30%<br>(4) コンフリクトを調整することができる（合意形成のスキル）10% | |
| 成績評価 | グループワークへの取り組み 50%，課題 20%，ファシリテーションスキル 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：テキスト：必要に応じ、毎回の講義で配布する．<br>参考図書：中野民夫著「ファシリテーション革命」（岩波書店），浅海義治他著「参加のデザイン道具箱 PART Ⅰ～Ⅲ」（世田谷まちづくりセンター） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化財・保存修景論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 濱崎　一志　・　井口　貢※ | |
| 授業概要 | 歴史的環境を構成する地域文化財の保存・修景・活用について論ずる。前半では濱崎が、歴史的環境を構成する地域文化財、町なみや集落、遺構、遺跡などを調査し、その現代的意義を再評価し、現在の生活空間に再生させ活用するために、その保存や修景の方法と、保存・修景することの意義について、海外や国内の具体的な例をあげながら論ずる。後半では井口が、文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興（まちづくりや観光振興を中心に）の実態や望ましい在り方について考察していく。 | |
| 到達目標 | (1)地域文化財の調査、再評価、保存・活用について理解し、説明できること。<br>(2)地域文化財の活用したまちづくりのあり方について自らの考えを述べることができる。<br>(3)文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興の望ましい在り方について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)地域文化財の調査、再評価、保存・活用について理解し、説明できること、(2)地域文化財の活用したまちづくりのあり方について自らの考えを述べることができるについては濱崎の課題レポート(50%、(1)40%、(2)60%)で評価する。<br>(3)文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興の望ましい在り方について自らの考えを述べることができるについては井口の課題レポート(50%)で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配付<br>参考書：井口貢『観光文化の振興と地域社会』ミネルヴァ書房 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 分子生物学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 入江　俊一 | |
| 授業概要 | DNA、RNA、タンパクなどの生体高分子の役割、実験講義などに必要な遺伝子工学的手法、物質輸送やシグナル伝達などの細胞生化学の基礎について解説する。 | |
| 到達目標 | （１）複製、転写、翻訳について理解する。<br>（２）遺伝子とタンパク質のモジュール構造と進化的意義について理解する。<br>（３）細胞骨格と真核細胞の構造について理解する。<br>（４）膜輸送、細胞輸送（エキソサイトーシス、エンドサイトーシス）について理解する。<br>（５）シグナル伝達について学び、細胞レベルの環境応答について理解する。 | |
| 成績評価 | 期末試験６０％、宿題２０％、小試験２０％の割合で評価する。ただし、講義を 3 割以上欠席した者は期末試験の受験を認めない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜プリントを配布する。原則として、プリントは再配布しない。更に学習を進めたい者は以下の教科書の購入を勧める。<br>教科書：Essential 細胞生物学　南江堂（第 3 版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 法学概論（国際法を含む） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂田　雅夫※ | |
| 授業概要 | この授業では法律に関する基本知識を講義します。隣の人が自分の家の壁を壊した。怒って訪問しても、のらりくらりとして、金を払うどころか、謝りさえしない。訴えてやりたいけど、どうすれば良いのか。ある朝、家にいきなり警察が来て、心当たりがないことで、逮捕された、自分はどうなってしまうのか。こういった、本当は余り身近に来てほしくないけど、運が悪ければいつかやってくる厄介ごと。皆さんが思い浮かべる法律とは、こうした問題にからむものばかりでしょう。もちろん、こういう問題もこの授業では取り上げます。それ以外にも法律は、皆さんの日常生活にいろいろと深く結びついています。ニュース、街角、そして日常生活でみるいろいろな問題や単語が法律と結びついていろんだとを理解してもらえるのがこの授業の目標です。 | |
| 到達目標 | （１）ニュースで出てくる法律関係の用語を理解できるようになる。<br>（２）公務員試験の法律・政治学関係の問題への基礎的知識を習得する | |
| 成績評価 | 中間試験 20%（１回）、期末試験 80%（１回） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 西村健一郎, 西井正弘, 初宿正典『判例法学〔第 5 版〕』（有斐閣、2012 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水環境政策論 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 井手　慎司 | |
| 授業概要 | 琵琶湖や日本における水環境問題の現状や課題、歴史、保全に取り組んできた行政施策と住民運動の変遷を中心に解説しながら、琵琶湖および国内、世界的な水環境問題の今後の解決にむけた方途について考えていく。毎回､質問標を配付・回収し、講義に関する質問や疑問について翌週に答えていく予定である。 | |
| 到達目標 | (1)琵琶湖における水環境問題の現状や課題、歴史を説明できる。<br>(2)日本における水環境に関する行政施策の変遷を説明できる。<br>(3)琵琶湖や日本における水環境の保全に関する住民運動の変遷を説明できる。<br>(4)琵琶湖および国内外の水環境問題の今後の解決にむけた方途について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)(2)(3)については、小テスト（45%：(1)15%、(2)15%、(3)15%）と課題（15%：(1)5%、(2)5%、(3)5%）と定期試験（30%：(1)10%、(2)10%、(3)10%）、(4)については、課題（5%）と定期試験（5%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配付<br>参考書：授業中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水資源保全学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 須戸　幹 | |
| 授業概要 | 人間生活の場および農林地における水資源の管理・保全に関する諸問題の解決方法について講義を行う。特に，農地や農村地域から流出する排水について，地域の持続的水環境の創出を水資源保全の立場から考察ができるよう取り組む。 | |
| 到達目標 | 1)農地排水に用いる統計処理の種類と方法を説明できる。<br>2)地域排水、農地排水を計画するための手順と内容、および方法論を説明できる。<br>3)データに基づいたピーク流量、流出パターンの予測ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す 1)農地排水に用いる統計処理の種類と方法を説明できる、2)地域排水、農地排水を計画するための手順と内容および方法論を説明できるについては定期試験（40%､1)20%､2)20%）、3)データに基づいたピーク流量、流出パターンの予測ができる、については課題レポート（60%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義時にプリントを配布。<br>指定図書および参考書：最初の講義時に適宜、紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 水資源利用学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 皆川　明子 | |
| 授業概要 | 有限な淡水資源の最大使用量を占める農業用水の使われ方について講義を行う。そして、環境保全と調和した水資源の効率的使用法を、水資源利用の立場から考察ができるよう取り組む。 | |
| 到達目標 | (1)農業用水を中心とした我が国の水資源利用実態の概要が説明できる。<br>(2)水田灌漑用水計画について基本的な考え方が説明できる。<br>(3)畑地灌漑の計画用水量を算定することができる。<br>(4)種々の畑地灌漑方式についてそれぞれの特性が説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)(2)については、定期試験(50%:(1)25%,(2)25%)、(3)(4)につては、小試験と課題レポ＾ト(20%:(3)10%,(4)10%)および定期試験(30%:(3)15%,(4)15%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時にプリントを配布。<br>指定図書および参考書：最初の講義時に適宜、紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 木匠塾 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　拓公雄 ・ 陶器　浩一 ・ 高田　豊文 | |
| 授業概要 | 木材等の生物材料あるいは土、石などの自然素材を主として用い、構築物（遊具、家具、倉庫など）を学生主体で設計・製作することによって、素材の特性、利用方法、加工技術、木組み、ディテール（収まり）、構造力学などを総合的に学習する。 | |
| 到達目標 | (1)地域に必要とされる構築物の設計を提案できること。<br>(2)木造の設計の基礎を習得すること。<br>(3)木材加工のための工具を巧みに使用できること。 | |
| 成績評価 | 成績評価は、設計と製作での取り組み態度（パフォーマンス）によって評価し、到達目標で示す(1),(2)については設計（40%：(1)30%,(2)10%）で，(2),(3)については製作（60%：(2)20%,(3)40%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：なし<br>参考書：授業時に適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 養魚飼料学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　省三 | |
| 授業概要 | 飼料学（栄養学）は、水産養殖のなかで中心的役割を担っている。飼料は養殖生産コストの半分以上を占めるだけでなく、飼料を改善することで、魚がよくエサを食べるようになり、成長や飼料効率、病気に対する抵抗力も向上する。飼料に様々な工夫を施すことで、魚の味、栄養価、肉色、体色などが向上し、水産食品や観賞魚としての価値を高めることができる。さらに近年は、環境負荷を低減する（水を汚さない）飼料、地域の未利用資源を用いた（持続可能な）低コスト飼料、新魚種（ビワマス、マグロ、希少種、野生種など）を飼育するための新飼料の開発など、配合飼料に関する研究はますます重要性を増している。この講義では、魚類の栄養要求、消化生理、および養魚飼料に関する基本的な知識と技術を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 必須栄養素（ビタミン、ミネラルなど）について、それぞれの機能と欠乏症を説明できる<br>(2) 主な飼料原料について、その特性（栄養価、抗栄養因子、産地、価格など）を説明できる<br>(3) 実用飼料を設計し、身近な道具を用いて配合飼料を作ることができる<br>(4) 基本的な飼料／栄養試験の方法について理解している | |
| 成績評価 | ノート check（50%）、期末試験　（50%）<br>到達目標１～４の配分は、各 25% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書<br>Fish Nutrition, Third Edition (Halver & Hardy) 2002, Elsevier<br>魚類の栄養と飼料（2009）恒星社厚生閣<br>淡水魚（水産増養殖システム２）（2005）恒星社厚生閣 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ランドスケープデザイン | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　修一 | |
| 授業概要 | ランドスケープデザインは，生活空間を豊かにするために人間が生み出した創造行為である。主に近代以降の代表的な事例を紹介しながら，ランドスケープデザインの様々な手法や理論を解説する。受講生は単に知識を得るだけでなく，未来社会にふさわしい新たなデザインのあり方を会得する。 | |
| 到達目標 | 講述する手法を用いたランドスケープデザインができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標について実施する 14 回分のワークシート課題の点数を合計し（100 点／回，1400 点満点），100 点満点に換算して評点とする（100%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ＜指定図書＞<br>「ランドスケープデザイン」（佐々木葉二，曽和治好，村上修一，久保田正一著　昭和堂）<br>「環境デザイン学 - ランドスケープの保全と創造」（森本幸裕，白幡洋三郎編　朝倉書店）<br>「テキスト　ランドスケープデザインの歴史」（武田史朗，山崎亮，長濱伸貴編　学芸出版社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 陸域環境影響調査指針 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 陸域において環境影響の調査を行う上で指針となる考え方を講義する。開発行為が自然・社会環境にどのような影響を与えるかを予備調査し予測・評価することを義務づけた環境影響評価法の、1997 年の成立、2010 年からの改正をふまえ、実際に行われたアセスメントの実例や国内外の状況、その限界についても紹介する。 | |
| 到達目標 | 1）野外へ出た時に、そこの陸域環境の概要を読み取ることができる。<br>2）環境影響評価制度の概要と環境保全措置の基本的な考え方を理解する。<br>3）開発などの陸域環境に影響を及ぼす行為に対し、調査方針を考えることができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 50%、日常の小レポートなど 50%。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義中に資料を配布する。<br>参考書：授業の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 陸域環境学・同実験 | ４単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 野間　直彦・ 籠谷　泰行 ・ 西田　隆義・ 未定 | |
| 授業概要 | 陸域環境下の生物と，それらの生活，相互の関係を研究するのに必要な考え方・手法・技術の基礎を習得する．形態学，系統・分類学，生態学，行動生態学的研究方法を講義する．実験室，実験圃場，自然条件下での生物を対象に，実験・野外調査とデータ解析・まとめの方法について実習を行う． | |
| 到達目標 | 1）陸域環境における生態学の基礎的な問題に対し，観察・採集・記載・測定・実験することができる。<br>2）コンピュータを用いて簡単なデータ処理を行うことができる。<br>3）観察・採集・記載・測定・実験・データ処理の結果に基づき，科学的な報告を作成できる。 | |
| 成績評価 | レポートの成績 100%．各課題ごとに科学的報告を作成できること．出席は必須. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：<br>参考書：授業の中で紹介する. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 陸域環境機能論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 肥田　嘉文 | |
| 授業概要 | 自然の脅威に対して人が生存環境を整えるべく働きかけてきた歴史について、また、現代の生活が環境あるいは人の健康に与えるようになった影響について、人の疾病の変遷を概観しながら学ぶ。その中で、影響の原因をつきとめるための疫学的手法、およびリスク管理に関する考え方の基礎についても取り扱う。 | |
| 到達目標 | (1)人の疾病の変遷（感染症の時代から生活習慣病の時代へ）と寿命獲得の歴史 2)疫学の基本事項を習得し、「科学的事実」の成り立ちと科学情報の信頼性の評価を行うことができる。<br>(3)感染症，生活習慣病の主要な生化学的背景を理解する。<br>(4)リスク判断、管理において「比較する」ことの重要性を示す具体例について理解し、説明することができる。 | |
| 成績評価 | (1)～(4)について、毎回講義の終わりに提出する「講義内容に関する通信票」による授業への参加態度と、定期試験の結果をそれぞれ 40%、60%として総合して評価する（レポートを課した場合は、これを前者に含める）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配付。<br>参考書：「ヴォート基礎生化学 第 2 版」 東京化学同人（2010）、「栄養疫学」 南工堂（2001）、中西準子：「環境リスク学」 日本評論社（2004） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 陸域生態系保全修復論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 野間　直彦 | |
| 授業概要 | 生物多様性の保全と健全な生態系の持続は、社会的な新しい目標として大きな位置を占めるようになった。その実現のために陸域において必要な視点を養い、手法を講義する。開発と環境アセスメント・その後の実例、里山の植生変化・竹林・獣害と新しい管理・利用、伊吹山や鈴鹿山脈でのシカ食害からの植生保全、竹生島のカワウ対策とタブノキ林再生、琵琶湖辺の侵略的外来水草（オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウ、ミズヒマワリ）対策などの実例を多く紹介し議論する。 | |
| 到達目標 | １）陸域生態系およびその保全・修復に関する基本概念を理解し、説明できる。<br>２）陸域生態系を保全・修復する上での問題点を理解し、説明できる。<br>３）陸域生態系の保全・修復の具体的な方策を理解し、説明できる。<br>４）陸域生態系における生物多様性、里山の自然、外来種などに関係する具体的な問題を理解し、その保全・修復について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験５０％ と日常の課題５０％で行う。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時に配布する。<br>参考書：日本自然保護協会編『生態学からみた野生生物の保護と法律 改訂』講談社、2010. 田端英雄編『里山の自然』保育社、1997. 種生物学会編『保全と復元の生物学』、文一総合出版、2002. 日本生態学会上関要望書アフターケア委員会編『奇跡の海 瀬戸内海・上関の生物多様性』南方新社、2010. ほかに講義時に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 陸域物質循環論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 籠谷　泰行 | |
| 授業概要 | 森林に代表される陸域の各種生態系の成り立ち、環境に果たしている役割について、生態系の物質動態・循環の視点から、さまざまな研究成果をふまえて解説する。 | |
| 到達目標 | １）陸上生態系の成り立ち、そこでの物質動態・循環、環境との相互作用について理解する。<br>２）地域・地球環境問題における各種陸上生態系の役割と人為影響について理解する。<br>３）当該分野における最近の研究状況を理解する。 | |
| 成績評価 | 授業内での課題 30%、期末試験 70% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 流域環境管理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 皆川　明子 | |
| 授業概要 | 流域および流域圏という概念を理解する。その上で、流域に起こる様々な問題、特に農地・農業に関係する問題を中心に、その現状とメカニズムを解説し、防止策や修復対策について講義を行う。そして、持続可能な地域環境創出に向けた考察ができるよう取り組む。 | |
| 到達目標 | (1)流域の概念を説明できる。<br>(2)河川構造および河川地形を説明できる。<br>(3)流域に起こる水資源、農地防災に関わる問題に対し、根拠のある改善策を挙げられる。<br>(4)災害、水利用、水質にかかわる時事問題を日常生活の中で自ら調べ考えられる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)、(2)、(3)については定期試験（40%：(1)5%、(2)15%、(3)20%）、(4)についてはレスポンスペーパー（10%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（20%）で評価する。※学外実習に参加しなかった場合は成績評価の対象外とする。初回のガイダンスで学外実習のグループ分けと日程調整を行うので必ず出席すること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜プリント配布<br>参考書：「改訂増補　森里海連環学　森から海までの統合的管理を目指して」京都大学フィールド科学教育研究センター編 | |
| 履修資格 | | |

# ５　工学部科目履修の手引

## 1. 工学部の学習・教育目標について

科学技術の進歩は、人類に豊かな生活とグローバルな物の流通と人の交流をもたらしたが、その反面、科学技術がもたらす地球環境問題が顕在化してきています。

工学部では、材料科学科、機械システム工学科、電子システム工学科の３学科において、持続可能な社会を実現するための「ものづくり」を通じて、自然と共生できるより豊かな社会、より暮らしやすい社会の構築に向けて、我が国および地域の産業のリーダーになれる技術者、また世界的な視野をもって社会に貢献できる各専門分野の技術者の育成を目指しています。そのための学習・教育目標として次の事項を掲げています。

１）人間社会の深い理解と豊かな人間性を身につけるとともに、科学技術が自然環境に与える影響を理解する
２）工学の幅広い基礎知識の習得と、それを基礎として工業技術の高度化、先端化、複合化に対応できる専門知識と先端技術を身につけ、課題を解決する応用力を養う
３）実験、実習、演習などの実践教育を通して、明確な目的意識を持ち、自主的な学習姿勢と独創的な思考力を習得する
４）世界的立場から工学を眺めることができる広い視野と、環境問題に配慮した新しい技術を創出できる豊かな創造力を養う
５）日本語による論理的な記述、表現の力を身につけるとともに、学際的な交流ができ、国際的に活躍できるコミュニケーション能力を身につける
６）技術者として目的意識を持ち、自主的、計画的に仕事を進める能力を身につける
７）地域課題と専門科目の関わりが理解でき、地域課題の解決に向け専門知識を応用できる能力を身につける

これらの学習・教育目標を達成するために、各学科では、それぞれ学科の学習・教育目標を設定しています。

## 2. 科目の履修について

### （１） 全学共通科目の履修について

各学科の科目配当表に示すように、主に１年次、２年次に配当されていますので、内容などについては全学共通科目の項目を参照してください。

### （２） 専門科目の履修について

各学科の専門科目については、「科目配当表」に各年次の順に科目名を示しています。科目名の後に単位数、配当期を前：前期、後：後期、通：通年の記号で示しています。低学年では、講義や実験は学部共通基礎科目が中心になり、２年次、３年次になると各学科の基礎科目が配当されています。必修の科目は当然履修しなければなりませんが、選択の専門科目もなるべく広い範囲にわたって受講することが望まれます。

他学部専門科目および規定単位数以外の全学共通科目の履修は､あわせて６単位を限度として、専門科目の卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、所属する学科の学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けてください。工学部他学科開設科目の履修など、その他履修に関する詳細については各学科の指示を受けてください。

３年次、４年次では、学科専門科目が配当されています。これらの中で卒業研究以外は選択科目ですが､広い視野を持つために様々な分野の科目を広範囲で積極的に受講することを勧めます。

また、最終学年では、卒業研究が必修で、各研究室に配属されて研究の進め方を学び、最先端の研究の一端を担うことになります。

なお教職免許取得など各種資格取得を希望する場合は、「資格取得等の手引」を参照してください。

以上の科目について、各学科における卒業に必要な必修科目、単位数など、卒業要件に注意して履修を検討してください。

## 3. 工学部卒業要件

2015（平成 27）年度入学生適用の卒業要件です。2014（平成 26）年度以前入学生は、入学年次の卒業要件が適用されますので、入学年次の「履修の手引」の卒業要件に従ってください。

| | |
|---|---|
| （1） **全学共通科目**（計３０単位以上） | 必修１８単位、選択必修１２単位以上 |
| ①全学共通基礎科目 | １８単位以上 |
| 第一外国語 | 英語（ＩＡ～ⅣＢ） ８単位(必修) |
| 第二外国語 | ドイツ語（ＩＡ～ⅡＢ）、フランス語（ＩＡ～ⅡＢ）、中国語（ＩＡ～ⅡＢ、朝鮮語（ＩＡ～ⅡＢ）、モンゴル語（ＩＡ～ⅡＢ）のうちから 4 単位以上（選択必修）<br>ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB は「実用英語演習ＩA・ＩB」で代替可 |
| 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論 ４単位（必修） |
| 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ ２単位(必修) |
| ②人間学 | ８単位以上（「人間探求学」は必修） |
| ③地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」は必修） |

| | |
|---|---|
| （2）**専門科目** | 学部共通基礎科目・複数学科共通科目・学科基礎科目・学科専門科目 １００単位以上 |

**合計** １３０単位以上

註１：他学部専門科目および全学共通科目あわせて６単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、所属する学科の学科長の許可を得た後、その科目を担当する許可を受けてください。

註２：卒業要件の詳細については各学科の項を見てください。

註３：修得した単位が卒業要件を満たしていないが、卒業要件に不足している単位に係わる科目が当該年度に履修登録された専門必修講義科目（除外科目あり）１科目のみであるものには、教授会の議を経て、不足科目の再試験を認める場合があります。

## 4. 自己学習について

本学では、15～45 時間の授業をもって 1 単位としています。例えば、1 時限の授業が 15 回（1 学期は 15 週の授業で構成）で 2 単位の講義科目は、1 時限（90 分）を 2 時間相当としている（ただし、次ページ以降の表中の授業科目別授業時間は実際の授業時間です）ため、授業時間が 30 時間であり、15 時間の授業で 1 単位です。また、同様の授業で 1 単位の演習科目は、30 時間の授業で 1 単位です。しかし、大学設置基準には、1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすると定められています。従って、大学での授業だけでは不足しており、学生はその不足分（1 単位あたり 45 時間と実際の授業時間との差）の自己学習（予習・復習、等）を各自行う必要があります。例えば、上記の講義科目に必要な自己学習時間は 60 時間であり、演習科目に必要な自己学習時間は 15 時間です。

以上のことを考慮して、工学部では学生の自己学習時間確保のための取り組みを組織的に行っており、その一環として、主要科目では、宿題やレポート、授業中に行う演習や小テストの予習、等を課すことにしています。それらの具体的な内容は、各授業科目のシラバスに記載されていますので、そちらを参照して下さい。

なお、シラバスに記載されている指示は最低限ですので、実際にはそれ以上の自己学習が必要です。また、シラバスに自己学習に関する具体的な指示がない授業科目（専門科目だけでなく全学共通科目も含みます）についても、学生の自己学習を前提とした講義が行われます。いずれにしろ、大学設置基準に定められた必要学修時間と授業時間との差の学修時間は、みなさんが各自の自己学習により補うことが必要であることに注意して下さい。

# 材料科学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

## ■学位授与方針

材料科学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築のために、科学技術に裏打ちされた材料技術の進歩に貢献できる、研究者・技術者の養成を目的としています。そこで材料科学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、材料科学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

A　「人間」という存在を深く見つめ，人間と環境・社会の関係について地域特性への配慮も含めて多面的に理解し，技術者が社会に対して負っている責任と使命を実践する能力を身につける（思考・判断）

B　英語や他の外国語で生活および材料科学技術分野に関する必要な情報交信ができる，コミュニケーション基礎能力を身につける（技能・技術）

C　工学の基礎となる数学、自然科学、情報科学および情報処理についての理解と活用能力を身につける（知識・理解）

D　工学とその基礎となる学問の幅広い分野に基づいて、技術について俯瞰的に見ることが出来る能力を身につける（興味・関心）

E　材料の物性、構造や機能、これらの解析方法、および材料製造方法についての、金属、セラミックス、有機材料、高分子材料に共通する基本的な知識と、それを材料開発、プロセス開発に応用する能力を身につけ、さらに地域産業・地域環境の視点からも材料科学について理解する。（知識・理解）

F　様々な材料の特性、製造方法、機能性について、その構造と関係づけて理解し、材料設計およびプロセス設計へと活用できる能力を身につける（知識・理解）

G　与えられた課題に対して適切な実験計画を立案・遂行して、得られたデータをもとに現象について考察し論理的に説明し記述できる能力、卒業研究などを通して自主的・継続的に学習できる能力、伝えたい専門的内容を論理的で判り易く説明し議論できるコミュニケーション能力等を身につける（思考・判断）（技能・技術）

## ■教育課程の編成・実施方針

材料科学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築のために、科学技術に裏打ちされた材料技術の進歩に貢献できる、研究者・技術者を養成するという目的を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

A　滋賀県立大学の卒業生に共通する学士力を身につけるための科目
- A-1　学士としての基本的人間力を身につけるための語学、健康・体力科学、情報科学・処理に関する科目
- A-2　人間そのもの、および人間と環境・社会の関係を理解し、科学技術に正しく携わるために必要な広い視野を身につけるための、人間学および地域基礎に関する科目

B　科学技術への取り組みの背景となる工学部共通科目
- B-1　工学についての幅広い視点を身につけるための科目
- B-2　事象を論理的かつ定量的に扱うための基礎となる数学に関する科目

C　多様な材料に共通する内容について学ぶ科目
- C-1　材料科学とその応用を俯瞰し材料全体へのイメージを養うことで個々の材料への理解に資する科目
- C-2　材料の研究および開発において的確な実験を行い、得られた結果を適切に解釈できるようにするための、分析化学に関係する科目および実験に関する科目
- C-3　材料全般に共通する考え方を身につけて応用できるようにするための物理化学系および材料力学系科目

D　個別の材料について基礎から応用まで学ぶ科目
- D-1　主に無機系の材料や複合材料、電子デバイスなどに関連する無機化学および無機・金属材料系の科目
- D-2　主に有機系の材料や複合材料、環境調和型材料などに関連する有機化学および有機材料系科目

E　卒業研究
材料科学の発展にはどのようなアプローチが必要かを、実践を通して学ぶ卒業研究

材料科学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その1）

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間（時間） | | | | | | | 学習・教育目標に対する関与の程度 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 専門分野 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 人文科学社会科学語学 | 数学自然科学情報技術 | 材料の構造と性質 | 材料のプロセス | 材料機能設計利用 | 実験の計画実行解析 | その他専門 | A | B | C | D | E | F | G |
| 全学共通科目 | 全学共通基礎科目 | 英語ⅠA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 英語ⅠB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 英語ⅡA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 英語ⅡB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 英語ⅢA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 英語ⅢB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 英語ⅣA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 英語ⅣB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | ドイツ語ⅠA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | ドイツ語ⅠB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | ドイツ語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | ドイツ語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | フランス語ⅠA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | フランス語ⅠB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | フランス語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | フランス語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 中国語ⅠA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 中国語ⅠB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 中国語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 中国語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅠA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅠB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | モンゴル語ⅠA | 1 | 選択 | 1･前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | モンゴル語ⅠB | 1 | 選択 | 1･前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | モンゴル語ⅡA | 1 | 選択 | 1･後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | モンゴル語ⅡB | 1 | 選択 | 1･後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 初習英語ⅠA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 初習英語ⅠB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 初習英語ⅡA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 初習英語ⅡB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅠA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅠB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅡA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅡB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅢA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅢB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅣA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 日本語ⅣB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | リスニング（中級） | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | リーディング（中級） | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 英語会話（中級） | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | ディベート＆ディスカッション | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 英語表現法 | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 留学英語対策基礎講座 | 1 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | エッセイ・ライティング | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅰ | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅱ | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | ビジネス英語 | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 時事英語 | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | メディアの英語 | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 実用英語演習ⅠA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 実用英語演習ⅠB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 情報科学概論 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 情報リテラシー（情報倫理を含む） | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |

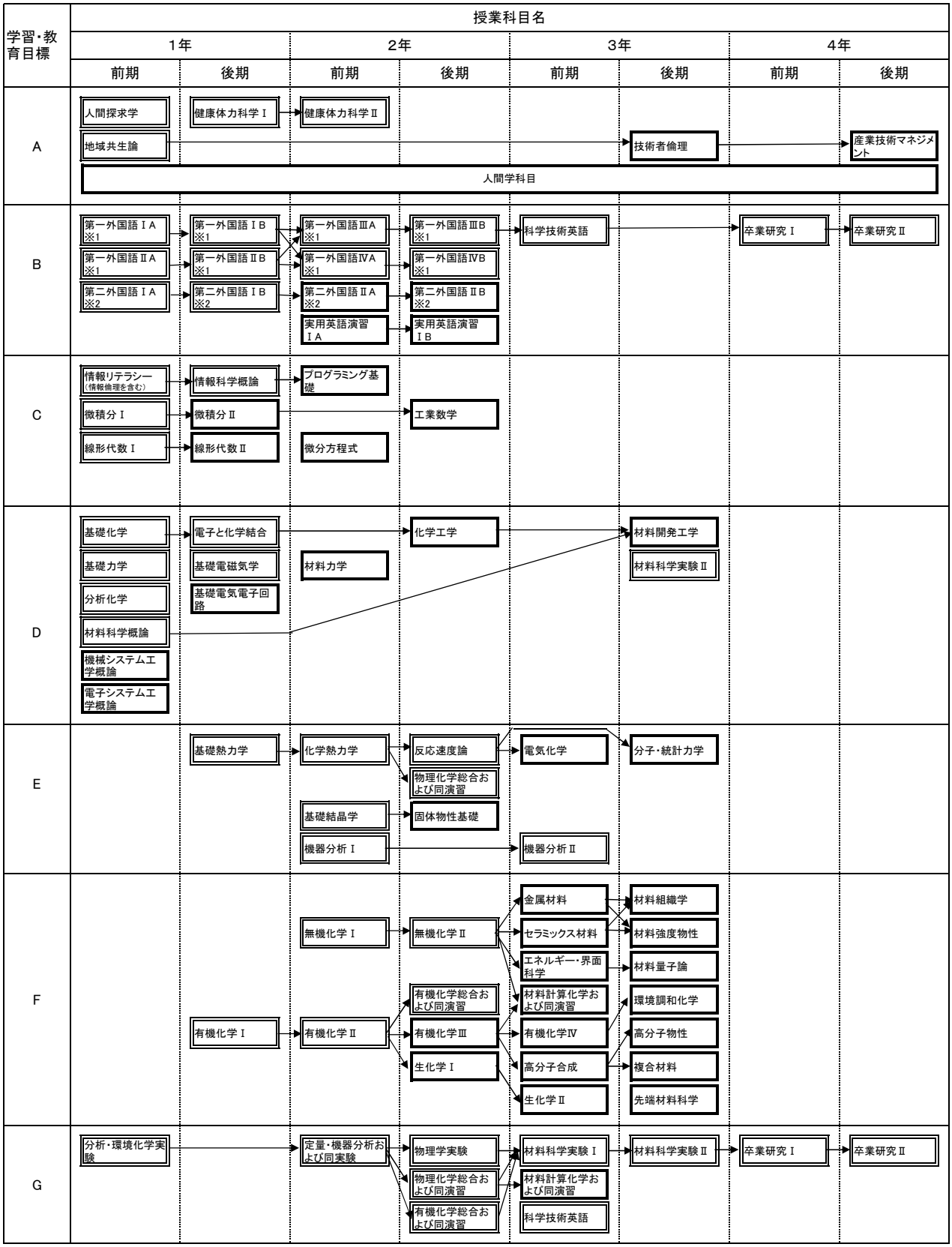
材料科学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その2）

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間（時間） | | | | | | | 学習・教育目標に対する関与の程度 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 専門分野 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 人文科学社会科学語学 | 数学自然科学情報技術 | 材料の構造と性質 | 材料のプロセス | 材料機能設計利用 | 実験の計画実行解析 | その他専門 | A | B | C | D | E | F | G |
| 全学共通科目 | 人間学 | 人間探求学 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 自然保護論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 持続的農業論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 材料史 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 機械の再発見 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 現代経済論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 差別と人権（同和問題） | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 比較都市論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | こころのテクノロジー | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 異文化理解A | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 異文化理解B | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 人間と病気 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 人間にとって環境とは何か | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 自然科学の視点 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 空間論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電子社会と人間 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 比較住居論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 生命・人間・倫理 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 植物の病気 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 性を考える | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 国際協力論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 農業問題入門 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅠ | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅡ | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 自然現象のしくみ | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 栄養と人間 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 生活と健康 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 人間の行動と空間 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 憲法 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | Medieval Japan | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | Modernizing Japan | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 思索の視点 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | 地域基礎 | 地域共生論 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 近江の歴史と文化 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 地域社会福祉論 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 地域コミュニケーション論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 地域づくり人材論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | びわこ環境行政論 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 滋賀の自然史 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 多文化共生論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 地域・企業から学ぶ社長講義 | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 近江の暮らしとなりわい | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 近江の美 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | | ○ | | | | | | |

材料科学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その3）

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間（時間） | | | | | | | 学習・教育目標に対する関与の程度 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 専門分野 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 人文科学社会科学語学 | 数学自然科学情報技術 | 材料の構造と性質 | 材料のプロセス | 材料機能設計利用 | 実験の計画実行解析 | その他専門 | A | B | C | D | E | F | G |
| 専門科目 | 学部共通基礎科目 | 材料科学概論 | 2 | 必修 | 1・前 | 22.5 | | | 4.5 | 3 | 15 | | | | | | ◎ | | | |
| | | 機械システム工学概論 | 2 | 選択 | 1・前 | 22.5 | | | | | 3 | | 20 | | | | ◎ | | | |
| | | 電子システム工学概論 | 2 | 選択 | 1・前 | 22.5 | | | | | 3 | | 20 | | | | ◎ | | | |
| | | 微積分Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 微積分Ⅱ | 2 | 選択 | 1・後 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 線形代数Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 線形代数Ⅱ | 2 | 選択 | 1・後 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 基礎力学 | 2 | 必修 | 1・前 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 基礎電磁気学 | 2 | 必修 | 1・後 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 基礎化学 | 2 | 必修 | 1・前 | 22.5 | | 15 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 電子と化学結合 | 2 | 必修 | 1・後 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 基礎電気電子回路 | 2 | 選択 | 1・後 | 22.5 | | | | | | | 23 | | | | ◎ | | | |
| | | 微分方程式 | 2 | 選択 | 2・前 | 22.5 | | 15 | | | | | 7.5 | | | ◎ | | | | |
| | | 工業数学 | 2 | 選択 | 2・後 | 22.5 | | 15 | | | | | 7.5 | | | ◎ | | | | |
| | | 物理学実験（コンピュータ活用を含む） | 2 | 必修 | 2・後 | 45 | | 45 | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | 科学技術英語 | 2 | 必修 | 3・前 | 22.5 | 4.5 | | 6 | 6 | 6 | | | | ○ | | | | | ◎ |
| | | 技術者倫理 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | 13.5 | | | | | | 9 | ◎ | | | | | | |
| | | 産業技術マネジメント | 2 | 選択 | 4・後 | 22.5 | 9 | | | | | | 14 | ◎ | | | | | | |
| | | プログラミング基礎 | 2 | 選択 | 2・前 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | | | ◯ | | | | |
| | 学科基礎科目 | 分析化学 | 2 | 必修 | 1・前 | 22.5 | | 15 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 分析・環境化学実験（コンピュータ活用を含む） | 2 | 必修 | 1・前 | 45 | | 22.5 | 22.5 | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | 無機化学Ⅰ | 2 | 必修 | 2・前 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | | | | ◎ | |
| | | 材料力学 | 2 | 選択 | 2・前 | 22.5 | | | | | 7.5 | | 15 | | | | ◎ | | | |
| | | 化学工学 | 2 | 選択 | 2・後 | 22.5 | | | | 23 | | | | | | | ◎ | | | |
| | | 基礎熱力学 | 2 | 必修 | 1・後 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | | | ◎ | | |
| | | 基礎結晶学 | 2 | 必修 | 2・前 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | | | ◎ | | |
| | | 有機化学Ⅰ | 2 | 必修 | 1・後 | 22.5 | | | 3 | 6 | 14 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 化学熱力学 | 2 | 必修 | 2・前 | 22.5 | | | 9 | 14 | | | | | | | | ◎ | | |
| | | 反応速度論 | 2 | 必修 | 2・後 | 22.5 | | | | 23 | | | | | | | | ◎ | | |
| | | 無機化学Ⅱ | 2 | 必修 | 2・後 | 22.5 | | | 18 | 4.5 | | | | | | | | | ◎ | |
| | | 有機化学Ⅱ | 2 | 必修 | 2・前 | 22.5 | | | 3 | 6 | 14 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 有機化学Ⅲ | 2 | 必修 | 2・後 | 22.5 | | | 3 | 6 | 14 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 機器分析Ⅰ | 2 | 必修 | 2・前 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | | | ◎ | | |
| | | 生化学Ⅰ | 2 | 選択 | 2・後 | 22.5 | | | 10.5 | 12 | | | | | | | | | ◎ | |
| | | 定量・機器分析および同実験（コンピュータ活用を含む） | 2 | 必修 | 2・前 | 45 | | | 15 | | | 30 | | | | | | | | ◎ |
| | | 物理化学総合および同演習 | 2 | 必修 | 2・後 | 22.5 | | | 9 | 14 | | | | | | | | ◎ | | ◎ |
| | | 有機化学総合および同演習 | 2 | 必修 | 2・後 | 22.5 | | | 3 | 6 | 14 | | | | | | | | ◎ | ◎ |
| | | 電気化学 | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | ◎ | | |
| | | 分子・統計力学 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 18 | | 4.5 | | | | | | | ◎ | | |
| | | 固体物性基礎 | 2 | 選択 | 2・後 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | ◎ | | |
| | | 有機化学Ⅳ | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 機器分析Ⅱ | 2 | 必修 | 3・前 | 22.5 | | | 16.5 | | | 6 | | | | | | ◎ | | |
| | | 生化学Ⅱ | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 材料計算化学および同演習 | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 15 | | 7.5 | | | | | | | | ◎ | ◎ |
| | | 材料科学実験Ⅰ | 3 | 必修 | 3・前 | 90 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 68 | | | | | | | | ◎ |
| | | 材料科学実験Ⅱ | 3 | 必修 | 3・後 | 90 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | 68 | | | | | | | | ◎ |
| | 学科専門科目 | 金属材料 | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 10.5 | | 12 | | | | | | | | ◎ | |
| | | セラミックス材料 | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | |
| | | エネルギー・界面科学 | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 7.5 | 3 | 12 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 高分子合成 | 2 | 選択 | 3・前 | 22.5 | | | 10.5 | 6 | 6 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 高分子物性 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 3 | 7.5 | 12 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 環境調和化学 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 材料量子論 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 12 | | 11 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 材料開発工学 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 3 | 4.5 | 15 | | | | | | ◎ | | | |
| | | 先端材料科学 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 材料組織学 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 材料強度物性 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 10.5 | 3 | 9 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 複合材料 | 2 | 選択 | 3・後 | 22.5 | | | 7.5 | 7.5 | 7.5 | | | | | | | | ◎ | |
| | | 卒業研究Ⅰ | 4 | 必修 | 4・前 | 45 | 1.5 | | 6 | 6 | 6 | 26 | | | ◎ | | | | | ◎ |
| | | 卒業研究Ⅱ | 4 | 必修 | 4・後 | 45 | 1.5 | | 6 | 6 | 6 | 26 | | | ◎ | | | | | ◎ |

## 材料科学科　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ




※1　英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。
※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、初習英語（留学生のみ）、英語（留学生のみ）、日本語（留学生のみ）から選択必修。
　　ただし、モンゴル語については前期にⅠA・ⅠBが、後期にⅡA・ⅡBが並行して開講されます。

# 工学部材料科学科卒業要件

【2015（平成27）年度入学生】

| | | |
|---|---|---|
| （1）**全学共通科目**（計30単位以上） 必修18単位 選択必修12単位以上 | | |
| ①全学共通基礎科目 18単位以上 | | |
| 第一外国語 | 英語（ＩＡ～ⅣＢ） ８単位（必修） | |
| 第二外国語 | ドイツ語（ＩＡ～ⅡＢ）、フランス語（ＩＡ～ⅡＢ）、中国語（ＩＡ～ⅡＢ）、<br>朝鮮語（ＩＡ～ⅡＢ）、モンゴル語（ＩＡ～ⅡＢ）のうちから４単位以上（選択必修）<br>ただし、「第二外国語ⅡＡ・ⅡＢ」は「実用英語演習ＩＡ・ＩＢ」で代替可 | |
| 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）2単位（必修）<br>情報科学概論 2単位（必修） | |
| 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位（必修） | |
| ②人間学 | 8単位以上（「人間探求学」は必修） | |
| ③地域基礎 | 4単位以上（「地域共生論」は必修） | |

| | | |
|---|---|---|
| （2）**専門科目** | 学部共通基礎科目・学科基礎科目・<br>学科専門科目<br>必修64単位，選択36単位以上 | （計100単位以上） |
| ①必修 | 科目配当表に指定する科目 | 64単位 |
| ②選択 | 科目配当表に指定する科目および<br>工学部他学科配当表記載の科目から | 36単位以上 |

合計 130単位以上

註1：
外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語ＩＡ～ⅣBまたは日本語ＩＡ～ⅣBから選択必修（8単位）。第二外国語は、ドイツ語ＩＡ～ⅡB、フランス語ＩＡ～ⅡB、中国語ＩＡ～ⅡB、朝鮮語ＩＡ～ⅡB、モンゴル語ＩＡ～ⅡB、実用英語演習ＩＡ・ＩB、初習英語ＩＡ～ⅡB、英語ＩＡ～ⅣB、日本語ＩＡ～ⅣBから選択必修（4単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註2：
他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし，専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし，他学部開設科目の履修を希望するときは，材料科学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

## 工学部材料科学科　年次別科目配当表
## (1)2015(平成27)年度入学生

| 区　分 | | 1 年 次 | 2 年 次 |
|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎<br>(留学生はP.21参照) | ◎英語ＩA・ＩB　各1前後<br>◎英語ⅡA・ⅡB　各1前後<br>○第二外国語ＩA・ＩB　各1前後<br>独語・仏語・中国語・朝鮮語・※1モンゴル語<br>※2初習英語<br>◎情報リテラシー(情報倫理を含む)　2前<br>◎情報科学概論　2後<br>◎健康・体力科学Ｉ　1後 | ◎英語ⅢA・ⅢB　各1前後<br>◎英語ⅣA・ⅣB　各1前後<br>○第二外国語 ⅡA・ⅡB　各1前後<br>独語・仏語・中国語・朝鮮語・※2初習英語<br>○実用英語演習ＩA・ＩB　各1前後<br>◎健康・体力科学 Ⅱ　1前 |
| | 人 間 学 | ◎人間探求学　2前<br>上記必修科目以外の人間学科目から、４年間で６単位選択必修 | |
| | 地 域 基 礎 | ◎地域共生論　２前<br>上記必修科目以外の地域基礎科目から、４年間で２単位選択必修 | |

※1　モンゴル語については、前期にＩA・ＩB、後期にⅡA・ⅡBを並行して開講します。
※2　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。(詳細については、P. 21、84、85参照)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 専門科目 | 学部共通基礎 | ◎材料科学概論(奥 廣川)　2前<br>機械システム工学概論　2前<br>(山根　南川　高松　栗田　安田寿　奥村)<br>電子システム工学概論(稲葉)　2前<br>◎微積分Ｉ(長谷川)　2前<br>微積分Ⅱ(門脇)　2後<br>◎線形代数Ｉ(小郷原)　2前<br>線形代数Ⅱ(門脇)　2後<br>◎基礎力学(山根)　2前<br>◎基礎電磁気学(作田)　2後<br>◎基礎化学(北村)　2前<br>◎電子と化学結合(松岡)　2後<br>基礎電気電子回路(岸根)　2後 | 微分方程式(米谷)　2前<br>工業数学(酒井)　2後<br>◎物理学実験(コンピュータ活用を含む)　2後<br>(秋山　山下　田邉　西岡　一宮　小郷原)<br>プログラミング基礎(亀田)　2前 |
| | 学科基礎 | ◎分析化学(秋山)　2前<br>◎分析・環境化学実験(コンピュータ活用を含む)　2前<br>( 谷本 鈴木 竹原 伊田 )<br>◎基礎熱力学(奥)　2後<br>◎有機化学Ｉ(北村)　2後 | 材料力学(田邉)　2前<br>化学工学(田門　牧)　2後<br>◎無機化学Ｉ(松岡)　2前<br>◎化学熱力学(竹下)　2前<br>◎反応速度論(徳満)　2後<br>◎有機化学Ⅱ(廣川・伊田)　2前<br>◎有機化学Ⅲ(北村)　2後<br>◎無機化学Ⅱ(ジャヤデワン)　2後<br>◎機器分析Ｉ(徳満)　2前<br>◎基礎結晶学(宮村)　2前<br>固体物性基礎(奥)　2後<br>生化学Ｉ(竹原)　2後<br>◎物理化学総合および同演習　2後<br>(宮村, 秋山, 吉田, 山下)<br>◎有機化学総合および同演習　2後<br>(谷本, 鈴木, 竹原, 伊田)<br>◎定量・機器分析および同実験(コンピュータ活用を含む)　2前<br>(宮村 吉田 竹下 井上 山田(明)) |
| | 学科専門 | | |

◎:必修　○:選択必修　無印:選択

| | 3 年 次 | | 4 年 次 | | 配当単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通基礎<br>(留学生はP.21参照) | リスニング(中級)<br>リーディング(中級)<br>英語会話(中級)<br>ディベート&ディスカッション<br>英語表現法<br>エッセイ・ライティング | 2前<br>2後<br>2後<br>2前<br>2前<br>2後 | 留学英語対策基礎講座<br>留学英語対策講座Ⅰ<br>留学英語対策講座Ⅱ<br>ビジネス英語<br>時事英語<br>メディアの英語 | 1前<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2前 | 必修<br>選択必修<br>選択 | 14<br>22<br>23 |
| 人 間 学 | | | | | 必修<br>選択必修 | 2<br>62 |
| 地域基礎 | | | | | 必修<br>選択必修 | 2<br>20 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学部共通基礎 | ◎科学技術英語(学科教授全員)<br>技術者倫理(廣川　南川　酒井) | 2前<br>2後 | 産業技術マネジメント(安田昌　他) | 2後 | 必修<br>選択 | 18<br>20 |
| 学科基礎 | 電気化学(秋山)<br>分子・統計力学(松岡)<br>有機化学Ⅳ(井上)<br>生化学Ⅱ(竹原)<br>◎機器分析Ⅱ(谷本)<br>材料計算化学および同演習<br>(井上　山田(明)　鈴木)<br>◎材料科学実験Ⅰ(学科教員)<br>◎材料科学実験Ⅱ(学科教員) | 2前<br>2後<br>2前<br>2前<br>2前<br>2前<br>3前<br>3後 | | | 必修<br>選択 | 38<br>18 |
| 学科専門 | 金属材料(ジャヤデワン)<br>セラミックス材料(吉田)<br>エネルギー・界面科学(奥)<br>高分子物性(徳満)<br>高分子合成(谷本)<br>環境調和化学(廣川)<br>材料開発工学<br>(室園　木村　白鳥　鳥羽　学科教員)<br>材料量子論(松岡)<br>先端材料科学(学科教員全員)<br>材料組織学(宮村)<br>材料強度物性(吉田)<br>複合材料(山下) | 2前<br>2前<br>2前<br>2後<br>2前<br>2後<br>2前<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後 | ◎卒業研究Ⅰ(学科教員全員)<br>◎卒業研究Ⅱ(学科教員全員) | 4前<br>4後 | 必修<br>選択 | 8<br>24 |

# 機械システム工学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

機械システム工学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、機械システム工学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程（工学）の学位を授与します。

A. 自然環境、社会、人間に関する理解、および技術の役割に関する理解

A-1.自然環境、社会、人間について、地球的視点や地域の視点、さまざまな立場から多面的に理解し、幅広く深い教養を身につける。（興味・関心、態度）

A-2.技術が、自然環境、社会、人間に及ぼす影響を理解して、技術者が負っている責任を自覚できる。（興味・関心、態度）

B. 国際的にコミュニケーションできる基礎能力を身につける。（技能・技術）

C. 数学、力学、電磁気学、化学、情報技術に関する基礎学力を修得し、これらを機械システム工学に応用できる能力を身につける。（知識・理解、技能・技術）

D. 機械システム工学専門科目に関する能力

D-1.機械システム工学の概要を学習し、機械システム工学の基礎を修得するとともに、機械システム工学全般を見渡せる能力を育成する。（知識・理解、思考・判断）

D-2.機械システム工学の基礎である材料と構造、エネルギー、流れ、力と運動、応用である計測制御、生産技術に関する学力を身につける。（知識・理解）

D-3.講義で学んだ知識を、実験・実習・演習を通してより具体的に機械システム工学を理解し、ものづくりに応用できる能力を身につける。（知識・理解、技能・技術）

E. 社会が要求する実際的な課題を、種々の専門知識を活用して解決する実践的なデザイン能力を身につける。（興味・関心、技能・技術）

F. 自分の意見を論理的に整理し相手にわかりやすく伝える力、相手の意見を聴き理解する力を身につける。（思考・判断、技能・技術、表現）

G. 自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力、継続的に自己啓発と学習を続けていく力を身につける。（思考・判断、興味・関心、態度、意欲）

H. 課題の解決への道筋を明らかにする力、目標に向け確実に行動する力を身につける。（思考・判断、態度）

■教育課程の編成・実施方針

機械システム工学科は、機械工学の基礎とシステム的なセンスと、高機能な機械の設計・開発能力を備え、柔軟な発想能力を発揮する技術者を養成します．この目標を達成するために、下記のように「教養科目」および「基礎から応用にわたる幅広い専門科目」によって、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

＜教養科目＞

技術者として社会に貢献することを目指して、広い視野とコミュニケーション能力を身につけるために、語学、健康・体力科学、情報処理などの基礎科目および人間学、人間探求学を配置する。

＜工学部共通専門科目＞

高校で学んだ数学や物理を体系的に学び直し、広範な工学に関する知識を習得することによって工学的思考の方法を学ぶために、工学に共通する基礎科目を配置する。

＜機械システム工学科専門科目＞

・導入科目：機械システム工学への入門として、身近な工業製品の分解・再組立などを通して「ものづくり」の基礎を体験するための導入科目を配置する。
・基礎科目：機械システムの数理的理解や表現能力を深く身につけるために、材料力学・熱力学、流体力学、機械力学、制御工学などの機械システム工学の基礎科目を配置する。
・実習科目：機械システムの製作のための基本的な加工技術の実習と機械製図の実習を通して「ものづくり」の感性を養うための実習科目を配置する。
・応用科目：機械の力学の応用を学ぶとともに、情報処理、メカトロニクス、生産工学など、機械の制御法、知能化・生産の方法について学ぶための応用科目を配置する。
・実験・演習科目：実験・演習を通して機械システムの設計、試作、機能評価を総合的に学ぶための実験演習科目を配置する。

＜卒業研究＞

４年間の学びの締めくくりとして、機械システム工学としての問題の捉え方、課題の設定の仕方、問題解決へのアプローチの方法などを実践的に体得し、「ものづくり」に必要な実力を養うために、卒業研究を実施する。

機械システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標目標一つ一つに対する関与の程度（その1）

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間数（時間） | | | 学習・教育目標との対応<br>◎：各目標と関係の深い科目<br>○：各目標と関係する科目 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 人文社会語学 | 数学自然科学情報技術 | 専門分野 | A1 | A2 | B | C | D1 | D2 | D3 | E | F | G | H |
| 全学共通科目 | 全学共通基礎科目 | 英語ＩA(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ＩB(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅡA(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅡB(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅢA(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅢB(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅣA(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅣB(留学生は必修でない) | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ＩB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ＩA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ＩB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ＩB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ＩB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ＩA | 1 | 選択 | 1･前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ＩB | 1 | 選択 | 1･前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ⅡA | 1 | 選択 | 1･後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ⅡB | 1 | 選択 | 1･後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ＩA(留学生のみ) | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ＩB(留学生のみ) | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ⅡA(留学生のみ) | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ⅡB(留学生のみ) | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ＩA(留学生のみ) | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ＩB(留学生のみ) | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅡA(留学生のみ) | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅡB(留学生のみ) | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅢA(留学生のみ) | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅢB(留学生のみ) | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅣA(留学生のみ) | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅣB(留学生のみ) | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | リスニング(中級) | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | リーディング(中級) | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 英語会話(中級) | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ディベート＆ディスカッション | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 英語表現法 | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 留学英語対策基礎講座 | 1 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | エッセイ・ライティング | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅰ | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅱ | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ビジネス英語 | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 時事英語 | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | メディアの英語 | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 実用英語演習ＩA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 実用英語演習ＩB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 情報科学概論 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 情報リテラシー(情報倫理を含む) | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |

機械システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標目標一つ一つに対する関与の程度（その2）

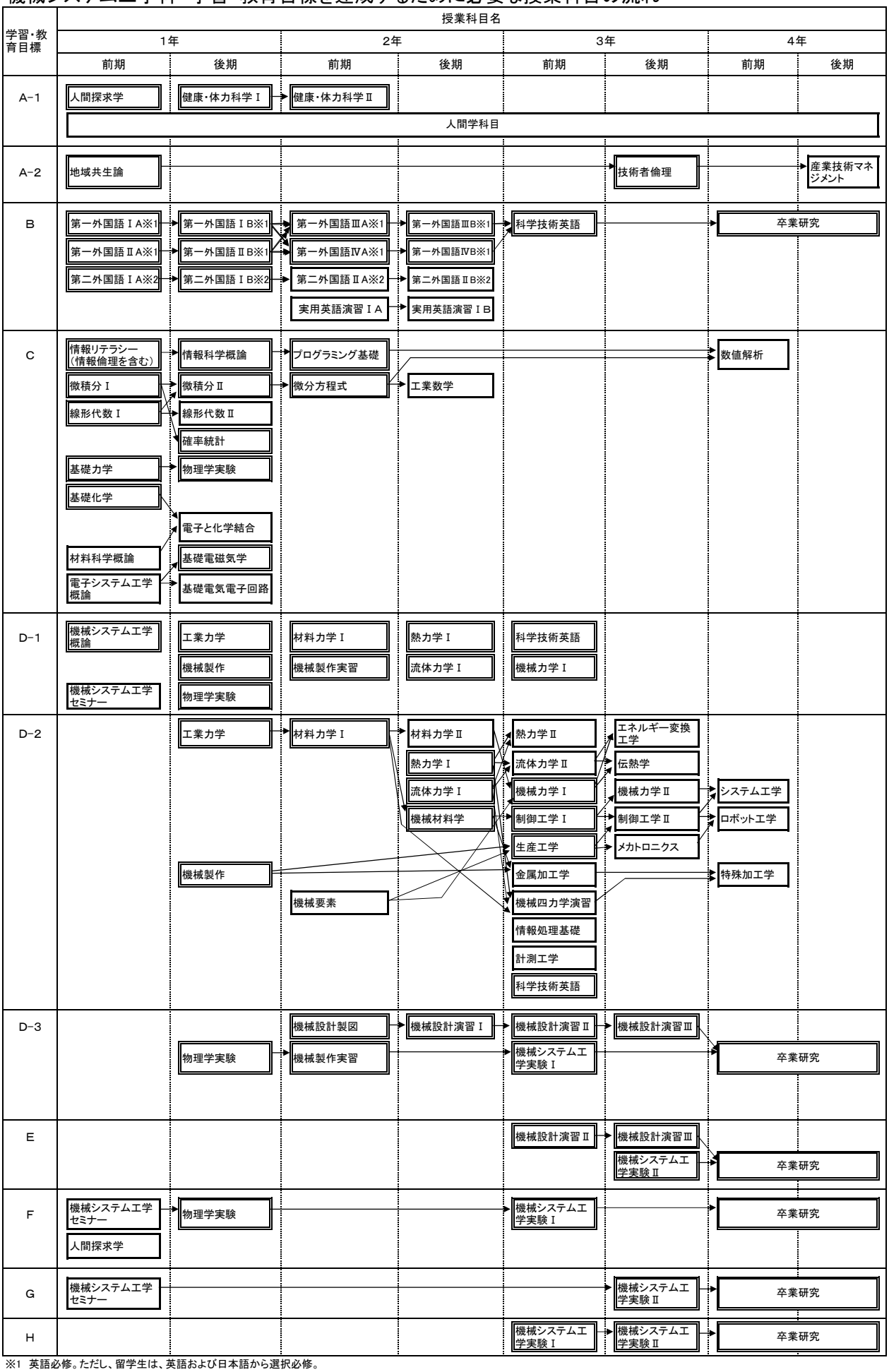
| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間数（時間） | | | 学習・教育目標との対応<br>◎：各目標と関係の深い科目<br>○：各目標と関係する科目 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 人文社会語学 | 数学自然科学情報技術 | 専門分野 | A1 | A2 | B | C | D1 | D2 | D3 | E | F | G | H |
| 全学共通科目 | 人間学 | 人間探求学 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ◎ | | | | | | | | ○ | | |
| | | 自然保護論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 持続的農業論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 材料史 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 機械の再発見 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 現代経済論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 差別と人権（同和問題） | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 比較都市論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | こころのテクノロジー | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 異文化理解A | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 異文化理解B | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 人間と病気 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 人間にとって環境とは何か | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 自然科学の視点 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 空間論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 電子社会と人間 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 比較住居論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 生命・人間・倫理 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 植物の病気 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 性を考える | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 国際協力論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 農業問題入門 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅠ | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅡ | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 自然現象のしくみ | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 栄養と人間 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 生活と健康 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 人間の行動と空間 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 憲法 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | Medieval Japan | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | Modernizing Japan | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 思索の視点 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | 地域基礎 | 地域共生論 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ◎ | | | | | | | | | | |
| | | 近江の歴史と文化 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域社会福祉論 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域コミュニケーション論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域づくり人材論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | びわこ環境行政論 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 滋賀の自然史 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 多文化共生論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域・企業から学ぶ社長講義 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 近江の暮らしとなりわい | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 近江の美 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |

機械システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標目標一つ一つに対する関与の程度（その3）

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間数（時間） | | | | 学習・教育目標との対応<br>◎：各目標と関係の深い科目<br>○：各目標と関係する科目 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 人文社会語学 | 数学自然科学情報技術 | 専門分野 | その他の専門 | A1 | A2 | B | C | D1 | D2 | D3 | E | F | G | H |
| 専門科目 | 学部共通基礎科目 | 機械システム工学概論 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 材料科学概論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | | | | 22.5 | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 電子システム工学概論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | | | | 22.5 | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 微積分Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 微積分Ⅱ | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 微分方程式 | 2 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 線形代数Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 線形代数Ⅱ | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 基礎力学 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 基礎電磁気学 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 基礎化学 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 電子と化学結合 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | | | | 22.5 | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 基礎電気電子回路 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | | | | 22.5 | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 工業数学 | 2 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 物理学実験 | 2 | 必修 | 1・後期 | 45 | | 45 | | | | | | ◎ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | 科学技術英語 | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | | ◎ | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 技術者倫理 | 2 | 必修 | 3・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| | | 産業技術マネジメント | 2 | 選択 | 4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| | | プログラミング基礎 | 2 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◯ | | | | | | | |
| | ※ | 確率統計 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 情報処理基礎 | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | 学科基礎科目 | 機械ｼｽﾃﾑ工学セミナー | 2 | 選択 | 1・前期 | 67.5 | | 67.5 | | | | | | | ○ | | | | ○ | ◎ | |
| | | 工業力学 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 機械製作 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 機械材料学 | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 材料力学Ⅰ | 2 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 熱力学Ⅰ | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 流体力学Ⅰ | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 機械力学Ⅰ | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 制御工学Ⅰ | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 生産工学 | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 材料力学Ⅱ | 2 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 熱力学Ⅱ | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 流体力学Ⅱ | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 機械力学Ⅱ | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 制御工学Ⅱ | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 機械要素 | 2 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 伝熱学 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 計測工学 | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 機械四力学演習 | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | 機械製作実習 | 2 | 必修 | 2・前期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | ○ | | ◎ | | | | |
| | | 機械設計製図 | 2 | 必修 | 2・前期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 機械設計演習Ⅰ | 2 | 必修 | 2・後期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 機械設計演習Ⅱ | 2 | 必修 | 3・前期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | | ○ | ◎ | | | |
| | | 機械設計演習Ⅲ | 2 | 必修 | 3・後期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | | ○ | ◎ | | | |
| | | 機械システム工学実験Ⅰ | 2 | 必修 | 3・前期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | | ◎ | | ○ | | ○ |
| | | 機械システム工学実験Ⅱ | 2 | 必修 | 3・後期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | | | ◎ | | ○ | ○ |
| | 学科専門科目 | 金属加工学 | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | エネルギー変換工学 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | メカトロニクス | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 数値解析 | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | システム工学 | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | ロボット工学 | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 特殊加工学 | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 卒業研究 | 8 | 必修 | 4・通年 | 90 | | | 90 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

※複数学科共通科目

# 機械システム工学科　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ




※1　英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。

※2　ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、初習英語（留学生のみ）、英語（留学生のみ）、日本語（留学生のみ）から選択必修。
ただし、モンゴル語については前期にⅠA・ⅠBが、後期にⅠA・ⅡBが並行して開講されます。

# 工学部機械システム工学科卒業要件

２０１５（平成２７）年度入学生適用の卒業要件です。２０１４（平成２６）年度以前入学生は入学年次の卒業要件が適用されますので、入学年次の「履修の手引」の卒業要件に従ってください。

| | | |
|---|---|---|
| **（１）全学共通科目**（計30単位以上）　必修18単位、　選択必修12単位以上 | | |
| ①全学共通基礎科目　18単位以上 | | |
| 第一外国語 | 英語（ＩＡ～ⅣＢ）　８単位（必修） | |
| 第二外国語 | ドイツ語（ＩＡ～ⅡＢ）、フランス語（ＩＡ～ⅡＢ）、中国語（ＩＡ～ⅡＢ）、朝鮮語（ＩＡ～ⅡＢ）、モンゴル語（ＩＡ～ⅡＢ）のうちから４単位以上(選択必修)<br>ただし、「第二外国語ⅡＡ・ⅡＢ」は「実用英語演習ＩＡ・ＩＢ」で代替可 | |
| 情報処理 | 情報リテラシー(情報倫理を含む)2単位(必修)<br>情報科学概論　2単位(必修) | |
| 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位（必修） | |
| ②人間学 | ８単位以上（「人間探求学」は必修） | |
| ③地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」は必修） | |

| | | |
|---|---|---|
| **（２）専門科目** | 学部共通基礎科目・複数学科共通科目・<br>学科基礎科目・学科専門科目<br>必修６６単位、選択３４単位以上 | （計１００単位以上） |
| ①必修 | 学科の科目配当表に指定する必修科目 | ６６単位 |
| ②選択 | 学科の科目配当表に指定する選択科目 | ２８単位以上 |

**合　計**　　１３０単位以上

註１：
外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語ＩＡ～ⅣＢまたは日本語ＩＡ～ⅣＢから選択必修（８単位）。第二外国語は、ドイツ語ＩＡ～ⅡＢ、フランス語ＩＡ～ⅡＢ、中国語ＩＡ～ⅡＢ、朝鮮語ＩＡ～ⅡＢ、モンゴル語ＩＡ～ⅡＢ、実用英語演習ＩＡ・ＩＢ、初習英語ＩＡ～ⅡＢ、英語ＩＡ～ⅣＢ、日本語ＩＡ～ⅣＢから選択必修（４単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註２：
工学部他学科専門科目、他学部専門科目および全学共通科目あわせて６単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、工学部他学科専門科目および他学部開設科目の履修を希望するときは、機械システム工学科長の許可を得た後に、その科目を担当する教員の許可を受けること。

## 機械システム工学科　年次別科目配当表

### (1)2015(平成27)年度入学生

| 区　分 | | 1 年 次 | | 2 年 次 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎<br>(留学生はP. 21参照) | ◎英語ⅠA・ⅠB<br>◎英語ⅡA・ⅡB<br>○第二外国語ⅠA・ⅠB<br>(独語・仏語・中国語・朝鮮語・※1モンゴル語・※2初習英語)<br>◎情報リテラシー(情報倫理を含む)<br>◎情報科学概論<br>◎健康・体力科学Ⅰ | 各1前後<br>各1前後<br>各1前後<br><br>2前<br>2後<br>1後 | ◎英語ⅢA・ⅢB<br>◎英語ⅣA・ⅣB<br>○第二外国語 ⅡA・ⅡB<br>独語・仏語・中国語・朝鮮語・※2初習英語<br>○実用英語演習ⅠA・ⅠB<br><br>◎健康・体力科学 Ⅱ | 各1前後<br>各1前後<br>各1前後<br><br>各1前後<br><br>1前 |
| | 人 間 学 | ◎人間探求学 | 2前 | | |
| | 地域基礎 | ◎地域共生論 | 2前 | | |

※1　モンゴル語については、前期にⅠA・ⅠB、後期にⅡA・ⅡBを並行して開講します。

※2　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。(詳細については、P. 21、84、85参照)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 学部共通基礎 | 材料科学概論(奥　廣川)<br>電子システム工学概論(稲葉)<br>◎機械システム工学概論<br>(山根　南川　高松　栗田　安田寿　奥村)<br>◎微積分Ⅰ(松下)<br>◎微積分Ⅱ(門脇)<br>◎線形代数Ⅰ(門脇)<br>線形代数Ⅱ(門脇)<br>◎基礎力学(栗田)<br>◎基礎電磁気学(福岡)<br>◎基礎化学(松岡)<br>電子と化学結合(松岡)<br>基礎電気電子回路(岸根)<br>◎物理学実験<br>(コンピュータ活用を含む)<br>(秋山　山下　田邉　西岡　一宮　小郷原) | 2前<br>2前<br>2前<br><br>2前<br>2後<br>2前<br>2後<br>2前<br>2後<br>2前<br>2後<br>2後<br>2後 | ◎微分方程式(米谷)<br>工業数学(酒井)<br>◎プログラミング基礎(亀田) | 2前<br>2後<br>2前 |
| | 複数学科共通 | ◎確率統計(栗本) | 2後 | | |
| | 学科基礎 | ◎機械製作(中川)<br>◎工業力学(栗田)<br>機械システム工学セミナー<br>(高松　安田寿) | 2後<br>2後<br>2前 | ◎材料力学Ⅰ(高松)<br>◎機械設計製図(高松、山野)<br>機械要素(山野)<br>◎熱力学Ⅰ(山根)<br>◎流体力学Ⅰ(南川)<br>◎機械材料学(高松　和泉)<br>材料力学 Ⅱ(高松)<br>◎機械製作実習(河﨑)<br>◎機械設計演習Ⅰ(南川 安田孝) | 2前<br>2前<br>2前<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2前<br>2後 |
| | 学科専門 | | | | |
| | | 1年次必修 | 22 | 2年次必修 | 18 |

◎:必修　○:選択必修　無印:選択

| | 3 年 次 | | 4 年 次 | | 配当単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通基礎<br>(留学生はP.21参照) | リスニング(中級)<br>リーディング(中級)<br>英語会話(中級)<br>ディベート&ディスカッション<br>英語表現法<br>エッセイ・ライティング | 2前<br>2後<br>2後<br>2前<br>2前<br>2後 | 留学英語対策基礎講座<br>留学英語対策講座Ⅰ<br>留学英語対策講座Ⅱ<br>ビジネス英語<br>時事英語<br>メディアの英語 | 1前<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2前 | 必修<br>選択必修<br>選択 | 14<br>22<br>23 |
| 人 間 学 | | | | | 必修<br>選択必修 | 2<br>62 |
| 地域基礎 | | | | | 必修<br>選択必修 | 2<br>20 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学部共通基礎 | ◎科学技術英語(学科教員)<br>◎技術者倫理<br>(廣川　南川　酒井) | 2前<br>2後 | 産業技術マネジメント(安田昌他) | 2後 | 必修<br>選択 | 24<br>14 |
| 複数学科共通 | 情報処理基礎(奥村) | 2前 | | | 必修<br>選択 | 2<br>2 |
| 学科基礎 | ◎機械力学Ⅰ(栗田)<br>◎制御工学Ⅰ(安田寿)<br>◎生産工学(奥村)<br>熱力学Ⅱ(山根)<br>流体力学Ⅱ(南川)<br>機械力学Ⅱ(栗田 大浦)<br>制御工学Ⅱ(安田寿)<br>計測工学(和泉)<br>伝熱学(栗本)<br>◎機械設計演習Ⅱ(田邉　和泉)<br>◎機械設計演習Ⅲ(栗田　大浦)<br>◎機械システム工学実験Ⅰ<br>(大浦　山根　和泉　栗本)<br>◎機械システム工学実験Ⅱ<br>(河﨑　安田孝　安田寿　西岡)<br>機械四力学演習(学科教員) | 2前<br>2前<br>2前<br>2前<br>2前<br>2後<br>2後<br>2前<br>2後<br>2前<br>2後<br>2前<br>2後<br>2前 | | | 必修<br>選択 | 32<br>20 |
| 学科専門 | 金属加工学(未定)(注)<br>メカトロニクス(安田寿)<br>エネルギー変換工学(河﨑) | 2前<br>2後<br>2後 | 数値解析(安田孝)<br>ロボット工学(作田)<br>システム工学(西岡)<br>特殊加工学(未定)(注)<br>◎卒業研究(学科教員全員) | 2前<br>2前<br>2前<br>2前<br>8通 | 必修<br>選択 | 8<br>14 |
| | 3年次必修 | 18 | 4年次必修 | 8 | 専門必修 | 66 |

機械システム工学科配当の専門科目は、配当学年よりも先だって履修することはできません。
(注)金属加工学および特殊加工学は平成27年度は開講しません。

# 電子システム工学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

## ■学位授与方針

電子システム工学科は，電気・電子・情報工学分野の高度な技術と知識に裏打ちされた創造力豊かな高度専門職業人の養成を目的としている．そのため学生は，次の能力を身につけることが求められる．

A　人間存在と環境・社会について深く理解し，豊かな人間性を身につける（③興味・関心）

B　国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける（④技能・技術）

C　電子システム工学分野の基礎となる，大学工学部共通基礎レベルの数学，物理学，化学および情報処理技術に関する知識とそれらを応用する能力を身につける（①知識・理解）

D　電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し，さらにそれらを基礎として高度な専門知識を身につける（①知識・理解）

E　電子システム工学分野の実験，実習の実践を通して，工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につける（④技能・技術）

F　自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う，日本語によるコミュニケーション能力を身につける（④技能・技術）

G　技術者としての明確な目的意識を持ち，生涯にわたって自発的に学習する能力を身につける（②思考・判断）

H　地域の課題と専門分野との関わりが理解でき、地域課題の解決に向けて，専門知識を応用することができる能力を身につける（①知識・理解）

## ■教育課程の編成・実施方針

電子システム工学科は，電気・電子・情報工学分野の高度な技術と知識に裏打ちされた創造力豊かな高度専門職業人を養成するという目的を達成するために，各分野に関する科目を教授するための過程を次のようなカテゴリーに分けて編成している．

A　人間存在と環境・社会について深く理解し，豊かな人間性を身につける科目

A-1 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて，興味に応じて多面的に学習し，大学教養レベルの知識と複雑化・流動化していく現代社会の中で将来の指針を見出していく能力を身につける科目

A-2 技術が環境や社会に与える影響や効果について理解し，技術者としての責任感と倫理観を身につける科目

B　国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける科目

C　電子システム工学分野の基礎となる，大学工学部共通基礎レベルの数学，物理学，化学および情報処理技術に関する知識とそれらを応用する能力を身につける科目

D　電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し，さらにそれらを基礎として高度な専門知識を身につける科目

D-1 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について，大学工学部学科専門レベルの基礎知識とそれらを駆使して課題を探求し組み立て解決する能力を身につける科目

D-2 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術の中から興味に応じて選択した個別技術について，大学工学部学科専門レベルの高度な専門知識とそれらを駆使して課題を探求し組み立て解決する能力を身につける科目

E　電子システム工学分野の実験，実習の実践を通して，工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につける科目

E-1 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について，大学工学部学科専門レベルの実験遂行能力と，結果の解析・考察・説明能力および報告書の作成能力を身につける科目

E-2 電子システム工学分野の技術者に要求される実験計画能力と問題や課題を理解し設定する能力および与えられた制約下でそれらの問題や課題に対する工学的な解決法を見つけだして計画的に仕事を進め成果としてまとめるエンジニアリングデザイン能力と実行力を身につける科目

F　自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う，日本語によるコミュニケーション能力を身につける科目

G　技術者としての明確な目的意識を持ち，生涯にわたって自発的に学習する能力を身につける科目

H　地域の課題と専門分野との関わりが理解でき、地域課題の解決に向けて，専門知識を応用することができる能力を身につける科目

電子システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の教育課程の編成・実施方針一つ一つに対する関与の程度（その1）

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間（時間） | | | 教育課程の編成・実施方針に対する関与の程度 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 学習内容の区分 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 人文科学社会科学語学 | 数学自然科学情報技術 | 専門分野 | A－1 | A－2 | B | C | D－1 | D－2 | E－1 | E－2 | F | G | H |
| 全学共通科目 | 全学共通基礎科目 | 英語ＩA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ＩB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅡA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅡB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅢA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅢB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅣA（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 英語ⅣB（留学生は必修でない） | 1 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ＩB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ドイツ語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ＩB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | フランス語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ＩB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 中国語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ＩB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅡA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 朝鮮語ⅡB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ＩA | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ＩB | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ⅡA | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | モンゴル語ⅡB | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ＩA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ＩB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ⅡA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 初習英語ⅡB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ＩA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ＩB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅡA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅡB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅢA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅢB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅣA（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 日本語ⅣB（留学生のみ） | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | リスニング（中級） | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | リーディング（中級） | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 英語会話（中級） | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ディベート＆ディスカッション | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 英語表現法 | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 留学英語対策基礎講座 | 1 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | エッセイ・ライティング | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅰ | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 留学英語対策講座Ⅱ | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | ビジネス英語 | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 時事英語 | 2 | 選択 | 3,4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | メディアの英語 | 2 | 選択 | 3,4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 実用英語演習ＩA | 1 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 実用英語演習ＩB | 1 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | 情報科学概論 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 情報リテラシー（情報倫理を含む） | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |

電子システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の教育課程の編成・実施方針一つ一つに対する関与の程度（その2）

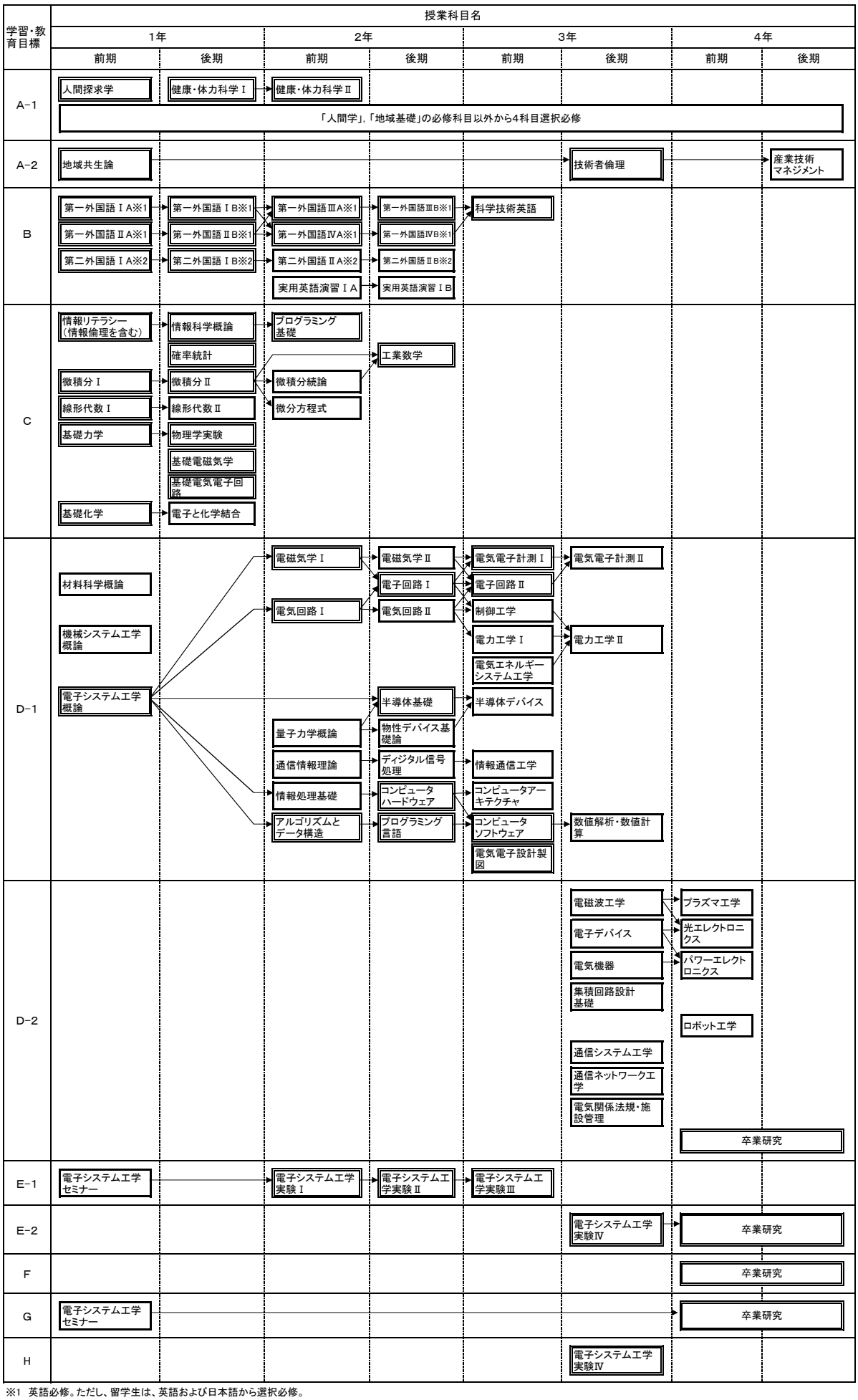
| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間（時間） | | | 教育課程の編成・実施方針に対する関与の程度 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 学習内容の区分 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 人文科学社会科学語学 | 数学自然科学情報技術 | 専門分野 | A－1 | A－2 | B | C | D－1 | D－2 | E－1 | E－2 | F | G | H |
| 全学共通科目 | 人間学 | 人間探求学 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ◎ | | | | | | | | | | |
| | | 自然保護論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 持続的農業論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 材料史 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 機械の再発見 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 現代経済論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 差別と人権（同和問題） | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 比較都市論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | こころのテクノロジー | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 異文化理解A | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 異文化理解B | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 人間と病気 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 人間にとって環境とは何か | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 自然科学の視点 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 空間論 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 電子社会と人間 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 比較住居論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 生命・人間・倫理 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 植物の病気 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 性を考える | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 国際協力論 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 農業問題入門 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅠ | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅡ | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 自然現象のしくみ | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 栄養と人間 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 生活と健康 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 人間の行動と空間 | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 憲法 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | Medieval Japan | 2 | 選択 | 1-4・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | Modernizing Japan | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 思索の視点 | 2 | 選択 | 1-4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | 地域基礎 | 地域共生論 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| | | 近江の歴史と文化 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域社会福祉論 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域コミュニケーション論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域づくり人材論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | びわこ環境行政論 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 滋賀の自然史 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 多文化共生論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 地域・企業から学ぶ社長講義 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 近江の暮らしとなりわい | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | 近江の美 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | 22.5 | | | ○ | | | | | | | | | | |

電子システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の教育課程の編成・実施方針一つ一つに対する関与の程度（その3）

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 必修・選択等の別 | 学年・学期 | 合計時間数（時間） | 授業時間（時間） 学習内容の区分 | | | 教育課程の編成・実施方針に対する関与の程度 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 人文科学 社会科学 語学 | 数学 自然科学 情報技術 | 専門分野 | A－1 | A－2 | B | C | D－1 | D－2 | E－1 | E－2 | F | G | H |
| 専門科目 | 学部共通基礎科目 | 材料科学概論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 機械システム工学概論 | 2 | 選択 | 1・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電子システム工学概論 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 微積分Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 微積分Ⅱ | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 線形代数Ⅰ | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 線形代数Ⅱ | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | 基礎力学 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 基礎電磁気学 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 電子と化学結合 | 2 | 選択 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | 基礎化学 | 2 | 必修 | 1・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 基礎電気電子回路 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 物理学実験 | 2 | 必修 | 1・後期 | 45 | | 45 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 工業数学 | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 微分方程式 | 2 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | プログラミング基礎 | 2 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 科学技術英語 | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| | | 技術者倫理 | 2 | 必修 | 3・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| | | 産業技術マネジメント | 2 | 選択 | 4・後期 | 22.5 | 22.5 | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | ※ | 確率統計 | 2 | 必修 | 1・後期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | | 情報処理基礎 | 2 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | 学科基礎科目 | 電子システム工学セミナー | 2 | 選択 | 1・前期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| | | 電磁気学Ⅰ | 2 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 電磁気学Ⅱ | 2 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電気回路Ⅰ | 2 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 電気回路Ⅱ | 2 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電子回路Ⅰ | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 量子力学概論 | 2 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 物性デバイス基礎論 | 2 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 半導体基礎 | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 微積分続論 | 2 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | コンピュータハードウェア | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | 必修 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | プログラミング言語 | 2 | 必修 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | ディジタル信号処理 | 2 | 選択 | 2・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 通信情報理論 | 2 | 選択 | 2・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電子システム工学実験Ⅰ | 2 | 必修 | 2・前期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 電子システム工学実験Ⅱ | 2 | 必修 | 2・後期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 電子回路Ⅱ | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 電気電子計測Ⅰ | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 電気電子計測Ⅱ | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電気エネルギーシステム工学 | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 半導体デバイス | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 制御工学 | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電力工学Ⅰ | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 電力工学Ⅱ | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 情報通信工学 | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | コンピュータアーキテクチャ | 2 | 選択 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | 数値解析・数値計算 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ○ | | | | | | |
| | | コンピュータソフトウェア | 2 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 電子システム工学実験Ⅲ | 2 | 必修 | 3・前期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | ◎ | | | | |
| | | 電子システム工学実験Ⅳ | 2 | 必修 | 3・後期 | 67.5 | | | 67.5 | | | | | | | | ◎ | | | ◎ |
| | | 電気電子設計製図 | 1 | 必修 | 3・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | ◎ | | | | | | |
| | 学科専門科目 | 電磁波工学 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 電気機器 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 集積回路設計基礎 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 電子デバイス | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 通信システム工学 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 通信ネットワーク工学 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | プラズマ工学 | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | パワーエレクトロニクス | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 光エレクトロニクス | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | ロボット工学 | 2 | 選択 | 4・前期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 電気関係法規・施設管理 | 2 | 選択 | 3・後期 | 22.5 | | | 22.5 | | | | | | ○ | | | | | |
| | | 卒業研究 | 8 | 必修 | 4・通年 | 90 | | | 90 | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | |

※複数学科共通科目

電子システム工学科　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ




※1　英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。

※2　ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、初習英語（留学生のみ）、英語（留学生のみ）、日本語（留学生のみ）から選択必修。
ただし、モンゴル語については前期にⅠA・ⅠBが、後期にⅡA・ⅡBが並行して開講されます。

# 工学部電子システム工学科卒業要件

２０１５（平成２７）年度入学生適用の卒業要件です。

| | | |
|---|---|---|
| **（１）全学共通科目**（計３０単位以上）　必修１８単位、　選択必修１２単位以上 | | |
| ①全学共通基礎科目　１８単位以上 | | |
| 第一外国語 | 英語（ＩＡ～ⅣＢ）　８単位（必修） | |
| 第二外国語 | ドイツ語(ＩＡ～ⅡＢ)、フランス語(ＩＡ～ⅡＢ)、中国語(ＩＡ～ⅡＢ)、朝鮮語(ＩＡ～ⅡＢ)、モンゴル語（ＩＡ～ⅡＢ）のうちから４単位以上(選択必修)<br>ただし、「第二外国語ⅡＡ・ⅡＢ」は「実用英語演習ＩＡ・ＩＢ」で代替可 | |
| 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位（必修） | |
| 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位（必修） | |
| ②人間学 | ８単位以上（「人間探求学」は必修） | |
| ③地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」は必修） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **（２）専門科目** | 学部共通基礎科目・複数学科共通科目<br>学科基礎科目・学科専門科目<br>必修６５単位、選択３５単位以上 | | （計１００単位以上） |
| ①学部共通基礎科目・複数学科共通科目 | | | ２８単位以上 |
| | 学科の科目配当表に指定する必修科目 | ２８単位 | |
| | 学科の科目配当表に指定する選択科目 | ０単位以上 | |
| ②学科基礎科目 | | | ４６単位以上 |
| | 学科の科目配当表に指定する必修科目 | ２９単位 | |
| | 学科の科目配当表に指定する選択科目 | １７単位以上 | |
| ③学科専門科目 | | | ２０単位以上 |
| | 学科の科目配当表に指定する必修科目 | ８単位 | |
| | 学科の科目配当表に指定する選択科目 | １２単位以上 | |

**合　計**　　１３０単位以上

註１：
　外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語ＩＡ～ⅣＢまたは日本語ＩＡ～ⅣＢから選択必修（８単位）。第二外国語は、ドイツ語ＩＡ～ⅡＢ、フランス語ＩＡ～ⅡＢ、中国語ＩＡ～ⅡＢ、朝鮮語ＩＡ～ⅡＢ、モンゴル語ＩＡ～ⅡＢ、実用英語演習ＩＡ・ＩＢ、　初習英語ＩＡ～ⅡＢ、英語ＩＡ～ⅣＢ、日本語ＩＡ～ⅣＢから選択必修（４単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註２：
　電子システム工学科の科目配当表に指定する専門科目以外に、工学部他学科の科目配当表に指定する専門科目も、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、履修を希望する科目を担当する教員の許可を受けること。

註３：
　他学部専門科目および全学共通科目あわせて６単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、電子システム工学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

註４：
　４年次末の時点で、修得した単位が卒業要件を満たしていないが、卒業要件に不足している単位に係わる科目が当該年度に履修登録された専門必修講義科目（除外科目あり）１科目のみであるものには、教授会の議を経て、不足単位の再試験を認めることがある。

## 工学部電子システム工学科　年次別科目配当表

| 区　分 | | 1　年　次 | | 2　年　次 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎（留学生はP.21参照） | ◎英語ＩA | 1前 | ◎英語ⅢA | 1前 |
| | | ◎英語ＩB | 1後 | ◎英語ⅢB | 1後 |
| | | ◎英語ⅡA | 1前 | ◎英語ⅣA | 1前 |
| | | ◎英語ⅡB | 1後 | ◎英語ⅣB | 1後 |
| | | ○第二外国語ＩA※1、※2 | 1前 | ○第二外国語 ⅡA※1、※2 | 1前 |
| | | ○第二外国語ＩB※1、※2 | 1後 | ○第二外国語 ⅡB※1、※2 | 1後 |
| | | ◎情報リテラシー(情報倫理を含む) | 2前 | ○実用英語演習ＩA | 1前 |
| | | ◎情報科学概論 | 2後 | ○実用英語演習ＩB | 1後 |
| | | ◎健康･体力科学Ⅰ | 1後 | | |
| | | | | ◎健康･体力科学Ⅱ | 1前 |
| | 人　間　学 | ◎人間探求学 | 2前 | | |
| | | 上記必修科目以外の人間学科目から４年間で６単位選択必修 | | | |
| | 地域基礎 | ◎地域共生論 | 2前 | | |
| | | 上記必修科目以外の地域基礎科目から２単位以上選択必修 | | | |

※１モンゴル語については、前期にＩA・ＩB、後期にⅡA・ⅡBを並行して開講します。

※２初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。（詳細については、P. 21,84,85参照）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 学部共通基礎 | 材料科学概論（奥 廣川） | 2前 | ◎工業数学（酒井） | 2後 |
| | | 機械システム工学概論 | 2前 | 微分方程式（松下） | 2前 |
| | | (山根　南川　高松　栗田　安田寿　奥村) | | ◎プログラミング基礎（宮城） | 2前 |
| | | ◎電子システム工学概論（稲葉） | 2前 | 情報処理基礎（複数学科共通） | 2前 |
| | | ◎確率統計 (複数学科共通)（栗本） | 2後 | （奥村） | |
| | | ◎微積分Ⅰ（長谷川） | 2前 | | |
| | | ◎微積分Ⅱ（長谷川） | 2後 | | |
| | | ◎線形代数Ⅰ（小郷原） | 2前 | | |
| | | 線形代数Ⅱ（門脇） | 2後 | | |
| | | ◎基礎力学（河崎） | 2前 | | |
| | | ◎基礎電磁気学（乾） | 2後 | | |
| | | 電子と化学結合（松岡） | 2後 | | |
| | | ◎基礎化学（奥） | 2前 | | |
| | | ◎基礎電気電子回路（岸根） | 2後 | | |
| | | ◎物理学実験（コンピュータ活用を含む） | 2後 | | |
| | | （秋山　山下　田邉　西岡　一宮　小郷原） | | | |
| | 学科基礎 | 電子システム工学セミナー(学科教員) | 2前 | 微積分続論（門脇） | 2前 |
| | | | | ◎電磁気学Ⅰ（作田） | 2前 |
| | | | | 電磁気学Ⅱ（福岡） | 2後 |
| | | | | ◎電気回路Ⅰ（坂本） | 2前 |
| | | | | 電気回路Ⅱ（乾） | 2後 |
| | | | | ◎電子回路Ⅰ（稲葉） | 2後 |
| | | | | 量子力学概論（柳澤） | 2前 |
| | | | | 物性デバイス基礎論（一宮） | 2後 |
| | | | | ◎半導体基礎（柳澤） | 2後 |
| | | | | ◎コンピュータハードウェア（酒井） | 2後 |
| | | | | ◎アルゴリズムとデータ構造（奥村） | 2前 |
| | | | | ◎プログラミング言語（畑中） | 2後 |
| | | | | ディジタル信号処理（宮城） | 2後 |
| | | | | 通信情報理論（酒井） | 2前 |
| | | | | ◎電子システム工学実験Ⅰ（学科教員全員） | 2前 |
| | | | | ◎電子システム工学実験Ⅱ（学科教員全員） | 2後 |
| | 学科専門 | | | | |
| | | 1年次必修 | 20 | 2年次必修 | 22 |

◎：必修　　○：選択必修　　無印：選択

| | 3　年　次 | | 4　年　次 | | 配当単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通基礎<br>（留学生はP.21参照） | リスニング(中級)<br>リーディング(中級)<br>英語会話(中級)<br>ディベート&ディスカッション<br>英語表現法<br>エッセイ･ライティング | 2前<br>2後<br>2後<br>2前<br>2前<br>2後 | 留学英語対策基礎講座<br>留学英語対策講座Ⅰ<br>留学英語対策講座Ⅱ<br>ビジネス英語<br>時事英語<br>メディアの英語 | 1前<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2前 | 必修<br>選択必修<br>選択 | 14<br>22<br>23 |
| 人　間　学 | | | | | 必修<br>選択必修 | 2<br>62 |
| 地域基礎 | | | | | 必修<br>選択必修 | 2<br>20 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学部共通基礎 | ◎科学技術英語<br>（柳澤 奥村 宮城 一宮）<br>◎技術者倫理<br>（廣川 南川 酒井） | 2前<br><br>2後 | 産業技術マネジメント<br>（安田昌　他） | 2後 | 必修<br>選択<br>必修，選択にはそれぞれ，複数学科共通科目の各2単位を含む。 | 28<br>14 |
| 学科基礎 | ◎電子回路Ⅱ（稲葉）<br>◎電気電子計測Ⅰ（福岡）<br>電気電子計測Ⅱ（作田）<br>電気エネルギーシステム工学（乾）<br>半導体デバイス（一宮）<br>制御工学（稲葉）<br>電力工学Ⅰ（坂本）<br>電力工学Ⅱ（坂本）<br>情報通信工学（岸根）<br>コンピュータアーキテクチャ（酒井）<br>数値解析・数値計算（未定）<br>◎コンピュータソフトウェア（畑中）<br>◎電子システム工学実験Ⅲ<br>（学科教員全員）<br>◎電子システム工学実験Ⅳ<br>（学科教員全員）<br>◎電気電子設計製図<br>（未定） | 2前<br>2前<br>2後<br>2前<br>2前<br>2前<br>2前<br>2後<br>2前<br>2前<br>2後<br>2前<br>2前<br><br>2後<br><br>1前 | | | 必修<br>選択 | 29<br>34 |
| 学科専門 | 電磁波工学（作田）<br>電気機器（乾）<br>集積回路設計基礎（岸根）<br>電子デバイス（柳澤）<br>通信システム工学（未定）<br>通信ネットワーク工学（未定）<br>電気関係法規・施設管理（多山） | 2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後<br>2後 | プラズマ工学（一宮）<br>パワーエレクトロニクス（乾）<br>光エレクトロニクス（山田）<br>ロボット工学（作田）<br>◎卒業研究（学科教員全員） | 2前<br>2前<br>2前<br>2前<br>8通 | 必修<br>選択 | 8<br>22 |
| | 3年次必修 | 15 | 4年次必修 | 8 | 専門必修 | 65 |

電子システム工学科配当の専門科目は、配当された学年よりも先だって履修することはできません。

| 科目名 | アルゴリズムとデータ構造 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　進 | |
| 授業概要 | コンピュータを用いて現実世界の問題を解くためにはコンピュータソフトウェアを作成する必要がある。ソフトウェアの作成において、データ構造は問題をコンピュータでどのように表現するかという技法であり、アルゴリズムは典型的な問題の解決法である。本講義では、配列、リスト、スタック、キューなどの基本的なデータ構造と、探索、ソート、文字列照合などの基本的なアルゴリズムについて講述し、プログラミングにおける基礎知識を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)基本的なデータ構造を理解し、基本的事項について説明できるとともに、アルゴリズムの記述において利用できる。<br>(2)基本的なアルゴリズムを理解し、その考え方を説明できるとともに、プログラムにおいて利用できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)とも、定期試験（80%：(1)20%、(2)60%)、レポート（20%：(1)5%、(2)15%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：五十嵐健夫著『データ構造とアルゴリズム』(数理工学社)。プリントを適宜配布する。<br>参考書と指定図書は、追加情報を参照のこと。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | エネルギー・界面科学 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥　健夫 | |
| 授業概要 | 様々な物質は電気伝導性の観点から見ると、導体、半導体、絶縁体に分けられる。現代科学技術を支える様々な材料は、これらの物質の様々な界面の組み合わせからなり、界面における光・電子の振る舞いが、材料の性能を左右する。本講義では特に半導体に重点をおき、各種界面の原子レベルの構造と物性を理解し、エネルギー、情報、環境分野の基礎となる物質・材料の基礎原理と応用について講義する。 | |
| 到達目標 | (1)エネルギーと物質の基礎原理の理解<br>(2)エネルギー・情報・環境材料の界面構造・物性・応用の理解 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)についてそれぞれ 30%、70%で、課題評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | エネルギー変換工学 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河﨑　澄 | |
| 授業概要 | 環境負荷低減と省エネルギーのためのエネルギー変換工学に関わる基礎知識と現状を理解することを目的とする。このために，エネルギー形態，変換システム，資源や将来の見通し，風力，太陽光，バイオマスなどの新エネルギーや地球温暖化ガスによる温暖化メカニズムやその低減方法に関して理解を深め，ライフサイクルを考慮したエネルギー変換システムの考え方を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)利用可能なエネルギー資源の種類と特徴およびエネルギー変換経路を説明できる。<br>(2)移動用・発電用機関の種類と動作原理を説明できる。<br>(3)分散型エネルギー供給システムの構成とその導入メリットを説明できる。<br>(4)各種新エネルギー利用技術を説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)～(4)を期末筆記試験 70%, および講義中に課すミニレポート 30%により評価する。ミニレポートでは、簡単な計算問題、エネルギー技術導入の得失を問う推論、講義のまとめなどを課し、各講義の理解度を測る。期末筆記試験では、講義で取り扱ったエネルギー技術に関する総合的な論述、計算問題を課す。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>参考書：柳父・西川『エネルギー変換工学』（東京電機大学出版局）など | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 科学技術英語（材料科学） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 徳満　勝久 ・ 松岡　純 ・ 奥　健夫 ・ 廣川　能嗣 ・ Balachandran Jeyadevan ・ 北村　千寿 | |
| 授業概要 | 自然科学とそれに立脚する技術には世界的な普遍性があるため、その学習、活用、情報発信には、共通語として専門英語の習得が必須である。また近代科学の発達の場であったヨーロッパの言語で自然科学を学ぶことは、その奥底にある思考法の理解に役立つ。たとえば、日本語での「関数」と「機能」は英語では共に“function”であり、基本的に同一概念と捉えられていることがわかる。本講では、科学技術英語の基礎を学んだのち、各学科に固有の英語を学ぶことで、その奥に横たわる概念の理解を目指す。 | |
| 到達目標 | （1）科学技術英語に関する文章について，それに独特の語法と専門的な単語に留意しながら日本語に訳せること。<br>（2）科学技術に関する簡単な日本語の文を英語に訳せること。<br>（3）科学と技術の諸概念について英語を通して考え，伝えられること。 | |
| 成績評価 | （1）科学技術英語の英文和訳　（宿題・小テスト 35%，授業中の発表 35%）<br>（2）科学技術日本語の和文英訳　（宿題・小テスト 7%，授業中の発表 8%）<br>（3）科学技術の英語でのプレゼンテーション　（準備状況 7%，授業中の発表 8%）<br>ただし，欠席と大幅な遅刻の合計が４回以上の場合は自動的に不可とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：国安 均 著　「化学英語１０１」　化学同人<br>（ただし，第６回の内容についてはプリントを配布する） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 科学技術英語（機械システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 自然科学とそれに立脚する技術には世界的な普遍性があるため，その学習，活用，情報発信には，共通語として専門英語の習得が必須である。また近代科学の発達の場であったヨーロッパの言語で自然科学を学ぶことは，その奥底にある思考法の理解に役立つ。本講では科学技術英語の基礎を学んだのち，機械システム工学科に固有の英語を学ぶことで，その奥に横たわる概念の理解を目指す。 | |
| 到達目標 | (1)科学技術英語に関する文章について，それに独特の語法と専門的な単語に留意しながら日本語に訳すことができる。[B]<br>(2)科学技術に関する簡単な日本語の文を英語に訳すことができる。[B]<br>(3)機械システム工学の基礎について英語を通して考えることができ，工学的現象を英語で口頭説明/発表できる。[D-1，D-2] | |
| 成績評価 | 到達目標の（1）（2）に関しては，それぞれを定期試験(20%)，宿題(10%)，小テスト(10%)で，到達目標（3）に関しては少人数のグループでの口頭発表(20%)で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（適宜プリント配布），指定図書：なし，参考書：理工系学生のための科学技術英語（南雲堂）ほか，講義中に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 科学技術英語（電子システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柳澤　淳一 ・奥村　進 ・宮城　茂幸 ・ 一宮　正義 | |
| 授業概要 | 自然科学とそれに立脚する技術には世界的な普遍性があるため、その学習、活用、情報発信には、共通語として専門英語の習得が必須である。また近代科学の発達の場であったヨーロッパの言語で自然科学を学ぶことは、その奥底にある思考法の理解に役立つ。たとえば、日本語での「関数」と「機能」は英語では共通に``function"であり、基本的に同一概念と捉えられていることがわかる。本講では科学技術英語の基礎を学んだのち、各学科固有の英語を学ぶことで、その奥に横たわる概念の理解を目指す。 | |
| 到達目標 | (1)科学技術英語に関する文章について､それに独特の語法と専門的な単語に留意しながら日本語に訳せる。<br>(2)科学技術に関する簡単な日本語の文を英語に訳せる。<br>(3)科学と技術の諸概念について英語を通して考えられる。 | |
| 成績評価 | 期末筆記試験(25%)、宿題(25%)、授業中の発表(25%)、小テスト(25%)<br>上記すべての評価方法において、学科に関係の深い科学技術英語について、文章の英文和訳と簡単な文の和文英訳ができること。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：飯田孝道、谷口滋次、田中敏宏、 John D. Cox 著「英語で書く科学・技術論文」（東京化学同人）。プリントを適宜配布する。<br>指定図書：「工業英検 3 級対策」「工業英検 4 級対策」（日本工業英語協会）<br>参考書：兵藤申一著「科学英文技法」（東京大学出版会）「工業英検 2 級対策」（日本工業英語協会）「工業英検 1 級対策」（日本工業英語協会）適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 化学工学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田門　肇※ ・ 牧　泰輔※ | |
| 授業概要 | 化学工学という学問が，化学の新しい発見や発明を如何に具現化し「もの」として世に出すために貢献してきたかを知り，化学工学の基本的な考え方を学ぶ。まず，化学工学とはいかなる学問かについて述べ，化学工学の最も基本となる物質，エネルギーの保存則の考え方を学び，その定量的な表現法を習得する。次に，拡散現象や反応速度の理解を深め，定量的な表現を習得し，化学製品を現実に生産するための装置・システムの設計・制御法を、ガス吸収，蒸留で代表される分離操作と反応操作を中心に学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）化学プロセスにおける物質収支，エネルギー収支の考え方を理解し，量的 関係を定量的に表現することができる。<br>（2）拡散現象を理解し，定量的に表現することができる。<br>（3）ガス吸収の原理を理解し，ガス吸収速度を定量的に表現でき，ガス吸収装 置の設計のポイントを習得できる。<br>（4）蒸留の原理を理解し，連続蒸留装置の設計のポイントを習得できる。<br>（5）反応速度式を理解し，反応器の設計方程式をたてることができる。<br>（6）回分反応器，連続槽型反応器，管型反応器の設計のポイントを習得できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1）については定期試験 20%，課題レポート 15%，(2）については定期試験 10%，課題レポート 10%，(3)につｖいては定期試験 10%，課題レポート 10%，(4)については定期試験 20%，課題レポート 15%，(5)については定期試験 20%，課題レポート 25%，(6)については定期試験 20%，課題レポート 25%で評価する。定期試験は１００点満点で採点する。課題レポートは 50 点満点で採点し，５０点満点に換算した定期試験の結果と合計して，１００点満点で評価し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：橋本健治・荻野文丸編「現代化学工学」　（産業図書）<br>参考書：古崎新太郎他「化学工学　（役にたつ化学シリーズ８）」（朝倉書店）<br>橋本健治編「ケミカルエンジニアリング　夢を実現する工学 」（培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 化学熱力学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹下　宏樹 | |
| 授業概要 | 熱力学の基礎的な知識に基づき、純物質および多成分系における相平衡や相転移、化学平衡について学ぶ。多成分系の理解において重要な役割を果たす部分モル量の一種である化学ポテンシャルを導入することにより、平衡、相転移、相図、自発変化の方向等について一貫した見方が得られることを理解する。 | |
| 到達目標 | (1)純物質の相平衡条件を理解し、クラペイロンの式、クラウジウス-クラペイロンの式を使いながら状態図を説明できる。<br>(2)示量性の熱力学量から導かれる部分モル量とくに化学ポテンシャルについて理解している。<br>(3)理想溶液、理想希薄溶液、実在溶液について理解し、それぞれの特徴をラウールの法則、ヘンリーの法則を使いながら説明することが出来る。<br>(4)理想溶液および理想希薄溶液における束一的性質について理解している。<br>(5)相、成分、自由度について理解し、典型的な相図について説明することができる。<br>(6)標準反応ギブズエネルギーと平衡定数との関係を知り、平衡の計算に利用することが出来る。<br>(7)平衡定数の外部条件に対する変化を説明することが出来る。<br>(8)標準電極電位や標準起電力と平衡現象との関係を理解している。 | |
| 成績評価 | 中間テスト 30%（事前に提出し許可されたメモのみ持ち込み可）<br>定期試験 40%（事前に提出し許可されたメモのみ持ち込み可）<br>宿題課題　30%で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：アトキンス物理化学第８版（上）東京化学同人 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 確率統計（機械・電子） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栗本　遼 | |
| 授業概要 | 確率の概念を知る。「同様に確からしい」という素朴な捉え方から進んで，一般的な確率概念を理解する。確率論の基本的な概念を学び，それらを基礎として，推定（標本から集団全体の特性などを推測する）や検定（母集団に対する統計的仮説を吟味する）の考え方と方法を知る。 | |
| 到達目標 | (1)確率変数，事象の独立性などの基本概念を説明できる（C)。<br>(2)推定・検定の違いを説明でき，具体的な場面に応じて推定・検定の手段を選べる（C)。<br>(3)１次元または２次元データに対して適切な処理を施し，平均や分散などの特徴量の抽出や，ヒストグラムや散布図などを用いた可視化が出来る(C)。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)，(2)，(3)について中間及び期末試験で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『講義：確率・統計』穴太克則，学術図書出版会<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：『統計学入門』東京大学出版会編『理工系の確率・統計入門』服部著，学術図書出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環境調和化学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣川　能嗣 | |
| 授業概要 | 人間の活動が地球環境に与える影響について，主要な問題を化学的な観点から捉えて，地球環境を良好に保全し，持続可能な社会の発展について考える。化学物質による水・土壌・空気の環境汚染，化学物質の人体への影響をはじめ，人間活動が及ぼす生態環境への影響として，気候変動，温暖化，エネルギー・資源枯渇など地球的規模の問題についても取り上げる。また，環境関連法令についても講述し，生産活動に従事する研究者にとって必要な環境保全に関する知識を深める。 | |
| 到達目標 | （1）環境問題の歴史について説明できる。<br>（2）環境関連法令について説明できる。<br>（3）地球環境問題の諸原因を説明でき、取るべき解決策を提案できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)~(3)について、中間試験(15%: (1), 25% : (3) )、期末試験(15%: (1), 25% : (3))、レポート(20% : (2))により成績評価を行う。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：地球の環境と化学物質 新版(三共出版)<br>指定図書：環境科学入門(化学同人)<br>参考書：人間・環境・安全一くらしの安全科学一(共立出版)、環境 ここがポイント(三共出版)、新訂環境の科学(三共出版)、環境科学(東京化学同人) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械材料学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高松　徹 ・ 和泉　遊以 | |
| 授業概要 | 機械設計における材料の選定，機械の製作・材料の加工のためには，機械的性質，化学的性質，加工性，機能性，経済性，環境との調和を考慮することが必要である。本講義では，材料科学の基礎について述べた後，鉄鋼材料，非鉄金属材料などの汎用材料，高分子材料，セラミックス，複合材料，機能性材料などの新材料の特性について述べる。さらに，材料強度の基礎および様々な機械的性質を評価するための材料試験についても述べる。 | |
| 到達目標 | (1)金属の基本的構造，および合金の結晶構造について説明できる。<br>(2)金属材料の機械的性質，および材料試験法について説明できる。<br>(3)鋼の平衡状態図，鋼の熱処理について説明できる。<br>(4)鉄鋼材料、非鉄金属材料の基本的特性，用途について説明できる。<br>(5)セラミック材料，高分子材料，複合材料について，基本的特性，用途を説明できる。 | |
| 成績評価 | 講義内容を正確に理解していること、簡潔な文章で説明できること、を基準として、到達目標(1)に関しては，宿題（2%），中間テスト（14%）、到達目標(2)、(3)に関しては，宿題（各 2%），中間テスト（各 15%）で評価する。到達目標(4)、(5)に関しては、宿題（各 2%）、期末試験（各 23%）で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：JSME テキストシリーズ「機械材料学」（日本機械学会）<br>指定図書：鈴村暁男、浅川基男著「基礎機械材料」（培風館）<br>参考書：野口徹、中村孝著「機械材料工学」（工学図書） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械システム工学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山根　浩二 ・ 高松　徹 ・ 栗田　裕 ・ 安田　寿彦 ・ 南川　久人 ・ 奥村　進 | |
| 授業概要 | 機械は電気，電子，情報，化学，材料など多くの学問や技術とシステム的に密接に結びついており，機械技術者のみならず工学を学ぶ技術者にとって，機械システム工学の基礎知識は必須である。機械システム工学とはどのような学問か，それが社会でどのように活用されているかを，オムニバス形式でわかりやすく講義する。 | |
| 到達目標 | （1）機械工学における熱力学・流体力学の概要が理解でき，身近な機械のしくみを説明できる.<br>（2）機械工学における材料力学，工業力学の概要が理解でき，身近な機械のしくみを説明できる.<br>（3）制御工学，機械力学の概要が理解でき，身近な機械のしくみを説明できる.<br>（4）設計製図，機械製作，生産工学の概要が理解でき，身近な機械のしくみを説明できる. | |
| 成績評価 | 到達目標の（1）～（4）に関して小試験１０%および定期試験１５%，合計１００点満点（内訳：小試験４０，定期試験６０）で評価し，６０点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜プリントなどの資料を配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械システム工学実験Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大浦　靖典 ・ 山根　浩二 ・ 和泉　遊以 ・ 栗本　遼 | |
| 授業概要 | 機械システム工学の基礎知識の体得，実験に関する基礎知識・技術の習得が授業の目的である。機械システム工学に関連する基礎実験を通して，熱力学，流体力学，材料力学，機械力学などの講義で学んだ知識の理解を深める。受講者を４つのグループに分けて，４つの実験をローテーションする。 | |
| 到達目標 | (1)熱力学，流体力学，材料力学，機械力学の講義で学んだ知識に関連した実験　を行うことにより，これらを具体的に理解し，説明でき，ものづくりに応用で　きるようになる(D-3)。<br>(2)課題に対して学習した成果を教員や班員の前で発表･討論し，わかりやすく　伝える能力と，意見を聴いて理解する能力を身につける(F)。<br>(3)課題を実験により解決するために実験計画を作って，計画力を養う(H)。 | |
| 成績評価 | 実験報告書７０％　課題演習３０％　全回に出席し、実験報告書をすべて受理されることが単位を取得するために必要である。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験指導書（授業の中で配布する。）<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械システム工学実験Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河﨑　澄 ・ 安田　寿彦 ・ 安田　孝宏 ・ 西岡　靖貴 | |
| 授業概要 | 機械システムの設計製作に必要な基礎能力を体得する。簡単な機械システムの設計・試作・評価実験を通して，未知の課題に対する工学的手法によるアプローチを体得する。４つのテーマから１つのテーマを選択してを実験する。これまでに，設定されたテーマの例としては「小型スターリングエンジンの設計・製作および性能試験」,「風力発電機の製作および性能評価」,「定量水くみ装置の製作と性能評価」,「マイクロコンピュータ応用システムの製作および性能評価」などがある。 | |
| 到達目標 | (1)熱，流体，材料力学および機械要素，機械設計製図などの専門知識を活用して，課題の設計・製図ができる（E）<br>(2)コスト，製作期間，加工工程などを考慮して、計画的に材料調達，さらに加工・組立などを行い，試作機が製作できる（H）。<br>(3)調査，評価，　改良を通して、積極的かつ自主的に問題解決に取り組むことができる（G）。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)～(3)を，実験遂行能力（準備実験あるいは予備調査，構想力，設計能力，製作能力，評価・改良能力）70%，中間および最終報告 10%，実験結果報告書 20%により評価する．全回出席し，実験報告書を受理されることが単位を取得するために必要である． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験指導書（授業の中で配布する。）<br>指定図書：適宜紹介参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械システム工学セミナー | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高松　徹 ・ 安田　寿彦 | |
| 授業概要 | インクジェットプリンタ，電気掃除機，レンズ付フィルム，目覚まし時計，などのように身近に存在している工業製品の分解および再組立を通じて機械システムの動作原理，構成要素，材料，加工，設計など，ものづくりにおいて重要かつ基礎的な事項について体験的に理解することにより，機械技術者として必要な素養を磨くことを目標とする。 | |
| 到達目標 | (1)様々な機械の「分解・組立」を行うことにより，機械技術者としての基本的な技能を学ぶ(D-1)。<br>(2)文書作成、図書館情報の効率的収集、プレゼンテーションなどに関する基本的な技能を学ぶ(G)。<br>(3)協力性やコミュニケーション能力を学ぶ（F)。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)，(3)に関しては，全ての課題を提出すること、構成要素，メカニズムについて理解し，説明できること、を基準として評価する（各 45%）、到達目標(3)に関しては、わかりやすいプレゼンテーションができることを基準として評価する（10%)。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを適宜配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械製作 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中川　平三郎※ | |
| 授業概要 | 工学部の基本方針である「ものつくり教育」を成就するように勤める．その一講義として機械によって製品・部品を作る方法，基礎的な原理，機構について理解をし，後から習う講義課目との有機的結合を図る．　１つの製品や部品は様々な工程を経て造られる．要求されるコスト，精度，納期を達成するためには，様々な加工方法が考えられ，採用されている．これらの基本的な加工方法全般について理解する． | |
| 到達目標 | (1)専門的な機械加工方法のイメージが掴めるようになる(D-1).<br>(2)様々な製品にある部品の製作方法が想像できるようになる(D-1).<br>(3)実際の部品を見て製作法の工夫点が読み取れるようになる(D-2).<br>(4)専門用語の内容が理解できる(D-2). | |
| 成績評価 | 中間試験（４０%），期末試験（６0%）　機械製作は学習項目が多いので２分割して試験を行う．ただし期末試験では総合的な内容を織り込んだ試験とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：機械加工　朝倉書店指定図書：機械製作通論（上）（下）、東京大学出版参考書：機械加工学コロナ、精密工作法(上)(下)第 2 版共立出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械製作実習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河﨑　澄 | |
| 授業概要 | 受講生自らが工作機械を操作し，素材から製品を作り上げる作業を実習することにより，工業製品がどのような工程を経て作られるのかを理解するとともに，機械加工技術の基礎を習得することを目的とする。そのため，小型ヤンキーバイスの製作，NC プログラミング実習，表面粗さ・幾何公差測定を行う。さらに，本実習と並行して行われる機械設計製図の講義と連携し，課題の設計・製作を行うことにより，ものづくりの設計プロセスと加工プロセスの関係を理解する。また、機械加工を安全に行うことを学ぶ。実習は，少人数のグループを編成してローテーションで行う。 | |
| 到達目標 | (1)様々な工作機械の加工原理と基本動作を説明できる(D-1)。<br>(2)機械製図の意味を理解し，部品製作に必要な加工法と加工順序を説明できる(D-3)。<br>(3)各種工作機械を用いて基本的な形状の部品を製作することができる(D-3)。<br>(4)加工精度・表面粗さなどを評価することができ，加工条件との関係を説明できる(D-3)。<br>(5)安全を意識しながら機械製作作業を行うことができる(D-1)。 | |
| 成績評価 | 単位を取得するためには，原則として全ての実習作業を行い，かつ作業報告書を提出しなければならない。到達目標(1)(2)(4)は，作業報告書（各 10%,15%,15%,計 40%），および確認テスト(各 10%,15%,15%,計 40%)により評価する．到達目標(3)(5)は，作業習熟度（各 5%,15%,計 20%）により評価する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：テキストを配布する。<br>指定図書：「機械加工」（朝倉書店），「機械製作法通論(上)(下)」（ 東京大学出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械設計演習Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 南川　久人　・　安田　孝宏 | |
| 授業概要 | 製図総則に基づいて，CAD（Computer Aided Design；計算機援用設計）を利用した機械製図を行う技術を習得すると同時に，機械設計の基礎力を養うことを目的とした演習を行う。まず，2 次元 CAD を用いて基本図形を描く方法，3 次元 CAD による設計の技法の基礎を，課題を通して学習する。その際，できるだけ機械要素や機械部品などを実際に眼で見て，指で触れて，設計・製図に反映する能力を養う。また，自ら設計したものをＣＡＭ（Computer Aided Manufacturing；計算機援用製造）システムにより実際に製作する技術を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)機械設計製図で学んだ知識を活かし，2 次元 CAD を利用した機械製図が描けるようになる。<br>(2)3 次元 CAD，CAM による設計の技法や評価方法を習得する。<br>(3)与えられた機能に対し，簡単な機構で機能を発揮する機械を設計・製図できる能力を身につける。<br>(4)これまでに学んだ力学等の知識を基礎に，与えられた仕様に対し既存の機械を参考に設計・製図できる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)，(2)については課題と確認テスト(40%：(1)20%, (2)20%)，(3)，(4)については課題(60%：(3)20%, (4)40%)で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。期限以内に必ずすべての課題を提出すること。授業には全回出席すること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：大西　清著「ＪＩＳにもとづく機械設計製図便覧」（理工学社）あるいは，植松育三・他著「初心者のための機械製図」（森北出版）：毎回持参すること。なお，ＣＡＤソフトの操作ガイド，各課題の参考資料等は授業中に配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械設計演習Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田邉　裕貴 ・ 和泉　遊以 | |
| 授業概要 | 機械設計の基礎および CAE を用いた設計を，実験と演習を通して修得することを目的とする。まず，従来設計の基礎となる強度計算法および CAE の代表的手法である有限要素法（FEM）の基礎とモデリングについて学習する。簡単な事例についての実験や解析を講義と平行して行い，実際の現象や設計の基礎に関する理解を深める。さらに，機器に求められる性能から機械要素部品の仕様を決定する流れと，CAE を用いた設計技術について学ぶ。これらの内容をもとに，与えられた仕様を満足する歯車減速機の設計を行う。 | |
| 到達目標 | (1)材料力学などの講義で学んだ知識を機械設計に活用できる(D-3)。<br>(2)機器に求められる性能から，機械要素部品の仕様を決定できる（E)。<br>(3)設計書と図面により，設計内容を正確に表すことができる(D-3)。<br>(4)簡単な事例について FEM モデルを作成し，境界条件・荷重条件を設定できる。また，解析結果を機械設計に活用できる（E)。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)について，設計書（25%），レポート（40%），小テスト（100%）により評価する。到達目標の(2)について，設計書（25%），レポート（20%）により評価する。到達目標の(3)について，設計書（25%）により評価する。到達目標の(4)について，設計書（25%），レポート（40%）により評価する。100 点満点（設計書 50%，レポート 30%，小テスト 20%）で採点し，60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：網島・下間「機械設計学」オーム社，大西「ＪＩＳにもとづく機械設計製図便覧」理工学社，日本機械学会「JSME テキストシリーズ材料力学」丸善<br>指定図書：東町「有限要素法のノウハウ」森北出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械設計演習Ⅲ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栗田　裕 ・ 大浦　靖典 | |
| 授業概要 | 制御系設計では，「DC モータを用いた円板の回転位置決め制御」の課題を通して，動的システムの表し方（微分方程式，伝達関数，ブロック線図），フィードバック制御系の設計法（極配置，ボード線図），設計した制御系の性能評価法を修得する。制御系解析ソフト「MATLAB/Simulink」を用いて制御系の設計とシミュレーション・実験による検証を行い，機械を制御することを体験させる。機構設計では，基本的なメカニズムであるリンク機構を取り上げ，ワイパーの設計を行う。設計結果を，機構解析ソフト「ADAMS」を用いて検証する。 | |
| 到達目標 | (1) 動的システムを微分方程式・伝達関数・ブロック線図を用いて表せる。<br>(2) 極配置・ボード線図を用いてフィードバック制御系を設計できる。<br>(3) 設計した制御系の性能を評価できる。<br>(4) 4 節リンク機構を設計できる。 | |
| 成績評価 | 全回出席すること（病気等やむを得ず出席できないときは，必ず事前に担当教員に届け出て，代替授業の指示を受けること)。到達目標の (1) ～ (4) を，小テスト (40%)，設計課題 (60%) で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（授業内容に関するプリントを毎週配布する）<br>指定図書：田中正吾・山口静馬・和田憲造・清水光著『制御工学の基礎』（森北出版）<br>参考書：川田昌克・西岡勝博著『MATLAB/Simulink によるわかりやすい制御工学』（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械設計製図 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高松　徹 ・ 山野　光裕 | |
| 授業概要 | 機械の設計は図面という形で表現され，図面から設計者の意図、製作に必要な情報が得られる。最近，コンピュータを利用した CAD システムが広く使われるようになり，人が鉛筆を持って製図することが少なくなっているが，あらかじめ製図のルールを理解することが必要である。本講義では JIS にもとづく機械製図の基礎を習得することを目的として，実際に鉛筆と製図用具を使って，紙の上に図面を描きながら，機械製図のルールを学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)正しい線の書き方および使い方ができる。<br>(2)第三角投影法に基づく製図，断面図の書き方，補助投影図の書き方，寸法記入法ができる。<br>(3)寸法公差、幾何公差、面の肌、および溶接記号の記入法ができる。<br>(4)ねじ、歯車、軸受け，等の基本機械要素の表し方，ができる。<br>(5)製作を意識した図面を描くことができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)～(5)に関する講義内容を正確に理解していることを基準として、全ての課題を提出していること（各 10%），期末試験（各 10%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：植松育三・他著　「初心者のための機械製図　第３版」（森北出版）<br>指定図書：大滝英征著　「最新 JIS 準拠・機械製図」（数理工学社）<br>参考書：津村利光・大西清著　「JIS にもとづく機械設計製図便覧」（理工学社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械要素 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山野　光裕 | |
| 授業概要 | 複雑な機械も基本的な機械要素を組み合わせて作られている。多くの機械要素は，どのような機械にも利用できるように，規格に基づいて標準化されていることから，代表的な機械要素の機能や構造を理解して設計できるようになれば，機械全体を設計する力が備わる。本講では，いろいろな機械に共通して使われるねじ，歯車，軸，軸受などの機械要素の働きを理解する。また，それぞれの機械の仕様に合わせて機械要素を設計するための基礎を習得する。 | |
| 到達目標 | (1) 代表的な機械要素である締結要素，軸系要素，伝達要素について，<br>種類や用途を説明でき，求められる機能に応じて適切な機械要素を選択して，<br>強度面でも十分な設計を行なうことができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)について、到達確認テスト 2 回(60%)と期末試験（各 40%）により評価する。2 回の到達確認テストと期末試験の合計で 100 点満点とし，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：吉本成香 著　はじめての機械要素（森北出版）<br>参考書：吉本成香・他著『機械設計 機械の要素とシステムの設計』(オーム社)，林洋次著『機械要素入門 1』(実教出版)，林洋次著『機械要素入門 2』(実教出版)，景山克三著『大学課程 機械要素設計』(オーム社)，吉沢武男著『大学演習 機械要素設計』(裳華房)，その他の参考書は授業で紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械四力学演習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 熱力学，流体力学，材料力学，機械力学は四力学と呼ばれ，ほとんどの機械の設計には不可欠な学問であり，機械工学を志す人の万国共通必須科目である．本演習では，講義で学んだ四力学の基礎と応用力を演習を通して身につけることを目的としている． | |
| 到達目標 | （1）熱力学に関する基礎と応用問題が解ける．<br>（2）流体力学に関する基礎と応用問題が解ける．<br>（3）材料力学に関する基礎と応用問題が解ける．<br>（4）機械力学に関する基礎と応用問題が解ける． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）についての課題と確認テストが 25%，（2）についての課題と確認テストが 25%，（3）についての課題と確認テストが 25%，（4）についての課題と確認テストが 25%，合計 100 点満点とし，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 便宜プリントを配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械力学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栗田　裕 | |
| 授業概要 | 質点・ばね・ダンパからなる簡単なモデルを用いて，自由振動，固有振動数，強制振動，共振など振動学の基礎を修得する。機械力学Ⅰでは，ばねの復元力のように質点に働く力が変位に依存して変化する場合の運動を取扱う。ばねに取付けた質点を静かに引張り手を離すと，質点はつりあい位置を中心に振動する（自由振動）。この質点を自由振動の周波数（固有振動数）で加振すると，小さな力でも大きな振動が発生する（共振）。講義では，動的設計の基礎である固有振動数の計算法や強制振動時の振幅，振動の伝達と絶縁について解説する。 | |
| 到達目標 | (1) 1 自由度振動系（直線振動・回転振動）の運動方程式を立て，固有振動数を算出できる。<br>(2) 力加振・変位加振の強制振動の運動方程式を立て，振幅を算出できる。<br>(3) 振動伝達・振動絶縁のシステムを設計できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の（1）～（3）を，定期試験（80%），宿題（20%）で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：入江敏博・小林幸徳著『機械振動学通論第３版』(朝倉書店)<br>指定図書：井上喜雄ら著『振動の考え方・とらえ方』(オーム社)<br>参考書：藤田勝久著『振動工学』(森北出版) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機械力学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栗田　裕 ・ 大浦　靖典 | |
| 授業概要 | 機械力学Ⅰで学んだ1自由度系の振動現象に関する知識に基づいて，多自由度系の振動や連続体の振動問題に対処する手法を修得する。また，単に振動現象の解析に焦点を当てるのではなく，解析結果に基づいて動的設計を行う能力を養うことも目指す。振動の解析手法としては，多自由度系や連続体の振動に関する固有振動数，固有振動モードの計算法や，強制振動時の振幅，振動の伝達について解説する。また，実際の振動現象を例題に用いて，振動現象のモデル化に始まる動的設計の演習を行うことで，解析能力を設計能力にまで高める。 | |
| 到達目標 | (1) 2 自由度振動系の固有振動数・固有振動モードを算出できる。<br>(2) 2 自由度振動系の伝達特性を算出できる。<br>(3) 多自由度振動系の体系的な取り扱いができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の（1）～（3）を，定期試験（80%），宿題（20%）で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：入江敏博・小林幸徳著『機械振動学通論第３版』（朝倉書店）<br>指定図書：背戸一登・丸山晃一著『振動工学 解析から設計まで』（森北出版）<br>参考書：安田仁彦著『振動工学基礎編』（コロナ社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機器分析Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 徳満　勝久 | |
| 授業概要 | 物質の微細構造を解析するために用いられる紫外・可視吸収，蛍光分析・電子顕微鏡などの分析装置の原理と解析方法などについて講述する。また、試料物質の定量、原子・分子構造などを解析するための赤外・ラマン吸収などの各種測定技術について、化合物の判別や分子量測定に用いられる質量分析，クロマトグラフィー（ガスクロ、液クロ、GPC）や試料中に存在する微量元素分析に用いられる原子吸光・ICP 発光分析について講義する。本講を通じ、材料の基礎的分析方法に関する素養を涵養し、あわせて研究に必要な実際的知識の修得をはかる。 | |
| 到達目標 | ①各分析機器の原理について理解できる。<br>②それぞれの分析機器に関して，分析可能な項目について理解できる.<br>③それぞれ分析機器の特徴により，自ら実験で必要となる機器選定が理解できる。 | |
| 成績評価 | ①定期試験：70%<br>②講義時間内発表およびレスポンスシート等の内容：30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：庄野利之，脇田久伸編著、『入門機器分析化学』（三共出版）<br>指定図書：江藤守總編著，「機器分析の基礎」（裳華房）<br>参考書：R. M. Silverstein 他，『有機化合物のスペクトルによる同定法』（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 機器分析Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷本　智史 | |
| 授業概要 | 物質の構造を評価するために用いられる分析機器について、原理から測定例に至るまでの概略を講義する。核磁気共鳴分光法からは分子構造に関する情報が、熱分析、各種散乱・回折法からは内部の配列構造・規則構造に関する情報が得られる。また、表面の構造を分析するための装置としては反射率測定、プローブ顕微鏡を紹介する。 | |
| 到達目標 | (1) 各種分析機器の原理と概略を理解する。<br>(2) 機器分析Ⅰで扱った分析機器も含め、欲しい情報に対して適切な分析手法を選択できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）については、レポート（20%）と最終テスト（40%）で評価し、(2) については、最終テスト（40%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：授業中に紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 技術者倫理 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣川　能嗣 ・ 南川　久人 ・ 酒井　道 | |
| 授業概要 | 科学技術を通して，人類は便利で豊かな生活を享受している。しかし，その一方で生命と安全を脅かす科学技術の負の側面も次第に明らかとなってきた。このため，科学技術に携わる者として，科学技術の正および負の両面から常に考えることが必要である。本講では，科学技術と技術者の関係，技術者の役割，科学技術の社会への影響について学ぶとともに，それらの基本となる技術者としての倫理について考える。 | |
| 到達目標 | (1) ものづくりにおける技術者の役割と責務について理解すること。<br>(2) 技術の持つ多面性を理解した上で，倫理的側面を含む分析ができること。<br>(3) 技術者の出会う倫理的問題について，社会的に望ましい解決法を考えられること。 | |
| 成績評価 | 毎回の課題レポートで評価（100%）（到達目標(1)、(2)は各 30%,(3)は 40%）<br>１００点満点で評価し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：オムニバス技術者倫理(共立出版)<br>参考書:技術者倫理(放送大学教育振興会)、技術者の倫理(コロナ社)、技術者倫理入門：JABEE 対応(丸善)、技術者倫理(丸善)、エンジニアのための哲学・倫理(実教出版) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎化学（材料） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北村　千寿 | |
| 授業概要 | 化学は、原子間の結合の生成や切断と、その結果として生じる物質とに関する学問である。その基礎は，原子の構造から出発して原子間の結合を考える化学結合論と、原子や分子の集団としての安定性と変化を扱う熱力学である。さらに、物質の変化としての化学反応の分類と系統的扱いも重要な要素である。そこで本講では、これらについて高等学校では別々の内容として習った事項間の関連性に留意しながら講義を行い、化学の基本となる諸概念の理解を目指す。 | |
| 到達目標 | (1)物質の構造がどのように決まるかについて、原子レベルの電子構造から説明できること。<br>(2)物質の状態と状態図について説明できること。<br>(3)様々な物質の化学反応について、その分類と支配因子の概要を理解していること。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1),(2),(3)については、筆記試験 80%と小テスト 20%として評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：野村浩康、川泉文男 共編「理工系学生のための化学基礎 第 6 版」（学術図書出版社）<br>参考書：各人の高校の数学、物理・化学の教科書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎化学（機械システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　純 | |
| 授業概要 | 化学は，原子間の結合の生成や切断と，その結果として生じる物質とに関する学問である。その基礎は，原子の構造から出発して原子間の結合を考える化学結合論と，原子や分子の集団としての安定性と変化を扱う熱力学である。さらに，物質の変化としての化学反応の分類と系統的扱いも，重要な要素である。そこで本講ではこれらについて，高等学校では別々の内容として習った事項間の関連性に留意しながら講義を行い，化学の基本となる諸概念の理解を目指す。 | |
| 到達目標 | （1）物質の構造がどのように決まるかについて，原子レベルの電子構造から説明できること。<br>（2）物質の状態と状態図について説明できること。<br>（3）様々な物質の化学反応について，その分類と支配因子の概要を理解していること。 | |
| 成績評価 | （1）物質の構造　（期末筆記試験 30%，宿題 5%）<br>（2）物質の状態　（期末筆記試験 30%，宿題 10%）<br>（3）物質の反応　（期末筆記試験 20%，宿題 5%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：野村浩康，川泉文男 共編　「理工系学生のための化学基礎　第６版」（学術図書出版）<br>参考書：各人の高校の数学，物理，化学の教科書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎化学（電子システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥　健夫 | |
| 授業概要 | 化学は，原子間の結合の生成や切断と，その結果として生じる物質とに関する学問である。その基礎は，原子の構造から出発して原子間の結合を考える化学結合論と，原子や分子の集団としての安定性と変化を扱う熱力学である。さらに，物質の変化としての化学反応の分類と系統的扱いも，重要な要素である。そこで本講ではこれらについて，高等学校では別々の内容として習った事項間の関連性に留意しながら講義を行い，化学の基本となる諸概念の理解を目指す。 | |
| 到達目標 | (1) 物質の構造がどのように決まるかについて，原子レベルの電子構造から説明できること。<br>(2) 物質の状態と状態図について説明できること。<br>(3) 様々な物質の化学反応について，その分類と支配因子の概要を理解していること。 | |
| 成績評価 | (1) 物質の構造　（筆記試験 30%，宿題 5%）<br>(2) 物質の状態　（筆記試験 30%，宿題 10%）<br>(3) 物質の反応　（筆記試験 20%，宿題 5%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：野村浩康，川泉文男 共編　「理工系学生のための化学基礎　第６版」<br>（学術図書出版）<br>参考書：各人の高校の数学，物理，化学の教科書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎結晶学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮村　弘 | |
| 授業概要 | 無機材料の多くは結晶性の固体であり、単結晶が集まった多結晶体である。したがって、無機材料の諸性質を理解するためには、結晶に対する理解が不可欠である。本講義では、結晶の周期性や構造の記述法<br>およびＸ線を用いた構造解析の基礎について学習する。 | |
| 到達目標 | (1)結晶を７つの結晶系に分類できる<br>(2)格子定数の記述ができ、与えられたミラー指数の面について、間隔を計算できる<br>(3)種々の結晶について、粉末Ｘ線回折図に出現するピークの位置が計算できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)、(3)の各々について、<br>定期試験（80%；(1)20%、(2)30%、(3)30%）<br>小テストおよび演習（20%；(1)6%、(2)7%、(3)7%）で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：早稲田嘉夫・松原英一郎著「X 線構造解析」内田老鶴圃<br>参考書：カリティ著・松村源太郎訳「X 線回折要論」（アグネ）<br>参考書：坂公恭著「結晶電子顕微鏡学」内田老鶴圃 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎電気電子回路 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岸根　桂路 | |
| 授業概要 | 電気・電子回路の考え方は、電気・電子の分野だけでなく機械システムや物理系分野における現象の記述、解析へ応用可能であり汎用性が高い。電子工学の基本となる電気・電子回路に関する基礎的な項目を解説し、直流・交流回路からトランジスタ回路まで電気・電子回路の基礎を学ぶ。今後の学習・研究に役立つ基礎的な能力を養うことを目標とする。 | |
| 到達目標 | (1)基本的な法則を理解し，回路動作に関する電流・電圧特性を説明できる。<br>(2)交流理論を把握し，回路における電流・電圧特性を説明できる。<br>(3)オペアンプ等をから構成される回路の動作を理解し，電流・電圧特性を説明できる。<br>(4)回路理論を理解し，回路動作特性を記述できる. | |
| 成績評価 | 講義中に課した課題の評価:　回路理論を理解し，回路動作特性を記述できる(40%)。<br>期末試験の結果:基本的な法則を理解し,回路動作に関する電流･電圧特性を説明できる(40%)。交流理論を把握し，回路における電流・電圧特性を説明できる(10%)。オペアンプ等をから構成される回路の動作を理解し，電流・電圧特性を説明できる(10%)。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：　奥村浩士 著　「エース電気回路理論入門」　（朝倉書店）参考書：適宜プリントの配布、参考書の紹介を行う。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎電磁気学（材料科学） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 作田　健 | |
| 授業概要 | 電磁気学は，工学全般において基礎技術として広く用いられており，特にエレクトロニクスや電気回路と密接に関係している．本講義では，静電場，定常電流，電流と磁場，さらに電磁誘導など電磁気学に関する基礎的事項について理解する．また，電磁気学から見たコンデンサー，抵抗，コイル等の電気回路素子についても合わせて学習し，電気・電子機器の理解の助けとする． | |
| 到達目標 | (1)電荷と電場および電位，誘電体とコンデンサーの概念を理解すること．<br>(2)定常電流の保存則，抵抗とオームの法則を理解すること．<br>(3)電流と磁場，磁性体の概念を理解すること．<br>(4)ファラデーの電磁誘導の法則を理解すること．<br>(5)コイルの自己インダクタンスと相互インダクタンスの概念を理解すること． | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)から(5)を総合して，定期試験を 80%，レポートを 20%として評価する．100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：砂川重信著 「電磁気学 ［改訂版］ 初めて学ぶ人のために」 （培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎電磁気学（機械システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福岡　克弘 | |
| 授業概要 | 電磁気学は，工学全般において基礎技術として広く用いられており，特にエレクトロニクスや電気回路と密接に関係している．本講義では，静電場，定常電流，電流と磁場，さらに電磁誘導など電磁気学に関する基礎的事項について理解する．また，電磁気学から見たコンデンサー，抵抗，コイル等の電気回路素子についても合わせて学習し，電気・電子機器の理解の助けとする． | |
| 到達目標 | (1) 電荷と電場および電位，誘電体とコンデンサーの概念を説明できる．<br>(2) 定常電流の保存則，抵抗とオームの法則を説明できる．<br>(3) 電流と磁場，磁性体の概念を説明できる．<br>(4) ファラデーの電磁誘導の法則を説明できる．<br>(5) コイルの自己インダクタンスと相互インダクタンスの概念を説明できる． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1),(2)については，中間試験（20%：(1)10%,(2)10%）と課題レポート(15%）で評価する．(3),(4),(5)については，定期試験（50%：(3)20%,(4)15%,(5)15%）と課題レポート(15%)で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：砂川重信著 「電磁気学 ［改訂版］ 初めて学ぶ人のために」 （培風館）<br>指定図書：電気学会著 「電気学会大学講座：電気磁気学」（出版：電気学会 ，発売：オーム社）<br>参考書：関根 松夫・佐野 元昭著 「電磁気学を学ぶためのベクトル解析」（コロナ社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎電磁気学（電子システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 乾　義尚 | |
| 授業概要 | 電磁気学は，工学全般において基礎技術として広く用いられており，特にエレクトロニクスや電気回路と密接に関係している．本講義では，静電場，定常電流，電流と磁場，さらに電磁誘導など電磁気学に関する基礎的事項について理解する．また，電磁気学から見たコンデンサー，抵抗，コイル等の電気回路素子についても合わせて学習し，電気・電子機器の理解の助けとする． | |
| 到達目標 | (1) 静電場について理解し，説明できること．<br>(2) 電流による磁場および電磁誘導について理解し，説明できること．<br>(3) 電磁気学の基礎について興味を持ち，自主的に学習できること． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)，(2)については，定期試験（80%：(1)40%，(2)40%），(3)については，レポート（20%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：砂川重信著 「電磁気学 ［改訂版］ 初めて学ぶ人のために」 （培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎熱力学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥　健夫 | |
| 授業概要 | 物理化学の基礎事項である熱力学の理解が本講義のねらいである。本講義では熱力学の基礎である、気体の性質、熱力学第一法則、熱力学第二法則、熱力学第三法則、熱力学関数について講述する。 | |
| 到達目標 | (1) 気体の性質の理解<br>(2) 熱力学第一法則の理解<br>(3) 熱力学第二法則、熱力学第三法則の理解<br>(4) エントロピー、自由エネルギー等の計算ができる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1-4)について、筆記試験 70%、レポート 30%、100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>(1) 気体の性質の理解　　筆記試験 14%　レポート 6%<br>(2) 熱力学第一法則の理解　筆記試験 28%　レポート 12%<br>(3) 熱力学第二法則、熱力学第三法則の理解　　筆記試験 14%　レポート 6%<br>(4) エントロピー、自由エネルギー等の計算ができる　　筆記試験 14%　レポート 6% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：P. W. Atkins 著、千原秀昭・中村亘男訳、「アトキンス物理化学(上)」第８版（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎力学（材料） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山根　浩二 | |
| 授業概要 | 本講義は力学法則に基づく物理現象の数式的理解を求めている。基礎物理学のうちの力学に焦点を絞り，高い数学的表現はできるだけ避け，内容が理解できるように配慮している。また，原則として毎回宿題を課し，予習・復習による一層の理解を求めている。 | |
| 到達目標 | (1)物体にはたらく力をベクトルで説明できる。<br>(2)運動の法則を理解し，質点の運動方程式を記述することができる。<br>(3)運動エネルギーと仕事の関係を説明できる。<br>(4)運動量と力積の関係を説明できる。<br>(5)慣性モーメントを理解し，剛体の運動方程式を記述することができる。 | |
| 成績評価 | 成績評価は，到達目標の（１）～（３）に関して中間試験 57%および宿題またはクイズ 3%で，（４）（５）に関して定期試験 38%および宿題またはクイズ 2%で評価し，合計 100 点満点（内訳：定期試験３８，中間試験５７，宿題またはクイズ５）で採点し 60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：野崎光昭監訳「物理学の基礎　[1]力学」（培風館）およびプリント<br>参考書：野崎光昭監訳「演習・物理学の基礎　[1]力学」（培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎力学（機械システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栗田　裕 | |
| 授業概要 | 本講義は力学法則に基づく物理現象の数式的理解を求めている。基礎物理学のうちの力学に焦点を絞り，高い数学的表現はできるだけ避け，内容が理解できるように配慮している。また，原則として毎回宿題を課し，予習・復習による一層の理解を求めている。 | |
| 到達目標 | (1)物体にはたらく力をベクトルで説明できる。<br>(2)運動の法則を理解し，質点の運動方程式を記述することができる。<br>(3)運動エネルギーと仕事の関係を説明できる。<br>(4)運動量と力積の関係を説明できる。<br>(5)慣性モーメントを理解し，剛体の運動方程式を記述することができる。 | |
| 成績評価 | 成績評価は，到達目標の（１）～（３）に関して中間試験 57%および宿題またはクイズ 3%で，（４）（５）に関して定期試験 38%および宿題またはクイズ 2%で評価し，合計 100 点満点（内訳：定期試験３８，中間試験５７，宿題またはクイズ５）で採点し 60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：野崎光昭監訳「物理学の基礎　[1]力学」（培風館）およびプリント<br>参考書：野崎光昭監訳「演習・物理学の基礎　[1]力学」（培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎力学（電子） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河﨑　澄 | |
| 授業概要 | 本講義は力学法則に基づく物理現象の数式的理解を求めている。基礎物理学のうちの力学に焦点を絞り，高い数学的表現はできるだけ避け，内容が理解できるように配慮している。また，原則として毎回宿題を課し，予習・復習による一層の理解を求めている。 | |
| 到達目標 | (1)物体にはたらく力をベクトルで説明できる。<br>(2)運動の法則を理解し，質点の運動方程式を記述することができる。<br>(3)運動エネルギーと仕事の関係を説明できる。<br>(4)運動量と力積の関係を説明できる。<br>(5)慣性モーメントを理解し，剛体の運動方程式を記述することができる。 | |
| 成績評価 | 成績評価は，到達目標の（１）～（３）に関して中間試験 57%および宿題またはクイズ 3%で，（４）（５）に関して定期試験 38%および宿題またはクイズ 2%で評価し，合計 100 点満点（内訳：定期試験３８，中間試験５７，宿題またはクイズ５）で採点し 60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：野崎光昭監訳「物理学の基礎　[1]力学」（培風館）およびプリント<br>参考書：野崎光昭監訳「演習・物理学の基礎　[1]力学」（培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 金属加工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 金属加工には，一般に溶融加工，塑性変形・成形加工，機械的除去加工，特殊加工（高エネルギ密度加工，電気・化学加工）などがある。まずこれらの加工の概論について解説を行なった後，生産現場で中核的な役割を担う機械的除去加工の一つである切削加工と研削加工につい講義する。切削加工では，切削機構，切削抵抗，切削温度，工具損傷，切削仕上げ面性状などについて学ぶ。さらに，研削加工では，研削加工の分類，研削砥石，研削機構などの基礎的な事項について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 切屑の形状について説明できる。<br>(2) ２次元切削の模式図を描き，この図からせん断角，切削抵抗の式を導くことができる。<br>(3) 構成刃先の定義，功罪について説明できる。<br>(4)研削砥石の３要素と５要因について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）と（2）の達成度を確認する宿題と中間試験をそれぞれ 10%，15%で評価，（3）と（4）の達成度を確認する宿題と定期試験をそれぞれ 10%，15%で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：田中義信，津和秀夫，井川直哉著，精密工作法上第２版（共立出版）および<br>プリント補助教材<br>指定図書：中嶋利勝・鳴瀧則彦共著「機械加工学」（コロナ社）<br>参考書　：藤村善雄著「実用切削加工法」第２版（共立出版）<br>仁平宣弘・朝比奈奎一著「機械材料と加工技術」（技術評論社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 金属材料 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Balachandran Jeyadevan | |
| 授業概要 | 一般に現在多く使用されている金属材料について、基礎知識を学ぶとともに、金属材料の中でも重要な鉄鋼材料についてその製造法と諸特性を理解し、実際に使用するときに必要な金属学的な知識を身につける。鉄鋼材料の状態図、熱処理にともなう相変態、再結晶、析出等の金属における基本的現象とその考え方を学び、鉄鋼材料の熱処理と組織制御について理解を深める。 | |
| 到達目標 | 金属の結晶構造、結晶面、結晶方向、格子欠陥、すべり変形、強さ等の基礎知識の習得。原子の拡散方程式を理解し、応用できる。鉄鋼材料の熱処理と組織制御についての知識を修得し、実用材料の特性を把握する。 | |
| 成績評価 | 小テスト（４０%）、定期試験（６０%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講座　現代の金属学　材料編　第４巻　鉄鋼材料（日本金属学会）　参考書：谷野満、鈴木茂　『鉄鋼材料の科学　－鉄に濃縮されたテクノロジー』　株式会社　内田老鶴圃 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 計測工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 和泉　遊以 | |
| 授業概要 | 近年，工学・工業において，計測はその重要度をますます増大しつつある。また，計測精度の観点から見ても，飛躍的に進歩してきている。本講義では，まず計測の基礎として，単位，単位系，次元，標準，不確かさ評価，測定データの解析方法等について解説し，続いて各種物理量に対する計測法の計測原理と，計測技術，センサーの構造とその利用法について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)計測と測定の違い，SI 単位系の意義と要点，標準とトレーサビリティ等の用語の意味を説明できる。<br>(2)間接測定量の不確かさを，各要素測定不確かさから算出できる。<br>(3)最小二乗法の意味を説明でき，一次回帰式を算出できる。<br>(4)各種物理量の代表的な計測法の原理，長所と短所，適用事例について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)，(2)，(3)，(4)について，定期試験（70%：（１）15%，（２）15%，（４）40%）と課題レポート（30%：（１）5%，（２）5%，（３）5%，（４）15%）で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：南茂夫ほか「はじめての計測工学」(講談社サイエンティフィク)，プリント配布<br>指定図書：岩田ほか「新版 機械計測」(朝倉書店)，中村「計測工学入門」(森北出版)参考書：谷口・掘込「計測工学」(森北出版)，門田「絵ときでわかる計測工学」(オーム社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 工業数学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 酒井　道 | |
| 授業概要 | 科学や工学のあらゆる分野において現れる複素関数を前半で講義し、フーリエ解析を後半で講義する。 | |
| 到達目標 | フーリエ変換と複素関数の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。 | |
| 成績評価 | 期末試験の結果によって評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「フーリエ解析＝基礎と応用」松下泰雄著（培風館）<br>参考書　：「複素関数要論」田代嘉宏著（森北出版）<br>「波のしくみ」佐藤文隆・松下泰雄共著（講談社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 工業力学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栗田　裕 | |
| 授業概要 | 質点の力学と剛体の力学を，工業的な事例を通して修得する。物体に力が加わると，物体の運動は変化する。本講義では，物体の最も基本的なモデルである質点と剛体を取り上げて，物体に働く力と運動の関係について解説する。まず，運動状態を変化させる原因である力の表し方や合成と分解，つりあいについて述べる（静力学）。　次に，この力によって質点や剛体がどのように運動するのかを講義する。力と運動を結びつけるのが，運動の法則である（動力学）。単に数式を追うだけでなく，具体的な事例を通して，力学の基礎概念を理解する。 | |
| 到達目標 | (1) 質点および剛体に働く力を求めることができる。<br>(2) 物体の重心を求めることができる。<br>(3) 速度と加速度を用いて，物体の運動を表現できる。<br>(4) 質点の運動方程式を立てて，解くことができる。<br>(5) 剛体の慣性モーメントを求めることができ，剛体の運動方程式を立て解くことができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の（1）～（5）を，定期試験（80%），宿題（20%）で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：入江敏博著『詳解工業力学』（理工学社）<br>指定図書：国枝正春著『機械実用力学』（理工学社）<br>参考書：大熊正明著『新・工業力学』（数理工学社），青木弘・木谷晋『工業力学第 3 版』（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 高分子合成 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷本　智史 | |
| 授業概要 | 高分子化合物は全ての生体を構成している主要な物質であるとともに、人間生活に必要な衣食住をはじめ先端技術を支える材料として広く用いられている。本講義では、高分子化学の歴史と高分子を合成するための原理を述べ、次いで、各種合成高分子を生成させる方法と反応機構について具体的な例をあげながら説明する。さらに、高分子の分子量や構造を制御する原理について述べ、高分子設計の基本的な考え方について解説する。 | |
| 到達目標 | (1) 重合反応の種類を区別できる。<br>(2) 重縮合の分子量制御の原理を説明できる。<br>(3) 付加重合の進行メカニズムを説明できる。<br>(4) ラジカル共重合の分子組成決定法を説明できる。<br>(5) 身近な高分子材料の種類がわかり、性質と構造の関係が説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示した (1)、(2)、および (5) については、それぞれ中間試験 (10%)、期末試験 (10%) で評価する。(3) および (4) については、それぞれ期末試験 (20%) で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：基礎化学コース　高分子化学 I 合成、中條善樹著、丸善株式会社<br>指定図書：理化学辞典、岩波書店<br>参考書：高分子化学序論(第２版)、岡村誠三ら著、化学同人 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 高分子物性 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 徳満　勝久 | |
| 授業概要 | 我々の身の回りは高分子材料でできたものであふれている。高分子材料は日常用材料に留まらず，構造材料や宇宙・深海材料として広く利用されている。高分子材料は，分子量が大きいために低分子材料とは異なった特徴を有する。この特徴について解説することが本講義のねらいである。そのために，まず，高分子について，続いて高分子の構造，高分子鎖の形態と溶液の性質，高分子の物性について講述する。特に，高分子の特徴に焦点を絞りながら，高分子物性の基礎的概念の導入を行う。 | |
| 到達目標 | ①高分子材料の物性の多様性について理解できる。<br>②高分子の分子量，形態変化などが高分子材料の各種物性に与える影響について理解できる。<br>③高分子の一次構造から高次構造にわたる構造上の特徴が理解でき，尚かつそのマクロな物性との関係について理解できる。 | |
| 成績評価 | ①定期試験：70%<br>②講義時間内発表およびレスポンスシート等の内容：30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：①『高分子科学の基礎』(東京化学同人)、②『高分子基礎科学』(昭晃堂)、③『新高分子化学序論』(化学同人)、④『わかりやすい高分子化学』(三共出版)、⑤『TEXTBOOK OF POLRYMER SCIENCE, 3rd ed.』(Wiley-Interscience) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 固体物性基礎 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥　健夫 | |
| 授業概要 | 現代科学技術を支える様々な材料では、これらの物質中の原子配列・電子等の振る舞いが、材料の性質を支配している。材料科学の基礎事項である固体物性の基礎の理解が本講義のねらいである。本講義では、結晶の構造から格子振動、電子構造、金属、誘電体、磁性体、半導体、超伝導体などをとりあげ、さらに電磁場との相互作用、格子欠陥、拡散についてもふれる。 | |
| 到達目標 | 到達目標 評価手段 評価比率 (%)<br>(1) 結晶構造、回折、格子振動、電子構造の理解　　筆記試験 14%　レポート 6%<br>(2) 金属、半導体、誘電体の理解　筆記試験 35%　レポート 15%<br>(3) 磁性体、超伝導体、格子欠陥、拡散等の理解　　筆記試験 21%　レポート 9% | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)-(3)について、筆記試験 70%、レポート 30%で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | コンピュータアーキテクチャ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 酒井　道 | |
| 授業概要 | コンピュータの処理方式と構成方式を理解し、それを効果的に利用するための技術を修得することの意義は大きい。本講義では、コンピュータの基本構造と動作原理としてのコンピュータアーキテクチャを扱う。プロセッサアーキテクチャとシステムアーキテクチャを主としたもとで、コンピュータアーキテクチャを学習する上での予備知識から基本概念、構造、および役割を講述する。また、命令レベル並列処理などコンピュータの高速化を図る技術についても触れる。 | |
| 到達目標 | コンピュータアーキテクチャに関する概念と技術を理解して基本的事項について説明できるとともに、基礎的な演習問題が解ける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す内容に関して、定期試験（80%）、レポート（20%）で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：坂井 修一著「コンピュータアーキテクチャ」（コロナ社）<br>指定図書と参考書は、追加情報を参照のこと。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | コンピュータソフトウェア | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 畑中　裕司 | |
| 授業概要 | 高級言語を機械命令プログラムに変換するコンパイラについて、プログラミング言語との動作の関係、字句解析法、構文解析、コード生成法などについて学ぶ。また、オペレーティングシステムの役割とその構造、スケジューリング、実記憶と仮想記憶、通信処理方式などについて学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)コンパイラの役割・構成について説明でき、問題を解答できる。<br>(2)字句解析、構文解析、意味解析、コード生成について説明でき、問題を解答できる。<br>(3)OS におけるプロセス管理とスケジューリングについて説明でき、問題を解答できる。<br>(4)実記憶と仮想記憶について説明でき、問題を解答できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)～(4)については、定期試験（80%：(1)10%、(2)30%、(3)20%、(4)20%）で評価する。さらに、到達目標で示す(1)～(4)については、授業の進捗に応じてレポート（20%：(1)2%、(2)8%、(3)5%、(4)5%）を課し、評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：白鳥則郎、高橋薫、神長裕明著「ソフトウェア工学の基礎知識」（昭晃堂）、大久保英嗣著「オペレーティングシステムの基礎」（サイエンス社）<br>参考書：中田育男著「コンパイラ」（オーム社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | コンピュータハードウェア | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 酒井　道 | |
| 授業概要 | コンピュータの基本的な機能、構造および動作を知ることを目的とする。まずコンピュータの基本的な動作に触れた後、コンピュータハードウェアの基本構成要素をディジタル回路、とくにゲート素子、組合せ回路および順序回路の視点から、それらに関する考え方と設計法に関する基礎的事項を扱う。次いで算術論理演算装置（ALU）の構成について論じ、プロセッサの構成と機能、および記憶装置と入出力装置について触れる。 | |
| 到達目標 | コンピュータハードウェアに関する概念と技術を理解して基本的事項について説明できるとともに、基礎的な演習問題が解ける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す内容に関して、定期試験（80%）、レポート（20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：後藤 宗弘著「電子計算機（第 2 版）」（森北出版）<br>指定図書：山田 満雄、新井 浩志著「例題で身につけるコンピュータハードウェア入門」（丸善）<br>参考書：富田 真治、中島 浩著「コンピュータハードウェア」（昭晃堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料開発工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Balachandran Jeyadevan ・ 鳥羽　隆一※ ・ 白鳥　寿一※ ・ 室園　幹夫※ ・ 木村　愼一※ | |
| 授業概要 | ある物質を実用可能な材料とするには，別の物質，製造装置開発，操業条件制御など，様々な技術が必要とされる。たとえば積層電子部品は金属とセラミックスの微粒子を積層して作るが，その過程では有機分子によるスラリー制御がコア技術である。また産業用プラスチックの多くには無機微粒子が練りこまれ，その選択が製品特性を左右する。この講義では材料開発の現場に携わる非常勤講師によるこのような実例の提示を中心に置き，材料開発の方法論を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)各種材料について，材料や製造プロセスの特徴が技術開発とどのように係るかを理する。<br>(2)各種材料の特徴と，それを生かした市場の開拓について理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)(2)について、それぞれレポート試験 50%で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料科学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥　健夫 ・ 廣川　能嗣 | |
| 授業概要 | 材料科学への入門がねらいで、各種材料の基本的な物質特性の入門的な解説を下記の内容で行う。各種金属材料、セラミックス材料、半導体材料、有機材料、高分子材料、有機機能材料の特徴、製造法、構造と物性の関連、応用について解説するとともに、環境に関わる材料科学の課題について述べる。 | |
| 到達目標 | 金属材料、セラミックス材料、半導体材料、有機材料、高分子材料、有機機能材料の特徴を説明できること。 | |
| 成績評価 | 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>100 点の内訳は、第 1 回～8 回が 50 点、第 9 回～第 15 回が 50 点とする。<br>第 1 回～第 8 回の 50 点については、小テスト 60%、レポート 40%により成績評価を行う。<br>第 9 回～第 15 回の 50 点については、小テスト 6 回(60%)、レポート 2 回(40%)により成績評価を行う。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：必要に応じて紹介する。<br>但し、有機材料(授業計画の第 9 回～第 15 回)は、有機工業化学(化学同人)をテキストとして使用する。テキストは、第 9 回以降の授業に持参すること。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料科学実験Ⅰ | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮村　弘 ・ 谷本　智史 ・ 井上　吉教 ・ 山下　義裕 ・ 鈴木　厚志 ・ 吉田　智 ・ 竹原　宗範 ・ 秋山　毅 ・ 伊田　翔平 ・ 竹下　宏樹 ・ 山田　明寛 | |
| 授業概要 | 材料科学における基礎的な実験操作および機器分析について、知識と技術を修得する。金属材料、セラミックス材料、エネルギー関連材料、有機複合材料を中心に、構造決定、物性評価、反応過程の解析の実験を行う。毎回レポートを課す予定である。 | |
| 到達目標 | (1) 材料科学に関連する基礎的な実験操作の内容を理解するとともに、安全・衛生・環境に配慮しながら機器の基本操作等ができること。<br>(2) 合成・構造決定・物性評価・反応過程の基礎的な実験結果を解析・整理できること。<br>(3) 得られた結果に考察を加えた上で簡潔かつ論理的なレポートを作成できること。 | |
| 成績評価 | 所定の出席日数を満たした者について、到達目標に示す各項目について、実験の実施態度と基礎的操作の遂行能力（(1) 50%）およびレポート（(2) 25%, (3) 25%）で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。１回以上レポートを提出しなかった者、安全・衛生・環境配慮・実験に取り組む姿勢に関する指導に従わなかった者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各実験で配布するプリント・冊子、参考書：化学同人編集部編「実験を安全に行うために」化学同人、化学同人編集部編「続 実験を安全に行うために」化学同人、高橋昭男著「仕事文の書き方」岩波新書、木下是雄著「理科系の作文技術」中公新書、化学同人編集部編「実験データを正しく扱うために」化学同人 | |
| 履修資格 | １年次および２年次配当の専門必修科目のうち、実験科目のすべてに合格し、かつ講義および演習科目のうち科目数で半数以上合格していること。 | |

| 科目名 | 材料科学実験Ⅱ | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮村　弘 ・ 谷本　智史・ 井上　吉教 ・ 山下　義裕 ・ 鈴木　厚志 ・ 吉田　智 ・ 竹原　宗範 ・ 秋山　毅 ・ 伊田　翔平 ・ 竹下　宏樹 ・ 山田　明寛 | |
| 授業概要 | 材料科学における基礎的な実験操作および機器分析について、知識と技術を修得する。高分子材料、環境材料を中心に、構造決定、物性評価、反応過程の解析の実験を行う。さらに、卒業研究を行なう際に必要な考え方、知識、実験技法を修得する。また、工場見学・環境ビジネスメッセ参加等を通じて、地域産業・地域環境についても学習する。 | |
| 到達目標 | (1) 材料科学に関連する基礎的な実験操作の内容を理解するとともに、安全・衛生・環境に配慮しながら機器の基本操作等ができること。<br>(2) 合成・構造決定・物性評価・反応過程の基礎的な実験結果を解析・整理できること。<br>(3) 得られた結果に考察を加えた上で簡潔かつ論理的なレポートを作成できること。<br>(4) 地域産業・地域環境について理解し、特徴を把握すること。<br>(5) 卒業研究実施に必要な基礎的な考え方や実験技法を修得すること。 | |
| 成績評価 | 所定の出席日数を満たした者について、到達目標に示す (1) (2) (3) については、実験の実施態度と基礎的操作の遂行能力 ((1) 30%) およびレポート ((2) 15%, (3) 15%) で評価する。(4)については、見学実施時の態度およびレポート (10%) で評価する。(5) については、基礎的知識や実験技法の修得状況およびレポート (30%) で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 1 回以上レポートを提出しなかった者、安全・衛生・環境配慮・実験に取り組む姿勢に関する指導に従わなかった者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各実験で配布するプリント・冊子、参考書：化学同人編集部編「実験を安全に行うために」化学同人、化学同人編集部編「続 実験を安全に行うために」化学同人、高橋昭男著「仕事文の書き方」岩波新書、木下是雄著「理科系の作文技術」中公新書、化学同人編集部編「実験データを正しく扱うために」化学同人 | |
| 履修資格 | 材料科学実験 I の単位を修得していること。 | |

| 科目名 | 材料強度物性 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　智 | |
| 授業概要 | 固体の材料を取り扱う上で、材料の強度は材料の信頼性を決定するという意味において極めて重要な性質の一つである。本講義では、材料の強度および破壊特性と材料の微構造の関係をできるだけ平易に講述する。金属材料とセラミックス材料の力学特性を中心に、非晶質、結晶質材料の強度と構造との関係、強度に影響を与える外的要因、種々の材料における強化法、強度測定法などについて基礎的かつ定量的な理解を目指す。 | |
| 到達目標 | （1）材料力学の基礎的な事項（応力，ひずみ，弾性率）を理解できていること。<br>（2）転位の種類とその原子レベルでの構造を理解し、延性材料の破壊に与える影響を理解できること。<br>（3）脆性材料の破壊挙動を理解し、破壊力学を用いた定量的な取り扱いができること。<br>（4）様々な材料の強度測定法が説明できること。<br>（5）材料の強化法について材料の微構造の点から説明できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1), (2), (3), (4), (5)について、期末試験（50% : (1)5%, (2)12.5%, (3)12.5%, (4)10%, (5)10%）＋レポート（50% : (1)5%, (2)12.5%, (3)12.5%, (4)10%, (5)10%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： 小林英男著「破壊力学」（共立出版）参考書： 岡田明著「セラミックスの破壊学」（内田老鶴圃）、淡路英夫著「セラミックス材料強度学」（コロナ社）、木村宏著「材料強度の考え方」（アグネ技術センター） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料計算化学および同演習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 井上　吉教 ・ 山田　明寛 ・ 鈴木　厚志 | |
| 授業概要 | 近年のコンピューターサイエンスの進歩により、低分子量の物質については、分子軌道計算等による実験のデータ解析が容易に行えるようになり、その得られた計算は三次元座標を用いて可視化することが最近の一般的な手法となっている。そこで本講義では、簡単なデータ解析・分子モデリング・分子軌道計算、古典分子動力学法に関する解説と演習を行う。 | |
| 到達目標 | (1)簡単な有機化合物（ベンゼン、水など）の分子構造を作図し、3D 分子モデリング化できること。(2)分子軌道法により電子構造(HOMO-LUMO）の計算ができること。(3)電子構造とその特性の関係について理解し、考察できること。(4)古典分子動力学法を理解し既存のソフトを用いて簡単なシミュレーションができること。 | |
| 成績評価 | 井上、近藤、鈴木担当：材料計算化学演習のレポートを課す。所定の出席日数を満たした者について、到達目標に示す(1),(2),(3),(4)の各項目についてレポート((1) 25%, (2) 25%, (3) 25%, (4) 25%)で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 1 回以上レポートを提出しなかった者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：近藤担当：プリント配布（コンピュータ・シミュレーションによる物質科学―分子動力学とモンテカルロ法（共立出版））テキスト:鈴木担当 : Gaussian プログラムで学ぶ　情報化学・計算化学実験（丸善株式会社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料組織学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮村　弘 | |
| 授業概要 | 金属材料の力学的性質、電気的性質、物理的性質などの諸物性は材料内部の微細な組織によって変化する。この材料組織の制御についての基礎的な考え方と材料内部の組織と各種物性の関係について理解する。結晶中の格子欠陥（点欠陥、転位、積層欠陥）、合金元素、分散粒子、粒界、異相境界などの基礎的概念を理解し、相変態、時効析出、回復と再結晶、集合組織などの諸現象の理解とそれらにより形成される材料組織が材料物性にどのような影響を与えるかを考える。 | |
| 到達目標 | （1）原子の拡散現象による相変態を理解し、説明できる。<br>（2）マルテンサイト変態と形状記憶などの性質を理解し、説明できる。<br>（3）塑性加工後の熱処理にともなう諸現象を理解し､説明できる。<br>（4）複合則による材料特性の予想ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)、(3)、(4)の各々について、<br>定期試験（90%；(1)25%、(2)35%、(3)20%、(4)20%）<br>小テストおよび演習（10%；(1)3%、(2)3%、(3)2%、(4)2%）で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：松原英一郎他　「金属材料組織学」　朝倉書店<br>参考書：杉本孝一他　「材料組織学」　朝倉書店<br>参考書：高木節雄、津崎兼彰　「材料組織学」　朝倉書店 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料力学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田邉　裕貴 | |
| 授業概要 | 機械設計における強度計算は，機械・構造物が使用中に過大な変形，破壊を起こさないようにするために不可欠である。強度設計を行うためには，材料力学は最も重要な基礎科目である。想定される荷重，形状と寸法，および使用する材料などの与えられた設計条件の下で，機械・構造物の部材に生じる応力や変形量を求めるために必要な材料力学の基礎を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)応力とひずみの概念を理解できる。<br>(2)引張・圧縮の軸力を加えた部材の応力，変形量が計算できる。<br>(3)不静定問題を解くことができる。<br>(4)トルクを加えた丸棒のせん断応力，ねじれ角が計算できる。<br>(5)曲げモーメントを加えたはりの垂直応力，たわみが計算できる。<br>(6)組合せ応力状態における主応力が計算できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)，(2)，(3)，(4)，(5)，(6)について，中間試験・宿題（40%）と定期試験（60%）により評価する（(1)20%，(2)20%，(3)10%，(4)20%，(5)20%，(6)10%）．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：JSME テキストシリーズ「材料力学」（日本機械学会）指定図書：邉吾一・他著「標準　材料の力学」（日刊工業新聞社）参考書：西村尚著「ポイントを学ぶ材料力学」（丸善） | |
| 履修資格 | この科目と材料力学 I の両方の単位修得および同時の履修はできません。<br>機械システム工学科の学生は、この科目を履修できません。 | |

| 科目名 | 材料力学 I （機械システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高松　徹 | |
| 授業概要 | 機械設計における強度計算は，機械・構造物が使用中に過大な変形，破壊を起こさないようにするために不可欠である。強度設計を行うためには，材料力学は最も重要な基礎科目である。想定される荷重，形状と寸法，および使用する材料などの与えられた設計条件の下で，機械・構造物の部材に生じる応力や変形量を求めるために必要な材料力学の基礎を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)応力とひずみの概念を理解できる。<br>(2)引張・圧縮の軸力を加えた部材の応力，変形量が計算できる（D-1)。<br>(3)不静定問題を解くことができる（D-1)。<br>(4)トルクを加え た丸棒のせん断応力，ねじれ角が計算できる（D-2)。<br>(5)曲げモーメントを加えたはりの垂直応力，たわみが計算できる（D-2)。<br>(6)組合わせ応力状態における主応力を計算できる（D-2）。 | |
| 成績評価 | 講義内容に関する問題が正確に解けることを基準として，到達目標(1)，(2)，(3)，(4)については，宿題（各 2%）中間テスト(各 10%)で評価する。到達目標(5)、(6)については、宿題（各 2%）定期試験(各 24%)で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：JSME テキストシリーズ「材料力学」（日本機械学会）<br>指定図書：邉吾一・他著　「標準　材料の力学」（日刊工業新聞社）<br>参考書：西村尚著「ポイントを学ぶ材料力学」（丸善） | |
| 履修資格 | この科目と材料力学の両方の単位修得および同時の履修はできません。 | |

| 科目名 | 材料力学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 高松　徹 | |
| 授業概要 | 「 材料力学 Ⅰ 」で学んだ応力・ひずみや変形の関係を基礎として，一般構造物で最も問題となる曲げ荷重下の応力・ひずみやたわみを考慮した部材強度と設計について学ぶ。また，耐圧容器や柱の圧縮等，より具体的な構造要素の強度と設計手法について学ぶとともに，これら要素の強度評価手法についても考察する。 | |
| 到達目標 | (1)不静定はり問題の解法を理解できる。<br>(2)組合せ応力状態におけるモールの応力円が描け、主応力を計算できる<br>(3)物体に蓄えられる弾性エネルギーが計算できる。<br>(4)エネルギー法に基づく解法を理解し，様々な問題を解くことができる。<br>(5)座屈現象が理解できる。 | |
| 成績評価 | 講義内容に関する問題が正確に解けることを基準として，到達目標(1)，(2)については，宿題（各 2%）中間テスト(各 24%)で評価する。到達目標(3)、(4)、(5)については、宿題（各 2%）定期試験(各 14%)で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：JSME テキストシリーズ「材料力学」（日本機械学会）<br>指定図書：邉吾一・他著「標準　材料の力学」（日刊工業新聞社）<br>参考書：西村尚著「ポイントを学ぶ材料力学」（丸善） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 材料量子論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　純 | |
| 授業概要 | まず、量子力学のうち固体物理を学ぶために不可欠な入門的内容及び材料科学の分野と密接な関わりを持つ入門的内容（シュレディンガー方程式の基礎、水素原子の構造、トンネル効果）について理解し、その上で、一般的な固体物理学の入門的要素のうち、格子振動（フォノン、比熱)、自由電子、エネルギーバンド（ブロッホの定理、フェルミ面、ブリルアンゾーン、回折、逆格子）について理解する。 | |
| 到達目標 | (1)量子力学の基礎を理解し、入門的な現象についてシュレディンガー方程式を立てられ、解くことができ、トンネル効果を理解できる。<br>(2)量子化の意味と回折現象とバンドギャップが出来る理由を量子力学を用いて理解でき、バンド理論の基礎が理解できる。 | |
| 成績評価 | ゼミナール形式で行い、『発表』、『参加』（出席ではないことに注意）を重視して評価し（発表成績５０％（（１）２５％、（２）２５％)、ゼミナールへの議論参加成績５０％（（１）２５％、（２）２５％))、試験は行わない。（受講者多数でゼミナール形式では行えないときは、通常の講義形式で行い、定期試験を行い、定期試験結果のみ（１００％（（１）５０％、（２）５０％））で評価する。） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定テキスト：青木亮三著「わかりやすい量子力学第２版 (情報・電子入門シリーズ 14)」（共立出版）（第１回講義から使用する）<br>キッテル著「固体物理学入門（上)」（丸善）（講義中盤から使用する）<br>指定図書：ランダウ、リフシッツ共著「量子力学＝非相対論的理論＝１，２ (ランダウ=リフシッツ理論物理学教程)」（東京図書)、アシュクロフト、マーミン共著「固体物理の基礎」（吉岡書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 産業技術マネジメント | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安田　昌司 | |
| 授業概要 | 将来、社会に出たときに企業人、購買者、株主など多様な立場で自社、他社を、内部からあるいは外部から知る必要がでてくる。本講では、企業経営、特に技術経営に関する基礎を学ぶ。まず産業史を学び、その変遷から将来を見通す。次に企業共通の機能を基礎として学ぶ。さらに各産業分野別にいかに現在の巨大産業に至ったかを学ぶ。いずれも実際の企業や事業の具体的事例を用いるように配慮する。　これらを通じて今後、社会に出る聴講者のキャリア形成を考える一助としたい。 | |
| 到達目標 | 企業経営、特に製造業経営に関する基礎を学び、さらに現代日本における製造業の課題について考える力を養う。 | |
| 成績評価 | 毎回、質問時間を設ける。出席票には質問や意見が記載できるようにする。<br>（共通する質問や意見は、次回講義で回答、紹介する）<br>講義に関するレポート（Ａ４　１枚程度）作成を課す。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：自作したもの（約 190 ページ）を講義中に配布する。講義はパワーポイントやビデオを用いる。<br>参考書：ゼミナール経営管理入門（風早正宏、日本経済新聞社、)、経営史（安部悦生、日経文庫)、日経文庫　業界研究シリーズ（知りたい業界ごと)、モチベーション３．０（ダニエルピンク）など、講義中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | システム工学 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 西岡　靖貴 | |
| 授業概要 | 複雑で大規模なシステムの設計・解析・改善及び運用を可能にしたシステム工学の考え方と目的を実現するための基本的手法を講義する．また、機械システムを対象としてシステムのモデル化，特性の解析，システムの時間的変化を模擬するシミュレーション方法について，プログラミングを用いた演習を通して習得する．演習内容には，使用するプログラミング言語である C 言語の基礎習得も含む．人に対するリスクの軽減を考慮したシステムや近年のシステムの概要についても講義する． | |
| 到達目標 | (1)自律分散システムや複雑系なども含めて、システムとは何かについて説明できる。<br>(2)コンピュータ支援設計法の全体像を理解し，基礎的な問題に運用できる。<br>(3)機械システムのモデリング手法を用いて，考察対象のモデルを作成できる。<br>(4)モデルを用いたシミュレーションを実行して，システムの挙動を求めることができる。<br>(5)最適化，信頼性解析などの基礎を習得し，応用問題の設定，解析，設計に応用できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)～(5)について下記の様に評価する．<br>・ 演習レポート評価 40%（講義内での演習問題に関するものをレポートとして提出）:(1)15%, (2)25%<br>・レポート試験による評価 60%（問題設定，モデリング，シミュレーションを最終レポートとして提出）:(3)25%，(4)20%，(5)15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：田村坦之編著　「(新世代工学シリーズ)　システム工学」（オーム社)。<br>指定図書：赤木新介著　「システム工学　エンジニアリングシステムの解析と計画」（共立出版)。<br>参考書：講義のなかで紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 集積回路設計基礎 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岸根　桂路 | |
| 授業概要 | 集積回路を設計するには電子回路技術、デバイス技術、論理設計技術、プロセス技術などの広範囲な技術が必要となるが、本講義では現在の大規模集積回路（VLSI）の基本である MOS 技術を中心に取り上げ、集積回路設計の一連の基礎を平易に解説する。さらに、プログラマブルデバイスについてもふれる。 | |
| 到達目標 | (1)トランジスタの動作原理を理解し、トランジスタ単体の動作特性を説明できる。<br>(2)トランジスタと他の素子の組み合わせ回路・論理回路におけるトランジスタ動作を把握し、回路動作特性を説明できる。<br>(3)トランジスタ回路におけるレイアウト設計を理解し、レイアウト図と回路図との対応を説明できる。<br>(4)MOS トランジスタの回路動作、MOS トランジスタ回路のレイアウト設計に関し説明できる。 | |
| 成績評価 | 講義中に課す課題：MOS トランジスタの回路動作、MOS トランジスタ回路のレイアウト設計に関し説明できる(40%)。<br>期末試験：トランジスタの動作原理を理解し、トランジスタ単体の動作特性を説明できる(25%)。トランジスタと他の素子の組み合わせ回路・論理回路におけるトランジスタ動作を把握し、回路動作特性を説明できる(25%)。トランジスタ回路におけるレイアウト設計を理解し、レイアウト図と回路図との対応を説明できる(10%)。<br>合計得点の 60%以上の成績で合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：國枝博昭著「集積回路設計入門」（コロナ社）指定図書：谷口研二著「LSI 設計者のための CMOS アナログ回路入門(CQ 出版社)」、小谷教彦著「LSI 工学」（森北出版)、FPGA/PLD 設計スタートアップ（CQ 出版）参考書：久保脩治著「トランジスタ・集積回路の技術史」（オーム社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報処理基礎 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　進 | |
| 授業概要 | コンピュータ技術の発達とともに情報処理は産業の各分野において重要技術になっている。同時に、機械エンジニアが情報処理システムを高度に利用する上で必要な知識は広範囲にわたり、専門的である。本講義では、最近の理論の動向および技術的背景をふまえたもとで、情報処理システムを支えている基礎的事項について習得することが目的である。 | |
| 到達目標 | 情報の表現、コンピュータの仕組み、および数値処理誤差について理解し、基本的事項について説明できるとともに、それらに関する基礎的な計算問題が解ける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す内容に関して、定期試験（80%)、レポート（20%）で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：青木征男著『情報の表現とコンピュータの仕組み（第 5 版)』（ムイスリ出版)。プリントを適宜配布する。<br>指定図書：後藤宗弘著『電子計算機（第 2 版)』（森北出版）<br>参考書：阿曽弘具著『コンピュータの基礎』（昭晃堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報通信工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岸根　桂路 | |
| 授業概要 | 今日の高度な通信システムの発展は目覚しいものがあり、情報通信工学はそれら通信システムにおける基礎技術の発展を支えてきた。情報通信工学の社会における役割と重要性について概説し、その位置づけと重要性を理解する。さらに符号理論、信号伝送理論、通信システムについて解説し、情報を高速・確実に伝達するに手法を学ぶとともに、通信ネットワーク、通信システムを理解する。 | |
| 到達目標 | (1)信号の変復調に関する原理を理解し､与えられた条件の下で､変復調動作特性を説明できる。<br>(2)復調における検波動作を理解し、回路動作を説明できる。<br>(3)基本的な通信ネットワーク構成を理解し、信号のフレーム構成を説明できる。<br>(4)情報理論の基本概念を把握している。 | |
| 成績評価 | 講義中に課した課題の評価:　情報理論の基本概念を把握している(40%)。<br>期末試験の結果 : 信号の変復調に関する原理を理解し、与えられた条件の下で、変復調動作特性を説明できる（25%)。復調における検波動作を理解し、回路動作を説明できる（15%)。基本的な通信ネットワーク構成を理解し、信号のフレーム構成を説明できる（20%)。<br>合計得点の 60%以上の成績で合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：　寺田 浩詔、吉田 進、佐藤 亨　著「情報通信工学」（オーム社）参考書 : 平松啓二著　「通信方式」（コロナ社）必要に応じて、適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 数値解析 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安田　孝宏 | |
| 授業概要 | 物理現象を支配する方程式は厳密解が得られない場合が多く，その場合，数値解析を行う必要がある。最近のコンピュータの発達に伴い，数値計算で扱える工学的問題も増加している。数値解析では解く方程式の種類やその性質により様々な手法を使い分ける必要がある。また，数値解析結果は厳密ではなく，必ず誤差を含んでおり，本質的な結果を得るためにその評価が重要である。本講では数学，力学で扱う方程式についての数値解析手法の基礎と簡単な応用例を学ぶことで，数値解析を機械工学へ応用する能力を養成する。 | |
| 到達目標 | (1)各種の数値解析手法を修得し，それぞれの解法を問題に応じて使い分けることができる。<br>(2)数値解析結果の誤差評価ができる。<br>(3)数値解析に関する簡単なプログラミングができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)、(3)については、定期試験(60%:(1)40%,(2)10%,(3)10%)および小テスト(40%:(1)30%,(2)5%,(3)5%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。なお、出席回数が所定の回数を満たしている者のみ定期試験を評価する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中にプリントを配付<br>指定図書：河村哲也著「数値計算入門」(サイエンス社)<br>参考書：皆本晃弥著「よくわかる数値解析演習」(近代科学社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 数値解析・数値計算 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 工学で現れる数学的な問題は、常にすっきりした数式だけで解決されるわけではない。多くの場合に、近似的な計算が必要な場合が多い。数値計算・数値解析とは、さまざまな数学的な問題を数値的に計算したり、数値的に解く方法を与えることを目的としている。この講義ではその基礎的な事項を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 数値計算の基本的事項(２進数計算，誤差、具体的アルゴリズム)を運用できる.<br>(2) アルゴリズムの長所や短所を理解し説明できる.<br>(3) 計算機に実行させるコードを書くことができる. | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 50% (2) 15% (3) 35% の割合で評価する，<br>(3)はレポート、(1)と(2)は期末試験によって評価する. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト :「数値解析の基礎・基本」吉田年雄著（牧野書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生化学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹原　宗範 | |
| 授業概要 | 生体を構成している分子の基礎について講義する。有機化学の基礎に立脚した生体構成分子の構造上の特徴を修得し、専門的な生化学への橋渡しを目指す。 | |
| 到達目標 | （1）水と生命体の関わりを理解した上、生体分子である<br>（2）アミノ酸とタンパク質・酵素、（3）糖質、（3）DNA と RNA、および<br>（4）脂質、についての基本的な構造と性質を説明できること。 | |
| 成績評価 | 期末筆記試験 70%小テスト評価 30%　いずれも「到達目標」の達成度に応じて評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：伊東しょう他訳「マクマリー有機化学・下」（東京化学同人）、プリント配布<br>参考書：鈴木紘一他訳「ホートン生化学」（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生化学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹原　宗範 | |
| 授業概要 | 「生化学Ⅰ」 の続きで、生体分子の機能と代謝反応を取り扱う。生体反応とそのエネルギー授受の本質の理解に努める。さらに、「遺伝情報」の伝達と発現が巧妙にコントロールされている様子を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）脂質と生体膜の概要を理解した上、<br>（2）生体反応のエネルギーの授受に関する基本的な計算式とその意味を説明できること。<br>（3）遺伝情報の流れの正しく理解し、説明できること。 | |
| 成績評価 | 期末筆記試験 70%小テスト評価 30%　いずれも「到達目標」の達成度に応じて評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：伊東しょう他訳「マクマリー有機化学・下」（東京化学同人）、プリント配布<br>参考書：鈴木紘一他訳「ホートン生化学」（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 制御工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 稲葉　博美 | |
| 授業概要 | 具体的な制御対象を例に，システムのモデル化，制御系の設計，安定解析など一連の制御系構築技術を修得する。　あわせて，いわゆる古典制御以外のいろいろな制御手法についても，その概要について触れる。 | |
| 到達目標 | 電子システムを制御する手法に関して，<br>(1)伝達関数を理解し，その取り扱いができること。<br>(2)制御系の安定判別，安定化設計ができること。<br>(3)各制御要素の特性把握ができること。<br>(4)制御系設計ができること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す，(1)伝達関数を理解しその取り扱いができること，(2)制御系の安定判別，安定化設計ができること，(3)各制御要素の特性把握ができることについては，定期試験(60%：(1)20%，(2)20%，(3)20%),(4)制御系設計ができることについては，課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：中野道雄，美多　勉　共著『制御基礎理論』〔古典から現代まで〕(昭晃堂 or コロナ社←内容は同一です)<br>指定図書：深海登世司，藤巻忠雄著　『制御工学　上』　(東京電機大学出版局)，大日方五郎編著　『制御工学』　(朝倉書店)<br>参考書：宮崎道雄　編著　『システム制御Ⅰ，Ⅱ』　(オーム社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 制御工学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安田　寿彦 | |
| 授業概要 | １入力１出力の線形フィードバック制御理論の基礎。制御システムを設計するための基礎として，線形フィードバック制御理論について講義する。制御システムの入力信号および出力信号がそれぞれ１つであるようなシステムを対象とする。ラプラス変換を応用して，システムの数学モデルを伝達関数によって表現し，システムの応答，安定性など制御システムの解析方法について解説する。簡単なサーボ制御系の解析ができるようになることを目標とする。 | |
| 到達目標 | (1)フィードバック制御系の基本構造を説明できる。<br>(2)ラプラス変換表を用いて，ラプラス変換およびラプラス逆変換ができる。<br>(3)伝達関数を使って制御系が表現できる。<br>(4)過渡応答，周波数応答による制御系の特性と表現方法を習得する。<br>(5)フィードバック制御系の安定性を判別ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(5)に関して，定期試験 80%，小テストおよびレポート課題 8%，演習課題 12%，合計 100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：太田有三編著　「制御工学」（オーム社）<br>参考書：講義中に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 制御工学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安田　寿彦 | |
| 授業概要 | 伝達関数を用いた制御システムの設計法を講義する。簡単なサーボ制御系およびプロセス制御系の設計ができるようになることを目標とする。制御工学Ⅰで学んだ伝達関数法の基礎知識を用いて，安定度・定常偏差・整定時間などを用いた定量的な評価方法を学び，過渡応答・根軌跡・周波数応答を用いた方法による制御系の設計方法について論じる。 | |
| 到達目標 | (1)位相余裕，ゲイン余裕，定常偏差が計算できる。<br>(2)行き過ぎ量，整定時間を求めることができる。<br>(3)根軌跡を描いて，パラメータと制御系の特性の関係を論じることができる。<br>(4)周波数応答に注目して，制御系の性能改善方法を説明できる。<br>(5)PID コントローラの構成要素の役割を説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(5)に関して，定期試験 70%，演習課題 30%，合計 100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：太田有三編著　「制御工学」（オーム社）<br>参考書：講義中に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生産工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　進 | |
| 授業概要 | 生産システムに関する原理、概念および管理技術を習得することが目的である。まず生産システムの意義・機能に関して触れて基本構造を明確にした後、製品設計、工程計画、作業設計、ラインバランシング、レイアウト設計など、生産のプロセスシステムを扱う。次に、生産計画、MRP、MRPⅡ、在庫管理、生産ロット量解析、生産スケジューリング、JIT、TOC など、生産管理に関する基礎概念および技術を講述する。さらに、資金の時間的価値、設備投資計画、製品原価構成、損益分岐解析など、コストマネジメントに関する基礎概念および技術を取り上げる。最後に、ERP、SCM、PLM など、生産の情報システムに関する基礎概念および技術を教授する。 | |
| 到達目標 | (1) 生産システムの基本構造および生産の情報システムに関する概念と技術を理解し、基本的事項に関して説明できる。<br>(2) 生産のプロセスシステム、生産管理およびコストマネジメントに関する概念と技術を理解し、基本的事項に関して説明できるとともに、基礎的な計算問題が解ける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)、(2)とも、定期試験（80%：(1)20%、(2)60%）、レポート（20%：(1)5%、(2)15%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：(1)人見勝人著『入門編 生産システム工学 第 5 版』（共立出版）、(2)生協で実費販売する資料集（２冊とも必携）<br>参考書：田島 悟・木村博光著『生産管理の基礎知識が面白いほどわかる本』（中経出版）；松林光男・渡部 弘著『<イラスト図解>工場のしくみ』（日本実業出版社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | セラミックス材料 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉田　智 | |
| 授業概要 | セラミックスの語源は「焼きもの」であるが、原料の高純度化と高度な作製法の開発により、伝統工芸のみならず電子材料、光機能性材料、耐熱性構造材料などの様々な分野でセラミックス材料は用いられている。本講義では、セラミックス材料の構造、物性、作製プロセスの基礎を、物理化学と無機化学に基づいて講述する。 | |
| 到達目標 | （1）基礎的なセラミックスの結晶構造と非晶質の構造について理解できること。<br>（2）固体の格子エネルギーおよび表面自由エネルギーについて理解できること。<br>（3）セラミックス材料の様々な物性の発現機構を材料の結晶構造や電子構造に基づいて説明できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1), (2), (3)について、期末試験（50％：(1)5%, (2)10%, (3)35%）＋レポート（50％：(1)5%, (2)10%, (3)35%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：上垣外修己、神谷信雄 共著「セラミックスの物理」（内田老鶴圃）<br>参考書：　曾我直弘 著「初級セラミックス学」（アグネ承風社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 線形代数Ⅰ（材料） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小郷原　一智 | |
| 授業概要 | 線形代数とは、簡単にいえば、ベクトルと行列に関する数学である。つまり、高校で既に学習してきた、2 次元や 3 次元のベクトルや行列の一般次元への拡張である。その意味では高校の延長にあるのだが、扱いがより一般的かつ理論的になる。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。この授業は連立１次方程式の解法理論からはじめて、行列の基本概念と計算法を講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 連立 1 次方程式の解法、行列の演算、行列式に関する基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができること.<br>(2) 上記事項のより進んだ問題が解けること.<br>(3) 論理的な解答を書くことができる. | |
| 成績評価 | 全体に対して, (1) 75% (2) 15%　(3) 10%　という割合で評価する.<br>これを期末試験(95%)と演習問題 (5%)によって評価する. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：浅倉・高橋・吉松著「新基礎コース　線形代数」（学術図書出版社）<br>参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」（牧野書店），谷口・永友共著：「線形代数と Mathematica」（牧野書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 線形代数Ⅰ（機械） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 門脇　光輝 | |
| 授業概要 | 線形代数とは、簡単にいえば、ベクトルと行列に関する数学である。つまり、高校で既に学習してきた、2 次元や 3 次元のベクトルや行列の一般次元への拡張である。その意味では高校の延長にあるのだが、扱いがより一般的かつ理論的になる。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。この授業は連立１次方程式の解法理論からはじめて、行列の基本概念と計算法を講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 連立 1 次方程式の解法、行列の演算、行列式に関する基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができること.<br>(2) 上記事項のより進んだ問題が解けること.<br>(3) 論理的な解答を書くことができる. | |
| 成績評価 | 全体に対して, (1) 75% (2) 15% (3) 10% の割合で評価する,<br>これを期末試験（95%）と演習問題（5%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：浅倉・高橋・吉松著「新基礎コース　線形代数」（学術図書出版社）<br>参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」（牧野書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 線形代数Ⅰ（電子） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小郷原　一智 | |
| 授業概要 | 線形代数とは、簡単にいえば、ベクトルと行列に関する数学である。つまり、高校で既に学習してきた、2 次元や３次元のベクトルや行列の一般次元への拡張である。その意味では高校の延長にあるのだが、扱いがより一般的かつ理論的になる。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。この授業は連立１次方程式の解法理論からはじめて、行列の基本概念と計算法を講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 連立１次方程式の解法、行列の演算、行列式に関する基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができること.<br>(2) 上記事項のより進んだ問題が解けること.<br>(3) 論理的な解答を書くことができる. | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 70% (2) 15% (3) 10% の割合で評価する，<br>これを期末試験（95%）と演習問題（5%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：浅倉・高橋・吉松著「新基礎コース　線形代数」(学術図書出版社)<br>参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」(牧野書店) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 線形代数Ⅱ（材料科学、電子システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 門脇　光輝 | |
| 授業概要 | 線形代数１に続くこの授業では、ベクトル空間，行列の固有値と対角化等を学ぶ。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学であるから、内容と基本的な理論と計算法を身につける. | |
| 到達目標 | ｎ次元ベクトル空間での演算，階段行列，固有値に関する基礎的事項を理解し、運用ができること。 | |
| 成績評価 | 期末試験の結果によって評価（100%）する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：線形代数１と同じ（浅倉・高橋・吉松著「基礎コース　線形代数」(学術図書出版社)）参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」(牧野書店) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 線形代数Ⅱ（機械システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 門脇　光輝 | |
| 授業概要 | 線形代数１に続くこの授業では、ベクトル空間，行列の固有値と対角化等を学ぶ。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学であるから、内容と基本的な計算法をしっかりと身につけねばならない。 | |
| 到達目標 | (1) 内積や外積、 ベクトル空間の基本事項，行列の固有値に関する基礎的な事項を一応理解して、３次までの行列の対角化ができる。<br>(2) ４次以上の行列や対称行列の対角化ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 80% (2) 15% (3) 5% の割合で評価する。<br>これを期末試験（95%）と演習問題（5%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：線形代数１と同じ（浅倉・高橋・吉松著「新基礎コース　線形代数」(学術図書出版社)）参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」(牧野書店)，谷口・永友共著：「線形代数と Mathematica」(牧野書店) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 先端材料科学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 材料科学の研究は，物質別では金属材料，セラミックス材料，有機材料，高分子材料などに分類でき，用途別では電子情報材料，エネルギー材料，環境機能材料，構造材料などに分類できる。また研究の方向性により，新材料の開発，合成・製造プロセスの開発，物性評価方法の開発などに分類することもできる。本科目では材料科学科所属の各教員を中心に，何をどのように研究しているかを知ることで，研究開発とはどのように進められるかを理解することを目的とする。 | |
| 到達目標 | 材料科学の様々な分野について，どのような研究が必要とされているか，それらの研究はどのように進められているか，最新の研究を行うには何が必要か，および，どのような研究成果が生み出されているかについてアウトラインを理解し，また，材料の製造または利用の現場がどのようなものかを知る。 | |
| 成績評価 | 毎週のレポート（100%）　各週の講義内容に対しレポートを課す。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ（材料科学） | ４単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業論文に関連したテーマについて実験・研究を行なう。テーマに関連して調査したことや研究計画について発表する。具体的には、材料科学の発展に寄与する先進的なテーマを選択し、それについて世の中の動向・進展・問題などについて調査し、総合的に考察することで研究テーマの内容を把握し、テーマ達成に向けての研究計画を立てる。 | |
| 到達目標 | (1)与えられた研究テーマについて調査を行うと同時に、テーマにおける様々な問題を把握し、その中で自分が解決すべき問題を選定できる。<br>(2)(1)で選定した問題に対して他の研究者による先行研究を参考に自分の計画を作成できる。<br>(3)自分の研究計画を実行することによって、予想される問題や期待できる成果について理解を深める。<br>(4)自分が取り組もうとしている研究テーマに対して、背景、問題点、解決策、期待される結果を第三者に説明できる。 | |
| 成績評価 | 学科教員による審査会での、発表と質疑応答の内容により評価を行う。評価に対する各到達目標の割合は次の通りとする。<br>(1)研究で解決すべき問題の選定（20%）　(2)研究計画の作成（20%）<br>(3)研究計画の実行に基づく内容理解（30%）　(4)研究テーマの第三者への説明（30%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 国内・海外学術雑誌、研究報告書、理化学辞典、各分野が指定する雑誌・教科書 | |
| 履修資格 | 本科目を履修するためには、原則として以下の１と２の条件をすべて満たしていること<br>１．卒業要件単位数に関する条件<br>・卒業要件単位数(130 単位以上)のうち 110 単位以上を修得していること。<br>・全学共通科目の必修外国語(選択必修を含む)の単位未修得数が２単位以下であること。<br>２．学科の科目配当表に指定する専門科目に関する条件<br>・材料科学科において必修とされている実験科目の単位をすべて修得していること。<br>・必修科目の単位未修得数が４単位以下であること。 | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ（材料科学） | ４単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業研究Ⅰで計画・設定したテーマに関連して、実験・研究を行う。具体的には、各テーマについて指導教員の指導のもとに研究を行い、自らの得た成果を総合的に考察し問題点を解決する。それらの研究成果を卒業研究発表（発表内容への試問を含む）および卒業論文として報告する。 | |
| 到達目標 | (1)研究を行うための種々の実験方法および定量的データ解析方法に習熟する。<br>(2)研究テーマについて自ら問題点を見いだし、計画的に研究を遂行し、論理的に纏め上げることができる。<br>(3)得た研究成果について、文章、図表（英文表記を含む）および口頭で他の人に明確に伝えることができる。 | |
| 成績評価 | 卒業論文および卒業研究発表・審査により成績を評価する。評価に対する各到達目標の割合は次のとおりとする。<br>(1)実験と解析の方法への習熟　（卒業論文 20%、卒業研究発表 15%）<br>(2)研究の遂行と纏め上げ　（卒業論文 20%、卒業研究発表 15%）<br>(3)研究成果の他者への伝達　（卒業論文 10%、卒業研究発表 20%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する | |
| 履修資格 | 卒業研究Ⅰの単位を修得していること。 | |

| 科目名 | 卒業研究（機械システム） | ８単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 機械システム工学の専門的な課題について研究することによって，自立して専門分野で活動できる能力を養う。このために，研究分野に配属されたもとで，その分野の専門的な課題について指導教員の指導を受けて研究を行い，その成果を卒業論文にまとめて提出する。 | |
| 到達目標 | 1.研究テーマに関連する文献を調査し，その内容を理解できる(B)。<br>2.研究の工学的・社会的意義が理解できる(E)。<br>3.自ら立案した研究計画に沿って研究を遂行できる(H)。<br>4.研究遂行の際に生じる課題の解決方法を自発的に見出せる(G)。<br>5.研究に関連する専門基礎知識を理解し，研究遂行に役立てることができる(D-3)。<br>6.研究結果を論文としてまとめ，発表し，質疑に答えることができる(F)。 | |
| 成績評価 | 以下の項目を総合し，合否を評価する。<br>・研究会・ゼミ等での発表・質疑応答<br>・卒業論文：工学系の学術論文として体裁が整えられており、かつ内容に重大な誤りがない<br>・卒業論文審査会：発表時間の適正と質疑応答に関する口頭発表の質および映像資料の質 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | 卒業研究を履修するためには、下記の３つのいずれの条件をも満たさなければならない。<br>（1）３年次終了時において、必修の実験・実習・演習科目の全ての単位を修得していること。ただし、３年次配当科目（機械システム工学実験Ⅰ、Ⅱ・機械設計演習Ⅱ、Ⅲ）のそれらについては3科目以上修得していること。（2）第３年次終了時において、必修専門科目（58 単位；29 科目）の単位未修得科目が３科目、６単位以内であること。（3）３年次終了時において、卒業必要単位数（130 単位）のうち 106 単位以上を修得していること。 | |

| 科目名 | 卒業研究（電子システム） | ８単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 受講者各人が、学科内のいずれかの研究分野に配属されたもとで、担当教員の指導を受けて、その研究分野の専門的な課題について研究を行う。得られた成果は、卒業論文としてまとめて提出し、卒業論文審査会で発表する。以上の取り組みを通して、電子システム工学分野の選択した研究テーマについての高度な専門知識を身につけさせると同時に、自立して専門分野で活動できるエンジニアリングデザイン能力と実行力、日本語によるコミュニケーション能力、自発的かつ継続的に学習する能力を養う。 | |
| 到達目標 | 下記の 4 項目の能力をすべて身につけること。（詳細は追加情報を参照のこと）<br>(1) 研究テーマについての高度な専門知識を身につけ、解決することができる能力。<br>(2) 制約条件下で、工学的な解決法を見つけだして、成果としてまとめることができる能力。<br>(3) 自分の論点や考え方を論文や口頭で論理的に発表し、議論することができる能力。<br>(4) 自発的かつ継続的に学習することができる能力。 | |
| 成績評価 | 成績評価は合否のみとし、評点はつけない。日常の卒業研究への取り組み、研究会での発表状況、卒業論文の内容および卒業研究審査会でのプレゼンテーションを総合評価して、上記の授業概要中の(1)～(4)の 4 項目の能力について個別に 100 点満点で採点する。採点した 4 項目の得点がすべて 60 点以上であれば合格とし､1 項目でも 60 点未満のものがあれば不合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜指示する。 | |
| 履修資格 | 本科目を履修するためには、次のすべての条件を満たしていなければならない。<br>1. 卒業要件単位数に関する条件<br>・卒業要件単位数（130 単位以上）のうち 108 単位以上を修得していること。<br>2. 学科の科目配当表に指定する専門科目に関する条件<br>・必修科目の単位未修得数が 3 科目、6 単位以下であること。<br>・必修の実験科目の単位未修得数が 1 科目、2 単位以下であること。<br>・学科基礎科目の選択科目の単位を 14 単位以上修得していること。<br>・学科専門科目の選択科目の単位を 2 単位以上修得していること。<br>3. 自己点検に関する条件<br>・各年次の前期および後期終了後に以下に示す自己点検に関する書類を提出していること。<br>2014（平成 26）年度以降入学生は、「授業科目および単位修得計画票」、2013（平成 25）年度入学生は、「自己点検表」、2012（平成 24）年度以前入学生は、「学習・教育目標自己点検表」。 | |

| 科目名 | 通信システム工学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 通信システムでは文字・音声・画像等多種多様なデータが扱われる。本講義では、その表現と処理に関する基礎的な要素技術についてハードウェアとソフトウェアの視点から扱う。またマルチメディアの通信に伴う情報圧縮やマルチメディアの応用システムなどについても学ぶ。（平成 28 年度より開講） | |
| 到達目標 | | |
| 成績評価 | | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 通信情報理論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 酒井　道 | |
| 授業概要 | 近年、情報技術が急速に進展しているが、その情報と通信の基礎になっている情報理論について学ぶことを目的とする。最初に、シャノンの創始した情報理論について、その定義、性質、情報量（容量）について講義する。また、人間の身の回りに存在するアナログの情報量をディジタル情報に置き換えるために必要なサンプリング定理についても講義する。さらに、ディジタル系の情報量で重要な符号化、情報セキュリティのための共通鍵暗号や公開暗号の原理についても講義する。 | |
| 到達目標 | (1)情報源に関する各種の計算ができること。<br>(2)ハフマン符号等の代表的な符号化手法を理解できること。<br>(3)通信路に関する各種計算ができること。<br>(4)検査符号について説明できること。<br>(5)サンプリング定理を説明できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)～(5)については、定期試験（80%：(1)30%,(2)15%、(3)20%、(4)10%、(5)5%）で評価する。さらに、到達目標で示す(1)～(5)については、授業の進捗に応じてレポートを課し（20%)、評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：三木成彦、吉川英機著「情報理論」（コロナ社）<br>指定図書：塩野充著「わかりやすいディジタル情報理論」（オーム社）<br>参考書：稲井寛著「はじめての情報理論」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 通信ネットワーク工学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 通信ネットワークを構築している技術とその仕組みについて学習することを本講義の目的とする。インターネットの通信のプロトコルである TCP や IP に重きを置きながら講義し、電子メールや Web の仕組みなどのサーバ技術についても講義する。さらに、情報システムのセキュリティ問題と、その対策方法について講義する。<br>（平成 28 年度より開講） | |
| 到達目標 | | |
| 成績評価 | | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ディジタル信号処理 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮城　茂幸 | |
| 授業概要 | 信号を離散時間的に表現し、これを処理するディジタル信号処理は、情報通信、制御工学、計測工学、メディア工学等と関連し、現在では重要な技術分野の一つである．本講ではディジタル信号処理の基礎である、z 変換による線形時不変システムの取り扱い、離散フーリエ変換とシステムの周波数特性、FFT およびサンプリング定理について学ぶ. | |
| 到達目標 | （1）信号の時間領域表現と周波数領域表現の対応関係が理解できること。<br>（2）線形時不変システムの表現を理解し、入出力関係が計算できるようになること。<br>（3）z 変換の計算ができるようになること。<br>（4）システムの周波数特性が求められること。<br>（5）サンプリング定理の意味が理解できること。 | |
| 成績評価 | 中間テスト 50%、期末試験 50%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）、（2）についてはそれぞれ中間テスト 25%、（3）、（4）についてはそれぞれ期末テスト 20%、（5）については期末テスト 10%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：貴家仁志著「ディジタル信号処理のエッセンス」（昭晃堂）<br>指定図書：伊達玄訳「ディジタル信号処理（上）（下）」（コロナ社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 定量・機器分析および同実験 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮村　弘　・　井上　吉教　・　吉田　智　・　竹下　宏樹　・　山田　明寛 | |
| 授業概要 | 代表的な数種の測定機器の原理を理解させるとともに、実際にそれらを駆使して有機化合物の分析や水溶液中のカルシウムイオンの定量を行い、それらの使用法に習熟させる。また、酸化還元滴定により化学的酸素要求量(COD)を定量し、COD についての理解を深める。さらに、結論に至るまでのデータの解析過程を説明させることにより、発表能力を養う。 | |
| 到達目標 | （1）化学的酸素要求量について自ら実験で求め、その結果を説明できる。<br>（2）各種光度計を用いた実験を行い、得られる情報についてその意味を把握するとともに、それぞれの違いを説明できる。<br>（3）ガスクロマトグラフによる実験を行い、定量法について理解し、説明できる。 | |
| 成績評価 | 所定の出席数を満たした者に対し、つぎの基準で評価する。到達目標(1)および(3)については、実験操作および実験に取り組む態度ならびにデータ解析を含む討議・発表の内容(10%)、報告書(10%)で評価し、(2)については、実験操作および実験に取り組む態度ならびにデータ解析を含む討議・発表の内容(30%)、報告書(30%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：日本化学会編「実験化学講座」（丸善）<br>参考書：江藤守総「機器分析の基礎」（裳華房）<br>庄野利之、脇田久伸編著「入門機器分析化学」（三共出版）<br>R. M. Silverstein 他,「有機化合物のスペクトルによる同定法」（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気エネルギーシステム工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 乾　義尚 | |
| 授業概要 | 現在の人類の豊かで便利な暮らしは電気エネルギーに支えられていると言っても過言ではない．本講義では，この電気エネルギーに関して，その資源から，発生および各種利用技術までをエネルギー変換工学とシステム工学の視点からトータルに理解させることを目標とする．まず，電気エネルギーの発生・変換・制御技術および各種利用技術について説明した後，エネルギー資源の現状について説明し，エネルギーの有効利用技術についても簡単に講述する． | |
| 到達目標 | (1) 各種新発電方式の原理と特性について説明できること．<br>(2) 電力の変換と制御の基礎について説明できること．<br>(3) 電気エネルギーの応用と有効利用について説明できること．<br>(4) 電気エネルギーシステム工学について興味を持ち，自主的に学習できること | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)，(2)，(3)については，定期試験（80%：(1)32%，(2)16%，(3)32%），(4)については，レポート（20%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：原　雅則 編著 「EE Text 電気エネルギー工学通論」（オーム社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気回路 I | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂本　眞一 | |
| 授業概要 | 電気回路は，電気・電子・情報系の基礎科目として最も重要なもののひとつである．本講義では，電気・電子・情報系の技術者が最低限身につけておくべき電気回路の基礎知識である正弦波交流回路の諸性質を理解させることを目標とする．まず，線形回路素子の種類とその性質，正弦波交流の記号法を用いた取り扱い手法について説明した後，回路方程式の立て方，回路網の諸定理，変成器を含む回路，正弦波交流回路の電力，三相交流回路などについて講述する． | |
| 到達目標 | (1) 回路網に関する語句，諸定理や法則などを理解し，説明できること（30%).<br>(2) 直流回路において各素子における特性を把握し，回路の特性を理解し，説明できること（20%).<br>(3) 正弦波交流回路などにおいて各素子における特性を把握し，回路の特性を理解し，説明できること（50%). | |
| 成績評価 | 筆記試験 70%，レポート 30%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．内訳は到達目標に記載項目の(1)30%，(2)20%，(3)50%程度とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：佐治　學 編著 「インターユニバーシティ 電気回路 A （改訂 2 版）」（オーム社），米山　淳　著 「電気回路　基本問題集」（オーム社）<br>参考書：平山　博，大附辰夫 著 「電気回路論　(3 版改訂)」（電気学会） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気回路Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 乾　義尚 | |
| 授業概要 | 電気回路は，電気・電子・情報系の基礎科目として最も重要なもののひとつである．本講義では，「電気回路Ⅰ」に引き続き，電気・電子・情報系の技術者が最低限身につけておくべき電気回路の基礎知識である回路の過渡現象や伝送線路の諸性質などを理解させることを目標とする．まず，ラプラス変換や状態変数を用いた回路の過渡現象の解析手法について説明する．さらに，伝送線路の基礎，2 端子対回路網の回路網関数とフィルタなどについて講述する． | |
| 到達目標 | (1) 微分方程式を用いて簡単な回路の過渡現象の計算ができること．<br>(2) ラプラス変換を用いて回路の過渡現象の計算ができること．<br>(3) 状態方程式を用いて回路の解析ができること．<br>(4) 伝送線路の基礎方程式を理解し，反射と透過の計算ができること．<br>(5) フィルタの性質を理解し，その特性を計算できること． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)，(2)，(3)，(5)については，定期試験（80%：(1)20%，(2)20%，(3)20%，(5)20%），(4)については，レポート（20%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：日比野倫夫 編著 「インターユニバーシティ 電気回路 B」（オーム社）<br>参考書：平山　博，大附辰夫 著 「電気回路論　(3 版改訂)」（電気学会） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気化学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋山　毅 | |
| 授業概要 | 「物理化学」分野の一つで、初めに電気化学工業や各種の電池について概説する。電解質溶液の性質、電気化学ポテンシャル、電極反応速度、ボルタンメトリーや電極界面現象を理論的に理解させる。応用面では電気分解、固体電解質、電池や光電気化学などについて詳しく講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 電極電位を化学平衡の概念に基づいて説明できる。<br>(2) ボルタンメトリーを説明できる。<br>(3) 電池の種類と特徴が説明できる。<br>(4) 光電気化学に関連する内容について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)については、期末試験(20%)、レポート(20%)で評価する。(2),(3),(4)についてはそれぞれ期末試験(10%)、レポート(10%)で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「基礎化学コース　電気化学」　渡辺正、金村聖志、益田秀樹、渡辺正義　共著（丸善）<br>参考書　：「ムーア物理化学上下」（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気関係法規・施設管理 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 多山　洋文※ | |
| 授業概要 | 電気は感電や漏電火災という危険な面を有しているので，昔から各種の法令により，電気を供給する者，電気工事をする者，電気機器を製造する者および電気を使用する者に対して規制が行われてきている．本講義では，電気技術者にとって最低限必要な電気に関する法令および施設管理を一通り理解させることを目標として，電気事業法，電気工事士法，電気用品安全法，電気工事業法，各種電気設備の管理などについて講述する． | |
| 到達目標 | (1) 電気事業法について理解し，説明できること．<br>(2) 電気工事士法，電気用品安全法，電気工事業法について理解し，説明できること．<br>(3) 電気工作物の技術基準について理解し，説明できること．<br>(4) 電気に関する標準規格について理解し，説明できること．<br>(5) 電気施設管理について理解し，説明できること． | |
| 成績評価 | レポート 100%で評価する．レポートは別途指示された期日までに提出すること．100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする．なお.全授業回数の 2/3 以上の出席がない場合は評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：竹野正二 著 「平成 25 年度版 電気法規と電気施設管理」（東京電機大学出版局） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気機器 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 乾　義尚 | |
| 授業概要 | 磁気エネルギーを介して電気エネルギーの変換および電気と機械エネルギーの相互変換を行う電気機器は，電気エネルギーの発生・変換・利用の各段階において重要な機器である．本講義では，代表的な電気機器の構造・原理・特性を一通り理解させることを目標とする．最初に電気機器に関連する統一的な基礎事項について説明した後に，代表的な電気機器である直流機，同期機，変圧器および誘導機の各機器について個別に講述する． | |
| 到達目標 | (1) 直流機の構造・原理・特性について理解し，説明できること．<br>(2) 同期機の構造・原理・特性について理解し，説明できること．<br>(3) 変圧器の構造・原理・特性について理解し，説明できること．<br>(4) 誘導機の構造・原理・特性について理解し，説明できること．<br>(5) 電気機器に興味を持ち，自主的に学習できること． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)，(2)，(3)，(4)については，定期試験（80%：(1)27%，(2)13%，(3)13%，(4)27%），(5)については，レポート（20%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：多田隈進，石川芳博，常広　譲 著 「電気機器学基礎論」（電気学会） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気電子計測Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福岡　克弘 | |
| 授業概要 | 計測における測定方法の分類および測定値の処理法について理解する。電気計測に使用されている指示計器およびディジタル計器について、その基本的構造、動作原理および使用上の注意について学ぶ。さらに、電気および磁気測定法の分類、定義について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)精度と誤差、データ処理手法の基礎について説明できる。<br>(2)指示計器の種類と用途について説明できる。<br>(3)電圧・電流、抵抗・インピーダンス、電力、磁界の各種測定手法について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1) 精度と誤差・・・(2) 指示計器・・・(3) 電圧・電流・・・について、定期試験（70%：(1)15%,(2)25%,(3)30%）と課題レポート(30%：(1)10%,(2)10%,(3)10%) で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：阿部 武雄、村上 実著 「電気・電子計測」（森北出版）<br>指定図書：近藤 浩著 「電気計測」（森北出版）<br>参考書：田中 正吾、山本 尚武、西守 克己著 「基礎電気計測」（朝倉書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気電子計測Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 作田　健 | |
| 授業概要 | 今日の電子計測において、重要な役割を担っている信号入力部と信号解析、また全体のシステム構成、さらに応用計測について学ぶ。信号の入力には各種センサが用いられている。それらのセンサの基本原理とその用途を理解する。また、信号の解析処理について、従来からのアナログ処理およびコンピュータの普及によるディジタル処理の特徴と利用方法についての知識をえる。さらに応用計測システムについての概念を把握する。 | |
| 到達目標 | (1)種々のセンサの動作原理が理解できる。<br>(2)アナログ計測とディジタル計測について、その特徴を理解が理解できる。<br>(3)計測に利用される信号処理が理解できる。<br>(4)応用計測について、その概念が説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標（1）センサ原理は定期試験（５０%）および、レポート（２０%）、（2）アナログ計測とディジタル計測、（3）信号処理、および（4）応用計測については、定期試験（３０%：（2）１０%，（3）１０%，（4）１０%）で評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：中沢信明、松井利一、山田功著 「センサの基本と実用回路」（コロナ社）、適宜プリントを配布<br>指定図書：阿部 武雄、村上 実著 「電気・電子計測」（森北出版）<br>参考書：南茂夫、木村一郎、荒木勉著「はじめての計測工学」（講談社）、近藤浩著 「電気計測」（森北出版）、稲荷隆彦著「基礎センサ工学」コロナ社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電気電子設計製図 | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | CAD（Computer Aided Design）を用いた電気機器の作図法を、演習を通じて習得することを目的とする。最初に、製図の基礎、CAD システムの基礎概念を学習する。次に、CAD システムの操作方法を、実際に作図演習をしたり、編集したりしながら学ぶ。さらに、電気用記号の作図法を学び、実際に CAD システムを用いて作図を行う。<br>（平成 28 年度より開講） | |
| 到達目標 | | |
| 成績評価 | | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子回路Ⅰ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 稲葉　博美 | |
| 授業概要 | アナログ回路とディジタル回路からなる「電子回路」のうち，アナログ回路について、交流信号を入力として所定の増幅出力を得るために必要な回路要素（ダイオード，トランジスタなど）と，その動作原理，およびその回路要素を用いた応用回路を中心に学ぶ。アナログ回路は身近な電気機器の増幅器に用いられるだけでなく，制御器として用いられる内容についてもふれる。これらは，各種計測機器，研究機器，一般電子機器などの装置やシステムを扱う上で必須の知識となる。 | |
| 到達目標 | (1)ダイオード, トランジスタ, 演算増幅器などの電子回路構成要素についてその動作を理解し，説明ができること。<br>(2)増幅回路，発振回路，変調回路などの基礎動作を理解し，説明ができること。<br>(3)増幅回路，発振回路，変調回路などの基礎的な回路設計ができること。<br>(4)アナログ系回路の詳細設計ができること。 | |
| 成績評価 | (1)ﾀﾞｲｵｰﾄﾞ，ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀ，演算増幅器等の動作を理解できること，(2)増幅回路、発振回路、変調回路等の基礎動作を理解できること，(3)増幅回路，発振回路，変調回路等の基礎的な回路設計ができることについては，定期試験(60%：(1)20%，(2)20%，(3)20%)，(4)ｱﾅﾛｸﾞ系回路の詳細設計ができることについては，課題レポート：40%で評価する。100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：堀　桂太郎著「ｱﾅﾛｸﾞ電子回路の基礎」（東京電機大学出版局）<br>指定図書：福田　務著「アポイントマスターナログ回路」（ｵｰﾑ社），小峯龍男著「電子回路の「しくみ」と「基本」」（技術評論社）<br>参考書：藤井信生著「ｱﾅﾛｸﾞ電子回路」（昭晃堂），正田英介著「ｱﾅﾛｸﾞ回路」ｱﾙﾃ 21（ｵｰﾑ社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子回路Ⅱ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 稲葉　博美 | |
| 授業概要 | アナログ回路とディジタル回路からなる「電子回路」のうち，ディジタル回路について，論理回路を構築・動作させるために必要な要素技術と回路設計について学ぶ。さらに，集積度を高めたゲートアレーとソフトにより自由度を高めたマイコンとその周辺回路，および，その応用などについても学ぶ。これらはディジタルシステムを構築する上で重要な知識となる。 | |
| 到達目標 | (1)各種ディジタル回路の基礎動作を理解・説明できること。<br>(2)簡単な論理回路設計ができること。<br>(3)簡単な論理回路の内部の回路動作が理解できること。<br>(4)マイコンと周辺回路の動作を理解・説明できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)各種ディジタル回路の基礎動作を理解・説明できること，(2)簡単な論理回路設計ができること，(3)簡単な論理回路の内部の回路動作が理解できることについては，定期試験(60%：(1)20%，(2)20%，(3)20%)，(4)マイコンと周辺回路の動作を理解・説明できることについては，課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：堀　桂太郎著「ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ電子回路の基礎」（東京電機大学出版局）<br>指定図書：「ｷｯﾄで遊ぼう電子回路 No.5」（ｱﾄﾞｳｲﾝ），福田　務著「ﾎﾟｲﾝﾄﾏｽﾀｰﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ回路」（ｵｰﾑ社）参考書：雨宮好文著「現代電子回路学［Ⅱ］」（ｵｰﾑ社），尾崎弘著「電子回路ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ編」（共立出版），正田英介著「ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ回路ｱﾙﾃ 21」（ｵｰﾑ社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電磁気学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 作田　健 | |
| 授業概要 | 電気と磁気を対象とする電磁気学は、力学とならぶ物理学の基礎のひとつである。電磁気学Ⅰでは、静的な場の理論について学習する。まず、電磁気学で用いられる基礎的なベクトル解析の取り扱いを学ぶ。これをもとにベクトル場としての、空間の電場について理解し、真空中・誘電体中の電場、電位、また静電容量、さらに静電エネルギーについて数学的な取り扱い、具体的な計算方法を学習する。また、ガウスの法則などの物理法則の概念を把握する。 | |
| 到達目標 | (1)ガウスの定理などの積分形法則を、物理的なイメージをともなって理解し、<br>(2)具体的な問題に対し、前記法則等を用いたベクトル演算を使い、真空中・誘電体中の電界・電位、静電容量等の導出ができるようになり、さらに<br>(3)積分形法則に対応する微分形法則を理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | 定期試験を８０％、レポートを２０％とし、それらの合計で評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：安達 三郎、大貫 繁雄共著 「電気磁気学」（森北出版）、 プリント<br>指定図書：「電気学会大学講座：電気磁気学」（出版：電気学会 , 発売：オーム社）<br>参考書：砂川重信著 「電磁気学の考え方」（岩波書店）<br>大貫 繁雄、安達 三郎共著 「演習　電気磁気学」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電磁気学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福岡　克弘 | |
| 授業概要 | 電磁気学の磁気を中心として、その現象を数学的および物理的に理解する。具体的には「磁界」を定義し、それについてのビオ・サバールの法則からアンペアの法則、磁束の保存則、さらに時間変動する場における電磁誘導の法則および変位電流の法則を加え、全体が電界と磁界に関するマクスウェルの方程式に統一されることを、講義および問題演習を通じて学習する。 | |
| 到達目標 | (1)ビオ・サバールの法則およびアンペアの法則を理解し、電流と磁界の関係を説明できる。<br>(2)磁気回路について説明できる。<br>(3)インダクタンスについて理解し、電磁誘導現象に関して説明できる。<br>(4)マクスウェル方程式について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1) ビオ・サバールの法則・・・(2) 磁気回路・・・(3) インダクタンス・・・(4) マクスウェル方程式・・・について、定期試験（70%：(1)20%,(2)20%,(3)15%,(4)15%）、授業での解答発表(10%)、課題レポートおよび授業での演習(30%) で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：安達 三郎、大貫 繁雄共著 「電気磁気学」（森北出版）、 自作プリント<br>指定図書：「電気学会大学講座：電気磁気学」（出版：電気学会 , 発売：オーム社）<br>参考書：関根 松夫、佐野 元昭著 「電磁気学を学ぶためのベクトル解析」（コロナ社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子システム工学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 稲葉　博美 | |
| 授業概要 | はじめに電気・電子システム分野で必要となる基礎知識を学習する。次に，電気・電子回路の働き，設計法について紹介する。あわせて，種々の技術分野で電子システムがどのような形で応用され，社会に役立っているか，具体的な事例を通して電気・電子システムの位置付けを学習する。 | |
| 到達目標 | (1)電気・電子回路の基礎について理解ができ，回路動作などが説明できること。<br>(2)アナログ回路の基礎的な回路設計ができること。<br>(3)ディジタル回路の基礎的な回路設計ができること。<br>(4)回路実現のための素子とシステム応用の基礎知識を身につけること。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)電気・電子回路の基礎について理解ができ，回路動作などが説明できること，(2)アナログ回路の基礎的な回路設計ができること，(3)ディジタル回路の基礎的な回路設計ができることについては，定期試験(60%：(1)20%，(2)20%，(3)20%),(4)回路システム応用の基礎知識を身につけることについては，課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：伊理正夫監修「電気・電子概論」（実教出版）<br>指定図書：堀　桂太郎著「ｱﾅﾛｸﾞ電子回路の基礎」、「ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ電子回路の基礎」（東京電機大学出版局）<br>参考書：国島保治著「電子回路の基本と仕組み」（秀和ｼｽﾃﾑ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子システム工学実験Ⅰ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 電気・電子分野に関する、授業計画に示した実験を計画・遂行し、実験で得られた結果を解析して工学の視点から考察するとともに、報告書をまとめる能力を養う。 | |
| 到達目標 | 電子システムに関連する基礎的な実験に関して、<br>(1)実験の目的と方法を理解できること。<br>(2)実験を適切かつ安全に遂行できること。<br>(3)各種計測器の動作原理を理解し、適切な取り扱いができること。<br>(4)実験結果を正確に解析できること。<br>(5)実験および実験結果について的確な考察と説明ができること。<br>(6)報告書を適切にまとめることができること。 | |
| 成績評価 | すべての実験を行いレポートを提出していること。レポートは実験テーマごと作成し、別途指示された期日までに提出する。<br>受講態度と実験遂行能力の評価を 30%、レポートを 70%として、それらの合計で評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験指導書。プリントを適宜配布する。<br>指定図書：堀　桂太郎著「アナログ電子回路の基礎」(東京電機大出版)、入江 泰三、遠藤 三郎著「半導体基礎工学（I)」(工学図書)、阿部 武雄、村上 実著 「電気・電子計測」(森北出版)、国立天文台編 「理科年表」(丸善)<br>参考書　：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子システム工学実験Ⅱ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 電気・電子・情報分野に関する、授業計画に示した実験を遂行し、実験で得られた結果を解析して工学の視点から考察するとともに、報告書をまとめる能力を養う。 | |
| 到達目標 | 電子システムに関連する標準的な実験に関して、<br>(1)実験の目的と方法を理解し、各種計測器を適切に取り扱い、実験を適切かつ安全に遂行できること。<br>(2)実験結果について正確な解析および的確な考察と説明ができ、報告書を適切にまとめることができること。 | |
| 成績評価 | すべての実験を行いレポートを提出していること。レポートは実験テーマごとに作成し、別途指示された期日までに提出する。到達目標で示す(1)については、受講態度と実験遂行能力の評価（30%)、(2)については、レポート（70%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験指導書のプリントを適宜配布する。<br>指定図書：適宜紹介する。<br>参考書　：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子システム工学実験Ⅲ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 電気・電子・情報分野に関する、授業計画に示した実験を遂行し、実験で得られた結果を解析して工学の視点から考察するとともに、報告書をまとめる能力を養う。 | |
| 到達目標 | 電子システムに関連する応用的な実験に関して、<br>(1)実験の目的と方法を理解できること。<br>(2)実験を適切かつ安全に遂行できること。<br>(3)各種計測器の動作原理を理解し、適切な取り扱いができること。<br>(4)実験結果を正確に解析できること。<br>(5)実験および実験結果について的確な考察と説明ができること。<br>(6)報告書を適切にまとめることができること。 | |
| 成績評価 | すべての実験を行いレポートを提出していること。レポートは実験テーマごとに作成し、別途指示された期日までに提出する。受講態度と実験遂行能力の評価を 30%、レポートを 70%として、それらの合計で評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：実験指導書のプリントを適宜配布する。<br>指定図書：適宜紹介する。<br>参考書：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子システム工学実験Ⅳ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 電子システム工学に関するテーマに関し、課題の理解と設定、制約条件下での工学的な解決法構築と実験の計画、計画的な仕事の遂行、および報告書の作成を通じて、エンジニアリングデザイン能力と実行力を身につける。。また，工学と社会との関わりについて学ぶ。基盤テーマ①「電子回路設計」を必須テーマとし、応用テーマとして②「画像システムの構築」、③「電気音響変換器の試作」、あるいは④「有限要素法を用いた電磁界シミュレーション」のいずれかのテーマを履修する。 | |
| 到達目標 | 電子システムに関連する実験に関して、<br>(1)課題に関する基礎知識を習得し、理解できること。<br>(2)目標到達までの、問題や課題の設定と解決法の構築、実験の計画ができること。<br>(3)作業の計画的遂行と結果の評価検証ができること。<br>(4)報告書を適切にまとめることができること。<br>(5)社会の課題を理解し，解決の手段を考えることができること。 | |
| 成績評価 | 基盤および応用テーマに関する実験を行い期限までにレポートを提出すること。<br>実験遂行能力の評価（３０%）とレポート（７０%）で評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：棚木義則「電子回路シミュレータ PSpice 入門編」（CQ 出版社）<br>実験指導書。プリントを適宜配布する。<br>指定図書：適宜紹介する。<br>参考書　：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子システム工学セミナー | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 図書情報センターの活用に関する基礎知識を身につける。マイコンシステムなどの電子工作を通じて、電気・電子・情報に関する基礎的な事項を体験的に理解する。あわせて、以上の取り組みを通して、自発的かつ継続的に学習する能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1)図書情報センターの活用法が理解でき、実践できる。<br>(2)簡単なアナログ・ディジタル回路をブレッドボードで実現でき、その動作を確認できる。また、動作原理を理解し、基本的事項について説明できる。<br>(3)はんだ付けを伴うマイコンシステムの製作ができ、その動作を確認できる。また、動作原理を理解し、基本的事項について説明できる。<br>(4)センサを伴う簡単なマイコンシステムの動作原理を理解し、基本的事項について説明できる。<br>(5)自発的かつ継続的に学習することができる。 | |
| 成績評価 | 3 回以上の欠席は成績評価の対象としない。遅刻は 0.5 回分の欠席とみなす。<br>レポート・課題達成度（90%：(1)6%、(2)24%、(3)48%、(4)6%、(5)6%）、期末試験（10%：(2)5%、(3)5%）：授業で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解しているかどうかを評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを適宜配布する。<br>参考書：必要があれば講義中に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子デバイス | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柳澤　淳一 | |
| 授業概要 | 半導体や誘電体などのさまざまな電子材料を用いることで、特異な物理現象やデバイス動作を利用した高機能電子デバイスが実現されている。本講義では、これらの例として電界効果トランジスタ、高周波トランジスタ、パワーエレクトロニクス素子、量子効果デバイス、光電変換デバイスなどを取り上げ、動作原理や諸特性、課題などについて半導体の基礎に立ち戻って講述する。 | |
| 到達目標 | 代表的な電子デバイスの動作がエネルギーバンドと関連付けて説明できる。 | |
| 成績評価 | レポートおよび小試験評価 40%：講義で扱った式の導出や数値的な計算ができること。<br>期末筆記試験 60%：エネルギーバンドを理解し、代表的な電子デバイスの動作がそれにより説明できることを求める。<br>以上を 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：水谷孝「電子デバイス」（オーム社）<br>指定図書：松波弘之、尾江邦重「半導体材料とデバイス」（岩波書店）<br>参考書：菅博、川畑敬志、矢野満明、田中誠「図説　電子デバイス」（産業図書） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電子と化学結合 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　純 | |
| 授業概要 | 化学は、原子間の結合の生成や切断と、その結果生じる物質の性質とに関する学問である。物理化学はその中で、様々な化学反応や物性の中に普遍的・統一的な解釈を与える役割を担い、化学そのものの他に材料科学、エネルギー工学、地球科学など広い分野と関連し、工学部で物質やエネルギー学ぶ基礎となる。本講では物理化学の基盤を構成する３分野（量子化学、熱力学、反応速度論）の中で、化学結合と物質構造を扱う量子化学の基本概念の理解を目指す。 | |
| 到達目標 | （１）電子の波動関数のもつ意味について説明できること。<br>（２）原子の電子構造について波動関数の考えを用いて説明できること。<br>（３）原子間の共有結合について波動関数の考えを用いて説明できること。<br>（４）様々な化学結合について，それらの概要を説明できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標の（１），（３），（４）については，各々に対し，期末筆記試験 16%，宿題 5%。<br>到達目標の（２）については，期末筆記試験 32%，宿題 5%。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：正畠宏祐 著「化学の基礎 －化学結合の理解」（化学同人）<br>指定図書：長倉三郎 他編「岩波 理化学辞典 第５版」（岩波書店）<br>参 考 書：オドワイヤー 他著、鳥居泰男 他訳「入門化学結合」（培風館）<br>ウインター著、西本吉助訳「フレッシュマンのための化学結合論」（化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電磁波工学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 作田　健 | |
| 授業概要 | 電磁波は、情報通信や計測、最近では RF タグなどに利用されるなど、ますます重要になっている。この電磁波について、基本概念として、波動の基礎、マクスウェルの方程式、電磁波の伝搬について学ぶ。さらに応用として、ミリ波の利用などについても概念を把握し、電磁波工学の基礎から応用的な考え方までを体系的に学習する。 | |
| 到達目標 | (1)伝送線路に代表される波動について、複素表現、分布定数回路により説明できる。<br>(2)空間を伝搬する平面電磁波および伝送路を伝搬する伝送波の振る舞いについて理解する。<br>(3)電磁波応用について、各種応用についての概念が説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（１）は波動の説明については、定期試験（15%）、（２）電磁波の理解については、定期試験（50%）およびレポート（20%）、（３）電磁波応用については、定期試験（１５%）で評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：小塚 洋司編 村野 公俊著「基礎 電磁波工学」数理工学社<br>参考書：徳丸仁著「基礎電磁波」（森北出版）、橋本修、川崎繁男著「新しい電波工学」（培風館）、長谷部望著「電波工学（改訂版）」コロナ社、高橋応明著「電磁波工学入門」（数理工学者） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 伝熱学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栗本　遼 | |
| 授業概要 | 現在のエネルギー・環境問題を解決するために伝熱工学が非常に重要である。本講では熱伝導，熱伝達，熱ふく射の熱移動現象についてその原理や工学的問題との関係を理解し，自然現象や工業における伝熱問題を解決するための考え方を修得する。理解を深めるために授業中に基礎的な例題を解き，また，復習のための小テスト等を課す。 | |
| 到達目標 | (1)固体の熱伝導について熱伝導率, フーリエの法則について理解し種々の物体形状に対し温度分布や伝熱量が算出できる。<br>(2)対流熱伝達の基礎方程式である質量，運動量，エネルギー保存則を理解し，流れの状態に応じた伝熱量が計算できる。<br>(3)ふく射伝熱について理解し，説明や簡単な計算ができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験（６０%）および小テスト（４０%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：JSME テキストシリーズ「伝熱工学」（日本機械学会）および配付プリント<br>指定図書：庄司正弘著「伝熱工学」（東京大学出版会）<br>参考書　：相原利雄著「伝熱工学」（裳華房） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電力工学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂本　眞一 | |
| 授業概要 | 現在の人類の豊かで便利な暮らしは電気エネルギーに支えられていると言っても過言ではない．電力工学はこの電気エネルギーの発生に関わる発電工学と需要家への供給に関わる送電，変電および配電工学よりなるが，本講義では，それらのうちの発電工学について理解させることを目標として，主要な発電方式である，火力発電，原子力発電および水力発電の各技術について講述する． | |
| 到達目標 | (1) 火力発電の原理，特徴やそれに必要な物理現象等について理解し，説明できること(40%).<br>(2) 原子力発電の原理，特徴やそれに必要な物理現象等について理解し，説明できること(20%).<br>(3) 水力発電の原理，特徴やそれに必要な物理現象等について理解し，説明できること(20%).<br>(4) その他の発電方式の原理，特徴やそれに必要な物理現象等について理解し，説明できること(20%). | |
| 成績評価 | 筆記試験を 70%，レポートを 30%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．内訳は到達目標に記載項目の(1)40%，(2)20%，(3)20%，(4)20%程度とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：江間　敏，甲斐隆章 共著 「電気・電子系教科書シリーズ 電力工学」（コロナ社）<br>参考書：吉川榮和，垣本直人，八尾　健 共著 「発電工学」（電気学会） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 電力工学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂本　眞一 | |
| 授業概要 | 現在の人類の豊かで便利な暮らしは電気エネルギーに支えられていると言っても過言ではない．電力工学はこの電気エネルギーの発生に関わる発電工学と需要家への供給に関わる送電，変電および配電工学よりなるが，本講義では，「電力工学１」に引き続き，それらのうちの送電，変電および配電工学について理解させることを目標とする．まず，送電工学に関して，送電線路，等価回路，制御方式などについて説明し，さらに変電工学および配電工学についても簡単に講述する． | |
| 到達目標 | (1) 送電線路の種類，構成，特徴ならびに構成要素などについて説明できること(50%).<br>(2) 送電線路における諸定理，効果，方法や語句などについて説明できること(20%).<br>(3) 送電線路の事故，障害やその対策などについて説明できること(30%). | |
| 成績評価 | 筆記試験を 70%，レポートを 30%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．内訳は到達目標に記載項目の(1)50%，(2)20%，(3)30%程度とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：江間　敏，甲斐隆章 共著 「電気・電子系教科書シリーズ 電力工学」（コロナ社）<br>参考書：大久保仁　編著「電力システム工学」（オーム社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 特殊加工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 我々の身の回りの製品にも、非常にレベルの高い科学技術によって作られているものが多くある。例えば半導体、記憶媒体、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、モバイルＡＶ機器、携帯電話などには、電子ビーム加工、プラズマ加工、イオンプレーティングなどの高度な加工技術が基になっている。10 年前までは、これらの加工は特殊加工と呼ばれているが、現在は特殊というより微細加工技術として、多くの製品を作り出している。本講義では微細加工技術の種類とその加工原理、特徴と将来性について理解をする． | |
| 到達目標 | (1)各種加工方法の加工原理を理解する．<br>(2)加工装置の原理を理解する．<br>(3)各種加工方法の長所と短所が見極められる力を身に付ける．<br>(4)身近にある工業製品と特殊加工法を結びつけることができるようになる． | |
| 成績評価 | 中間試験（４０%），期末試験（６０%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：マイクロ応用加工　木本（共立出版）指定図書：特殊加工　佐藤（養賢堂）機械・材料系のためのマイクロ・ナノ加工の原理（共立出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 熱力学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山根　浩二 | |
| 授業概要 | 熱力学は自然界の物理現象を記述する基礎科学の一つで，機械工学を学ぶ学生にとって必須学問である。本講義は，図表や模式図などを多用したテキストを使用し，必要に応じて動画を利用して理解を深める。また，各セクションでまとめと演習を設け，自学自習を促す。 | |
| 到達目標 | （1）閉じた系および開いた系の熱力学第一法則に関する関係式が理解できる[D-1].<br>（2）理想気体の状態変化および混合に関する関係式が理解できる[D-1].<br>（3）熱力学第二法則とカルノーサイクルに関する関係式が理解できる[D-1].<br>（4）エントロピーの導出ができエクセルギーが理解できる[D-1,D-2]. | |
| 成績評価 | 成績評価は，到達目標（1）の小テスト（10%），（2）の小テスト（10%），（3）と（4）の小テスト（20%），定期試験（60%）で評価し，100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト : 君島，佐々木，田中，根本，山田著　専門基礎ライブラリー「熱力学」（実教出版），<br>指定図書 : JSME テキストシリーズ「熱力学」（日本機械学会），参考書 : 中嶋健著「やさしく学べる工業熱力学」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 熱力学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山根　浩二 | |
| 授業概要 | 熱力学Ⅰで学んだ熱力学の基礎を踏まえ，内燃機関，ヒートポンプ，蒸気サイクル，冷凍，空調など熱力学の応用に関して講義する。本講義は，テキストとプリントを使用し，必要に応じて動画を利用して理解を深める。また，各セクションでまとめと演習を設け，自学自習を促す。 | |
| 到達目標 | (1)内燃機関の熱サイクルのｐ−V 線図が描け，理論熱効率を表す式を導出できる[D-1,D-2].<br>(2)蒸気サイクルにおける蒸気表が読めて,T-s 線図が描け，蒸気の乾き度や理論熱効率などを求めることができる[D-2].<br>(3)ヒートポンプと冷凍機のサイクルが理解でき p-h 線図が読める[D-2].<br>(4)湿り空気線図が読めて，加湿・除湿量や比エンタルピーなどが求められる[D-2]. | |
| 成績評価 | 成績評価は，到達目標(1)の小テスト（10%），(2)の小テスト（10%），(3)と(4)の小テスト（20%），定期試験（60%）で評価し，100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト : 君島，佐々木，田中，根本，山田著 : 専門基礎ライブラリー「熱力学」（実教出版），<br>指定図書 : JSME テキストシリーズ「熱力学」（日本機械学会），参考書 : 中嶋健著「やさしく学べる工業熱力学」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | パワーエレクトロニクス | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 乾　義尚 | |
| 授業概要 | パワー半導体デバイスを用いてスイッチングにより電力の変換および制御を行う技術であるパワーエレクトロニクスについて，その代表的な回路構成とスイッチングの制御手法の基礎を理解させることを目標とする．まず，パワー半導体デバイスの種類とそれらの基礎特性について説明する．次に，パワーエレクトロニクス回路である，サイリスタコンバータ，DC-DC コンバータおよびインバータから代表的な回路を選んでそれらの回路構成とスイッチングの制御手法について講述する. | |
| 到達目標 | (1) 各種パワー半導体デバイスについて説明できること.<br>(2) 各種パワーエレクトロニクス回路の原理と特性について説明できること.<br>(3) パワーエレクトロニクスに興味を持ち，自主的に学習できること. | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)，(2)については，定期試験（80% : (1)27%，(2)53%），(3)については，レポート（20%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト : 堀　孝正 編著 「新インターユニバーシティ パワーエレクトロニクス」（オーム社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 半導体基礎 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柳澤　淳一 | |
| 授業概要 | 現在の高度情報化社会を支えているエレクトロニクス技術の主役である半導体デバイスを理解するため、その主要な構成要素である半導体の基礎について学ぶ。講義では半導体の基礎的な物性、半導体中での不純物原子や電気伝導を担うキャリアの運動を支配する物理法則、半導体素子の基本構造である pn 接合の理論、などを説明し、電子がどのように振る舞うことで特徴的な電気伝導が起こるのか、その基本原理を理解してもらう。 | |
| 到達目標 | 半導体の特性は二種類のキャリアの振る舞いで説明でき、キャリアの運動はエネルギーバンド構造に支配され、簡単なデバイスの動作原理がエネルギーバンドを用いて説明できる。 | |
| 成績評価 | レポートおよび小試験評価 40%：講義で扱った式の導出や数値的な計算ができること。期末筆記試験 60%：半導体の基礎特性を理解していることを計算および論述により問う。<br>以上を 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：入江泰三、遠藤三郎共著「半導体基礎工学（Ⅰ）」（工学図書）<br>指定図書：太田英二、坂田亮共著「半導体の電子物性工学」（裳華房）、高橋清著「半導体工学第 2 版」（森北出版）<br>参考書：青木昌治著「応用物性論」（朝倉書店）、キッテル「固体物理学入門」（訳本：丸善） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 半導体デバイス | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 一宮　正義 | |
| 授業概要 | エレクトロニクスの中心である半導体デバイスの物理を支配する半導体接合の物理と電気的特性に関して理解を深める。本講義を通して，学生は，半導体デバイスの中でも基本的な縦方向デバイスである pn 接合ダイオード，バイポーラトランジスタついて理解する。次に，金属・半導体界面，金属・絶縁物半導体界面の物理を学び，横方向デバイスである電界効果トランジスタについて学習する。最後に，半導体の光学的性質等に関する基礎知識を習得する。 | |
| 到達目標 | 半導体デバイスを理解する上で必須となるダイオード/トランジスタの動作原理に関してエネルギーバンド構造から理解できると同時に光デバイスの基礎知識を習得する。 | |
| 成績評価 | レポート評価 40%:自己学習を促すため，数回のレポート作成を課す。内容は，基本となる理論式の導出，簡単な数値計算および論述。<br>期末試験 60%:各レポートの内容に加え，あるデバイス特性に対して定性的説明を与える論述形式の問題を課す。<br>以上につき 100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：大村泰久編著，「半導体デバイス工学」，オーム社（ISBN-10：4274212556）<br>指定図書：S.M.ジィー，「工業基礎半導体デバイス」，産業図書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 反応速度論 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 徳満　勝久 | |
| 授業概要 | 物質の本質的安定性は化学結合と熱力学で決まるが，実際には物質の変化速度も重要である。たとえばダイヤモンドは黒鉛より不安定だが，実際には数億年経っても変化しない。また，物質の変化速度は材料合成の迅速化にも重要であるほか，速度コントロールで同じ組成でも異なる物質を合成できる。この講義では物質の変化速度を決定する，全反応の速度と素反応の関係，素反応の速度に関する微視的理論，および拡散律速反応について講述する。 | |
| 到達目標 | ①反応速度を決める諸要因を列挙できること，<br>②素反応の様々な組み合わせについて，レート方程式を導き，数値的に解けること，<br>③素反応の機構に関する理論の概要を理解していること，<br>④拡散反応の条件に応じて拡散方程式を導き，数値的に解けること | |
| 成績評価 | ①定期試験：70%<br>②宿題レポートおよび講義時間内発表等：30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | P.W. Atkins 著、千原秀昭・中村亘男 訳「アトキンス物理化学（下）」（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 光エレクトロニクス | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山田　逸成 | |
| 授業概要 | 高度情報化社会において，光と電子の相互作用に基づいた光エレクトロニクスに対する知識は，これからのデバイスエンジニアにとって必須となっている。本講義を通して，学生は，光エレクトロニクスを理解するための光学に関する知識を身につける。さらに，光物性の観点からレーザー/受光素子に関して復習を行う。加えて光エレクトロニクスを語る上で欠かせない光ファイバー，画像表示素子および光記録に関して理解を深める。 | |
| 到達目標 | (1)光エレクトロニクスの要素技術の基礎が理解できる。<br>(2)光技術の役割、意義について理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す項目ごとに(1)50%、(2)50%の割合で評価する。<br>（＊）の回に試験およびレポート作成を課す。<br>試験 50%：光技術の基本となる理論式の導出，数値計算などの問題を課す。<br>レポート評価 50%：光技術などに対して定性的説明を求める論述形式の課題を課す。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト: 特に指定しない。適宜資料を配布する。<br>指定図書：S.L Chuang,「Physics of Optelectronic Devices」。<br>参考書: 自己学習を促す観点から，特に光学に関する書籍を適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微積分Ｉ（材料） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 長谷川　武博※ | |
| 授業概要 | 微積分は近代科学と技術の基盤である。<br>この講義は１変数の微積分を学ぶ。<br>基本的な部分は既に高等学校で学んでいるので、もうすこし進んだ内容を学ぶことになる。<br>微積分学は線形代数とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。 | |
| 到達目標 | (1) 初等関数に対して微積分の基本事項(微分積分、テーラーの定理等)が正しく運用できる。<br>(2) 基本事項の応用ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して、(1) 80% (2) 15% (3) 5% の割合で評価する。<br>これを期末試験（60%）と演習問題（40%）によって評価する。<br><br>欠格条件：授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象になりません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微積分Ｉ（機械システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松下　泰雄※ | |
| 授業概要 | 微積分は近代科学と技術の基盤である。この講義は１変数の微積分を学ぶ。基本的な部分は既に高等学校で学んでいるので、もうすこし進んだ内容を学ぶことになる。微積分学は線形代数とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。 | |
| 到達目標 | (1) 初等関数に対して微積分の基本事項(微分積分、テーラーの定理等)が正しく運用できる。<br>(2) 基本事項の応用ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 80% (2) 15% (3) 5% の割合で評価する．<br>これを期末試験（95%）と演習問題（5%）によって評価する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）指定図書：上野健爾監修「技術者のための微分積分学」（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微積分Ⅰ（電子） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 長谷川　武博※ | |
| 授業概要 | 微積分は近代科学と技術の基盤である。<br>この講義は１変数の微積分を学ぶ。<br>基本的な部分は既に高等学校で学んでいるので、もうすこし進んだ内容を学ぶことになる。<br>微積分学は線形代数とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。 | |
| 到達目標 | (1) 初等関数に対して微積分の基本事項(微分積分、テーラーの定理等)が正しく運用できる。<br>(2) 基本事項の応用ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して、(1) 80% (2) 15% (3) 5% の割合で評価する。<br>これを期末試験（60%）と演習問題（40%）によって評価する。<br><br>欠格条件：授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象になりません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微積分Ⅱ（材料科学） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 門脇　光輝 | |
| 授業概要 | 微積分１を前提に、多変数（主に２変数）の関数の微積分学の基本的な部分を講義する。多変数関数の微積分は１変数の場合と異なってその扱いが複雑となるが、考え方そのものは１変数の場合と異なることはない。それを自然に多変数に拡張したものを考えるのである。 | |
| 到達目標 | (1) ２変数関数に対して微積分の基本事項(偏微分，極値を判定，重積分等)が正しく運用できる。<br>(2) 基本事項が説明でき，その応用ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 80% (2) 15% (3) 5% の割合で評価する。<br>これを期末試験（95%）と演習問題（5%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：微積分１と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微積分Ⅱ（機械システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 門脇　光輝 | |
| 授業概要 | 微積分１を前提に、多変数（主に２変数）の関数の微積分学の基本的な部分を講義する。多変数関数の微積分は１変数の場合と異なってその扱いが複雑となるが、考え方そのものは１変数の場合と異なることはない。それを自然に多変数に拡張したものを考えるのである。 | |
| 到達目標 | (1) ２変数関数に対して微積分の基本事項(偏微分，極値を判定，重積分等)が正しく運用できる。<br>(2) 基本事項が説明でき，その応用ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 80% (2) 15% (3) 5% の割合で評価する。<br>これを期末試験（95%）と演習問題（5%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：微積分１と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微積分Ⅱ（電子システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 長谷川　武博※ | |
| 授業概要 | 微積分Ｉを前提に、多変数（主に２変数）の関数の微積分学の基本的な部分を講義する。<br>多変数関数の微積分は１変数の場合と異なってその扱いが複雑となるが、考え方そのものは１変数の場合と異なることはない。<br>それを自然に多変数に拡張したものを考えるのである。 | |
| 到達目標 | (1) ２変数関数に対して微積分の基本事項(偏微分、極値を判定、重積分等)が正しく運用できる。<br>(2) 基本事項が説明でき、その応用ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して、(1) 80% (2) 15% (3) 5% の割合で評価する。<br>これを期末試験（60%）と演習問題（40%）によって評価する。<br><br>欠格条件：授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象になりません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：微積分Ｉと同じ（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微積分続論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 門脇　光輝 | |
| 授業概要 | 微積分２で扱わなかった、多変数関数の微積分学のさらに進んだ部分を講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 陰関数の導関数の計算ができ、条件付き極値問題を解くことができる．また，3 重積分の運用ができる．<br>(2) 線積分の運用ができる．<br>(3) 自分の解答を発表することができる． | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 80% (2) 15% (3) 5%　の割合で評価する，<br>これを期末試験（95%）と演習問題の発表（5%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：微積分１と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）　） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微分方程式（材料） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 米谷　文男※ | |
| 授業概要 | ニュウトンに始まる微分方程式は科学技術の礎であり，微分方程式は純粋数学，応用数学，理工学の広い分野で基本的な役割をもっている。この講義では微分積分法を基礎に１変数の常微分方程式の基本的な解法の理論（積分に依る解法、定数変化法等の考え方，変数分離型，１階線形微分方程式，定数係数高階，連立線形微分方程式，初期値問題，境界値問題等）をのべ，例を実際にとき，微分方程式を体得する． | |
| 到達目標 | 常微分方程式の基礎的事項を，単に公式に嵌めるばかりでなく，その理由を理解し、正しく運用ができるようになること． | |
| 成績評価 | 期末試験の結果によって評価（100%）する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「微分方程式概説」岩崎・楳田共著（サイエンス社）<br>参考書：「微分方程式」長瀬道弘著（裳華房） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微分方程式（機械システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 米谷　文男※ | |
| 授業概要 | ニュウトンに始まる微分方程式は科学技術の礎であり，微分方程式は純粋数学，応用数学，理工学の広い分野で基本的な役割をもっている。この講義では微分積分法を基礎に１変数の常微分方程式の基本的な解法の理論（積分に依る解法、定数変化法等の考え方，変数分離型，１階線形微分方程式，定数係数高階，連立線形微分方程式，初期値問題，境界値問題等）をのべ，例を実際にとき，微分方程式を体得する． | |
| 到達目標 | 常微分方程式の基礎的事項を，単に公式に嵌めるばかりでなく，その理由を理解し、正しく運用ができるようになること． | |
| 成績評価 | 期末試験の結果によって評価（100%）する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「微分方程式概説」岩崎・楳田共著（サイエンス社）<br>参考書：「微分方程式」長瀬道弘著（裳華房） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 微分方程式（電子システム） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松下　泰雄※ | |
| 授業概要 | 独立変数が１つの微分方程式を常微分方程式という。常微分方程式は科学・技術の広い分野で基本的な役割をもっている。この講義では常微分方程式の基本的な解法を学ぶ。微分方程式は応用上重要であり、その運用の仕方をきちんと身につけなければならない。 | |
| 到達目標 | (1) 変数分離形の方程式、1 階線形方程式、2 階線形方程式の基本的な運用ができる。<br>(2) 微分方程式に関するより進んだ理解や応用ができる。<br>(3) 自分の解答を発表することができる。 | |
| 成績評価 | 全体に対して，(1) 65% (2) 15% (3) 10% (4) 20% の割合で評価する，<br>これを期末試験（80%）と演習問題の発表（20%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「微分方程式概説[新訂版]」岩崎・楳田共著（サイエンス社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 複合材料 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山下　義裕 | |
| 授業概要 | 複合材料（繊維と樹脂もしくは金属）の特性，新しい複合材料の基礎的事項，複合材料の強度と破壊，構造解析と材料の調和について理解する．<br>アメリカボーイング社の 787 やエアバス社の A350 は機体の 50%以上が複合材料で作られている。さらに自動車の軽量化のために複合材料がますます利用されようとしている。授業では複合材料の基礎を学ぶと共に，次世代の新しい軽量で高強度な材料についても講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 複合材料設計に必要な複合則を理解する<br>(2) 複合材料を作製するための基礎を理解する<br>(3) 複合材料の強度と弾性率をシミュレーションを利用して算出できる<br>(4) 複合材料が環境を配慮した新しい材料であることを理解する<br>(5) 複合材料の利用されている実例について理解する<br>(6) CAE を利用した複合材料設計を理解する | |
| 成績評価 | 宿題課題　20%<br>中間テスト 40%<br>期末テスト　40%<br>100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「入門：複合材料の力学（培風館）」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 物性デバイス基礎論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 一宮　正義 | |
| 授業概要 | 電子デバイスは，多様な材料から構成される。こうした材料の物性を理解することは，新規デバイスの開発を行う上で必須である。本講義を通して，学生は，(1)誘電体・絶縁体材料，(2)磁性体材料，(3)半導体材料，(4)導電性材料の基本事項を学ぶ。さらに材料開発において欠かすことのできない材料評価方法について学習する。 | |
| 到達目標 | 各材料の物理的性質および特性を記述する基本式の意味を理解し，適切な材料選択/設計を行うことができる。 | |
| 成績評価 | レポート評価 40%:自己学習を促すため，数回のレポート作成を課す。内容は，基本となる理論式の導出，簡単な数値計算および論述。<br>期末試験 60%:各レポートの内容に加え，理論式の持つ意味等，論述形式の問題を課す。<br>以上につき 100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特に指定しない<br>指定図書：黒沢達美「物性論」(裳華房);河東田隆「半導体評価技術」(産業図書)。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 物理化学総合および同演習 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮村　弘 ・ 山下　義裕 ・ 吉田　智 ・ 秋山　毅 | |
| 授業概要 | 物理化学の基礎的な演習問題を解きその考え方を習得することによって、材料科学を学ぶ上で基礎となる熱力学、化学結合の適用範囲の広さを知り、実際の材料科学の問題に応用できるスキルを身につける。基礎化学、電子と化学結合、基礎熱力学、化学熱力学、基礎結晶学、無機化学 I の講義内容に関連した基礎的な内容の演習問題を解き、巨視的および微視的に物質とエネルギーの挙動を理解する。 | |
| 到達目標 | (1) 気体の性質を巨視的に理解し、熱力学量を求めることができる。熱力学の基本法則を理解]できる。エントロピーの計算ができる。<br>(2) 相平衡に関連する様々な問題を解くことができる。<br>(3) 化学結合、分子構造、波動関数について理解できる。<br>(4) 固体の基礎的な構造が理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1), (2), (3), (4)については、それぞれに対し、提出課題(15%)、講義時間内発表および受講態度(10%)で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：P.W. ATKINS 著、千原秀昭・中村亘男訳『アトキンス物理化学　上』(東京化学同人)<br>参考書：講義の中で必要に応じて紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 物理学実験（材料科学） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋山　毅 ・ 山下　義裕 ・ 田邉　裕貴 ・ 西岡　靖貴 ・ 小郷原　一智 ・ 一宮　正義 | |
| 授業概要 | 自然科学の基礎となる物理学のいろいろな現象 を観察するとともにそれらに関する物理量を種々の測定器具を用いて測定する。実測した実験データを基に図表を作成し，物理学の諸法則や諸原理の関係を考 え，適宜実験報告書の作成指導を受け，プレゼンテーションの仕方を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)基本的な物理量に関する理解を深め， それらの測定方法や原理を説明できる(C)。<br>(2)最小二乗法によるデータ処理，実験誤差，有効数字の取扱，グラフ作成などの実験データの整理ができ る (D-3)。<br>(3)実験報告書の作成やプレゼンテーションを通じて実験の報告ができる(F)。(4)実験を通して基本的な原理や法則を具体的に理解 し，実験観察による各種現象を物理学的に説明できる(D-1)。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1),(2),(3),(4)について、レポート(80%：(1)20%,(2)20%,(3)20%,(4)20%)とプレゼンテーションとディスカッション (20%：(1)5%,(2)5%,(3)5%,(4)5%)) で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。単位を取得するためには，全回出席，全実験報告書の受理，プレゼンテーションの実施，が必要である。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：本学部作成の物理学実験テキストを使用する。<br>参考書：授業のなかで紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 物理学実験（機械システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋山　毅 ・ 山下　義裕 ・ 田邉　裕貴 ・ 西岡　靖貴 ・ 小郷原　一智 ・ 一宮　正義 | |
| 授業概要 | 自然科学の基礎となる物理学のいろいろな現象を観察するとともにそれらに関する物理量を種々の測定器具を用いて測定する。実測した実験データを基に図表を作成し，物理学の諸法則や諸原理の関係を考え，適宜実験報告書の作成指導を受け，プレゼンテーションの仕方を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)基本的な物理量に関する理解を深め，それらの測定方法や原理を説明できる(C)。<br>(2)最小二乗法によるデータ処理，実験誤差，有効数字の取扱，グラフ作成などの実験データの整理ができる (D-3)。<br>(3)実験報告書の作成やプレゼンテーションを通じて実験の報告ができる(F)。<br>(4)実験を通して基本的な原理や法則を具体的に理解し，実験観察による各種現象を物理学的に説明できる(D-1)。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1),(2),(3),(4)について、レポート(80%：(1)20%,(2)20%,(3)20%,(4)20%)とプレゼンテーションとディスカッション（20%：(1)5%,(2)5%,(3)5%,(4)5%)）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。単位を取得するためには，全回出席，全実験報告書の受理，プレゼンテーションの実施，が必要である。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：本学部作成の物理学実験テキストを使用する。<br>参考書：授業のなかで紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 物理学実験（電子システム） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋山　毅 ・ 山下　義裕 ・ 田邉　裕貴 ・ 西岡　靖貴 ・ 小郷原　一智 ・ 一宮　正義 | |
| 授業概要 | 自然科学の基礎となる物理学のいろいろな現象を観察するとともにそれらに関する物理量を種々の測定器具を用いて測定する。実測した実験データを基に図表を作成し，物理学の諸法則や諸原理の関係を考え，適宜実験報告書の作成指導を受け，プレゼンテーションの仕方を身につける。 | |
| 到達目標 | (1)基本的な物理量に関する理解を深め，　それらの測定方法や原理を説明できる(C)。<br>(2)最小二乗法によるデータ処理，実験誤差，有効数字の取扱，グラフ作成などの実験データの整理ができる (D-3)。<br>(3)実験報告書の作成やプレゼンテーションを通じて実験の報告ができる(F)。<br>(4)実験を通して基本的な原理や法則を具体的に理解し，実験観察による各種現象を物理学的に説明できる(D-1)。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1),(2),(3),(4)について、レポート(80%：(1)20%,(2)20%,(3)20%,(4)20%)とプレゼンテーションとディスカッション（20%：(1)5%,(2)5%,(3)5%,(4)5%)）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。単位を取得するためには，全回出席，全実験報告書の受理，プレゼンテーションの実施，が必要である。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：本学部作成の物理学実験テキストを使用する。<br>参考書　：授業のなかで紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プラズマ工学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 一宮　正義 | |
| 授業概要 | 電離気体に代表されるプラズマは，固体・液体・気体のいずれにも当てはまらないため物質の第 4 状態とも言われ，種々の工学的応用に用いられている．本講義では，このプラズマについて，その基礎から応用までを一通り理解させることを目標とする．まず，プラズマの定義およびその微視的・巨視的性質について説明する．次に，プラズマの各種発生法について述べ，さらにその応用についても簡単に講述する． | |
| 到達目標 | (1) プラズマの基本特性について理解し，説明できること（40%).<br>(2) プラズマの微視的・巨視的性質について理解し，説明できること（30%).<br>(3) プラズマに関する理論や法則について説明できること（30%). | |
| 成績評価 | 筆記試験を 60%，レポートを 40%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．内訳は到達目標に記載項目の(1)40%，(2)30%，(3)30%程度とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：行村健　編著　「放電プラズマ工学」（オーム社）<br>参考書：菅井秀郎 編著　「インターユニバーシティ プラズマエレクトロニクス」（オーム社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プログラミング基礎（材料） | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | Linux 上の C を用いてプログラミングの概念や、初歩的なプログラミング手法、あるいは開発環境についての知識を習得することを目的とする。特に理系の学生には必要とされる数値解析法へ応用できるよう、型の厳密な扱いや、プログラムの見通しをよくするためのモジュール化などについても触れる。この演習では Linux を利用するが、Linux には特化せず一般的な Unix での開発ができるよう普遍性のある知識の習得を目指す。 | |
| 到達目標 | （1）プログラム言語の書式や文法を理解できること。<br>（2）アルゴリズムの理解のもとに、基本的なプログラミング技法を習得する。 | |
| 成績評価 | 小テスト 60%、課題 40%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）については小テスト 20%で、（2）については小テスト 40%、課題 40%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）<br>指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀書店）<br>参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プログラミング基礎（機械） | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | Linux 上の C を用いてプログラミングの概念や、初歩的なプログラミング手法、あるいは開発環境についての知識を習得することを目的とする。特に理系の学生には必要とされる数値解析法へ応用できるよう、型の厳密な扱いや、プログラムの見通しをよくするためのモジュール化などについても触れる。この演習では Linux を利用するが、Linux には特化せず一般的な Unix での開発ができるよう普遍性のある知識の習得を目指す。 | |
| 到達目標 | （1）プログラム言語の書式や文法を理解できること。<br>（2）アルゴリズムの理解のもとに、基本的なプログラミング技法を習得する。 | |
| 成績評価 | 小テスト 60%、課題 40%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）については小テスト 20%で、（2）については小テスト 40%、課題 40%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）<br>指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀書店）<br>参考書：後日、担当教員から通知する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プログラミング基礎（電子） | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮城　茂幸 | |
| 授業概要 | ソフトウェアがどのように作成されているかについての概念を学び、実際に C 言語を使用して Linux 上で、簡単な文字ベースのアプリケーションプログラムを開発する。特に理系の学生には必要とされる数値解析法へ応用できるよう、型の厳密な扱いや、プログラムの見通しをよくするためのモジュール化などについても触れる。この演習では Linux を利用するが、Linux には特化せず一般的な Unix での開発ができるよう普遍性のある知識の習得を目指す。 | |
| 到達目標 | (1) 定数および変数の型を理解し、基本的な算術演算による計算と標準入出力が行えること。<br>(2) if、while、for を用いプログラムフローが制御できること。<br>(3) 配列を用いたプログラムが記述できること。<br>(4) 組込み関数を利用できるとともに、機能単位を関数として実装できること。 | |
| 成績評価 | 講義中に行う課題および到達確認テストで成績を算出する。<br>(1) (2) (3) (4) それぞれ課題 15%、到達確認テスト 10%で評価し成績を算出する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：柴田望洋著「新版明解 C 言語　入門編」（ソフトバンククリエイティブ）<br>指定図書：B. W. カーニハン、D. M. リッチー著、石田晴久訳「プログラミング言語 C（共立出版）<br>参考書：B. W. カーニハン、 P. J. プローガー著、 木村泉訳「プログラム書法」（共立出版）<br>必要に応じ、講義資料を配布したり、指定図書や参考書を担当教員から指定する場合がある。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プログラミング言語 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 畑中　裕司 | |
| 授業概要 | ソフトウェア開発に広く用いられている命令型言語、論理型言語、オブジェクト指向言語など、様々なプログラミング言語の特徴とプログラミングのスタイルについて講義する。そして、プログラミング言語の構文と構文の意味について講義する。さらに、プログラムのテスト技法について講義する。 | |
| 到達目標 | (1)複数の言語の特徴とプログラミングスタイルについて説明でき、問題を解答できる。<br>(2)プログラミング言語の構文と意味について説明でき、問題を解答できる。<br>(3)プログラムのテスト技法について説明でき、問題を解答できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)～(5)については、定期試験（80%：(1)55%、(2)15%、(3)10%）で評価する。また、到達目標で示す(1)～(2)については、授業の進捗に応じてレポート（20%：(1)15%、(2)5%）を課し、評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：大山口通夫、五味弘著「プログラミング言語論」（コロナ社）、柴田望洋著「新版 明解Ｃ言語入門編」（ソフトバンククリエイティブ）<br>指定図書：柴合治著「プログラム工学」（サイエンス社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 分子・統計力学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　純 | |
| 授業概要 | 原子間や分子間の微視的な相互作用は量子力学に基づく化学結合論で扱え、また原子や分子の集団としての振る舞いは熱力学の考えで扱える。しかし、この二つ（微視的相互作用と巨視的挙動）を結び付けるには統計力学の考えが必要である。そこで本講では統計力学について、弱い相互作用の系で微視的扱いと巨視的扱いを関連づける気体分子運動論、相互作用のある系における統計力学の基本的枠組み、材料科学における統計力学の有効性を示す実例の順に講述する。 | |
| 到達目標 | （１）平衡状態での純物質の気体分子運動論について理解していること。<br>（２）統計力学の基本的な枠組について理解していること。<br>（３）材料科学へ統計力学を応用した実例を幾つか示し，その概要を説明できること。 | |
| 成績評価 | （１）気体分子運動論　（期末筆記試験 13%，宿題とその発表 10%）<br>（２）統計力学の枠組　（期末筆記試験 13%，宿題とその発表 17%）<br>（３）統計力学の応用　（期末筆記試験 24%，宿題とその発表 23%）<br>ただし，宿題の内容について少なくとも１回は板書および口頭で説明し，質疑応答を行うことを，成績評価の必要条件とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：P.W. Atkins 著、千原秀昭・中村亘男 訳「アトキンス物理化学 第８版（上、下)」（東京化学同人），および 上田和夫 著「統計物理学入門」（共立出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 分析・環境化学実験（材料科学） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷本　智史 ・ 鈴木　厚志 ・ 竹原　宗範 ・ 伊田　翔平 | |
| 授業概要 | 環境に配慮した少量の試料による定性定量分析の理解と廃液処理の概念を獲得させる。まず、水溶液中の金属イオンの種類を知るための定性分析によって，金属イオンの基本反応を理解させるとともに，金属イオンを系統的に分離・確認する基本操作を修得させる。さらに酸塩基滴定を通して定量分析を理解させる。また、重金属イオンを含む廃液の処理方法を講義で説明するとともに，実際に廃液を処理することにより，実験室から有害な重金属イオンを排出しないことの重要さを認識させる。 | |
| 到達目標 | (1)少量の試料による定性分析とその操作を理解できること。4-5 種類のカチオンの分離ができること。<br>(2)環境に配慮した実験排水処理を説明できること。<br>(3)酸・塩基溶液の正確な濃度を決定できること。誤差と標準偏差の関係を説明できること。 | |
| 成績評価 | 所定の出席数を満たした者に対し、つぎの基準で評価する。到達目標(1)については、実験に取り組む態度および基本的な実験遂行能力（30%）、レポート（30%）で評価する。 (2)については、実験に取り組む態度および基本的な実験遂行能力（5%）、レポート(5%)で評価する。 (3)については、実験に取り組む態度および基本的な実験遂行能力（15%）、レポート(15%)で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。ただし、１回以上レポートを提出しなかったもの、安全・衛生・環境配慮・実験に取り組む姿勢に関する指導に従わなかった者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『無機定性分析実験』京都大学総合人間学部編（共立出版），『実験を安全に行うために』化学同人編集部編（化学同人），『続　実験を安全に行うために』化学同人編集部編（化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 分析化学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 秋山　毅 | |
| 授業概要 | 化学の領域における、分析の精度や誤差、化学平衡および定量分析の概念を理解することを目的とする。そのため、酸塩基反応、錯体生成反応、酸化還元反応、沈殿の生成、物質の分離と濃縮の方法など基礎的な領域の解説を行う。あわせてこれらの基礎的内容の分析化学への応用についても説明を行い、定量分析を確実に行うために必要となる重要な概念の理解につなげる。 | |
| 到達目標 | (1)分析データの統計的取り扱いの概念を説明できる。<br>(2)酸塩基反応や錯体生成反応を用いる分析の説明ができる。<br>(3)酸化還元反応や沈殿生成を用いる分析の説明ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)については、期末試験(10%)、レポート(10%)で評価する。(2)については、期末試験(30%)、レポート(30%)で評価する。(3)については、期末試験(10%)、レポート(10%)で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『基礎教育シリーズ分析化学＜基礎編＞』本水・磯崎・櫻川・井原・内山・善木・寺前・中釜・平山・三浦・南澤・森田著（東京教学社）　参考書:『定量分析化学』R. A. デイ, A. L. アンダーウッド共著、鳥居泰男・康　智三　共訳　（培風館）『分析化学』R.L.Pecsok ほか共著、荒木　峻, 鈴木繁蕎　共訳　（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 無機化学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松岡　純 | |
| 授業概要 | 無機化学では自然界に存在する１００以上の元素すべてを扱うため、対象物質の数は２原子分子で１００の２乗、３原子分子では３乗（１００万）程度と膨大である。そのため物質ごとの暗記ではなく構成元素の特徴に基づく系統的な理解、つまり、原子間の結合の特徴の元素依存性についての電子構造に基づく理解が重要となる。そこで本講では、イオン結合性の固体と、共有結合性の分子および固体について、これらの基本的な捉え方を講義する。 | |
| 到達目標 | 次の（1）～（5）について概要を説明できること：<br>（1）元素の周期表上の位置と性質・結合性の関係<br>（2）イオン結晶の安定性<br>（3）遷移金属イオンのｄ軌道の配位子場分裂<br>（4）共有結合性物質の電子構造と安定な構造の定まり方<br>（5）無機物質の反応性，特に酸塩基反応と酸化還元反応の反応性 | |
| 成績評価 | 次の（1）～（5）の各々について，期末筆記試験 16%，宿題 4%。<br>（1）元素の性質<br>（2）イオン結晶<br>（3）遷移金属イオン<br>（4）共有結合<br>（5）無機物質の反応 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：　小村 照寿 著,　「基本的な考え方を学ぶ無機化学」　三共出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 無機化学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Balachandran Jeyadevan | |
| 授業概要 | 無機材料の多くは多元系材料であり、材質を知るためには熱力学的性質の理解が不可欠である。本講義ではまず、金属元素を主な構成要素とする材料のミクロな構造について、基礎結晶学で学習した内容の復習を踏まえて簡単に紹介したあと、二元系および三元系合金を中心に、熱力学と平衡状態図について講述する。さらに準安定相・非平衡相についても解説する。また、金属同士ばかりでなく、水溶液中におけるイオンとの化学平衡についても述べ、酸化還元平衡からネルンストの式を介して、電気化学ポテンシャルの概念を学習する。 | |
| 到達目標 | (1)合金、固溶体、金属間化合物とは何か、簡単に説明できること。<br>(2)自由エネルギーと相図の関連を理解すること。<br>(3)二元系・三元系合金状態図を用いて、不変系反応を理解し、相構成を読み取ることができること。<br>(4)水溶液中における酸化・還元反応について、ネルンストの式の導出過程を理解できること | |
| 成績評価 | 小テスト（４０%）、定期試験（６０%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：松原英一郎他『金属材料組織学』（朝倉書店）<br>指定図書：坂公恭著『材料系の状態図入門』（朝倉書店）<br>参考書：横山亨：『図解　合金状態図読本』（株式会社オーム社）三浦　憲司、福富　洋志、小野寺　秀博：見方・考え方　合金状態図（株式会社オーム社)、坂　公恭著「材料系の状態図入門」（朝倉書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | メカトロニクス | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安田　寿彦 | |
| 授業概要 | メカトロニクスの基礎事項と応用例について講義する。日本で生まれた新しい学問であるメカトロニクスは機械と電子が一体化･融合した技術であり，そのことにより初めて新しい機能が創造され，新しい価値を生み出している。要素技術は従来の学問であるが，それらを如何に融合するかがメカトロニクスのポイントである。実際の応用例を参考に，新しい機能の創生は如何になされたかを理解・修学してもらいたい。 | |
| 到達目標 | (1)メカトロニクスの効果と基本思想を理解し説明できる。<br>(2)メカトロニクスの構成要素を理解し説明できる。<br>(3)メカトロニクスの応用例を理解し説明できる。 | |
| 成績評価 | 課到達目標の(1)～(3)に関して，定期試験 80%，演習課題 20%，合計 100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：土谷武士/深谷健一　共著　メカトロニクス入門　（森北出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 有機化学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北村　千寿 | |
| 授業概要 | まず、混成軌道・極性共有結合・酸と塩基を取扱い、有機化合物の性質を理解していく上で必要な基礎的事項について学習する。さらに、アルカン・シクロアルカン・鏡像異性体に関する三次元構造を扱い、立体化学の基礎を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)混成軌道に基づいて分子の形を説明できるようになる。<br>(2)化学構造式を用いて分子の表現と理解ができる。<br>(3)アルカン、シクロアルカン、立体異性体の三次元構造を把握し説明できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1),(2),(3)については、中間試験 30%、期末試験 30%、レポートおよび授業での演習 40%として評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「マクマリー有機化学（上）第８版」（マクマリー著　伊東・児玉・荻野・深澤・通訳　東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 有機化学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣川　能嗣　・　伊田　翔平 | |
| 授業概要 | 有機化合物は多種多様であるが、すべての有機反応の根底は少数の基本的概念で説明することができる。まず、アルケンとアルキンの求電子付加反応を学ぶ。次にハロゲン化アルキルの求核置換と脱離反応を学習する。 | |
| 到達目標 | (1) アルケンの一般的な性質について理解し、求電子付加反応に代表されるアルケンの反応について説明できる。<br>(2) アルキンの一般的な性質について理解し、アルキンの関わる一般的な反応について説明できる。<br>(3) ハロゲン化アルキルの一般的な性質について理解し、Grinard 反応に代表されるハロゲン化アルキルの反応について説明できる。<br>(4) SN2 反応、SN1 反応、E1 反応、E2 反応の違いを理解し、反応機構について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)~(4)について、中間試験((1) 30%)、期末試験(70%: (1)~(2) 各 10%、(3), (4) 各 25%)により成績評価を行う。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「マクマリー有機化学（上）第８版」（マクマリー著　伊東・児玉・荻野・深澤・通訳　東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 有機化学Ⅲ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北村　千寿 | |
| 授業概要 | 芳香族化合物、アルコールおよびアミン類は様々な製品の中に用いられたり生体中に存在する重要な物質群である。まず、芳香族性と芳香族求電子置換反応を学ぶ。次に、アルコールとアミンの反応様式を学習する。 | |
| 到達目標 | （1）芳香族性を理解し、芳香族求電子置換反応を説明できること。<br>（2）アルコール、エーテル、アミンに関する多様な反応様式を説明できること。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1),(2)については、中間試験 30%、期末試験 30%、レポートおよび授業での演習 40%として評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:「マクマリー有機化学（上）第８版」、「マクマリー有機化学（中）第８版」、指定図書:「マクマリー有機化学（下）第８版」（マクマリー著　伊東・児玉・荻野・深澤・通訳　東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 有機化学Ⅳ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 井上　吉教 | |
| 授業概要 | 授業のねらいは有機合成の立場から、生成物の精製と分析機器による構造決定について講義する。赤外スペクトルでは原子間の結合強度、核磁気共鳴では遮蔽が重要である。そこで自然界の有機化合物、ヘテロ元素化合物などの構造決定にどのように応用するかについて実例を示しながら解説する。また光学活性体の分離や絶対配置決定についても言及する。 | |
| 到達目標 | （1）有機反応における生成物の一般的な精製法や純度決定法を理解すること<br>（2）有機化合物の赤外スペクトルや核磁気共鳴スペクトルから構造を推定もしくは決定できること（複雑な天然物などは除く）<br>（3）光学活性体の分割手法を理解し、核磁気共鳴スペクトルにより絶対配置を決定できること。 | |
| 成績評価 | レポート評価　６０％　期末筆記試験　４０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:プリント配布参考書:マクマリー有機化学概説第６版（東京化学同人）　有機化合物のスペクトルによる同定法（東京化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 有機化学総合および同演習 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 谷本　智史 ・ 鈴木　厚志 ・ 竹原　宗範 ・ 伊田　翔平 | |
| 授業概要 | 基礎化学や有機化学 I、II、III の講義に関する演習問題を学生自らが板書解答し、その考え方を説明することにより、有機化学の基礎をより深く理解する。 | |
| 到達目標 | (1) 有機化合物内の化学結合の様式を理解する。<br>(2) 混成軌道の立体構造を理解する。<br>(3) アルケンに対する付加反応の反応過程を説明できるようになる。<br>(4) 芳香族置換反応の配向性と置換基の関係を理解する。<br>(5) 基本的な有機化学反応の原理を口頭で発表できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）～（5）について、時間内の発表（50%）と宿題（50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし<br>指定図書：理化学辞典、化学便覧<br>参考書　：マクマリー有機化学 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 流体力学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 南川　久人 | |
| 授業概要 | 流体に関わる物理現象を正しく理解すると同時に，我々の身の回りや工業における流れの問題を解決するための考え方を身につけることを目的とする。そのために，まず流体と流れの分類と物性値，流体用語の定義を解説したのちマノメータや静水圧に関係する静止流体力学について学ぶ。次に，流体の加速度，質量保存則と連続の式，運動方程式を導いた後，ベルヌーイの定理について学習する。この定理を利用してさまざまな流れ場を解いたのち，粘性の影響も考慮したナヴィエ・ストークスの方程式を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)流体力学の必要性を説明できる(D-1)。(2)粘性，圧力，層流と乱流，定常流と非定常流など，重要な用語の定義や性質を説明できる(D-2)。(3)マノメータと圧力の関係を表す式をさまざまな系について導出できる(D-2)。(4)連続の式とベルヌーイの定理を用いて，簡単な流れ場が解けるようになる(D-2)。(5)ナヴィエ・ストークスの方程式の全体と各項の意味を理解し，簡単な系に適用できる(D-2)。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)については，定期試験(10%)で，(2)，(3)，(4)，(5)については，課題と定期試験(90%：(2)20%，(3)20%，(4)30%，(5) 20%)で評価する。課題としてはほぼ毎回出題するので，レポートを提出すること(35%)。期末には筆記試験(65%)を行う。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：杉山 弘編，松村，河合，風間著，「明解入門流体力学」（森北出版）<br>指定図書：深野　徹，「わかりたい人の流体工学（Ⅰ）」（裳華房）<br>参考書　：森川敬信ほか，「新版流れ学」（朝倉書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 流体力学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 南川　久人 | |
| 授業概要 | 流体力学Ⅰで学んだ流れの力学的基礎概念をもとに，応用上重要と考えられる流体力学の各種理論や項目を取り上げ，考え方，考察の仕方を理解する。相似則，次元解析，運動量の理論，管内流の詳細理論，管内乱流の取り扱い，各種損失，物体周りの流れ，揚力と抗力など，応用上の観点から，より詳細に流れを説明できる理論や，様々な流れを取り扱う理論の基礎を学ぶ。また，流体計測法など，工学的・実用的な問題も取り扱う。それにより，種々の流体問題に対処できる，物理的考え方，考察の仕方を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)流体力学に関して簡単な次元解析ができ，無次元数で整理する意義を説明できる。(2)円管内層流・乱流の速度分布について説明でき，直管の摩擦損失を算出できる。(3)さまざまな場所で生じる局所損失を理解し，複雑な配管の摩擦損失を算出できる。(4)揚力と抗力の意味を理解し，流れの中に置かれた簡単な形状の物体に作用するこれらの力を算出できる。(5)代表的な流体計測法を説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1), (2), (3), (4), (5)について，課題と定期試験(100%：(1)10%, (2)30%, (3)20%, (4)30%，(5) 10%)で評価する。課題としてはほぼ毎回出題するので，レポートを提出すること(35%)。期末には筆記試験(65%)を行う。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：杉山 弘編，松村，河合，風間著，「明解入門流体力学」（森北出版）<br>指定図書：深野　徹，「わかりたい人の流体工学（Ⅱ）」（裳華房）<br>参考書　：森川敬信ほか，「新版流れ学」（朝倉書店） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 量子力学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柳澤　淳一 | |
| 授業概要 | 量子力学の知識と量子力学的なものの考え方は、電気・電子デバイスの基礎となる物質科学のみならず、量子コンピュータに代表されるように情報系の分野でも必要不可欠である。本講義では、電子・情報系で最低限必要と思われる量子力学の理論的枠組みをできるだけ簡単な形で説明し、数学的手法のみならず物理的イメージを習得させ、量子力学を応用するための力を養う。 | |
| 到達目標 | (1)微小な世界における粒子性と波動性という二重性が理解できる。<br>(2)量子力学の基本的な方程式の一つであるシュレーディンガー方程式が理解できる。<br>(3)簡単な系について実際に問題を解き、波動関数の性質が理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す項目ごとに概ね(1)30%、(2)30%、(3)40%の割合で評価する。<br>これをレポートおよび小試験評価 40%（講義で扱った式の導出や数値的な計算ができること）と期末筆記試験 60%（量子力学の基本原理が理解でき、簡単な系のシュレーディンガー方程式が解けることを求める）で評価する。<br>以上を 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：原島鮮「初等量子力学（改訂版）」（裳華房）<br>指定図書：松下栄子「量子論のエッセンス」（裳華房）<br>参考書　：小出昭一郎「量子力学（I）（改訂版）」（裳華房） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ロボット工学（機械、電子） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 作田　健 | |
| 授業概要 | ロボット工学は、現代の工業技術の集大成であり、電気・電子・システム工学から機械工学、さらにコンピュータ制御などに統合した広範囲な科学技術である。このロボット工学の基礎について、「運動と制御」、「センシング」、「システム」の 3 つの観点から学習する。さらに、これらの統合について考察する。 | |
| 到達目標 | (1)ロボットの機構およびメカニズムについて説明できる。<br>(2)ロボットに使用されているセンサおよびアクチュエータについて説明できる。<br>(3)ロボットの運動学および制御に関して説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標の（1）機構およびメカニズムについては定期試験（20%）、（2）センサおよびアクチュエータについては定期試験（20%）、(3) 運動学および制御に関しては定期試験（40%）、レポート（20%）とし、それらの合計で評価する。<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：松日楽信人、大明準著「わかりやすいロボットシステム入門」（オーム社）<br>指定図書：川崎晴久著「ロボット工学の基礎」（森北出版）<br>参考書：高橋良彦著「ロボティクス入門」（裳華房） | |
| 履修資格 | | |

# ６　人間文化学部科目履修の手引

## 1. 人間文化学部の学位授与方針

人間文化学部では、以下の学位授与方針の下、各学科に即した教育目標が設けられています。

Ａ　人間の文化に関する幅広い知識を身につけ、文化のさまざまな側面に対する理解を深める。（知識・理解）

Ｂ　大学で学んだことを手がかりに、多様なできごとに興味と関心を持ち問題を解決しようとする態度を身につける。（興味・関心）

Ｃ　自分の直面している問題に対して柔軟な思考と判断ができる。（思考・判断）

Ｄ　各専門領域に応じた調査・研究を行い、それを表現する技術・技能を身につける。（技術・技能）

## 2. 人間文化学部各学科の教育目標について

### （１）　地域文化学科

地域文化学科では、環琵琶湖地域を中心に、日本、さらに密接な交流がある中国・朝鮮をも視野に入れて、これらの社会に関わる過去と現在の諸問題を考えていきます。そのために、地域を分析するうえで必要な手法を身につけ、フィールドワーク（現地調査）を通じてそれぞれの地域に生きる人々の姿を見つめ、これからの社会のあり方について研究します。

### （２）　生活デザイン学科

生活デザイン学科では、生活環境を構成する人の身近な空間を、まず人の身体に密着した衣服、身の回りにある道具、そして生活の容器である住居と、三つの分野に分け、基礎から実践に至るまでの理論を講義するだけではなく、基礎演習、三分野のデザイン演習により講義で学んだ理論の理解を深め、デザインスキルを磨く教育を行う。そして、生活環境、生活様式に関わる問題を発見し、具体的な方法論により分析・考察し、解明・解決・提案できる総合的なデザイン能力を持った人材の育成を目指す。

### （３）　生活栄養学科

現代の日本は世界一の健康寿命国となった反面、生活習慣病、アレルギー性疾患など食生活が要因となる問題がクローズアップされてきている。科学的根拠を基盤としてこれらの問題に対処できる、かつ豊かな人間性をも備えた栄養と食の総合的スペシャリストの育成を目指す。このため、基礎教育の充実とともに、専門科目では多彩な実習・実験を取り入れ実践能力の強化を図る。さらに人間学と人文・社会科学系科目の充実により、豊かな人間性と指導力の育成にも力点を置く。

### （４）　人間関係学科

人間のさまざまなかかわりのあり方を個人や集団、社会・文化の諸営為のなかでとらえながら、進化や歴史の大きな時間軸も視野に入れつつ、心理学、教育学、社会学の各分野から総合的に学ぶ。一対一の人間関係に焦点を当てるとともに、共同体の人間同士がかかわる社会現象を見渡せるようになることを目標とする。さらに、発達のダイナミクスやコミュニケーションの多様性に着目することによって、人間関係の本質を読み解く能力の獲得を支援する。これらを通じて、社会の生成プロセスに能動的に参画する人間の理論的、実践的基盤の形成を目指す。

### （５）　国際コミュニケーション学科

グローバル化する現代社会の変化に適切に対応するため、自国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養、英語を中心とする複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につける。それらを活かして、グローバル化する国際社会および地域社会において活躍できる「知と実践力」を身につけるための教育を行う。

## 3. 科目の履修について

(1)履修科目の選択にあたっては、「全学共通科目履修の手引」および人間文化学部の「標準年次別科目配当表」、「卒業に必要な要件」、「講義概要」ならびに年度当初に行われる所属学科のオリエンテーションに十分注意の上、履修してください。

(2)教育職員免許・学芸員資格・栄養士免許・管理栄養士受験資格・二級建築士試験受験資格・木造建築士試験受験資格・インテリアプランナー登録資格・社会調査士資格・食品衛生管理者資格、食品衛生監視員資格の取得を希望する者（栄養士免許・管理栄養士受験資格・食品衛生管理者資格・食品衛生監視員資格の取得は生活栄養学科の学生に限る。）は、「資格取得等の手引」および「標準次別科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

【凡例】

◎：必修　　○、●、□、▽：選択必修　　無印：選択　　数字：単位数
前：前期　　後：後期　　通：通年

人間文化学部での専門科目の科目名の後のローマ字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳなど）は、原則として受講者がその数字の順番に従って受講しなければならないことを示します。科目名の後のアルファベット（A、B、Cなど）については順番にかかわらず受講することができます。（外国語など全学共通基礎科目についてはこの限りではありません。）

## 4. 各学科の履修について

### （1） 地域文化学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

**■学位授与方針**

A．日本や東アジアの過去・現在の文化について幅広い知識を身につけることが出来る。（知識・理解）

B．多様な地域文化についての関心を持ち、大学で学んだことをもとに課題を解決しようとする態度を持つ。（思考・判断）

C．環琵琶湖地域を中心とするフィールドワーク（現地調査）を通じて、それぞれの地域の社会や文化に対して関心を持ち、自らの見解を形成できる。（興味・関心）

D．自分の調査・研究の成果を口頭あるいは文章や地図・図像などの製作物の形で表現することが出来る。（技能・技術）

**■教育課程の編成・実施方針**

地域文化学科は、幅広い知識を身につけ、課題を解決する人材を育成するという目的を達成するために、地域文化に関する科目を教授するための過程を以下のように編成している。

A．分析力
- ・史料、資料、図像、地図などから情報を収集し分析する能力を学ぶ。
- ・現状を分析し目的や課題を明らかにする能力を学ぶ。
- ・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する情況把握力を養成する。

B．思考力
- ・自ら考える力を養成する。
- ・論理的に思考する能力を養成する。

C．創造力
- ・既存の概念に束縛されない自由な発想力を養う。
- ・既存のものを組み合わせて新たな価値を生み出す力を養成する

D．コミュ二ケーション力
- ・世代、国籍、専門を越えた意思疎通・共感力を養う。
- ・外国語の運用能力を養成する。
- ・文字、言葉を越えた意思疎通を養う。

E．リーダーシップ
- ・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力を養成する。
- ・目的を設定し確実に実行する力を養う。
- ・チームで問題解決できるコラボレーション力を養成する。

F．変化対応力
- ・複眼的な広い視野を養う。
- ・社会的変化、自己を取り巻く環境変化への対応力を養う。
- ・過去にとらわれない自由な発想力を養う。

G．自己実現力
- ・自己の適性を把握し伸ばす力を養う。
- ・社会の未来像と自己の将来像を見通す力を養う。
- ・自己の能力を発揮しつつ社会に貢献しようとする意欲を養う。

②専門科目の履修について

専門科目はP.381の履修モデルを参照し、年次ごとのバランスを考慮して履修するようにしてください。

＊は隔年開講科目です。これについては、(i)今年度は開講しない科目がありますので(P.378-379の*1)、科目配当表で確認してください。(ii) また今年度開講しているものは(P.378-379の*2)、来年度不開講になりますので、よく考えて受講計画を立ててください。

**【卒業に必要な要件】**

平成２４年度以降入学生は、下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1) 全学共通科目（３０単位以上） ※留学生P.21参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

(B)第二外国語としてドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、フランス語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、中国語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、モンゴル語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢのうち４単位。

(C)人間学から８単位以上（必修２単位を含む）。

(D)地域基礎から４単位以上（必修２単位を含む）。

(2)専門科目（１００単位以上）

(A)次頁以降の科目配当表に指定する◎印の必修科目１８単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目５単位以上（註１）
●印の科目から２単位以上、▽印の科目から２単位以上、□印の科目から１単位以上。

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から７７単位以上（註２）

（註１）選択必修科目で５単位を超えて取得した単位については、選択科目として卒業要件単位に算入することができる。

（註２）他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、実験、実習、演習を除いたすべての科目から１０単位までを専門科目として卒業単位に算入することができる。また、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、所属する学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

**【卒業研究・論文履修要件】**

地域文化演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。

**【卒業研究審査基準】**

地域文化演習Ⅲ(ゼミ)の担当教員を主査とし、学科教員（論文の主題に応じて）２名を副査とする審査委員が熟読したうえで、口頭試問を実施し、下に示す基準に照らし合わせて合否を判断し、学科会議において最終的に合否決定をする。

① ２０,０００字を基本とする。
② 研究目的が明確であること。
③ 研究方法が妥当であること。
④ 目的達成のための調査量が十分であること。
⑤ 内容が独創的・客観的・論理的であること。
⑥ 卒業論文としての体裁が整っていること。
⑦ 口頭試問の対応が的確であること。

なお、事前に実施する中間発表会において要旨を提出し、発表することが前提となる。

地域文化学科
2015（平成27）年度入学生用【標準年次別科目配当表】

| 区分 | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎（留学生 P.21 参照） | ◎ 英語ＩＡ・ＩＢ 各1前後<br>◎ 英語ⅡＡ・ⅡＢ 各1前後<br>○ 第二外国語ＩＡ・ＩＢ 各1前後<br>（独語･仏語･中国語･朝鮮語･※１モンゴル語･※２初習英語）<br>◎ 情報リテラシー(情報倫理を含む) 2 前<br>◎ 情報科学概論 2 後<br>◎ 健康・体力科学Ⅰ 1 後 | ◎ 英語ⅢＡ・ⅢＢ 各1前後<br>◎ 英語ⅣＡ・ⅣＢ 各1前後<br>○ 第二外国語ⅡＡ・ⅡＢ 各1前後<br>（独語･仏語･中国語･朝鮮語･※２初習英語）<br>◎ 健康・体力科学Ⅱ 1 前 |
| | 人間学 | ４年間で８単位以上（人間探求学は1年次必修） | |
| | 地域基礎 | ４年間で４単位以上（地域共生論は1年次必修） | |

※1　モンゴル語については、前期にＩA・ＩB、後期にⅡA・ⅡBを並行して開講します。
※2　初習英語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡBは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP.21,84,85参照）

| 区分 | | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 学部共通基礎 | | ◎ 環琵琶湖文化論実習 1 通<br>◎ 人間文化論Ａ 2 前<br>● 人間文化論Ｂ 2 後<br>● 人間文化論Ｃ 2 後 | |
| | | | Japanese Culture and Civilization（１年次～４年次配当） 2 後 | |
| | 複数学科共通 | | 統計学基礎 2 前 | |
| | 学科基礎 | 演習 | ◎ 地域文化基礎演習 1 後 | |
| | | 講義 | 日本文化論 2 前<br>日本社会論 2 後<br>日本史概説 2 前<br>東洋史概説 2 後<br>考古学 2 前<br>地域と空間 2 後<br>民俗学 2 後<br>*1 地域文化財論Ａ 2 前 | 地域文化財論Ｂ 2 後<br>基層文化論 2 後<br>芸術学 2 後<br>人文地理学Ａ 2 後<br>社会学概論 2 前<br>地域研究論 2 前<br>社会調査論 2 前<br>現代中国論 2 前<br>東アジア考古学概論 2 後 |
| | | 講読 | ▽ 日本史料講読 2 通<br>▽ 漢文講読 2 通 | ▽ 英書講読 2 通 |
| | 学科専門 | 講義 | | 比較文明論 2 後<br>比較文化論 2 後<br>哲学概論Ａ 2 前<br>*1 哲学概論Ｂ 2 前<br>文化人類学概論Ａ 2 前<br>文化人類学概論Ｂ 2 後<br>西洋史概説 2 前<br>□ 文化財情報論 2 後<br>*2 比較宗教論 2 前<br>*2 美術史Ａ 2 前<br>*1 美術史Ｂ 2 前<br>*2 アジア社会論 2 前<br>人文地理学Ｂ 2 後<br>*1 近江商人論 2 前<br>*1 アジア交流論 2 前<br>*1 日本文化史論Ａ 2 前<br>*2 日本文化史論Ｂ 2 前 |
| | | 実習 | | □ アジア文献講読Ａ 2 通<br>□ アジア文献講読Ｂ 2 通<br>□ アジア文献講読Ｃ 2 通<br>□ 美術史実習 1 前 |
| | | 演習 | | □ 古文書演習Ⅰ 1 前<br>◎ 地域文化演習Ⅰ 2 通 |

●：選択必修（この中から２単位以上履修）　□：選択必修（この中から１単位以上履修）
▽：選択必修（この中から２単位以上履修）　○：選択必修（第二外国語　４単位以上）

| | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|
| 全学共通基礎 | リスニング（中級）<br>リーディング（中級）<br>英語会話（中級）<br>ディベート&ディスカッション<br>英語表現法<br>エッセイ・ライティング<br>実用英語演習ＩＡ | 2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>1 前 | 留学英語対策基礎講座<br>留学英語対策講座Ⅰ<br>留学英語対策講座Ⅱ<br>ビジネス英語<br>時事英語<br>メディアの英語<br>実用英語演習ＩＢ | 1 前<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>1 後 |
| 人間学 | | | | |
| 地域基礎 | | | | |

＊1：隔年開講　奇数年度開講　　＊2：隔年開講　偶数年度開講

| | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学部共通基礎 | | | | | |
| 複数学科共通 | | | | | |
| 学科基礎 | 演習 | | | | |
| | 講義 | | | | |
| | 講読 | | | | |
| 学科専門 | 講義 | 比較文学論<br>近世近江論<br>*2 文化財・保存修景論Ａ<br>中国地域文化論<br>*1 朝鮮地域文化論<br>文化人類学特論<br>□ 質的データ解析論 | 2 前<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 後 | | |
| | | 文化社会学<br>対外文化交流論Ａ<br>*2 対外文化交流論Ｂ<br>歴史的地域論<br>*2 東アジア世界論<br>社会調査方法論<br>量的データ解析論Ⅰ<br>量的データ解析論Ⅱ | 2 前<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 後 | *2 現代社会論<br>*2 社会学史<br>*2 地域考古学Ａ<br>*2 地域考古学Ｂ<br>*1 地域考古学Ｃ<br>*1 地域考古学Ｄ | 2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>2 前<br>2 後 |
| | | 考古学特論Ａ<br>考古学特論Ｂ<br>*1 文化財・保存修景論Ｂ<br>民俗学特論<br>*1 現代ジャーナリズム論<br>博物館展示論<br>博物館経営論<br>日本・地域交流特論 | 2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 後<br>2 前<br>2 後 | 地域経済史論<br>*2 中国地域文化特論<br>朝鮮地域文化特論<br>地誌学<br>自然地理学<br>*1 社会変動論<br>組織とネットワークの社会学 | 2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前 |
| | 実習 | □ 考古学実習Ⅰ<br>□ 考古学実習Ⅱ<br>□ 地理学実習Ⅰ<br>□ 地理学実習Ⅱ<br>□ 民俗学実習 | 1 前<br>1 後<br>1 前<br>1 後<br>1 後 | | |
| | | □ 社会調査実習 | 1 通 | | |
| | 演習 | □ 古文書演習Ⅱ | 1 後 | | |
| | | ◎ 地域文化演習Ⅱ | 2 通 | ◎ 地域文化演習Ⅲ<br>◎ 卒業研究・論文 | 2 通<br>8 通 |

●：選択必修（この中から２単位以上履修）
▽：選択必修（この中から２単位以上履修）

【ゼミ別・履修が望ましい科目等一覧】

３年次配当の地域文化演習Ⅱ、４年次配当の地域文化演習Ⅲは、教員個人（グループの場合もある）が担当するいわゆるゼミにあたります。３年次・４年次は、いずれかのゼミに所属することになります。

ここでは、各ゼミがどのような専門分野を扱うのか、またそのゼミに入るにはどのような科目を履修しておくべきかを示します。ゼミ配属希望者が上限（7 名）を超えた場合、人数調整の際にこれらの科目の履修状況を考慮するので、所属したいゼミに即して計画的に履修してください。

2015（平成 27）年度以降入学生に対するゼミ

| 教員名 | 専門分野 | 履修すべき科目 |
|---|---|---|
| 田中　俊明 | 前近代日本と中国･朝鮮との文化交流 | 朝鮮語または中国語を履修していることが望ましい。 |
| 定森　秀夫 | 東アジア考古学 | 考古学特論、考古学実習Ⅰ・Ⅱなどを履修していることが望ましい。 |
| 濱崎　一志 | 都市史、保存修景計画 | 文化財情報論、地域文化財論Ａ・Ｂを履修していることが望ましい。 |
| 水野　章二 | 日本前近代の地域史、環境史 | 日本史料講読、日本史概説を履修していることが望ましい。 |
| 中井　均 | 日本考古学 | 考古学、考古学実習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。 |
| 市川　秀之 | 民俗学 | 民俗学を履修済みであること。 |
| 京樂　真帆子 | 日本前近代の文化史、ジェンダー史 | 日本文化史論ＡまたはＢを履修済みであること。 |
| 亀井　若菜 | 日本美術史 | 芸術学、美術史Ａ、美術史Ｂのどれかを履修済みであること。 |
| 東　　幸代 | 日本近世、近代の地域史 | 日本史料講読・近世近江論を履修済みであること。 |
| 塚本　礼仁 | 人文地理学 | 人文地理学Ａ、地理学実習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。 |
| 石川　慎治 | 保存修景計画、集落研究 | 地域文化財論Ａ・Ｂ、文化財情報論を履修済みであることしていることが望ましい。 |
| 武田　俊輔 | 社会学、文化研究 | 社会学概論・質的データ解析論の両方を履修済みであること。 |
| 横田　祥子 | 文化人類学、現代中国論 | 現代中国論と中国地域文化論のいずれかを履修済みであること。また、中国語を履修していることが望ましい。 |

**平成27年度以降入学生用　地域文化学科　専門科目履修モデル**

地域文化学科の科目は、大きく歴史系、地域遺産系、交流系、現代社会系の４つの系に分かれています。
関心のある分野を中心に専門科目の履修を考えるとよいでしょう。ただし各自の関心に合わせて他の系の科目も履修してください。

| 区分 | | 歴史系 | 地域遺産系 | 交流系 | 現代社会系 | （通分野的科目） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学部共通基礎 | 実習（1年次）　必修 | ◎環琵琶湖文化論実習 | | | | |
| | 講義（1年次）　必修 | ◎人間文化論A | | | | |
| | 講義（1年次）　選択必修1科目以上 | ●人間文化論B、●人間文化論C | | | | |
| | 講義（1～4年次） | Japanese Culture and Civilization | | | | |
| 複数学科共通 | 講義（1年） | 統計学基礎 | | | | |
| 学科基礎 | 演習（1年次）　必修 | ◎地域文化基礎演習 | | | | |
| | 講読（1、2年次）選択必修1科目以上 | ▽日本史料講読 | ▽漢文講読 | ▽英書講読 | | |
| | 講義（1、2年次） | 日本文化論<br>日本史概説<br>芸術学 | 考古学<br>地域と空間<br>民俗学<br>地域文化財論A<br>地域文化財論B<br>基層文化論 | 東アジア考古学概論<br>東洋史概説<br>現代中国論 | 日本社会論<br>人文地理学A<br>社会学概論<br>地域研究論<br>社会調査論 | |
| 学科専門 | 演習（2年次）　必修 | ◎地域文化演習Ⅰ | | | | |
| | 演習（3年次）　必修 | ◎地域文化演習Ⅱ | | | | |
| | 演習（4年次）　必修 | ◎地域文化演習Ⅲ　◎卒業研究・論文 | | | | |
| | 実習（2、3年次）<br>選択必修1単位以上<br>（社会調査実習のみは3、4年次配当科目） | □古文書演習Ⅰ<br>□古文書演習Ⅱ<br>□美術史実習 | □考古学実習Ⅰ<br>□考古学実習Ⅱ<br>□文化財情報論<br>□民俗学実習 | □アジア文献講読A<br>□アジア文献講読B<br>□アジア文献講読C | □地理学実習Ⅰ<br>□地理学実習Ⅱ<br>□質的データ解析論<br>□社会調査実習<br>（3、4年次配当） | |
| | 講義（2、3年次） | 近世近江論 | 文化財・保存修景論A | 中国地域文化論<br>朝鮮地域文化論<br>比較文明論（2年次配当） | 比較文化論 | 哲学概論A<br>哲学概論B<br>文化人類学概論A<br>文化人類学概論B<br>西洋史概説<br>比較宗教論<br>比較文学論<br>文化人類学特論 |
| | 講義（2、3、4年次） | 日本文化史論A<br>日本文化史論B<br>歴史的地域論<br>美術史A<br>美術史B<br>近江商人論 | 地域考古学A<br>地域考古学B<br>地域考古学C<br>地域考古学D | アジア社会論<br>アジア交流論<br>対外文化交流論A<br>対外文化交流論B<br>東アジア世界論 | 人文地理学B<br>文化社会学<br>社会調査方法論<br>量的データ解析論Ⅰ<br>量的データ解析論Ⅱ<br>現代社会論<br>社会学史 | |
| | 講義（3、4年次） | 日本・地域交流特論<br>地域経済史論 | 考古学特論A<br>考古学特論B<br>文化財・保存修景論B<br>民俗学特論 | 中国地域文化特論<br>朝鮮地域文化特論 | 現代ジャーナリズム論<br>地誌学<br>自然地理学<br>社会変動論<br>組織とネットワークの社会学 | 博物館展示論<br>博物館経営論 |

## （２）　生活デザイン学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

Ａ．身近な生活環境を構成する服飾・道具・住居の各分野について、基礎から実践に至るまでの知識と理論を理解することができる。（知識・理解）

Ｂ．演習科目を通して、自分の専攻する分野のデザインスキルを身に付ける。（技能・技術）

Ｃ．生活環境、生活様式に関わる問題を発見し、具体的な方法論により、分析・考察し、解明・解決・提案できる。（思考・判断）

Ｄ．生活環境の中のデザインや地域におけるデザインについて関心を持ち、大学で学んだことをもとに、それを改善しようとする態度を持つ。（興味・関心）

Ｅ．自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章や、制作物の形で表現する事ができる。（技能）

■教育課程の編成・実施方針

生活デザイン学科では、人々の様々な生活シーンに関連する種々の問題を深く洞察し、研究分析を根拠とする実践的なデザイン発想を以て解決・提案のできる人材を育成することを目的としている。その目的を達成するために、生活デザイン学に関する科目を教授するための課程を、以下のカテゴリーに分けて編成している。

＜人間文化学部全体の共通科目＞

人間文化に関する科学的知見と、実践的な調査・分析手法を学ぶ。

＜複数学科の共通科目＞

専門分野に留まらない、幅広い視点から物事を考察する為の知見を学ぶ。

＜本学科の学生を対象とする科目＞

当該科目は、生活環境の構成に密接に関連する以下の 3 分野に大別される。また、3 分野をまたぐ科目が配当されている。

(a) 住居系：

住空間には、安全性、利便性、社会的公共性など様々な配慮が必要である。人の生活空間である住居および公共空間のインテリアを含むデザインについて、これを実践する為の技術と知識を身につける。

(b) 道具系：

人がその生活を支えるために使う工作物（モノ、プロダクト、製品）を道具と定義し、これらのデザインを具体的に実践する為に必要な技術と知識を身につける。

(c) 服飾系：

着衣基体としての人体と、自然、社会、文化に広く関わる服飾について、自らの感性を活かして主体的にデザインを行うために必要な技術と知識を身につける。

②専門科目の履修について

【卒業に必要な要件】
　下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目（３０単位以上）　※留学生P.21参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

(B)第二外国語としてドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、フランス語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、中国語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡBのうちから４単位。ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は、「実用英語演習ＩＡ・ＩＢ」で代替可能。

(C)人間学(「比較住居論」を除く）から８単位以上(必修２単位を含む。)

(D)地域基礎から４単位以上(必修２単位を含む。)

(2)専門科目（１００単位以上）

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目２３単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から１２単位以上（註１）
●印から２単位以上、□印から１０単位以上（住環境設計演習、道具デザイン演習、服飾デザイン演習のいずれかのⅠ～Ⅲを必修とする）

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から６５単位以上（註２）

（註１）選択必修科目で１２単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。
（註２）他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から１０単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。
　なお、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

【卒業研究・制作／論文着手要件】
　生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。原則として卒業単位を１１０単位以上修得していること

【卒業研究等審査基準】
1 卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、以下の評価項目によって審査する。
　(1) 研究目的と研究計画の妥当性
　(2) テーマの新規性・学術性・社会性
　(3) 研究方法の的確性・独創性
　(4) 研究内容の論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性
　(5) 論理構成および結論（表現）の妥当性、制作の場合は加えて完成度
　(6) プレゼンテーションの技法と質疑応答能力
2 卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、卒業研究中間発表会および卒業研究公開審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
3 １および２による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

**【科目履修上の注意】**

専門科目は、人間文化学部全体の共通科目、複数学科の共通科目、本学科の学生を対象とする科目の３群から構成されている。学部共通の環琵琶湖文化論実習、人間文化論Ａは必修科目である。複数学科共通科目として挙げられている科目は、人間生活のあり方を追求し、文化的な生活を創造する上で、基礎となる科目である。学科専門科目は、その内容から、（ａ）住居系、（ｂ）道具系、（ｃ）服飾系の３分野に大別できる。また、３分野をまたぐ基礎的な科目が、主に１年次および２年次に配当されている。

**（ａ）住居系**

住居は人の生活の器である。それは過酷な自然や災害から身を守り、快適な生活を人にもたらす。そして住居が集まって集落や都市ができ、コミュニティが形成され、人の社会活動が営まれる。従って住居には安全性、利便性はもちろんのこと、社会的公共性も強く求められる。そのため住居の計画・設計・建設においては家の構造や、自然の状況、生活の内容に対する豊かな知識と細やかな配慮が必要である。また住居を設計し表現するための実践的な知識、技術も必要である。それらを、講義科目および住環境設計演習を通して身につける。

**（ｂ）道具系**

人がその生活を支えるために使う技術的工作物（モノ、プロダクト、製品）が道具である。その道具というモノをデザインすることによって人は何かしらのコトを実現する。道具系の科目は、道具を企画・デザインし、広報・宣伝し、流通・販売する社会的行為について学ぶ講義科目と、そのデザインを具体的に実践するために必要な技術と知識を基礎から身につける演習科目で構成される。

**（ｃ）服飾系**

衣服は人体にとって最も身近な環境である。豊かな感性と論理的思考力、現場での実践力をあわせ持ち、快適で審美的な衣環境を見出すために、素材の基礎知識、衣環境を彩る染色加工、衣服の管理、製品の製造と品質、流通・消費者問題に関する事項を学ぶ。服飾デザインでは、感性と専門知識を生かして主体的なデザインができるために、問題点の分析、アイデアの創出、提案、評価のプロセスを学ぶための講義科目、演習で構成される。

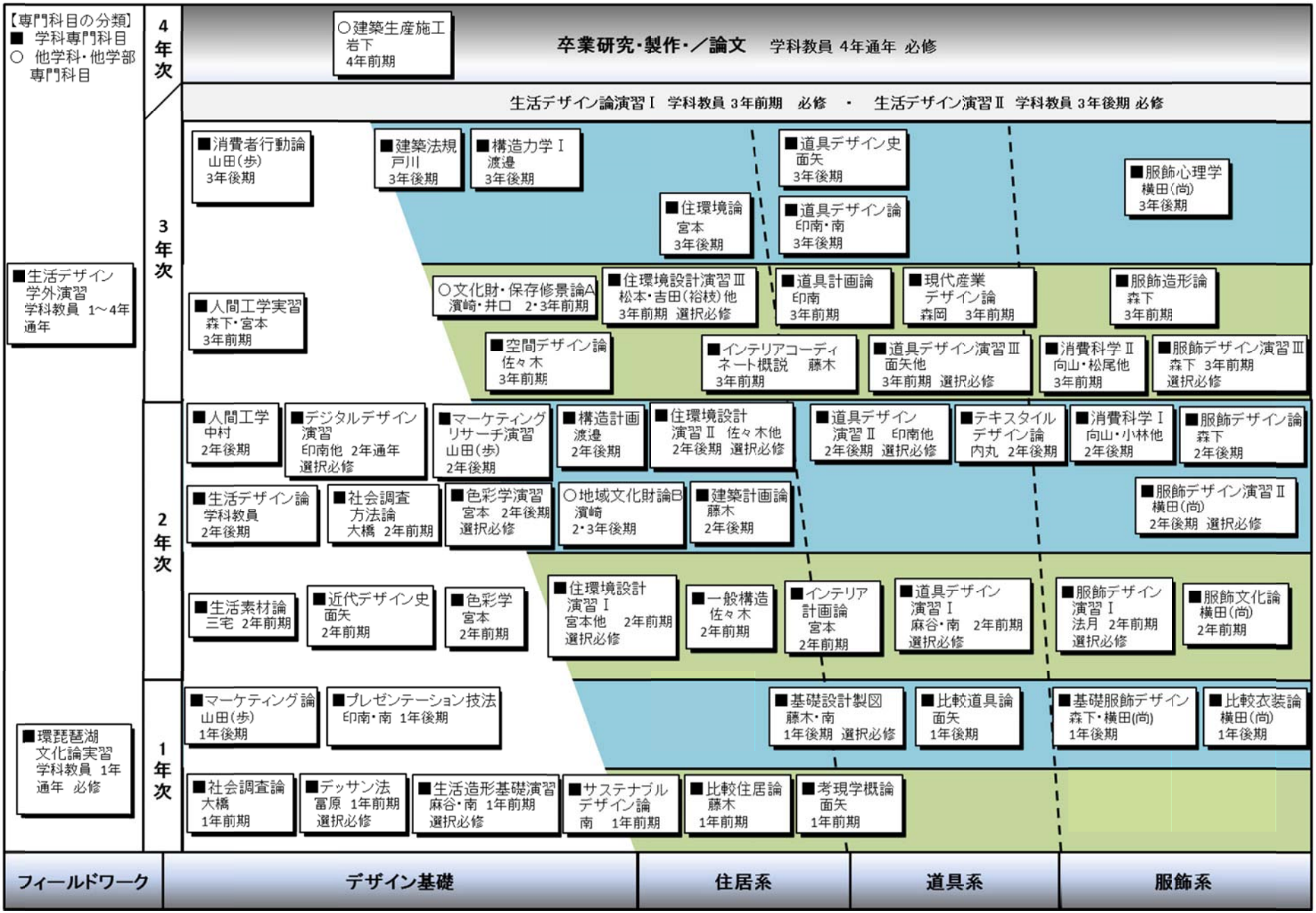
上記の３つの科目群は扱う対象が異なり、対応する社会的職能も分かれるので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨が求められることになる。しかし、複数分野の科目を履修することによりデザインに関する幅広い知識・技能を得ることが可能である。

各科目群に関連した科目が他学部・他学科の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧める。ただし、同名の他学部・他学科科目は受講できない。また、環境・建築デザイン学科の「建築一般構造」・「木匠塾」は、生活デザイン学科の「一般構造」・「生活デザイン学外演習」と同内容であるため受講できない。

生活デザイン学科カリキュラムマップ

| 授業科目の名称 | | | 学年・学期 | 単位数 | | | 学習・教育目標に対する関与の程度 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択必修 | 選択 | A | B | C | D | E |
| 専門科目 | 学科専門 | 比較住居論 | 1・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 消費生活論 | 1・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | デッサン法 | 1・前 | | 1 | | | ○ | | | |
| | | 生活造形基礎演習 | 1・前 | 2 | | | | ○ | | | |
| | | 社会調査論 | 1・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 生活素材論 | 2・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 色彩学 | 2・前 | | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | | 色彩学演習 | 2・後 | | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 消費科学Ⅰ | 2・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 消費科学Ⅱ | 3・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 生活経営論 | 3・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | デジタルデザイン演習 | 2・通 | | 2 | | | ○ | | | |
| | | 人間工学 | 2・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 近代デザイン史 | 2・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 生活デザイン論 | 2・後 | 2 | | | ○ | | | | |
| | | 構造力学Ⅰ | 3・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | インテリア計画論 | 2・前 | | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | | 一般構造 | 2・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 建築計画論 | 2・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | インテリアコーディネート概説 | 3・前 | | | 1 | ○ | | | | |
| | | 空間デザイン論(空間意匠の分析 | 3・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 構造計画 | 2・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 服飾デザイン論 | 2・後 | | | 2 | ○ | | | ○ | |
| | | 基礎設計製図 | 1・後 | 2 | | | | ○ | | | |
| | | 住環境設計演習Ⅰ | 2・前 | | 2 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | | 住環境設計演習Ⅱ | 2・後 | | 2 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | | 住環境設計演習Ⅲ | 3・前 | | 2 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | | 道具デザイン演習Ⅰ | 2・前 | | 2 | | | ○ | ○ | | |
| | | 道具デザイン演習Ⅱ | 2・後 | | 2 | | | ○ | ○ | | |
| | | 道具デザイン演習Ⅲ | 3・前 | | 2 | | | ○ | ○ | | |
| | | 服飾デザイン演習Ⅰ | 2・前 | | 2 | | | ○ | | ○ | |
| | | 服飾デザイン演習Ⅱ | 2・後 | | 2 | | | ○ | | ○ | |
| | | 服飾デザイン演習Ⅲ | 3・前 | | 2 | | | ○ | | ○ | |
| | | 住環境論 | 3・後 | | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | | 服飾造形論 | 3・前 | | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | | マーケティング論 | 1・後 | | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | | マーケティングリサーチ演習 | 2・後 | | | 1 | | ○ | ○ | | |
| | | 人間工学実習 | 3・前 | | | 1 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 道具計画論 | 3・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 現代産業デザイン論 | 3・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 建築法規 | 3・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 道具デザイン史 | 3・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 基礎服飾デザイン | 1・後 | 2 | | | | ○ | | | |
| | | 考現学概論 | 1・前 | | | 2 | ○ | | ○ | | ○ |
| | | 比較道具論 | 1・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 比較衣装論 | 1・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 服飾文化論 | 2・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | テキスタイルデザイン論 | 2・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 社会調査方法論 | 2・前 | | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | | プレゼンテーション技法 | 1・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 道具デザイン論 | 3・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | サステナブルデザイン論 | 1・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 消費者行動論 | 3・前 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 服飾心理学 | 3・後 | | | 2 | ○ | | | | |
| | | 生活デザイン学外演習 | 1、2、3、4・前後 | | | 2 | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 生活デザイン論演習Ⅰ | 3・前 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| | | 生活デザイン論演習Ⅱ | 3・後 | 3 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 卒業研究・製作／論文 | 4 | 8 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |

## 【生活デザイン学科履修モデル】



生活デザイン学科

2015（平成27）年度入学生用【標準年次別科目配当表】

| 区分 | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎（留学生 P.21参照） | ◎ 英語ＩＡ・ＩＢ 各1前後<br>◎ 英語ⅡＡ・ⅡＢ 各1前後<br>○ 第二外国語ＩＡ・ＩＢ 各1前後<br>（独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１モンゴル語・※２初習英語）<br>◎ 情報リテラシー(情報倫理を含む) 2 前<br>◎ 情報科学概論 2 後<br>◎ 健康・体力科学Ⅰ 1 後 | ◎ 英語ⅢＡ・ⅢＢ 各1前後<br>◎ 英語ⅣＡ・ⅣＢ 各1前後<br>○ 第二外国語ⅡＡ・ⅡＢ 各1前後<br>（独語・仏語・中国語・朝鮮語・※２初習英語）<br>○ 実用英語演習ＩＡ・ＩＢ 各1前後<br>◎ 健康・体力科学Ⅱ 1 前 |
| | 人間学 | ４年間で８単位以上（人間探求学は1年次必修） | |
| | 地域基礎 | ４年間で４単位以上（地域共生論は1年次必修） | |

※１　モンゴル語については、前期にⅠA・ⅠB、後期にⅡA・ⅡBを並行して開講します。
※２　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP.21,84,85参照）

| 区分 | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|
| | 学部共通基礎 | ◎ 環琵琶湖文化論実習 1 通<br>◎ 人間文化論Ａ 2 前<br>● 人間文化論Ｂ 2 後<br>● 人間文化論Ｃ 2 後 | |
| | | Japanese Culture and Civilization（１年次～４年次） 2 後 | |
| 専門科目 | 複数学科共通 | 心理学基礎 2 前<br>統計学基礎 2 前 | |
| | 学科専門 | **〔生活デザインの視点〕**<br>□ デッサン法 1 前<br>◎ 生活造形基礎演習 2 前<br>社会調査論 2 前<br>プレゼンテーション技法 2 後<br>サステナブルデザイン論 2 前<br>マーケティング論 2 後<br>消費生活論 2 後<br>比較住居論 2 前<br>**〔住居・道具・服飾デザイン〕**<br>◎ 基礎設計製図 2 後<br>◎ 基礎服飾デザイン 2 後<br>考現学概論 2 前<br>比較道具論 2 後<br>比較衣装論 2 後 | **〔生活デザインの視点〕**<br>◎ 生活デザイン論 2 後<br>近代デザイン史 2 前<br>社会調査方法論 2 前<br>生活素材論 2 前<br>人間工学 2 後<br>色彩学 2 前<br>□ 色彩学演習 1 後<br>消費科学Ⅰ 2 前<br>マーケティングリサーチ演習 1 後<br>**〔住居・道具・服飾デザイン〕**<br>□ デジタルデザイン演習 2 通<br>インテリア計画論 2 前<br>一般構造 2 前<br>建築計画論 2 後<br>構造計画 2 後<br>□ 住環境設計演習Ⅰ 2 前<br>□ 住環境設計演習Ⅱ 2 後<br>□ 道具デザイン演習Ⅰ 2 前<br>□ 道具デザイン演習Ⅱ 2 後<br>服飾デザイン論 2 後<br>□ 服飾デザイン演習Ⅰ 2 後<br>□ 服飾デザイン演習Ⅱ 2 後<br>服飾文化論 2 前<br>テキスタイルデザイン論 2 後 |
| | | 生活デザイン学外演習 2 前・後 | |

| | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|
| 全学<br>共通基礎 | リスニング（中級）<br>リーディング（中級）<br>英語会話（中級）<br>ディベート&ディスカッション<br>英語表現法<br>エッセイ・ライティング | 2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 後 | 留学英語対策基礎講座<br>留学英語対策講座Ⅰ<br>留学英語対策講座Ⅱ<br>ビジネス英語<br>時事英語<br>メディアの英語 | 1 前<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 前 |
| 人間学 | | | | |
| 地域基礎 | | | | |

＊1：隔年開講（偶数年度開講）

| | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|
| 学部<br>共通<br>基礎 | | | | |
| 複数<br>学科共通 | | | | |
| 学科<br>専門 | **〔生活デザインの視点〕**<br>消費者行動論<br>人間工学実習<br>消費科学Ⅱ<br>生活経営論<br>**〔住居・道具・服飾デザイン〕**<br>住環境論<br>インテリアコーディネート概説<br>空間デザイン論（空間意匠の分析）<br>建築法規<br>構造力学Ⅰ<br>□ 住環境設計演習Ⅲ<br>道具デザイン論<br>道具デザイン史<br>道具計画論<br>*1 現代産業デザイン論<br>□ 道具デザイン演習Ⅲ<br>服飾造形論<br>服飾心理学<br>◎ 生活デザイン論演習Ⅰ<br>◎ 生活デザイン論演習Ⅱ | <br>2 前<br>1 前<br>2 後<br>2 後<br><br>2 後<br>1 前<br>2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 後<br>2 前<br>2 後<br>1 前<br>3 後 | <br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>◎ 卒業研究・製作／論文 | <br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>8 通 |
| | | | | |

●：選択必修（この中から２単位以上履修）
□：選択必修（この中から１０単位以上履修）
　ただし、住環境設計演習、道具デザイン演習、服飾デザイン演習のいずれかのⅠ～Ⅲを必修とする
○：選択必修（第二外国語　４単位以上）

## 生活デザイン学科ゼミ別指導内容および履修が望ましい科目等

３年次配当の生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱでは、４年次の卒業研究に向けて各教員がゼミ形式で担当します。教員の専門分野によって生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究を進める上で履修することが望ましい科目等が異なります。下記に各教員の専門分野と研究テーマ・方法、履修が望ましい科目等を示しますので、履修計画の参考にしてください。

| 分野 | 教員名 | テーマ・方法 | 履修が望ましい科目等 |
|---|---|---|---|
| 道具系 | 面矢慎介 | 道具デザインに関する生活調査や製品計画、歴史研究、比較文化研究。論文を主とする。 | 考現学概論、比較道具論、社会調査論、社会調査方法論、道具デザイン史、道具計画論、マーケティング論、現代産業デザイン論を履修していることが望ましい。 |
| 道具系 | 印南比呂志 | 地域におけるデザイン活動に積極的に参加し現場で実践的に調査研究、制作を行う。 | 道具デザイン演習Ⅰ～Ⅲ、道具デザイン論、道具計画論、プレゼンテーション技法を履修している、地元学入門、副専攻科目である近江学士（地域学）を履修してことが望ましい。 |
| 服飾系 | 森下あおい | 服飾デザインに関する制作および調査研究。ファッション分野の製品開発など。 | 服飾系講義科目、基礎服飾デザイン、服飾デザイン演習Ⅰ～Ⅲ、並びにマーケティング論、消費科学Ⅰ、Ⅱ、人間工学実習を履修していることが望ましい。 |
| 服飾系 | 横田尚美 | 服飾デザインに関する文化史的研究の論文を主とする。西洋は古代～、日本は明治～。日本民俗学、服装社会学的アプローチも(論文)。 | 服飾系講義、演習科目を履修していることが望ましい。　テーマによっては、道具デザイン史、マーケティング論、社会調査方法論なども履修していることが望ましい。 |
| 住居系 | 宮本雅子 | 高齢社会での快適な居住空間についての実験・調査研究。論文を主とするが、応用としての制作可。 | 住居学に関わる科目（人間工学を含む）、色彩学関連科目を履修していることが望ましい。 |
| 住居系 | 藤木庸介 | 各種建築、インテリアの設計（制作）または居住文化に関する調査研究（論文）。 | 住居設計演習Ⅰ～Ⅲ、並びに住居学関連科目を履修していることが望ましい。 |
| 住居系 | 佐々木一泰 | 空間デザインに関する制作および調査研究。 | 住環境設計演習Ⅰ～Ⅲを履修していることが望ましい。また幅広い知識を養う為、積極的に他の講義、演習を履修していることが望ましい。 |
| 道具系 | 南　政宏 | デザインに関する調査研究と制作の両方を必須とする。 | 道具デザイン演習Ⅰ～Ⅲを履修していることが望ましい。 |
| マーケティング | 山田　歩 | マーケティングと消費者行動についての実験･調査研究を行う。広告効果や商品選択の分析など。 | マーケティング論、消費者行動論、マーケティングリサーチ演習を履修していることが望ましい。 |

## （３）　生活栄養学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針について

### ■学位授与方針

生活栄養学科は卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、生活栄養学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の人間文化学の学士を授与します。

A．栄養学に関する幅広い基礎的な知識を習得する。（知識・理解）

B．栄養学の視点からみた健康に関するさまざまな問題に対して大学で学んだ知識を基に科学的根拠をもって自らの見解を形成できる。（思考・判断）

C．実験，実習，演習などの実施教育を通して，明確な目的意識を持ち，自主的な学習姿勢を通じて独創的な思考力を習得する。（思考・判断）

D．現代社会が抱える栄養学の視点からみた健康に関する問題に対し，大学で学んだ事を基に解決しようとする態度を持つ。（興味・関心）

E．個々人の栄養状態を把握し，個々人に最適な栄養管理を行うことができる。（技能・技術）

### ■教育課程の編成・実施方針

生活栄養学科は、DP を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

A　自然環境，社会，人間に関する理解および管理栄養士の役割に関する理解
- A―１　自然環境，社会，人間について地球的視点や地域の視点，さまざまな立場から多面的に理解し，幅広く深い教養を身につける
- A－２　人間の活動が人間・社会・自然に及ぼす影響および管理栄養士が社会に対して負っている責任について理解する能力および実践力を養う

B　国際的にコミュニケーションできる基礎能力を身につける

C　栄養学の基礎となる幅広い分野について理解する
- C－１　社会・環境の視点からみた健康について理解する
- C－２　人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて理解する
- C－３　運動の視点からみた健康について理解する
- C－４　食べ物の視点からみた健康について理解する

D　専門分野に関する基礎学力を修得する
- D－１　栄養学の基礎となる基礎栄養学，応用栄養学を理解する
- D－２　栄養学の応用となる臨床栄養学，公衆栄養学，栄養教育論，給食経営管理論，スポーツ栄養学を理解する
- D－３　講義で学んだ知識を実験，実習，演習を通してより具体的に理解し，栄養管理に応用できる能力を養成する

E　大学で学んだ栄養学の知識と技術を臨地実習で活用することができる

F　自分の意見を論理的に整理し相手に分かりやすく伝える力，相手の意見を聴き理解する力を養う

G　自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力，継続的に自己啓発と学習を続けていく力を養う

H　課題の解決への道筋を明らかにする力，目標に向け確実に行動する力を身につける

②専門科目の履修について

**【卒業に必要な要件】**

下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目（３０単位以上）　　※留学生P.21 参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

(B)第二外国語としてドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、フランス語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、中国語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、モンゴル語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢのうちから４単位。ただし、「第二外国語ⅡＡ・ⅡＢ」は、「実用英語演習ＩＡ・ＩＢ」で代替可能。

(C)人間学から８単位以上(必修２単位を含む)

(D)地域基礎から４単位以上(必修２単位を含む)

(2)専門科目（１００単位以上）

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目１３単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から１４単位以上（註１）
●印から２単位以上、□印から１２単位以上

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から７３単位以上（註２）

（註１）選択必修科目で１４単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

（註２）他学科および他学部の専門科目のうち、すべての科目から１０単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。
なお、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

**【卒業研究・論文着手要件】**

卒業研究・論文実施学年時に、卒業研究・論文、管理栄養士総合演習、生活栄養論演習Ⅱ以外の科目について、講義科目ならば 16 科目(32 単位)*以上を履修する場合は、卒業研究・論文を履修できない。

*実験・実習科目１科目(１単位)は、講義科目２科目(４単位)に相当する。

**【卒業研究審査基準】**

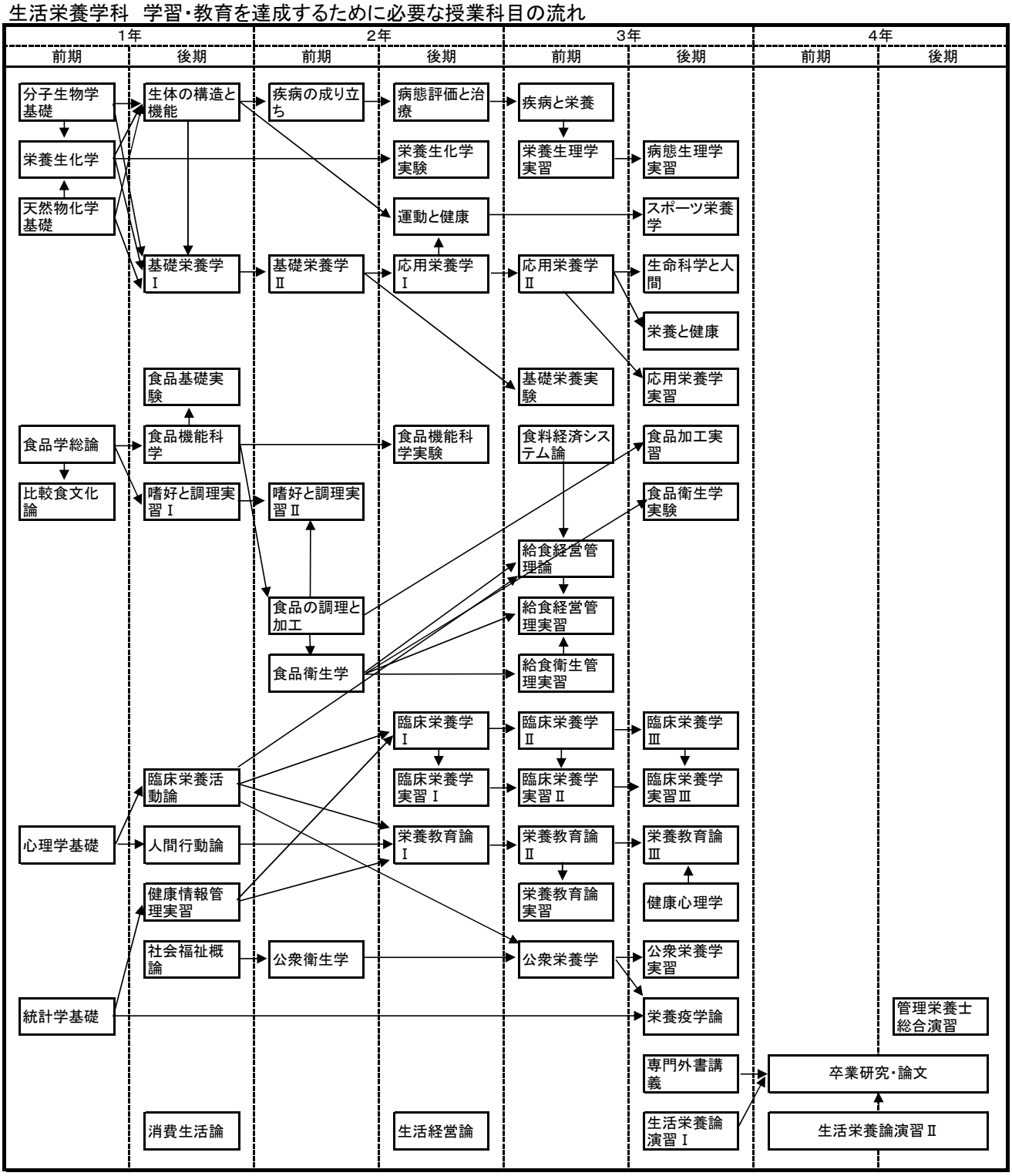
１　卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。
(1) 研究目的と研究計画の妥当性
(2) 研究内容の論拠の客観性・実証性
(3) 卒業論文の完成度
(4) プレゼンテーション技法と質疑応答能力
(5) 研究に対する姿勢
２　卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
３　上記１ならびに２による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

生活栄養学科　カリキュラムマップ

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | 学年学期 | 学位授与方針との対応 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E |
| 専門科目 | 学科専門科目 | 健康情報管理実習 | 1 | 1・後期 | ◎ | | | | |
| | | 人間行動論 | 2 | 1・後期 | ◎ | | | | |
| | | 社会福祉概論 | 2 | 1・後期 | ◎ | | | | |
| | | 基礎栄養学Ⅰ | 2 | 1・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 栄養生化学 | 2 | 1・前期 | ◎ | | | | |
| | | 食品学総論 | 2 | 1・前期 | ◎ | | | | |
| | | 比較食文化論 | 2 | 1・前期 | ◎ | | | | |
| | | 食品機能科学 | 2 | 1・後期 | ◎ | | | | |
| | | 食品基礎実験 | 1 | 1・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 嗜好と調理実習Ⅰ | 1 | 1・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 生体の構造と機能 | 2 | 1・後期 | ◎ | | | | |
| | | 分子生物学基礎 | 2 | 1・前期 | ◎ | | | | |
| | | 臨床栄養活動論 | 2 | 1・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 消費生活論 | 2 | 1・後期 | | | ○ | ○ | |
| | | 基礎栄養学Ⅱ | 2 | 2・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 応用栄養学Ⅰ | 2 | 2・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 栄養生化学実験 | 1 | 2・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 食品機能科学実験 | 1 | 2・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 食品の調理と加工 | 2 | 2・前期 | ◎ | | | | |
| | | 嗜好と調理実習Ⅱ | 1 | 2・前期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 食品微生物学 | 2 | 2・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 運動と健康 | 2 | 2・後期 | ◎ | | | | |
| | | 公衆衛生学 | 2 | 2・前期 | ◎ | | | | |
| | | 疾病の成り立ち | 2 | 2・前期 | ◎ | | | | |
| | | 疾病と栄養 | 2 | 2・後期 | ◎ | | | | |
| | | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | 2・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 臨床栄養学実習Ⅰ | 2 | 2・後期 | | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 栄養教育論Ⅰ | 2 | 2・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 食品衛生学 | 2 | 2・前期 | ◎ | | | | |
| | | 生活経営論 | 2 | 3・後期 | | | ○ | ○ | |
| | | 生命科学と人間 | 2 | 3・後期 | ◎ | | | | |
| | | 栄養と健康 | 2 | 3・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 公衆栄養学 | 2 | 3・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 栄養疫学論 | 2 | 3・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 公衆栄養学実習 | 1 | 3・後期 | | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 応用栄養学Ⅱ | 2 | 3・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | スポーツ栄養学 | 2 | 3・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 基礎栄養学実験 | 1 | 3・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 食品加工実習 | 1 | 3・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 病態評価と治療 | 2 | 3・前期 | ◎ | | | | |
| | | 健康心理学 | 2 | 3・後期 | ◎ | | | | |
| | | 応用栄養学実習 | 1 | 3・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 栄養生理学実習 | 1 | 3・前期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 病態生理学実習 | 1 | 3・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 臨床栄養学Ⅱ | 2 | 3・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 臨床栄養学Ⅲ | 2 | 3・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 臨床栄養学実習Ⅱ | 1 | 3・前期 | | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 臨床栄養学実習Ⅲ | 1 | 3・後期 | | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 栄養教育論Ⅱ | 2 | 3・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 栄養教育論Ⅲ | 2 | 3・後期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 栄養教育論実習 | 1 | 3・前期 | | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 給食経営管理論 | 2 | 3・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 食料経済システム論 | 2 | 3・前期 | ○ | ◎ | | | |
| | | 給食経営管理実習 | 1 | 3・前期 | | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 給食衛生管理実習 | 1 | 3・前期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 食品衛生学実験 | 1 | 3・後期 | | ○ | ◎ | | |
| | | 地域保険臨地実習 | 1 | 3・前期 | | | | ◎ | ◎ |
| | | 臨床栄養臨地実習Ⅰ | 1 | 3・前期 | | | | ◎ | ◎ |
| | | 臨床栄養臨地実習Ⅱ | 1 | 3・前期 | | | | ◎ | ◎ |
| | | 給食経営管理臨地実習 | 1 | 3・前期 | | | | ◎ | ◎ |
| | | 臨地実習事前事後指導 | 1 | 3・前期 | | ○ | ○ | ◎ | |
| | | 専門外書講義 | 2 | 3・後期 | ◎ | | | | |
| | | 生活栄養論演習Ⅰ | 1 | 3・後期 | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 管理栄養士総合演習 | 1 | 4・後期 | ◎ | | | | |
| | | 生活栄養論演習Ⅱ | 2 | 4・通年 | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 卒業研究・論文 | 8 | 4・通年 | | ◎ | ◎ | ◎ | |

◎は各項目と関係の深い科目
○は各項目と関係する科目

生活栄養学科　学習・教育を達成するために必要な授業科目の流れ



生活栄養学科
2015（平成27）年度入学生用【標準年次別科目配当表】

| 区分 | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎（留学生 P.21 参照） | ◎ 英語ⅠA・ⅠB 各1前後<br>◎ 英語ⅡA・ⅡB 各1前後<br>○ 第二外国語ⅠA・ⅠB 各1前後<br>（独語・仏語・中国語・朝鮮語・※1モンゴル語・※2初習英語）<br>◎ 情報リテラシー(情報倫理を含む)※3 2 前<br>◎ 情報科学概論 2 後<br>◎ 健康・体力科学Ⅰ 1 後 | ◎ 英語ⅢA・ⅢB 各1前後<br>◎ 英語ⅣA・ⅣB 各1前後<br>○ 第二外国語ⅡA・ⅡB 各1前後<br>（独語・仏語・中国語・朝鮮語・※2初習英語）<br>○ 実用英語演習ⅠA・ⅠB 各1前後<br>◎ 健康・体力科学Ⅱ 1 前 |
| | 人間学 | 4年間で8単位必修（人間探求学は1年次必修） | |
| | 地域基礎 | 4年間で4単位必修（地域共生論は1年次必修） | |

※1　モンゴル語については、前期にⅠA・ⅠB、後期にⅡA・ⅡBを並行して開講します。
※2　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP.21,84,85参照）

| 区分 | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|
| 専門科目 | 学部共通基礎 | ◎ 環琵琶湖文化論実習 1 通<br>◎ 人間文化論A 2 前<br>● 人間文化論B 2 後<br>● 人間文化論C 2 後 | |
| | | Japanese Culture and Civilization（1年次～4年次） | 2 後 |
| | 複数学科共通 | 天然物化学基礎 2 前<br>心理学基礎 2 前<br>統計学基礎 2 前 | |
| | 学科専門 | **[社会と健康]**<br>□ 健康情報管理実習※ 1 後<br>人間行動論※ 2 後<br>社会福祉概論* 2 後<br>消費生活論 2 後<br>**[栄養と健康]**<br>基礎栄養学Ⅰ＊ 2 後<br>栄養生化学＊ 2 前<br>**[食べ物と健康]**<br>食品学総論＊ 2 前<br>比較食文化論＊ 2 前<br>食品機能科学＊ 2 後<br>□ 食品基礎実験＊ 1 後<br>□ 嗜好と調理実習Ⅰ＊ 1 後<br>**[疾病と健康]**<br>生体の構造と機能＊ 2 後<br>分子生物学基礎※ 2 前<br>臨床栄養活動論※ 2 後 | **[栄養と健康]**<br>基礎栄養学Ⅱ＊ 2 前<br>応用栄養学Ⅰ＊ 2 後<br>□ 栄養生化学実験＊ 1 後<br>**[食べ物と健康]**<br>□ 食品機能科学実験＊ 1 後<br>食品の調理と加工＊ 2 前<br>□ 嗜好と調理実習Ⅱ＊ 1 前<br>食品微生物学 2 前<br>**[疾病と健康]**<br>運動と健康＊ 2 後<br>公衆衛生学＊ 2 前<br>疾病の成り立ち(含疾病と微生物)＊ 2 前<br>病態評価と治療※ 2 後<br>**[臨床の栄養]**<br>臨床栄養学Ⅰ＊ 2 後<br>□ 臨床栄養学実習Ⅰ＊ 1 後<br>**[教育と健康]**<br>栄養教育論Ⅰ＊ 2 後<br>**[給食経営の管理]**<br>□ 食品衛生学＊ 2 前<br>生活経営論 2 後 |

●：選択必修（この中から2単位以上履修）　□：選択必修（この中から12単位以上履修）

| | ３年次 | ４年次 |
|---|---|---|
| 全学<br>共通基礎 | リスニング（中級） 2 前<br>リーディング（中級） 2 後<br>英語会話（中級） 2 後<br>ディベート&ディスカッション 2 前<br>英語表現法 2 前<br>エッセイ・ライティング 2 後 | 留学英語対策基礎講座 1 前<br>留学英語対策講座Ⅰ 2 後<br>留学英語対策講座Ⅱ 2 後<br>ビジネス英語 2 後<br>時事英語 2 後<br>メディアの英語 2 前 |
| 人間学 | | |
| 地域基礎 | | |

科目名の後ろの＊ は栄養士免許取得に必要な科目、

※は管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な追加科目である。

| | ３年次 | ４年次 |
|---|---|---|
| 学　部<br>共　通<br>基　礎 | | |
| 複数<br>学科共通 | | |
| 学科<br><br>専門 | **[社会と健康]**<br>生命科学と人間※ 2 後<br>栄養と健康※ 2 後<br>公衆栄養学＊ 2 前<br>栄養疫学論※ 2 後<br>□ 公衆栄養学実習＊ 1 後<br>**[栄養と健康]**<br>応用栄養学Ⅱ＊ 2 前<br>スポーツ栄養学※ 2 後<br>基礎栄養学実験＊ 1 後<br>**[食べ物と健康]**<br>□ 食品加工実習＊ 1 後<br>**[疾病と健康]**<br>疾病と栄養※ 2 前<br>健康心理学※ 2 後<br>□ 応用栄養学実習＊ 1 後<br>□ 栄養生理学実習※ 1 前<br>□ 病態生理学実習＊ 1 後<br>**[臨床の栄養]**<br>臨床栄養学Ⅱ＊ 2 前<br>臨床栄養学Ⅲ※ 2 後<br>□ 臨床栄養学実習Ⅱ＊ 1 前<br>□ 臨床栄養学実習Ⅲ※ 1 後<br>**[教育と健康]**<br>栄養教育論Ⅱ＊ 2 前<br>栄養教育論Ⅲ(含カウンセリング論演習)※ 2 後<br>□ 栄養教育論実習＊ 1 前<br>**[給食の管理]**<br>給食経営管理論＊ 2 前<br>食料経済システム論＊ 2 前<br>□ 給食経営管理実習＊ 1 前<br>□ 給食衛生管理実習＊ 1 前<br>□ 食品衛生学実験＊ 1 後<br>**[臨地実習]**<br>□ 地域保健臨地実習※ 1 前<br>□ 臨床栄養臨地実習Ⅰ※ 1 前<br>□ 臨床栄養臨地実習Ⅱ※ 1 前<br>□ 給食経営管理臨地実習＊ 1 前<br>臨地実習事前事後指導※ 1 前<br><br>専門外書講義 2 後<br>□ 生活栄養論演習Ⅰ 1 後 | 管理栄養士総合演習※ 1 後<br><br>◎ 生活栄養論演習Ⅱ 2 通<br>◎ 卒業研究・論文 8 通 |

○：選択必修（第二外国語　４単位以上）

## （４）　人間関係学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

**■学位授与方針**

本学科の専門科目群、全学共通教育科目群の履修および在学中の多様な活動を通じて、人間らしい心の発達と生きがいの感じられる生活や地域をはじめとする社会のシステム構築に参加するための基礎的、専門的知見と技術を身につけているとともに、多様な立場や職種の人々と対話し、連携する主体としての諸力量を身につけていることが求められる。また、個人の生涯発達と社会の生成、発展のダイナミクスに関心をもち、問題状況を科学的に分析し、理解し、状況の改善に向けて論理的に判断、議論する能力が求められる。以下にも記すこれらの要件を満たした者には人間文化学部から学士（人間文化学）の学位が授与される。

A. 知識・理解
人間関係のあり方について心理学・教育学・社会学を中心とする幅広い知識を身につける。

B. 思考・判断
B-1　一対一の関係で起こる綿密なコミュニケーションを考える一方で、地域コミュニティなど、多様な社会集団で起こる複雑なコミュニケーションを考えることができる。
B-2　対人関係を短い時間単位で捉えるだけでなく、生涯にわたって発達していく関係として考えることができる。

C. 興味・関心
専門性に閉じこもることなく、隣接する分野に積極的な興味と関心を持ち、さまざまな分野の人びとと話し合う態度を身につける。

D. 技法・技術
D-1　人間間関係を定量的／質的に分析するための技法を身につける。
D-2　多様な人間関係のあり方を議論することができ、それを口頭や文章で表現することができる。

**■教育課程の編成・実施方針**

本学科では、人間らしい心の発達と生きがいの感じられる生活や地域をはじめとする社会のシステム構築に参加できる人材の養成をめざしている。心理学、教育学、社会学など人間関係論にかかわる各分野の関連専門科目が以下のようなカテゴリーに分けて配置され、学生はこれらを学ぶ。さらに学びの集大成として人間関係論にかかわるテーマで卒業研究にとりくみ、論文を作成する。

＜学科基礎演習・実習科目＞
基礎的な演習・実習を通して基本的なスキルや教養を身につける。

＜学科専門講義科目＞
専門的な講義を通して心理学、教育学、社会学をはじめ関連分野の知見を学ぶ。人間関係論をめぐる諸問題に関心を寄せ、視野を広げながら自分の興味を絞り込んでいく。

＜学科専門演習・実習科目＞
研究興味の重なる教員、学生と共同調査や文献の輪読などを行う。少人数学習の場の活発な議論を通じて専門的な研究力量を養う。問題を発見し、解決するための手法を探る。プレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考のための力を少人数の演習・実習で身につける。

＜卒業研究・卒業論文＞
個々人の問題意識にもとづいて設定した研究テーマに沿って、調査・実験・分析する。それらをまとめ、わかりやすく表現する技法を習得し、独創性と論理性を備えた卒業論文を完成させる。

②専門科目の履修について

**【卒業に必要な要件】**

下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目（３０単位以上）　※留学生P.21参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

(B)第二外国語としてドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、フランス語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、中国語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、モンゴル語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢのうち４単位。

(C)人間学（「比較住居論」を除く。）から８単位以上（必修２単位を含む。）

(D)地域基礎から４単位以上（必修２単位を含む。）

(2)専門科目（１００単位以上）

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目１６単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から１０単位以上（註１）
●印から２単位以上、□印から８単位以上

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から７４単位以上（註２）

（註１）選択必修科目で１０単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

（註２）他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から １０単位までを専門科目として卒業単位に算入することができる。
なお、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

**【卒業研究・論文着手要件】**

人間関係論基礎演習（１単位）、人間関係論演習Ⅰ（２単位）を履修済みのこと。

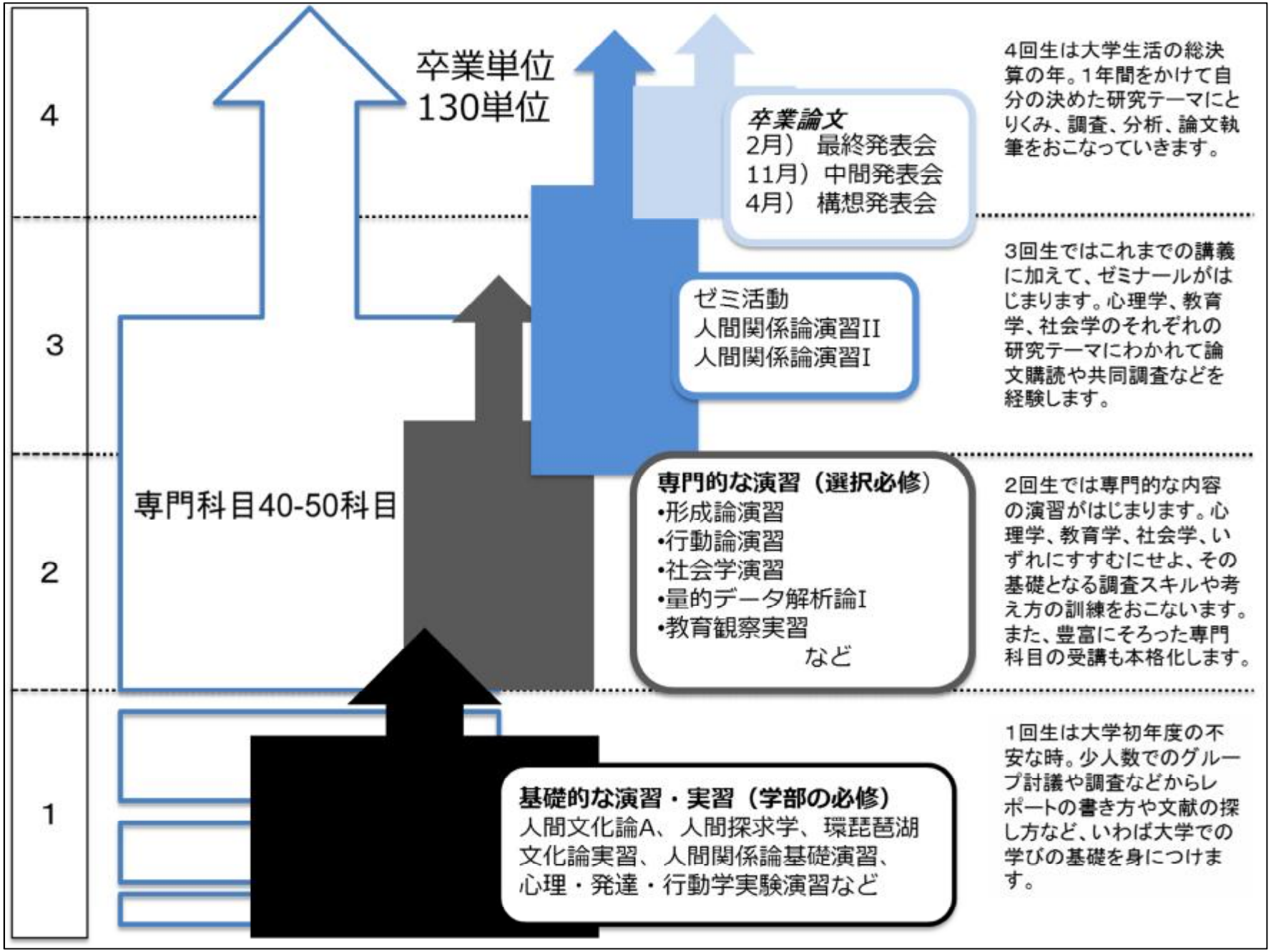
**【卒業研究審査基準】**

1　卒業論文の提出を求める。論文は、以下の評価項目によって複数教員により審査する。
(1) 研究テーマの新規性・独創性
(2) 研究方法の妥当性
(3) 研究内容の学術性
(4) 研究内容の論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性
(5) 論文全体の構成力・論理性

2　論文とは別に、試問・発表会において複数教員との質疑応答を行い、その結果を評価する。

3　上記１および２による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

# 人間文化学部人間関係学科カリキュラムツリー



人間関係学科
2015 （平成27）年度入学生用【標準年次別科目配当表】

| 区分 | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎（留学生 P.21 参照） | ◎ 英語ＩＡ・ＩＢ 各1前後<br>◎ 英語ⅡＡ・ⅡＢ 各1前後<br>○ 第二外国語ＩＡ・ＩＢ 各1前後<br>（独語･仏語･中国語･朝鮮語･※１モンゴル語･※２初習英語）<br>◎ 情報リテラシー（情報倫理を含む） 2 前<br>◎ 情報科学概論 2 後<br>◎ 健康・体力科学Ⅰ 1 後 | ◎ 英語ⅢＡ・ⅢＢ 各1前後<br>◎ 英語ⅣＡ・ⅣＢ 各1前後<br>○ 第二外国語ⅡＡ・ⅡＢ 各1前後<br>（独語･仏語･中国語･朝鮮語･※２初習英語）<br>◎ 健康・体力科学Ⅱ 1 前 |
| | 人間学 | ４年間で８単位必修（人間探求学は1年次必修） | |
| | 地域基礎 | ４年間で４単位必修（地域共生論は1年次必修） | |

※1　モンゴル語については、前期にＩA・ＩB、後期にⅡA・ⅡBを並行して開講します。
※2　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP. 21, 84, 85参照）

| 区分 | | 1年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|
| 専門科目 | 学部共通基礎 | ◎ 環琵琶湖文化論実習 1 通<br>◎ 人間文化論Ａ 2 前<br>● 人間文化論Ｂ 2 後<br>● 人間文化論Ｃ 2 後 | |
| | | Japanese Culture and Civilization（１年次～４年次） | 2 後 |
| | 複数学科共通 | 天然物化学基礎 2 前<br>心理学基礎 2 前<br>統計学基礎 2 前 | |
| | 学科専門 | **〔心理・発達・行動〕**<br>□ 心理・発達・行動学実験演習 2 通<br>人間行動論 2 後<br>消費生活論 2 後<br>比較住居論 2 前<br>**〔集団・組織・人間関係〕**<br>生活と教育 2 前 | **〔社会・文化〕**<br>*2 現代社会論 2 後<br>日本社会論 2 後<br>哲学概論A 2 前<br>*1 哲学概論B 2 前<br>*2 比較宗教論 2 前<br>*1 社会問題の社会学 2 前<br>**〔心理・発達・行動〕**<br>*1 発達心理学Ⅰ 2 後<br>*2 発達支援論 2 後<br>*1 人間形成論Ａ 2 前<br>*2 人間形成論Ｂ 2 前<br>*1 比較認知発達論 2 後<br>**〔集団・組織・人間関係〕**<br>社会心理学 2 前<br>生涯学習論 2 前<br>□ 教育観察実習 2 前<br>法学概論（国際法を含む） 2 前<br>政治学Ⅰ 2 前<br>政治学Ⅱ（国際政治を含む） 2 後<br>文化社会学 2 前 |
| | | **〔社会・文化〕**<br>社会学概論 2 前 | |
| | | **〔専攻基礎および演習〕**<br>◎ 人間関係論基礎演習 1 後<br>社会調査論 2 前 | **〔専攻基礎および演習〕**<br>□ 社会学演習 2 通<br>□ 行動論演習 2 通<br>□ 形成論演習 2 通<br>社会調査方法論 2 前<br>□ 量的データ解析論Ⅰ 2 前<br>質的データ解析論 2 後 |

●：選択必修（この中から２単位以上履修）　□：選択必修（この中から８単位以上履修）

| | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|
| 全学<br>共通基礎 | リスニング（中級）<br>リーディング（中級）<br>英語会話（中級）<br>ディベート&ディスカッション<br>英語表現法<br>エッセイ・ライティング<br>実用英語演習ＩＡ | 2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>1 前 | 留学英語対策基礎講座<br>留学英語対策講座Ⅰ<br>留学英語対策講座Ⅱ<br>ビジネス英語<br>時事英語<br>メディアの英語<br>実用英語演習ＩＢ | 1 前<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>1 後 |
| 人間学 | | | | |
| 地域基礎 | | | | |

＊１：隔年開講（奇数年度開講）　　＊２：隔年開講（偶数年度開講）

| | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|
| 学部<br>共通<br>基礎 | | | | |
| 複数<br>学科共通 | | | | |
| 学科<br>専門 | **〔社会・文化〕**<br>*2 社会学史<br>*1 比較社会文化論<br>*1 社会変動論<br>*1 政治経済学<br>マーケティング論<br>生活経営論<br>**〔心理・発達・行動〕**<br>*1 発達心理学Ⅱ<br>教育心理学<br>臨床心理学<br>社会精神医学<br>現場心理学<br>*2 高齢者行動論<br>教育学概論<br>教育方法論<br>*2 認知心理学<br>カウンセリング論演習<br>道徳教育論 | 2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 前<br>2 前<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>2 前<br>2 前 | **〔集団・組織・人間関係〕**<br>*2 コミュニケーション論<br>*1 現代ジャーナリズム論<br>*2 地域運動論<br>*1 社会・経済政策論<br>現代社会福祉論<br>組織とネットワークの社会学<br>産業心理学<br>教育制度論<br>教育課程論<br>*2 生活法<br>社会調査実習 | 2 前<br>2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>2 前<br>2 前<br>2 後<br>2 後<br>2 前<br>1 通 |
| | **〔専攻基礎および演習〕**<br>量的データ解析論Ⅱ | 2 後 | | |
| | **〔専攻基礎および演習〕**<br>◎ 人間関係論演習Ⅰ | 2 通 | **〔専攻基礎および演習〕**<br>◎ 人間関係論演習Ⅱ<br>◎ 卒業研究・論文 | 2 通<br>8 通 |

○：選択必修（第二外国語　４単位以上）

# 人間関係学科　履修モデル

人間関係学科は、大きく分けて心理・教育・社会の三つの系統に分かれています
どの系統を目指すかを考えながら、専門科目の履修を考えるとよいでしょう。
下表は、各系統の専門科目の履修モデルです。

★なお、以下の必修科目（16単位）は、どの系統を目指す場合も必ず履修して下さい。

必修科目：人間関係論基礎演習（1回生）・環琵琶湖文化論実習（1回生）・人間文化論Ａ（1回生）・人間関係論演習Ⅰ（3回生）・人間関係論演習 II（4回生）・卒業研究・論文（4回生）

| 心理学系 | 教育学系 | 社会学系 |
|---|---|---|
| **選択必修（10単位）：** | **選択必修（10単位）：** | **選択必修（10単位）：** |
| 心理・発達・行動学実験演習（2） | 心理・発達・行動学実験演習（2） | |
| 行動論演習（2） | 形成論演習（2） | 社会学演習（2） |
| 量的データ解析論Ⅰ（2） | 教育観察実習（2） | 行動論演習（2） |
| | | 形成論演習（2） |
| 社会学演習（2）、形成論演習（2）、教育観察実習（2）のいずれかーつ | 行動論演習（2）、量的データ解析論Ⅰ(2)、社会学演習(2) のいずれかーつ | 量的データ解析論Ⅰ(2) |
| 人間文化論B、人間文化論Cのいずれかーつ | 人間文化論B、人間文化論Cのいずれかーつ | 人間文化論B、人間文化論Cのいずれかーつ |
| **選択科目：** | **選択科目：** | **選択科目：** |
| 比較文明論 | 比較文明論 | 比較文明論 |
| 生命科学と人間 | 生命科学と人間 | マーケティング論 |
| 統計学基礎 | 統計学基礎 | 文化人類学概論Ａ |
| 心理学基礎 | 心理学基礎 | 文化人類学概論Ｂ |
| 人間行動論 | 人間行動論 | 生命科学と人間 |
| 考現学概論 | 考現学概論 | 統計学基礎 |
| 社会学概論 | 社会学概論 | 人間行動論 |
| 発達心理学 Ⅰ | 発達心理学 Ⅰ | 考現学概論 |
| 発達支援論 | 発達支援論 | 消費生活論 |
| 人間形成論Ａ | 人間形成論Ａ | 比較住居論 |
| 人間形成論Ｂ | 人間形成論Ｂ | 比較道具論 |
| 比較認知発達論 | 比較認知発達論 | 比較衣装論 |
| 社会心理学 | 社会心理学 | 比較食文化論 |
| 生涯学習論 | 生涯学習論 | 日本社会論 |
| 社会調査方法論 | 生活と教育 | 比較社会文化論 |
| 量的データ解析論Ⅱ | 社会調査方法論 | 教育制度論 |
| 質的データ解析論 | 量的データ解析論Ⅱ | 社会調査論 |
| 比較社会文化論 | 質的データ解析論 | 社会学概論 |
| 現代社会論 | 比較社会文化論 | 現代社会論 |
| 社会変動論 | 現代社会論 | 社会心理学 |
| 発達心理学Ⅱ | 社会変動論 | 社会変動論 |
| 教育心理学 | 発達心理学Ⅱ | 法学概論 |
| 臨床心理学 | 教育心理学 | 政治経済学 |
| 社会精神医学 | 臨床心理学 | 社会調査方法論 |
| 社会問題の社会学 | 社会精神医学 | 量的データ解析論Ⅱ |
| 現場心理学 | 社会問題の社会学 | 質的データ解析論 |
| 高齢者行動論 | 現場心理学 | 社会問題の社会学 |
| 教育学概論 | 高齢者行動論 | 社会学史 |
| 教育方法論 | 教育学概論 | 高齢者行動論 |
| 認知心理学 | 教育方法論 | コミュニケーション論 |
| カウンセリング論演習 | 認知心理学 | 現代ジャーナリズム論 |
| コミュニケーション論 | カウンセリング論演習 | 地域運動論 |
| 現代ジャーナリズム論 | コミュニケーション論 | 組織とネットワークの社会学 |
| 地域運動論 | 現代ジャーナリズム論 | 産業心理学 |
| 社会・経済政策論 | 地域運動論 | 生活法 |
| 現代社会福祉論 | 社会・経済政策論 | 社会精神医学 |
| 組織とネットワークの社会学 | 現代社会福祉論 | 社会調査実習 |
| 産業心理学 | 組織とネットワークの社会学 | 社会・経済政策論 |
| 教育制度論 | 産業心理学 | 現代社会福祉論 |
| 生活法 | 教育制度論 | 人間形成論Ａ |
| 社会調査実習（1 単位） | 教育課程論 | 人間形成論Ｂ |
| 生活経営論 | 生活法 | |

## （５）　国際コミュニケーション学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

### ■学位授与方針

国際コミュニケーション学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を下記のとおり定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、国際コミュニケーション学科の定める人材育成目標を達成した者には学士課程の人間文化学の学位を授与します。

Ａ－１　自国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養を身につける。（知識・理解）
Ａ－２　国境を越えた人の移動に伴う諸問題について理解し、グローバル化する世界や地域社会の諸課題に対応できる知と実践力を身につける。（知識・理解）

Ｂ．　異なる民族や異なる文化的背景を持つ人間が、いかに共生していけるかという課題に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成できる。（思考・判断）

Ｃ－１　グローバル化の進展により人類の課題となっている多文化共生の未来を拓こうとする態度を持つ。（興味・関心）
Ｃ－２　文化だけでなく人間の持つあらゆる多様性を尊重し、異文化に積極的に関わることによって、新たな関係を創造していく意欲を持つ。（興味・関心）

Ｄ－１　英語を中心とする複数の外国語でのコミュニケーション能力を身につける。（技能・技術）
Ｄ－２　自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章（日本語および外国語）で表現することができる。（技能・技術）

### ■教育課程の編成・実施方針

国際コミュニケーション学科では、自国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養、英語を中心とした複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につけ、学生一人一人がグローバル化する現代社会において活躍できる「知と実践力」を身につけるための課程を、以下のようなカテゴリーに分けて編成しています。

Ａ．学科基礎科目
国際的なコミュニケーションの基礎を身につけ、言語学の知識を身につける。

Ｂ．言語コミュニケーション科目
Ｂ－１　英語：「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランス良く身につける。
Ｂ－２　実践英語：TOEIC、TOEFL などの検定試験に対応する力を身につける。
Ｂ－３　初習外国語：ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語によるコミュニケーション能力を身につける。
Ｂ－４　言語と文化：言語・文学・文化など理論的な側面から学ぶ。英語による講義を理解する。

Ｃ．多文化コミュニケーション科目
Ｃ－１　多文化共生：多民族・多文化化する現代の世界や地域社会の課題を理解し、それに対応できる知と実践力を身につける。
Ｃ－２　国際教養：国際的視野を身につけ、異文化を理解するための方法論を身につける。
Ｃ－３　国際文化論：世界各地域、とりわけ留学先の文化・歴史・社会等への理解を深める。

Ｄ．演習科目
各科目群の学びをさらに深め、同時にプレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考、問題発見・解決のための力を少人数の演習で身につける。

Ｅ．卒業研究・論文
論理的なアカデミック・ライティングと、内容の独創性を備えた卒業研究・論文で学びを集大成する。

②専門科目の履修について

**【卒業に必要な要件】**

下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目（３０単位以上）　　※留学生P.21参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位
(B)第二外国語としてドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、フランス語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、中国語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡBのうち４単位。

(C)人間学から８単位以上（必修２単位を含む)。

(D)地域基礎から４単位以上（必修２単位を含む)。

(2)専門科目（１００単位以上）

(A) 次頁以降の科目配当表に指定する必修科目２３単位
(B) 次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目２２単位以上（註１）
●印から 2 単位以上、□印から 10 単位以上、▽印から 10 単位以上。
(C) 次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から５５単位以上（註２～４）

（註１）選択必修科目で２２単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。
（註２）他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、実験、実習、演習を除いたすべての科目（以下、「他学部他学科科目」とする）から１０単位までは、特に手続きを経ずに専門科目として卒業単位に算入できる。
（註３）１０単位を超えて取得した他学部他学科科目の単位は、教授会の議を経て適切と認められた場合に限り、卒業単位に算入できる。
（註４）海外留学中に留学先で取得した単位については、所定の手続きを経た上で、原則として２０単位まで卒業単位に算入できる。ただし、中・高教諭一種免許（英語）に係る科目についてはこの限りではない。

**【卒業研究・論文履修要件】**

基礎演習Ⅰ（1 単位)、基礎演習Ⅱ（1 単位)、発展演習Ⅰ（1 単位)、発展演習Ⅱ（1 単位）を履修済みであること。

**【卒業研究審査基準】**

論文は、(論文の主題に応じて）複数の学科教員により審査する。審査委員は、下に示す基準に照らし合わせて合否を判断し、学科会議において最終的に合否決定をする。

① 使用言語は日本語または英語とする。
② 日本語の場合は１２,０００字を基本とする。英語の場合は６,０００語程度とする。
③ 研究目的が明確であること。
④ 研究方法が妥当であること。
⑤ 目的達成のための調査量が十分であること。
⑥ 内容が独創的・客観的・論理的であること。
⑦ 卒業論文としての体裁が整っていること。
⑧ 口頭試問の対応が的確であること。

なお、事前に実施する中間発表会において要旨を提出し、発表することが前提となる。

# 国際コミュニケーション学科 Curriculum Map

グローバル化する現代社会に適切に対応するため、自国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する
幅広い知識や教養、英語を中心とした複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につけ、
それらを活かして、国際社会および地域社会において活躍できる人材

**卒業研究・論文(D-2)**

| 学年 | | 学部共通基礎科目(A-1) | | 学科基礎 | 英語(D-1) | 実践英語(D-1) | 初習外国語(D-1) | 言語と文化(D-1) | 多文化共生(A-2・B・C-1) | 国際教養(A-1・C-1) | 国際文化論(A-1) | 演習(D-2) | 留学(C-2) | 資格関連科目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 後期 | | | | | 実践英語演習 G | チベット語基礎 Ⅱ | | 移民社会論 A<br>移民社会論 B<br>移民社会論 C<br>異文化交流史 | 文化人類学特論<br>英語文献講読 A<br>英語文献講読 B<br>政治経済学<br>経済学 Ⅱ<br>現代社会論<br>サブカルチャー交流論<br>開発人類学<br>ポストコロニアル論<br>現代思想論 | 欧米文化特論 A<br>欧米文化特論 B<br>欧米文化特論 C<br>欧米文化特論 D<br>アジア文化特論 A<br>アジア文化特論 B<br>アジア文化特論 C | 研究演習 Ⅰ・Ⅱ | 長期・中期・短期いずれかの海外留学 | 教育実践演習 |
| | 前期 | | | | | 通訳ガイド講座<br>実践英語演習 F | チベット語基礎 Ⅰ | English Lecture F<br>English Lecture E | | | | | | 教育実習・事前事後指導<br>教科教育法Ⅳ |
| 3 | 後期 | | | | Academic Listening<br>Academic Writing | ビジネス英語<br>実践英語演習 E | | 翻訳文化論<br>英米文学講読<br>English Lecture D | | | | 発展演習 Ⅰ・Ⅱ | | 教育制度論<br>教育課程論<br>教科教育法Ⅲ<br>教育実習・事前事後指導 |
| | 前期 | | | | Public Speech | 実践英語演習 D | | メディアの英語<br>言語接触論<br>English Lecture C | | | | | | 教育心理学<br>道徳教育論<br>教育相談・進路指導 |
| 2 | 後期 | Japanese Culture & Civilization | | | 時事英語<br>Essay Writing | 実践英語演習 C | | 英語音声学<br>現代英文法 | 多民族社会論 A<br>多民族社会論 B<br>多民族社会論 C | 文化人類学概論 A<br>文化人類学概論 B<br>国際関係論<br>法学概論<br>西洋史 | 欧米文化論 A<br>欧米文化論 B<br>欧米文化論 C<br>欧米文化論 D<br>欧米文化論 E<br>アジア文化論 A<br>アジア文化論 B<br>アジア文化論 C<br>アジア文化論 D | 基礎演習 Ⅰ・Ⅱ | | 教科教育法 Ⅱ<br>特別活動論<br>生徒指導論 |
| | 前期 | | | | Listening(中級)<br>Debate & Discussion<br>英語表現法 | 実践英語演習 B | 独・仏・中・朝・モ語コミュニケーション Ⅱ<br>モ語史料講読 Ⅰ | 英米文学概説<br>English Lecture B | | | | | | 教育学概論<br>教科教育法 Ⅰ<br>教育方法論 |
| 1 | 後期 | 人間文化論 B<br>人間文化論 C | 環琵琶湖文化論実習 | 言語学概論(A-1) | Reading(中級)<br>英語会話(中級)<br>英語Ⅳ | 留学英語対策講座 Ⅰ・Ⅱ<br>実践英語演習 A | 独・仏・中・朝・モ語コミュニケーション Ⅰ | English Lecture A | | | | | | |
| | 前期 | 人間文化論 A | | 国際コミュニケーション論(C-2) | 英語 Ⅰ～Ⅲ<br>※全学共通基礎科目 | 留学英語対策基礎講座<br>実践英語対策講座 | 第２外国語 Ⅰ・Ⅱ<br>※全学共通基礎科目 | 英語学概論 | | | | 探求学（人間） | | 教職論 |

言語コミュニケーション　多文化コミュニケーション

専門科目

国際コミュニケーション学科　　2015(平成27)年度入学生用【標準年次別科目配当表】

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎 | | ◎ 英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ | 各2 前 | | |
| | | | ◎ 英語Ⅳ | 2 後 | | |
| | | | ○ 第二外国語ⅠA, ⅠB | 各1 前 | | |
| | | | ○ 第二外国語ⅡA, ⅡB | 各1 後 | | |
| | | | (独語・仏語・中国語・朝鮮語・モンゴル語・※1 初習英語) | | | |
| | | | ◎ 情報リテラシー(情報倫理を含む) | 2 前 | ◎ 健康・体力科学Ⅱ | 1 前 |
| | | | ◎ 情報科学概論 | 2 後 | | |
| | | | ◎ 健康・体力科学Ⅰ | 1 後 | | |
| | 人間学 | | ◎ 人間探求学 | 2 前 | (1～4年次で、必修2単位を含め8単位以上) | |
| | 地域基礎 | | ◎ 地域共生論 | 2 前 | (1～4年次で、必修2単位を含め4単位以上) | |

●□▽:選択必修(●印から2単位以上、□印から10単位以上、▽印から10単位以上)

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 学部共通基礎 | | ◎ 環琵琶湖文化論実習 | 1 通 | | |
| | | | ◎ 人間文化論A | 2 前 | | |
| | | | ● 人間文化論B | 2 後 | | |
| | | | ● 人間文化論C | 2 後 | | |
| | | | Japanese Culture and Civilization | 2 後 | (1年次～4年次) | |
| | 学科専門 | 学科基礎 | ◎ 国際コミュニケーション論 | 2 前 | | |
| | | | 言語学概論 | 2 後 | | |
| | | 言語コミュニケーション 英語 | リーディング(中級) | 2 後 | リスニング(中級) | 2 前 |
| | | | 英語会話(中級) | 2 後 | ディベート&ディスカッション | 2 前 |
| | | | | | 英語表現法 | 2 前 |
| | | | | | エッセイ・ライティング | 2 後 |
| | | | | | 時事英語 | 2 後 |
| | | 言語コミュニケーション 実践英語 | ◎ 実践英語対策講座 | 2 前 | ◎ 実践英語演習B | 1 前 |
| | | | ◎ 実践英語演習A | 1 後 | 実践英語演習C | 1 後 |
| | | | 留学英語対策基礎講座 | 1 前 | | |
| | | | 留学英語対策講座Ⅰ | 2 後 | | |
| | | | 留学英語対策講座Ⅱ | 2 後 | | |
| | | 言語コミュニケーション 初習外国語 | ○ モンゴル語ⅠA, B ※2 | 各1 前 | ドイツ語コミュニケーションⅡA, B, C, D | 各2 前 |
| | | | ○ モンゴル語ⅡA, B ※2 | 各1 後 | フランス語コミュニケーションⅡA, B, C, D | 各2 前 |
| | | | ドイツ語コミュニケーションⅠA, B | 各2 後 | 中国語コミュニケーションⅡA, B, C, D | 各2 前 |
| | | | フランス語コミュニケーションⅠA, B | 各2 後 | 朝鮮語コミュニケーションⅡA, B, C, D | 各2 前 |
| | | | 中国語コミュニケーションⅠA, B | 各2 後 | モンゴル語コミュニケーションⅡA, B | 各2 前 |
| | | | 朝鮮語コミュニケーションⅠA, B | 各2 後 | モンゴル語史料講読Ⅰ ⅡA, B | 各2 前 |
| | | | モンゴル語コミュニケーションⅠA, B | 各2 後 | | |
| | | 言語コミュニケーション 言語と文化 | 英語学概論 | 2 前 | 英米文学概論 | 2 前 |
| | | | イングリッシュレクチャーA | 2 後 | 英語音声学 | 2 後 |
| | | | | | 現代英文法 | 2 後 |
| | | | | | イングリッシュレクチャーB | 2 前 |
| | | 多文化コミュニケーション 多文化共生 | □ 多民族社会論B | 2 後 | □ 多民族社会論A | 2 前 |
| | | | | | □ 多民族社会論C | 2 前 |
| | | 多文化コミュニケーション 国際教養 | □ 文化人類学概論B | 2 後 | □ 文化人類学概論A | 2 前 |
| | | | □ 国際関係論 | 2 後 | □ 法学概論(国際法を含む) | 2 前 |
| | | | □ 西洋史 | 2 後 | | |
| | | 多文化コミュニケーション 国際文化論 | □ 欧米文化論B | 2 後 | □ 欧米文化論A | 2 前 |
| | | | □ 欧米文化論E | 2 後 | □ 欧米文化論C | 2 前 |
| | | | □ アジア文化論B | 2 後 | □ 欧米文化論D | 2 前 |
| | | | □ アジア文化論D | 2 後 | □ アジア文化論A | 2 前 |
| | | | | | □ アジア文化論C | 2 前 |
| | | 演習 | | | ◎ 基礎演習Ⅰ | 1 前 |
| | | | | | ◎ 基礎演習Ⅱ | 1 後 |
| | | 卒論 | | | | |
| | | 海外留学 | 海外留学(1～4年次) | | 上限 12 | |

※1 外国人留学生の第一外国語、第二外国語の詳細についてはP.21を参照してください。

※2 専門科目のモンゴル語Ⅰ(A,B)・Ⅱ(A,B)は、全学共通基礎科目の第二外国語として履修した学生については履修できません。

| | | | 3年次 | 4年次 |
|---|---|---|---|---|
| 全学共通基礎 | | | | |
| 人間学 | | | | |
| 地域基礎 | | | | |

＊1：隔年開講（奇数年度開講）　　＊2：隔年開講（偶数年度開講）

| | | | 3年次 | 4年次 |
|---|---|---|---|---|
| 学部共通基礎 | | | | |
| 学科専門 | 学科基礎 | | | |
| | 言語コミュニケーション | 英語 | パブリック・スピーチ 2 前<br>アカデミック・リスニング 2 後<br>アカデミック・ライティング 2 後 | |
| | | 実践英語 | 実践英語演習D 1 前<br>実践英語演習E 1 後<br>ビジネス英語 2 後 | 通訳ガイド講座 2 前<br>実践英語演習F 1 前<br>実践英語演習G 1 後 |
| | | 初習外国語 | | チベット語基礎Ⅰ 2 前<br>チベット語基礎Ⅱ 2 後 |
| | | 言語と文化 | メディアの英語 2 前<br>言語接触論 2 前<br>翻訳文化論 2 後<br>英米文学講読 2 後<br>イングリッシュレクチャーC 2 前<br>イングリッシュレクチャーD 2 後 | イングリッシュレクチャーE 2 前<br>イングリッシュレクチャーF 2 前 |
| | 多文化コミュニケーション | 多文化共生 | ▽ 移民社会論A 2 後<br>▽ 移民社会論B 2 前 | ▽ 移民社会論C 2 後<br>▽ 異文化交流史 2 前 |
| | | 国際教養 | ▽ 文化人類学特論 2 前<br>▽ 英語文献講読A 2 前<br>▽ 英語文献講読B 2 後<br>▽ 政治経済学*1 2 前<br>▽ 経済学Ⅱ（国際経済を含む） 2 前 | ▽ 開発人類学 2 後<br>▽ ポストコロニアル論 2 後<br>▽ 現代思想論 2 後<br>▽ 現代社会論*2 2 後<br>▽ サブカルチャー交流論 2 前 |
| | | 国際文化論 | ▽ アジア文化特論A 2 後<br>▽ アジア文化特論B 2 前<br>▽ アジア文化特論C 2 後 | ▽ 欧米文化特論A 2 後<br>▽ 欧米文化特論B 2 前<br>▽ 欧米文化特論C 2 後<br>▽ 欧米文化特論D 2 後 |
| | 演習 | | ◎ 発展演習Ⅰ 1 前<br>◎ 発展演習Ⅱ 1 後 | ◎ 研究演習Ⅰ 1 前<br>◎ 研究演習Ⅱ 1 後 |
| | 卒論 | | | ◎ 卒業研究論文 8 後 |
| | 海外留学 | | | |

【海外留学（中期・長期）に必要な要件】

国際コミュニケーション学科の学生は、外国の大学等に 3 週間以上留学した場合、その期間等に応じて、「海外留学」として単位認定を申請することができる（上限 12 単位）。

短期海外研修（3～8 週間の語学研修）を除き、中期留学（3～6 ヶ月間）、長期留学（9 ヶ月～1 年間）をして「海外留学」の単位認定を申請するには、留学に着手する前に各言語圏別に下表に掲げる科目を履修していることを原則とする。

なお、この要件は「海外留学」履修の要件であって、この要件をクリアすれば必ず留学できるというものではない。留学をするには、希望する留学先大学が求める条件（TOEFL のスコアなど）をクリアする必要がある場合もある。詳しくは別途説明する機会を設ける。

国際コミュニケーション学科　海外留学（中期・長期）に必要な要件

| 言語圏 | 履修が必要な科目 |
|---|---|
| 英語 | 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳの４科目に加え、以下の５科目から３科目以上<br>リーディング（中級）、英語会話（中級）、リスニング(中級)、<br>ディベート&ディスカッション、英語表現法 |
| ドイツ語 | ドイツ語ⅠA、ドイツ語ⅠB、ドイツ語ⅡA、ドイツ語ⅡB<br>ドイツ語コミュニケーションⅠA、ドイツ語コミュニケーションⅠB、<br>ドイツ語コミュニケーションⅡA、ドイツ語コミュニケーションⅡB、<br>ドイツ語コミュニケーションⅡC、ドイツ語コミュニケーションⅡD |
| フランス語 | フランス語ⅠA、フランス語ⅠB、フランス語ⅡA、フランス語ⅡB<br>フランス語コミュニケーションⅠA、フランス語コミュニケーションⅠB、<br>フランス語コミュニケーションⅡA、フランス語コミュニケーションⅡB、<br>フランス語コミュニケーションⅡC、フランス語コミュニケーションⅡD |
| 中国語 | 中国語ⅠA、中国語ⅠB、中国語ⅡA、中国語ⅡB<br>中国語コミュニケーションⅠA、中国語コミュニケーションⅠB、<br>中国語コミュニケーションⅡA、中国語コミュニケーションⅡB、<br>中国語コミュニケーションⅡC、中国語コミュニケーションⅡD |
| 朝鮮語 | 朝鮮語ⅠA、朝鮮語ⅠB、朝鮮語ⅡA、朝鮮語ⅡB<br>朝鮮語コミュニケーションⅠA、朝鮮語コミュニケーションⅠB、<br>朝鮮語コミュニケーションⅡA、朝鮮語コミュニケーションⅡB、<br>朝鮮語コミュニケーションⅡC、朝鮮語コミュニケーションⅡD |
| モンゴル語 | モンゴル語ⅠA、モンゴル語ⅠB、モンゴル語ⅡA、モンゴル語ⅡB<br>モンゴル語コミュニケーションⅠA、モンゴル語コミュニケーションⅠB、<br>モンゴル語コミュニケーションⅡA、モンゴル語コミュニケーションⅡB |

【履修モデル】

国際コミュニケーション学科では、2 年次の後期から 1 年間の海外留学を推奨しており、1 年間の留学をしても 4 年間で卒業できるようなカリキュラムとなっている。

次頁に、以下の 3 つのケースを想定して、学科専門科目の履修モデルを示す。留学する時期や期間はこれ以外もあり得るため、科目についてもあくまでも選択の参考例である。

① 英語圏へ 1 年間留学する場合
② 第 2 外国語圏に 1 年間留学する場合
③ 教職課程を履修して英語圏に半年間留学する場合

なお、学科専門科目のうち、次の必修科目（20 単位）は、全員が履修するので示していない。

○国際コミュニケーション論（1 回生）
○実践英語演習 A（1 回生）
○基礎演習Ⅰ・Ⅱ（2 回生）
○研究演習Ⅰ・Ⅱ（4 回生）
○実践英語対策講座（1 回生）
○実践英語演習 B（2 回生）
○発展演習Ⅰ・Ⅱ（3 回生）
○卒業研究・論文（4 回生）

国際コミュニケーション学科　履修モデル

| 学年 | 学期 | 言語コミュニケーション科目群*1 | | | 多文化コミュニケーション科目群（選択必修で 20 単位以上）*2 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ①英語圏に 1 年間留学する場合 | ②第 2 外国語圏に 1 年間留学する場合 | ③教職課程を履修して英語圏に半期留学する場合 | |
| 1 | 前期 | 〔英語ⅠA・B～ⅢA・B〕<br>〔第 2 外国語ⅠA・B〕<br>留学英語対策基礎講座<br>英語学概論 | 〔英語ⅠA・B～ⅢA・B〕<br>〔第 2 外国語ⅠA・B〕 | 〔英語ⅠA・B～ⅢA・B〕<br>〔第 2 外国語ⅠA・B〕<br>〔教職論〕<br>英語学概論 | |
| | 後期 | 〔英語ⅣA・B〕<br>〔第 2 外国語ⅡA・B〕<br>言語学概論<br>英語会話（中級）<br>リーディング（中級）<br>留学英語対策講座Ⅰ・Ⅱ<br>イングリッシュレクチャーA | 〔英語ⅣA・B〕<br>〔第 2 外国語ⅡA・B〕<br>第 2 外国語コミュニケーションⅠA<br>第 2 外国語コミュニケーションⅠB<br>言語学概論<br>英語学概論 | 〔英語ⅣA・B〕<br>〔第 2 外国語ⅡA・B〕<br>言語学概論<br>英語会話（中級）<br>リーディング（中級）<br>留学英語対策講座Ⅰ・Ⅱ<br>イングリッシュレクチャーA<br>〔憲法〕 | 国際関係論<br>西洋史<br>欧米文化論 B<br>アジア文化論 B |
| 2 | 前期 | リスニング（中級）<br>ディベート＆ディスカッション<br>英語表現法<br>英米文学概論<br>イングリッシュレクチャーB | 第 2 外国語コミュニケーションⅡA<br>第 2 外国語コミュニケーションⅡB<br>第 2 外国語コミュニケーションⅡC<br>第 2 外国語コミュニケーションⅡD | リスニング（中級）<br>英語表現法<br>英米文学概論<br>イングリッシュレクチャーB<br>〔教育方法論〕<br>〔教育学概論〕<br>〔道徳教育論〕<br>〔教育心理学〕<br>〔教育相談・進路指導〕<br>〔英語科教育法Ⅰ〕 | 多民族社会論 A<br>多民族社会論 C<br>文化人類学概論 A<br>法学概論<br>欧米文化論 A<br>欧米文化論 C<br>欧米文化論 D<br>アジア文化論 A<br>アジア文化論 C |
| | 後期 | 海外留学 | 海外留学 | 現代英文法<br>英語音声学<br>時事英語<br>エッセイ・ライティング<br>〔生徒指導論〕<br>〔特別活動論〕<br>〔英語科教育法Ⅱ〕 | 多民族社会論 B<br>文化人類学概論 B<br>欧米文化論 E<br>アジア文化論 D |
| 3 | 前期 | | | 海外留学 | 英語文献講読 A<br>政治経済学<br>経済学Ⅱ<br>現代社会論<br>サブカルチャー交流論 |
| | 後期 | アカデミック・リスニング<br>アカデミック・ライティング<br>ビジネス英語<br>翻訳文化論<br>英米文学講読<br>イングリッシュレクチャーD | 翻訳文化論<br>実践英語演習 E | アカデミック・リスニング<br>英米文学講読<br>〔教育課程論〕<br>〔教育制度論〕<br>〔教育実習・事前事後指導〕<br>〔英語科教育法Ⅲ〕 | 移民社会論 A<br>英語文献講読 B<br>開発人類学<br>欧米文化特論 A<br>欧米文化特論 C<br>アジア文化特論 A<br>欧米文化特論 D |
| 4 | 前期 | 通訳ガイド講座<br>イングリッシュレクチャーE<br>実践英語演習 F<br>イングリッシュレクチャーF | 通訳ガイド講座<br>言語接触論<br>実践英語演習 F | メディアの英語<br>〔英語科教育法Ⅳ〕<br>実践英語演習 F<br>〔教育実習・事前事後指導〕<br>イングリッシュレクチャーF | 移民社会論 B<br>異文化交流史<br>文化人類学特論<br>欧米文化特論 B<br>アジア文化特論 B |
| | 後期 | 実践英語演習 G | 実践英語演習 G | 実践英語演習 G<br>〔教育実践演習〕 | 移民社会論 C<br>ポストコロニアル論<br>現代思想論<br>アジア文化特論 C |

*1　便宜上、全学共通基礎科目の外国語科目を、専門科目に交えて〔　〕内に示してある。また同様に、③については、教職科目を、専門科目に交えて〔　〕内に示してある。（英語の教職課程は中学と高校で必要な単位数が異なるので注意すること。詳細は P.582 以降で確認すること）

*2　多文化コミュニケーション科目群の科目のうち、1・2 年次配当科目より 10 単位以上、3･4 年次配当科目より 10 単位以上を選択必修。配当年次が複数にまたがる科目がほとんどだが、上の履修モデルでは、便宜上、特定の学年に開講する形で示してある。

**国際コミュニケーション学科　ゼミ別指導内容および履修が望ましい科目等**

2 年次配当の基礎演習Ⅰ・Ⅱ、3 年次配当の発展演習Ⅰ・Ⅱ、4 年次配当の研究演習Ⅰ・Ⅱは、各教員がゼミ形式で担当する。特に発展演習Ⅰ・Ⅱと研究演習Ⅰ・Ⅱは、卒業研究に向けて、同じ教員のゼミで指導を受けることを原則とする。

下記に、各教員の専門分野と研究テーマ・方法、履修が望ましい科目等を示すので、履修計画の参考にすること。

| 教員名 | 専門分野、<br>テーマ・方法など | 履修が望ましい科目等 |
|---|---|---|
| 小栗　裕子 | 英語教授法<br>第二言語習得論 | 教職課程を履修していることが望ましい |
| 地蔵堂　貞二 | 中国語学（中国語史） | 中国語ＩＡ・ＩＢ、中国語ⅡＡ・ⅡＢ、<br>中国語コミュニケーション科目、アジア文化論Ａ |
| 棚瀬 慈郎 | 文化人類学 | 特になし |
| ジョン・リピー | 文芸創作、アメリカ文化、<br>英米詩、英語教育 | 特になし |
| 呉　凌非 | 言語学、中国語学、<br>言語処理 | 学科の中国語関連科目、言語理論関連科目 |
| ボルジギン・<br>ブレンサイン | 中国東北・内モンゴル地域<br>研究、中国少数民族問題 | モンゴル語or中国語、アジア文化論Cなどを履修していることが望ましい |
| 山本　薫 | 英文学（19世紀末から<br>20世紀初頭の英国小説） | 特になし |
| 小熊　猛 | 英語学、認知文法、<br>認知言語学 | 英語学概論、言語学概論 |
| 島村　一平 | 文化人類学、モンゴル研究 | 文化人類学概論Ａ・Ｂあるいはモンゴル語、<br>アジア文化論Ｃ |
| マーティン・<br>ホークス | 応用言語学 | 特になし |
| 吉村　淳一 | ドイツ語学、ドイツ文化 | ドイツ語ＩＡ・ＩＢ、ドイツ語ⅡＡ・ⅡＢ、ドイツ語コミュニケーション科目、欧米文化論A、欧米文化特論Aを履修していることが望ましい。 |
| 河　かおる | 韓国・朝鮮研究、在日外国<br>人研究、ジェンダー論など | 原則として河が担当する語学以外の科目を全て履修すること（ゼミとの併行履修も可） |
| 橋本　周子 | フランス文化論、<br>食の思想史 | フランス語ＩＡ・ＩＢ、フランス語ⅡＡ・ⅡＢ、<br>フランス語コミュニケーション科目（以上必須）、<br>欧米文化論Ｂ |

| 科目名 | Japanese Culture and Civilization | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 石田　法雄※ ・ 冨島　義幸※ ・ Walter Klinger ・ 面矢　慎介 ・ John Rippey | |
| 授業概要 | This course presents an introduction to specific topics in Japanese culture and society as formed by religious beliefs and practices, especially Buddhism. Classroom lectures and discussions will focus on Buddhist concepts and ideals, both fundamental and those particular to Japan. | |
| 到達目標 | By the end of the course, students should be able to demonstrate an understanding of the following key items:<br>•What are the primary concepts, beliefs and ideals of Buddhism, and what did particular Japanese Buddhist leaders contribute to the religion<br>•Where can expressions of Buddhist thought be observed in Japanese lifestyles<br>•Other aspects of Japanese culture and society as they reveal themselves and become relevant to the students' personal and academic lives. | |
| 成績評価 | Class participation 30%. Report 70%. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Material will be handed out in class, and available for download. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アカデミック・ライティング | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | On this course, we take a 'process' approach to writing where we will first develop ideas from readings and discussion. Next, we take these ideas and make an outline based on the specific kind of essay we are writing. Once the outline is ready, we can then produce the first draft. Further drafting and improvements are needed before an essay can be submitted.<br>After an introduction to the basic structure of an academic essay, we will look at four kinds of essay: a narrative essay, an opinion essay, a comparison essay, and a cause & effect essay. In addition to essay structure, we will focus on grammar at the sentence level, and cohesion (how words and sentences are linked) at the paragraph level. | |
| 到達目標 | The goals of this course are as follows:<br>- to learn the basic structure of an academic essay<br>- to practise writing four kinds of academic essay<br>- to develop editing skills<br>- to develop grammatical knowledge relevant for academic writing | |
| 成績評価 | Participation: 20%<br>Assignments: 80% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アカデミック・リスニング | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | Academic listening skills are those that are needed to follow lectures and seminars in educational settings in English speaking environments. On this course, we will watch realistic lectures on a broad number of academic topics. For each topic, we will develop an understanding of the main ideas through discussion tasks. Next, we will look at some key academic vocabulary and note-taking strategies before practising listening skills by watching the lectures. Later in the course, students will have the chance to choose a topic of interest and give their own mini-lecture to their classmates. | |
| 到達目標 | The goals of this course are as follows:<br>- to build relevant academic vocabulary<br>- to practise active listening skills<br>- to learn note-taking skills and strategies<br>- to build discussion skills | |
| 成績評価 | Participation: 30%<br>Listening quizzes: 40%<br>Vocabulary quizzes: 20%<br>Student lecture: 10% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Contemporary Topics 2 (3rd edition), Kisslinger, E. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア交流論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 阿部　健一※ | |
| 授業概要 | 身近に海外のモノ、人、情報があふれる時代になった。このグローバリゼーションの時代に必要なのが「交流論」である。文化や歴史あるいは価値観の違いを超えて、新しい創造的な関係をどのようにつくればいいのかを考えることである。<br>そのために、まず日本がその一員であるアジアの人々の生活のリアリティを伝えたいと思う。ごく普通の人々のありふれた日常の一断片を切り取り、そこから人々の考えの根底にあるものを探ってみたい。<br>忘れがちなことであるが、相手のことを理解するためには、まず自分が何者なのか理解しておく必要がある。次に自分自身、つまり近現代の日本社会について考えてみたい。アジアの国とどこが同じでどこが違っているのか、「汝自身を知る」ことこそが「交流論」には不可欠だと思っている。 | |
| 到達目標 | （1）アジアをより身近に感じることができるようになる。<br>（2）アジアの人々とわれわれの間の共通する点と異なる点について知ることができる。<br>（3）アジアの人との相違について考えることで、日本社会の特徴についても理解を深めることができる。<br>＊アジアからの留学生は、日本社会のことを考えることによって自国についてより深く理解することができる。<br>（4）文化・価値観の異なる人々との交流のために必要なことは何なのか知ることができる。 | |
| 成績評価 | 小テストの評価を 15%、レポートでの評価を 85%とする。小テストは３回を予定している。小テストは、到達目標の（1）についての達成度を確認する作業である。一回につきそれぞれ５%をあてる。<br>レポートは、到達目標の（2）（3）（4）について、それぞれ１０%、１０%、６５%の割合をめどに評価する。100 点満点で採点し、65%を合格とする。<br>なお、授業回数の三分の一を欠席したものについては評価の対象外とする。やむを得ない理由で欠席する場合は、その旨を事前に担当教員に連絡すること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特になし指定図書：特になし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア社会論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北村　由美※ | |
| 授業概要 | グローバル化が進む今日、アジア社会は急速に変貌を遂げている。本講義では、特に東南アジア社会に焦点をあてながら、現代アジアの社会変化の中で、日本で生活する我々の生活がどのように関係しているかを考えていく。講義では、単に知識としてアジア社会を知るのではなく、アジア社会をとおして日本社会を見つめ直し、自らに関わる問いとして考える姿勢を重視するため、グループでの発表や討議を実施する予定である。 | |
| 到達目標 | (1) アジア社会にかんする基礎的な知識を身につけるとともに、アジアにおける社会変化と人びとの生活を、近代化ならびにグローバル化との関わりにおいて動態的に把握できる。<br>(2) 身のまわりの出来事の中から、アジアとのつながりを探り、その差異と共通性について考察し、自らの考えを説明できる。 | |
| 成績評価 | (1)講義中に行ってもらう発表やミニ・レポート 40%<br>(2)期末試験　60% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト・指定図書：なし<br>参考書：主な参考書は、藤巻正己・瀬川真平編（2009）『現代　東南アジア入門』古今書院。<br>その他は、授業の進行具合に応じて適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文化特論Ａ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 本授業では、「文言」と「白話」の違いを明確にしたうえで、現代中国語の源流に位置する「白話」が誕生した唐末.五代から、宋代、元代、明代、清代までの「白話」で書かれている代表的な文献（例えば『西遊記』『三国志演義』『水滸伝』など）を時代別に選んで解説すると同時に、原文の一部を読みます。 | |
| 到達目標 | （1）高校で学んだ「漢文」と現代中国語に繋がる「白話」との違いを理解する。<br>（2）唐末・五代から清代までの時代毎の代表的な「白話」文献についての知識を身につける。<br>（3）主に明代、清代の代表的な白話小説（『西遊記』『金瓶梅』など）を、辞書を傍らに置いて読み進められるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）（2）については、定期試験（60%：（1）30%（2）30%）、（3）については、課題レポート（40%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の３分の 1 以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜プリントを配布します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文化特論Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河　かおる | |
| 授業概要 | 朝鮮半島の近現代史を理解することを目的とする。前半（第 10 回まで）では近現代の通史を時系列に従って基本的な流れをつかむ。後半では、時代を貫くいくつかのテーマを切り口として、困難な近代の幕開け、植民地化、今も続く民族分断を経験した朝鮮半島の歴史への理解を深める。植民地化と民族分断を経験した近現代史の「困難さ」への想像力を鍛え、朝鮮の近現代史を密接な関連を持つ日本の近現代史を省察的にとらえ直すことを授業のねらいとする。 | |
| 到達目標 | 1.講義および配付資料の内容を理解し、小レポート毎に与えられた課題に適切に取り組める。<br>2.朝鮮の近現代史、特に日本とかかわる事柄に関して正確に理解し、基本的な説明ができる。<br>3.講義の内容を踏まえ、植民地化と民族分断を経験した朝鮮近現代史に関するテーマを自ら立て、そのテーマについて論理的に説明できる。 | |
| 成績評価 | 小レポート（講義内容や配付資料についての理解度と考察力を評価する）50%。<br>期末レポート（指定した課題に対応する内容になっているか、論理的に構成されているか、十分な読解や調査に基づいて書かれているか、論理的な分析がなされているか、レポートとしての形式的用件を満たしているか等を評価する）50%。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：授業中に適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文化特論Ｃ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Borjigin Burensain | |
| 授業概要 | 広大な農村を抱える中国社会は、古今を問わず農民によって動かされてきた。その原動力の裏にはどんな仕組みが存在するであろうか。本講義では、農耕と文明との関係など、基礎的な知識を簡単に回顧したうえで、主として中国の農耕社会とその影響を受けて形勢された周辺地域の農耕社会を比較しながらアジアの農耕社会の仕組みを見ていきたい。また現代中国の農村問題にも着目していきたい。 | |
| 到達目標 | 本講義では、世界最大規模の農耕社会を抱える中国の農村の社会構造を歴史的に整理したうえで、農耕大国中国の現状を理解できることを目指したい。 | |
| 成績評価 | 中間レポート 30%、質問票 10%、期末試験 60%（欠席数が１／３を超えた場合は評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書は適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文化論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 本授業は、中国近現代史、すなわち中国共産党史（主に建国以降）および日中関係史（日中国交正常化前と後）を鳥瞰し、尖閣諸島領有権問題、靖国参拝問題、歴史認識（教科書）問題、愛国（反日）教育問題、一国二制度（香港・マカオ）問題、台湾問題、少数民族（チベット・ウイグル）問題等の社会的・文化的背景を考察し、現代中国の理解に資することを目的とします。 | |
| 到達目標 | (1) 中国共産党に関する基礎的な知識を得ることができる。<br>(2) 日中国交正常化以後の日中関係に関する基礎的な知識を得ることができる。<br>(3) 上記 (1) (2) を学ぶことによって現在の日中関係への関心を高め、その理解を深めることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す (1) (2) については、定期試験（80%：(1) 40% (2) 40%）、(3) についてはレポート（20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを適宜配布します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文化論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河　かおる | |
| 授業概要 | この授業では、隣国「朝鮮」（現在朝鮮半島にある二つの国家およびそれ以前も含む）について、次のような手順で理解を深め、考察していきます。前半は、「国の名前」「人」「言葉」等についての歴史や現状について確認しつつ、呼称の問題について考えて行きます。前半の締めくくりとしてレポート課題を出します。後半は、韓国・朝鮮に関するトピックを３つとりあげて講義した後、受講生の皆さん自身が見つけたトピックについてグループで調べ、最終的にプレゼンテーションをします。 | |
| 到達目標 | (1)朝鮮にまつわる呼称の問題（差別的呼称を含む）について、その歴史的背景を理解し、論理的に説明できる。<br>(2)韓国・朝鮮に関するいくつかのトピックについて理解を深める。<br>(3)韓国・朝鮮に関するトピックについてグループで調査を深め、プレゼンテーションできる。 | |
| 成績評価 | ・小レポート　30 点（1 回 10 点を累積し 30 点に圧縮）<br>・レポート　30 点（100 点満点を 30 点に圧縮）<br>・プレゼンテーション　30 点（100 点満点を 30 点に圧縮）<br>・振り返りレポート　10 点 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。<br>参考書：講義中に適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文化論Ｃ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 島村　一平 | |
| 授業概要 | 本講義では，現代モンゴルに焦点をあてて、さまざまな側面からモンゴル遊牧文化の魅力や現代モンゴル社会が持つ問題点などを描き出していきたい. 扱う主なテーマは遊牧文化、宗教，民族問題などである。まずは、日本の農村型社会とは全く性質を異にする「遊牧」という生業について概観する。そして遊牧社会の現在の姿をみていく。<br>音楽に関しては、民族音楽のみならず，現代の都市の若者たちの間で流行しているポピュラー音楽から，現代モンゴル社会のもつ諸問題を概観していきたい。<br>民族問題に関しては，ロシア，モンゴル．中国の三カ国に分断されて居住するモンゴル系の集団ブリヤート人の歴史と社会に焦点を当てて話を進めていきたい．中でも，シャーマニズムとエスニシティの関係を中心に論じていく. | |
| 到達目標 | 受講生は、遊牧社会に関する基礎的な理解がみにつくと同時にと現代モンゴル社会が抱える諸問題に対して、世界情勢と関連付けながら、批判的に検討する能力が身に付く。 | |
| 成績評価 | 論述試験による | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：レジュメを配布する。<br>指定図書：モーリス・ロッサビ著『現代モンゴル―迷走するグローバリゼーション』明石書店。島村一平著『増殖するシャーマン―モンゴル・ブリヤートのシャーマニズムとエスニシティ』春風社。他は追加情報を参照 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文化論Ｄ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 棚瀬　慈郎 | |
| 授業概要 | インド仏教は、７世紀以降にヒマラヤを越えてチベットの地にもたらされた。本講義では、インド仏教について概観した上で、そのチベットにおける展開と社会的な影響について検討する。 | |
| 到達目標 | 仏教の基本的な考え方と、その歴史的展開についての知識の習得。また内陸アジアにおいて仏教が果たしてきた役割について理解を深める。 | |
| 成績評価 | 試験による（１００％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文献講読Ａ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫 | |
| 授業概要 | 東アジアの考古学の成果を吸収することは、日本考古学研究を進めていく上で必須になりつつあるといっても過言ではない。特に、朝鮮半島なかんずく韓国の考古学調査研究の成果を取り入れていく必要性は非常に高いと言える。<br>韓国語で刊行された報告書・書籍および考古学関係雑誌掲載論文の中から重要と思われる文献を選び、講読し日本語訳文を作成していく。 | |
| 到達目標 | 1.辞書を使用して韓国語で書かれた考古学の文献を訳すことができるようになる。<br>2.考古学の文献の日本語訳文を作成して、翻訳した韓国考古学文献の内容を理解する。<br>3.日本考古学と韓国考古学との比較検討ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 翻訳レポート 60%、講読理解度 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講読文献テキスト：プリント資料を配布する<br>参考書：授業中に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | アジア文献講読Ｂ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　俊明 | |
| 授業概要 | 「漢文講読」を履修し、さらに上級をめざすための漢文訓読実習。 | |
| 到達目標 | 歴史研究の史料として漢文史料を使うことができるように習熟する。 | |
| 成績評価 | 個別にあたったときのでき、準備度・理解度。時に小テスト。期末試験。それらを総合して評価。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト（内容は受講生と相談する）はプリント配布。参考書は適宜、指示する。 | |
| 履修資格 | 「漢文講読」を履修していること。 | |

| 科目名 | アジア文献講読Ｃ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横田　祥子 | |
| 授業概要 | 中国語の新聞・雑誌・論文などの読解を通じて、中国語の高度な表現を学ぶとともに、現代中国事情を理解する。また、ピンイン・発音など基礎能力の確認と、基礎表現の定着をはかる。 | |
| 到達目標 | 中国語メディアを日常的に利用できる語学力を身につける。 | |
| 成績評価 | 成績評価は、小テスト（40%）、期末試験（30%）、課題レポート（30%）に基づく。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業時に配布する。<br>参考書：適宜、紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 一般構造 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐々木　一泰 | |
| 授業概要 | 建築物を成立させている部位の構成や仕組みがどのようなものかを理解し、建築を学ぶ上で知っておきたい基礎的な建築技術の概要や構造、架構の知識を身につける。 | |
| 到達目標 | 建築技術、構造の全体像を把握する。建築設計に携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。 | |
| 成績評価 | 小テスト・宿題 50%、期末筆記試験 50%、建築技術用語の修得と各講義の理解度を評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「図説やさしい建築一般構造」今村仁美・田中美都　著　学芸出版社<br>参考書：授業内に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 異文化交流史 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Borjigin Burensain | |
| 授業概要 | この講義では、アジアにおける人と物の交流がどのようなパターンで行われてきたのかを中国とモンゴル、中国と満洲との関係から立体的に捉えていきたい。常に現代に着目して、歴史と今日との間に行き来することによって多角的な地域像を描き出したい。 | |
| 到達目標 | 万里の長城と柳条辺墻を挟んだ中国大陸における人と物の交流を歴史的視点から理解できることを目指す。当地域の現状に関してもある程度の視点を持てるようにしたい。 | |
| 成績評価 | 中間レポート 30%、質問票 10%、期末試験 60%（欠席数が１／３を超えた場合は評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： 参考書は適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 移民社会論Ａ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 窪田　暁※ | |
| 授業概要 | 現代世界の特徴のひとつに移民の増加があげられる。この授業ではまず、移民の発生要因を世界経済の構造、移民の社会ネットワーク、移民個人という三つのレベルから捉えることを目標とする。次に、アメリカのドミニカ系移民や日本国内の移民社会を事例に、移民の日常生活ならびにホスト社会や故郷の人びとの価値観にあたえる影響について検討する。こうした作業を通して、世界中で進行するグローバル化がもたらす問題を発見し、自分たちが生きている社会や文化について理解を深めることをめざす。 | |
| 到達目標 | (1) グローバル化の影響で増加する移民の発生要因についての基本的な知識を獲得する。<br>(2) 移民の日常的な実践について学び、ホスト社会や故郷の人びとに与える影響について考える能力を身につける。<br>(3) 文化的背景の異なる移民について学ぶことで、自分たちが生きている社会や文化の価値観を相対化して眺める視点を獲得する。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示した（1）グローバル化の影響で増加する移民の発生要因についての基本的な知識を獲得する。(2) 移民の日常的な実践について学び、ホスト社会や故郷の人びとに与える影響について考える能力を身につける。については、毎回の授業時に提出してもらうコメントペーパー（40%：(1) 25%, (2) 15%）で評価する。(3) については、すべての授業内容の理解度と関係するために、定期試験（60%）で評価し、合計が 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特に定めない。必要に応じて授業中にプリントを配布する。<br>参考書：S. カースルズ& M.J.ミラー『国際移民の時代（第 4 版)』名古屋大学出版会、2011 年。Y.ウーン『生寡婦－広東からカナダへ、家族の絆を求めて』風響社、2003 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 移民社会論Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 石川　真作※ | |
| 授業概要 | 現在、世界で 2 億人近い人々が国境を超えて移動する「移民」となっている。グローバル化の進行により、世界人口の流動化はさらに加速すると考えられる。それにともない、一定の「地域」といわゆる「民族」、そしてその「文化」を結びつける考え方を基礎とした国民国家の制度的枠組みでは、これからの世界のあり方を捉えきれなくなってきた。本講義では、移民の発生メカニズムや社会文化的状況などについて、日本やヨーロッパの事例から多角的に考察する。 | |
| 到達目標 | 移民という現象を通して、グローバル化する世界の変動要因を理解し、国民国家システムの流動化や多様性を織り込んだ新しい社会のあり方について主体的に考察する視点を養う。 | |
| 成績評価 | 定期試験 50％　平常点 50％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書<br>石川真作　渋谷努　山本須美子　編『周縁から照射する EU 社会―移民・マイノリティとシティズンシップの人類学―』世界思想社　2012<br>石川真作　『ドイツ在住トルコ系移民の文化と地域社会―社会的統合に関する文化人類学的研究―』立教大学出版会　2012 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 移民社会論Ｃ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Borjigin Burensain ・ 河　かおる ・ 根川　幸男※ | |
| 授業概要 | 日本人の海外移民の歴史について学ぶ。日本の近代史は、移民活動をぬきにしては語れない。本学が位置する滋賀県も多くの移民を送り出した。日本人の移住先は、ハワイ、アメリカ本土やカナダをはじめ、メキシコ、ブラジルなどの中南米、朝鮮、満州、中国本土、ロシア極東、樺太、南洋群島、東南アジア、オセアニアとひろい範囲におよんでいる。日本人が、いつ、どこへ移住し、どんな仕事についたか、移住先の地域の性格にどのような違いがあったかなどの概要とともに、特に朝鮮、満州、中南米、北米への移民を中心に学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)日本人の海外移民の歴史について概要を理解する。<br>(2)特に朝鮮、満州、中南米、北米への移民について、その特徴を理解する。 | |
| 成績評価 | 各回に出される課題レポート 60%<br>期末プレゼンテーション＆レポート 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。<br>参考書　：岡部牧夫,2002,『海を渡った日本人』（日本史リブレット）山川出版社（840 円） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イングリッシュレクチャーＡ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Hawkes Martin | |
| 授業概要 | On this course we will explore the important question of how second languages are learned. We looking at some of the differences between learning a first and second language. Next, we will explore the history of second language teaching and the factors which makes a good language learner. After that, we will look at the ‘systems' and ‘skills’ that are needed to master a second language. Finally, we will conclude the course by looking at some modern approaches to learning languages. The knowledge gained on this course should help students understand what it is required to become a good language learner. In addition to the content of the course, we will also focus on relevant target vocabulary and note-taking skills for lectures. | |
| 到達目標 | The goal of this course is both to learn about how second languages are acquired and for students to apply this knowledge to their own language learning. Also, this course aims to practice and develop vital note-taking skills for lecture courses. | |
| 成績評価 | Participation: 30%<br>Vocabulary quizzes: 20%<br>Final exam: 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イングリッシュレクチャーB | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | On this course we will explore the past, present and future of the English language. We will look at the story of English from its beginnings in a small island in Europe, its development over the centuries, and the reasons and consequences of it becoming the global language it has. We will also focus on relevant target vocabulary and note-taking skills for lectures. | |
| 到達目標 | The goal of this course is to learn about the story of the English language over the past 1500 years, build vocabulary for academic purposes, and to practice and develop vital note-taking skills for lecture courses. | |
| 成績評価 | Participation: 30%<br>Vocabulary quizzes: 20%<br>Final exam: 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イングリッシュレクチャーC | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛 | |
| 授業概要 | This series of lectures aims to overview some basic notions of Cognitive Linguistics and to provide opportunities to realize that linguistic meaning is identified with conceptualization.<br>Each lecture is designed to demonstrate a semantic contrast between seemingly paraphrasable expressions, with a special reference to both English and Japanese. | |
| 到達目標 | (1) To appreciate and enjoy intellectual thinking<br>(2) To foster objective observation as well as subjective insight | |
| 成績評価 | Class participation and contribution:20% ((1)10%; (2)10%)<br>Tests and reports:30% ((2)30%)<br>Final report:50% ((2)50% ) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Material will be handed out in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イングリッシュレクチャーD | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | This course introduces and overviews the field of the environmental humanities, a field which explores interactions between nonhuman lives and human language. Students read and consider examples of English and Japanese (in English translation) creative writing which incorporate natural plants, animals, and environments. Simultaneously, students read and discuss ecocritical essays which describe the interplay between human culture and nonhuman nature more broadly. Finally, students engage in environmental research and writing of their own. One goal of the course is to become cross-culturally familiar with the tradition and contemporary state of the environmental humanities. Another important objective is to strengthen the sense for how humans might best practically live in the context of the ongoing and deepening environmental crisis. | |
| 到達目標 | (1) Students will gain knowledge and understanding of fundamental concepts in the field of the environmental humanities and will acquire experience considering and developing individual positions on important related issues.<br>(2) Students will further consider their implication in contemporary environmental problems and strengthen their skills in experimenting with approaches to living more sustainably.<br>(3) Students will engage in sustained interaction with nonhuman lives and natural environments and enhance their ability to reflect deeply and creatively on the nature of enabling relations between humans and nonhuman others through their experiences.<br>(4)Students will further strengthen their receptive and productive academic English skills. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goals (1) 35% of the overall evaluation, (2) 25% of the overall evaluation, and (3) and (4) 40% of the overall evaluation. Achievement of goal (1) is measured by quality and quantity of co | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Handouts of course readings are distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イングリッシュレクチャーＥ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Balachandran Jeyadevan | |
| 授業概要 | In this course, we discuss the contemporary global issues and try to understand them from the perspective of social and natural sciences. And also, we discuss sustainable development and look for solutions through material resource management using eco-design and recycling processes. | |
| 到達目標 | To make the students understand the contemporary global environmental issues from the perspective of social and natural sciences. And also, to think about the roots that led to the present status and look for solutions through the creation of meaningful material culture. | |
| 成績評価 | The students will be requested to submit short reports on the topics discussed each week. The evaluation of these reports will account for 40% of the grade. The regular exam held at the end of the semester will account for 60% of the grade. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Books of Reference: Cradle to cradle: remaking the way we make things/William McDonough and Michael Braungart, North Point Press, New York (2002)<br>Sustainable by Design: explorations in theory and practise/Stuart Walker, Earthscan, United Kingdom (2006) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | イングリッシュレクチャーＦ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 井手　慎司 | |
| 授業概要 | This course is an introduction to the environmental issues of the Lake Biwa basin and those of East Asia. In order to understand the mechanisms and propose solutions for ongoing environmental problems, there will be multilateral lectures conducted from the perspectives of the fields of geo-chemistry, physical-geography, social-economics, and water-system engineering. | |
| 到達目標 | (1) The students can explain the past and present environmental problems in the Lake Biwa basin and East Asia. | |
| 成績評価 | Assignments (Reports) (50%), Quizzes(50%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | No textbook, Handouts | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | インテリア計画論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮本　雅子 | |
| 授業概要 | ここでは主に住居の内部空間の設計に必要な知識を習得することを目的とする。まず、インテリア計画のプロセスを説明した上で、住宅の構造、構法および住宅のインテリア構成要素について解説する。その上で、各室における機能とインテリア計画上の要点についてグループワークを交えながら講義する。 | |
| 到達目標 | (1)住居のインテリアを構成している要素を理解し、説明できる。<br>(2)平面計画から住生活を読み解く力をつける。<br>(3)実際のインテリア空間を観察、評価できる。 | |
| 成績評価 | レポート 30%、期末試験 50%、レスポンスペーパー20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：「インテリアの計画と設計」彰国社、講義の中で適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | インテリアコーディネート概説 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 生活に関わるデザイン現場において、インテリアコーディネートに対する基礎知識は今や必須の要件と言えよう。ここでは特に、店舗や住宅におけるインテリアコーディネートの実践について、実社会やデザイン現場で必要不可欠、且つ、有用な知識を習得する。尚、本演習を履修した上での知識は、公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」にも応用可能な知識と成り得る。 | |
| 到達目標 | （1）インテリアコーディネートの基礎知識を習得し、実社会において応用する事ができる。<br>（2）公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」の合格に必要な知識を習得する。 | |
| 成績評価 | (1)(2)の内容を包含した小テスト３回により評価。<br>成績への寄与率は小テストの合計を 100%とし、60%以上を合格とする。<br>尚、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業内で適宜紹介する。<br>参考書：HIPS 合格対策プロジェクト（編）『インテリアコーディネーター資格試験年度別過去問題集』ハウジングエージェンシー | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 運動と健康 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | スポーツや身体活動が健康に及ぼす影響を科学的に理解する。スポーツをはじめ身体活動が健康とどういう点でかかわりがあるかを科学的に説明する。さらにスポーツなどの身体活動は健康のための万能薬ではなく，健康を増進できる面と場合によっては障害になる面があり，このことについて考察する。そのため，一過性の運動によっておこる一時的変化や習慣的な運動によっておこる適応現象のメカニズムを明らかにするとともに，運動の必要性や運動と健康の関係について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)運動の必要性や運動と健康の関係について理解する。<br>(2)運動と種々の生体応答との関連を理解する。<br>(3)一過性の運動によっておこる一時的変化や習慣的な運動によっておこる適応現象のメカニズムを理解する。<br>(4)運動処方の進め方や内容を理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(4)に関して，試験の成績(80%)と毎時間の課題レポート(20%)により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：朝山正己他著『イラスト運動生理学』（東京教学社）指定図書：中井誠一他著『高温環境とスポーツ・運動』（篠原出版新社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語音声学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | １　発音記号（国際音標文字、IPA）に習熟します。<br>２　英語発音のポイント（語の強勢、単語間の音のつながり、消える音、イントネーションと文の強勢など）を実習します。リスニングやイントネーション形成に役立ちます。<br>３　カタカナ発音から脱し、英語発音に自信がもてるようになります。毎回、最初 10～20 分で国際音標文字（IPA）を紹介する。次に、英語音声学の用語を解説し、発音に関する様々な練習問題をこなす。MD/CD を使っての発音・リスニングの練習が中心となる。 | |
| 到達目標 | (1) 基礎的な発音記号（国際音標文字、IPA）を音読できるようになる（単語のレベルで）。<br>(2) 英語発音の特徴（語強勢・単語間のつながり・消える音など）を理解できる。<br>(3) カタカナ化した日本語の正しい英語発音（食べ物など）、メートル法単位や数字の読み方、日付の読み方、短文の強勢・イントネーションを身につけることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)基礎的な・・・　(2)英語発音の・・・ (3)カタカナ化した・・・については、到達確認のための音読実技（100% : (1)30%, (2)20%, (3)50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。ただし、全授業回数の 1/3 以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | （テキスト）Sarah Cunningham & Bill Bowler. New Headway Pronunciation Course: Intermediate. Oxford U.P., 1999.（参考書１）M. Hancock. English Pronunciation in Use. Cambridge U.P., 2003. （参考書２） 杉森/弓庭/大塚 ed. Sounds of English for Communication. 金星堂, 2005. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語会話（中級） a | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | In this course, students develop their speaking and listening skills through acquiring significant experience in communication. Students share their thoughts, feelings, experiences, and opinions on a sequence of topic which are familiar and relevant to everyday life. Students engage in conversations, small group discussions, and presentations, working to strengthen their comprehension of the viewpoints of others and to express their own viewpoints in the most fulfilling way. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th,l and si sounds),(2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4)grammatically correct. | |
| 成績評価 | Objectives:(1) Good pronunciation,(2) fluency,(3) delivery, and (4) grammar.<br>Grading: Skit Performance 50%. (Objectives 1,2,3,4 each 25%).<br>Students in pairs or small groups will perform one of the scripts studied earlier in class.<br>Interview with Teacher 50% (Objectives 1,2,3,4 each 25%). Students meet with the teacher individually to present a report on a topic of their own choosing, followed by a discussion with the teacher | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Class handouts. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語会話（中級） b | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | Students develop their speaking and listening skills through acquiring significant experience in communication. Students share their thoughts, feelings, experiences, and opinions on a sequence of topic which are familiar and relevant to everyday life. Students engage in conversations, small group discussions, and presentations, working to strengthen their comprehension of the viewpoints of others and to express their own viewpoints in the most fulfilling way. | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th,l and si sounds),(2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4)grammatically correct. | |
| 成績評価 | Objectives:(1) Good pronunciation,(2) fluency,(3) delivery, and (4) grammar.<br>Grading: Skit Performance 50%. (Objectives 1,2,3,4 each 25%).<br>Students in pairs or small groups will perform one of the scripts studied earlier in class.<br>Interview with Teacher 50% (Objectives 1,2,3,4 each 25%). Students meet with the teacher individually to present a report on a topic of their own choosing, followed by a discussion with the teacher. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Class handouts. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛 | |
| 授業概要 | 英語史を概観した後，英語学の下位領域のうち，形態論，統語論，意味論，語用論の４領域を中心に基礎的な知識を身につける。 | |
| 到達目標 | 英語表現の構造理解に必要な基本的な知識を身につけ，英文を客観的に考察する力を身につけることを目指す。これに加え，英語で書かれた教科書を使用することで，論理的議論の展開を理解できる英文読解力も併せて養うことを目指す。具体的な授業到達目標は以下に示す通りである。具体的な授業到達目標は以下に示す通りである。<br>(1)形態論，統語論，意味論，語用論の 4 領域の区別とそれぞれの領域の基本的知識を理解する。(2)構成素と言語の階層性を踏まえ構造的多義性の生じるメカニズムを理解する。(3)概念的意味と連想的意味の区別を理解し，分析的にことばの意味理解ができる。(4)メタファーおよびメトニミーという概念を踏まえて多義性および意味のネットワークを理解する。(5)間接発話行為および会話の協調原則などを踏まえた意味理解ができる。(6)英文による論理的議論が理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)-(6)については，以下のように評価し，100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。予習ノート・課題提出(40%: (1)5%, (2),5%, (3)5%, (4)5%, (5)5%, (6)15%)<br>定期試験(60%: (1)10%, (2),15%, (3)10%, (4)15%, (5),10%)<br>※ただし，4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 影山太郎ほか（編）2011.『First Steps in English Linguistics 2nd Edition 英語言語学の第一歩』.くろしお出版. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語表現法 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | 日本語の単語と英単語を一対一で対応させながら日本語を英語に置き換えるのではなく、自分があるいは他者が言おうとする意味・内容をしっかり理解した上で、それを原文の単純な逐語訳ではない、自然な英語にする訓練を行う。以上のことを踏まえ、毎回の授業では、英語で作文を行い、表現を磨き、英文を構造でとらえ、その論理的展開をつかむ練習も行う。作成した英文は授業中に発表してもらい、それについて他の学生と質疑応答をする練習も行う。 | |
| 到達目標 | (1)日本語と英語の特徴の違いを認識した上で、英語らしい自然な表現を身につける。<br>(2)上記の表現力をもとに、英語として説得力のあるパラグラフが書けるようになる。<br>(3)(1)(2)の表現力を用いて、自分の意見を英語で発表する。 | |
| 成績評価 | 学生に対する評価：授業への積極的な参加(30％)・各回の英作文提出(50％)とエッセイ提出(20％)<br><br>4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 石谷由美子『トピック別エッセイの書き方』(南雲堂, 2010) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語文献講読Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 棚瀬　慈郎 | |
| 授業概要 | 文化人類学で用いられる基本的タームに習熟し、また主要な理論についての知識を獲得するために、テキストを輪読する。授業の各回ごとに学生が発表をし、それに関して全員で議論をする。 | |
| 到達目標 | 文化人類学に基本的なタームの意味、用法を理解し、理論についての全般的な知識の獲得を目指す。 | |
| 成績評価 | 授業時間数の３分の１以上を欠席した者は評価対象としない。テキストの精読、発表(毎回)を授業参加の必須の条件とする。精読、発表状況によって評価する（１００％)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストとして Kate Fox 著の“Watching the English”(2005 Hodder & Stoughton)を用いる。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英語文献講読Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 棚瀬　慈郎 | |
| 授業概要 | 文化人類学で用いられる基本的タームに習熟し、また主要な理論についての知識を獲得するために、テキストを輪読する。授業の各回ごとに学生が発表をし、それに関して全員で議論をする。 | |
| 到達目標 | 民族誌の書き方、視点、用いられている理論についての理解を深め、学生本人が自らフィールドワークをおこなうためのモデルを獲得する。 | |
| 成績評価 | 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象としない。テキストについての発表（毎回）と、討議への積極的な参加を必須とする。発表と討議への参加の状況によって評価する。（１００％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストとして Kate Fox 著の“Watching the English”(2005 Hodder & Stoughton)を用いる。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英書講読（地域文化） | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 濱崎　一志 ・ 武田　俊輔 ・ 塚本　礼仁 ・ 市川　秀之 ・ 北村　由美※ | |
| 授業概要 | 地域文化学科の教員が専門とする分野に関する英書の講読を行うことを通じて、各分野の文献の読解力を高める。毎回、受講生を指名し、テキストの内容について発表してもらうため、必ず予習をしてくること。 | |
| 到達目標 | (1)地域文化学科の専門分野について、平易な英語文献を読解できる。 | |
| 成績評価 | (1)地域文化学科の専門分野について、平易な英語文献を読解できるについては、授業中の発表(30%)、定期試験（前期 1 回・後期 1 回各 35%、合計 70%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各教員より配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英米文学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | 英米の主要な文学を通時的(時には共時的に)通覧し、英米文学の大きな伝統を把握する。今日のグローバルな言語である英語と英語社会の背後にあるアングロ・アメリカンの思想的・文化的源流を辿り、その歴史的変化を学ぶ。また、英米の言語・文化の共通点だけでなく相違点についても考察する。毎回の授業では、英米の代表的な文学作品を取り上げ、時代背景の中で作家・作品を位置づけ、理解を深める。授業は原典からの抜粋を用いて進めるが、受講生は翻訳でもかまわないので取り上げる作品は読んでおくこと。 | |
| 到達目標 | 英米の主要な文学を通時的(時には共時的に)通覧し、英米文学の大きな伝統を把握する。今日のグローバルな言語である英語と英語社会の背後にあるアングロ・アメリカンの思想的・文化的源流を辿り、その歴史的変化を学ぶ。また、英米の言語・文化の共通点だけでなく相違点についても考察する。 | |
| 成績評価 | 毎回の授業での積極的な参加（リスポンス・ペーパーを含む）(40%)とレポート(40%)・授業ノート提出（20%）。4 回以上遅刻・欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布<br>参考図書:『はじめて学ぶイギリス文学史』、『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房)、『世界でいちばん面白い英米文学講義』草思社 (2006/9/23) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 英米文学講読 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | 20 世紀イギリス小説の先駆者といわれる J.コンラッド（1857-1924）の短篇‘Amy Foster’を読む。この作品は、異文化社会に生きる者の「孤独」と「言語コミュニケーションの断絶」というテーマを象徴的に描いている。物語の語りの構造についても考察し、英語で物語を読む醍醐味を味わいながら、作品を分析的・批評的に鑑賞する能力を養う。授業では ‘Chapter Report’ を軸にして進め、作品の「要約」「小見出し」「登場人物」「観賞・批評」といった項目の発表を求める。 | |
| 到達目標 | (1) 物語の「語りの構造」を理解し、語りの視点について説明できる。<br>(2) 登場人物の性格について自らの考えを述べることができる。<br>(3) テーマについて考え、作品を分析的・批評的に鑑賞することができる。<br>(4) 作品中の英文構造などを調べ、説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)物語の・・・　(2)登場人物の・・・ (3)テーマに・・・(4)作品中の・・・については、毎回のミニ・レポートで（100% : (1)20%, (2)20%, (3)30%, (4)30%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。ただし、全授業回数の 1/3 以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | （テキスト）J. Conrad: 'Amy Foster'. 最初の授業で配布する。（参考書）1. 今西編注 'Amy Foster'（英宝社、1954）2. C. フレッチャー著、外狩訳『図説ジョウゼフ・コンラッド』（大英図書館、ミュージアム図書、2002）3. 中野好夫編『コンラッド』（研究社、1966） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養疫学論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 今井　絵里 | |
| 授業概要 | 地域・集団の公衆栄養プログラム実施のためには、地域や集団の健康や栄養の実態を正しく収集し、それをデータ解析し、問題点を明らかにすることが重要である。そこでプラン作りのなる基礎となるアセスメントとしての栄養状態、健康状態の実態把握の方法としての栄養疫学の役割、栄養疫学調査の方法、食事摂取量の測定方法、評価方法を学ぶ。また、疫学調査等による実態把握による公衆栄養アセスメント、目標設定、プログラムの計画、実施、評価方法を学ぶ。また地域特性に対応したプログラム、食環境づくりのプログラム、特性別プログラムの展開について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)疫学調査での暴露情報としての食事摂取量が意味するものを説明できる。<br>(2)食事摂取量の測定方法の種類とその長所や短所を理解し、説明できる。<br>(3)食事摂取基準を地域集団へ活用し、実態を把握できる。<br>(4)既存の資料を目的に沿って活用ができる。<br>(5)アセスメントの結果から課題や問題点を抽出できる。<br>(6)課題に基づく改善目標を選べる。<br>(7)計画策定における運営面と政策面のアセスメントができる。<br>(8)住民参加型の計画策定ができる。<br>(9)ライフステージ別あるいは生活習慣病ハイリスク群のプログラムが展開できる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養教育論Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣瀬　潤子 | |
| 授業概要 | 栄養教育の歴史的変遷より栄養教育の必要性と重要性を理解し、栄養教育の対象のニーズに応じた行動科学理論モデルを習得する。カウンセリング技法を理解し、栄養教育場面での利用へ結び付ける。 | |
| 到達目標 | （1）栄養教育の歴史的変遷と現状が説明できる。<br>（2）諸外国の栄養問題と栄養教育の状況を説明できる。<br>（3）行動科学理論・モデルを理解し、全体像を説明できる。<br>（4）カウンセリング技法について説明できる。<br>（5）理論を用いた教育場面を説明できる。 | |
| 成績評価 | ※授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象としない。<br>期末試験 85%とし、到達目標の（1）10%、（2）5%、（3）40%、（4）40%、（5）5%、小テストまたは授業態度（発言等）15%は各回１%ずつとする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書:中川・岩本編著：栄養教育と健康の科学（理工図書）<br>適宜、参考図書の紹介、プリントなどを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養教育論Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣瀬　潤子 | |
| 授業概要 | 栄養教育のマネジメントサイクルについて理解する。 栄養教育を行う上で必要なアセスメント方法について学修する。対象に合った栄養教育目標の設定方法について学修する。栄養教育の評価方法を学修する。栄養教育プログラムの作成と実施の実際を理解する。 | |
| 到達目標 | （1）栄養マネジメントの概要を修得する<br>（2）栄養アセスメント方法を理解する<br>（3）対象者に合った栄養教育目標の設定できる<br>（4）栄養教育の評価方法を説明できる<br>（5）対象者に合った栄養プログラムを作成できる<br>（6）実際にどのような場所でどのようなプログラムを実施しているかを把握する | |
| 成績評価 | ※授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象としない。<br>期末試験 85%（到達目標項目（1）10%、（2）20%、(3) 20%、（4）15%、（5）20%、（6）15%、（7）小テストまたは講義態度 15%は各回１%ずつで評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書:栄養教育論 田中敬子・前田佳予子編（朝倉書店）<br>適宜、参考図書の紹介、プリントなどを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養教育論Ⅲ(カウンセリング論演習を含む) | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣瀬　潤子 | |
| 授業概要 | 栄養教育にかかわる理論とモデルについて、具体的な活用事例とともにロールプレイングを実施し、理論を理解する。カウンセリングの意義と特性を理解し、カウンセリング技法を使った演習形式の実践を行う。<br>各ライフステージ・ライフスタイル別の栄養課題を理解し、課題解決方法を提案できる。 | |
| 到達目標 | （1）行動科学の理論とモデルの概要および具体的活用方法を実践できる。<br>（2）各ライフステージ別の特性および栄養課題を説明できる<br>（3）各ステージ別の栄養教育方法を提案できる。<br>（4）栄養教育関連組織の概要を説明できる。<br>（5）食環境づくりの現状と課題を説明できる。<br>（6）行動変容を目的としたカウンセリング技法を実践できる。 | |
| 成績評価 | ※授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象としない。<br>定期試験 80%は、到達目標項目（1）30%、（2）20%、（3）15%、（4）5%、（5）5%とし、到達目標（6）についてはロールプレイの参加状況 20%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：栄養教育論 田中敬子・前田佳予子編（朝倉書店）<br>参考書　：適宜、紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養教育論実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣瀬　潤子 | |
| 授業概要 | 栄養アセスメント論で学んだ対象者の行動変容を促し、対象者の学習を支援できることを目的とした栄養教育の基本的・専門的知識や技術を実際の栄養教育に、いかに活かしていくかをライフステージ、ライフスタイル別に、その特徴や顕在化しやすい栄養問題に応じた栄養教育の実際のあり方を学習する。個人や集団の栄養状態の評価判定でき、栄養プログラムが作成できる。 | |
| 到達目標 | （1）栄養教育に必要な知識と技術を説明できる。<br>（2）各ライフステージ・ライフスタイルの特徴にあった栄養教育が出来る。<br>（3）日本における栄養教育の実際を説明できる。 | |
| 成績評価 | 授業時間数の 5 分の 1 以上欠席した場合は評価の対象としない。<br>プレゼンテーション（４０%）、小テスト（３０%）、レポート（３０%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト<br>その他、適宜、参考図書を紹介、プリントなどを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養生化学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　克己 | |
| 授業概要 | 健康の維持・増進の基となる栄養素の化学と栄養素の代謝を理解する. | |
| 到達目標 | 生体成分の代謝地図をみたら，理解できる. | |
| 成績評価 | 到達目標に関して，試験と受講態度（ノートの記述，質問の内容と回数，質問に対する回答，など）(100%) で評価する. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：マッキー生化学: 分子から解き明かす生命（原書第 4 版翻訳），市川厚監修，福岡伸一監訳，化学同人指定図書：なし参考書：なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養生化学実験 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　克己 ・ 遠藤　弘史 ・ 森　紀之 | |
| 授業概要 | 栄養素の代謝を熟知し，代謝に介入することが管理栄養士業務である．代謝に関わる酵素の性質を実体験で感じてもらう． | |
| 到達目標 | 栄養素の代謝を熟知し，代謝に介入することができるかもと思うようになる． | |
| 成績評価 | 到達目標に関して，レポート 50%，実験準備 20%，実験遂行能力 30%で評価する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養生理学実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 矢野　仁康 ・ 遠藤　弘史 | |
| 授業概要 | ヒトの解剖生理の理解と共に疾患の病態生理を把握するために必要な知識を得た後、尿を用いた検査や生理学的な実習、ラットを用いた解剖、血液細胞の観察を行う。それにより臨床における様々な疾病異常の病理病態を理解する。 | |
| 到達目標 | ① 人体模型の観察やラットの解剖を通して、生体の構造について理解できる<br>② 循環･呼吸･血液に関する実験を通して、生体の構造と機能について理解できる<br>③ 顕微鏡による正常組織標本の観察により、生体の構造と機能について理解できる<br>④ 臨床医学の実践活動に重要な人体の構造と機能について、実験を通して理解できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、①、②、③は各々実習レポート３０％ずつで合計９０％、④は課題レポート１０％、合計１００点満点で採点を行い、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養と健康 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福渡　努 | |
| 授業概要 | 栄養生化学，栄養生理学，分子栄養学，食品機能科学，基礎栄養学，応用栄養学を踏まえ，栄養，食習慣，食行動と健康との関わりを総合的に捉える．食品中の栄養素が消化，吸収，代謝され，生理作用を発揮するために，様々な制御・調節機構が働いている．本講義では，分子レベル・細胞レベルで栄養素と生体が相互作用することによって情報伝達が始まり，恒常性を維持するためにその情報が臓器さらには生体全体における制御・調節機構に果たす役割を理解する． | |
| 到達目標 | (1) 栄養素の消化・吸収・代謝について分子・細胞レベルで説明できる<br>(2) 栄養素が関与する情報伝達機構について分子・細胞レベルで説明できる<br>(3) 栄養素の恒常性維持に関わる制御・調節機構について分子・細胞レベルで説明できる<br>(4) 科学的根拠に基づいて日本人の食事摂取基準を柔軟に活用することができる<br>(5) 健康維持に対する栄養学の貢献について自分の考えを説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)～(4) については，定期試験（65%），レスポンスシート（15%）で評価する．(5) については，課題レポート（20%）で評価する．<br>100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする．<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：金本龍平編「分子栄養学」（化学同人）<br>日本人の食事摂取基準 2015 年版（第一出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | エッセイ・ライティング | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | 授業の到達目標及びテーマ:　英語のエッセイの構成と、意見を述べるのにふさわしい構文を学び、自力で英語のエッセイを書けるようになることを目指す。本授業の目的は、自分の考えを英語的に構成し、表現する技法を基礎づけることである。授業の概要:　授業ではまず、教科書に収録されている文例を模範とし、短文を書く練習をする。次に、短文を積み重ねてパラグラフを構成し、ひとつのエッセイとしてまとまりのある構造を作る。その過程で、考えを的確に表現する語彙や構文を学習する。最後に、教科書に提示されているトピックから一つを選び、自分でエッセイを仕上げる。 | |
| 到達目標 | Students will be able to write (1)grammatically correct (2)complex sentences and paragraphs (with proficient use of a wide range of structures & stylistic devices) that are (3)spelled and punctuated correctly. | |
| 成績評価 | Objectives: (1) Correct grammar. (2) Complexity. (3) Accurate spelling.<br>Grading: 10 short essays (1 = 50%. 2 = 25%. 3 = 25%.). | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:POINT BY POINT : Writing Effective Opinion Essays『トピック別エッセイの書き方』. 石谷 由美子 (著). 南雲堂 (2010). ISBN 978-4-523-7652-7 ￥2000 参考書・参考資料等: ステキな英文フレーズ 1420. ブティック社 (2010) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化特論Ａ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | 欧米文化論 A が現代のドイツ文化を広く取り扱うのに対して、欧米文化特論 A はドイツ語の歴史的変遷をたどることでドイツ文化についての理解を深めることをねらいとしている。主としてドイツ語史、ドイツ文化史、ドイツ文学史、メディア学の観点からドイツの言語・文化・社会がどのように変化したかを概観し、技術の進歩や社会の変化が言語にどのような影響を与えてきたのかについて考える。また文化の担い手が交代してきたことや文化の中心地が移動したことがドイツ語の標準語の成立に果たした役割についても言及する。 | |
| 到達目標 | ドイツ語の歴史についての素養を身につける。また習得した知識に基づいて情報収集を行い、自分の考えをより正確にまとめる力を養う。具体的には以下のことを目標とする。（1）講義内容を正しく理解し整理することができる。（2）講義で扱ったテーマに関して、興味をもった事柄について詳しく調べた上で、その内容を口頭で説明することができる。また（3）その内容を文章にまとめることができる。 | |
| 成績評価 | ノートのコピーの提出（10%）、ミニ報告（20%）、レポート作成（70%）。ただし欠席や遅刻をした場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：ヴィルヘルム・シュミット著／西本美彦 他訳『総論ドイツ語の歴史』(朝日出版社)、西本美彦・河崎靖著『ドイツ語学を学ぶ人のための言語学講義』、河崎靖著『ドイツ語学への誘い』(現代書館)、小島公一郎著『ドイツ語史』(大学書林)、塩谷饒著『ドイツ語の諸相』(大学書林)、 手塚富雄／神品芳夫著『ドイツ文学案内』 (岩波文庫)、阿部謹也著『物語ドイツの歴史』(中公新書)　など（その他の文献は授業中に指示します） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化特論Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　周子 | |
| 授業概要 | 今年度は「ことばと食」をテーマに、近代フランスの美食文化について講義を行う。今日、フランスがその高度な食文化を誇る背景として、食を様々な角度から語る「ことば」の豊富さが不可欠の要素として挙げられる。授業では食をめぐる様々な言説の歴史をたどり、歴史的知識を学ぶとともに、食について考えるための視点を養う。また授業で提示された主題の中から、自らの関心に最も合うものを見出し、それに関して自ら調べ、考えることも求める。 | |
| 到達目標 | （1）フランス近代の美食文化の歴史について知識を得る。<br>（2）自らの関心の在処を知り、適切な資料調査を行ったうえで、それを論理的にまとめることができる。<br>（3）自らの関心事を、他人に説明し、その魅力を説得することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）（2）については期末レポート（７０%）、（3）についてはミニ発表（３０%）で評価する。１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。<br>※ミニ発表については、受講人数に応じて発表時間の設定は変動するが、およそ１０分～１５分を予定している。発表資料を作成し、授業時間中に発表をしてもらう。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。参考書：橋本周子『美食家の誕生』(名古屋大学出版会)；八木尚子『フランス料理と批評の歴史』(中央公論新社)；『フランス料理ハンドブック』(柴田書店) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化特論Ｃ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | この授業では、19 世紀的末以降の英国の小説の中で描かれる英国文化のさまざまな側面と特異性をヨーロッパ大陸の文化と比較しながら議論し、理解することを目指す。必要に応じて、映画化された英国小説もあわせて用い、映像を通して理解を深める。 | |
| 到達目標 | (1)19 世紀的末以降の英国の小説・映画の中で描かれる英国文化の（授業計画で挙げた）さまざまな側面についての議論を通して、「英国人気質」(Britishness)について理解する。(2)(1)で考察した英国文化の諸側面を、ヨーロッパ大陸の文化と比較しながら相対化しつつ理解を深める。(3)「英国人気質」(Britishness)考察を通して異文化理解、また自国文化の理解についてそれぞれ独自の考えを構築する。 | |
| 成績評価 | 授業への積極的な参加(50％)・課題エッセイ提出(50％)<br>4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化特論Ｄ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | This course surveys the history of the United States through exploring the historical experiences of four social groups: Native Americans, African Americans, laborers, and women. The course considers issues of ethnicity, race, class, and gender in American society. The course takes a cultural or people's history approach to the topic, focusing on the viewpoints of ordinary people whose experiences are not usually included in historical accounts. Students read a range of sources, including textbooks, literary works, and journalism. In class discussion, they consider, integrate, and interpret the range of perspectives, working to draw connections between historical phenomenon and contemporary events. Students write a research paper about a specific historical topic and social issue of their own choice. | |
| 到達目標 | The concrete goals for the course are the following: (1) Students broaden and deepen their knowledge and understanding of the history of the United States in general terms, and of the historical experiences of four groups of Americans (Native Americans, Aftican Americans, working class Americans, and women) in particular; (2) Students develop their ability to research, analyze, and interpret social and cultural issues for both historical significance and contemporary relevance, and to communicate their interpretations to others. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goal (1) 50% of the overall evaluation, and course goal (2) 50% of the overall evaluation. Achievement of goal (1) is measured by quality of weekly response papers on course readings and t opics of class discussion (50%). Achievement of goal (2) is measured by quality of content of a research paper (40%) and performance on a final presentation (10%). Performances in these areas are combined and converted to a 100-point scale; the passing line for the course is set at 60 points. Students are expected to attend every class meeting; in the case of an unavoidable absence, the instructor must be notified ahead of time, and the absent student must take responsibility for and exercise initiative in finding out about and completing any missed assignments and coursework. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | The textbook for the course is A Young People's History of the United States: Columbus to the War on Terror, by Howard Zinn, adapted by Rebecca Stefoff, Seven Stories Press (New York, 2009), ISBN-13: 978-1583228692.<br>Handouts of additional readings are di stributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | 歴史、社会問題、環境政策、芸術運動などをテーマに取り上げてヨーロッパの一員であるドイツをさまざまな角度から考察する。その際、ただドイツ文化の知識を得るばかりではなく、ものの見方を身につける練習をする。 | |
| 到達目標 | ドイツ語の文化圏について幅広い知識を身につける。文化をさまざまな視点から観察する力を身につけるとともに、授業で得た知識をもとに情報を収集し、自分の考えをまとめる力を養う。具体的には以下のことを目標とする。（１）講義内容を正しく理解し整理することができる。（２）講義で扱ったテーマに関して、興味をもった事柄について詳しく調べた上で、その内容を口頭で説明することができる。また（３）その内容を文章にまとめることができる。 | |
| 成績評価 | ノートのコピーの提出（10％）、ミニ報告（20％）、レポート（70％）。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：高橋憲『新ドイツの街角からードイツ文化事情ー』郁文堂 ISBN:978-4261012408<br>参考書　：適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　周子 | |
| 授業概要 | フランス文化について全体的な視野を養う。衣食住などのごく身近なものごとからはじめて、それをより広い歴史的・社会的視野において考えるための、基礎的な訓練を積む。ある文化を学ぶことの意義やその際の切り口、また異文化と自国の文化を比較する視点を得ることを目指す。授業では毎回、今後フランスについてより専門的に学ぼうとする人はもちろん、それ以外の文化を専門とする人にとっても有益であるような主題を多く提供する。 | |
| 到達目標 | （１）　フランス文化の代表的な側面に関して知識を得る。<br>（２）　自らの関心の在処を知り、適切な資料調査を行ったうえで、それを論理的にまとめることができる。<br>（３）　自らの関心事を、他人に説明し、その魅力を説得することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（１）（２）については期末レポート（５０％）、（２）についてはミニ発表（５０％）で評価する。１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。<br>※ミニ発表については、受講人数に応じて発表時間の設定は変動するが、およそ１０分～１５分を予定している。発表資料を作成し、授業時間中に発表をしてもらう。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 毎回プリント配布。<br>参考図書：都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る』（法政大学出版局）；朝比奈美知子・横山安由美（編著）『フランス文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）その他は授業中に示す。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化論Ｃ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | イギリスの文化的事象を多くのテーマに分けて概観する。受講生は、各テーマの基本概念を一通り把握するとともにその英語表現を学ぶ。また、日本の文化などと比較して興味の向く文化テーマを見つけ出すように努めること（各自のテーマを深める目的で読書レポートを求める）。 | |
| 到達目標 | (1)イギリスの文化的事象の基本概念を、英語表現を含め具体的に説明することができる。<br>(2)日本の文化などと比較し、自分が興味を抱く文化テーマと関係づけることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)イギリスの・・・(2)日本の文化など・・・ については、‘Unit Report’の発表および課題レポート（100%： (1)40%、(2)60%）で評価する。ただし、全授業回数の 1/3 以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | （テキスト）Vaughan-Rees & Cassidy. In Britain: 21st Century Edition. Macmillan LanguageHouse, 2006.　（参考書）1. 安東伸介他編『イギリスの生活と文化事典』（研究社、1982）　2. 小池滋編『イギリス』新潮社、1992.　3. John Oakland, British Civilization, Routledge, 1995. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化論Ｄ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 真田　満※ | |
| 授業概要 | アメリカ合衆国が独立する以前の植民地時代から現代までのアメリカ文化を概観する。その際、アメリカ文化を大きく６つの topic に分けて解説する。それぞれの topic における歴史の概説、言説分析を行ったあと、ヴィデオやスライドを用いて代表的な作品や事件を具体的に検討する。Review Session を導入し、本講義の復習と共に、これからのグローバル社会で必須となるプレゼンテーションの技術も磨く。 | |
| 到達目標 | 大学生として恥ずかしくない量のアメリカ史の教養を身につける。新聞、雑誌などでアメリカ関係の記事に接した際、その背後にある文化背景を理解できるようにする。 | |
| 成績評価 | Review Session の取り組み：40%　随時課す宿題：20%　エッセイ：40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは特に指定しない。講義中、随時、参照図書を紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 欧米文化論Ｅ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中嶋　直樹※ | |
| 授業概要 | 南米大陸で栄えた古代アンデス文明の概論、および現代に生きる先住民の文化について講義を行う。ヨーロッパ人の侵略により滅ぼされたアンデス文明だが、文明を支えていた個々の文化は、西欧文化と接触後、形を変えて現代まで生き続けている。<br>本講義を通して、人類の思考や生活様式の多様性、そして人間のもつ可能性について、理解を深めてもらいたい。同時に南米アンデス地域の複雑な歴史を学ぶことで、歴史に対する洞察力を養っていただきたい。 | |
| 到達目標 | (1)授業を通して、1492 年以前のアンデス地域の歴史に通じる。<br>(2)アンデス文明の特徴、独自性について理解を深める。<br>(3)現代を生きるアンデスの人々の暮らしに通じる。<br>(4)アンデス地域の歴史や文化とアンデス地域独自の生態学的環境との関係を理解する。<br>(5)アンデス地域の征服と植民地化そして統合という複雑な歴史について学ぶ。<br>これらを通して、人間と生態学的環境あるいは人類の文明と環境について考える力を得る。<br>また、歴史とは何かについて考える力、洞察力を得る。 | |
| 成績評価 | 全日程のうち 6 回以上欠席した場合は、特別な理由が無い限り、下記も含めて成績評価対象にしない。<br>レポート　　60%<br>授業中の質疑応答　40%　(こちらから質問し本講義の理解度を測ることもある)<br>100 点満点中、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『アンデスの考古学』関雄二 著 同成社<br>『ジャガイモとインカ帝国 文明を生んだ植物』山本紀夫 著 東京大学出版会『図説 インカ帝国』フランクリン･ピース/増田義郎　共著　小学館<br>『ラテンアメリカからの問いかけ』 西川長夫/原 毅彦 編　人文書院<br>『アンデス文化を学ぶ人のために』 友枝啓/染田秀藤 編　世界思想社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 近江商人論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宇佐美　英機※ | |
| 授業概要 | 日本の商業史研究において重要な位置を占める近江商人について、学術的な研究成果に基づいて最新の学説を講義する。　近年は企業の社会的責任(CSR)に関わらせて近江商人の先見性が高く評価され、あらためてその営為が再評価されている。しかし、それらの言説には史実に基づかない解釈を前提にしているものもみられ、斯学の研究史を踏まえていないものも多くなった。このような潮流を批判しながら文化史・地域史の観点から講義を進める。 | |
| 到達目標 | 第１には、商業(商人)の歴史を考えることはどのような意味があるのかを理解する。その上で、具体的な対象として近江商人、および近江商人系企業を取り上げ、近江商人とはどのような特徴をもった商人なのか、彼たちの営為が現代社会にどのような遺産として残されたのか、あるいは何が失われたのかを学術的に理解する。 | |
| 成績評価 | レポート３０％, 期末試験７０％を原則として評価する。ただし、レポート未提出者は評価対象としない。毎回出席の義務を課さないので、出欠調査は行わない。<br>定期試験では、基本的な学術用語を理解していること(５０％)、分かりやすい叙述になっていること(２０％)、レポートでは、展示で学んだこと(１０％)、どのような問題点を発見したのか(２０％)という点を評価します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：末永國紀『近江商人　三方よし経営に学ぶ』(ミネルヴァ書房)、宇佐美英機『初代伊藤忠兵衛を追慕するー在りし日の父、丸紅、そして主人』(清文堂出版)<br>参考書：小倉榮一郎『近江商人の理念』(サンライズ出版)、『近江日野の歴史』第７巻・日野商人編(日野町)。その他の文献は講義中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 応用栄養学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 今井　絵里 | |
| 授業概要 | 「基礎栄養学」を踏まえて、対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方の原理を知る。なお、本科目は「基礎栄養学」、「応用栄養学Ⅱ」と一体化して栄養学の概要を網羅するよう講義設定している。従って、一部の講義項目は「基礎栄養学」から続く。 | |
| 到達目標 | (1)対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方の原理を理解する。<br>(2)対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方を設定することができる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 応用栄養学Ⅱ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 今井　絵里 | |
| 授業概要 | 「基礎栄養学」を踏まえて、対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方の原理を知る。なお、本科目は「基礎栄養学」、「応用栄養学Ⅰ」と一体化して栄養学の概要を網羅するよう講義設定している。 | |
| 到達目標 | (1)対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方の原理を理解できる。<br>(2)対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方を設定することができる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 応用栄養学実習 | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 今井　絵里 | |
| 授業概要 | 生涯を心身ともに健康で過ごしていくためには、各ライフステージ・スタイルの特性に応じた栄養管理が必要である。そこで成長・発育・疾病予防・健康の維持増進・老化等における心身の変化に応じた栄養摂取量、味・食感などを実習をとおして理解し、栄養学各論で学んだ知識を実際の食事と関連させ、各ライフステージに応じた栄養マネジメントが出来る実践的な能力を身につけることをねらいとする。 | |
| 到達目標 | （1）各ライフステージにおける食事量・栄養摂取量がわかる。<br>（2）食事からライフステージの特徴・問題点を理解し、説明することができる。<br>（3）生涯にわたる栄養マネージメントができる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 海外留学 | 12 単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 留学は、実践的なコミュニ ケーション能力を習得し、国際感覚を身につけるという点において大きな教育的効果が期待できる。そのための事前学習の中では、留学に必要な行き先の言語の習得は勿論、それぞれの社会の持つ文化、習慣等の尊重など、異文化理解に関する基本的なルールを理解し、体得する必要がある。また留学後には、報告会開催やレポート提出などにより、学生それぞれが自の体験についての自己省察を深めてゆくための働きかけをする。 | |
| 到達目標 | (1) 留学先の大学で語学力を向上させる。<br>(2) 海外での生活を通して、実践的なコミュニケーション能力を身につける。<br>(3) 異文化理解に関する倫理的な要請を理解し、体得する。 | |
| 成績評価 | 当該留学先からの成績証明書、レポート等によって総合的に判断する。<br>評価は「認定」となる。<br>認定対象となる「留学」は、3 週間以上の留学・短期海外研修とする。<br>認定される単位数は留学期間等によって決まる（上限 12 単位）。<br>詳細な基準は別途示す。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | それぞれの留学先別に担当教員が示す。 | |
| 履修資格 | 各留学先別の留学着手要件を満たしていること。 | |

| 科目名 | 開発人類学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小河　久志※ | |
| 授業概要 | 本講義では、途上国に対する開発援助の実践を現地の人々の視点から論じていきます。そもそも途上国への開発援助はなぜ必要なのでしょうか。そしてそれにはどのような方法があるのだでしょうか。発展途上国などで行われている開発計画や開発援助計画に我々はどのように関わるべきでしょうか。この講義では、具体的な事例をもとに開発が現地の人びとに及ぼした影響に目を向け、「開発をする側」ではなく「開発をされる人びとの側」からの視点からの理解を深めることを目指します。なお、受講生の理解を深めるため適宜、テーマに関連する映像資料を使用します。 | |
| 到達目標 | (1)開発援助の手法と理論について知る。<br>(2)「開発をされる人びとの側」の視点から開発について理解を深める。<br>(3)開発人類学の特色について知る。 | |
| 成績評価 | 到達目標（3 つ）は、期末試験の結果（７０％）と授業への取り組み（３０％）により総合的に評価します。授業への取り組みは、毎回の授業時に提出してもらうコメントペーパーの内容で評価します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時に配布するプリント<br>指定図書：なし参考書：適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | カウンセリング論演習（人間関係） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松嶋　秀明 | |
| 授業概要 | クライエントの感情や行動を理解しながら、彼（女）らのかかえる生きづらさを理解し、生活の細部を想像し、支えるための知識・技法を学ぶ。そのためにカウンセリングや心理療法の理論や知識の習得、およびロールプレイ、事例研究などを通した実際的なカウンセリング技法の習得をはかる。 | |
| 到達目標 | クライエントが生きづらいとはどういうことなのか想像し、それを支えるとはどういうことか体験的に理解する。 | |
| 成績評価 | 授業での討論への参加(40%)、ロールプレイ(30%)、最終レポート(30%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特に指定しない。都度、レジュメを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環琵琶湖文化論実習（地域文化） | １単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 滋賀県の歴史、文化、生活を対象とする実習である。地域、テーマ別に班を編成し、事前学習、宿泊をともなう現地での実習、さらに報告書の作成を行う。 | |
| 到達目標 | フィールドワークを行うことによって、以下の目標を達成する。<br>(1)地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる。<br>(2)地域を調査するための手法を身につけることができる。<br>(3)報告書のまとめ方を身につけることができる。 | |
| 成績評価 | (1)地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる(35%)、(2)地域を調査するための手法を身につけることができる(35%)、(3)報告書のまとめ方を身につけることができる(30%)については、環琵琶湖文化論実習の報告書原稿（100%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各班担当教員の指示による。<br>参考書：『大学的滋賀ガイド』滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編、昭和堂、2011 年 | |
| 履修資格 | 人間文化学部地域文化学科の学生のみ。 | |

| 科目名 | 環琵琶湖文化論実習（生活デザイン） | １単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。各学科ごとに地域、テーマ別に班編成をし、事前学習、泊りがけでの実習、さらに実習後の報告書の作成をおこなう。 | |
| 到達目標 | (1)フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高める。<br>(2)調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する。 | |
| 成績評価 | 事前学習への貢献（10%）、実習への参加・貢献（80%）、事後学習への貢献（10%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各班担当の教員の指示による | |
| 履修資格 | 人間文化学部生活デザイン学科の学生のみを対象とする | |

| 科目名 | 環琵琶湖文化論実習（生活栄養） | １単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | 自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック（西川真理子著：化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 環琵琶湖文化論実習（人間関係） | １単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。各学科ごとに地域、テーマ別に班編成をし、事前学習、泊りがけでの実習、さらに実習後の報告書の作成をおこなう。 | |
| 到達目標 | ●文献調査、現地調査、聞き取り調査を体験し、文献収集とフィールドワークの基本を身につける。<br>●地域の歴史、文化、生活に対し、興味・関心を持つようになる。<br>●個人だけでなく、グループによる調査を行う能力を身につける。<br>●調査結果を発表し、報告書にまとめる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す「文献調査、現地調査、聞き取り調査を体験し、文献収集とフィールドワークの基本を身につける。地域の歴史、文化、生活に対し、興味・関心を持つようになる。個人だけでなく、グループによる調査を行う能力を身につける。調査結果を発表し、報告書にまとめる能力を身につける」について、発表および各教員によって指示された提出レポート、最終報告書を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中に適宜指定する。 | |
| 履修資格 | 人間文化学部の学生のみを対象とする。 | |

| 科目名 | 環琵琶湖文化論実習（国際） | １単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 滋賀県の歴史、文化、生活を対象とする実習。テーマごとに班編成をし、事前学習、現地でのフィールドワークをおこなう。最終プレゼンテーションでは、実習の成果を英語で発表する。 | |
| 到達目標 | (1)文献調査、現地調査、聞き取り調査を体験し、文献収集とフィールドワークの基本を身につける。<br>(2)地域の歴史、文化、生活に対し、興味・関心を持つようになる。<br>(3)個人だけでなく、グループによる調査を行う能力を身につける。<br>(4)調査結果を発表する能力を身につける。 | |
| 成績評価 | 実習（準備）への積極的な参加（50%）、最終プレゼンテーション（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各班担当教員が指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 漢文講読 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　俊明 | |
| 授業概要 | 白文の漢文史料を輪読する。何を読むかは相談するが、基礎的な、やさしいものを読む。昨年度は『資治通鑑』『捜神記』などを読んだ。各自にあてて、読み下しのスタイルで読み、現代語訳をつけてもらう。 | |
| 到達目標 | 簡単な漢文史料を読むことができるようにする。 | |
| 成績評価 | 個別にあたったときのでき、準備度・理解度。時に小テスト。期末試験。それらを総合して評価。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストはコピー配布。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 管理栄養士総合演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 生活栄養学科で履修する専門基礎分野と専門分野の各科目をトータルに捉え、生活栄養学科の教員の研究テーマにそって、課題に向けた研究計画や研究方法をアレンジする。そのことによって、人間健康学に関わる各科目を横断し、人の栄養および健康状態を評価し、管理していく上で必要とされる様々な知識や技術を習得する。 | |
| 到達目標 | 生活栄養学科の管理栄養士履修専門科目の総合的な理解を深める。 | |
| 成績評価 | 指導教員が初回の講義において説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基層文化論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　均 | |
| 授業概要 | 日本という国を形成する基層文化は縄文時代･弥生時代･古墳時代・飛鳥～奈良時代に求めることができる。その発展過程の中で、自然採集を基盤とした縄文時代から農耕社会となった弥生時代を経て、統一国家が出現する古墳時代、中国を範とした律令国家としての飛鳥～奈良時代にかけて、その変遷の画期をとらえながら、日本の国家形成の様子を考古学の資料を中心に、社会構造や文化について学ぶ。 | |
| 到達目標 | 考古学が明らかにした各時代の社会構造や文化を学び、日本を形成する基層文化について述べることができるようになる。<br>(1)時代を説明することができる。<br>(2)時代による文化の相違を区別することができる。<br>(3)時代による基層となる文化を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。<br>(4)時代を代表する遺跡を見に行き、その文化について批評することができる。 | |
| 成績評価 | 定期試験(60%：(1)20%、(2)20%、(3)20%)、(4)については、課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリント資料を配付する。参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎栄養学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　克己 | |
| 授業概要 | 人が健康に生きていくための、栄養素の役割、体内での変化など、栄養学における基礎と概要を学ぶ。 | |
| 到達目標 | 食べた物の体内運命を立て板に水のように話せること. | |
| 成績評価 | 到達目標に関して，試験と授業態度（ノートの記述，質問の回数，質問に対する回答など）（100%）で評価する. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：基礎栄養学　改訂第 4 版，奥恒行，柴田克己編集，南江堂日本人の食事摂取基準 2010 年版，第一出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎栄養学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　克己 | |
| 授業概要 | 基礎栄養学Ⅰでは食べた物の体内運命を講義した．これを引き継いで，２では，食べた物の体内運命の制御について講義する. | |
| 到達目標 | 代謝に介入できる力量を身につけたと感じることができる. | |
| 成績評価 | 到達目標に関して，試験と授業態度（ノートの記述，質問の回数，質問に対する回答など）（100%）で評価する. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：基礎栄養学　改訂第 4 版，奥恒行，柴田克己　編集，南江堂日本人の食事摂取基準 2010 年版，第一出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎栄養学実験 | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　克己 ・ 遠藤　弘史 ・ 森　紀之 | |
| 授業概要 | 栄養状態の異なる実験動物を用いて生体指標を実測し，比較することにより，糖代謝，脂質代謝，タンパク質代謝の変動とその変動の実際について理解する. | |
| 到達目標 | 実験を通じて基礎栄養学分野の理解に必要な思考力および実践力を身につける.<br>エネルギー代謝の要求の違いによって栄養素代謝がどのように変動するのかを理解する. | |
| 成績評価 | 実験準備 25%，実験遂行能力 25%，レポート 50%.<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：加藤秀夫ほか編「栄養生理学・生化学実験」（講談社サイエンティフィク） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎演習Ⅰ（国際コミュニケーション） | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | テーマ毎に区分されたゼミへ所属し、ゼミ担当の教員から指導を受ける。各ゼミの掲げるテーマに対する学習やフィールドワークをおこない、報告、発表する。<br>年度はじめの学科オリエンテーションにおいて詳しく説明する。 | |
| 到達目標 | (1) 各学問分野への理解を深める。<br>(2) 各人が大学において主体的に何を主題として研究を進めてゆくのかに関する問題意識をもつ。<br>(3) 研究、発表の方法について習熟する。 | |
| 成績評価 | 各ゼミ担当教員の判断による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎演習Ⅱ（国際コミュニケーション） | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 原則として基礎演習Ⅰから継続して同じゼミへ所属し、ゼミ担当の教員から指導を受ける。各ゼミの掲げるテーマに対する学習やフィールドワークをおこない、報告、発表する。<br>海外留学中の学生も履修し、インターネット等を通じて指導を受ける。 | |
| 到達目標 | (1) 各学問分野への理解を深める。<br>(2) 各人が大学において主体的に何を主題として研究を進めてゆくのかに関する問題意識をもつ。<br>(3) 研究、発表の方法について習熟する。 | |
| 成績評価 | 各ゼミ担当教員の判断による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎設計製図 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 南　政宏 ・ 藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 設計製図に必要である基本的な製図技術と技法を習得する。建築家による設計図面のトレースや、模型の制作によって、製図や模型制作の基礎を学ぶ。アクソノメトリックやインテリアパースの作成によって空間の視覚的な表現力を身に付ける。建築の基礎的な表現技法を学ぶとともに、図面を通して空間を想像し把握する力を養う。小規模な空間を自身で設計することで、空間的思考力と計画力、製図能力を習得する。 | |
| 到達目標 | 製図の基本的ルールを理解し、製図技法を習得する。<br>建築模型の製作技法を習得する。<br>小規模空間を計画し、破綻のない設計が出来るようになる。<br>自身の制作物や設計のプレゼンテーションが出来るようになる。 | |
| 成績評価 | 課題の提出物（80%）ジュリーでのプレゼンテーション（20%）。<br>全課題の提出が最低条件（一つでも課題未提出の場合は単位不認定）。<br>成績は各課題作品の得点平均を総合成績とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定教科書：藤木庸介・柳沢究（編著）『初歩からの建築製図』学芸出版社 2015、並びに必要に応じてプリント配布。<br>参考書：増田奏（著）『住まいの解剖図鑑』エクスナレッジ 2009、他、適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎服飾デザイン | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森下　あおい・横田　尚美 | |
| 授業概要 | 服飾デザインを構想して伝達するための表現方法について学ぶ。そのために服飾の種類や服装形式を理解し、人体と衣服型紙の関係、ファッションデザイン画の技法を学ぶ。授業では表現力を引き出すため、テーマに基づいた課題を、調査、考察し制作を行う。授業を通じて、服飾の役割や機能についての理解を深める。 | |
| 到達目標 | （1）人体プロポーションを理解する<br>（2）体型と衣服の関係を理解する<br>（3）目的に応じたデザインを表現できる | |
| 成績評価 | （1）服飾デザインの基礎知識を身につけている　課題提出（20%）<br>（2）デザイン画の表現と衣服の立体化技法の理解　課題作品（20%）<br>（3）目的を明確に設定しデザインを考案。課題作品（60%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜資料を配布する。<br>参考書：授業中に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 給食衛生管理実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小澤　恵子 ・ 廣瀬　潤子 | |
| 授業概要 | 学校給食をはじめとする大量調理施設や食品関連企業では、食中毒が最重要の危機管理項目であり、HACCP システムを取り入れた新たな衛生管理システムが構築されている。各種施設においては、安全衛生マネジメントのできる管理栄養士・栄養士の養成が必要とされている。そこで、(1)食品調理・加工における衛生管理(2)調理環境における衛生と管理(3)大量調理施設管理マニュアルに基づく衛生管理の実際について、実習を通して理解を深め、技術を習得する。 | |
| 到達目標 | （1）「大量調理施設衛生管理マニュアル」の全般が理解できる。<br>（2）衛生管理の実際として、具体的実施方法を習得し、調理従事者等への衛生教育ができる<br>（3）HACCP システム構築のための危害分析と危害リストを作成することができる。<br>（4）危機管理として、インシデントおよびアクシデントレポートの作成、また食中毒発生時の対応ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）（2）（3）（4）については課題レポート（100%：(1)25%、(2)25%、(3)25%、(4)25%）で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>ただし、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：矢野俊博、岸本満著『管理栄養士のための大量調理施設の衛生管理』（幸書房）<br>参考書　：全国食品衛生主管課長連絡協議会編『４訂大量調理施設衛生管理のポイント』（中央法規出版）<br>※適宜、プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 給食経営管理実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小澤　恵子 | |
| 授業概要 | 特定多人数を対象とした給食施設での大量調理は、給食施設の食事計画に基づいて作成された献立を、施設の限られた調理条件のなかで調理し、衛生的に安全で、しかもおいしく、食事として満足できる料理を提供することが求められる。そのためには、時間や設備、調理担当者などの資源を効率よく使い、一定の品質のものを安定的に作り上げるように管理・統制していかなければならない。栄養士はこのような役割を果たさなければならない。学内での給食管理実習において、これまでに学んできた知識と技術を活用して、栄養士に必要とされる企画・運営・管理能力を養うことを目的とする。 | |
| 到達目標 | （1）管理栄養士、調理師の役割分担が理解できること。<br>（2）下処理から始まり、調理、配食、食器洗浄、保管までの作業分担ができること。<br>（3）食材料費の執行が予算内でできること。<br>（4）HACCP に基づく衛生管理が理解できること。<br>（5）目標設定に対する評価ができること。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(5)については、レポート（100％：(1)20%、(2)20%、(3)20%、(4)20%、(5)20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。5 分の 1 以上欠席した場合は、評価しない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：藤原政嘉他編『給食経営管理実習ワークブック』（みらい）<br>指定図書：授業の中で紹介する。<br>参考書:木村友子他編『学内給食経営管理実習のためのおいしい食事のコーディネート第２版』（医歯薬出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 給食経営管理臨地実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小澤　恵子 | |
| 授業概要 | 学外（特定給食施設：病院、福祉施設、学校など）にて、給食施設の管理運営の実態に臨み、適切な管理を行うために、如何なる専門的知識および技術が総合的に関わっているかを習得する。 | |
| 到達目標 | （1）他職種とコミュニケーションをうまく図ることができる。<br>（2）衛生管理の実際が理解できる。<br>（3）事務管理の実際が理解できる。<br>（4）栄養指導・栄養教育の仕組みが理解できる。<br>（5）実習施設の献立作成の仕組みが理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）他職種とコミュニケーションをうまく図ることができる（2）衛生管理の実際が理解できる（3）事務管理の実際が理解できる（4）栄養指導・栄養教育の仕組みが理解できる（5）実習施設の献立作成の仕組みが理解できる、については、毎回提出の報告書（50%）とレポート（50%）で評価する。<br>※欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木戸詔子他編『臨地・校外実習のてびき』（化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 給食経営管理論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小澤　恵子 | |
| 授業概要 | 特定多数の人々の健康状態・栄養状態を改善、あるいは維持、さらに向上させるためには、栄養・食事管理を効率的に、かつ効果的に継続して実施していくことが重要である。給食の意義および給食経営管理の概要、利用者の身体状況、栄養状態、生活習慣などのアセスメントから、計画、実施、評価、改善までの栄養・食事管理、さらに給食の運営方法とそのマネジメントについて学ぶことにより、給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1)特定給食施設における給食の意義・役割を理解することができる(2)給食経営管理におけるマーケティングの意義、目的、方法を理解することができる(3)給食施設における利用者のアセスメント情報に基づいた栄養・食事管理を行うことができる(4)給食施設における HACCP システムに基づいた安全･衛生管理の意義と実際を理解することができる(5)給食施設における危機管理の意義･必要性を理解することができる(6)各種施設における給食経営管理と関連法規について理解することができる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)(2)(3)(4)(5)(6)については、定期試験（100％：(1)10%、(2)20％、(3)20％、(4)20％、(5)10％、(6)20％）で評価する。100 点満点（浦部 50 点、小澤 50 点）で採点し、60 点以上を合格とする。1/3 以上欠席した者は、評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：藤原政嘉他編『新・実践給食経営管理論 ： 栄養・安全・経済面のマネジメント』（みらい）<br>参考書：講義の中で適宜紹介する。その他、適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　由香里 | |
| 授業概要 | 本授業では、歴史、思想、方法、心理、制度など多様なテーマを包摂する教育学の基本原理と今日的課題について講義する。また、教職課程の授業であることから、特に学校に関わる諸現象、諸課題については具体例を用いて検討を行う。 | |
| 到達目標 | ・教育学の基本原理（理念、歴史、思想を含む）および教育と学習の具体的な現実を往還することで、教育に関わる現代的課題を理解することができる。<br>・「読む、書く、話す、聞く」のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。<br>・小レポート、最終レポートを通し、読み手を意識した論理的な文章を書くことができる。 | |
| 成績評価 | 各講義後に提出する小レポート（３０％）と授業中の課題（３０％)、最終レポート（４０％）をもとに、総合的に判断する。なお、小レポートの未提出が４回以上の場合は評価対象から外す。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは定めず、講義中に資料を配布する。参考文献も適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育課程論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木村　裕 | |
| 授業概要 | 教育課程の歴史的展開、教育課程の構造、教育課程の評価と改善のあり方などについて、文献や映像資料などを用いながら講義する。講義を通して、「学校に基礎を置く教育課程開発」を行うために必要となる基礎的な知識と技能を獲得する機会を提供することをねらいとする。 | |
| 到達目標 | 「学校に基礎を置く教育課程開発」を行うために必要となる基礎的な知識と技能を獲得すること。 | |
| 成績評価 | 講義中に提出するワークシートなど（５０％）とまとめのレポート（５０％）をもとに、総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】<br>佐藤博志編著『教育学の探究－教師の専門的思索のために』川島書店、2013 年（それ以外の資料等は講義中に適宜配布する）<br>【参考書】<br>学習指導要領（それ以外の参考文献は適宜紹介する） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育観察実習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木村　裕 ・ 杉浦　由香里 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 今日における学校内外の教育の現状を把握するため現地学習を行い、直接観察することにより、教育のあり方を学習する。 | |
| 到達目標 | 学校教育、社会教育の実態を把握すること。その上で、教育に関わる問題関心を持つこと。 | |
| 成績評価 | 見学および事前・事後指導への参加とそれをふまえた見学レポート（７０％)、および、最終レポート（３０％）を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし。適宜プリントなどを配付する。<br>参考書：授業内に随時紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育心理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 黒田　真由美※ | |
| 授業概要 | 児童期の発達・学習・記憶・動機づけ等の心理学の基本的な概念について概説する。また、教育実践の事例を通して、いじめや発達障害等の問題について理解を深める。 | |
| 到達目標 | 「学ぶ」ことの諸側面について、児童期の発達、学習、集団・適応という観点から学ぶ。心理学の用語や理論などの知識を習得すると同時に、心身の発達過程について体系的に学ぶことを目標とする。 | |
| 成績評価 | レポート評価(100％) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要に応じて授業中に指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育制度論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　由香里 | |
| 授業概要 | 本講義では、わが国の教育制度の基本原理を歴史的展開や具体例を踏まえて明らかにし、21世紀における教育制度の将来像を検討していく。したがって、講義では教育制度の成立背景や発展の展開、制度を形作る基本原理、教育実践と制度の相克に関する事例や論点を取り上げていく。 | |
| 到達目標 | ・わが国の教育制度（教育の社会的、制度的および経営的事項）の基本理念、歴史的展開、法構造を理解している。<br>・教育制度をめぐる論点を理解し、根拠を持って意見を述べられる。<br>・「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。 | |
| 成績評価 | 平常点（50%）および最終レポート（50%）で評価する。平常点は小レポート、講義中の作業課題、そしてレスポンスシートの提出等で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは特に指定しない。講義中に資料を配布する。また、講義中に適宜、参考図書および資料を紹介する。レポート作成に活用して欲しい。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育方法論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木村　裕 | |
| 授業概要 | 学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価の役割と実践方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を構想・実践・改善するために必要な基本的な知識と技術を習得する機会を提供することをねらいとする。 | |
| 到達目標 | 受講生一人ひとりが将来教員や人を育てる立場になったときに、自分なりの「よい授業」「よい教育活動」を構想・計画し、実践し、改善することができるようになるための基礎的な知識や技能（情報機器および教材の活用を含む）を習得するとともに、自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成すること。 | |
| 成績評価 | 講義中に提出するワークシートなど（５０％）とまとめのレポート（５０％）をもとに、総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【参考書】<br>①田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007 年<br>②佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年<br>※　その他の参考書や参考資料については、講義中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 近世近江論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 東　幸代 | |
| 授業概要 | 本講義では、近世（江戸時代）の近江国（現滋賀県）の歴史的展開と、それがどのような歴史的特徴を有していたかを、土地や琵琶湖の支配や利用のあり方を素材に論じる。また、近世社会の一般的な仕組みや他地域の様相など、近世近江とその社会を理解する際に前提となることがらについても適宜言及していく。 | |
| 到達目標 | 日本の近世社会および近世近江の特徴を説明できるようになる。 | |
| 成績評価 | 宿題 20％　期末試験またはレポート 80％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 近代デザイン史 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 面矢　慎介 | |
| 授業概要 | 近代になって、産業革命、市民社会の成立、科学技術の発展などによって、社会は大きく変化した。なかでも、合理主義・機能主義により、われわれの生活空間は、徐々にモダニズムのデザインにおおわれてきた。そして現代、豊かさ、情報化、都市化、グローバル化によって、我々の生活や意識（価値観、美意識、家族観）も変りつつある。このようななかで、近代はじめより現代にいたるまでの間の生活デザイン、主として、道具、インテリア、印刷物などのデザインにおいて、どのような変革の試みがなされてきたのかを、具体例を通して概観する。 | |
| 到達目標 | （1）モダンデザインの流れの全体像をつかむ。<br>（2）種々のデザイン運動グループの位置付けと特徴を知る。<br>（3）有名デザイナーの名とその作品に親しむ。<br>（4）デザイナーの作品の特徴や他との影響関係を調べ、文章にまとめることができる。 | |
| 成績評価 | レスポンスペーパー１５％　宿題評価５５％　期末筆記試験評価３０％　授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：柏木　博『デザインの２０世紀』ＮＨＫブックス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 空間デザイン論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐々木　一泰 | |
| 授業概要 | われわれは日ごろデザインの最終的な成果しか目にすることは出来ない。そこでこの講義では，近現代の西洋・日本・商業空間のデザイン・デザイナーを通じて，デザイン背景とその制作過程から，そのデザインを成り立たせる手法を分析し，空間デザインを学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)日本・西洋・商業空間におけるデザインの歴史的背景や技術的な知識を深める。<br>(2)空間を理解し、分析するための知識を深める。 | |
| 成績評価 | 小レポート、小テストなどを適宜行い、評価する。（小レポート・小テストなど 100％）授業時間数の３分の１以上欠席した者は、評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：授業内に適宜紹介する。<br>参考書：授業内に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 芸術学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀井　若菜 | |
| 授業概要 | この授業では、造形芸術である「美術」や、造形芸術の歴史の体系である「美術史」について考える。具体的には、日本美術史の中から、正倉院宝物や中世の二つの絵巻（近江の景観を描く「桑実寺縁起絵巻」と鬼退治の物語「酒伝童子絵巻」）、さらに別の作品を取り上げ、プロジェクターで作品を丁寧に見ながら、その分析・解釈の仕方を提示する。またそれらが「美術史」という体系の中でいかに語られてきたのか、それはなぜかを考える。「桑実寺縁起絵巻」は 1532 年に作られた絵巻で、その中には近江の安土山付近の景色がリアルに描かれている。16 世紀という時期になぜ近江の実景がリアルに描かれたのかを、作品の表現を詳しく見ながら考えていく。 | |
| 到達目標 | １　正倉院宝物や二つの絵巻の内容を理解し、自分でその意味について考えられるようになる。<br>２　美術作品に関心を持ち、美術に表現されたものの意味を自分自身で考えられるようになる。 | |
| 成績評価 | １、２について、まとめの回で小テストを行う。１が６６％、２が３３％。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業でその都度紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 形成論演習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木村　裕 ・ 杉浦　由香里 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 教育学に関わる問題群の中から関心のあるテーマを選び、各自の問題意識をまとめ、参考書や自分で選んだ資料を用いて発表を行う（そのため、講義の内容および進め方については、受講生の興味・関心に応じて変更する可能性があることを了承されたい）。 | |
| 到達目標 | ①教育学に関わるテーマについて視野を広げるとともに、さまざまな参考書や資料の検討なども加え、自身の考えを深めること。<br>②他者と議論を行い、互いの考えを深めるとともに、それを論理的かつ説得的に言葉で説明できるようになること。 | |
| 成績評価 | 講義中の発表および議論への参加（５０％）とまとめのレポート（５０％）をもとに、総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 以下のテキストを購入すること。<br>南新秀一・佐々木英一・吉岡真佐樹・編著『新・教育学［第２版］ 現代教育の理論的基礎』ミネルヴァ書房、2009 年。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 研究演習Ⅰ（国際コミュニケーション） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文についての学習やフィールドワーク、また他のゼミ生、教員との討議をおこなう。 | |
| 到達目標 | 卒業論文の完成。 | |
| 成績評価 | 各ゼミ担当教員の判断による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 研究演習Ⅱ（国際コミュニケーション） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文についての学習やフィールドワーク、また他のゼミ生、教員との討議をおこなう。 | |
| 到達目標 | 卒業論文の完成。 | |
| 成績評価 | 各ゼミ担当教員の判断による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康情報管理実習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | 情報化社会に適応できる能力を身に付ける。すなわち、栄養食品および消費生活に関する情報を提供する情報媒体について学び、さらに健康情報や栄養補助食品および消費などに関する情報の入手し、これらの情報をプレゼンテーションソフトの PowerPoint などを利用して、表示する手法などを習得する。さらに、健康に関するデータの統計処理の手法についても学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）　食生活における健康情報を検索し、健康のおける情報を統計処理し、理解する。<br>（2）　検索で得られた健康情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフトで発表するとともに、課題レポートを提出する。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント等を配布 | |
| 履修資格 | 生活栄養学科の学生のみを対象とする（管理栄養士科目）。 | |

| 科目名 | 健康心理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 粟谷　初子※ | |
| 授業概要 | 近年の健康への関心の高まりには目を見張るものがあり、人の健康について、社会や環境とのかかわりの中で全人的な把握と対応が迫られている。このような時に健康心理学が貢献できることを考えるのが目標である。まず、総論として健康の概念を明らかにし、次に、健康とストレス、健康の保持・増進とサポートシステムそして実践・臨床の視点から、健康アセスメントやカウンセリング、疾病、健康教育といった予防や対処、治療などについて学ぶ。また、健康を体験的に捉えるために、心理検査やアンケートを実施し、その実際に迫る。 | |
| 到達目標 | 人が健康に生きるということはどういうことかを理解し、その実践的・臨床的意味を考えること。<br>１）心理面の健康の概念が理解できる。<br>２）人の健康行動の理解と実際が理解できる。<br>３）人の健康管理に役立てることができる。 | |
| 成績評価 | レポート課題（３０％）、試験（７０％）<br>レポート課題は“人が健康に生きる”ということについて、講義内容を越えて広い範囲のものとなる。またレポート課題も含め到達目標の狙いが達成されたかどうかを試験で見極める。<br>※欠格条件（授業時間数の５回以上欠席した者は評価対象にしない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：指定しないが、教材として適宜プリントを配布し、必要に応じて DVD も使用する。<br>参考書　：野口京子著「健康心理学」金子書房<br>長谷川浩一編著「心の健康を考える」ミネルヴァ書房<br>菅佐和子他編「健康心理学」（京大人気講義シリーズ）丸善 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 言語学概論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛 | |
| 授業概要 | 本講義では、言語を記述する理論的アプローチの中でも，言語の振る舞いのメカニズムを認知的動機付けに求める「認知言語学」の基礎的概念を，日本語，英語の具体例を示しながら解説する。 | |
| 到達目標 | 言語の分析に必要となる認知言語学の基礎的知識を身につけることを目標とする。同時に、論理的に考察する姿勢を養うことを目指す。<br>(1)ことばの記号性（形式と意味のペアリング）および認知言語学の拠って立つ意味観が理解できる。<br>(2)意味のネットワーク（プロトタイプ，スキーマ，意味拡張）が理解できる。<br>(3)メタファー，メトニミー，シネクドキーのメカニズムが理解できる。<br>(4)構文の果たす役割（認知意味構造）が理解できる。<br>(5)ことばのダイナミックな側面（拡張，文法化）が理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)-(5)については，以下のように評価し，100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。<br>確認小テストおよび課題提出(50%: (1)10%, (2)10%, (3)10%, (4)10%, (5)10%)<br>定期試験(50%: (1)5%, (2)5%, (3)10%, (4)25%, (5)5%)<br><br>※ただし，4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 谷口一美. 2009.『学びのエクササイズ　認知言語学』.ひつじ書房. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 言語接触論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　凌非 | |
| 授業概要 | 基本的には、異文化が接触すれば、言語の接触も伴い、その結果として、外来語が生まれます。異文化の接触を地層調査に類似する考え方で通時的に調査することで、外来語の発生についてみることができます。とくに日中間の文化交流が多く、外来語の発生も多いです。それらの外来語の発生の様相、そして現在日中両言語のなかでどのように使われているかなどを講義します。 | |
| 到達目標 | （1）言語学関連の基礎知識を習得すること<br>（2）外来語に関連する基礎知識を習得すること<br>（3）日中ことばの交流に関連する知識を習得すること<br>（4）宿題を提出すること | |
| 成績評価 | 定期試験　75%、（1）25%、（2）25%、（3）25%、<br>宿題 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト　指定なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代英文法 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛 | |
| 授業概要 | 高校で教わった学校文法（規範文法）では十分な説明が与えられない構文表現を中心に取り上げ，構文（文法形式）そのものが担う意味という観点から，英文法を改めて見つめ直す。 | |
| 到達目標 | 高校までで学習した規範文法の射程に収まらない、英語の構文表現の意味構造を理解し，英文法理論の基礎的概念を習得する。<br>(1)倒置および省略のメカニズムを理解し，正しく英文の構造が理解できる。<br>(2)構文そのものに意味構造があることを理解し，正しく英文の意味が理解できる。 | |
| 成績評価 | レポート課題・確認小テストと定期試験を以下に示すように合計 100 点満点で評価し，60 点以上を合格とする。<br>レポート課題および確認小テスト：40% ((1)20%, (2)20%)<br>定期試験：60% ((1)20%, (2)40%)<br>※ただし，４回以上欠席のものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 使用テキスト：久野暲・高見健一（著）．2013. 『謎解きの英文法　省略と倒置』．くろしお出版. ¥1,600+税<br><br>※推薦参考図書：池上嘉彦（著）.1995.『〈英文法〉を考える―「文法」と「コミュニケーション」の間 』.ちくま学芸文庫. ¥1,080 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代産業デザイン論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森岡　誠※ | |
| 授業概要 | 現代における産業デザインの現状と課題を、昭和の道具史を参照しながらさぐる。与えられた資料から自分流の道具史年表を作成したり、KJ 法によって、「同時代」というキーワードに対して、どのようなイメージマップが形成できるか演習してみる。現代の道具の典型として電話の歴史から携帯電話、インターネット、スマートフォンまでのコミュニケーション道具の変遷をたどってみる。次に、産業デザインに対する新しい考え方を提出してきた作家達を紹介し、現代の日本社会に果たしてきた役割を考察することから、今後の産業デザインの課題を明確にする。 | |
| 到達目標 | (1)同時代の産業デザインのあり方を知ることができる。<br>(2)今後の産業デザインの課題を見つけることができる。<br>(3)自分で問題点を見つけ、自分で考え、論理的に意見を発表できる能力が身に付く。 | |
| 成績評価 | 毎回の小レポート評価 70%、毎回のテーマに対して各自の考え方が明確に述べられているかどうか。最終課題の小論文評価 30%、各自の最終課題テーマを深く掘り下げて自分流の考え方が論理的に述べられているかどうか。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特に設定しない、その都度関係資料を配布する<br>参考書：『物の体系』ジャン・ボードリール、『近代日本の産業デザイン思想』、『欲望のオブジェ』アドリアン・フォーティー、『大きな都市小さな部屋』渡辺武信、『宇宙船「地球」号』バックミンスター・フラー、『生きのびるためのデザイン』ヴィクター・パパネック、『メディア論』M・マクルーハン、 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代思想論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | この授業では、西欧の文学理論に影響を与え、その底流を形成している思想の中でも特に、脱構築以後の現代思想に焦点を絞り、従来の「(人間)主体」「国家主権」といった概念を超えた新たな共同体概念の可能性について考える。 | |
| 到達目標 | (1)現代ヨーロッパの思想の大きな流れを理解する。<br>(2)上記の理解を単なる知識で終わらせるのではなく､国際社会で実際に起こっている問題とも結びつけて考え、自らの視点を形成し、自分の考えを積極的に発表する。<br>(3)議論を通して自らの考えをさらに深める。 | |
| 成績評価 | 授業中の議論への積極的な参加(50%)・課題エッセイ提出(50%)<br>4 回以上欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代ジャーナリズム論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 関根　英爾※ | |
| 授業概要 | 「メディア社会」の環境が急激に変わりつつある中で、ジャーナリズムとは何か。何のためにあるのか。ジャーナリストはどのような職業か。その本文とは何か。あらためて社会的にも歴史的にも問われている。<br>本講義では、現代ジャーナリズムを既存メディアの軸である新聞、テレビを中心に取材・編集・報道の現場、理論、現実、倫理、歴史の５つの領域からアプローチし、ジャーナリズムがかかえる諸問題を幅広く考察し,その社会的な役割、自由と責任、そして将来を追究する。 | |
| 到達目標 | （1）日々移り変わる国内外の「できごと」への感受性を高める<br>（2）新聞などマスメディアの報道・評論に関心を持つ<br>（3）ジャーナリズムの思想と活動をつかむ<br>（4）ジャーナリズムの歴史性と社会性、その制度と機能を知る<br>（5）複雑多様化する「メディア社会」の現状を理解し、メディア・リテラシーと自らの発信力を身につける。 | |
| 成績評価 | レスポンスカード（30%）、期末レポート試験（70%）をもとに総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教材プリントを用意する。参考書等は講義時にそのつど紹介する。<br>＜指定図書＞<br>赤尾光史、高木　強著「ジャーナリズムの原理」（日本評論社）<br>原　寿雄著「ジャーナリズムの思想」（岩波新書）<br>原　寿雄著「ジャーナリズムの可能性」（岩波新書） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代社会福祉論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　好孝 | |
| 授業概要 | 本講義は、障害、貧困、居住、虐待など、福祉についての個別のトピックと、福祉の社会的な仕組みについて考察する。本講義が特にとりあげるのは、お金がなかったり身体が動かなかったり住む場所がなかったりする人も大変だということであり、そういった人の役に立つ制度も大切だということである。 | |
| 到達目標 | (1)そもそも現代社会の福祉にはどのような対象があるのか､そしてどのような活動が行なわれてきたのか、行なわれているのか、これらについて知る。<br>(2)それらをとりまく社会的条件を知る。<br>(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)については、小テストで評価する（30%）。(1)(2)(3)については、定期試験で評価する（70%：(1)10%、(2)10%、(3)50%）。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 通常はレジュメを配布する。参考文献については適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代社会論（人間文化） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸山　真央 | |
| 授業概要 | 本講義では、グローバリゼーションに伴う現代社会の変化の諸相を、理論的かつ経験的に概観し、現代社会を理解する視座を提供する。グローバリゼーションは日本社会の何をどう変えていくのか。映像資料なども利用しながら、この問いに向き合っていきたい。受講者数にもよるが、グループディスカッションを採り入れることなども考えている。 | |
| 到達目標 | （1）現代社会の諸課題に関心をもち、そのことと背景にかんする基礎知識を身につける。<br>（2）身近な社会的事象に関心をもち、現代社会の諸理論と関連づけて説明できるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)と(2)については、小課題（60 点：(1)40 点、(2)20 点）、最終レポート（40 点：(1)15 点、(2)25 点）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：田辺俊介編『外国人へのまなざしと政治意識－－社会調査で読み解く日本のナショナリズム』（勁草書房、2011 年）<br>参考書：授業中に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現代中国論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横田　祥子 | |
| 授業概要 | 本講義では、中国、香港、台湾の全体像を把握するために、政治体制や経済政策の変化に関するトピックを取り上げる。またそうした変化が、社会や文化にどのような影響を及ぼしたのかについて、講師のフィールドワーク経験を交えてながら、具体例を示していきたい。 | |
| 到達目標 | 21 世紀の中国・香港・台湾と日本のあり方を考えるために、20 世紀の東アジアの歴史、国際関係を再認識する。 | |
| 成績評価 | 成績評価は、レスポンスペーパー（20%）、定期試験（50%）と課題レポート（30%）による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書等は適宜、紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築計画論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 世界には建築に対する多用な考え方や表現があり、これらを概観する事は、建築を理論的、且つ、感覚的に理解する上での必須要件と言えよう。本講義では建築に対する議論や設計を巡る思考の助けとなる様な基礎知識、あるいは最低限知っておくべき論理的フレームを“Architectural Design”という言葉の上に広く捉えつつ、これらの知見をわかりやすく解説する。 | |
| 到達目標 | （1）建築に対する議論や設計を巡る思考の助けとなる様な基礎知識を習得する。<br>（2）建築計画に関する、最低限知っておくべき論理的フレームを“Architectural Design”という言葉の上において理解する。 | |
| 成績評価 | (1)(2)の内容を包含した小テスト３回により評価。<br>成績への寄与率は小テストの合計を 100%とし、60%以上を合格とする。<br>尚、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定教科書：平尾和洋+末包伸吾（編著）『テキスト建築意匠』学芸出版社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 建築法規 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 戸川　勝紀※ | |
| 授業概要 | 建築基準法の目的は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することである。これらを踏まえて、都市デザイン、建築デザイン及び生活デザインを行うために、建築関係法令の役割及び規制の概説だけでなく、誘導及び取組み方も解説する。また、具体的な事例をもとに制限や可能性を解説し、都市、建築及び生活に取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。 | |
| 到達目標 | (1)　法律制度を説明できる。<br>(2)　建築法規の目的を説明できる。<br>(3)　都市デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。<br>(4)　建築デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。<br>(5)　生活デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。 | |
| 成績評価 | 毎回講義開始時に講義内容の小試験を実施する。小試験結果に期末試験の結果を合計して評価する。（小試験合計６０％＋期末試験４０％＝１００％）１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 なお、小試験及び期末試験は法令集（テキスト１）及び教科書（テキスト２）を使用可とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト１　建築基準法令集平成２７年版　法令編　国土交通省住宅局　日本建築学会編　技報堂出版 テキスト２　史上最強図解よくわかる建築基準法　大脇賢次　ナツメ社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 現場心理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松嶋　秀明 | |
| 授業概要 | 私たちの日常生活には「当たり前」になっていることがいくつもある。こうした「当たり前」の存在を問い直し、批判的に日常をとらえなおす力を養うことを狙いとする。具体的には「司法領域」における現場をとりあげつつ、そこでとりあげられる諸問題に対して、心理学がどのように迫れるのか、いくつかの立場からの研究例を示しつつ解説する。授業では一方向的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッション、種々のワークをとりいれる。積極的な参加を期待する。 | |
| 到達目標 | 司法臨床場面をあつかった心理諸科学における基礎的用語を理解し、用いることができる。<br>司法臨床的な問題解決についての自分なりの方針をたてることができる。 | |
| 成績評価 | ・ 各授業における準備／発表／貢献(60%)　・最終レポート (40%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは特に指定しない。適宜、授業進行にあわせて参考資料を配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 考現学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 面矢　慎介 | |
| 授業概要 | 生活を捉える基本的方法論としての考現学について解説する。日本において創始された考現学は、生活のありようをとらえる有効な方法であるばかりか、生活実態に即したデザインの発想をうながし、現在まで多くの生活研究者・デザイン実務家によって発展・継承されている。本講義では、考現学の創始者・今和次郎（1888～1973）から現在にいたる考現学的生活研究の系譜を論じ、さまざまの考現学的調査手法を事例を交えて解説する。グループワークによる調査体験、授業期間終了後の個人調査・レポート制作を含む。 | |
| 到達目標 | 実際の調査体験を通して、生活文化をとらえるための考現学的観察・記録の方法と視点を修得する。<br>（1）過去の考現学調査の方法と視点を理解し、自分なりの感想や意見を述べることができる。<br>（2）グループワークに参加し協調して調査を計画・実行できる。<br>（3）個人で調査を計画・実行し、その結果を文章や図解にまとめることができる。 | |
| 成績評価 | コメントカード（寄与率 10%）、グループワークでの貢献度（寄与率 20%）、個人調査レポート（期末レポート）により評価する。個人調査レポートは授業期間終了後、夏期休暇中に作成し、成績評価への寄与率は 70%。グループワークへの参加はそれまでの講義時間数の半分以上を出席した者に限る。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布<br>指定図書：今和次郎『考現学入門』ちくま文庫<br>参考書：初回授業時に参考文献リストを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 考古学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　均 | |
| 授業概要 | 考古学とは、過去の人類が残した物質的資料「遺跡」と「遺物」といった土のなかから発掘されたものを対象として歴史を組み立てていく学問である。考古学の独自性は遺構、遺物を実測し、分類することによって人類の残した「モノ」を分析することにある。まずその方法論とこれまでの研究史を学び、さらには考古学研究に必要な関連諸科学を学ぶことによって考古学の基礎を培うこととする。 | |
| 到達目標 | 考古学が明らかにした社会構造や文化を学び、旧石器時代より歴史時代までの各時代の特色について述べることができるようになる。<br>(1)各時代の特徴を説明することができる。<br>(2)時代による社会構造の相違を説明することができる。<br>(3)時代による社会構造の特徴を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。<br>(4)全国の遺跡の情報を集めて、その代表的な遺跡を見学し、遺構や遺物について批評することができる。 | |
| 成績評価 | 定期試験(60%：(1)20%、(2)20%、(3)20%)、(4)については、課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリント資料を配付する。参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 考古学実習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫　・　中井　均 | |
| 授業概要 | 考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。 | |
| 到達目標 | 考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。 | |
| 成績評価 | 実習成果物としての実測図や拓本等提出資料７０％、実習態度等３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所『発掘調査のてびき』、同成社、2010 年。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 考古学実習Ⅱ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫 ・ 中井　均 | |
| 授業概要 | 考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。 | |
| 到達目標 | 考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。 | |
| 成績評価 | 実習成果物としての実測図や拓本等提出資料７０％、実習態度等３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所『発掘調査のてびき』、同成社、2010 年。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 考古学特論Ａ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　均 | |
| 授業概要 | この特論では、日本考古学のなかで、近年めざましい研究成果のある中世から近世の考古学について、都市、集落、寺院、城館、墓などの遺跡と、そこから出土する様々な遺物について、流通も踏まえて分析をおこなうものである。また、近代以降を対象とした考古学についても触れておきたい。 | |
| 到達目標 | 考古学が現代に至るまでの人類の歴史を知る方法論であることについて述べることができるようになる。<br>(1)考古学の方法論について説明することができる。<br>(2)古代、中世、近世の社会構造を考古学から説明することができる。<br>(3)古代、中世、近世の特徴を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。<br>(4)代表的な城跡を見学し、その特徴について批評することができる。 | |
| 成績評価 | 定期試験(60%：(1)20%、(2)20%、(3)20%)、(4)については、課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配布する。参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 考古学特論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫 | |
| 授業概要 | 遺跡・遺構・遺物を研究対象とする考古学の方法論などの概要、および日本考古学の概要を理解することを目的とする。最初に、考古学の基本、考古学の方法論などの概要を講義する。そして、日本考古学の歩みとこれまでの成果を概説する。現在、日本考古学は旧石器時代から現代までを研究対象としている。時代ごとに、考古学の成果と問題点を概説していくが、場合によっては主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して理解を深める。 | |
| 到達目標 | １．考古学の方法論の基本を理解する<br>２．日本考古学史と旧石器時代から現代までの日本考古学の内容を理解する<br>３．周辺諸国の考古学の成果と比較検討して、アジアの中の日本文化を理解する | |
| 成績評価 | 講義理解度６０％、レポート（小レポート２回・期末レポート）４０％で成績評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント資料を配布する参考書：授業中に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 公衆衛生学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 草野　文嗣※ | |
| 授業概要 | 公衆衛生とは，人間の集団を対象とした学問であり技術であり，それを基にした活動である。その目的は，全ての構成員の健康増進・福祉の向上を目指している．そのために，集団の特性を理解し，健康上の問題発掘・解決法・対象の実施のための知識・技術を習得することが重要である．今後さらに進行するとされる少子化・高齢化の現代社会において，生活習慣病の予防などはじめとして，より良い健康状態の保持が望まれる。この中で，環境保全・食生活の改善の重要性等を十分理解されることを期待する． | |
| 到達目標 | （1）個々人でなく，人間の集団として対象を捉えることができる。<br>（2）社会の変化と人間の健康との関連を説明できる。<br>（3）環境が人間の健康に及ぼす影響を理解し説明できる。<br>（4）健康の保持増進に対して，食生活・食習慣の重要性を理解できる。<br>（5）食物を通じて健康障害について、原因・対策・結果等について論評することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）～（4）については、定期試験（７０％：（1）２５％,（2）１５％,（3）２０％,（4）１０％)、（5）については、課題レポート（３０％）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：シンプル公衆衛生学（久道茂、鈴木庄亮監修　小山洋、辻一郎編集）南江堂 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 公衆栄養学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 今井　絵里 | |
| 授業概要 | 地球レベルにおける生態系と食糧問題をの関係を理解したうえで、生態系保全、ヘルスプロモーション、健康増進、疾病予防などをを目的とした公衆栄養活動を学ぶ。そのために必要な健康・栄養問題の現状（社会環境、健康状態、食事、食生活、食環境、諸外国の栄養問題）と課題に関する動向を知り、それらに対応した栄養施策を理解する。 | |
| 到達目標 | (1) 地球レベルの健康栄養問題とその解決のための公衆栄養活動が説明できる。<br>(2) わが国の少子高齢化､長寿社会に対応した健康増進の公衆栄養活動の重要性を理解できる。<br>(3) 個人の食事や食行動・食知識・食スキルの在り方を変容させる方法を身につける。<br>(4) 食品の生産・流通、食料自給率などの食環境を理解できる。<br>(5) 諸外国の食糧・健康における地域間格差を理解できる。<br>(6) 公衆栄養活動の組織づくり、人材育成の重要性を理解できる。<br>(7) 管理栄養士・栄養士の制度の沿革、社会的役割を理解できる。<br>(8) 国民健康・調査調査の沿革、目的、内容、方法を説明できる。<br>(9) 国の健康増進基本方針と地方健康増進計画の関係を理解できる。<br>(10)食育指針基本計画策定の目的と内容を理解でき、地方食育推進計画の在り方を説明できる。<br>(11)国際的な栄養行政組織、諸外国の公衆栄養関連計画を理解できる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 公衆栄養学実習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 今井　絵里 | |
| 授業概要 | 人間集団の健康の保持増進のための実践活動の技術の習得と健康管理能力の向上を目指して、栄養指導業務を理解し、実践を通して個人および集団の食生活と栄養状態を把握し、健康づくりに必要な公衆栄養活動のあり方を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)集団や地域の調査データを得ることができる。<br>(2)そのデータを解析し、課題や問題点を見出せる。<br>(3)公衆栄養マネジメントに従って、目標設定し地域栄養計画を策定することができる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 構造計画（生活デザイン） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 渡邉　須美樹※ | |
| 授業概要 | 建物を計画するということは、機能性、安全性を把握し、さらに芸術性を追求する総合的な作業である。建物を成立させるためには、建物に作用する力の種類と流れを掌握し、構造材料の特性を活かして架構することが必要である。本講義では建物に作用する外力に対して使用する構造材料の特性を活かし効率の良い構造計画を習得することと、小規模木造建物の計画について講義する。 | |
| 到達目標 | 建物に作用する力の種類と流れに対し、建物の安全性を確保するための基本的な架構計画を習得し、小規模木造建物を設計する能力を身に付けること。 | |
| 成績評価 | 期末試験３０％、講義中の小課題４０％、出席３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：今井仁美・田中美都著「図説　やさしい建築一般構造」（学芸出版社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 構造力学Ｉ（生活デザイン） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 渡邉　須美樹※ | |
| 授業概要 | 建築空間を構成するためには、建物に作用する力の種類と流れ、および建物を構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠である。本講義では、基礎的な構造力学を学習する。 | |
| 到達目標 | 静定構造物を対象とした建築構造力学の基礎知識を習得し、簡単な骨組構造を対象として力学の基礎原理を習得する。 | |
| 成績評価 | 期末試験３０％、講義中の小課題４０％、出席３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：今井仁美・田中美都著「図説　やさしい建築一般構造」（学芸出版社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 行動論演習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹下　秀子 ・ 松嶋　秀明 ・ 細馬　宏通 ・ 上野　有理 | |
| 授業概要 | 行動科学や社会科学における問いのたて方や研究方法の実際について学ぶ。身近な生活や地域での人々のかかわりに素材を得て研究テーマを設定するところから、グループ演習を中心に授業を実施する。 | |
| 到達目標 | 質問紙法、検査法、実験法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。 | |
| 成績評価 | 実習の各課題は数名のグループ単位で実施するが、まとめのレポートは受講者が個別に作成する。到達目標に示す「質問紙法、検査法、実験法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する」について、出席点、授業への参加度（発表含む）を評価に含み(原則５０%)、課題ごとのレポート(原則５０%)を総合的に判断して決定する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に適宜配布、紹介する。指定図書：授業中に適宜紹介する。参考書：授業中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 高齢者行動論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中原　純※ | |
| 授業概要 | 「高齢者」と聞いてどういった人々を想像しますか？<br>おそらく学生の皆さんが想像する以上に、様々な高齢者がいます。認知症、怪我、その他の病気で寝たきりになっている方から、元気に仕事をされている方まで、全てをまとめて高齢者と呼んでいます。授業を通して、様々な高齢者の心理・行動を理解していきます。<br>具体的には、高齢者の心理・行動は、社会的要因（社会的ネットワーク、ソーシャル・サポート、家族形態など）、心理的要因（生活満足度、モラール、パーソナリティなど）、身体的要因（ADL、IADL、疾病の有無など）、認知的要因（記憶、知能）といった様々な要因の相互作用によって決まります。これらの要因は、医学、看護学、社会学、心理学などの幅広い学問によって明らかにされてきたものですが、本講義では主に心理学（発達心理学、社会心理学）の領域で示されてきた概念を扱います。 | |
| 到達目標 | 高齢者に関する偏見を修正し、様々な高齢者を正しく理解する。 | |
| 成績評価 | 理解度確認のための小テスト（70%）、ケースワークの内容（30%）で成績を評価します。全 15 回の授業内で小テスト（複数回）を行います。欠席して小テストが受けられなかった場合は、その回の得点が 0 点になりますので、注意してください。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 国際関係論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 菅瀬　晶子※ | |
| 授業概要 | 現在中東地域で起こっている紛争、おもにシリア内戦、イラク情勢、パレスチナ・イスラエル紛争を理解するための基礎知識を習得することを目標とする。さらには領土や宗教、周辺諸国との共存といった、現在の日本が直面している問題についてかんがえる力をやしなう。 | |
| 到達目標 | イスラームをはじめとした、一神教についての正しい知識を得、理解できるようになる。また、解説に頼るのではなく、自分の判断をもってニュースの内容について考える力を養う。さらに、授業の本題とはそれるが、読みたいと思わせるレポートの書き方についても、折にふれて指導する予定である。 | |
| 成績評価 | 期末試験 40%、レポート 40%（2 回実施予定）、討論などのプレゼンテーション 20%の配分で評価する。<br>授業には毎回出席することが望ましい。授業時間数の３分の１以上欠席した者は、評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『世界史の中のパレスチナ問題』、臼杵陽著、講談社現代新書、2013 年。<br>『宗教の復讐』、ジル・ケペル著、晶文社、1992 年。<br>『イスラームを知る６　新月の夜も十字架は輝く：中東のキリスト教徒』、菅瀬晶子著、山川出版社、2010 年。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 国際コミュニケーション論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛　・　棚瀬　慈郎　・　呉　凌非　・　島村　一平　・　小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 異なる言語，文化的背景もつ他者との相互理解を巡る諸側面を，ことば，心理，文化という観点から学術的に見つめ直し，国境を越えた他者理解の基盤となる教養と資質について考察を深める。なお，言語学的考察では，日本語と英語を対照するにとどまらず，その他の言語と比較をも視野に入れて考察を行う。 | |
| 到達目標 | 多文化を体験・理解していくなか、異なる言語，文化的背景もつ他者との相互理解を図る上で必要とされる教養と資質を身につけ，自ら考えて生き抜く能力を身につけることを目標とする。<br>(1)異文化間コミュニケーションにとって重要な言語学的知見が理解できる。<br>(2)異文化間コミュニケーションにとって重要な言語以外の諸要因が理解できる。 | |
| 成績評価 | 複数回課すレポート課題：100% ( (1)70% (2)30%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：池田理知子( 2012).『よくわかる異文化コミュニケーション』.ミネルヴァ書房<br>および配布プリント資料<br>参考図書：石井敏・久米昭元（編）(2013). 『異文化コミュニケーション辞典』. 春風社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | コミュニケーション論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 細馬　宏通 | |
| 授業概要 | 最近のコミュニケーション理論は、コミュニケーションをこうした「双方向的」で「絶えず更新される」ものとして考えている。本講義ではこうしたコミュニケーション論の動向について、さまざまな理論を紹介しながら考えていく。 | |
| 到達目標 | (1)会話分析の基本概念を理解する。<br>(2)ジェスチャー研究の基本概念を理解する。<br>(3)既存のコミュニケーション・モデルを学び、その長所・短所に気づくことができる。<br>(4)実際の会話データをもとにそこで起こっている発話や動作について簡単な分析ができる。 | |
| 成績評価 | 各到達目標について以下のように評価する。(1)レスポンスペーパー(20%)(2)レスポンスペーパー(20%)(3)レスポンスペーパー(10%)、期末レポート(20%)(4)期末レポート(30%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：そのつど紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 古文書演習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 水野　章二 | |
| 授業概要 | 歴史研究の素材となる史料には、古文書・古記録・木簡・金石文あるいは絵画史料など、多種多様なものがあるが、特に古文書はその中心的位置を占める。史料全体に対する関心と理解を深めるとともに、主として古代・中世の古文書をとりあげ、研究の基礎となる文書読解力を養う。そして文書の様式・形態・機能などの基本を学習し、あわせて文書の作成された時代・社会の特質を考える。なお授業では、古文書の写真コピーを使用する。 | |
| 到達目標 | （1）古代・中世の古文書の種類・機能やその変化を理解できる。<br>（2）古代・中世の文字・文体を読解・解釈できる。<br>（3）古代・中世の文書の作成システムや社会構造を理解できる。 | |
| 成績評価 | 毎回の授業における読解・発表により評価する。<br>（1）古代・中世の古文書の種類・機能やその変化を理解できる。　３０％<br>（2）古代・中世の文字・文体を読解・解釈できる。　４０％<br>（3）古代・中世の文書の作成システムや社会構造を理解できる。　３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：佐藤進一『古文書学入門』（法政大学出版局） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 古文書演習Ⅱ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 東　幸代 | |
| 授業概要 | 本演習のねらいは、近世・近代の古文書の解読を通して、くずし字解読の基礎能力を身に付けることにある。あわせて、文献史料読解能力の向上と、近世・近代社会に対する理解の深化を目指す。 | |
| 到達目標 | 漢字の部首のくずし方をマスターする。 | |
| 成績評価 | 宿題５０％　期末試験５０％　授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | くずし字辞典の使用が望ましい。授業中に指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | サステナブルデザイン論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 南　政宏 | |
| 授業概要 | 大量消費、大量生産によって経済発展を遂げ、支えられてきた二十世紀。現在、その豊かさの代償に様々な弊害や歪みが起きている。様々な仕組みを見直す時がきている。デザインの力がどのように社会に貢献できるのか考察する。持続可能な社会にサステナブルなものづくりやデザイン、社会システムのあり方を先端事例を交えて考える。 | |
| 到達目標 | デザイナーの職能と、デザインの役割、デザインの可能性について様々な見地からの知識を深める。 | |
| 成績評価 | 必要に応じてレポートを課する。授業時間数の 1/3 以上欠席したものは評価対象にしない。<br>レスポンスペーパー（60%）レポート（40%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特になし。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | サブカルチャー交流論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 神本　秀爾※ | |
| 授業概要 | 本講義では、具体的な題材を用いて、サブカルチャーというジャンルそのものの社会的意味と、サブカルチャーの、人びとを巻き込みながら、みずからも変容していくという動態的な性質の理解を目指す。受講生による講義への積極的な参加を期待しており、関連するテーマにもとづいた発表（個人またはグループ）の機会も設ける。 | |
| 到達目標 | （1）サブカルチャーを通して社会をとらえ返す視点を獲得すること。<br>（2）サブカルチャーと自身の関わり方について言語化する経験を通して、自身を「客観化」し、自身について言語化することができるようになること。 | |
| 成績評価 | 発表(50%)および試験(50%)によって総合的に評価する。<br>毎回出席すること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし<br>参考書：『ゼロ年代の想像力』（ハヤカワ文庫）宇野常寛<br>『増補　サブカルチャー神話解体』（ちくま文庫）宮台真司ほか | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 産業心理学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 滑田　明暢※ | |
| 授業概要 | 私たちは消費者や雇用者として、産業と密接に関わりながら生活をしている。そのため、人の心や行動の理解を促す心理学的研究の知見を参考にできる場面は多い。産業社会において個々人がより生き生きと暮らしていけることを目指し、本講義では、消費者行動、作業の能率と快適性、生活とキャリア、職場の人間関係などに関わる心理学的知見を学ぶ。研究の積み重ねから得られた知見と自身の生活とのつながりを考える機会としたい。 | |
| 到達目標 | 1）各講義で紹介あるいは議論された知見を自身の言葉で要約して表現することができる。<br>2）産業心理学に関わる事象を複数の観点から理解したうえで、自分自身の意見や見解を文章の形で表現することができる。<br>3）産業心理学の知見（授業で身に付けた知識や考え方）と自身の生活との関連を文章で表現することができる。 | |
| 成績評価 | 毎回の講義のコミュニケーションペーパーの提出（30％：到達目標 1 に対応）とレポート課題（70％：到達目標 2 と 3 に対応）を基に成績評価を行う。レポート課題は、授業期間内に 2 つ出題される。成績評価の詳細（コミュニケーションペーパーの内容とレポート課題の評価基準）については初回の講義にて説明を行う。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特になし（毎回の授業時にプリントを配布）<br>指定図書、参考書：講義の流れに応じて適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 色彩学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮本　雅子 | |
| 授業概要 | 現代は生活の質が求められる時代となり、生活のさまざまな場面で色彩の果たす役割は大きくなっている。しかし、騒色という言葉があるように色彩が人に悪影響を及ぼすこともある。そこで、生活デザインにおける快適な色彩計画のための基礎知識を得ることをねらいとし、色の表示方法や色彩調和論等について講義する。 | |
| 到達目標 | (1)色彩の表示方法について習得する。<br>(2)配色技法について理解し、生活の中での配色事例について分析できる<br>(3)生活の中の色彩について基本的な知識を習得する。 | |
| 成績評価 | 課題 15%、小テスト 30%、期末試験 40%、レスポンスペーパー15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:「色彩：カラーコーディネーター入門」、副教材として「新配色カード 199a」を使用<br>参考書　：授業時間内に適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 色彩学演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮本　雅子 | |
| 授業概要 | 色彩感情や調和理論についての認識を深めるためにポスターカラーやパーソナルコンピュータによる画像処理を利用した色彩表現を行う。また、すべての色はシステム化された記号や数字で示し、各種色度図上に表現できることを理解するため機器類を使用して測色を行う。さらに、色彩による視認性の程度や視覚障害者への配慮事項についても理解する。 | |
| 到達目標 | (1)色料の３原色の混色による色彩表現ができる。<br>(2)色彩の測定方法を理解する<br>(3)実際のモノ、空間の配色について調査し、評価できる。<br>(4)問題のある配色について、コンセプトに基づいた好ましい配色の提案ができる。<br>(5)感覚だけではなく理論に基づいた色彩計画ができる。 | |
| 成績評価 | プレゼンテーション 30%、課題作品 60%、レポート 10%、課題の提出期限は厳守（授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト等：配色カード 199a<br>使用参考書：「デジタル色彩マニュアル」「建築の色彩設計法」等、演習の中で適宜紹介 | |
| 履修資格 | 「色彩学」を履修済みであること | |

| 科目名 | 嗜好と調理実習Ⅰ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山崎　英恵※ | |
| 授業概要 | 食材を衛生的かつ安全に、栄養素等の損失を少なく、無駄なく美味しく調理し、楽しい食卓を演出するにはどうすればよいかを実習を通じて学習する。また、毎回実習したものが「一食の献立」として栄養的にバランスよくなるにはどうしたらよいかを考える。調理の基本を経験的に学習することで、2 年次以降の専門科目学習に役立つ基礎知識や技術を習得できる授業を展開していく。 | |
| 到達目標 | 基本的な調理技術を確実に習得し能率のよい調理操作ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 調理遂行能力（調理前準備・片付け・調理工程の手際・衛生管理・盛り付けを含む完成品の出来栄え・失敗のリカバリ能力・アイデア等）40%、課題献立評価 40%、レシピカードの評価 20%　授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『基礎調理実習』(化学同人)、プリント配布参考書:『New 調理と理論』(同文書院) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 嗜好と調理実習Ⅱ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小澤　惠子 ・ 廣瀬　潤子 | |
| 授業概要 | 「料理をすること」は食品をおいしく食べるために人が得た技術である。栄養的でしかも嗜好にあった料理を提供することは重要なことである。本実習では、調理操作による食品の変化を観察し、その科学的根拠を理解する。また、日本料理・西洋料理・中華料理など種々の調理実習を通して、目的にあわせた調理に応用できる技能を養う。特に、日本料理・西洋料理・中華料理では、プロ料理人の講師による実習指導を行い、技、コツを体得し、料理の配色、盛りつけ方など総合的に学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）調理にともなう現象を食品の理化学的な変化として捉え理解することができる。<br>（2）献立作成時の調理構成を考え、実習した種々の調理を応用し新しい献立が作成できる。<br>（3）基本的な知識・技術を理解し、盛りつけ、色彩調和などを含めた総合的な食事の提供が習得できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）（2）（3）については、各回の実習レポートで評価し、実習レポート(100% : (1)45%、(2)10%、(3)5%、(4) 40%で評価する。<br>※授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし、プリントを配布する。<br>参考書：「New 調理と理論」（同文書院） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 時事英語 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | BBC のテレビ放送を活用して、①ニュース報道の構造（ニュースキャスターとリポーターの役割分担やニュース・リポートの構成）を把握します。さらに、②ニュース報道の英語表現および英語の音声幅に慣れることを目標にします。テキストの構成にしたがって、1. Warm-up, 2. Words and Phrases, 3. Comprehension Questions, 4. Fill in the Blanks, Summary Completion, etc. の順にエクササイズを進めていきます。英語語彙・慣用句等の増強、構文・表現の補強ができるだけでなく、ディクテーション作業を通してリスニングの音声幅を広げることにもなります。 | |
| 到達目標 | (1) ニュース報道の構造（ニュースキャスターとリポーターの役割）を理解することができる。<br>(2) 英語での報道リポートの構造（導入・インタビュー・まとめ）を理解することができる。<br>(3) 英語ニュース報道に使われる英語語彙、構文・言い方を理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)ニュース・・・　(2)英語で・・・については、ミニレポート（100% : (1)20%, (2)20%）で、(3)英語ニュース・・・については到達確認テスト（(3)60%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | （テキスト）Dominic Cheetham, 武岡由樹子, 田村真弓, 浦口理麻 編著, BBC: Seeing the World through the News 1.　金星堂, 2014.<br>（参考書）三島、小倉編著, 『BBC WORLD 英語リスニング シャドーイング』, DHC, 2005 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 自然地理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮本　真二※ | |
| 授業概要 | 現在私たちが目にする自然環境は，長い地球の歴史と，人間の自然への働きかけで形成されてきました．また環境問題への関心の高まりによって，自然環境を対象とした観光（エコ・ツーリズム）さえも成立するようになってきました．授業では「変化しつづける自然と人間活動」に焦点をあて，地理学の中の位置づけとともに，その基礎的な「しくみ」の自然地理学的理解を目的とします．とくに，自然環境のなかでも，世界各地の過去数十万年間における地形や植生，さらには，気候変遷と人間活動との関係性について検討します． | |
| 到達目標 | 日本列島および世界の代表的な「自然のしくみ」の基本的理解が可能となること． | |
| 成績評価 | レスポンス・ペーパー（50%）レポート（50%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山本紀夫・稲村哲也（編）『ヒマラヤの環境誌』八坂書房．水野章二（編）『中世村落の景観と環境−山門領近江国木津荘−』，思文閣出版．日下雅義（編）『地形環境と歴史景観』，古今書院．安田喜憲『環境考古学事始』，NHK 出版．水野章二（編）『琵琶湖と人の環境史』，岩田書院．宮本真二・野中健一（編）『自然と人間の環境史』，海青社． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語演習Ａ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛 | |
| 授業概要 | 学生が e-learning の教材 ALC NetAcademy2 を用いて、TOEIC 対策に取り組む自律学習科目である。学内もしくは学外の端末からアクセスし、毎週 2 時間、1 セメスター計 30 時間を学習する。目標とする TOEIC スコア得点の向上を目指す必修科目なので、4 年間の学習計画を立てながら他の英語講義・講座と併せて、学生の主体的・積極的な取り組みが求められる。 | |
| 到達目標 | TOEIC のスコアが入学時より上昇していることを求める。<br>＊12 月 TOEIC テスト（IP）を受験<br>到達目標の一例（入学時 400 点前後の学生の場合）:<br>1 年次末：450～600 点<br>2 年次末：600～700 点<br>3 年次末：700～800 点<br>4 年次末：800～900 点 | |
| 成績評価 | 単位は認定で、学習時間とその進捗状況によりなされる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ALC NetAcademy2 初中級コースプラス | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語演習Ｂ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 学生が e-learning の教材 ALC NetAcademy2 を用いて、TOEIC 対策に取り組む自律学習科目である。学内もしくは学外の端末からアクセスし、毎週 2 時間、1 セメスター計 30 時間を学習する。目標とする TOEIC スコア得点の向上を目指す必修科目なので、4 年間の学習計画を立てながら他の英語講義・講座と併せて、学生の主体的・積極的な取り組みが求められる。 | |
| 到達目標 | 達成目標の一例（入学時 400 点前後の学生の場合）:<br>2 年次末：550～700 点<br>3 年次末：650～800 点<br>4 年次末：730～900 点 | |
| 成績評価 | 単位は認定で、学習時間とその進捗状況によりなされる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ALC NetAcademy2　スタンダードコース | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語演習Ｃ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | 学生が e-learning の教材 ALC NetAcademy2 を用いて、TOEIC 対策に取り組む自律学習科目である。学内もしくは学外の端末からアクセスし、毎週 2 時間、1 セメスター計 30 時間を学習する。目標とする TOEIC スコア得点の向上を目指す科目なので、4 年間の学習計画を立てながら他の英語講義・講座と併せて、学生の主体的・積極的な取り組みが求められる。 | |
| 到達目標 | 達成目標の一例（入学時 400 点前後の学生の場合）:<br>2 年次末：550～700 点<br>3 年次末：650～800 点<br>4 年次末：730～900 点 | |
| 成績評価 | 単位は学習時間とその進捗状況により認定される | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ALC NetAcademy2 スタンダードコース　　＊12 月 TOEIC テスト（IP）を受験 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語演習Ｄ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | 学生が e-learning の教材 ALC NetAcademy2 を用いて、TOEIC 対策に取り組む自律学習科目である。学内もしくは学外の端末からアクセスし、毎週 2 時間、1 セメスター計 30 時間を学習する。目標とする TOEIC スコア得点の向上を目指す科目なので、4 年間の学習計画を立てながら他の英語講義・講座と併せて、学生の主体的・積極的な取り組みが求められる。 | |
| 到達目標 | 達成目標の一例（入学時 400 点前後の学生の場合）：<br>3 年次末：650～800 点<br>4 年次末：730～900 点 | |
| 成績評価 | 単位は認定で、学習時間とその進捗状況によりなされる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ALC NetAcademy2 スーパースタンダードコースを使用する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語演習Ｅ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | 学生が e-learning の教材 ALC NetAcademy2 を用いて、TOEIC 対策に取り組む自律学習科目である。学内もしくは学外の端末からアクセスし、毎週 2 時間、1 セメスター計 30 時間を学習する。目標とする TOEIC スコア得点の向上を目指す科目なので、4 年間の学習計画を立てながら他の英語講義・講座と併せて、学生の主体的・積極的な取り組みが求められる。 | |
| 到達目標 | 達成目標の一例（入学時 400 点前後の学生の場合）：<br>3 年次末：700～800 点<br>4 年次末：800～900 点 | |
| 成績評価 | 単位は認定で、学習時間とその進捗状況によりなされる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教材；ALC NetAcademy2 スーパースタンダードコース | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語演習Ｆ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | 学生が e-learning の教材 ALC NetAcademy2 を用いて、TOEIC 対策に取り組む自律学習科目である。学内もしくは学外の端末からアクセスし、毎週 2 時間、1 セメスター計 30 時間を学習する。目標とする TOEIC スコア得点の向上を目指す科目なので、4 年間の学習計画を立てながら他の英語講義・講座と併せて、学生の主体的・積極的な取り組みが求められる。 | |
| 到達目標 | 達成目標の一例（入学時 400 点前後の学生の場合）：<br>4 年次末：730～900 点 | |
| 成績評価 | 単位は認定で、学習時間とその進捗状況によりなされる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ALC NetAcademy2 スタンダードコース・スーパースタンダードコース | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語演習Ｇ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小熊　猛 | |
| 授業概要 | 学生が e-learning の教材 ALC NetAcademy2 を用いて、TOEIC 対策に取り組む自律学習科目である。学内もしくは学外の端末からアクセスし、毎週 2 時間、1 セメスター計 30 時間を学習する。目標とする TOEIC スコア得点の向上を目指す科目なので、4 年間の学習計画を立てながら他の英語講義・講座と併せて、学生の主体的・積極的な取り組みが求められる。 | |
| 到達目標 | 達成目標の一例（入学時 400 点前後の学生の場合）：<br>4 年次末：730～900 点 | |
| 成績評価 | 単位は認定で、学習時間とその進捗状況によりなされる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ALC NetAcademy 2 スタンダードコース・スーパースタンダードコース | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 実践英語対策講座 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | This course introduces students to the TOEIC and TOEFL ITP tests. The TOEIC is a test of practical business communication. It contains reading and listening sections. The TOEFL ITP is a test of practical academic English. It contains reading, listening, and grammar sections. In the course, students learn about the structure, content, and question types of both tests. Students also do extensive practice exercises in order to strengthen their communicative and academic English abilities. | |
| 到達目標 | The concrete goals for the course are the following: (1) students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and question types of the TOEIC test; (2) students will strengthen their performance on TOEIC style exam questions, enhancing their receptive communicative English skills; (3) students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL ITP test; (4) students will strengthen their performance on TOEFL ITP style exam questions, enhancing their receptive academic English skills. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goal (1) 20% of the overall evaluation, course goal (2) 20% of the overall evaluation, course goal (3) 40% of the overall evaluation, and course goal (4) 20% of the overal evaluation. Achi | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | The textbook for the course is Longman Introductory Course for the TOEFL Test: The Paper Test, with Answer Key, by Deborah Phillips, (Pearson Longman, 2004), ISBN 9780131847187. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 質的データ解析論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 武田　俊輔 | |
| 授業概要 | 社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、質的調査の方法を習得することを目的とする。 | |
| 到達目標 | (1)先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。<br>(2)特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。<br>(3)質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。<br>(4)参与観察の基本的な考え方を習得できる。<br>(5)行ったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。 | |
| 成績評価 | (1)先行研究や統計データを収集する手段を使用できる（20%）。(2)インタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる（20%）。(3)質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる(30%)。(4)参与観察の基本的な考え方を習得できる（10%）。(5)行ったインタビュー内容を整理できる（20%）。合計 100 点満点。60 点以上合格。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：宮内泰介,2004,『自分で調べる技術　市民のための調査入門』岩波書店.<br>参考書：佐藤郁哉,2008,『質的データ分析法　原理・方法・実践』新曜社.<br>谷富夫・山本努編著,2010,『よくわかる質的社会調査　プロセス編』ミネルヴァ書房 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 疾病と栄養 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 矢野　仁康 | |
| 授業概要 | 病態評価のための診察の仕方、症候のみかた、臨床検査のみかた、疾患治療の概要などを理解する。<br>各種疾患の発症後の病状の進展、増悪、合併症の併発の過程を学び。各々における重症度判定、病期分類の基本と考え方、それらに基づいた薬物治療、外科療法、食事療法、運動療法の理論と実践について講義する。 | |
| 到達目標 | ①　栄養と代謝（糖質･脂質代謝とその異常）について理解できる<br>②　栄養と代謝（蛋白質･核酸代謝とその異常）について理解できる<br>③　栄養障害（肥満とやせ、蛋白質･エネルギー障害、ビタミン･ミネラル異常症）について理解できる<br>④　臨床医学の実践活動に重要な、疾病と栄養について十分な知識を得る事が出来る | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、①、②、③は各々課題レポート１０％ずつで合計３０％、④は定期試験を行い７０％、合計１００点満点で採点を行い、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：竹中優ほか「疾病の成因・病態・診断・治療」医歯薬出版株式会社<br>：伊藤節子ほか「臨床病態学」化学同人 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 疾病の成り立ち | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 矢野　仁康 | |
| 授業概要 | 疾病とは何か、人はいかにして病気を発症するかを学ぶ。様々な疾患において内因性要素、外因性要素の関わりを理解し、発症から病態形成の過程を学ぶ。いわゆる生活習慣病や栄養代謝疾患、消化器疾患、免疫アレルギー疾患、感染症等について、その発症の過程、診断方法などを講義する。各種疾病を理解すると共にそれらに対する臨床医の考え方、方法論を理解することが求められる。 | |
| 到達目標 | ①疾患に伴う細胞、組織の変化について理解できる<br>②器官別（消化器、呼吸器、循環器、内分泌･代謝系）に疾病の成因･病態の概要を理解できる<br>③器官別（消化器、呼吸器、循環器、内分泌･代謝系）に疾病の診断･治療の概要を理解できる<br>④臨床医学の実践活動に重要な、疾病の成り立ちと病態評価と治療について十分な知識を得る事が出来る | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、①、②、③は各々課題レポート１０％ずつで合計３０％、④は定期試験を行い７０％、合計１００点満点で採点を行い、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：竹中優ほか「疾病の成因・病態・診断・治療」医歯薬出版株式会社<br>：伊藤節子ほか　「臨床病態学」化学同人 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会・経済政策論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木下　ちがや※ | |
| 授業概要 | 本授業では、戦後日本政治と社会運動について論じていく。<br><br>2011 年 3 月の原発震災以後、日本社会では近年みられなかった社会運動が台頭している。この社会運動は、原発事故というショックに対応して台頭したが、しかしその性格は、21 世紀という特殊な時間におおきくは規定されていると思われる。この授業では、この現代の社会運動を構造的に規定する要因について論じていく。社会運動を歴史的、構造的にとらえることで、運動を媒介にして「現在」の政治社会の問題を捉えていくことが達成目標である。 | |
| 到達目標 | 戦後日本の社会運動の展開を理解することをつうじて、戦後日本の政治的、経済的な性格の特殊性を理解していくことが目標。 | |
| 成績評価 | 成績評価については、授業末の課題レポート（70%）、出席（30%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 以下の文献が参考になる。<br>小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書、2012 年<br>小熊英二・木下ちがや共同編集『原発を止めるひとびと―３・１１から官邸前まで』、文藝春秋社、2014 年。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会学演習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大橋　松行 ・ 丸山　真央 ・ 中村　好孝 | |
| 授業概要 | この演習では、「社会と人間」という視点から、人間関係を理解・認識するための「見る眼」と「問題を発見する能力」を習得することを狙いとする。問題意識を明確にし、共通の理解を深めるために、下記の授業計画に沿って、参加者はグループに別れ、各グループで発表者、司会、コメンテーターの役割を分担して演習を進める。発表者はレジュメを作成して報告し、それについて全員で討議する。発表・論議が完了した後、発見された問題点、共有された見解についてレポートを作成し、提出する。 | |
| 到達目標 | ①人間関係の時間的変化と空間的・領域的差異を理解し認識することができる。<br>②恋愛や家族、ジェンダーといった身近な社会現象について、歴史をふまえて考察できるようになる。<br>③社会の構造と変動を捉える基礎知識と視点を獲得し、現代日本社会の諸問題を社会学的に捉えることができる。 | |
| 成績評価 | レポート１００％（大橋 34%、中村 33%、丸山 33%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：使用しない。プリントを配布する。参考書：その都度紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 武田　俊輔 ・ 大橋　松行 ・ 細馬　宏通 ・ 中村　好孝 ・ 丸山　真央 | |
| 授業概要 | 本講義は、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法について概説し、あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行うものである。 | |
| 到達目標 | (1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会学的に理解することができるようになる。<br>(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ることで、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。 | |
| 成績評価 | (1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会学的に理解することができる(50%)、(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ることで、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができる(50%)について、小レポート・中間レポート・最終レポート(合計 100%)。なお授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし。毎回レジュメ等を配布する。指定図書：ギデンズ『社会学第５版』（而立書房、2009 年）、友枝敏雄他編『Do!ソシオロジー』（有斐閣、2007 年）、塩原良和・竹ノ下弘久編『社会学入門』（弘文堂、2010 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会学史 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　好孝 | |
| 授業概要 | これまでの社会学の歴史について、社会学誕生以前の社会思想、近代に生まれた社会学、現代展開中の社会学の三期に分けて、主要な理論の概要とそれらの展開について学ぶ。社会学の歴史を学ぶことがなぜ大切なのかといえば、本講義でとりあげる社会学的な構え・方法態度は、今でも通用するからである。「社会学」の歴「史」の講義であるが、歴史について学ぶことと、一通りの社会学的な発想について身につけることとを、同じくらいに重要な目標として設定する。 | |
| 到達目標 | (1)社会学の歴史について一通りの知識を得る。<br>(2)個々の社会学の議論・理論について理解する。<br>(3)自分が今生きている社会について、社会学的に考えるための思考方法を身につける。 | |
| 成績評価 | (1)(2)については、小テストで評価する（30%）。(1)(2)(3)については、定期試験で評価する（70%：(1)10%、(2)10%、(3)50%）。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。小テストを 3 分の 1 以上提出しなかった者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中に指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会心理学（人間関係） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柿本　敏克※ | |
| 授業概要 | 社会的影響の心理学というテーマで講義を行なう。社会心理学の目的は、社会の中での人間の思考・行動・態度について法則を追求することである。多くのテーマの中から、説得､同調性、服従、他者存在の効果などを取り上げ、これらの諸領域を社会的影響という観点から統一的に論じる。<br>人のもつ社会性の諸様相が理解できるであろう。 | |
| 到達目標 | 社会的影響についての認識を深める。 | |
| 成績評価 | 小レポート３0%, 最終レポート７0%　(15 回の授業のうち 3 分の２以上出席したものを評価の対象とする)。全体を 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：【必須】白樫三四郎（編著)『社会心理学への招待』ミネルヴァ書房<br>指定図書：R．B．チャルディーニ 『影響力の武器[第三版]−なぜ、人は動かされるのか』 誠信書房 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会精神医学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 久保田　泰考※ ・ 清水　光恵※ | |
| 授業概要 | 友達も話し相手もなく、ずっと孤立していたらそれだけで鬱になってしまいそうですし、また一方で人間関係がわずらわしく、どこかに消えてしまいたいと思うことは誰にもあるかもしれません。現代社会から受けるストレスは高まる一方であり、「こころの病気」になる人が増え続けていると言われもします。こうした状況の中で重要となる、社会と「こころを病む人」の関係を問い直す試みとしての社会精神医学の可能性について集中して検討して行きましょう。 | |
| 到達目標 | 精神医学全般についての知識を広く学習する。今日いかなる社会精神医学的な観点が可能であるのかについて各自が自分なりの見解を持つ。映像資料などをもとにアクチュアルな問題について討議する。 | |
| 成績評価 | 授業・討論への参加度 30％、レポート 70％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布・適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会調査実習（地域文化、人間関係） | １単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 武田　俊輔 ・ 中村　好孝 | |
| 授業概要 | 社会調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個々人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。なおこの実習は社会調査士資格を取得する際に必要となる認定科目である。 | |
| 到達目標 | (1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。<br>(2)調査計画を立案することができる<br>(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。<br>(4)調査成果を発表し、討論することができる。<br>(5)報告書を作成することができる。 | |
| 成績評価 | (1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会調査方法論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大橋　松行 | |
| 授業概要 | 本講義では社会調査（量的調査、質的調査）の方法について論じるが、その主たる目的を、量的調査の中で最も一般的で基本的な形態である調査票調査の方法について理解することにおく。具体的には、調査企画の設計、調査票の作成、標本抽出と調査の実施方法、データの集計・整理・分析について概説する。特に、調査票の作成については、数人のグループによる実習方式で行うことを考えている。 | |
| 到達目標 | （1）調査目的・方法・手順および調査問題の選択と定式化について理解することができる。<br>（2）社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。<br>（3）質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）調査目的…（2）社会調査…については、小レポート（50%：（1）20%、（2）30%）、（3）質問紙…については、定期試験（50%）で評価する。100 点暗転で採点し、60 点以上を合格とする。原則として評価対象者は授業時数の３分の２以上の出席者とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：使用しない。プリントを配布する。<br>参考書：講義の中でその都度紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会調査論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大橋　松行 | |
| 授業概要 | 社会調査とは、社会事象を人間の社会的生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。 | |
| 到達目標 | （1）社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。<br>（2）社会調査の歴史や海外調査に関する知識と理解力を身につけることができる。<br>（3）国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）社会調査の分類…（2）社会調査の歴史…については、小レポート（50%：（1）20%、（2）30%）、（3）国勢調査…については、定期試験（50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。原則として評価対象者は授業時数の３分の２以上の出席者とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：使用しない。プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会福祉概論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 頼尊　恒信※ | |
| 授業概要 | 本講義は、高齢者、障害者、児童などの福祉に関する個別のトピックをとりあげながら、社会福祉の仕組みについて考察する。とりわけ、本講義では、社会福祉の理念や意義、社会福祉の法体系や制度、サービス等を中心に、社会福祉の基礎を学ぶ。 | |
| 到達目標 | 1）現代の社会福祉における福祉の対象と、それらをとりまく社会福祉の法制度が、いかなるものであるのかを理解する。<br>2）ニュースや新聞等、身近な社会福祉のトピックに興味をもち、本講義で学んだことを活かしながら現代の社会福祉のあり方について論じることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 毎授業提出のレスポンス・ペーパー40%レポート課題 30%期末試験 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：大久保秀子 2010『新・社会福祉とは何か』中央法規参考書：宇山勝儀・森長秀 2010『三訂社会福祉概論』光生館 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会変動論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸山　真央 | |
| 授業概要 | 社会変動論は、数十年、時に百年単位で社会の変化を捉える、社会学の基本的な発想の根幹をなす研究領域である。本講義では、村落・都市という具体的な空間や場所をめぐって社会変動がどのように現象し展開したのかを中心に学ぶ。本講義を通じて、社会変動の基礎理論を学ぶとともに、村落・都市の構造変動に関する社会学的アプローチの基本を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）社会変動の基本的な考え方や概念を理解する。<br>（2）社会的な事象を社会変動論の観点から捉えることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)と(2)については、小課題（60 点：(1)40 点、(2)20 点)、最終レポート（40 点：(1)20 点、(2)20 点）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：レジュメを配布する。参考書はそこで適宜示す。<br>指定図書：日本村落研究学会編『むらの社会を考える』(農文協)、町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』(有斐閣)、松本康編『都市社会学・入門』(有斐閣)、『地域社会学講座１～３』(東信堂)、『新版キーワード地域社会学』(ハーベスト社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 社会問題の社会学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　好孝 | |
| 授業概要 | 本講義では、社会問題（社会病理や逸脱とも呼ばれてきた。ひきこもり、いじめ、非行、DV、虐待、犯罪、自殺など）についての社会学的な議論を学ぶ。社会問題については、当事者から・家族から・支援者から・国家からなど、また心理的・経済的など、色々な観点から考えることが可能であるが、社会学も独自の、相当にひねくれた考察を行なってきた。社会学は常識を相対化する点を特長とするところがあり、そもそもひねくれた学問であるけれども、社会問題の社会学には、その特長が分かりやすく表われていると思う。 | |
| 到達目標 | 第一に、社会問題についての理論の展開を知る。第二に、具体的な事例についての社会学的な考察の実際を学ぶことで、社会問題について社会学的な考察を自分でできるようになる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 85%、レスポンスペーパー15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中に指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 住環境設計演習Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐々木　一泰　・　藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 初歩的な設計演習の第一歩として、構造を意識した木造住宅の設計を学ぶ。第１課題では日本の戦後住宅の作品分析と、それをもとにした住宅の設計を行う。特に日本において中心的な構法である木造建築の知識と理解を深め、木造住宅の設計手法を高める。課題である住宅作品を理解したうえで、家族構成やテーマを新たに与え、条件にあった住空間を設計し、新たに増築する。第 2 課題では、家具のデザインと制作を行うことで、インテリア空間のスケールへの展開と家具の構造についての知識を学ぶ。それぞれの課題では，構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につけることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1)それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。<br>(2)平面図，断面図，立面図を作成することができる。<br>(3)模型による素材や形，空間の表現ができる。<br>(4)構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。 | |
| 成績評価 | 課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する。(課題 1　75%，課題 2　25%）また適宜，小課題を出題し，授業時間内に完成させる。なお，単位取得には，すべての課題を提出することが前提条件となる。ただし，授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：『新しい建築の製図』(学芸出版社)、『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』(丸善)『初めての建築設計　ステップ・バイ・ステップ』(彰国社) 他、授業内に適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 住環境設計演習Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮本　雅子 ・ 藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 住空間設計の次の段階として、インテリア空間と地域に対する住空間の設計課題を行う。その為に必要に応じて、設計の仕方、図面の描き方、模型制作の仕方などを学習する。また随時、具体的な実例の検討を行って設計の参考に資する。 | |
| 到達目標 | (1)各自で設定したコンセプトに基づいた住空間の設計ができる。<br>(2)空間の各寸法に対する意味を理解する。<br>(3)平面図、展開図、透視図を作成することができる。<br>(4)模型による素材や形の表現ができる。 | |
| 成績評価 | 課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する。(課題Ⅰ50%，課題Ⅱ50%）なお，単位取得には，すべての課題を提出することが前提条件となる。ただし、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』（丸善)、『初歩からの建築製図』（学芸出版社）他、授業内に適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 住環境設計演習Ⅲ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 佐々木　一泰 ・ 松本　尚子※ ・ 山本　麻子※ | |
| 授業概要 | 住空間においてより広い視野を養う。第 1 課題では住居空間と公共性をもつ非住居空間を併用した建築物を計画する。それぞれの空間の特性を理解し，それぞれの設計条件を考慮した空間を考える。第 2 課題では，より社会性をもつ住空間として，社会性を反映した空間の設計を行う。地域や様々な家族構成，利用者のスケールを観察・理解し，周囲の外構空間や共用空間，個別空間に反映させる<br>　第 1 課題では，フィールドサーベイ・住宅設計・店舗設計・ビジュアルコミュニケーションデザインを，第 2 課題では，上記に加え社会性のある課題をテーマに据え，さらに実務的な設計手法を学ぶ。それぞれの課題では，構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につけることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1)それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。<br>(2)周辺環境を理解した住空間の提案が出来る。<br>(3)平面図，断面図，立面図を作成することができる。<br>(4)模型による素材や形，空間の表現ができる。<br>(5)構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。 | |
| 成績評価 | 課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する。(課題 1　50%，課題 2　50%）また適宜，小課題を出題し，授業時間内に完成させる。なお，単位取得には，すべての課題を提出することが前提条件となる。ただし，授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『初めての建築設計　ステップ・バイ・ステップ』（彰国社）（住環境設計演習Ⅱと共通）『ｺﾝﾊﾟｸﾄ設計資料集成〈住居〉』（丸善） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 住環境論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮本　雅子 | |
| 授業概要 | 超高齢社会に突入した今日、建築の分野では高齢者・障害者にとって好ましい住環境について理解することは避けて通れない。そこで、まず高齢社会における住宅の考え方を理解し、高齢者・障害者に対応した住まいの条件について知る。また、住環境の中でも室内の物理的環境である熱、空気、光を取り上げ、人間と物理量との関係から快適な居住環境をつくりだすための条件を導き出すとともに、自然環境を積極的に利用した室内の環境づくりについて講義する。 | |
| 到達目標 | (1)空間デザインの中に活かせる知識を得る。<br>(2)環境条件の評価ができる。 | |
| 成績評価 | 小テスト 30%、レポート 10%、期末試験 40%、レスポンスペーパー20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>参考書：「コンパクト建築設計資料集成バリアフリー」「シックハウスを防ぐ最新知識」等、講義の中で適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生涯学習論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 知識基盤社会といわれる 21 世紀の今日，生涯を通した継続的な学習のあり方を模索することは、個人的にも社会的にも現代を生きる私たちの共通課題である。本授業では，人間的および社会的発達を視野に入れた生涯学習の理論と実践、そしてその方法と現代的課題について，ワークショプなど新たな学習スタイルを用いて学んでいく。 | |
| 到達目標 | ・生涯学習の理論、方法、現状と課題について理解している。<br>・「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを他の受講者と協働で経験し、省察的学習の方法を身につけている。<br>・生涯学習の支援者としての理論と方法を身につけている。 | |
| 成績評価 | ３回のレポート（90%）と平常点（レスポンスシート等）で評価する。また、生涯学習の方法を実践的に習得することを目的としているため、評価では講義への出席を重視する。詳しくはオリエンテーションで説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは指定せず、毎時間資料を配布する。参考文献も適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 消費科学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 向山　泰司※ ・ 小林　重信※ ・ 永野　暁※ ・ 藤本　昌則※ | |
| 授業概要 | 繊維に関する基礎知識（繊維、糸、布地、染色加工）および衣料品の企画･設計･製造に関する基本事項を習得する。 | |
| 到達目標 | 繊維製品の企画および使用に係る問題を考察するための基礎的能力を養う。 望ましくは、繊維製品品質管理士（TES)）の資格取得試験における当該科目の問題に対応できる程度の能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 期末試験 60％　小テスト 40％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各講師が作成し配布する。参考書：日本衣料管理協会出版「繊維製品の基礎知識シリーズ（新訂）」(第１部)、日本衣料管理協会出版「繊維製品の苦情処理技術ガイド　色に関する苦情」 日本衣料管理協会出版「繊維製品の苦情処理技術ガイド　縫製･副資材･安全衛生に関する苦情」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 消費科学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松尾　繁※ ・ 向山　泰司※ ・ 藤本　昌則※ | |
| 授業概要 | 消費科学Ⅰに引き続き、繊維製品の品質管理、要求品質とその評価方法並びに家庭用繊維製品の流通・消費過程、消費者苦情・環境問題について学習する。さらに、消費者苦情事例から苦情原因や改善・防止策を考え、論文の実践的な書き方について学習する。 | |
| 到達目標 | 繊維製品、主として衣料品の品質管理の内容並びに流通・消費者問題について理解できるようにする。 | |
| 成績評価 | 期末試験 60％　小テスト 40％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各講師が作成するテキストを配布する。参考書：日本衣料管理協会刊行委員会編「新訂２版　繊維製品の基礎知識シリーズ」（第１、２、３部)、日本衣料管理協会出版　苦情処理技術ガイド編集委員会（TES 西日本支部）編「繊維製品の苦情処理技術ガイド」（色に関する苦情、損傷、外観変化、機能低下等形態変化に関する苦情、縫製・安全性・表示等に関する苦情） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 消費者行動論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山田　歩 | |
| 授業概要 | この授業では、消費者の行動と心理を理解・分析するフレームワークを学びます。とても複雑にみえる消費者行動もその背景には共通の行動原理が働いています。こうした消費者行動の背景にあるメカニズムを理解することは、企業が効果的にビジネス活動・マーケティング活動を行う上で欠かせません。<br>現実社会の中で多様に振る舞う消費者を理解、分析、そして予測することができるように、消費者行動のモデルを学んでいきます。 | |
| 到達目標 | 1. 消費者行動論の基本的な考え方を理解する。<br>2. それらの知識をもちいて、現実の消費現象、企業のマーケティング活動を理解・分析できる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 60%，授業中の課題 40%で評価します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：<br>①友野典男（2006）『行動経済学』光文社<br>②チャルディーニ,R.（2007）『影響力の武器』誠信書房<br>③杉本徹雄（2012）『新・消費者理解のための心理学』福村出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 消費生活論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 青谷　実知代※ | |
| 授業概要 | 消費者の自立とその消費生活のあるべき姿。　現代の経済社会において、極めて複雑化、多様化、大型化している消費者問題発生の背景要因など、さまざまな側面を体系的、具体的にとらえ考察を行う。安全で豊かな消費生活を確立するため、教育、行政、企業および消費者それぞれのあるべき姿に言及し、諸外国の状況と我が国との比較に関しても講述する。さらに、現代的緊急課題についてもふれる。 | |
| 到達目標 | 個人的、社会的ライフスタイルを主体的に形成するため、生活の価値の選択、枠組みと意思決定能力を開発する。 | |
| 成績評価 | 期末試験（６０%）、レポート（２０%）、小テスト（２０%）で評価する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。参考書：授業の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品衛生学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福渡　努 | |
| 授業概要 | 飲食物に起因する危害を防止し，健康保持･増進を図るための原理を講義する。食品は人間にとって生命源であるが，健康を損ねる原因になることもある。本講義では，本来あるべきでない食品を本来の姿に保ち，飲食物による危害を防止する手段を理解してもらうことを目的とし、①食品衛生行政と法規②食品の変質と防止法③食中毒の現状とその原因・対策④食品による感染症・寄生虫症⑤有害物質による食品汚染のしくみ⑥食品添加物⑦器具・容器包装の安全性⑧国、企業、個人における食品衛生管理などについて講義する。 | |
| 到達目標 | 食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程において、人体に対する安全面への影響や評価を理解することを目標とするため、受講生は(1)食品衛生の定義、国および個人における食品衛生対策(2)食中毒の現状とその原因、予防するための方法(3)有害物質による食品汚染のしくみ(4)食品の変質とその防止(5)食品添加物に関する規格・基準、安全性評価、主な種類と用途(6)国、企業、個人における食品衛生管理　の知識を身につけることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)(2)(3)については、小試験（50％：(1)10%，(2)20%、(3)20%）、(4)(5)(6)については、期末試験（50%：(4)20%、(5)20%、(6)10%）で評価する。合計 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>ただし、授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：熊田・後藤・桜井編著「栄養管理と生命科学シリーズ　食品衛生の科学」（理工図書）<br>参考図書：講義中に紹介する。<br>その他、適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品衛生学実験 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福渡　努 ・ 森　紀之 | |
| 授業概要 | 実際の試験を通じて，食品の安全性確保の重要性を学ぶ。安全性に関わる試験・検査法における基本的な原理や方法の概要を理解するため、生菌数検査や大腸菌群の検査といった衛生微生物試験、着色料や保存料などを定性・定量する食品添加物試験、食品の変質を調べる安全性試験を行う。 | |
| 到達目標 | (1)食品衛生における微生物に関する一般生菌数試験法を理解し、試験を遂行できる<br>(2)食品・飲料水における大腸菌群試験法を理解し、試験を遂行できる<br>(3)食品添加物の検出方法の概略を理解し、分析を遂行できる<br>(4)油脂の変質の指標である３つの価について、それぞれの試験法の原理を理解し、試験を遂行できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)～(4)について、実験ノート（20%）、手技の観察（20%）、実験レポート(60%)で評価する（(1)25%、(2)25%、(3)25%、(4)25%）。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：中村好志・松浦寿喜　編著「健康と食の安全を考えた食品衛生学実験」（アイ・ケイコーポレーション発行）<br>その他、適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品学総論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福渡　努 | |
| 授業概要 | 食品がもつ最も重要な機能は，生命活動の維持および健康の維持に必要な栄養素を供給することである．このことを踏まえ，本講義では，食品成分（栄養素，嗜好性成分，機能性成分等）の種類，構造，性質に関する基礎知識の習得を目的とした解説を行う．また，調理・加工による食品成分の変化について扱うとともに，日本食品標準成分表の利用に関する理解を深める． | |
| 到達目標 | (1) 栄養素の種類を分類できる<br>(2) 食品機能について説明できる<br>(3) 各食品成分の種類，構造，性質，変化，生理機能を説明できる<br>(4) 食品成分表の利用について説明できる<br>(5) 食品機能と健康との関連について自分の考えを説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) ～ (4) については，定期試験（60%），小テスト（20%），レスポンスシート（10%）で評価する．(5) については，課題レポート（10%）で評価する．<br>100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする．<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：池田清和・柴田克己編「食べ物と健康１」（化学同人）<br>「日本食品標準成分表 2010」（全国官報販売協同組合）<br>「日本人の食事摂取基準 2015 年版」（第一出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品加工実習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　健太郎 ・ 森　紀之 | |
| 授業概要 | 加工食品の製造を通じて，食品の加工および保蔵の科学的原理を学ぶことにより，食品加工および衛生管理の意義・目的を実践的に理解する．また，大規模製造工場での講義および見学を通じて，食品工業における食品製造の意義・目的を理解する． | |
| 到達目標 | (1) 実習を準備し，遂行できる<br>(2) 食品加工・保蔵および衛生管理の原理と方法を説明できる<br>(3) 食品加工にともなう食品成分の変化を説明できる<br>(4) 実習を介して疑問を呈し，文献等を調べ，論理的に説明できる<br>(5) 食品工業における食品製造の意義・目的を説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) については，実習ノート（20%）および手技の観察（20%）で評価する．(2) ～ (5) については，レポート（60%）で評価する．<br>100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする．<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：森孝夫編「食品加工学実験書」（化学同人），プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品基礎実験 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　健太郎 | |
| 授業概要 | 実験の心得を十分に熟知した後、実験の目的および食品の分析・解析を行うための分析原理・技術を正しく理解し、基礎的な実験操作を習得する。食品の主成分の定性定量分析を行い、食品の持つ物理的・化学的性質を具体的に認識する。 | |
| 到達目標 | 実験の安全な遂行、実験の予習と準備、実験原理の理解、実験に必要な注意事項の理解、適切な実験ノートへの記録、実験器具の正しい操作、適切なレポートの作成、の全てが行えるようになること。 | |
| 成績評価 | 到達目標に関して，実験準備２５%、実験遂行能力２５%、レポート５０%で評価する．ただし，授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：橋本俊二郎 編「食品学実験」（講談社サイエンティフィク），<br>倉沢新一 ほか 著「栄養士・管理栄養士をめざす人の実験プライマリーガイド」（化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品機能科学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福渡　努 | |
| 授業概要 | 日本人の食事摂取基準に基づいた栄養マネジメントを実施するためには，栄養素レベルを食品，料理レベルに置き換える能力，各料理区分の栄養成分の特徴を踏まえて料理から栄養素摂取量を推定する能力が必須となる．このことを踏まえ，本講義では，食品素材ごとに構成成分の特徴および調理・加工による変化について解説する． | |
| 到達目標 | (1) 食品素材の種類を分類できる<br>(2) 各食品素材の構成成分について，構造，特性，利用，機能，変化を説明できる<br>(3) 食品表示について説明できる<br>(4) 各栄養素の供給源となる食品素材について説明できる<br>(5) 食品素材と健康との関連について自分の考えを説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) ～ (4) については，定期試験（60%），レスポンスシート（10%）で評価する．(4) および (5) については，課題レポート（30%）で評価する．<br>100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする．<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：小西洋太郎・辻英明編「食品学各論」（講談社サイエンティフィク）<br>「日本食品標準成分表 2010」（全国官報販売協同組合）<br>「日本人の食事摂取基準 2015 年版」（第一出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品機能科学実験 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福渡　努 ・ 佐野　光枝 | |
| 授業概要 | 食品成分に関する理解を深め，日本食品標準成分表に示される数値の意味を理解するために，食品の一般成分分析を行う．併せて，食品成分の定性定量分析に関する原理を理解し，実験技術を習得する． | |
| 到達目標 | (1) 食品分析実験を準備し，遂行できる<br>(2) 実験器具を正しく操作することができる<br>(3) 実験原理，測定方法を説明できる<br>(4) 食品分析実験で得たデータを解析し，まとめることができる<br>(5) 食品分析実験を介して疑問を呈し，文献等を調べ，論理的に説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) については，実験ノート（20%）および手技の観察（10%）で，(2) については，手技の観察（10%）で，(3) ～ (5) については，レポート（60%）で評価する．<br>100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする．<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：橋本俊二郎編「食品学実験」（講談社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品の調理と加工 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小川　正※ ・ 森　紀之 | |
| 授業概要 | 人は食品から栄養素を体内に取り入れることで生命を維持している。個々の食品の素材から栄養素を安全に美味しく、かつ効率よく吸収できるように摂取するためには工夫がいる。人はそのための一連の操作・技術を確立してきた。これらを調理あるいは加工と呼んでいる。本講義では、調理法や加工技術の基本を、食品素材の構成成分あるいはそれらの集合体としての化学的性質、物理的特性を通して理解すると同時に食生活の実践の場で応用しうる能力を養う。 | |
| 到達目標 | 食品素材の化学的性質、調理・加工特性を理解し、実生活に応用できる。 | |
| 成績評価 | 期末テスト（７０%）、小テスト（３０%）（原則として授業時間数 2/3 以上の出席者のみ評価の対象とする）１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:「新しい食品加工学―食品の保存・加工・流通と栄養」南江堂参考書:「新ガイドライン準拠・エキスパート管理栄養士養成シリーズ・調理学」化学同人、「New 調理と理論」同文書院、「日本食品標準成分表２０１０」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食品微生物学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹原　宗範 ・ 浦部　貴美子※ | |
| 授業概要 | 食品微生物学は（1）食品の加工、製造に関係する微生物（2）食品保存中の変質をもたらす微生物（3）食品衛生に関係する微生物を対象とする学問である。本講義では，このような微生物についての基礎的な概念や知識を体系的に解説し、さらに食品の品質劣化に関わる微生物の制御や、食品製造における微生物利用、微生物における遺伝情報の流れとその利用技術の基礎について講義する。 | |
| 到達目標 | (1) 食に関わる微生物の種類、生育・代謝の概要を知ることができる。<br>(2) 食品との関わりにおける微生物の有害・有用の両側面を理解することができる。<br>(3) 食品製造における微生物の利用と制御の方法を理解することができる。<br>(4) 微生物における遺伝情報の流れとその利用技術の基礎を理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）については授業時間内に実施する小試験（20%）、(2) については小試験（10%）と定期試験（20%）、(3) については定期試験（20%）、(4) については小試験（15%）と定期試験（15%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>※授業時間数 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：高見伸治ほか共著：食品微生物学（建帛社）<br>参考書：村尾澤夫、荒井基夫共編　応用微生物学・改訂版（培風館）<br>※適宜、参考となるプリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食料経済システム論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 増田　佳昭 | |
| 授業概要 | グルメが謳歌される反面，わが国の食料自給率は４０%である．食品企業の不祥事が相次ぎ，食の安全性や表示に関する消費者の懸念も強まっている．わが国の食料システムはいまどのような状況にあるのか．望ましい食料経済システムにはどのような要件が求められているのか．本講義では，食料経済システムの現状と問題点について具体的な品目を取り上げながら，多面的な視点から講義する．とくに近江米や近江牛、野菜の地産地消など地域における農産物の生産と流通についても講述する。 | |
| 到達目標 | （1）わが国の食料需給をめぐる問題点を説明できる。<br>（2）食品製造業、食品流通業、飲食業から成る食品産業の構成を説明できる。<br>（3）主要な農産物の流通経路の概要について説明できる。<br>（4）食料システムが持つ問題点と望ましい姿について自分の意見を述べることができる。 | |
| 成績評価 | 各到達目標ごとの評価配分割合は以下の通り。<br>（1）２５%、（2）２０%、（3）３０%、（4）２５%<br>評価方法は下記の通り。<br>小レポート４０%、小テスト２０%、定期試験４０% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：茂木信太郎『外食産業の時代』、農林統計協会<br>藤島・安部・宮部『現代の農産物流通』 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人文地理学Ａ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 塚本　礼仁 | |
| 授業概要 | 地理学は、地表面で見られる現象が起こる空間的・地域的メカニズムの解明を目指してきた。人文地理学とは、地域の人口、民族、社会・文化、産業、集落（都市・村落）など、人間活動に由来するテーマを分析し、上記の目標にアプローチしようとする分野である。本講義では、人文地理学の基礎理論を紹介し、できるだけ多くの具体例で検証を加えながら、地理的現象の発生および変容のしくみについて考えていきたい。 | |
| 到達目標 | (1)世界・日本の地域問題について、地理学の理論を用いて考察することができる。<br>(2)世界・日本の地域問題について、統計データから特徴を読み取ることができる。<br>(3)世界・日本の地域問題について、地図から特徴を読み取ることができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 60％　：到達目標(1)20％、(2)20％、(3)20％<br>小テスト 40％　：到達目標(1)20％、(2)10％、(3)10％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜プリントなどを配布する。<br>参考図書：授業の中で紹介する。<br>指定図書：上野和彦・椿真智子・中村康子編著(2007)『地理学基礎シリーズ１　地理学概論』朝倉書店. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人文地理学Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 塚本　礼仁 | |
| 授業概要 | 食べ物なら近江米、近江牛、近江茶…、消費財なら信楽焼、彦根仏壇、近江上布…というように、滋賀県にも様々な特産物・特産品が見られる。ただし今日、食料の輸入依存度の上昇と国内第一次産業の弱体化、製造部門の海外移転にともなう国内”ものづくり”の空洞化など、全国各地の「地域産業」を取り巻く状況は大変厳しい。本講義では、こうした地域産業（の産地）の姿を詳細に、かつ多角的につかむことはもちろん、産業を持続させる（させてきた）地域システムについて考える機会も提供したい。 | |
| 到達目標 | (1)日本の食料事情について、食料地理学の理論を用いて考察することができる。<br>(2)日本のものづくりについて、経済地理学の理論を用いて考察することができる。<br>(3)統計や地図から、地域産業の特徴を読み取ることができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 60％：到達目標(1)20％、(2)20％、(3)20％<br>小テスト 40％：到達目標(1)20％、(2)10％、(3)10％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜プリントなどを配布する。<br>参考書：授業の中で紹介する。<br>指定図書：高柳長直ほか編(2010)『グローバル化に対抗する農林水産業』農林統計出版. 上野和彦(2007)『地場産業産地の革新』古今書院. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 心理・発達・行動学実験演習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹下　秀子 ・ 松嶋　秀明 ・ 細馬　宏通 ・ 上野　有理 | |
| 授業概要 | 人間行動に対する総合的な研究実習を目的とする。１）人間の行動や心の働きを、どのように記号化し、どのように解析することができるか・できないかを、具体的な実習を通じて検討する。２）観察行動自体を制約するヒトの認知・コミュニケーション特性に焦点をあて、これに関する基礎的な心理学実習を実施し、データの扱いを学ぶ。３）行動発達の場である、野外の研究フィールドや教育・福祉関係の実践現場にでかけ、各種観察法を実習する。 | |
| 到達目標 | 行動観察法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。 | |
| 成績評価 | 実習の各課題は数名のグループ単位で実施するが、まとめのレポートは受講者が個別に作成する。到達目標に示す「行動観察法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する」について、出席点、授業への参加度（発表含む）を評価に含み（原則５０％）、課題ごとのレポート（原則５０％）を総合的に判断して決定する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に適宜配布、紹介する。指定図書：授業中に適宜紹介する。参考書：授業中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 心理学基礎 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹下　秀子 | |
| 授業概要 | 現代心理学の基本的なテーマについて解説する。人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などをとりあげる。 | |
| 到達目標 | 人間の心の働きへの科学的アプローチが可能なこと、心が人間関係や社会文化のなかで発達進化することを理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す「人間の心の働きへの科学的アプローチが可能なこと、心が人間関係や社会文化のなかで発達進化することを理解する」について、期末試験（５０％）とレポート等（５０％）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：長谷川寿一他著『はじめて出会う心理学』（有斐閣） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | スポーツ栄養学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　直也 ・ 東田　一彦 | |
| 授業概要 | スポーツおよび運動療法における栄養の役割と管理方法について学ぶ。スポーツは、非常に多くの種目が存在し，たとえ一つの種目においても活動場面により必要な栄養が異なってくる．運動と栄養の関係を理解しアスリートおよび運動療法への応用を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 運動時のエネルギー代謝について理解する<br>(2) 栄養素と運動機能維持の関係について理解する．<br>(3) 運動療法時に必要な栄養管理についてメカニズムを通して理解する．<br>(4) スポーツ種目に応じた栄養指導について理解する． | |
| 成績評価 | 到達目標(4)をレポート 20％で評価し，(1)，(2)および(3)を期末試験 80％で評価する． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜指導 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活栄養論演習Ⅰ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。 | |
| 到達目標 | 自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | 講義毎に各担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック（西川真理子著：化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活栄養論演習Ⅱ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 食生活のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な文献や資料を集めさせ、また順次に研究の経過を報告させて、論文作成を指導する。 | |
| 到達目標 | 指導教員が初回の講義において説明する | |
| 成績評価 | 指導教員が初回の講義において説明する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する指定図書：適宜指示する参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | 卒業研究・論文と併せて受講する。 | |

| 科目名 | 生活経営論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山田　歩 | |
| 授業概要 | この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、自らの生活をよりよくマネジメントする力を身につけることを目標とします。ふだん何げなく接している家族、地域社会、消費社会、あるいは情報環境などを知ることを通して、現在と将来の自分の生活を見つめ直し、それらをよりよいものに設計することに役立ててもらいたいと考えます。 | |
| 到達目標 | この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、自らの生活をよりよくマネジメントする力を身につけることを目標とします。 | |
| 成績評価 | レポート課題 50%、授業中の課題 50%で評価します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：臼井和恵（編著）他（2007）『21 世紀の生活経営　自分らしく生きる』同文書院 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活造形基礎演習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 南　政宏　・　麻谷　宏※ | |
| 授業概要 | あらゆるデザイン活動の基礎となる「観察力」「表現力」「想像力」を、色彩・立体構成などの実習を通して学ぶ。<br>思考から制作に至るまでのプロセスや柔軟な発想と表現力を重視する。<br>平面色彩構成では、テーマに沿って、色を混色し、選択し、配置する。<br>立体色彩構成では、平面で得た技術を立体へ展開し、空間を創ることを学ぶ。<br>石膏表現では、テーマを立体で表現し、削ることから生みだす形態操作、造形手法の基本技法を習得させる。<br>最終課題では、それまでに学んだことの集大成として、アイデアを発想し、複合的に思考し、形や色へ落とし込む作業をする。<br>確かな基礎造形力を身につけることで、その後の専門性を最大限に高めてゆくことを目指す。 | |
| 到達目標 | 今後、上位のデザイン演習に対応できるよう色彩感覚、造形力、発想力、構成力、表現力の基礎を習得する。 | |
| 成績評価 | 完成提出作品とプレゼンテーションにより評価（100%）<br>ただし授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：Balance in Design（ビー・エヌ・エヌ新社）<br>参考書：アイデアのヒント（阪急コミュニケーションズ）<br><br>アクリルガッシュ、スケッチブック、クロッキー帳、ペンシルホルダー、30 度カッター、カッターマット等の道具の購入が必要。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活素材論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 三宅　肇※ | |
| 授業概要 | 生活に多く用いられる素材である繊維に焦点をあて、繊維の種類、構造、性能の概要を解説する。さらに、素材への付加価値の付与として、仕上げ加工、改質加工等の原理と実際についてのべる。ついで、高性能素材としての繊維の最近の進歩について触れ、新しい技術開発を紹介し、素材についての理解を深める。 | |
| 到達目標 | (1)繊維の種類、構造、特徴を理解できること。<br>(2)繊維原料から衣服になるまでの工程を理解できること。 | |
| 成績評価 | レポート評価 40%　期末筆記試験 60%<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書、参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活デザイン学外演習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 地域や社会において、よりよい生活環境を実現するために何が問題なのかを明らかにする。問題に取り組む意識や立場、有効な手法を議論し、その解決方法を検討し、レポートの作成、具体的な提案や発表、制作等を行う。授業は具体的な課題やテーマに即し、フィールドワークを中心として行われる。 | |
| 到達目標 | 地域、社会に関わる問題について専門的視点から分析、考察し、解決・提案できる総合的な生活デザイン能力の習得をめざす。 | |
| 成績評価 | フィールドにおける演習、およびレポート等の提出、発表などにもとづき、学科教員全員の協議により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：授業時間内に適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活デザイン論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 生活デザイン学科では道具・住居・服飾という 3 分野を中心に学んでいる。この授業では生活におけるデザインの役割について、各分野それぞれにテーマを設け、生活の中にあるさまざまなデザインや知恵、技術を拾い出す。また、これからの生活デザインと各分野のあり方について考察を行い、ひとつの分野からは見えにくい横断的な視点を養う。また各分野ごとにゲストを招聘して講義を行う。 | |
| 到達目標 | （1）生活におけるデザインの役割という視点での知識を深め、その背景、価値を理解できるようにする。<br>（2）生活に関わるデザインの各分野について基礎的な知識を身につける。 | |
| 成績評価 | 小レポート、小テスト、小課題などを適宜行い、その提出状況によって評価する。（小レポート・小テスト、小課題などの合計 100%）授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし。適宜プリントを配布する。<br>参考書：授業内に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活デザイン論演習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。 | |
| 到達目標 | 卒業研究で取り組むべき課題の意義について述べることができる。 | |
| 成績評価 | 調査・研究中間報告、課題発表、レポート・制作物等により総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書・参考書：授業時間内に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | 生活デザイン学科 3 回生以上とする | |

| 科目名 | 生活デザイン論演習Ⅱ（3 単位） | ３単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。 | |
| 到達目標 | 卒業研究で取り組む課題領域についての知識を深め、課題を達成するための研究方法、制作方法、調査方法などを修得する。 | |
| 成績評価 | 調査・研究中間報告、課題発表、レポート、制作物、最終発表等により総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業時間内に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | 生活デザイン学科 3 回生以上とする | |

| 科目名 | 生活と教育 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 子どもは親の子であると同時に社会の子であり、子どもは家庭と社会のなかで成長する。本授業では、現実の社会において教育がどのような機能を果たしてきたか、国家および産業社会と教育との関係を社会科学的知見から読み解き、子どもを取り巻く生活世界と今日的教育課題を考察する。 | |
| 到達目標 | 社会科学的なものの見方、考え方を身につける。<br>子どもを取り巻く生活現実と今日的課題について理解する。<br>グループ討論を通じて、自分なりの考えを述べられるようになること。 | |
| 成績評価 | 各講義後に提出する小レポート（３０％）と授業中の課題（３０％）、最終レポート（４０％）をもとに、総合的に判断する。なお、小レポートの未提出が４回以上の場合は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは指定せず、必要な資料は講義中に配布する。また参考文献などについても講義中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生活法 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 隔年開講（平成 27 年度不開講）かつ担当者未定のため、未定 | |
| 到達目標 | | |
| 成績評価 | | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政治学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹本　知行※ | |
| 授業概要 | 政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。人間の社会が存続する限り，「政治」なるものは消えることはない。では，我々が付き合わざるを得ない「政治」とはどのようなものなのか，そして，我々はそれにどう向き合っていけばよいのだろうか。本講義では，テキストを中心に以上の問題について考察を進めつつ，適宜，指定した参考文献なども用いて，先人が政治とその諸テーマについてどのように考えてきたのかについての理解も深める。 | |
| 到達目標 | 現実の政治的問題について、自分なりの見解をもてるようになること。 | |
| 成績評価 | 学期末筆記試験 100％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：等松春夫・竹本知行編著『ファンダメンタル政治学』（北樹出版、2010 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政治学Ⅱ（国際政治を含む） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹本　知行※ | |
| 授業概要 | 国際政治学についての基礎知識を得ることで国際政治を見る「目」を養う。国内政治とは異なる国際政治の特徴とは何か。動的視点から国際政治の変容段階を概観し，現代の国際社会を分析し，日本の国家的課題とは何かを考える。 | |
| 到達目標 | 国際政治の諸問題と日本の課題について、自分なりの見解をもてるようになること。 | |
| 成績評価 | 学期末筆記試験 100％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：等松春夫・竹本知行編著『ファンダメンタル政治学』（北樹出版、2010 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 政治経済学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　英明※ | |
| 授業概要 | わたしたちの生きている経済社会は、市場システムを主軸とするとともに、政治、社会、文化などの諸要素が絡み合いながら成り立っている。本講義は、政治経済学の概略を通じてこの社会の基本的な特徴について考察する。さらに、雇用や近代家族・ジェンダーといった、市場と人間社会とをつなぐ社会関係のあり方に焦点を当てて、現代の社会経済システムの抱える諸問題について検討する。 | |
| 到達目標 | (1)政治経済学の概要を学び、資本主義経済システムの基礎的な構造や特性について理解する。<br>(2)経済社会の問題を、広い視野で総合的に捉え、考察するための視角やセンスを身につける。 | |
| 成績評価 | (1)については、宿題（基礎的な概念や原理の理解）および期末筆記試験（資本主義経済システムの基礎的な構造や特性の理解）で評価する。<br>(2)については、期末筆記試験で評価する。<br>宿題 10%、期末筆記試験 90%（(1)が 60%、(2)が 30%）の割合で 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは指定せず、プリントの配布や STEP-USP 等を通じて教材を提供する。<br>参考図書は、適宜、講義中に指定する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生体の構造と機能 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 矢野　仁康 | |
| 授業概要 | 人体の構造としての骨格系、筋肉系、神経系、循環器系、消化器系、感覚器系、生殖器系の成り立ちを臓器レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベルにおいて理解し、その機能発現の仕方を学ぶ。また、人体の形態、構造と機能の関係を正しく理解できるように、図を用いて人体に関する基礎知識をわかりやすく講義する。 | |
| 到達目標 | ①　正常な身体の構造を知り、その機能が理解できる<br>②　人体を機能的･臓器別に分類し、その構造と仕組みが理解できる<br>③　解剖学と生理学の知識の融合により、人体の構造と機能が総合的に理解できる<br>④　体の構造と働きに関する基礎知識や考え方を通して、臨床医学の理解が可能となる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、①、②、③は各々課題レポート１０％ずつで合計３０％、④は定期試験を行い７０％、合計１００点満点で採点を行い、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：佐藤達夫ほか「解剖生理学」医歯薬出版株式会社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生命科学と人間 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　健太郎 | |
| 授業概要 | 生命の維持，健康の維持，生活習慣病予防のための情報が氾濫している．正しい情報と誤った情報を判断する力が必要である．厚労省策定の「食事摂取基準」は，健康な個人または集団を対象とし，国民の健康の保持・増進，生活習慣病の予防を目的としたエネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示すものである．栄養素の摂取不足による栄養欠乏症予防に留まらず，生活習慣病予防のための摂取栄養素等が，年齢別，性別にわけて記載されている．個々の日本国民の健康を守る根本的な情報源である．正しい情報と誤った情報を判断するのに必要最低限の知識を学ぶ. | |
| 到達目標 | 個人レベルにおける食の倫理の大切さを考える | |
| 成績評価 | レポートによって評価する。ただし、講義時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：日本人の食事摂取基準（2015 年版）<br>指定図書：なし参考書：なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 西洋史 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　司樹※ | |
| 授業概要 | 文化を知るには歴史を学ばなければならない。個人の表情・性格にその人生があらわれているのと同様に、個人の集合体である社会にはその歴史が刻印されている。授業では西洋史の大まかな流れを学ぶ。しかし偉人や都市、事件の名前や年号を「覚える」のではなく、現在の文化や習慣について「考え」、「理解する」ための知識を身に着ける。それは海外の情報や文物、あるいは海外でする経験について、今後自分で思考するための具体的手がかりになるだろう。町並み、食生活、ものの考え方など、すべては歴史の産物である。 | |
| 到達目標 | 西洋の風景や文物、習慣、あるいは私たちにとって身近な外来文化の、具体的背景である西洋史の知識を得る。かつ理解したことを説明し、それを自分のものの見方・考え方の発展に結びつける力を養う。 | |
| 成績評価 | 暗記は必要ない。減点主義もとらない。具体的には、①定期試験（40%）、②小レポート（30%）、③レスポンスペーパー（30%）の３つで評価する。①～③すべてに共通する評価基準は、「具体的に書けているかどうか」である。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>指定図書：プリントないし講義の中で適宜紹介する。<br>参考書：同上。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 西洋史概説 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北村　知之※ | |
| 授業概要 | 高校の世界史で学んだヨーロッパ史を踏まえながら、美術に焦点を当てて、古代ギリシアから現代までの歴史的展開をたどり、その変遷と意味について解説する。講義では視覚教材を多用して西洋美術の傑作の数々を紹介するので期待してもらいたい。 | |
| 到達目標 | 西洋美術においてそれぞれの時代を代表する作品の歴史的意義を理解し、論じられるようになること。 | |
| 成績評価 | レポート(2/3)と試験(1/3) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを配布する。<br>参考図書：高階秀爾監修、『カラー版西洋美術史』、美術出版社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 専門外書講義 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　健太郎 | |
| 授業概要 | 生活栄養における各分野の研究内容について理解を深めると共に、英文の講読力を養うことを目的とする。各分野の教員が準備した専門の英語文献等を教材として、受講生自らが適切にレビューし、さらに担当教員が解説を行う。 | |
| 到達目標 | 英文の専門学術書・論文などに対する基礎的な読解力を身につけることができる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時にレポートによって評価する。ただし、講義時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：担当教員が適宜準備したものを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 組織とネットワークの社会学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 藤岡　伸明※ | |
| 授業概要 | 組織とネットワークは社会を構成する重要な要素である。また、社会そのものの存在を実感することは困難でも、組織とネットワークであればその存在を具体的で可視的なものとして認識することはさほど難しくない。したがって、組織とネットワークは、社会というつかみどころのない対象を捉えるための格好の切り口または出発点になりうる。このような問題意識のもとで近代以降の組織とネットワークの特徴を考察することによって、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につけることがこの授業の目的である。授業では、写真、映像、新聞記事などを積極的に活用する。 | |
| 到達目標 | (1) 近代以降の組織とネットワークに関する基礎的な知識を得る<br>(2) 組織とネットワークの考察を通して、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につける | |
| 成績評価 | 平常点 60%（出席・授業への参加度など）、レポート 40%を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特定の教科書は使用しないが、以下の文献を主要な参考文献として利用する。<br>長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』第 4 章「組織とネットワーク」有斐閣、2007 年<br>これ以外の参考文献については授業中に適宜指示する。また、授業中にレジュメを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 卒業研究・論文（地域文化） | ８単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 規定に従って、研究の成果を論文（作品）として提出する。 | |
| 到達目標 | (1)研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現・映像表現などによる卒業論文（作品）が作成できるようになる。 | |
| 成績評価 | (1)研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現・映像表現などによる卒業論文（作品）が作成できるようになるについては、論文（作品）および口頭試問の内容により評価する(100%)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特になし。 | |
| 履修資格 | 地域文化演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること | |

| 科目名 | 卒業研究・製作／論文（生活デザイン） | ８単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業制作と卒業論文の課題については、生活デザイン専門分野の中から学生自身が担当教員の指導の下に決定し、それぞれの課題に従って制作あるいは論文の作成を行う。卒業制作を行う学生は、制作の他にその内容を説明し、補強する研究報告を同時に提出しなければならない。最終的には卒業研究の成果を発表する展示および口頭発表会を開催し、成果をまとめた卒業研究報告集を刊行する。<br>①担当教員の指導により前期の早い時期に卒業研究のテーマを決定する。 ②９月の中間報告会で中間発表を行う。 ③期限までに、規定の内容の論文（作品）を提出する。 | |
| 到達目標 | 各自がそれぞれ課題としたテーマについて自信を持って発表できる。 | |
| 成績評価 | 途中の進捗状況、中間発表並びに最終審査の結果によって合否を判定する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指導教員が適宜指示する。 | |
| 履修資格 | 生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。卒業単位を１１０単位以上修得していること。 | |

| 科目名 | 卒業研究・論文（生活栄養） | ８単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 生活栄養論演習 II（平成 23 年度以前入学生は食生活論演習）での指導に従い、各自の設定した課題について、実験、調査による研究を行い、論文としてまとめ、提出させる。 | |
| 到達目標 | 各指導教員ごとに異なることから、指導教員が初回の講義において説明する。 | |
| 成績評価 | 指導教員が初回の講義において説明する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜指示する<br>指定図書：適宜指示する<br>参考書：適宜指示する | |
| 履修資格 | 生活栄養論演習 II（平成 23 年度以前入学生は食生活論演習）を併せて受講する | |

| 科目名 | 卒業研究・論文（人間関係） | ８単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 「人間関係論演習Ⅰ」および「人間関係論演習Ⅱ」での指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題を、所定の様式の論文として完成する。 | |
| 到達目標 | 卒業論文を書き上げること | |
| 成績評価 | 卒業論文構想発表と卒業論文中間発表の内容、提出された卒業論文の内容、および、口頭試問と卒業論文発表会での状況を総合して合否を評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中に適宜指示する。 | |
| 履修資格 | 「人間関係論演習Ⅰ」を履修済みであること。「人間関係論演習Ⅱ」をあわせて履修すること。 | |

| 科目名 | 卒業研究論文（国際コミュニケーション） | ８単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 発展演習Ⅰ・Ⅱ、研究演習Ⅰ・Ⅱでの指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題についての研究を深め、その成果を論文として提出する。 | |
| 到達目標 | 研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現を備えた卒業論文を書き上げる。 | |
| 成績評価 | 提出された論文の内容、口頭試問を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指導教員が適宜指示する。 | |
| 履修資格 | 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、発展演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。 | |

| 科目名 | 対外文化交流論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　俊明 | |
| 授業概要 | 今年度は渤海と日本をテーマ〇テーマ：新羅と倭国・日本<br>〇日本と朝鮮半島の関係に関する知識を共有することを目的とする。今期は、新羅との関係である。<br>新羅は、朝鮮三国の１つとして、朝鮮半島の東南におこり、百済・高句麗と抗争をつづけたが、<br>７世紀なかばに唐と連合して、百済・高句麗を滅ぼし、１０世紀までつづいた。<br>その当初から倭国・日本との関係もみられるが、概して良好な関係とはいえない。<br>百済復興運動では実際に交戦もしている。統一以後は、８世紀なかばを境に、国家的な外交から私的な交易と変化していく。<br>こうした新羅と倭国・日本との関わりを述べる。 | |
| 到達目標 | 古代の国際関係についての基礎知識を得ること、および相対的な見方ができるようになること。 | |
| 成績評価 | 学期中のレポート１回２０％、期末試験８０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特にナシ。<br>参考書：田中編『朝鮮の歴史』昭和堂ほか適宜、指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 対外文化交流論Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫 | |
| 授業概要 | いかなる地域・国も完全孤立の状態では存続しえない。付け加えるなら、個人レベルにおいてもそれは当てはまる。日本列島は海を隔てて中国大陸・朝鮮半島などから地理的に孤立しているように見えるが、その海こそが交流の橋渡し役であった。日本文化は、主に中国・朝鮮の文化を常に取り入れてきた。最近では欧米文化も取り入れ、多様な文化を融合しつつあるように見える。本授業では、主に考古資料を中心に据えて、日本の対外交流の歴史を旧石器時代から江戸時代まで通観するとともに、土器・陶磁器をテーマとして対外交流の具体例を掘り下げてみる。 | |
| 到達目標 | １.日本列島の地理的位置の再確認と海の再評価<br>２.日本文化は常に外来文化を吸収することによって発展してきたことを理解する３．文化の多様性を認め、文化融合の過程を理解する | |
| 成績評価 | 講義理解度 60%、レポート（小レポート２回・期末レポート）４０％で成績評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント資料を配布する参考書：授業中に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 多民族社会論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 友永　雄吾※ | |
| 授業概要 | 近年、多文化・多民族国家として知られるオーストラリアを事例に、「移民」と「先住民」への国家の政策とそれへの人々の対応に注目し、多文化・多民族社会における排除・包摂のプロセス、さらに共生の可能性について検討する。これにより、現代オーストラリア社会の理解と同時に、日本における多文化・多民族社会についても考察を深めていく。 | |
| 到達目標 | オーストラリアについて学んだことを参考にして、自分の身の回りの例やほかの国の事例においても、多文化・多民族共生について考察を深められる。また、自分自身がその課題に対してどのようにかかわれるかを考えることができる。 | |
| 成績評価 | ２回の小テスト［授業内で得た知識の理解度］（50%）と最終授業日に提出するレポート［自ら課題を設定し、それについて調査し考える力］（50%）とで成績評価をおこないます。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | （テキスト）なし、（参考書）小山修三・窪田幸子『多文化国家の先住民』、塩原良和『変革する多文化主義へ』、関根政美『多文化主義社会の到来』、竹田いさみ他（編）『オーストラリア入門第 2 版』、友永雄吾『オーストラリア先住民の土地権と環境管理』、藤川隆男編『オーストラリアの歴史』、松山利夫『ブラックフェラウェイ』 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 多民族社会論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Borjigin Burensain | |
| 授業概要 | 本講義は中国の少数民族居住地域にスポットを当て、人口の上で絶対多数を占める漢族と少数民族の人々がどのような関係性の中で共存しているのかを、内モンゴル自治区を事例に紹介しようとするものである。また漢族と少数民族の関係だけではなく、少数民族同士の複雑な関係も視野に入れた多民族社会が抱える複合的な社会関係を捉えたい。 | |
| 到達目標 | 中国における多民族居住空間をリアルに提示し、異なる文化をもつ人々が一つの地域で暮らすことによって生じる様々な軋轢と対立を分析することによって、現代社会における対立と共存の難しさ、そしてそれを乗り越えていくことの重要性を認識してもらいたい。 | |
| 成績評価 | 中間レポート 30%、質問票 10%、期末試験 60%（欠席数が１／３を超えた場合は評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書は適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 多民族社会論Ｃ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河　かおる | |
| 授業概要 | 単一民族国家であると理解されがちな日本について、多民族社会という観点から理解する。<br>前半は、特に在日コリアンの歴史と現状について中心的に扱う。後半は、1990 年代以後に増加し、滋賀県や近隣府県でも在住外国人の首位を占める在日ブラジル人とその家族について中心的に扱う。 | |
| 到達目標 | (1)日本における少数民族問題について理解する。<br>(2)在日外国人の歴史と現状について理解する。 | |
| 成績評価 | 小レポート、コミュニケーションカード、課題など 40%<br>中間レポート（前半のテーマについて）30%<br>期末レポート（後半のテーマについて）30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。<br>参考書：田中宏、2012、『在日外国人ー法の壁、心の溝』岩波書店[新書]<br>ほか、講義中に適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域運動論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大橋　松行 | |
| 授業概要 | 地域運動論とは、地域社会における生活上の問題を解決するための住民運動であり、それは、主として特定地域における住民生活環境の維持・改善をめぐる自治体住民の生活要求を客観的根拠・契機としている。この講義では、今日の「豊かな社会」日本の抱えている問題点を指摘するとともに、具体的に特定の地域で顕在化している諸問題と、それに関わっての住民運動について論じる。 | |
| 到達目標 | （1）地域社会の環境問題と環境運動に関心を持つことができるとともに、そのメカニズムについて理解することができる。<br>（2）住民投票の制度と意義について理解することができる。<br>（3）環境問題を人権問題とリンクさせて理解できるとともに、この問題解決に向けて自らの見解を示すことができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）地域社会…（2）住民投票…については、小レポート（50%：（1）30%、（2）20%）、（3）環境問題…については、課題レポート(50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。原則として評価対象者は授業時数の 3 分の 2 以上の出席者とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：使用しない。プリントを配付する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域経済史論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 東　幸代 | |
| 授業概要 | 日本近世における地域経済の史的展開をテーマとする講義である。近世の地域市場のみならず、全国市場においても重要な商品であった肥料を素材とし、近江国の地域経済のあり方を考える。また、前近代において重要な流通路であった琵琶湖の舟運の特徴について示す。 | |
| 到達目標 | 日本近世の流通構造とその変遷を理解するとともに、その背景にある社会構造を理解する。あわせて、流通史における琵琶湖舟運の意義を理解することを目指す。 | |
| 成績評価 | 宿題 20％　期末試験 80％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義ではプリントを配布し、参考書等は講義中に適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域研究論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上田　洋平 | |
| 授業概要 | 「地域」というのは普段気軽に使われる言葉であるが、いざこれを相手にしようとすると非常に厄介な概念である。片や個人の内面世界から片や地球あるいは宇宙空間にまで伸び縮みする「地域」について様々な角度から考える。<br>実際の身近な事例によりつつ、また時に簡単なワークショップを取り入れて、この時代における「地域」や「地域文化」の意味及びそのおかれている状況を点検した上で、「地域」を問題にし、「地域」について考えること及びその成果を地域に還元することの意義とその方法を議論する。 | |
| 到達目標 | (1) 地域という概念および地域研究・地域学に関わる基本的な概念・用語について理解し説明できる。<br>(2) 地域に立脚して、また地域という枠組みを通して社会や文化、人間を見ることの意義について理解し説明できる。<br>(3) フィールドワークをはじめとする地域研究・地域学の調査・研究手法の基礎について理解するとともに自身で活用できる。<br>(4) 地域研究・地域学の成果の整理、表現、地域への還元についての基本的な考え方及びその方法について理解し自身で活用できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す「(1)地域研究に関わる基本的な概念・用語を説明できる」「(2) 地域に立脚して社会や文化、人間を見ることの意義を説明できる」については定期試験(60％:(1) 30％, (2)30％)、「(3) 地域研究の基礎的手法について理解し活用できる」「(４) 地域研究の成果の表現・活用についての基本的な考え方及び方法を理解し活用できる」については課題小レポート(40％:(3)10％, (4)30％で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト・教科書は使用しない（授業時に適宜資料を配布する)。<br>参考書は授業時に紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域考古学Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 藤田　和尊※ | |
| 授業概要 | 古墳時代の武器・武具についての基礎的な知識とともに研究の方法について学習する。武器・武具研究の柱として大きな位置を占める中期型甲冑を中心に、研究がどのように進展してきたのかを振り返りつつ、甲冑研究が古墳時代政治史研究や地域史研究において用いられてきたきた方法論について考える。 | |
| 到達目標 | 実際に資料を扱うための前提となる基礎的な知識を得るとともに、資料の見方、資料操作の方法、立論の方法などに触れることで、考古資料を用いて古墳時代史の一端を語ることができる。 | |
| 成績評価 | 成績評価　講義内ミニレポート３回（50％)、講義後に出題するレポート（50％)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:プリントを配布する<br>参考書:<br>藤田和尊『古墳時代の王権と軍事』2006 年、学生社<br>藤田和尊「陪冢論の現状」『古墳時代の考古学３　墳墓構造と葬送祭祀』2011 年、同成社<br>坂口英毅「甲冑」『古墳時代の考古学４　副葬品の型式と編年』2013 年、同成社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域考古学Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大沼　芳幸※ | |
| 授業概要 | 本講義では，古墳の構成要素である埴輪を分析・解釈することで，国家形成過程に相当する古墳時代社会の一端を復元することを主たる目的とする。具体的には，埴輪のもつ特質を確認したうえで，埴輪の使い方（埴輪配置）と埴輪の作り方（製作技術）の二側面から，古墳時代社会の地域間関係を復元する。対象地域は近江地域を中心とし，適宜他地域のあり方も視野に入れる。 | |
| 到達目標 | 古墳時代社会をめぐる諸問題について学ぶとともに，モノの作り方に着目し，作り手の動態を復元する，という考古資料の基本的な分析方法を行えるようになる。 | |
| 成績評価 | 小テスト（50%）・レポート（50%）。各講義の理解度を評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを配布。参考書：川西宏幸『古墳時代政治史序説』塙書房，1988 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域考古学Ｃ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森岡　秀人※ | |
| 授業概要 | 稲作農耕と金属器の使用を基軸とし、近年では集団間の戦いなどもその特質とするようになった日本列島の弥生文化を比較考古学の視点から講述し、最新学説なども取り上げながら体系的に論ずる。<br>縄文文化や古墳文化との比較、東アジア農耕文化や一部ヨーロッパ金属器文化などとの比較を目指し、弥生文化や弥生時代の理解に努める。 | |
| 到達目標 | 弥生文化や弥生時代の特質を日本考古学、東アジア考古学の視角から叙述できること。遺跡・遺構・遺物の実態をよく理解し、その独自性や類似性を吟味すること。 | |
| 成績評価 | 第 15 講の試験で評価する。出席点を加味するとともに重視する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：森岡秀人「農耕社会の成立」『日本史講座』１（東京大学出版会，2004 年）<br>森岡秀人「近畿地域」『講座日本の考古学』５弥生時代（上）（青木書店,2011 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域考古学Ｄ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 瀬口　眞司※ | |
| 授業概要 | 文化とは「現実に向き合うための仕組み」であり、過去の文化は現在を見つめ、未来を見通す鏡である、と定義して講義する。講義では、縄文時代の文化とその研究事例を文化人類学的な観点も挿入しながら学び、地域文化を見つめるための資質向上を目指す。具体的な研究事例としては、琵琶湖周辺地域における集落と資源利用の仕組み、土偶に関わるものを取り上げる。 | |
| 到達目標 | (1)過去社会に対する観点の設け方とその多様性を理解し、応用できる。<br>(2)集落や資源利用、土偶を通して琵琶湖周辺地域の縄文文化を理解し、応用できる。<br>(3)上記の学習を通して地域文化の分析能力を強化し、応用できる。 | |
| 成績評価 | 到達確認テストで、各講義の理解度とその応用能力を評価する（100%）。３回の確認テスト（計 10 問）を 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布。<br>参考書　：瀬口眞司『縄文集落の考古学』昭和堂、2009 年。<br>瀬口眞司ほか『縄文人の祈りと願い』ナカニシヤ出版、2013 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域と空間 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市川　秀之 | |
| 授業概要 | 地域社会を理解するうえで、空間的視点からのアプローチは非常に有効である。この授業では村落および年を対象として、地域社会と空間の関連について説明を進めたい。具体的にはムラとマチの見方・歩き方が授業の中心となる。民俗学的視点からの村落・都市空間論や生業空間の利用を中心に講義するが、条里制・街道・城下町など歴史地理学的なテーマについても取り上げることとする。 | |
| 到達目標 | （１）地域社会の空間的特質に関する基本的な概念および用語を理解する。<br>（２）地形図や小字図を読みとく技法を習得する。 | |
| 成績評価 | 毎回授業後のレスポンスカード（４０％)、レポート（２０％)、期末テスト（４０％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特になし<br>参考書：市川秀之他『日本の民俗』６　村の暮らし（吉川弘文館）<br>市川秀之『広場と村落空間の民俗学』（岩田書院） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域文化演習Ⅰ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | ３回生以後の卒業論文に関する指導を主な内容とする地域文化演習Ⅱ・地域文化演習Ⅲへの導入の授業である。このなかで、卒業論文のテーマをどうするのかなどの自覚を促し、３回生の時点でスムーズにゼミを選択し、個別的な指導を受けられるように方向づける。領域を日本文化史、日本地域史、地理学、中国の文化と社会、保存修景、考古・古代、社会学・文化研究、民俗学、日本美術史のゾーンに区分し、学生は前期と後期にそれぞれ一つずつ選択する。 | |
| 到達目標 | (1)研究課題を見いだし探求するために必要な専門知識･周辺知識を自ら進んで学習できるようになる(100%)。 | |
| 成績評価 | (1)研究課題を見いだし探求するために必要な専門知識･周辺知識を自ら進んで学習できるようになる(100%)については、毎回のゼミでのディスカッションへの参加(50%)と、報告内容(50%)で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域文化演習Ⅱ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | ４回生の卒業論文に関する指導を内容とする地域文化演習Ⅲに直接つながる授業と位置づける。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。 | |
| 到達目標 | (1)指導教員やゼミ生、および地域との関わりのなかで、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになる。 | |
| 成績評価 | (1)指導教員やゼミ生、および地域との関わりのなかで、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになる(100%)については、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域文化演習Ⅲ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 卒業論文に関する指導をする。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。 | |
| 到達目標 | (1)卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し､それに基づいて研究を実行できるようになる。 | |
| 成績評価 | (1)卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し､それに基づいて研究を実行できるようになるについては、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | 地域文化演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること | |

| 科目名 | 地域文化基礎演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 地域文化学科で学び研究することになる専門分野に関して、基礎的な知識や研究の手法を学ぶ。学生は二つのグループに分かれ、授業ごとに学科教員全員の指導を受けることになる。 | |
| 到達目標 | (1)専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができる。 | |
| 成績評価 | (1)専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができるについては、第 2 回～第 15 回の毎回の小レポートで評価する（100%）。100 点満点で 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書:『大学的滋賀ガイド』滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編、昭和堂、2011 年　その他 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域文化財論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊藤　裕久※ | |
| 授業概要 | 地域固有の歴史的環境を守り育てていくためには、様々な立場の人が、その成り立ちを正しく認識することが不可欠である。授業では、建築史学の立場から、日本や東アジアの伝統的な都市や集落を素材として取り上げ、地域の歴史的環境を空間＝社会的側面から捉える視点や方法を解説する。また、近年、多様化しつつある「保存」の問題について具体的事例を紹介することで、広がりをもった実践的な地域文化財論の可能性を検討したい。 | |
| 到達目標 | 地域文化財の重要性について認識し、地域の歴史的環境を保存・継承していくための方法論の基礎を習得することができる。 | |
| 成績評価 | 集中講義のため、とくに出席と授業態度（授業中の小課題）を重視する（５０%）。また講義後に出題するレポートによって評価する（５０%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業時にプリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域文化財論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 濱崎　一志 | |
| 授業概要 | 学術的な価値や美術的な価値は高くはないものの、人々の永きにわたる営みにより、地域の中ではぐくまれてきた地域文化財について講義する。歴史的環境を構成する地域文化財のうち，遺跡や建造物もしくは建造物群を中心に講義し，その保全について解説する。 | |
| 到達目標 | (1)身近な生活空間の中に遺存している地域文化財について理解し、その多様性を説明できること。<br>(2)地域文化財のはぐくまれてきた歴史的環境を理解し、説明できること。<br>(3)地域文化財を再評価し、その保存・活用について考えられること。<br>(4)地域や時代を問わず、地域文化財を取り上げ、人々を魅了する点について批評することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)身近な生活空間の中に遺存している地域文化財について理解し、その多様性を説明できること、(2)地域文化財のはぐくまれてきた歴史的環境を理解し、説明できること、(3)地域文化財を再評価し、その保存・活用について考えられること、(4)地域や時代を問わず、地域文化財を取り上げ、人々を魅了する点について批評することができるについては課題レポート(80%：(1)105,(2)30%、(3)30%、(4)30%)とレスポンスペーパー(20%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地域保健臨地実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 今井　絵里 | |
| 授業概要 | 地域保健活動の第一線機関である保健所や市町村保健センタ-において、多職種との関わり方や住民の保健増進のために実施されている事業を通して、地域保健の全体像および組織の中での健康づくり対策の実際を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)地域保健活動の実践現場で、行政栄養士の果たす役割が理解できる。<br>(2)公衆栄養活動の根拠となる法規が理解できる。<br>(3)行政栄養士と連携した多職種との活動が理解できる。<br>(4)行政栄養士に必要な技能・知識などが理解できる。<br>(5)県と市町村をつなぐ保健所栄養士の役割が理解できる。 | |
| 成績評価 | 初回講義時に担当教員が説明する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「臨地・校外実習のてびき」化学同人 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地誌学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 塚本　礼仁 | |
| 授業概要 | 地理学は系統地理学と地誌学とに大別される。系統地理学は「～の気候」（自然地理学）や「～の産業」（人文地理学）というように様々なテーマごとの分析を行うが、地誌学は系統地理学の知見を総合し、「地域」それ自体の特性を明らかにする分野である。本講義では、国内外の様々な「地域」を素材とし、その特徴を他地域との共通性あるいはユニークさに留意しつつ解説していく。また、地図を使った作業などを通して、地域研究の経験も重ねさせていきたい。 | |
| 到達目標 | (1)日本・世界の地域問題を、人文地理学の観点から考察することができる。<br>(2)日本・世界の地域問題を、自然地理学の観点から考察することができる。<br>(3)日本・世界の地域問題を、統計データや地図から読み取ることができる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 60％：到達目標(1)20％、(2)20％、(3)20％<br>小テスト 40％：到達目標(1)10％、(2)10％、(3)20％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜プリントなどを配布する。<br>指定図書：伊藤喜栄・藤塚吉浩編(2008)『図説　21 世紀日本の地域問題』古今書院.<br>参考書：授業の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | チベット語基礎Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 棚瀬　慈郎 | |
| 授業概要 | チベット語の文字、発音、基礎的な文法を習得し、会話の練習や、チベット語文献の講読をおこなう。 | |
| 到達目標 | チベット語による基本的な会話が可能となること。また自分で辞書を用いてチベット文が読めるようになることを目指す。 | |
| 成績評価 | 授業を５回以上欠席した者は評価の対象としない。成績は、言語の習得状況を総合的に判断して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:「現代チベット語会話Ⅰ」を用いる。また適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | チベット語基礎Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 棚瀬　慈郎 | |
| 授業概要 | チベット語の文字、発音、基礎的な文法を習得し、会話の練習や、チベット語文献の講読をおこなう。 | |
| 到達目標 | チベット語による基本的な会話が可能となること。また自分で辞書を用いてチベット文が読めるようになることを目指す。 | |
| 成績評価 | 授業を５回以上欠席した者は評価の対象としない。成績は、言語の習得状況を総合的に判断して評価する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:「現代チベット語会話Ⅰ」を用いる。また適宜プリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語コミュニケーションＩＡ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 本授業は中国語ＩA、中国語ＩB の単位を取得した学生を対象に、中国語ⅡA、中国語ⅡB と平行開講され、既習の文法知識（基本文型）を復習・整理しながら、作文・読解を中心としたテキストにそって、大量の練習問題を行います。 | |
| 到達目標 | (1)簡単な文章を読み、書くことができるようになる。<br>(2)簡単なコミュニケーションがはかれるようになる。<br>(3)中国語検定４級に合格できるレベルに到達できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)(2)については、小テスト(20％：(1)10％(2)10％)、(3)については、定期試験(80％)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:『初級から中級へ　中国語作文（改訂版)』(郭春貴ほか著・白帝社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語コミュニケーションＩＢ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　凌非 | |
| 授業概要 | この授業は学生が中国語ＩA・ＩB を履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文法内容に関連性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。 | |
| 到達目標 | （1）文法を理解すること<br>（2）語彙を覚えること<br>（3）文章の読解力を身につけること<br>（4）宿題を提出すること | |
| 成績評価 | 定期試験　70%、（1）40%、（2）15%、（3）15%、<br>宿題　30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 呉　凌非著　ジョイフル中国語　郁文堂　参考図書は適時に指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語コミュニケーションⅡＡ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 本授業は中国語ＩA、中国語ＩB、中国語コミュニケーションＩＡ、中国語コミュニケーションＩＢの単位を取得した学生を対象に、中国語コミュニケーションⅡＣと平行して開講され、初級レベルの維持・強化と中級レベル到達を図ります。 | |
| 到達目標 | (1)中国語ＩA、中国語ⅡA で学んだ文型が口頭で表現できるようになる。<br>(2)少し複雑な表現を身につけることができる。<br>(3)比較的容易な読み物の内容を辞書を引きながらも理解ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)(2)については、小テスト(20％：(1)10％(2)10％)、(3)については、定期試験(80％)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『初級から中級へ　中国語作文（改訂版）』（郭春貴ほか著・白帝社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語コミュニケーションⅡＢ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　凌非 | |
| 授業概要 | この授業は学生が中国語ＩB を履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文法内容に関連性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。 | |
| 到達目標 | （1）文法を理解すること<br>（2）語彙を覚えること<br>（3）文章の読解力を身につけること<br>（4）宿題を提出すること | |
| 成績評価 | 定期試験　70%、（1）40%、（2）15%、（3）15%、<br>宿題　30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 呉　凌非著　ジョイフル中国語　郁文堂　参考図書は適時に指示する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語コミュニケーションⅡC | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 地蔵堂　貞二 | |
| 授業概要 | 本授業は中国語ＩA、中国語ＩB、中国語ⅡA、中国語ⅡB、中国語コミュニケーションＩA、中国語コミュニケーションＩB の単位を取得した学生を対象に、中国語コミュニケーションⅡA と平行して開講され、中国語中級レベルの到達を目指します。 | |
| 到達目標 | (1)簡単な文章を読み、書くことができるようになる。<br>(2)簡単なコミュニケーションがはかれるようになる。<br>(3)中国検定３級に合格できるレベルに達することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)(2)については、小テスト(20％ : (1)10％(2)10％)、(3)については、定期試験(80％)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>但し授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新編　実用漢語課本』(相原茂・徐甲申　著　東方書店) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国語コミュニケーションⅡD | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　凌非 | |
| 授業概要 | この授業は創作会話を中心に内容を組み立てます。毎回異なるシチュエーションを設定し、受講生みずから中国語で作文し、それを発表します。それを通して、文法を学び、使う表現と使わない表現を区別し、会話能力を高めると同時に作文力とリスニング能力の向上も目指します。 | |
| 到達目標 | （1）中国語による作文力を高めること<br>（2）中国語会話力を鍛えること<br>（3）中国語語彙量を増強すること<br>（4）宿題を提出すること | |
| 成績評価 | 定期試験　70％、（1）40%、（2）15%、（3）15%、<br>宿題　30％で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国地域文化特論 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 城地　孝※ | |
| 授業概要 | 中国社会における“伝統”的要素の形成・確立期とされる明代（1368-1644）に焦点を定め、その展開過程および明代史における個々のトピックをとりあげ、中国ひいては東アジアの歴史と社会を考える上で基礎となる知見・論点について説明する。便宜上、明代を軸に話を進めるが、あくまでも講義の主眼は、時代を問わず中国社会に底流する諸要素について理解を深めるとともに、東アジアの歴史的展開とのかかわりのなかで中国史を考えていく視座を習得するにある。 | |
| 到達目標 | (1) 明代（1368-1644）中国の歴史的展開を理解すること。<br>(2) 時代を問わず中国社会に底流する諸要素について理解を深め、東アジアの歴史的展開とのかかわりのなかで中国史を考えていく視座を習得すること。<br>(3) 歴史的な視点に立って現代社会あるいは異文化のありようを考える視座・手法を身につけること。 | |
| 成績評価 | 期末試験（40%）と毎回の講義時に提出してもらうレスポンスペーパーの内容(60%)を総合して成績評価を行う。双方とも評価にあたっては、各自が講義内容をどう受けとめ、そこからどう考えを深めたかという点を重視する。<br>到達目標(1)は期末試験で(20%)、(2)(3)はレスポンスペーパーおよび期末試験で評価する（(2)・(3)各 40%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献も適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 中国地域文化論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横田　祥子 | |
| 授業概要 | 近年、中国が国際社会においてプレゼンスを高めるにつれ、政治・国際外交・社会問題に関する報道が爆発的に増えている。しかし隣国中国を総合的に理解するためには、社会的文化的側面からもアプローチする必要がある。そこで本授業では、中国の文化・社会を構成する重要なエッセンス、トピックを取り上げ、文化人類学的観点から理解を深める。 | |
| 到達目標 | 中国の文化、社会を構成する重要なエッセンスについて、トピックごとに理解を深める。 | |
| 成績評価 | 成績評価は、レスポンスペーパー（30%）、レポート（70%）に基づく。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書等は適宜、紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語コミュニケーションＩＡ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 崔　眞善※ | |
| 授業概要 | 朝鮮語ＩＡ・ＩＢで学んだ語彙・文法を基礎にして、決まり文句を用いた様々な場面でのあいさつやあいづち・質問などの会話、買い物など日常生活に必要な会話、様々な公共機関を利用する際の会話などを中心に、文章語とは異なる口語表現を学ぶ。 | |
| 到達目標 | 韓国語能力試験（TOPIK)1 級、ハングル能力検定試験 4 級に合格する程度の聞き取りの力を身につける。留学した際に、教員、大学職員、学生などと基本的なコミュニケーションがとれるための会話力を養う。 | |
| 成績評価 | 到達目標を次の４つで評価する。(1)文法の理解度(2)語彙、表現の定着度(3)会話の能力(4)文章力<br>成績は、定期テスト（50%；(1)30%、(2)20%）、小テスト及び授業中の発表（30%(2)20%、(3)10%）、課題（20%(4)20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：李潤玉・酒井康裕・須賀井義教外『韓国語の世界へ ― 初中級編』（朝日出版社、2,520 円）<br>参考書：韓日、日韓辞典 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語コミュニケーションＩＢ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松井　聖一郎※ | |
| 授業概要 | 朝鮮語ＩＡ・ＩＢで学んだ語彙・文法を基礎にして、辞書を積極的に活用しながら朝鮮語（韓国語）の文章を読み理解した上で、内容について発表したり話しあうことで表現力を身につける。 | |
| 到達目標 | １.朝鮮語の文章の講読能力をつける。（正確に日本語に訳せるかどうかは必ずしも問題ではなく、文章に書いてある内容の理解ができればよい）<br>２.理解した内容についての朝鮮語の質問に朝鮮語で答えられる（文字・口頭）。<br>３.理解した内容について朝鮮語でコメントしたり、関連する内容について朝鮮語で述べることのできる力をつける。<br>４.他人の発言が理解できる力をつける。 | |
| 成績評価 | 期末試験 30 点、小テストおよびレポート 20 点、中間テスト 20 点、授業でのパフォーマンス 30 点 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：曺美庚、林炫情、金眞『韓国社会を読む』（朝日出版社）<br>参考書：『朝鮮語辞典』（小学館）『小学館日韓辞典』（小学館）<br>またはこれらと同等以上の日韓・韓日辞典・電子辞書(スマホのアプリなども含みます) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語コミュニケーションⅡA | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 河　かおる | |
| 授業概要 | 朝鮮語コミュニケーションⅠB で学んだ読解力を基礎に、韓国のインターネットメディアの記事（音源・文字）をテキストにして、さらに読解力・聴解力を養う。記事を通じて現代韓国のホット･イシューについての理解を深めると同時に、記事の内容について朝鮮語（韓国語）で意見を述べたり質問をしたりするコミュニケーション能力をつける。 | |
| 到達目標 | (1) 韓国語能力試験（TOPIK)2 級、ハングル能力検定試験 3 級合格程度の読解力・聴解力を身につける。<br>(2) 辞書を駆使しながら新聞や本を読解できるようになる。<br>(3) 学習した記事の内容について、質問や意見を表現することができる。 | |
| 成績評価 | 毎回の授業参加（予習など）　10%<br>毎回の小テスト　30%<br>中間テスト（ハングル検定 4 級レベル）30%<br>期末テスト（TOPIK2 級レベル）30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 前半：金京子『パランセ韓国語　中級』（朝日出版社）※朝鮮語ⅡA／ⅡB の続き<br>後半：韓国のインターネット・メディアの記事(授業で配付する) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語コミュニケーションⅡB | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松井　聖一郎※ | |
| 授業概要 | 朝鮮語コミュニケーションⅠB で学んだことを基礎に、日記やレポートなど、比較的長いまとまりのある文を書く力を養う。 | |
| 到達目標 | 韓国語能力試験（TOPIK)２級、ハングル能力検定試験３級合格程度の作文の力を身につける。留学した際に、試験の答案やレポートを書けるようになるために、辞書を駆使しながら自分が表現したいことを書き表す力を身につける。 | |
| 成績評価 | 授業への積極的参加度 30%<br>課題・小テスト 20%<br>中間テスト　20%<br>試験 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：曺美庚、林炫情、金眞『韓国社会を読む』（朝日出版社）<br>参考書：『朝鮮語辞典』(小学館)・『プライム韓日辞典』（斗山東亜）・『小学館日韓辞典』(小学館)・『プライム日韓辞典』（斗山東亜）程度の辞書、または同等の電子辞書を利用できるようにして授業に臨むこと。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語コミュニケーションⅡC | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 崔　眞善※ | |
| 授業概要 | 朝鮮語コミュニケーションⅠA で学んだ口語表現を基礎に、決まり文句以外の表現を用いた会話、依頼、指示、命令、誘いやそれへの受諾や拒否の表現、慣用句、ことわざ、四字熟語などを学び、私的で身近な会話ばかりではなく、大学生活の中で想定される会話や、親しみのある社会的出来事についても話題にできるようにする。 | |
| 到達目標 | 韓国語能力試験（TOPIK)2 級、ハングル能力検定試験 3 級に合格する程度の聞き取りの力を身につける。留学した際に、教員、大学職員、学生などと基本的なコミュニケーションがとれるための会話力を養う。 | |
| 成績評価 | 到達目標を次の４つで評価する。(1）文法の理解度（2）語彙や表現の定着度（3）会話の能力（4）文章力<br>成績は、定期テスト（50%；(1)30%、(2)20%)。小テスト及び授業中の発表（30%(2)20%、(3)10%)。毎回のライティング課題 （20%(4)20%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『表現のための中級韓国語』　中西恭子（白水社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮語コミュニケーションⅡＤ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松井　聖一郎※ | |
| 授業概要 | 中級用の聴解教材を使ってヒアリングの力を高め、ヒアリングした内容に基づいてコミュニケーションができるようにする。 | |
| 到達目標 | 韓国語能力試験（TOPIK)２級、ハングル能力検定試験 3 級合格程度の聞き取りの力を身につける。留学した際に、講義の内容を概ね理解できたり、円滑なコミュニケーションが取れるようになるために、聞き取りの力を身につける。 | |
| 成績評価 | 授業時のパフォーマンス 30%<br>課題 20%<br>中間テスト　20%<br>試験 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：呉美羅ほか『できる韓国語聴解　中級』（ムンジンメディア）<br>(品切れにつきコピーで行います。教室で配布します) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮地域文化特論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安田　純也※ | |
| 授業概要 | この授業では、朝鮮文化の形成、展開を歴史的に振り返るが、今年度は高麗時代から朝鮮時代前期（10～16 世紀）の宗教文化史を取り上げる。高麗・朝鮮両王朝はそれぞれ約 500 年の長きにわたって朝鮮半島を支配した王朝であり、中国からの政治、文化的影響を強く受けつつも、独自の歴史を展開した。また、両時代の文物の多くは日本列島各地に伝存しており、日本とも関わりが深い。<br>授業では、韓国、日本の学界における研究成果を踏まえつつ、具体的な史料や文物に即して論じる。 | |
| 到達目標 | 朝鮮文化史の概要を把握できるようにする。 | |
| 成績評価 | 平常点（授業中の質問、宿題等）30%、レポート 20%、小テスト 10%、期末筆記試験 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業時の配布プリントを主とする。<br>参考書：田中俊明編『朝鮮の歴史－先史から現代』昭和堂、2008 年<br>歴史学研究会編『世界史史料』4、岩波書店、2010 年<br>その他、必要に応じて紹介していく。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 朝鮮地域文化論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　俊明 | |
| 授業概要 | 本年度は開講しません。 | |
| 到達目標 | 朝鮮文化の形成についての理解を深める。 | |
| 成績評価 | 学期中のレポート 20%、学期末試験 80%。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストなし。プリントを毎回配布する。参考書は適宜、指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地理学実習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 塚本　礼仁 | |
| 授業概要 | 地理学研究は、(1)主題図の作成と(2)統計データの解析を組み合わせて進められることが多く、これらの正確さ・緻密さが研究内容そのものを左右する。地理学実習Ⅰでは、(1)主題図作成の基礎的技能を身につけ、最後に地域分析プレゼンテーションという形にまとめる。なお、地理学実習Ⅱは(2)統計データの解析に関する内容である。 | |
| 到達目標 | (1)ドローイングソフトウェアを操作し、地理的データを地図化することができる。<br>(2)GIS ソフトウェアを操作し、地理的データを地図化することができる。 | |
| 成績評価 | 実習成果物 50％：到達目標(1)25％、(2)25％<br>最終報告 50％：到達目標(1)25％、(2)25％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特定のものは使用しない。適時プリントなどを配布する。<br>指定図書：浮田典良・森　三紀(2004)『地図表現ガイドブック』ナカニシヤ出版．後藤真太郎ほか(2013)『MANDARA と EXCEL による市民のための GIS 講座』古今書院. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 地理学実習Ⅱ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 塚本　礼仁 | |
| 授業概要 | 地理学研究は、(1)主題図の作成と(2)統計データの解析を組み合わせて進められることが多く、これらの正確さ・緻密さが研究内容そのものを左右する。地理学実習Ⅱでは、(2)統計データ解析の基礎的技能を身につけ、最後に地域分析プレゼンテーションという形にまとめる。なお、地理学実習Ⅰは(1)主題図の作成に関する内容である。 | |
| 到達目標 | (1)多変量解析を用いて地域を定量的に分析することができる。<br>(2)多変量解析の結果を地図化し、解釈することができる。 | |
| 成績評価 | 実習成果物 50％：到達目標(1)40％、(2)10％<br>最終報告 50％：到達目標(1)40％、(2)10％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特定のものは使用しない。適時プリントなどを配布する。<br>指定図書：村山祐司・駒木伸比古(2013)『新版　地域分析』古今書院. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 通訳ガイド講座 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 石井　隆之※ | |
| 授業概要 | 有資格の観光ガイドとしての道が開ける「通訳案内士試験」（英語）を目指す講座で、その具体的な傾向と対策を行います。1 次試験に必要な「英文解釈力」（その基礎として語彙力増強）、「英作文力」（その基礎として文法力向上）、および「日本事象説明力」（その基礎として日本文化の知識）を身に付けること、そして、２次試験に必要な「日本地理・歴史・文化を基本とするコミュニケーション能力」に磨きをかけることを目標とします。<br>面白く、ためになり、分かりやすい授業形態にするため、講義・演習および実践的練習を取り入れ、英語によるプレゼンの機会も提供します。積極的な授業参加を期待しています。 | |
| 到達目標 | (1) 通訳案内士試験の概要を把握しながら、受験の準備ができる。<br>(2) 通訳ガイド業務に必要な日本の地理や歴史、文化の概略を確認できる。<br>(3) 通訳ガイド業務（英語）に求められる「英語による基礎的なコミュニケーション」ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す(1)と(2)については、期末テスト（５０％:(1)20%, (2)30%）、<br>授業における演習（２０％：(1)10%, (2)10%）で評価する。また、到達目標(3)については、授業における実践的練習（２０％）とプレゼン（１０％）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：毎回プリントを配布します。<br>参考書１：江口裕之(編著)、社団法人日本観光通訳協会（監修）『通訳案内士試験（英語）合格対策＆模擬問題』（第 1 次、第 2 次試験対応)、日本能率協会マネジメントセンター（2010 発行）<br>参考書２：社団法人日本観光通訳協会（監修）『英文 Guide Text』（2011 年度改訂最新版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ディベート＆ディスカッションａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research. | |
| 到達目標 | The primary goals of this course are as follows:<br>- to develop discussion and debating skills<br>- to practise internet research skills<br>- to introduce a common poster presentation format<br>- to practice giving a poster presentation | |
| 成績評価 | Participation: 50%<br>Discussion reflections: 10%<br>Internet research: 20%<br>Poster presentation: 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ディベート＆ディスカッションｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research. | |
| 到達目標 | The primary goals of this course are as follows:<br>- to develop discussion and debating skills<br>- to practise internet research skills<br>- to introduce a common poster presentation format<br>- to practice giving a poster presentation | |
| 成績評価 | Participation: 50%<br>Discussion reflections: 10%<br>Internet research: 20%<br>Poster presentation: 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | テキスタイルデザイン論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 内丸　もと子※ | |
| 授業概要 | この授業ではテキスタイルデザインの基礎的技法を習得することを目的とする。テキスタイル素材は加工方法によって多彩にその表情を変えることができる。実際の素材を見ながらテキスタイルデザインの後加工のさまざまな表現を学ぶ。さらにコンセプト作成から製品デザインへの落とし込み等を学び、実際に企画立案をすることによって、より実践的なテキスタイルデザインの企画提案方法を体験する。また、循環型社会に向けての繊維リサイクルのあり方、エコデザインについても考察していく。 | |
| 到達目標 | （１）テキスタイルデザインの過程とさまざまな技法を理解することができる。<br>（２）テキスタイルデザインを企画立案、プレゼンテーションする体験をする。<br>（３）繊維のリサイクルについて考察できる。 | |
| 成績評価 | レポート５０％、最終課題５０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜資料を配布します。<br>参考書　：授業中に紹介します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | デジタルデザイン演習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 印南　比呂志 ・ 森下　あおい ・ 南　政宏 ・ 佐々木　一泰 ・ 小杉　美穂子※ ・ 竹岡　寛文※ | |
| 授業概要 | CAD や画像処理，ドローイングソフトなどを用いて，デジタルデザインの基礎から応用までを学ぶ. | |
| 到達目標 | PC を用いたデザイン作業の知識を深める. | |
| 成績評価 | 授業における課題の理解度，毎回の授業内で作成する課題を持ち帰り復習精査して次週に提出し評価。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし．適宜プリントを配布する．指定図書：授業内に適宜紹介する．参考書：授業内に適宜紹介する. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 哲学概論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鞍田　崇※ | |
| 授業概要 | 哲学＝難解なもの。そういうイメージがあるかもしれない。しかし、哲学の原点はあくまで、ふつうの日常生活。その「ふつう」に対して、ふと疑問を抱くとき――それが哲学の始まり。<br>近年、そんな哲学的思考の意義があらためて注目されている。巨大災害、原発、グローバリゼーション、地球環境問題といった社会問題の深刻化、それらに連動したライフスタイルへの関心の高まり。この講義ではこうした時代状況に留意しつつ、アート、デザイン、建築、民俗、農業など様々なジャンルを手がかりに、これからの暮らしの「かたち」を考えていく。 | |
| 到達目標 | １．自分で「哲学する」ことのきっかけを得ること。<br>２．社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。<br>３．現代思想で問われていることの意味と歴史的背景を理解すること。 | |
| 成績評価 | 出席　10％　；　講義内レポート　35％　；期末レポート　55％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：『社会と暮らしのインティマシー（仮）』（鞍田崇著／明治大学出版会／2015 年 3 月刊行予定）<br>指定図書：『〈民藝〉のレッスン』（鞍田崇編／フィルムアート社／1,700 円＋税）<br>指定図書：『「生活工芸」の時代』（三谷龍二編／新潮社／2,916 円） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 哲学概論Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鈴木　真※ | |
| 授業概要 | 哲学の意義と面白さをわかるには、その古典に触れてみることが有用です。この授業では、哲学の古典の可能な限り易しい紹介と批評を読んで議論することを通じて、哲学の様々なトピックと議論について考える基礎を作ります。テキストを講義の前に購入して該当箇所を事前に読んでおいてもらい、授業中には扱われている哲学者の関心と議論について話し合います。 | |
| 到達目標 | ①講義で扱う哲学者たちの基本的動機、概念、主張、それを支える方法と証拠、彼らに対する批判を理解し、<br>②彼らが扱う哲学的問題について考えるための基礎力をつける。 | |
| 成績評価 | 集中講義のため、授業への貢献を重視します（50%）。また、講義後に出題する課題によって評価します（50%）。授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしません。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ナイジェル・ウォーバートン著・船木亨監訳（2005）『入門　哲学の名著』ナカニシヤ出版<br>参考書については授業中に触れます。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | デッサン法 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 冨原　仁美※ | |
| 授業概要 | 造形表現の基礎となる描写力を習得する。形態や色彩などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための考え方や技術を学ぶ。全回実技の授業。 | |
| 到達目標 | ⑴ 基本的～複雑な形態を空間的に把握し、平面に正確に描写することができる。<br>⑵ 遠近感、空間、明暗、素材感、重量感などの造形要素を理解して、それらを的確に描写表現することができる。<br>⑶ 色彩を体系的に理解することができる。また求める色を絵の具を用いて作り出すことができる。<br>⑷ 他者への伝達ツールとしての描写表現ができる。 | |
| 成績評価 | ⑴ 基本的～複雑な形態を空間的に把握し、平面に正確に描写することができる。<br>⑵ 遠近感、空間、明暗、素材感、重量感などの造形要素を理解して、それらを的確に描写表現することができる。<br>⑶ 色彩を体系的に理解することができる。また求める色を絵の具を用いて作り出すことができる。<br>⑷ 他者への伝達ツールとしての描写表現ができる。<br>⑸ 授業課題（および宿題）の取り組み姿勢。<br>上記⑴～⑸各 20% 、合計 100%<br>＊出席が授業時間数の３分の２に満たない者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ガイダンス後に校内購買部で購入：「カラーコーディネーター入門　色彩」（日本色研事業） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 天然物化学基礎 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　健太郎 | |
| 授業概要 | 化学と人間生活の関わり、特に食での関わりを考える上で必要な、有機化学の基礎知識を扱う。 | |
| 到達目標 | 有機化学の基礎知識を身につける。 | |
| 成績評価 | レポート、小テスト、および試験により評価する。ただし、講義時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：D.R.クライン著　竹内敬人・山口和夫訳「困ったときの有機化学」（化学同人） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語コミュニケーションＩＡ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | ドイツ語ⅠとⅡ（全学共通教育科目）で身につけた文法の知識を活用し、読解練習、聞き取り、書き取り、作文を通じてさらに高度なコミュニケーション能力を総合的に身につけることを目指す。授業の進め方に関して言えば、音読および訳出の練習、文法事項の確認を行う。 | |
| 到達目標 | 海外留学先での日常生活などに必要となるドイツ語の運用能力（「読む・書く・聞く」能力）を身につけることを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（１）授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って簡単な文章を読解したり、（２）作文したりすることができる。（３）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（４）朗読された文章を聞いて、指定された語彙を書き取ることができる。 | |
| 成績評価 | 読解練習（２０％）、作文（１０％）、筆記試験（６０％）、聞き取り練習（１０％）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： 佐藤修子/下田恭子/ハイケ・パーペンティン/ゲーザ・オーデルハーフェル/ダニエル・アーノルド/トーラルフ・ハイネマン『スツェーネン２コンパクト 場面で学ぶドイツ語（CD＆ワークブック付き）』（三修社）。ISBN：978-4-384-13090-4.<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語コミュニケーションＩＢ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Anja Sliwa※ | |
| 授業概要 | ドイツ語ＩとⅡ(全学共通教育科目)で身につけた文法の知識、語彙、表現を活用する。主として会話練習、聞き取りに重点を置いてドイツ語によるコミュニケーション能力を身につけていく。履修する学生の様子を見ながら授業をすすめていく。基本的に教師は授業中、なるべくドイツ語で授業を進め、できるだけドイツ語をたくさん聞いてもらうようにする。しかし、わからないことが出てきたら、そのままにせず日本語で納得するまで質問してほしい。教師はドイツ人であるが、日本語も十分できるので不安にならず、授業を楽しんでほしい。 | |
| 到達目標 | 発音や文章表現・文法的な知識を習得する。ドイツ（ドイツ語圏）に留学することになっても困らない程度のコミュニケーション能力を習得させることを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（1）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（2）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（3）参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話であればできる。（4）参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 筆記試験（30%）、小テスト（10%）、口述試験（30%）、会話練習（30%）の成績により評価する。ただし欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト: 佐藤修子 / 下田恭子 / ハイケ･パーペンティン / ゲーザ･オーデルハーフェル / ダニエル・アーノルド / トーラルフ・ハイネマン　『スツェーネン 2. コンパクト　場面で学ぶドイツ語 (CD&ワークブック付き)』(三修社)。但し、必要に応じて他の教材もこちらで用意する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語コミュニケーションⅡＡ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | 一般教養、時事問題、簡単なエッセイなどを題材とし、読解能力の向上を図るため、ドイツ語で書かれた一般常識に関する文章を精読する。既習のドイツ語文法の知識を活用して、事典などから情報を取り出す練習をする。ドイツ国内の社会システム、EU の組織、ドイツやヨーロッパの歴史などのトッピクスをはじめとして、非常にさまざまな分野から文章を選択し、文法知識の補強や読解力の向上だけでなく語彙力のアップをめざす。 | |
| 到達目標 | 初級文法の応用ならびに中・上級文法の習得を目指す。また社会生活に必要となる語彙力の向上を図る。内容面では現代社会における問題と取り組むための素養を身につけることや情報を短時間で的確に取り出す能力を磨くことを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（1）ドイツ語で一般教養について書かれた文章を、辞書などを使って読解することができる。（2）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。 | |
| 成績評価 | 読解練習（４０%）と定期試験（６０%）の成績により評価する。ただし、欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語コミュニケーションⅡＢ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Anja Sliwa※ | |
| 授業概要 | 全学共通科目のドイツ語（ＩＡ、ＩＢ、ⅡＡ、ⅡＢ）やドイツ語コミュニケーションＩＡ、ＩＢで身につけた知識を応用し、より高度な会話練習を行う。また留学生活で必要となる表現を学習する。聞き取り練習、書き取り練習やスピーチの練習などを通じて日常生活を始めとしてさまざまな状況に対応できるようにドイツ語の運用能力を磨く。 | |
| 到達目標 | 留学先の国で生活するのに必要なドイツ語の運用能力を身につける。より高度なドイツ語文法の知識を応用してただ単純な短い日常会話文だけではなく、コミュニケーションの相手の意見を正確に把握することをめざす。相手に自分の考えを様々なドイツ語の表現を組み合わせて論理的に伝えたりすることができるようになることを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。（1）習得したドイツ語の表現や文法の知識を文章の読解や作文に応用することができる。（2）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（3）習得した文法の知識を活用してドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 筆記試験（50%）、小テスト（10%）、会話練習（40%）の成績により評価する。ただし、欠席や遅刻した場合は全体の評点から減点することとする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：Themen 2 aktuell (Lektion 1-5)Kursbuch + Arbeitsbuch<br>AufderStrasse Hartmut,　Bock Heiko, Mueller Jutta, Mueller Helmut<br>Hueber Verlag (出版社）ISBN 978-3-19-181691-9 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語コミュニケーションⅡC | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 吉村　淳一 | |
| 授業概要 | ドイツ語コミュニケーションⅠなどで身につけた文法の知識を利用して、手紙、日記、レポートなど比較的長い文章が書けるようにさらに高度な文法や表現について学習する。具体的にはダニエル・ケルン／渡辺学／福原美穂子著『ドイツ語レベルアップトレーニングーミスを減らして一歩先へ』のテクストをモデルに表現の可能性を学習し、文法上の注意点を確認した上で、プリント教材を利用して作文練習をする。 | |
| 到達目標 | 既習文法の知識、辞書を援用しさまざまなテーマでドイツ語の文章を書く練習をし、情報発信力を身につけることを目標とする。その際に自国の文化をドイツ語で表現する力も養うことを目指す。具体的には、以下のことを目標とする。（1）教科書に出てくる文法や表現を応用することができる。（2）辞書などを参照し、ドイツ語で作文することができる。 | |
| 成績評価 | 毎回の独作文の課題（100%）の成績により評価する。ただし遅刻や欠席などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要に応じてプリントを配布。<br>テキスト：ダニエル・ケルン／渡辺学／福原美穂子『ドイツ語レベルアップトレーニングーミスを減らして一歩先へ』三修社 ISBN:978-4-384-05473-6<br>（その他のものは授業中に適宜紹介） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ドイツ語コミュニケーションⅡD | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Anja Sliwa※ | |
| 授業概要 | 全学共通科目のドイツ語（ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡB）やドイツ語コミュニケーションＩA、ＩBで身につけた知識を応用しながら、自分の意見をドイツ語で論理的に表現する方法を学ぶ。具体的には日常会話の練習を始めとしてディスカッションやプレゼンテーションの練習などを行う。留学先の大学の授業等で必要となる語彙や表現も学習する。 | |
| 到達目標 | 大学の授業などで必要となる語彙や表現力なども実践を通じて学習する。ディスカッションやプレゼンテーションなど、大学の授業などで必要となる、より高度なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。具体的には、以下のことを目標とする。（1）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（2）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（3）参照するものがなくても、習得したドイツ語の表現や文法の知識を活用してより複雑なドイツ語会話ができる。（4）参照するものがあれば、正しい発音やより高度なドイツ語会話ができる。 | |
| 成績評価 | 筆記試験（30%）、小テスト（10%）、口述試験（30%）、会話練習（30%）の成績により評価する。ただし、欠席や遅刻した場合は全体の評点から減点することとする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：　Themen　2 aktuell (Lektion 1-5) kursbuch Arbeitsbuch<br>Aufderstrasse Hartmut, Bock Heiko, Mueller Jutta, Mueller Helmut. Hueber Verlag (出版社)　ISBN:　978-3-19-181691-9 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 道具計画論 | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 印南　比呂志 | |
| 授業概要 | 住環境の実態を背景に、人間が関わってきた道具類を毎週ひとつの分野にテーマを絞って、その製品をとりあげて講義をすすめる。その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネージメントに至までの実際を学ぶ。テーマによっては外部講師として専門家の招聘して講義を行う。 | |
| 到達目標 | 道具という視点で世の中に存在するさまざまな製品、ブランド商品などの背景、価値を理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | 毎回の講義でのレスポンスシート、中間、最終レポート課題により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：ヴィクター・パパネック著「生きのびるためのデザイン」（晶文社）、ゲルト・ゼレ著「デザインのイデオロギーとユートピア」（晶文社）ものが生まれる産地、ものを輝かせるデザイン（ラトルズ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 道具デザイン演習Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 南　政宏 ・ 麻谷　宏※ | |
| 授業概要 | プロダクトデザインおよびグラフィックデザインのための基礎的な表現手法を修得する。デザイン作業用の画材や材料の使用方法から、デザイン課題の発想方法、進め方、スケッチやレンダリングの技法、提案パネル作成のための編集デザインの基礎を学ぶ。プロダクト、グラフィックデザインにおいて必要となる基礎的な技術と考え方を練習課題をとおして体験的に学んでいく。 | |
| 到達目標 | (1)鉛筆を使った表現技法を修得する。<br>(2)デザインマーカーを使った表現技術を修得する。<br>(3)コンピュータを使った表現技術を修得する。（Illustrator, Photoshop など） | |
| 成績評価 | 提出課題による評価：50%・課題作業のプロセスにおける取り組みによる評価 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし<br>参考書：Sketching/ Drawing Techniques for Product Designers [Hardcover]<br>コピックマーカーと PM パッドの購入が必要。<br>模型材料の調達が必要。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 道具デザイン演習Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 印南　比呂志 ・ 麻谷　宏※ ・ 南　政宏 | |
| 授業概要 | 前期授業の道具デザイン演習Ⅰで習得した技術、技法を基礎として、製品デザイン開発の方法をさまざまなものづくりの業界の現場に関わりながら学んでいく。架空もしくは実際の企業の商品計画や CI（コーポレートアイデンティティ）計画などの実践的な課題を通して進めていく。またこれらの成果をわかりやすく表現するための提案パネルや模型などの制作を通して、プレゼンテーションの方法も学んでいく。 | |
| 到達目標 | (1)ものづくりの現場調査の方法。つまりインタビューやドキュメンテーションの方法を修得する。<br>(2)デザイン提案物の簡単なモデリングやパネルプレゼンテーション技術を修得する。<br>(3)コンピュータのを使ってプレゼンテーションできる。（パワーポイント、CG など） | |
| 成績評価 | 提出課題による評価：50%・課題作業のプロセスにおける取り組みによる評価 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：工藤強勝監修「編集デザインの教科書」（日経デザイン刊・日経 BP 社） | |
| 履修資格 | プレゼンテーション技法、道具デザイン演習Ⅰ、デジタルデザイン演習を履修していること。 | |

| 科目名 | 道具デザイン演習Ⅲ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 面矢　慎介 ・ 印南　比呂志 | |
| 授業概要 | 道具の計画・デザインにおいて必要な知識・考え方と技術を修得する。道具デザイン演習Ⅰ～Ⅱで学んだ技術と知識を基礎として、生活関連分野の製品およびそれらを含んだ生活空間についての具体的な計画・デザインの課題を課す。 | |
| 到達目標 | （１）基礎的調査・構想、<br>（２）企画立案、<br>（３）造形、<br>（４）立体モデル制作、<br>（５）プレゼンテーションパネル制作、<br>（６）プレゼンテーションまでの作業を修得する。 | |
| 成績評価 | 授業中の発表（２０%）と完成提出作品（８０%）による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中に指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 道具デザイン史 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 面矢　慎介 | |
| 授業概要 | 近代以降における道具デザインの変容についての解説。近代以降の工業化によって、生活環境を構成する道具は大きく変容してきた。従来のデザイン史が歴史上有名なデザイナー個人やグループの造形思想に重きをおいて造形上の変容を説明してきたのに対して、本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。 | |
| 到達目標 | 道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解できる。<br>（1）授業内容を理解し、ポイントをまとめ、自分なりの意見を述べることができる。<br>（2）授業内容に関連する文献を読み、文献中の歴史的事象と現代の事象とを比較考察することができる。<br>（3）１つの道具を事例としてそのデザインの歴史的変化について調べ、結果を文章にまとめることができる。 | |
| 成績評価 | コメントカードとレポート（文献レポートと期末レポート）による。期末レポートは出題から提出まで約２ヶ月間とする。成績評価への寄与率は、文献レポート 20%、期末レポート 60%、コメントカード 20%。授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：阿部公正ほか「カラー版・世界デザイン史」（美術出版社）、アドリアン・フォーティ「欲望のオブジェ」（鹿島出版会）<br>その他の参考書：初回授業時に文献リスト配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 道具デザイン論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 印南　比呂志 ・ 南　政宏 | |
| 授業概要 | プロダクトをデザインして販売できる商品としていくためには、様々な条件を克服していかなければならない。企業側にある論理、販売側にある論理、デザイナーが実現したいイメージ。それらをどのように乗り越えて商品として実現していくのか、デザイナーと、メーカーの実務的なやり取りを通しながらそのプロセスを追いながら解説する。 | |
| 到達目標 | 商品をとりまく経済の仕組みや流通、販売、技術、広告、ブランディングについての知識を深める。 | |
| 成績評価 | 必要に応じて小レポートを課する。授業時間数の 1/3 以上欠席したものは評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特になし。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 統計学基礎 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 細馬　宏通 | |
| 授業概要 | 最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。それは統計学の「考え方」が壁になっているからである。本講義では、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱い、統計学的な考え方を身につけることを目ざす。 | |
| 到達目標 | (1)母集団と標本の概念を身につける。<br>(2)相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。<br>(3)推定と検定の基本手順を習得する。<br>(4)日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。 | |
| 成績評価 | (1)-(3)期末テスト(80%)リスポンスペーパー(20%)<br>(4)小レポート(100%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新・涙なしの統計学（サイエンス社）指定図書：講義内で指定する参考書：講義内で紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 道徳教育論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 | |
| 授業概要 | わが国の道徳教育実践の歴史を振り返りながら、そこで深められた理論的、実践的な知見について考える。戦前日本の道徳教育、戦後初期の教育民主化の歴史的意義、憲法・教育基本法下の道徳教育、道徳の概念、道徳性の発達道徳の授業の実践的課題などについて考察する。 | |
| 到達目標 | 道徳教育の目標・方法について理解をはかりながら、指導力量を形成する。 | |
| 成績評価 | レポートまたは試験によって行う。５回以上欠席したら評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：<br>参考書：『子どもと学ぶ道徳教育』吉田一郎他、その他講義中に適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 東洋史概説 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　俊明 | |
| 授業概要 | 東アジア世界の形成をテーマとして、特に古代における東アジア世界論と、その具体的な検証を進める。時代的には、中国の前漢から唐代、紀元前２世紀から１０世紀を扱う。中国史の展開を軸としつつ、周辺諸国との関係・動向を具体的にみることも含める。 | |
| 到達目標 | 東アジア史の基礎知識の習得。 | |
| 成績評価 | 学期中のレポート 1 回 20%、学期末試験 80%。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：用いない。プリントを毎回配布。<br>参考書：適宜、指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本・地域交流特論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 京樂　真帆子 | |
| 授業概要 | 日本古代史の史料を輪読しながら、当時の政治・文化・社会への理解を深める。 | |
| 到達目標 | (1)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の書き下しを正確に行うことが出来る。<br>(2)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の解釈を正確に行うことが出来る。<br>(3)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、地域交流などの論点についての議論を行うことが出来る。 | |
| 成績評価 | 授業期間内に適宜実施する確認テスト　100% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配布する。指定図書：特になし参考書：授業中に適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本史概説 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 水野　章二 | |
| 授業概要 | 日本の前近代がどのような社会であったかを、近代社会との対比を通して具体的に考える。特に民衆に焦点をあて、民衆が生きていくために不可避的に取り結ばざるを得なかった社会集団―身分編成のあり方や生産・生活の場の特質、前提となった歴史的環境とその変化などを多面的に検討する。 | |
| 到達目標 | （１）前近代社会における民衆の生活環境が理解できる。<br>（２）前近代社会に生きた人々の意識・認識が理解できる。<br>（３）前近代社会と近現代社会の相違が理解できる。 | |
| 成績評価 | レスポンスペーパー２０％、期末筆記試験８０％<br>（１）前近代社会における民衆の生活環境が理解できる。　３０％<br>（２）前近代社会に生きた人々の意識・認識が理解できる。　３０％<br>（３）前近代社会と近現代社会の相違が理解できる。　２０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：水野章二『中世の人と自然の関係史』(吉川弘文館）水野章二編『琵琶湖と人の環境史』（岩田書院） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本社会論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 武田　俊輔 | |
| 授業概要 | 同じ「日本社会」の中で暮らしつつも、その社会のメンバーシップからはじき出されてきた様々な人々の姿を通して，戦前・戦後の「日本社会」の姿を再検討することにある。労働市場からも教育からも福祉からも排除されていく人々の視点から「日本社会」はどう映るのか。またそうした人々を改めて社会に包摂した形で社会的な連帯を創り出すことの可能性を論じる。 | |
| 到達目標 | (1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、そのメカニズムを理解することができる(50%)。<br>(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について理解することができる(50%)。 | |
| 成績評価 | 1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、そのメカニズムを理解することができるについては中間レポート(50%)、(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について理解することができる(50%)については期末レポートで評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書：大澤真幸,　2002,　『ナショナリズム論の名著 50』平凡社. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本史料講読 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 水野　章二　・　東　幸代 | |
| 授業概要 | 日本の前近代の社会や文化を理解する上で必要な各種史料の読解力を養う。各時代を代表する史料を選んで輪読し、史料の具体的な内容を検討するとともに、史料の作成された時代や社会の特質などについて考察して、歴史研究の基礎を身につける。 | |
| 到達目標 | （１）近世の基本史料の解釈・理解ができる。<br>（２）古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。 | |
| 成績評価 | 前期・後期とも、授業における発表（５０％）と、前期のレポートおよび後期の筆記試験（５０％）により評価する。<br>（１）近世の基本史料の解釈・理解ができる。５０％<br>（２）古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。５０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布する。<br>参考書：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本文化史論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 京樂　真帆子 | |
| 授業概要 | 日本古代史の史料などに基づき、当時の文化について考える。『小右記』などの古記録を題材に、平安京の都市文化について分析していく。　本年度の分析テーマについては、初回のガイダンスで発表する。 | |
| 到達目標 | (1)日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。<br>(2)日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。<br>(3)日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。 | |
| 成績評価 | 期末試験１００％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配付する指定図書：特になし参考書：適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本文化史論Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 京樂　真帆子 | |
| 授業概要 | ジェンダーでみる日本史を考える。日本における女性史研究は戦前からの長い歴史を持っている。近年、ジェンダーの概念を取り入れることによって、新しい日本女性史が描かれるようになってきた。女性であることが歴史の中でどういう意味を持ち、どう評価されてきたのかを考えていく。 | |
| 到達目標 | (1)日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。<br>(2)日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。<br>(3)日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。 | |
| 成績評価 | レスポンスカードの内容　30％　期末レポート　70％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配布する。指定図書：特になし参考書：授業中に適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 日本文化論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 京樂　真帆子 | |
| 授業概要 | 日本文化の諸相を歴史的に分析する。特に、日本映画に描かれる日本文化の問題点を歴史学的見地から評価していく。 | |
| 到達目標 | (1)日本前近代の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。<br>(2)日本の近代史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。<br>(3)日本文化の基礎知識に基づき、その保存と活用について具体的な提言が出来る。 | |
| 成績評価 | 毎回提出の小レポート　30％　期末レポート　70％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを配布指定図書：特に指定しない参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間関係論基礎演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 人間関係論への心理学・社会学・教育学のアプローチの基礎を学ぶ。各領域について、その内容と広がり、方法論の基礎を、講義、関連する入門書や基本文献の輪読、初歩的な実験やフィールドワーク、ディスカッション、ディベートなどを通じて学び、人間関係論への関心と理解を深める。 | |
| 到達目標 | 人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各アプローチの基本的な視角・方法・知識を習得し、あわせて人間関係研究に必要なアカデミックスキルの基礎を身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す「人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各アプローチの基本的な視角・方法・知識を習得し、あわせて人間関係研究に必要なアカデミックスキルの基礎を身につける」について、各教員が指示するリアクションペーパー・小レポート（５５％）と最終レポート（４５％）を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト、参考書：授業中に適宜指定する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間関係論演習Ⅰ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 各教員ごとに分かれて、人間関係論のそれぞれの分野に関しての既存の成果を概観するとともに、卒業研究のテーマの探求に向けての論文購読と予備的な準備を行う。 | |
| 到達目標 | 卒業論文のテーマを決める。 | |
| 成績評価 | 発表や各教員によって指示された提出レポートを総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中に適宜指定する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間関係論演習Ⅱ | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 「人間関係論」のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な資料を収集し、分析する。 | |
| 到達目標 | 卒業論文を書き上げること | |
| 成績評価 | 発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中に適宜指定する。 | |
| 履修資格 | 「人間関係論演習Ⅰ」を履修済みであること。 | |

| 科目名 | 人間形成論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木村　裕 | |
| 授業概要 | 現代社会には、貧困や格差、環境破壊や人権侵害など、世界中の国々や人々が協力しなければ解決することが難しい多くの問題（「地球的諸問題」と呼ばれる）が存在している。こうした状況を背景として、地球的諸問題の解決に向けて自ら考え、判断し、行動することのできる市民を育成することが、学校内外の教育活動において取り組むべき重要な課題の1つとなっている。本講義では、こうした課題に取り組む教育活動の1つである開発教育に焦点をあてて、開発教育を実践するために必要となる基礎的な知識と技能を習得することをめざす。 | |
| 到達目標 | （1）開発教育の概要と実践上の要点を説明することができる。<br>（2）ワークショップや課題解決活動の体験を通して、開発教育の実践に対する自分なりのイメージを具体化するとともに、実践に必要となる基礎的な力量を発揮することができる。 | |
| 成績評価 | 講義中に提出するワークシートなど（７０％）とまとめのレポート（３０％）をもとに、総合的に判断する（ただし、まとめのレポートの提出がない場合には、単位認定は行わない）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【指定図書】<br>木村裕『オーストラリアのグローバル教育の理論と実践－開発教育研究の継承と新たな展開』東信堂、2014年<br>※　その他の参考書や参考資料については、講義中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間形成論Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 杉浦　由香里 | |
| 授業概要 | 教育史に関する基本文献の購読と講義を通じて、日本の教育課題を歴史的視座から問い直すことを目標とする。具体的には、『日本の教育課題』を題材にテーマを設定し、調べたことをもとに報告・議論を通じて、学校文化の形成過程に関する通史的な理解を深める。 | |
| 到達目標 | 歴史的視点をふまえて現実の教育課題を理解することができる。<br>関連文献および資料を収集して内容を系統的に把握し、論点を整理することができる。<br>講義内容や議論を通じて、自らの視点や考えを説明することができる。 | |
| 成績評価 | レスポンスペーパー（２０％）、講義中の発表および議論への参加（５０％）、最終レポート（３０％）を総合的に判断する。なお、4回以上欠席の場合は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 佐藤秀夫・寺崎昌男編 シリーズ『日本の教育課題』（東京法令出版、1995年）を用いる。<br>その他、必要な資料は講義中に配布する。参考文献などについては適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間工学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　孝之※ | |
| 授業概要 | 社会の急速な変化で生じる、人間と環境のあり方のギャップを埋めて行くための手がかりとなるのが人間工学である。ここでは、生理、心理、身体、そして行動など、人間の基本的特性を理解し、プロダクト、インテリア、建築などの生活環境構成要素を取り上げ、人間との最適な関係を考えた計画やデザインの手法について学ぶ。 | |
| 到達目標 | 人間工学の目的とするところを理解し、基本的な知識を習得し、生活環境や製品の計画･デザインの際に、人間からのアプローチができるようになることを目標とする。 | |
| 成績評価 | 中間テスト４０％　期末レポート（または試験）６０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（授業ごとにプリントを配布）　参考書：「住まい文化シリーズ　住まいと暮らしの安全」＜理工図書＞　「ユニバーサルデザインの教科書　増補改訂版」＜日経デザイン＞「エンジニアのための人間工学-改訂-」＜日本出版サービス＞「空間デザインの原点」＜理工学社＞ | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間工学実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森下　あおい ・ 宮本　雅子 | |
| 授業概要 | 生活に関わるデザインの多くのものは、人体のサイズや形態を基準に設計されている。この授業では基本姿勢における人体計測法を学ぶとともに、服飾 、道具、住居分野のデザインを行う際に必要とする体形特徴や、動作や姿勢によって生じる体形の変化などと関係する設計条件を実験によって把握する。また計測値をデザインに活用するための統計手法を学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)デザインに必要な人体形態の理解<br>(2)衣服型紙と人体寸法の関係の理解<br>(3)計測値の統計処理法の習得<br>(4)人間とモノとの関係について分析する能力の習得 | |
| 成績評価 | レポート（各課題）100％<br>なお授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：配布資料によって授業を行います | |
| 履修資格 | 「人間工学」を履修済みであること。 | |

| 科目名 | 人間行動論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 細馬　宏通 | |
| 授業概要 | アニメーション史の中で、「口」という器官は音声と映像とを結びつけるための重要な役割を担ってきた。口を開閉して話すこと、歌うこと、口に食物を入れ、咀嚼とともに顔を動かすこと。これらの基本的な活動が、アニメーションの歴史の中でいかに扱われてきたかを明らかにし、わたしたちの「口」ののあり方を見直すとともに、人の身体が口を中心としていかに複合的な活動を行うかを考える。 | |
| 到達目標 | (1)口が映像文化の中で担ってきた役割を理解する（知識・理解)。<br>(2)食べる・話す・歌うという行動が身体全体で調整される活動であることを理解する（知識・理解)。<br>(3)自ら映像を収集し、そこで表現されている口と身体を比較しながら自分の力で批評できる（興味・関心／思考)。 | |
| 成績評価 | 各到達目標について<br>(1)レスポンス・ペーパー(20%)<br>(2)レスポンス・ペーパー(20%)、期末レポート（10%)<br>(3)期末レポート(40%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：細馬宏通「ミッキーはなぜ口笛を吹くのか」（新潮選書） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間文化論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 細馬　宏通 ・ 呉　凌非 ・ 村上　健太郎 ・ 東　幸代 ・ 藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 人間文化学部のそれぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのか。この講義では異なる学科に属する 10 組の教員どうしの対談と、各学科の教員による 5 つのレクチャーが行われ、領域を越えて学ぶためのヒントを探る。これから 4 年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からつかんでほしい。 | |
| 到達目標 | (1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。<br>(2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。<br>(3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。 | |
| 成績評価 | (1)リスポンスペーパー(25%) (2) リスポンスペーパー(25%) (3) 最終レポート（第15回終了後）(50%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間文化論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　俊明 ・ 亀井　若菜 ・ 横田　祥子 ・ Borjigin Burensain | |
| 授業概要 | テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」<br>　文化は、様々な歴史的要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ながら、そのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、５人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげてその交流や変容の問題について論じる。<br>　本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。 | |
| 到達目標 | 文化の交流や変容の諸相について理解すること。 | |
| 成績評価 | ミニレポートもしくは小テスト（100％）<br>キーワードなど、講義内容についての受講生の理解度を確認する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | その都度、紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間文化論Ｃ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮本　雅子 ・ 松嶋　秀明 ・ 中村　好孝 ・ 横田　尚美 ・ 村上　健太郎 | |
| 授業概要 | 　この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について５回講義する（宮本・横田）。次に、過去、現代、次世代の食環境について５回講義する（柴田・福渡・村上）。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を５回行う（松嶋・中村）。 | |
| 到達目標 | （宮本・横田）（1）住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる。<br>（柴田・福渡・村上）（1）　日本人がどのような食環境で過ごしてきたのか、現状の食環境を自分で評価し、次世代の食環境の夢を持つことができる。<br>（2）様々な生活環境が食環境の形成におよぼす影響を説明することができる。<br>（松嶋・中村）（1）家族をみるための視点を身につけることができる。（2）現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。 | |
| 成績評価 | 各教員に提出されたレポートによって行う。宮本・横田 33％、柴田・福渡・村上 34％、松嶋・中村 33％。ただし、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 認知心理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野　有理 | |
| 授業概要 | 私たち人間は、実に複雑な行動をする。授業では、人間のさまざまな行動や心の働きを科学的に読み解く視点を紹介する。実際の人間の行動や、他の動物の行動を例にあげ、行動や心の働くしくみについて理解を深めることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1）情報処理システムとして人間を理解する視点を身につける。<br>(2）認知心理学の主な研究手法である実験心理学的手法を理解する。 | |
| 成績評価 | (1)については定期試験(30％)とレスポンスペーパー(40％)、(2)については定期試験(30％)で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 博物館経営論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市川　秀之 ・ 中井　均 | |
| 授業概要 | 学芸員としての活動を円滑におこなうために必要とされる博物館の施設・組織・運営に関する内容を事例を中心に講義する。また近年重要になってきている博物館運営への市民参加についてもとりあげたい。 | |
| 到達目標 | （1）博物館運営についての基礎的知識を習得すること<br>（2）実際の博物館の運営について評価する視点を獲得すること | |
| 成績評価 | レスポンスカードの評価 40%・レポート 20%・テスト 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新時代の博物館学』芙蓉書房出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 博物館展示論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀井　若菜 ・ 高木　文恵※ ・ 野田　浩子※ | |
| 授業概要 | 博物館は、展示を通して来館者に情報を発信し、来館者はそれを受け止める。博物館の重要な役割を担う展示に関する諸問題について考えていく。 | |
| 到達目標 | １博物館の展示を見て、自分でその内容や意味について考えられるようになる。<br>２博物館の実際の展示の方法、内容、問題等について理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | １については、授業毎のレスポンスカード（２０%）と、博物館展示見学の上で提出してもらうレポート（３０%）で評価する。<br>２については、授業毎のレスポンスカード（３０%）と、レポートで評価する（２０%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 発達支援論（人間関係） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹下　秀子 | |
| 授業概要 | 発達支援のための基礎理論を講じたのち、対象理解の具体的な方法としての発達診断や発達支援の技術について、さまざまな現場の実践例を踏まえて概説する。 | |
| 到達目標 | 出生から続く生涯発達の過程において、主体の発達を援助する理念、方法や技術、制度がどのように共有されてきたを理解し、今後のあり方を考える。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す「出生から続く生涯発達の過程において、主体の発達を援助する理念、方法や技術、制度がどのように共有されてきたを理解し、今後のあり方を考える」について、レスポンスペーパーの提出、授業での発言、討論への参加（原則５０%）、期末試験（原則３０%）およびレポート（原則２０%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に適宜配布、紹介する。<br>指定図書：授業中に適宜紹介する。<br>参考書：授業中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 発達心理学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 上野　有理 | |
| 授業概要 | 私たち人間の子どもは、他の動物に比べ未熟な状態で生まれてくる。しかし子どもは全く無力な存在ではなく、さまざまな認知機能に支えられて外界の物や人と関わり、学び、発達していく。授業では、とくに乳幼児期に焦点をあて、子どもの認知発達を紹介する。ときに大人とは異なる、子どもの行動や心の働きの理解を深めることを目指す。 | |
| 到達目標 | (1) 乳幼児を対象とした心理学研究の手法を理解する。<br>(2) 乳幼児期の認知発達とそのしくみを理解する。 | |
| 成績評価 | (1)、(2) いずれも定期試験（60%：(1) 30%、(2) 30%）とレスポンスペーパー（40%：(1) 20%、(2) 20%）で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書は授業内で適宜紹介する。テキスト、指定図書はなし。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 発達心理学Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹下　秀子 | |
| 授業概要 | 学校生活での勉強や、友達や教師のとの人間関係、親からの自立をめぐって、現代の子どもたちはどのように少年期を乗り越えていくのだろう。この時期の人格発達を、認知的発達の諸側面とともに、他者や諸処の社会的集団と如何なるかかわりが形成されるのか、属する社会集団で自我・自己がどのように形成されていくのかについて焦点をあてて論じ、教育的人間関係と社会的援助のあり方をさぐる。 | |
| 到達目標 | 他の霊長類と比べて特異的に長いヒトの少年期の心の発達特性を、社会的・文化的要因との関連において理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す「他の霊長類と比べて特異的に長いヒトの少年期の心の発達特性を、社会的・文化的要因との関連において理解する」について、レスポンスペーパーの提出、授業での発言、討論への参加（原則５０%）、期末試験（原則３０%）およびレポート（原則２０%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に適宜配布、紹介する。指定図書：授業中に適宜紹介する。参考書：授業中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 発展演習Ⅰ（国際コミュニケーション） | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | テーマ毎に区分されたゼミへ所属し、ゼミ担当の教員から指導を受ける。各ゼミの掲げるテーマに対する学習やフィールドワークをおこなう。研究演習への前段階として、卒業論文のテーマ選択、学習を開始する。 | |
| 到達目標 | 卒業論文のテーマを決定し、ゼミ担当教員の指導のもと、主体的に研究をおこなう。 | |
| 成績評価 | 各ゼミ担当教員の判断による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 発展演習Ⅱ（国際コミュニケーション） | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | テーマ毎に区分されたゼミへ所属し、ゼミ担当の教員から指導を受ける。各ゼミの掲げるテーマに対する学習やフィールドワークをおこなう。研究演習への前段階として、卒業論文のテーマ選択、学習を開始する。 | |
| 到達目標 | 卒業論文のテーマを決定し、ゼミ担当教員の指導のもと、主体的に研究をおこなう。 | |
| 成績評価 | 各ゼミ担当教員の判断による。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各ゼミ教員の指示による。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | パブリック・スピーチ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | In this course, students develop their ability to deliver speeches in English. Students strengthen their speech skills by first reading about and watching examples of public speaking, and by then extensively practicing their own speeches. In this course, students practice three kinds of public speaking: impromptu speeches, extemporaneous speeches, and formal speeches. These three types of speech differ in degree of preparation. In an impromptu speech, the speaker has little or no time to prepare. An extemporaneous speech involves some preparation, after which the speaker speaks relatively freely. A formal speech involves careful written preparation and even some memorization, but an apparently natural speaking manner. | |
| 到達目標 | The concrete goals for the course are the following: (1) Students acquire greater familiarity with the elements of successful public speaking in English; (2) students become better able to engage in appropriate critical and interactive responses to the public speaking, in both manuscript and delivery, of others; (3) Students put their newly acquired knowledge to immediate actual use in a regimine of guided practice, thereby strengthening their own public speaking skills; (4) Students develop their expository writing skills by consistently generating manuscripts for public speeches of increasing length and formality. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goal (1) 15% of the overall evaluation, course goal (2) 20% of the overall evaluation, course goal (3) 30% of the evaluation, and course goal (4) 35% of the overall evaluation. Achievement of goal (1) is measured by quality of weekly homework reading reviews and reponse papers (15%). Achievement of goal (2) is measured by number of questions asked as an audience member to the speech deliveries of classmates (10%) and by quality and quantity of written feedback provided to the speech manuscripts of classmates (10%). Achievement of goal (3) is measured by performance on speech delivery on the midterm evaluation (15%) and the final evaluation (15%). Achievement of goal (4) is measured by quality of all speech manuscripts for the semester (35%). Performances in these areas are combined and converted to a 100-point scale; the passing line for the course is set at 60 points. Students are expected to attend every class meeting; in the case of an unavoidable absence, the instructor must be notified ahead of time, and the absent student must take responsibility for and exercise initiative in finding out about and completing any missed assignments and coursework. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | There is no set textbook for the course; handouts of readings are provided in class. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較衣装論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横田　尚美 | |
| 授業概要 | 衣食住の中の衣は、生活デザインを構成する重要な要素である。<br>文明が生まれてから今日までの服飾文化を時代ごとに比較しながら論じることで、それぞれの服飾の必然を知る。<br>そのことが現在を理解する鍵となり、未来を考えるヒントとなる。<br>服飾を通じて、生活デザイン全般や世界の歴史を理解する一助とする。 | |
| 到達目標 | (1)歴史の流れを把握できる。<br>(2)服飾の変化を歴史の中に意味づけられる。<br>(3)服飾の変化のポイントが理解できる。<br>(4)時代ごとのポイントが理解できる。 | |
| 成績評価 | (1)～(3）については、授業内容の理解度を計る定期試験（(1)30％(2)30％。(3)30％）、(4)についてはリアクションペーパー(10％)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：深井晃子監修『カラー版世界服飾史』(美術出版社)2010 年<br>参考書：横田尚美『20 世紀からのファッション史』(原書房)2012 年<br>高校の社会科の教科書や資料集などを持っていれば、参考にしてほしい。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較社会文化論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　好孝 | |
| 授業概要 | 今日の私たちの生活について理解するためには、グローバルな観点がますます必要となっている。本講義では、経済、政治、商品、人、文化などを、グローバルに社会学的に分析している諸論点を見ていく。 | |
| 到達目標 | 第一に、身近な社会現象を相対化する必要性を知り、その方法を学ぶ。第二に、身近な社会現象についてグローバルな観点から見ることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 85%、レスポンスペーパー15% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 通常はレジュメを配布する。参考図書については適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較宗教論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小河　久志※ | |
| 授業概要 | 近年、宗教復興とよばれる現象が世界各地で顕在化しているように、宗教は現代社会を理解する上で無視できないものとなっている。この授業では、統一性と多様性という視点から、世界宗教を中心とする宗教一般について理解を深めることを目的とする。授業の前半部は、世界宗教を中心にその起源と発展の歴史、基本的な考え方などについて講義する。後半部では、東南アジアを事例に日常生活に根付く宗教のあり様について検討する。なお、受講生の理解を深めるため適宜、テーマに関連する映像資料を使用する。 | |
| 到達目標 | ①世界宗教を中心とする宗教一般に関する基本的な知識を獲得する。<br>②複眼的、相対的な視点から宗教を理解する力を身に付ける。 | |
| 成績評価 | 到達目標（2 つ）は、期末試験の結果（７０％）と授業への取り組み（３０％）により総合的に評価する。授業への取り組みは、毎回の授業時に提出してもらうコメントペーパーの内容で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義時に配布するプリント<br>指定図書：なし<br>参考書：講義中に適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較住居論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 藤木　庸介 | |
| 授業概要 | 世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。 | |
| 到達目標 | (1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。<br>(2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。<br>(3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)(3)の内容を包含した小テスト３回により評価。<br>成績への寄与率は小テストの合計を 100%とし、60%以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。<br>参考書：布野修司編『世界住居誌』 昭和堂 2005、他、適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較食文化論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 的場　輝佳※ ・ 堀越　昌子※ ・ 玉城　一枝※ | |
| 授業概要 | 食物と生活との関係を、食文化を背景にして自然科学的および人文学的視点から講義する。地球上で起こる食物連鎖の様相を解説し、連鎖の中点に立つ人間の食生活の歴史的変遷を教育することにより、我々の食環境の未来像を考える手がかりとなる情報を提供する。滋賀県をはじめ世界各地の風土で育まれてきた伝統的な食文化を学び、将来の食への展望を持つ。人類の歴史と食との関係を知ることによって、食文化の変化・発展を理解し、将来と現代の食文化の問題を理解する。 | |
| 到達目標 | 我々の食環境についての未来像を考えることができる | |
| 成績評価 | 到達目標について、レポート（50%）、小テスト（50%）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：「ふなずしの謎」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較道具論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 面矢　慎介 | |
| 授業概要 | 比較文化の視点から道具を考察する基本的視点の解説。個別的文化をこえて生活道具の多様性を理解するため、世界各地の生活用具をとりあげて日本の生活用具と比較し、その相違をもたらした文化的・技術的背景について考察する。日本および世界各地の伝統的道具ばかりでなく、近代化以降の道具、大量生産による現代製品についても取り上げる。比較の対象領域としては、わが国の近代化以前の道具文化との関連の深い朝鮮半島、および近代化以後の主要な文化移入元のひとつであった英国、第二次世界大戦後の工業製品において日本に強い影響をもたらした米国などを中心とする。 | |
| 到達目標 | 生活文化と道具デザインの密接な関係についての認識を深める。<br>（1）授業内容を理解し要点をまとめられる。<br>（2）授業内容に対して自分の意見や感想を述べることができる。<br>（3）授業に関係する文献を読み、内容をまとめ、考察を加えることができる。<br>（4）１つの道具について自分で調べ、その結果を文章にまとめることができる。 | |
| 成績評価 | コメントカード（１５%）と小レポート（3本，計２５%）。期末レポートにより評価。<br>期末レポートは出題から提出まで約２ヶ月で、成績評価への寄与率６０%。授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリントを配布<br>指定図書：道具学会・道具学叢書委員会「道具学への招待」（ラトルズ）、村瀬春樹「おまるから始まる道具学」(平凡社新書)　その他の参考書：初回授業時に文献リストを配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較認知発達論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 竹下　秀子 ・ 上野　有理 | |
| 授業概要 | 人間の知性はどのように進化してきたのか。なぜそのような進化が生じたのか。チンパンジーやニホンザルなど、人間を含めた霊長類の行動や認知の発達を比較する研究を紹介し、人間の発達と進化について論じる。 | |
| 到達目標 | 人間の知性の発達を生物進化という側面から理解し、人間が育つ社会・文化のあり方を考える。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す「人間の知性の発達を生物進化という側面から理解し、人間が育つ社会・文化のあり方を考える」について、レスポンスペーパーの提出、授業での発言、討論への参加（原則５０%）、期末試験（原則３０%）およびレポート（原則２０%）によって評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：授業中に適宜配布、紹介する。指定図書：授業中に適宜紹介する。参考書：授業中に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較文学論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安達　敬子※ | |
| 授業概要 | 日本古典文学における継子物語について考察する。<br>平安朝物語文学、特に『源氏物語』で取り上げられた「継子」について、中世までの説話・漢籍・伝説、物語と対照させて分析することにより、当時の人々にとって「継子」の存在がいかなる意味を持ったかを考察する。 | |
| 到達目標 | 授業を通じて古代・中古の日本人の家族観を理解し、当時の結婚制度における「継子」がその社会全体でどのように位置づけられるかを、文学作品を読み解きながら認識を深める。<br>実際に作品を読解しながら、以下の点を到達目標とする。<br><br>１，古代の文学の伝統が後代にどのように受容されたかを具体的に理解することができる。<br>２，貴族社会において、結婚制度が社会体制とどのように関わるかを理解することが出来る。<br>３，物語の枠組み（話型）が時代やジャンルの変化に従って、どのように主題を変化させていくかを理解することが出来る。<br>４，古代人における家族観念が現代日本人の家族観念と如何に異なっているか具体的な実相を理解することが出来る。 | |
| 成績評価 | 期末試験評価のみ。<br>授業を５回以上欠席した場合は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布<br>参考書『源氏物語』（新潮古典集成） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較文化論（地域文化） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 石川　慎治 | |
| 授業概要 | 2005 年に改正された文化財保護法において、「地域における人々の生活又は生業及び当該地区の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」として、文化的景観が定義された。この講義では、地域の歴史および風土との関連の中で成立してきた文化的景観を対象として、海外の事例なども紹介しながら日本における地域文化の多様性をみていく。 | |
| 到達目標 | 主に日本の文化的景観について学び、各地の多様な地域文化について述べることができるようにする。 | |
| 成績評価 | 期末レポート（55%）とレスポンスペーパー（45%）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。参考書：適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 比較文明論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫 | |
| 授業概要 | 古代文明の発生・展開・消滅の過程から、現代文明の未来を展望してみたい。古代文明にはエジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明・中国文明の四大文明があり、新大陸にはインカ ・マヤ・アステカ文明などがよく知られているが、その他に多様な文明が知られるようになってきた。本授業では、古代文明の相互の比較検討を通して、文明相互の共通性と相違性を認識し、時代と地域を越えて文明の融合は可能なのか、もし融合が可能でないとしたら、文明間の相互理解はどのようにしたら可能なのか、を考えていく契機を提供したい。 | |
| 到達目標 | 1. 古代文明の内容を理解する<br>2. 古代文明と現代文明を時代と地域を越えて比較検討できるようにする<br>3. 文明間の相互理解のための方策を考える | |
| 成績評価 | 講義理解度６０％　レポート（小レポート２回・期末レポート）４０％　で成績評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント資料を配布する参考書：授業中に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 東アジア考古学概論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫 | |
| 授業概要 | 朝鮮半島は、旧石器時代から現在に至るまで日本と非常に関係が深い。朝鮮考古学の概要を理解し、日本考古学と比較してその相違性と相似性を理解することを目的とする。まず最初に、朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史の概要を講義する。そして、旧石器時代から朝鮮時代までの各時代における考古学の成果と問題点を概説する。場合によっては、主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して、理解を深める。 | |
| 到達目標 | １．朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史を理解する<br>２．旧石器時代から統一新羅時代までの朝鮮考古学の内容を理解する<br>３．日本考古学と比較して、日本と朝鮮との歴史的な関係を考える | |
| 成績評価 | 講義理解度６０％、レポート（小レポート２回・期末レポート）４０％で成績評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント資料を配布する<br>参考書：授業中に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 東アジア世界論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　俊明 | |
| 授業概要 | 中国はその名のとおり、天下・世界の中心であることを自認した。東アジア地域にとって、中国の影響力は強烈であり、そうした思想が当時の国家間の関係を規定した。しかし周辺諸国が、それにどのように対応したかは様々であり、必ずしも中国の思惑通りにはいかなかった。そこに東アジアの固有の歴史世界があるのであり、とりあげようとするのはそのような現実である。『魏志』東夷伝の中から、特に韓伝をとりあげて詳細に検討し、それを通して中国中華の「辺境」に対する認識について考えたい。 | |
| 到達目標 | 東アジア世界に関する基礎知識の習得 | |
| 成績評価 | レポート 20%、期末試験 80%。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリントを毎回配布する。<br>参考書：適宜、指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ビジネス英語 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Karl Braun※ | |
| 授業概要 | This course is designed to help students use English communicatively in the workplace and become acquainted with basic business vocabulary. | |
| 到達目標 | (1) Students will perform various business tasks<br>(2) Students will develop listening skills in business situations<br>(3) Students will acquire a basic stock of business terminology<br>(4) Students will practice short presentations and group discussions | |
| 成績評価 | Presentations (2) 60%, Reports (2) 40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Get Ready for Business, Book 2　Vaughan & Zemach / Macmillan ISBN 978-4-7773-6326-1 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 美術史Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀井　若菜 | |
| 授業概要 | この授業では、物語や文字テキストに基づいて描かれた中世の日本美術を取り上げる。言葉で記される物語に絵が付されている場合、私たちは違和感を持たず両方を鑑賞する。しかし、物語を記す「言葉」と視覚的表象である「絵」は、全く異なる媒体であり、言葉で記された「物語」の、何をどのような「絵」にしているのか、ということを詳しく調べていくと、そこに絵を制作し享受した者の価値観や考え方が映し出されていることが見えてくる。この授業では、物語と絵の双方を比較しながら見ることを通し、制作者が絵に込めた願望や思いを読み解いていく。 | |
| 到達目標 | １　物語に登場する女性が、絵の中でいかに表象されているか、その造形の意味について考えることができるようになる。<br>２　言葉で記される物語と視覚表象である絵を対比して見ることができるようになる。 | |
| 成績評価 | １‥まとめの回で小テストを行う（５０％）。<br>２‥期末レポート（５０％）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：授業でその都度紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 美術史Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀井　若菜 | |
| 授業概要 | この授業では、日本中世の絵巻を中心に近現代の絵画や広告をも取り上げる。プロジェクターで作品の表現を丁寧に見ながら、絵の表現の意味や意図を考えていく。<br>その際、女性像が他の表現との関係性の中でいかに描かれているのかに注目する。絵の中で「女性」は、美しくも描かれれば、醜く、あるいは性的にも描かれる。男性主導の社会で「他者」と位置づけられる女性の姿を、どのような状況にいた者が、表現されたような姿として描き、眺めたかったのかと考え、その作品が作られた社会的な文脈を探っていく。またそのような女性像に対する女性の側からの読み直しについても考察する。 | |
| 到達目標 | １　中世絵巻の中の女性表象の特徴や意味を理解できるようになる。<br>２　近現代の表象も含め、女性表象の特徴や意味を考えられるようになる。 | |
| 成績評価 | １‥まとめの回で小テストを行う（５０％）。<br>２‥期末レポート（５０％）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：授業でその都度紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 美術史実習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀井　若菜 | |
| 授業概要 | 美術史を研究していく上では、実際に作品（実物）を見ることが大変重要である。作品の図版を掲載した出版物は多くあるが、それらは印刷されたものに過ぎない。オリジナルの作品は一つしかないものであり、自分の目でそれを見て、質感や大きさなどを捉えることが研究の第一歩となる。この授業では、美術館・博物館に足を運び、自分の目で作品を見てそれについて報告することを実施する。見学は３～４回、彦根城博物館や京都の博物館・美術館へ行くことを予定している（見学の日程については履修者の都合を聞いて決める）。見学前には事前勉強を、見学後には報告をしてもらう。ともに作品を見て意見を交換し合うことにより、美術に対する興味が高まることを期待する。また最後に、自分が関心を持った作品を一つ選び、それについての研究報告もしてもらう。 | |
| 到達目標 | １美術作品に対して興味を持ち、自分の目で作品の特質を捉え、それについて言葉で表現できるようになる。<br>２美術作品についての先行研究をある程度調べられるようになる。 | |
| 成績評価 | １見学を積極的に行い、見学後、自分の言葉で作品の特質を語ることができるようになる（５０％）。<br>２については発表とレポートで評価する（５０％）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 病態生理学実習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 矢野　仁康 ・ 遠藤　弘史 | |
| 授業概要 | 栄養状態とその異常を生理、生化学的に把握する方法論を実習することにより、栄養と疾患との関係の理解を深める。 | |
| 到達目標 | ①　細胞からの蛋白質･核酸の抽出法やその解析法を学ぶ事で、栄養学に不可欠な蛋白質･核酸の代謝について理解できる<br>②　腎機能（尿）･感覚（味･触覚）に関する実験を通して、栄養生理学についての理解を深める<br>③　顕微鏡による病理組織標本の観察により、様々な疾患についての理解を深める<br>④　臨床医学の実践活動に重要な、疾病の成り立ちについて、実験を通して理解できる | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、①、②、③は各々実習レポート３０％ずつで合計９０％、④は課題レポート１０％、合計１００点満点で採点を行い、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 病態評価と治療 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 矢野　仁康 | |
| 授業概要 | 疾病とは何か、人はいかにして病気を発症するかを学ぶ。様々な疾患において内因性要素、外因性要素の関わりを理解し、発症から病態形成の過程を学ぶ。いわゆる生活習慣病や栄養代謝疾患、消化器疾患、免疫アレルギー疾患、感染症等について、その発症の過程、診断方法などを講義する。各種疾病を理解すると共にそれらに対する臨床医の考え方、方法論を理解することが求められる。 | |
| 到達目標 | ①　疾患診断と治療の概要を理解する事ができる<br>②　器官別（腎尿路、造血器、免疫･感染症、運動器、神経系）に疾病の成因･病態の概要を理解できる<br>③　器官別（腎尿路、造血器、免疫･感染症、運動器、神経系）に疾病の診断･治療の概要を理解できる<br>④　臨床医学の実践活動に重要な、疾病の成り立ちと病態評価と治療について十分な知識を得る事が出来る | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、①、②、③は各々課題レポート１０％ずつで合計３０％、④は定期試験を行い７０％、合計１００点満点で採点を行い、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：竹中優ほか「疾病の成因・病態・診断・治療」医歯薬出版株式会社<br>：伊藤節子ほか「臨床病態学」化学同人 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾心理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横田　尚美 | |
| 授業概要 | 様々な服飾、服飾に関わる人間の行為などを通して、服飾と人間の関係について考える。<br>服飾が人間心理に与える影響を自覚し、人間や社会を理解する一助とする。 | |
| 到達目標 | (1)それぞれのテーマごとに問題意識を持つことができる。<br>(2)服飾が持つ心理的な力を客観的かつ総合的に分析し理解することができる。 | |
| 成績評価 | (1)については、リアクションペーパーと課題発表によって（25%ずつ)、(2）については定期試験によって（50%）採点し、１００点満点の 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考図書：横田尚美『ファッションを考える』丸善出版　2003 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾造形論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森下　あおい | |
| 授業概要 | 服飾は人体を基体として成り立つものであり、両者の関係からデザインが生まれる。そこで、この授業では人体の形態、衣服原型の役割と型紙設計の方法、人体各部位の形態と衣服デザインとの関係について学ぶ。各回の授業では、主要なデザインとパターン構造について説明し、各自の理解が進むように実践的な課題も課す。また現代の服飾造形における課題について、グループ討議を行い考察する。 | |
| 到達目標 | （1）人体の形態と衣服の関係を構造的に理解する<br>（2）アパレル設計の内容を学ぶ<br>（3）アパレル製品の課題を考察する | |
| 成績評価 | （1）人体の形態と衣服の関係を構造的に理解する　小テスト　20%<br>（2）デザインとパターンの関係を理解できる　小テスト　20%<br>（3）アパレル製品の課題を考察する　期末レポート　60% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜、資料を配布します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾文化論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横田　尚美 | |
| 授業概要 | 服飾文化について、服飾文化史、民族文化、社会と服飾産業という観点から紹介する。<br>現在のファッションの原点を知る。<br>ファッションとは異なる服飾文化の側面に気付かせる。<br>服飾産業の現状についても注目する。 | |
| 到達目標 | (1)　20 世紀のファッションについて、現在のファッションに至る過程が<br>社会の変化とともに理解できる。<br>(2)　民族服飾とファッションとの違いが説明でき、<br>それぞれの生活環境と服飾文化との関係がわかる。<br>(3)　服飾産業の問題点を自覚し、自分の考えを持つことができる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)については、各 40%、(3)については 20%の割合で評価する。<br>(1)については、リアクションペーパー10%、定期試験 30%<br>(2)については、課題レポート 20%、定期試験 20%<br>(3)については、リアクションペーパー10%、定期試験 10%<br>で、100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：横田尚美『ファッションを考える』丸善出版　2003 年<br>参考書：横田尚美『20 世紀からのファッション』原書房　2012 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾デザイン演習Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 法月　紀江※ | |
| 授業概要 | 布による造形の基礎として、衣服の構造について学習し、布の裁断・組み立て・仕上げの実際を体験する。<br>演習には人体型成形衣服の基礎技術の盛り込まれた≪シャツ衿のブラウス≫を扱う。<br><br>現代衣服の基礎である原型から展開したブラウスの製作を経験することで日常の衣生活に於いての観察力を高め、工夫する能力をつけよう。 | |
| 到達目標 | 人体型成形衣服の基本的な技法の盛り込まれた《ブラウスとスカート》の縫製を経験することから布による造形の基礎を身につける。 | |
| 成績評価 | 製作物に対する評価 70%　宿題・小テスト 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 初回授業でテキストを配布。縫製作業中に必要に応じて書き込み・チェックが出来るように A４バインダーを各自用意すること。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾デザイン演習Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横田　尚美 | |
| 授業概要 | 服飾がそれぞれの時代の中でどのような生活デザインの中で身に着けられているかを、映画や文学のストーリーの中で理解することで、<br>服飾デザインの発想に生かすための演習を行う。<br>現存する衣装、当時のファッション雑誌などの一次資料も活かしながら、調査し、発表する。 | |
| 到達目標 | (1)原作が楽しめ、理解できる。<br>(2)原作に登場する服飾について関心を持ち、生活デザイン全体の中で理解できる。<br>(3)時代背景とその時代の服飾デザインを理解し､応用して服飾デザインを発想し､表現できる。<br>(4)原作を生かす時代背景に合った服飾デザインを客観的に評価できる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)については 30%ずつ、(3)(4)については 20%ずつとする。<br>(1)については、毎回の授業態度で<br>(2)については、課題の発表と授業態度、リアクションペーパー各 10%ずつで<br>(3)については、課題の発表と授業態度各 10%ずつで<br>(4)については、課題の発表と授業態度各 10%ずつによって、<br>100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：最初の授業で決めた作品の文庫本を購入してもらいます。<br>参考図書：オリヴィエ・ジェルヴァル『ファッションデザイナーの世界』（グラフィック社）2008 年、<br>参考図書：横田尚美『20 世紀からのファッション史』(原書房)　2012 年 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾デザイン演習Ⅲ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森下　あおい | |
| 授業概要 | この授業では、デザインにおけるコンセプトの構想からアイデアの展開を、課題の製作を通じて習得する。その過程では、人体と衣服形態、素材の効果的な表現法を考察し、型紙設計から試作、縫製、着装と評価の一連の流れを学ぶ。全体を通じて各自が文献調査と市場調査、聞き取り調査を行いながら進める。 | |
| 到達目標 | １．課題のねらいを理解しデザインを構想力　レポート　10%<br>２．目的とする造形に対する適切な材料と技術の判断力　デザイン画　20%<br>３．制作の完成に至る過程の柔軟な判断力と思考力の習得　デザインマップ　20%<br>４．最終的な制作物を目的に沿ってまとめる表現力　服飾制作物　50% | |
| 成績評価 | 提出課題 100%（レポート 10%、デザイン画 20%、デザインマップ 20%、服飾制作物 50%）で評価する。但し授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業時にプリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾デザイン論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森下　あおい | |
| 授業概要 | 服飾デザインは目的や要求に応じて、機能性と装飾性を組み立てて設計する。そこには人間の精神性を映し出す感性的要素や､機能性や快適さを求める人体への影響､さらに社会性や産業､技術との関係など、多岐にわたる視点を理解する必要がある。その為にこの授業では、多様なテーマ性を持つ服飾デザインの実例から、その意味やコンセプト、テーマや条件を考察する。服飾デザインに関わる造形理論､実践方法としての調査､アイデアの展開方法についても学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）服飾デザインの要素を理解する<br>（2）服飾デザインのテーマ性を理解する<br>（3）実例からデザインの概念を理解する | |
| 成績評価 | （1）　服飾デザインの要素を理解できる。　小レポート（20%）<br>（2）　服飾の審美性、実用性を理解する。　小レポート（20%）<br>（3）　デザインの目的や意義を捉えて説明できる。期末レポート（60%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：適宜資料を配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語コミュニケーションＩＡ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　周子 | |
| 授業概要 | 前期半年間に学習した初級文法の知識を用い、ある程度まとまった長さの文章を読解していきます。文法知識の定着を図りつつ、フランスの各地方の歴史的・文化的知見も養います。読解が授業の中心となりますが、適切なイントネーションで長文を声に出して読む練習も行います。 | |
| 到達目標 | （1）フランス語中級程度の文章を理解できる。<br>（2）授業の予習・復習を通じ、自学の習慣を身につけている。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）については、定期試験（５０％）および1課が済むごとに実施する小テスト（２５％)、(2）については毎回の予習が確実にできているかの確認（２５％）によって評価する。１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『初級文法読本 フランスの旅 Découverte de la France 』(朝日出版社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語コミュニケーションＩＢ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gilles Fernandez※ | |
| 授業概要 | この授業で直ぐに使える便利な構造を学ぶ。<br>会話が出来るようになることを目標とします。<br>「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。 | |
| 到達目標 | 会話が出来るようになることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験　５０％　小テスト（役割演技）＋　課題 ５０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを配布します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語コミュニケーションⅡＡ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　周子 | |
| 授業概要 | 初級文法で学習した知識を用い、ある程度まとまった長さの文章を読解していきます。文法知識の定着を図りつつ、現代フランスの実情に関する知見も養います。読解が授業の中心となりますが、適切なイントネーションで長文を声に出して読む練習も行います。 | |
| 到達目標 | （1）フランス語中級程度の文章を理解できる。<br>（2）授業の予習・復習を通じ、自学の習慣を身につけている。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）については、定期試験（５０％）および1課が済むごとに実施する小テスト（２５％)、(2）については毎回の予習が確実にできているかの確認（２５％）によって評価する。１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『時事フランス語　２０１５年度版（ア・ラ・パージュ)』(朝日出版社) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語コミュニケーションⅡＢ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gilles Fernandez※ | |
| 授業概要 | この授業はフランス語コミュニケーションＩＢの続きです。 | |
| 到達目標 | 会話が出来るようになることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験 50%、課題と小テスト 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを配布します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語コミュニケーションⅡＣ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　周子 | |
| 授業概要 | この授業では、中級フランス語文法を学習します。初級で学習した項目を振り返りつつ、＋αの知識を得て、よりニュアンス豊かなフランス語の表現を理解・表現できるようになることを目指します。文法をしっかり確認しながら、授業ではできるだけ多くフランス語を声に出して読む機会を設け、その音感に親しむとともに、またある程度の長さの文章を精読する忍耐力、さらには短い文章を的確に発信する能力をも養います。 | |
| 到達目標 | （1）フランス語中級として学習すべき文法事項について理解できている。<br>（2）フランス語中級レベルの単語を修得できている。<br>（3）授業で学習した内容を定着させるべく、自学の習慣を身につけている。<br>（4）分からない箇所があった場合、辞書をひいたり、動詞活用表を参照するなど、適切な方法で自ら問題解決することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1）（2）については、定期試験（６０％）および３課が済むごとに実施する小テスト（２０％）、（3）（4）については宿題を期限通りに済ませているかの確認（２０％）によって評価する。１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『レヴォリューション　2』（朝日出版社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | フランス語コミュニケーションⅡＤ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Gilles Fernandez※ | |
| 授業概要 | この授業がモチベーション持てる学生のための授業です。<br>四つの能力の中に口頭表現力と書く表現力が作ることを目標とします。<br>Ce cours s'adresse à des étudiants motivés.<br>Parmi les quatre compétences langagières, ce cours vise en particulier le développement de l'expressions orale et de l'expression écrite. Les élèves s'initieront notamment à la construction de phrases plus longues et à une expression plus fine de l'opinion. | |
| 到達目標 | 四つの能力の中に口頭表現力と書く表現力が作ることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 定期試験 50%、小テスト（プレゼンテーション／文章）＋　課題 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリントを配布します。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | プレゼンテーション技法 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 印南　比呂志 ・ 南　政宏 | |
| 授業概要 | デザイン、建築、映画、アートなどさまざまな表現手法について、それらの専門分野毎に制作作業のプロセスや、基本的技術、考え方などを講義する。グラフィック分野の編集工学として、タイポグラフィ、写真、印刷、造本、映像、DTP、WEB などの分野の表現技術について学ぶ。また立体表現手法については、スタディモデルから、プロトタイプモデルまでの制作過程を実際に実演しながら説明していく。講義テーマによっては現場で活躍する専門家を外部講師として招聘する。演習授業ではなく、講義形式の授業ではあるが、常に実践事例をもとに講義をすすめていく。 | |
| 到達目標 | (1)ものごとをわかりやすく魅力的に説明、表現するための考え方を身につける。<br>(2)世の中の様々な表現手法の価値を理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | 毎回のレスポンスシートと節目のレポート課題により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：特になし。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化財・保存修景論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 濱崎　一志 ・ 井口　貢※ | |
| 授業概要 | 歴史的環境を構成する地域文化財の保存・修景・活用について論ずる。前半では濱崎が、歴史的環境を構成する地域文化財、町なみや集落、遺構、遺跡などを調査し、その現代的意義を再評価し、現在の生活空間に再生させ活用するために、その保存や修景の方法と、保存・修景することの意義について、海外や国内の具体的な例をあげながら論ずる。後半では井口が、文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興（まちづくりや観光振興を中心に）の実態や望ましい在り方について考察していく。 | |
| 到達目標 | (1)地域文化財の調査、再評価、保存・活用について理解し、説明できること。<br>(2)地域文化財の活用したまちづくりのあり方について自らの考えを述べることができる。<br>(3)文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興の望ましい在り方について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)地域文化財の調査、再評価、保存・活用について理解し、説明できること、(2)地域文化財の活用したまちづくりのあり方について自らの考えを述べることができるについては濱崎の課題レポート(50%、(1)40%、(2)60%)で評価する。<br>(3)文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興の望ましい在り方について自らの考えを述べることができるについては井口の課題レポート(50%)で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配付<br>参考書：井口貢『観光文化の振興と地域社会』ミネルヴァ書房 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化財・保存修景論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中井　均 | |
| 授業概要 | 人類の歩んできた歴史を示す文化財はどのようにして今日まで残されてきたのか。そこには近代以降の法整備が重要な役割を果たしてきた。その理念と実情について学ぶ。とりわけ開発行為と表裏一体で破壊、消滅の危機に直面しているのが埋蔵文化財である。ここでは埋蔵文化財の保護を行政の立場でいかに取り組まれてきたのかを検証する。また、近年人類共通の遺産として注目されている世界遺産について、特にアジアの世界遺産を題材として保護や修復について紹介する。 | |
| 到達目標 | 文化財保護法を学び、文化財保護の精神を身につけ、文化財活用の必要性について述べることができるようになる。<br>(1)文化財保護法の成立を説明することができる。<br>(2)文化財保護法の特徴について説明することができる。<br>(3)文化財保護の精神について自らの考えを述べることができる。<br>(4)世界遺産についての情報を集めて、その代表的な遺産について、その特徴を批評することができる。 | |
| 成績評価 | 定期試験(60%：(1)20%、(2)20%、(3)20%)、(4)については、課題レポート(40%)で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：毎回プリント資料を配付する。参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化財情報論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 濱崎　一志 ・ 石川　慎治 | |
| 授業概要 | 文化財に関する視覚的な情報をどのように取り扱うかについて講義する。３次元モデルの構築、レンダリングやアニメーションの作成、２次元画像情報の処理などを，AutoCAD、3D Studio を用いて実際にデータを入力しながら説明する。 | |
| 到達目標 | (1)３次元で図形を描くことの基礎を理解する。<br>(2)３次元で古建築を描くことの基礎を理解し、３次元モデルを作成することができる。<br>(3)作成した古建築の３次元モデルを用いてアニメーションを作成し、視覚的に表現することができる。<br>(4)写実的なアニメーションを作成するため、３次元モデルに貼り付ける２次元データを処理することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)３次元で図形を描くことの基礎を理解する、(2)３次元で古建築を描くことの基礎を理解し、３次元モデルを作成することができる、(3)作成した古建築の３次元モデルを用いてアニメーションを作成し、視覚的に表現することができる、(4)写実的なアニメーションを作成するため、３次元モデルに貼り付ける２次元データを処理することができるについては、毎回課する課題(100%：(1)10%、(2)30%、(3)30%、(4)30%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化社会学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 武田　俊輔 | |
| 授業概要 | 本講義は，近現代の日本における観光や開発，地域おこしと呼ばれる現象が，地域社会とそこに住む人々に対してどのような影響を与えるのかについて，地域社会における「伝統的」とされる芸能や祭りの変化，そしてその担い手である地域住民の暮らしの変化を切り口として，考えていく視点を手に入れてもらうことをねらいとしている。祭り・芸能を手がかりとした講義だが，それらへの美学的関心というより，地域社会における政治的・経済的な状況，観光や地域振興と地域文化とを結びつけて考えていくことに対する関心を持つ人向けの講義である。 | |
| 到達目標 | (1)「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できるようになる。<br>(2)「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る。<br>(3)「伝統」文化の創造と再編成の中で、人々がどのような影響を受け、またそうした状況をどのように活用しているのかについて考察できるようになる。 | |
| 成績評価 | 1)「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できる(30%)。(2)「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る(30%)。(3)「伝統」文化の創造と再編成の中で、人々がどのような影響を受け、またそうした状況をどう活用しているのかについて考察できる(40%)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書：岩本通弥編著,2007,『ふるさと資源化と民俗学』吉川弘文館.<br>市川秀之・武田俊輔編著、滋賀県立大学曳山まつり調査チーム,2012,『長浜曳山まつりの舞台裏：大学生が見た伝統行事の現在』サンライズ出版.<br>それ以外については適宜、紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化人類学概論Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 島村　一平 | |
| 授業概要 | 文化人類学は，異文化理解のための学問であると同時に、自文化理解のための学問でもある．国境を越えて様々な人々が行き交う現代，文化人類学が生み出してきた異文化理解の方法論は，益々，重要性を持つものだと考えられる．俗に日本の常識は世界の非常識という。「世界の常識」というものが存在するかどうかは不明であるが、皆さんの身の回りの「常識」は、果たして「常識」なのだろうか。　本講義ではこうした「常識」の自明性について再考し、「あたりまえ」的思考からの脱却をめざす。進度に応じて多少の内容の変更の可能性がある。 | |
| 到達目標 | 受講生は、文化人類学の鍛えてきた基礎理論を学ぶことで、異文化理解の基礎的な方法を身に着けることができる。具体的に言うならば、文化人類学を学ぶことで、まずは偏見を持たずに外国の文化と接するための基礎的なものの考え方が身に付く。さらに一見すると我々の文化とはかけ離れている遠い国や地域の文化の中に我々の文化と同じ普遍性が見いだせることだろう。また、我々日本人が持つ「正しさ」や「当たり前」が、必ずしも普遍的な価値を持つものではないことも理解できるようになるだろう。すなわち、文化人類学を学ぶことで日本の文化を相対的に眺めるという視点を身に着けることができるといえよう。 | |
| 成績評価 | 期末試験による | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：波平恵美子（編），『文化人類学』カレッジ版，医学書院<br>参考書　：山下晋司，船曳健夫編『文化人類学キーワード』，有斐閣<br>John Monaghan 著　2000　Social and Cultural Anthropology: A Very Short Introduction (Very Short Introductions) John Monaghan, Oxford Univ Press. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化人類学概論Ｂ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 棚瀬　慈郎 | |
| 授業概要 | 文化人類学において蓄積されてきた知見のうち、生殖、親族関係、社会集団、また環境への適応や儀礼についての理論、事例を紹介する。 | |
| 到達目標 | 文化人類学の広範な学的蓄積の中で、特に社会関係についての理論、知見についての知識の獲得を目指す。 | |
| 成績評価 | 試験による（１００％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：波平恵美子（編）『文化人類学』カレッジ版　医学書院<br>参考書：山下晋司、船曳健夫(編)『文化人類学キーワード』有斐閣 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 文化人類学特論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 棚瀬　慈郎 | |
| 授業概要 | 人間は、その文化に固有の宇宙観、生命観に従って、人間の誕生、性、死を意味づけてきた。講義の中では、豊富な文化人類学的資料を提示し、そういった普遍的な人間事象が各文化においてもつ意味を考察する。<br>また現代的な医療システムの浸透は、人間の生と死のあり方を大きく変化させつつあるが、現代における誕生、性、死の問題についても検討する。 | |
| 到達目標 | 性、誕生、死といった人間の普遍的な事象を考察することを通じて、文化の特殊性と、人間存在の普遍性についての考察を深める。 | |
| 成績評価 | 試験による（100％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定図書　宮本常一「忘れられた日本人」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 分子生物学基礎 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　克己 | |
| 授業概要 | 生命現象を分子レベルで解明かす分子生物学について，基礎的な内容の解説を行う．近年の目覚しい生命科学の発達には分子生物学が大きく寄与している．遺伝子工学（バイオテクノロジー），遺伝子組換え植物，遺伝子治療，DNA 鑑定，クローン生物，ヒトゲノム計画，ゲノム創薬など分子生物学を応用した技術が広汎に利用されている．本講義では，まず分子生物学に関する原理と基礎知識について説明し，さらに代表的な応用技術について解説する． | |
| 到達目標 | (1) タンパク質，DNA，RNA の構造を説明できる<br>(2) 複製，転写，翻訳の原理と機構を説明できる<br>(3) 分子生物学の応用技術を説明できる<br>(4) 分子生物学と健康との関連について自分の考えを説明できる<br>担当教員の決定に伴い，到達目標の一部を変更することがある． | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)，(2)，(3)については，定期試験（65% : (1) 20%, (2) 25%, (3) 20%,），レスポンスシート（15% : (1) 5%, (2) 5%, (3) 5%）で評価する．(4) については，課題レポート（20%）で評価する．100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする．授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない．担当教員の決定に伴い，成績評価の一部を変更することがある． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：井出利憲著「よくわかる分子生物学の基本としくみ」（秀和システム）<br>参考書：ブルース・アルバーツ他著「細胞の分子生物学第５版」（ニュートンプレス） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 法学概論（国際法を含む） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 坂田　雅夫※ | |
| 授業概要 | この授業では法律に関する基本知識を講義します。隣の人が自分の家の壁を壊した。怒って訪問しても、のらりくらりとして、金を払うどころか、謝りさえしない。訴えてやりたいけど、どうすれば良いのか。ある朝、家にいきなり警察が来て、心当たりがないことで、逮捕された、自分はどうなってしまうのか。こういった、本当は余り身近に来てほしくないけど、運が悪ければいつかやってくる厄介ごと。皆さんが思い浮かべる法律とは、こうした問題にからむものばかりでしょう。もちろん、こういう問題もこの授業では取り上げます。それ以外にも法律は、皆さんの日常生活にいろいろと深く結びついています。ニュース、街角、そして日常生活でみるいろいろな問題や単語が法律と結びついていろんだとを理解してもらえるのがこの授業の目標です。 | |
| 到達目標 | （1）ニュースで出てくる法律関係の用語を理解できるようになる。<br>（2）公務員試験の法律・政治学関係の問題への基礎的知識を習得する | |
| 成績評価 | 中間試験 20%（1回）、期末試験 80%（1回） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 西村健一郎, 西井正弘, 初宿正典『判例法学〔第 5 版〕』（有斐閣、2012 年） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ポストコロニアル論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 栢木　清吾※ | |
| 授業概要 | 「ポストコロニアル論」とは、植民地主義の歴史と、現代世界に残存するその負の遺産を明らかにし、それからの脱却を目指すために練り上げられてきた批判的知の集積である。この授業ではまず、フランツ・ファノン、エドワード・サイード、ガヤトリ・スピヴァクといった重要な思想家・理論家の議論を紹介しながら、ポストコロニアルな諸問題を考察するために必要となる基礎的な概念やキーワードについて概説する。その上で、そうした知見を活かしながら、受講者自身が身近な領域のなかにポストコロニアルな諸問題を再発見できるようになることが、本授業の目的となる。中学、高校の教科書で習ったはずの文学作品、新聞やテレビで目にしたはずの事件、毎日の食卓に上がる飲み物や食べ物、観光旅行の定番になっている地域やスポットなどを題材に取りながら、われわれの日常世界に偏在する植民地主義の痕跡を浮き彫りにしていきたい。 | |
| 到達目標 | (1) ポストコロニアル論に関わる基礎的な概念やキーワードを理解できる。<br>(2) 身近な領域のなかにポストコロニアルな問題を再発見できる。<br>(3) 授業内容を踏まえた上で、 自ら課題を設定し、それについて思考し、調査することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)(2)については、授業時に複数回提出を求めるリアクション・ペーパー（30%：(1)15%、(2)15%）で、(3)については期末レポート（70%）によって成績評価をおこなう。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし。<br>指定図書：ロバート・ヤング『1 冊でわかるポストコロニアリズム』本橋哲也訳、岩波書店、2005 年。アーニャ・ルーンバ『ポストコロニアル理論入門』吉原ゆかり訳、松柏社、2001 年。<br>＊初回の概要説明の折に、各回の授業内容に関連するブックリストを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 翻訳文化論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 呉　凌非 | |
| 授業概要 | 翻訳は単なる手作業の一つだと思われがちですが、日本の科学研究に大きく寄与してきた翻訳自体も学問としてとらえることの重要性がかなり認識されてきました。国際コミュニケーション学科の学生は翻訳文化論を通して翻訳の基本を知ることができるのみならず、国際感覚を身につけることもできます。この講義は人間による翻訳とコンピューターによる翻訳の比較をしながら進めていきます。 | |
| 到達目標 | （1）言語学関連の基礎知識を習得すること<br>（2）人間によることばの翻訳に関する知識を習得すること<br>（3）コンピューターによることばの翻訳に関する知識を理解すること<br>（4）宿題を提出すること | |
| 成績評価 | 定期試験　75%、（1）25%、（2）25%、（3）25%、<br>宿題 25%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 指定なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | マーケティングリサーチ演習 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山田　歩 | |
| 授業概要 | 製品やサービスを開発する際には多くの疑問や仮説が出されます。市場の動向がどうなっているか、売り上げ低下の理由は何か、こんな消費者はこんな商品を必要としているのではないかといった様々な疑問や仮説に答えるための調査を設計・実施し、商品開発における戦略策定や意思決定の支援を行うのが、マーケティングリサーチです。<br>この演習では、リサーチ課題の設定から、その設計、実施、結果の分析と解釈、プレゼンテーションに至るマーケティングリサーチの一連のプロセスを実際に行ってもらいます。<br>マーケティングリサーチの考え方と手法を理解し、自ら調査を行う力を身につけることがこの演習の目的となります。 | |
| 到達目標 | マーケティングリサーチの考え方と手法を理解したか。 | |
| 成績評価 | 最終発表 50%、授業中の取り組み 50%で評価します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：上田拓治（2010）『マーケティングリサーチの論理と技法［第 4 版］』日本評論社 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | マーケティング論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山田　歩 | |
| 授業概要 | どんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんな場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるように、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。<br>この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。 | |
| 到達目標 | 企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。 | |
| 成績評価 | 期末試験 60%、授業中の課題 40%で評価します。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：石井淳蔵・廣田章光（2009）『1 からのマーケティング 第 3 版』碩学舎<br>参考書：池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩 (2010). 『マーケティング』 有斐閣 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 民俗学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市川　秀之 | |
| 授業概要 | 民俗学はわれわれが過ごしている日常生活の意味を問い直す学問である。滋賀県の民俗は、古くから多くの民俗学者の研究対象となり、そこからさまざまな民俗学的知見が生成されてきた。宮座論・環境民俗学など滋賀県を母胎として誕生した研究領域も多い。この授業では、過去の研究や調査成果を紹介し、近江の民俗を具体的な事例としながら、民俗学全体を概括的に解説する。<br>　この授業は民俗学特論や民俗学実習の基礎科目としての位置づけを持つ。 | |
| 到達目標 | （1）民俗学の基本的な用語を理解すること<br>（2）民俗の基本的な概念を理解し、それを文章の形で表現すること<br>（3）フィールドワークの基礎を身につけること | |
| 成績評価 | レポート（1回）　20%　期末試験　40%　毎回授業後のレスポンスカード　40%。（1）については授業のなかで提出するレスポンスカード（４０%）、（2）については期末試験（４０%）、（3）についてはレポート（２０%）で評価する。１００点満点で評価し、６０点以上で合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 特になし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 民俗学実習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市川　秀之 | |
| 授業概要 | 民俗学の基本的な実務の習得をめざす。具体的には民具の観察・実測、石造物の調査、聞き取り調査、祭礼観察調査などの実習を行う。 | |
| 到達目標 | （1）民俗学研究に必要な実測技術、拓本技術などを習得すること。<br>（2）聞き取り調査、祭礼などの観察調査を計画的に実施し、その成果をまとめ、発表する能力を身につけること。 | |
| 成績評価 | 提出図面（５０%）・発表内容（５０%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：『民俗調査ハンドブック』・『民具調査ハンドブック』ともに雄山閣 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 民俗学特論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市川　秀之 | |
| 授業概要 | 『民俗学』の授業で講義した民俗学の基礎的知識をいかした実践的な内容について講義する。民俗学研究に必要な方法や理論についても講義したい。具体的には歴史民俗学の立場からの研究が中心となるので、史料や石造物をどのように民俗学研究に生かすかという問題を取り上げる。これまで漠然と長い歴史をもつと考えられてきた「民俗」「伝承」の政治性・歴史性などについて明らかにし、そのような「民俗」「伝承」観を生み出した民俗学自体の歴史についても述べることとする。 | |
| 到達目標 | （1）歴史民俗学に必要な史料の読解力を身につける。<br>（2）史料を利用して分析する能力を身につける。<br>（3）歴史民俗学の研究に最低限必要な知識を身につける。 | |
| 成績評価 | ・授業後のレスポンスカード（１５%）・レポート２０%・試験（学期末）４０%・発表内容（２５%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業の最初にプリントを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | メディアの英語 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Walter Klinger | |
| 授業概要 | 生きた英語４技能の総合的な向上を目指す。特に発音とリハーサルに力を入れる。そして、アメリカの歴史を学ぶとともに、楽しみながらコミュニケーション力を身につける。Gone With The Wind 風と共に去りぬ（1939）の脚本を一緒に音読し、映画を見る。テーマについて議論する。前の週の内容の要点をまとめる。学生が選んだシーンを演じ、毎週のシーンのコメントを書いて、エッセイとして作成する。完成したエッセイを教師にメールで送る。 | |
| 到達目標 | Students will be able to speak English with (1)good pronunciation, (2)fluency, (3)good delivery, and (4)grammatical accuracy. Students will be able to write (5)grammatically correct (6)complex sentences and paragraphs (proficient use of a wide range of structures & stylistic devices), and (7)spell and punctuate accurately. | |
| 成績評価 | Objectives: Speaking: (1)pronunciation.(2)fluency.(3)delivery.(4)grammar. Writing: (5)grammar.(6)complexity.(7)spelling & punctuation.<br>Grading: Dramatic Performance 演技 50% (Teacher's evaluation: 1,2,3,4 each 25%).Essay エッセイ 50% (5=50%. 6=25%. 7=25%). | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 豊泉暁子/Walter Klinger (編集):(2009).『風と共に去りぬ Gone With the Wind』(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ 133). 出版社：フォーインスクリーンプレイ出版. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語ＩＡ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 島村　一平 | |
| 授業概要 | モンゴル語は、日本語と文法構造が似ており、日本人には非常に学習しやすい言語である。モンゴル語は、広義にはモンゴル国以外にも中国内モンゴル自治区やロシアのブリヤート共和国などでも話されている。本講義（ＩＡ）では、現在モンゴル国で使用されているモンゴル語標準語（ハルハ・モンゴル語）の基礎文法をマスターすることを目的とする。また、言葉を通して、現代モンゴル文化に対する理解を促進することをめざす。そのために学生の学習進度に応じて教科書以外に映画やポピュラー音楽、民謡の歌詞なども取り扱う。 | |
| 到達目標 | モンゴル語の基礎文法を理解する。 | |
| 成績評価 | 小テストによる。3 回ほどを予定している | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：塩谷茂樹、Ｅ．プレブジャブ著『初級モンゴル語』大学書林。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語ＩＢ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 島村　一平 | |
| 授業概要 | モンゴル語は、日本語と文法構造が似ており、日本人には非常に学習しやすい言語である。本講義では、簡単な日常会話ができるようになることを目的とする。また、言葉を通して、現代モンゴル文化に対する理解を促進することをめざす。 | |
| 到達目標 | モンゴル語で基本的な日常会話ができるようになる | |
| 成績評価 | 小テストによる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：温品廉三著『ゼロから話せるモンゴル語』三修社、塩谷茂樹、Ｅ．プレブジャブ『初級モンゴル語』大学書林 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語ⅡＡ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 内田　孝※ | |
| 授業概要 | 「モンゴル語 I」に引き続き、モンゴル語文法体系についての中級レベルの知識を学習し、モンゴル語での文章読解能力・実用的な筆記能力およびコミュニケーション能力を養成する。また、言語を通じて伝統的遊牧文化に対する理解を深めると同時に、現代モンゴルに関する幅広い知識を習得することも目指す。さらに、モンゴル語の特徴、モンゴル語と日本語の類似点や相違点についても考察する機会となるよう目指す。 | |
| 到達目標 | 初中級レベルにおけるモンゴル語の総合的な文章読解力、筆記力、会話力を習得する。 | |
| 成績評価 | 筆記試験 70%(初中級レベルの文法事項を理解し、文章を正確に読解できること)。その他 30%(小テスト、プレゼンテーション、レポートなど)。授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布。指定図書：講義の中で適宜紹介する。参考書：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | モンゴル語 I を履修していること。 | |

| 科目名 | モンゴル語ⅡＢ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 島村　一平 | |
| 授業概要 | 本講義では、新聞や雑誌、インターネットの文章などを読みながら、文法の定着を目指す。また、新聞や雑誌を通して、現代モンゴル社会への理解を深めていきたい。<br>そのほか、インターネットのブログやチャットなどで使われているモンゴル語なども学ぶことで、モンゴル人とインターネットを利用したコミュニケーションをする能力を身につけていく。<br>実際にモンゴル人ブログに書き込むといったトレーニングにもチャレンジすることも検討している。 | |
| 到達目標 | 受講生は、モンゴル語で辞書を使いながら新聞や雑誌、インターネットのサイトを読む能力が身に付くようになるだろう。また、ネットでモンゴル人とコミュニケーションする能力も身に付くであろう。 | |
| 成績評価 | 小テストによる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 随時指定 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語コミュニケーションＩＡ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 内田　孝※ | |
| 授業概要 | この授業では、モンゴル語による様々な文字教材・音声教材・映像教材の活用、自由発言、意見交換、ペア活動、グループ活動などのコミュニケーション活動を通じて、基礎的な語彙と初中級レベルの文法を復習・定着させつつ、日常生活の話題について話したり聞いたりする練習を行なう。 | |
| 到達目標 | 初級レベルの総合的な会話力および聴解力を習得すること | |
| 成績評価 | 期末試験(口頭、聴解、筆記)70％(初中級レベルの語彙・文法を活用して、的確な自己表現や場面説明が行えること。また、文章を正確に理解できること)。その他 30％(小テスト、発表、レポートなど)。授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義の中で適宜紹介する。指定図書：講義の中で適宜紹介する。参考書：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語コミュニケーションＩＢ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 植田　尚樹※ | |
| 授業概要 | モンゴル語Ⅰで学んだ基礎文法や単語を活用し、実用的なコミュニケーション能力を身につける。さまざまな日常場面を想定し、実際に会話練習をしながら、モンゴル語特有の表現や発音に慣れていく。会話の基本となる「聞く」、「話す」能力を伸ばすため、受講生にはどんどん声をだしてもらう機会をつくる。また、言語をより身近に感じてもらうために、音楽やゲーム、漫画などモンゴルの文化についても授業に絡めて紹介する。 | |
| 到達目標 | 日常的な会話ができ、自分の意思を相手に伝えることができるようになる。 | |
| 成績評価 | 小テスト 60％、期末試験 40％で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは毎回授業で配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語コミュニケーションⅡＡ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 堀田　あゆみ※ | |
| 授業概要 | モンゴル語コミュニケーションⅠで身につけた文法や会話表現を用いて、より実践的なコミュニケーションに挑戦する。留学生活で遭遇するであろうさまざまな日常場面において、相手の意図をくみ取り自分の言葉で相手に意思を伝える練習をつむ。映像・音楽・ゲーム・まんが・本、および現地の生活に関する情報を取り入れながら、「聞く」、「話す」、「読む」能力を伸ばす。受講生には発話する機会をたくさんもうける。 | |
| 到達目標 | (1) 状況に応じて自分の意思を相手に伝えることができるようになる。<br>(2) モンゴル語で発信される情報を理解できるようになる。 | |
| 成績評価 | 達成目標で示した(1)と(2)は、小テスト(60％)、と期末試験(40％)で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは随時配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語コミュニケーションⅡＢ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 植田　尚樹※ | |
| 授業概要 | 様々な教材や補助教材を用いて既習の語彙・文法・表現を復習しつつ、「話す」・「聞く」・「読む」・「書く」という４つの運用能力を総合的に向上させる。 | |
| 到達目標 | 中級レベルの多様な文章を読んだり聞いたりして内容を理解できる技能、日常生活で必要となる文章を書く技能の習得を目指す。また、日常生活における実用的なコミュニケーションに慣れながら表現方法を豊かにし、的確な自己表現や場面説明ができる技能の習得を目指す。 | |
| 成績評価 | 期末試験(口頭、聴解、筆記)70％(中級レベルの語彙・文法を活用して、的確な自己表現や場面説明が行えること。また、文章を正確に理解できること)。その他 30％(小テスト、発表、レポートなど)。授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講義の中で適宜紹介する。指定図書：講義の中で適宜紹介する。 参考書：講義の中で適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語史料講読Ｉ Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Borjigin Burensain | |
| 授業概要 | 本講義では、内モンゴル自治区をはじめ中国領モンゴル人居住地域で従来から使用されてきたモンゴルの伝統的な文字―ウイグル式モンゴル文字―で書かれたモンゴルの歴史に関わる様々な文献を講読する。それにより、キリル文字を導入した 1950 年代以前のモンゴル国も含めたモンゴルの歴史や現代に関わる文献史料の講読を試みる。「ＩA」ではウイグル式モンゴル文字の基礎文法を習得する。 | |
| 到達目標 | ウイグル式モンゴル文字で書かれた出版物を読むことを目標とし、モンゴル文字で書かれた歴史資料を解読できることを目指す。 | |
| 成績評価 | 小テスト 40％、期末試験 60％（欠席数が１／３を超えた場合は評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『モンゴル語基礎文法』フフバートル(著)インターブックス社、1993 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | モンゴル語史料講読ＩＢ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Borjigin Burensain | |
| 授業概要 | 本講義では、内モンゴル自治区をはじめ中国領モンゴル人居住地域で従来から使用されてきたモンゴルの伝統的な文字―ウイグル式モンゴル文字―で書かれたモンゴルの歴史に関わる様々な文献を講読する。それにより、キリル文字を導入した 1950 年代以前のモンゴル国も含めたモンゴルの歴史や現代に関わる文献史料の講読を試みる。「ＩＢ」では文献講読を中心として行う。 | |
| 到達目標 | ウイグル式モンゴル文字で書かれた出版物を読むことを目標とし、モンゴル文字で書かれた歴史資料を解読できることを目指す。 | |
| 成績評価 | 小テスト 40％、期末試験 60％（欠席数が１／３を超えた場合は評価の対象としない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『モンゴル語基礎文法』フフバートル(著)インターブックス社、1993 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リーディング（中級） a | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山本　薫 | |
| 授業概要 | 各回ニュース記事、評論、小説からの抜粋など多彩な素材を用いて精読を行う。素材に合わせてパラグラフ・リーディングも行う。受講者はしっかり予習をしたうえで授業に臨むこと。はじめはゆっくり精読しながら進めていくが、慣れれば限られた時間内での速読も行う。精読・多読にいずれにもかたよらず、テーマや内容、英語の種類や質に合った読み方を選択し、内容を限られた時間内に正確に把握する訓練を行う。 | |
| 到達目標 | (１)様々なジャンルの英文を読むことによって、偏らない語彙力を養成する。<br>(２)上記の語彙力をもとに、漫然と英文を日本語に置き換えるのではなく、英語の意味を具体的に英語のまま理解する。<br>(３)ある程度の速度でひとまとまりの英文を読み、正確に意味を把握する。 | |
| 成績評価 | 授業中の発表(40％)・予習の達成度(40％)・テスト(20％)を総合的に評価する。4 回以上遅刻・欠席したものは評価の対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業中にプリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リーディング（中級） b | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 外狩　章夫 | |
| 授業概要 | この＜Reading（中級）＞の授業では、工学技術（engineering）、ビジネス、科学技術（technology）、文学、気象学、栄養学、社会学といった幅広い分野の、興味深い英文を読むトレーニングを積みます。いくつかの「読みの技術（Reading Skills）」を使いながら多様な英文を理解する力を養うのが第１の目標です。第２の目標は、テキストの単語レベルと文レベルの「語彙運用活動（Vocabulary Activities）」を通じて語彙を増強することです。ほかには、可能な範囲で音声教材を利用して、意味の伝わりやすい音読の訓練も取り入れたいと思います。 | |
| 到達目標 | (1) 多様なジャンルの英文を理解することができる。<br>(2)「語彙運用活動（Vocabulary Activities）」を通じて語彙を増強することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)多様なジャンルの英文・・・　(2))「語彙運用活動」を通じて語彙を・・・については、ユニットごとの到達確認テスト（100%： (1)50%, (2)50%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。ただし、全授業回数の 1/3 以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Lawrence J. Zwier, Inside Reading: The Academic Word List in Context (2nd edition), Oxford University Press, 2012. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リスニング（中級） a | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 自然な速度で話される美術、心理学、歴史、教育、経済学、英文学、政治学などの幅広い内容について、要点を押さえながら効果的にノートを取る方法や内容に関連のある語彙を習得する。双方向の会話とは異なったアカデミックな場面での一方向の聞き取りの練習を多く行なう。 | |
| 到達目標 | (1)大学で学ぶような高度な内容についての聴解力を身につける<br>(2)その内容に関する語彙 (大学で多く使用される)を習得する<br>(3)効果的なノートの取り方を身につける | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)の聴解力に・・・と(3)のノート・・・ついては毎回のリスニング得点 40 %（２）の語彙・・・については２回の語彙テスト 各 20% と (1)(2)(3)を総合した聴解力テスト 20%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト: AIRWAVES-Advanced,　Dale Fuller,　MACMILLAN LANGUAGEHOUSE<br>参考書・参考資料等　：随時プリントを配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | リスニング（中級） b | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 自然な速度で話される美術、心理学、歴史、教育、経済学、英文学、政治学などの幅広い内容について、要点を押さえながら効果的にノートを取る方法や、内容に関連のある語彙を習得する。双方向の会話とは異なったアカデミックな場面での一方向の聞き取りの練習を多く行なう。 | |
| 到達目標 | (1)大学で学ぶような高度な内容についての聴解力を身につける<br>(2)その内容に関する語彙 (大学で多く使用される)を習得する<br>(3)効果的なノートの取り方を身につける | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1)の聴解力に・・・と(3)のノート・・・ついては毎回のリスニング得点 40 %（２）の語彙・・・については２回の語彙テスト 各 20% と (1)(2)(3)を総合した聴解力テスト 20%とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：AIRWAVES-Advanced,　Dale Fuller,　MACMILLAN LANGUAGEHOUSE<br>参考書・参考資料等　：随時プリントを配付 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 留学英語対策基礎講座 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | This course provides students the opportunity for better understanding of and practice for the TOEFL ITP paper test. Students increase their knowledge of the structure, content, and purposes of the TOEFL ITP test. Students also engage in a sustained and intensive program of practice exercises for the test in order to further strengthen their academic English skills. The most immediate aim of the course is to assist long-term efforts to raise individual TOEFL ITP scores, bridging other coursework done in the spring and fall semesters. | |
| 到達目標 | The concrete goals for the course are the following: (1) Students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL ITP test; (2) Students will strengthen their performance on TOEFL ITP style exam questions. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goal (1) 60% of the overall evaluation, and course goal (2) 40% of the overall evaluation. Achievement of goal (1) is measured by degree and quality of completion of homework assignments (30%) and by performance on an overall achievement test (30%). Achievement of goal (2) is measured by performance on a TOEFL ITP practice post-test (40%). Performances in these areas are combined and converted to a 100-point scale; the passing line for the course is set at 60 points. Students are expected to attend every class meeting; in the case of an unavoidable absence, the instructor must be notified ahead of time, and the absent student must take responsibility for and exercise initiative in finding out about and completing any missed assignments and coursework. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | Textbooks: 1.) Longman Introductory Course for the TOEFL Test: The Paper Test, with Answer Key, by Deborah Phillips, (Pearson Longman, 2004), ISBN 9780131847187. 2.) Longman Introductory Course for the TOEFL Test: The Paper Test, CD set, ISBN 978013184716 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 留学英語対策講座Ⅰ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | Martin Hawkes | |
| 授業概要 | To succeed on the TOEFL, linguistic knowledge (grammar and vocabulary) are of course vital. On the paper-based test, the language skills of listening and reading are also important. However, to maximise your potential score it is also essential to have a deep understanding of the test format and the strategies that can help you on the different sections. On this course we will practise the TOEFL in realistic test-taking conditions to help students become accustomed to it. We will look in detail at the three sections Listening comprehension, Structure and written expression, and Reading comprehension — and discover some of the techniques and strategies to tackle the questions in each. We will also study key vocabulary frequently found in the TOEFL. Finally, students will use this knowledge to create TOEFL-style questions to test their peers. | |
| 到達目標 | The overall goal of this course is to improve the students' TOEFL scores. Specifically, the course aims to further familiarise students with the various sections of the TOEFL paper-based test, practice taking the test under realistic conditions, and to look at test taking strategies and key vocabulary. | |
| 成績評価 | Participation: 30%,Review assignments: 20%,Quizzes: 20%,Question making projects: 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | The complete guide to the TOEFL test (PBT edition), Rogers, B. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 留学英語対策講座Ⅱ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | John Rippey | |
| 授業概要 | This course better acquaints students with the TOEFL iBT (Internet-based test) and provides the opportunity to prepare for that test through a regimin of practice exercises. (The course also further prepares students for the TOEFL ITP paper test.) Through the course, students become familiar with the structure and content of the TOEFL iBT. They also gain extensive and sustained experience in using all fours skills (reading, writing, speaking, and listening), thereby strengthening their academic English ability. The most immediate aim of the course is to raise individual TOEFL scores. The course should prove useful for students who are planning study abroad experiences in English-speaking countries in the near future. | |
| 到達目標 | The concrete goals for the course are the following: (1) Students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (skills, topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL iBT test; (2) Students will strengthen their performance on TOEFL iBT style exam questions. | |
| 成績評価 | Grades for the course are based on degree of achievement of course goal (1) 80% of the overall evaluation, and course goal (2) 20% of the overall evaluation. Achievement of goal (1) is measured by scores on weekly review quizzes of homework assignments (50%) and performance on an overall achievement test (30%). Achievement of goal (2) is measured by performance on a TOEFL iBT practice post-test (20%). Performances in these areas are combined and converted to a 100-point scale; the passing line for the course is set at 60 points. Students are expected to attend every class meeting; in the case of an unavoidable absence, the instructor must be notified ahead of time, and the absent student must take responsibility for and exercise initiative in finding out about and completing any missed assignments and coursework. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 1. Longman Preparation Course for the TOEFL Test, iBT Writing, by Deborah Phillips (Pearson Longman, 2008), ISBN 978-0-13-612657-7.<br>2. Longman Preparation Course for the TOEFL Test, iBT Speaking, by Deborah Phillips (Pearson Longman, 2008), ISBN 978-0-13 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 量的データ解析論Ⅰ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 丸山　真央 | |
| 授業概要 | この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。具体的には、度数分布の記述、クロス集計表、統計的推測と仮説の検定、平均の差の検定、相関係数、偏相関係数と疑似相関といった基礎的事項についての解説を行う。あわせて統計パッケージソフト SPSS の基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計についての理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。 | |
| 到達目標 | (1) 社会統計のデータを整理・分析する基礎知識（記述統計と推測統計の基礎）を習得する。<br>(2) 統計パッケージソフト SPSS の基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)と(2)については、小課題（60 点：(1)40 点、(2)20 点）、最終レポート（40 点：(1)20 点、(2)20 点）で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：使用しない（レジュメを配布する）指定図書：ボーンシュテット・ノーキ『社会統計学――社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社、村瀬洋一ほか編『SPSS による多変量解析』オーム社。参考書：授業中に指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 量的データ解析論Ⅱ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岡本　裕介※ | |
| 授業概要 | 人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論Ⅰ・Ⅲ類を取り上げる。 | |
| 到達目標 | 各手法の基本的な考え方を身に着けるのが主たる目的であるが、計算の概要を理解したり統計パッケージの出力を見たりして各手法の誤用を避ける、研究事例や歴史を紐解いて具体的な問題意識との関連を考える、といったことも視野に入れる。 | |
| 成績評価 | レポート評価　100% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：講義中に随時推薦する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 | |
| 授業概要 | 臨床栄養学を実践するための基本的な知識となる、傷病者の病態と栄養状態に基づいた栄養マネジメントの考え方を理解し，その遂行に必要な基本的な能力を身につけます。<br>本授業では、医療・福祉分野において実施される栄養ケアマネジメント（ＮＣＭ）に必要な専門的知識・技術・態度に関する総合的な考え方を理解し、適切な栄養状態の評価・判定、栄養補給法、栄養教育のプランニング法、薬と栄養・食物の相互作用について学習します。また、チーム医療（ＮＳＴ）に参画するために必要な患者接遇およびコミュニケーション法や管理栄養士の役割について学習します。 | |
| 到達目標 | (1) 医療・福祉分野における管理栄養士の職務と NST における役割を説明できる。(2) ＮＣＭの意義およびそのプロセスについて、6 つのステップと３つの栄養ケアプランに分けて概説できる。(3) ＮＣＭの基礎となる栄養状態のアセスメントの項目（身体計測・臨床診査・臨床検査・食事摂取量調査）について、その概説と評価方法のポイントが説明できる。(4) ＰＯＳに基づいた診療録を理解し、ＳＯＡＰについて事例をあげて説明できる。(5) 薬と栄養・食物の相互作用や治療用特殊食品について主要なものが説明できる。(6) 栄養補給法の概説とそれぞれの長所・短所、適応疾患を説明できる。また、経腸・静脈栄養法で用いられる栄養剤・栄養食品の選択と栄養管理法について説明できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) 医療・福祉分野における管理栄養士の職務とチーム医療における役割を、各々400 字以内で説明できる。(2) ＮＣＭの意義およびその構成プロセスについて、6 つのステップ３つの栄養ケアプランに分けて概説できる。(3) ＮＣＭの基礎となる栄養状態のアセスメントの項目（身体計測・臨床診査・臨床検査・食事摂取量調査）について、その概説と評価方法のポイントが説明できる。(4) ＰＯＳに基づいた診療録を理解し、ＳＯＡＰについて事例をあげて説明できる。(5) ①主要な栄養・食物と医品薬の相互作用について説明できる。②特保、治療用特殊食品について主要なものが説明できる。(6) 栄養補給法の概説とそれぞれの長所・短所、適応疾患を説明できる。また、経腸・静脈栄養法で用いられる栄養剤・栄養食品の選択と栄養管理法について説明できる。定期試験 60%と到達確認テスト 40%により評価する。(1)15%、(2)5%、(3)50%、(4)10%、(5)10%、(6)10%により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】福井富穂　他：症例からみた臨床栄養学（東京数学社）、福井富穂　他：栄養ケア・マネジメント論（化学同人）、松崎政三　他：臨床栄養管理ポケット辞典（建帛社）、玉川和子　他：臨床調理第５版（医歯薬）【指定図書】日本病態栄養学会編　認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック（メディカルレビュー社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 | |
| 授業概要 | 各疾病の治療指針を理解し、栄養ケア計画を立案するために必要な基本的な能力を身につけます。各疾患の治療指針・診療ガイドラインに基づく栄養食事療法の基本方針を理解し、ＮＣＭの栄養ケアプランの立案方法について学びます。また、運動療法・薬物療法について学びます。 | |
| 到達目標 | (1) 各疾患の病態とその治療方針が理解できる。各学会が示す診療ガイドラインを理解し、特に栄養基準および食事療法について概説が説明できる。(2) 病状の改善や疾病の治療・回復に効果的な栄養食事療法の基本方針を理解し、仮想症例に対する栄養ケア・マネジメント（ＮＣＭ）が理解できる。(3) 栄養評価ができる。(4) 治療に使用される主な薬剤名とその効果や副作用を説明することできる。また、薬と栄養・食物の相互作用を理解し、栄養治療計画に反映させることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す (1) 各疾患の病態とその治療方針が理解できる。各学会が示す診療ガイドラインを理解し、特に栄養基準および食事療法について概説が説明できる。(2) 病状の改善や疾病の治療・回復に効果的な栄養食事療法の基本方針を理解し、仮想症例に対する栄養ケア・マネジメント（ＮＣＭ）が理解できる。(3) 栄養評価ができる。(4) 治療に使用される主な薬剤名とその効果や副作用を説明することできる。また、薬と栄養・食物の相互作用を理解し、栄養治療計画に反映させることができる。定期試験 70%：(1) 20% (2) 60% (3) 10% (4) 10%と到達確認テスト 30%により評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】福井富穂：症例からみた臨床栄養学、松崎政三：臨床栄養管理ポケット辞典、糖尿病食事療法のための食品交換表第 7 版（文光堂）、腎臓病食品交換表第８版（医歯薬）、糖尿病治療ガイド 2014（文光堂）、その他適宜プリントを配布する。<br>【指定図書】認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック（日本病態栄養学会編：　メディカルレビュー社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養学Ⅲ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 | |
| 授業概要 | 臨床栄養学Ⅱからさらに多様な疾患に対し、治療指針を理解し、ＮＣＭを実践するために必要な基本的な能力を身につけます。また、医療（栄養）経済について理解します。<br>本授業では、妊産婦、小児、がん、周術期の疾患などは、個人のさまざまな特性、病態を考慮した適切な栄養管理が必要となります。ＮＣＭを実践するための方法論について学びます。医療・介護保険制度や特定保健指導、在宅医療、地域連携など医療の現状を理解するとともに、経済学的視点から臨床栄養学を考えます。 | |
| 到達目標 | (1)高齢者および小児の特性・病態と治療方針が理解できる。(2)個人のさまざまな特性、病態を考慮した総合的なＮＣＭの考え方について理解し、仮想症に対するＮＣＭができる。(3)医療・介護保険制度、特定保健指導の概説を理解し、説明できる。(4)チーム医療、医療連携、クリニカルパスについて理解し、説明できる。(5)経済学的視点から臨床栄養経済を理解することができる。(6)栄養教育における食事療法と患者心理との関係について行動経済学の手法を用いて理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す、(1)～(5)については、70%：(1) 10%　(2) 20%　(3) 10%　(4)10%　(5)(6)20%と、到達確認テストおよびレポート30%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】福井富穂　他：栄養ケア・マネジメント論（化学同人）、福井富穂　他：症例からみた臨床栄養学（東京教学社）、松崎政三　他：臨床栄養管理ポケット辞典（建帛社）、その他適宜プリントを配布する。<br>【指定図書】認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック（日本病態栄養学会編：　メディカルレビュー社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅰ | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 | |
| 授業概要 | 臨床栄養学を実践するための基本的な知識となる、傷病者の病態と栄養状態に基づいた栄養マネジメントの考え方を理解し，その遂行に必要な基本的な能力を身につけます。<br>本授業では、ＮＣＭを実践するための基本的技術となる、栄養アセスメントに必要な臨床情報の収集方法や栄養状態のアセスメント項目である身体計測の測定、生化学検査に基づく数値の変化、安静時代謝量の測定、臨床検査値の評価と診断、食事摂取量調査など実習を通じて学びます。栄養ケアプラン（栄養教育、栄養補給、他領域からのケア）の立案やＰＯＳに基づいた記録の方法など仮想症例より学ぶ。また、治療食の食事計画立案に関する基礎を学びます。 | |
| 到達目標 | (1) NCM に必要な情報の収集方法が説明でき、その情報を適切に評価ができる。<br>(2) 身体計測の手技の習得及びその評価法を概説でき、栄養状態を判定できる。<br>(3) 検査の種類や基準値が説明でき、検査値から病態や症状、栄養状態の評価ができる。<br>(4) 患者の問題点を明確にすることができる。<br>(5) 食事調査の種類や方法・特徴が説明でき、適切なデータ解析と評価ができる。<br>(6) 患者の必要栄養素量の算定とその根拠が説明できる。<br>(7) 患者を対象とした栄養教育計画の概要を説明できる。<br>(8) ＳＯＡＰに基づいた栄養カルテを記載できる。<br>(9) 展開食を理解し、治療食献立の作成および適切な食品の選択・調理上の工夫が説明できる。 | |
| 成績評価 | 各授業で実施されるた演習および実習のレポートによる評価（100%）。<br>到達目標（1）（2）（3）（5）（7）各 10%、（4）（6）各 5%、（8）20%、（9）20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版部）、臨床栄養管理ポケット辞典（建帛社）、臨床調理（医歯薬）糖尿病食事療法のための食品交換表第 7 版（文光堂）【参考書】食事摂取基準 2015 年度版、5 訂補食品成分表 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅱ | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 | |
| 授業概要 | 傷病者に対する食事の提供は、患者の生活習慣や食習慣を尊重しつつ、病態、病状等の変化に応じた疾病治療のための食事提供を行い、患者のＱＯＬを向上させることが重要である。各疾患の病態、栄養状態を評価判定しその結果を踏まえた栄養ケアプランの作成ができる実践能力を身につける。<br>症例の栄養ケアプランに基づき食事計画を立案し、実際に調理し、味わう。対象者の臨床所見や症状だけでなく個人の嗜好・調理能力を考慮した食事計画の立案と多様な制限下での料理の組合せ、食品の選び方、調理上の注意点と工夫、食環境について学習する。また、腎臓病や糖尿病治療のための品交換表の活用法について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 症例の栄養ケアプランに基づき、患者の臨床的な所見や症状だけでなく、個人の嗜好・調理能力などを考慮し、食べる人の立場に立った治療食の提供を行うために必要な知識・技術を修得する。(2) 病態や身体機能に適した治療用特殊食品を選択することができる。また、患者のＱＯＬの向上に寄与できるよう､使用上の留意点や問題点を説明し実践に応用できる。(3) 糖尿病・腎臓病・糖尿病性腎症の食品交換表の概説でき、活用することができる。(4) 調理実習・試食により、制限の多い臨床調理における調理技術やその工夫を修得することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す（1・2・4）：栄養ケアプランに基づいた食事計画の立案と実際に調理し味わうことにより、a.治療計画に沿った栄養・食事計画案　b.対象者の満足度、c.安全性の確保、d.提供する諸条件の考慮、e.患者が実践できるか。などを評価する。50%、調理実習のない場合は献立内容により 40%の評価。(3)：レポートにより 10%。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表第 7 版（文光堂）、黒川清：腎臓病食品交換表第８版（医歯薬）、日本糖尿病学会編：糖尿病治療ガイド 2014（文光堂）、症例からみた臨床栄養学、臨床栄養管理ポケット辞典、臨床調理、調理のためのベーシックデータ、<br>【指定図書】認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅲ | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 岩川　裕美※ | |
| 授業概要 | 臨床栄養学（実習含む）Ⅰ・Ⅱ学んだ、ＮＣＭに必要な知識・技術・態度を統合し、チーム医療に参画できる能力を身につけます。<br>本授業では、仮想症例に対して、患者の主訴、臨床所見、食行動などから病態・栄養状態を評価、診断し、人間栄養学に基づいた栄養ケアプランの立案、実施、モニタリング、評価を具体的に実践します。診療報酬に関わる栄養関連報告書などの作成スキルの向上。症例カンファレンスやプレゼンテーション、ディベートを通じて、相手に分かる言葉（内容）で伝えることや相手の意見を理解・尊重して聴くことを学びます。 | |
| 到達目標 | (1)事例・症例に対して栄養ケアプランに必要な情報収集とその理由が説明できる。<br>(2)目標設定、栄養ケアプランの作成とその根拠を説明できる。<br>(3)モニタリング・再評価・計画の作成、他専門職との連携が説明できる<br>(4)診療報酬に関わる栄養関連報告書の記入が適切にできる。<br>(5)グループワークにおいて、コミュニケーションがとれ、リーダーシップを発揮することができる。<br>(6)自分の意見を相手にわかりやすく伝えられること、また、相手の意見を聴き理解・尊重することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）～（4）70%、(5) 10%、(6) 20%。（1）～（4）については栄養関連報告書の内容による評価。(5) コミュニケーションおよびリーダーシップスキルを評価。(6) プレゼンテーション、意見交換、ロールプレーなどにより評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：臨床栄養学（実習）Ⅰ・Ⅱに準じる。そのほか適宜プリントなどを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養活動論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小澤　恵子 ・ 廣瀬　潤子 | |
| 授業概要 | 生活習慣病について、第３次予防、第２次予防、第１次予防における生活習慣の改善に関する管理栄養士の活動について学ぶ。治療を主とする医療分野において活動する管理栄養士についても幅広い医療人としての自覚と見識が求められている。臨床栄養活動の場を病院、診療所等に限ることなく、学校、事業所、福祉施設、あるいは地域住民を含め健康の維持・増進施策、食生活の改善による疾病予防、疾病の増悪阻止、快復へのに対応方法を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）管理栄養士制度の歴史について説明できる<br>（2）管理栄養士の役割について説明できる<br>（3）世界の管理栄養士の活動について説明できる<br>（4）生命倫理について広い視野から考察できる<br>（5）管理栄養士の職業倫理について説明できる<br>（6）活躍する管理栄養士の様子を聞き、自分自身の職業感を考察できる | |
| 成績評価 | 前半 1～8 回（全体の 50%）特定給食施設及びフードサービス業、保健・医療・福祉領域での管理栄養士としての役割について、小テスト 50%で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。後半 9～15 回（全体の 50%）下記の各項目の考察をレポートにより評価。管理栄養士制度の歴史（10%）、管理栄養士の役割（5%）世界の管理栄養士の活動（5%）、生命倫理・職業倫理（各 10%）、自分自身の職業感を考察できる（10%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき（化学同人）<br>指定図書：渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂）<br>そのほか適宜、プリントなどを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養臨地実習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 | |
| 授業概要 | 病院や老健施設あるいは社会福祉施設において栄養部門業務の概略を知るとともに専門職としての活動内容、主に病態に応じた栄養管理計画、栄養食事指導について体験する。急性疾患や慢性疾患など早期の創傷治癒、あるいは社会復帰に向けての栄養補給の変化、クリニカルパスに基づくチーム医療の実施状況とくに他職種との連携について体験するとともに患者に対する身体計測を含めた栄養アセスメントの実際についても学び、適切な栄養ケアマネジメントを行うために必要な知識や技術について専門的な観察を行う。 | |
| 到達目標 | 傷病者に対する個別の栄養アセスメント・栄養ケア計画を作成し、栄養補給の実態把握および経過観察（モニタリング）により再評価することを実施に学ぶとともに課題の設定と解決方法を見出す能力を身につける。 | |
| 成績評価 | レポート評価１００％：医療機関における栄養ケア・マネジメントの実際を理解し、適切な栄養評価に基づく栄養補給の方法や内容、栄養教育などの課題に応えられること。<br>※管理栄養士国家試験の受験資格の必須条件となるものである。事前・事後を含め、完全出席が基礎条件となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき（化学同人）<br>【指定図書】杉山みち子他編著　臨床栄養活動論（同文書院)、渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂）<br>【そのほか】適宜プリントなどを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床栄養臨地実習Ⅱ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 | |
| 授業概要 | 医療の場で活動するために必要な知識・技術を学ぶとともに医療人としての自覚をもつため、傷病者等に対する栄養食事指導の実践を介して、カウンセリングに必要な技術を修得する。さらに、入院・外来別にどのような栄養教育が行われているか、その効果的な方法について、栄養食事指導という一つのシステムとして考察するなど在宅医療等も含めた疾病予防・治療・カウンセリングなど広い意味での臨床栄養管理を目指した管理栄養士活動の実際と役割について学ぶ。 | |
| 到達目標 | 医療職として管理栄養士はどのように傷病者に関わっていくのか体験するとともに医師、看護師、薬剤師などがどのように患者と接しているか観察し、医療チームの一員となる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | レポート評価１００％：医療機関における栄養ケア・マネジメントの実際を理解し、適切な栄養評価に基づく栄養補給の方法や内容、栄養教育などの課題に応えられること。<br>※管理栄養士国家試験の受験資格の必須条件となるものである。事前・事後を含め、完全出席が基礎条件となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき（化学同人）<br>【指定図書】杉山みち子他編著　臨床栄養活動論（同文書院）、<br>【そのほか】適宜、プリントなどを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨床心理学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松嶋　秀明 | |
| 授業概要 | 臨床心理学とは「こころ」に何らかの問題をかかえた人々を、心理学的な知見にもとづいて支えるために援助実践をおこないつつ、同時にそれをよりよいものにしていくための研究を行っていくものである。この授業では精神障害、発達障害などについての知識、あるいは、治療理論・技法についての最新知見を外観しつつ、心理学をもとにして人を支えることの実際について論じる。授業では、一方向的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッションやワークを多くとりいれ、心理的な問題をかかえている隣人に対して、どのようにふるまい支えていけばよいのか、実感をともなって考えていけることを目指す。積極的な参加を期待する。 | |
| 到達目標 | 臨床心理学における基礎的用語を理解し、用いることができる。<br>臨床心理学的対人援助についての自分なりの方針をたてることができる。 | |
| 成績評価 | ・ 各授業における準備／発表／貢献(60%)<br>・最終レポート（40%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストは特に指定しない。毎回の授業で資料として提示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 臨地実習事前事後指導 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　万寿美 ・ 今井　絵里 ・ 小澤　恵子 | |
| 授業概要 | 臨地実習の事前と事後に集中で行う。事前実習では、管理栄養士の実践活動の場である保健所、事業所、病院などにおける役割や業務内容、必要な知識、技術（臨床栄養学Ⅰ、栄養教育論、公衆栄養学、栄養ケアマネジメント論、給食経営管理論で修得済）を再度確認し、臨地実習をより意義あるものとする。また、事後実習では、臨地実習で体験した様々なプログラムやそこで得られた新しい知見などを臨地実習場所ごとに発表を行い、臨地実習をより、自分自身のなかで明確なものとし、また、そこでの体験や知識等を他の学生と共有する。 | |
| 到達目標 | （1）事前指導では、「給食経営管理論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」における臨地実習の意義・目的を理解し、さらに保健所、特定給食施設（病院、学校、福祉施設）等における管理栄養士の役割や業務内容や必要な知識、技術を再確認し理解を深めることができる。そこから、それぞれの施設での実習に向けた課題を設定することができる。<br>（2）事後指導では、臨地実習で体験した様々なプログラムやそこで得られた新しい知見などを臨地実習場所ごとに発表を行い、臨地実習で得た知識・理解を、自分自身のなかでより明確なものとし、さらにそれぞれの体験や知識等を他の学生と共有することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す（1）、（2）については実習前課題レポート（40%）と臨地実習報告書（60%）で評価する。<br>※　完全出席が基礎条件となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき（化学同人）<br>指定図書：日本病態栄養学会編　認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック（メディカルレビュー社）　日本糖尿病療養指導士認定機構編　日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック（メディカルレビュー社） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 歴史的地域論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 水野　章二 | |
| 授業概要 | 地域社会を構成するイエ・ムラなどの基礎的な集団やその相互の関係が、どのように歴史的に形成され、変化していくかを明らかにする。文献史学・歴史地理学・考古学・民俗学などの成果を総合しながら、自然的社会的諸条件が地域を構成する諸集団の編成原理や秩序のあり方にどのように関わるのかを考える。 | |
| 到達目標 | （１）重層的に成立し、時間の中で変化していく地域社会のあり方が理解できる。<br>（２）最も基礎的な社会集団であるイエ・ムラなどの歴史的役割が理解できる。<br>（３）地域社会を成り立たせている景観的特質とその変容が理解できる。 | |
| 成績評価 | レスポンスペーパー３０％、期末筆記試験７０％<br>（１）重層的に成立し、時間の中で変化していく地域社会のあり方が理解できる。　２０％<br>（２）最も基礎的な社会集団であるイエ・ムラなどの歴史的役割が理解できる。　３０％<br>（３）地域社会を成り立たせている景観的特質とその変容が理解できる。　２０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：水野章二『日本中世の村落と荘園制』（校倉書房）水野章二編『中世村落の景観と環境』（思文閣出版） | |
| 履修資格 | | |

# 7　人間看護学部科目履修の手引

## 1　人間看護学部人間看護学科の教育目標

（1）　豊かな人間性のもと、幅広い視野で人間を総合的に理解する看護職が育つ

人間の生命に対する畏敬の念をもち、その尊厳と権利を尊重し、人の痛みや苦しみを共有し、喜びをともにする豊かな人間性を備えた看護職としての資質を養います。

（2）　高度な専門的知識や技術、実践的な判断力、指導力を有する看護職が育つ

看護の専門職としての知識・技術を修得するとともに、社会情勢の変化に的確に対応できる柔軟な思考力を養い、看護における理論と実践の統合を図ります。

（3）　地域特性に即した実践力を有する看護職が育つ

地域特性を理解した上で生活実態に即した看護を創造する力を養います。

### ■学位授与方針

A．人の生命に対する畏敬の念を持ち、人の尊厳と権利を擁護する倫理観を確立している。
（態度・倫理）

B．看護学に興味・関心を持ち、その知識を用いて、人間を多角的・総合的に理解することができる。
（知識・理解）（興味・関心）

C．健康上のさまざまな課題に対して科学的に評価・判断し、解決のための方策を考えることができる。
（知識・理解）（思考・判断）

D．人に対する深い洞察力を持ち、人の感情に共感する態度を形成している。
（知識・理解）（興味・関心）（態度・倫理）

E．専門知識を基に、基礎から応用に至る看護技術を習得している。
（知識・理解）（思考・判断）（技能・技術）

F．コミュニケーション技能を身につけ、ヘルスケアチームの一員として多職種と協働できる。
（思考・判断）（態度・倫理）

G．社会情勢や地域特性を踏まえ、生活実態に応じた看護を提供できる。
（知識・理解）（思考・判断）（技能・技術）

H．地域社会から国際社会まで幅広い視野を持ち、社会に貢献できる基礎能力を備えている。
（知識・理解）（興味・関心）

Ⅰ．生涯にわたって研鑽を積み、自らの能力・専門性を高める基本姿勢を備えている。
（知識・理解）（興味・関心）（態度・倫理）

### ■教育課程の編成・実施方針

人間看護学部は、本学の「全学共通教育の目標」の達成を前提として、本学部独自のカリキュラムを構成している。興味・関心を持つことで知識・理解を促し、専門職者としての思考・判断能力や技術・技能および倫理観を備えた態度を培うことを目標として 9 つのディプロマポリシー(DP)を掲げている。

DP を基にしたカリキュラム構成として、1～2 年次に基礎となる看護学や対象を理解するための科目(共通科目・専門基礎・基礎看護学科目群等)を配置し、1~2 年次で養った能力を応用・発展させることを目的に、3～4 年次に領域別看護学＊の演習・実習科目群を配置している。また、本学部では領域別看護学実習科目群、人間看護学統合実習ならびに卒業研究を、9 つの DP の到達を評価するための総括科目として位置づけている。

＊領域別看護学とは、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、育成看護学、在宅看護学の総称です。

＜人間学・専門科目＞

A　人の生命に対する畏敬の念を持ち、人の尊厳と権利を擁護する倫理観を確立するために、以下の科目を配置している。(DP－A)

1 年次に人間理解を深め、倫理観のベースを培うための科目を配置し、そこで培った人間に対する尊厳、倫理観を各年次に配置している基礎看護学実習科目ならびに領域別看護学実習科目群を通してより深め発展させる。

＜専門科目＞

B　看護学に興味・関心を持ち、その知識を用いて、人間を多角的・総合的に理解するために以下の科目を配置している。(DP－B)

看護の基本概念の修得に向けて、主に 1～2 年次に人間看護学概論・看護理論を配置し、さらに人間理解を深めるために 2~3 年次に領域別看護学概論・演習科目群を配置している。

＜人間学・情報処理・専門科目＞

C　健康上のさまざまな課題に対して科学的に評価・判断し、解決のための方策を考えるために以下の科目を配置している。(DP－C)

評価・判断・解決能力の基礎となる、専門基礎科目を 1～2 年次に配置し、それを基に看護アセスメント能力を応用させるべく、2～3 年次に領域別看護学演習科目群等を配置している。さらに、その能力を発展していくために、3～4 年次には、選択科目群（看護の探究力、看護の実践力）を配置している。

＜地域基礎科目・人間学・保健体育・専門科目＞

D　人に対する深い洞察力を持ち、人の感情に共感する態度を形成するために以下の科目を配置している。(DP－D)

人間・社会について学ぶという観点で 1～４年次に地域基礎科目 11 科目・人間学 32 科目を配置している。また、チームワークが重要となる健康体力科学を１～２年次に配置している。2～4 年次に配置されている領域別看護学演習・実習科目群で、洞察力・共感的態度を養い、3～4 年次にはそれらの能力を発展するための選択科目(看護実践能力)を配置している。

＜専門科目＞

E　専門知識を基に、基礎から応用に至る看護技術を習得するために以下の科目を配置している。(DP－E)

1～2 年次に基礎看護学技術に関する科目を配置し、それらの技術を応用・発展するために３～４年次に領域別看護学演習・実習科目群を配置している。

＜専門科目＞

F　コミュニケーション技能を身につけ、ヘルスケアチームの一員として多職種と協働できるために以下の科目を配置している。(DP－F)

コミュニケーション技能を身に付けるために、1 年次に基礎看護技術ならびに心理学系の科目、3 年次に領域別看護学演習・実習科目群を配置している。また、ヘルスケアチームを理解するための看護管理学や、地域看護能力を養うための国際看護・災害看護等を含む選択科目群を 3～4 年次に配置している。

＜地域基礎科目・地域志向専門科目・専門科目＞

G　社会情勢や地域特性を踏まえ、生活実態に応じた看護を提供できるために以下の科目を配置している。(DP－G)

1～2 年次に、地域社会支援等に関連した科目として、公衆衛生看護学科目群、在宅看護学科目群、精神看護学科目群等を配置している。3 年次には、領域別看護学実習においてその知識を実践で活用していく。また、3～4 年次には、これらの知識を発展させるために選択科目群(地域看護能力)を配置している。

＜地域基礎科目・語学・地域志向専門科目・専門科目＞

H　地域社会から国際社会まで幅広い視野を持ち、社会に貢献する基礎能力を備えるために以下の科目を配置している。(DP－H)

国際貢献を視野に入れ、1～2 年次に外国語教育科目群を配置している。また、2～3 年次に配置している地域社会福祉論・公衆衛生看護学・在宅看護学等で、地域社会での看護職の役割を学ぶ。

さらに、専門職者としての社会貢献の在り方を理解するために、3～4 年次に看護管理学、選択科目群（看護の探究力、地域看護能力）を配置している。

＜人間学・専門科目＞

I　生涯にわたって研鑽を積み、自らの能力・専門性を高める基本姿勢を備えるために以下の科目を配置している。(DP－Ｉ)

1 年次に人間探究学で、学ぶことの基本姿勢を修得し、その姿勢を発展させるために、3 年次には領域別看護学実習科目群や選択科目群(看護の探究力)を配置している。さらに、その集大成として、卒業研究を 4 年次に配置している。

## ２　科目の履修について

（１）全学共通科目の履修について

「全学共通科目履修の手引」に沿って履修してください。共通基礎科目は、主に１年次、２年次に配当されています。また、地域基礎科目および人間学は、４年間にわたって履修可能ですので個人の学習状況に合わせて効果的に履修をしてください。なお、地域基礎科目の「地域共生論」および人間学の「人間探求学」「生命・人間・倫理」は１年次、人間学の「地域社会福祉論」「栄養と人間」は２年次に履修してください。（いずれも必修）

（２）専門基礎科目、専門科目の履修について

①「人間看護学部科目配当表」に単位数、配当時期を示していますので、時間割表を参考に履修計画を立ててください。

・講義科目のうち、３０時間の授業をもって１単位とする科目があります。科目配当表に明示しています。

・低学年では専門基礎科目や看護学の講義、演習が配当されています。履修漏れのないように注意してください。

・臨地実習は、１年次、２年次の夏季集中時期と、３年次～４年次に集中で配当されていますので、その都度、履修登録をしてください。実習は、届出前までに修得しておくべき科目等が条件として設けられていますので、人間看護学部実習前提科目表で必ず確認してください。

②助産師課程、保健師課程、養護教諭一種免許・二種免許の取得を希望する者は、「資格取得等の手引」をもとに「人間看護学部科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

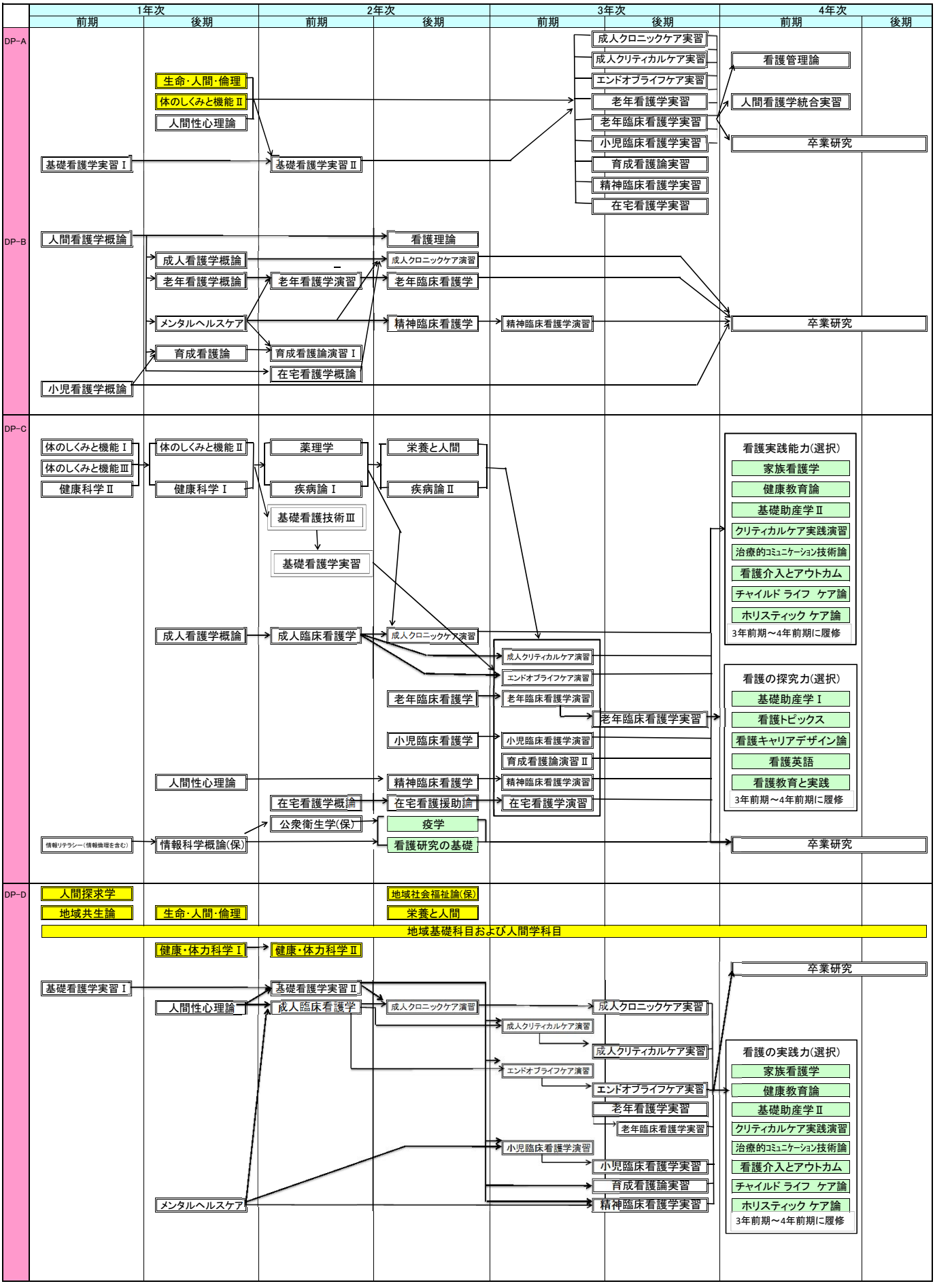
**人間看護学部　各授業科目の学習目標・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その１）**

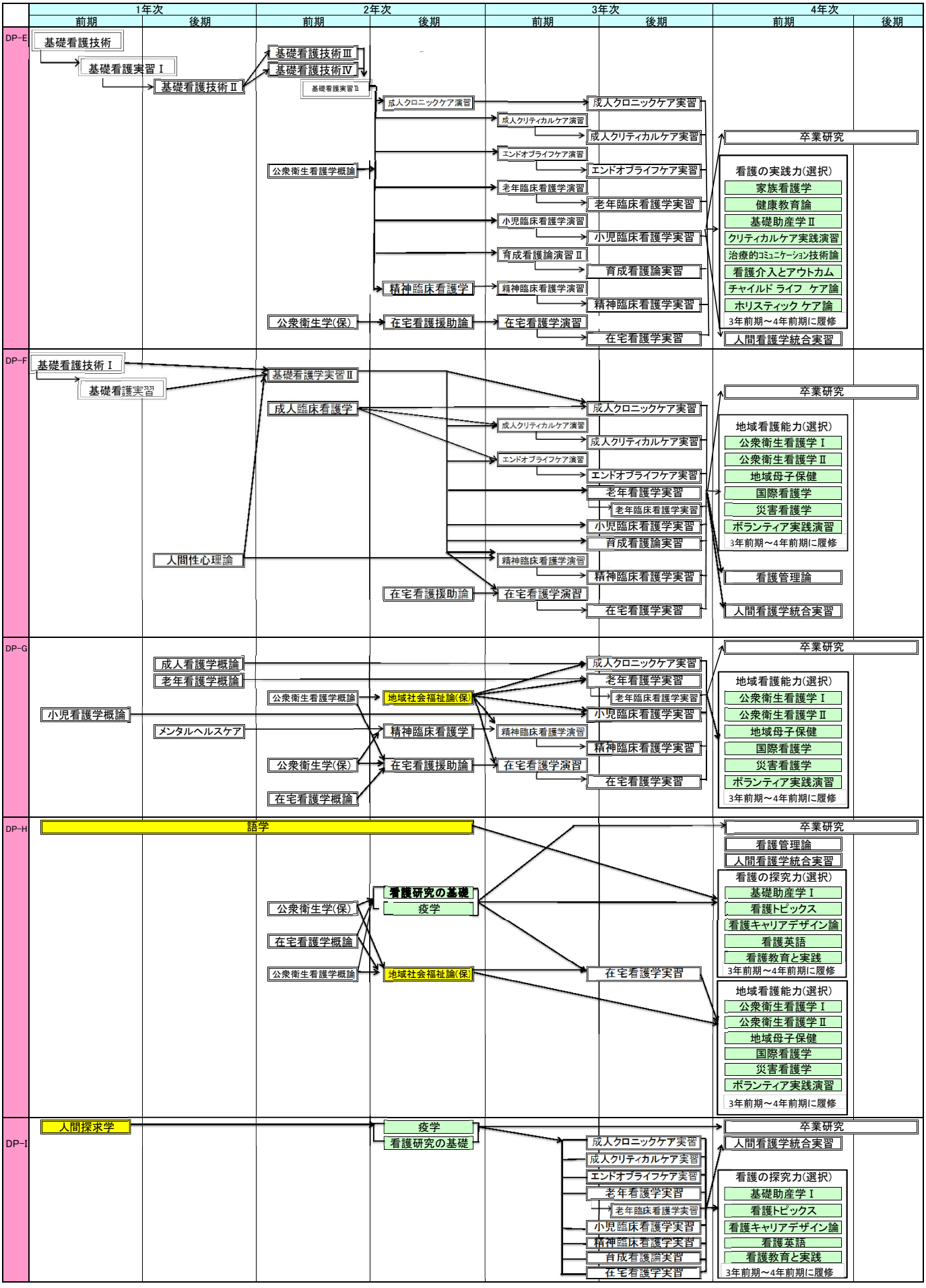
| | | 科目名 | 単位数 | 配当学年 | 時期 | 必・選 | DP-A | DP-B | DP-C | DP-D | DP-E | DP-F | DP-G | DP-H | DP-I |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 語学 | 英語ＩA | 2 | 1 | 前 | 必 | | | | | | | | ○ | |
| | | 英語ＩB | 2 | 1 | 後 | 必 | | | | | | | | ○ | |
| | | 英語ⅡA | 2 | 1 | 前 | 必 | | | | | | | | ○ | |
| | | 英語ⅡB | 2 | 1 | 後 | 必 | | | | | | | | ○ | |
| | | 英語ⅢA | 2 | 2 | 前 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 英語ⅢB | 2 | 2 | 後 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 英語ⅣA | 2 | 2 | 前 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 英語ⅣB | 2 | 2 | 後 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 第二外国語ＩA | 2 | 1 | 前 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 第二外国語ＩB | 2 | 1 | 後 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 第二外国語ⅡA | 2 | 2 | 前 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 第二外国語ⅡB | 2 | 2 | 後 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 実用英語演習ＩA | 2 | 2 | 前 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | | 実用英語演習ＩB | 2 | 2 | 後 | 選 | | | | | | | | ○ | |
| | 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 1 | 後 | 必 | | | | ○ | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | 2 | 前 | 必 | | | | ○ | | | | | |
| | 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む） | 2 | 1 | 前 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 情報科学概論(保) | 2 | 1 | 後 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | 人間学 | 人間探求学 | 2 | 1 | 前 | 必 | | | | ○ | | | | | ○ |
| | | 差別と人権(同和問題) | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 人間にとって環境とは何か | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 人間の行動と空間 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 生命・人間・倫理 | 2 | 1 | 後 | 必 | ○ | | | ○ | | | | | |
| | | 思索の視点 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 現代経済論 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 異文化理解A | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 異文化理解B | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 性を考える | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 国際協力論 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 農業問題入門 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅠ | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 国際環境マネジメントⅡ | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 憲法 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | Medieval Japan | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | Modernizing Japan | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 自然保護論 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 材料史 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 自然科学の視点 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 空間論 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 自然現象のしくみ | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | こころのテクノロジー | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 人間と病気(H27年度不開講) | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 持続的農業論 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 比較都市論 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 機械の再発見 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 電子社会と人間 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 比較住居論 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 栄養と人間 | 2 | 2 | 後 | 必 | | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 生活と健康 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 植物の病気 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | 地域基礎 | 地域共生論 | 2 | 1 | 前 | 必 | | | | ○ | | | | | |
| | | 地域コミュニケーション論 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 近江の歴史と文化 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 地域社会福祉論（保） | 2 | 2 | 後 | 必 | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| | | 地域づくり人材論 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | びわこ環境行政論 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 滋賀の自然史 | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 多文化共生論 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 地域・企業から学ぶ社長講義 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 近江の暮らしとなりわい | 2 | 1～4 | 後 | 選 | | | | ○ | | | | | |
| | | 近江の美 | 2 | 1～4 | 前 | 選 | | | | ○ | | | | | |

**人間看護学部　各授業科目の学習目標・教育目標一つ一つに対する関与の程度(その2)**

| | | 科目名 | 単位数 | 配当学年 | 時期 | 必・選 | DP-A | DP-B | DP-C | DP-D | DP-E | DP-F | DP-G | DP-H | DP-I |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門基礎科目 | | 体のしくみと機能Ⅰ | 2 | 1 | 前 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 体のしくみと機能Ⅱ | 2 | 1 | 後 | 必 | ○ | | ○ | | | | | | |
| | | 体のしくみと機能Ⅲ | 2 | 1 | 前 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 健康科学Ⅰ | 2 | 1 | 後 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 健康科学Ⅱ | 2 | 1 | 前 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 薬理学 | 2 | 2 | 前 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 疾病論Ⅰ | 2 | 2 | 前 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 疾病論Ⅱ | 2 | 2 | 後 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 人間性心理論 | 2 | 1 | 後 | 必 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | | 公衆衛生学(保) | 2 | 2 | 前 | 必 | | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 専門科目 | 必修科目 | 人間看護学概論 | 2 | 1 | 前 | 必 | | ○ | | | | | | | |
| | | 基礎看護技術Ⅰ | 1 | 1 | 前 | 必 | | | | | ○ | ○ | | | |
| | | 基礎看護技術Ⅱ | 2 | 1 | 後 | 必 | | | | | ○ | | | | |
| | | 基礎看護技術Ⅲ | 1 | 2 | 前 | 必 | | | ○ | | ○ | | | | |
| | | 基礎看護技術Ⅳ | 2 | 2 | 前 | 必 | | | | | ○ | | | | |
| | | 看護理論 | 2 | 2 | 後 | 必 | | ○ | | | | | | | |
| | | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 1 | 前・集 | 必 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 2 | 前・集 | 必 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | 成人看護学概論 | 1 | 1 | 後 | 必 | | ○ | ○ | | | | ○ | | |
| | | 成人臨床看護学 | 2 | 2 | 前 | 必 | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | | 成人クロニックケア演習 | 1 | 2 | 後 | 必 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 成人クリティカルケア演習 | 1 | 3 | 前 | 必 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | エンドオブライフケア演習 | 1 | 3 | 前 | 必 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | 成人クロニックケア実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | 成人クリティカルケア実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| | | エンドオブライフケア実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| | | 老年看護学概論 | 1 | 1 | 後 | 必 | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ |
| | | 老年看護学演習 | 1 | 2 | 前 | 必 | ○ | ○ | | | ○ | | | | |
| | | 老年臨床看護学 | 1 | 2 | 後 | 必 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | | 老年臨床看護学演習 | 1 | 3 | 前 | 必 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| | | 老年看護学実習 | 1 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| | | 老年臨床看護学実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | 小児看護学概論 | 1 | 1 | 前 | 必 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | | 小児臨床看護学 | 2 | 2 | 後 | 必 | | | ○ | | | | | | |
| | | 小児臨床看護学演習 | 1 | 3 | 前 | 必 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 小児臨床看護学実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | 育成看護論 | 2 | 1 | 後 | 必 | | ○ | | | | | | | |
| | | 育成看護論演習Ⅰ | 1 | 2 | 前 | 必 | | ○ | | | | | | | |
| | | 育成看護論演習Ⅱ | 1 | 3 | 前 | 必 | | | ○ | | ○ | | | | |
| | | 育成看護論実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| | | メンタルヘルスケア | 2 | 1 | 後 | 必 | | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| | | 精神臨床看護学 | 1 | 2 | 後 | 必 | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | | 精神臨床看護学演習 | 1 | 3 | 前 | 必 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 精神臨床看護学実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | 在宅看護学概論 | 1 | 2 | 前 | 必 | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | |
| | | 在宅看護援助論 | 2 | 2 | 後 | 必 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 在宅看護学演習 | 1 | 3 | 前 | 必 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 在宅看護学実習 | 2 | 3 | 通 | 必 | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 看護管理論 | 2 | 4 | 前・集 | 必 | | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| | | 公衆衛生看護学概論 | 2 | 2 | 前 | 必 | | | | | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 人間看護学統合実習 | 3 | 4 | 前 | 必 | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | | 卒業研究 | 4 | 4 | 通 | 必 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 選択科目 看護の探究力 | 疫学 | 2 | 2 | 後 | 選・保必 | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| | | 看護研究の基礎 | 2 | 2 | 後 | 選 | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| | | 基礎助産学Ⅰ | 2 | 3・4 | 前 | 選・助必 | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| | | 看護トピックス | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| | | 看護キャリアデザイン論 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| | | 看護英語 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| | | 看護教育と実践 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| | 看護の実践力 | 家族看護学 | 2 | 3・4 | 前 | 選・保必 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 健康教育論 | 2 | 3・4 | 前 | 選・保必 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 基礎助産学Ⅱ | 2 | 3・4 | 前 | 選・助必 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | クリティカルケア実践演習 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 治療的コミュニケーション技術論 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 看護介入とアウトカム | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | チャイルド ライフ　ケア論 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | ホリスティック ケア論 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 地域看護能力 | 公衆衛生看護学Ⅰ | 2 | 3・4 | 前 | 選・保必 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 公衆衛生看護学Ⅱ | 2 | 3・4 | 前 | 選・保必 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 地域母子保健 | 1 | 3・4 | 前 | 選・助必 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 国際看護学 | 1 | 3・4 | 前・集 | 選 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 災害看護学 | 1 | 3・4 | 前・集 | 選 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ボランティア実践演習 | 1 | 3・4 | 前 | 選 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |

人間看護学部カリキュラムツリー　　共通科目　　選択科目




1年次
2年次
3年次
4年次
前期
後期
DP-E
基礎看護技術
基礎看護実習Ⅰ
基礎看護技術Ⅱ
基礎看護技術Ⅲ
基礎看護技術Ⅳ
基礎看護実習Ⅱ
成人クロニックケア演習
成人クリティカルケア演習
エンドオブライフケア演習
公衆衛生看護学概論
老年臨床看護学演習
小児臨床看護学演習
育成看護論演習Ⅱ
精神臨床看護学
精神臨床看護学演習
公衆衛生学(保)
在宅看護援助論
在宅看護学演習
成人クロニックケア実習
成人クリティカルケア実習
エンドオブライフケア実習
老年臨床看護学実習
小児臨床看護学実習
育成看護論実習
精神臨床看護学実習
在宅看護学実習
卒業研究
看護の実践力(選択)
家族看護学
健康教育論
基礎助産学Ⅱ
クリティカルケア実践演習
治療的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術論
看護介入とアウトカム
チャイルド ライフ ケア論
ホリスティック ケア論
3年前期～4年前期に履修
人間看護学統合実習
DP-F
基礎看護技術Ⅰ
基礎看護実習
基礎看護学実習Ⅱ
成人臨床看護学
人間性心理論
在宅看護援助論
成人クロニックケア実習
成人クリティカルケア演習
成人クリティカルケア実習
エンドオブライフケア演習
エンドオブライフケア実習
老年看護学実習
老年臨床看護学実習
小児臨床看護学実習
育成看護論実習
精神臨床看護学演習
精神臨床看護学実習
在宅看護学演習
在宅看護学実習
卒業研究
地域看護能力(選択)
公衆衛生看護学Ⅰ
公衆衛生看護学Ⅱ
地域母子保健
国際看護学
災害看護学
ボランティア実践演習
3年前期～4年前期に履修
看護管理論
人間看護学統合実習
DP-G
成人看護学概論
老年看護学概論
小児看護学概論
メンタルヘルスケア
公衆衛生看護学概論
公衆衛生学(保)
在宅看護学概論
地域社会福祉論(保)
精神臨床看護学
在宅看護援助論
成人クロニックケア実習
老年看護学実習
老年臨床看護学実習
小児臨床看護学実習
精神臨床看護学演習
精神臨床看護学実習
在宅看護学演習
在宅看護学実習
卒業研究
地域看護能力(選択)
公衆衛生看護学Ⅰ
公衆衛生看護学Ⅱ
地域母子保健
国際看護学
災害看護学
ボランティア実践演習
3年前期～4年前期に履修
DP-H
語学
看護研究の基礎
疫学
公衆衛生学(保)
在宅看護学概論
公衆衛生看護学概論
地域社会福祉論(保)
在宅看護学実習
卒業研究
看護管理論
人間看護学統合実習
看護の探究力(選択)
基礎助産学Ⅰ
看護トピックス
看護キャリアデザイン論
看護英語
看護教育と実践
3年前期～4年前期に履修
地域看護能力(選択)
公衆衛生看護学Ⅰ
公衆衛生看護学Ⅱ
地域母子保健
国際看護学
災害看護学
ボランティア実践演習
3年前期～4年前期に履修
DP-I
人間探求学
疫学
看護研究の基礎
成人クロニックケア実習
成人クリティカルケア実習
エンドオブライフケア実習
老年看護学実習
老年臨床看護学実習
小児臨床看護学実習
精神臨床看護学実習
育成看護論実習
在宅看護学実習
卒業研究
人間看護学統合実習
看護の探究力(選択)
基礎助産学Ⅰ
看護トピックス
看護キャリアデザイン論
看護英語
看護教育と実践
3年前期～4年前期に履修

## 3　人間看護学部卒業要件について

（1）２０１５（平成２７）年度以降入学生用・２０１７（平成２９）年度以降編入学生用

以下のとおり、卒業要件が適用されます。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 全学共通科目 | （計　３０単位以上）　必修２２単位、選択必修８単位以上 |
| | 共通基礎科目 | １８単位以上 |
| | 第一外国語 | 英語ⅠA・B、ⅡA・B、ⅢA・B、ⅣA・B　　８単位 |
| | 第二外国語 | ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、フランス語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、中国語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBのうちから４単位以上。<br>ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可であり、「実用英語演習ⅠA・ⅠB」の履修を強く推奨する。 |
| | 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）２単位（必修）<br>情報科学概論　　２単位（必修）　　４単位 |
| | 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位 |
| | 人間学 | ８単位以上（「人間探求学」、「生命・人間・倫理」、「栄養と人間」は必修） |
| | 地域基礎 | ４単位以上（「地域共生論」、「地域社会福祉論」は必修） |
| 2 | 専門基礎科目 | （計　２０単位） |
| 3 | 専門科目 | （計　７９単位以上） |
| | 必修 | ６７単位 |
| | 選択必修 | １２単位以上<br>（専門選択科目一覧表の中から１２単位以上とする。） |
| | 合計 | １２９単位以上 |

註：ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目や他学部の開講科目については、履修可能ですが、卒業要件には算入できません。

【卒業研究の審査基準】

1　卒業研究（卒業論文）に対しては、以下の評価項目にもとづいて審査する。

(1) 研究目的の明確性
(2) 研究方法の妥当性
(3) 研究結果の明確性
(4) 論文の論理展開の一貫性
(5) 研究内容の新規性・学術性・社会性
(6) プレゼンテーション技法と質疑応答能力

2　卒業研究（卒業論文）は、発表会において学部が定める方法で発表し、質疑を行う。

3　1および2による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

**【人間看護学部科目配当表】 2015(平成27)年度以降入学生用**

| 区分 | | 1年次 | 単位数 | 必・選 | 学期 | 2年次 | 単位数 | 必・選 | 学期 | 3年次 | 単位数 | 必・選 | 学期 | 4年次 | 単位数 | 必・選 | 学期 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 全学共通基礎 | 英語ⅠA・B | 各1 | 必 | 前後 | 英語ⅢA・B | 各1 | 必 | 前後 | | | | | | | | | |
| | | 英語ⅡA・B | 各1 | 必 | 前後 | 英語ⅣA・B | 各1 | 必 | 前後 | | | | | | | | | |
| | | ○第二外国語ⅠA・B | 各1 | 選必 | 前後 | ○第二外国語ⅡA・B | 各1 | 選必 | 前後 | | | | | | | | | |
| | | 情報リテラシー(情報倫理を含む) | 2 | 必 | 前 | ○実用英語演習ⅠA (※1) | 1 | 選必 | 前 | | | | | | | | | |
| | | 情報科学概論 | 2 | 必 | 後 | ○実用英語演習ⅠB (※1) | 1 | 選必 | 後 | | | | | | | | | 18単位 |
| | | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 必 | 後 | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | 必 | 前 | | | | | | | | | |
| | 人間学 | 人間学 (「人間探求学」1年次、「生命・人間・倫理」1年次、「栄養と人間」2年次 は必修 ) | | | | | | | | | | | | | | | | 8単位以上 |
| | 地域基礎 | 地域基礎科目 (「地域共生論」1年次、「地域社会福祉論」2年次 は必修 ) | | | | | | | | | | | | | | | | 4単位以上 |
| 専門基礎科目 | | 体のしくみと機能Ⅰ | 2 | 必 | 前 | 公衆衛生学 | 2 | 必 | 前 | | | | | | | | | |
| | | 体のしくみと機能Ⅱ | 2 | 必 | 後 | 薬理学 | 2 | 必 | 前 | | | | | | | | | |
| | | 体のしくみと機能Ⅲ | 2 | 必 | 前 | 疾病論Ⅰ | 2 | 必 | 前 | | | | | | | | | |
| | | 健康科学Ⅰ | 2 | 必 | 後 | 疾病論Ⅱ | 2 | 必 | 後 | | | | | | | | | 20単位 |
| | | 健康科学Ⅱ | 2 | 必 | 前 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 人間性心理論 | 2 | 必 | 後 | | | | | | | | | | | | | |
| 専門科目 | | 人間看護学概論 | 2 | 必 | 前 | 基礎看護技術Ⅲ | 1 | 必 | 前 | 成人クリティカルケア演習 | 1 | 必 | 前 | 看護管理論 | 2 | 必 | 前 | |
| | | 基礎看護技術Ⅰ | 1 | 必 | 前 | 基礎看護技術Ⅳ | 2 | 必 | 前 | エンドオブライフケア演習 | 1 | 必 | 前 | | | | | |
| | | メンタルヘルスケア | 2 | 必 | 後 | 看護理論 | 2 | 必 | 後 | 老年臨床看護学演習 | 1 | 必 | 前 | | | | | |
| | | 基礎看護技術Ⅱ | 2 | 必 | 後 | 成人臨床看護学 | 2 | 必 | 前 | 小児臨床看護学演習 | 1 | 必 | 前 | | | | | |
| | | 小児看護学概論 | 1 | 必 | 前 | 成人クロニックケア演習 | 1 | 必 | 後 | 育成看護論演習Ⅱ | 1 | 必 | 前 | | | | | |
| | | 成人看護学概論 | 1 | 必 | 後 | 老年看護学演習 | 1 | 必 | 前 | 精神臨床看護学演習 | 1 | 必 | 前 | | | | | |
| | | 老年看護学概論 | 1 | 必 | 後 | 老年臨床看護学 | 1 | 必 | 後 | 在宅看護学演習 | 1 | 必 | 前 | | | | | |
| | | 育成看護論 | 2 | 必 | 後 | 小児臨床看護学 | 2 | 必 | 後 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 育成看護論演習Ⅰ | 1 | 必 | 前 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 精神臨床看護学 | 1 | 必 | 後 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 在宅看護学概論 | 1 | 必 | 前 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 在宅看護援助論 | 2 | 必 | 後 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 公衆衛生看護学概論 | 2 | 必 | 前 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 専門選択科目※2 | 2 | 選必 | 後 | 専門選択科目 ※2 | | | | | 10 | 選必 | 前 | 79単位 |
| | | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 必 | 集中(前) | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 必 | 集中(前) | 【各論実習】※3 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 老年看護学実習 | 1 | 必 | 通 | 人間看護学統合実習 | 3 | 必 | 前 | |
| | | | | | | | | | | 育成看護論実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 精神臨床看護学実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 小児臨床看護学実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 成人クロニックケア実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 成人クリティカルケア実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | エンドオブライフケア実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 老年臨床看護学実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 在宅看護学実習 | 2 | 必 | 通 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | 卒業研究 | 4 | 必 | 通 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 計 | 129単位 |

※1 本学科では、実用英語演習ⅠAと実用英語演習ⅠBを強く推奨しています。

※2 専門選択科目一覧を参照し履修科目を選択してください。(P.552ページ参照)

※3 成人クロニックケア実習、成人クリティカルケア実習、エンドオブライフケア実習、老年看護学実習、老年臨床看護学実習、精神臨床看護学実習、小児臨床看護学実習、育成看護論実習、在宅看護学実習を総称して各論実習と呼びます。

・「必」は必修科目　「選必」は選択必修科目　「選」は選択科目

・「前」は前期、「後」は後期、「通」は通年科目を示し、「集」は集中授業で行う

（2）２０１５（平成２７）年度３年次編入学生用

以下のとおり、卒業要件が適用されます。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 全学共通科目 | （計　３０単位以上）　必修２２単位、選択必修８単位以上 |
| | 共通基礎科目 | １８単位以上 |
| | 第一外国語 | 英語ＩＡ・B、ⅡA・B、ⅢA・B、ⅣA・B　　８単位 |
| | 第二外国語 | ドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、フランス語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、中国語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ・ⅡA・ⅡB、モンゴル語ＩA・ＩB・ⅡA・ⅡBのうちから４単位以上。<br>ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ＩＡ・ＩＢ」で代替可であり、「実用英語演習ＩA・ＩB」の履修を強く推奨する。 |
| | 情報処理 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）２単位（必修）<br>情報科学概論　　２単位（必修）　　４単位 |
| | 保健体育 | 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位 |
| | 人間学 | １２単位以上（「人間探求学」、「環境マネジメント総論（地域基礎：「地域共生論」読替）」、「生命・人間・倫理」、「社会福祉論（地域基礎：「地域社会福祉論」読替）」、「栄養と人間」は必修） |
| 2 | 専門基礎科目 | （計　２０単位） |
| 3 | 専門科目 | （計　７９単位以上） |
| | 必修 | ６７単位 |
| | 選択必修 | １２単位以上<br>（専門選択科目一覧表の中から１２単位以上とする。） |
| | 合計 | １２９単位以上 |

註：ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目や他学部の開講科目については、履修可能ですが、卒業要件には算入できません。

【卒業研究の審査基準】

1　卒業研究（卒業論文）に対しては、以下の評価項目にもとづいて審査する。

(1) 研究目的の明確性
(2) 研究方法の妥当性
(3) 研究結果の明確性
(4) 論文の論理展開の一貫性
(5) 研究内容の新規性・学術性・社会性
(6) プレゼンテーション技法と質疑応答能力

2　卒業研究（卒業論文）は、発表会において学部が定める方法で発表し、質疑を行う。

3　１および２による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

【人間看護学部科目配当表】 2015(平成27)年度編入学生用

| 区分 | | 3年次 | 単位 | 必・選 | 学期 | 認定単位数 | 4年次 | 単位 | 必・選 | 学期 | 認定単位数 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通 | 全学共通基礎 | 英語ⅠA・B | 各1 | 必 | 前・後 | 個別認定 | | | | | | 必修8単位 |
| | | 英語ⅡA・B | 各1 | 必 | 前・後 | 個別認定 | | | | | | |
| | | 英語ⅢA・B | 各1 | 必 | 前・後 | 個別認定 | | | | | | |
| | | 英語ⅣA・B | 各1 | 必 | 前・後 | 個別認定 | | | | | | |
| | | 第二外国語ⅠA・B | 各1 | 選必 | 前・後 | 個別認定 | 第二外国語ⅡA・B<br>*3年次で取れない場合※1 | 各1 | 選必 | 前・後 | 個別認定 | 必修4単位 |
| | | 第二外国語ⅡA・B※1 | 各1 | 選必 | 前・後 | 個別認定 | | | | | | |
| | | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 必 | 後 | 個別認定 | | | | | | 必修2単位 |
| | | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | 必 | 前 | 個別認定 | | | | | | |
| | | 情報リテラシー<br>(情報倫理を含む) | 2 | 必 | 前 | | | | | | | 必修4単位 |
| | | 情報科学概論 | 2 | 必 | 後 | | | | | | | |
| | 人間学 | **人間学 「人間探求学」、「環境マネジメント総論(地域基礎:「地域共生論」読替)」、「生命・人間・倫理」、<br>「社会福祉論(地域基礎:「地域社会福祉論」読替)」、「栄養と人間」は必修　(必修10単位を除く2単位が個別認定)** | | | | | | | | | | 12単位以上 |
| 専門基礎 | | 人間性心理論 | 2 | 必 | 後 | 4 | | | | | | 20 単位 |
| | | 公衆衛生学 | 2 | 必 | 前 | | | | | | | |
| | | その他の専門基礎科目 | 8科目 | | | 16単位認定 | | | | | | |
| 専門科目 | | 1年次開講科目(実習含む) | 9科目 | | | 13単位認定 | 選択必修科目 ※3<br>(3年次・4年次) | 10 | 選 | | | 75 単位 |
| | | 公衆衛生看護学概論 | 2 | 必 | 前 | | | | | | | |
| | | 看護理論 | 2 | 必 | 後 | | 人間看護学統合実習 | 3 | 必 | 前 | 個別認定 | |
| | | △疫学 | 2 | 必 | 後 | 6 | 看護管理論 | 2 | 必 | 前 | 個別認定 | |
| | | △看護研究の基礎 | 2 | 必 | 後 | | | | | | | |
| | | (△から1科目選択する)※2 | | | | | | | | | | |
| | | 2年次開講科目(実習含む) | 12科目 | | | 17単位認定 | | | | | | |
| | | エンドオブライフケア演習 | 1 | 必 | 前 | 1 | | | | | | |
| | | 3年次開講科目(実習含む) | 15科目 | | | 23単位認定 | | | | | | |
| | | | | | | | 卒業研究 | 4 | 必 | 通 | | 4単位 |
| | | | | | | | | | | 計 | | 129単位 |

※1本学科では、実用英語演習ⅠAと実用英語演習ⅠBを強く推奨しています。

※2保健師課程履修の学生および養護教諭免許取得希望の学生は、「疫学」が必修科目となります。

※3専門選択科目一覧を参照し履修科目を選択してください。(P.552ページ参照)

・「必」は必修科目　「選必」は選択必修科目　「選」は選択科目

・「前」は前期、「後」は後期、「通」は通年科目を示し、「集」は集中講義で行う。

# 専門選択必修科目一覧

**■各分野から、4単位2科目以上選択のこと。履修にあたっては下欄の注意書きを参照。**

| | 選択科目分野 | | 科目名 | 配当学年 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門<br>選択必修<br>12単位 | 看護探究能力を<br>育む科目群<br>(4単位以上、ただし<br>2年次に◇科目より<br>2単位選択) | 2年次 | ◇疫学※1 | 2・後 | 2 |
| | | | ◇看護研究の基礎 | 2・後 | 2 |
| | | 3年次以上 | 基礎助産学Ⅰ※2 | 3・前 | 2 |
| | | | 看護トピックス | 4前 | 1 |
| | | | 看護キャリアデザイン論 | 3・4前 | 1 |
| | | | 看護英語 | 3・4前 | 1 |
| | | | 看護教育と実践 | 4前(集) | 1 |
| | 看護実践能力を<br>養う科目群<br>(4単位以上) | 3年次以上 | 家族看護学※1 | 3・4前 | 2 |
| | | | 健康教育論※1 | 3前 | 2 |
| | | | 基礎助産学Ⅱ※2 | 4前 | 2 |
| | | | クリティカルケア実践演習 | 4前 | 1 |
| | | | 治療的コミュニケーション技術論 | 3・4前 | 1 |
| | | | 看護介入とアウトカム | 3・4前 | 1 |
| | | | チャイルドライフケア論 | 4前 | 1 |
| | | | ホリスティックケア論 | 3・4前 | 1 |
| | 地域看護能力を<br>高める科目群<br>(4単位以上) | 3年次以上 | 公衆衛生看護学Ⅰ※1 | 3前 | 2 |
| | | | 公衆衛生看護学Ⅱ※1 | 3前 | 2 |
| | | | 地域母子保健※2 | 3前 | 1 |
| | | | 国際看護学 | 3・4前(集) | 1 |
| | | | 災害看護学 | 3・4前(集) | 1 |
| | | | ボランティア実践演習 | 4前(集) | 1 |

注1：保健師課程履修の学生は、**※1**の科目は必修科目となる

注2：助産師課程履修の学生は、**※2**の科目は必修科目となる

注3：養護教諭免許取得を希望する学生は、「疫学」は必修科目となる

注4：保健師および助産師課程履修の学生は、3年前期までに専門選択必修12単位をすべて履修しておくこと

注5：保健師・助産師課程以外の学生は、3年次に4～6単位を履修すること

注6：2年次後期に看護探求能力を育む科目群の◇科目より、2単位履修すること。ただし、◇の科目を両方(4単位)履修した場合に、卒業要件単位に算入されるのは2単位である

注7：「看護研究の基礎」は、4年次の卒業研究に向けた基礎的な内容であるため、履修を推奨する

# 2015（平成27）年度　滋賀県立大学人間看護学部　実習計画表

| 配当年次 | 実習科目 | 4月 | | | | 5月 | | | | 6月 | | | | 7月 | | | | 8月 | | | | 9月 | | | | 10月 | | | | 11月 | | | | 12月 | | | | 1月 | | | | 2月 | | | | 3月 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1年次 | 基礎看護学実習Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年次 | 基礎看護学実習Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年次 | 各論実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4年次<br>※編入4年次 | 人間看護学統合実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 助産学実習（助産師課程） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育実習（養護教諭） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 公衆衛生看護学実習（保健師課程）<br>地域看護論実習<br>（2011年度以前入学生） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

計画は実習先の事情等により変更する場合があります。

*教育実習は、この期間内に計画してください。
　養護教諭免許取得希望で、かつ保健師課程を選択している学生は、教育実習をできるだけ10月以降に調整してください。

## 人間看護学部実習前提科目(2015(平成27)年度以降入学生用)

| 実習名 | 実習期間 | 履修要件 | 修得済み科目(見込み含む) | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 専門基礎科目 | | 専門科目 | |
| 基礎看護学実習Ⅰ | 1年次<br>前期集中 | ○1年前期の人間看護学概論及び基礎看護技術Ⅰを修得していること | | | 人間看護学概論 | 1・前 |
| | | | | | 基礎看護技術Ⅰ | 1・前 |
| 基礎看護学実習Ⅱ | 2年次<br>前期集中 | ○1年次の専門基礎科目及び専門科目5科目を修得していること<br><br>○2年前期の基礎看護技術Ⅲ,基礎看護技術Ⅳを修得していること | 体のしくみと機能Ⅰ | 1・前 | 人間看護学概論 | 1・前 |
| | | | 体のしくみと機能Ⅲ | 1・前 | 基礎看護技術Ⅰ | 1・前 |
| | | | 健康科学Ⅱ | 1・前 | 基礎看護学実習Ⅰ | 1・前 |
| | | | 体のしくみと機能Ⅱ | 1・後 | 基礎看護技術Ⅱ | 1・後 |
| | | | 健康科学Ⅰ | 1・後 | メンタルヘルスケア | 1・後 |
| | | | 人間性心理論 | 1・後 | 基礎看護技術Ⅲ | 2・前 |
| | | | ※生命・人間・倫理 | 1・後 | 基礎看護技術Ⅳ | 2・前 |
| 各論実習 | 3年次通年 | ○2年次の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること<br><br>○3年次前期の専門基礎科目・専門科目における必修科目を修得していること | ※情報科学概論 | 1・後 | 基礎看護学実習Ⅰ | 1・前 |
| | | | 薬理学 | 2・前 | 小児看護学概論 | 1・前 |
| | | | 疾病論Ⅰ | 2・前 | 育成看護概論 | 1・後 |
| | | | 公衆衛生学 | 2・前 | 成人看護学概論 | 1・後 |
| | | | ※栄養と人間 | 2・後 | 老年看護学概論 | 1・後 |
| | | | 疾病論Ⅱ | 2・後 | 基礎看護技術Ⅲ | 2・前 |
| | | | ※地域社会福祉論 | 2・後 | 老年看護学演習 | 2・前 |
| | | | | | 育成看護論演習Ⅰ | 2・前 |
| | | | | | 成人臨床看護学 | 2・前 |
| | | | | | 基礎看護技術Ⅳ | 2・前 |
| | | | | | 在宅看護概論 | 2・前 |
| | | | | | 公衆衛生看護学概論 | 2・前 |
| | | | | | 基礎看護学実習Ⅱ | 2・前 |
| | | | | | 小児臨床看護学 | 2・後 |
| | | | | | 老年臨床看護学 | 2・後 |
| | | | | | 在宅看護援助論 | 2・後 |
| | | | | | 精神臨床看護学 | 2・後 |
| | | | | | 成人クロニックケア演習 | 2・後 |
| | | | | | 看護理論 | 2・後 |
| | | | | | エンドオブライフケア演習 | 3・後 |
| | | | | | 在宅看護学演習 | 3・前 |
| | | | | | 育成看護論演習Ⅱ | 3・前 |
| | | | | | 精神臨床看護学演習 | 3・前 |
| | | | | | 小児臨床看護学演習 | 3・前 |
| | | | | | 成人クリティカルケア演習 | 3・前 |
| | | | | | 老年臨床看護学演習 | 3・前 |
| 人間看護学統合実習 | 4年次<br>前期 | ○3年次後期の専門科目の必修科目をすべて修得しておくこと<br>○各論実習の単位を全て修得していること | | | 看護管理論 | 3・後 |
| | | | | | 育成看護論実習 | 3・通 |
| | | | | | 精神臨床看護学実習 | |
| | | | | | 小児臨床看護学実習 | |
| | | | | | 成人クリティカルケア実習 | |
| | | | | | 成人クロニック実習 | |
| | | | | | 老年看護学実習 注1 | |
| | | | | | 老年臨床看護学実習 | |
| | | | | | エンドオブライフケア実習 | |
| | | | | | 在宅看護学実習 | |

※・・・地域基礎科目、人間学および全学共通科目にあたる科目ですが、実習の前提科目となります。

注1:老年看護学実習は、老年臨床看護学実習の前提科目となります。

| 科目名 | 育成看護論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 渡邊　香織 ・ 古川　洋子 | |
| 授業概要 | 母性看護に関連する諸概念、人の性と生殖のメカニズムとその意義、母性保健の動向や母子保健施策について理解し、母性看護の役割や機能を学ぶ。また、女性のライフサイクル各期における母性の特徴とそれに対応した看護について学ぶ。妊娠の身体的・心理的・社会的特徴を理解し，母子とその家族のウエルネスに向けた看護を展開していく上で必要とされる基礎的知識を学習する。 | |
| 到達目標 | １．母性看護に関連する諸概念と母性看護の役割が理解できる。<br>２．母性を取り巻く環境、母子保健の動向と施策が理解できる。<br>３．リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する主要な健康課題と看護、女性のライフサイクル各期における母性の特徴とそれに対応した看護が理解できる。<br>４．人の性と生殖のメカニズムとその意義、妊娠期の生理的・心理的・社会的特性・適応過程が理解できる。 | |
| 成績評価 | １．母性看護に関連する諸概念と母性看護の役割が理解できる。定期試験　10%<br>２．母性を取り巻く環境、母子保健の動向と施策が理解できる。定期試験　20%<br>３．リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する主要な健康課題、女性のライフサイクル各期における母性の特徴とそれに対応した看護が理解できる。　定期試験　30%<br>４．人の性と生殖のメカニズムとその意義、妊娠期の生理的・心理的・社会的特性・適応過程が理解できる。　定期試験・観察法　40%<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。ただし、1/3 以上欠席した場合は評価対象外とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：　森恵美他編　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論　母性看護学[1]<br>森恵美他編　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学[2]（医学書院）第 1 回目の講義までに準備しておくこと | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 育成看護論演習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古川　洋子 ・ 林　嘉彦※ | |
| 授業概要 | 妊娠・分娩・産褥・新生児期の周産期を中心とした，各期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し，母子とその家族のウエルネスに向けた看護を展開していく上で必要とされる基礎的知識を学習する。 | |
| 到達目標 | １．妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的特性とその適応過程、看護について理解できる。<br>２．周産期における女性と家族の心理的・社会的特性をふまえた看護について理解できる。<br>３．妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常とそれらに対する看護について理解できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標 1 妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的特性とその適応過程、看護について理解できる。(50%)、目標 2 周産期における女性と家族の心理的・社会的特性をふまえた看護について理解できる。(30%)、目標 3 妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常とそれらに対する看護について理解できる。(20%）とし、定期試験 100%で成績評価とする。60 点以上を合格とする。ただし、1/3 以上欠席した場合は評価対象外とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論（医学書院）　第 1 回目の講義までに準備しておくこと。<br>指定図書：web シラバスの追加情報の欄を参照。<br>参考書：講義の中で紹介する。 | |
| 履修資格 | 育成看護論の履修 | |

| 科目名 | 育成看護論演習Ⅱ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 ・ 渡邊　友美子 ・ 本岡　夏子 ・ 藤島　和代 | |
| 授業概要 | 育成看護論および育成看護論演習Ⅰの学びを基に、妊娠・分娩・産褥および新生児各期にある母子および家族への看護を展開する上で必要とされる看護過程の展開と基礎的な看護技術について習得する。 | |
| 到達目標 | （1）周産期の母子を対象とした看護過程の展開とその特徴が理解できる。<br>（2）妊婦・産婦・褥婦および新生児に対するフィジカルアセスメントについて理解できる。<br>（3）妊娠・分娩･産褥・新生児期の健康を維持するための看護について説明できる。<br>（4）周産期看護に関わる基本的な看護技術が習得できる。 | |
| 成績評価 | 課題レポート（看護過程の展開）40%と筆記試験 60%を下記の配分で評価する。<br>（1）周産期の母子を対象とした看護過程の展開とその特徴が理解できる。(40%)<br>（2）妊婦・産婦・褥婦および新生児に対するフィジカルアセスメントについて理解できる。(20%)<br>（3）妊娠・分娩･産褥・新生児期の健康を維持するための看護について説明できる。(20%)<br>（4）周産期看護に関わる基本的な看護技術が習得できる。(20%)<br>以上、合計 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>ただし、1/3 以上欠席した場合は評価対象外とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：系統看護学講座専門分野 2 母性看護学〔2〕『母性看護学各論』　医学書院<br>指定図書：大田 操編『ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程』 医歯薬出版<br>佐世正勝/石村由利子編『ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図』 医学書院<br>石村由利子編『根拠と事故防止からみた母性看護技術』　医学書院<br>水野克己編『入院中から退院までの母乳育児支援』 医学出版 | |
| 履修資格 | 育成看護論・育成看護論演習Ⅰの履修 | |

| 科目名 | 育成看護論実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 ・ 古川　洋子 ・ 渡邊　香織 ・ 渡邊　友美子 ・ 本岡　夏子 ・ 藤島　和代 | |
| 授業概要 | 周産期における女性と子どもおよび家族の身体的，心理的，社会的特徴を総合的に理解し，母性看護が実践できる能力を養う。 | |
| 到達目標 | （1）対象とのかかわりを通して，周産期における対象の特性を総合的に理解できる。<br>（2）対象の看護上の問題および課題を明確にし，看護援助を実践することができる。<br>（3）生命の神秘・尊厳について理解を深め，周産期看護の役割・機能について学ぶことができる。<br>（4）看護者の一員として責任ある行動をとり，主体性と協調性を持って実習に取組むことができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標は課題レポートと観察法で評価する。（1）24%（2）40%（3）15%（4）21%で100 点満点で採点し,60 点以上を合格とする。1/5 以上実習を欠席したものは、評価対象外とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 学内の講義で学習した資料を持参する。 | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 疫学 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山川　正信※ | |
| 授業概要 | 疫学は、命や健康を守るための理論を構築するために必須の学問体系である。しかし、日本の看護学教育の中では概して軽視される傾向にあった。それが日本の医療現場の疲弊にもつながっているとも指摘されている。そこでまず、事象を正確に、広い視野からみる技術、そのデータを歪みなく分析する技術、そして、得られた知見を実際に応用しその結果を検証する技術など疫学の基本理論を学ぶ。後半は、疫学がどのように現場で応用され、社会に役立っているかをできるだけ身近な例をもとに実習的に学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)保健統計の用語などの意味や重要性などを理解する。<br>(2)疫学的研究方法（横断研究・縦断研究・症例対照研究・介入研究）について理解し、学術論文を critical に読む力を身につける。<br>(3)多様な医療統計技法に触れ、科学的論考につながる視点をもつ。<br>(4)疫学の導き出した健康に関する多くのエビデンスを知り、人々の命や健康に役立てる礎をつくる。 | |
| 成績評価 | 小テスト　30%　疫学の基礎的知識を獲得し、簡単な分析ができるようになったかをみる。<br>期末筆記試験　70%　疫学の基礎的知識を確立し、応用できること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：日本疫学会監修「はじめて学ぶやさしい疫学―疫学への招待―」南江堂<br>参考書：厚生労働統計協会　「国民衛生の動向」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | エンドオブライフケア演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 糸島　陽子 ・ 伊藤　あゆみ | |
| 授業概要 | エンドオブライフにある人々の全人的苦痛と家族（重要他者）がかかえる苦悩を知り、エンドオブライフケアを展開するために必要な基本的知識・技術・態度を習得する。また、エンドオブライフケアを学ぶ中で、自己の死生観について考え、死に逝く人々とその家族に向き合える基本的態度を養う。(H26 年より開講) | |
| 到達目標 | (1)エンドオブライフにある人々とその家族（重要他者）の課題を解決するための方策を理解することができる。<br>(2)エンドオブライフにある人々に対する深い洞察力を持ち、悲嘆などの感情に寄り添う態度を養うことができる。<br>(3)エンドオブライフにある人々とその家族（重要他者）に対して、苦痛緩和のための方策について理解することができる。<br>(4)エンドオブライフにある人々とその家族（重要他者）に対して、チームの一員として多職種と協働する態度を養うことができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)(2)(3)(4)については<br>定期試験（40%：(1)30%(3)10%）<br>課題レポート（40%：(2)10%(3)20%(4)10%）<br>技術到達度（20%：(2)10%(4)10%）を総合して評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義中紹介 | |
| 履修資格 | 成人臨床看護学を履修している | |

| 科目名 | エンドオブライフケア実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 糸島　陽子 ・ 中川　美和 ・ 伊藤　あゆみ ・ 酒田　宴里 | |
| 授業概要 | エンドオブライフにある人々の身体的・精神的・社会的・霊的特徴、および、その家族（重要他者）の特徴を統合的に理解して、エンドオブライフケアを実践するために必要な基本的知識・技術・態度を習得する。また、エンドオブライフにある人々とその家族との出会いをとおして、人間の尊厳、QOL、生と死について洞察し、自己の死生観と看護観を養う。 | |
| 到達目標 | ⑴エンドオブライフにある患者とその家族(重要他者)を，全人的に理解できる。<br>⑵エンドオブライフにある患者とその家族の意思を尊重した援助的人間関係を樹立できる。<br>⑶エンドオブライフにある患者とその家族の「苦痛」に関連した主観的・客観的情報を，論理的・科学的にアセスメントし，援助の視点を明確にした看護計画が立案できる。<br>⑷受け持ち患者の意思を尊重しながら，苦痛を緩和するための援助が，安全かつ安楽な方法で実施できる。<br>⑸実施した看護に対し、客観的に評価できる。<br>⑹エンドオブライフにある患者とその家族の援助をとおして，緩和ケアチームの一員として，連携の重要性が理解でき，チームメンバーとしての自己の役割・責任にもとづく行動がとれる。 | |
| 成績評価 | 到達目標について、下記項目から総合的に評価する。<br>１）実習記録<br>２）自己評価<br>３）実習指導者評価<br>４）カンファレンスへの取り組み状況<br>５）面接による口頭試問<br>６）課題レポート<br>※1：詳細は、「エンドオブライフケア実習評価表」を参照。<br>※2：単位認定には、すべての到達目標で「レベル２（可）」以上を必要とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業で使用した資料や参考図書等 | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 家族看護学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大脇　万起子 | |
| 授業概要 | 家族を単に対象者を取り巻く背景として捉えるのではなく、家族機能をシステムとして捉え、個人及びその家族が持っているセルフケア能力を高める援助の方法について論じる。<br>さらに、家族のライフサイクルの段階に応じた発達課題、直面する危機や健康問題に対する援助のあり方を講義およびグループワーク（事例検討、事例作成・役割演技）を通して学ぶ。 | |
| 到達目標 | ⑴家族看護に関する主な理論やモデルについて理解する。<br>⑵家族看護過程（アセスメント・診断・計画・方法・評価）に関する基本的な知識を習得する。<br>⑶患者家族と向き合うための基本的な姿勢・コミュニケーション技術を習得する。 | |
| 成績評価 | 到達目標⑴・⑵については、定期試験（60%：⑴30%，⑵30%）、シャトルカード（10%：⑴5%，⑵5%）、到達目標⑶については、グループワーク（10%）、シャトルカード（5%）、レポート（15%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。詳細は文書のルーブリックに記載。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：鈴木和子他：家族看護学　理論と実践　第４版（日本看護協会出版会）<br>指定図書：ロレイン M. ライト著：癒しのための家族看護モデル　病いと苦悩，スピリチュアリティ（医学書院）他<br>参考書　：法橋尚宏編著：新しい家族看護学　理論・実践・研究（メヂカルフレンド社）他 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 体のしくみと機能Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安原　治 | |
| 授業概要 | 人体のしくみと機能に関する知識は看護学を習得するための重要な基礎となる。本講は、人体の構造（解剖学）とその機能（生理学）を統合的に学ぶことを目的とする。正常な構造と機能の理解は疾患や障害の理解に必須であり、看護を含むすべての医療行為に不可欠である。本講では、人体の各器官系について、発生と関連づけながら個々の細胞・組織・器官とその機能に関する内容を取り上げ、個々の知識を人体の全体像と関連付けて理解することを目指す。また、臨床と関連づけて学ぶことにより、生きた解剖生理学の知識が定着するよう講義する。 | |
| 到達目標 | （１）細胞、細胞内小器官、組織の構造を説明できる。<br>（２）各器官系の人体内の位置と構造について、解剖学用語を用いて図示し説明できる。<br>（３）人体の機能を構造に関連づけて説明できる。 | |
| 成績評価 | １）到達目標 (1) を達成するためにレポートを課す(10 点満点)。２）到達目標 (2), (3) を達成するために小試験を課す(1 問 10 点 X２問、計 20 点満点)。３）到達目標 (1)-(3) を達成するために選択問題 25 問(1 問 2 点、計 50 点)と記述問題 2 問(1 問 10 点、計 20 点)からなる定期試験を課す(70 点満点)。以上を総合して 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布<br>テキスト：解剖生理学（系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能１：医学書院）<br>参考書　：カラー図解人体の正常構造と機能　縮刷版（日本医事新報社）<br>ナーシンググラフィカ人体の構造と機能１　解剖生理学（メディカ出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 体のしくみと機能Ⅱ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安原　治 | |
| 授業概要 | 体のしくみと機能（I）に引き続き、人体の構造（解剖学）とその機能（生理学）を統合的に学ぶ。本講では、泌尿器系、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系、生殖器系を取り上げ、外的環境への適応、内的環境の維持調節、生殖のしくみを中心に学ぶ。また、老化、疾患についても触れる。さらに、解剖見学実習を通して、人体の構造を自らの眼と手で学ぶとともに、献体していただいた故人の崇高な意思を感じ取る。 | |
| 到達目標 | （1）各器官系の人体内の位置と構造について、解剖学用語を用いて図示し説明できる。<br>（2）人体の機能を構造に関連づけて説明できる。<br>（3）人体の発生、成長、成熟、老化の概要を説明できる。<br>（4）解剖見学習を通して、人体の構造を自らの眼と手で学ぶとともに、献体していただいた故人の崇高な意思を感じ取る。 | |
| 成績評価 | 1）到達目標 (1) (2) を達成するためにレポートを課す（5 点）。 2）到達目標 (1) (2) を達成するために選択問題 20 問からなる小試験を課す（20 点）。3）到達目標 (1)-(3) を達成するために選択問題 25 問（計 50 点）と記述問題 2 問（計 20 点）からなる定期試験を課す（70 点満点）。 4）到達目標 (4) を達成するためにレポートを課す（5 点）。以上を合計し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布<br>テキスト：解剖生理学（系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能 1：医学書院）<br>参考書：カラー図解人体の正常構造と機能　縮刷版（日本医事新報社)、ナーシンググラフィカ人体の構造と機能 1 解剖生理学（メディカ出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 体のしくみと機能Ⅲ | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 若林　保良※ | |
| 授業概要 | ヒトは、食事や呼吸により外部から化学物質を取り込み、取り込んだ物質を変化させて外部に排出する。それにより体内の生化学的､生理学的な環境を一定（定常状態）に保って生きている。そのことを動的平衡にあるという。物質の変化の道筋を代謝経路と呼び、病気は取り込んだ物質の代謝経路が乱れた時に起こる。本授業では、代謝経路とその調節機構を解説し、いくつかの病気について、その代謝過程の異常を説明する。生化学と栄養学のつながりについても強調したい。 | |
| 到達目標 | (1)体を構成する物質の構造と機能を説明できる。<br>(2)体を構成する物質の合成経路と分解経路を説明できる。<br>(3)生命活動に必要なエネルギーの獲得経路を説明できる。<br>(4)酵素による物質代謝の調節の仕方を説明できる。<br>(5)糖尿病、痛風、黄疸の成り立ちを説明できる。<br>(6)HDL, LDL の役割を説明できる。<br>(7)ビタミンの役割を説明できる。<br>(8)遺伝子の役割を説明できる。 | |
| 成績評価 | 定期試験の成績で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：三輪一智、中恵一著「人体の構造と機能 [2] 生化学(医学書院; 第 13 版) 指定図書：特にありません。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 看護英語 | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安原　治 ・ 森　敏 ・ 平田　弘美 | |
| 授業概要 | 看護師という職業は、その専門性の高さから、日本だけでなく海外でも活躍の場が広がっている。また、社会の国際化に伴って、日本国内でも今後ますます看護英語が重要になっていくものと思われる。本講義では、これまでに学んできた看護学の知識を基盤にして、入院から退院まで､看護現場で用いられる臨床看護英語の基礎を学ぶとともに､海外留学体験の講義や映画、国際模擬学会を通じて看護学英語の実際に触れる。 | |
| 到達目標 | （1）看護に必要な基礎的な英語医学用語を修得する。<br>（2）実際の医療現場における会話を通して、生きた英語表現を学ぶ。<br>（3）海外留学体験の講義や模擬国際学会を通して、国際的な活動に目を向け、視野を広げる。 | |
| 成績評価 | 1）到達目標(1)を達成するために小テストを 1 回行う（20 点満点）。 2）到達目標(2)(3)を達成するために、全講義修了後にレポートの提出を求める（40 点）。減点法で採点する。 3）これに出席点を加算する。1 回につき 5 点満点、計 40 点満点とする。上記を合計し、100 点満点中、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： Cambridge English for Nursing、アタマとオシリでわかる医療英単語、他。<br>適宜配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 看護介入とアウトカム | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | EBN（Evidence Based Nursing)の考えに基づく看護介入の方法を抽出し、アウトカム設定の考え方や評価方法について、看護診断過程の視点から考察する。また、看護活動のみならず保健師・助産師活動においても生かせる新たな看護介入方法の研究・開発について、展望する。（平成 27 年度不開講） | |
| 到達目標 | | |
| 成績評価 | | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 看護管理論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 窪田　好恵　・　米田　照美 | |
| 授業概要 | 対象に質の高い継続した組織的看護サービスを提供するために、対象を取り巻くあらゆる資源（人・物・財・時間・情報）を効率的に活用し成果を得るためのしくみやマネジメントを理解することができる。他職種連携・チーム医療について学び、その中で果たす看護職の役割、マネジメント・リーダーシップについて学び自分の考えを述べることができる。また、安全で効率的な経営的視点を持った医療活動について理解することができる。 | |
| 到達目標 | １．対象者への安全で質の高いケアを提供するための組織、体制について説明できる。<br>２．看護専門職の機能や役割が発揮できるための看護管理者の役割について説明できる。<br>３．医療、看護ケアの安全管理、保健・医療・福祉の地域連携体制と継続看護について説明できる。<br>４．4 年生前期の統合実習に生かすことができる。 | |
| 成績評価 | 毎回授業のレスポンスカードに課題記入 40％　定期試験かレポート 60％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「基礎看護学 看護管理 (ナーシング・グラフィカ)」，メディカ出版<br>参考図書は適宜紹介する。参考図書は適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | 人間看護学統合実習の履修資格があること | |

| 科目名 | 看護キャリアデザイン論 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横井　和美 | |
| 授業概要 | 医療の高度化・専門化が進む現代において看護の役割拡大や質の向上が求められる中、さまざまな角度から看護の役割を深く見つめ、自分を分析して自分の進むべき道を考える。看護学の学びをもとに、自己の人間形成とキャリア・職業観の育成、進路の選択・決定ができる能力を培う。 | |
| 到達目標 | 1）看護の専門職がキャリア形成を行うことの必要性について理解できる。<br>2）多面的な看護の役割から自己のキャリアデザインを描くことができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標１は 50％、到達目標２は 50％、<br><br>講義毎の小課題レポート 30％、課題レポート 50％、課題発表 20％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 看護教育と実践 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 米田　照美 ・ 伊丹　君和 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | 看護基礎教育における授業形態・授業展開方法・授業教材・授業評価の基礎的知識について学ぶとともに、実際の講義・演習・実習など看護教育の実践の場に参加する中で、看護教育の基礎的能力を育む。また、後輩学生への指導を通して、看護実践力および指導力を培うことも目ざす。 | |
| 到達目標 | 1）看護基礎教育における授業形態・授業展開方法・授業教材・授業評価の基礎的知識について理解する。<br>2）実際の講義演習・実習など看護教育の実践の場に参加し、後輩学生への指導を通して、指導力を培う。<br>3）看護教育者として望ましい身だしなみ・態度・言動で看護教育の実践の場に参加できる。 | |
| 成績評価 | 課題レポート（20%），演習参加状況（80%），減点法（遅刻・早退　－３点，欠席－6 点，迷惑行為－2 点） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 演習時に適宜、示す | |
| 履修資格 | 人間看護学統合実習の履修資格があること | |

| 科目名 | 看護研究の基礎 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 渡邊　香織 ・ 牧野　耕次 ・ 糸島　陽子 ・ 小林　孝子 | |
| 授業概要 | 看護における新たな知識、知見を生み出し、実践・教育・健康政策の変化をもたらす「看護研究」への理解を深めるとともに、学士力の向上を目指す。看護（卒業）研究への導入を円滑に行うため、研究を実施するにあたって必要な手法を、研究の流れに沿って解説する。 | |
| 到達目標 | １．看護研究の目的と意義が理解できる。<br>２．国内外における文献検討の意義を理解し、文献検索を行うことができる。<br>３．研究課題の組み立て、研究方法の手法（量的・質的）が理解できる。<br>４．論文の書き方が理解できる。<br>５．研究倫理を踏まえて、研究計画書を作成する方法が理解できる。<br>６．論文のクリティークの意義と方法を理解し、行うことができる。 | |
| 成績評価 | 以下の到達目標について、課題レポート 100%で評価する。ただし、出席やグループワークへの参加については、6 の中で評価する。<br>１．看護研究の目的と意義が理解できる。　　10%<br>２．国内外における文献検討の意義を理解し、文献検索を行うことができる。10%<br>３．研究課題の組み立て、研究方法の手法（量的・質的）が理解できる。 25%<br>４．論文の書き方が理解できる。10%<br>５．研究倫理を踏まえて、研究計画書を作成する方法が理解できる。5%<br>６．論文のクリティークの意義と方法を理解し、行うことができる。40% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 黒田裕子：看護研究 Step by Step ． 医学書院．東京．2012. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 看護トピックス | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 甘佐　京子 | |
| 授業概要 | 社会現象や時事問題および国内外のニュースの中で、看護師・助産師・保健師などの看護職および医療・福祉に関連した様々な話題を取り上げ、その現象の意味や要因を考え、看護に対する視野を広めるとともに知見を深める。講義はオムニバス方式でトピックスに関する話題提供者を交えて、討論形式で展開する。学生自身が話題提供者になることもあり、自らが興味を持つ事象を、実習体験などを通して論じ、積極的に意見交換を行える場として活用する。 | |
| 到達目標 | 1.看護や医療・福祉分野に関する新たな知見を知る。<br>2.新たな知見について、その論理的背景を理解する。<br>3.看護や医療・福祉分野の動向について、自己の考えをまとめることができる。 | |
| 成績評価 | 授業の参加状況(評価表を基に評価)およびミニレポート(毎時終了時)50%最終レポート 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストなし参考文献は適宜紹介します | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 看護理論（看護学部） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 窪田　好恵 | |
| 授業概要 | 看護を実践するための方法論や理論を、次のアプローチにより考察し探求することができる。①看護のメタパラダイムである「人間」「健康」「環境」「看護」について、身近な経験や事象、社会や時代状況から具体化すること。②事象や状況を看護実践に関連付ける方法としての理論を理解について深める。③抽象的理論を活用し、具体的事象に対して看護を展開する方法を理解する。④この学習プロセスを通して、自身の人間観、看護観を基礎付け、これからの看護実践について「人間看護」の視点で展望する。 | |
| 到達目標 | １．看護の概念枠組み「人間・健康・環境・看護」の理解を深めることができる。<br>２．様々な看護理論を具体的な看護実践に生かす意味と方法を理解することができる。<br>３．看護理論を活用し看護実践事例を展開することができる。<br>４．自分の人間観・看護観について述べ看護実践能力の基礎を築くことができる。 | |
| 成績評価 | 課題１・課題２：グループワーク成果発表内容　50%　　定期試験か課題レポート 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト、指定図書：指定なし　参考書：①看護理論，南江堂，既刊．②はじめての看護理論，医学書院，2005．③看護理論ー理論と実践のリンケージー，ヌーヴェルヒロカワ，2006．④看護理論家とその業績，医学書院，2004. | |
| 履修資格 | 基礎看護学実習Ⅱを履修していること | |

| 科目名 | 基礎看護学実習Ⅰ | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 窪田　好恵 ・ 伊丹　君和 ・ 米田　照美 ・ 川端　愛野 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | 患者とのコミュニケーションや看護の実際などの学びを通して、病院という環境におかれた患者の生活行動における援助の必要性および看護の役割と責務について考察し、看護を学ぶ上での自己の学習課題を明確にする。 | |
| 到達目標 | (1)受持患者およびその家族の意思を尊重して接することができる。<br>(2)自己のコミュニケーションの分析や看護場面の見学などを通して，看護におけるコミュニケーションの意義について考察できる。　＊残り（3）～（8）は追加情報に掲載 | |
| 成績評価 | (1)～(8)実習での言動や実施する基礎看護技術、実習記録の内容によって、実習目標毎に５段階評価し、点数化する（100 点満点）。＊なお，臨地・学内問わず、原則として遅刻・早退－３点／回、欠席－６点／回　とする。１／５以上欠席した場合は、基本的に単位を認定しない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | 人間看護学概論、基礎看護技術Ⅰを修得していること | |

| 科目名 | 基礎看護学実習Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　君和 ・ 窪田　好恵 ・ 米田　照美 ・ 川端　愛野 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | 病院で療養生活を送る受持患者を全人的に捉え、看護過程のプロセスに沿って看護実践を試みる中で、看護への理解を深める。看護実践にあたっては、患者の個別性に応じ、安全性、安楽性、自立・自律性を考慮した上で、科学的根拠に基づいて行う。 | |
| 到達目標 | (1)受持患者およびその家族の意思を尊重し、適切な人間関係を形成できる。<br>(2)受持患者の発達課題を理解し、その家族も含めて現在おかれている状況や思いについて考察できる。＊残り(3)～(6)は追加情報に掲載 | |
| 成績評価 | (1)～(6)実習での言動や実施する基礎看護技術、実習記録の内容によって、実習目標毎に５段階評価し、点数化する（100 点満点）。なお、臨地・学内問わず、原則として遅刻・早退－３点／回、欠席－６点／回　とする。１／５以上欠席した場合は、基本的に単位を認定しない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：基礎看護技術Ⅰ～Ⅳに準じる<br>指定図書：三上れつ他編集『演習・実習に役立つ基礎看護技術　根拠に基づいた実践をめざして』ヌーヴェルヒロカワ | |
| 履修資格 | 2 年前期の基礎看護技術Ⅲ・Ⅳの単位を修得していること | |

| 科目名 | 基礎看護技術Ⅰ | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　君和 ・ 米田　照美 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | 人間は、生命を維持し、その人らしい人生を実現しようと日々生活行動を繰り返し行っている。しかし、ひとたび健康が脅かされたり自力で生活行動を維持できなくなったときに、生活行動を援助することは看護の専門性の第一義的な役割である。その過程において、対象との良好な人間関係を形成するために必要なコミュニケーション技術について学ぶ。また、生活行動および生活の場となる環境について看護の視点から考察し、病院という場で生活する患者の療養環境を整える看護技術を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)対象との良好な人間関係を形成するために必要なコミュニケーション技術の基本を理解し、プロセスレコードを作成することができる。<br>(2)人がその人らしく生きていく上で重要な生活行動をとりあげ、その意味やメカニズム、行動の成り立ち等についてグループワークによって追求し、作成した資料をもとに他者に説明できる。<br>＊残り(3)～(7)は追加情報に掲載 | |
| 成績評価 | (1)課題ワーク 10%(2)グループワークによる資料化と発表 10%(3)小テスト 10%(4)演習時の不適切な身だしなみや他者への迷惑行為－２点／回、無断遅刻・早退－３点／回、無断欠席－６点／回(5)技術チェック 21%および自己練習 9%(6)課題ワーク 20%(7)課題ワーク 20%<br>＊ワークについては随時説明する | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：ヴァージニア・ヘンダーソン（湯槇ます他訳）『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会、フロレンス・ナイチンゲール（湯槇ます他訳）『看護覚え書』現代社、<br>川島みどり『実践看護技術学習支援テキスト、基礎看護学』日本看護協会出版会 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎看護技術Ⅱ | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　君和 ・ 米田　照美 ・ 川端　愛野 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | 人間の生活行動で基本となる「動く」「食べる」「排泄する」「身支度を整える」「入浴する」「眠る」ことの意義やメカニズム、基礎的知識を学んだ上で、生活行動に援助が必要となった人への看護技術の基本を習得していく。<br>また、その学習過程の中で、看護技術を行う上で重要となる安全性、安楽性、自立・自律性を追究し、技術化への原理となる思考プロセスを学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)看護技術を行う上で基礎となる知識を習得できる。<br>(2)看護者として望ましい身だしなみや態度・言動について考え、実践できる。<br>(3)病院という場で生活する患者の「療養環境を整える」こと、および「動く」「食べる」「排泄する」「身支度を整える」「入浴する」「眠る」という生活行動を援助するための基礎となる看護技術について自主的に練習を重ね、技術習得できる。<br>＊残り（4）～（6）は追加情報に掲載 | |
| 成績評価 | (1)小テスト 10%、(2)・(6) 演習時の不適切な身だしなみや他者への迷惑行為－２点／回、無断遅刻・早退－３点／回、無断欠席－６点／回、(3) 技術チェック 45%および自己練習５%、(4)・(5) 課題ワーク 40%（安全性、安楽性、自立・自律性、根拠と手順） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：川島みどり『実践看護技術学習支援テキスト　基礎看護学』日本看護協会出版会<br>参考書：坪井良子他『考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』ヌーヴェルヒロカワ、小松浩子他『看護実践の根拠を問う』南江堂など | |
| 履修資格 | 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰを修得していること | |

| 科目名 | 基礎看護技術Ⅲ | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　君和 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | 看護とは、健康問題に対する人間の反応を診断し、あらゆる健康のレベルにおいて、その人らしくより健康に生活できるよう援助することといえる。看護過程は、対象が健康な生活を送るにあたって障害となっているさまざまな健康問題を解決するために、個や集団に適用される手段・方法であり、看護アセスメントの基礎となる技術である。ゴードンの機能的健康パターンの枠組みに沿って具体的に事例展開を演習形式に進めながら、技術習得することを目ざす | |
| 到達目標 | (1)看護過程を看護の方法論として捉えることができ、看護過程を構成する要素や代表的な看護診断について説明できる。<br>(2)科学的思考について理解し練習事例のデータを解釈できる。<br>(3)ゴードンの機能的健康パターンの枠組みに沿って、事例を用いて看護過程を展開することができる。<br>＊残り（4）～（6）は追加情報に掲載 | |
| 成績評価 | (1)小テスト 10%　(2)課題ワーク（練習事例アセスメント）10%、(3)課題ワーク（事例展開）60%、(4)グループワークによる資料化と発表 10%、(5)課題ワーク（サマリー）10%、(6)演習時の不適切な言動や他者への迷惑行為－２点／回、無断遅刻・早退－３点／回、無断欠席－６点／回 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：カルペニート(新道幸恵ほか訳)『看護診断ハンドブック』医学書院、参考書：江川隆子『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』ヌーヴェルヒロカワ | |
| 履修資格 | 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱを修得していること | |

| 科目名 | 基礎看護技術Ⅳ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 米田　照美 ・ 森　敏 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | 看護を実践の基礎的な看護技術を習得する。特に、診療に関連する援助の基礎的な技術について習得するとともに、科学的根拠に基づいた安全性を重視した看護実践能力を養う。　また、看護の対象となる人の身体を客観的に評価するためのフィジカルアセスメント技術の基礎を学び、臨床看護判断を行う上で必要な観察力を養う。さらに、健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護技術を適用する方法の基礎についても学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）観察技術の基本となるバイタルサイン測定技術を習得する。<br>（2）身体を客観的に評価するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。<br>（3）看護を実践するための基礎となる看護技術について、安全性、安楽性、自立・自律性および根拠を追求し、グループ演習を通して習得する。<br>（4）看護者として望ましい身だしなみと態度・言動について考え、実践できる。 | |
| 成績評価 | （1）自己練習状況（５%）・技術チェック（30%）、（2）定期試験（米田 20%，森 30%）、（3）グループ演習ピュア評価（10%）・小テスト（5%）、（4）演習時は、不適切な身だしなみ、他者への迷惑行為－２点。無断遅刻・早退－３点。無断欠席－６点。やむを得ず欠席・遅刻・早退する場合は教員に連絡する（28-8651）。病気の場合は必要時診断書を提出する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト【米田担当分】日野原重明：臨床看護の基礎となる新看護学テキスト，日本看護協会出版会，【森担当分】藤崎　郁：フィジカルアセスメント完全ガイド第２版、学研 指定図書：適宜紹介 参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱを修得していること | |

| 科目名 | 基礎助産学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 渡邊　香織 | |
| 授業概要 | 助産学の基本概念、助産の変遷・関連法規と助産業務の関連性について学修する。助産師の教育・歴史的変遷について理解し、助産師の役割や社会的責務について考察する。倫理的行動形成のために必要な基礎的知識（生命倫理を含む）を理解し、自らの助産実践に必要な倫理観が形成できる。助産活動（諸外国の活動を含む）の発達を概観し、国際社会における母子保健の動向を視野に入れながら、我が国の助産および助産学の現状や将来を展望について探求できる。 周産期に関わる母子、家族関係について理解し、支援方法について考察できる。分娩に関する解剖・生理学と機序について理解できる。 | |
| 到達目標 | 1.助産学の基本概念、関連法規の関連性を学び、助産師の専門職に求められる役割について理解できる。<br>2.倫理的行動形成のために必要な基礎的知識を理解し、自らの助産実践に必要な倫理観が形成できる。<br>3.助産師の歴史・教育について説明できる。<br>4.助産活動（諸外国の活動を含む）の発達を概観し、国際社会の動向を視野に入れながら、我が国の助産および助産学の現状や将来を展望について考察し、意見を述べることができる。<br>5.周産期に関わる母子、家族関係について理解し、支援方法について考察できる。<br>6.分娩に関する解剖・生理学と機序について説明できる。 | |
| 成績評価 | 定期試験（50%）<br>ディスカッション(10%)<br>課題発表：プレゼンテーションとディスカッション（30%）<br>課題レポート(10%)<br>1/3 以上欠席したものは、評価対象外とする | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 山本あい子編「第１巻　基礎概論」日本看護協会出版会. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎助産学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 渡邊　香織 | |
| 授業概要 | 女性を生物学的側面のみならず、心理・社会・文化的側面を重視するウイメンズヘルスの視点から捉え、地域における女性の健康を支援するための考え方と実践方法を修得する。また、女性を取りまく環境、法的問題、子育て（育児不安・虐待などを含む）、権利と自己決定、セクシュアリティ等の概念を広く理解し、支援方法を学ぶ。 | |
| 到達目標 | 1. リプロダクティブヘルス／ライツの概念が説明でき、それらを踏まえた上で国内外における女性の健康の特性について説明できる。<br>2. 女性の生殖器系の形態と機能、疾患について説明できる。<br>3. 不妊症、生殖補助医療における助産師の役割について考察できる。<br>4. 女性のライフサイクルにおける健康課題に関する相談・教育・援助技術が説明できる（思春期・成熟期・更年期・老年期）。<br>5. 女性のライフステージにおける栄養管理について理解できる。 | |
| 成績評価 | 1. リプロダクティブヘルス／ライツの概念が説明でき、それらを踏まえた上で国内外における女性の健康の特性について説明できる。　定期試験 15%<br>2. 女性の生殖器系の形態と機能、疾患について説明できる。　定期試験　10%<br>3. 不妊症、生殖補助医療における助産師の役割について考察できる。　定期試験 10%<br>4. 女性のライフサイクルにおける健康課題に関する相談・教育・援助技術が説明できる（思春期・成熟期・更年期・老年期）。　定期試験、課題発表　55%<br>5. 女性のライフステージにおける栄養管理について理解できる。　小試験・レポート　10%<br>1/3 以上欠席したものは、評価対象外とする | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：吉沢豊予子編、助産師基礎教育テキスト　女性の健康とケア、日本看護協会出版会 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | クリティカルケア実践演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 荒川　千登世 ・ 酒田　宴里 | |
| 授業概要 | 集中的・緊急的ケアの必要な患者および家族（重要他者）の特性や、クリティカルケアの場の特殊性を理解し、代表的なクリティカルケアを受ける患者および家族への看護について学ぶ。さらに集中的ケアの看護技術について探究する。 | |
| 到達目標 | 1）集中的・緊急的ケアの必要な患者および家族（重要他者）の特性を理解する。<br>2）クリティカルケアの場の特殊性を理解する。<br>3）クリティカルな状況にある対象者の「生活」を支えるということについて考察する。 | |
| 成績評価 | 見学実習（事前の準備・記録を含む）40%<br>参加状況（ワーク、プレゼン、ディスカッション）40%<br>レポート 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 資料配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康科学Ⅰ | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 安原　治 | |
| 授業概要 | 正常の人体の構造と機能はいろいろな侵襲によって傷害され、疾病が発生する。病理学では、病気を起こす原因と、それぞれの原因によって病変が成立する機序を学ぶ。これによって、各種疾病の基本的な疾患概念を理解することができる。その知識と正しい理解は医療の各分野における基礎として必須である。本講義では、解剖生理学の知識を基盤として、臨床医学・看護学への架け橋となるよう授業する。総論として、細胞損傷、炎症、免疫、循環障害、代謝障害、腫瘍、先天性異常の７つのカテゴリーについて解説する。各論では、各臓器系の代表的な疾患を取りあげ、疾患の発生機序と病態について理解を深める。 | |
| 到達目標 | （1）細胞傷害・変性・細胞死の原因を説明できる。<br>（2）生体への侵襲に対する防御機構について説明できる（炎症・免疫）。<br>（3）循環障害、代謝障害、先天異常、免疫異常、腫瘍など、主要な病態について説明できる。<br>（4）各臓器系について、代表的な病気を挙げ、その成立過程と病態を説明できる。 | |
| 成績評価 | 1）(1)-(4)の目標を達成するために、期末筆記試験を課す（70 点）。筆記試験の問題は、選択問題 25 題（各 2 点、計 50 点）＋記述問題 2 題（各 10 点、計 20 点）を基本とする。<br>2）目標(4)を達成するために、症例課題を課し、レポートの提出を求める（6 回 x5 点＝合計 30 点）。1）と 2）を合計して 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：系統看護学講座、専門基礎 4、疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学（医学書院） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康科学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 北川　善紀※ | |
| 授業概要 | 本講義では、医療従事者として必要な微生物学や免疫学の概要を説明します。微生物（細菌や真菌、原虫、ウイルス）の特徴や、宿主の生体防御機構（免疫）に関する知識は、感染症の予防や治療のために必要不可欠です。教科書に書かれている基本的な事項に加え、ニュースなどで話題になった感染症関連のトピックを取り上げながら講義をすすめていきます。 | |
| 到達目標 | （1）微生物の基本的な性質を理解すること。<br>（2）代表的な感染経路と、その予防手段を理解すること。<br>（3）微生物感染に対する生体防御機構（免疫）の概要を理解すること。<br>（4）主な病原微生物の性質や感染経路、治療法を理解すること。 | |
| 成績評価 | 成績は、期末の筆記試験で評価します（100%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「系統看護学講座　微生物学　疾病のなりたちと回復の促進（4）」南嶋洋一、吉田真一著（医学書院）<br>参考書：「戸田新細菌学」吉田眞一、柳雄介、吉開泰信編集（南山堂） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 健康教育論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小林　孝子 ・ 小島　亜未 | |
| 授業概要 | 健康教育の基本的知識を理解し、健康教育の目的、方法を学ぶ。行動変容の関係理論を理解するだけでなく、看護の対象のセルフケア能力を高める必要性を理解し、セルフケア能力を獲得する健康教育方法について事例を用いながら学習する。また、グループを単位とする活動の特徴についても理解し、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育のあり方についても考える。 | |
| 到達目標 | (1)健康教育の理念と概念を説明できる。<br>(2)看護職が行う健康教育の目的、方法を説明できる。<br>(3)健康教育における基礎的な理論を説明できる。<br>(4)看護職が実施する健康教育のありかたについてついて述べることができる。<br>(5)対象の持つ健康課題に応じた健康教育が企画、実施、評価できる。<br>(6)グループ活動の意義を理解し、協働して課題に取り組むことができる。 | |
| 成績評価 | (1)：定期試験(10%)　(2)：定期試験(10%)<br>(3)：定期試験(20%)　(4)：定期試験(10%)<br>(5)：計画書・発表(40%)　(6)：課題への取り組み (10%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「最新保健学講座　別巻１　健康教育論」（メヂカルフレンド社）<br>参考書：講義中、適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 公衆衛生学（看護） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山川　正信※ | |
| 授業概要 | 主に国・地方公共団体などの責任によって進められる保健行政，即ち、疾病の広義の予防、環境保健、医療、さらに、健康維持に足りる生活水準の保障など公衆衛生活動の実際を学ぶ。また，これら活動のための実際的方法として，衛生統計や疫学手法の基礎を学び、その疫学的根拠にもとづいて、宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解する。 | |
| 到達目標 | (1) 保健・医療・福祉の制度や用語などの意味や重要性を理解する。<br>(2) 保健・医療・福祉の統計的現状を理解する。<br>(3) 疾病予防と健康管理の方法を理解する。<br>(4) 公衆衛生活動の意義を理解する。 | |
| 成績評価 | 小テスト：20%　公衆衛生学の基礎的知識を獲得していること。<br>期末筆記試験：80%　公衆衛生学の基礎的知識を確立し、応用できること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：シンプル衛生公衆衛生学２０１４<br>指定図書：「厚生の指標　増刊　国民衛生の動向」厚生労働統計協会 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 公衆衛生看護学Ⅰ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 馬場　文 ・ 小島　亜未 ・ 川口　恭子 | |
| 授業概要 | 公衆衛生看護学の対象は、あらゆる年齢層（ライフステージ）の人々や、様々な健康レベルでの課題を持つ人々である。講義期間の前半では、これらの対象に行う保健活動について、各ライフステージおよび健康課題ごとに、現在までの保健統計の動向・保健活動の目的・行政における保健施策体系・法的根拠について、主にテキストと配布資料を用いて講義を行う。さらに講義期間の後半では、公衆衛生看護技術の総体である保健指導の定義と具体的な方法について、主にテキストと配布資料を用いて講義を行う。 | |
| 到達目標 | (1) ライフステージ別の保健活動について、保健統計の動向、法的根拠、各保健活動の目的、および保健施策体系を述べることができる。<br>(2) 健康課題別の保健活動について、保健統計の動向、法的根拠、各保健活動の目的、および保健施策体系を述べることができる。<br>(3) 対象の特性（ライフステージ・健康課題・個人・家族・集団・組織など）に応じた、保健指導の目的・方法・評価について述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標 (1)は定期試験（15%）および小テスト（30%）、到達目標（2）は定期試験（10%）および小テスト（20%）、到達目標 (3)は、定期試験（25%）で評価する。<br>定期試験および小テストの合計 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「標準保健師講座２　地域看護技術」中村裕美子他（医学書院）、「標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動」中谷芳美他（医学書院）、「国民衛生の動向」厚生労働統計協会、「看護法令要覧」日本看護協会出版会　※「国民衛生の動向」および「看護法令要覧」は 2 年次の公衆衛生看護学概論で購入したものを使用。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 公衆衛生看護学Ⅱ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小林　孝子 ・ 西内　恭子※ ・ 馬場　文 | |
| 授業概要 | 本講義はオムニバス方式で展開し、①社会・環境と公衆衛生看護活動、②学校における学校保健活動、③歯科保健活動、④職域における産業保健活動についての基本的考え方を学ぶ。①社会・環境と公衆衛生看護活動： 社会環境要因に関連した健康課題や健康格差などの今日的課題について学ぶ。②学校保健活動： 学校における看護職の役割について理解する。③歯科保健活動：歯科保健における課題と活動を学ぶ。④産業保健活動：わが国の労働衛生の歴史や現状、産業保健の意義を理解し、職域における看護職者の役割を考える。 | |
| 到達目標 | (1)公衆衛生看護において社会や環境への働きかけが重要であることを説明することができる。<br>(2)社会や環境に関連した健康課題について説明することができる。<br>(3)学校保健における看護職者の役割について述べることができる。<br>(4)学校保健の課題とその解決方法を考え、述べることができる。<br>(5)歯科保健の基本的知識を説明することができる。<br>(6)産業保健の目的・歴史・現状を説明することができる。<br>(7)労働衛生の基礎知識を説明することができる。<br>(8)職域における看護職者の役割について述べることができる。 | |
| 成績評価 | (1)定期試験（10%）<br>(2)定期試験（10%）<br>(3)定期試験（10%）<br>(4)定期試験（10%）<br>(5)定期試験（10%）<br>(6)(7)(8)　(50%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：指定なし<br>参考書：講義中、適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 公衆衛生看護学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小林　孝子 | |
| 授業概要 | 地域で生活する人びと（小児・母子・成人・高齢者等）の健康障がいの予防、健康の保持・増進、健康障がいを持つ人びとを対象とする公衆衛生看護学の概念、意義、基本的理念について学ぶ。またそれらを実践する際の活動の視点、活動の領域、展開方法などの基本的知識について理解する。さらに日本や諸外国の公衆衛生看護活動の成立基盤や歴史、活動に用いられる主要な公衆衛生学の理論、医療・保健・福祉行政や法制度などを踏まえた上で、公衆衛生看護学のあり方や現状と課題、今後の展望について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)公衆衛生看護の理念と概念を説明できる。それらの知識を元に、自らの健康観や看護観を述べることができる。<br>(2)保健師活動の場と提供するサービスを説明できる。<br>(3)公衆衛生看護学に関する法律や社会制度およびそれらの関係性について説明できる。<br>(4)公衆衛生や看護の歴史に関して、事象や歴史上の人物について説明できる。<br>(5)健康に関する概念と変遷およびプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて説明できる。 | |
| 成績評価 | (1)定期試験（15%）レポート（5%）　(2)定期試験（10%）レポート（5%）<br>(3)定期試験（20%）(4)定期試験（25%）(5)小テスト（20%）レポート（5%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト:「標準保健師講座１ 公衆衛生看護学概論」奥山則子他（医学書院)、「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)、「看護法令要覧」(日本看護協会出版会)<br>参考書：講義中、適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 国際看護学 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 近藤　麻理※ ・ 森　恵※ | |
| 授業概要 | 国際的視野から看護を展開するには、どのような知識が必要であるかを理解したうえで、諸外国の人々の健康と保健・医療の現状について知り、人々の健康に影響を及ぼす人口学的、社会経済学的、文化的な要因について考えていきます。また、国際看護の基本概念ならびに世界の健康問題をふまえ、異文化の価値観を尊重した看護実践について、事例を通して発展的に考えられるようにします。 | |
| 到達目標 | (1) 世界の健康課題について人口動態等から説明することができる。(世界人口動態の復習)<br>(2) 国際機関の役割について理解することができる。(国際機関の名称と役割の予習と復習)<br>(3) 国際看護の基本となる概念や実践活動を理解することができる。(ＰＨＣ、ＭＤＧｓ、人間の安全保障の復習)<br>(4) 国際的看護活動の実際を知り、看護の役割を考えることができる。(対象者理解を深めるための映像や書籍による復習) | |
| 成績評価 | 到達目標（1）(2)（3）については小レポート（30%)、到達目標（4）については課題レポート（40%）とする。そして、授業時のグループによるディスカッションへの参加度と態度（30%）として総合的に評価する。合計 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：近藤麻理著「知って考えて実践する国際看護」医学書院 | |
| 履修資格 | ３年次以上 | |

| 科目名 | 災害看護学 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊冨貴　初美※ ・ 藤本　理恵※ | |
| 授業概要 | 現在起こりうる災害、大規模事故や感染症などによる健康危機の発生と対応の必要性を理解する。その上で、危機予防、初動対処、被害者の健康管理、医療提供、精神保健対策など主要な対策、管理における看護職の役割、基本的な知識と技術を学ぶ。 | |
| 到達目標 | 国内の災害について理解し、その対応と対策について理解できる。 | |
| 成績評価 | 出席：50%、授業参加度・態度：50%（内訳：授業内課題(意見・感想)20%、グループワーク参加度・共有 30%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 日本赤十字社　事業局看護部　(2010)<br>系統看護学講座　統合分野<br>災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践〔3〕医学書院 | |
| 履修資格 | ３年次以上 | |

| 科目名 | 在宅看護学演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 植村　小夜子 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 在宅療養の種々の場面や状況、終末期等様々な事例を通して、療養する人々とその家族の生活の継続・拡大、ＱＯＬの向上といった目標を達成するために必要な看護者の役割と支援遂行上の課題を学ぶ。また、多職種・他機関等、多種多様なチームでのケアの成り立ちを理解する。その上で、課題解決のために必要な看護過程の展開について演習を通して学びを深める。グループワークを通しマネジメント能力、チームケア能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1)在宅療養者と家族を生活者として理解でき、そのセルフケアの能力・強化維持、QOL の向上を目指した看護を考えることができる。<br>(2)在宅療養者と家族やその生活のとらえ方、コミュニケーション・指導技術・看護技術の創意工夫などの能力を高めることができる。<br>(3)グループワークに積極的に参加し、計画的・自主的に学習を進めることができる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)は期末テスト 70%、宿題 10%、(2)レポート 10%、(3)グループワーク演習 10%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：根拠がわかる在宅看護技術　第２版　編集岡崎美智子　正野逸子　メヂカルフレンド社<br>必要時配布資料あり。<br>参考書：適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 在宅看護学概論 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 植村　小夜子 | |
| 授業概要 | 在宅看護活動の目的、対象、方法について人々の生活と健康レベルに即して学び、地域における在宅看護活動の特徴について理解する。さらに、在宅ケアにおける保健医療福祉サービス、チームケアと社会資源について理解し、生活自立支援について考える能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1)在宅看護活動の目的・対象・方法の概要が理解できる。<br>(2)在宅看護の機能と役割の概要が理解できる。<br>(3)在宅看護に関連する保健医療福祉の施策がわかる。<br>(4)地域ケアにおける関係機関との調整の必要性について理解できる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)(3)(4)は期末筆記試験 80%　宿題 20%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：看護師教育のための地域看護概説公衆衛生看護を含む地域の看護に取り組むために NOUVELLE HIROKAWA　毎回配布資料あり。参考書：適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 在宅看護援助論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 植村　小夜子 | |
| 授業概要 | 在宅で、療養を継続しようとする個人・家族に対する生活支援に関する看護活動の知識・技術について学ぶとともに、療養する人々を取り巻く家族の抱える課題を理解する。療養する人々とその家族の生活の継続・拡大を目標に、自立生活の確立等ＱＯＬの向上のために必要な在宅看護の基礎的な知識・技術を学び、看護職の役割･機能を理解して、在宅看護の実践能力を養う。継続看護の必要性と重要性を理解する。 | |
| 到達目標 | (1)在宅看護における信頼関係構築に向けたコミュニケーションに重要性について説明できる。<br>(2)在宅看護における家族看護が必要性を説明できる。<br>(3)継続看護の必要性と重要性が理解できる。<br>(4)在宅看護における事例に応じた看護過程の展開方法が理解できる。<br>(5)在宅療養者の発達課題や疾病に応じた看護の展開方法を理解できる。 | |
| 成績評価 | (1)(2)(3)(4)(5)は期末テスト 80%、宿題 10%、(2)はレポート 10%　で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：在宅看護論　実践をことばに　第５版　NOUVELLE HIROKAWA 毎回プリント配布あり参考書：適宜紹介。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 在宅看護学実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 植村　小夜子 ・ 小島　亜未 ・ 川口　恭子 | |
| 授業概要 | 訪問看護ステーションの活動の実際を通し、在宅療養者とその家族を取り巻く生活環境及び健康上の問題を理解し、生活の場に応じた看護の役割と方法について学ぶとともに、チーム医療及び多職種と協働する看護の役割とその機能について理解する。また、看護を提供する事業所の管理・運営についても学ぶ。(H26 年開講) | |
| 到達目標 | １）在宅療養者および家族の生活上の健康課題を理解できる。<br>２）療養者をとりまく生活環境を把握し，在宅看護の役割と方法を理解できる。<br>３）在宅生活に応じた療養者と家族の看護過程の展開ができる。<br>４）継続看護における訪問看護役割を理解できる。<br>５）社会資源の活用方法と連携・調整を理解できる。<br>６）実習生として適切な態度と責任のある言動で実習に臨むことができる。<br>７）地域の特性を踏まえ今後の在宅看護のあり方について述べることができる。 | |
| 成績評価 | 実習到達目標１）10%、２）20%、３）20%、４）15%、５）15%、６）15%、７）5%として実習記録、レポート、実習カンファレンスでの参加度、実習態度により総合的に評価する。自己評価表は参考にする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業で使用した教科書及び授業で配布した資料 | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 疾病論Ⅰ（2 単位） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森　敏 | |
| 授業概要 | 人体の正常構造・機能を理解した上で，神経系と内分泌系の働き，内分泌疾患，循環器疾患，消化器疾患（消化管，肝・胆・膵），糖尿病・代謝性疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ．また，麻酔学，脳神経外科，整形外科などの外科治療学についても基礎的知識を学ぶ． | |
| 到達目標 | （1）臓器別に主要疾患を列挙できる．<br>（2）疾患の成り立ちを説明できる．<br>（3）疾患の症状・徴候を説明できる．<br>（4）疾患の診断法を説明できる．<br>（5）疾患の治療法を説明できる． | |
| 成績評価 | 出席が前提．<br>到達目表（1）から（5）の評価は，各単元毎に実施する小テストの平均点にで評価し，60 点以上を合格とする． | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 系統看護学講座　成人看護学〔2〕～〔8〕　医学書院．<br>森敏著「認知症のとらえ方・対応の仕方、改訂４版」　金芳堂 ． | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 疾病論Ⅱ（2 単位） | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森　敏 | |
| 授業概要 | 人体の正常構造・機能を理解した上で，泌尿器疾患，神経疾患，血液疾患，呼吸器疾患，アレルギー疾患・膠原病の病態・症状・検査・治療について学ぶ. | |
| 到達目標 | （1）臓器別に主要疾患を列挙できる.<br>（2）疾患の成り立ちを説明できる.<br>（3）疾患の症状・徴候を説明できる.<br>（4）疾患の診断法を説明できる.<br>（5）疾患の治療法を説明できる. | |
| 成績評価 | 出席が前提.<br>到達目表（1）から（5）の評価は，各単元毎に実施する小テストの平均点にで評価し，60 点以上を合格とする. | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 系統看護学講座　成人看護学〔2〕～〔8〕医学書院.<br>森敏著「認知症のとらえ方・対応の仕方，改訂 4 版」金芳堂. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 小児看護学概論 | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古株　ひろみ ・ 玉川　あゆみ | |
| 授業概要 | 子ども（胎児期を含む新生児期～思春期まで）の成長発達について理解し、健全な成長発達を促進する援助技術力を育成することを目的とする。子どもの権利や看護倫理、また代表的な発達の理論から、子どもをとらえる視点を培い、地域で生活している乳幼児期から思春期までの子どもの身体・運動・心理・社会面を含む成長発達の特徴を理解し、成長発達に影響を及ぼす因子についても考えられる小児看護の基盤となる知識の習得を目指す。 | |
| 到達目標 | （1）成長発達の特徴・共通性・影響因子が説明できる<br>（2）発達に関する理論が説明できる<br>（3）小児各期の発達（身体・運動・心理・社会）をふまえた遊びや生活援助と成長発達の評価方法が説明できる<br>（4）子どもの権利が説明できる | |
| 成績評価 | 到達目標(1)(2)(3)については定期試験（60%：(1)10%,(2)20%,(3)30%）到達目標(2)(3)(4)については、課題（宿題含む）・レポート(40%：(2)5%,(3)25%,(4)10%)で評価する。遅刻・早退は−2 点/回として減点とする。以上を総合して 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。ただし、欠格条件として授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしないこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：新体系 看護学全書　小児看護学概論・小児保健（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）<br>指定図書：上田礼子著「生涯人間発達学」（三輪書店）<br>参考書：授業中に適宜掲示 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 小児臨床看護学 | 2単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古株　ひろみ ・ 玉川　あゆみ | |
| 授業概要 | 小児期の主な疾患とその病態生理を理解する。さらに、健康障害が子どもの成長発達や生活およびその家族に及ぼす影響を理解し、健康障害に応じた看護を実践する上での必要な基本的知識を学ぶ。 | |
| 到達目標 | （1）小児期の主な疾患とその病態生理が説明できる。<br>（2）健康障害が子どもの成長発達や生活およびその家族に及ぼす影響について説明できる。<br>（3）健康を障害された子どもとその家族の QOL を高める必要な看護ケア（知識・技術）について具体的に述べることができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)(2)(3)については、課題レポート・小テスト（30%：(1)15%,(2)5%,(3)10%）と、定期筆記試験（70%：(1)25%,(2)20%,(3)25%）で評価する。遅刻・早退は-２点/回として減点とする。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>ただし、欠格条件として、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしないこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 健康障害をもつ小児の看護　メジカルフレンド社　小児看護学概論小児保健　メジカルフレンド社<br>参考書：授業中に適宜提示 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 小児臨床看護学演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古株　ひろみ　・　玉川　あゆみ | |
| 授業概要 | 小児看護学概論、小児臨床看護学を踏まえて、様々な健康レベルや成長発達に応じた援助方法や技術 について学ぶ。また健康障害がどのように子どもの成長発達や家族に影響するのかを事例やロールプレイを通じて理解し、小児看護実践を行うために必要な知識・技術・倫理観を習得する。 | |
| 到達目標 | (1)子どもに多い主な症状に対する観察及び必要な看護を具体的に述べることができる。<br>(2)小児看護においてよく遭遇する倫理的な問題について解決方法を具体的述べることができる。<br>(3)小児看護技術が実施することができる。<br>(4)事例を通して子どもを対象とした看護過程を展開することができる。<br>(5)健康な子どもと活動を共にし、子どもの援助について発達段階をふまえた説明することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標は課題・レポートに対する評価は（プレゼンテーションを含む）50%（(1)(2)(3)(4)(5)各 10%)、定期試験 50%（(1)25%,(3)25%）で評価する。<br>遅刻、早退は-２点/回減点とする。<br>だだし、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない(ただし３分の１以内でも、保育園・幼稚園見学を欠席した者は評価対象にしない)。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「小児看護学概論・小児保健」 メヂカルフレンド社<br>「健康障害をもつ小児の看護」 メヂカルフレンド社<br>参考書　：「ナーシング・グラフィカ 小児看護技術」 メディカ出版 | |
| 履修資格 | 小児看護学概論、小児臨床看護学の修得 | |

| 科目名 | 小児臨床看護学実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古株　ひろみ　・　玉川　あゆみ | |
| 授業概要 | 入院中の子どもの疾患・治療・成長発達・生活・家族の状態を総合的に理解し、子どもと家族のニーズをふまえ、個別性に応じた計画的な看護実践が展開できる基礎的な能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1) 患児の成長発達に応じたコミュニケーションや遊びができる。<br>(2) 小児期の健康障害が、家族に及ぼす影響を理解することができる。<br>(3) 看護ニーズに関する情報を系統的に収集し、理論的根拠に基づいたアセスメント・診断・計画立案ができる。<br>(4) 患児の個別性に応じた安全なケアを実施し、計画の評価・修正ができる。<br>(5) 患児とその家族の人権を尊重し、個人情報・プライバシーの保護を行うことができる。<br>(6) 看護者として主体性と協調性を持った意欲的な実習への取り組みができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標は実習記録、ケアやカンファレンスの内容、面談などから実習期間を通し実習評価項目に基づき総合的に評価する。評価比率は (1)：15%、(2)：10%、(3)：20%、(4)：15%、(5)：20%、(6)：20%である。遅刻・早退も減点とする。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 小児看護学概論小児保健　メジカルフレンド社<br>健康障害を持つ小児の看護　メジカルフレンド社<br>小児看護学　小児の発達と看護　メディカ出版　等 | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 成人看護学概論 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 糸島　陽子 | |
| 授業概要 | 成人期の特徴（発達段階、発達課題、健康問題）、生活と健康を守るシステム、滋賀県の成人保健活動の取り組みなどについて知る。また、成人看護に活用する理論をもちいて、各局面（急性期・回復期・慢性期・終末期）の基本的な看護の特徴について学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1)成人期の特徴を発達段階・発達課題・健康問題等の側面から理解することができる。<br>(2)成人の生活と健康を守るシステムを理解することができる。<br>(3)成人看護に活用する理論を用いて各局面（急性期・回復期・慢性期・終末期）の基本的な看護の特徴を理解することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)(2)(3)については<br>定期試験（60 点：(1)20%,(2)20%,(3)20%）<br>課題レポート（40 点：(1)10%,(2)10%,(3)20%）<br>以上を総合的に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義にて紹介 | |
| 履修資格 | １年次前期の必修科目を履修していること | |

| 科目名 | 成人クリティカルケア演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 荒川　千登世 ・ 酒田　宴里 | |
| 授業概要 | 成人期の健康危機的状況にある患者とその家族（重要他者)の身体的・心理的・社会的看護問題を理解し、看護援助を展開するために必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ。ここでは、手術を受ける患者（模擬患者）への術前から術後・回復期の看護過程の展開を試みることにより、生命の危機的状況における看護について考えていく。 | |
| 到達目標 | １）成人期の健康危機的状況にある患者とその家族（重要他者)の、身体的・心理的・社会的看護問題を理解するために必要な知識を理解できる。　２）成人期の健康危機的状況にある患者とその家族（重要他者)の、看護過程の展開のために必要な情報を理解できる。　３）成人期の健康危機的状況にある患者とその家族（重要他者)の、周手術期における生体の変化（侵襲・生体反応・回復過程）を理解できる。　４）成人期の健康危機的状況にある患者とその家族（重要他者)の、術後合併症の予防・早期発見・回復促進にむけた看護介入を理解できる。５）成人期の健康危機的状況にある患者とその家族（重要他者)の、周手術期におけるセルフケア充足のための援助を理解できる。　６）チーム（グループ）としての自己の役割・責任の自覚がもてる。 | |
| 成績評価 | 期末試験 40%と演習 60%(参加状況 10%、計画立案・発表 20%、技術チェック 10%、課題ノート 20%）で総合的に評価する。参加状況 10%は学生間のピア評価（グループ間評価 5%、グループ内メンバー評価 5%）とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】1)ナーシング・グラフィカ「成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得」（メディカ出版)、2)ナーシング・グラフィカ「成人看護学④ 周手術期看護」（メディカ出版）<br>【参考書】3)ナーシング・グラフィカ「成人看護学① 成人看護学概論」（メディカ出版)、4)竹内登美子編集：周手術期看護 2「術中／術後の生体反応と急性期看護」（医歯薬出版)、5)江川隆子編集：「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」（ヌーヴェルヒロカワ） | |
| 履修資格 | 成人臨床看護学を履修している | |

| 科目名 | 成人クリティカルケア実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 荒川　千登世 ・ 中川　美和 ・ 伊藤　あゆみ ・ 酒田　宴里 | |
| 授業概要 | 周手術期における成人期特有の健康問題を持つ患者とその家族（重要他者）の身体的・心理的的・社会的看護問題を理解し、看護援助を展開するために必要な基本的知識・技術・態度を習得する。 | |
| 到達目標 | １）周手術期にある患者の病態生理、手術治療や麻酔法とその影響、回復過程に関する基礎的理解ができる。２）周手術期にある患者とその家族の心理的ストレス状況の理解と対処への働きかけを理解できる。３）急性期、回復期、社会復帰における患者とその家族への看護計画を立案できる。４）周手術期にある患者とその家族の生命と権利を尊重した看護を実施できる。５）実施した看護に対して、客観的に評価できる。６）周手術期の患者の援助をとおして、医療チームや学生グループにおける自己の役割・責任にもとづく行動をとれる。７）周手術期の看護について、看護および看護に関連する概念や理論を活用し、論理的に洞察する。８）周手術期にある患者とその家族の看護をとおして、自己の看護への思いを表現できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標について、下記項目から総合的に評価する。<br>１）実習記録　　２）自己評価　　３）実習指導者評価<br>４）カンファレンスへの取り組み状況　　５）面接による口頭試問<br>６）課題ポート<br>※1：詳細は、「成人クリティカルケア実習評価表」を参照。<br>※2：単位認定には、すべての到達目標で「レベル 2（可）」以上を必要とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 【テキスト】①中島恵美子・他編集：ナーシング・グラフィカ成人看護学 2「成人看護学・健康危機状況」（メディカ出版)、②ナーシング・グラフィカ成人看護学 5「周手術期看護」（メディカ出版）<br>【参考書】③安酸史子・他編集：ナーシング・グラフィカ 22「成人看護学概論」（メディカ出版)、④竹内登美子編集：周手術期看護 2「術中／術後の生体反応と急性期看護」（医歯薬出版)、⑤江川隆子編集：「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」（ヌーヴェルヒロカワ） | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 成人クロニックケア演習 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横井　和美 ・ 中川　美和 | |
| 授業概要 | 成人期において慢性的な健康障害を持つ人々が、病いと治療・療養生活 に折り合いをつけながら、その人らしく生きていくことを支援する方法ついて事例を通して学習し、実践のための基礎的な知識・技術・態度を習得する。また、療養生活を支援していく看護のさまざまな場面での役割を学ぶ。 | |
| 到達目標 | １．療養生活を自分なりに調整しながら慢性の病と共に生きている患者・家族を理解する.<br>２．慢性の病と共に生きる患者・家族の療養生活を支える態度を養う。<br>３．慢性の病と共に生きる患者・家族の療養生活を支える技術を養う。<br>４．慢性の病と共に生きる患者・家族の療養環境の調整や地域生活への支援を理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標１は 20%、到達目標２は 30%、到達目標３は 40%、到達目標４は 10%となる<br>到達目標１～４はレポート評価 30%、期末試験 50%、技術到達度および演習態度 20%<br>演習態度とは、援助者としての療養生活を支える態度や援助者としての姿勢をいう。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 鈴木志津枝　藤田佐和　編集「成人看護学　慢性期看護論」（ヌーヴェルヒロカワ）<br>江川隆子　編集「これなら使える看護診断　厳選 NANDA－Ⅰ　看護診断８３」医学書院 | |
| 履修資格 | 成人臨床看護学・基礎看護学実習Ⅱを履修している | |

| 科目名 | 成人クロニックケア実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横井　和美　・　中川　美和　・　伊藤　あゆみ　・　酒田　宴里 | |
| 授業概要 | 成人期における慢性的な健康障害をもつ人々の健康問題に対して、身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントを行い、その人が病いと療養生活に折り合いをつけながら、その人らしく生きていくことを尊重した看護実践力を習得する。また、患者の治療・療養生活の継続にあたって、患者の家族（重要他者）や療養環境についても理解を深め、クロニックケアのあり方を追究する。 | |
| 到達目標 | １）慢性的な健康問題をもつ患者とその家族（重要他者）を全人的に理解できる。<br>２）慢性的な健康問題をもつ患者とその家族(重要他者)の意思を尊重した援助的人間関係が樹立できる。<br>３）受け持ち患者の治療的管理と退院後地域での生活に向けた調整を考慮した個別的な看護計画が立案できる。<br>４）援助の目的・必要性を理解したうえで患者の意思とセルフマネジメント力を考慮した、安全かつ安楽な方法で看護。を実施できる。<br>５）実施した看護に対して受け持ち患者の在宅生活を見据えた客観的評価ができる。<br>６）受け持ち患者を取り巻くすべての支援者との連携の必要性が理解でき、チームメンバーとしての自己の役割・責任にもとづく行動がとれる。<br>７）クロニックケア（慢性期看護）について、看護および看護に関連する概念や理論を活用し、論理的に看護を洞察する。<br>８）慢性的な健康問題をもつ患者とその家族（重要他者）への看護をとおして、自己の看護への思いを表現できる。 | |
| 成績評価 | 実習目標に対する到達状況、実習記録、課題レポート、実習態度（援助者としての療養生活を支える態度）などから 100％（実習指導者の臨床評価を含む）総合的に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：<br>鈴木志津枝，藤田佐和，編集「成人看護学　慢性期看護論」」（第 2 版）（ヌーヴェルヒロカワ）<br>日本看護診断学監訳「NANDA―I　看護診断:定義と分類」（医学書院）<br>江川隆子 編集「これなら使える看護診断ー厳選 84　NANDA―I　看護診断ラベル」（第 4 版） | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 精神臨床看護学 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 甘佐　京子　・　未定　・　牧野　耕次 | |
| 授業概要 | 精神看護を実践する上で必要な、精神医学的な知識を学ぶ。精神医学が対象としている代表的な疾患の病因、病理、疫学、検査、診断法および、精神疾患患者の回復から自立に向けた代表的な精神科治療の概要を学ぶ。さらに精神障害者の社会復帰に向けてのリハビリテーション、社会資源の活用について学ぶ。 | |
| 到達目標 | １．主な精神疾患の原因、症状、経過について理解する。<br>２．精神疾患に対する薬物の作用について理解する。<br>３．主な向精神薬の名称とその効果・副作用について知る。<br>４．精神療法にはどのようなものがあるか理解する。<br>５．生活療法の目的を理解し、対象となる患者の特性を知る。<br>６．精神医療に用いる医学的検査・心理検査の目的や種類について知る。 | |
| 成績評価 | 小テスト 50％(1 回のテストを 8 点満点に換算)、定期テスト 50％(50 点満点に換算)理由なくレスポンスペーパー未提出の場合 1 回につき 5 点減点 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：精神看護学Ⅱ、川野雅資編、ヌーヴェルヒロカワ参考図書は授業中に適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 成人臨床看護学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 横井　和美　・　荒川　千登世　・　糸島　陽子 | |
| 授業概要 | 成人期にある人々とその家族（重要他者）の健康問題について、クリティカル・クロニック・エンドオブライフの特徴をふまえて理解し、看護を展開するために必要な基本的知識・技術・態度を習得する。 | |
| 到達目標 | １．成人期にある人々とその家族（重要他者）の各局面（クリティカル・クロニック・エンドオブライフ）の特徴を理解できる。<br>２．各局面の健康問題に対する援助のあり方について検討する。<br>３．各局面の看護を展開するために必要な基本的知識・技術・態度を養う。 | |
| 成績評価 | 到達目標１は 30％、到達目標２は 30％、到達目標３は 40％で評価する。<br>到達目標１～３は定期試験 60％、課題レポート 30％の配分とする<br>到達目標３に対しての自己評価 10％を加算する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 鈴木志津枝　藤田佐和　編集「成人看護学　慢性期看護論」（ヌーヴェルヒロカワ）<br>「緩和・ターミナルケア看護論」　第２版　（ヌーベルヒロカワ）<br>ナーシング・グラフィカ「成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得」（メディカ出版）<br>ナーシング・グラフィカ「成人看護学④ 周手術期看護」（メディカ出版） | |
| 履修資格 | 成人看護学概論を履修している | |

| 科目名 | 精神臨床看護学演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 牧野　耕次 ・ 未定 ・ 甘佐　京子 | |
| 授業概要 | 精神領域の臨床現場で直面する看護現象へ介入・参入できるよう、精神保健看護学、精神臨床看護学等の知識の統合を図る。加えて、患者を支える家族側の問題・力量をアセスメントする方法を学習し、家族への心理教育についても理解を深める。演習のまとめでは、統合失調症患者、躁うつ病患者、摂食障害患者等の事例を用いた模擬看護過程を実施する。 | |
| 到達目標 | (1)精神領域の臨床現場で直面する看護現象へ介入・参入できるよう、精神保健看護学、精神臨床看護学等の知識の統合を図ることができる。<br>(2)患者を支える家族側の問題・力量をアセスメントする方法を学習し、家族への心理教育についても理解を深めることができる。<br>(3)臨地実習に向けて、統合失調症患者、躁うつ病患者、摂食障害患者等の事例を用いた模擬看護過程を展開することができる。 | |
| 成績評価 | (1)精神領域の臨床現場で直面する看護現象へ介入・参入できるための基礎的な用語を理解・活用し、論理的な説明ができる：定期試験 20%・小テスト 10%(2)患者を支える家族側の問題・力量をアセスメントする方法を学習し、家族への心理教育についても理解を深めることができる：定期試験 10%・小テスト 10%(3)統合失調症患者、躁うつ病患者、摂食障害患者等の事例を用いた模擬看護過程を展開することができる：定期試験 10%、2 課題各 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 田中美恵子編「精神看護学ー学生・患者のストーリーで綴る実習展開ー」(医歯薬出版株式会社)、精神看護学Ⅰ・Ⅱ（ヌーヴェル ヒロカワ） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 精神臨床看護学実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 牧野　耕次 ・ 未定 ・ 甘佐　京子 | |
| 授業概要 | これまでに学んだ精神看護学の統合を図るため、患者・家族と共に考え、目標を共有し、看護計画立案、実践、評価を行う。患者のプロセスレコードから反応を知り、実践・評価後は計画修正により再度看護を実践することで、対象の全体像と特性および病態を踏まえ、生活上の問題を解決していくための方法を学ぶ。 | |
| 到達目標 | 1.精神的疾患や精神的問題を抱える人のありようを、オレム=アンダーウッドによるセルフケア理論等の理論をとおして理解できる。<br>2.時間の流れの中における生活者としてのその人を理解できる。<br>3.対人関係モデルや対人関係形成技術を用いて患者ー看護師関係の形成およびその評価ができる。<br>4.看護過程モデルに従い、精神疾患や精神的問題を抱えるその人のありように応じた看護過程の展開ができる。<br>5.精神科治療機関や地域で行われている保健・医療・福祉的アプローチを理解できる。<br>6.責任感・積極性・協調性・礼節などについて，専門職として必要な態度をとることができる。 | |
| 成績評価 | 1.精神的疾患や精神的問題を抱える人のありようを、オレム=アンダーウッドによるセルフケア理論等の理論をとおして理解できる。<br>2.時間の流れの中における生活者としてのその人を理解できる。<br>3.対人関係モデルや対人関係形成技術を用いて患者ー看護師関係の形成およびその評価ができる。<br>4.看護過程モデルに従い、精神疾患や精神的問題を抱えるその人のありように応じた看護過程の展開ができる。<br>5.精神科治療機関や地域で行われている保健・医療・福祉的アプローチを理解できる。<br>6.責任感・積極性・協調性・礼節などについて，専門職として必要な態度をとることができる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 田中美恵子編「精神看護学ー学生・患者のストーリーで綴る実習展開ー」(医歯薬出版株式会社)、精神看護学Ⅰ・Ⅱ（ヌーヴェル ヒロカワ） | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 卒業研究（人間看護） | ４単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 学科教員 | |
| 授業概要 | 学生個人が研究テーマを設定し、既習した知識を統合して、研究活動を実践する。 | |
| 到達目標 | 基礎的な研究方法や問題解決方法を学び、将来の研究活動の基盤となる研究に関する基礎の知識・技術を体得する。 | |
| 成績評価 | 学習態度・ディスカッション参加態度　　30%<br>学習成果(研究論文)　　70%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 各担当教員から適宜紹介 | |
| 履修資格 | 各論実習の履修資格があること | |

| 科目名 | 地域母子保健 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古川　洋子 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 母子保健の現状と動向を踏まえ、基本的な母子保健行政の仕組み・制度・施策を学ぶ。母子保健活動の実際を知り、活動展開のための理論と方法を学ぶ。 | |
| 到達目標 | １）地域母子保健にかかわる主要概念を理解できる。<br>２）母子保健の現状と動向から健康について理解できる。<br>３）母子保健活動の理論と実際を理解する。<br>４）地域母子保健活動を展開する場と特徴を知る。<br>５）地域の特徴を踏まえて、今後の母子保健のあり方について自らの考えを述べることができる。 | |
| 成績評価 | レポート 20 点、定期試験 80 点で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。目標 1)～４）は定期試験評価、目標５）は課題レポート。尚、授業時間の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「助産診断学講座９　地域母子保健・国際母子保健」医学書院．2013,「母子保健の主なる統計」 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | チャイルドライフケア論 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古株　ひろみ ・ 玉川　あゆみ | |
| 授業概要 | 代表的な発達理論、各期の成長発達の特徴について知識を重ね、地域で生活している子どもの成長発達を促す科学的根拠に基づいた小児看護援助技術能力を育成する。特に、看護の基盤となる看護倫理と子どもや親の権利を考慮した子どもの最善の利益を追求するケアについて考察する。(H27 年度より開講) | |
| 到達目標 | (1)子どもの権利を踏まえて自分なりの子ども観が説明できる。<br>(2)発達の理論を踏まえて、発達に応じた子どもの理解力が説明できる。<br>(3)発達や疾患の特徴を踏まえた個別性に応じたプレパレーションが実施できる。 | |
| 成績評価 | 到達目標については、課題・レポート（50%：(1)25%(2)25%)、到達目標(3)についてはプレゼンテーション（50%）で評価する。遅刻、早退は-２点/回で減点とする。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。<br>ただし、欠格条件として、授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしないこととする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜プリント配布する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 治療的コミュニケーション技術論 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 甘佐　京子 ・ 牧野　耕次 | |
| 授業概要 | 看護師・助産師・保健師などの看護職をはじめとする、対人関係を伴う専門職として、人間関係形成プロセスを理解し、それを構築していくためのコミュニケーション技術を身に付けること。また、人間関係の中で生じる様々な問題について、「関わり」、「自己理解」、「アサーション」「レジリアンス」をキーワードとして、自らマネジメントしていけるようセルフコントロール能力を養うことを目標とする。 | |
| 到達目標 | 1.関わりの４つの視点について理解できる<br>2.関わりの４つの視点をどのように活用していけるか考えることができる。<br>3.看護専門職者として意図的なコミュニケーション技術を活用することができる。<br>4.コミュニケーション技術の担い手として自己理解を深める。 | |
| 成績評価 | 授業の参加状況およびミニレポート(４～5 回)50%終了時課題レポート 50% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストなし参考文献は適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間看護学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 窪田　好恵 | |
| 授業概要 | 看護実践の基礎となる看護の概念、看護の目的、看護の役割機能、看護実践を導く看護理論を学び看護の本質を理解するとともに、看護の対象である人間・対象を取り巻く環境や健康について考えることができる。また、看護学全体をイメージし関心を深め各領域への関連を持ち人間・健康・環境・看護について自らの考えを述べることができる。 | |
| 到達目標 | １・人間・健康・環境・看護について理解し看護について自分の考えを説明できる<br>２・人間の統合性。尊厳性と自律・環境との関係について理解し説明できる<br>３・人の健康とその障害に対する看護援助の概要を学び看護援助について述べることができる<br>４・保健・医療・福祉システムの概要を学び看護の役割・連携の方法を述べることができる | |
| 成績評価 | 毎回授業の課題レスポンスカード 40%　定期試験か課題レポート 60% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト： 松木光子編：看護学概論-看護とは・看護学とは(第 5 版)-，ヌ―ヴェルヒロカワ，2011．参考書：適宜、紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 人間看護学統合実習（2012 以降入学生） | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 窪田　好恵　・　学科教員 | |
| 授業概要 | 基礎分野、専門分野で学習した知識技術態度を統合し看護実践能力を身につける。受け持ち看護師が受け持つ複数の対象のケアを見学し、同時進行で行う方法を思考する。また各段階の管理業務の見学を通して、管理者やスタッフの役割を理解し、メンバーシップやリーダーシップを含む看護マネジメントの基礎的能力を養う。実習施設は滋賀県内の公立病院とする。高齢社会から高齢者が退院後も地域で安心して療養生活が継続できる老年看護の実践能力もあわせて養う。(人間看護学部全教員が実習を担当する) | |
| 到達目標 | 1）看護管理の視点から看護サービスマネジメントの実際を見学し、病院・看護部および看護単位の組織や役割を考察できる。<br>2）病院における医療安全部門・感染管理部門の活動、専門看護師・認定看護師の活動について見学し、組織の中で、それらの役割を考察できる。<br>3)～7)まで実習要項参照 | |
| 成績評価 | 実習目標への達成度 60%実習取り組み状況 20%課題レポート 20%。出席状況によって実習展開ができない場合は評価の対象とならない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 実習要項参照 | |
| 履修資格 | 統合実習は最終実習のため看護すべての実習の単位を取得のこと | |

| 科目名 | 人間性心理論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 松本　行弘※ | |
| 授業概要 | 生活者としての人の行動を現実との関わりに即して、そこに働く心理から明らかにすることを目標とする。講義では、臨床場面での“関わり”をテーマに人が患者になる心理などを明らかにすると共に、現代に生きる人間の在り様を取り上げ、人の心理と行動の関係を考える。考える上での具体的な視点として、心理アセスメントやカウンセリングなどの臨床場面での自験例なども提示する。理論的背景についても触れるが、特定の理論に偏らず、広い視野で、人が生きることに真摯な興味が持てるような基礎的講義とする。 | |
| 到達目標 | 将来、臨床家となるための基本的な人間性や人間観を養うこと。<br>１）人の行動の成り立ちを学ぶことによって、人が生きることの意味を考える。<br>２）臨床活動の中心概念である関係性について学ぶことができる。<br>３）対人援助の基本とコミュニケーションについての概念を学ぶことができる<br>４）自己や他者の存在について心理学の領域から理解を深める。 | |
| 成績評価 | レポート課題（３０％）　最終試験（７０％）<br>※欠格条件（授業時間数の５回以上欠席した者は評価対象にしない） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：指定しないが、教材として VTR や DVD を使用し、適宜プリントを配布する。<br>参考書：河合隼雄著「ユング心理学入門」倍風館、<br>鷲田清一著「『聴く』ことの力」ＴＢＳブリタニカ | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | ボランティア実践演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 伊丹　君和 ・ 米田　照美 ・ 仲上　恵子 | |
| 授業概要 | ボランティア活動は、人とのつながりのプロセスを学ぶ機会となる。看護を学ぶ学生にとって、人と関わるボランティア活動を体験することは、豊かな感性を育むとともに、コミュニケーション力、企画力、看護力を向上させることにもつながる。ボランティア実践演習では、ボランティアの基礎知識やボランティア活動を行うにあたっての心構えやマナーを学ぶとともに、実際にボランティア実践を行う中で、誰もが心豊かにいきいきと生活できる社会を支えるために自分に何ができるのかを考える。 | |
| 到達目標 | (1)ボランティア実践を通して学んだことを説明できる。<br>(2)ボランティア実践の学びを通して、看護学生として何ができるか考察できる。<br>(3)誰もが心豊かにいきいきと生活できる社会を支えるために自分に何ができるかレポートできる。 | |
| 成績評価 | (1)実践活動レポート 30%、(2)課題レポート 35%、(3)課題レポート 35%<br>なお，学内外問わず、原則として遅刻・早退－３点／回、欠席－６点／回　とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 適宜紹介 | |
| 履修資格 | 人間看護学統合実習の履修資格があること | |

| 科目名 | ホリスティックケア論 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 糸島　陽子 ・ 甘佐　京子 ・ 横井　和美 ・ 荒川　千登世 | |
| 授業概要 | ホリスティックケアの世界観・人間観について理解した上で、セラピューティックタッチ、指圧・マッサージ、アロマセラピー、リフレクソロジー等、代表的な代替補完療法の技術を学び、看護師だけでなく保健師、助産師の実践的な看護に生かす方略について検討する。 | |
| 到達目標 | (1)ホリスティックケアの世界観・人間観について理解することができる。<br>(2)代表的なホリスティックケアについて理解することができる。<br>(3)文献をクリティークして､ホリスティックケアを看護に活かす方略について探求することができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)(2)(3)については、<br>課題レポート（100%：(1)30%,(2)30%,(3)40%）<br><br>授業内容は一部変更することもある。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義にて紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | メンタルヘルスケア | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 甘佐　京子 ・ 未定 ・ 牧野　耕次 | |
| 授業概要 | メンタルヘルス(精神保健)の概念を理解し、人々が心の健康を維持増進するための支援を考えるために重要となる心理社会的な発達課題や様々な場や状況における心の健康への支援について学習する。また、国内外の精神医療保健の変遷を知ることで精神疾患に対するスティグマの存在を理解するとともに、地域社会における支援の実際についても理解する。さらに、精神疾患の基礎知識となる精神症状について学ぶことで精神疾患についての理解を深める。 | |
| 到達目標 | ①情緒体験のプロセスおよびメンタルヘルスの諸問題とその支援を理解する。<br>②国内外の精神医療保健の変遷を知ることで精神疾患に対するスティグマの存在を理解する<br>③地域社会における支援の実際についても理解する。<br>④精神疾患の基礎知識となる精神症状について学ぶことで精神疾患についての理解を深める。 | |
| 成績評価 | 課題 30%、小テスト 20%、、定期試験 50%理由なくレスポンスペーパー未提出 1 回につき 5 点減点 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：吉松和哉等編集 「精神看護学 I 精神保健学」(ヌーヴェルヒロカワ)参考図書：授業中に紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 薬理学（2 単位） | 2単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 土田　勝晴※ ・ 竹内　孝治※ ・ 天ケ瀬　紀久子※ | |
| 授業概要 | 生体は通常自分自身の恒常性維持機能により、健康な状態を維持している。恒常性が保てない状況に陥った時、それを是正してやる目的で薬物を使用する。この講義を通して、薬物の摂取方法、吸収、分布、効果発現様式、作用メカニズム、副作用、排泄に至る一連の薬物作用について学習するが、これは同時に生体調節機構、病態等に関しても理解を深めることに通じている | |
| 到達目標 | 疾病の治療、予防のため使用される薬物の作用、副作用について理解する。 | |
| 成績評価 | 期末試験（１００%）で判定、場合によりレポート提出を求め、総合判定を行う。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：わかりやすい薬理学：安原　一、小口　勝司　著、ヌーヴェルヒロカワ（￥2300）<br>参考書：全図解クスリのしくみ事典：野口、岡島著、日本実業出版社(￥1400) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 老年看護学演習 | 1単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 平田　弘美 ・ 望月　紀子 | |
| 授業概要 | 高齢者の加齢に伴う身体的変化とそれに伴う日常生活への影響や、高齢者に特有な疾患に関する知識を習得する。 | |
| 到達目標 | (1) 高齢者の生理的身体変化を理解できる。<br>(2) 高齢者に特有な疾患を理解できる。<br>(3) 高齢者に接する姿勢を表現できる。 | |
| 成績評価 | 筆記試験（期末テスト４０%小テスト３０%）<br>課題レポート２０%<br>シニア体験１０% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 教科書：高齢者看護すぐに実践トータルナビ　岡本充子ほか　メディカ出版<br>参考図書：高齢者の健康と障害ナーシング・グラフィカ　メディカ出版、老年看護学　田中マキ子編著　医学芸術社、高齢者の理解とケア　Gakken、高齢者のケア　Gakken、 目でみるからだのメカニズム　医学書院、 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 老年看護学概論 | 1単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 平田　弘美 | |
| 授業概要 | 「老い」や「加齢」とは何かを考え、高齢者の身体的・心理的・社会的変化を知る。老年看護に活用できる概念や理論について理解し、高齢者を取り巻く社会状況や社会制度について考える。 | |
| 到達目標 | １．積極的に授業に参加し、「老い」や「加齢」とは何かを考察し、述べることができる。<br>２．老年期における身体的・心理的・社会的変化を理解する。<br>３．高齢者を取り巻く地域・社会や社会制度について理解する。<br>４．老年看護に活用できる概念・理論について理解する。 | |
| 成績評価 | 到達目標１（観察法５%、フィードバックペーパー１２%）<br>到達目標２（定期試験４０%、レポート１３%）<br>到達目標３（定期試験１８%）<br>到達目標４（定期試験１２%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ＜参考図書＞<br>老年看護学概論　真田弘美・正木治恵編集　南江堂<br>高齢者の健康と障害（ナーシング・グラフィカ老年看護学①）　メディカ出版<br>国民衛生の動向 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 老年看護学実習 | １単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 平田　弘美　・　望月　紀子 | |
| 授業概要 | 老人保健施設の入所フロアや通所リハビリ（ディケア）での実習を通して、老化や障がいが高齢者の日常生活に及ぼす影響について学ぶ。また、高齢者ケアに携わるスタッフの役割やその連携について理解を深める。 | |
| 到達目標 | １．高齢者の身体的・心理的・社会的老化の特徴を理解する。<br>２．老化や障がいが高齢者の日常生活に及ぼす影響について理解する。<br>３．高齢者ケアに携わるスタッフの役割やその連携について理解を深める。<br>４．長い人生を生きてきた高齢者を尊重した姿勢・態度で関わることができる。<br>５．積極的な態度で実習に取り組むことができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標１（観察・記録３０％）<br>到達目標２（観察・記録２０％）<br>到達目標３（観察・記録１５％）<br>到達目標４（観察・記録１５％）<br>到達目標５（観察・記録２０％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業で使用した資料や参考図書等 | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

| 科目名 | 老年臨床看護学 | １単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 望月　紀子 | |
| 授業概要 | 高齢者を支援する看護実践のための知識を習得する。 | |
| 到達目標 | (1) 高齢者の尊厳に関する看護職の責務について討議できる。<br>(2) 高齢者施設における看護職の役割・機能について表現できる。<br>(3) 高齢者を支援する多職種連携の機能について表現できる。<br>(4) おもな介護特定疾病・認知症・鬱など、高齢期に特徴的な疾病に関して知識を得る。 | |
| 成績評価 | 定期試験 80%、課題レポート 20%(内容 15%、形式 5%)<br>100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。<br>(1) 試験 20%　レポート 10%<br>(2) 試 20%　レ 5%<br>(3) 試 20%<br>(4) 試 20%　レ 5% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：高齢者看護すぐに実践トータルナビ　メディカ出版<br>参考図書：老年看護学　北川公子ほか　医学書院、　老年看護病態・疾病論　佐々木英忠ほか　医学書院、　高齢者看護の実践ナーシング・グラフィカ老年看護学②　メディカ出版、 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 老年臨床看護学演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 望月　紀子　・　平田　弘美 | |
| 授業概要 | 医療施設、介護保険施設など様々な場所で展開されている高齢者への看護実践に必要な知識・技術を習得する。<br>科学的根拠に基づき、高齢者の身体・心理・社会的側面を統合して判断する力を養う。 | |
| 到達目標 | (1) 老年看護に必要な情報収集の統合・分析・看護課題抽出・看護計画立案ができる。<br>(2) 老年看護実践に必要な知識を習得できる。<br>(3) 老年看護実践に必要な看護技術を習得できる。 | |
| 成績評価 | (1) レポート 25%<br>(2) 定期試験 60%、レポート 10%<br>(3) レポート 5%<br>定期試験 60%<br>レポート 40%（口腔アセスメント 5%、フィジカルアセスメント 5%、看護過程 25%、移動・移乗・関節可動域　5%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考図書：老年看護技術　アセスメントのポイントとその根拠　ヌーヴェルヒロカワ<br>高齢者の看護技術　大塚眞理子編集　医歯薬出版<br>老年看護学技術　真田弘美・正木治恵編集　南江堂<br>高齢者看護の実践　ナーシング・グラフィカ老年看護学 2　メディカ出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 老年臨床看護学実習 | ２単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 望月　紀子 ・ 平田　弘美 | |
| 授業概要 | 医療施設に入院する高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。健康問題を持つ高齢者の特徴を理解し、高齢者および家族に応じた看護実践の知識、技術および態度を学ぶ。 | |
| 到達目標 | １．高齢者の健康状態および家族の個別性に合わせた看護過程が展開できる。<br>２．医療施設における看護師の役割･機能が表現できる。<br>３．対象および家族に対して、尊重した態度がとれる。<br>４．専門職にふさわしい態度がとれ、行動ができる。 | |
| 成績評価 | 実習要項に記載されている「実習評価と配点」に基づき評価する。<br>到達目標１（観察･記録 70%）<br>到達目標２（観察･記録 10%）<br>到達目標３（観察･記録 5%）<br>到達目標４（観察･記録 15%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業で配布した資料や参考図書等 | |
| 履修資格 | ３年前期までの専門科目（実習を含む）専門基礎科目における必須科目の単位をすべて修得 | |

# 第３章　資格取得の手引

第３章は、「履修の手引」特別編です。

本学に学ぶみなさんが、将来社会で活躍するのに必要な資格の取得について解説していますので、該当部分を熟読の上、履修計画をたててください。

手引の構成は以下のとおりです。

Ｐ.581～639 各種資格の解説と資格取得に必要な条件等を解説しています。

Ｐ.640～662 各種資格取得に必要な科目の講義概要を掲載しています。

資格取得に必要な科目のうち各学部の専門科目である科目は、各学部の講義概要を参照してください。（本手引に記載している講義概要は抜粋版です。詳しい講義概要については、Webポータルで確認してください。）

# 1　本学における免許・資格の取得について

（1）免許・資格一覧

各学部・学科で取得可能な免許・資格は下表の通りです。

| 学　部 | 学　科 | 取得可能免許・資格 |
|---|---|---|
| 環境科学部 | 環境生態学科 | 中学校教諭一種免許（理科）　学芸員資格<br>高等学校教諭一種免許（理科）　自然再生士補<br>甲種危険物取扱者試験受験資格⑳<br>二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除 |
| | 環境政策・計画学科 | 高等学校教諭一種免許（公民）<br>学芸員資格　社会調査士資格　GIS 学術士資格<br>二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除<br>自然再生士補　地域調査士資格㉔ |
| | 環境建築デザイン学科 | 一級建築士受験資格　二級・木造建築士受験資格<br>二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除<br>施工管理技士受験資格 |
| | 生物資源管理学科 | 中学校教諭一種免許（理科）<br>高等学校教諭一種免許（理科・農業）<br>学芸員資格　甲種危険物取扱者試験受験資格⑳<br>二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除 |
| 工学部 | 材料科学科 | 高等学校教諭一種免許（理科・工業）<br>甲種危険物取扱者試験受験資格<br>毒物劇物取扱責任者資格⑳ |
| | 機械システム工学科 | 高等学校教諭一種免許（理科・工業）<br>施工管理技士受験資格 |
| | 電子システム工学科 | 高等学校教諭一種免許（工業⑳・情報㉒）<br>電気通信主任技術者試験資格(1 科目免除)⑳<br>電気主任技術者資格⑳　施工管理技士受験資格 |
| 人間文化学部 | 地域文化学科 | 中学校教諭一種免許（社会）　学芸員資格<br>高等学校教諭一種免許（地理歴史）　社会調査士資格 |
| | 生活デザイン学科 | 中学校教諭一種免許（家庭）　学芸員資格<br>高等学校教諭一種免許（家庭）二級・木造建築士受験資格<br>インテリアプランナー登録資格 |
| | 生活栄養学科 | 中学校教諭一種免許（家庭）　学芸員資格<br>高等学校教諭一種免許（家庭）　栄養教諭一種免許⑰<br>栄養士資格　管理栄養士受験資格⑮<br>ＮＲ･サプリメントアドバイザー受験資格⑯<br>食品衛生管理者および食品衛生監視員資格⑳ |
| | 人間関係学科 | 中学校教諭一種免許（社会）　学芸員資格<br>高等学校教諭一種免許（公民）　社会調査士資格 |
| | 国際コミュニケーション学科 | 中学校教諭一種免許（英語）<br>高等学校教諭一種免許（英語） |
| 人間看護学部 | 人間看護学科 | 看護師国家試験受験資格　保健師国家試験受験資格<br>助産師国家試験受験資格　養護教諭一種免許 |
| 全学部・学科 | | 社会福祉主事任用資格 |

○内の数字は、平成の年度を表し、その年度以降の入学者でないと当該免許･資格が取得できません。

# ２　各学部・学科における教育職員免許の取得について

本学(環境建築デザイン学科、人間看護学部を除く。)では、「中学校教諭一種免許」と「高等学校教諭一種免許」が取得可能です。また、生活栄養学科では「栄養教諭一種免許」が、人間看護学部では「養護教諭一種免許」が取得可能です。

※ 人間看護学部についてはP.607、生活栄養学科の栄養教諭免許の取得については P.610 を参照のこと。

※ この内容は２０１５（平成 27）年度入学生用です。２０１４（平成 26）年度以前の入学生は、自分の入学年度の「履修の手引」の第３章「資格取得等の手引」を参照してください。

本学において教育職員免許を取得するためには、次の表１の授業科目（単位数）を履修する必要があります。なお、これは最低単位数ですから、この単位数以上にできるだけ多く履修してください。

表１　本学における最低単位数

| 教育職員免許法上の区分 | 中学校教諭一種 | 高等学校教諭一種 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 教職に関する科目 | ３１ 単位 | ２７ 単位 | 表２、（１）で説明 |
| 教科に関する科目 | ２０ 単位 | ２０ 単位 | （２）で説明 |
| 教科または教職に関する科目 | ８　単位 | １６ 単位 | （３）で説明 |
| 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目 | ○憲法（２単位） | | 人間学・教職科目・必修 |
| | ○健康・体力科学Ⅰ，Ⅱ（各１単位）<br>○英語ⅡＡ、英語ⅡＢ（各１単位）<br>○情報リテラシー（情報倫理を含む）（２単位） | | 卒業要件上の必修科目 |

（１）「教職に関する科目」の履修方法について

「教職に関する科目」は、『教職に関する科目一覧表』（表２）にしたがって履修してください。

・「道徳教育論」は中学校教諭一種免許では必修、高等学校教諭一種免許では選択科目とします。

・「教育学概論」「教育方法論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程論」「道徳教育論」は人間文化学部人間関係学科専門科目です。

（２）「教科に関する科目」の履修方法について

P.585 以降の表に従って、履修してください。

（３）「教科または教職に関する科目」の取扱いについて

① 原則的措置

「教科または教職に関する科目」として、中学免許で 8 単位、高校免許で 16 単位以上の修得が免許法で指定されていますが、本学ではこれを原則的に、「教科に関する科目」群から充当するものとします。したがって P.584 以降に掲げてある「教科に関する科目」群のなかから、中学免許の場合、28 単位以上、高校免許の場合 36 単位以上修得することを原則とします。

② 例外的措置

ただし、次のような例外的措置も認めます。

・高校免許を希望する者は、「教職に関する科目」のうちから「道徳教育論」を単位取得した場合、それ（２単位）を「教科または教職に関する科目」の単位の一部として充当することができます。

（4）「教育実習・事前事後指導」について

※履修登録は、３年後期および４年前期の２回とも必ず行うこと。

① 事前事後指導

事前指導は、教育実習実施前（３年次）の後期に実施します。

事後指導は、教育実習終了後（４年次）に実施します。

② 教育実習の実施

「教育実習」は、原則として、４年次の前期に出身校または県内の協力校において、中学校教諭一種免許は３週間または４週間、高等学校教諭一種免許は２週間実施する予定です（受入校の都合により、実施時期を変更することがあります）。

人間看護学部の養護教育実習はP.607 を、生活栄養学科の栄養教育実習はP.610 を参照のこと。

③ 教育実習参加の基礎要件

・教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。
「憲法」、「教職論」、「教育方法論」、「教育学概論」、「教科教育法Ⅰ・Ⅱ」、「生徒指導論」、「道徳教育論」（中学校のみ）を既に履修済か、履修中であること。ただし、学科により履修上困難な場合は、履修中であることも可とします。

・教科に関する科目については、原則として中学校の教員免許を目指すものは 20 単位以上、高等学校の教員免許を目指すものは 24 単位以上を履修していること。

・中学校教諭一種免許の取得を希望する者は、教育実習受講年度において、後掲（４）の「介護等体験実習（７日間）」を実習済みか、実習中であること。

（5）「介護等体験実習」について

平成 10 年４月１日より介護等体験特例法が施行され、平成 10 年以降入学生から適用を受けることになりました。これは、単位修得とは別に社会福祉施設等において７日間の介護等体験（社会福祉施設５日間、特別支援学校２日間）が義務付けられるもので、本学では、中学校教諭一種免許の取得を希望するものが、３年次に介護等体験実習を受けることになります。これに関するオリエンテーションは、２年次の２月頃に開催します。

（6）隔年開講科目について

「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」「職業指導」は、隔年開講となります。４回生時に不開講で履修できないこともあり得るので３回生までで履修済となるよう計画的に履修してください。

・「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」は奇数年度開講（H27, 29, 31… ）
・「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」は偶数年度開講（H28, 30, 32… ）
・「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」は奇数年度開講（H27, 29, 31… ）
・「職業指導」は偶数年度開講（H28, 30, 32… ）

（7）「教職実践演習」について

４年次後期に履修すること。

表２　◆　教職に関する科目一覧表　◆　　すべて必修（道徳教育論のみ中学必修）

| 免許法施行規則に定める科目区分 | | 免許法による必修単位 | | 本学開講科目 | | | | | | | | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | |
| 科　目 | 各科目に含める必要事項 | 中学校 | 高等学校 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 教職の意義等に関する科目 | ・教職の意義及び教員の役割<br>・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）<br>・進路選択に資する各種機会の提供等 | ２ | ２ | ○教職論 | | | | | | | | ２ |
| 教育の基礎理論に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | ６ | ６ | | | ○教育学概論 | | | | | | ２ |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | | | | | | | ○教育心理学 | | | | ２ |
| | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | | | | | | | | ○教育制度論 | | | ２ |
| 教育課程及び指導法に関する科目 | ・教育課程の意義及び編成の方法 | １２ | ６ | | | | | | ○教育課程論 | | | ２ |
| | ・各教科の指導法 | | | | | ○教科教育法Ⅰ | ○教科教育法Ⅱ | | | | | ４ |
| | ・道徳の指導法 | | | | | | | 道徳教育論〈中学必修〉 | | | | ２ |
| | ・特別活動の指導法 | | | | | | ○特別活動論 | | | | | ２ |
| | ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む） | | | | | ○教育方法論 | | | | | | ２ |
| 生徒指導教育相談及び進路指導に関する科目 | ・生徒指導の理論及び方法 | ４ | ４ | | | | ○生徒指導論 | | | | | ２ |
| | ・進路指導の理論及び方法<br>教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | | | | | | ○教育相談・進路指導 | | | | ２ |
| 教育実習 | | ５ | ３ | | | | | | ○教育実習・事前事後指導 | | | 中５<br>高３ |
| 教職実践演習 | | ２ | ２ | | | | | | | | ○教職実践演習 | ２ |
| 合　計 | | ３１ | ２３ | 本学では　中学３１単位　高校２７単位　必修 | | | | | | | | |

（注）・教科教育法は原則として２年次以降に各教科ごとに履修することとするが、教科によっては、時間割の都合上、上記の一覧表とは異なる学期に開講もしくは年次配当となることもあるので、年度当初に時間割表で十分確認すること。
・「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」は奇数年度（H27,29,31… ）に開講される。
・「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」「職業指導」は偶数年度（H28,30,32… )に 開講される。
・「理科教育法Ⅲ」「理科教育法Ⅳ」「社会科教育法Ⅲ」「社会科教育法Ⅳ」「家庭科教育法Ⅲ」「家庭科教育法Ⅳ」「英語科教育法Ⅲ」「英語科教育法Ⅳ」は選択科目である。

環境科学部　★環境生態学科

中学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 物理学 | 環境物理学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境物理学Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 河川環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境水文学 | 2 | | | 2 | 2013(H25)以前入学生は「水文学」 |
| 物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | ○ | 2 | | |
| 化学 | 環境化学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境化学Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 陸域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 集水域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 水域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 大気環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 集水域環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 集水域物質循環論 | 3 | | | 2 | |
| 化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境解析学・同実験 | 2 | | | 4 | |
| 生物学 | 環境生物学Ⅰ | 2 | ○ | 2 | | |
| | 環境生物学Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| | 森林環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 動物生態学 | 2 | | | 2 | |
| | 陸域物質循環論 | 3 | | | 2 | |
| | 海洋環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 遺伝学 | 2 | | | 2 | |
| | 生物統計学 | 2 | | | 2 | |
| | 分子生物学 | 3 | | | 2 | |
| 生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | ○ | 2 | | |
| | 陸域環境学・同実験 | 3 | | | 4 | |
| | 水域環境学・同実験 | 3 | | | 4 | |
| 地学 | 環境地球科学Ⅰ | 2 | ○ | 2 | | |
| | 環境地球科学Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| | 土壌環境化学 | 3 | | | 2 | |
| | 湖沼環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 水域物質循環論 | 3 | | | 2 | |
| 地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | ○ | 2 | | |
| | 集水域環境学・同実験 | 2 | | | 4 | |
| | | 合計 | | 24 | 52 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より4単位以上を修得しなければならない。

環境科学部　★環境生態学科

高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 物理学 | 環境物理学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境物理学Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 河川環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境水文学 | 2 | | | 2 | 2013(H25)以前入学生は「水文学」 |
| 化学 | 環境化学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境化学Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 陸域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 集水域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 水域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 大気環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 集水域環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 集水域物質循環論 | 3 | | | 2 | |
| 生物学 | 環境生物学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境生物学Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| | 森林環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 動物生態学 | 2 | | | 2 | |
| | 陸域物質循環論 | 3 | | | 2 | |
| | 海洋環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 遺伝学 | 2 | | | 2 | |
| | 生物統計学 | 2 | | | 2 | |
| | 分子生物学 | 3 | | | 2 | |
| 地学 | 環境地球科学Ⅰ | 2 | ○ | 2 | | |
| | 環境地球科学Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| | 土壌環境化学 | 3 | | | 2 | |
| | 湖沼環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 水域物質循環論 | 3 | | | 2 | |
| 物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | ○※ | 2 | | |
| | 環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | | 2 | | うち4単位以上 |
| | 環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | | 2 | | |
| | 環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | | 2 | | |
| | 環境解析学・同実験 | 2 | | | 4 | |
| | 陸域環境学・同実験 | 3 | | | 4 | |
| | 水域環境学・同実験 | 3 | | | 4 | |
| | 集水域環境学・同実験 | 2 | | | 4 | |
| | | 合計 | | 20 | 52 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。（※除く）

※環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、環境地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より16単位以上を修得しなければならない

環境科学部　★環境政策・計画学科

高等学校教諭一種免許（公民）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。） | 法学概論(国際法を含む) | 3 | ○ | 2 | | |
| | 政治学Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 政治学Ⅱ(国際政治を含む) | 2 | | | 2 | |
| | 環境法 | 2 | | | 2 | |
| | 地域環境政策論 | 2 | | | 2 | |
| | 環境政策学 | 2 | | | 2 | |
| 社会学、経済学（国際経済を含む。） | 社会学 | 2 | ○ | 2 | | |
| | 経済学Ⅰ | 1 | | | 2 | |
| | 経済学Ⅱ(国際経済を含む) | 2 | | | 2 | |
| | 地域開発論 | 2 | | | 2 | |
| | 環境経済学入門 | 1 | | | 2 | |
| | 環境経済学 | 2 | | | 2 | |
| | 地域調査法 | 1 | | | 2 | |
| | 地域調査法演習 | 1 | | | 1 | |
| | 政策計画演習Ⅰ | 3 | | | 1 | |
| | 政策計画演習Ⅱ | 3 | | | 1 | |
| | 政策計画演習Ⅲ | 4 | | | 1 | |
| | 環境監査 | 3 | | | 2 | |
| | 環境社会学 | 1 | | | 2 | |
| 哲学、倫理学、宗教学、心理学 | 哲学概論A | 3 | ○ | 2 | | 人間文化学部専門科目 |
| | 心理学基礎 | 3 | | | 2 | 人間文化学部専門科目 |
| | 環境倫理学 | 3 | | | 2 | |
| | 環境心理学 | 2 | | | 2 | |
| | 比較宗教論 | 2･3 | | | 2 | 人間文化学部専門科目<br>隔年開講（偶数年開講） |
| | | 合計 | | 6 | 38 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より30単位以上を修得しなければならない。

環境科学部　★生物資源管理学科

中学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 物理学 | 環境物理学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境物理学Ⅱ | 3 | | 2 | | 環境生態学科専門科目 |
| | 土壌環境物理学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境水文学 | 2 | | | 2 | 2013(H25)以前入学生は「水文学」 |
| 物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | ○ | 2 | | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 3 | | | 2 | |
| 化学 | 環境化学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境化学Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 陸域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 集水域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 植物栄養学 | 3 | | | 2 | |
| 化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | ○ | 2 | | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 3 | | | 2 | |
| 生物学 | 環境生物学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境生物学Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| | 森林環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 動物生態学 | 2 | | | 2 | |
| | 遺伝学 | 2 | | | 2 | |
| | 生物統計学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境植物生理学 | 2 | | | 2 | |
| | 分子生物学 | 3 | | | 2 | |
| 生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | ○ | 2 | | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 3 | | | 2 | |
| 地学 | 環境地球科学Ⅰ | 2 | ○ | 2 | | |
| | 環境地球科学Ⅱ | 2 | | 2 | | 環境生態学科専門科目 |
| | 土壌環境化学 | 2 | | | 2 | |
| | 湖沼環境学 | 2 | | | 2 | |
| 地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | ○ | 2 | | |
| | | 合計 | | 24 | 36 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より4単位以上を修得しなければならない。

環境科学部　★生物資源管理学科

高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 物理学 | 環境物理学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境物理学Ⅱ | 3 | | 2 | | 環境生態学科専門科目 |
| | 土壌環境物理学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境水文学 | 2 | | | 2 | 2013(H25)以前入学生は「水文学」 |
| 化学 | 環境化学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境化学Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 陸域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 集水域環境機能論 | 3 | | | 2 | |
| | 植物栄養学 | 3 | | | 2 | |
| 生物学 | 環境生物学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境生物学Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| | 森林環境学 | 2 | | | 2 | |
| | 動物生態学 | 2 | | | 2 | |
| | 遺伝学 | 2 | | | 2 | |
| | 生物統計学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境植物生理学 | 2 | | | 2 | |
| | 分子生物学 | 3 | | | 2 | |
| 地学 | 環境地球科学Ⅰ | 2 | ○ | 2 | | |
| | 環境地球科学Ⅱ | 2 | | 2 | | 環境生態学科専門科目 |
| | 土壌環境化学 | 2 | | | 2 | |
| | 湖沼環境学 | 2 | | | 2 | |
| 物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 環境物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | ○※ | 2 | | |
| | 環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | | 2 | | うち4単位以上 |
| | 環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | | 2 | | |
| | 環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | | 2 | | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅸ | 2 | | | 2 | |
| | | 合計 | | 20 | 36 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。（※除く）

※環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、環境地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

（注2）、必修のすべての科目と、選択科目より16単位以上を修得しなければならない。

環境科学部　★生物資源管理学科

高等学校教諭一種免許（農業）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 農業の関係科目 | 農業問題入門 | 1 | ○ | 2 | | 人間学科目、2011(H23)以前入学生は「農業経済学」 |
| | 栽培植物各論A | 2 | | 2 | | |
| | 植物資源管理学 | 2 | | 2 | | |
| | 持続的農業論 | 1･2･3･4 | | | 2 | 人間学科目 |
| | 栽培植物各論B | 3 | | | 2 | |
| | 植物遺伝資源学 | 2 | | | 2 | |
| | 動物資源管理学 | 3 | | | 2 | |
| | 家畜生産環境学 | 3 | | | 2 | |
| | 植物生産学 | 1 | | | 2 | |
| | 植物病害防除論 | 3 | | | 2 | |
| | 害虫管理学 | 3 | | | 2 | |
| | 植物資源開発学 | 3 | | | 2 | |
| | 応用微生物学 | 3 | | | 2 | |
| | 水資源利用学 | 2 | | | 2 | |
| | 水資源保全学 | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅰ | 3 | | | 2 | |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 2 | | | 2 | |
| | 農業経営学 | 2 | | | 2 | |
| | 食料経済システム論 | 3 | | | 2 | |
| | 資源経済学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境経営論 | 2 | | | 2 | |
| | 国際環境資源論 | 3 | | | 2 | |
| | 測量学 | 2 | | | 2 | |
| | 水理学 | 2 | | | 2 | |
| | 農薬環境学 | 3 | | | 2 | |
| | 作物保護学 | 2 | | | 2 | |
| | 環境動物学 | 3 | | | 2 | |
| | 水利環境施設学 | 3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年開講） |
| | 環境会計 | 3 | | | 2 | |
| 職業指導 | 職業指導 | 1･2･3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年開講） |
| | | 合計 | | 8 | 52 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より28単位以上を修得しなければならない。

工学部　★材料科学科

## 高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 物理学 | 基礎力学 | 1 | ○ | 2 | | |
| | 基礎熱力学 | 1 | | 2 | | |
| | 基礎電磁気学 | 1 | | 2 | | |
| | 材料力学 | 2 | | 2 | | 2014(H26)以前入学生は「材料力学Ⅰ」 |
| 化学 | 基礎化学 | 1 | ○ | 2 | | |
| | 電子と化学結合 | 1 | | 2 | | |
| | 化学熱力学 | 2 | | | 2 | |
| | 反応速度論 | 2 | | | 2 | |
| | 電気化学 | 3 | | | 2 | |
| | 無機化学Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 無機化学Ⅱ | 2 | | | 2 | |
| | 有機化学Ⅰ | 1 | | 2 | | |
| | 有機化学Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| | 有機化学Ⅲ | 2 | | | 2 | |
| | 分析化学 | 1 | | | 2 | |
| | 物理化学総合および同演習 | 2 | | | 2 | |
| | 材料計算化学および同演習 | 3 | | | 2 | |
| | 有機化学総合および同演習 | 2 | | | 2 | |
| 生物学 | 環境生物学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| | 環境生物学Ⅱ | 2 | | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| | 生化学Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 生化学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| 地学 | 環境地球科学Ⅰ | 2 | ○ | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| | 環境地球科学Ⅱ | 2 | | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| 物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | ○ | 2 | | |
| | 分析・環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 1 | | 2 | | |
| | 定量・機器分析および同実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む) | 2 | | 2 | | |
| | 材料科学実験Ⅰ | 3 | | 3 | | 2013(H25)以前入学生は「材料科学実験」 |
| | 材料科学実験Ⅱ | 3 | | 3 | | 2013(H25)以前入学生は「材料科学実験」 |
| | | 合計 | | 38 | 22 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修すべての科目を修得しなければならない。選択科目については、履修することを推奨する。

工学部　★材料科学科

## 高等学校教諭一種免許（工業）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 工業の関係科目 | 材料科学概論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | 環境調和化学 | 3 | | 2 | | |
| | 化学工学 | 2 | | | 2 | |
| | 機器分析Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 機器分析Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 基礎結晶学 | 2 | | | 2 | |
| | 金属材料 | 3 | | | 2 | |
| | セラミックス材料 | 3 | | | 2 | |
| | 材料量子論 | 3 | | | 2 | |
| | 材料組織学 | 3 | | | 2 | |
| | 高分子物性 | 3 | | | 2 | |
| | エネルギー・界面科学 | 3 | | | 2 | |
| | 複合材料 | 3 | | | 2 | |
| | 高分子合成 | 3 | | | 2 | |
| | 固体物性基礎 | 2 | | | 2 | |
| | 材料強度物性 | 3 | | | 2 | |
| | 分子・統計力学 | 3 | | | 2 | |
| | 技術者倫理 | 3 | | | 2 | |
| | 産業技術マネジメント | 4 | | | 2 | |
| 職業指導 | 職業指導 | 1・2・3・4 | ○ | 2 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年度開講） |
| | | 合計 | | 6 | 34 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より30単位以上を修得しなければならない。

工学部　★機械システム工学科

## 高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 物理学 | 基礎力学 | 1 | ○ | 2 | | |
| | 基礎電磁気学 | 1 | | 2 | | |
| | 熱力学Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 工業力学 | 1 | | 2 | | |
| | 材料力学Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 材料力学Ⅱ | 2 | | | 2 | |
| | 熱力学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 伝熱学 | 3 | | | 2 | |
| | 流体力学Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 流体力学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 数値解析 | 4 | | | 2 | |
| 化学 | 基礎化学 | 1 | ○ | 2 | | |
| | エネルギー変換工学 | 3 | | | 2 | |
| 生物学 | 環境生物学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| | 環境生物学Ⅱ | 2 | | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| | 生化学Ⅰ | 2 | | | 2 | 材料科学科専門科目 |
| | 生化学Ⅱ | 3 | | | 2 | 材料科学科専門科目 |
| 地学 | 環境地球科学Ⅰ | 2 | ○ | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| | 環境地球科学Ⅱ | 2 | | 2 | | 環境科学部専門科目 |
| 物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）<br>地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む） | 物理学実験（コンピュータ活用を含む） | 1 | ○ | 2 | | |
| | | 合計 | | 24 | 16 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

工学部　★機械システム工学科

## 高等学校教諭一種免許（工業）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 工業の関係科目 | 機械システム工学概論 | 1 | | 2 | | |
| | 機械力学Ⅰ | 3 | | 2 | | |
| | 制御工学Ⅰ | 3 | ○ | 2 | | |
| | 生産工学 | 3 | | 2 | | |
| | 機械システム工学実験Ⅰ | 3 | | 2 | | |
| | 機械製作 | 1 | | 2 | | |
| | 特殊加工学 | 4 | | | 2 | |
| | 機械力学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 機械要素 | 2 | | 2 | | |
| | 制御工学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | メカトロニクス | 3 | | | 2 | |
| | 計測工学 | 3 | | | 2 | |
| | 機械材料学 | 2 | | 2 | | |
| | システム工学 | 4 | | | 2 | |
| | ロボット工学 | 4 | | | 2 | |
| | 機械設計演習Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 機械設計演習Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 機械設計演習Ⅲ | 3 | | 2 | | |
| | 機械製作実習 | 2 | | 2 | | |
| | 機械システム工学実験Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 金属加工学 | 3 | | | 2 | |
| 職業指導 | 職業指導 | 1･2･3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年度開講） |
| | | 合計 | | 28 | 16 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。
（注2）必修のすべての科目と、選択科目より8単位以上を修得しなければならない。

工学部　★電子システム工学科

## 高等学校教諭一種免許（工業）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 工業の関係科目 | 電子システム工学概論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | 基礎電磁気学 | 1 | | 2 | | |
| | 工業数学 | 2 | | 2 | | |
| | 電磁気学Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 電気回路Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 電子回路Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 半導体基礎 | 2 | | 2 | | |
| | 基礎電気電子回路 | 1 | | | 2 | |
| | 電磁気学Ⅱ | 2 | | | 2 | |
| | 電気回路Ⅱ | 2 | | | 2 | |
| | 電子回路Ⅱ | 3 | | 2 | | |
| | 量子力学概論 | 2 | | | 2 | |
| | 物性デバイス基礎論 | 2 | | | 2 | |
| | 電気エネルギーシステム工学 | 3 | | | 2 | |
| | 半導体デバイス | 3 | | | 2 | |
| | 電磁波工学 | 3 | | | 2 | |
| | 電子デバイス | 3 | | | 2 | |
| | パワーエレクトロニクス | 4 | | | 2 | |
| 職業指導 | 職業指導 | 1･2･3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年度開講） |
| | | 合計 | | 18 | 20 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より18単位以上を修得しなければならない。

工学部　★電子システム工学科

## 高等学校教諭一種免許（情報）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 情報社会及び情報倫理 | 電子社会と人間 | 1･2･3･4 | ○ | 2 | | 人間学科目 |
| コンピュータ及び情報処理（実習含む） | コンピュータハードウェア | 2 | | 2 | | |
| | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | 2 | | |
| | プログラミング言語 | 2 | ○ | 2 | | |
| | プログラミング基礎 | 2 | | 2 | | |
| | 情報処理基礎 | 2 | | 2 | | |
| | 電気電子計測Ⅰ | 3 | | | 2 | |
| | 電気電子計測Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 制御工学 | 3 | | | 2 | |
| | 通信情報理論 | 2 | | | 2 | 2013(H25)以前入学生は「情報理論」 |
| | 数値解析・数値計算 | 3 | | | 2 | |
| 情報システム（実習を含む） | コンピュータアーキテクチャ | 3 | | 2 | | |
| | コンピュータソフトウェア | 3 | ○ | 2 | | |
| | 情報科学概論 | 1 | | 2 | | 全学共通基礎科目（情報処理） |
| | 集積回路設計基礎 | 3 | | | 2 | |
| | 光エレクトロニクス | 4 | | | 2 | |
| | ロボット工学 | 4 | | | 2 | |
| 情報通信ネットワーク(実習を含む） | 情報通信工学 | 3 | | 2 | | |
| | 通信ネットワーク工学 | 3 | ○ | 2 | | 2013(H25)以前入学生は「インターネット工学」 |
| | 電子システム工学実験Ⅱ | 2 | | 2 | | |
| マルチメディア表現及び技術（実習を含む） | 通信システム工学 | 3 | ○ | 2 | | 2013(H25)以前入学生は「マルティメディア」 |
| | 電気電子設計製図 | 3 | | 1 | | 2013(H25)以前入学生は「電子システム工学演習Ⅲ」 |
| | ディジタル信号処理 | 2 | | | 2 | |
| 情報と職業 | 情報と職業 | 1･2･3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目<br>隔年開講（奇数年開講） |
| | | 合計 | | 29 | 18 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より8単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　★地域文化学科

中学校教諭一種免許（社会）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 日本史及び外国史 | 日本史概説 | 1･2 | ○ | 2 | | |
| | 日本社会論 | 1･2 | | 2 | | |
| | 西洋史概説 | 2･3 | | 2 | | |
| | 東洋史概説 | 1･2 | | 2 | | |
| | 考古学 | 1･2 | | 2 | | |
| | 基層文化論 | 1･2 | | | 2 | |
| | 日本文化史論A | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（奇数年開講） |
| | 日本文化史論B | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年開講） |
| | 日本・地域交流特論 | 3･4 | | | 2 | |
| | 対外文化交流論A | 2･3･4 | | | 2 | |
| | 対外文化交流論B | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年開講） |
| | 古文書演習Ⅰ | 2･3 | | | 1 | |
| | 古文書演習Ⅱ | 2･3 | | | 1 | |
| | 考古学特論A | 3･4 | | | 2 | |
| | 考古学特論B | 3･4 | | | 2 | |
| | 中国地域文化論 | 2･3 | | | 2 | |
| | 朝鮮地域文化論 | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年開講） |
| | 東アジア世界論 | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年開講） |
| | 東アジア考古学概論 | 1･2 | | | 2 | |
| 地理学（地誌を含む。） | 人文地理学A | 1･2 | ○ | 2 | | |
| | 自然地理学 | 3･4 | | 2 | | |
| | 地誌学 | 3･4 | | 2 | | |
| | 人文地理学B | 2･3･4 | | 2 | | |
| | 地域研究論 | 1･2 | | | 2 | |
| 「法律学、政治学」 | 法学概論(国際法を含む) | 2 | ○ | 2 | | 人間関係学科専門科目 |
| | 政治学Ⅰ | 2 | | | 2 | 人間関係学科専門科目 |
| | 政治学Ⅱ(国際政治を含む) | 2 | | | 2 | 人間関係学科専門科目 |
| 「社会学、経済学」 | 社会学概論 | 1･2 | ○ | 2 | | |
| 「哲学、倫理学、宗教学」 | 哲学概論A | 2･3 | ○ | 2 | | |
| | 哲学概論B | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年開講） |
| | 比較宗教論 | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（偶数年開講） |
| | | 合計 | | 24 | 36 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より4単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　★地域文化学科

高等学校教諭一種免許（地理歴史）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 日本史 | 日本史概説 | 1･2 | ○ | 2 | | |
| | 日本社会論 | 1･2 | | 2 | | |
| | 考古学 | 1･2 | | 2 | | |
| | 基層文化論 | 1･2 | | | 2 | |
| | 日本文化史論A | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（奇数年開講） |
| | 日本文化史論B | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年開講） |
| | 日本・地域交流特論 | 3･4 | | | 2 | |
| | 対外文化交流論A | 2･3･4 | | | 2 | |
| | 対外文化交流論B | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年開講） |
| | 古文書演習Ⅰ | 2･3 | | | 1 | |
| | 古文書演習Ⅱ | 2･3 | | | 1 | |
| | 考古学特論A | 3･4 | | | 2 | |
| | 考古学特論B | 3･4 | | | 2 | |
| 外国史 | 西洋史概説 | 2･3 | ○ | 2 | | |
| | 東洋史概説 | 1･2 | | 2 | | |
| | 中国地域文化論 | 2･3 | | | 2 | |
| | 朝鮮地域文化論 | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年開講） |
| | 東アジア世界論 | 2･3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年開講） |
| | 東アジア考古学概論 | 1･2 | | | 2 | |
| 人文地理学及び自然地理学 | 人文地理学A | 1･2 | ○ | 2 | | |
| | 自然地理学 | 3･4 | | 2 | | |
| | 人文地理学B | 2･3･4 | | 2 | | |
| | 地域研究論 | 1･2 | | | 2 | |
| 地誌 | 地誌学 | 3･4 | ○ | 2 | | |
| | | 合計 | | 18 | 28 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より18単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　★生活デザイン学科

中学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。） | 生活経営論 | 3 | ○ | 2 | | |
| | 消費生活論 | 1 | | 2 | | |
| 被服学（被服製作実習を含む。） | 生活素材論 | 2 | ○ | 2 | | |
| | 服飾造形論 | 3 | | 2 | | |
| | 比較衣装論 | 1 | | | 2 | |
| | 服飾デザイン論 | 2 | | | 2 | |
| | 服飾デザイン演習Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 服飾デザイン演習Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 服飾デザイン演習Ⅲ | 3 | | | 2 | |
| 食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。） | 基礎栄養学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | 生活栄養学科専門科目、2009（H21）以前入学生は「栄養学総論」 |
| | 食品学総論 | 1 | | 2 | | 生活栄養学科専門科目 |
| | 食品の調理と加工 | 2 | | 2 | | 生活栄養学科専門科目 |
| | 嗜好と調理実習Ⅰ | 1 | | 1 | | 生活栄養学科専門科目 |
| | 応用栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目、2009（H21）以前入学生は「栄養学各論」 |
| | 応用栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 臨床栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 公衆栄養学 | 3 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 食品機能科学 | 3 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 食品衛生学 | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 栄養生化学 | 1 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 比較食文化論 | 1 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 疾病と栄養 | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| 住居学 | 比較住居論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | インテリア計画論 | 2 | | | 2 | |
| | 住環境論 | 3 | | | 2 | |
| | 道具計画論 | 3 | | | 2 | |
| | 基礎設計製図 | 1 | | | 2 | |
| | 住環境設計演習Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 住環境設計演習Ⅱ | 2 | | | 2 | |
| 保育学（実習を含む。） | 保育学A（実習及び家庭看護を含む） | 3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目 |
| | | 合計 | | 21 | 40 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より8単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　　★生活デザイン学科

高等学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。） | 生活経営論 | 3 | ○ | 2 | | |
| | 消費生活論 | 1 | | 2 | | |
| 被服学（被服製作実習を含む。） | 生活素材論 | 2 | ○ | 2 | | |
| | 服飾造形論 | 3 | | 2 | | |
| | 比較衣装論 | 1 | | | 2 | |
| | 服飾デザイン論 | 2 | | | 2 | |
| | 服飾デザイン演習Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 服飾デザイン演習Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 服飾デザイン演習Ⅲ | 3 | | | 2 | |
| 食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。） | 基礎栄養学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | 生活栄養学科専門科目、2009（H21）以前入学生は「栄養学総論」 |
| | 食品学総論 | 1 | | 2 | | 生活栄養学科専門科目 |
| | 食品の調理と加工 | 2 | | 2 | | 生活栄養学科専門科目 |
| | 嗜好と調理実習Ⅰ | 1 | | 1 | | 生活栄養学科専門科目 |
| | 応用栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目、2009（H21）以前入学生は「栄養学各論」 |
| | 応用栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 臨床栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 公衆栄養学 | 3 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 食品機能科学 | 3 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 食品衛生学 | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 栄養生化学 | 1 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 比較食文化論 | 1 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| | 疾病と栄養 | 2 | | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| 住居学 | 比較住居論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | インテリア計画論 | 2 | | | 2 | |
| | 住環境論 | 3 | | | 2 | |
| | 道具計画論 | 3 | | | 2 | |
| | 基礎設計製図 | 1 | | 2 | | |
| | 住環境設計演習Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 住環境設計演習Ⅱ | 2 | | | 2 | |
| 保育学（実習を含む。） | 保育学Ａ（実習及び家庭看護を含む） | 3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目 |
| 家庭電気・機械及び情報処理 | 家庭電気・機械（情報処理を含む） | 2～4 | ○ | 2 | | 教職用科目 |
| | | 合計 | | 25 | 38 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　　★生活栄養学科

中学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。） | 生活経営論 | 3 | ○ | 2 | | |
| | 消費生活論 | 1 | | 2 | | |
| 被服学（被服製作実習を含む。） | 被服学 | 2･3 | ○ | 2 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年度開講） |
| | 服飾製作実習 | 2 | | 1 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年度開講） |
| | 比較衣装論 | 1 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 生活素材論 | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 服飾デザイン論 | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 服飾デザイン演習Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 服飾造形論 | 3 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。） | 基礎栄養学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | 2009（H21）以前入学生は「栄養学総論」 |
| | 食品学総論 | 1 | | 2 | | |
| | 食品の調理と加工 | 2 | | 2 | | |
| | 嗜好と調理実習Ⅰ | 1 | | 1 | | |
| | 応用栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | 2009（H21）以前入学生は「栄養学各論」 |
| | 応用栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 公衆栄養学 | 3 | | | 2 | |
| | 食品機能科学 | 3 | | | 2 | |
| | 食品衛生学 | 2 | | | 2 | |
| | 栄養生化学 | 1 | | | 2 | |
| | 比較食文化論 | 1 | | | 2 | |
| | 疾病と栄養 | 3 | | | 2 | |
| 住居学 | 比較住居論 | 1 | ○ | 2 | | 人間学科目 |
| | インテリア計画論 | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 住環境論 | 3 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 道具計画論 | 3 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 基礎設計製図 | 1 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 住環境設計演習Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 住環境設計演習Ⅱ | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 保育学（実習を含む。） | 保育学Ｂ(実習及び家庭看護を含む) | 3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目 |
| | | 合計 | | 18 | 42 | |

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修のすべての科目と、選択科目より10単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　★生活栄養学科

高等学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。） | 生活経営論 | 3 | ○ | 2 | | |
| | 消費生活論 | 1 | | 2 | | |
| 被服学（被服製作実習を含む。） | 被服学 | 2･3 | ○ | 2 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年度開講） |
| | 服飾製作実習 | 2 | | 1 | | 教職用科目<br>隔年開講（偶数年度開講） |
| | 比較衣装論 | 1 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 生活素材論 | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 服飾デザイン論 | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 服飾デザイン演習Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 服飾造形論 | 3 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。） | 基礎栄養学Ⅰ | 1 | ○ | 2 | | 2009（H21）以前入学生は「栄養学総論」 |
| | 食品学総論 | 1 | | 2 | | |
| | 食品の調理と加工 | 2 | | 2 | | |
| | 嗜好と調理実習Ⅰ | 1 | | 1 | | |
| | 応用栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | 2009（H21）以前入学生は「栄養学各論」 |
| | 応用栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 臨床栄養学Ⅱ | 3 | | | 2 | |
| | 公衆栄養学 | 3 | | | 2 | |
| | 食品機能科学 | 3 | | | 2 | |
| | 食品衛生学 | 2 | | | 2 | |
| | 栄養生化学 | 1 | | | 2 | |
| | 比較食文化論 | 1 | | | 2 | |
| | 疾病と栄養 | 3 | | | 2 | |
| 住居学 | 比較住居論 | 1 | ○ | 2 | | 人間学科目 |
| | インテリア計画論 | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 住環境論 | 3 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 道具計画論 | 3 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 基礎設計製図 | 1 | | 2 | | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 住環境設計演習Ⅰ | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| | 住環境設計演習Ⅱ | 2 | | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 保育学（実習を含む。） | 保育学B（実習及び家庭看護を含む） | 3･4 | ○ | 2 | | 教職用科目 |
| 家庭電気・機械及び情報処理 | 家庭電気・機械（情報処理を含む） | 2～4 | ○ | 2 | | 教職用科目 |
| | | 合計 | | 22 | 40 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。
（注2）必修のすべての科目と、選択科目より14単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　　★人間関係学科

中学校教諭一種免許（社会）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 日本史及び外国史 | 日本史概説 | 1･2 | ○ | 2 | | 地域文化学科専門科目 |
| | 日本社会論 | 1･2 | | 2 | | |
| | 東洋史概説 | 1･2 | | 2 | | 地域文化学科専門科目 |
| | 西洋史概説 | 2･3 | | 2 | | 地域文化学科専門科目 |
| 地理学（地誌を含む。） | 人文地理学Ａ | 1･2 | ○ | 2 | | 地域文化学科専門科目 |
| | 自然地理学 | 3･4 | | 2 | | 地域文化学科専門科目 |
| | 地誌学 | 3･4 | | 2 | | 地域文化学科専門科目 |
| | 人文地理学Ｂ | 2･3･4 | | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 法律学、政治学 | 法学概論(国際法を含む) | 2 | ○ | 2 | | |
| | 政治学Ⅰ | 2 | | | 2 | |
| | 政治学Ⅱ(国際政治を含む) | 2 | | | 2 | |
| | 地域運動論 | 3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年度開講） |
| 社会学、経済学 | 社会学概論 | 1･2 | ○ | 2 | | |
| | 政治経済学 | 3･4 | | 2 | | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 社会変動論 | 3･4 | | | 2 | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 社会調査論 | 1 | | | 2 | |
| | 人間行動論 | 1 | | | 2 | |
| | 社会問題の社会学 | 2 | | | 2 | |
| | 現代社会福祉論 | 3･4 | | | 2 | |
| | 社会・経済政策論 | 3･4 | | | 2 | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 組織とネットワークの社会学 | 3･4 | | | 2 | |
| | 社会学演習 | 2 | | | 2 | |
| | 行動論演習 | 2 | | | 2 | |
| | 形成論演習 | 2 | | | 2 | |
| 哲学、倫理学、宗教学 | 哲学概論Ａ | 2･3 | ○ | 2 | | |
| | 哲学概論Ｂ | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 比較宗教論 | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | | 合計 | | 22 | 32 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より6単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　★人間関係学科

高等学校教諭一種免許（公民）に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。） | 法学概論(国際法を含む) | 2 | ○ | 2 | | |
| | 政治学Ⅰ | 2 | | 2 | | |
| | 政治学Ⅱ(国際政治を含む) | 2 | | 2 | | |
| | 地域運動論 | 3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年度開講） |
| 社会学、経済学（国際経済を含む。） | 社会学概論 | 1･2 | ○ | 2 | | |
| | 政治経済学 | 3･4 | | 2 | | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 社会変動論 | 3･4 | | 2 | | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 社会調査論 | 1 | | 2 | | |
| | 人間行動論 | 1 | | | 2 | |
| | 社会問題の社会学 | 2 | | | 2 | |
| | 現代社会福祉論 | 3･4 | | | 2 | |
| | 社会・経済政策論 | 3･4 | | | 2 | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 組織とネットワークの社会学 | 3･4 | | | 2 | |
| | 社会学演習 | 2 | | | 2 | |
| | 行動論演習 | 2 | | | 2 | |
| | 形成論演習 | 2 | | | 2 | |
| 哲学、倫理学、宗教学、心理学 | 哲学概論A | 2･3 | ○ | 2 | | |
| | 心理学基礎 | 1 | | 2 | | |
| | 哲学概論B | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 比較宗教論 | 2･3 | | | 2 | 隔年開講（奇数年度開講） |
| | 臨床心理学 | 3･4 | | 2 | | |
| | 社会心理学 | 2 | | | 2 | |
| | 高齢者行動論 | 3･4 | | | 2 | 隔年開講（偶数年度開講） |
| | | 合計 | | 20 | 26 | |

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修のすべての科目と、選択科目より16単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　★国際コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許(英語)に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 英語学 | 英語学概論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | 現代英文法 | 2 | | | 2 | |
| | 英語音声学 | 2 | | | 2 | |
| | 言語学概論 | 1 | | | 2 | |
| 英米文学 | 英米文学概論 | 2 | ○ | 2 | | |
| | 英米文学講読 | 3 | | | 2 | |
| 英語コミュニケーション | リスニング（中級） | 2 | ○ | 2 | | |
| | 実践英語対策講座 | 1 | | | 2 | |
| | リーディング（中級） | 1 | | | 2 | |
| | 留学英語対策講座Ⅰ | 1 | | | 2 | |
| | 英語表現法 | 2 | | | 2 | |
| | 時事英語 | 2 | | | 2 | |
| | エッセイ・ライティング | 2 | | | 2 | |
| | メディアの英語 | 3 | | | 2 | |
| | アカデミック・リスニング | 3 | | | 2 | |
| 異文化理解 | 国際コミュニケーション論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | イングリッシュレクチャーA | 1 | | | 2 | |
| | イングリッシュレクチャーB | 2 | | | 2 | |
| | 欧米文化論C | 2 | | | 2 | |
| | 欧米文化論D | 2 | | | 2 | |
| | | 合計 | | 8 | 32 | |

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修のすべての科目と、選択科目より20単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　★国際コミュニケーション学科

高等学校教諭一種免許(英語)に係る教科に関する科目

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 包括科目 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 必修 | 選択 | |
| 英語学 | 英語学概論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | 現代英文法 | 2 | | | 2 | |
| | 英語音声学 | 2 | | | 2 | |
| | 言語学概論 | 1 | | | 2 | |
| 英米文学 | 英米文学概論 | 2 | ○ | 2 | | |
| | 英米文学講読 | 3 | | | 2 | |
| 英語コミュニケーション | リスニング（中級） | 2 | ○ | 2 | | |
| | 実践英語対策講座 | 1 | | | 2 | |
| | リーディング（中級） | 1 | | | 2 | |
| | 留学英語対策講座Ⅰ | 1 | | | 2 | |
| | 英語表現法 | 2 | | | 2 | |
| | 時事英語 | 2 | | | 2 | |
| | エッセイ・ライティング | 2 | | | 2 | |
| | メディアの英語 | 3 | | | 2 | |
| | アカデミック・リスニング | 3 | | | 2 | |
| 異文化理解 | 国際コミュニケーション論 | 1 | ○ | 2 | | |
| | イングリッシュレクチャーＡ | 1 | | | 2 | |
| | イングリッシュレクチャーＢ | 2 | | | 2 | |
| | 欧米文化論Ｃ | 2 | | | 2 | |
| | 欧米文化論Ｄ | 2 | | | 2 | |
| | | 合計 | | 8 | 32 | |

(注1)一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2)必修のすべての科目と、選択科目より28単位以上を修得しなければならない。

# 人間看護学部における養護教諭免許の取得について

◆養護教諭一種免許取得のための科目履修方法について
・次表および次ページの「教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目」、「教職に関する科目」、「養護に関する科目」をすべて履修してください。（すべて必修）

◆教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目◆

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 単位数 | 本学開講科目 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 日本国憲法 | ２ | ○憲法 | ２ | 人間学・教職科目 |
| 体育 | ２ | ○健康・体力科学Ⅰ<br>○健康・体力科学Ⅱ | １<br>１ | 全学共通基礎科目 |
| 外国語コミュニケーション | ２ | ○英語ⅡＡ、英語ⅡＢ（各１単位） | ２ | 全学共通基礎科目 |
| 情報機器の操作 | ２ | ○情報リテラシー（情報倫理を含む） | ２ | 全学共通基礎科目 |

◆教職に関する科目◆

| 免許法施行規則に定める科目区分 | | 免許法による必修単位 | 本学開講科目 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|
| 科目 | 各科目に含める必要事項 | | 配当年次は１～４年次 | |
| 教職の意義等に関する科目 | ・教職の意義及び教員の役割<br>・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）<br>・進路選択に資する各種の機会の提供等 | ２ | ○教職論 | ２ |
| 教育の基礎理論に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | ４ | ○教育学概論 | ２ |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | | ○教育心理学 | ２ |
| | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | | ○教育制度論 | ２ |
| 教育課程に関する科目 | ・教育課程の意義及び編成の方法 | ４ | ○教育課程論 | ２ |
| | ・道徳及び特別活動に関する内容 | | ○特別活動論 | ２ |
| | ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | ○教育方法論 | ２ |
| 生徒指導及び教育相談に関する科目 | ・生徒指導の理論及び方法 | ４ | ○生徒指導論 | ２ |
| | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | ○教育相談・進路指導 | ２ |
| 養護教育実習 | | ５ | ○教育実習・事前事後指導　（養護） | ５ |
| 教職実践演習 | | ２ | ○教職実践演習（養護）<br>※4 年次後期 | ２ |
| 合　　計 | | ２１ | 本学では２５単位 必修 | |

・「教育実習・事前事後指導」について

①履修登録は、３年後期および４年前期とも必ず行うこと。
②事前指導は、教育実習実施前（３年次）の２～３月頃に実施します。
③事後指導は、教育実習終了後（４年次）に実施します。
④「教育実習」は、原則として、４年次に出身校または彦根市内の協力校において３週間実施する予定です。
⑤教育実習参加の基礎要件
教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。
「憲法」、「教職論」、「教育学概論」、「教育方法論」、「学校保健論」、「学校看護論」を履修済か履修中であること。

・ **「教職実践演習（養護）」について**
　４年次後期に履修すること。
・ それ以外の「教職に関する科目」については年次配当の規定はありませんので、年度当初に配布する時間割表で十分に確認し、低年次にできるだけ履修してください。

◆養護教諭二種免許取得のための科目履修方法について
・ 保健師国家試験受験資格に必要な科目および人間学科目である「憲法」を履修してください。
・ 「憲法」は１・２年次に履修してください（3 年次には各論実習、4 年次には公衆衛生看護学実習と重複するため履修できない場合があります)。
・ 保健師資格を取得後、在住する教育委員会に申請することで二種免許を取得することができます。

人間看護学部　★人間看護学部

養護教諭一種免許に係る養護に関する科目

（1）2012（平成24）年度以降入学生用、2014（平成26）年度以降編入生用

| 法規上の科目区分 | 授業科目の名称 | 開講年次 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。） | 公衆衛生学 | 2 | 2 | | |
| | 疫学 | 2 | 2 | | |
| 学校保健 | 学校保健論 | 3 | 2 | | 教職用科目 |
| 養護概説 | 学校看護論 | 3 | 2 | | 教職用科目 |
| 健康相談活動の理論及び方法 | 公衆衛生看護学Ⅰ | 3･4 | | 2 | いずれか1科目を選択 |
| | 健康教育論 | 3･4 | | 2 | |
| | 公衆衛生看護学概論 | 2 | 2 | | |
| 栄養学（食品学を含む。） | 栄養と人間 | 1 | 2 | | |
| 解剖学及び生理学 | 体のしくみと機能Ⅰ | 1 | 2 | | |
| | 体のしくみと機能Ⅱ | 1 | 2 | | |
| | 体のしくみと機能Ⅲ | 1 | 2 | | |
| 「微生物学、免疫学、薬理概論」 | 健康科学Ⅰ | 1 | 2 | | |
| | 健康科学Ⅱ | 1 | 2 | | |
| | 薬理学 | 2 | 2 | | |
| 精神保健 | メンタルヘルスケア | 1 | 2 | | |
| | 精神臨床看護学実習 | 3 | 2 | | |
| 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。） | 小児臨床看護学 | 2 | 2 | | |
| | 成人臨床看護学 | 2 | 2 | | |
| | 小児臨床看護学実習 | 3 | 2 | | |
| | 成人クリティカルケア実習 | 3 | 2 | | |
| | 人間看護学概論 | 1 | 2 | | |
| | 看護理論 | 2 | 2 | | |
| | 基礎看護技術Ⅰ | 1 | 1 | | |
| | 基礎看護技術Ⅲ | 2 | 1 | | |
| | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 1 | | |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 2 | | |
| 養護または教職に関する科目 | 小児看護学概論 | 1 | 1 | | |
| | 成人看護学概論 | 1 | 1 | | |
| | 精神臨床看護学演習 | 3 | 1 | | |
| | 小児臨床看護学演習 | 3 | 1 | | |
| | 成人クリティカルケア演習 | 3 | 1 | | |
| | 基礎看護技術Ⅱ | 1 | 1 | | |
| | 基礎看護技術Ⅳ | 2 | 2 | | |
| | | 合計 | 45 | 4 | |

（注1）必修のすべての科目と、選択科目より2単位以上を修得しなければならない。

# 生活栄養学科における栄養教諭免許の取得について

◆栄養教諭一種免許取得のための科目履修方法について

- 次表の「教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目」、「教職に関する科目」、「栄養に係る教育に関する科目」をすべて履修してください。(すべて必修)
- 栄養教諭免許の取得には、栄養士免許の取得および管理栄養士養成課程の修了が必要となります。

◆教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目◆

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 単位数 | 本学開講科目 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法 | 2 | 人間学・教職科目 |
| 体育 | 2 | ○健康・体力科学Ⅰ<br>○健康・体力科学Ⅱ | 1<br>1 | 全学共通基礎科目 |
| 外国語コミュニケーション | 2 | ○英語ⅡＡ、英語ⅡＢ（各１単位） | 2 | 全学共通基礎科目 |
| 情報機器の操作 | 2 | ○情報リテラシー（情報倫理を含む） | 2 | 全学共通基礎科目 |

◆教職に関する科目◆

| 免許法施行規則に定める科目区分 | | 免許法による必修単位 | 本学開講科目<br>配当年次はP. ●表を参照 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|
| 科目 | 各科目に含める必要事項 | | | |
| 教職の意義等に関する科目 | ・教職の意義及び教員の役割<br>・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）<br>・進路選択に資する各種の機会の提供等 | 2 | ○教職論 | 2 |
| 教育の基礎理論に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 4 | ○教育学概論 | 2 |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | | ○教育心理学 | 2 |
| | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | | ○教育制度論 | 2 |
| 教育課程に関する科目 | ・教育課程の意義及び編成の方法 | 4 | ○教育課程論 | 2 |
| | ・道徳及び特別活動に関する内容 | | ○道徳教育論<br>○特別活動論 | 2<br>2 |
| | ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | ○教育方法論 | 2 |
| 生徒指導及び教育相談に関する科目 | ・生徒指導の理論及び方法 | 4 | ○生徒指導論 | 2 |
| | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | ○教育相談・進路指導 | 2 |
| 栄養教育実習 | | 2 | ○栄養教育実習・事前事後指導 | 2 |
| 教職実践演習 | | 2 | ○教職実践演習（栄養）<br>※４年次後期 | 2 |
| 合　　計 | | １８ | 本学では２４単位 必修 | |

◆栄養に係る教育に関する科目◆

| 授業科目の名称 | 開講年次 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ○学校栄養指導論 | ２・３ | 2 | | 教職用科目　隔年開講（偶数年度開講） |
| ○食生活教育論 | ２・３ | 2 | | 教職用科目　隔年開講（奇数年度開講） |

・「栄養教育実習・事前事後指導」について

①履修登録は、３年後期および４年前期とも必ず行うこと。

②事前指導は、栄養教育実習実施前（３年次）に実施します。実施日は、掲示により連絡します。

③事後指導は、栄養教育実習終了後（４年次）に実施します。実施日は、掲示により連絡します。

④「栄養教育実習」は、原則として、４年次に県内の協力校において１週間実施する予定です。

⑤教育実習参加の基礎要件

教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。

「憲法」、「教職論」、「教育方法論」、「教育学概論」、「学校栄養指導論」、「食生活教育論」を履修済か履修中であること。

・ 「教職実践演習（栄養)」について

４年次後期に履修すること。

# ３　「学芸員」の資格取得について

学芸員は、博物館の専門職員です。学芸員の資格は、「博物館法」に基づいて授与されます。
学芸員となるための資格は、「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」となっています。
本学においては、学芸員の資格取得に必要な授業科目は別表１、２に示されています。

履修にあたっては、次の点に留意してください。

①学芸員の資格を取得する者は、必修の全ての科目と、選択科目より１０単位以上を修得しなければならない。なお、必修科目「博物館学概論」は、２回生で履修すること。
②４年次開講の「博物館実習」を履修しようとする者は、原則として３回生までに「博物館学概論」、「博物館資料論」、「博物館情報・メディア論」および「生涯学習論」を含む１０単位以上を修得していなければならない。
③学内実習施設の都合により、４年次開講の「博物館実習」の受講人数を制限する場合があります。

別表１　　学芸員の資格取得に必要な授業科目（環境科学部）　※2015(平成27)年度入学生用

| 授業科目の名称 | 開講年次 | 単位数 | | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | |
| 博物館学概論 | 2 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館経営論 | 3･4 | 2 | | 人間文化学部地域文化学科専門科目 |
| 博物館資料論 | 2･3 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館資料保存論 | 3･4 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館展示論 | 3･4 | 2 | | 人間文化学部地域文化学科専門科目 |
| 博物館教育論 | 3･4 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 生涯学習論 | 2 | 2 | | 人間文化学部人間関係学科専門科目 |
| 博物館情報・メディア論 | 2･3 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館実習 | 4 | 3 | | 学芸員用科目 |
| 自然保護論 | 1･2･3･4 | | 2 | 人間学 |
| 環境科学概論Ⅰ | 1 | | 2 | 環境科学部学部共通基礎科目 |
| 環境科学概論Ⅱ | 1 | | 2 | 環境科学部学部共通基礎科目 |
| 環境生物学Ⅰ | 1 | | 2 | 環境生態学科,環境計画・政策学科,生物資源管理学科専門科目 |
| 環境生物学Ⅱ | 2 | | 2 | 環境生態学科,生物資源管理学科専門科目 |
| 環境地球科学Ⅰ | 2 | | 2 | 環境科学部複数学科共通科目 |
| 河川環境学 | 2 | | 2 | 環境科学部複数学科共通科目 |
| 森林環境学 | 2 | | 2 | 環境生態学科,環境計画・政策学科,生物資源管理学科専門科目 |
| 遺伝学 | 2 | | 2 | 環境生態学科,生物資源管理学科専門科目 |
| 湖沼環境学 | 2 | | 2 | 環境科学部複数学科共通科目 |
| 動物生態学 | 2 | | 2 | 環境生態学科,環境計画・政策学科,生物資源管理学科専門科目 |
| 分子生物学 | 3 | | 2 | 環境生態学科,生物資源管理学科専門科目 |
| 陸域環境影響調査指針 | 3 | | 2 | 環境科学部複数学科共通科目 |
| 集水域環境影響調査指針 | 3 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 水域環境影響調査指針 | 3 | | 2 | 環境科学部複数学科共通科目 |
| 陸域生態系保全修復論 | 3 | | 2 | 環境科学部複数学科共通科目 |
| 集水域生態系保全修復論 | 3 | | 2 | 環境科学部複数学科共通科目 |
| 水域生態系保全修復論 | 3 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 植物生産学 | 1 | | 2 | 生物資源管理学科専門科目 |
| 琵琶湖環境学 | 1 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 環境地球科学Ⅱ | 2 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 環境変遷史 | 1 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 海洋環境学 | 2 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 大気環境学 | 2 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 集水域環境学 | 2 | | 2 | 環境生態学科専門科目 |
| 動物資源管理学 | 3 | | 2 | 生物資源管理学科専門科目 |
| 植物資源管理学 | 2 | | 2 | 生物資源管理学科専門科目 |
| 水産資源学 | 2 | | 2 | 生物資源管理学科専門科目 |

※別表は2015(平成27)年度入学生用です。2014(平成26)年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第３章「資格取得等の手引」の該当部分を参照してください。

別表２　　学芸員の資格取得に必要な授業科目（人間文化学部）　※平成27年度入学生用

| 授業科目の名称 | 開講年次 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 博物館学概論 | 2 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館経営論 | 3･4 | 2 | | 人間文化学部地域文化学科専門科目 |
| 博物館資料論 | 2･3 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館資料保存論 | 3･4 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館展示論 | 3･4 | 2 | | 人間文化学部地域文化学科専門科目 |
| 博物館教育論 | 3･4 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 生涯学習論 | 2 | 2 | | 人間文化学部人間関係学科専門科目 |
| 博物館情報・メディア論 | 2･3 | 2 | | 学芸員用科目 |
| 博物館実習 | 4 | 3 | | 学芸員用科目 |
| 日本文化論 | 1・2 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 考古学 | 1・2 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 考古学特論Ｂ | 3・4 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 民俗学 | 1・2 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 西洋史概説 | 2･3 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 芸術学 | 1・2 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 美術史Ａ | 2･3･4 | | 2 | 地域文化学科専門科目　＊隔年開講（偶数年度開講） |
| 美術史Ｂ | 2･3･4 | | 2 | 地域文化学科専門科目　＊隔年開講（奇数年度開講） |
| 人文地理学Ａ | 1・2 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 人文地理学Ｂ | 2･3･4 | | 2 | 地域文化学科専門科目 |
| 文化財・保存修景論Ａ | 2･3 | | 2 | 地域文化学科専門科目　＊隔年開講（偶数年度開講） |
| 文化財・保存修景論Ｂ | 3・4 | | 2 | 地域文化学科専門科目　＊隔年開講（奇数年度開講） |
| 比較住居論 | 1 | | 2 | 人間学、人間文化学部専門科目 |
| 比較道具論 | 1 | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 比較衣装論 | 1 | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 比較食文化論 | 1 | | 2 | 生活栄養学科専門科目 |
| 考現学概論 | 1 | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 道具デザイン史 | 3 | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 |
| 現代産業デザイン論 | 3 | | 2 | 生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目　＊隔年開講（偶数年度開講） |

※別表は2015(平成27)年度入学生用です。2014(平成26)年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第３章「資格取得等の手引」の該当部分を参照してください。

# ４　「栄養士」の免許取得と「管理栄養士受験資格」について

栄養士の免許は、「栄養士法」に基づいて授与されます。本学において栄養士の免許取得に必要な授業科目は、以下の別表1に示されています。なお、栄養士の免許を取得できるのは、人間文化学部生活栄養学科の学生に限られています。

「管理栄養士受験資格」は、別表2に示された管理栄養士受験資格取得に必要な授業科目の単位を取得するか、あるいは栄養士免許の取得後、1年の栄養士実務経験を経れば与えられます。

単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

以下の別表1，別表2は、2012(平成24)年度入学生から適用されます。2011(平成23)年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得等の手引」の該当部分を参照してください。

別表1　栄養士の免許取得に必要な授業科目(2012(平成24)年度入学生から適用)

| 栄養士法施行規則別表１ | | | 本学の授業科目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育内容 | 単位数 | | 授業科目 | 単位数 | | | |
| | 講義演習 | 実験演習 | | 講義演習 | 実験演習 | 講義演習計 | 実験演習計 |
| 社会生活と健康 | 4 | 4 | 公衆衛生学 | 2 | | 4 | 5 |
| | | | 社会福祉概論 | 2 | | | |
| 人体の構造と機能 | 8 | | 生体の構造と機能 | 2 | | 8 | |
| | | | 疾病の成り立ち（含疾病と微生物） | 2 | | | |
| | | | 病態生理学実習 | | 1 | | |
| | | | 運動と健康 | 2 | | | |
| | | | 栄養生化学 | 2 | | | |
| | | | 栄養生化学実験 | | 1 | | |
| 食品と衛生 | 6 | | 食品学総論 | 2 | | 6 | |
| | | | 食品機能科学 | 2 | | | |
| | | | 食品基礎実験 | | 1 | | |
| | | | 食品機能科学実験 | | 1 | | |
| | | | 食品衛生学 | 2 | | | |
| | | | 食品衛生学実験 | | 1 | | |
| 栄養と健康 | 8 | 10 | 基礎栄養学Ⅰ | 2 | | 12 | 12 |
| | | | 基礎栄養学Ⅱ | 2 | | | |
| | | | 基礎栄養学実験 | | 1 | | |
| | | | 応用栄養学Ⅰ | 2 | | | |
| | | | 応用栄養学Ⅱ | 2 | | | |
| | | | 応用栄養学実習 | | 1 | | |
| | | | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | | |
| | | | 臨床栄養学Ⅱ | 2 | | | |
| | | | 臨床栄養学実習Ⅰ | | 1 | | |
| | | | 臨床栄養学実習Ⅱ | | 1 | | |
| 栄養の指導 | 6 | | 栄養教育論Ⅰ | 2 | | 6 | |
| | | | 栄養教育論実習 | | 1 | | |
| | | | 栄養教育論Ⅱ | 2 | | | |
| | | | 公衆栄養学 | 2 | | | |
| | | | 公衆栄養学実習 | | 1 | | |
| 給食の運営 | 4 | | 食品の調理と加工 | 2 | | 8 | |
| | | | 食品加工実習 | | 1 | | |
| | | | 嗜好と調理実習Ⅰ | | 1 | | |
| | | | 嗜好と調理実習Ⅱ | | 1 | | |
| | | | 給食経営管理論 | 2 | | | |
| | | | 給食経営管理実習（校内実習） | | 1 | | |
| | | | 給食衛生管理実習（校内実習） | | 1 | | |
| | | | 給食経営管理臨地実習（校外実習） | | 1 | | |
| | | | 食料経済システム論 | 2 | | | |
| | | | 比較食文化論 | 2 | | | |
| 小計 | 36 | 14 | 小計 | 44 | 17 | 44 | 17 |
| 合計 | 50 | | 合計 | | | 61 | |

別表2　管理栄養士受験資格に必要な授業科目(2012(平成24)年度入学生から適用)

| 教育内容 | | 単位数 | | 科目名 | 単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義又は演習 | 実験又は実習 | | 講義又は演習 | 実験又は実習 |
| 専門基礎分野 | 社会・環境と健康 | 6 | 10 | 社会福祉概論 | 2 | |
| | | | | 生命科学と人間 | 2 | |
| | | | | 健康心理学 | 2 | |
| | | | | 公衆衛生学 | 2 | |
| | | | | 人間行動論 | 2 | |
| | | | | 健康情報管理実習 | | 1 |
| | | | | 社会・環境と健康の小計 | 10 | 1 |
| | 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち | 14 | | 生体の構造と機能 | 2 | |
| | | | | 分子生物学基礎 | 2 | |
| | | | | 疾病の成り立ち（含疾病と微生物） | 2 | |
| | | | | 病態評価と治療 | 2 | |
| | | | | 運動と健康 | 2 | |
| | | | | 疾病と栄養 | 2 | |
| | | | | 栄養生化学 | 2 | |
| | | | | 病態生理学実習 | | 1 |
| | | | | 栄養生化学実験 | | 1 |
| | | | | 栄養生理学実習 | | 1 |
| | | | | 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの小計 | 14 | 3 |
| | 食べ物と健康 | 8 | | 比較食文化論 | 2 | |
| | | | | 食品学総論 | 2 | |
| | | | | 食品機能科学 | 2 | |
| | | | | 食品衛生学 | 2 | |
| | | | | 食品の調理と加工 | 2 | |
| | | | | 食品基礎実験 | | 1 |
| | | | | 食品機能科学実験 | | 1 |
| | | | | 食品衛生学実験 | | 1 |
| | | | | 嗜好と調理実習Ⅰ | | 1 |
| | | | | 嗜好と調理実習Ⅱ | | 1 |
| | | | | 食品加工実習 | | 1 |
| | | | | 食べ物と健康の小計 | 10 | 6 |
| | 小計 | 28 | 10 | 専門基礎分野小計 | 34 | 10 |

| 教育内容 | | 単位数 | | 科目名 | 単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 講義又は演習 | 実験又は実習 | | 講義又は演習 | 実験又は実習 |
| 専門分野 | 基礎栄養学 | 2 | 8 | 基礎栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | | 基礎栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | | 基礎栄養学実験 | | 1 |
| | | | | 基礎栄養学の小計 | 4 | 1 |
| | 応用栄養学 | 6 | | 応用栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | | 応用栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | | 栄養と健康 | 2 | |
| | | | | スポーツ栄養学 | 2 | |
| | | | | 応用栄養学実習 | | 1 |
| | | | | 応用栄養学の小計 | 8 | 1 |
| | 栄養教育論 | 6 | | 栄養教育論Ⅰ | 2 | |
| | | | | 栄養教育論Ⅱ | 2 | |
| | | | | 栄養教育論Ⅲ | 2 | |
| | | | | （含カウンセリング論演習） | | |
| | | | | 栄養教育論実習 | | 1 |
| | | | | 栄養教育論の小計 | 6 | 1 |
| | 臨床栄養学 | 8 | | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | | 臨床栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | | 臨床栄養学Ⅲ | 2 | |
| | | | | 臨床栄養活動論 | 2 | |
| | | | | 臨床栄養学実習Ⅰ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養学実習Ⅱ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養学実習Ⅲ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養学の小計 | 8 | 3 |
| | 公衆栄養学 | 4 | | 公衆栄養学 | 2 | |
| | | | | 栄養疫学論 | 2 | |
| | | | | 公衆栄養学実習 | | 1 |
| | | | | 公衆栄養学の小計 | 4 | 1 |
| | 給食経営管理論 | 4 | | 給食経営管理論 | 2 | |
| | | | | 食料経済システム論 | 2 | |
| | | | | 給食経営管理実習 | | 1 |
| | | | | 給食衛生管理実習 | | 1 |
| | | | | 給食経営管理論の小計 | 4 | 2 |
| | 総合演習 | 2 | | 管理栄養士総合演習 | 1 | |
| | | | | 臨地実習事前事後指導 | 1 | |
| | | | | 総合演習の小計 | 2 | |
| | 臨地実習 | | 4 | 地域保健臨地実習 | | 1 |
| | | | | 給食経営管理臨地実習 | | 1 |
| | | | | 臨床栄養臨地実習Ⅰ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養臨地実習Ⅱ | | 1 |
| | | | | 臨地実習の小計 | | 4 |
| | 小計 | 32 | 12 | 専門分野の小計 | 36 | 13 |
| 合計 | | 82 | | 合計 | 93 | |

# ５　「ＮＲ・サプリメントアドバイザー受験資格」について

NR・サプリメントアドバイザーは、一般社団法人日本臨床栄養協会の認定制度であり、「消費者に対して保健機能食品、サプリメントについて、専門的観点から個人個人の栄養状態を評価し、適切にアドバイスできる者」として、一般社団法人日本臨床栄養協会によって認定されます。生活栄養学科の学生は、Ａの講義科目の履修とＢの集中講座を履修して卒業することでＮＲ・サプリメントアドバイザーの受験資格を取得できます。

## Ａ　講義科目　（ＮＲ・サプリメントアドバイザー認定試験の受験資格を取得するために養成講座において履修すべき科目）

| 科目名 | 学年 | 科目名 | 学年 |
|---|---|---|---|
| 健康情報管理実習 | 1 | 栄養教育論Ⅰ | 2 |
| 疾病と栄養 | 3 | 栄養教育論Ⅲ | 3 |
| 疾病の成り立ち | 2 | 給食衛生管理実習 | 3 |
| 食品機能科学 | 1 | 公衆栄養学 | 3 |
| 食品の調理と加工 | 2 | 食品衛生学 | 2 |
| 食料経済システム論 | 3 | 臨床栄養学Ⅰ | 2 |
| 栄養教育論Ⅱ | 3 | 臨床栄養学Ⅱ | 3 |
| 栄養疫学論 | 3 | | |

## Ｂ　ＮＲ・サプリメントアドバイザー養成集中講座

この講座は、人間文化学部生活栄養学科の学生を対象に、ＮＲ・サプリメントアドバイザー認定試験　　合格を目指し、受験対策を目的に開講するものである。

受講対象：滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科（３～４回生での受講が望ましい）
受講期間：隔年開講（年度始めに案内する）集中講義期間　（奇数年度不開講、偶数年度開講）
単位数　：１０単位（45分を1単位とする。）

| 分野 | 科目 | 単位 |
|---|---|---|
| 1.臨床医学 | 診察の基本手技と検査の基本 | 1 |
| ・薬学特論 | 薬の作用と生命内運命 | 1 |
| | 医薬品開発の流れ | 1 |
| | 生薬・漢方薬 | 1 |
| | 「健康食品」の有効性評価 | 1 |
| | 「健康食品」の安全性評価 | 1 |
| | 特定保健用食品の市販後評価 | 1 |
| 2.ＮＲ・サプリメント | ＮＲ・サプリメントアドバイザー業務のあり方 | 1 |
| アドバイザー倫理 | ＮＲ・サプリメントアドバイザーの果たすべき役割 | 1 |
| 3.関連法規 | 特定保健用食品の申請から認可まで | 1 |

# ６「一級建築士受験資格」および「二級・木造建築士受験資格」について（環境建築デザイン学科）

環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し､かつ表１に示す所定の単位数を取得すると、取得単位数に応じて、２～４年の実務経験を経て「一級建築士受験資格」が与えられます。

また、環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し、かつ表２に示す所定の単位数を取得すると、自動的に（実務経験なしで）「二級・木造建築士受験資格」が与えられます。

表１　「一級建築士受験資格」の取得に必要な科目・単位数

| 分類 | 授業科目 | 必修・選択 | 単位数 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|
| ①建築設計製図 | 設計演習Ⅰ | 必修 | 3 | 9単位 |
| | 設計演習Ⅱ | 必修 | 3 | |
| | 設計演習Ⅲ | 必修 | 3 | |
| ②建築計画 | 環境設計Ⅰ | 選択 | 2 | 8単位以上 |
| | 環境設計Ⅱ | 選択 | 2 | |
| | 内部空間論 | 選択 | 2 | |
| | 都市・地域計画 | 選択 | 2 | |
| | 日本建築史 | 選択 | 2 | |
| | アジア建築史 | 選択 | 2 | |
| | 西洋建築・思潮史 | 選択 | 2 | |
| ③建築環境工学 | 建築環境工学 | 必修 | 2 | 2単位以上 |
| | 建築環境工学演習 | 選択 | 2 | |
| ④建築設備 | 環境設備 | 必修 | 2 | 2単位 |
| ⑤構造力学 | 構造力学Ⅰ | 必修 | 2 | 4単位 |
| | 構造力学Ⅱ | 必修 | 2 | |
| ⑥建築一般構造 | 建築一般構造 | 選択 | 2 | 4単位 |
| | 構造計画 | 必修 | 2 | |
| ⑦建築材料 | 構造材料実験 | 必修 | 2 | 2単位 |
| ⑧建築生産 | 建築生産施工 | 必修 | 2 | 2単位 |
| ⑨建築法規 | 建築法規 | 必修 | 2 | 2単位 |
| ⑩その他 | 環境技術史 | 選択 | 2 | 適宜 |
| | 環境技術 | 選択 | 2 | |
| | サスティナブルデザイン論 | 選択 | 2 | |
| | 景観計画 | 選択 | 2 | |
| | ランドスケープ・デザイン | 選択 | 2 | |
| | 環境行動論 | 選択 | 2 | |
| | 環境・建築デザイン概論 | 必修 | 2 | |
| | イメージ表現法 | 必修 | 2 | |
| | 地域環境計画 | 選択 | 2 | |
| | CAD演習Ⅰ | 必修 | 2 | |
| | 設計基礎演習 | 必修 | 2 | |
| | 環境共生論 | 選択 | 2 | |
| | 環境造形論 | 選択 | 2 | |
| | 環境職能論 | 選択 | 2 | |
| ①～⑩の合計単位数 | | 実務経験２年 | | 60単位以上 |
| | | 実務経験３年 | | 50単位以上（60単位未満） |
| | | 実務経験４年 | | 40単位以上（50単位未満） |

表２　「二級・木造建築士受験資格」の取得に必要な科目・単位数

| 分類 | 授業科目 | 必修・選択 | 単位数 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|
| ①建築設計製図 | 設計演習Ⅰ | 必修 | 3 | 9単位 |
| | 設計演習Ⅱ | 必修 | 3 | |
| | 設計演習Ⅲ | 必修 | 3 | |
| ②建築計画、<br>建築環境工学<br>または<br>建築設備 | 環境設計Ⅰ | 選択 | 2 | 8単位以上 |
| | 環境設計Ⅱ | 選択 | 2 | |
| | 内部空間論 | 選択 | 2 | |
| | 都市・地域計画 | 選択 | 2 | |
| | 日本建築史 | 選択 | 2 | |
| | アジア建築史 | 選択 | 2 | |
| | 西洋建築・思潮史 | 選択 | 2 | |
| | 建築環境工学 | 必修 | 2 | |
| | 建築環境工学演習 | 選択 | 2 | |
| | 環境設備 | 必修 | 2 | |
| ③構造力学、<br>建築一般構造<br>または<br>建築材料 | 構造力学Ⅰ | 必修 | 2 | 6単位以上 |
| | 構造力学Ⅱ | 必修 | 2 | |
| | 建築一般構造 | 選択 | 2 | |
| | 構造計画 | 必修 | 2 | |
| | 構造材料実験 | 必修 | 2 | |
| ④建築生産 | 建築生産施工 | 必修 | 2 | 2単位 |
| ⑤建築法規 | 建築法規 | 必修 | 2 | 2単位 |
| ⑥その他 | 環境技術史 | 選択 | 2 | 適宜 |
| | 環境技術 | 選択 | 2 | |
| | サスティナブルデザイン論 | 選択 | 2 | |
| | 景観計画 | 選択 | 2 | |
| | ランドスケープ・デザイン | 選択 | 2 | |
| | 環境行動論 | 選択 | 2 | |
| | 環境・建築デザイン概論 | 必修 | 2 | |
| | イメージ表現法 | 必修 | 2 | |
| | 地域環境計画 | 選択 | 2 | |
| | CAD演習Ⅰ | 必修 | 2 | |
| | 設計基礎演習 | 必修 | 2 | |
| | 環境共生論 | 選択 | 2 | |
| | 環境造形論 | 選択 | 2 | |
| | 環境職能論 | 選択 | 2 | |
| ①～⑥の合計単位数 | 実務経験０年 | 40単位以上[注)] | | |

注)　環境科学部環境建築デザイン学科の卒業要件を満たせば、①～⑥の合計単位数は 40 単位を超える。

# 7「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」について（生活デザイン学科）

人間文化学部生活デザイン学科の課程を修了し、かつ以下に示す所定の単位数を取得すると、取得単位数に応じて、０～２年の実務経験を経て、「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」が与えられます。

## 資格の取得に必要な科目

| 分類 | 授業科目名 | 必修・選択 | 単位数 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|
| ①建築設計・製図 | 基礎設計製図 | 選択必修 | 2 | |
| | 住環境設計演習Ⅰ | 選択必修 | 2 | |
| | 住環境設計演習Ⅱ | 選択必修 | 2 | ６単位以上 |
| | 住環境設計演習Ⅲ | 選択必修 | 2 | |
| ②建築計画、建築環境工学または建築設備 | 近代デザイン史 | 選択 | 2 | |
| | 比較住居論 | 選択 | 2 | |
| | インテリア計画論 | 選択 | 2 | |
| | 建築計画論 | 選択 | 2 | ８単位以上 |
| | 空間デザイン論 | 選択 | 2 | |
| | インテリアコーディネート概説 | 選択 | 1 | |
| | 住環境論 | 選択 | 2 | |
| ③構造力学、建築一般構造または建築材料 | 一般構造 | 選択 | 2 | |
| | 構造計画 | 選択 | 2 | ６単位以上 |
| | 構造力学Ⅰ | 選択 | 2 | |
| ④建築生産 | 建築生産施工※1 | 選択 | 2 | ２単位 |
| ⑤建築法規 | 建築法規 | 選択 | 2 | ２単位 |
| ⑥その他 | 考現学概論 | 選択 | 2 | |
| | 色彩学演習 | 選択必修 | 1 | |
| | デジタルデザイン演習 | 選択必修 | 2 | |
| | 人間工学 | 選択 | 2 | 適宜 |
| | 人間工学実習 | 選択 | 1 | |
| | サステナブルデザイン論 | 選択 | 2 | |
| | 文化財・保存修景論A※1 | 選択 | 2 | |
| | 地域文化財論B※1 | 選択 | 2 | |
| | ①～⑥の必要単位数合計 | 実務経験０年 | | ４０単位以上 |
| | | 実務経験１年 | | ３０単位以上（４０単位未満） |
| | | 実務経験２年 | | ２４単位以上（３０単位未満） |

※1 のついた科目は、他学部または他学科の開講科目であることを示します。

# ８　「インテリアプランナー登録資格」について

「インテリアプランナー登録資格」は、インテリアプランナー試験の合格者で下記に示す科目および単位数を履修し、人間文化学部生活デザイン学科の課程を卒業した後、実務経験２年で与えられます。また、二級建築士、木造建築士資格を取得した者は、実務経験なしで登録資格が得られます。

なお、試験は受験年の４月１日現在満２０歳以上であれば誰でも受験できます。

資格取得に必要な科目

| 授業科目 | 単位数 | 必修単位数 |
|---|---|---|
| 色彩学 | 2 | |
| 色彩学演習 | 1 | |
| デッサン法 | 1 | |
| 生活造形基礎演習 | 2 | |
| 現代産業デザイン論 | 2 | |
| 道具デザイン史 | 2 | A |
| 近代デザイン史 | 2 | (36-B-C) |
| 道具計画論 | 2 | 単位以上 |
| 道具デザイン演習Ⅰ | 2 | |
| 道具デザイン演習Ⅱ | 2 | |
| 道具デザイン演習Ⅲ | 2 | |
| 比較住居論 | 2 | |
| サステナブルデザイン論 | 2 | |
| インテリア計画論 | 2 | |
| 建築計画論 | 2 | |
| 空間デザイン論 | 2 | |
| 人間工学 | 2 | |
| 人間工学実習 | 1 | |
| 住環境論 | 2 | B |
| 構造計画 | 2 | (24-C) |
| 構造力学Ⅰ | 2 | 単位以上 |
| 一般構造 | 2 | |
| 建築法規 | 2 | |
| 基礎設計製図 | 2 | |
| デジタルデザイン演習 | 2 | |
| インテリアコーディネート概説 | 1 | |
| 住環境設計演習Ⅰ | 2 | C |
| 住環境設計演習Ⅱ | 2 | 2単位以上 |
| 住環境設計演習Ⅲ | 2 | |

平成 22～26 年度入学生は、入学年度の「履修の手引」を参照してください。

# ９　「社会調査士資格」について

### ◆人間文化学部地域文化学科および人間関係学科

「地域文化学科」および「人間関係学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は、一般財団法人「社会調査協会」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

| 授　業　科　目 | 開講年次 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 統計学基礎 | 1 | 2 | 人間文化学部共通科目 |
| 社会調査論 | 1 | 2 | |
| 社会調査方法論 | 2 | 2 | |
| 量的データ解析論Ⅰ | 2 | 2 | |
| ※質的データ解析論 | 2 | 2 | いずれか１科目選択必修 |
| ※量的データ解析論Ⅱ | ３・４ | | |
| 社会調査実習 | 3 | 1 | |

※ 原則として、地域文化学科は「質的データ解析論」、人間関係学科は「量的データ解析論Ⅱ」を選択すること

※ 「量的データ解析論Ⅰ」、「量的データ解析論Ⅱ」は、平成 22 年度以前入学生については、それぞれ旧科目「社会統計学」、「応用データ解析論」に読み替えます。

### ◆環境科学部環境政策・計画学科

「環境政策・計画学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は一般財団法人「社会調査協会」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

| 授　業　科　目 | 開講年次 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 地域調査法 | 1 | 2 | |
| 地域調査法演習 | 1 | 1 | |
| 基礎統計 | 1 | 2 | |
| 応用統計学Ⅰ | 2 | 2 | |
| 応用統計学Ⅱ | 2 | 2 | |
| 社会調査実習 | 3 | 1 | |

# １０　「GIS 学術士資格」について

「環境政策・計画学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は「公益社団法人日本地理学会」に申請することにより、「ＧＩＳ学術士」の資格を取得することができます。

| 授業科目 | 開講年次 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 情報リテラシー（情報倫理を含む） | １ | ２ | |
| 情報科学概論 | １ | ２ | |
| ＧＩＳ演習 | ２ | １ | |
| 環境フィールドワークⅢ | ３ | ３ | GISを使用すること |
| 卒業研究Ⅰ | ４ | ３ | GISを使用すること |
| 卒業研究Ⅱ | ４ | ３ | GISを使用すること |

# １１「自然再生士補資格」について

下の分野別科目対応表にある科目を、コース１またはコース３の条件を満たして履修・修得し卒業した者が、「財団法人 日本緑化センター」に所定の申請を行った場合に自然再生士補に認定されます。

□分野別科目対応表（環境生態学科）

| 実験・実習(演習)分野 | | 講義分野 | |
|---|---|---|---|
| 指定分野 | 科目 | 指定分野 | 科目 |
| ①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習 | ・環境解析学・同実験<br>・集水域環境学・同実験<br>・陸域環境学・同実験<br>・水域環境学・同実験 | ①自然再生・自然環境概論 | ・環境科学概論Ⅰ<br>・環境科学概論Ⅱ<br>・環境学原論<br>・森林環境学<br>・河川環境学<br>・海洋環境学<br>・大気環境学<br>・集水域環境学<br>・湖沼環境学 |
| ②動・植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む） | | ②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学 | ・陸域環境影響調査指針<br>・集水域環境影響調査指針<br>・水域環境影響調査指針 |
| ③地域環境資源調査に係る実習・演習 | | ③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学 | |
| ④自然環境保全活動に係る実習・演習 | | ④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学 | ・陸域生態系保全修復論<br>・集水域生態系保全修復論<br>・水域生態系保全修復論 |
| ⑤生態学実習・演習 | ・環境生態学基礎演習<br>・環境生態学特別実習 | ⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学 | |
| ⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習 | ・環境生態学演習Ⅰ<br>・環境生態学演習Ⅱ | ⑥動物(哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等)分類・生態・生理学 | ・動物生態学 |
| | | ⑦環境リスクマネジメント学 | ・環境アセスメント |
| | | ⑧環境経済学 | ・環境経済学入門<br>・環境財政 |
| | | ⑨環境社会学 | ・環境政策学 |
| | | ⑩地域環境学・地域生態論 | ・地域環境政策論 |
| | | ⑪環境関連法規 | ・環境法 |

□分野別科目対応表（環境政策・計画学科）

| 実験・実習(演習)分野 | | 講義分野 | |
|---|---|---|---|
| 指定分野 | 科目 | 指定分野 | 科目 |
| ①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習 | ・環境フィールドワークⅠ | ①自然再生・自然環境概論 | ・環境科学概論Ⅰ |
| ②動・植物同定調査に係る実習・演習（森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む） | | ②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学 | ・環境計画学<br>・環境政策学 |
| | | ③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学 | |
| ③地域環境資源調査に係る実習・演習 | ・地域調査法演習 | | |
| | | ④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学 | |
| ④自然環境保全活動に係る実習・演習 | | | |
| | | ⑤植物分類・生態・生理学 | |
| ⑤生態学実習・演習 | | | |
| | | ⑥動物分類・生態・生理学 | |
| ⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習 | ・合意形成支援技法・演習<br>・ファシリテーション技法・演習 | ⑦環境リスクマネジメント学 | ・環境アセスメント |
| | | ⑧環境経済学 | ・環境経済学入門<br>・環境経済学<br>・環境財政 |
| | | ⑨環境社会学 | ・環境社会学 |
| | | ⑩地域環境学・地域生態論 | ・地域環境政策論 |
| | | ⑪環境関連法規 | ・環境法 |

□コース選択表（両学科共通。コース1または3を選択）

| | 実験・実習分野 | 講義分野 | 特別講義 | 規定合計単位数 |
|---|---|---|---|---|
| コース1 | 実験・実習分野より3科目以上 6 単位以上の履修・修得 | 講義分野より 2 科目以上 4 単位以上 の履修・修得 | ― | 実験・実習、講義分野より 5 科目以上 10 単位以上の履修・修得があること。 |
| コース2 | 実験・実習分野又は講義分野より 1 科目 2 単位以上の履修・修得 | | 自然再生講義・演習 **特別講義（必修）**の履修・修得 | 特別講義及び実験・実習、講義分野より 2 科目以上 4 単位以上の履修・修得があること。 |
| コース3 | 実験・実習分野又は講義分野より 6 科目 12 単位以上の履修・修得 | | ― | 実験・実習、講義分野に関係なく 6 科目以上 12 単位以上の履修・修得があること。 |

# １２　「地域調査士資格」について

◆環境科学部環境政策・計画学科

「環境政策・計画学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得し、地域調査に関する卒業論文を完成させた者が、「地域調査士講習」を受講していた場合、「公益社団法人日本地理学会」に申請することにより、「地域調査士」の資格を取得することができます。

| 授業科目 | 開講年次 | 単位数 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 地域システム論 | 1 | 2 | 地域の概念を扱う科目 |
| 地域調査法 | 1 | 2 | 地図に関する科目 |
| 環境フィールドワークⅠ | 1 | 3 | 地域の人文的･自然的特性に関する調査 |
| 地域調査法演習 | 1 | 1 | 統計処理に関する科目 |
| 地域環境政策論 | 2 | 1 | 日本の地域特性を扱う科目 |
| 応用統計学Ⅰ | 2 | 2 | 統計処理に関する科目 |
| GIS演習 | 2 | 1 | 地図に関する科目 |
| 自然地理学 | 3 | 2 | 地域の自然的特性を扱う科目 |

# １３　「看護師国家試験受験資格」について

「看護師国家試験受験資格」は、下記に示す科目および単位数を履修し、人間看護学部人間看護学科の課程を卒業（見込みを含む。）した者が受験できます。

資格取得に必要な科目
**(2015(平成27)年度以降入学生用、2017(平成29)年度以降編入学生用)**

| 分野 | 授業科目 | | | | | | 必修単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 地域基礎科目：「地域共生論」および「地域社会福祉論」（必修） | | | | | | 4 |
| | 人間学：「人間探求学」「生命・人間・倫理」および「栄養と人間」（必修）<br>その他に、１科目選択必修 | | | | | | 8 |
| | 英語ＩＡ、ＩＢ（活性化コース）　英語ⅡＡ、ⅡＢ（応用コース）<br>英語ⅢＡ、ⅣＢ（充実コース）　英語ⅣＡ、ⅣＢ（展開コース） | | | | | 8 | 12 |
| | **（選択科目）**　（各１単位）<br>ドイツ語ＩＡ・ＩＢ、フランス語ＩＡ・ＩＢ、中国語ＩＡ・ＩＢ、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ、モンゴル語ＩＡ・ＩＢから２科目および実用英語演習ＩＡ・ＩＢ | | | | | 4 | |
| | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | | | 2 |
| | 情報リテラシー（情報倫理を含む） | 2 | 情報科学概論 | 2 | | | 4 |
| 専門基礎科目 | 体のしくみと機能Ⅰ | 2 | 健康科学Ⅱ | 2 | 疾病論Ⅰ | 2 | 20 |
| | 体のしくみと機能Ⅱ | 2 | 人間性心理論 | 2 | 疾病論Ⅱ | 2 | |
| | 体のしくみと機能Ⅲ | 2 | 公衆衛生学 | 2 | | | |
| | 健康科学Ⅰ | 2 | 薬理学 | 2 | | | |
| 専門科目 | 人間看護学概論 | 2 | 看護理論 | 2 | 公衆衛生看護学概論 | 2 | 79 |
| | 基礎看護技術Ⅰ | 1 | 成人臨床看護学 | 2 | 成人クリティカルケ演習 | 1 | |
| | メンタルヘルスケア | 2 | 成人クロニックケア演習 | 1 | エンドオブライフケア演習 | 1 | |
| | 基礎看護技術Ⅱ | 2 | 老年看護学演習 | 1 | 老年臨床看護学演習 | 1 | |
| | 小児看護学概論 | 1 | 老年臨床看護学 | 1 | 小児臨床看護学演習 | 1 | |
| | 成人看護学概論 | 1 | 小児臨床看護学 | 2 | 育成看護論演習Ⅱ | 1 | |
| | 老年看護学概論 | 1 | 育成看護論演習Ⅰ | 1 | 精神臨床看護学演習 | 1 | |
| | 育成看護論 | 2 | 精神臨床看護学 | 1 | 在宅看護学演習 | 1 | |
| | 基礎看護技術Ⅲ | 1 | 在宅看護学概論 | 1 | 看護管理論 | 2 | |
| | 基礎看護技術Ⅳ | 2 | 在宅看護援助論 | 2 | | | |
| | （専門選択科目）<br>疫学<br>看護研究の基礎<br>※このうち1科目選択 | 2 | （専門選択科目）　※10単位選択<br>基礎助産学Ⅰ、看護トピックス、看護キャリアデザイン論、看護英語、看護教育と実践、家族看護学、健康教育論、基礎助産学Ⅱ、クリティカルケア実践演習、治療的コミュニケーション技術論、看護介入とアウトカム、チャイルドライフケア論、ホリスティックケア論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、地域母子保健、国際看護学、災害看護学、ボランティア実践演習 | | | | 10 |
| | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 精神臨床看護学実習 | 2 | 老年臨床看護学実習 | 2 | |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 小児臨床看護学実習 | 2 | エンドオブライフケア実習 | 2 | |
| | 老年看護学実習 | 1 | 成人クロニックケア実習 | 2 | 在宅看護学実習 | 2 | |
| | 育成看護論実習 | 2 | 成人クリティカルケア実習 | 2 | | | |
| | 人間看護学統合実習 | 3 | 卒業研究 | 4 | | | |
| | | | | | | 計（卒業要件） | 129 |

# 「看護師国家試験受験資格」について

## 2012(平成24)年度～2014（平成26）年度入学生用
## 2014(平成26)年度～2016（平成28）年度編入学生用

「看護師国家試験受験資格」は、下記に示す科目および単位数を履修し、人間看護学部人間看護学科の課程を卒業（見込みを含む。）した者が受験できます。

資格取得に必要な科目

| 分野 | 授業科目 | | | | | | 必修単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学共通科目 | 人間学：「環境マネジメント総論」「人間探求学」「生命・人間・倫理」「社会福祉論」と「栄養と人間」と１科目選択必修 | | | | | | 12 |
| | 英語ＩＡ、ＩＢ（活性化コース）　英語ⅢＡ、ⅣＢ（充実コース）<br>英語ⅡＡ、ⅡＢ（応用コース）　英語ⅣＡ、ⅣＢ（展開コース） | | | | | 8 | 12 |
| | （選択科目）（各１単位）<br>ドイツ語ＩＡ・ＩＢ、フランス語ＩＡ・ＩＢ、中国語ＩＡ・ＩＢ、朝鮮語ＩＡ・ＩＢ、モンゴル語ＩＡ・ＩＢから２科目および実用英語演習ＩＡ・ＩＢ | | | | | 4 | |
| | 健康・体力科学Ⅰ | 1 | 健康・体力科学Ⅱ | 1 | | | 2 |
| | 情報リテラシー（情報倫理を含む） | 2 | 情報科学概論 | 2 | | | 4 |
| 専門基礎科目 | 体のしくみと機能Ⅰ | 2 | 健康科学Ⅱ | 2 | 疾病論Ⅰ | 2 | 20 |
| | 体のしくみと機能Ⅱ | 2 | 人間性心理論 | 2 | 疾病論Ⅱ | 2 | |
| | 体のしくみと機能Ⅲ | 2 | 公衆衛生学 | 2 | | | |
| | 健康科学Ⅰ | 2 | 薬理学 | 2 | | | |
| 専門科目 | 人間看護学概論 | 2 | 看護理論 | 2 | 公衆衛生看護学概論 | 2 | 79 |
| | 基礎看護技術Ⅰ | 1 | 成人臨床看護学 | 2 | 成人クリティカルケ演習 | 1 | |
| | メンタルヘルスケア | 2 | 成人クロニックケア演習 | 1 | エンドオブライフケア演習 | 1 | |
| | 基礎看護技術Ⅱ | 2 | 老年看護学演習 | 1 | 老年臨床看護学演習 | 1 | |
| | 小児看護学概論 | 1 | 老年臨床看護学 | 1 | 小児臨床看護学演習 | 1 | |
| | 成人看護学概論 | 1 | 小児臨床看護学 | 2 | 育成看護論演習Ⅱ | 1 | |
| | 老年看護学概論 | 1 | 育成看護論演習Ⅰ | 1 | 精神臨床看護学演習 | 1 | |
| | 育成看護論 | 2 | 精神臨床看護学 | 1 | 在宅看護学演習 | 1 | |
| | 基礎看護技術Ⅲ | 1 | 在宅看護学概論 | 1 | 看護管理論 | 2 | |
| | 基礎看護技術Ⅳ | 2 | 在宅看護援助論 | 2 | | | |
| | （専門選択科目）<br>疫学<br>看護研究の基礎<br>※このうち1科目選択 | 2 | （専門選択科目）　※10単位選択<br>基礎助産学Ⅰ、看護トピックス、看護キャリアデザイン論、看護英語、看護教育と実践、家族看護学、健康教育論、基礎助産学Ⅱ、クリティカルケア実践演習、治療的コミュニケーション技術論、看護介入とアウトカム、チャイルドライフケア論、ホリスティックケア論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、地域母子保健、国際看護学、災害看護学、ボランティア実践演習 | | | | 10 |
| | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 精神臨床看護学実習 | 2 | 老年臨床看護学実習 | 2 | |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 小児臨床看護学実習 | 2 | エンドオブライフケア実習 | 2 | |
| | 老年看護学実習 | 1 | 成人クロニックケア実習 | 2 | 在宅看護学実習 | 2 | |
| | 育成看護論実習 | 2 | 成人クリティカルケア実習 | 2 | | | |
| | 人間看護学統合実習 | 3 | 卒業研究 | 4 | | | |
| | | | | | | 計（卒業要件） | 129 |

# １４　「保健師国家試験受験資格」について

◇「保健師国家試験受験資格」の取得要件は以下の通りです。

1)「看護師国家試験受験資格(627ページ)」に必要な科目をすべて履修し、人間看護学部の卒業要件を満たしていること
2)下記に示す科目および単位数をすべて履修していること

※この資格を取得するには、保健師課程（３～４年次）を選択する必要があります。本課程を希望する者のなかから2年次終了時にGPAにより選抜された者のみが選択できます。

## 資格取得に必要な科目

2015（平成27）年度以降入学生用

2017（平成29）年度以降編入学生用

| | 保健師課程授業科目 | 開講 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 学部共通科目 | 情報科学概論 | 1年　後期 | 2 |
| | 公衆衛生学 | 2年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学概論 | 2年　前期 | 2 |
| | 地域社会福祉論 | 2年　後期 | 2 |
| 選択必修科目 | 疫学 | 2年　後期 | 2 |
| | 家族看護学 | 3年　前期 | 2 |
| | 健康教育論 | 3年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学Ⅰ | 3年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学Ⅱ | 3年　前期 | 2 |
| 卒業要件外の科目 | 公衆衛生看護学Ⅲ | 4年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護管理論 | 4年　前期 | 2 |
| | 健康教育方法演習 | 4年　前期 | 1 |
| | 公衆衛生看護学演習 | 4年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学実習 | 4年　通年 | 5 |
| | 合計 | | 30 |

# 「保健師国家試験受験資格」について

2012(平成24)年度～2014（平成26）年度入学生用
2014(平成26)年度～2016（平成28）年度編入学生用

◇「保健師国家試験受験資格」の取得要件は以下の通りです。

1)「看護師国家試験受験資格(631ページ)」に必要な科目をすべて履修し、人間看護学部の卒業要件を満たしていること
2)下記に示す科目および単位数をすべて履修していること

※この資格を取得するには、保健師課程（３～４年次）を選択する必要があります。本課程を希望する者のなかから2年次終了時にGPAにより選抜された者のみが選択できます。

## 資格取得に必要な科目

| | 保健師課程授業科目 | 開講 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 学部共通科目 | 情報科学概論 | 1年　後期 | 2 |
| | 公衆衛生学 | 2年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学概論 | 2年　前期 | 2 |
| | 社会福祉論 | 2年　後期 | 2 |
| 選択必修科目 | 疫学 | 2年　後期 | 2 |
| | 家族看護学 | 3年　前期 | 2 |
| | 健康教育論 | 3年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学Ⅰ | 3年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学Ⅱ | 3年　前期 | 2 |
| 卒業要件外の科目 | 公衆衛生看護学Ⅲ | 4年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護管理論 | 4年　前期 | 2 |
| | 健康教育方法演習 | 4年　前期 | 1 |
| | 公衆衛生看護学演習 | 4年　前期 | 2 |
| | 公衆衛生看護学実習 | 4年　通年 | 5 |
| | 合計 | | 30 |

# １５　「助産師国家試験受験資格」について

◇「助産師国家試験受験資格」の取得要件は以下の通りです。

1)「看護師国家試験受験資格(627ページ)」に必要な科目をすべて履修し、人間看護学部の卒業要件を満たしていること
2)下記に示す科目および単位数をすべて履修していること

※この資格を取得するには、助産師課程（３～４年次）を選択する必要があります。本課程は希望する者のなかから2年次終了時にGPAにより選抜された者のみ選択できます。

資格取得に必要な科目

2012(平成24)年度以降入学生用

2014(平成26)年度以降編入学生用

| | 助産課程授業科目 | 開講 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 選択必修科目 | 基礎助産学Ⅰ | 3年　前期 | 2 |
| | 基礎助産学Ⅱ | 3年　前期 | 2 |
| | 地域母子保健 | 3年　前期 | 1 |
| 卒業要件外の科目 | 基礎助産学Ⅲ | 4年　前期 | 2 |
| | 助産診断・技術学Ⅰ | 4年　前期 | 2 |
| | 助産診断・技術学Ⅱ | 4年　前期 | 2 |
| | 助産診断・技術学Ⅲ | 4年　前期 | 2 |
| | 助産診断・技術学演習 | 4年　前期 | 2 |
| | 助産管理 | 4年　前期 | 2 |
| | 助産学実習 | 4年　前期 | 13 |
| | 小　　計 | | 30 |

注）助産師課程を履修するものは、同時に保健師課程および養護教諭一種免許の取得に必要な科目を履修することはできません。

# １６「社会福祉主事任用資格」について

社会福祉主事とは、社会福祉法において規定されている資格であり、都道府県・市町村の福祉事務所等において、生活保護法等に定める援護等の事務にあたる職員として任用される者に要求される資格(任用資格)です。また、社会福祉施設職員等の資格にも準用されています。

任用資格とは、公務員として採用された後で、特定の業務に任用されるときに必要となる資格で、任用されて初めてその資格を名乗ることができる資格のことです。資格認定証は発行されませんので、必要であれば単位取得証明書等で証明することになります。

「社会福祉主事任用資格」は、厚生労働大臣の指定する科目の中から３科目以上を修得し、卒業した場合に取得できます。本学では次の科目の中から３科目以上を修得してください。

- 社会福祉概論（生活栄養学科専門科目）または地域社会福祉論（地域基礎※1）
- 法学概論（環境科学部環境生態学科,環境計画・政策学科,生物資源管理学科専門科目、人間関係学科専門科目）
- 社会学（環境科学部複数学科共通科目※2）または社会学概論※3（地域文化学科専門科目、人間関係学科専門科目）
- 教育学概論（人間関係学科専門科目）
- 公衆衛生学（生活栄養学科専門科目）
- 基礎栄養学Ⅰ（生活栄養学科専門科目）
- 基礎栄養学Ⅱ（生活栄養学科専門科目）

※1　2014（平成 26）年度以前入学生については、「社会福祉論」に読替え、人間学科目となります。また、2008（平成 20）年度以前入学生については、「社会福祉論」は人間看護学部専門科目となります。

※2　地域文化学科、人間関係学科の 2010（平成 22）年度以前入学生については、「社会学」は専門科目となります。

※3「社会学概論」は、2010（平成 22）年度以前入学生については、旧科目「社会学」に読み替えます。

# １７「電気通信主任技術者資格」について

電気通信主任技術者は、電気通信ネットワークの工事、維持及び運用の監督責任者です。

電気通信事業者は、その事業用電気通信設備を、総務省令で定める技術基準に適合するよう、自主的に維持するために、電気通信主任技術者を選任し、電気通信設備の工事、維持及び運用の監督にあたらなければなりません。

試験の種類は、「伝送交換主任技術者試験」と「線路主任技術者試験」があり、試験科目は、次の４科目となっています。

（１）電気通信システム

（２）専門的能力

（３）伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理）

（４）法規

このうち、電子システム工学科の所定の単位（表１）を修得すると、電気通信システムの試験が免除になります。

表１　電気通信主任技術者試験における「電気通信システム」科目試験免除に関する授業科目

| 昭和 60 年郵政省告示第 241 号の別表第 1 号及び第 2 号に規定する科目別授業時間数（注：1 コマ 90 分は 2 時間として計算する） | | | 電子システム工学科生が履修する科目及び授業時間数（注：〇は必修科目） | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 科　　目 | | 授業時間数 | 授業科目名 | 授業時間数 | 単位数 |
| 基礎専門教育科目 | 数学 | 60 | 〇微積分Ⅰ | 30 | 2 |
| | | | 〇線形代数Ⅰ | 30 | 2 |
| | 物理学 | 60 | 〇基礎力学 | 30 | 2 |
| | | | 〇基礎電磁気学 | 30 | 2 |
| | 電磁気学 | 60 | 〇電磁気学Ⅰ | 30 | 2 |
| | | | 電磁気学Ⅱ | 30 | 2 |
| | 電気回路 | 60 | 〇電気回路Ⅰ | 30 | 2 |
| | | | 電気回路Ⅱ | 30 | 2 |
| | 電子回路 | 60 | 〇電子回路Ⅰ | 30 | 2 |
| | | | 〇電子回路Ⅱ | 30 | 2 |
| | デジタル回路 | 30 | 〇ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾊｰﾄﾞｳｪｱ | 30 | 2 |
| | 情報工学 | 30 | 〇ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造 | 30 | 2 |
| | 電気計測 | 60 | 〇電気電子計測Ⅰ | 30 | 2 |
| | | | 電気電子計測Ⅱ | 30 | 2 |
| 専門教育科目 | 伝送線路工学 | 30 | 電磁波工学 | 30 | 2 |
| | 交換工学 | 30 | ディジタル信号処理 | 30 | 2 |
| | 電気通信システム | 30 | 情報通信工学 | 30 | 2 |

# １８「電気主任技術者資格」について

電気主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持および運用に関する専門的な知識を有する者に与えられる資格で、事業用電気工作物の設置者(所有者)は電気事業法の定めにより電気主任技術者等の主任技術者を有資格者の中から専任することが義務づけられています。電子システム工学科では、開講している授業単位を必要数（表１）修得した上で、卒業後一定の期間の実務経験（表２）を経て、申請により次の種別の電気主任技術者資格が取得できます。

表１　授業科目

| 【区　分】<br>必要科目数 | 授業科目および単位数 | | |
|---|---|---|---|
| 【理　論】<br>●科目全てと○科目３科目以上 | ● | 電磁気学Ⅰ | 2 |
| | ● | 電磁気学Ⅱ | 2 |
| | ● | 電気回路Ⅰ | 2 |
| | ● | 電気回路Ⅱ | 2 |
| | ● | 電気電子計測Ⅰ | 2 |
| | ● | 電気電子計測Ⅱ | 2 |
| | ○ | 電子回路Ⅰ | 2 |
| | ○ | 電子回路Ⅱ | 2 |
| | ○ | 半導体基礎 | 2 |
| | ○ | 半導体デバイス | 2 |
| | ○ | 電子デバイス | 2 |
| 【電　力】<br>●科目全てと○科目１科目以上 | ● | 電力工学Ⅰ | 2 |
| | ● | 電力工学Ⅱ | 2 |
| | ● | 物性デバイス基礎論 | 2 |
| | ○ | プラズマ工学 | 2 |
| | ○ | 電気エネルギーシステム工学 | 2 |

| 【区　分】<br>必要科目数 | 授業科目および単位数 | | |
|---|---|---|---|
| 【機　械】<br>●科目全てと○科目２科目以上 | ● | 電気機器 | 2 |
| | ● | パワーエレクトロニクス | 2 |
| | ● | 制御工学 | 2 |
| | ○ | コンピュータハードウェア | 2 |
| | ○ | ロボット工学 | 2 |
| | ○ | 光エレクトロニクス | 2 |
| | ○ | 情報通信工学 | 2 |
| | ○ | 電磁波工学 | 2 |
| 【法　規】<br>●科目 | ● | 電気関係法規・施設管理 | 2 |
| 【実験･実習】<br>●科目全て | ● | 電子システム工学実験Ⅰ | 2 |
| | ● | 電子システム工学実験Ⅱ | 2 |
| | ● | 電子システム工学実験Ⅲ | 2 |
| 【設計･製図】<br>●科目全て | ● | 電気電子設計製図 | 1 |
| | ● | 集積回路設計基礎 | 2 |

●印は、必ず取得しなければならない授業科目
（卒業要件の必修科目とは異なります。）
○印は、選択科目

表２　電気主任技術者資格取得のための実務経験

| 電気主任技術者の種類 | 実　務　の　経　験 | |
|---|---|---|
| | 実務の内容 | 経験年数 |
| 第１種電気主任技術者免状 | 電圧　５万Ｖ以上の電気工作物の工事、維持または運用 | 卒業前の経験年数の２分の１と卒業後の経験年数との和が５年以上 |
| 第２種電気主任技術者免状 | 電圧　１万Ｖ以上の電気工作物の工事、維持または運用 | 卒業前の経験年数の２分の１と卒業後の経験年数との和が３年以上 |
| 第３種電気主任技術者免状 | 電圧　500 Ｖ以上の電気工作物の工事、維持または運用 | 卒業前の経験年数の２分の１と卒業後の経験年数との和が１年以上 |

# 19 「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員資格」について

食品衛生法第48条の規定により、製造または加工にあたり、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品、食肉製品、食品添加物などについて、営業者はその製造または加工を衛生的に管理させるために、食品衛生管理者を置かなければならないことになっています。

食品衛生監視員は、飲食に起因する衛生上の危害を防止するために、食品を取り扱う営業施設等への監視指導、立入検査及び食品等からの試験品を採取する権限を、厚生労働大臣または都道府県等の長から付与された公務員です。

そのため、食品衛生管理者は、食品等の製造・加工の施設を衛生的に管理させるための専門的な知識を、食品衛生監視員は、食品等の衛生に関する専門的な知識を持っていなければなりません。

資格取得には、別表の A～D の各群から 1 科目以上を履修し、その単位の合計が 22 単位以上であり、かつ A～E 群あわせて合計 40 単位以上を履修することが必要です。単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

なお、資格取得が可能なのは、平成 20 年度以降入学の人間文化学部生活栄養学科の学生に限られています。

資格取得に必要な科目（別表）

| | 基礎科目名 | 本学科目名 | 必選 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|
| A群<br>化学関係 | 分析化学、有機化学、無機化学 | 天然物化学基礎 | 必修 | 2 |
| B群<br>生物化学関係 | 生物化学、食品化学、<br>生理学、食品分析学、<br>毒性学 | 生命科学と人間<br>分子生物学基礎<br>栄養生化学<br>食品学総論<br>食品基礎実験<br>食品機能科学<br>食品機能科学実験 | 必修<br>必修<br>必修<br>必修<br>必修<br>必修<br>必修 | 2<br>2<br>2<br>2<br>1<br>2<br>1 |
| C群<br>微生物学関係 | 微生物学、食品微生物学、<br>食品保存学、食品製造学 | 食品微生物学 | 必修 | 2 |
| D群<br>公衆衛生学関係 | 公衆衛生学、食品衛生学、<br>環境衛生学、衛生行政学、<br>疫学 | 公衆衛生学<br>食品衛生学<br>食品衛生学実験<br>栄養疫学論<br>給食衛生管理実習 | 必修<br>必修<br>必修<br>必修<br>必修 | 2<br>2<br>1<br>2<br>1 |
| | | | 小計 | 24 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| E群<br>その他<br>関連科目 | 水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保蔵学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目 | 生体の構造と機能<br>疾病の成り立ち（含疾病と微生物）<br>病態評価と治療<br>病態生理学実習<br>栄養生理学実習<br>栄養生化学実験<br>食品の調理と加工<br>食品加工実習<br>公衆栄養学<br>公衆栄養学実習<br>食料経済システム論<br>給食経営管理論 | 選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択 | 2<br>2<br>2<br>1<br>1<br>1<br>2<br>1<br>2<br>1<br>2<br>2 |
| | | | 小計 | 19 |

○A群からD群までそれぞれ1科目以上、その単位の合計が 22 単位以上であること。（本学は 24 単位必修）
さらに、E群の科目を含めての総単位数が 40 単位以上であること。

# ２０　「毒物劇物取扱責任者」について

毒物及び劇物取締法第７条第１項の規定により、毒物又は劇物を直接に取り扱う製造所、営業所又は店舗ごとに、専任の毒物劇物取扱責任者を置き、毒物又は劇物による保健衛生上の危害の防止に当たらせなければならないとされています。

本学材料科学科を卒業した者は、毒物劇物取扱責任者の資格を有することになります。

# ２１　「甲種危険物取扱者受験資格」について

消防法の規定により、一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければならないとされています。危険物取扱者には、甲種・乙種・丙種があり、そのうち甲種危険物取扱者は、全類の危険物について、取り扱いと定期点検、保安の監督ができます。また、甲種もしくは乙種危険物取扱者が立ち会えば危険物取扱者免状を有していない一般の者も、取り扱いと定期点検を行うことができます。

受験にあたっての詳細事項は、財団法人消防試験研究センターのホームページを参考にしてください。（http://www.shoubo-shiken.or.jp/）

### ◆　工学部　材料科学科

本学材料科学科を卒業した者は、自動的に甲種危険物取扱者の受験資格が得られます。

### ◆　環境科学部

環境科学部（およびその他の学部）の学生は、以下の一覧表のうち 15 単位以上を修得すれば、甲種危険物取扱者の受験資格を得ることができます。なお、受験に際しては取得単位の内容を記載した単位取得証明書が必要です。

甲種危険物取扱者受験資格に関連した「化学に関する授業科目」一覧表(環境科学部)

| 科目名 | 単位数 | 配当学科 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 環境化学Ⅰ | 2 | 生態・政策・資源 | 平成 21 年度以前入学生は化学Ⅱ |
| 環境化学 II | 2 | 生態・資源 | 平成 21 年度以前入学生は化学Ⅰ |
| 集水域環境影響調査指針 | 2 | 環境生態 | |
| 集水域環境学 | 2 | 環境生態 | |
| 集水域環境機能論 | 2 | 生態・資源 | 平成 21 年度以前入学生は環境分析化学 |
| 集水域物質循環論 | 2 | 生態・資源 | 平成 21 年度以前入学生は環境化学 |
| 水域環境機能論 | 2 | 環境生態 | 平成 21 年度以前入学生は環境毒性学 |
| 大気環境学 | 2 | 環境生態 | |
| 陸域環境機能論 | 2 | 生態・資源 | 平成 21 年度以前入学生は環境生化学 |
| 環境化学実験 | 2 | 生態・資源 | 平成 21 年度以前入学生は化学実験 |
| 環境解析学・同実験 | 4 | 生態・資源 | 平成 21 年度以前入学生は環境化学・実験 |
| 遺伝学 | 2 | 生態・資源 | |
| 応用微生物学 | 2 | 生物資源 | |
| 家畜生産環境学 | 2 | 生物資源 | |
| 家畜生産生理学 | 2 | 生物資源 | |
| 環境植物生理学 | 2 | 生物資源 | |
| 植物遺伝資源学 | 2 | 生物資源 | |
| 植物栄養学 | 2 | 生物資源 | |
| 植物資源開発学 | 2 | 生物資源 | 平成 21 年度以前入学生は環境作物学 |
| 水質管理学 | 2 | 生物資源 | |
| 土壌環境化学 | 2 | 生態・資源 | 平成 21 年度以前入学生は土壌環境学 |
| 農薬環境学 | 2 | 生態・資源 | |
| 分子生物学 | 2 | 生態・資源 | |
| 水資源保全学 | 2 | 生物資源 | |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 2 | 生物資源 | |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 2 | 生物資源 | |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 2 | 生物資源 | |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅴ | 2 | 生物資源 | |
| 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 2 | 生物資源 | |

# ２２「二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除」について

「ビオトープ管理士」は、財団法人日本生態系協会が認定する民間資格です。

環境科学部環境生態学科、環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科、生物資源管理学科の学生は、二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験（例年９月に実施）の受験にあたり、下記の科目をすべて履修して単位を取得しているか、受験年度内に単位取得見込みであると、筆記問題の一部が免除されます。

なお、下記科目をすべて履修しない者でも、通常の試験によって資格取得をすることは十分可能です。

＜注意事項＞

・ 生物資源管理学科の学生は、「陸域生態系保全修復論」の単位を以て一部免除認定を申請することはできませんので、「環境動物学」を必ず受講してください。

二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除に必要な講義

| 講　義　名 | 開講時期 | 科　目　区　分 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 自然保護論 | 後 | 人間学 | |
| 動物生態学 | 後 | 環境生態学科専門科目<br>環境政策・計画学科専門科目<br>生物資源管理学科専門科目 | |
| 森林環境学（植物生態学） | 後 | 環境生態学科専門科目<br>環境政策・計画学科専門科目<br>生物資源管理学科専門科目 | |
| 環境動物学（どちらか１つ（資源の学生は「環境動物学」を履修すること）） | 後 | 生物資源管理学科専門科目 | |
| 陸域生態系保全修復論（どちらか１つ（資源の学生は「環境動物学」を履修すること）） | 後 | 複数学科共通科目<br>（生態、資源） | |
| 環境法 | 前 | 複数学科共通科目<br>（生態、政策・計画、資源） | |
| 環境計画学 | 後 | 複数学科共通科目<br>（政策・計画、建デ） | |
| 都市・地域計画 | 前 | 環境建築デザイン学科専門科目 | |
| 流域環境管理学 | 後 | 生物資源管理学科専門科目 | |

# ２３　「施工管理技士受験資格」について

建築業法に規定する許可の要件としての営業所に置かれる専任技術者及び工事現場に置かれる主任技術者又は監理技術者の資格を満たす者として扱われる国家資格です。建築機械施工技士、土木施工管理技士、建築施工管理技士、電気工事施工管理技士、管工事施工管理技士、造園施工管理技士の６種類について、１級および２級に区分して定められています。

下記の指定学科を卒業（一部、履修条件あり）した者については、資格取得に際し、級に応じて実務経験年数の短縮や、学科試験の免除が行われます。

○指定学科：環境科学部環境建築デザイン学科
○条　　件：基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、建築数学・物理のうちから２単位以上修得し、指定学科を卒業した者

| 受検要件 / 種別 | 【１級技術検定】受検に必要な実務経験 | 【２級技術検定】受検に必要な実務経験 | |
|---|---|---|---|
| | | 学科試験 | 実務試験 |
| 建築機械施工技士 | 卒業後３年以上　※１ | 卒業後６月以上 | 卒業後１年以上 |
| 土木施工管理技士 | | 卒業後１年以上 | 卒業後１年以上 |
| 建築施工管理技士 | | なし　※２ | 卒業後１年以上 |
| 電気工事施工管理技士 | | | |
| 管工事施工管理技士 | | | |
| 造園施工管理技士 | | | |

※1　実務経験年数には、指導監督的実務経験年数１年以上が含まれていなければならない。
※2　卒業見込時、または、大学卒業後１年以内に学科試験のみを受検することができる。

○指定学科：工学部機械システム工学科、電子システム工学科
○条　　件：指定学科を卒業した者

| 受検要件 / 種別 | 【１級技術検定】受検に必要な実務経験 | 【２級技術検定】受検に必要な実務経験 | |
|---|---|---|---|
| | | 学科試験 | 実務試験 |
| 建築機械施工技士 | 卒業後３年以上　※１ | なし　※２ | 卒業後１年以上 |
| 建築施工管理技士 | | | |
| 電気工事施工管理技士 | | | |
| 管工事施工管理技士 | | | |

※1　実務経験年数には、指導監督的実務経験年数１年以上が含まれていなければならない。
※2　卒業見込時、または、大学卒業後１年以内に学科試験のみを受検することができる。

| 科目名 | 教育実習・事前事後指導（中学校免許） | ５単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 ・ 木村　裕 ・ 杉浦　由香里 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価・反省を大学において行う。 | |
| 到達目標 | 学校教育の内容の理解。授業実践力を高める。学校システムの理解。 | |
| 成績評価 | 模擬授業とその省察の成果をもとに成績評価を行う。遅刻、早退、欠席なく毎回出席すること。無断遅刻･欠席は認めない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし。適宜プリントなどを配付する。参考書：授業内に随時紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育実習・事前事後指導（高等学校免許） | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 ・ 木村　裕 ・ 杉浦　由香里 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価・反省を大学において行う。 | |
| 到達目標 | 学校教育の内容の理解。授業実践力を高める。学校システムの理解。 | |
| 成績評価 | 実習および事前事後指導への参加態度や成果をもとに成績評価を行う。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし。適宜プリントなどを配付する。参考書：授業内に随時紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教職実践演習（中学校） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 ・ 木村　裕 ・ 杉浦　由香里 ・ 未定 | |
| 授業概要 | ４年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の学びを振り返り、自身の成果と課題を把握した上で、さらに必要な知識・技能を補完する。今日、教員に求められている資質や実践的能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにする。 | |
| 到達目標 | 講義、グループ討論、事例研究、教育実践記録の執筆などを経験するとともに、毎時間、授業の最後に今回学んだ内容、教員になった場合、その内容をどのように活かしていくかについて議論することによって、実践的な力量を伸ばすとともに、教育者としての基本姿勢を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎時間の授業への参加態度、教育実習の省察に基づき執筆する教育実践記録の成果を基に成績評価を行う。初回オリエンテーションには必ず出席すること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：参考書：講義の際に、適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教職実践演習（高等学校） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 ・ 木村　裕 ・ 杉浦　由香里 ・ 未定 | |
| 授業概要 | ４年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の学びを振り返り必要な知識・技能を補完する。さらに今日、教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにする。 | |
| 到達目標 | 講義、グループ討論、事例研究、教育実践記録の執筆などを経験するとともに、毎時間、授業の最後に今回学んだ内容と、教職に就いた場合にどう生かしていくかについて議論することによって、実践的な力量を伸ばすとともに、教育者としての基本姿勢を身につける。 | |
| 成績評価 | 毎時間の授業への参加態度、教育実習への省察に基づき執筆する教育実践記録の成果をもとに成績評価を行う。初回オリエンテーションには必ず出席すること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義時に案内する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教職論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 | |
| 授業概要 | 教師の実態や特徴的な実践の紹介などを通して、教師の職務、教職の本質、教育実践のあり方などについて講義する。 | |
| 到達目標 | 教師の役割に関する基礎的な知識を習得するとともに、自分なりの暫定的な「めざす教師像」を確立すること。 | |
| 成績評価 | 講義中に提出するワークシートなど（５０％）とまとめのレポート（５０％）をもとに、総合的に判断する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキストなどは特に定めず、講義中に適宜資料を配布する。また、参考文献を適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 家庭電気・機械 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣谷　明※ | |
| 授業概要 | 家庭では多種・多様な電化製品が使用されており、さらにオール電化やＩＨ調理機器などの技術開発や、ソーラー発電などによる省エネルギー開発が進んできています。これらを合理的かつ安全的に活用するために必要な電気基礎や電気理論、照明・電熱、電子回路や情報技術の知識を習得します。なお本講では、高等学校家庭科の教員免許状取得に必要な授業方法についてまた、自身の長年にわたる教育実践をもとに講義を行い、教育に携わる者（教員）としての必要な態度と資質について解説し、人材育成を図ります。 | |
| 到達目標 | 家庭生活で使用されている機械や電気機器の仕組みや環境に配慮した安全な使い方への知識と理解を深める。 | |
| 成績評価 | 課題レポー評価（４０％）、授業の取り組み（発表、実技・作品など）（６０％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要に応じて授業資料を配付する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育相談・進路指導 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　容子※　・　別府　悦子※ | |
| 授業概要 | カウンセリングに関する基礎知識、発達についての心理学的見解、不登校やいじめなどの今日的問題を紹介する。その上で具体的な相談事例を検討し、個々の事例に即した対応・支援の考え方を学ぶ。また、生徒が主体的に自分の人生を選択していく力を育てるという観点から進路指導の理論と方法を考察する。 | |
| 到達目標 | この授業では、教育相談を受ける教員にとって必要な知識を紹介していく。学校で持ち込まれる個々の相談すべてに正しい答えがあるとは限らない。そうした一つ一つの問題に向き合うとき、カウンセリングの知識、社会的連携、時代背景など異なる水準の広範な知識が大きな助けとなる。そこで、こうした広範な知識を習得し、生徒の抱える問題を引き受けられる教員としての土台を築くことを目標とする。また、進路指導についてもその意義や理論を学ぶとともに、具体的な事例の検討を通して実践に活かす方策を考察する。 | |
| 成績評価 | レポート評価（100%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要に応じてプリント、ワークシートを配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（英語） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 英語教育に関するさまざまな要因について学ぶとともに、その指導法についての理解を深める。その過程から外国語としての英語を日本人学習者が学ぶ際直面する問題を考える。同時にそれらの問題を克服する手助けに必要な知識を獲得し、学習者に対する態度の滋養、さらに自分自身の指導法を省察的な態度でみることを目指す。このクラスでは理論面を中心に学ぶ。 | |
| 到達目標 | この授業では英語の教師に必要とされる英語教育の<br>(1) 理論的知識の習得<br>(2) 実践的教育力を習得<br>を目標とする。 | |
| 成績評価 | (1)については課題レポート 40%（２回分）とその発表 20%<br>(2)については課題レポート 10%とその発表 10%<br>(1)と(2)を統合的に理解するための毎回の討論　20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：　望月昭彦編著 (2013)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(改訂版)大修館書店. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（家庭） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大塚　眞理子※ | |
| 授業概要 | 高等学校家庭科について、学習指導要領に示されている教科目標や内容、また指導計画や評価などを学ぶとともに、教科の意義や本質を理解する。それらをもとに、教材研究や指導案の作成、模擬授業とその検討を行い、家庭科指導の実践力を養う。 | |
| 到達目標 | （１）家庭科教育の意義や歩みを理解する<br>（２）高等学校家庭科の目標や内容を理解する<br>（３）授業を立案し、指導案を作成することができる<br>（４）授業実践（模擬授業）ができる<br>（５）教職に意欲をもち、家庭科教員としての資質を高める | |
| 成績評価 | 到達目標の<br>（１）および（２）家庭科教育の意義や歩み、目標や内容の理解については、小テスト（20%）でする。<br>（３）指導案（30%）<br>（４）模擬授業（30%）<br>（５）毎回の授業感想（10%）小論文（10%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト<br>　高等学校教科書「家庭基礎」東京書籍<br>参考文献<br>「中学校高等学校　家庭科指導法」建帛社<br>高等学校学習指導要領解説　家庭編　文部科学省 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（工業） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣谷　明※ | |
| 授業概要 | 技術立国日本を支える有益な人材育成をすすめるためには、時代の進展に対応した学校教育の充実が求められている。本講では、高等学校工業科の教員免許状取得に必要とする知識や授業方法について、自身の長年にわたる工業高校での教育実践をもとに講義を行い学校教育に携わる者（教員）として、必要な教育に関する法知識、教育者としての態度と資質について解説する。 | |
| 到達目標 | 工業科教育の理解を深め、高等学校で学ぶ生徒の人格形成に寄与できる教師としての力量と指導法を習得する。 | |
| 成績評価 | レポート８０％　平常点２０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「高等学校学習指導要領解説　工業編」文部科学省　（実教出版）<br>参考書：「高等学校指導要領解説　総則編」文部科学省　（東山書房）<br>必要に応じ授業資料を配付する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（公民） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木下　光弘※ | |
| 授業概要 | (1)公民科教育の目標を、歴史的、国際的な視点から追究する。(2)人間、社会、人類と自然との共生、人類の課題を、以下の(a)(b)を軸に追究する。(a)人間は何故万物の霊長になり、他の動物と異なる特質は何か。それはどうすれば生かせるか。人間の自己・自然・社会変革の可能性と限界はどこにあり、限界を超える際のポイントは何か。人間と自然の関係をどうとらえるか、自然との共生は可能か、可能性をどう切り拓くのか。(b)すべての人々の尊厳を守り、個性・自由・幸福追求を保障する考え、ルール、制度とはいかなるのものか。人権 | |
| 到達目標 | 次の諸点を説明できること。<br>(1)公民科教育の目標の歴史的、国際的な到達度。<br>(2)人間の他の動物と異なる特質。それはどうすれば生かせるか。人間の自己・自然・社会変革の可能性と限界と限界を超える際のポイント。人間と自然の関係、自然との共生の可能性。すべての人々の尊厳を守り、個性・自由・幸福追求を保障する考え、ルール、制度とは。人権、権利、民主主義とは? | |
| 成績評価 | 出席:原則として 1/3 以上欠席の場合は評価対象としない。授業中の提出物:30%,学期末の筆記試験(持ち込み不可)70%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | [テキスト]使用しない、[参考図書]『輝跡！21 世紀を見つめて今を生きる』(山上修著/文芸社)<在庫切れ,古書なら net で入手可,大学図書館に２冊あり>,『狼に育てられた子～アマラとカマラの養育日記』(J.A.L シング著/福村出版),『オール１の落ちこぼれ、教師になる』(宮本延春著/角川書店),『だからあなたも生き抜いて』(大平光代著/講談社),『典子 44 歳いま、伝えたい』(白井典子著/光文社)ほか | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（社会） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　好美※ | |
| 授業概要 | 中学校社会科のカリキュラムや授業の構成要素、指導上の配慮事項等について、理論および具体的な教育実践事例の紹介や分析を通じて学ぶ。また、それにもとづいて、授業の受け手のことを考えながら、教材研究を行い、授業計画および指導案を作成して模擬授業を行う。<br>この過程において、他者と協力して自他の授業を改善することができるようになるために、受講者同士での議論や授業の検討会を積極的に取り入れる。 | |
| 到達目標 | (1)中学校社会科のカリキュラムや授業の構成要素、指導上の配慮事項等を学び、それらをもとにして、授業の受け手のことを考えながら、教材研究を行い、授業計画および指導案を作成し、それにもとづいて模擬授業を行うことができる。<br>(2)他者と議論したり、授業を検討し合ったりすることを通して、互いの授業を改善するための力量を高める。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す(1)については模擬授業と最終レポート（60%）、(2)については授業中の小課題など（40%）を基本として総合的に評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特に指定しない。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（情報） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 神月　紀輔※ | |
| 授業概要 | 学校教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置づけを明確にし，教科「情報」の目標及び科目編成やカリキュラムの編成方法についてとりあげ，情報科教育に関わる方法論を講義する。 | |
| 到達目標 | 教科「情報」の意義について理解し，情報科教育に関わる方法論について理解を深める。 | |
| 成績評価 | 評価は，レポート，授業への参加態度，出欠状況などについて学生間相互評価，および自己評価を重視し，総合的に評価を行う。レポートは 4～5 回。すべて学生間で開示し相互評価を行い，自己評価を行う。授業については，相互評価やディスカッションに参加できない場合は単位を認定しない。また，4 回以上の欠席のある場合にも学習を進めることが困難となるので単位を認定しない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：文部科学省「高等学校学習指導要領解説　情報編」<br>指定図書：松原伸一「情報科教育法」（開隆堂出版）<br>参考書：適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（地理歴史） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 鎌田　ユリ※ | |
| 授業概要 | 高校の地理教育、歴史教育の目標、内容、指導上の配慮事項を学び、学生各自が学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。分担者の模擬授業について受講者全員で検討・議論する。 | |
| 到達目標 | 高校の地理教育、歴史教育の目標、内容、指導上の配慮事項を学び、模擬授業をおこなうことができる。分担者の模擬授業について受講者全員で検討・議論することができる。 | |
| 成績評価 | 授業中の提出物 20%・模擬授業 50%・確認テスト 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：特に指定しない。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（農業） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 森　太郎※ | |
| 授業概要 | 教育現場における農業に対する多様なニーズについて、環境・食・特別支援・医療の観点から講義し、農業高校の教育に限らず、一般教育的に理解すべき基本的な事項を身につける。さらに、学習指導要領の解説、教育計画および模擬授業を通して、農業高校での講義および実習における計画・実施・評価・改善を行うことができる能力を身につける。 | |
| 到達目標 | 農の教育力を理解し、農の教育を実践できる能力を身につける。 | |
| 成績評価 | 授業への取り組み（模擬授業などを含む）50%、レポート 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（適宜プリントを配布）<br>参考書：高等学校学習指導要領解説 農業編（文部科学省） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅰ（理科） | ２単位　　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 石川　聡子※ | |
| 授業概要 | 本講義の目的は、理科教育の意義や目的、今日的で社会的課題や現状について理解し、理科指導の基礎的な知識として学習内容の構造や評価方法について理解を深めることである。学習指導案を作成し、模擬授業あるいはその準備をおこない，教育実習に備える実践的スキルを身につけることをめざす。講義の進め方は、理科指導に必要な事項について主に講義形式でおこない，デジタル教材の活用や学習指導案の作成などはグループワークを取り入れる。模擬授業の準備は受講生全員がおこなうが、実際に模擬授業を受講者全員がするのは時間的に困難なため，数人 | |
| 到達目標 | (1)科学を学ぶ意義や理科教育の目的について理解し、説明できる。<br>(2)中学校理科の目標，学習指導要領における内容の系統性について理解し、説明できる。<br>(3)指導と評価の基本について理解し、説明できる。<br>(4)学習指導案を作成し、教材研究ができる。 | |
| 成績評価 | 到達目標(1)、(2)については、小テスト（30%：(1)15%、(2)15%)、<br>到達目標(3)については、テスト（30%)、<br>到達目標(4)については、学習指導案などの課題作成物（40%）で評価する。<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | １）中学校学習指導要領解説理科編、大日本図書、2008 年、110 円。ISBN：978-4477019796。文科省の HP からダウンロードすることもできる。<br>http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chukaisetsu/index.htm978-4477019796<br>２）中学校理科教科書「未来へひろがるサイエンス３」、啓林館。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（英語） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 英語教育に関するさまざまな要因について学ぶとともに、その指導法についての理解を深める。その過程から外国語としての英語を日本人学習者が学ぶ際直面する問題を考える。同時にそれらの問題を克服する手助けに必要な知識を獲得し、学習者に対する態度の滋養、さらに自分自身の指導法を省察的な態度でみることを目指す。このクラスでは実践面を中心に学ぶ。 | |
| 到達目標 | 英語の教師に必要とされる英語教育の<br>(1) 理論的知識の習得<br>(2) 実践的教育力の習得<br>を目標とする。 | |
| 成績評価 | 課学生に対する評価: (1) については課題レポート 10%とその発表 10%<br>(2) については課題レポート 40% (2 回分)とその発表 20%<br>(1)と(2)を統合的に理解するための毎回の討論　20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：望月昭彦編著 (2013)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(改訂版)大修館書店. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（家庭） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 柴田　陽子※ | |
| 授業概要 | 今日の技術・家庭科家庭分野教育の特質と中学校家庭科が果たす役割について知るとともに、生徒の実態をふまえた家庭科学習のあり方を、具体的な学習指導計画の作成を通して実践的に検討し提案することができるようにする。 具体的には中学校技術・家庭科家庭分野で行われる実習的活動を体験し、その活動を通して理解した家庭科の特質を生かして授業を構想し、指導案作成を行う。 | |
| 到達目標 | 技術・家庭科家庭分野の全容を理解した上で、授業を実践する力を習得する。 | |
| 成績評価 | 作品の提出・成果１０％,授業でのレポート１０％,指導案３０％,模擬授業３０％,小テスト１０％,授業中の活動１０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 中学校学習指導要領解説　技術・家庭科編（教育図書）教科書　新しい技術・家庭科　家庭分野（東京書籍） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（工業） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣谷　明※ | |
| 授業概要 | 技術立国日本を支える有益な人材育成をすすめるためには、時代の進展に対応した学校教育の充実が求められている。本講では、高等学校工業科の教員免許状取得に必要とする知識や授業方法について、自身の長年にわたる工業高校での教育実践をもとに講義を行い学校教育に携わる者（教員）として、必要な態度と資質について解説し人材育成を図る。 | |
| 到達目標 | 工業科教育の理解を深め、高等学校で学ぶ生徒の人格形成に寄与できる教師としての力量と指導法を習得する。 | |
| 成績評価 | 課題レポート評価（３０％）、小テスト（２０％）、授業の取り組み（発表、討論、板書実技など）（５０％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「高等学校学習指導要領解説　工業編」文部科学省　（実教出版）<br>参考書：「高等学校指導要領解説　総則編」文部科学省　（東山書房）<br>必要に応じ授業資料を配付する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（公民） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 木下　光弘※ | |
| 授業概要 | 【概要】公民科教育法Ⅰで追究した公民科教育の目的を達成する授業方法とはいかなるものか。OECE の DeSeCo（子どもに育むべきキーとなる諸能力）を参考に、いま求められる授業方法や学習形態を紹介しながら、学生による模擬授業とそれについての合評会を軸に探求する。<br>紹介する授業方法・学習形態は、下記のものを予定している。<br>1)フレネ教育、2)オランダ・イエナプラン教育、3)学びの共同体、4)生徒が主役のレポート授業など。 | |
| 到達目標 | 下記の a)型の授業から脱却し、b)型の授業を組み立てることができるようになること。<br>また、c)については、今後の課題とする。<br>a)教師による一斉・画一型の授業、一方通行の授業、知識注入型の授業。<br>b)生徒の知的好奇心を呼び起こし、生徒による主体的・科学的な課題追究、個別かつ共同(生徒間の対話・討論、教師と生徒の対話・討論)の課題追究とこれらを通して知識や探究方法を学べる授業<br>c)b)型授業の陥りがちな欠点(追究する分野が偏りがち)を補うため、必要な分野を追究できるように年間計画を練り上げる。 | |
| 成績評価 | [出席]1/3 以上欠席の場合は、原則として評価対象としない。<br>[評価]以下を合計したもの<br><毎回の授業中の提出物>20%(全提出で満点)<br><模擬授業(20%)><br><期末レポート(60%)> | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | [指定図書]『輝跡！21 世紀を見つめて今を生きる』(山上修),[参考図書]『フレネ教育 子どものしごと』(若狭蔵之助),『オランダの個別教育はなぜ成功したのか イエナプラン教育に学ぶ』(リヒテルズ直子),『学校の挑戦 学びの共同体を創る』(佐藤学) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（社会） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小林　忠伸※ | |
| 授業概要 | 中学校社会科授業構成の理論と方法について学習する。<br>地理・歴史・公民の三分野の学習指導案の作成と指導法について学習する。 | |
| 到達目標 | ・目標・授業・評価の一体化を観点に授業を構成できる。<br>・三分野の学習指導案に基づいて授業実践できる。<br>・社会科の教員として望ましい知識と態度を身につける。 | |
| 成績評価 | レポート６０％、 学習指導案（模擬授業）４０％を基本に評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | プリント配布、文部科学省「中学校学習指導要領解説　社会科編」<br>中学校教科書（「地理」「歴史」「公民」） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（情報） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 神月　紀輔※ | |
| 授業概要 | 情報科教育法Ⅰで身につけた，教科「情報」についての理解をもとに実践的な授業内容について考察する。模擬授業等を取り入れ，インストラクションの技術向上とともに，理論的側面についても考察を深める。 | |
| 到達目標 | 教科「情報」の授業計画を作成でき，授業実践ができるようになる。 | |
| 成績評価 | 自学自習を基本にし，学生間相互評価および自己評価を重視する。各単元ごとに模擬授業を行いその評価は相互評価ならびに自己評価を基本にする。模擬授業での参加意欲は自己評価により点数化し，評価に勘案する。また4回以上欠席の場合は，学習を進めることが困難になるため単位を認定しない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：文部科学省「高等学校学習指導要領解説　情報編」<br>指定図書：適宜紹介する<br>参考書：適宜紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（地理歴史） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 山口　康雄※ | |
| 授業概要 | 現行及び改訂「高等学校学習指導要領地理歴史科」および「中学校学習指導要領社会科」に即し、地理歴史科教育法Ⅰで履修した学習内容を踏まえて、地歴科目のねらいと教科内容に関わる教材を選択・精選・発掘し、それらを有機的に組み立てていく授業構成（学習指導案作成）、および模擬授業を通して、地歴科各科目の指導法を学習する。 | |
| 到達目標 | 中学社会科・高校地歴科の教員としての資質、教養、最低必要な指導方法を身につける | |
| 成績評価 | ・学習指導案（模擬授業）40%、レポート30%、小テスト30%を基本に総合判定する<br>・授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：高等学校学習指導要領解説（地理歴史編）、中学・高校時代の地歴<br>教科書・副教材：プリント配布、その他講義中に指示するもの | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（農業） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 川﨑　四朗※ | |
| 授業概要 | 昭和２３年（1948）の新制高等学校の発足以来、６０数年の高等学校教育の中で、農業科教育はその時の社会情勢・経済情勢等によって大きく影響を受けながら、地域社会と連携し、農林業の振興と人材の育成に大きく貢献してきた。本講では、これらの流れや動きをよく理解して、これからの農業科教育のあるべき姿を考えていく。<br>高等学校農業科教育に長年にわたり携わってきた者の立場から、その経験や体験を通して得た農業科教育のノウハウを具体的に展開する。 | |
| 到達目標 | 農業科教育の現状、農業高等学校の実情を理解し、有為な人材を育成するための農業科教育の方法および農業高等学校の在り方を学ぶ。 | |
| 成績評価 | レポート評価７０％、授業の取り組み・出席状況３０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 高等学校学習指導要領解説（農業編）文部科学省（海文堂出版）、プリント配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅱ（理科） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮下　ゆたか※ | |
| 授業概要 | 本講義では、理科教育の目的・目標、および子どもの実態をふまえて、理科教師としての実践的力量の基礎を身につけることをめざす。<br>講義の進め方としてはグループ単位で授業プラン（学習指導案、授業プリント、板書計画など）を作成し、何らかの形で全員が模擬授業を実施する予定である。<br>具体的な模擬授業としては以下を予定している。<br>①前半の模擬授業：30 数年ぶりに中学理科教科書に復活した「放射線」を、2011・3・11 東京電力福島第一原発事故と関連させて「原発と放射線」問題の基本を学び、模擬授業につなげていく。 | |
| 到達目標 | 1.理科教育の目的をふまえた授業プラン（学習指導案、授業プリント、板書計画など）の作成ができる。<br>2.自分の作成した授業プランに基づいた模擬授業を展開することができる。<br>3.理科教師の立場および学習する生徒の立場から、自分の模擬授業および友人の模擬授業を的確に分析・評価できる。<br>4.自分のめざす理科の授業づくりの具体的イメージができる。 | |
| 成績評価 | ①学習指導案、授業プリント、板書計画づくり、模擬授業（50%）<br>②模擬授業に対する自己分析と友人の模擬授業評価（20%）<br>③随時課す小レポート および最終レポート（30%）<br>④出席状況　（全時間出席を原則とする） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要な資料などは教室にて適宜　紹介、配布をする。以下の資料①②は各自準備しておくことが望ましい。<br>①中学校学習指導要領解説　理科編(2008年3月)②高等学校学習指導要領解説　理科編(2009年３月) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅲ（英語） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 教育実習に備えて、英語の指導法についての基礎知識と教師としての心構え、授業で必要とされる指導技術や指導案の作成の仕方を学ぶ。演習や模擬授業を行なった後、受講者全員で「教え方」についての討論をすることによって、学習者を観察する視点や省察的態度を養い、実践で活かせるスキルを習得する。 | |
| 到達目標 | 英語の授業で必要とされる<br>(1)基本的な技術を身につける。<br>(2)模擬授業の演習を通して教師として必要な指導力と心構えを身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標で示す　(1)の基本的な技術については　課題レポート 30%とその発表 10%、 (2)の指導力と心構えについては課題レポート 30%とその発表 10% 。 (1)と(2)を統合的にまとめるための毎回の討論 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：<br>浅羽亮一他著 (2013)『わかりやすい英語教育法–小中高での実践的指導』改訂版三修社.<br>中学校検定教科書：New Horizon English Course 1・2・3 東京書院. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅲ（家庭） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大塚　眞理子※ | |
| 授業概要 | 家庭科教育法ⅠおよびⅡの発展として、家庭科教育についてさらに考察を深め、中・高家庭科教員としての資質を養う。 | |
| 到達目標 | (1)家庭科教育の意義や特質を知る<br>(2)家庭科教育と他教育との関連性を理解する。<br>(3)家庭科教員としての資質や指導技術を理解する。 | |
| 成績評価 | （1）（2）（3）について、レポート(70%)で評価する。また授業態度や毎回の感想なども評価する（30%）。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「中学校高等学校　家庭科指導法」中間美砂子編著 建帛社 | |
| 履修資格 | 家庭科教育法ⅠおよびⅡを履修し、必要単位を取得していること。 | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅲ（社会） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 | |
| 授業概要 | 社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱの発展科目と位置づけ、中学校社会科の授業実践力をさらに高めることをめざす。地理･歴史･公民の三分野の教材解釈を深める。 | |
| 到達目標 | １．新たな教材開発の視点を身につける。<br>２．生徒の関心や身近な問題を教材化し、授業を構成できる。<br>３．学習指導案、授業プリントなどの資料、板書計画が作成できる。 | |
| 成績評価 | レポート６０％、授業指導案と模擬授業４０％を基本に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業の中で配布する。「中学校学習指導要領解説　社会科編」文部科学省。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅲ（理科） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮下　ゆたか※ | |
| 授業概要 | 本講義は，「理科教育法Ⅰ」，「理科教育法Ⅱ」の発展科目として位置づけ，中学校理科の授業実践力をさらに高めることをめざす科目である。<br>具体的には、新任の中学校理科教師として必要な授業をデザインする際に求められる単元分析，実験教材開発，授業プリント作成について学習する。特に、理科の実験的手法については教材開発を通してその定着を図る。また、環境問題、原発問題、エネルギー問題など現在の日本の抱えている社会的課題と理科教育との関わりについて、自分の意見を持てることをめざす。<br>以上のことを通して，中学校教育現 | |
| 到達目標 | １．身近な生活･環境に関連した教材をつくることができる<br>２．導入実験・発問を工夫し、学習集団の形成をはかる学習プランを作成できる<br>３．小学校・高等学校のつながりを意識した学習プランの作成ができる<br>４．理科授業について授業評価ができる | |
| 成績評価 | ①学習指導案、授業プリント、板書計画を作成することができ，これにもとづいた模擬授業ができる（50%）<br>②模擬授業に対する自己分析と友人の模擬授業評価ができる。（20%）<br>③グループワークで他者の意見をしっかりと聞き，自分の意見を他者に明確に伝えることができる。（20%）<br>④グループワークで仲間とのチームプレイと適切なリーダーシップをとることができる。（10%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 必要な資料などは教室にて適宜　紹介、配布をする。以下の資料①②は各自準備しておくことが望ましい。<br>①中学校学習指導要領(2008 年 3 月）②中学校理科教科書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅳ（英語） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小栗　裕子 | |
| 授業概要 | 教育実習に備えて、英語の指導法についての基礎知識と教師としての心構え、授業で必要とされる指導技術や指導案の作成の仕方を学ぶ。演習や模擬授業を行なった後、受講者全員で「教え方」についての討論をすることによって、学習者を観察する視点や省察的態度を養い、実践で活かせるスキルを習得する。（平成 26 年度不開講） | |
| 到達目標 | (1) 英語の授業で必要とされる基本的な技術を身につける。<br>(2) 模擬授業の演習を通して教師として必要な指導力と心構えを身につける。 | |
| 成績評価 | 到達目標に示す　(1)基本的な技術に・・・ (2) 指導力と・・・については模擬授業の評価点（80%　(1) 30% (2) 50% ）と模擬授業の省察レポート(20%)とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：中学校検定教科書：『New Horizon English Course 1・2・3 』東京書院.<br>浅羽亮一他著 (2013)『改訂版 わかりやすい英語教育法−小中高での実践的指導』三修社.<br>参考書・参考資料等　文科省『中学校学習指導要領解説（外国語編英語編)』開隆堂出版.<br>米山朝二 (2011)『新編 英語教育指導法事典』研究社. | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅳ（家庭） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 大塚　眞理子※ | |
| 授業概要 | 家庭科教育法ⅠおよびⅡの発展として、高等学校普通教科家庭科（家庭基礎・家庭総合・生活デザイン）の指導方法について、演習方式で実践的・体験的に学びを深める。 | |
| 到達目標 | （1）高等学校家庭科において育成すべき「学力」の考え方を理解する。<br>（2）それを実現するための指導の方策を知り、教材研究を深める。<br>（3）指導に有効な教材を考え作成できる。<br>（4）家庭科教員としての資質、指導力を習得する。 | |
| 成績評価 | （1）（2）レポート　40%（3）開発教材の作成、発表　40%（4）授業の取り組み、毎回の授業の感想など 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 高等学校家庭教科書「家庭総合」東京書籍 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅳ（社会） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 | |
| 授業概要 | 社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱの発展科目と位置づけ、中学校社会科の授業実践力をさらに高めることをめざす。地理･歴史･公民の三分野の教材解釈を深め、授業の構想力を豊かにする。 | |
| 到達目標 | １．授業構想に基づく教材開発ができる。<br>２．生徒の関心や身近な問題を教材化し、授業を構成できる。<br>３．学習指導案、授業プリントなどの資料、板書計画が作成できる。<br>４．自らの擬授業ついての自己分析をすすめ、友人の模擬授業が評価できる。 | |
| 成績評価 | レポート６０％、授業指導案と模擬授業４０％を基本に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 授業の中で配布する。「中学校学習指導要領解説　社会科編」文部科学省。<br>中学校社会科教科書 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教科教育法Ⅳ（理科） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 宮下　ゆたか※ | |
| 授業概要 | 本講義は，「理科教育法Ⅰ」，「理科教育法Ⅱ」の発展科目として位置づけ，高等学校理科の授業実践力をさらに高めることをめざす科目である。<br>具体的には、新任の高校理科教師として必要な授業をデザインする際に求められる単元分析，実験教材開発，授業プリント作成について学習する。特に、理科の実験的手法については教材開発を通してその定着を図る。また、環境問題、原発問題、エネルギー問題など現在の日本の抱えている社会的課題と理科教育との関わりについて、自分の意見を持てることをめざす。<br>以上のことを通して，高校現場にお | |
| 到達目標 | ①学習指導案、授業プリント、板書計画を作成することができ，これにもとづいた模擬授業ができる（50%）<br>②模擬授業に対する自己分析と友人の模擬授業評価ができる。（20%）<br>③グループワークで他者の意見をしっかりと聞き，自分の意見を他者に明確に伝えることができる。（20%）<br>④グループワークで仲間とのチームプレイと適切なリーダーシップをとることができる。（10%） | |
| 成績評価 | ①学習指導案、授業プリント、板書計画づくり、模擬授業（50%）<br>②模擬授業に対する自己分析と友人の模擬授業評価（20%）<br>③最終レポート（20%）（最終の指導案、授業記録及び模擬授業についての検討と自己評価、作製した教材など）<br>④授業への貢献･参加の度合い（10%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | ①中学校学習指導要領(2008 年 3 月）②高等学校学習指導要領（2009 年 3 月） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 情報と職業 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 亀田　彰喜※ | |
| 授業概要 | 情報技術やインターネットの活用によって、企業の経営形態を変え、情報関連企業が続々と出現し、従来の企業のビジネスモデルが大きく変化してきている。新しい情報関連ビジネスが次々生まれる中で、企業が求める人材も大きく変わってきている。今日のネットワーク社会で、我々の仕事の内容や職場の環境がいかに変化してきているのか。また、今日の情報化社会におけるビジネスを理解するために求められる人材がどのように変化して来ているのか。そして、情報化社会の労働観がどのように変わりつつあるかを学んでおかねばならない。 | |
| 到達目標 | （1）情報化社会における情報技術の進展と情報関連企業の実態の把握し、情報ネットワークによるビジネス環境の変化を認識し、企業における情報活用の事例を考察し習得する。<br>（2）インターネットビジネスの実態を把握し、情報化社会における犯罪と法制度を考察し認識する。 | |
| 成績評価 | 課題レポート 100%　で評価する。内訳は次の通りである。<br>（1）は 50%で評価し、（2）は 50%で評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント等を配布<br>指定図書：駒谷昇一・辰巳丈夫・楠元範明共著「情報と職業」（オーム社）<br>参考書：近藤　勲編著「情報と職業」（丸善） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 職業指導 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 中島　由佳※ | |
| 授業概要 | 高等学校における進路指導において必要とされる知識・技法を身につける。職業指導の理論と方法、青少年のキャリア発達についての理解を深め、適性や興味についての心理的考察とその診断方法に関して論考する。さらに、厳しく、変化の激しい現代社会への接続を支援する職業指導（進路指導）のあり方を考え、学ぶ。 | |
| 到達目標 | (1) 青少年のキャリア発達についての理解を深める。<br>(2) 今日の進路指導において必要とされる知識・技法を身につける。 | |
| 成績評価 | 平常点３割、評価課題（論述試験）の得点（理解の正確さと洞察の深さ）を７割として評価する。<br>ただし出席を重視し、全回数の 3 割以上の欠席をした者には単位を認定しない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし（適宜プリントを配布する）<br>参考書・参考資料等：入門 進路指導・相談（福村出版） | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 生徒指導論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 | |
| 授業概要 | 生徒指導概念の出自に関する検討をはじめとして、生活指導概念との異同を論じ、生徒指導の基本的課題について考える。また、日本における生徒指導論の背景にある、いくつかの理論（特別権力関係論、管理主義教育論、精神主義教育論、保護主義的教育論の問題性について考察する。また、生徒指導の実践的な展開場面を素材にしながら、実践的課題について考える。 | |
| 到達目標 | 生徒指導の目標・課題について理解を深めるとともに指導力量を形成する。 | |
| 成績評価 | レポートによって行う。５回以上欠席したら評価の対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：<br>参考書：講義中に適宜指示する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 特別活動論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 福井　雅英 | |
| 授業概要 | 学校教育課程における教科外の領域における教育指導について研究するのが、特別活動論の目的である。日本の生活指導や生徒指導実践野中で蓄積されてきた特別活動に関わる教育学的な知見について考える。 | |
| 到達目標 | 特別活動の目的・内容について理解を深め、指導する実践力量を形成する。 | |
| 成績評価 | レポートによって行う。５回以上欠席したら評価の対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：指定しない。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 被服学 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 道明　美保子※ | |
| 授業概要 | 絶えず向上･進歩する衣生活を科学的な視点でとらえ､真の豊かな衣生活のあり方を考える。被服学の領域は非常に広く、周辺科学の境界領域にまたがる。そこで本講義では、日本の被服生活文化のうつりかわり、着心地と素材、被服の整理、装うこと、衣の消費について概説する。 | |
| 到達目標 | 中学校、高等学校での指導を考慮し、次の事項に関して教育現場で活かせる知識を得る。<br>⑴被服生活文化<br>⑵被服素材と着心地<br>⑶被服管理<br>⑷装うこと<br>⑸衣の消費 | |
| 成績評価 | レポート評価 30%　期末筆記試験 70%<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象にしない | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：プリント配布<br>指定図書：適宜紹介<br>参考書：適宜紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 服飾製作実習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 法月　紀江※ | |
| 授業概要 | 被服製作の指導に関する知識と技術を習得する。<br>日常生活に必要とされる基本技術を身につける | |
| 到達目標 | 日常生活を豊かにするという生活者の視点で被服製作を実践する姿勢をつくること。<br>布の扱いをとおしてその特質を理解する。基礎技術を身につけ日常生活に於いての工夫力を促す。 | |
| 成績評価 | 実習での製作物に対うする評価 70%・小テスト 30% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：文化ファッション大系　服飾造形講座①服飾造形の基礎 文化出版局/文化女子大講座 服装造形学 理論編Ⅰ技術編Ⅰを参考に適宜プリントを配布 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 保育学Ａ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 野部　博子※ | |
| 授業概要 | こどもが、大人にむかって心身ともに健やかに成長発達し、かつ社会の一員として、健全な環境の中で暮らすには、大人はどのように援助していったらよいかを考える。 | |
| 到達目標 | 児童福祉法でいう児童期の心身の発達と人格形成について理解を深める。 | |
| 成績評価 | 毎回、講義後に提出するレポート 70%、及び課題 30%。　内容の理解と個人の見解が展開できることを評価。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講議時に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 保育学Ｂ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 野部　博子※ | |
| 授業概要 | こどもが、大人にむかって心身ともに健やかに成長発達し、かつ社会の一員として、健全な環境の中で暮らすには、大人はどのように援助していったらよいかを考える。 | |
| 到達目標 | 児童福祉法でいう児童期の心身の発達と人格形成について理解を深める。 | |
| 成績評価 | 毎回、講義後に提出するレポート 70%、及び課題 30%。　内容の理解と個人の見解が展開できることを評価。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：講議時に紹介する | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 栄養教育実習・事前事後指導 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小澤　惠子 ・ 山川　佐代子※ ・ 平木　敦子※ | |
| 授業概要 | 栄養教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価反省を大学において行う。 | |
| 到達目標 | 栄養教育の内容の理解。授業実践力の向上。 | |
| 成績評価 | 実習、事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 学校栄養指導論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 成田　幸子※　・　山川　佐代子※　・　平木　敦子※ | |
| 授業概要 | 管理栄養士免許に必要な科目を修得したことによって培われた栄養学の専門性に加えて、児童生徒の健全な心身の発達のため、さらには生涯を通じた健康づくりのために、食を通じた健康教育の重要性を理解し、教育者として食に関する指導（学校における食育）ができる能力を養う。 | |
| 到達目標 | （1）食に関する指導について、その基礎理論を理解する。<br>（2）栄養教諭の実践演習として、食に関する指導についての学習指導案を作成する。<br>（3）模擬授業、相互評価を通し、指導法や指導効果の向上を目指す。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(3)はプレゼンテーション能力（４０％：各 13%)、学習指導案および模擬授業への取り組み（６０％：各 20%）で評価する。<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象としない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：金田雅代編著「栄養教諭論－理論と実際－」(建帛社)、文部科学省刊行書「食に関する指導の手引」(東山書房) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教職実践演習（栄養教諭） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 廣瀬　潤子　・　山川　佐代子※　・　平木　敦子※ | |
| 授業概要 | 大学４年間で学んだことと栄養教育実習での体験を統合し、栄養教諭として学校給食管理と食に関する指導を行うための実践的指導力や今日的課題に対応できる能力の育成と更なる資質の向上を図る。主な授業の形態として、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせたものとする。 | |
| 到達目標 | 教職課程における履修履歴をもとに、学校現場で必要とされる栄養教諭としての技能、知識の不足部分を補完する | |
| 成績評価 | 授業への参加姿勢、評価テスト、レポート、発表内容等を総合的に評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考書：適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 食生活教育論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 成田　幸子※　・　山川　佐代子※　・　平木　敦子※ | |
| 授業概要 | 日本の食生活・食文化が日本人の健康維持増進に果たしてきた役割を理解し、さらに国民栄養の現状、生活習慣病と関連を持たせながら、幼児・児童・生徒の食に関する問題点、課題などに対する的確な問題意識をもち、社会、地域、学校と連携しつつ、食生活に関わる諸問題を解決し、改善を講じる能力を養う。 | |
| 到達目標 | (1) 栄養教諭の役割と職務内容の全体像を理解する。<br>(2) 学校給食の役割を理解する。<br>(3) 国民全般や幼児・児童・生徒の食に起因する健康課題、食生活の歴史的・文化的事項等を理解する。<br>(4) 実態を踏まえた個別相談指導や学校・家庭・地域との連携方策を習得する。 | |
| 成績評価 | 到達目標の(1)～(4)は期末試験(80%:各 20%)、授業内レポート(20%:各 5%)で評価する。<br>授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：金田雅代編著「栄養教諭論一理論と実際一」(建帛社)、文部科学省刊行書「食に関する指導の手引き」(東山書房) | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 学校看護論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　祐子※ | |
| 授業概要 | 学校保健における養護の概念と歴史を学び、児童・生徒の心身の健康の保持増進に関して、養護教諭としての養護実践に必要な事項を概説や演習を通じておこなう。 | |
| 到達目標 | 学校教育における養護教諭の役割を理解し、学校の教育機能や環境に応じた、養護実践の基本を身につける。 | |
| 成績評価 | 1)授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。<br>2)課題レポート 30 点、テスト 70 点として総合的に評価する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：采女智津江著「新養護概説＜第５版＞」　少年写真新聞社参考書：　①学校保健・安全実務研究会編著「新訂版　学校保健実務必携＜第２次改訂版＞」第１法規　②文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課　監修「児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）」財団法人　日本学校保健会　③その他、適宜授業で連絡 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 学校保健論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 田中　祐子※・ 冨田　豊※・ 橋本　進一※ ・ 伊丹　君和 | |
| 授業概要 | 発育・発達期にある児童・生徒の健康は、その人の生涯の健全な生活・幸福な生活の基本となる重要事項である。この時期に形作られた健全な身体と精神、また教えられた保健知識、養われた保健習慣は、その人の将来の健全な生活の基盤となるものである。このことから、児童・生徒の教育に携わる人たちのための基礎学科である学校保健について理解を深める。 | |
| 到達目標 | （1）養護教諭としての知識と資質を修得する。 | |
| 成績評価 | （1）小試験と課題レポートの総計で評価 100％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：養護教諭講座⑦「新・学校保健」（東山書房）<br>参考書：①「厚生の指標　国民衛生の動向」一般財団法人厚生労働統計局<br>②「学校保健の動向」財団法人　日本学校保健会<br>③ 授業中に適宜提示 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教育実習・事前事後指導（養護教諭） | ５単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 八木　利津子※ ・ 伊丹　君和 ・ 植村　小夜子・ 糸島　陽子 | |
| 授業概要 | 教育実習（養護教諭）とそれに関わる事前事後の指導である。実際に教育現場で教育指導をするにあたり、児童・生徒を理解する方法や、養護教諭の役割について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前学習と、事後のまとめ、評価、反省を大学において行う。 | |
| 到達目標 | （1）学校における教育理念や内容などが理解できる。<br>（2）教育実習において、養護教諭の役割を理解するとともに、保健管理および保健指導の実際を学ぶ。<br>（3）教育実習生としてふさわしい態度で積極的に実習に取り組む。<br>（4）学校教育を推進するための教育システムが理解できる。 | |
| 成績評価 | （1）～（4）教育実習での記録も含めた実習評価 100％<br>＊なお、教育実習、事前事後指導の完全参加が絶対条件となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト<br>なし。適宜プリントを配布する。<br>参考書<br>授業内に適宜紹介する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 教職実践演習（養護教諭） | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 八木　利津子※ ・ 伊丹　君和 ・ 植村　小夜子 ・ 糸島　陽子 | |
| 授業概要 | 4 年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの学びを振り返るとともに、不足している知識・技能を補完する。また、教育実習における学びを実践記録としてまとめ、学びを共有し合う。さらに、実践での学びもふまえて、事例やロールプレイングなどを取り入れながら健康教育のあり方を考えることで、学校現場での養護教諭としての実践に繋がる力を身につける。 | |
| 到達目標 | （1）教育実習での学びを実践記録としてまとめ、他者に説明できる。<br>（2）専門的職種（養護教諭）として求められる資質や能力を身につけ、学校現場での実践に繋がる力をつける。 | |
| 成績評価 | （1）実践記録 80％ 、（2）演習における態度や発表 20％<br>＊なお、演習への完全参加が絶対条件となる。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 講義の際に、資料配布。参考文献については適宜紹介 。 | |
| 履修資格 | 教育実習修了または実習中の者 | |

| 科目名 | 博物館学概論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市川　秀之 ・ 亀井　若菜 | |
| 授業概要 | 博物館の基本的な問題について講義する。博物館は社会教育施設であるとともに、研究機関としても重要な意味をもつ。博物館の目的、機能、現状、歴史などを講義し、調査研究、資料の整理と収集、公開展示、普及の基本的な考え方を解説する。 | |
| 到達目標 | （1）博物館の目的、機能、現状、歴史などについての基本的な知識の取得<br>（2）博物館を分析的に見学する能力の取得<br>（3）展示を主体的に構築する能力<br>（4）あるべき博物館像を自ら構築すること | |
| 成績評価 | テスト（４０％）・レポート２回（２０％）・レスポンスカード（４０％）。２回のレポートを提出しない者は合計点数が 60 点に達していても単位を認めない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新時代の博物館学』芙蓉書房出版　2012 年、本体 1,900 円 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 博物館教育論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 博物館が行う事業の中で、教育学習という事業は、単に一つの機能というだけではない。特に利用者の立場から見れば、すべての博物館の事業は、教育学習機能とのかかわりが見られる。この授業では、具体的な事例を中心に、学びの場としての博物館はいかにあるべきかを考える。 | |
| 到達目標 | 博物館事業の中での博物館教育の役割について理解する。 | |
| 成績評価 | レスポンスカードの評価 50％・レポート 50％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新時代の博物館学』芙蓉書房出版 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 博物館実習 | ３単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 市川　秀之 ・ 浦部　美佐子 ・ 野間　直彦 ・ 東　幸代 ・ 上町　達也 ・ 亀井　若菜 ・ 西田　隆義 ・ 原田　英美子 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 近隣の博物館または出身府県の博物館において、博物館資料の取り扱いから展示の実現まで多様な実務について実習する。授業ではその準備として実務に必要な基本的事項について実習し、また事後には実習の成果を発表し反省点などをまとめる。 | |
| 到達目標 | （1）博物館の実務に必要な技術・知識の取得<br>（2）展示を実際に構築していく能力 | |
| 成績評価 | ミニ博物館の内容 30%。実習日誌の内容 30%・レポート 30%・報告書原稿 10%。 一度でも無断での欠席・遅刻をした者は単位を認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするものは必ず事前に連絡すること。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | なし | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 博物館情報・メディア論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 嶋田　容子※ | |
| 授業概要 | 講義の前半は、視覚聴覚の仕組みとさまざまな錯覚を、パワーポイントや インターネット上のメディア資料を用いて体験し「見る・聞く」の不思議を学ぶ。後半は、博物館展示のあり方を事例にもとづいて概観し、研究・ 保存・教育それぞれと博物館との連携についても考える。著作権・個人情報等、実際的な問題についても触れる。 | |
| 到達目標 | 基本的な視聴覚の仕組みだけでなく、視聴覚知覚が主観的に構成されるものであることを理解し、「見る」「聞く」という行動を多角的に捉え直す。後半では、博物館展示の理論と実例を通じて、展示のポイントや教育への工夫などを学ぶ。 | |
| 成績評価 | 小レポート２０％　試験８０％ | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 参考文献は講義中に随時紹介 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 博物館資料保存論 | ２単位　後期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 野間　直彦 ・ 市川　秀之 ・ 横田　尚美 ・ 東　幸代 ・ 未定 | |
| 授業概要 | 博物館の重要な機能は博物館資料を後世に伝えることである。この授業では博物館資料の保存よび博物館における保存・展示環境、環境や景観と博物館、エコミュージアムなどについての基礎知識を講義する。琵琶湖博物館において学芸員から講義を受ける２日間の集中講義を含む。 | |
| 到達目標 | 博物館資料の保存に関する基礎的知識を習得する。 | |
| 成績評価 | レスポンスカードの評価 80%・レポート 20% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新時代の博物館学』芙蓉書房出版<br>『博物館でまなぶ―利用と保存の資料論』 東海大学出版会 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 博物館資料論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 定森　秀夫 ・ 浦部　美佐子 ・ 上町　達也 ・ 東　幸代 | |
| 授業概要 | 博物館においては調査研究活動が必須要件となる。調査研究活動の意義と内容を明らかにして、その成果を社会に還元する必要性について述べる。また、博物館資料は多種多様である。博物館資料の意義・種類およびその資料化の過程を詳述するとともに、博物館資料の収集・整理・活用について具体的にみていく。 | |
| 到達目標 | 1.博物館における調査研究活動を理解する。<br>2.博物館資料の収集、整理保管などに関する理論・方法を習得する。<br>3.博物館資料に関する基礎的能力を養う。 | |
| 成績評価 | 小テスト 4 回(各回 25%) | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 『新時代の博物館学』(芙蓉書房、2012 年、本体 1900 円)<br>適宜資料プリントも配布する。 | |
| 履修資格 | | |

| 科目名 | 基礎助産学Ⅲ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 助産の対象者に対する健康教育に活用できる理論を学び、個人あるいは集団に対する健康教育についてプログラムの立案から評価までの一連の過程を理解する。 | |
| 到達目標 | 1.助産の対象への健康教育と活用される理論が説明できる<br>2.健康教育のプロセスおよびその過程で活用される教育技法、評価法を説明できる<br>3.個人あるいは集団を対象とした健康教育の特徴が説明できる<br>4.個を対象とした健康教育の指導計画立案と学習教材の作成ができる<br>5.健康教育者としての助産師に必要な能力について理解できる | |
| 成績評価 | 1.助産の対象への健康教育と活用される理論が説明できる　（10%）<br>2.健康教育のプロセスおよびその過程で活用される教育技法、評価法を説明できる（10%）<br>3.個人あるいは集団を対象とした健康教育の特徴が説明できる（20%）<br>4.個を対象とした健康教育の指導計画立案と学習教材の作成ができる（50%）<br>5.健康教育者としての助産師に必要な能力について理解できる(10%）<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：堀内成子編　助産学講座 5　助産診断･技術学Ⅰ　医学書院　2013<br>指定図書：鈴木由美編　新人看護師、助産師学生、看護師学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導　妊娠期　丸善プラネット　2013 鈴木由美編　新人看護師、助産師学生、看護師学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導　産褥期　丸善プラネット　2013 | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、助産師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 助産学実習（2012 年度以降） | １３単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 渡邊　香織 ・未定 ・古川　洋子 ・未定 ・渡邊　友美子 ・本岡　夏子 ・藤島　和代 | |
| 授業概要 | 理論に基づいた助産活動を周産期医療の現場で実践するための基礎的能力を習得する。分娩介助実習および継続事例実習を通して、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期・乳児期の助産診断を実践し、診断に基づいた実践活動を展開する。また助産管理、地域母子保健分野における助産師活動の実践を通して習得する。 | |
| 到達目標 | １．周産期、特に分娩期において安全に関わる基礎的情報収集を中心に個別性・予測性を踏まえたアセスメントを行い、優先順位の判断に基づくケア計画の立案・実施・評価ができる。<br>２．根拠に基づいた助産診断・援助技術により分娩介助技術を実践し評価ができる。<br>３．妊婦・褥婦の身体的・心理的・社会的適応をアセスメントし、個別ケアや健康教育が行える。<br>４．新生児の胎外生活適応状態・健康状態をアセスメントし胎外生活適応に応じたケアを提供できる。<br>５．母子保健チームにおける役割分担並びに関係他職種との連携ができる | |
| 成績評価 | (1)周産期、特に分娩期において安全に関わる基礎的情報収集を中心に個別性・予測性を踏まえたアセスメントを行い、優先順位の判断に基づくケア計画の立案・実施・評価ができる。レポート 30%　(2)根拠に基づいた助産診断・援助技術により分娩介助技術を実践し評価ができる。レポート・面接法　15%　(3)妊婦・褥婦の身体的・心理的・社会的適応をアセスメントし、個別ケアや健康教育が行える。レポート 20%(4)新生児の胎外生活適応状態・健康状態をアセスメントし胎外生活適応に応じたケアを提供できる。レポート 9%(5) 母子保健チームにおける役割分担並びに関係他職種との連携ができる。レポート・面接法 26% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 武谷雄二他：助産学講座 2-9、医学書院. | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、助産師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 助産管理 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古川　洋子 | |
| 授業概要 | 助産管理の必要性と助産業務範囲について理解し、助産業務管理に必要な基礎的能力を学習する。また、管理の原則をふまえて助産業務を望ましい方向に発展できる能力を養う。（H27 年より開講） | |
| 到達目標 | 1. 助産管理の概念、特性を理解することができる<br>2. 助産師の法的責任と義務について関連法規と照らし合わせて考えることができる<br>3. 周産期管理システムとリスクマネージメントについて理解することができる<br>4. 病産院における助産業務管理について理解することができる<br>5. 助産所における助産業務管理について理解することができる | |
| 成績評価 | レポート 20 点、定期試験 80 点とする。目標 1)～3）は各 20%の定期試験評価、目標４）、５）は課題レポート 20%で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。尚、授業時間の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象にしない。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「助産診断学講座 10　助産管理」医学書院. 2013.<br>「看護六法」新日本法規.「看護白書」日本看護協会出版会<br>「助産師業務要覧(基礎編)」「助産師業務要覧（実践編）」日本看護協会出版会. | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、助産師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 助産診断・技術学Ⅰ（2012 年度以降） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古川　洋子 | |
| 授業概要 | 妊娠期における助産過程の展開に必要な診断および技術の原理と技法について学習する。妊娠経過に伴う妊婦の心身の変化や胎児の成長発達、妊娠の経過にともなう適応過程について診断する方法を学び、正常性の判断と正常逸脱の危険性を的確に捉えられ、ハイリスク・異常状態にある妊婦への適応能力を身につける。さらに、妊婦家族への支援、高度医療施設への搬送の必要性を判断する能力を身につける。 | |
| 到達目標 | 1. 妊娠期の助産診断と技術の特徴が説明できる(10%)<br>2. 妊娠期の助産診断過程を展開するために必要な知識の修得ができる（50%)<br>１）妊娠経過の診断　２）健康生活の診断　３）胎児の成長・発育に関する診断<br>４）妊婦と胎児の正常逸脱の診断<br>3. ハイリスク妊婦の特徴とケアが理解できる（20%)<br>4. 妊婦の助産ケア実践のための基本的技術が理解できる(20%)<br>１）妊娠の診断技術　２）妊婦の健康診査　３）妊婦の健康生活に関するケア<br>４）正常逸脱時のケア | |
| 成績評価 | 期末筆記試験 80%　レポート 20%<br>目標２のうち 10%をレポートとする、目標 3 のうち 10%をレポートとする<br>100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。1/3 以上欠席したものは、評価対象外とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「助産診断学講座６・７・８　助産診断・技術学Ⅱ」医学書院. 指定図書 :「これならわかる産科学」南山堂、「正常分娩の助産学」医学書院、「胎児心拍モニタリング講座改訂 2 版」メディカ出版、「助産師外来で役立つ超音波検査ガイドブック」メディカ出版 | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、助産師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 助産診断・技術学Ⅱ（2012 年度以降） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古川　洋子 ・ 渡邊　香織 | |
| 授業概要 | 分娩期における助産過程の展開に必要な診断およびお助産技術の原理と技法について学習する。分娩の開始と進行状態および産婦の心身の変化や分娩進行にともなう産婦や胎児の適応過程について診断する方法を学び、正常性の判断と正常逸脱の危険性を的確に捉、ハイリスク、異常状態にある産婦への対応能力を身につける。さらに産婦や家族への支援、高度医療機関への搬送の必要性を判断する能力を身につける。 | |
| 到達目標 | 1. 分娩期の助産診断と技術の特徴の説明ができる<br>2. 分娩期の助産診断過程を展開するために必要な知識が修得できる<br>１)分娩経過の診断　２）産婦と胎児の正常逸脱の診断<br>3. ハイリスク産婦の特徴とケアが理解できる<br>4. 産婦の助産ケア実践のための基本技術が理解できる<br>１）分娩の診断　２）基本的な分娩怪魚技術　３）分娩経過中の産婦への生活支援<br>４）正常逸脱時のケア | |
| 成績評価 | 期末筆記試験 60%、レポート評価 20%、分娩介助の基本技術 20%。目標１、3 は筆記試験、4 は筆記試験と分娩介助技術プレテスト、目標２は筆記試験とレポート評価 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 「助産診断学講座６・７・８　助産診断・技術学Ⅱ」医学書院. 指定図書 :「これならわかる産科学」南山堂、「正常分娩の助産学」医学書院、「胎児心拍モニタリング講座改訂 2 版」メディカ出版 | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、助産師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 助産診断・技術学Ⅲ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 未定 | |
| 授業概要 | 産褥期、新生児期、乳幼児期における助産過程の展開に必要な診断および技術の原理と技法について学習する。産褥期の心身の変化や新生児期の適応過程と成長発達等について判断し、正常性の判断、逸脱を的確にとらえ、ハイリスク・異常状態にある対象への対応能力を身につける。さらに、褥婦、新生児、家族への支援、高度医療施設への搬送の必要性を判断する能力を身につける。 | |
| 到達目標 | １．産褥期、新生児期、乳幼児期の助産診断と技術の特徴が説明できる。<br>２．産褥期、新生児期、乳幼児期の助産診断過程を展開するために必要な知識が修得できる。<br>１）産褥経過の診断　２）健康生活の診断　３）育児行動に関する診断<br>４）母児の正常逸脱の診断　５）出生直後の新生児の助産診断<br>６）移行期の新生児の生理的変化の診断　　７）児の発育・発達に関する診断<br>３．ハイリスク新生児の特徴とケアを理解し、新生児蘇生の基本について習得できる。<br>4. 産褥期、新生児期、乳幼児期の助産ケア実践のための基本技術が習得できる。<br>１）復古促進　２）母乳栄養の確立　３）産後の家庭生活の確立　４）正常逸脱時のケア<br>５）新生児･乳幼児の観察法、計測法　６）健康生活に関するケア　７）母親・家族への育児指導 | |
| 成績評価 | １．産褥期、新生児期、乳幼児期の助産診断と技術の特徴が説明できる。（10％）<br>２．産褥期、新生児期、乳幼児期の助産診断過程を展開するために必要な知識が修得できる。（50％）<br>３．ハイリスク新生児の特徴とケアを理解し、新生児蘇生の基本について習得できる。（20％）<br>４．産褥期、新生児期、乳幼児期の助産ケア実践のための基本技術が修得できる。（20％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：我部山　キヨ子編　助産学講座７　助産診断･技術学Ⅱ分娩期・産褥期　医学書院　2013<br>横尾京子編　助産学講座８　助産診断･技術学Ⅱ新生児期・乳幼児期　医学書院　2013<br>田村正徳編　新生児蘇生法テキスト　メジカルビュー社　2011<br>仁志田博司著　新生児学入門 第４版 医学書院 2012 | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、助産師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 助産診断・技術学演習（2012 年度以降） | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 古川　洋子 ・ 渡邊　香織 ・ 未定・ 渡邊　友美子 ・ 本岡　夏子 ・ 藤島　和代 | |
| 授業概要 | 模擬事例による助産過程の展開演習をとおして、周産期における助産診断の実践活動に必要な知識や技術を修得し、助産の実践につなげることを目的とする。 | |
| 到達目標 | １．妊娠期のアセスメントから助産診断を理解し、必要な妊婦への助産援助技術が習得できる。<br>２．分娩期のアセスメントから助産診断を理解し、産婦へ必要な助産援助技術が習得できる。<br>３．産褥・新生児・乳児期のアセスメントから助産診断を理解し、褥婦・新生児への必要な助産援助技術が習得できる。<br>４.周産期にあるハイリスクや異常を理解し、妊産褥婦や新生児への必要な支援が理解できる。 | |
| 成績評価 | 1. 期末筆記試験 50%<br>2. 分娩期の助産診断の展開と分娩介助技術試験 40%、新生児キャッチ技術試験 10% | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「助産診断学講座６・７・８　助産診断・技術学Ⅱ」医学書院、指定図書：荒木勤著　「最新産科学」（正常編）文光堂　、仁志田博司著「新生児学入門Ⅳ」医学書院. | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、助産師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 健康教育方法演習 | １単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小林　孝子 ・ 馬場　文 ・ 小島　亜未 ・ 川口　恭子 | |
| 授業概要 | 健康教育論で学んだ理論と方法についての知識を元に効果的な健康教育の演習を行う。健康教育に用いるアセスメント技術、カウンセリング技術、グループワーク技法を学び、それらの技術を用いて健康相談や健康教室の企画・実施・評価が行える能力を養う。健康教育の実際を想定してグループで企画立案し、発表後に自分たちの健康教育案についての評価を行う。(H27 年開講) | |
| 到達目標 | (1)乳幼児健診の問診・相談場面において、乳幼児の発達をアセスメントし、保護者のニーズに応じた健康相談を展開することができる。<br>(2)成人の保健指導場面において、健康状態をアセスメントし、対象者のニーズに応じた保健指導を展開することができる。<br>(3)対象となる集団の健康課題に応じた健康教育を効果的に展開することができる。<br>(4)グループ活動の意義を理解し、協働して課題に取り組むことができる。 | |
| 成績評価 | (1)課題への取り組み・レポート（25％）<br>(2)課題への取り組み・レポート（25％）<br>(3)課題への取り組み・レポート（40％）<br>(4)課題への取り組み（10％） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「最新保健学講座　別巻１　健康教育論」（メヂカルフレンド社）<br>参考書：講義中、適宜紹介する | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、保健師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 公衆衛生看護学Ⅲ | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 馬場　文 ・ 小島　亜未 ・ 川口　恭子 | |
| 授業概要 | 公衆衛生看護学演習の前提として、以下のことについて講義する。<br>1-(1)乳幼児の心身の発達の特徴、およびその特徴に応じた個別保健指導の方法について<br>1-(2)高齢者の心身の状態や生活の特徴、およびその特徴に応じた個別保健指導の方法につ<br>2　地域診断の基本的知識と展開方法について | |
| 到達目標 | 1-(1)乳幼児期の心身発達の特徴に応じた保健指導について説明できる。1-(2)高齢者の心身状態および生活状況に応じた保健指導について説明できる。2-(1)地域診断の目的、意義、理論（モデル）について説明できる。2-(2)地域診断における情報収集、アセスメント、健康課題の抽出の過程について理解できる。 | |
| 成績評価 | 1-(1)および 1-(2)：定期試験（(1) 15%、(2) 15%）とレポート（(1) 15% (2) 15%）<br>2-(1)：定期試験（20%）<br>2-(2)：レポート（20%）<br>これらを合計 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「標準保健師講座２ 地域看護技術」中村裕美子他（医学書院）<br>「標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動」中谷芳美他（医学書院）<br>※3 年次で購入したものを使用 | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、保健師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 公衆衛生看護学演習 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 馬場　文 ・ 小島　亜未 ・ 川口　恭子 | |
| 授業概要 | １．家庭訪問演習：公衆衛生看護学実習の前提として、家庭訪問（新生児、高齢者）の実際について演習を行う。新生児および高齢者の事例を用いて、家庭訪問による援助計画の立案を行う。また、家庭訪問に必要な、コミュニケーション・観察・保健指導・評価の方法などの技術を、ロールプレイを通じて習得する。２．地域診断演習：公衆衛生看護学Ⅲの講義をふまえて、実習グループで実習市町の地域診断に取り組む。地域診断の過程のうち、実習市町の情報収集・アセスメント・健康課題の抽出までを展開し、最後にその成果を発表する。 | |
| 到達目標 | 1-(1)家庭訪問事例演習において、母子事例の情報から、訪問による援助計画（アセスメント・訪問目的と目標の設定・訪問計画の立案）を実施することができる。1-(2)家庭訪問事例演習において、高齢者事例の情報から、訪問による援助計画(アセスメント・訪問目的と目標の設定・訪問計画の立案)を実施することができる。1-(3)家庭訪問を想定したロールプレイ演習において、家庭訪問で必要な技術を用いて対象に関わることができる。2. 地域診断演習において、グループで、実習地域の情報収集・アセスメント・健康課題の抽出を実施することができる。 | |
| 成績評価 | 1-(1)、1-(2)：レポート（(1) 30%、(2) 30%）<br>1-(3)：技術確認（10%）<br>2. グループで作成するレポート（20%）および発表（10%）<br>上記を合計して 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「標準保健師講座１ 公衆衛生看護学概論」奥山則子他（医学書院）、「標準保健師講座２ 地域看護技術」中村裕美子他（医学書院）、「標準保健師講座３ 対象別公衆衛生看護活動」中谷芳美他（医学書院）※2～3 年次で購入したものを使用 | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、保健師資格取得科目をすべて履修していること | |

| 科目名 | 公衆衛生看護学実習 | ５単位　通年 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小林　孝子 ・ 馬場　文 ・ 小島　亜未 ・ 川口　恭子 | |
| 授業概要 | 地域で生活する個人・家族、集団ならびにそれらを取り巻く地域を対象としたヘルスケアシステムについての理解を深める。また、保健所・市町村といった行政機関などの活動をとおして、個人・家族、集団、地域を対象とした看護活動を展開するための基礎的能力を養う。 | |
| 到達目標 | １）地域の健康課題を明らかにし、解決・改善策を計画・立案することができる。<br>２）地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援について理解を深めることができる。<br>３）公衆衛生看護の対象と活動の場に応じた技術を実践することができる。<br>４）地域の健康水準を高めるための社会資源開発・システム化・施策化について、その方法やプロセスが理解できる。<br>５）地域の健康危機（感染症・虐待・DV・自殺・災害等）管理に必要な能力が理解できる。 | |
| 成績評価 | 実習記録、実習参加度、評価表をもとに、目標への到達度を総合的に評価し単位を認定する。 | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | 実習前、実習中に適宜紹介する | |
| 履修資格 | ４年次前期の保健師資格取得科目が修得見込みであること | |

| 科目名 | 公衆衛生看護管理論 | ２単位　前期 |
|---|---|---|
| 担当教員 | 小林　孝子 | |
| 授業概要 | 日常的な地域住民に対する公衆衛生看護活動や感染症・災害発生等を含む地域の健康危機管理に対する基本的な知識を学ぶ。地域で活動する看護職には健康課題を未然に防ぐ能力や他職種とともに活動できる能力など総合的な地域管理能力が求められる。個別ケアだけでなく集団に対するケア、地域全体に対するケア、看護管理が必要とされることを理解し、総合的な看護能力の開発に取り組む。 | |
| 到達目標 | (1)公衆衛生看護管理における基本的な知識と管理能力について説明できる。<br>(2)保健師の専門能力について自己の考えを述べることができる。<br>(3)地域の健康危機についての課題を述べることができ、解決方法や予防について説明できる。<br>(4)公衆衛生看護の倫理について、事例を通して課題と解決方法を述べることができる。 | |
| 成績評価 | (1)定期試験（40%）<br>(2)課題レポート（10%）　発表（10%）<br>(3)定期試験（30%）<br>(4)定期試験（10%） | |
| テキスト<br>指定図書<br>参考書 | テキスト：「標準保健師講座１ 公衆衛生看護学概論」奥山則子他（医学書院）<br>※２年次で購入したものを使用<br>参考書：講義中、適宜紹介する | |
| 履修資格 | ３年次までの必修科目、保健師資格取得科目をすべて履修していること | |

# 索　　引

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| A | Alan Neill※ | 英語ⅡA(応用コース)(環境⑤) | 環 | 39 |
| | Alan Neill※ | 英語ⅡB(応用コース)(環境⑤) | 環 | 39 |
| | Alan Neill※ | 英語ⅡA(応用コース)(人文⑤) | 人 | 46 |
| | Alan Neill※ | 英語ⅡB(応用コース)(人文⑤) | 人 | 47 |
| | Anja Sliwa※ | ドイツ語ⅠB(国際) | 国 | 107 |
| | Anja Sliwa※ | ドイツ語ⅡB(国際) | 国 | 108 |
| | Anja Sliwa※ | ドイツ語コミュニケーションⅠB | 国 | 500 |
| | Anja Sliwa※ | ドイツ語コミュニケーションⅡB | 国 | 500 |
| | Anja Sliwa※ | ドイツ語コミュニケーションⅡD | 国 | 501 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡA(応用コース)(環境②) | 環 | 37 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡB(応用コース)(環境②) | 環 | 37 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡA(応用コース)(工学①) | 工 | 40 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡB(応用コース)(工学①) | 工 | 41 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡA(応用コース)(人文③) | 人 | 45 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡB(応用コース)(人文③) | 人 | 45 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡA(応用コース)(看護①) | 看 | 47 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡB(応用コース)(看護①) | 看 | 47 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡA(応用コース)(看護②) | 看 | 48 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅡB(応用コース)(看護②) | 看 | 48 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅢA(充実コース)(環境④) | 環 | 51 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅢB(充実コース)(環境④) | 環 | 51 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅢA(充実コース)(工学⑤) | 工 | 56 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅢB(充実コース)(工学⑤) | 工 | 56 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅢA(充実コース)(人文⑤) | 人 | 59 |
| | Ashley Mark Stevens※ | 英語ⅢB(充実コース)(人文⑤) | 人 | 59 |
| B | Balachandran Jeyadevan・北村　千寿 | 材料史 | 全 | 149 |
| | Balachandran Jeyadevan | 金属材料 | 材 | 331 |
| | Balachandran Jeyadevan・鳥羽　隆一※・白鳥　寿一※　ほか | 材料開発工学 | 材 | 335 |
| | Balachandran Jeyadevan | 無機化学Ⅱ | 材 | 367 |
| | Balachandran Jeyadevan | イングリッシュレクチャーE | 国 | 421 |
| | Borjigin Burensain | アジア文化特論C | 国 | 415 |
| | Borjigin Burensain | 異文化交流史 | 国 | 418 |
| | Borjigin Burensain・河　かおる・根川　幸男※ | 移民社会論C | 国 | 419 |
| | Borjigin Burensain | 多民族社会論B | 国 | 484 |
| | Borjigin Burensain | モンゴル語史料講読ⅠA | 国 | 532 |
| | Borjigin Burensain | モンゴル語史料講読ⅠB | 国 | 533 |
| G | Gilles Fernandez※ | フランス語ⅠB(国際) | 国 | 109 |
| | Gilles Fernandez※ | フランス語ⅡB(国際) | 国 | 109 |
| | Gilles Fernandez※ | フランス語コミュニケーションⅠB | 国 | 522 |
| | Gilles Fernandez※ | フランス語コミュニケーションⅡB | 国 | 523 |
| | Gilles Fernandez※ | フランス語コミュニケーションⅡD | 国 | 523 |
| | Gordon Maclaren※ | 英語ⅡA(応用コース)(環境⑥) | 環 | 40 |
| | Gordon Maclaren※ | 英語ⅡB(応用コース)(環境⑥) | 環 | 40 |
| | Gordon Maclaren※ | 英語ⅡA(応用コース)(工学③) | 工 | 42 |
| | Gordon Maclaren※ | 英語ⅡB(応用コース)(工学③) | 工 | 42 |
| | Graham Jones※ | 英語ⅡA(応用コース)(工学②) | 工 | 41 |
| | Graham Jones※ | 英語ⅡB(応用コース)(工学②) | 工 | 41 |
| | Graham Jones※ | 実用英語演習ⅠA⑦(火3限) | 全 | 112 |
| | Graham Jones※ | 実用英語演習ⅠB⑩(火3限) | 全 | 116 |
| J | Jimenez Verdejo Juan Ramon | CAD演習Ⅱ | 建 | 213 |
| | Jimenez Verdejo Juan Ramon | 環境設計Ⅰ | 建 | 234 |
| | John Rippey | 留学英語対策基礎講座 | 全国 | 82 |
| | John Rippey | 留学英語対策講座Ⅱ | 全国 | 83 |
| | John Rippey | イングリッシュレクチャーD | 国 | 420 |
| | John Rippey | 欧米文化特論D | 国 | 430 |
| | John Rippey | 実践英語演習F | 国 | 460 |
| | John Rippey | 実践英語対策講座 | 国 | 461 |
| | John Rippey | パブリック・スピーチ | 国 | 513 |
| | John Rippey | 留学英語対策基礎講座 | 全国 | 534 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| J | John Rippey | 留学英語対策講座Ⅱ | 全国 | 535 |
| K | Karl Braun※ | 英語ⅡA(応用コース)(環境①) | 環 | 36 |
| | Karl Braun※ | 英語ⅡB(応用コース)(環境①) | 環 | 37 |
| | Karl Braun※ | 英語ⅡA(応用コース)(環境④) | 環 | 38 |
| | Karl Braun※ | 英語ⅡB(応用コース)(環境④) | 環 | 39 |
| | Karl Braun※ | 英語ⅡA(応用コース)(工学⑤) | 工 | 43 |
| | Karl Braun※ | 英語ⅡB(応用コース)(工学⑤) | 工 | 43 |
| | Karl Braun※ | 英語ⅡA(応用コース)(人文④) | 人 | 46 |
| | Karl Braun※ | 英語ⅡB(応用コース)(人文④) | 人 | 46 |
| | Karl Braun※ | ビジネス英語 | 全国 | 83 |
| | Karl Braun※ | ビジネス英語 | 全国 | 517 |
| | Karl Hedberg※ | 英語ⅠA(活性化コース)(環境③) | 環 | 25 |
| | Karl Hedberg※ | 英語ⅠB(活性化コース)(環境③) | 環 | 25 |
| | Karl Hedberg※ | 英語ⅠA(活性化コース)(人文②) | 人 | 32 |
| | Karl Hedberg※ | 英語ⅠB(活性化コース)(人文②) | 人 | 32 |
| | Karl Hedberg※ | 英語ⅡA(応用コース)(人文①) | 人 | 44 |
| | Karl Hedberg※ | 英語ⅡB(応用コース)(人文①) | 人 | 44 |
| M | Martin Hawkes | ディベート＆ディスカッションa | 全国 | 80 |
| | Martin Hawkes | ディベート＆ディスカッションb | 全国 | 81 |
| | Martin Hawkes | 留学英語対策講座Ⅰ | 全国 | 82 |
| | Martin Hawkes | アカデミック・ライティング | 国 | 413 |
| | Martin Hawkes | アカデミック・リスニング | 国 | 413 |
| | Martin Hawkes | イングリッシュレクチャーA | 国 | 419 |
| | Martin Hawkes | イングリッシュレクチャーB | 国 | 420 |
| | Martin Hawkes | 実践英語演習E | 国 | 460 |
| | Martin Hawkes | ディベート＆ディスカッションa | 全国 | 497 |
| | Martin Hawkes | ディベート＆ディスカッションb | 全国 | 497 |
| | Martin Hawkes | 留学英語対策講座Ⅰ | 全国 | 535 |
| | Martin Stack | 英語ⅡA(応用コース)(環境③) | 環 | 38 |
| | Martin Stack | 英語ⅡB(応用コース)(環境③) | 環 | 38 |
| | Martin Stack | 英語ⅡA(応用コース)(工学④) | 工 | 42 |
| | Martin Stack | 英語ⅡB(応用コース)(工学④) | 工 | 43 |
| | Martin Stack | 英語ⅡA(応用コース)(人文②) | 人 | 44 |
| | Martin Stack | 英語ⅡB(応用コース)(人文②) | 人 | 45 |
| | Martin Stack | 英語ⅣA(展開コース)(看護①) | 看 | 73 |
| | Martin Stack | 英語ⅣB(展開コース)(看護①) | 看 | 73 |
| | Martin Stack | 英語ⅣA(展開コース)(看護②) | 看 | 74 |
| | Martin Stack | 英語ⅣB(展開コース)(看護②) | 看 | 74 |
| | Martin Stack・Karl Hedberg※ | 英語Ⅱ(国際a) | 国 | 76 |
| | Martin Stack・Karl Hedberg※ | 英語Ⅱ(国際b) | 国 | 77 |
| | Martin Stack | 初習英語ⅡA | 留 | 84 |
| | Martin Stack | 初習英語ⅡB | 留 | 85 |
| | Martin Stack | 実用英語演習ⅠA⑨(火3限) | 全 | 112 |
| | Martin Stack | 実用英語演習ⅠB⑦(火3限) | 全 | 115 |
| P | Peter Morris | Medieval Japan in the World | 交 | 141 |
| | Peter Morris | Modernizing Japan in the World | 交 | 141 |
| | Peter Morris | Contemporary Japanese Culture | 交 | 142 |
| | Peter Morris | Medieval Japan | 全 | 159 |
| | Peter Morris | Modernizing Japan | 全 | 160 |
| W | Walter Klinger・Martin Stack | 英語Ⅳ(国際a) | 国 | 78 |
| | Walter Klinger・Martin Stack | 英語Ⅳ(国際b) | 国 | 78 |
| | Walter Klinger | 英語会話(中級)a | 全国 | 79 |
| | Walter Klinger | 英語会話(中級)b | 全国 | 79 |
| | Walter Klinger | エッセイ・ライティング | 全国 | 81 |
| | Walter Klinger | メディアの英語 | 全国 | 83 |
| | Walter Klinger | 初習英語ⅠA | 留 | 84 |
| | Walter Klinger | 初習英語ⅠB | 留 | 84 |
| | Walter Klinger | 実用英語演習ⅠA⑥(火2限) | 全 | 111 |
| | Walter Klinger | 実用英語演習ⅠA⑪(火3限) | 全 | 113 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| W | Walter Klinger | 実用英語演習ＩB④(火2限) | 全 | 114 |
| | Walter Klinger | 実用英語演習ＩB⑨(火3限) | 全 | 116 |
| | Walter Klinger | 英語会話(中級)a | 全国 | 423 |
| | Walter Klinger | 英語会話(中級)b | 全国 | 423 |
| | Walter Klinger | エッセイ・ライティング | 全国 | 429 |
| | Walter Klinger | メディアの英語 | 全国 | 529 |
| あ | 青谷　実知代※ | 消費生活論 | デ栄関 | 469 |
| | 秋岡　英行※ | 中国語ＩA(初級コース)(水3限) | 全 | 88 |
| | 秋岡　英行※ | 中国語ＩB(初級コース)(水3限) | 全 | 89 |
| | 秋岡　英行※ | 中国語ＩA(初級コース)(水2限) | 全 | 89 |
| | 秋岡　英行※ | 中国語ＩB(初級コース)(水2限) | 全 | 89 |
| | 秋山　毅 | 電気化学 | 材 | 349 |
| | 秋山　毅・山下　義裕・田邉　裕貴 ほか | 物理学実験(材料科学) | 材 | 363 |
| | 秋山　毅・山下　義裕・田邉　裕貴 ほか | 物理学実験(機械システム) | 機 | 364 |
| | 秋山　毅・山下　義裕・田邉　裕貴 ほか | 物理学実験(電子システム) | 電 | 364 |
| | 秋山　毅 | 分析化学 | 材 | 367 |
| | 浅岡　一雄※ | 環境生物学Ⅱ | 態資 | 233 |
| | 芦澤　竜一 | サスティナブルデザイン論 | 政建 | 248 |
| | 東　健太郎※ | 環境会計 | 政資 | 219 |
| | 東　幸代 | 近世近江論 | 地 | 443 |
| | 東　幸代 | 古文書演習Ⅱ | 地 | 455 |
| | 東　幸代 | 地域経済史論 | 地 | 485 |
| | 安達　敬子※ | 比較文学論 | 地 | 516 |
| | 阿部　健一※ | アジア交流論 | 地 | 414 |
| | 甘佐　京子 | 看護トピックス | 看 | 560 |
| | 甘佐　京子・未定・牧野　耕次 | 精神臨床看護学 | 看 | 572 |
| | 甘佐　京子・牧野　耕次 | 治療的コミュニケーション技術論 | 看 | 574 |
| | 甘佐　京子・未定・牧野　耕次 | メンタルヘルスケア | 看 | 576 |
| | 荒川　千登世・酒田　宴里 | クリティカルケア実践演習 | 看 | 564 |
| | 荒川　千登世・酒田　宴里 | 成人クリティカルケア演習 | 看 | 571 |
| | 荒川　千登世・中川　美和・伊藤　あゆみ・酒田　宴里 | 成人クリティカルケア実習 | 看 | 571 |
| | 粟谷　初子※ | 健康心理学 | 栄 | 445 |
| い | 飯村　康夫 | 土壌環境化学 | 態資 | 276 |
| | 池北　實※ | 環境監査 | 態政建資 | 223 |
| | 石井　隆之※ | 通訳ガイド講座 | 国 | 496 |
| | 石川　聡子※ | 教科教育法Ⅰ(理科) | 教 | 645 |
| | 石川　真作※ | 移民社会論B | 国 | 419 |
| | 石川　慎治 | 比較文化論(地域文化) | 地 | 516 |
| | 石田　法雄※・冨島　義幸※・Walter Klinger ほか | Japanese Culture and Civilization | 人 | 413 |
| | 泉　泰弘 | 持続的農業論 | 全 | 151 |
| | 泉　泰弘 | 栽培植物各論B | 資 | 247 |
| | 泉　泰弘 | 植物資源管理学 | 資 | 253 |
| | 泉　泰弘・畑　直樹・上町　達也・原田　英美子 | 生物資源管理学実験・実習Ⅰ | 資 | 262 |
| | 和泉　遊以 | 計測工学 | 機 | 332 |
| | 泉津　弘佑・入江　俊一 | 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 資 | 263 |
| | 泉津　弘佑 | 生物統計学 | 態資 | 265 |
| | 伊丹　君和・窪田　好恵・米田　照美 ほか | 基礎看護学実習Ⅱ | 看 | 561 |
| | 伊丹　君和・米田　照美・仲上　恵子 | 基礎看護技術Ⅰ | 看 | 562 |
| | 伊丹　君和・米田　照美・川端　愛野・仲上　恵子 | 基礎看護技術Ⅱ | 看 | 562 |
| | 伊丹　君和・仲上　恵子 | 基礎看護技術Ⅲ | 看 | 562 |
| | 伊丹　君和・米田　照美・仲上　恵子 | ボランティア実践演習 | 看 | 576 |
| | 伊丹　清・未定・増田　佳昭 ほか | 環境科学概論Ⅱ | 環 | 221 |
| | 伊丹　清 | 環境設備 | 建 | 234 |
| | 伊丹　清 | 建築環境工学 | 建 | 243 |
| | 伊丹　清 | 建築環境工学演習 | 建 | 243 |
| | 伊丹　清・高田　豊文 | 建築数学・物理 | 建 | 244 |
| | 市川　秀之 | 地域と空間 | 地 | 487 |
| | 市川　秀之・中井　均 | 博物館経営論 | 地 | 511 |
| | 市川　秀之 | 民俗学 | 地 | 528 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| い | 市川　秀之 | 民俗学実習 | 地 | 529 |
| | 市川　秀之 | 民俗学特論 | 地 | 529 |
| | 市川　秀之・亀井　若菜 | 博物館学概論 | 学 | 656 |
| | 市川　秀之・浦部　美佐子・野間　直彦 ほか | 博物館実習 | 学 | 657 |
| | 市場　史哉※ | 英語ⅢA（充実コース）（環境①） | 環 | 49 |
| | 市場　史哉※ | 英語ⅢB（充実コース）（環境①） | 環 | 49 |
| | 市場　史哉※ | 英語ⅢA（充実コース）（工学①） | 工 | 53 |
| | 市場　史哉※ | 英語ⅢB（充実コース）（工学①） | 工 | 53 |
| | 市場　史哉※ | 英語ⅢA（充実コース）（看護③） | 看 | 61 |
| | 市場　史哉※ | 英語ⅢB（充実コース）（看護③） | 看 | 61 |
| | 一宮　正義 | 半導体デバイス | 電 | 358 |
| | 一宮　正義 | 物性デバイス基礎論 | 電 | 363 |
| | 一宮　正義 | プラズマ工学 | 電 | 364 |
| | 井手　慎司 | びわこ環境行政論 | 全 | 169 |
| | 井手　慎司 | 応用数学 | 政 | 215 |
| | 井手　慎司 | 環境シミュレーション | 政資 | 227 |
| | 井手　慎司 | 水環境政策論 | 態政資 | 281 |
| | 井手　慎司 | イングリッシュレクチャーF | 国 | 421 |
| | 出原　健一※ | 英語ⅢA（充実コース）（工学③） | 工 | 54 |
| | 出原　健一※ | 英語ⅢB（充実コース）（工学③） | 工 | 55 |
| | 出原　健一※ | 英語ⅢA（充実コース）（看護②） | 看 | 60 |
| | 出原　健一※ | 英語ⅢB（充実コース）（看護②） | 看 | 61 |
| | 伊藤　裕久※ | 地域文化財論A | 地 | 488 |
| | 糸島　陽子・窪田　好恵 | 生命・人間・倫理 | 全 | 152 |
| | 糸島　陽子・伊藤　あゆみ | エンドオブライフケア演習 | 看 | 556 |
| | 糸島　陽子・中川　美和・伊藤　あゆみ・酒田　宴里 | エンドオブライフケア実習 | 看 | 557 |
| | 糸島　陽子 | 成人看護学概論 | 看 | 570 |
| | 糸島　陽子・甘佐　京子・横井　和美・荒川　千登世 | ホリスティックケア論 | 看 | 576 |
| | 稲葉　博美 | 制御工学 | 電 | 341 |
| | 稲葉　博美 | 電子回路Ⅰ | 電 | 351 |
| | 稲葉　博美 | 電子回路Ⅱ | 電 | 351 |
| | 稲葉　博美 | 電子システム工学概論 | 工 | 352 |
| | 乾　義尚 | 基礎電磁気学（電子システム） | 電 | 329 |
| | 乾　義尚 | 電気エネルギーシステム工学 | 電 | 348 |
| | 乾　義尚 | 電気回路Ⅱ | 電 | 349 |
| | 乾　義尚 | 電気機器 | 電 | 350 |
| | 乾　義尚 | パワーエレクトロニクス | 電 | 357 |
| | 井上　吉教・山田　明寛・鈴木　厚志 | 材料計算化学および同演習 | 材 | 336 |
| | 井上　吉教 | 有機化学Ⅳ | 材 | 369 |
| | 伊冨貴　初美※・藤本　理恵※ | 災害看護学 | 看 | 567 |
| | 今井　絵里 | 栄養疫学論 | 栄 | 426 |
| | 今井　絵里 | 応用栄養学Ⅰ | 栄 | 432 |
| | 今井　絵里 | 応用栄養学Ⅱ | 栄 | 433 |
| | 今井　絵里 | 応用栄養学実習 | 栄 | 433 |
| | 今井　絵里 | 公衆栄養学 | 栄 | 452 |
| | 今井　絵里 | 公衆栄養学実習 | 栄 | 452 |
| | 今井　絵里 | 地域保健臨地実習 | 栄 | 489 |
| | 入江　俊一 | 応用微生物学 | 資 | 216 |
| | 入江　俊一 | 分子生物学 | 態資 | 280 |
| | 岩川　裕美※ | 臨床栄養学実習Ⅲ | 栄 | 538 |
| | 岩下　智※ | 建築生産施工 | 建 | 244 |
| | 岩瀬　雅紀※ | 健康・体力科学Ⅰ（バスケット） | 全 | 131 |
| | 岩瀬　雅紀※ | 健康・体力科学Ⅰ（バドミントン） | 全 | 131 |
| | 岩瀬　雅紀※ | 健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール） | 全 | 132 |
| | 岩間　憲治 | 地域情報処理学 | 資 | 274 |
| | 岩間　憲治 | 土壌環境物理学 | 資 | 277 |
| | 岩間　憲治・堂満　華子・三浦　信広※　ほか | 環境物理学実験（コンピュータ活用を含む） | 態資 | 238 |
| | 印南　比呂志 | 近江の美 | 全 | 166 |
| | 印南　比呂志・森下　あおい・南　政宏 ほか | デジタルデザイン演習 | デ | 498 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| い | 印南　比呂志 | 道具計画論 | デ | 501 |
| | 印南　比呂志・麻谷　宏※・南　政宏 | 道具デザイン演習Ⅱ | デ | 502 |
| | 印南　比呂志・南　政宏 | 道具デザイン論 | デ | 503 |
| | 印南　比呂志・南　政宏 | プレゼンテーション技法 | デ | 524 |
| う | 植田　尚樹※ | モンゴル語コミュニケーションⅠB | 国 | 531 |
| | 植田　尚樹※ | モンゴル語コミュニケーションⅡB | 国 | 532 |
| | 上田　洋平 | 近江の暮らしとなりわい | 全 | 166 |
| | 上田　洋平 | 地域づくり人材論 | 全 | 169 |
| | 上田　洋平 | 地域研究論 | 地 | 485 |
| | 上田　洋平・鵜飼　修・萩原　和 | 地域デザインC | 副 | 174 |
| | 上野　有理 | 認知心理学 | 関 | 510 |
| | 上野　有理 | 発達心理学Ⅰ | 関 | 512 |
| | 上野山　愛弥※ | 日本語ⅡA | 留 | 118 |
| | 上野山　愛弥※ | 日本語ⅡB | 留 | 118 |
| | 上野山　愛弥※ | 日本語基礎(初中級ⅣA) | 交 | 138 |
| | 上野山　愛弥※ | 日本語基礎(初中級ⅣB) | 交 | 139 |
| | 上野山　愛弥※ | 日本語基礎(中級ⅡA) | 交 | 140 |
| | 上野山　愛弥※ | 日本語基礎(中級ⅡB) | 交 | 140 |
| | 上町　達也 | 栽培植物各論A | 資 | 247 |
| | 上町　達也 | 植物生産学 | 資 | 253 |
| | 上町　達也・清水　顕史・原田　英美子 | 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 資 | 263 |
| | 植村　小夜子・未定 | 在宅看護学演習 | 看 | 567 |
| | 植村　小夜子 | 在宅看護学概論 | 看 | 567 |
| | 植村　小夜子 | 在宅看護援助論 | 看 | 568 |
| | 植村　小夜子・小島　亜未・川口　恭子 | 在宅看護学実習 | 看 | 568 |
| | 鵜飼　修・萩原　和・上田　洋平 ほか | 地域共生論 | 全 | 167 |
| | 鵜飼　修・上田　洋平・萩原　和 | 地域コミュニケーション論 | 全 | 168 |
| | 鵜飼　修・上田　洋平・轟　慎一 | 地域再生システム論 | 政建 | 272 |
| | 鵜飼　修 | 地域診断法 | 副 | 173 |
| | 鵜飼　修・上田　洋平・萩原　和・轟　慎一 | 地域デザインA | 副 | 174 |
| | 鵜飼　修・萩原　和・上田　洋平 | 地域デザインB | 副 | 174 |
| | 鵜飼　修・木村　裕 | ボランティア活動(前期) | キ | 182 |
| | 鵜飼　修・木村　裕 | ボランティア活動(後期) | キ | 182 |
| | 鵜飼　修 | 問題解決デザイン論 | 副 | 173 |
| | 宇佐美　英機※ | 近江商人論 | 地 | 432 |
| | 内田　孝※ | 日本語ⅢA | 留 | 118 |
| | 内田　孝※ | 日本語ⅢB | 留 | 119 |
| | 内田　孝※ | 日本語基礎(中級ⅢA) | 交 | 140 |
| | 内田　孝※ | 日本語基礎(中級ⅢB) | 交 | 141 |
| | 内田　孝※ | モンゴル語ⅡA | 全国 | 530 |
| | 内田　孝※ | モンゴル語コミュニケーションⅠA | 国 | 531 |
| | 内丸　もと子※ | テキスタイルデザイン論 | デ | 497 |
| | 浦部　美佐子 | 環境生物学Ⅰ | 態政資 | 232 |
| | 浦部　美佐子・肥田　嘉文・堂満　華子 ほか | 集水域環境学・同実験 | 態 | 251 |
| | 浦部　美佐子 | 集水域生態系保全修復論 | 態資 | 251 |
| お | 呉　賢欄※ | 朝鮮語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 92 |
| | 呉　賢欄※ | 朝鮮語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 92 |
| | 呉　賢欄※ | 朝鮮語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 92 |
| | 呉　賢欄※ | 朝鮮語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 93 |
| | 大浦　靖典・山根　浩二・和泉　遊以・栗本　遼 | 機械システム工学実験Ⅰ | 機 | 322 |
| | 大久保　卓也 | 環境水文学 | 態政資 | 229 |
| | 大久保　卓也 | 水理学 | 資 | 257 |
| | 大久保　卓也・岩間　憲治 | 生物資源管理学実験・実習Ⅹ | 資 | 262 |
| | 大久保　卓也・岩間　憲治・皆川　明子 | 生物資源管理学実験・実習Ⅸ | 資 | 265 |
| | 大久保　卓也・後藤　直成・堂満　華子　ほか | 環境地球科学実験(コンピュータ活用含む) | 態資 | 236 |
| | 大塚　眞理子※ | 教科教育法Ⅰ(家庭) | 教 | 642 |
| | 大塚　眞理子※ | 教科教育法Ⅲ(家庭) | 教 | 648 |
| | 大塚　眞理子※ | 教科教育法Ⅳ(家庭) | 教 | 650 |
| | 大沼　芳幸※ | 地域考古学B | 地 | 486 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| お | 大橋　松行・丸山　真央・中村　好孝 | 社会学演習 | 関 | 463 |
| | 大橋　松行 | 社会調査方法論 | 地デ関 | 465 |
| | 大橋　松行 | 社会調査論 | 地デ関 | 465 |
| | 大橋　松行 | 地域運動論 | 関 | 484 |
| | 大森　智子※ | ドイツ語ⅡA（中級コース）（火2限） | 全 | 98 |
| | 大森　智子※ | ドイツ語ⅡB（中級コース）（火2限） | 全 | 99 |
| | 大森　智子※ | ドイツ語ⅡA（中級コース）（火3限） | 全 | 99 |
| | 大森　智子※ | ドイツ語ⅡB（中級コース）（火3限） | 全 | 99 |
| | 大脇　万起子・山田　稔※・裵　敬隆※ | 差別と人権（同和問題） | 全 | 150 |
| | 大脇　万起子 | 生活と健康 | 全 | 152 |
| | 大脇　万起子 | 家族看護学 | 看 | 557 |
| | 岡田　豊※ | 環境化学Ⅱ | 態資 | 220 |
| | 岡本　裕介※ | 量的データ解析論Ⅱ | 地関 | 536 |
| | 小川　正※・森　紀之 | 食品の調理と加工 | 栄 | 472 |
| | 小河　久志※ | 開発人類学 | 国 | 434 |
| | 小河　久志※ | 比較宗教論 | 地関 | 514 |
| | 奥　健夫 | エネルギー・界面科学 | 材 | 318 |
| | 奥　健夫 | 基礎化学（電子システム） | 電 | 328 |
| | 奥　健夫 | 基礎熱力学 | 材 | 330 |
| | 奥　健夫 | 固体物性基礎 | 材 | 333 |
| | 奥　健夫・廣川　能嗣 | 材料科学概論 | 工 | 335 |
| | 奥村　進 | アルゴリズムとデータ構造 | 電 | 318 |
| | 奥村　進 | 情報処理基礎 | 機電 | 339 |
| | 奥村　進 | 生産工学 | 機 | 342 |
| | 奥村　万寿美 | 臨床栄養学Ⅰ | 栄 | 536 |
| | 奥村　万寿美 | 臨床栄養学Ⅱ | 栄 | 536 |
| | 奥村　万寿美 | 臨床栄養学Ⅲ | 栄 | 537 |
| | 奥村　万寿美 | 臨床栄養学実習Ⅰ | 栄 | 537 |
| | 奥村　万寿美 | 臨床栄養学実習Ⅱ | 栄 | 537 |
| | 奥村　万寿美 | 臨床栄養臨地実習Ⅰ | 栄 | 538 |
| | 奥村　万寿美 | 臨床栄養臨地実習Ⅱ | 栄 | 539 |
| | 奥村　万寿美・今井　絵里・小澤　恵子 | 臨地実習事前事後指導 | 栄 | 539 |
| | 奥村　好美※ | 教科教育法Ⅰ（社会） | 教 | 643 |
| | 小栗　裕子 | リスニング（中級）a | 全国 | 80 |
| | 小栗　裕子 | リスニング（中級）b | 全国 | 80 |
| | 小栗　裕子 | 実践英語演習B | 国 | 459 |
| | 小栗　裕子 | リスニング（中級）a | 全国 | 534 |
| | 小栗　裕子 | リスニング（中級）b | 全国 | 534 |
| | 小栗　裕子 | 教科教育法Ⅰ（英語） | 教 | 642 |
| | 小栗　裕子 | 教科教育法Ⅱ（英語） | 教 | 645 |
| | 小栗　裕子 | 教科教育法Ⅲ（英語） | 教 | 648 |
| | 小栗　裕子 | 教科教育法Ⅳ（英語） | 教 | 649 |
| | 小郷原　一智 | 線形代数Ⅰ（材料） | 材 | 343 |
| | 小郷原　一智 | 線形代数Ⅰ（電子） | 電 | 344 |
| | 尾坂　兼一 | 集水域環境学 | 態 | 250 |
| | 尾坂　兼一 | 集水域物質循環論 | 態資 | 252 |
| | 小谷　廣通※ | 測量学 | 態資 | 268 |
| | 小野　奈々 | 環境社会学 | 政 | 227 |
| | 小野　奈々 | 市民参加論 | 政 | 249 |
| | 小野　奈々 | 社会学 | 政資 | 249 |
| | 小野　奈々・未定・村上　一真・平山　奈央子 | 社会調査実習（環境政策） | 政 | 250 |
| | 面矢　慎介 | 近代デザイン史 | デ | 443 |
| | 面矢　慎介 | 考現学概論 | デ | 450 |
| | 面矢　慎介・印南　比呂志 | 道具デザイン演習Ⅲ | デ | 502 |
| | 面矢　慎介 | 道具デザイン史 | デ | 503 |
| | 面矢　慎介 | 比較道具論 | デ | 515 |
| か | 香川　雄一 | GIS演習 | 政 | 213 |
| | 香川　雄一 | 地域環境政策論 | 態政 | 272 |
| | 香川　雄一 | 地域調査法 | 政資 | 274 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| か | 香川　雄一 | 地域調査法演習 | 政 | 274 |
| | 柿本　敏克※ | 社会心理学（人間関係） | 関 | 464 |
| | 学部教員 | 環境フィールドワークⅠ | 環 | 237 |
| | 学部教員 | 環境フィールドワークⅡ | 環 | 237 |
| | 学部教員 | 環境フィールドワークⅢ | 環 | 237 |
| | 籠谷　泰行 | 環境統計解析学 | 態資 | 236 |
| | 籠谷　泰行 | 陸域物質循環論 | 態 | 284 |
| | 学科教員 | 人間探求学（環境生態） | 態 | 153 |
| | 学科教員 | 人間探求学（環境政策・計画） | 政 | 153 |
| | 学科教員 | 人間探求学（環境建築デザイン） | 建 | 154 |
| | 学科教員 | 人間探求学（生物資源管理） | 資 | 154 |
| | 学科教員 | 人間探求学（材料科学） | 材 | 154 |
| | 学科教員 | 人間探求学（機械システム） | 機 | 155 |
| | 学科教員 | 人間探求学（電子システム） | 電 | 155 |
| | 学科教員 | 人間探求学（地域文化） | 地 | 155 |
| | 学科教員 | 人間探求学（生活デザイン） | デ | 156 |
| | 学科教員 | 人間探求学（生活栄養） | 栄 | 156 |
| | 学科教員 | 人間探求学（人間関係） | 関 | 156 |
| | 学科教員 | 人間探求学（国際コミュニケーション） | 国 | 157 |
| | 学科教員 | 人間探求学（人間看護） | 看 | 157 |
| | 学科教員 | 環境建築デザイン演習 | 建 | 218 |
| | 学科教員 | 環境・建築デザイン概論 | 建 | 219 |
| | 学科教員 | 環境学野外実習Ⅰ | 態 | 222 |
| | 学科教員 | 環境学野外実習Ⅱ | 態 | 223 |
| | 学科教員 | 環境学野外実習Ⅲ | 態 | 223 |
| | 学科教員 | 環境生態学演習Ⅰ | 態 | 230 |
| | 学科教員 | 環境生態学演習Ⅱ | 態 | 231 |
| | 学科教員 | 環境生態学外書講読 | 態 | 231 |
| | 学科教員 | 環境生態学外書表現 | 態 | 231 |
| | 学科教員 | 環境生態学基礎演習 | 態 | 232 |
| | 学科教員 | 環境生態学特別実習 | 態 | 232 |
| | 学科教員 | 政策計画演習Ⅰ | 政 | 258 |
| | 学科教員 | 政策計画演習Ⅱ | 政 | 258 |
| | 学科教員 | 政策計画演習Ⅲ | 政 | 258 |
| | 学科教員 | 政策計画演習Ⅳ | 政 | 259 |
| | 学科教員 | 政策計画基礎演習Ⅰ | 政 | 259 |
| | 学科教員 | 政策計画基礎演習Ⅱ | 政 | 259 |
| | 学科教員 | 政策形成・施設演習 | 政 | 260 |
| | 学科教員 | 生物資源管理学演習Ⅰ | 資 | 261 |
| | 学科教員 | 生物資源管理学演習Ⅱ | 資 | 261 |
| | 学科教員 | 生物資源管理学概論 | 資 | 261 |
| | 学科教員 | 設計演習Ⅰ | 建 | 266 |
| | 学科教員 | 設計演習Ⅱ | 建 | 266 |
| | 学科教員 | 設計演習Ⅲ | 建 | 266 |
| | 学科教員 | 専門外書講読Ⅰ | 資 | 267 |
| | 学科教員 | 専門外書講読Ⅱ | 資 | 267 |
| | 学科教員 | 卒業研究Ⅰ（環境生態） | 態 | 268 |
| | 学科教員 | 卒業研究Ⅱ（環境生態） | 態 | 268 |
| | 学科教員 | 卒業研究Ⅰ（環境政策・計画） | 政 | 269 |
| | 学科教員 | 卒業研究Ⅱ（環境政策・計画） | 政 | 269 |
| | 学科教員 | 卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン） | 建 | 269 |
| | 学科教員 | 卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン） | 建 | 270 |
| | 学科教員 | 卒業研究Ⅰ（生物資源） | 資 | 270 |
| | 学科教員 | 卒業研究Ⅱ（生物資源） | 資 | 270 |
| | 学科教員 | 地域産学連携実習Ⅰ | 建 | 272 |
| | 学科教員 | 地域産学連携実習Ⅱ | 建 | 273 |
| | 学科教員 | 科学技術英語（機械システム） | 機 | 319 |
| | 学科教員 | 機械四力学演習 | 機 | 325 |
| | 学科教員 | 先端材料科学 | 材 | 345 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| か | 学科教員 | 卒業研究Ⅰ(材料科学) | 材 | 345 |
| | 学科教員 | 卒業研究Ⅱ(材料科学) | 材 | 345 |
| | 学科教員 | 卒業研究(機械システム) | 機 | 346 |
| | 学科教員 | 卒業研究(電子システム) | 電 | 346 |
| | 学科教員 | 電子システム工学実験Ⅰ | 電 | 353 |
| | 学科教員 | 電子システム工学実験Ⅱ | 電 | 353 |
| | 学科教員 | 電子システム工学実験Ⅲ | 電 | 353 |
| | 学科教員 | 電子システム工学実験Ⅳ | 電 | 354 |
| | 学科教員 | 電子システム工学セミナー | 電 | 354 |
| | 学科教員 | 海外留学 | 国 | 433 |
| | 学科教員 | 環琵琶湖文化論実習(地域文化) | 地 | 434 |
| | 学科教員 | 環琵琶湖文化論実習(生活デザイン) | デ | 435 |
| | 学科教員 | 環琵琶湖文化論実習(生活栄養) | 栄 | 435 |
| | 学科教員 | 環琵琶湖文化論実習(人間関係) | 関 | 435 |
| | 学科教員 | 環琵琶湖文化論実習(国際) | 国 | 436 |
| | 学科教員 | 管理栄養士総合演習 | 栄 | 436 |
| | 学科教員 | 基礎演習Ⅰ(国際コミュニケーション) | 国 | 438 |
| | 学科教員 | 基礎演習Ⅱ(国際コミュニケーション) | 国 | 438 |
| | 学科教員 | 研究演習Ⅰ(国際コミュニケーション) | 国 | 444 |
| | 学科教員 | 研究演習Ⅱ(国際コミュニケーション) | 国 | 445 |
| | 学科教員 | 生活栄養論演習Ⅰ | 栄 | 474 |
| | 学科教員 | 生活栄養論演習Ⅱ | 栄 | 475 |
| | 学科教員 | 生活デザイン学外演習 | デ | 476 |
| | 学科教員 | 生活デザイン論 | デ | 476 |
| | 学科教員 | 生活デザイン論演習Ⅰ | デ | 477 |
| | 学科教員 | 生活デザイン論演習Ⅱ(3単位) | デ | 477 |
| | 学科教員 | 卒業研究・論文(地域文化) | 地 | 481 |
| | 学科教員 | 卒業研究・製作／論文(生活デザイン) | デ | 481 |
| | 学科教員 | 卒業研究・論文(生活栄養) | 栄 | 482 |
| | 学科教員 | 卒業研究・論文(人間関係) | 関 | 482 |
| | 学科教員 | 卒業研究論文(国際コミュニケーション) | 国 | 482 |
| | 学科教員 | 地域文化演習Ⅰ | 地 | 487 |
| | 学科教員 | 地域文化演習Ⅱ | 地 | 487 |
| | 学科教員 | 地域文化演習Ⅲ | 地 | 488 |
| | 学科教員 | 地域文化基礎演習 | 地 | 488 |
| | 学科教員 | 人間関係論基礎演習 | 関 | 507 |
| | 学科教員 | 人間関係論演習Ⅰ | 関 | 507 |
| | 学科教員 | 人間関係論演習Ⅱ | 関 | 507 |
| | 学科教員 | 発展演習Ⅰ(国際コミュニケーション) | 国 | 512 |
| | 学科教員 | 発展演習Ⅱ(国際コミュニケーション) | 国 | 513 |
| | 学科教員 | 卒業研究(人間看護) | 看 | 573 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 102 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 102 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅠA(初級コース)(水4限) | 全 | 102 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅠB(初級コース)(水4限) | 全 | 103 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 103 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 103 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅡA(中級コース)(火3限) | 全 | 104 |
| | 桂川　久※ | フランス語ⅡB(中級コース)(火3限) | 全 | 104 |
| | 葛城　大介※ | 情報科学概論(材料) | 材 | 125 |
| | 門脇　光輝 | 線形代数Ⅰ(機械) | 機 | 343 |
| | 門脇　光輝 | 線形代数Ⅱ(材料科学、電子システム) | 材電 | 344 |
| | 門脇　光輝 | 線形代数Ⅱ(機械システム) | 機 | 344 |
| | 門脇　光輝 | 微積分Ⅱ(材料科学) | 材 | 360 |
| | 門脇　光輝 | 微積分Ⅱ(機械システム) | 機 | 360 |
| | 門脇　光輝 | 微積分続論 | 電 | 361 |
| | 金谷　健 | 基礎統計 | 政 | 241 |
| | 金谷　健 | 合意形成支援技法・演習 | 政 | 245 |
| | 金谷　健 | 廃棄物管理論 | 政 | 279 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| か | 鎌田　ユリ※ | 教科教育法Ⅰ（地理歴史） | 教 | 644 |
| | 上河原　献二・未定 | 環境政策学 | 態政建資 | 230 |
| | 上河原　献二・小林　泉※・小松　直樹※・三和　伸彦※ | 環境法 | 態政資 | 239 |
| | 神本　秀爾※ | サブカルチャー交流論 | 国 | 456 |
| | 亀井　若菜 | 芸術学 | 地 | 444 |
| | 亀井　若菜・髙木　文恵※・野田　浩子※ | 博物館展示論 | 地 | 511 |
| | 亀井　若菜 | 美術史A | 地 | 518 |
| | 亀井　若菜 | 美術史B | 地 | 518 |
| | 亀井　若菜 | 美術史実習 | 地 | 518 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境b） | 環 | 120 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境d） | 環 | 121 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文b） | 人 | 122 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報科学概論（環境b） | 環 | 124 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報科学概論（環境d） | 環 | 125 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報科学概論（人文b） | 人 | 127 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報科学概論（人文d） | 人 | 127 |
| | 亀田　彰喜※ | プログラミング基礎（材料） | 材 | 365 |
| | 亀田　彰喜※ | プログラミング基礎（機械） | 機 | 365 |
| | 亀田　彰喜※ | 健康情報管理実習 | 栄 | 445 |
| | 亀田　彰喜※ | 情報と職業 | 教 | 651 |
| | 栢木　清吾※ | ポストコロニアル論 | 国 | 527 |
| | 河　かおる | 朝鮮語ⅠA（国際） | 国 | 106 |
| | 河　かおる | 朝鮮語ⅡA（国際） | 国 | 106 |
| | 河　かおる・武田　俊輔 | 多文化共生論 | 全 | 167 |
| | 河　かおる | アジア文化特論B | 国 | 415 |
| | 河　かおる | アジア文化論B | 国 | 416 |
| | 河　かおる | 多民族社会論C | 国 | 484 |
| | 河　かおる | 朝鮮語コミュニケーションⅡA | 国 | 494 |
| | 川井　操 | 比較都市論 | 全 | 159 |
| | 川井　操 | アジア建築史 | 建 | 214 |
| | 河﨑　澄 | エネルギー変換工学 | 機政 | 215 |
| | 河﨑　澄 | エネルギー変換工学 | 機政 | 318 |
| | 河﨑　澄・安田　寿彦・安田　孝宏・西岡　靖貴 | 機械システム工学実験Ⅱ | 機 | 322 |
| | 河﨑　澄 | 機械製作実習 | 機 | 323 |
| | 河﨑　澄 | 基礎力学（電子） | 電 | 331 |
| | 川﨑　四朗※ | 教科教育法Ⅱ（農業） | 教 | 647 |
| き | 菊地　憲次 | 思索の視点 | 全 | 150 |
| | 菊地　憲次 | 地域産業・企業から学ぶ社長講義 | 全 | 168 |
| | 菊地　憲次 | キャリアデザイン論Ⅰ | キ | 181 |
| | 菊地　憲次 | キャリアデザイン論Ⅱ | キ | 182 |
| | 岸根　桂路 | 基礎電気電子回路 | 工 | 328 |
| | 岸根　桂路 | 集積回路設計基礎 | 電 | 339 |
| | 岸根　桂路 | 情報通信工学 | 電 | 340 |
| | 北川　善紀※ | 健康科学Ⅱ | 看 | 564 |
| | 北島　美咲※ | 英語ⅠA（活性化コース）（環境⑤） | 環 | 26 |
| | 北島　美咲※ | 英語ⅠB（活性化コース）（環境⑤） | 環 | 27 |
| | 北島　美咲※ | 英語ⅠA（活性化コース）（工学③） | 工 | 29 |
| | 北島　美咲※ | 英語ⅠB（活性化コース）（工学③） | 工 | 29 |
| | 北島　美咲※ | 英語ⅠA（活性化コース）（人文⑤） | 人 | 34 |
| | 北島　美咲※ | 英語ⅠB（活性化コース）（人文⑤） | 人 | 34 |
| | 北村　千寿 | 基礎化学（材料） | 材 | 327 |
| | 北村　千寿 | 有機化学Ⅰ | 材 | 368 |
| | 北村　千寿 | 有機化学Ⅲ | 材 | 369 |
| | 北村　知之※ | 西洋史概説 | 地 | 480 |
| | 北村　由美※ | アジア社会論 | 地 | 414 |
| | 木下　ちがや※ | 社会・経済政策論 | 関 | 462 |
| | 木下　光弘※ | 教科教育法Ⅰ（公民） | 教 | 643 |
| | 木下　光弘※ | 教科教育法Ⅱ（公民） | 教 | 646 |
| | 木村　裕 | 教育課程論 | 関教 | 441 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| き | 木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 教育観察実習 | 関 | 441 |
| | 木村　裕 | 教育方法論 | 関教 | 442 |
| | 木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 形成論演習 | 関 | 444 |
| | 木村　裕 | 人間形成論A | 関 | 508 |
| | 京樂　真帆子・武田　俊輔・横田　祥子 ほか | 性を考える | 全 | 152 |
| | 京樂　真帆子 | 近江の歴史と文化 | 全 | 166 |
| | 京樂　真帆子 | 日本・地域交流特論 | 地 | 504 |
| | 京樂　真帆子 | 日本文化史論A | 地 | 506 |
| | 京樂　真帆子 | 日本文化史論B | 地 | 506 |
| | 京樂　真帆子 | 日本文化論 | 地 | 506 |
| く | 草野　文嗣※ | 公衆衛生学 | 栄 | 452 |
| | 窪田　暁※ | 移民社会論A | 国 | 418 |
| | 久保田　泰考※・清水　光恵※ | 社会精神医学 | 関 | 464 |
| | 窪田　好恵・米田　照美 | 看護管理論 | 看 | 559 |
| | 窪田　好恵 | 看護理論（看護学部） | 看 | 561 |
| | 窪田　好恵・伊丹　君和・米田　照美 ほか | 基礎看護学実習Ⅰ | 看 | 561 |
| | 窪田　好恵 | 人間看護学概論 | 看 | 575 |
| | 窪田　好恵・ | 人間看護学統合実習（2012以降入学生） | 看 | 575 |
| | 倉茂　好匡 | 自然現象のしくみ | 全 | 150 |
| | 倉茂　好匡 | 河川環境学 | 態資 | 217 |
| | 倉茂　好匡 | 環境物理学Ⅰ | 態政資 | 238 |
| | 鞍田　崇※ | 哲学概論A | 地関 | 498 |
| | 栗田　裕・大浦　靖典 | 機械設計演習Ⅲ | 機 | 324 |
| | 栗田　裕 | 機械力学Ⅰ | 機 | 325 |
| | 栗田　裕・大浦　靖典 | 機械力学Ⅱ | 機 | 326 |
| | 栗田　裕 | 基礎力学（機械システム） | 機 | 330 |
| | 栗田　裕 | 工業力学 | 機 | 332 |
| | 栗本　遼 | 確率統計（機械・電子） | 機電 | 320 |
| | 栗本　遼 | 伝熱学 | 機 | 355 |
| | 黒川　直樹※ | 建築一般構造 | 建 | 243 |
| | 黒田　真由美※ | 教育心理学 | 関教 | 442 |
| こ | 呉　凌非 | 中国語ⅠB（国際） | 国 | 105 |
| | 呉　凌非 | 中国語ⅡB（国際） | 国 | 105 |
| | 呉　凌非 | 言語接触論 | 国 | 446 |
| | 呉　凌非 | 中国語コミュニケーションⅠB | 国 | 491 |
| | 呉　凌非 | 中国語コミュニケーションⅡB | 国 | 491 |
| | 呉　凌非 | 中国語コミュニケーションⅡD | 国 | 492 |
| | 呉　凌非 | 翻訳文化論 | 国 | 527 |
| | 神月　紀輔※ | 教科教育法Ⅰ（情報） | 教 | 644 |
| | 神月　紀輔※ | 教科教育法Ⅱ（情報） | 教 | 647 |
| | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 小児看護学概論 | 看 | 569 |
| | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 小児臨床看護学 | 看 | 569 |
| | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 小児臨床看護学演習 | 看 | 570 |
| | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 小児臨床看護学実習 | 看 | 570 |
| | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | チャイルドライフケア論 | 看 | 574 |
| | 国際交流委員会 | 異文化理解A | 全 | 146 |
| | 国際交流委員会 | 異文化理解B | 全 | 146 |
| | 小熊　猛・山本　薫 | 英語Ⅰ（国際a） | 国 | 76 |
| | 小熊　猛・山本　薫 | 英語Ⅰ（国際b） | 国 | 76 |
| | 小熊　猛 | イングリッシュレクチャーC | 国 | 420 |
| | 小熊　猛 | 英語学概論 | 国 | 423 |
| | 小熊　猛 | 言語学概論 | 国 | 446 |
| | 小熊　猛 | 現代英文法 | 国 | 446 |
| | 小熊　猛・棚瀬　慈郎・呉　凌非 ほか | 国際コミュニケーション論 | 国 | 454 |
| | 小熊　猛 | 実践英語演習A | 国 | 459 |
| | 小熊　猛 | 実践英語演習G | 国 | 461 |
| | 小澤　惠子・廣瀬　潤子 | 給食衛生管理実習 | 栄 | 439 |
| | 小澤　惠子 | 給食経営管理実習 | 栄 | 440 |
| | 小澤　惠子 | 給食経営管理臨地実習 | 栄 | 440 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| こ | 小澤　惠子 | 給食経営管理論 | 栄 | 440 |
| | 小澤　惠子・廣瀬　潤子 | 嗜好と調理実習Ⅱ | 栄 | 458 |
| | 小澤　惠子・廣瀬　潤子 | 臨床栄養活動論 | 栄 | 538 |
| | 小澤　惠子・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 栄養教育実習･事前事後指導 | 教 | 653 |
| | 後藤　直成 | 湖沼環境学 | 態資 | 247 |
| | 後藤　直成 | 水域生態系保全修復論 | 態 | 256 |
| | 小林　孝子・小島　亜未 | 健康教育論 | 看 | 565 |
| | 小林　孝子・西内　恭子※・馬場　文 | 公衆衛生看護学Ⅱ | 看 | 566 |
| | 小林　孝子 | 公衆衛生看護学概論 | 看 | 566 |
| | 小林　孝子・馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 健康教育方法演習 | 保 | 660 |
| | 小林　孝子・馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 公衆衛生看護学実習 | 保 | 661 |
| | 小林　孝子 | 公衆衛生看護管理論 | 保 | 662 |
| | 小林　忠伸※ | 教科教育法Ⅱ(社会) | 教 | 646 |
| | 小松　紀子※ | ドイツ語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 94 |
| | 小松　紀子※ | ドイツ語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 95 |
| | 小松　紀子※ | ドイツ語ⅠA(初級コース)(水4限) | 全 | 96 |
| | 小松　紀子※ | ドイツ語ⅠB(初級コース)(水4限) | 全 | 96 |
| | 小松　紀子※ | ドイツ語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 97 |
| | 小松　紀子※ | ドイツ語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 97 |
| | 近藤　麻理※・森　恵※ | 国際看護学 | 看 | 566 |
| | 近藤　隆二郎 | 人間にとって環境とは何か | 全 | 158 |
| | 近藤　隆二郎 | イベント計画論･演習 | 政 | 214 |
| | 近藤　隆二郎 | 環境計画学 | 政建 | 225 |
| さ | 酒井　道 | 工業数学 | 工 | 332 |
| | 酒井　道 | コンピュータアーキテクチャ | 電 | 334 |
| | 酒井　道 | コンピュータハードウェア | 電 | 334 |
| | 酒井　道 | 通信情報理論 | 電 | 347 |
| | 坂田　雅夫※ | 法学概論(国際法を含む) | 政関国 | 280 |
| | 坂田　雅夫※ | 法学概論(国際法を含む) | 政関国 | 527 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅢA(充実コース)(再履修) | 再 | 62 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅢB(充実コース)(再履修) | 再 | 62 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣA(展開コース)(環境②) | 環 | 63 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣB(展開コース)(環境②) | 環 | 63 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣA(展開コース)(環境④) | 環 | 64 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣB(展開コース)(環境④) | 環 | 65 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣA(展開コース)(工学③) | 工 | 68 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣB(展開コース)(工学③) | 工 | 68 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣA(展開コース)(工学⑤) | 工 | 69 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣB(展開コース)(工学⑤) | 工 | 69 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣA(展開コース)(人文⑤) | 人 | 72 |
| | 坂元　敦子 | 英語ⅣB(展開コース)(人文⑤) | 人 | 73 |
| | 坂元　敦子 | 実用英語演習ⅠA④(火2限) | 全 | 111 |
| | 坂元　敦子 | 実用英語演習ⅠA⑧(火3限) | 全 | 112 |
| | 坂元　敦子 | 実用英語演習ⅠB⑥(火2限) | 全 | 115 |
| | 坂元　敦子 | 実用英語演習ⅠB⑪(火3限) | 全 | 117 |
| | 坂本　眞一 | 電気回路Ⅰ | 電 | 348 |
| | 坂本　眞一 | 電力工学Ⅰ | 電 | 356 |
| | 坂本　眞一 | 電力工学Ⅱ | 電 | 356 |
| | 作田　健 | 基礎電磁気学(材料科学) | 材 | 329 |
| | 作田　健 | 電気電子計測Ⅱ | 電 | 350 |
| | 作田　健 | 電磁気学Ⅰ | 電 | 352 |
| | 作田　健 | 電磁波工学 | 電 | 355 |
| | 作田　健 | ロボット工学(機械、電子) | 機電 | 371 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅠA(活性化コース)(環境①) | 環 | 24 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅠB(活性化コース)(環境①) | 環 | 24 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅠA(活性化コース)(工学⑤) | 工 | 30 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅠB(活性化コース)(工学⑤) | 工 | 31 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅠA(活性化コース)(人文①) | 人 | 31 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅠB(活性化コース)(人文①) | 人 | 31 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| さ | 佐久間　思帆※ | 英語ⅢA(充実コース)(環境⑤) | 環 | 52 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅢB(充実コース)(環境⑤) | 環 | 52 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅢA(充実コース)(工学④) | 工 | 55 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅢB(充実コース)(工学④) | 工 | 55 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅢA(充実コース)(人文③) | 人 | 58 |
| | 佐久間　思帆※ | 英語ⅢB(充実コース)(人文③) | 人 | 58 |
| | 桜木　陽子※ | 中国語ⅠA(初級コース)(水1限) | 全 | 86 |
| | 桜木　陽子※ | 中国語ⅠB(初級コース)(水1限) | 全 | 86 |
| | 桜木　陽子※ | 中国語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 87 |
| | 桜木　陽子※ | 中国語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 87 |
| | 迫田　正美 | 環境行動論 | 政建 | 226 |
| | 迫田　正美 | 環境造形論 | 建 | 235 |
| | 迫田　正美 | 西洋建築･思潮史 | 建 | 265 |
| | 迫田　正美・村上　修一・轟　慎一 | 設計基礎演習 | 建 | 267 |
| | 佐々木　和之※ | 環境心理学 | 政 | 229 |
| | 佐々木　一泰 | 一般構造 | デ | 418 |
| | 佐々木　一泰 | 空間デザイン論 | デ | 443 |
| | 佐々木　一泰・藤木　庸介 | 住環境設計演習Ⅰ | デ | 466 |
| | 佐々木　一泰・松本　尚子※・山本　麻子※ | 住環境設計演習Ⅲ | デ | 467 |
| | 定森　秀夫 | アジア文献講読A | 地 | 417 |
| | 定森　秀夫・中井　均 | 考古学実習Ⅰ | 地 | 450 |
| | 定森　秀夫・中井　均 | 考古学実習Ⅱ | 地 | 451 |
| | 定森　秀夫 | 考古学特論B | 地 | 451 |
| | 定森　秀夫 | 対外文化交流論B | 地 | 483 |
| | 定森　秀夫 | 比較文明論 | 地 | 516 |
| | 定森　秀夫 | 東アジア考古学概論 | 地 | 517 |
| | 定森　秀夫・浦部　美佐子・上町　達也・東　幸代 | 博物館資料論 | 学 | 658 |
| | 真田　満※ | 英語ⅢA(充実コース)(環境③) | 環 | 50 |
| | 真田　満※ | 英語ⅢB(充実コース)(環境③) | 環 | 51 |
| | 真田　満※ | 英語ⅢA(充実コース)(工学②) | 工 | 54 |
| | 真田　満※ | 英語ⅢB(充実コース)(工学②) | 工 | 54 |
| | 真田　満※ | 英語ⅢA(充実コース)(人文①) | 人 | 56 |
| | 真田　満※ | 英語ⅢB(充実コース)(人文①) | 人 | 57 |
| | 真田　満※ | 欧米文化論D | 国 | 431 |
| し | 地蔵堂　貞二 | 中国語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 90 |
| | 地蔵堂　貞二 | 中国語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 90 |
| | 地蔵堂　貞二 | 中国語ⅠA(国際) | 国 | 104 |
| | 地蔵堂　貞二 | 中国語ⅡA(国際) | 国 | 105 |
| | 地蔵堂　貞二 | アジア文化特論A | 国 | 414 |
| | 地蔵堂　貞二 | アジア文化論A | 国 | 415 |
| | 地蔵堂　貞二 | 中国語コミュニケーションⅠA | 国 | 490 |
| | 地蔵堂　貞二 | 中国語コミュニケーションⅡA | 国 | 491 |
| | 地蔵堂　貞二 | 中国語コミュニケーションⅡC | 国 | 492 |
| | 柴川　真由美 | 日本語ⅠA | 留 | 117 |
| | 柴川　真由美 | 日本語ⅠB | 留 | 117 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初級ⅠA) | 交 | 134 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初級ⅠB) | 交 | 135 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初級ⅡA) | 交 | 135 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初級ⅡB) | 交 | 135 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初級ⅢA) | 交 | 136 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初級ⅢB) | 交 | 136 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初中級ⅠA) | 交 | 136 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初中級ⅠB) | 交 | 137 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初中級ⅡA) | 交 | 137 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初中級ⅡB) | 交 | 137 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初中級ⅢA) | 交 | 138 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(初中級ⅢB) | 交 | 138 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(中級ⅠA) | 交 | 139 |
| | 柴川　真由美 | 日本語基礎(中級ⅠB) | 交 | 139 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| し | 柴田　克己 | 栄養と人間 | 全 | 146 |
| | 柴田　克己 | 栄養生化学 | 栄 | 427 |
| | 柴田　克己・遠藤　弘史・森　紀之 | 栄養生化学実験 | 栄 | 428 |
| | 柴田　克己 | 基礎栄養学Ⅰ | 栄 | 437 |
| | 柴田　克己 | 基礎栄養学Ⅱ | 栄 | 437 |
| | 柴田　克己・遠藤　弘史・森　紀之 | 基礎栄養学実験 | 栄 | 438 |
| | 柴田　克己 | 分子生物学基礎 | 栄 | 526 |
| | 柴田　陽子※ | 教科教育法Ⅱ（家庭） | 教 | 645 |
| | 嶋田　容子※ | 博物館情報・メディア論 | 学 | 657 |
| | 島村　一平 | 国際協力論 | 全 | 149 |
| | 島村　一平 | アジア文化論C | 国 | 416 |
| | 島村　一平 | 文化人類学概論A | 地国 | 525 |
| | 島村　一平 | モンゴル語ＩＡ | 全国 | 530 |
| | 島村　一平 | モンゴル語ＩＢ | 全国 | 530 |
| | 島村　一平 | モンゴル語ⅡＢ | 全国 | 531 |
| | 清水　顕史 | 遺伝学 | 態資 | 214 |
| | 清水　顕史 | 植物遺伝資源学 | 資 | 252 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣA（展開コース）（環境⑤） | 環 | 65 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣB（展開コース）（環境⑤） | 環 | 65 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣA（展開コース）（工学②） | 工 | 67 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣB（展開コース）（工学②） | 工 | 67 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣA（展開コース）（工学④） | 工 | 68 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣB（展開コース）（工学④） | 工 | 69 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣA（展開コース）（人文②） | 人 | 70 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣB（展開コース）（人文②） | 人 | 71 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣA（展開コース）（人文④） | 人 | 72 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣB（展開コース）（人文④） | 人 | 72 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣA（展開コース）（再履修） | 再 | 75 |
| | 清水　利宏 | 英語ⅣB（展開コース）（再履修） | 再 | 75 |
| | 清水　利宏 | 実用英語演習ＩA②（火1限） | 全 | 110 |
| | 清水　利宏 | 実用英語演習ＩA⑤（火2限） | 全 | 111 |
| | 清水　利宏 | 実用英語演習ＩB①（火1限） | 全 | 113 |
| | 清水　利宏 | 実用英語演習ＩB③（火2限） | 全 | 114 |
| | 就職指導担当教員 | インターンシップA | キ | 181 |
| | 就職指導担当教員 | インターンシップB | キ | 181 |
| | 城地　孝※ | 中国地域文化特論 | 地 | 492 |
| す | 菅瀬　晶子※ | 国際関係論 | 国 | 454 |
| | 杉浦　省三 | 魚類学 | 資 | 241 |
| | 杉浦　省三 | 水産資源学 | 資 | 256 |
| | 杉浦　省三・平山　琢二 | 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 資 | 263 |
| | 杉浦　省三・入江　俊一・清水　顕史 | 生物資源管理学実験・実習Ⅴ | 資 | 264 |
| | 杉浦　省三 | 養魚飼料学 | 資 | 282 |
| | 杉浦　由香里 | 教育学概論 | 関教 | 441 |
| | 杉浦　由香里 | 教育制度論 | 関教 | 442 |
| | 杉浦　由香里 | 人間形成論B | 関 | 508 |
| | 鈴木　一実 | 植物の病気 | 全 | 151 |
| | 鈴木　一実 | 作物保護学 | 資 | 248 |
| | 鈴木　一実 | 植物病害防除論 | 資 | 254 |
| | 鈴木　一実・高倉　耕一 | 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 資 | 264 |
| | 鈴木　真※ | 哲学概論B | 地関 | 498 |
| | 鈴木　康夫※ | 現代経済論 | 全 | 147 |
| | 鈴木　里奈※ | 英語ＩA（活性化コース）（看護①） | 看 | 34 |
| | 鈴木　里奈※ | 英語ＩB（活性化コース）（看護①） | 看 | 35 |
| | 鈴木　里奈※ | 英語ＩA（活性化コース）（看護②） | 看 | 35 |
| | 鈴木　里奈※ | 英語ＩB（活性化コース）（看護②） | 看 | 35 |
| | 須戸　幹 | 水質管理学 | 資 | 257 |
| | 須戸　幹・飯村　康夫 | 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 資 | 264 |
| | 須戸　幹 | 農薬環境学 | 態資 | 278 |
| | 須戸　幹 | 水資源保全学 | 資 | 281 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| せ | 関根　英爾※ | 現代ジャーナリズム論 | 地関 | 447 |
| | 瀬口　眞司※ | 地域考古学D | 地 | 486 |
| た | 高倉　耕一 | 害虫管理学 | 資 | 217 |
| | 高倉　耕一 | 動物生態学 | 態政資 | 275 |
| | 高田　豊文 | 構造力学Ⅱ | 建 | 246 |
| | 高橋　卓也 | 環境経営論 | 政資 | 225 |
| | 高橋　卓也・林　宰司 | 環境経済学入門 | 態政建資 | 226 |
| | 高橋　卓也 | 環境マネジメント演習 | 政 | 239 |
| | 高橋　卓也・林　宰司 | 国際環境資源論 | 政資 | 246 |
| | 高橋　卓也 | 資源経済学 | 政資 | 248 |
| | 高松　徹・和泉　遊以 | 機械材料学 | 機 | 321 |
| | 高松　徹・安田　寿彦 | 機械システム工学セミナー | 機 | 322 |
| | 高松　徹・山野　光裕 | 機械設計製図 | 機 | 324 |
| | 高松　徹 | 材料力学Ⅰ（機械システム） | 機 | 337 |
| | 高松　徹 | 材料力学Ⅱ | 機 | 338 |
| | 高柳　英明・Jimenez Verdejo Juan Ramon | CAD演習Ⅰ | 建 | 213 |
| | 高柳　英明 | 内部空間論 | 建 | 277 |
| | 竹内　一高※ | ドイツ語ⅠA（初級コース）（水2限） | 全 | 94 |
| | 竹内　一高※ | ドイツ語ⅠB（初級コース）（水2限） | 全 | 94 |
| | 竹内　一高※ | ドイツ語ⅠA（初級コース）（水3限） | 全 | 95 |
| | 竹内　一高※ | ドイツ語ⅠB（初級コース）（水3限） | 全 | 95 |
| | 竹内　一高※ | ドイツ語ⅠA（初級コース）（水4限） | 全 | 96 |
| | 竹内　一高※ | ドイツ語ⅠB（初級コース）（水4限） | 全 | 97 |
| | 竹下　秀子・松嶋　秀明・細馬　宏通・上野　有理 | 行動論演習 | 関 | 453 |
| | 竹下　秀子・松嶋　秀明・細馬　宏通・上野　有理 | 心理・発達・行動学実験演習 | 関 | 473 |
| | 竹下　秀子 | 心理学基礎 | デ栄関 | 474 |
| | 竹下　秀子 | 発達支援論（人間関係） | 関 | 511 |
| | 竹下　秀子 | 発達心理学Ⅱ | 関 | 512 |
| | 竹下　秀子・上野　有理 | 比較認知発達論 | 関 | 515 |
| | 竹下　宏樹 | 化学熱力学 | 材 | 320 |
| | 武田　俊輔 | 質的データ解析論 | 地関 | 461 |
| | 武田　俊輔・大橋　松行・細馬　宏通 ほか | 社会学概論 | 地関 | 463 |
| | 武田　俊輔・中村　好孝 | 社会調査実習（地域文化、人間関係） | 地関 | 464 |
| | 武田　俊輔 | 日本社会論 | 地関 | 505 |
| | 武田　俊輔 | 文化社会学 | 地関 | 525 |
| | 竹原　宗範 | 生化学Ⅰ | 材 | 341 |
| | 竹原　宗範 | 生化学Ⅱ | 材 | 341 |
| | 竹原　宗範・浦部　貴美子※ | 食品微生物学 | 栄 | 472 |
| | 竹本　知行※ | 政治学Ⅰ | 政関 | 260 |
| | 竹本　知行※ | 政治学Ⅱ（国際政治を含む） | 政関 | 260 |
| | 竹本　知行※ | 政治学Ⅰ | 政関 | 478 |
| | 竹本　知行※ | 政治学Ⅱ（国際政治を含む） | 政関 | 478 |
| | 多胡　陽介※ | 健康・体力科学Ⅰ（テニス） | 全 | 130 |
| | 多胡　陽介※ | 健康・体力科学Ⅱ（バドミントン） | 全 | 132 |
| | 多胡　陽介※ | 健康・体力科学Ⅱ（バレーボール） | 全 | 133 |
| | 田中　勉※ | 水利環境施設学 | 資 | 257 |
| | 田中　俊明 | アジア文献講読B | 地 | 417 |
| | 田中　俊明 | 漢文講読 | 地 | 436 |
| | 田中　俊明 | 対外文化交流論A | 地 | 483 |
| | 田中　俊明 | 朝鮮地域文化論 | 地 | 495 |
| | 田中　俊明 | 東洋史概説 | 地 | 504 |
| | 田中　俊明・亀井　若菜・横田　祥子・Borjigin Burensain | 人間文化論B | 人 | 510 |
| | 田中　俊明 | 東アジア世界論 | 地 | 517 |
| | 田中　英明※ | 政治経済学 | 関国 | 479 |
| | 田中　祐子※ | 学校看護論 | 教 | 655 |
| | 田中　祐子※・伊丹　君和・橋本　進一※・冨田　豊※ | 学校保健論 | 教 | 655 |
| | 田中　容子※・別府　悦子※ | 教育相談・進路指導 | 教 | 642 |
| | 棚瀬　慈郎 | アジア文化論D | 国 | 416 |
| | 棚瀬　慈郎 | 英語文献講読A | 国 | 424 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| た | 棚瀬　慈郎 | 英語文献講読B | 国 | 424 |
| | 棚瀬　慈郎 | チベット語基礎Ⅰ | 国 | 490 |
| | 棚瀬　慈郎 | チベット語基礎Ⅱ | 国 | 490 |
| | 棚瀬　慈郎 | 文化人類学概論B | 地国 | 526 |
| | 棚瀬　慈郎 | 文化人類学特論 | 地国 | 526 |
| | 田邉　裕貴・和泉　遊以 | 機械設計演習Ⅱ | 機 | 324 |
| | 田邉　裕貴 | 材料力学 | 材 | 337 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅠA(活性化コース)(環境②) | 環 | 24 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅠB(活性化コース)(環境②) | 環 | 25 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅠA(活性化コース)(工学①) | 工 | 28 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅠB(活性化コース)(工学①) | 工 | 28 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅡA(応用コース)(再履修) | 再 | 48 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅡB(応用コース)(再履修) | 再 | 49 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣA(展開コース)(環境①) | 環 | 62 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣB(展開コース)(環境①) | 環 | 63 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣA(展開コース)(環境⑥) | 環 | 66 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣB(展開コース)(環境⑥) | 環 | 66 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣA(展開コース)(人文①) | 人 | 70 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣB(展開コース)(人文①) | 人 | 70 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣA(展開コース)(人文③) | 人 | 71 |
| | 谷口　真紀 | 英語ⅣB(展開コース)(人文③) | 人 | 71 |
| | 谷口　真紀 | 実用英語演習ⅠA⑩(火3限) | 全 | 113 |
| | 谷口　真紀 | 実用英語演習ⅠB⑧(火3限) | 全 | 116 |
| | 谷本　智史 | 機器分析Ⅱ | 材 | 326 |
| | 谷本　智史 | 高分子合成 | 材 | 333 |
| | 谷本　智史・鈴木　厚志・竹原　宗範・伊田　翔平 | 分析・環境化学実験(材料科学) | 材 | 366 |
| | 谷本　智史・鈴木　厚志・竹原　宗範・伊田　翔平 | 有機化学総合および同演習 | 材 | 369 |
| | 田門　肇※・牧　泰輔※ | 化学工学 | 材 | 320 |
| | 多山　洋文※ | 電気関係法規・施設管理 | 電 | 349 |
| ち | 崔　眞善※ | 朝鮮語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 93 |
| | 崔　眞善※ | 朝鮮語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 93 |
| | 崔　眞善※ | 朝鮮語コミュニケーションⅠA | 国 | 493 |
| | 崔　眞善※ | 朝鮮語コミュニケーションⅡC | 国 | 494 |
| つ | 塚本　礼仁 | 人文地理学A | 地 | 473 |
| | 塚本　礼仁 | 人文地理学B | 地 | 473 |
| | 塚本　礼仁 | 地誌学 | 地 | 489 |
| | 塚本　礼仁 | 地理学実習Ⅰ | 地 | 496 |
| | 塚本　礼仁 | 地理学実習Ⅱ | 地 | 496 |
| | 辻村　暁子※ | フランス語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 100 |
| | 辻村　暁子※ | フランス語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 100 |
| | 辻村　暁子※ | フランス語ⅠA(初級コース)(水4限) | 全 | 100 |
| | 辻村　暁子※ | フランス語ⅠB(初級コース)(水4限) | 全 | 101 |
| | 辻村　暁子※ | フランス語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 101 |
| | 辻村　暁子※ | フランス語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 101 |
| | 土田　勝晴※・竹内　孝治※・天ケ瀬　紀久子※ | 薬理学(2単位) | 看 | 577 |
| | 土屋　正春※ | 環境倫理学 | 政建 | 240 |
| と | 唐　楽寧※ | 中国語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 86 |
| | 唐　楽寧※ | 中国語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 87 |
| | 陶器　浩一・松村　和夫※ | 構造計画(環境建築デザイン) | 建 | 245 |
| | 陶器　浩一・伊藤　淳志※・高田　豊文・永井　拓生 | 構造材料実験 | 建 | 245 |
| | 陶器　浩一・永井　拓生 | 構造力学Ⅰ(環境建築デザイン) | 建資 | 246 |
| | 堂満　華子 | 環境地球科学Ⅰ | 態政資 | 235 |
| | 堂満　華子 | 環境変遷史 | 態 | 239 |
| | 道明　美保子※ | 被服学 | 教 | 652 |
| | 外狩　章夫・清水　利宏 | 英語Ⅲ(国際a) | 国 | 77 |
| | 外狩　章夫・清水　利宏 | 英語Ⅲ(国際b) | 国 | 77 |
| | 外狩　章夫 | リーディング(中級)b | 全国 | 79 |
| | 外狩　章夫 | 時事英語 | 全国 | 82 |
| | 外狩　章夫 | 英語音声学 | 国 | 422 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| と | 外狩　章夫 | 英米文学講読 | 国 | 425 |
| | 外狩　章夫 | 欧米文化論C | 国 | 431 |
| | 外狩　章夫 | 時事英語 | 全国 | 458 |
| | 外狩　章夫 | 実践英語演習D | 国 | 460 |
| | 外狩　章夫 | リーディング（中級）b | 全国 | 533 |
| | 戸川　勝紀※ | 建築法規 | 建デ | 244 |
| | 戸川　勝紀※ | 建築法規 | 建デ | 449 |
| | 徳満　勝久・松岡　純・奥　健夫 ほか | 科学技術英語（材料科学） | 材 | 319 |
| | 徳満　勝久 | 機器分析Ⅰ | 材 | 326 |
| | 徳満　勝久 | 高分子物性 | 材 | 333 |
| | 徳満　勝久 | 反応速度論 | 材 | 358 |
| | 轟　慎一 | 地域環境計画 | 建 | 271 |
| | 轟　慎一 | 都市・地域計画 | 建 | 276 |
| | 富川　和代※ | 日本語ⅣA | 留 | 119 |
| | 富川　和代※ | 日本語ⅣB | 留 | 119 |
| | 富永　豊※ | 地域社会福祉論 | 全 | 168 |
| | 冨原　仁美※ | デッサン法 | デ | 499 |
| | 友永　雄吾※ | 多民族社会論A | 国 | 483 |
| な | 中井　直也　・　東田　一彦 | 健康・体力科学Ⅰ（運動処方） | 全 | 129 |
| | 中井　直也　・　東田　一彦 | 健康・体力科学Ⅰ（スキー・スノーボード） | 全 | 130 |
| | 中井　直也　・　東田　一彦 | 健康・体力科学Ⅰ（ニュースポーツ） | 全 | 131 |
| | 中井　直也　・　東田　一彦 | 健康・体力科学Ⅱ（ゴルフ） | 全 | 132 |
| | 中井　直也　・　東田　一彦 | 健康・体力科学Ⅱ（運動処方） | 全 | 133 |
| | 中井　直也　・　東田　一彦 | 健康・体力科学Ⅱ（海洋スポーツ） | 全 | 133 |
| | 中井　直也　・　東田　一彦 | 運動と健康 | 栄 | 422 |
| | 中井　直也　・　東田　一彦 | スポーツ栄養学 | 栄 | 474 |
| | 中井　均 | 基層文化論 | 地 | 437 |
| | 中井　均 | 考古学 | 地 | 450 |
| | 中井　均 | 考古学特論A | 地 | 451 |
| | 中井　均 | 文化財・保存修景論B | 地 | 524 |
| | 中川　平三郎※ | 機械製作 | 機 | 323 |
| | 中川　雅央※ | 情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護a） | 看 | 123 |
| | 中川　雅央※ | 情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護b） | 看 | 124 |
| | 中川　雅央※ | 情報科学概論（看護a） | 看 | 128 |
| | 中川　雅央※ | 情報科学概論（看護b） | 看 | 128 |
| | 中嶋　直樹※ | 欧米文化論E | 国 | 432 |
| | 中島　由佳※ | 職業指導 | 教 | 651 |
| | 中原　純※ | 高齢者行動論 | 関 | 454 |
| | 永淵　修・丸尾　雅啓・尾坂　兼一 | 環境解析学・同実験 | 態資 | 220 |
| | 永淵　修・未定・浦部　美佐子 ほか | 環境科学概論Ⅰ | 環 | 221 |
| | 永淵　修 | 集水域環境機能論 | 態資 | 251 |
| | 永淵　修 | 大気環境学 | 態 | 271 |
| | 中村　公人※ | 土壌環境情報学 | 資 | 276 |
| | 中村　孝之※ | 人間工学 | デ | 508 |
| | 中村　力※ | 健康・体力科学Ⅰ（サッカー） | 全 | 129 |
| | 中村　力※ | 健康・体力科学Ⅱ（卓球） | 全 | 134 |
| | 中村　好孝 | 現代社会福祉論 | 関 | 448 |
| | 中村　好孝 | 社会学史 | 地関 | 463 |
| | 中村　好孝 | 社会問題の社会学 | 関 | 466 |
| | 中村　好孝 | 比較社会文化論 | 関 | 514 |
| | 滑田　明暢※ | 産業心理学 | 関 | 456 |
| | 成田　幸子※・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 学校栄養指導論 | 教 | 654 |
| | 成田　幸子※・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 食生活教育論 | 教 | 654 |
| に | 西岡　靖貴 | システム工学 | 機 | 339 |
| | 西門　秀人※ | 情報リテラシー（情報倫理を含む）（機械） | 機 | 121 |
| | 西門　秀人※ | 情報科学概論（機械） | 機 | 126 |
| | 錦澤　滋雄※・杉本　卓也※・柴田　裕希※ | 環境アセスメント | 態政建資 | 219 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ＩA（活性化コース）（環境④） | 環 | 26 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ＩB（活性化コース）（環境④） | 環 | 26 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| に | 西澤　裕一※ | 英語ＩA(活性化コース)(工学②) | 工 | 28 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ＩB(活性化コース)(工学②) | 工 | 29 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ＩA(活性化コース)(人文④) | 人 | 33 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ＩB(活性化コース)(人文④) | 人 | 33 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ⅢA(充実コース)(環境②) | 環 | 50 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ⅢB(充実コース)(環境②) | 環 | 50 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ⅢA(充実コース)(人文②) | 人 | 57 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ⅢB(充実コース)(人文②) | 人 | 57 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ⅢA(充実コース)(看護①) | 看 | 60 |
| | 西澤　裕一※ | 英語ⅢB(充実コース)(看護①) | 看 | 60 |
| | 西田　隆義 | 自然保護論 | 全 | 151 |
| | 西田　隆義・野間　直彦・泉　泰弘 ほか | 環境生物学実験A | 態資 | 233 |
| | 西田　隆義・野間　直彦・泉　泰弘 ほか | 環境生物学実験B | 態資 | 233 |
| | 西田　隆義 | 環境論考解析学 | 態 | 240 |
| の | 野部　博子※ | 保育学A | 教 | 653 |
| | 野部　博子※ | 保育学B | 教 | 653 |
| | 野間　直彦 | 森林環境学 | 態政資 | 254 |
| | 野間　直彦・未定・籠谷　泰行・西田　隆義 | 陸域環境学･同実験 | 態 | 283 |
| | 野間　直彦 | 陸域生態系保全修復論 | 態資 | 284 |
| | 野間　直彦・市川　秀之・横田　尚美 ほか | 博物館資料保存論 | 学 | 657 |
| | 法月　紀江※ | 服飾デザイン演習Ｉ | デ | 520 |
| | 法月　紀江※ | 服飾製作実習 | 教 | 652 |
| は | 萩原　和 | システム思考法 | 副 | 173 |
| | 萩原　和・鵜飼　修・上田　洋平 | 地域デザインD | 副 | 175 |
| | 橋本　豪志※ | 憲法 | 全 | 148 |
| | 橋本　周子 | フランス語ＩA(国際) | 国 | 108 |
| | 橋本　周子 | フランス語ⅡA(国際) | 国 | 109 |
| | 橋本　周子 | 欧米文化特論B | 国 | 429 |
| | 橋本　周子 | 欧米文化論B | 国 | 431 |
| | 橋本　周子 | フランス語コミュニケーションＩA | 国 | 522 |
| | 橋本　周子 | フランス語コミュニケーションⅡA | 国 | 522 |
| | 橋本　周子 | フランス語コミュニケーションⅡC | 国 | 523 |
| | 長谷川　武博※ | 微積分Ｉ(材料) | 材 | 359 |
| | 長谷川　武博※ | 微積分Ｉ(電子) | 電 | 360 |
| | 長谷川　武博※ | 微積分Ⅱ(電子システム) | 電 | 361 |
| | 畠　佐代子※・中西　康介※ | 環境動物学 | 資 | 236 |
| | 畑　直樹 | 植物栄養学 | 資 | 252 |
| | 畑中　裕司 | コンピュータソフトウェア | 電 | 334 |
| | 畑中　裕司 | プログラミング言語 | 電 | 366 |
| | 馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 公衆衛生看護学Ｉ | 看 | 565 |
| | 馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 公衆衛生看護学Ⅲ | 保 | 661 |
| | 馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 公衆衛生看護学演習 | 保 | 661 |
| | 濱崎　一志・井口　貢※ | 文化財･保存修景論A | 地建 | 280 |
| | 濱崎　一志・武田　俊輔・塚本　礼仁 ほか | 英書講読(地域文化) | 地 | 425 |
| | 濱崎　一志 | 地域文化財論B | 地 | 489 |
| | 濱崎　一志・井口　貢※ | 文化財･保存修景論A | 地建 | 524 |
| | 濱崎　一志・石川　慎治 | 文化財情報論 | 地 | 525 |
| | 林　宰司 | 環境経済演習 | 政 | 225 |
| | 林　宰司 | 環境経済学 | 政資 | 226 |
| | 林　宰司 | 経済学Ｉ | 政資 | 242 |
| | 原田　英美子 | 環境植物生理学 | 資 | 228 |
| | 原田　英美子 | 植物資源開発学 | 資 | 253 |
| | 伴　修平 | 海洋環境学 | 態 | 217 |
| | 伴　修平・浦部　美佐子・後藤　直成・細井　祥子 | 水域環境学･同実験 | 態 | 255 |
| | 伴　修平 | 琵琶湖環境学 | 態 | 279 |
| ひ | 肥田　嘉文 | 集水域環境影響調査指針 | 態 | 250 |
| | 肥田　嘉文 | 陸域環境機能論 | 態資 | 283 |
| | 平田　弘美・望月　紀子 | 老年看護学演習 | 看 | 577 |
| | 平田　弘美 | 老年看護学概論 | 看 | 577 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| ひ | 平田　弘美・望月　紀子 | 老年看護学実習 | 看 | 578 |
| | 平山　琢二 | 家畜生産生理学 | 資 | 218 |
| | 平山　琢二 | 動物資源管理学 | 資 | 275 |
| | 平山　奈央子 | 地域開発論 | 政資 | 271 |
| | 平山　奈央子 | ファシリテーション技法・演習 | 政 | 279 |
| | 廣川　能嗣 | 環境調和化学 | 材 | 321 |
| | 廣川　能嗣・南川　久人・酒井　道 | 技術者倫理 | 工 | 327 |
| | 廣川　能嗣・伊田　翔平 | 有機化学Ⅱ | 材 | 368 |
| | 廣島　幸正※ | 環境数学Ⅰ・演習 | 態資 | 229 |
| | 廣島　幸正※ | 環境数学Ⅱ・演習 | 態資 | 230 |
| | 廣瀬　潤子 | 栄養教育論Ⅰ | 栄 | 426 |
| | 廣瀬　潤子 | 栄養教育論Ⅱ | 栄 | 426 |
| | 廣瀬　潤子 | 栄養教育論Ⅲ(カウンセリング論演習を含む) | 栄 | 427 |
| | 廣瀬　潤子 | 栄養教育論実習 | 栄 | 427 |
| | 廣瀬　潤子・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 教職実践演習(栄養教諭) | 教 | 654 |
| | 廣谷　明※ | 家庭電気・機械 | 教 | 641 |
| | 廣谷　明※ | 教科教育法Ⅰ(工業) | 教 | 643 |
| | 廣谷　明※ | 教科教育法Ⅱ(工業) | 教 | 646 |
| ふ | 福井　雅英 | 道徳教育論 | 関教 | 504 |
| | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 教育実習・事前事後指導(中学校免許) | 教 | 640 |
| | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 教育実習・事前事後指導(高等学校免許) | 教 | 640 |
| | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 教職実践演習(中学校) | 教 | 640 |
| | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 教職実践演習(高等学校) | 教 | 641 |
| | 福井　雅英 | 教職論 | 教 | 641 |
| | 福井　雅英 | 教科教育法Ⅲ(社会) | 教 | 649 |
| | 福井　雅英 | 教科教育法Ⅳ(社会) | 教 | 650 |
| | 福井　雅英 | 生徒指導論 | 教 | 651 |
| | 福井　雅英 | 特別活動論 | 教 | 652 |
| | 福岡　克弘 | 基礎電磁気学(機械システム) | 機 | 329 |
| | 福岡　克弘 | 電気電子計測Ⅰ | 電 | 350 |
| | 福岡　克弘 | 電磁気学Ⅱ | 電 | 352 |
| | 福渡　努 | 栄養と健康 | 栄 | 428 |
| | 福渡　努 | 食品衛生学 | 栄 | 469 |
| | 福渡　努・森　紀之 | 食品衛生学実験 | 栄 | 470 |
| | 福渡　努 | 食品学総論 | 栄 | 470 |
| | 福渡　努 | 食品機能科学 | 栄 | 471 |
| | 福渡　努・佐野　光枝 | 食品機能科学実験 | 栄 | 471 |
| | 藤岡　伸明※ | 組織とネットワークの社会学 | 地関 | 481 |
| | 藤木　庸介 | 比較住居論 | 全デ関 | 159 |
| | 藤木　庸介 | インテリアコーディネート概説 | デ | 422 |
| | 藤木　庸介 | 建築計画論 | デ | 449 |
| | 藤木　庸介 | 比較住居論 | 全デ関 | 514 |
| | 藤田　和尊※ | 地域考古学A | 地 | 485 |
| | 古川　洋子・林　嘉彦※ | 育成看護論演習Ⅰ | 看 | 555 |
| | 古川　洋子・未定 | 地域母子保健 | 看 | 574 |
| | 古川　洋子 | 助産管理 | 助 | 659 |
| | 古川　洋子 | 助産診断・技術学Ⅰ(2012年度以降) | 助 | 659 |
| | 古川　洋子・渡邊　香織 | 助産診断・技術学Ⅱ(2012年度以降) | 助 | 659 |
| | 古川　洋子・渡邊　香織・渡邊　友美子 ほか | 助産診断・技術学演習(2012年度以降) | 助 | 660 |
| ほ | 細井　祥子 | 水域環境影響調査指針 | 態資 | 255 |
| | 細井　祥子 | 水域物質循環論 | 態 | 256 |
| | 細馬　宏通 | こころのテクノロジー | 全 | 149 |
| | 細馬　宏通 | コミュニケーション論 | 関 | 455 |
| | 細馬　宏通 | 統計学基礎 | 地デ栄関 | 503 |
| | 細馬　宏通 | 人間行動論 | 栄関 | 509 |
| | 細馬　宏通・呉　凌非・村上　健太郎 ほか | 人間文化論A | 人 | 509 |
| | 堀田　あゆみ※ | モンゴル語コミュニケーションⅡA | 国 | 532 |
| ま | 米谷　文男※ | 微分方程式(材料) | 材 | 361 |
| | 米谷　文男※ | 微分方程式(機械システム) | 機 | 362 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| ま | 牧野　耕次・未定・甘佐　京子 | 精神臨床看護学演習 | 看 | 573 |
| | 牧野　耕次・未定・甘佐　京子 | 精神臨床看護学実習 | 看 | 573 |
| | 増田　清敬 | 地域資源管理学 | 資 | 273 |
| | 増田　清敬 | 農業統計利用論 | 資 | 278 |
| | 増田　佳昭 | 農業問題入門 | 全 | 158 |
| | 増田　佳昭 | 食料経済システム論 | 資栄 | 254 |
| | 増田　佳昭・増田　清敬 | 生物資源管理学実験･実習ＸⅠ | 資 | 262 |
| | 増田　佳昭 | 農業経営学 | 資 | 278 |
| | 増田　佳昭 | 食料経済システム論 | 資栄 | 472 |
| | 松井　聖一郎※ | 朝鮮語ⅠB(国際) | 国 | 106 |
| | 松井　聖一郎※ | 朝鮮語ⅡB(国際) | 国 | 107 |
| | 松井　聖一郎※ | 朝鮮語コミュニケーションⅠB | 国 | 493 |
| | 松井　聖一郎※ | 朝鮮語コミュニケーションⅡB | 国 | 494 |
| | 松井　聖一郎※ | 朝鮮語コミュニケーションⅡD | 国 | 495 |
| | 松井　徹※ | 家畜生産環境学 | 資 | 218 |
| | 松浦　勉※ | 英語ⅢA(充実コース)(環境⑥) | 環 | 52 |
| | 松浦　勉※ | 英語ⅢB(充実コース)(環境⑥) | 環 | 53 |
| | 松浦　勉※ | 英語ⅢA(充実コース)(人文④) | 人 | 58 |
| | 松浦　勉※ | 英語ⅢB(充実コース)(人文④) | 人 | 59 |
| | 松浦　勉※ | 英語ⅣA(展開コース)(看護③) | 看 | 74 |
| | 松浦　勉※ | 英語ⅣB(展開コース)(看護③) | 看 | 75 |
| | 松尾　繁※・向山　泰司※・藤本　昌則※ | 消費科学Ⅱ | デ | 468 |
| | 松岡　純 | 基礎化学(機械システム) | 機 | 327 |
| | 松岡　純 | 材料量子論 | 材 | 338 |
| | 松岡　純 | 電子と化学結合 | 工 | 355 |
| | 松岡　純 | 分子･統計力学 | 材 | 366 |
| | 松岡　純 | 無機化学Ⅰ | 材 | 367 |
| | 松岡　拓公雄・轟　慎一・高田　豊文・永井　拓生 | イメージ表現法 | 建 | 215 |
| | 松岡　拓公雄 | 環境職能論 | 建 | 228 |
| | 松岡　拓公雄・陶器　浩一・高田　豊文 | 木匠塾 | 建 | 282 |
| | 松下　泰雄※ | 微積分Ⅰ(機械システム) | 機 | 359 |
| | 松下　泰雄※ | 微分方程式(電子システム) | 電 | 362 |
| | 松嶋　秀明 | カウンセリング論演習(人間関係) | 関 | 434 |
| | 松嶋　秀明 | 現場心理学 | 関 | 449 |
| | 松嶋　秀明 | 臨床心理学 | 関 | 539 |
| | 松本　健一 | 応用統計学Ⅰ | 政 | 216 |
| | 松本　健一 | 環境情報演習 | 政 | 228 |
| | 松本　健一 | 地球環境システム論 | 態政資 | 275 |
| | 松本　行弘※ | 人間性心理論 | 看 | 575 |
| | 的場　輝佳※・堀越　昌子※・玉城　一枝※ | 比較食文化論 | 栄 | 515 |
| | 丸尾　雅啓 | 環境化学Ⅰ | 態政資 | 220 |
| | 丸尾　雅啓・永淵　修・須戸　幹 ほか | 環境化学実験A | 態資 | 221 |
| | 丸尾　雅啓・永淵　修・須戸　幹 ほか | 環境化学実験B | 態資 | 222 |
| | 丸尾　雅啓・原田　英美子・高橋　卓也 | 国際環境マネジメントⅠ | 全 | 148 |
| | 丸尾　雅啓・原田　英美子・高橋　卓也 | 国際環境マネジメントⅡ | 全 | 148 |
| | 丸尾　雅啓 | 水域環境機能論 | 態 | 255 |
| | 丸山　真央 | 現代社会論(人間文化) | 地関国 | 448 |
| | 丸山　真央 | 社会変動論 | 地関 | 466 |
| | 丸山　真央 | 量的データ解析論Ⅰ | 地関 | 535 |
| み | 水野　章二 | 古文書演習Ⅰ | 地 | 455 |
| | 水野　章二 | 日本史概説 | 地 | 505 |
| | 水野　章二・東　幸代 | 日本史料講読 | 地 | 505 |
| | 水野　章二 | 歴史的地域論 | 地 | 540 |
| | 水原　渉※ | 空間論 | 全 | 147 |
| | 未定 | 人間と病気 | 全 | 157 |
| | 未定 | 滋賀の自然史 | 全 | 167 |
| | 未定 | 環境技術史 | 建 | 224 |
| | 未定 | 環境共生論 | 建 | 224 |
| | 未定 | 環境設計Ⅱ | 建 | 234 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| み | 未定 | 社会システム分析設計･演習 | 政 | 249 |
| | 未定 | 地域システム論 | 政 | 273 |
| | 未定 | 日本建築史 | 建 | 277 |
| | 未定 | 陸域環境影響調査指針 | 態資 | 283 |
| | 未定 | 金属加工学 | 機 | 331 |
| | 未定 | 数値解析･数値計算 | 電 | 340 |
| | 未定 | 通信システム工学 | 電 | 346 |
| | 未定 | 通信ネットワーク工学 | 電 | 347 |
| | 未定 | 電気電子設計製図 | 電 | 351 |
| | 未定 | 特殊加工学 | 機 | 356 |
| | 未定 | 生涯学習論 | 関 | 468 |
| | 未定 | 生活と教育 | 関 | 477 |
| | 未定 | 生活法 | 関 | 478 |
| | 未定・渡邊　友美子・本岡　夏子・藤島　和代 | 育成看護論演習Ⅱ | 看 | 555 |
| | 未定・古川　洋子・渡邊　香織 ほか | 育成看護論実習 | 看 | 556 |
| | 未定 | 看護介入とアウトカム | 看 | 559 |
| | 未定 | 博物館教育論 | 学 | 656 |
| | 未定 | 基礎助産学Ⅲ | 助 | 658 |
| | 未定 | 助産診断･技術学Ⅲ | 助 | 660 |
| | 皆川　明子 | 水資源利用学 | 資 | 281 |
| | 皆川　明子 | 流域環境管理学 | 資 | 284 |
| | 南川　久人・安田　孝宏 | 機械設計演習Ⅰ | 機 | 323 |
| | 南川　久人 | 流体力学Ⅰ | 機 | 370 |
| | 南川　久人 | 流体力学Ⅱ | 機 | 370 |
| | 南　政宏・藤木　庸介 | 基礎設計製図 | デ | 439 |
| | 南　政宏 | サステナブルデザイン論 | デ | 456 |
| | 南　政宏・麻谷　宏※ | 生活造形基礎演習 | デ | 475 |
| | 南　政宏・麻谷　宏※ | 道具デザイン演習Ⅰ | デ | 502 |
| | 宮城　茂幸 | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(電子) | 電 | 122 |
| | 宮城　茂幸 | 情報科学概論(電子) | 電 | 126 |
| | 宮城　茂幸 | プログラミング基礎 | 電 | 128 |
| | 宮城　茂幸 | プログラミング基礎 | 全 | 129 |
| | 宮城　茂幸 | ディジタル信号処理 | 電 | 347 |
| | 宮城　茂幸 | プログラミング基礎(電子) | 電 | 365 |
| | 三宅　肇※ | 生活素材論 | デ | 476 |
| | 宮崎　慎也※ | 環境技術 | 建資 | 224 |
| | 宮下　ゆたか※ | 教科教育法Ⅱ(理科) | 教 | 648 |
| | 宮下　ゆたか※ | 教科教育法Ⅲ(理科) | 教 | 649 |
| | 宮下　ゆたか※ | 教科教育法Ⅳ(理科) | 教 | 650 |
| | 宮村　弘 | 基礎結晶学 | 材 | 328 |
| | 宮村　弘・谷本　智史・井上　吉教　ほか | 材料科学実験Ⅰ | 材 | 335 |
| | 宮村　弘・谷本　智史・井上　吉教　ほか | 材料科学実験Ⅱ | 材 | 336 |
| | 宮村　弘 | 材料組織学 | 材 | 337 |
| | 宮村　弘・井上　吉教　・吉田　智　ほか | 定量･機器分析および同実験 | 材 | 348 |
| | 宮村　弘・山下　義裕・吉田　智・秋山　毅 | 物理化学総合および同演習 | 材 | 363 |
| | 宮本　真二※ | 自然地理学 | 地 | 458 |
| | 宮本　雅子 | インテリア計画論 | デ | 421 |
| | 宮本　雅子 | 色彩学 | デ | 457 |
| | 宮本　雅子 | 色彩学演習 | デ | 457 |
| | 宮本　雅子・藤木　庸介 | 住環境設計演習Ⅱ | デ | 467 |
| | 宮本　雅子 | 住環境論 | デ | 467 |
| | 宮本　雅子・松嶋　秀明・中村　好孝 ほか | 人間文化論C | 人 | 510 |
| む | 向山　泰司※・小林　重信※・永野　暁※・藤本　昌則※ | 消費科学Ⅰ | デ | 468 |
| | 村岡　良和※ | 環境物理学Ⅱ | 態 | 238 |
| | 村上　一真 | 応用統計学Ⅱ | 政 | 216 |
| | 村上　一真 | 環境財政 | 態政建資 | 227 |
| | 村上　一真 | 経済学Ⅱ(国際経済を含む) | 政資国 | 242 |
| | 村上　健太郎・森　紀之 | 食品加工実習 | 栄 | 470 |
| | 村上　健太郎 | 食品基礎実験 | 栄 | 471 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| む | 村上　健太郎 | 生命科学と人間 | 栄 | 479 |
| | 村上　健太郎 | 専門外書講義 | 栄 | 480 |
| | 村上　健太郎 | 天然物化学基礎 | 栄関 | 499 |
| | 村上　修一 | 人間の行動と空間 | 全 | 158 |
| | 村上　修一 | 環境学原論 | 環 | 222 |
| | 村上　修一 | 景観計画 | 政建資 | 242 |
| | 村上　修一 | ランドスケープデザイン | 建資 | 282 |
| | 村上　司樹※ | 西洋史 | 国 | 480 |
| も | 望月　紀子 | 老年臨床看護学 | 看 | 578 |
| | 望月　紀子・平田　弘美 | 老年臨床看護学演習 | 看 | 578 |
| | 望月　紀子・平田　弘美 | 老年臨床看護学実習 | 看 | 579 |
| | 森　敏 | 疾病論Ⅰ(2単位) | 看 | 568 |
| | 森　敏 | 疾病論Ⅱ(2単位) | 看 | 569 |
| | 森　太郎※ | 教科教育法Ⅰ(農業) | 教 | 644 |
| | 森　将豪※ | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文a) | 人 | 122 |
| | 森　将豪※ | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文c) | 人 | 123 |
| | 森　将豪※ | 情報科学概論(人文a) | 人 | 126 |
| | 森　将豪※ | 情報科学概論(人文c) | 人 | 127 |
| | 森岡　秀人※ | 地域考古学C | 地 | 486 |
| | 森岡　誠※ | 現代産業デザイン論 | デ | 447 |
| | 森下　あおい・横田　尚美 | 基礎服飾デザイン | デ | 439 |
| | 森下　あおい・宮本　雅子 | 人間工学実習 | デ | 509 |
| | 森下　あおい | 服飾造形論 | デ | 520 |
| | 森下　あおい | 服飾デザイン演習Ⅲ | デ | 521 |
| | 森下　あおい | 服飾デザイン論 | デ | 521 |
| や | 八木　利津子※・伊丹　君和・糸島　陽子・植村　小夜子 | 教育実習・事前事後指導(養護教諭) | 教 | 655 |
| | 八木　利津子※・伊丹　君和・糸島　陽子・植村　小夜子 | 教職実践演習(養護教諭) | 教 | 656 |
| | 安田　純也※ | 朝鮮地域文化特論 | 地 | 495 |
| | 安田　孝宏 | 数値解析 | 機 | 340 |
| | 安田　寿彦 | 制御工学Ⅰ | 機 | 342 |
| | 安田　寿彦 | 制御工学Ⅱ | 機 | 342 |
| | 安田　寿彦 | メカトロニクス | 機 | 368 |
| | 安田　昌司 | 産業技術マネジメント | 工 | 338 |
| | 安原　治 | 体のしくみと機能Ⅰ | 看 | 557 |
| | 安原　治 | 体のしくみと機能Ⅱ | 看 | 558 |
| | 安原　治・森　敏・平田　弘美 | 看護英語 | 看 | 558 |
| | 安原　治 | 健康科学Ⅰ | 看 | 564 |
| | 柳澤　淳一 | 電子社会と人間 | 全 | 153 |
| | 柳澤　淳一・奥村　進・宮城　茂幸・一宮　正義 | 科学技術英語(電子システム) | 電 | 319 |
| | 柳澤　淳一 | 電子デバイス | 電 | 354 |
| | 柳澤　淳一 | 半導体基礎 | 電 | 358 |
| | 柳澤　淳一 | 量子力学概論 | 電 | 370 |
| | 矢野　仁康・遠藤　弘史 | 栄養生理学実習 | 栄 | 428 |
| | 矢野　仁康 | 疾病と栄養 | 栄 | 462 |
| | 矢野　仁康 | 疾病の成り立ち | 栄 | 462 |
| | 矢野　仁康 | 生体の構造と機能 | 栄 | 479 |
| | 矢野　仁康・遠藤　弘史 | 病態生理学実習 | 栄 | 519 |
| | 矢野　仁康 | 病態評価と治療 | 栄 | 519 |
| | 山川　正信※ | 疫学 | 看 | 556 |
| | 山川　正信※ | 公衆衛生学(看護) | 看 | 565 |
| | 山口　弘※・三田村　緒佐武※ | 環境地球科学Ⅱ | 態 | 235 |
| | 山口　康雄※ | 教科教育法Ⅱ(地理歴史) | 教 | 647 |
| | 山﨑　惣治郎※ | 基礎数学Ⅰ | 環 | 240 |
| | 山﨑　惣治郎※ | 基礎数学Ⅱ | 環 | 241 |
| | 山崎　英恵※ | 嗜好と調理実習Ⅰ | 栄 | 457 |
| | 山下　義裕 | 複合材料 | 材 | 362 |
| | 山田　歩 | 消費者行動論 | デ | 469 |
| | 山田　歩 | 生活経営論 | デ栄関 | 475 |
| | 山田　歩 | マーケティングリサーチ演習 | デ | 528 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| や | 山田　歩 | マーケティング論 | デ関 | 528 |
| | 山田　逸成 | 光エレクトロニクス | 電 | 359 |
| | 山根　浩二 | 機械の再発見 | 全 | 147 |
| | 山根　浩二・高松　徹・栗田　裕 ほか | 機械システム工学概論 | 工 | 321 |
| | 山根　浩二 | 基礎力学(材料) | 材 | 330 |
| | 山根　浩二 | 熱力学Ⅰ | 機 | 357 |
| | 山根　浩二 | 熱力学Ⅱ | 機 | 357 |
| | 山野　光裕 | 機械要素 | 機 | 325 |
| | 山本　薫 | リーディング(中級)a | 全国 | 78 |
| | 山本　薫 | 英語表現法 | 全国 | 81 |
| | 山本　薫 | 英語表現法 | 全国 | 424 |
| | 山本　薫 | 英米文学概論 | 国 | 425 |
| | 山本　薫 | 欧米文化特論C | 国 | 430 |
| | 山本　薫 | 現代思想論 | 国 | 447 |
| | 山本　薫 | 実践英語演習C | 国 | 459 |
| | 山本　薫 | リーディング(中級)a | 全国 | 533 |
| | 山本　洋紀※ | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境a) | 環 | 120 |
| | 山本　洋紀※ | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境c) | 環 | 120 |
| | 山本　洋紀※ | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(材料) | 材 | 121 |
| | 山本　洋紀※ | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文d) | 人 | 123 |
| | 山本　洋紀※ | 情報科学概論(環境a) | 環 | 124 |
| | 山本　洋紀※ | 情報科学概論(環境c) | 環 | 125 |
| よ | 横井　和美 | 看護キャリアデザイン論 | 看 | 559 |
| | 横井　和美・中川　美和 | 成人クロニックケア演習 | 看 | 571 |
| | 横井　和美・中川　美和・伊藤　あゆみ・酒田　宴里 | 成人クロニックケア実習 | 看 | 572 |
| | 横井　和美・荒川　千登世・糸島　陽子 | 成人臨床看護学 | 看 | 572 |
| | 横田　祥子 | アジア文献講読C | 地 | 417 |
| | 横田　祥子 | 現代中国論 | 地 | 448 |
| | 横田　祥子 | 中国地域文化論 | 地 | 493 |
| | 横田　尚美 | 比較衣装論 | デ | 513 |
| | 横田　尚美 | 服飾心理学 | デ | 519 |
| | 横田　尚美 | 服飾文化論 | デ | 520 |
| | 横田　尚美 | 服飾デザイン演習Ⅱ | デ | 521 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠA(活性化コース)(環境⑥) | 環 | 27 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠB(活性化コース)(環境⑥) | 環 | 27 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠA(活性化コース)(工学④) | 工 | 30 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠB(活性化コース)(工学④) | 工 | 30 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠA(活性化コース)(人文③) | 人 | 32 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠB(活性化コース)(人文③) | 人 | 33 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠA(活性化コース)(再履修) | 再 | 36 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅠB(活性化コース)(再履修) | 再 | 36 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅣA(展開コース)(環境③) | 環 | 64 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅣB(展開コース)(環境③) | 環 | 64 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅣA(展開コース)(工学①) | 工 | 66 |
| | 吉田　亞矢 | 英語ⅣB(展開コース)(工学①) | 工 | 67 |
| | 吉田　亞矢 | 実用英語演習ⅠA①(火1限) | 全 | 110 |
| | 吉田　亞矢 | 実用英語演習ⅠA③(火2限) | 全 | 110 |
| | 吉田　亞矢 | 実用英語演習ⅠB②(火1限) | 全 | 114 |
| | 吉田　亞矢 | 実用英語演習ⅠB⑤(火2限) | 全 | 115 |
| | 吉田　智 | 材料強度物性 | 材 | 336 |
| | 吉田　智 | セラミックス材料 | 材 | 343 |
| | 芳田　哲也※ | 健康・体力科学Ⅰ(卓球) | 全 | 130 |
| | 芳田　哲也※ | 健康・体力科学Ⅱ(テニス) | 全 | 134 |
| | 吉村　淳一 | ドイツ語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 98 |
| | 吉村　淳一 | ドイツ語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 98 |
| | 吉村　淳一 | ドイツ語ⅠA(国際) | 国 | 107 |
| | 吉村　淳一 | ドイツ語 ⅡA(国際) | 国 | 108 |
| | 吉村　淳一 | 欧米文化特論A | 国 | 429 |
| | 吉村　淳一 | 欧米文化論A | 国 | 430 |

| | 担当教員 | 科目名 | 対象 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| よ | 吉村　淳一 | ドイツ語コミュニケーションⅠA | 国 | 499 |
| | 吉村　淳一 | ドイツ語コミュニケーションⅡA | 国 | 500 |
| | 吉村　淳一 | ドイツ語コミュニケーションⅡC | 国 | 501 |
| | 米田　照美・伊丹　君和・仲上　恵子 | 看護教育と実践 | 看 | 560 |
| | 米田　照美・森　敏・仲上　恵子 | 基礎看護技術Ⅳ | 看 | 563 |
| | 頼尊　恒信※ | 社会福祉概論 | 栄 | 465 |
| り | 林　虹※ | 中国語ⅠA(初級コース)(水4限) | 全 | 85 |
| | 林　虹※ | 中国語ⅠB(初級コース)(水4限) | 全 | 85 |
| | 林　虹※ | 中国語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 88 |
| | 林　虹※ | 中国語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 88 |
| | 林　虹※ | 中国語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 90 |
| | 林　虹※ | 中国語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 91 |
| | 林　虹※ | 中国語ⅡA(中級コース)(火3限) | 全 | 91 |
| | 林　虹※ | 中国語ⅡB(中級コース)(火3限) | 全 | 91 |
| わ | 若林　保良※ | 体のしくみと機能Ⅲ | 看 | 558 |
| | 渡邊　香織・古川　洋子 | 育成看護論 | 看 | 555 |
| | 渡邊　香織・牧野　耕次・糸島　陽子・小林　孝子 | 看護研究の基礎 | 看 | 560 |
| | 渡邊　香織 | 基礎助産学Ⅰ | 看 | 563 |
| | 渡邊　香織 | 基礎助産学Ⅱ | 看 | 563 |
| | 渡邊　香織・未定・古川　洋子 ほか | 助産学実習(2012年度以降) | 助 | 658 |
| | 渡邉　須美樹※ | 構造計画(生活デザイン) | デ | 453 |
| | 渡邉　須美樹※ | 構造力学Ⅰ(生活デザイン) | デ | 453 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| C | CAD演習Ⅰ | 建 | 高柳　英明・Jimenez Verdejo Juan Ramon | 213 |
| | CAD演習Ⅱ | 建 | Jimenez Verdejo Juan Ramon | 213 |
| | Contemporary Japanese Culture | 交 | Peter Morris | 142 |
| G | GIS演習 | 政 | 香川　雄一 | 213 |
| J | Japanese Culture and Civilization | 人 | 石田　法雄※・冨島　義幸※・Walter Klinger ほか | 413 |
| M | Medieval Japan | 全 | Peter Morris | 159 |
| | Medieval Japan in the World | 交 | Peter Morris | 141 |
| | Modernizing Japan | 全 | Peter Morris | 160 |
| | Modernizing Japan in the World | 交 | Peter Morris | 141 |
| あ | アカデミック・ライティング | 国 | Martin　Hawkes | 413 |
| | アカデミック・リスニング | 国 | Martin　Hawkes | 413 |
| | アジア建築史 | 建 | 川井　操 | 214 |
| | アジア交流論 | 地 | 阿部　健一※ | 414 |
| | アジア社会論 | 地 | 北村　由美※ | 414 |
| | アジア文化特論A | 国 | 地蔵堂　貞二 | 414 |
| | アジア文化特論B | 国 | 河　かおる | 415 |
| | アジア文化特論C | 国 | Borjigin Burensain | 415 |
| | アジア文化論A | 国 | 地蔵堂　貞二 | 415 |
| | アジア文化論B | 国 | 河　かおる | 416 |
| | アジア文化論C | 国 | 島村　一平 | 416 |
| | アジア文化論D | 国 | 棚瀬　慈郎 | 416 |
| | アジア文献講読A | 地 | 定森　秀夫 | 417 |
| | アジア文献講読B | 地 | 田中　俊明 | 417 |
| | アジア文献講読C | 地 | 横田　祥子 | 417 |
| | アルゴリズムとデータ構造 | 電 | 奥村　進 | 318 |
| い | 育成看護論 | 看 | 渡邊　香織・古川　洋子 | 555 |
| | 育成看護論演習Ⅰ | 看 | 古川　洋子・林　嘉彦※ | 555 |
| | 育成看護論演習Ⅱ | 看 | 未定・渡邊　友美子・本岡　夏子・藤島　和代 | 555 |
| | 育成看護論実習 | 看 | 未定・古川　洋子・渡邊　香織 ほか | 556 |
| | 一般構造 | デ | 佐々木　一泰 | 418 |
| | 遺伝学 | 態資 | 清水　顕史 | 214 |
| | 異文化交流史 | 国 | Borjigin Burensain | 418 |
| | 異文化理解A | 全 | 国際交流委員会 | 146 |
| | 異文化理解B | 全 | 国際交流委員会 | 146 |
| | イベント計画論・演習 | 政 | 近藤　隆二郎 | 214 |
| | 移民社会論A | 国 | 窪田　暁※ | 418 |
| | 移民社会論B | 国 | 石川　真作※ | 419 |
| | 移民社会論C | 国 | Borjigin Burensain・河　かおる・根川　幸男※ | 419 |
| | イメージ表現法 | 建 | 松岡　拓公雄・轟　慎一・高田　豊文・永井　拓生 | 215 |
| | イングリッシュレクチャーA | 国 | Martin　Hawkes | 419 |
| | イングリッシュレクチャーB | 国 | Martin　Hawkes | 420 |
| | イングリッシュレクチャーC | 国 | 小熊　猛 | 420 |
| | イングリッシュレクチャーD | 国 | John Rippey | 420 |
| | イングリッシュレクチャーE | 国 | Balachandran Jeyadevan | 421 |
| | イングリッシュレクチャーF | 国 | 井手　慎司 | 421 |
| | インターンシップA | キ | 就職指導担当教員 | 181 |
| | インターンシップB | キ | 就職指導担当教員 | 181 |
| | インテリア計画論 | デ | 宮本　雅子 | 421 |
| | インテリアコーディネート概説 | デ | 藤木　庸介 | 422 |
| う | 運動と健康 | 栄 | 中井　直也・東田　一彦 | 422 |
| え | 英語Ⅰ（国際a） | 国 | 小熊　猛・山本　薫 | 76 |
| | 英語Ⅰ（国際b） | 国 | 小熊　猛・山本　薫 | 76 |
| | 英語ⅠA（活性化コース）（環境①） | 環 | 佐久間　思帆※ | 24 |
| | 英語ⅠA（活性化コース）（環境②） | 環 | 谷口　真紀 | 24 |
| | 英語ⅠA（活性化コース）（環境③） | 環 | Karl Hedberg※ | 25 |
| | 英語ⅠA（活性化コース）（環境④） | 環 | 西澤　裕一※ | 26 |
| | 英語ⅠA（活性化コース）（環境⑤） | 環 | 北島　美咲※ | 26 |
| | 英語ⅠA（活性化コース）（環境⑥） | 環 | 吉田　亞矢 | 27 |
| | 英語ⅠA（活性化コース）（工学①） | 工 | 谷口　真紀 | 28 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| え | 英語ＩA(活性化コース)(工学②) | 工 | 西澤　裕一※ | 28 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(工学③) | 工 | 北島　美咲※ | 29 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(工学④) | 工 | 吉田　亞矢 | 30 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(工学⑤) | 工 | 佐久間　思帆※ | 30 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(人文①) | 人 | 佐久間　思帆※ | 31 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(人文②) | 人 | Karl Hedberg※ | 32 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(人文③) | 人 | 吉田　亞矢 | 32 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(人文④) | 人 | 西澤　裕一※ | 33 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(人文⑤) | 人 | 北島　美咲※ | 34 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(看護①) | 看 | 鈴木　里奈※ | 34 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(看護②) | 看 | 鈴木　里奈※ | 35 |
| | 英語ＩA(活性化コース)(再履修) | 再 | 吉田　亞矢 | 36 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(環境①) | 環 | 佐久間　思帆※ | 24 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(環境②) | 環 | 谷口　真紀 | 25 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(環境③) | 環 | Karl Hedberg※ | 25 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(環境④) | 環 | 西澤　裕一※ | 26 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(環境⑤) | 環 | 北島　美咲※ | 27 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(環境⑥) | 環 | 吉田　亞矢 | 27 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(工学①) | 工 | 谷口　真紀 | 28 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(工学②) | 工 | 西澤　裕一※ | 29 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(工学③) | 工 | 北島　美咲※ | 29 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(工学④) | 工 | 吉田　亞矢 | 30 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(工学⑤) | 工 | 佐久間　思帆※ | 31 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(人文①) | 人 | 佐久間　思帆※ | 31 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(人文②) | 人 | Karl Hedberg※ | 32 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(人文③) | 人 | 吉田　亞矢 | 33 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(人文④) | 人 | 西澤　裕一※ | 33 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(人文⑤) | 人 | 北島　美咲※ | 34 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(看護①) | 看 | 鈴木　里奈※ | 35 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(看護②) | 看 | 鈴木　里奈※ | 35 |
| | 英語ＩB(活性化コース)(再履修) | 再 | 吉田　亞矢 | 36 |
| | 英語Ⅱ(国際a) | 国 | Martin Stack・Karl Hedberg※ | 76 |
| | 英語Ⅱ(国際b) | 国 | Martin Stack・Karl Hedberg※ | 77 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(再履修) | 再 | 谷口　真紀 | 48 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(再履修) | 再 | 谷口　真紀 | 49 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(環境①) | 環 | Karl Braun※ | 36 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(環境②) | 環 | Ashley Mark Stevens※ | 37 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(環境③) | 環 | Martin Stack | 38 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(環境④) | 環 | Karl Braun※ | 38 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(環境⑤) | 環 | Alan Neill※ | 39 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(環境⑥) | 環 | Gordon Maclaren※ | 40 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(工学①) | 工 | Ashley Mark Stevens※ | 40 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(工学②) | 工 | Graham Jones※ | 41 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(工学③) | 工 | Gordon Maclaren※ | 42 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(工学④) | 工 | Martin Stack | 42 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(工学⑤) | 工 | Karl Braun※ | 43 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(人文①) | 人 | Karl Hedberg※ | 44 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(人文②) | 人 | Martin Stack | 44 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(人文③) | 人 | Ashley Mark Stevens※ | 45 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(人文④) | 人 | Karl Braun※ | 46 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(人文⑤) | 人 | Alan Neill※ | 46 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(看護①) | 看 | Ashley Mark Stevens※ | 47 |
| | 英語ⅡA(応用コース)(看護②) | 看 | Ashley Mark Stevens※ | 48 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(環境①) | 環 | Karl Braun※ | 37 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(環境②) | 環 | Ashley Mark Stevens※ | 37 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(環境③) | 環 | Martin Stack | 38 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(環境④) | 環 | Karl Braun※ | 39 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(環境⑤) | 環 | Alan Neill※ | 39 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(環境⑥) | 環 | Gordon Maclaren※ | 40 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| え | 英語ⅡB(応用コース)(工学①) | 工 | Ashley Mark Stevens※ | 41 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(工学②) | 工 | Graham Jones※ | 41 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(工学③) | 工 | Gordon Maclaren※ | 42 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(工学④) | 工 | Martin Stack | 43 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(工学⑤) | 工 | Karl Braun※ | 43 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(人文①) | 人 | Karl Hedberg※ | 44 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(人文②) | 人 | Martin Stack | 45 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(人文③) | 人 | Ashley Mark Stevens※ | 45 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(人文④) | 人 | Karl Braun※ | 46 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(人文⑤) | 人 | Alan Neill※ | 47 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(看護①) | 看 | Ashley Mark Stevens※ | 47 |
| | 英語ⅡB(応用コース)(看護②) | 看 | Ashley Mark Stevens※ | 48 |
| | 英語Ⅲ(国際a) | 国 | 外狩　章夫・清水　利宏 | 77 |
| | 英語Ⅲ(国際b) | 国 | 外狩　章夫・清水　利宏 | 77 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(環境①) | 環 | 市場　史哉※ | 49 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(環境②) | 環 | 西澤　裕一※ | 50 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(環境③) | 環 | 真田　満※ | 50 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(環境④) | 環 | Ashley Mark Stevens※ | 51 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(環境⑤) | 環 | 佐久間　思帆※ | 52 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(環境⑥) | 環 | 松浦　勉※ | 52 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(工学①) | 工 | 市場　史哉※ | 53 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(工学②) | 工 | 真田　満※ | 54 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(工学③) | 工 | 出原　健一※ | 54 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(工学④) | 工 | 佐久間　思帆※ | 55 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(工学⑤) | 工 | Ashley Mark Stevens※ | 56 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(人文①) | 人 | 真田　満※ | 56 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(人文②) | 人 | 西澤　裕一※ | 57 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(人文③) | 人 | 佐久間　思帆※ | 58 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(人文④) | 人 | 松浦　勉※ | 58 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(人文⑤) | 人 | Ashley Mark Stevens※ | 59 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(看護①) | 看 | 西澤　裕一※ | 60 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(看護②) | 看 | 出原　健一※ | 60 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(看護③) | 看 | 市場　史哉※ | 61 |
| | 英語ⅢA(充実コース)(再履修) | 再 | 坂元　敦子 | 62 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(環境①) | 環 | 市場　史哉※ | 49 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(環境②) | 環 | 西澤　裕一※ | 50 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(環境③) | 環 | 真田　満※ | 51 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(環境④) | 環 | Ashley Mark Stevens※ | 51 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(環境⑤) | 環 | 佐久間　思帆※ | 52 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(環境⑥) | 環 | 松浦　勉※ | 53 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(工学①) | 工 | 市場　史哉※ | 53 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(工学②) | 工 | 真田　満※ | 54 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(工学③) | 工 | 出原　健一※ | 55 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(工学④) | 工 | 佐久間　思帆※ | 55 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(工学⑤) | 工 | Ashley Mark Stevens※ | 56 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(人文①) | 人 | 真田　満※ | 57 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(人文②) | 人 | 西澤　裕一※ | 57 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(人文③) | 人 | 佐久間　思帆※ | 58 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(人文④) | 人 | 松浦　勉※ | 59 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(人文⑤) | 人 | Ashley Mark Stevens※ | 59 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(看護①) | 看 | 西澤　裕一※ | 60 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(看護②) | 看 | 出原　健一※ | 61 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(看護③) | 看 | 市場　史哉※ | 61 |
| | 英語ⅢB(充実コース)(再履修) | 再 | 坂元　敦子 | 62 |
| | 英語Ⅳ(国際a) | 国 | Walter Klinger・Martin Stack | 78 |
| | 英語Ⅳ(国際b) | 国 | Walter Klinger・Martin Stack | 78 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(環境①) | 環 | 谷口　真紀 | 62 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(環境②) | 環 | 坂元　敦子 | 63 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(環境③) | 環 | 吉田　亞矢 | 64 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| え | 英語ⅣA(展開コース)(環境④) | 環 | 坂元　敦子 | 64 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(環境⑤) | 環 | 清水　利宏 | 65 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(環境⑥) | 環 | 谷口　真紀 | 66 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(工学①) | 工 | 吉田　亞矢 | 66 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(工学②) | 工 | 清水　利宏 | 67 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(工学③) | 工 | 坂元　敦子 | 68 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(工学④) | 工 | 清水　利宏 | 68 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(工学⑤) | 工 | 坂元　敦子 | 69 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(人文①) | 人 | 谷口　真紀 | 70 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(人文②) | 人 | 清水　利宏 | 70 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(人文③) | 人 | 谷口　真紀 | 71 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(人文④) | 人 | 清水　利宏 | 72 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(人文⑤) | 人 | 坂元　敦子 | 72 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(看護①) | 看 | Martin Stack | 73 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(看護②) | 看 | Martin Stack | 74 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(看護③) | 看 | 松浦　勉※ | 74 |
| | 英語ⅣA(展開コース)(再履修) | 再 | 清水　利宏 | 75 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(環境①) | 環 | 谷口　真紀 | 63 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(環境②) | 環 | 坂元　敦子 | 63 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(環境③) | 環 | 吉田　亞矢 | 64 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(環境④) | 環 | 坂元　敦子 | 65 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(環境⑤) | 環 | 清水　利宏 | 65 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(環境⑥) | 環 | 谷口　真紀 | 66 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(工学①) | 工 | 吉田　亞矢 | 67 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(工学②) | 工 | 清水　利宏 | 67 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(工学③) | 工 | 坂元　敦子 | 68 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(工学④) | 工 | 清水　利宏 | 69 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(工学⑤) | 工 | 坂元　敦子 | 69 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(人文①) | 人 | 谷口　真紀 | 70 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(人文②) | 人 | 清水　利宏 | 71 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(人文③) | 人 | 谷口　真紀 | 71 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(人文④) | 人 | 清水　利宏 | 72 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(人文⑤) | 人 | 坂元　敦子 | 73 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(看護①) | 看 | Martin Stack | 73 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(看護②) | 看 | Martin Stack | 74 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(看護③) | 看 | 松浦　勉※ | 75 |
| | 英語ⅣB(展開コース)(再履修) | 再 | 清水　利宏 | 75 |
| | 英語音声学 | 国 | 外狩　章夫 | 422 |
| | 英語会話(中級)a | 全国 | Walter Klinger | 79 |
| | 英語会話(中級)a | 全国 | Walter Klinger | 423 |
| | 英語会話(中級)b | 全国 | Walter Klinger | 79 |
| | 英語会話(中級)b | 全国 | Walter Klinger | 423 |
| | 英語学概論 | 国 | 小熊　猛 | 423 |
| | 英語表現法 | 全国 | 山本　薫 | 81 |
| | 英語表現法 | 全国 | 山本　薫 | 424 |
| | 英語文献講読A | 国 | 棚瀬　慈郎 | 424 |
| | 英語文献講読B | 国 | 棚瀬　慈郎 | 424 |
| | 英書講読(地域文化) | 地 | 濱崎　一志・武田　俊輔・塚本　礼仁 ほか | 425 |
| | 英米文学概論 | 国 | 山本　薫 | 425 |
| | 英米文学講読 | 国 | 外狩　章夫 | 425 |
| | 栄養疫学論 | 栄 | 今井　絵里 | 426 |
| | 栄養教育実習・事前事後指導 | 教 | 小澤　惠子・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 653 |
| | 栄養教育論Ⅰ | 栄 | 廣瀬　潤子 | 426 |
| | 栄養教育論Ⅱ | 栄 | 廣瀬　潤子 | 426 |
| | 栄養教育論Ⅲ(カウンセリング論演習を含む) | 栄 | 廣瀬　潤子 | 427 |
| | 栄養教育論実習 | 栄 | 廣瀬　潤子 | 427 |
| | 栄養生化学 | 栄 | 柴田　克己 | 427 |
| | 栄養生化学実験 | 栄 | 柴田　克己・遠藤　弘史・森　紀之 | 428 |
| | 栄養生理学実習 | 栄 | 矢野　仁康・遠藤　弘史 | 428 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| え | 栄養と人間 | 全 | 柴田　克己 | 146 |
| | 栄養と健康 | 栄 | 福渡　努 | 428 |
| | 疫学 | 看 | 山川　正信※ | 556 |
| | エッセイ・ライティング | 全国 | Walter Klinger | 81 |
| | エッセイ・ライティング | 全国 | Walter Klinger | 429 |
| | エネルギー・界面科学 | 材 | 奥　健夫 | 318 |
| | エネルギー変換工学 | 機政 | 河﨑　澄 | 215 |
| | エネルギー変換工学 | 機政 | 河﨑　澄 | 318 |
| | エンドオブライフケア演習 | 看 | 糸島　陽子・伊藤　あゆみ | 556 |
| | エンドオブライフケア実習 | 看 | 糸島　陽子・中川　美和・伊藤　あゆみ・酒田　宴里 | 557 |
| お | 欧米文化特論A | 国 | 吉村　淳一 | 429 |
| | 欧米文化特論B | 国 | 橋本　周子 | 429 |
| | 欧米文化特論C | 国 | 山本　薫 | 430 |
| | 欧米文化特論D | 国 | John Rippey | 430 |
| | 欧米文化論A | 国 | 吉村　淳一 | 430 |
| | 欧米文化論B | 国 | 橋本　周子 | 431 |
| | 欧米文化論C | 国 | 外狩　章夫 | 431 |
| | 欧米文化論D | 国 | 真田　満※ | 431 |
| | 欧米文化論E | 国 | 中嶋　直樹※ | 432 |
| | 近江商人論 | 地 | 宇佐美　英機※ | 432 |
| | 近江の暮らしとなりわい | 全 | 上田　洋平 | 166 |
| | 近江の美 | 全 | 印南　比呂志 | 166 |
| | 近江の歴史と文化 | 全 | 京樂　真帆子 | 166 |
| | 応用栄養学Ⅰ | 栄 | 今井　絵里 | 432 |
| | 応用栄養学Ⅱ | 栄 | 今井　絵里 | 433 |
| | 応用栄養学実習 | 栄 | 今井　絵里 | 433 |
| | 応用数学 | 政 | 井手　慎司 | 215 |
| | 応用統計学Ⅰ | 政 | 松本　健一 | 216 |
| | 応用統計学Ⅱ | 政 | 村上　一真 | 216 |
| | 応用微生物学 | 資 | 入江　俊一 | 216 |
| か | 海外留学 | 国 | 学科教員 | 433 |
| | 害虫管理学 | 資 | 高倉　耕一 | 217 |
| | 開発人類学 | 国 | 小河　久志※ | 434 |
| | 海洋環境学 | 態 | 伴　修平 | 217 |
| | カウンセリング論演習（人間関係） | 関 | 松嶋　秀明 | 434 |
| | 科学技術英語（材料科学） | 材 | 徳満　勝久・松岡　純・奥　健夫 ほか | 319 |
| | 科学技術英語（機械システム） | 機 | 学科教員 | 319 |
| | 科学技術英語（電子システム） | 電 | 柳澤　淳一・奥村　進・宮城　茂幸・　一宮　正義 | 319 |
| | 化学工学 | 材 | 田門　肇※・牧　泰輔※ | 320 |
| | 化学熱力学 | 材 | 竹下　宏樹 | 320 |
| | 確率統計（機械・電子） | 機電 | 栗本　遼 | 320 |
| | 河川環境学 | 態資 | 倉茂　好匡 | 217 |
| | 家族看護学 | 看 | 大脇　万起子 | 557 |
| | 家畜生産環境学 | 資 | 松井　徹※ | 218 |
| | 家畜生産生理学 | 資 | 平山　琢二 | 218 |
| | 学校栄養指導論 | 教 | 成田　幸子※・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 654 |
| | 学校看護論 | 教 | 田中　祐子※ | 655 |
| | 学校保健論 | 教 | 田中　祐子※・伊丹　君和・橋本　進一※・冨田　豊※ | 655 |
| | 家庭電気・機械 | 教 | 廣谷　明※ | 641 |
| | 体のしくみと機能Ⅰ | 看 | 安原　治 | 557 |
| | 体のしくみと機能Ⅱ | 看 | 安原　治 | 558 |
| | 体のしくみと機能Ⅲ | 看 | 若林　保良※ | 558 |
| | 環境建築デザイン演習 | 建 | 学科教員 | 218 |
| | 環境・建築デザイン概論 | 建 | 学科教員 | 219 |
| | 環境アセスメント | 態政建資 | 錦澤　滋雄※・杉本　卓也※・柴田　裕希※ | 219 |
| | 環境会計 | 政資 | 東　健太郎※ | 219 |
| | 環境解析学・同実験 | 態資 | 永淵　修・丸尾　雅啓・尾坂　兼一 | 220 |
| | 環境化学Ⅰ | 態政資 | 丸尾　雅啓 | 220 |
| | 環境化学Ⅱ | 態資 | 岡田　豊※ | 220 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| か | 環境科学概論Ⅰ | 環 | 永淵　修・未定・浦部　美佐子 ほか | 221 |
| | 環境科学概論Ⅱ | 環 | 伊丹　清・未定・増田　佳昭 ほか | 221 |
| | 環境化学実験A | 態資 | 丸尾　雅啓・永淵　修・須戸　幹 ほか | 221 |
| | 環境化学実験B | 態資 | 丸尾　雅啓・永淵　修・須戸　幹 ほか | 222 |
| | 環境学原論 | 環 | 村上　修一 | 222 |
| | 環境学野外実習Ⅰ | 態 | 学科教員 | 222 |
| | 環境学野外実習Ⅱ | 態 | 学科教員 | 223 |
| | 環境学野外実習Ⅲ | 態 | 学科教員 | 223 |
| | 環境監査 | 態政建資 | 池北　實※ | 223 |
| | 環境技術 | 建資 | 宮崎　慎也※ | 224 |
| | 環境技術史 | 建 | 未定 | 224 |
| | 環境共生論 | 建 | 未定 | 224 |
| | 環境経営論 | 政資 | 高橋　卓也 | 225 |
| | 環境計画学 | 政建 | 近藤　隆二郎 | 225 |
| | 環境経済演習 | 政 | 林　宰司 | 225 |
| | 環境経済学 | 政資 | 林　宰司 | 226 |
| | 環境経済学入門 | 態政建資 | 高橋　卓也・林　宰司 | 226 |
| | 環境行動論 | 政建 | 迫田　正美 | 226 |
| | 環境財政 | 態政建資 | 村上　一真 | 227 |
| | 環境シミュレーション | 政資 | 井手　慎司 | 227 |
| | 環境社会学 | 政 | 小野　奈々 | 227 |
| | 環境情報演習 | 政 | 松本　健一 | 228 |
| | 環境職能論 | 建 | 松岡　拓公雄 | 228 |
| | 環境植物生理学 | 資 | 原田　英美子 | 228 |
| | 環境心理学 | 政 | 佐々木　和之※ | 229 |
| | 環境水文学 | 態政資 | 大久保　卓也 | 229 |
| | 環境数学Ⅰ・演習 | 態資 | 廣島　幸正※ | 229 |
| | 環境数学Ⅱ・演習 | 態資 | 廣島　幸正※ | 230 |
| | 環境政策学 | 態政建資 | 上河原　献二・未定 | 230 |
| | 環境生態学演習Ⅰ | 態 | 学科教員 | 230 |
| | 環境生態学演習Ⅱ | 態 | 学科教員 | 231 |
| | 環境生態学外書講読 | 態 | 学科教員 | 231 |
| | 環境生態学外書表現 | 態 | 学科教員 | 231 |
| | 環境生態学基礎演習 | 態 | 学科教員 | 232 |
| | 環境生態学特別実習 | 態 | 学科教員 | 232 |
| | 環境生物学Ⅰ | 態政資 | 浦部　美佐子 | 232 |
| | 環境生物学Ⅱ | 態資 | 浅岡　一雄※ | 233 |
| | 環境生物学実験A | 態資 | 西田　隆義・野間　直彦・泉　泰弘 ほか | 233 |
| | 環境生物学実験B | 態資 | 西田　隆義・野間　直彦・泉　泰弘 ほか | 233 |
| | 環境設計Ⅰ | 建 | Jimenez Verdejo Juan Ramon | 234 |
| | 環境設計Ⅱ | 建 | 未定 | 234 |
| | 環境設備 | 建 | 伊丹　清 | 234 |
| | 環境造形論 | 建 | 迫田　正美 | 235 |
| | 環境地球科学Ⅰ | 態政資 | 堂満　華子 | 235 |
| | 環境地球科学Ⅱ | 態 | 山口　弘※・三田村　緒佐武※ | 235 |
| | 環境地球科学実験(コンピュータ活用含む) | 態資 | 大久保　卓也・後藤　直成・堂満　華子 ほか | 236 |
| | 環境調和化学 | 材 | 廣川　能嗣 | 321 |
| | 環境統計解析学 | 態資 | 籠谷　泰行 | 236 |
| | 環境動物学 | 資 | 畠　佐代子※・中西　康介※ | 236 |
| | 環境フィールドワークⅠ | 環 | 学部教員 | 237 |
| | 環境フィールドワークⅡ | 環 | 学部教員 | 237 |
| | 環境フィールドワークⅢ | 環 | 学部教員 | 237 |
| | 環境物理学Ⅰ | 態政資 | 倉茂　好匡 | 238 |
| | 環境物理学Ⅱ | 態 | 村岡　良和※ | 238 |
| | 環境物理学実験(コンピュータ活用を含む) | 態資 | 岩間　憲治・堂満　華子・三浦　信広※ ほか | 238 |
| | 環境変遷史 | 態 | 堂満　華子 | 239 |
| | 環境法 | 態政資 | 上河原　献二・小林　泉※・小松　直樹※・三和　伸彦※ | 239 |
| | 環境マネジメント演習 | 政 | 高橋　卓也 | 239 |
| | 環境倫理学 | 政建 | 土屋　正春※ | 240 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| か | 環境論考解析学 | 態 | 西田　隆義 | 240 |
| | 看護英語 | 看 | 安原　治・森　敏・平田　弘美 | 558 |
| | 看護介入とアウトカム | 看 | 未定 | 559 |
| | 看護管理論 | 看 | 窪田　好恵・米田　照美 | 559 |
| | 看護キャリアデザイン論 | 看 | 横井　和美 | 559 |
| | 看護教育と実践 | 看 | 米田　照美・伊丹　君和・仲上　恵子 | 560 |
| | 看護研究の基礎 | 看 | 渡邊　香織・牧野　耕次・糸島　陽子・小林　孝子 | 560 |
| | 看護トピックス | 看 | 甘佐　京子 | 560 |
| | 看護理論(看護学部) | 看 | 窪田　好恵 | 561 |
| | 環琵琶湖文化論実習(地域文化) | 地 | 学科教員 | 434 |
| | 環琵琶湖文化論実習(生活デザイン) | デ | 学科教員 | 435 |
| | 環琵琶湖文化論実習(生活栄養) | 栄 | 学科教員 | 435 |
| | 環琵琶湖文化論実習(人間関係) | 関 | 学科教員 | 435 |
| | 環琵琶湖文化論実習(国際) | 国 | 学科教員 | 436 |
| | 漢文講読 | 地 | 田中　俊明 | 436 |
| | 管理栄養士総合演習 | 栄 | 学科教員 | 436 |
| き | 機械材料学 | 機 | 高松　徹・和泉　遊以 | 321 |
| | 機械システム工学概論 | 工 | 山根　浩二・高松　徹・栗田　裕 ほか | 321 |
| | 機械システム工学実験Ⅰ | 機 | 大浦　靖典・山根　浩二・和泉　遊以・栗本　遼 | 322 |
| | 機械システム工学実験Ⅱ | 機 | 河﨑　澄・安田　寿彦・安田　孝宏・西岡　靖貴 | 322 |
| | 機械システム工学セミナー | 機 | 高松　徹・安田　寿彦 | 322 |
| | 機械製作 | 機 | 中川　平三郎※ | 323 |
| | 機械製作実習 | 機 | 河﨑　澄 | 323 |
| | 機械設計演習Ⅰ | 機 | 南川　久人・安田　孝宏 | 323 |
| | 機械設計演習Ⅱ | 機 | 田邉　裕貴・和泉　遊以 | 324 |
| | 機械設計演習Ⅲ | 機 | 栗田　裕・大浦　靖典 | 324 |
| | 機械設計製図 | 機 | 高松　徹・山野　光裕 | 324 |
| | 機械の再発見 | 全 | 山根　浩二 | 147 |
| | 機械要素 | 機 | 山野　光裕 | 325 |
| | 機械四力学演習 | 機 | 学科教員 | 325 |
| | 機械力学Ⅰ | 機 | 栗田　裕 | 325 |
| | 機械力学Ⅱ | 機 | 栗田　裕・大浦　靖典 | 326 |
| | 機器分析Ⅰ | 材 | 徳満　勝久 | 326 |
| | 機器分析Ⅱ | 材 | 谷本　智史 | 326 |
| | 技術者倫理 | 工 | 廣川　能嗣・南川　久人・酒井　道 | 327 |
| | 基層文化論 | 地 | 中井　均 | 437 |
| | 基礎栄養学Ⅰ | 栄 | 柴田　克己 | 437 |
| | 基礎栄養学Ⅱ | 栄 | 柴田　克己 | 437 |
| | 基礎栄養学実験 | 栄 | 柴田　克己・遠藤　弘史・森　紀之 | 438 |
| | 基礎演習Ⅰ(国際コミュニケーション) | 国 | 学科教員 | 438 |
| | 基礎演習Ⅱ(国際コミュニケーション) | 国 | 学科教員 | 438 |
| | 基礎化学(材料) | 材 | 北村　千寿 | 327 |
| | 基礎化学(機械システム) | 機 | 松岡　純 | 327 |
| | 基礎化学(電子システム) | 電 | 奥　健夫 | 328 |
| | 基礎看護学実習Ⅰ | 看 | 窪田　好恵・伊丹　君和・米田　照美 ほか | 561 |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 看 | 伊丹　君和・窪田　好恵・米田　照美 ほか | 561 |
| | 基礎看護技術Ⅰ | 看 | 伊丹　君和・米田　照美・仲上　恵子 | 562 |
| | 基礎看護技術Ⅱ | 看 | 伊丹　君和・米田　照美・川端　愛野・仲上　恵子 | 562 |
| | 基礎看護技術Ⅲ | 看 | 伊丹　君和・仲上　恵子 | 562 |
| | 基礎看護技術Ⅳ | 看 | 米田　照美・森　敏・仲上　恵子 | 563 |
| | 基礎結晶学 | 材 | 宮村　弘 | 328 |
| | 基礎助産学Ⅰ | 看 | 渡邊　香織 | 563 |
| | 基礎助産学Ⅱ | 看 | 渡邊　香織 | 563 |
| | 基礎助産学Ⅲ | 助 | 未定 | 658 |
| | 基礎数学Ⅰ | 環 | 山﨑　惣治郎※ | 240 |
| | 基礎数学Ⅱ | 環 | 山﨑　惣治郎※ | 241 |
| | 基礎設計製図 | デ | 南　政宏・藤木　庸介 | 439 |
| | 基礎電気電子回路 | 工 | 岸根　桂路 | 328 |
| | 基礎電磁気学(材料科学) | 材 | 作田　健 | 329 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| き | 基礎電磁気学(機械システム) | 機 | 福岡　克弘 | 329 |
| | 基礎電磁気学(電子システム) | 電 | 乾　義尚 | 329 |
| | 基礎統計 | 政 | 金谷　健 | 241 |
| | 基礎熱力学 | 材 | 奥　健夫 | 330 |
| | 基礎服飾デザイン | デ | 森下　あおい・横田　尚美 | 439 |
| | 基礎力学(材料) | 材 | 山根　浩二 | 330 |
| | 基礎力学(機械システム) | 機 | 栗田　裕 | 330 |
| | 基礎力学(電子) | 電 | 河﨑　澄 | 331 |
| | キャリアデザイン論Ⅰ | キ | 菊地　憲次 | 181 |
| | キャリアデザイン論Ⅱ | キ | 菊地　憲次 | 182 |
| | 給食衛生管理実習 | 栄 | 小澤　惠子・廣瀬　潤子 | 439 |
| | 給食経営管理実習 | 栄 | 小澤　惠子 | 440 |
| | 給食経営管理臨地実習 | 栄 | 小澤　惠子 | 440 |
| | 給食経営管理論 | 栄 | 小澤　惠子 | 440 |
| | 教育学概論 | 関教 | 杉浦　由香里 | 441 |
| | 教育課程論 | 関教 | 木村　裕 | 441 |
| | 教育観察実習 | 関 | 木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 441 |
| | 教育実習・事前事後指導(中学校免許) | 教 | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 640 |
| | 教育実習・事前事後指導(高等学校免許) | 教 | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 640 |
| | 教育実習・事前事後指導(養護教諭) | 教 | 八木　利津子※・伊丹　君和・糸島　陽子・植村　小夜子 | 655 |
| | 教育心理学 | 関教 | 黒田　真由美※ | 442 |
| | 教育制度論 | 関教 | 杉浦　由香里 | 442 |
| | 教育相談・進路指導 | 教 | 田中　容子※・別府　悦子※ | 642 |
| | 教育方法論 | 関教 | 木村　裕 | 442 |
| | 教科教育法Ⅰ(英語) | 教 | 小栗　裕子 | 642 |
| | 教科教育法Ⅰ(家庭) | 教 | 大塚　眞理子※ | 642 |
| | 教科教育法Ⅰ(工業) | 教 | 廣谷　明※ | 643 |
| | 教科教育法Ⅰ(公民) | 教 | 木下　光弘※ | 643 |
| | 教科教育法Ⅰ(社会) | 教 | 奥村　好美※ | 643 |
| | 教科教育法Ⅰ(情報) | 教 | 神月　紀輔※ | 644 |
| | 教科教育法Ⅰ(地理歴史) | 教 | 鎌田　ユリ※ | 644 |
| | 教科教育法Ⅰ(農業) | 教 | 森　太郎※ | 644 |
| | 教科教育法Ⅰ(理科) | 教 | 石川　聡子※ | 645 |
| | 教科教育法Ⅱ(英語) | 教 | 小栗　裕子 | 645 |
| | 教科教育法Ⅱ(家庭) | 教 | 柴田　陽子※ | 645 |
| | 教科教育法Ⅱ(工業) | 教 | 廣谷　明※ | 646 |
| | 教科教育法Ⅱ(公民) | 教 | 木下　光弘※ | 646 |
| | 教科教育法Ⅱ(社会) | 教 | 小林　忠伸※ | 646 |
| | 教科教育法Ⅱ(情報) | 教 | 神月　紀輔※ | 647 |
| | 教科教育法Ⅱ(地理歴史) | 教 | 山口　康雄※ | 647 |
| | 教科教育法Ⅱ(農業) | 教 | 川﨑　四朗※ | 647 |
| | 教科教育法Ⅱ(理科) | 教 | 宮下　ゆたか※ | 648 |
| | 教科教育法Ⅲ(英語) | 教 | 小栗　裕子 | 648 |
| | 教科教育法Ⅲ(家庭) | 教 | 大塚　眞理子※ | 648 |
| | 教科教育法Ⅲ(社会) | 教 | 福井　雅英 | 649 |
| | 教科教育法Ⅲ(理科) | 教 | 宮下　ゆたか※ | 649 |
| | 教科教育法Ⅳ(英語) | 教 | 小栗　裕子 | 649 |
| | 教科教育法Ⅳ(家庭) | 教 | 大塚　眞理子※ | 650 |
| | 教科教育法Ⅳ(社会) | 教 | 福井　雅英 | 650 |
| | 教科教育法Ⅳ(理科) | 教 | 宮下　ゆたか※ | 650 |
| | 教職実践演習(中学校) | 教 | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 640 |
| | 教職実践演習(高等学校) | 教 | 福井　雅英・木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 641 |
| | 教職実践演習(養護教諭) | 教 | 八木　利津子※・伊丹　君和・糸島　陽子・植村　小夜子 | 656 |
| | 教職実践演習(栄養教諭) | 教 | 廣瀬　潤子・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 654 |
| | 教職論 | 教 | 福井　雅英 | 641 |
| | 魚類学 | 資 | 杉浦　省三 | 241 |
| | 近世近江論 | 地 | 東　幸代 | 443 |
| | 金属加工学 | 機 | 未定 | 331 |
| | 金属材料 | 材 | Balachandran Jeyadevan | 331 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| く | 近代デザイン史 | デ | 面矢　慎介 | 443 |
| | 空間デザイン論 | デ | 佐々木　一泰 | 443 |
| | 空間論 | 全 | 水原　渉※ | 147 |
| | クリティカルケア実践演習 | 看 | 荒川　千登世・酒田　宴里 | 564 |
| け | 景観計画 | 政建資 | 村上　修一 | 242 |
| | 経済学Ⅰ | 政資 | 林　宰司 | 242 |
| | 経済学Ⅱ(国際経済を含む) | 政資国 | 村上　一真 | 242 |
| | 芸術学 | 地 | 亀井　若菜 | 444 |
| | 形成論演習 | 関 | 木村　裕・杉浦　由香里・未定 | 444 |
| | 計測工学 | 機 | 和泉　遊以 | 332 |
| | 研究演習Ⅰ(国際コミュニケーション) | 国 | 学科教員 | 444 |
| | 研究演習Ⅱ(国際コミュニケーション) | 国 | 学科教員 | 445 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(運動処方) | 全 | 中井　直也　・　東田　一彦 | 129 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(サッカー) | 全 | 中村　力※ | 129 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(スキー・スノーボード) | 全 | 中井　直也　・　東田　一彦 | 130 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(卓球) | 全 | 芳田　哲也※ | 130 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(テニス) | 全 | 多胡　陽介※ | 130 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(ニュースポーツ) | 全 | 中井　直也　・　東田　一彦 | 131 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(バスケット) | 全 | 岩瀬　雅紀※ | 131 |
| | 健康・体力科学Ⅰ(バドミントン) | 全 | 岩瀬　雅紀※ | 131 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(ゴルフ) | 全 | 中井　直也　・　東田　一彦 | 132 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(ソフトボール) | 全 | 岩瀬　雅紀※ | 132 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(バドミントン) | 全 | 多胡　陽介※ | 132 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(バレーボール) | 全 | 多胡　陽介※ | 133 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(運動処方) | 全 | 中井　直也　・　東田　一彦 | 133 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(海洋スポーツ) | 全 | 中井　直也　・　東田　一彦 | 133 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(卓球) | 全 | 中村　力※ | 134 |
| | 健康・体力科学Ⅱ(テニス) | 全 | 芳田　哲也※ | 134 |
| | 健康科学Ⅰ | 看 | 安原　治 | 564 |
| | 健康科学Ⅱ | 看 | 北川　善紀※ | 564 |
| | 健康教育方法演習 | 保 | 小林　孝子・馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 660 |
| | 健康教育論 | 看 | 小林　孝子・小島　亜未 | 565 |
| | 健康情報管理実習 | 栄 | 亀田　彰喜※ | 445 |
| | 健康心理学 | 栄 | 粟谷　初子※ | 445 |
| | 言語学概論 | 国 | 小熊　猛 | 446 |
| | 言語接触論 | 国 | 呉　凌非 | 446 |
| | 現代英文法 | 国 | 小熊　猛 | 446 |
| | 現代経済論 | 全 | 鈴木　康夫※ | 147 |
| | 現代産業デザイン論 | デ | 森岡　誠※ | 447 |
| | 現代思想論 | 国 | 山本　薫 | 447 |
| | 現代ジャーナリズム論 | 地関 | 関根　英爾※ | 447 |
| | 現代社会福祉論 | 関 | 中村　好孝 | 448 |
| | 現代社会論(人間文化) | 地関国 | 丸山　真央 | 448 |
| | 現代中国論 | 地 | 横田　祥子 | 448 |
| | 建築一般構造 | 建 | 黒川　直樹※ | 243 |
| | 建築環境工学 | 建 | 伊丹　清 | 243 |
| | 建築環境工学演習 | 建 | 伊丹　清 | 243 |
| | 建築計画論 | デ | 藤木　庸介 | 449 |
| | 建築数学・物理 | 建 | 伊丹　清・高田　豊文 | 244 |
| | 建築生産施工 | 建 | 岩下　智※ | 244 |
| | 建築法規 | 建デ | 戸川　勝紀※ | 244 |
| | 建築法規 | 建デ | 戸川　勝紀※ | 449 |
| | 現場心理学 | 関 | 松嶋　秀明 | 449 |
| | 憲法 | 全 | 橋本　豪志※ | 148 |
| こ | 合意形成支援技法・演習 | 政 | 金谷　健 | 245 |
| | 工業数学 | 工 | 酒井　道 | 332 |
| | 工業力学 | 機 | 栗田　裕 | 332 |
| | 考現学概論 | デ | 面矢　慎介 | 450 |
| | 考古学 | 地 | 中井　均 | 450 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| こ | 考古学実習Ⅰ | 地 | 定森　秀夫・中井　均 | 450 |
| | 考古学実習Ⅱ | 地 | 定森　秀夫・中井　均 | 451 |
| | 考古学特論A | 地 | 中井　均 | 451 |
| | 考古学特論B | 地 | 定森　秀夫 | 451 |
| | 公衆衛生学 | 栄 | 草野　文嗣※ | 452 |
| | 公衆衛生学(看護) | 看 | 山川　正信※ | 565 |
| | 公衆衛生看護学Ⅰ | 看 | 馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 565 |
| | 公衆衛生看護学Ⅱ | 看 | 小林　孝子・西内　恭子※・馬場　文 | 566 |
| | 公衆衛生看護学Ⅲ | 保 | 馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 661 |
| | 公衆衛生看護学演習 | 保 | 馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 661 |
| | 公衆衛生看護学概論 | 看 | 小林　孝子 | 566 |
| | 公衆衛生看護学実習 | 保 | 小林　孝子・馬場　文・小島　亜未・川口　恭子 | 661 |
| | 公衆衛生看護管理論 | 保 | 小林　孝子 | 662 |
| | 公衆栄養学 | 栄 | 今井　絵里 | 452 |
| | 公衆栄養学実習 | 栄 | 今井　絵里 | 452 |
| | 構造計画(環境建築デザイン) | 建 | 陶器　浩一・松村　和夫※ | 245 |
| | 構造計画(生活デザイン) | デ | 渡邉　須美樹※ | 453 |
| | 構造材料実験 | 建 | 陶器　浩一・伊藤　淳志※・高田　豊文・永井　拓生 | 245 |
| | 構造力学Ⅰ(環境建築デザイン) | 建資 | 陶器　浩一・永井　拓生 | 246 |
| | 構造力学Ⅰ(生活デザイン) | デ | 渡邉　須美樹※ | 453 |
| | 構造力学Ⅱ | 建 | 高田　豊文 | 246 |
| | 行動論演習 | 関 | 竹下　秀子・松嶋　秀明・細馬　宏通・上野　有理 | 453 |
| | 高分子合成 | 材 | 谷本　智史 | 333 |
| | 高分子物性 | 材 | 徳満　勝久 | 333 |
| | 高齢者行動論 | 関 | 中原　純※ | 454 |
| | 国際環境資源論 | 政資 | 高橋　卓也・林　宰司 | 246 |
| | 国際環境マネジメントⅠ | 全 | 丸尾　雅啓・原田　英美子・高橋　卓也 | 148 |
| | 国際環境マネジメントⅡ | 全 | 丸尾　雅啓・原田　英美子・高橋　卓也 | 148 |
| | 国際関係論 | 国 | 菅瀬　晶子※ | 454 |
| | 国際看護学 | 看 | 近藤　麻理※・森　恵※ | 566 |
| | 国際協力論 | 全 | 島村　一平 | 149 |
| | 国際コミュニケーション論 | 国 | 小熊　猛・棚瀬　慈郎・呉　凌非 ほか | 454 |
| | こころのテクノロジー | 全 | 細馬　宏通 | 149 |
| | 湖沼環境学 | 態資 | 後藤　直成 | 247 |
| | 固体物性基礎 | 材 | 奥　健夫 | 333 |
| | コミュニケーション論 | 関 | 細馬　宏通 | 455 |
| | 古文書演習Ⅰ | 地 | 水野　章二 | 455 |
| | 古文書演習Ⅱ | 地 | 東　幸代 | 455 |
| | コンピュータアーキテクチャ | 電 | 酒井　道 | 334 |
| | コンピュータソフトウェア | 電 | 畑中　裕司 | 334 |
| | コンピュータハードウェア | 電 | 酒井　道 | 334 |
| さ | 災害看護学 | 看 | 伊冨貴　初美※・藤本　理恵※ | 567 |
| | 在宅看護学演習 | 看 | 植村　小夜子・未定 | 567 |
| | 在宅看護学概論 | 看 | 植村　小夜子 | 567 |
| | 在宅看護援助論 | 看 | 植村　小夜子 | 568 |
| | 在宅看護学実習 | 看 | 植村　小夜子・小島　亜未・川口　恭子 | 568 |
| | 栽培植物各論A | 資 | 上町　達也 | 247 |
| | 栽培植物各論B | 資 | 泉　泰弘 | 247 |
| | 材料開発工学 | 材 | Balachandran Jeyadevan・鳥羽　隆一※・白鳥　寿一※ ほか | 335 |
| | 材料科学概論 | 工 | 奥　健夫・廣川　能嗣 | 335 |
| | 材料科学実験Ⅰ | 材 | 宮村　弘・谷本　智史・井上　吉教　ほか | 335 |
| | 材料科学実験Ⅱ | 材 | 宮村　弘・谷本　智史・井上　吉教　ほか | 336 |
| | 材料強度物性 | 材 | 吉田　智 | 336 |
| | 材料計算化学および同演習 | 材 | 井上　吉教・山田　明寛・鈴木　厚志 | 336 |
| | 材料史 | 全 | Balachandran Jeyadevan・北村　千寿 | 149 |
| | 材料組織学 | 材 | 宮村　弘 | 337 |
| | 材料力学 | 材 | 田邉　裕貴 | 337 |
| | 材料力学Ⅰ(機械システム) | 機 | 高松　徹 | 337 |
| | 材料力学Ⅱ | 機 | 高松　徹 | 338 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| さ | 材料量子論 | 材 | 松岡　純 | 338 |
| | 作物保護学 | 資 | 鈴木　一実 | 248 |
| | サスティナブルデザイン論 | 政建 | 芦澤　竜一 | 248 |
| | サステナブルデザイン論 | デ | 南　政宏 | 456 |
| | サブカルチャー交流論 | 国 | 神本　秀爾※ | 456 |
| | 差別と人権(同和問題) | 全 | 大脇　万起子・山田　稔※・裵　敬隆※ | 150 |
| | 産業技術マネジメント | 工 | 安田　昌司 | 338 |
| | 産業心理学 | 関 | 滑田　明暢※ | 456 |
| し | 滋賀の自然史 | 全 | 未定 | 167 |
| | 色彩学 | デ | 宮本　雅子 | 457 |
| | 色彩学演習 | デ | 宮本　雅子 | 457 |
| | 資源経済学 | 政資 | 高橋　卓也 | 248 |
| | 嗜好と調理実習Ⅰ | 栄 | 山崎　英恵※ | 457 |
| | 嗜好と調理実習Ⅱ | 栄 | 小澤　惠子・廣瀬　潤子 | 458 |
| | 思索の視点 | 全 | 菊地　憲次 | 150 |
| | 時事英語 | 全国 | 外狩　章夫 | 82 |
| | 時事英語 | 全国 | 外狩　章夫 | 458 |
| | システム工学 | 機 | 西岡　靖貴 | 339 |
| | システム思考法 | 副 | 萩原　和 | 173 |
| | 自然現象のしくみ | 全 | 倉茂　好匡 | 150 |
| | 自然地理学 | 地 | 宮本　真二※ | 458 |
| | 自然保護論 | 全 | 西田　隆義 | 151 |
| | 持続的農業論 | 全 | 泉　泰弘 | 151 |
| | 実践英語演習A | 国 | 小熊　猛 | 459 |
| | 実践英語演習B | 国 | 小栗　裕子 | 459 |
| | 実践英語演習C | 国 | 山本　薫 | 459 |
| | 実践英語演習D | 国 | 外狩　章夫 | 460 |
| | 実践英語演習E | 国 | Martin　Hawkes | 460 |
| | 実践英語演習F | 国 | John Rippey | 460 |
| | 実践英語演習G | 国 | 小熊　猛 | 461 |
| | 実践英語対策講座 | 国 | John Rippey | 461 |
| | 質的データ解析論 | 地関 | 武田　俊輔 | 461 |
| | 疾病と栄養 | 栄 | 矢野　仁康 | 462 |
| | 疾病の成り立ち | 栄 | 矢野　仁康 | 462 |
| | 疾病論Ⅰ(2単位) | 看 | 森　敏 | 568 |
| | 疾病論Ⅱ(2単位) | 看 | 森　敏 | 569 |
| | 実用英語演習ⅠA①(火1限) | 全 | 吉田　亞矢 | 110 |
| | 実用英語演習ⅠA②(火1限) | 全 | 清水　利宏 | 110 |
| | 実用英語演習ⅠA③(火2限) | 全 | 吉田　亞矢 | 110 |
| | 実用英語演習ⅠA④(火2限) | 全 | 坂元　敦子 | 111 |
| | 実用英語演習ⅠA⑤(火2限) | 全 | 清水　利宏 | 111 |
| | 実用英語演習ⅠA⑥(火2限) | 全 | Walter Klinger | 111 |
| | 実用英語演習ⅠA⑦(火3限) | 全 | Graham Jones※ | 112 |
| | 実用英語演習ⅠA⑧(火3限) | 全 | 坂元　敦子 | 112 |
| | 実用英語演習ⅠA⑨(火3限) | 全 | Martin Stack | 112 |
| | 実用英語演習ⅠA⑩(火3限) | 全 | 谷口　真紀 | 113 |
| | 実用英語演習ⅠA⑪(火3限) | 全 | Walter Klinger | 113 |
| | 実用英語演習ⅠB①(火1限) | 全 | 清水　利宏 | 113 |
| | 実用英語演習ⅠB②(火1限) | 全 | 吉田　亞矢 | 114 |
| | 実用英語演習ⅠB③(火2限) | 全 | 清水　利宏 | 114 |
| | 実用英語演習ⅠB④(火2限) | 全 | Walter Klinger | 114 |
| | 実用英語演習ⅠB⑤(火2限) | 全 | 吉田　亞矢 | 115 |
| | 実用英語演習ⅠB⑥(火2限) | 全 | 坂元　敦子 | 115 |
| | 実用英語演習ⅠB⑦(火3限) | 全 | Martin Stack | 115 |
| | 実用英語演習ⅠB⑧(火3限) | 全 | 谷口　真紀 | 116 |
| | 実用英語演習ⅠB⑨(火3限) | 全 | Walter Klinger | 116 |
| | 実用英語演習ⅠB⑩(火3限) | 全 | Graham Jones※ | 116 |
| | 実用英語演習ⅠB⑪(火3限) | 全 | 坂元　敦子 | 117 |
| | 市民参加論 | 政 | 小野　奈々 | 249 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| し | 社会・経済政策論 | 関 | 木下　ちがや※ | 462 |
| | 社会学 | 政資 | 小野　奈々 | 249 |
| | 社会学演習 | 関 | 大橋　松行・丸山　真央・中村　好孝 | 463 |
| | 社会学概論 | 地関 | 武田　俊輔・大橋　松行・細馬　宏通 ほか | 463 |
| | 社会学史 | 地関 | 中村　好孝 | 463 |
| | 社会システム分析設計・演習 | 政 | 未定 | 249 |
| | 社会心理学(人間関係) | 関 | 柿本　敏克※ | 464 |
| | 社会精神医学 | 関 | 久保田　泰考※・清水　光恵※ | 464 |
| | 社会調査実習(環境政策) | 政 | 小野　奈々・未定・村上　一真・平山　奈央子 | 250 |
| | 社会調査実習(地域文化、人間関係) | 地関 | 武田　俊輔・中村　好孝 | 464 |
| | 社会調査方法論 | 地デ関 | 大橋　松行 | 465 |
| | 社会調査論 | 地デ関 | 大橋　松行 | 465 |
| | 社会福祉概論 | 栄 | 頼尊　恒信※ | 465 |
| | 社会変動論 | 地関 | 丸山　真央 | 466 |
| | 社会問題の社会学 | 関 | 中村　好孝 | 466 |
| | 住環境設計演習Ⅰ | デ | 佐々木　一泰・藤木　庸介 | 466 |
| | 住環境設計演習Ⅱ | デ | 宮本　雅子・藤木　庸介 | 467 |
| | 住環境設計演習Ⅲ | デ | 佐々木　一泰・松本　尚子※・山本　麻子※ | 467 |
| | 住環境論 | デ | 宮本　雅子 | 467 |
| | 集水域環境影響調査指針 | 態 | 肥田　嘉文 | 250 |
| | 集水域環境学 | 態 | 尾坂　兼一 | 250 |
| | 集水域環境学・同実験 | 態 | 浦部　美佐子・肥田　嘉文・堂満　華子 ほか | 251 |
| | 集水域環境機能論 | 態資 | 永淵　修 | 251 |
| | 集水域生態系保全修復論 | 態資 | 浦部　美佐子 | 251 |
| | 集水域物質循環論 | 態資 | 尾坂　兼一 | 252 |
| | 集積回路設計基礎 | 電 | 岸根　桂路 | 339 |
| | 生涯学習論 | 関 | 未定 | 468 |
| | 小児看護学概論 | 看 | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 569 |
| | 小児臨床看護学 | 看 | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 569 |
| | 小児臨床看護学演習 | 看 | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 570 |
| | 小児臨床看護学実習 | 看 | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 570 |
| | 消費科学Ⅰ | デ | 向山　泰司※・小林　重信※・永野　暁※・藤本　昌則※ | 468 |
| | 消費科学Ⅱ | デ | 松尾　繁※・向山　泰司※・藤本　昌則※ | 468 |
| | 消費者行動論 | デ | 山田　歩 | 469 |
| | 消費生活論 | デ栄関 | 青谷　実知代※ | 469 |
| | 情報科学概論(環境a) | 環 | 山本　洋紀※ | 124 |
| | 情報科学概論(環境b) | 環 | 亀田　彰喜※ | 124 |
| | 情報科学概論(環境c) | 環 | 山本　洋紀※ | 125 |
| | 情報科学概論(環境d) | 環 | 亀田　彰喜※ | 125 |
| | 情報科学概論(材料) | 材 | 葛城　大介※ | 125 |
| | 情報科学概論(機械) | 機 | 西門　秀人※ | 126 |
| | 情報科学概論(電子) | 電 | 宮城　茂幸 | 126 |
| | 情報科学概論(人文a) | 人 | 森　将豪※ | 126 |
| | 情報科学概論(人文b) | 人 | 亀田　彰喜※ | 127 |
| | 情報科学概論(人文c) | 人 | 森　将豪※ | 127 |
| | 情報科学概論(人文d) | 人 | 亀田　彰喜※ | 127 |
| | 情報科学概論(看護a) | 看 | 中川　雅央※ | 128 |
| | 情報科学概論(看護b) | 看 | 中川　雅央※ | 128 |
| | 情報処理基礎 | 機電 | 奥村　進 | 339 |
| | 情報通信工学 | 電 | 岸根　桂路 | 340 |
| | 情報と職業 | 教 | 亀田　彰喜※ | 651 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境a) | 環 | 山本　洋紀※ | 120 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境b) | 環 | 亀田　彰喜※ | 120 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境c) | 環 | 山本　洋紀※ | 120 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境d) | 環 | 亀田　彰喜※ | 121 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(材料) | 材 | 山本　洋紀※ | 121 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(機械) | 機 | 西門　秀人※ | 121 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(電子) | 電 | 宮城　茂幸 | 122 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文a) | 人 | 森　将豪※ | 122 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| し | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文b) | 人 | 亀田　彰喜※ | 122 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文c) | 人 | 森　将豪※ | 123 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文d) | 人 | 山本　洋紀※ | 123 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(看護a) | 看 | 中川　雅央※ | 123 |
| | 情報リテラシー(情報倫理を含む)(看護b) | 看 | 中川　雅央※ | 124 |
| | 職業指導 | 教 | 中島　由佳※ | 651 |
| | 食生活教育論 | 教 | 成田　幸子※・山川　佐代子※・平木　敦子※ | 654 |
| | 食品衛生学 | 栄 | 福渡　努 | 469 |
| | 食品衛生学実験 | 栄 | 福渡　努・森　紀之 | 470 |
| | 食品学総論 | 栄 | 福渡　努 | 470 |
| | 食品加工実習 | 栄 | 村上　健太郎・森　紀之 | 470 |
| | 食品基礎実験 | 栄 | 村上　健太郎 | 471 |
| | 食品機能科学 | 栄 | 福渡　努 | 471 |
| | 食品機能科学実験 | 栄 | 福渡　努・佐野　光枝 | 471 |
| | 食品の調理と加工 | 栄 | 小川　正※・森　紀之 | 472 |
| | 食品微生物学 | 栄 | 竹原　宗範・浦部　貴美子※ | 472 |
| | 植物遺伝資源学 | 資 | 清水　顕史 | 252 |
| | 植物栄養学 | 資 | 畑　直樹 | 252 |
| | 植物資源開発学 | 資 | 原田　英美子 | 253 |
| | 植物資源管理学 | 資 | 泉　泰弘 | 253 |
| | 植物生産学 | 資 | 上町　達也 | 253 |
| | 植物の病気 | 全 | 鈴木　一実 | 151 |
| | 植物病害防除論 | 資 | 鈴木　一実 | 254 |
| | 食料経済システム論 | 資栄 | 増田　佳昭 | 254 |
| | 食料経済システム論 | 資栄 | 増田　佳昭 | 472 |
| | 助産学実習(2012年度以降) | 助 | 渡邊　香織・未定・古川　洋子 ほか | 658 |
| | 助産管理 | 助 | 古川　洋子 | 659 |
| | 助産診断・技術学Ⅰ(2012年度以降) | 助 | 古川　洋子 | 659 |
| | 助産診断・技術学Ⅱ(2012年度以降) | 助 | 古川　洋子・渡邊　香織 | 659 |
| | 助産診断・技術学Ⅲ | 助 | 未定 | 660 |
| | 助産診断・技術学演習(2012年度以降) | 助 | 古川　洋子・渡邊　香織・渡邊　友美子 ほか | 660 |
| | 初習英語ⅠA | 留 | Walter Klinger | 84 |
| | 初習英語ⅠB | 留 | Walter Klinger | 84 |
| | 初習英語ⅡA | 留 | Martin Stack | 84 |
| | 初習英語ⅡB | 留 | Martin Stack | 85 |
| | 人文地理学A | 地 | 塚本　礼仁 | 473 |
| | 人文地理学B | 地 | 塚本　礼仁 | 473 |
| | 心理・発達・行動学実験演習 | 関 | 竹下　秀子・松嶋　秀明・細馬　宏通・上野　有理 | 473 |
| | 心理学基礎 | デ栄関 | 竹下　秀子 | 474 |
| | 森林環境学 | 態政資 | 野間　直彦 | 254 |
| す | 水域環境影響調査指針 | 態資 | 細井　祥子 | 255 |
| | 水域環境学・同実験 | 態 | 伴　修平・浦部　美佐子・後藤　直成・細井　祥子 | 255 |
| | 水域環境機能論 | 態 | 丸尾　雅啓 | 255 |
| | 水域生態系保全修復論 | 態 | 後藤　直成 | 256 |
| | 水域物質循環論 | 態 | 細井　祥子 | 256 |
| | 水産資源学 | 資 | 杉浦　省三 | 256 |
| | 水質管理学 | 資 | 須戸　幹 | 257 |
| | 水理学 | 資 | 大久保　卓也 | 257 |
| | 水利環境施設学 | 資 | 田中　勉※ | 257 |
| | 数値解析 | 機 | 安田　孝宏 | 340 |
| | 数値解析・数値計算 | 電 | 未定 | 340 |
| | スポーツ栄養学 | 栄 | 中井　直也・東田　一彦 | 474 |
| せ | 生化学Ⅰ | 材 | 竹原　宗範 | 341 |
| | 生化学Ⅱ | 材 | 竹原　宗範 | 341 |
| | 生活栄養論演習Ⅰ | 栄 | 学科教員 | 474 |
| | 生活栄養論演習Ⅱ | 栄 | 学科教員 | 475 |
| | 生活経営論 | デ栄関 | 山田　歩 | 475 |
| | 生活造形基礎演習 | デ | 南　政宏・麻谷　宏※ | 475 |
| | 生活素材論 | デ | 三宅　肇※ | 476 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| せ | 生活デザイン学外演習 | デ | 学科教員 | 476 |
| | 生活デザイン論 | デ | 学科教員 | 476 |
| | 生活デザイン論演習Ⅰ | デ | 学科教員 | 477 |
| | 生活デザイン論演習Ⅱ(3単位) | デ | 学科教員 | 477 |
| | 生活と教育 | 関 | 未定 | 477 |
| | 生活と健康 | 全 | 大脇　万起子 | 152 |
| | 生活法 | 関 | 未定 | 478 |
| | 制御工学 | 電 | 稲葉　博美 | 341 |
| | 制御工学Ⅰ | 機 | 安田　寿彦 | 342 |
| | 制御工学Ⅱ | 機 | 安田　寿彦 | 342 |
| | 政策計画演習Ⅰ | 政 | 学科教員 | 258 |
| | 政策計画演習Ⅱ | 政 | 学科教員 | 258 |
| | 政策計画演習Ⅲ | 政 | 学科教員 | 258 |
| | 政策計画演習Ⅳ | 政 | 学科教員 | 259 |
| | 政策計画基礎演習Ⅰ | 政 | 学科教員 | 259 |
| | 政策計画基礎演習Ⅱ | 政 | 学科教員 | 259 |
| | 政策形成・施設演習 | 政 | 学科教員 | 260 |
| | 生産工学 | 機 | 奥村　進 | 342 |
| | 政治学Ⅰ | 政関 | 竹本　知行※ | 260 |
| | 政治学Ⅰ | 政関 | 竹本　知行※ | 478 |
| | 政治学Ⅱ(国際政治を含む) | 政関 | 竹本　知行※ | 260 |
| | 政治学Ⅱ(国際政治を含む) | 政関 | 竹本　知行※ | 478 |
| | 政治経済学 | 関国 | 田中　英明※ | 479 |
| | 成人看護学概論 | 看 | 糸島　陽子 | 570 |
| | 成人クリティカルケア演習 | 看 | 荒川　千登世・酒田　宴里 | 571 |
| | 成人クリティカルケア実習 | 看 | 荒川　千登世・中川　美和・伊藤　あゆみ・酒田　宴里 | 571 |
| | 成人クロニックケア演習 | 看 | 横井　和美・中川　美和 | 571 |
| | 成人クロニックケア実習 | 看 | 横井　和美・中川　美和・伊藤　あゆみ・酒田　宴里 | 572 |
| | 精神臨床看護学 | 看 | 甘佐　京子・未定・牧野　耕次 | 572 |
| | 成人臨床看護学 | 看 | 横井　和美・荒川　千登世・糸島　陽子 | 572 |
| | 精神臨床看護学演習 | 看 | 牧野　耕次・未定・甘佐　京子 | 573 |
| | 精神臨床看護学実習 | 看 | 牧野　耕次・未定・甘佐　京子 | 573 |
| | 生体の構造と機能 | 栄 | 矢野　仁康 | 479 |
| | 生徒指導論 | 教 | 福井　雅英 | 651 |
| | 生物資源管理学演習Ⅰ | 資 | 学科教員 | 261 |
| | 生物資源管理学演習Ⅱ | 資 | 学科教員 | 261 |
| | 生物資源管理学概論 | 資 | 学科教員 | 261 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅰ | 資 | 泉　泰弘・畑　直樹・上町　達也・原田　英美子 | 262 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅹ | 資 | 大久保　卓也・岩間　憲治 | 262 |
| | 生物資源管理学実験・実習ⅩⅠ | 資 | 増田　佳昭・増田　清敬 | 262 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅱ | 資 | 上町　達也・清水　顕史・原田　英美子 | 263 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅲ | 資 | 杉浦　省三・平山　琢二 | 263 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅳ | 資 | 泉津　弘佑・入江　俊一 | 263 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅴ | 資 | 杉浦　省三・入江　俊一・清水　顕史 | 264 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅵ | 資 | 鈴木　一実・高倉　耕一 | 264 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅷ | 資 | 須戸　幹・飯村　康夫 | 264 |
| | 生物資源管理学実験・実習Ⅸ | 資 | 大久保　卓也・岩間　憲治・皆川　明子 | 265 |
| | 生物統計学 | 態資 | 泉津　弘佑 | 265 |
| | 生命・人間・倫理 | 全 | 糸島　陽子・窪田　好恵 | 152 |
| | 生命科学と人間 | 栄 | 村上　健太郎 | 479 |
| | 西洋建築・思潮史 | 建 | 迫田　正美 | 265 |
| | 西洋史 | 国 | 村上　司樹※ | 480 |
| | 西洋史概説 | 地 | 北村　知之※ | 480 |
| | 性を考える | 全 | 京樂　真帆子・武田　俊輔・横田　祥子 ほか | 152 |
| | 設計演習Ⅰ | 建 | 学科教員 | 266 |
| | 設計演習Ⅱ | 建 | 学科教員 | 266 |
| | 設計演習Ⅲ | 建 | 学科教員 | 266 |
| | 設計基礎演習 | 建 | 迫田　正美・村上　修一・轟　慎一 | 267 |
| | セラミックス材料 | 材 | 吉田　智 | 343 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| せ | 線形代数Ⅰ（材料） | 材 | 小郷原　一智 | 343 |
| | 線形代数Ⅰ（機械） | 機 | 門脇　光輝 | 343 |
| | 線形代数Ⅰ（電子） | 電 | 小郷原　一智 | 344 |
| | 線形代数Ⅱ（材料科学、電子システム） | 材電 | 門脇　光輝 | 344 |
| | 線形代数Ⅱ（機械システム） | 機 | 門脇　光輝 | 344 |
| | 先端材料科学 | 材 | 学科教員 | 345 |
| | 専門外書講義 | 栄 | 村上　健太郎 | 480 |
| | 専門外書講読Ⅰ | 資 | 学科教員 | 267 |
| | 専門外書講読Ⅱ | 資 | 学科教員 | 267 |
| そ | 測量学 | 態資 | 小谷　廣通※ | 268 |
| | 組織とネットワークの社会学 | 地関 | 藤岡　伸明※ | 481 |
| | 卒業研究Ⅰ（環境生態） | 態 | 学科教員 | 268 |
| | 卒業研究Ⅱ（環境生態） | 態 | 学科教員 | 268 |
| | 卒業研究Ⅰ（環境政策・計画） | 政 | 学科教員 | 269 |
| | 卒業研究Ⅱ（環境政策・計画） | 政 | 学科教員 | 269 |
| | 卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン） | 建 | 学科教員 | 269 |
| | 卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン） | 建 | 学科教員 | 270 |
| | 卒業研究Ⅰ（生物資源） | 資 | 学科教員 | 270 |
| | 卒業研究Ⅱ（生物資源） | 資 | 学科教員 | 270 |
| | 卒業研究Ⅰ（材料科学） | 材 | 学科教員 | 345 |
| | 卒業研究Ⅱ（材料科学） | 材 | 学科教員 | 345 |
| | 卒業研究（機械システム） | 機 | 学科教員 | 346 |
| | 卒業研究（電子システム） | 電 | 学科教員 | 346 |
| | 卒業研究・論文（地域文化） | 地 | 学科教員 | 481 |
| | 卒業研究・製作／論文（生活デザイン） | デ | 学科教員 | 481 |
| | 卒業研究・論文（生活栄養） | 栄 | 学科教員 | 482 |
| | 卒業研究・論文（人間関係） | 関 | 学科教員 | 482 |
| | 卒業研究論文（国際コミュニケーション） | 国 | 学科教員 | 482 |
| | 卒業研究（人間看護） | 看 | 学科教員 | 573 |
| た | 対外文化交流論A | 地 | 田中　俊明 | 483 |
| | 対外文化交流論B | 地 | 定森　秀夫 | 483 |
| | 大気環境学 | 態 | 永淵　修 | 271 |
| | 多文化共生論 | 全 | 河　かおる・武田　俊輔 | 167 |
| | 多民族社会論A | 国 | 友永　雄吾※ | 483 |
| | 多民族社会論B | 国 | Borjigin Burensain | 484 |
| | 多民族社会論C | 国 | 河　かおる | 484 |
| ち | 地域運動論 | 関 | 大橋　松行 | 484 |
| | 地域開発論 | 政資 | 平山　奈央子 | 271 |
| | 地域環境計画 | 建 | 轟　慎一 | 271 |
| | 地域環境政策論 | 態政 | 香川　雄一 | 272 |
| | 地域共生論 | 全 | 鵜飼　修・萩原　和・上田　洋平 ほか | 167 |
| | 地域経済史論 | 地 | 東　幸代 | 485 |
| | 地域研究論 | 地 | 上田　洋平 | 485 |
| | 地域考古学A | 地 | 藤田　和尊※ | 485 |
| | 地域考古学B | 地 | 大沼　芳幸※ | 486 |
| | 地域考古学C | 地 | 森岡　秀人※ | 486 |
| | 地域考古学D | 地 | 瀬口　眞司※ | 486 |
| | 地域コミュニケーション論 | 全 | 鵜飼　修・上田　洋平・萩原　和 | 168 |
| | 地域再生システム論 | 政建 | 鵜飼　修・上田　洋平・轟　慎一 | 272 |
| | 地域産学連携実習Ⅰ | 建 | 学科教員 | 272 |
| | 地域産学連携実習Ⅱ | 建 | 学科教員 | 273 |
| | 地域産業・企業から学ぶ社長講義 | 全 | 菊地　憲次 | 168 |
| | 地域資源管理学 | 資 | 増田　清敬 | 273 |
| | 地域システム論 | 政 | 未定 | 273 |
| | 地域社会福祉論 | 全 | 富永　豊※ | 168 |
| | 地域情報処理学 | 資 | 岩間　憲治 | 274 |
| | 地域診断法 | 副 | 鵜飼　修 | 173 |
| | 地域調査法 | 政資 | 香川　雄一 | 274 |
| | 地域調査法演習 | 政 | 香川　雄一 | 274 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| ち | 地域づくり人材論 | 全 | 上田　洋平 | 169 |
| | 地域デザインA | 副 | 鵜飼　修・上田　洋平・萩原　和・轟　慎一 | 174 |
| | 地域デザインB | 副 | 鵜飼　修・萩原　和・上田　洋平 | 174 |
| | 地域デザインC | 副 | 上田　洋平・鵜飼　修・萩原　和 | 174 |
| | 地域デザインD | 副 | 萩原　和・鵜飼　修・上田　洋平 | 175 |
| | 地域と空間 | 地 | 市川　秀之 | 487 |
| | 地域文化演習Ⅰ | 地 | 学科教員 | 487 |
| | 地域文化演習Ⅱ | 地 | 学科教員 | 487 |
| | 地域文化演習Ⅲ | 地 | 学科教員 | 488 |
| | 地域文化基礎演習 | 地 | 学科教員 | 488 |
| | 地域文化財論A | 地 | 伊藤　裕久※ | 488 |
| | 地域文化財論B | 地 | 濱崎　一志 | 489 |
| | 地域保健臨地実習 | 栄 | 今井　絵里 | 489 |
| | 地域母子保健 | 看 | 古川　洋子・未定 | 574 |
| | 地球環境システム論 | 態政資 | 松本　健一 | 275 |
| | 地誌学 | 地 | 塚本　礼仁 | 489 |
| | チベット語基礎Ⅰ | 国 | 棚瀬　慈郎 | 490 |
| | チベット語基礎Ⅱ | 国 | 棚瀬　慈郎 | 490 |
| | チャイルドライフケア論 | 看 | 古株　ひろみ・玉川　あゆみ | 574 |
| | 中国語ⅡB(国際) | 国 | 呉　凌非 | 105 |
| | 中国語ⅠA(国際) | 国 | 地蔵堂　貞二 | 104 |
| | 中国語ⅠB(国際) | 国 | 呉　凌非 | 105 |
| | 中国語ⅠA(初級コース)(水4限) | 全 | 林　虹※ | 85 |
| | 中国語ⅠA(初級コース)(水1限) | 全 | 桜木　陽子※ | 86 |
| | 中国語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 唐　楽寧※ | 86 |
| | 中国語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 桜木　陽子※ | 87 |
| | 中国語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 林　虹※ | 88 |
| | 中国語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 秋岡　英行※ | 88 |
| | 中国語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 秋岡　英行※ | 89 |
| | 中国語ⅠB(初級コース)(水4限) | 全 | 林　虹※ | 85 |
| | 中国語ⅠB(初級コース)(水1限) | 全 | 桜木　陽子※ | 86 |
| | 中国語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 唐　楽寧※ | 87 |
| | 中国語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 桜木　陽子※ | 87 |
| | 中国語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 林　虹※ | 88 |
| | 中国語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 秋岡　英行※ | 89 |
| | 中国語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 秋岡　英行※ | 89 |
| | 中国語ⅡA(国際) | 国 | 地蔵堂　貞二 | 105 |
| | 中国語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 地蔵堂　貞二 | 90 |
| | 中国語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 林　虹※ | 90 |
| | 中国語ⅡA(中級コース)(火3限) | 全 | 林　虹※ | 91 |
| | 中国語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 地蔵堂　貞二 | 90 |
| | 中国語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 林　虹※ | 91 |
| | 中国語ⅡB(中級コース)(火3限) | 全 | 林　虹※ | 91 |
| | 中国語コミュニケーションⅠA | 国 | 地蔵堂　貞二 | 490 |
| | 中国語コミュニケーションⅠB | 国 | 呉　凌非 | 491 |
| | 中国語コミュニケーションⅡA | 国 | 地蔵堂　貞二 | 491 |
| | 中国語コミュニケーションⅡB | 国 | 呉　凌非 | 491 |
| | 中国語コミュニケーションⅡC | 国 | 地蔵堂　貞二 | 492 |
| | 中国語コミュニケーションⅡD | 国 | 呉　凌非 | 492 |
| | 中国地域文化特論 | 地 | 城地　孝※ | 492 |
| | 中国地域文化論 | 地 | 横田　祥子 | 493 |
| | 朝鮮語ⅠA(国際) | 国 | 河　かおる | 106 |
| | 朝鮮語ⅠB(国際) | 国 | 松井　聖一郎※ | 106 |
| | 朝鮮語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 呉　賢欄※ | 92 |
| | 朝鮮語ⅠB(初級コース)(水2限) | 全 | 呉　賢欄※ | 92 |
| | 朝鮮語ⅡA(国際) | 国 | 河　かおる | 106 |
| | 朝鮮語ⅡB(国際) | 国 | 松井　聖一郎※ | 107 |
| | 朝鮮語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 崔　眞善※ | 93 |
| | 朝鮮語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 呉　賢欄※ | 92 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| ち | 朝鮮語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 崔　眞善※ | 93 |
| | 朝鮮語ⅠB(初級コース)(水3限) | 全 | 呉　賢欄※ | 93 |
| | 朝鮮語コミュニケーションⅠA | 国 | 崔　眞善※ | 493 |
| | 朝鮮語コミュニケーションⅠB | 国 | 松井　聖一郎※ | 493 |
| | 朝鮮語コミュニケーションⅡA | 国 | 河　かおる | 494 |
| | 朝鮮語コミュニケーションⅡB | 国 | 松井　聖一郎※ | 494 |
| | 朝鮮語コミュニケーションⅡC | 国 | 崔　眞善※ | 494 |
| | 朝鮮語コミュニケーションⅡD | 国 | 松井　聖一郎※ | 495 |
| | 朝鮮地域文化特論 | 地 | 安田　純也※ | 495 |
| | 朝鮮地域文化論 | 地 | 田中　俊明 | 495 |
| | 地理学実習Ⅰ | 地 | 塚本　礼仁 | 496 |
| | 地理学実習Ⅱ | 地 | 塚本　礼仁 | 496 |
| | 治療的コミュニケーション技術論 | 看 | 甘佐　京子・牧野　耕次 | 574 |
| つ | 通信システム工学 | 電 | 未定 | 346 |
| | 通信情報理論 | 電 | 酒井　道 | 347 |
| | 通信ネットワーク工学 | 電 | 未定 | 347 |
| | 通訳ガイド講座 | 国 | 石井　隆之※ | 496 |
| て | ディジタル信号処理 | 電 | 宮城　茂幸 | 347 |
| | ディベート＆ディスカッションa | 全国 | Martin　Hawkes | 80 |
| | ディベート＆ディスカッションa | 全国 | Martin　Hawkes | 497 |
| | ディベート＆ディスカッションb | 全国 | Martin　Hawkes | 81 |
| | ディベート＆ディスカッションb | 全国 | Martin　Hawkes | 497 |
| | 定量・機器分析および同実験 | 材 | 宮村　弘・井上　吉教・吉田　智　ほか | 348 |
| | テキスタイルデザイン論 | デ | 内丸　もと子※ | 497 |
| | デジタルデザイン演習 | デ | 印南　比呂志・森下　あおい・南　政宏 ほか | 498 |
| | 哲学概論A | 地関 | 鞍田　崇※ | 498 |
| | 哲学概論B | 地関 | 鈴木　真※ | 498 |
| | デッサン法 | デ | 冨原　仁美※ | 499 |
| | 電気エネルギーシステム工学 | 電 | 乾　義尚 | 348 |
| | 電気回路Ⅰ | 電 | 坂本　眞一 | 348 |
| | 電気回路Ⅱ | 電 | 乾　義尚 | 349 |
| | 電気化学 | 材 | 秋山　毅 | 349 |
| | 電気関係法規・施設管理 | 電 | 多山　洋文※ | 349 |
| | 電気機器 | 電 | 乾　義尚 | 350 |
| | 電気電子計測Ⅰ | 電 | 福岡　克弘 | 350 |
| | 電気電子計測Ⅱ | 電 | 作田　健 | 350 |
| | 電気電子設計製図 | 電 | 未定 | 351 |
| | 電子回路Ⅰ | 電 | 稲葉　博美 | 351 |
| | 電子回路Ⅱ | 電 | 稲葉　博美 | 351 |
| | 電磁気学Ⅰ | 電 | 作田　健 | 352 |
| | 電磁気学Ⅱ | 電 | 福岡　克弘 | 352 |
| | 電子システム工学概論 | 工 | 稲葉　博美 | 352 |
| | 電子システム工学実験Ⅰ | 電 | 学科教員 | 353 |
| | 電子システム工学実験Ⅱ | 電 | 学科教員 | 353 |
| | 電子システム工学実験Ⅲ | 電 | 学科教員 | 353 |
| | 電子システム工学実験Ⅳ | 電 | 学科教員 | 354 |
| | 電子システム工学セミナー | 電 | 学科教員 | 354 |
| | 電子社会と人間 | 全 | 柳澤　淳一 | 153 |
| | 電子デバイス | 電 | 柳澤　淳一 | 354 |
| | 電子と化学結合 | 工 | 松岡　純 | 355 |
| | 電磁波工学 | 電 | 作田　健 | 355 |
| | 伝熱学 | 機 | 栗本　遼 | 355 |
| | 天然物化学基礎 | 栄関 | 村上　健太郎 | 499 |
| | 電力工学Ⅰ | 電 | 坂本　眞一 | 356 |
| | 電力工学Ⅱ | 電 | 坂本　眞一 | 356 |
| と | ドイツ語ⅠA(国際) | 国 | 吉村　淳一 | 107 |
| | ドイツ語ⅠB(国際) | 国 | Anja Sliwa※ | 107 |
| | ドイツ語ⅠA(初級コース)(水2限) | 全 | 竹内　一高※ | 94 |
| | ドイツ語ⅠA(初級コース)(水3限) | 全 | 小松　紀子※ | 94 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| と | ドイツ語ＩＡ(初級コース)(水3限) | 全 | 竹内　一高※ | 95 |
| | ドイツ語ＩＡ(初級コース)(水4限) | 全 | 小松　紀子※ | 96 |
| | ドイツ語ＩＡ(初級コース)(水4限) | 全 | 竹内　一高※ | 96 |
| | ドイツ語ＩＡ(初級コース)(水2限) | 全 | 小松　紀子※ | 97 |
| | ドイツ語ＩＢ(初級コース)(水2限) | 全 | 竹内　一高※ | 94 |
| | ドイツ語ＩＢ(初級コース)(水3限) | 全 | 小松　紀子※ | 95 |
| | ドイツ語ＩＢ(初級コース)(水3限) | 全 | 竹内　一高※ | 95 |
| | ドイツ語ＩＢ(初級コース)(水4限) | 全 | 小松　紀子※ | 96 |
| | ドイツ語ＩＢ(初級コース)(水4限) | 全 | 竹内　一高※ | 97 |
| | ドイツ語ＩＢ(初級コース)(水2限) | 全 | 小松　紀子※ | 97 |
| | ドイツ語 ⅡA(国際) | 国 | 吉村　淳一 | 108 |
| | ドイツ語ⅡB(国際) | 国 | Anja Sliwa※ | 108 |
| | ドイツ語ⅡＡ(中級コース)(火2限) | 全 | 吉村　淳一 | 98 |
| | ドイツ語ⅡＡ(中級コース)(火2限) | 全 | 大森　智子※ | 98 |
| | ドイツ語ⅡＡ(中級コース)(火3限) | 全 | 大森　智子※ | 99 |
| | ドイツ語ⅡＢ(中級コース)(火2限) | 全 | 吉村　淳一 | 98 |
| | ドイツ語ⅡＢ(中級コース)(火2限) | 全 | 大森　智子※ | 99 |
| | ドイツ語ⅡＢ(中級コース)(火3限) | 全 | 大森　智子※ | 99 |
| | ドイツ語コミュニケーションＩＡ | 国 | 吉村　淳一 | 499 |
| | ドイツ語コミュニケーションＩＢ | 国 | Anja Sliwa※ | 500 |
| | ドイツ語コミュニケーションⅡＡ | 国 | 吉村　淳一 | 500 |
| | ドイツ語コミュニケーションⅡＢ | 国 | Anja Sliwa※ | 500 |
| | ドイツ語コミュニケーションⅡＣ | 国 | 吉村　淳一 | 501 |
| | ドイツ語コミュニケーションⅡＤ | 国 | Anja Sliwa※ | 501 |
| | 道具計画論 | デ | 印南　比呂志 | 501 |
| | 道具デザイン演習Ⅰ | デ | 南　政宏・麻谷　宏※ | 502 |
| | 道具デザイン演習Ⅱ | デ | 印南　比呂志・麻谷　宏※・南　政宏 | 502 |
| | 道具デザイン演習Ⅲ | デ | 面矢　慎介・印南　比呂志 | 502 |
| | 道具デザイン史 | デ | 面矢　慎介 | 503 |
| | 道具デザイン論 | デ | 印南　比呂志・南　政宏 | 503 |
| | 統計学基礎 | 地デ栄関 | 細馬　宏通 | 503 |
| | 道徳教育論 | 関教 | 福井　雅英 | 504 |
| | 動物資源管理学 | 資 | 平山　琢二 | 275 |
| | 動物生態学 | 態政資 | 高倉　耕一 | 275 |
| | 東洋史概説 | 地 | 田中　俊明 | 504 |
| | 特殊加工学 | 機 | 未定 | 356 |
| | 特別活動論 | 教 | 福井　雅英 | 652 |
| | 都市・地域計画 | 建 | 轟　慎一 | 276 |
| | 土壌環境化学 | 態資 | 飯村　康夫 | 276 |
| | 土壌環境情報学 | 資 | 中村　公人※ | 276 |
| | 土壌環境物理学 | 資 | 岩間　憲治 | 277 |
| な | 内部空間論 | 建 | 高柳　英明 | 277 |
| に | 日本・地域交流特論 | 地 | 京樂　真帆子 | 504 |
| | 日本建築史 | 建 | 未定 | 277 |
| | 日本語ＩＡ | 留 | 柴川　真由美 | 117 |
| | 日本語ＩＢ | 留 | 柴川　真由美 | 117 |
| | 日本語ⅡＡ | 留 | 上野山　愛弥※ | 118 |
| | 日本語ⅡＢ | 留 | 上野山　愛弥※ | 118 |
| | 日本語ⅢA | 留 | 内田　孝※ | 118 |
| | 日本語ⅢB | 留 | 内田　孝※ | 119 |
| | 日本語ⅣA | 留 | 富川　和代※ | 119 |
| | 日本語ⅣB | 留 | 富川　和代※ | 119 |
| | 日本語基礎(初級ＩＡ) | 交 | 柴川　真由美 | 134 |
| | 日本語基礎(初級ＩＢ) | 交 | 柴川　真由美 | 135 |
| | 日本語基礎(初級ⅡＡ) | 交 | 柴川　真由美 | 135 |
| | 日本語基礎(初級ⅡＢ) | 交 | 柴川　真由美 | 135 |
| | 日本語基礎(初級ⅢA) | 交 | 柴川　真由美 | 136 |
| | 日本語基礎(初級ⅢB) | 交 | 柴川　真由美 | 136 |
| | 日本語基礎(初中級ＩＡ) | 交 | 柴川　真由美 | 136 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| に | 日本語基礎(初中級ⅠB) | 交 | 柴川　真由美 | 137 |
| | 日本語基礎(初中級ⅡA) | 交 | 柴川　真由美 | 137 |
| | 日本語基礎(初中級ⅡB) | 交 | 柴川　真由美 | 137 |
| | 日本語基礎(初中級ⅢA) | 交 | 柴川　真由美 | 138 |
| | 日本語基礎(初中級ⅢB) | 交 | 柴川　真由美 | 138 |
| | 日本語基礎(初中級ⅣA) | 交 | 上野山　愛弥※ | 138 |
| | 日本語基礎(初中級ⅣB) | 交 | 上野山　愛弥※ | 139 |
| | 日本語基礎(中級ⅠA) | 交 | 柴川　真由美 | 139 |
| | 日本語基礎(中級ⅠB) | 交 | 柴川　真由美 | 139 |
| | 日本語基礎(中級ⅡA) | 交 | 上野山　愛弥※ | 140 |
| | 日本語基礎(中級ⅡB) | 交 | 上野山　愛弥※ | 140 |
| | 日本語基礎(中級ⅢA) | 交 | 内田　孝※ | 140 |
| | 日本語基礎(中級ⅢB) | 交 | 内田　孝※ | 141 |
| | 日本史概説 | 地 | 水野　章二 | 505 |
| | 日本社会論 | 地関 | 武田　俊輔 | 505 |
| | 日本史料講読 | 地 | 水野　章二・東　幸代 | 505 |
| | 日本文化史論A | 地 | 京樂　真帆子 | 506 |
| | 日本文化史論B | 地 | 京樂　真帆子 | 506 |
| | 日本文化論 | 地 | 京樂　真帆子 | 506 |
| | 人間関係論基礎演習 | 関 | 学科教員 | 507 |
| | 人間関係論演習Ⅰ | 関 | 学科教員 | 507 |
| | 人間関係論演習Ⅱ | 関 | 学科教員 | 507 |
| | 人間看護学概論 | 看 | 窪田　好恵 | 575 |
| | 人間看護学統合実習(2012以降入学生) | 看 | 窪田　好恵・ | 575 |
| | 人間形成論A | 関 | 木村　裕 | 508 |
| | 人間形成論B | 関 | 杉浦　由香里 | 508 |
| | 人間工学 | デ | 中村　孝之※ | 508 |
| | 人間工学実習 | デ | 森下　あおい・宮本　雅子 | 509 |
| | 人間行動論 | 栄関 | 細馬　宏通 | 509 |
| | 人間性心理論 | 看 | 松本　行弘※ | 575 |
| | 人間探求学(環境生態) | 態 | 学科教員 | 153 |
| | 人間探求学(環境政策・計画) | 政 | 学科教員 | 153 |
| | 人間探求学(環境建築デザイン) | 建 | 学科教員 | 154 |
| | 人間探求学(生物資源管理) | 資 | 学科教員 | 154 |
| | 人間探求学(材料科学) | 材 | 学科教員 | 154 |
| | 人間探求学(機械システム) | 機 | 学科教員 | 155 |
| | 人間探求学(電子システム) | 電 | 学科教員 | 155 |
| | 人間探求学(地域文化) | 地 | 学科教員 | 155 |
| | 人間探求学(生活デザイン) | デ | 学科教員 | 156 |
| | 人間探求学(生活栄養) | 栄 | 学科教員 | 156 |
| | 人間探求学(人間関係) | 関 | 学科教員 | 156 |
| | 人間探求学(国際コミュニケーション) | 国 | 学科教員 | 157 |
| | 人間探求学(人間看護) | 看 | 学科教員 | 157 |
| | 人間と病気 | 全 | 未定 | 157 |
| | 人間にとって環境とは何か | 全 | 近藤　隆二郎 | 158 |
| | 人間の行動と空間 | 全 | 村上　修一 | 158 |
| | 人間文化論A | 人 | 細馬　宏通・呉　凌非・村上　健太郎 ほか | 509 |
| | 人間文化論B | 人 | 田中　俊明・亀井　若菜・横田　祥子・Borjigin Burensain | 510 |
| | 人間文化論C | 人 | 宮本　雅子・松嶋　秀明・中村　好孝・ほか | 510 |
| | 認知心理学 | 関 | 上野　有理 | 510 |
| ね | 熱力学Ⅰ | 機 | 山根　浩二 | 357 |
| | 熱力学Ⅱ | 機 | 山根　浩二 | 357 |
| の | 農業経営学 | 資 | 増田　佳昭 | 278 |
| | 農業統計利用論 | 資 | 増田　清敬 | 278 |
| | 農業問題入門 | 全 | 増田　佳昭 | 158 |
| | 農薬環境学 | 態資 | 須戸　幹 | 278 |
| は | 廃棄物管理論 | 政 | 金谷　健 | 279 |
| | 博物館学概論 | 学 | 市川　秀之・亀井　若菜 | 656 |
| | 博物館教育論 | 学 | 未定 | 656 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| は | 博物館経営論 | 地 | 市川　秀之・中井　均 | 511 |
| | 博物館実習 | 学 | 市川　秀之・浦部　美佐子・野間　直彦 ほか | 657 |
| | 博物館情報・メディア論 | 学 | 嶋田　容子※ | 657 |
| | 博物館資料保存論 | 学 | 野間　直彦・市川　秀之・横田　尚美 ほか | 657 |
| | 博物館資料論 | 学 | 定森　秀夫・浦部　美佐子・上町　達也・東　幸代 | 658 |
| | 博物館展示論 | 地 | 亀井　若菜・髙木　文恵※・野田　浩子※ | 511 |
| | 発達支援論（人間関係） | 関 | 竹下　秀子 | 511 |
| | 発達心理学Ⅰ | 関 | 上野　有理 | 512 |
| | 発達心理学Ⅱ | 関 | 竹下　秀子 | 512 |
| | 発展演習Ⅰ（国際コミュニケーション） | 国 | 学科教員 | 512 |
| | 発展演習Ⅱ（国際コミュニケーション） | 国 | 学科教員 | 513 |
| | パブリック・スピーチ | 国 | John Rippey | 513 |
| | パワーエレクトロニクス | 電 | 乾　義尚 | 357 |
| | 半導体基礎 | 電 | 柳澤　淳一 | 358 |
| | 半導体デバイス | 電 | 一宮　正義 | 358 |
| | 反応速度論 | 材 | 徳満　勝久 | 358 |
| ひ | 比較衣装論 | デ | 横田　尚美 | 513 |
| | 比較社会文化論 | 関 | 中村　好孝 | 514 |
| | 比較宗教論 | 地関 | 小河　久志※ | 514 |
| | 比較住居論 | 全デ関 | 藤木　庸介 | 159 |
| | 比較住居論 | 全デ関 | 藤木　庸介 | 514 |
| | 比較食文化論 | 栄 | 的場　輝佳※・堀越　昌子※・玉城　一枝※ | 515 |
| | 比較道具論 | デ | 面矢　慎介 | 515 |
| | 比較都市論 | 全 | 川井　操 | 159 |
| | 比較認知発達論 | 関 | 竹下　秀子・上野　有理 | 515 |
| | 比較文学論 | 地 | 安達　敬子※ | 516 |
| | 比較文化論（地域文化） | 地 | 石川　慎治 | 516 |
| | 比較文明論 | 地 | 定森　秀夫 | 516 |
| | 東アジア考古学概論 | 地 | 定森　秀夫 | 517 |
| | 東アジア世界論 | 地 | 田中　俊明 | 517 |
| | 光エレクトロニクス | 電 | 山田　逸成 | 359 |
| | ビジネス英語 | 全国 | Karl Braun※ | 83 |
| | ビジネス英語 | 全国 | Karl Braun※ | 517 |
| | 美術史A | 地 | 亀井　若菜 | 518 |
| | 美術史B | 地 | 亀井　若菜 | 518 |
| | 美術史実習 | 地 | 亀井　若菜 | 518 |
| | 微積分Ⅰ（材料） | 材 | 長谷川　武博※ | 359 |
| | 微積分Ⅰ（機械システム） | 機 | 松下　泰雄※ | 359 |
| | 微積分Ⅰ（電子） | 電 | 長谷川　武博※ | 360 |
| | 微積分Ⅱ（材料科学） | 材 | 門脇　光輝 | 360 |
| | 微積分Ⅱ（機械システム） | 機 | 門脇　光輝 | 360 |
| | 微積分Ⅱ（電子システム） | 電 | 長谷川　武博※ | 361 |
| | 微積分続論 | 電 | 門脇　光輝 | 361 |
| | 被服学 | 教 | 道明　美保子※ | 652 |
| | 微分方程式（材料） | 材 | 米谷　文男※ | 361 |
| | 微分方程式（機械システム） | 機 | 米谷　文男※ | 362 |
| | 微分方程式（電子システム） | 電 | 松下　泰雄※ | 362 |
| | 病態生理学実習 | 栄 | 矢野　仁康・遠藤　弘史 | 519 |
| | 病態評価と治療 | 栄 | 矢野　仁康 | 519 |
| | 琵琶湖環境学 | 態 | 伴　修平 | 279 |
| | びわこ環境行政論 | 全 | 井手　慎司 | 169 |
| ふ | ファシリテーション技法・演習 | 政 | 平山　奈央子 | 279 |
| | 複合材料 | 材 | 山下　義裕 | 362 |
| | 服飾心理学 | デ | 横田　尚美 | 519 |
| | 服飾製作実習 | 教 | 法月　紀江※ | 652 |
| | 服飾造形論 | デ | 森下　あおい | 520 |
| | 服飾文化論 | デ | 横田　尚美 | 520 |
| | 服飾デザイン演習Ⅰ | デ | 法月　紀江※ | 520 |
| | 服飾デザイン演習Ⅱ | デ | 横田　尚美 | 521 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| ふ | 服飾デザイン演習Ⅲ | デ | 森下　あおい | 521 |
| | 服飾デザイン論 | デ | 森下　あおい | 521 |
| | 物性デバイス基礎論 | 電 | 一宮　正義 | 363 |
| | 物理化学総合および同演習 | 材 | 宮村　弘・山下　義裕・吉田　智・秋山　毅 | 363 |
| | 物理学実験(材料科学) | 材 | 秋山　毅・山下　義裕・田邉　裕貴 ほか | 363 |
| | 物理学実験(機械システム) | 機 | 秋山　毅・山下　義裕・田邉　裕貴 ほか | 364 |
| | 物理学実験(電子システム) | 電 | 秋山　毅・山下　義裕・田邉　裕貴 ほか | 364 |
| | プラズマ工学 | 電 | 一宮　正義 | 364 |
| | フランス語ＩA(国際) | 国 | 橋本　周子 | 108 |
| | フランス語ＩB(国際) | 国 | Gilles Fernandez※ | 109 |
| | フランス語ＩA(初級コース)(水3限) | 全 | 辻村　暁子※ | 100 |
| | フランス語ＩA(初級コース)(水4限) | 全 | 辻村　暁子※ | 100 |
| | フランス語ＩA(初級コース)(水2限) | 全 | 辻村　暁子※ | 101 |
| | フランス語ＩA(初級コース)(水3限) | 全 | 桂川　久※ | 102 |
| | フランス語ＩA(初級コース)(水4限) | 全 | 桂川　久※ | 102 |
| | フランス語ＩB(初級コース)(水3限) | 全 | 辻村　暁子※ | 100 |
| | フランス語ＩB(初級コース)(水4限) | 全 | 辻村　暁子※ | 101 |
| | フランス語ＩB(初級コース)(水2限) | 全 | 辻村　暁子※ | 101 |
| | フランス語ＩB(初級コース)(水3限) | 全 | 桂川　久※ | 102 |
| | フランス語ＩB(初級コース)(水4限) | 全 | 桂川　久※ | 103 |
| | フランス語ⅡA(国際) | 国 | 橋本　周子 | 109 |
| | フランス語ⅡB(国際) | 国 | Gilles Fernandez※ | 109 |
| | フランス語ⅡA(中級コース)(火2限) | 全 | 桂川　久※ | 103 |
| | フランス語ⅡA(中級コース)(火3限) | 全 | 桂川　久※ | 104 |
| | フランス語ⅡB(中級コース)(火2限) | 全 | 桂川　久※ | 103 |
| | フランス語ⅡB(中級コース)(火3限) | 全 | 桂川　久※ | 104 |
| | フランス語コミュニケーションＩA | 国 | 橋本　周子 | 522 |
| | フランス語コミュニケーションＩB | 国 | Gilles Fernandez※ | 522 |
| | フランス語コミュニケーションⅡA | 国 | 橋本　周子 | 522 |
| | フランス語コミュニケーションⅡB | 国 | Gilles Fernandez※ | 523 |
| | フランス語コミュニケーションⅡC | 国 | 橋本　周子 | 523 |
| | フランス語コミュニケーションⅡD | 国 | Gilles Fernandez※ | 523 |
| | プレゼンテーション技法 | デ | 印南　比呂志・南　政宏 | 524 |
| | プログラミング基礎 | 電 | 宮城　茂幸 | 128 |
| | プログラミング基礎 | 全 | 宮城　茂幸 | 129 |
| | プログラミング基礎(材料) | 材 | 亀田　彰喜※ | 365 |
| | プログラミング基礎(機械) | 機 | 亀田　彰喜※ | 365 |
| | プログラミング基礎(電子) | 電 | 宮城　茂幸 | 365 |
| | プログラミング言語 | 電 | 畑中　裕司 | 366 |
| | 文化財・保存修景論A | 地建 | 濱崎　一志・井口　貢※ | 280 |
| | 文化財・保存修景論A | 地建 | 濱崎　一志・井口　貢※ | 524 |
| | 文化財・保存修景論B | 地 | 中井　均 | 524 |
| | 文化財情報論 | 地 | 濱崎　一志・石川　慎治 | 525 |
| | 文化社会学 | 地関 | 武田　俊輔 | 525 |
| | 文化人類学概論A | 地国 | 島村　一平 | 525 |
| | 文化人類学概論B | 地国 | 棚瀬　慈郎 | 526 |
| | 文化人類学特論 | 地国 | 棚瀬　慈郎 | 526 |
| | 分子・統計力学 | 材 | 松岡　純 | 366 |
| | 分子生物学 | 態資 | 入江　俊一 | 280 |
| | 分子生物学基礎 | 栄 | 柴田　克己 | 526 |
| | 分析・環境化学実験(材料科学) | 材 | 谷本　智史・鈴木　厚志・竹原　宗範・伊田　翔平 | 366 |
| | 分析化学 | 材 | 秋山　毅 | 367 |
| ほ | 保育学A | 教 | 野部　博子※ | 653 |
| | 保育学B | 教 | 野部　博子※ | 653 |
| | 法学概論(国際法を含む) | 政関国 | 坂田　雅夫※ | 280 |
| | 法学概論(国際法を含む) | 政関国 | 坂田　雅夫※ | 527 |
| | ポストコロニアル論 | 国 | 栢木　清吾※ | 527 |
| | ボランティア活動(前期) | キ | 鵜飼　修・木村　裕 | 182 |
| | ボランティア活動(後期) | キ | 鵜飼　修・木村　裕 | 182 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| ほ | ボランティア実践演習 | 看 | 伊丹　君和・米田　照美・仲上　恵子 | 576 |
| | ホリスティックケア論 | 看 | 糸島　陽子・甘佐　京子・横井　和美・荒川　千登世 | 576 |
| | 翻訳文化論 | 国 | 呉　凌非 | 527 |
| ま | マーケティングリサーチ演習 | デ | 山田　歩 | 528 |
| | マーケティング論 | デ関 | 山田　歩 | 528 |
| み | 水環境政策論 | 態政資 | 井手　慎司 | 281 |
| | 水資源保全学 | 資 | 須戸　幹 | 281 |
| | 水資源利用学 | 資 | 皆川　明子 | 281 |
| | 民俗学 | 地 | 市川　秀之 | 528 |
| | 民俗学実習 | 地 | 市川　秀之 | 529 |
| | 民俗学特論 | 地 | 市川　秀之 | 529 |
| む | 無機化学Ⅰ | 材 | 松岡　純 | 367 |
| | 無機化学Ⅱ | 材 | Balachandran Jeyadevan | 367 |
| め | メカトロニクス | 機 | 安田　寿彦 | 368 |
| | メディアの英語 | 全国 | Walter Klinger | 83 |
| | メディアの英語 | 全国 | Walter Klinger | 529 |
| | メンタルヘルスケア | 看 | 甘佐　京子・未定・牧野　耕次 | 576 |
| も | 木匠塾 | 建 | 松岡　拓公雄・陶器　浩一・高田　豊文 | 282 |
| | モンゴル語ⅠA | 全国 | 島村　一平 | 530 |
| | モンゴル語ⅠB | 全国 | 島村　一平 | 530 |
| | モンゴル語ⅡA | 全国 | 内田　孝※ | 530 |
| | モンゴル語ⅡB | 全国 | 島村　一平 | 531 |
| | モンゴル語コミュニケーションⅠA | 国 | 内田　孝※ | 531 |
| | モンゴル語コミュニケーションⅠB | 国 | 植田　尚樹※ | 531 |
| | モンゴル語コミュニケーションⅡA | 国 | 堀田　あゆみ※ | 532 |
| | モンゴル語コミュニケーションⅡB | 国 | 植田　尚樹※ | 532 |
| | モンゴル語史料講読ⅠA | 国 | Borjigin Burensain | 532 |
| | モンゴル語史料講読ⅠB | 国 | Borjigin Burensain | 533 |
| | 問題解決デザイン論 | 副 | 鵜飼　修 | 173 |
| や | 薬理学(2単位) | 看 | 土田　勝晴※・竹内　孝治※・天ケ瀬　紀久子※ | 577 |
| ゆ | 有機化学Ⅰ | 材 | 北村　千寿 | 368 |
| | 有機化学Ⅱ | 材 | 廣川　能嗣・伊田　翔平 | 368 |
| | 有機化学Ⅲ | 材 | 北村　千寿 | 369 |
| | 有機化学Ⅳ | 材 | 井上　吉教 | 369 |
| | 有機化学総合および同演習 | 材 | 谷本　智史・鈴木　厚志・竹原　宗範・伊田　翔平 | 369 |
| よ | 養魚飼料学 | 資 | 杉浦　省三 | 282 |
| ら | ランドスケープデザイン | 建資 | 村上　修一 | 282 |
| り | リーディング(中級)a | 全国 | 山本　薫 | 78 |
| | リーディング(中級)a | 全国 | 山本　薫 | 533 |
| | リーディング(中級)b | 全国 | 外狩　章夫 | 79 |
| | リーディング(中級)b | 全国 | 外狩　章夫 | 533 |
| | 陸域環境影響調査指針 | 態資 | 未定 | 283 |
| | 陸域環境学・同実験 | 態 | 野間　直彦・未定・籠谷　泰行・西田　隆義 | 283 |
| | 陸域環境機能論 | 態資 | 肥田　嘉文 | 283 |
| | 陸域生態系保全修復論 | 態資 | 野間　直彦 | 284 |
| | 陸域物質循環論 | 態 | 籠谷　泰行 | 284 |
| | リスニング(中級)a | 全国 | 小栗　裕子 | 80 |
| | リスニング(中級)a | 全国 | 小栗　裕子 | 534 |
| | リスニング(中級)b | 全国 | 小栗　裕子 | 80 |
| | リスニング(中級)b | 全国 | 小栗　裕子 | 534 |
| | 流域環境管理学 | 資 | 皆川　明子 | 284 |
| | 留学英語対策基礎講座 | 全国 | John Rippey | 82 |
| | 留学英語対策基礎講座 | 全国 | John Rippey | 534 |
| | 留学英語対策講座Ⅰ | 全国 | Martin　Hawkes | 82 |
| | 留学英語対策講座Ⅰ | 全国 | Martin　Hawkes | 535 |
| | 留学英語対策講座Ⅱ | 全国 | John Rippey | 83 |
| | 留学英語対策講座Ⅱ | 全国 | John Rippey | 535 |
| | 流体力学Ⅰ | 機 | 南川　久人 | 370 |
| | 流体力学Ⅱ | 機 | 南川　久人 | 370 |

| | 科目名 | 対象 | 担当教員 | 頁 |
|---|---|---|---|---|
| り | 量子力学概論 | 電 | 柳澤　淳一 | 370 |
| | 量的データ解析論Ⅰ | 地関 | 丸山　真央 | 535 |
| | 量的データ解析論Ⅱ | 地関 | 岡本　裕介※ | 536 |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 栄 | 奥村　万寿美 | 536 |
| | 臨床栄養学Ⅱ | 栄 | 奥村　万寿美 | 536 |
| | 臨床栄養学Ⅲ | 栄 | 奥村　万寿美 | 537 |
| | 臨床栄養学実習Ⅰ | 栄 | 奥村　万寿美 | 537 |
| | 臨床栄養学実習Ⅱ | 栄 | 奥村　万寿美 | 537 |
| | 臨床栄養学実習Ⅲ | 栄 | 岩川　裕美※ | 538 |
| | 臨床栄養活動論 | 栄 | 小澤　惠子・廣瀬　潤子 | 538 |
| | 臨床栄養臨地実習Ⅰ | 栄 | 奥村　万寿美 | 538 |
| | 臨床栄養臨地実習Ⅱ | 栄 | 奥村　万寿美 | 539 |
| | 臨床心理学 | 関 | 松嶋　秀明 | 539 |
| | 臨地実習事前事後指導 | 栄 | 奥村　万寿美・今井　絵里・小澤　惠子 | 539 |
| れ | 歴史的地域論 | 地 | 水野　章二 | 540 |
| ろ | 老年看護学演習 | 看 | 平田　弘美・望月　紀子 | 577 |
| | 老年看護学概論 | 看 | 平田　弘美 | 577 |
| | 老年看護学実習 | 看 | 平田　弘美・望月　紀子 | 578 |
| | 老年臨床看護学 | 看 | 望月　紀子 | 578 |
| | 老年臨床看護学演習 | 看 | 望月　紀子・平田　弘美 | 578 |
| | 老年臨床看護学実習 | 看 | 望月　紀子・平田　弘美 | 579 |
| | ロボット工学（機械、電子） | 機電 | 作田　健 | 371 |

注）講義科目索引中の「対象」欄の略称は次のとおり

**全**：全学共通

**環**：環境科学部共通
- **態**：環境生態学科
- **政**：環境政策・計画学科
- **建**：環境建築デザイン学科
- **資**：生物資源管理学科

**工**：工学部共通
- **材**：材料科学科
- **機**：機械システム工学科
- **電**：電子システム工学科

**人**：人間文化学部共通
- **地**：地域文化学科
- **デ**：生活デザイン学科
- **栄**：生活栄養学科
- **関**：人間関係学科
- **国**：国際コミュニケーション学科

**看**：人間看護学部

**留**：留学生用科目
**交**：交換留学生用科目

**副**：地域学副専攻科目
**教**：教員免許取得関連
**学**：学芸員資格取得関連
**保**：保健師資格取得関連
**助**：助産師資格取得関連
**キ**：キャリア教育・ボランティア関連